編集復刻

㈶女性のためのアジア平和国民基金編

政府調査

「従軍慰安婦」関係資料集成①

警察庁関係公表資料
外務省関係公表資料

龍溪書舎

目　次（第一巻）

発刊の辞……女性のためのアジア平和国民基金…3
例言……5
政府・基金公表文書
一、朝鮮半島出身のいわゆる従軍慰安婦問題について……内閣官房内閣外政審議室…7
二、いわゆる従軍慰安婦問題について……内閣官房内閣外政審議室…11
三、慰安婦関係調査結果発表に関する内閣官房長官談話……17
四、「従軍慰安婦」にされた人々……女性のためのアジア平和国民基金…19
内閣総理大臣の手紙……23

2 女性のためのアジア平和国民基金理事長の手紙……25

発刊の辞

「従軍慰安婦」にさせられ、心身にわたり癒し難い傷を負われたすべての方々に対して、政府と国民が協力して、お詫びと反省に立つ国民的な償いや医療、福祉の事業を進める「女性のためのアジア平和国民基金」がスタートしてから、はや二年になろうとしています。この間基金は国民の皆さまからのご支持と拠金をえて、フィリピン、韓国、台湾で償いの事業を開始いたしました。高齢の方々に対するお詫びと国民的償いの事業ですので、より多くの方々に受けとめていただけるように一層の努力を払っていく所存です。

お詫びと償いの事業は過去の歴史を直視し、これを正しく後世に伝える努力と切り離すことができません。「慰安婦」問題の真実を明らかにし、歴史の教訓とするためには、資料の発掘、調査、研究が必要です。

日本政府は、一九九一年（平成三年）一二月以後、いわゆる従軍慰安婦問題についての本格的調査を行い、一九九二年七月六日、一九九三年八月四日にそれぞれ調査結果を発表しました。その後も発見された資料がそのつど発表されました。

調査にあたっては調査対象を国外に広げるとともに、元「慰安婦」を含む関係者に対する聞きとり調査も行いました。各省庁や米国国立公文書館などから発見された資料は二六〇件をこえています。この政府調査によって発見され

た資料は、今日「従軍慰安婦」問題を考えるさいの基本的な資料です。

基金では、このたび政府が調査した資料をオリジナル・コピーのかたちで復刻し、永久に保存するとともに、この問題の研究に関心をもつ内外のすべての人に公開することにいたしました。あえて、発掘された資料を一つ残らず、もとの形のままに刊行するところに、このような歴史を二度とくりかえさないという国民的決意があらわれていることを、汲み取っていただきますように願ってやみません。この資料を共通の財産として、こののちさらに明らかにされる新たな資料の分析に進んで下さるように希望いたします。

基金としては、現在「慰安婦」関係資料委員会を設置し、五カ年の計画で、内外の諸機関よりあらたな資料を獲得すべく努力しております。その成果も引き続き、公刊してまいる所存です。

一九九七年三月

財団法人　女性のためのアジア平和国民基金

例言

一、巻頭に政府が資料を公表した際の発表文、「朝鮮半島出身のいわゆる従軍慰安婦問題について」（平成4年7月6日）と「いわゆる従軍慰安婦問題について」（平成5年8月4日）、慰安婦関係調査結果発表に関する内閣官房長官談話（平成5年8月4日）、アジア女性基金発行（一九九五年十月二五日）のパンフレット所収の文章「『従軍慰安婦』にされた人々」を収録し、また参考として、アジア女性基金が元慰安婦の方々に対して国民的な償いの事業を行うに際してお届けすることになっている総理大臣の手紙とアジア女性基金理事長の手紙をも併せて収録した。

二、資料は、一次、二次、それ以後の発表をまとめて、資料が発見された省庁や公文書館などの機関別にしたがって編集した。

三、第五巻に収録した「資料の概要紹介」は、政府が発表した「いわゆる従軍慰安婦問題の調査結果について」（平成4年7月および平成5年8月の公表調査発見分）を基本的に引用しつつ、アジア女性基金の責任で作成したもので、特に警察庁発表資料の説明は編者が独自に作成したものである。この紹介の中に一つ一つの資料が納められている原ファイルの名称も明示されている。

四、省庁・公文書館等の機関毎の発表で資料が重複している場合は、重複資料は省略した。

五、資料は発見された省庁等ごと、作成した部署ごとにまとめるなど、同種類の資料をまとめ、年代順にならべているが、政策的に重要と思われるものを前に出した。

六、本書を編集するにあたり、資料タイトル組みは旧字体を尊重したが、原文の誤字又は不統一記述などは若干訂正

した。なお目次についてはすべて新字体を原則とした。

七、資料中には個人名、本籍地を抹消してある箇所があるが、これはプライヴァシーを尊重して抹消されたものである。また政府が発表した文書の中で、全文発表への遺族の了解が得られない等の理由で資料の掲載が不能となったものがある。

編集代表　後藤乾一
高崎宗司
和田春樹

政府・基金公表文書

一、朝鮮半島出身のいわゆる従軍慰安婦問題について

平成四年七月六日

内閣官房内閣外政審議室

政府としては、一二月より朝鮮半島出身のいわゆる従軍慰安婦問題に政府が関与していたかどうかについて、関係資料が保管されている可能性のある省庁において関連資料の調査を行っていたところであるが、現在までの調査結果を下記の通りとりまとめたので発表する。なお、政府としては、今後とも新たな資料が発見された場合には、これを公表してまいりたい。

記

一　調査期間

平成三年一二月～平成四年六月

二　調査を行った省庁と調査方法

警察庁……①警察庁所管資料を調査。
　②各都道府県の本部長に対して調査を依頼。
防衛庁……防衛研究所を始め、陸上、海上及び航空の各自衛隊、防衛大学校等の防衛庁関係の各機関において戦史資料を中心に調査。
外務省……外交史料館等において、外交資料を中心に調査。
文部省……①各国公私立大学附属図書館に対し調査を依頼。
　②各都道府県教育委員会（公立図書館関係）及び私立図書館に対し調査を依頼。
厚生省……復員関係資料及び軍人・軍属名簿を中心に調査。
労働省……本省関係部局及び関係機関並びに地方職業安定機関において調査。

三　調査結果

(1)　各省庁から発見された資料の件数

警察庁……　〇件

防衛庁……七〇件
外務省……五二件
文部省……　一件
厚生省……　四件
労働省……　〇件

(2)　今回の調査で発見された資料を整理すると次のとおり。（詳細は別紙のとおり。括弧内の件数は重複しているものもある。）

①慰安所の設置に関するもの（四件）
②慰安婦の募集に当たる者の取締りに関するもの（四件）
③慰安施設の築造・増強に関するもの（九件）
④慰安所の経営・監督に関するもの（三五件）
⑤慰安所・慰安婦の衛生管理に関するもの（二四件）
⑥慰安所関係者への身分証明書等の発給に関するもの（二八件）
⑦その他（慰安所、慰安婦に関する記述一般等）（三四件）

(3)　今回発見された資料の主な記述を上記分野に従って整理すると次の通り。

①慰安所の設置については、当時の前線における軍占領地域内の日本軍人による住民に対する強姦等の不法な行為により反日感情が醸成され、治安回復が進まないため、軍人個人の行為を厳重に取り締まるとともに、速やかに慰安設備を整える必要があるとの趣旨の通牒の発出があったこと、また、慰安施設は士気の振興、軍紀の

維持、犯罪及び性病の予防等に対する影響が大きいため、慰安の諸施設に留意する必要があるとの趣旨の教育指導参考資料の送付が軍内部であったこと。

②慰安婦の募集に当たる者の取締りについては、軍の威信を保持し、社会問題を惹起させないために、慰安婦の募集に当たる者の人選を適切に行うようにとの趣旨の通牒の発出が軍内部であったこと。

③慰安施設の築造・増強については、慰安施設の築造、増強のために兵員を差し出すべしとの趣旨の命令の発出があったこと。

④慰安所の経営・監督については、部隊毎の慰安所利用日時の指定、慰安所利用料金、慰安所利用にあたっての注意事項等を規定した「慰安所規定」が作成されていたこと。

⑤慰安所・慰安婦の衛生管理については、「慰安所規定」に慰安所利用の際は避妊具を使用することを規定したり、慰安所で働く従業婦の性病検査を軍医等が定期的に行い、不健康な従業婦においては就業させることを禁じる等の措置があったこと。

⑥慰安所関係者への身分証明等の発給については、慰安所開設のため渡航する者に対しては軍の証明書により渡航させる必要があるとする文書の発出があったこと。

⑦その他、業者が内地で準備した女子が船舶で輸送される予定であることを通知する電報の発出があったこと。

(4)

以上のように、いわゆる従軍慰安婦問題に政府の関与があったことが認められた。

二、いわゆる従軍慰安婦問題について

平成五年八月四日

内閣官房内閣外政審議室

一　調査の経緯

いわゆる従軍慰安婦問題については、当事者による我が国における訴訟の提起、我が国国会における論議等を通じ、内外の注目を集めて来た。また、この問題は、昨年一月の宮澤総理の訪韓の際、盧泰愚大統領（当時）との会談においても取り上げられ、韓国側より、実態の解明につき強い要請が寄せられた。この他、他の関係諸国、地域からも本問題について強い関心が表明されている。

このような状況の下、政府は、平成三年一二月より、関係資料の調査を進めるかたわら、元軍人等関係者から幅広く聞き取り調査を行うとともに、去る七月二六日から三〇日までの五日間、韓国ソウルにおいて、太平洋戦争犠牲者遺族会の協力も得て元従軍慰安婦の人たちから当時の状況を詳細に聴取した。また、調査の過程において、米国に担当官を派遣し、米国の公文書につき調査した他、沖縄においても、現地調査を行った。調査の具体的態様は以下の通りであり、調査の結果発見された資料の概要は別添の通りである。

調査対象機関　警察庁、防衛庁、法務省、外務省、文部省、厚生省、労働省、国立公文書館、国立国会図書館、米国国立公文書館

関係者からの聞き取り

元従軍慰安婦、元軍人、元朝鮮総督府関係者、元慰安所経営者、慰安所付近の居住者、歴史研究家等

参考とした国内外の文書及び出版物

韓国政府が作成した調査報告書、韓国挺身隊問題対策協議会、太平洋戦争犠牲者遺族会など関係団体等が作成した元慰安婦の証言集等。なお、本問題についての本邦における出版物は数多いがそのほぼすべてを渉猟した。

本問題については、政府は、すでに昨年七月六日、それまでの調査の結果について発表したところであるが、その後の調査をもふまえ、本問題についてとりまとめたところを以下のとおり発表することとした。

二　いわゆる従軍慰安婦問題の実態について

上記の資料調査及び関係者からの聞き取りの結果、並びに参考にした各種資料を総合的に分析、検討した結果、以下の点が明らかになった。

(1)　慰安所設置の経緯

各地における慰安所の開設は当時の軍当局の要請によるものであるが、当時の政府部内資料によれば、旧日本軍占領地域内において日本軍人が住民に対し強姦等の不法な行為を行い、その結果反日感情が醸成されることを防止

する必要性があったこと、性病等の病気による兵力低下を防ぐ必要があったこと、防諜の必要があったことなどが慰安所設置の理由とされている。

(2) 慰安所が設置された時期

昭和七年にいわゆる上海事変が勃発したころ同地の駐屯部隊のために慰安所が設置された旨の資料があり、そのころから終戦まで慰安所が存在していたものとみられるが、その規模、地域的範囲は戦争の拡大とともに広がりをみせた。

(3) 慰安所が存在していた地域

今次調査の結果慰安所の存在が確認できた国又は地域は、日本、中国、フィリピン、インドネシア、マラヤ（当時）、タイ、ビルマ（当時）、ニューギニア（当時）、香港、マカオ及び仏領インドシナ（当時）である。

(4) 慰安婦の総数

発見された資料には慰安婦の総数を示すものはなく、また、これを推認させるに足りる資料もないので、慰安婦総数を確定するのは困難である。しかし、上記のように、長期に、かつ、広範な地域にわたって慰安所が設置され、数多くの慰安婦が存在したものと認められる。

(5) 慰安婦の出身地

今次調査の結果慰安婦の出身地として確認できた国又は地域は、日本、朝鮮半島、中国、台湾、フィリピン、インドネシア及びオランダである。なお、戦地に移送された慰安婦の出身地としては、日本人を除けば朝鮮半島出身者が多い。

(6)　慰安所の経営及び管理

慰安所の多くは民間業者により経営されていたが、一部地域においては、旧日本軍が直接慰安所を経営したケースもあった。民間業者が経営していた場合においても、旧日本軍がその開設に許可を与えたり、慰安所の施設を整備したり、慰安所の利用時間、利用料金や利用に際しての注意事項などを定めた慰安所規定を作成するなど、旧日本軍は慰安所の設置や管理に直接関与した。

慰安婦の管理については、旧日本軍は、慰安婦や慰安所の衛生管理のために、慰安所規定を設けて利用者に避妊具使用を義務付けたり、軍医が定期的に慰安婦の性病等の病気の検査を行う等の措置をとった。慰安婦に対して外出の時間や場所を限定するなどの慰安所規定を設けて管理していたところもあった。いずれにせよ、慰安婦たちは戦地においては常時軍の管理下において軍と共に行動させられており、自由もない、痛ましい生活を強いられたことは明らかである。

(7)　慰安婦の募集

慰安婦の募集については、軍当局の要請を受けた経営者の依頼により斡旋業者らがこれに当たることが多かったが、その場合も戦争の拡大とともにその人員の確保の必要性が高まり、そのような状況の下で、業者らが或いは甘言を弄し、或いは畏怖させる等の形で本人たちの意向に反して集めるケースが数多く、更に、官憲等が直接これに加担する等のケースもみられた。

(8)　慰安婦の輸送等

慰安婦の輸送に関しては、業者が慰安婦等の婦女子を船舶等で輸送するに際し、旧日本軍は彼女らを特別に軍属に準じた扱いにするなどしてその渡航申請に許可を与え、また日本政府は身分証明書等の発給を行うなどした。ま

た、軍の船舶や車輌によって戦地に運ばれたケースも少なからずあった他、敗走という混乱した状況下で現地に置き去りにされた事例もあった。

三、慰安婦関係調査結果発表に関する内閣官房長官談話

平成五年八月四日

いわゆる従軍慰安婦問題については、政府は、一昨年十二月より、調査を進めて来たが、今般その結果がまとまったので発表することとした。

今次調査の結果、長期に、かつ広範な地域にわたって慰安所が設置され、数多くの慰安婦が存在したことが認められた。慰安所は、当時の軍当局の要請により設営されたものであり、慰安所の設置、管理及び慰安婦の移送については、旧日本軍が直接あるいは間接にこれに関与した。慰安婦の募集については、軍の要請を受けた業者が主としてこれに当たったが、その場合も、甘言、強圧による等、本人たちの意思に反して集められた事例が数多くあり、更に、官憲等が直接これに加担したこともあったことが明らかになった。また、慰安所における生活は、強制的な状況の下での痛ましいものであった。

なお、戦地に移送された慰安婦の出身地については、日本を別とすれば、朝鮮半島が大きな比重を占めていたが、当時の朝鮮半島は我が国の統治下にあり、その募集、移送、管理等も、甘言、強圧による等、総じて本人たちの意思に反して行われた。

いずれにしても、本件は、当時の軍の関与の下に、多数の女性の名誉と尊厳を深く傷つけた問題である。政府は、

この機会に、改めて、その出身地のいかんを問わず、いわゆる従軍慰安婦としての数多の苦痛を経験され、心身にわたり癒しがたい傷を負われたすべての方々に対し心からお詫びと反省の気持ちを申し上げる。また、そのような気持ちを我が国としてどのように表すかということについては、有識者のご意見なども徴しつつ、今後とも真剣に検討すべきものと考える。

われわれはこのような歴史の真実を回避することなく、むしろこれを歴史の教訓として直視していきたい。われわれは、歴史研究、歴史教育を通じて、このような問題を永く記憶にとどめ、同じ過ちを決して繰り返さないという固い決意を改めて表明する。

なお、本問題については、本邦において訴訟が提起されており、また、国際的にも関心が寄せられており、政府としても、今後とも、民間の研究を含め、十分に関心を払って参りたい。

四、「従軍慰安婦」にされた人々

――一九九五年一〇月二五日発行　アジア女性基金パンフレットより――

「従軍慰安婦」とは、かつての戦争の時代に、日本軍の慰安所で将兵に性的な奉仕を強いられた女性たちのことです。

慰安所の開設が、日本軍当局の要請によってはじめておこなわれたのは、中国での戦争の過程でのことです。一九三一年（昭和六年）満州事変がはじまると、翌年には戦火は上海に拡大されます。この第一次上海事変によって派遣された日本の陸海軍が、最初の慰安所を上海に開設させました。慰安所の数は、一九三七年（昭和十二年）の日中戦争開始以後、戦線の拡大とともに大きく増加します。

当時の軍の当局は、占領地で頻発した日本軍人による中国人女性レイプ事件によって、中国人の反日感情がさらに強まることをおそれて、防止策をとることを考えました。また、将兵が性病にかかり、兵力が低下することをも防止しようと考えました。中国人の女性との接触から軍の機密がもれることもおそれられました。

岡部直三郎北支那方面軍参謀長は一九三八年（昭和十三年）六月に出した通牒で、次のように述べています。

「諸情報ニヨルニ、……強烈ナル反日意識ヲ激成セシメシ原因ハ……日本軍人ノ強姦事件カ全般ニ伝播シ……深刻ナル反日感情ヲ醸成セルニ在リト謂フ」「軍人個人ノ行為ヲ厳重取締ルト共ニ、一面成ルヘク速ニ性的慰安ノ設備ヲ整ヘ、設備ノナキタメ不本意乍ラ禁ヲ侵ス者無カラシムルヲ緊要トス」

このような判断に立って、当時の軍は慰安所の設置を要請したのです。

慰安所の多くは民間の業者によって経営されましたが、軍が直接経営したケースもありました。民間業者が経営する場合でも、日本軍は慰安所の設置や管理、女性の募集について関与し、「統制」をおこないました。日本国内からの女性の募集について、一九三八年三月四日に出された中央の陸軍省副官の通牒には次のようにあります。

「支那事変地ニオケル慰安所設置ノ為内地ニ於テ之カ従業婦等ヲ募集スルニ当リ、故ニ軍部諒解等ノ名義ヲ利用シ、為ニ軍ノ威信ヲ傷ツケ、且ツ一般民ノ誤解ヲ招ク虞アルモノ、或ハ……募集ノ方法、誘拐ニ類シ、警察当局ニ検挙取調ヲ受クルモノアル等、注意ヲ要スルモノ少カラサルニ就テハ、将来是等ノ募集等ニ当リテハ、派遣軍ニ於テ統制シ、之ニ任スル人物ノ選定ヲ周到適切ニシ、其実施ニ当リテ関係地方ノ憲兵及警察当局トノ連携ヲ密ニシ、以テ軍ノ威信保持上、並ニ社会問題上、遺漏ナキ様配慮相成度依命通牒ス」

最初は日本の国内から集められた女性が多かったのですが、やがて当時日本が植民地として支配していた朝鮮半島から集められた女性がふえました。その人たちの多くは、一六、七歳の少女もふくまれる若い女性たちで、性的奉仕

をさせられるということを知らされずに、集められた人でした。

一九四一年（昭和十六年）一二月八日日本は米英オランダに宣戦を布告し（太平洋戦争）、戦線は東南アジアに広がりました。それとともに慰安所も中国から東南アジア全域に拡大しました。そのほとんどの地域に朝鮮半島、さらには中国、台湾からも、多くの女性が送られました。旧日本軍は彼女たちに特別に軍属に準じた扱いをおこない、渡航申請に許可をあたえ、日本政府は身分証明書の発給をおこなうなどしました。それと同時にフィリピン、インドネシアなど占領地の女性やオランダ人女性が慰安所に集められました。この場合軍人が強制的手段もふくめ直接関与したケースも認められます。

慰安所では、女性たちは多数の将兵に性的な奉仕をさせられ、人間としての尊厳を踏みにじられました。さらに戦況の悪化とともに、生活はますます悲惨の度をくわえました。戦地では常時、軍とともに行動させられ、まったく自由のない生活でした。

日本軍が東南アジアで敗走しはじめると、慰安所の女性たちは現地に置き去りにされるか、敗走する軍と運命をともにすることになりました。

一体どれほどの数の女性たちが日本軍の慰安所に集められたのか、今日でも事実調査は十分にはできていません。一九三九年（昭和一四年）広東周辺に駐屯していた第二三軍司令部の報告では、警備隊長と憲兵隊監督のもとにつくられた慰安所にいる「従業婦女ノ数ハ概ネ千名内外ニシテ軍ノ統制セルモノ約八五〇名、各部隊郷土ヨリ呼ビタルモ

ノ約一五〇名ト推定ス」とあります。第二三軍だけで一千人だというのですから、日本軍全体では相当多数の女性がこの制度の犠牲者となったことはまちがいないでしょう。現在研究者の間では、五万人とか、二〇万人とかの推計がだされています。

一九四五年（昭和二十年）八月一五日戦争が終わりました。だが、平和がきても、生き残った被害者たちにはやすらぎは訪れませんでした。ある人々は自分の境遇を恥じて、帰国することをあきらめ、異郷に漂い、そこで生涯を終えました。帰国した人々も傷ついた身体と残酷な過去の記憶をかかえ、苦しい生活を送りました。多くの人が結婚もできず、自分の子供を生むことも考えられませんでした。家族ができても、自分の過去をかくさねばならず、心の中の苦しみを他人に訴えることができないということが、この人々の身体と精神をもっとも痛めつけたことでした。

軍の慰安所ですごした数年の経験の苦しみにおとらない苦しみの中に、この人々は戦後の半世紀を生きてきたのです。

現在韓国では、政府に届けでた犠牲者は一六二名とのことです。フィリピン、インドネシア、台湾、オランダ、朝鮮民主主義人民共和国、中国などの国や地域からも名乗りでている方々がいます。しかし、いずれにしても多くの人がこの世を去ったか、名乗りでることをのぞんでおられないのです。このことも忘れてはならないでしょう。

内閣総理大臣の手紙

拝啓

このたび、政府と国民が協力して進めている「女性のためのアジア平和国民基金」を通じ、元従軍慰安婦の方々へのわが国の国民的な償いが行われるに際し、私の気持ちを表明させていただきます。

いわゆる従軍慰安婦問題は、当時の軍の関与の下に、多数の女性の名誉と尊厳を深く傷つけた問題でございました。私は、日本国の内閣総理大臣として改めて、いわゆる従軍慰安婦として数多の苦痛を経験され、心身にわたり癒しがたい傷を負われたすべての方々に対し、心からおわびと反省の気持ちを申し上げます。

我々は、過去の重みからも未来への責任からも逃げるわけにはまいりません。わが国としては、道義的な責任を痛感しつつ、おわびと反省の気持ちを踏まえ、過去の歴史を直視し、正しくこれを後世に伝えるとともに、いわれなき暴力など女性の名誉と尊厳に関わる諸問題にも積極的に取り組んでいかなければならないと考えております。

末筆ながら、皆様方のこれからの人生が安らかなものとなりますよう、心からお祈りしております。

敬具

平成八（一九九六）年

日本国内閣総理大臣　橋本龍太郎

女性のためのアジア平和国民基金理事長の手紙

謹啓

日本国政府と国民の協力によって生まれた「女性のためのアジア平和国民基金」は、かつて「従軍慰安婦」にさせられて、癒しがたい苦しみを経験された貴女に対して、ここに日本国民の償いの気持ちをお届けいたします。

かつて戦争の時代に、旧日本軍の関与のもと、多数の慰安所が開設され、そこに多くの女性が集められ、将兵に対する「慰安婦」にさせられました。十六、七歳の少女もふくまれる若い女性たちが、そうとも知らされずに集められたり、占領下では直接強制的な手段が用いられることもありました。貴女はそのような犠牲者のお一人だとうかがっています。

これは、まことに女性の根源的な尊厳を踏みにじる残酷な行為でありました。貴女に加えられたこの行為に対する道義的な責任は、総理の手紙にも認められている通り、現在の政府と国民も負っております。われわれも貴女に対して心からお詫び申し上げる次第です。

貴女は、戦争中に耐え難い苦しみを受けただけでなく、戦後も五〇年の長きにわたり、傷ついた身体と残酷な記憶をかかえて、苦しい生活を送ってこられたと拝察いたします。

このような認識のもとに、「女性のためのアジア平和国民基金」は、政府とともに、国民に募金を呼びかけてきました。こころある国民が積極的にわれわれの呼びかけに応え、拠金してくれました。そうした拠金とともに送られてきた手紙は、日本国民の心からの謝罪と償いの気持ちを表しております。

もとより謝罪の言葉や金銭的な支払いによって、貴女の生涯の苦しみが償えるものとは毛頭思いません。しかしながら、このようなことを二度とくりかえさないという国民の決意の徴(しるし)として、この償い金を受けとめて下さるようにお願いいたします。

「女性のためのアジア平和国民基金」はひきつづき日本国政府とともに道義的責任を果たす「償いの事業」のひとつとして医療福祉支援事業の実施に着手いたします。さらに、「慰安婦」問題の真実を明かにし、歴史の教訓とするための資料調査研究事業も実施してまいります。

貴女が申し出てくださり、私たちはあらためて過去について目をひらかれました。貴女の苦しみと貴女の勇気を日本国民は忘れません。貴女のこれからの人生がいくらかでも安らかなものになるようにお祈り申し上げます。

敬具

平成八（一九九六）年

財団法人　女性のためのアジア平和国民基金

理事長　原　文兵衛

目　次（第一巻）

一、警察庁関係公表資料

一　不良分子ノ渡支取締方ニ関スル件［外務次官］（昭和12・8・31）……3
二　上海派遣軍内陸軍慰安所ニ於ケル酌婦募集ニ関スル件［群馬県知事］（昭和13・1・19）……11
三　北支派遣軍慰安酌婦募集ニ関スル件［山形県知事］（昭和13・1・25）……23
四　支那渡航婦女募集取締ニ関スル件［高知県知事］（昭和13・1・25）……25
五　時局利用婦女誘拐被疑事件ニ関スル件［和歌山県知事］（昭和13・2・7）……27
六　上海派遣軍内陸軍慰安所ニ於ケル酌婦募集ニ関スル件［茨城県知事］（昭和13・2・14）……47
七　上海派遣軍内陸軍慰安所ニ於ケル酌婦募集ニ関スル件［宮城県知事］（昭和13・2・15）……53
八―(一)　支那渡航婦女ノ取扱ニ関スル件［内務省警保局長通牒案］（昭和13・2・18）……55
八―(二)　支那渡航婦女ノ取扱ニ関スル件［内務省警保局長］（昭和13・2・23）……69
九―(一)　支那渡航婦女ニ関スル件伺［内務省警保局警務課長・外事課長］（昭和13・11・4）……77
九―(二)　南支方面渡航婦女ノ取扱ニ関スル件［内務省警保局長］（昭和13・11・8）……87
十　醜業婦渡支ニ関スル経緯［内務省］（不明）……105

二、外務省関係公表資料

一　支那渡航者ニ対スル身分証明書発給ニ関スル件〔福岡県知事〕（昭12・12・15）……113
二―(一)　済南其他膠済鉄道沿線渡航者取扱方ニ関スル件〔大分県知事〕（昭13・4・25）……117
二―(二)　済南其他膠済鉄道沿線渡航者取扱方ニ関スル件―回答
〔外務省亜米利加局長〕（昭13・5・4）……119
三　「漢口攻略後邦人進出ニ対スル応急処理要綱」送付ノ件〔在上海総領事代理〕（昭13・9・28）……121
四―(一)　〔漢口ヘノ渡航者取締ニ関スル件〕〔在漢口総領事〕（昭14・2・3）……125
四―(二)　漢口ヘノ渡航者取締ニ関スル件〔外務省亜米利加局長〕（昭14・2・7）……127
五―(一)　漢口陸軍天野部隊慰安所婦女渡支ノ件〔外務大臣〕（昭14・12・22）……131
五―(二)　漢口陸軍天野部隊慰安所婦女渡支ノ件―回答〔在漢口総領事〕（昭14・12・27）……133
六―(一)　邦人渡支一時的制限ニ関スル外務省発表〔外務省〕（昭15・5・7）……135
六―(二)　渡支邦人暫定処理取扱方針中領事館警察署ノ証明書発給範囲ニ関スル件
〔警務部第三課〕（昭15）……137
六―(三)　「渡支邦人暫定処理ノ件」打合事項〔不明〕（昭15）……139
七　〔軍慰安所従事者ニ対スル身分証明書発給ノ件〕〔台湾総督府外事部長〕（昭15・6・1）……145

八―(一)　渡支事由証明書等ノ取寄不能ト認メラル、対岸地域ヘノ渡航者ノ取扱ニ関スル件
【台湾総督府外事部長】（昭15・9・2）……147
八―(二)　渡支事由証明書等ノ取寄不能ト認メラル、対岸地域ヘノ渡航者ノ取扱ニ関スル件
【高雄州知事】（昭15・8・23）……149
八―(三)　渡支事由証明書等ノ取寄不能ト認メラル、対岸地域ヘノ渡航者ノ取扱ニ関スル件
―回答【台湾総督府外事部長】（昭15・9・2）……161
九―(一)　南洋方面占領地ニ於ケル慰安所開設ニ関スル件【台湾総督府外事部長】（昭17・1・10）……163
九―(二)　南方方面占領地ニ対シ慰安婦渡航方ノ件【外務大臣】（昭17・1・14）……165
十　仏印ヨリ内地、満州国、支那、「タイ」向旅行許可ニ関スル件【在西貢支部長代理】（昭18・2・8）……167
十一　軍従属者ニ対スル旅行許可ノ件【事務総長】（昭18・3・10）……169
十二―(一)　渡支取締方ノ件【台北州知事】（昭14・1・13）……171
十二―(二)　渡支取締方ノ件【台北州知事】（昭14・3・2）……175
十二―(三)　渡支取締方ノ件【台北州知事】（昭14・3・2）……179
十二―(四)　渡支取締方ノ件【台北州知事】（昭14・4・10）……181
十二―(五)　渡支取締方ノ件【台北州知事】（昭14・4・24）……183
十二―(六)　渡支取締方ノ件【台北州知事】（昭14・5・21）……185

十二―(七) 渡支取締方ノ件【台北州知事】(昭14・6・19)……187
十二―(八) 渡支取締方ノ件【台北州知事】(昭14・7・15)……189
十二―(九) 渡支取締方ノ件【台北州知事】(昭14・8・16)……193
十二―(十) 渡支取締方ノ件【台北州知事】(昭14・9・13)……195
十二―(十一) 渡支取締方ノ件【台北州知事】(昭14・10・13)……197
十二―(十二) 渡支取締方ノ件【台北州知事】(昭14・11・15)……201
十二―(十三) 渡支取締方ノ件【台北州知事】(昭14・12・11)……205
十二―(十四) 渡支取締方ノ件【台北州知事】(昭15・1・18)……209
十二―(十五) 渡支取締方ノ件【台北州知事】(昭15・2・24)……211
十二―(十六) 渡支取締方ノ件【台北州知事】(昭16・9・27)……215
十三―(一) 渡支取締ニ関スル件【新竹州知事】(昭13・12・14)……219
十三―(二) 渡支取締ニ関スル件【新竹州知事】(昭14・1・11)……221
十三―(三) 渡支取締ニ関スル件【新竹州知事】(昭14・2・15)……223
十三―(四) 渡支取締ニ関スル件【新竹州知事】(昭14・3・17)……227
十三―(五) 渡支取締ニ関スル件【新竹州知事】(昭14・4・19)……229
十三―(六) 渡支取締方ニ関スル件【新竹州知事】(昭14・8・22)……231

十三―(七) 渡支取締方ニ関スル件［新竹州知事］（昭14・9・12）……233
十三―(八) 渡支取締方ニ関スル件［新竹州知事］（昭14・10・12）……237
十三―(九) 渡支取締方ニ関スル件［新竹州知事］（昭14・11・13）……241
十三―(十) 渡支取締方ニ関スル件［新竹州知事］（昭14・12・13）……245
十三―(十一) 渡支取締方ニ関スル件［新竹州知事］（昭15・1・15）……249
十三―(十二) 渡支取締方ニ関スル件［新竹州知事］（昭15・2・16）……253
十四―(一) 渡支取締方ノ件［台中州知事］（昭14・1・17）……257
十四―(二) 渡支取締方ノ件［台中州知事］（昭14・2・13）……261
十四―(三) 渡支取締方ノ件［台中州知事］（昭14・3・11）……265
十四―(四) 渡支取締方ノ件［台中州知事］（昭14・4・18）……269
十四―(五) 渡支取締方ノ件［台中州知事］（昭14・5・22）……273
十四―(六) 渡支取締方ノ件［台中州知事］（昭14・6・12）……275
十四―(七) 渡支取締方ノ件［台中州知事］（昭14・7・18）……279
十四―(八) 渡支取締方ノ件［台中州知事］（昭14・8・11）……283
十四―(九) 渡支取締方ノ件［台中州知事］（昭14・10・12）……287
十四―(十) 渡支取締方ノ件［台中州知事］（昭14・12・9）……291

十四―(十一) 渡支取締方ノ件〔台中州知事〕(昭15・1・17)……295
十四―(十二) 渡支取締方ノ件〔台中州知事〕(昭16・8・18)……299
十五―(一) 渡支取締ニ関スル件〔高雄州知事〕(昭14・2・14)……301
十五―(二) 渡支取締ニ関スル件〔高雄州知事〕(昭14・3・22)……303
十五―(三) 渡支取締ニ関スル件〔高雄州知事〕(昭14・4・12)……305
十五―(四) 渡支取締ニ関スル件〔高雄州知事〕(昭14・5・12)……307
十五―(五) 渡支取締ニ関スル件〔高雄州知事〕(昭14・6・13)……309
十五―(六) 渡支取締ニ関スル件〔高雄州知事〕(昭14・7・25)……313
十五―(七) 渡支取締ニ関スル件〔高雄州知事〕(昭14・8・22)……315
十五―(八) 渡支取締ニ関スル件〔高雄州知事〕(昭14・9・18)……319
十五―(九) 渡支取締ニ関スル件〔高雄州知事〕(昭14・10・14)……323
十五―(十) 渡支取締ニ関スル件〔高雄州知事〕(昭14・11・16)……327
十五―(十一) 渡支取締ニ関スル件〔高雄州知事〕(昭14・12・20)……331
十五―(十二) 渡支取締ニ関スル件〔高雄州知事〕(昭15・1・15)……335
十五―(十三) 渡支取締ニ関スル件〔高雄州知事〕(昭15・2・19)……339
十五―(十四) 渡支取締ニ関スル件〔高雄州知事〕(昭16・8・25)……343

十五―(十五) 渡支取締ニ関スル件［高雄州知事］（不明）……347
十五―(十六) 渡支取締ニ関スル件［高雄州知事］（不明）……351
十五―(十七) 渡支取締ニ関スル件［高雄州知事］（不明）……353
十六―(一) 渡支取締ニ関スル月報（一月分）［台東庁］（昭14？）……355
十六―(二) 渡支取締月報（二月分）［台東庁］（昭14？）……359
十六―(三) 渡支取締ニ関スル月報（三月分）［台東庁］（昭14？）……363
十六―(四) 渡支取締ニ関スル月報（四月分）［台東庁］（昭14？）……367
十六―(五) 渡支取締ニ関スル月報（五月分）［台東庁］（昭14？）……371
十六―(六) 渡支取締ニ関スル月報（六月分）［台東庁］（昭14？）……375
十六―(七) 渡支取締ニ関スル月報（七月分）［台東庁］（昭14？）……379
十六―(八) 渡支取締月報（八月分）［台東庁］（昭14？）……383
十六―(九) 渡支取締月報（九月分）［台東庁］（昭14？）……387
十六―(十) 渡支取締月報（十月分）［台東庁］（昭14？）……391
十六―(十一) 渡支取締月報（十一月分）［台東庁］（昭14？）……395
十六―(十二) 渡支取締方ノ件［台東庁長］（昭15・1・17）……399
十六―(十三) 渡支取締月報［台東庁長］（昭15・2・14）……403

十七―(一)　渡支取締ニ関スル件［台南州知事］（昭14・1・20）……407
十七―(二)　渡支取締ニ関スル件［台南州知事］（昭14・9・6）……409
十七―(三)　渡支取締ニ関スル件［台南州知事］（昭14・12・12）……413
十七―(四)　渡支取締ニ関スル件［台南州知事］（昭15・2・26）……417
十八　渡支取締方ノ件［花蓮港庁長］（昭14・10・14）……421
十九―(一)　渡支取締ニ関スル件［澎湖庁長］（昭14・2・7）……425
十九―(二)　渡支取締ニ関スル件［澎湖庁長］（昭14・5・9）……427
十九―(三)　渡支取締ニ関スル件［澎湖庁長］（不明）……429
二十　昭和十年在上海総領事館警察事務状況［同警察署長報告摘録］（昭10）……431
二十一　昭和十一年中ニ於ケル在留邦人ノ特種婦女ノ状況及其ノ取締［在上海総領事館警察署沿革誌ニ依ル］（昭11）……435
二十二　昭和十一年在上海総領事館警察事務状況［同警察署長報告摘録］（昭11）……439
二十三　昭和十二年在上海総領事館警察事務状況［同警察署長報告摘録］（昭12）……443
二十四　昭和十三年中ニ於ケル在留邦人ノ特種婦女ノ状況及其ノ取締並ニ租界当局ノ私娼取締状況［在上海総領事館警察署沿革誌ニ依ル］（昭13）……447
二十五　昭和十三年在上海総領事館警察事務状況［同警察署長報告摘録］（昭13）……453

二十六　在上海総領事館ニ於ケル特高警察事務状況(昭12・12)……459
二十七　「在天津総領事館塘沽出張所警察署警察史」抜粋(昭12・1・12)……463
二十八　昭和十三年在漢口総領事館警察事務状況［同警察署長報告摘録］(昭13)……467
二十九　昭和十三年在南京総領事館蕪湖分館警察事務状況［同警察署長報告摘録］(昭13)……469
三十　昭和十三年在杭州領事館警察事務状況［同警察署長報告摘録］(昭13)……473
三十一　「外務省警察史　在九江領事館」抜粋(昭13)……477
三十二　「外務省警察史　在南京総領事館」抜粋(昭13)……479
三十三　「海口総領事館警察署瓊山派遣所警察史」抜粋(昭15)……483
三十四―(一)　邦人出国者統計表進達ノ件［在山海関副領事］(昭15・6・15)……487
三十四―(二)　邦人渡支状況ニ関スル件［在山海関副領事］(昭15・7・19)……491
三十四―(三)　邦人出国者統計報告ノ件［在山海関副領事］(昭15・8・14)……495
三十五　渡支邦人暫定処理ニ関スル統計報告方ノ件［在漢口総領事］(昭15・10・3)……501
三十六―(一)　渡支邦人暫定処理ニ関スル各種統計表（四月）送付ノ件［在広東総領事］(昭16・5・10)……505
三十六―(二)　渡支邦人暫定処理ニ関スル各種統計報告ノ件［在広東総領事］(昭16・6・11)……509
三十六―(三)　渡支邦人暫定処理ニ関スル各種統計報告ノ件［在広東総領事代理］(昭16・7・21)……511

三十六―(四) 渡支邦人暫定処理ニ関スル各種統計報告ノ件 [在広東総領事] (昭16・8・12) …… 513
三十六―(五) 渡支邦人暫定処理ニ関スル各種統計報告ノ件 [在広東総領事] (昭16・9・8) …… 515
三十六―(六) 渡支邦人暫定処理ニ関スル各種統計報告ノ件 [在広東総領事] (昭16・10・9) …… 517
三十六―(七) 渡支邦人暫定処理ニ関スル各種統計報告ノ件 [在広東総領事] (昭16・11・11) …… 519
三十六―(八) 渡支邦人暫定処理ニ関スル各種統計報告ノ件 [在広東総領事] (昭16・12・16) …… 521
三十六―(九) 渡支邦人暫定処理ニ関スル各種統計報告ノ件 [在広東総領事] (昭17・4・20) …… 523
三十六―(十) 渡支邦人暫定処理ニ関スル各種統計報告ノ件 (月報) [在広東総領事] (昭17・5・19) …… 525
三十六―(十一) 渡支邦人暫定処理ニ関スル各種統計報告ノ件 [在広東総領事] (昭17・6・26) …… 527
三十六―(十二) 渡支邦人暫定処理ニ関スル各種統計報告ノ件 [在広東総領事] (昭17・7・16) …… 529
三十六―(十三) 渡支邦人暫定処理ニ関スル各種統計報告ノ件 [在広東総領事] (昭17・10・27) …… 531
三十七―(一) 渡支邦人暫定処理ニ関スル各種統計報告ノ件 [在厦門総領事] (昭16・8・9) …… 533
三十七―(二) 渡支邦人暫定処理ニ関スル各種統計報告ノ件 [在厦門総領事] (昭16・9・5) …… 537
三十七―(三) 渡支邦人暫定処理ニ関スル各種統計報告ノ件 [在厦門総領事] (昭16・11・7) …… 539
三十七―(四) 渡支邦人暫定処理ニ関スル各種統計報告ノ件 [在厦門総領事] (昭17・1・17) …… 541
三十七―(五) 渡支邦人暫定処理ニ関スル各種統計報告ノ件 [在厦門総領事代理] (昭17・4・11) …… 543
三十七―(六) 渡支邦人暫定処理ニ関スル各種統計報告ノ件 [在厦門総領事] (昭17・5・12) …… 545

三十七―(七)　渡支邦人暫定処理ニ関スル各種統計報告ノ件［在廈門総領事］（昭17・10・13）……547
三十八―(一)　渡支邦人暫定処理ニ関スル各種統計報告ノ件［在汕頭領事］（昭16・12・11）……549
三十八―(二)　渡支邦人暫定処理ニ関スル各種統計報告ノ件［在汕頭領事］（昭17・4・6）……551
三十九―(一)　渡支暫定処理ニ関スル各種統計表送付ノ件［在海口総領事代理］（昭16・11・7）……553
三十九―(二)　渡支暫定処理ニ関スル各種統計表送付ノ件［在海口総領事代理］（昭16・12・10）……557
四十　本邦人職業別表送付ノ件［在漢口総領事］（昭13・12・3）……561
四十一　在支邦人職業別人口統計表提出ノ件［在廈門総領事］（昭14・9・27）……565
四十二　九江在留邦人職業別人口統計表提出ノ件［在南京総領事］（昭13・11・8）……569
四十三―(一)　在留民職業別人口統計表進達ノ件［在九江領事代理］（昭14・2・20）……573
四十三―(二)　九江在留民職業別人口報告ノ件［在九江領事代理］（昭14・3・6）……577
四十三―(三)　九江在留民職業別人口統計表進達ノ件［在九江領事代理］（昭14・4・15）……581
四十三―(四)　九江在留民職業別人口統計表進達ノ件［在九江領事代理］（昭14・5・4）……585
四十三―(五)　在留民職業別人口統計表進達ノ件［在九江領事代理］（昭14・6・1）……589
四十三―(六)　在留民職業別人口統計表進達ノ件［在九江領事代理］（昭14・8・7）……593
四十三―(七)　在留邦人職業別人口統計表進達ノ件［在九江領事代理］（昭14・9・9）……597
四十四―(一)　南昌在留邦人職業別人口統計報告ノ件［在九江領事代理］（昭14・8・9）……601

四十四—(二)　南昌居留民職業別人口統計表【在九江日本領事館警察署南昌分署】(昭14・9・1)……605
四十五—(一)　在留邦人人口統計職業別報告ノ件【在蕪湖副領事】(昭14・4・4)……607
四十五—(二)　在留邦人人口統計職業別報告ノ件【在蕪湖副領事】(昭14・6・2)……611
四十五—(三)　在留邦人人口統計職業別報告ノ件【在蕪湖副領事】(昭14・7・4)……613
四十五—(四)　在留邦人人口統計職業別報告ノ件【在蕪湖副領事】(昭14・8・2)……617
四十五—(五)　在留邦人人口統計職業別報告ノ件【在蕪湖副領事】(昭14・9・3)……621
四十六　杭州在留邦人営業種別並ニ投資額一覧表送付ノ件【在杭州領事代理】(昭14・2・24)……625

警察庁関係公表資料

秘

寫

米三機密合第三七七六號

昭和十二年八月三十一日

外務次官　堀　内　謙　介

不良分子ノ渡支取締方ニ關スル件

從來支那ニ渡航スルニハ旅券ノ必要ナク自由ナリシ處今回ノ日支事變ニ關聯シ支那在留邦人ハ多數引揚ケ其ノ遺留財產ニ對スル保護警戒等モ行渉リ衆ヌル今日或ハ殘留セル邦人ヲ煽動シテ事ヲ爲サントシ或ハ混亂ニ紛レテ一儲セントスル等ノ無頼不良ノ徒ノ支那渡航ハ此際嚴ニ之ヲ取締ルノ必要アリ既ニ滿洲國及

關東州ニ於テハ夫々之カ措置ヲ爲シ又關係在支帝國公館ヨリモ右取締方申越ノ次第アリタルニ付テハ追テ何分ノ義申進スル迄今後當分ノ間支那ニ渡航セントスル(一)一般本邦人ニ對シテハ所轄警察署長ヨリ(二)又公務ノ爲派遣セラルル者ニ對シテハ派遣官公署ヨリ別紙手續ニ依リ身分證明書ヲ發給スルコトトシ右身分證明書ヲ有スルカ又ハ正式旅券ノ發給ヲ受ケタル者ノ外ハ支那ニ向ケ乘船セシメサル樣御取扱相成度而シテ右身分證明書ノ發給ニ關シテハ前記ノ趣旨ニ依リ業務上又ハ家庭上其ノ他正當ナル目的ノ爲至急渡支ヲ必要トスル者ノ外ハ此際可成自發的ニ渡支ヲ差控ヘシムルコトニ御取計相成以テ在支皇軍ノ軍後方地區ノ治安確保ニ協力相成樣致度尙本件ノ趣旨ハ一般ニ周知方可然

御取計相成度右關係官廳トモ協議ノ上依命此段申進ス

本信送付先　警視總監、各地方長官、關東州廳長官

本信寫送付先　內閣書記官長、法制局長官、賞勳局總裁、資源局長官、對滿事務局次長、企劃廳次長、樞密院書記官長、宮內次官、各省次官、社會局長官、貿易局長官、特許局長官、會計檢查院長、行政裁判所長官、貴族院書記官長、衆議院書記官長、日本郵船會社長、大阪商船會社長

規格 B 5.

寫

支那渡航取扱手續

一、日本内地及各殖民地ヨリ支那ニ渡航スル日本人（朝鮮人及臺灣籍民ヲ含ム）ニ對シテハ當分ノ間居住地所轄警察署長ニ於テ甲號様式ノ如キ身分證明書ヲ發給スルモノトス

但シ制服着用ノ日本軍人軍屬ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ身分證明書ハ公務ノ爲派遣セラルル官吏其ノ他ノ者ニ對シテハ派遣官公署ニ於テ乙號様式ニ依リ之ヲ發給スルモノトス

二、警察署長第一項ノ身分證明書ノ下付願出アリタルトキハ本人ノ身分、職業、渡航目的、要件、期間等ヲ調査シ左ノ通取扱フ

(イ) 素性、經歷、平素ノ言動等不良ニシテ渡支後不正行爲ヲ爲スノ虞アル者ニ對シテハ身分證明書ヲ發給セス

(ロ) 業務上家庭上其ノ他正當目的ノ爲至急渡支ヲ必要トスル者以外ノ者ニ對シテハ可成自發的ニ渡支ヲ差控ヘシムルモノトス

三、出發港所轄警察署長ハ第一項ノ身分證明書又ハ帝國政府發給ノ旅券ヲ有スル者ニ非ラサレハ支那ニ向ケ乘船セシメサルモノトス

四、本身分證明書ノ發給ニ對シテハ手數料ヲ徵收セス

五、本手續ハ支那行外國旅券ノ發給ヲ妨クルモノニ非ス

六、本手續ハ支那現地ノ事態ノ許ス限リ可及的速ニ之ヲ解除スル

モノトス

七本手續ハ即時施行ス

但シ第三項ニ關スル限リ昭和十二年九月十日ヨリ之ヲ施行スルモノトス

内務省

規格 B. 5.

（甲種様式）

身分證明書

本籍

現住所

職業

氏名

生年月日

一、支那ヘ旅行ヲ必要トスル目的、事由、期間

右證明ス

昭和十二年　月　日

警察署長官氏名　印

寫

規格 A 5.

寫

（乙號樣式）

身分證明書

官職　氏名

生年月日

一、支那ヘ渡航ヲ必要トスル目的、用務

右證明ス

昭和十二年　月　日

（派遣官公署）　官職　氏名印

内務省

規格 11. 5.

②上海派遣軍内陸軍慰安所ニ於ケル酌婦募集ニ關スル件【群馬県知事】（昭13・1・19）

保第二四二號

昭和十三年一月十九日

群馬縣知事

（警察部長）

内務大臣殿
陸軍大臣殿
北海道廳長官殿
警視總監殿
各廳府縣長官殿
高崎聯隊區司令官殿
高崎憲兵分隊長殿
（縣下各警察署長殿）

上海派遣軍内陸軍慰安所ニ於ケル酌婦募集ニ關スル件

神戸市 [redacted]

貸座敷業 [redacted]

右者肩書地ニ於テ娼妓數十名ヲ抱エ貸座敷營業ヲ營ミ居ル由ナルカ今回支那事變ニ出征シタル將兵慰安トシテ在上海陸軍特務機關ノ依頼ナリト稱シ上海派遣軍内陸軍慰安所ニ於テ

警保局
13. 1. 25. 火
警 581号

酌婦稼業（酬業）ヲ爲ス酌婦三千人ヲ必要ナリト稱シ本年一月五日之カ募集ノ爲

管下前橋市 [redacted]

藝娼妓酌婦等紹介業 反 町 [redacted]

方ヲ訪レ其ノ後屢々來橋別記一件書類（一契約書（一號）承諾書（二號）借用證書（三號）契約條件（四號）ヲ示シ酌婦募集方ヲ依頼シタル事アルモ本件ハ果シテ軍ノ依頼アルヤ否ヤ不明且公秩良俗ニ反スルカ如キ事柄ヲ公々然ト吹聽スルカ如キハ皇軍ノ威信ヲ失墜スルモ甚シキモノト認メ嚴重取締方所轄前橋警察署長ニ對シ指揮致置候條此段及申（通）報候也

尚大内 [redacted] ノ言動左記ノ通ニ付申添候

追而兵庫（一貫）縣ニ於テハ相當取締ノ上結果何分ノ御通報相煩ハシ度

（縣下各警察署長ニ在リテハ嚴重取締セラルヘシ）

記

日支事變ニ依ル出征將兵モ既ニ在支數ケ月ニ及ヒ戰モ酣ハナ處ハ終ツタ爲一時駐屯ノ体勢トナツタ爲將兵カ支那酌婦ト遊ブ爲病氣ニ掛ルモノカ非常ニ多ク軍醫務局テハ戰爭ヨリ寧ロ此ノ花柳病ノ方カ恐シイト云フ樣ナ情況テ其處ニ此ノ施設問題カ起ツタモノテ在上海特務機關カ吾々業者ニ依頼スル處トナリ同係

神戸市[redacted]

目下上海在住[illegible]教業　中野[redacted]

ヲ通シテ約三千名ノ酌婦ヲ募集シテ送ルコトトナツタノテ既ニ本問題ハ昨年十二月中旬ヨリ實行ニ移リ目下二三百名ハ稼業中テアリ兵庫縣ヤ關西方面テハ縣當局モ諒解シ應援シテヰル、營業ハ吾々業者カ出張シテヤルノテ軍カ直接ヤルノテハナイカ最初ニ別紙壹花券（兵士用二圓將校用五圓）ヲ軍隊ニ營業者側カラ納メテ置キ之レヲ軍テ各兵士ニ配布之ヲ使用シタ場合吾々業者ニ各將兵カ渡スコトヽシ之レヲ取纏メテ軍經理部カラ其ノ使用料金ヲ受取ル仕組トナツテヰテ直接將兵ヨリ現金ヲ取ルノテハナイ軍ハ軍トシテノ慰安費様ノモノカラ其ノ費用ヲ支出スルモノラシイ

何レニシテモ本月廿六日ニハ第二回ノ酌婦ヲ軍用船テ（神戸發）送ル心算テ目下募集中テアル　云々、

（一號）　契　約　證

一、稼　業　年　限

一、契　約　金

一、上海派遣軍内陸軍慰安所ニ於テ酌婦稼業ヲ爲スコト

一、貸與金ハ揚高ノ一割トス（但シ半額ヲ貯蓄スルコト）

一、食費衣裳及消耗品ハ抱主ノ負擔トス

一、年限途中ニ於テ解約ノ場合ニハ元金殘額違約金及抱入當時ノ諸費用一切ヲ即時支拂ヒ

　ズヘキコト

右契約條項確守履行仕ル可ク依而契約證書如件

昭和　年　月　日

本籍地

現住所

現住所

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

（二號）

承諾書

本籍

住所

稼業人

年月日生

右ノ者前線ニ於ケル貨殿指定ノ陸軍慰安所ニ於テ酌婦稼業（娼妓同様）ヲ爲スヲ承諾仕候也

昭和　年　月　日

石戸主又ハ親權者

稼業人

（三號）

金員借用證書

一金

右之金員拙者要用ニ付キ正ニ請取借用仕候事實正也然ル上ハ返濟方法ハ別紙契約書ニ基キ酌婦稼業ヲ爲シ御返濟申ス可ク萬一本人ニ於テ契約不履行ノ節ハ拙者等連帶者ニ於テ速カニ御返金仕ル可ク爲後日借用證書依而如件

昭和　年　月　日

本籍地

現住所

現住所

借用主

連帯者

殿

（四號）

拜啓年内餘日も無之候御繁忙の事と奉存候陳者今回漢口の御了解の元に中支方面に皇軍將士慰安を目的とする慰安所設立致す事と相成り左之條件を以て約五百名の酌婦を募集致候に付何卒大至急御手配煩シ度御報知次第直ちに出張可仕候間御一報被下度奉願候

昭和十二年十二月廿八日

六　内　[redacted]

記

條　件

一、契約年限　　滿二ヶ年

一、前借金　　五百圓ヨリ千圓迄

但シ右前借金ノ内二割ヲ控除シ身付金及乘込費ニ充當ス

一、年齢　滿十六歳ヨリ三十才迄

一、身体壯健ニシテ親權者ノ承諾ヲ要ス但シ養女籍ニ在ル者ハ當家ノ承諾ナキモ差支ナシ

一、前借金返濟方法ハ年限完了ト同時ニ消滅ス

即チ年期中假令病氣休業スルトモ年期滿了ト同時前借金ハ完濟ス

一、利息ハ年期中ナシ途中廢業ノ場合ハ殘金ニ對シ月壹歩

一、違約金ハ一ケ年内前借金額ノ一割

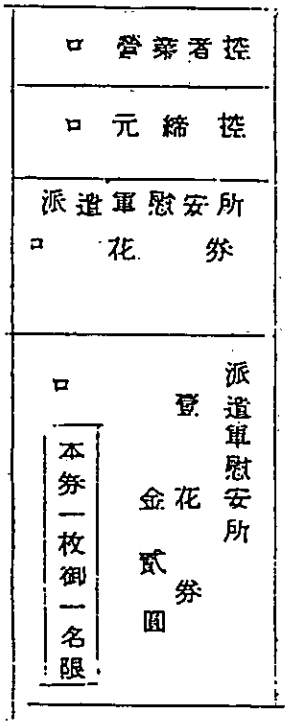
一、年期途中廢業ノ場合ハ日割計算トス

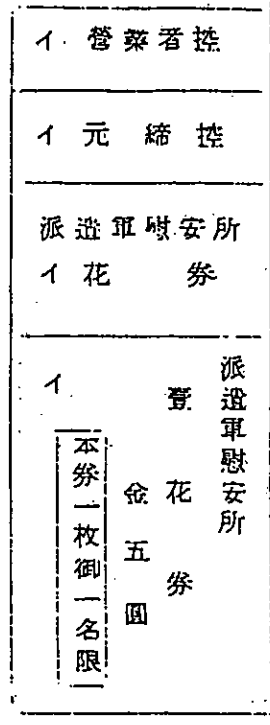
一、年期滿了歸國ノ際ハ歸還旅費ハ抱主負擔トス

一、結算ハ稼高ノ一割ヲ本人所得トシ毎月支給ス

一、年期無事滿了ノ場合ハ本人稼高ニ應シ應分ノ慰勞金ヲ支給ス

一、衣類、寢具食料入浴料醫藥費ハ抱主負擔トス


控
看護婦
ロ
控
元締
ロ
派遣軍慰安所
花券
ロ
派遣軍慰安所
壹花券
金貳圓
ロ
本券一枚御一名限


控
看護婦
イ
控
元締
イ
派遣軍慰安所
花券
イ
派遣軍慰安所
壹花券
金五圓
イ
本券一枚御一名限

發保親第一號ノ内
昭和十三年一月二十五日
山形縣知事 武井群嗣
（山形縣警察部長）

内務大臣 末次信正 殿
陸軍大臣 杉山元 殿
警視總監 殿
各廳府縣長官 殿
（縣下各警察署長 新庄ヲ除ク）

北支派遣軍慰安酌婦募集ニ關スル件

神戸市 貸座敷 大内 [redacted]

管下最上郡新庄町櫻馬場藝娼妓酌婦紹介業者 [redacted] 戸塚 [redacted] ハ右者ヨリ「今般北支派遣軍ニ於テ將兵慰問ノ爲全國ヨリ二千五百名ノ酌婦ヲ募集スルコト、ナリタル趣ヲ以テ五百名ノ募集方依頼

警保局
13. 1. 27. 木
警 665号

越下リ該酌婦ハ年令十六才ヨリ三十才迄前借ハ五百円ヨリ千円迄稼業年限二ヶ年之カ紹介手数料ハ前借金ノ一割ヲ軍部ニ於テ支給スルモノナリ云々ト称シアルヲ所轄新庄警察署ニ於テ聞知シタルカ如斯ハ軍部ノ方針トシテハ俄カニ信シ難キノミナラス斯ル事案カ公然流布セラルヽニ於テハ銃後ノ一般民心殊ニ應召家庭ヲ守ル婦女子ノ精神上ニ及ホス悪影響尠カラス更ニ一般婦女身賣防止ノ精神ニモ反スルモノトシテ所轄警察署長ニ於テ右ノ趣旨ヲ本人ニ懇諭シタルニ之ヲ諒得シ且ツ本人老齢ニシテ活動意ニ委セサル等ノ事情ヨリ之カ募集ヲ断念シ曩ニ送付アリタル一切ノ書類ヲ前記大内ニ返送シタル状況ニ有之候

右及申（通）報候也

（縣下警察署長ニ於テハ参照ノ上取締上遺憾ナキヲ期セラルベシ）

④支那渡航婦女募集取締ニ関スル件［高知県知事］（昭13・1・25）

保発第二四号

昭和十三年一月二十五日

高知縣知事　小林光政

内務大臣　末次信正　殿
各廳府縣知事

支那渡航婦女募集取締ニ関スル件

最近支那渡航婦女募集者簇出ノ傾向アリ之等ハ主トシテ渡支後醜業ニ従事セシムルヲ目的トスルモノニシテ一面軍ト聯絡ノ下ニ募集スルモノヽ如キ言辞ヲ弄スル等不都合ノモノ有之依而之ガ取締ニ関シ別記ノ通リ通牒ヲ発シ候条一應御参考迄ニ及申（通）

警保局
13. 2. 1. 火
警 795 号

敢候也

記

支那各地ニ於ケル治安ノ恢復ト共ニ今地ニ於ケル企業者簇出シ之ニ伴ヒ藝妓給仕婦等ノ進出亦夥シク中ニハ軍ト称シ聯絡アルカノ如キ言辞ヲ弄シ之等渡航婦女子ノ募集ヲ為スモノ等漸増ノ傾向ニ有之候処軍ノ威信ニ関スル言辞ヲ弄スル募集者ニ就テハ絶対ニ之ヲ禁止シ又醜業ニ従事スルノ目的ヲ以テ渡航セントスルモノニ対シテハ旅券許証明書ヲ発給セザルコトニ取扱相成度

寫 ⑤時局利用婦女誘拐被疑事件ニ關スル件［和歌山県知事］（昭13・2・7）

〔昭和十二年二月七日は十三年二月七日の間違い〕

刑第三〇三號

昭和十二年二月七日

和歌山縣知事
（警察部長）

內務省警保局長　殿

（縣下各警察署長殿）

時局利用婦女誘拐被疑事件ニ關スル件

當縣下田邊警察署ニ於テ標記事件發生之カ取調狀況左記ノ通ニ有之候條此段及申報候也

（縣下ハ參考ノ上取締ニ資スルト共ニ爾後同樣犯罪アリタル場合ハ搜査着手前報告セラルベシ）

內務省

規格B.5.

記

一、事件認知ノ狀況

昭和十三年一月六日午後四時頃管下田邊町大字神子濱通稱文里飲食店街ニ於テ三名ノ擧動不審ノ男徘徊シアリ注意中ノ處內二名ハ文里水上派出所巡査ニ對シ疑ハシキモノニ非ス軍部ヨリノ命令ニテ上海皇軍慰安所ニ送ル酌婦募集ニ來リタルモノニシテ參千名ノ要求ニ對シ七十名ハ昭和十三年一月三日陸軍御用船ニテ長崎港ヨリ憲兵護衛ノ上送致濟ナリト稱シ立出タリトノ巡査報告アリ眞相ニ不審ヲ抱キ情報係巡査ヲシテ捜査セシムルニ文里港料理店萬亭事中井[redacted]方ニ登樓シ酌婦ヲ呼ヒ酌セシメツヽ上海行キヲ慫メツツアリテ交渉方法ニ付

キ無智ナル婦女子ニ對シ金儲ケ良キ點軍除ノミヲ相手ニ慰問シ食料ハ軍ヨリ支給スル等誘拐ノ容疑アリタルヲ以テ被疑ヲ同行取締ヲ開始シタリ

二、事件取調ノ狀況

被疑者ヲ取締タルニ

大阪市 [redacted]

貸席業 佐賀 [redacted] 當四十五年

大阪市 [redacted]

貸席業 金澤 [redacted] 當四十二年

海南市 [redacted]

紹介業 平岡 [redacted] 當四十年

ト自供シ金澤 [redacted] ノ自供ニ依レバ昭和十二年秋頃

大阪市 [redacted]

會社重役 小西 [redacted]

神戸市 [redacted]

貸席業 中野 [redacted]

大阪市 [redacted]

貸席業 藤村 [redacted]

ノ三名ハ陸軍御用商人氏名不詳某ト共ニ上京シ徳久少佐ヲ介シ

内務省

規格 B 6

荒木大將、頭山滿ト會合ノ上上海皇軍ノ風紀衞生上年內ニ內地ヨリ三千名ノ娼婦ヲ送ル事トナリ詳シキ事情ヲ知ラサルカ藤村、小西ノ兩名ニテ七十名ヲ送リタルカ九條警察署（大阪府）長、長崎縣外事課ニ於テ便宜ヲ受ケタリ

上海ニ於テハ情交金將校五圓、下士貳圓ニテ二年後軍ノ引揚ト共ニ引揚クルモノニシテ前借金ハ八百圓迄ヲ出シ募集ニ際シ藤村[redacted]ノ手先トシテ和歌山縣下ニ入込ミ勝手ヲ知ラサル爲右事情ヲ明シ平岡[redacted]ニ案內セシメ御坊町ニ於テ

[redacted]

當二十六年

[redacted]

當二十八年

內務省

ノ兩名ヲ［redacted］ハ前借金四百七拾圓、［redacted］ハ前借金參百六拾二圓ヲ支拂ヒ海南市平岡［redacted］方ニ預ケアリト自供セリ

依テ九條警察署關係ヲ照會スルト共ニ眞相ヲ明ニスル爲メ［redacted］、［redacted］等ヲ同行シ事情ヲ聽取スルニ金澤［redacted］自供ノ如ク誘拐方法ヲ供述セリ

三　身柄ノ處置

照會ニ依リ被疑者三名ノ身元ノミ判明シタルカ皇軍慰問所ノ有無不明ナルガ九條警察署ニ於テ酌婦公募證明ヲ出シタル事實判明疑義ノ點多多アリ眞相確認後ニ於テ取調ヲ爲スモ被疑者逃走證拠湮滅ノ虞ナシト認メ所轄檢事ニ報告ノ上

内務省

被害者 [redacted]
〃 [redacted]
〃 [redacted]
被疑者 平岡
關係人 中井
〃 弓倉 [redacted]

ノ聽取ニ止メ一月十日身柄ヲ釋放セルモ何時ニテモ出頭方嚴
旨セシメタリ

四 關係方面照會狀況

長崎縣外事課及大阪府九條警察署ニ照會シタルニ左記ノ通リ
回答アリタリ

規格B5

記

(一)長崎縣外事課ヨリノ回答

十三外親第一七〇〇號

昭和十三年一月二十日

長崎縣外事警察課長

和歌山縣刑事課長殿

事實調査方件回答

大阪市[redacted]

貸席業　佐賀[redacted]

外二名

右者婦女誘拐ノ嫌疑ヲ以テ御取調ノ趣ニテ皇軍將兵慰安婦

規格 B. 5.

女ノ渡滬ニ關スル事實調査方本月十八日付刑第三〇三號ヲ以テ御照會相成候處本件ニ關シテハ客年十二月二十一日付ヲ以テ在上海日本總領事館警察署長ヨリ本縣長崎水上警察署長宛左記ノ如ク依頼越シタルヲ以テ本縣ニ於テハ右依頼狀ニ基キ

一、本人ノ寫眞二枚ヲ添付セル臨時酌婦營業許可願
一、承諾書
一、印鑑證明書
一、戸籍謄本
一、酌婦稼業者ニ對スル調査書

ヲ所持シ合法的雇傭契約ニ依リ渡滬スルモノト認メラル

モノト認メラルルモノニ對シテハ渡滬ヲ許可致居候條
此段及回答候也

皇軍將兵慰安婦女渡來ニツキ便宜
供與方依頼ノ件

本件ニ關シ前線各地ニ於ケル皇軍ノ進展ニ伴ヒ之カ將兵ノ慰安方ニ付關係諸機關ニ於テ考究中ノ處頃日來當館陸軍武官室憲兵隊合議ノ結果施設ノ一端トシテ前線各地ニ軍慰安所（事實上ノ貸座敷）ヲ左記要領ニ依リ設置スルコトトナレリ

記

領事館

(イ)營業願出者ニ對スル許否ノ決定

(ロ)慰安婦女ノ身許及斯業ニ對スル一般契約手續

(ハ)渡航上ニ關スル便宜取計

(ニ)營業主並婦女ノ身元其他ニ關シ關係諸官署間ノ照會並回答

(ホ)着滝ト同時ニ當地ニ滯在セシメサルヲ原則トシテ許否決定ノ上直ニ憲兵隊ニ引繼クモノトス

憲兵隊

(イ)領事館ヨリ引繼ヲ受ケタル營業主並婦女ノ就業地輸送手續

(ロ)營業者並稼業婦女ニ對スル保護取締

武官室

內務省

(イ)就業場所及家屋等ノ準備

(ロ)一般保健並檢黴ニ關スル件

右要領ニ依リ施設ヲ急キ居ル處既ニ稼業婦女（酌婦）募集ノ爲本邦内地並朝鮮方面ニ旅行中ノモノアリ今後モ同樣要務ニテ旅行スルモノアル筈ナルカ之等ノモノニ對シテハ當館發給ノ身分證明書中ニ事由ヲ記入シ本人ニ携帶セシメ居ルニ付乘船其他ニ付便宜供與方御取計相成度尚着滬後直ニ就業地ニ赴ク關係上募集者抱主又ハ其ノ代理者等ニハ夫々斯業ニ必要ナル書類（左記雛形）ヲ交付シ豫メ書類ノ完備方指示シ置キタルモ整備ヲ缺クモノ多カルヘキヲ豫想サルルト共ニ着滬後煩雜ナル手續ヲ繰返スコトナキ樣致度ニ付一應携帶書類御査閲

ノ上御援助相煩度此段御依頼ス

前線陸軍慰安所営業者ニ對スル注意事項

前線陸軍慰安所ニ於テ稼業スル酌婦募集ニ赴キ同伴回渡セムトスルトキハ豫メ左記必要書類ヲ整ヘ着渡ト同時ニ當館ニ願出許可ヲ受クヘシ

若シ必要書類具備セサル場合ハ許可セサルト共ニ直ニ臨渡セシムルコトアルヘシ

記

一、本人寫眞二枚添付セル臨時酌婦營業許可願各人別ニ査通（様式第一號）

一、承諾書（様式第二號）

一、印鑑證明書

一、戸籍謄本

一、酌婦稼業者ニ對スル調査書（様式第三號）

昭和十二年十二月二十一日

在上海日本總領事館警察署

様式第一號

臨時酌婦營業許可願

本籍

現住所

營業場所

家號

藝名

本名

生年月日

右者今般都合ニ依リ前記場所ニ於テ臨時酌婦營業致度候條御許可相成度別紙承諾書、印鑑證明、戶籍謄本調査書並寫眞二枚相

規格 B. 5.

添抱主連署ノ上此段及奉願候也

昭和　年　月　日

右本ノ何某印

抱主　何某印

在上海

日本總領事館　御中

内務省

規格B五

（様式第二號）

承諾書

本籍

住所

稼業人

生年月日

右ノ者前線ニ於ケル貴殿指定ノ陸軍慰安所ニ於テ酌婦稼業（娼妓同様）ヲ爲スコトヲ承諾仕候也

昭和　年　月　日

右戸主又ハ親權者　何　某㊞

稼業人　何　某㊞

（様式第三號）

酌婦稼業者何某ニ對スル調査書（調査者）

前居住地及來　年月日

現住所

教育程度經歷

酌婦稼業ヲ爲スニ至リタル理由

刑罰ニ處セラレタル有否

兩親又ハ內緣ノ夫ノ有無其ノ職業

別借金額

參考事項

備考

以上

（大阪九條警察署長ヨリノ田邊署長宛問答）

拝啓　唐突ノ儀御赦シ被下度候

陳者此ノ度上海派遣軍慰安所従業酌婦募集方ニ關シ内務省ヨリ非公式ナガラ當府警察部長ヘ依頼ノ次第モ有之當府ニ於テハ相當便宜ヲ與ヘ既ニ第一回ハ本月三日渡航セシメタル次第ニテ目下貴管下ヘモ募集者出張中ノ趣ナルカ左記ノ者ハ當署管内居住者ニシテ身元不正者ニ非サル者關係者ヨリ願出候ニ就キ之カ事實ニ相違ナキ點ノミ小職ニ於テ證明畫致候間可然御取計願上候

敬具

記

[redacted]　金澤　[redacted]

内務省

規格B5

一月八日夜

大阪府九條警察署長

山崎石雄 印

和歌山縣

田邊警察署長 殿

内務省

規格 B. 5.

保發第四四號
昭和十三年二月十四日

茨城縣知事
（警察部長）

内務大臣　殿
陸軍大臣　殿
各廳府縣長官　殿
水戸聯隊區司令官　殿
水戸土浦憲兵分隊長　殿
縣下各警察署長　殿

上海派遣軍内陸軍慰安所ニ於ケル酌婦
募集ニ関スル件

神戸市
貸座敷營業　大内 [redacted]

右者商業ニ於テ貸座敷營業中ノ由ナルカ客月

警保局
13. 2. 18. 金
警 2285 号

十九日水戸市[redacted]料理店来新事伊藤[redacted]
[redacted]方ニ稼業中ノ酌婦ニシテ
本籍千葉縣[redacted]
(前借六四二円)
本籍山形縣[redacted]
(前借六九一円)
[redacted]大正三年十二月二十日生
[redacted]大正二年二月十四日生
ノ両名ヲ上海ニ於テ酌婦稼業セシムベク募集シ今日
神戸ニ向ケ出發シタル事実有之右募集ノ経緯ヲ調
査スルニ大内[redacted]ハ管下[redacted]ノ出生ニシテ約
三十年前神戸市ニ轉住シタル由現ニ其ノ遠縁ニ當ル江
幡[redacted]ナル者淡町ニ現住シ居リ然ルニ本年一月四日頃右
大内ヨリ江幡ニ對シ上海派遣軍ノ依頼アリタルカ故ニ酌婦
数名ヲ募集スルヲ以テ適當ナル者アレバ通知シ呉ルノ様来
信アリタルニ對シ江幡ハ今町
周施業　大川[redacted]
ニ對シ之カ斡施方ヲ依囑シタル結果其ノ後大川ト大内ト

記

二前記伊藤方幽婦ヲ募集シタルモノニアリ募集當時伊藤ニ對シ上海派遣軍ノ依嘱アリタルガ如ク吹聽シタル趣キナルガ本件果シテ軍ノ依嘱アリタルモノカ全ク不明ニシテ且ツ幽婦ノ稼業ヲ前記ノ醫業ノ目的トスルハ明カニシテ公序良俗ニ反スルガ如キ本件事案ヲ公々然ト吹聽募集スルガ如キハ皇軍ノ威信ヲ失墜スルノ甚タシキモノナリト認メ嚴重取締方所轄淺草警察署長ヘ指示致置候條此段及申(通)報候也

追而兵庫縣ニ於テハ相當取締ノ上結果何分ノ御回報相煩度

(縣下各警察署長ニ在リテハ嚴重取締セラルベシ)

寫(第二) 契約證

一 稼業年限

一 契約金

一 上海派遣軍内陸軍慰安所ニ於テ酌婦稼業ヲ為スコト

一 賞與金ハ揚高ノ一割トス(但シ半額ヲ貯蓄スルコト)

一 食費衣裳及消耗品ハ抱主ノ負擔トス

一 年限途中ニ於テ解約ノ場合ニハ元金殘額違約金及抱入當時ノ諸費用一切ヲ即時支拂ヒ申スベキコト

右契約條項確守履行仕ルヲ依而契約書如件

昭和 年 月 日

本籍地

現住所

稼本人

現住所

連帯者

金員借用證書

一金

右之金員拙者要用ニ付正ニ請取借用仕候事實正也然ル上ハ返濟方法ハ別紙契約書ニ基キ　妙婦稼業ヲ為シ御返濟申ス可ク萬一本人ニ於テ契約不履行ノ節ハ拙者等連帶者ニ於テ連カニ御返金仕ル可ク為後日借用證書依而如件

昭和　年　月　日

本籍地

現住所　借用人

現住所　連帶人

殿

（第三）

拝啓年内余日も無之無御繁忙の事と奉存候陳者今回軍部の御了解の元に中支方面に皇軍將士慰安を目的とする慰安所設立致す事と相成り左之條件を

以て約五百名の酌婦を募集致候に付何率大至急御手配煩し度御報知以第直ちに出張可仕候間御一報被下度奉願候

昭和十三年十二月三十八日　大内 [redacted]

條　殿件

一、契約年限　満二ヶ年

一、前借金　五百円ヨリ十円迄

但し前借金ノ内二割ヲ控除シ身付金及衆込費ニ充當ス

一、年令　満十六才ヨリ三十才迄

一、身体壮健ニシテ親權者ノ承諾ヲ要ス　但し養女籍ニ在ル者ハ實家永諾ナキモ差支ナシ

一、前借金返濟方法ハ年限定アト同時ニ消滅ス

即チ年期中仮令病氣休業スルトモ年期滿了ト同時前借金ハ完濟ス

一、利息ハ年期中ナシ途中廢業ノ場合ハ残金ニ對シ月壹歩

一、違約金ハ一ヶ年内前借金額ノ一割

一、年期途中廢業ノ場合ハ日割計算ノトス

一、年期滿了帰國ノ際ハ帰還旅費ハ抱主負擔トス

一、精算　稼高ノ一割ヲ本人所得トシ毎月支給ス

一、年期無事滿了ノ場合ハ本人稼高ニ應シ應分ノ慰勞金ヲ支給ス

⑦上海派遣軍内陸軍慰安所ニ於ケル酌婦募集ニ関スル件［宮城県知事］（昭13・2・15）

保第九八一號
昭和十三年二月十五日
宮城縣知事
（警察部長）

内務大臣末次信正殿
各廳府縣長官殿
管下各警察署長殿

上海派遣軍内陸軍慰安所ニ於ケル酌婦
募集ニ関スル件

首題ノ件ニ関シ客月十九日付保第二四二號ヲ
以テ群馬縣知事（貴官）ヨリ通報ニ接シ爾來

警保局
13. 2. 18 金
警 2284 号

内査中ノ處本月八日管下名取郡[redacted]
[redacted]周旋業者村上源之助兇福島縣平市[redacted]
[redacted]周旋業長谷川[redacted]ヨリ標記酌婦トシテ年
齢二十歳以上三十五歳迄ノ女子ノ前借金六百圓ニテ約三十
名位ノ周旋方ノ内容ノモノ郵便はがきヲ以テ依頼越タル
事實アリ尚本人ノ意嚮内査スルニ本人ハ更ニ意ニ介セス
一笑ニ附シ周旋ノ意思無之
追而本件ハ事實ニ關シテハ目下福島縣ニ照會中ニ
付申添候
(管下各署ニ於テハ本件事案ニ鑑ミ引續内査ヲ遂ケ
發見ノ場合ハ速ニ報告セラルヘシ)
右及申(通)報候也

⑧—1支那渡航婦女ノ取扱ニ関スル件［内務省警保局長通牒案］（昭13・2・18）

主管局號及受付月日	合議局號及受送日							
第號 受月日 送月日	第號 受月日 送月日	第號 受月日 送月日	第號 受月日 送月日	第號 受月日 送月日	第號 受月日 送月日	第號 受月日 送月日	第號 受月日 送月日	第號 受月日 送月日

大臣 内務省 警第 5 號 13 2. 22

警保局警察第 二號 昭和十三年二月十八日

案

文書課長 主任

警保局長

警務課長 事務官

外事課長 事務官

防犯課長 事務官

部外秘

廳府縣長官宛通牒案（除本案）

警保局長

支那渡航婦女ノ取扱ニ関スル件

第　號
受付月日
第　號
送付月日

最近支那各地ニ於ケル秩序ノ恢復ニ伴ヒ渡航者著シク増加シツツアルモ是等ノ中ニハ同地ニ於ケル料理店、飲食店、「カフエー」又ハ貸座敷類似ノ營業者ト聯繫ヲ有シ是等ノ營業ニ従事スルコトヲ目的トスル婦女寡ナカラサルモノ

アリ更ニ朝鮮内地ニ於テ是等婦女ノ募集周旋ヲ為
ス者ニシテ恰モ軍當局ノ諒解アルカノ如キ言辞
ヲ弄スル者モ最近各地ニ頻出サルヽヤノ状況
ニ在リ婦女ノ渡航ハ現地ニ於ケル實情ニ鑑ミ
ルトキハ益々必要已ムヲ得サルモノアリ警察當
局ニ於テモ特殊ノ考慮ヲ拂ヒ實情ニ即スル措

日本規格B5(182×257mm)

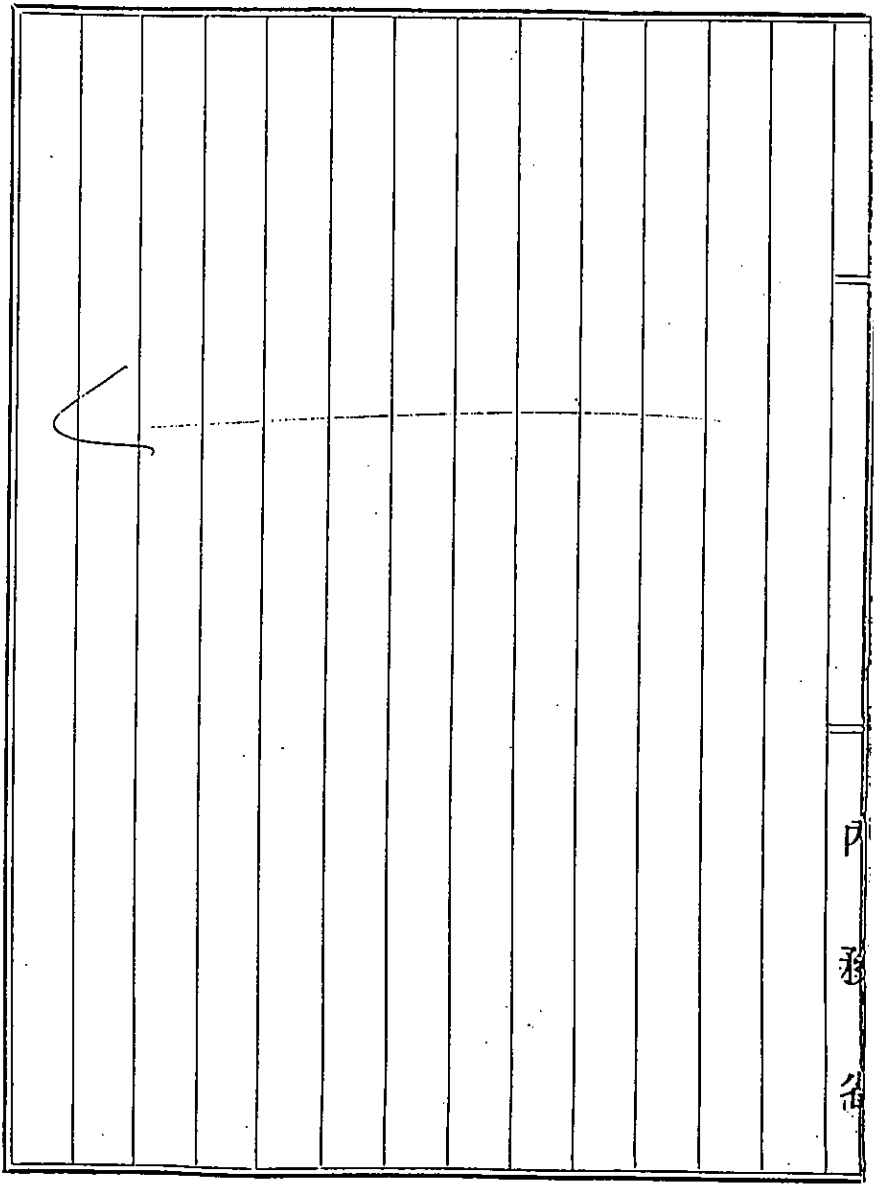
罷シ講ズんノ要アリト認メラルルモ是等婦女ノ
募集困旋等ノ可締ニシテ適正シ欠カンカ帝
國ノ威信シ毀ケ皇軍ノ名譽シ害フノミニ止マ
ラズ銃後國民特ニ出征兵士遺家族ニ好マシ
カラザル影響シ與フルト共ニ婦女賣買ニ
関スん國際條約ノ趣旨ニモ悖ルコト無ヰシ

保シ難キヲ以テ旁々現地ノ実情共ノ他各般
ノ事情ヲ考慮シ爾今之ガ可扱ニ関シテハ
左記各號ニ準據スルコトト致度依命此段
及通牒候

記

内務省

日本標準規格B5(182×257mm)


戶籍名

一、醜業ヲ目的トスル婦女ノ渡航ハ~~已ムヲ得ナル事~~

~~申アルトキ~~現在内地ニ於テ娼妓其ノ他事実上

醜業ヲ營ミ、満二十一歳以上且花柳病其ノ

他傳染性疾患ナキ者ニシテ北支、中支方面

ニ向フ者ニ限リ當分ノ間之ヲ默認スルコト

昭和十二年八月廿三日 機密合第三七七六號外第次官通牒ニ依ル

トシ身分證明書ヲ発給スルコト

内務省

日本製紙規格B5(182×257mm)

二、前項ノ身分證明書ヲ發給スルトキハ渡航ノ假
（稼業）
契約ノ期間滿了シ又ハ其ノ必要ナキニ至リタル
際ハ速ニ歸國スル樣懇メ諭旨スルコト

三、醜業ヲ目的トシテ渡航セントスル婦女ハ必ズ
本人自ラ警察署ニ出頭シ身分證明書ノ發
給ヲ申請スルコト

四 醜業ヲ目的トスル婦女ノ渡航ニ際シ身分證明書ノ發給ヲ申請スルトキハ必ズ同一ノ戸籍内ニ在ル最近親族、尊族親ナキトキハ戸主ノ承認ヲ得セシムルコトトシ若シ承認ヲ與フベキ者ナキトキハ其ノ事實ヲ明ナラシムルコト

五 醜業ヲ目的トスル婦女ノ渡航ニ際シ身分證

内務省

規格日本標準規格B5(182×257mm)

明書ヲ交給スルトキハ稼業契約其ノ他各般ノ
事項ヲ調査シ婦女売買又ハ略取誘拐等
ノ事実ナキ様特ニ留意スルコト
六、醜業ヲ目的トシテ渡航スル婦女其ノ他一般風
俗ニ関スル営業ニ従事スルコトヲ目的トシテ渡航
スル婦女ノ募集周旋等ニ際シテ軍ノ諒解又

ハ之ト連絡アルガ如キ言辞其ノ他軍ニ影響ヲ及ボスガ如キ言辞ヲ弄スル者ハ総テ厳重ニ之ヲ取締ルコト

七、前掲ノ目的ヲ以テ渡航スル婦女ノ募集周旋等ニ際シテ広告宣伝ヲナレ又ハ事実ヲ、虚偽若ハ誇大ニ傳フルガ如キハ総テ厳重之ヲ

標準規格B5(182×257mm)

取締ルコト又之ガ募集周旋等ニ従事スル者ニ付テハ厳重ナル調査ヲ行ヒ正規ノ許可又ハ在外公館等ノ発行スル證明書等ヲ有セズ身許ノ確実ナラザル者ニハ之ヲ認メザルコト

第二案

警保局長

[illegible]務省管理局長宛

陸軍省軍務局長宛

[illegible]務省條約局長宛

亞米利加局長宛

支那[illegible]航婦女ノ取扱ヽ関スル件

標記ノ件ヽ関シ別紙ノ通地方長官ニ通牒

致置候ニ在為参考申進候

（丟通）

[illegible]日本鋼筆規格B5(182×257mm)

内務省發警第五號
昭和十三年二月二十三日
内務省警保局長

殿

支那渡航婦女ノ取扱ニ関スル件

最近支那各地ニ於ケル秩序ノ恢復ニ伴ヒ渡航者著シク増加シツツアルモ是等ノ中ニハ同地ニ於ケル料理店、飲食店、「カフエー」又ハ貸座敷

類似ノ營業者ト聯繫ヲ有シ是等ノ營業ニ從
事スルコトヲ目的トスル婦女寡ナカラザルモノ
アリ更ニ亦内地ニ於テ是等婦女ノ募集周旋
ヲ為ス者ニシテ恰モ軍當局ノ諒解アルカノ
如キ言辭ヲ弄スル者モ最近各地ニ頻出シ
ツツアル狀況ニ在リ婦女ノ渡航ハ現地ニ於
ケル實情ニ鑑ミルトキハ蓋シ必要已ムヲ
得ザルモノアリ警察當局ニ於テモ特殊ノ考慮
ヲ拂ヒ實情ニ即スル措置ヲ講ズルノ要アリ
ト認メラルルモ是等婦女ノ募集周旋等ノ
取締ニシテ適正ヲ缺カンカ帝國ノ威信
ヲ毀ケ皇軍ノ名譽ヲ害フノミニ止マラズ

銃後國民特ニ出征兵士遺家族ニ好マシカラザル影響ヲ與フルト共ニ婦女賣買ニ關スル國際條約ノ趣旨ニモ悖ルコト無キヲ保シ難キヲ以テ旁ミ現地ノ実情其ノ他各般ノ事情ヲ考慮シ爾今之ガ取扱ニ關シテハ左記各號ニ準據スルコトト致度依命此段及通牒候

記

一、醜業ヲ目的トスル婦女ノ渡航ハ現在内地ニ於テ娼妓其ノ他事実上醜業ヲ營ミ、

満二十一歳以上且花柳病其ノ他傳染性疾患ナキ者ニシテ北支、中支方面ニ向フ者ニ限リ當分ノ間之ヲ黙認スルコトトシ昭和十二年八月米三機密合第三七七六號外務次官通牒ニ依ル身分證明書ヲ發給スルコト

二、前項ノ身分證明書ヲ發給スルトキハ稼業ノ假契約ノ期間滿了シ又ハ其ノ必要ナキニ至リタル際ハ速ニ歸國スル樣豫メ諭旨スルコト

三、醜業ヲ目的トシテ渡航セントスル婦女ハ必ズ本人自ラ警察署ニ出頭シ身分證明書ノ發給ヲ申請スルコト

四、醜業ヲ目的トスル婦女ノ渡航ニ際シ身分證明書ノ發給ヲ申請スルトキハ必ズ同一戸籍内ニ在ル最近尊族親、尊族親ナキトキハ戸主ノ承認ヲ得セシムルコトトシ若シ承認ヲ與フベキ者ナキトキハ其ノ事実ヲ明ナラシムルコト

五、醜業ヲ目的トスル婦女ノ渡航ニ際シ身分證明書ヲ發給スルトキハ稼業契約其ノ他各般ノ事項ヲ調査シ婦女賣買又ハ略取誘拐等ノ事実ナキ様特ニ留意スルコト

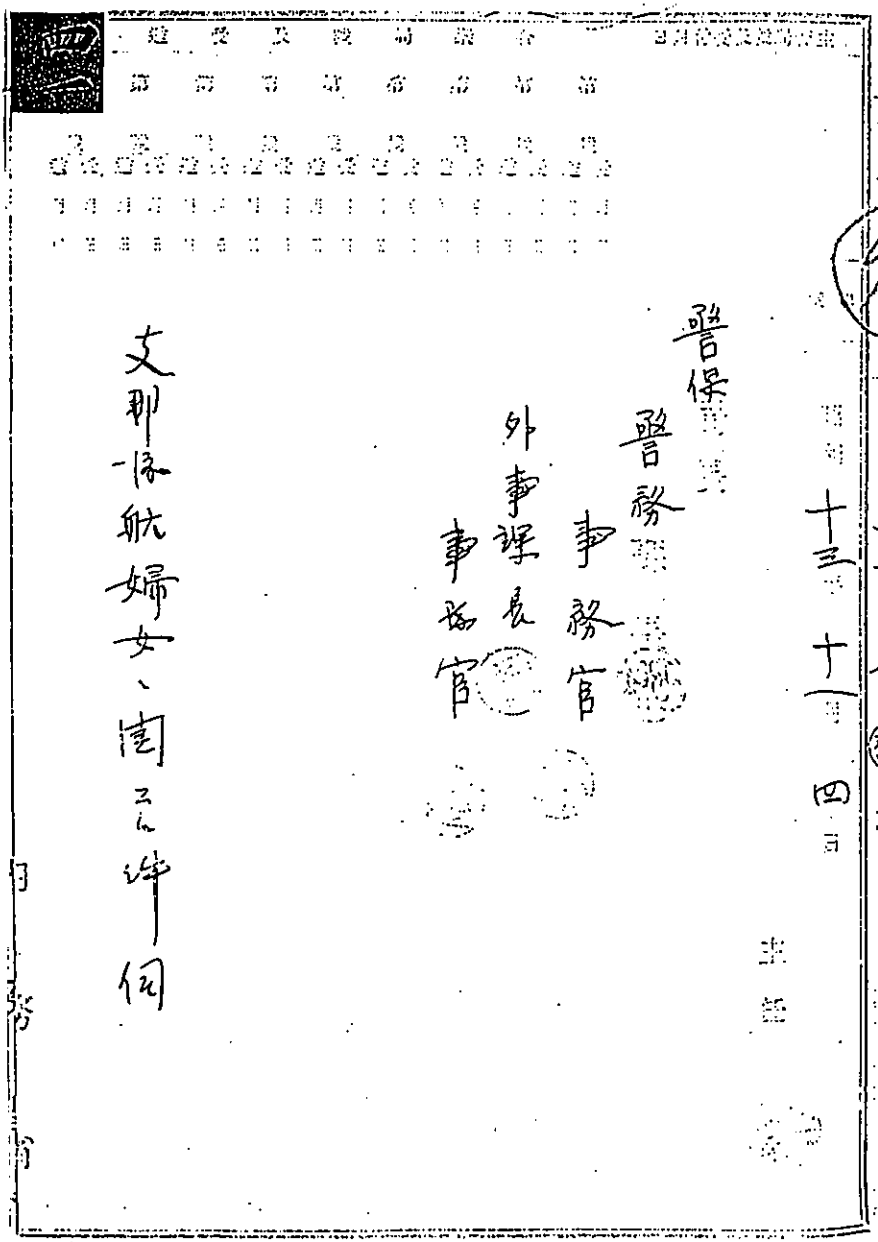
六、醜業ヲ目的トシテ渡航スル婦女其ノ他

一 風俗 関スル営業ニ従事スルコトヲ目的トシテ渡航スル婦女ノ募集周旋等ニ際シテ軍ノ諒解又ハ之ト連絡アルガ如キ言辞其ノ他軍ニ影響ヲ及ボスガ如キ言辞ヲ弄スル者ハ總テ嚴重ニ之ヲ取締ルコト

七、前號ノ目的ヲ以テ渡航スル婦女ノ募集周旋等ニ際シテ廣告宣傳ヲナシ又ハ事実ヲ虚偽若ハ誇大ニ傳フルガ如キハ總テ嚴重之ヲ取締ルコト又之ガ募集周旋等ニ従事スル者ニ付テハ嚴重ナル調査ヲ行ヒ正規ノ許可又ハ在外公館

等ノ發行スル證明書等ヲ有セズ身許ノ確実ナラザル者ニハ之ヲ認メザルコト

⑨—1 支那渡航婦女ニ関スル件伺 〔内務省警保局警務課長〕（昭13・11・4）



一丙 秘

施行 十一月八日

十三年十一月四日

警保

警務

事務官

外事課長

事務官

支那渡航婦女ヽ関スル件伺

本日南支派遣軍古莊部隊參謀陸軍
航空兵少佐久門有文及陸軍省徵募課
長ヲ南支派遣軍ノ慰安所設置ノ為必
要ニ付醜業ヲ目的トスル婦女約四百名
ヲ渡航セシムル様
~~陰渡付方~~ 砲意アリタレトノ申出アリタル
ニ付テハ、本年二月二十三日内務省發景第五號

通牒ノ趣旨ニ依リ之ヲ取扱フコトトシ、左記ヲ各地
方垂ニ（通牒ニ密示ニ）電池ニ通當ナル引平者（拾遺）ヲ選定
之ヲシテ（婦女ヲ）募集セシメ現地ニ向ハシムル様取計
相成可也哉

追ヲ既ニ台灣総督府ノ手ヲ通ジ同地ヨリ
約三百名（廣坑）遠者ノ手硯條ノ趣ニ有シ

内務省

内務省

訓

一、内地ニ於テ募集シ現地ニ向ハシムル硯業ヲ目的トスル婦女ニ約四百名程子、

トシ、大阪（一〇〇名）、京都（五〇名）、兵庫（一〇〇名）、福岡（一〇〇名）、山口（五〇名）ヲ割當テ終ニ於テ其ノ刀卒者（抱主）ヲ選定シテ之ヲ募集セシメ現地ニ向ハシムルト

二右川卒者（抱主）ハ現地ニ軍（於テ）慰安所ヲ経営
セシムルモノナルニ付特ニ（身評）確実ナル者ヲ選定スルコト
~~其ノ川卒者ハ速宜定ムル事~~
三、（右）後航婦女ノ輸送ハ（内地ヨリ台湾等雄マデ抱主ノ費用ヲ以テ（陰ニ）遠行シ同地ヨリ大体）
~~[illegible]~~
~~[illegible]~~
ヲ現地ニ向ハシムルモノトス。尚右ニ依リ難キ切

内務省

合ハ台湾高雄度東ニ等ニ定期仮船アルヲ以テ
之ニ依ル引率者同行スルモト
四、右ノ件ニ関スル連絡ニ付テハ陸軍者微幕ニ於テ
及参謀右ノ部第一部第二部ニ於テ今岡少佐ハ去田大尉
之ニ當ル尚理地ハ軍司令部峯木少佐之ニ當ル。
五、以上ノ外尚之等婦女ヲ必要トスル故各ハ
必ズ古莊部隊右部又ハ宋特務部ニ於

テ南支派遣軍ニ対スルモノハ全部ヲ統
一シ引率許可證ヲ交付スル様ニ扱フ
コトトス（兵門参謀帰国ノ上直ニ各部隊
ニ対シコノ旨承達ス）
右本件ニ付テハ内務省及地方庶ハ之ガ婦女ノ募集及出港ニ関シ伍宜ニ
借与スルニ止メ、契約内容及現地ニ於ケル婦女ノ保護ハ軍ニ於テ充分注意ス
ル事、以上ニ依リ且本年二月平ニ当ル通牒ヲ参考シ
右件ニ付婦女ニ対シテハ左記ニ依リ各地方庶ニ
於テ取扱ハシムルコト

内務省

内務省

(イ) 引卒者(抱主)、現地ニ於テハ責任アル経営者(抱主又ハ家理者)ヲ必要トスルニ付、~~其~~醜業ヲ目的トシテ怪航スル婦女ノ引卒者ノ身元ハ特ニ確実~~ナル者ヲ指定~~且相当数ノ醜業婦女ヲ引卒シ現地ニ到リ家庭安所ヲ経営シ得ルモノヲ選定スルコト

ヲ南文派遣軍ニ対スルモノ全部ヲ統一
シ引卒許可證ヲ交付スル様取扱フコト
トス（久門参謀帰軍ノ上直ニ各部隊
ニ対シコノ旨示達ス）
六、右件候航ニ付テハ内務省及地方廳ハ之ガ
婦女ノ募集及出帯ニ関シ便宜ヲ供與ス

内務省

ルニ止メ、契約内容及現地ニ於ケル婦女ノ保
護ハ軍ニ於テ充分注意ス
七、以上ニ依リ且本年二月二十三日晝保ヨリ通
牒ノ考慮シ本件ニ就ケル婦女ニ対シテハ左
記ノ如ク前記各対象ニ通牒シ之ヲ取扱ハ
シムルコト（不取敢電話シ更ニ書面ヲ発送スルコト）

⑨—2 南支方面渡航婦女ノ取扱ニ関スル件［内務省警保局長］（昭13・11・8）

通牒案

警保局長

警保局警發甲第一三六號 十一月八日 北京

大阪、東京、兵庫、各府縣知事

羽田、山口

南支方面渡航婦女ノ取扱ニ関スル件

支那渡航婦女ノ関シテハ本年二月二十三日内務省警第五號通牒ノ次第モ有之候處南支方面ニ於テモ之等魂

内務省

11九号二三号、予定数今日渡航

提格 B 5

業ヲ目的トスル特殊婦女ヲ必要トスル模様
ナルモ未ダ其ノ慣能ナシ現地号ノ希望ノ次
第モ有ミ事情已ムヲ得ザル中ニ限ヲラルル
ニ付テハ右件極秘ニ左記ニ依ル之ヲ取
扱フコトト致シ之ニ付特ニ右件御配意
ヲ及ブ事

内務省

記

一、抱主タル引卒者ノ選定及取扱

(イ) 貸主ハ引卒者(抱主)ハ業者等ノ中ヨリ身許確実

ニシテ南支方面ニ於テ軍慰安所ヲ

経営セシムルモ支障ナシト認ムル者ヲ抱主

タル引卒者トシテ選定シ、之ニ対シ南支方

面ニ於テ軍慰安所ノ設置ヲ許サルル

内務省

内務省

申樸様二付若シ其ノ該至経営ノ希望アル於テハ便宜関係方面ニ推薦スル旨ヲ懇談シ何更迄モ経営者ノ自発的希望ニ基ク様取運ビ之ヲ選定スルコト

(中)一経営者ノ中ニハ婦女ノ数ハ十名

(口)醜業ヲ目的トシテ南支方面ヘ侵航ヲ退
ムル婦女数ハ約四百名トス、之ヲ大阪社
約百名、東部社約五十名、兵庫約百名、
福岡約百名及山口約五十名ヲ割當
スレタルニ付テハ之ヲ引率スル為遂當ナル
者ヲ前項ニ依リ選定シ其ノ引率者(撰主)

ニ限リ陰ニ行フ右婦女ノ産入レヲ認メ
其ノ接舵ハ以下各項ニ依リ取扱フコト、
但シ接舵ニ比婦女ノ出府ハ右指定府
及以外ニテモ更ニ支ナキコト
(11) 一引率者(指定)ノ引率スル婦女ノ数
ハ十名乃至三十名程度トナスコト

[illegible]

(三) 前三項ニ依リ慰安所経営ヲ希望スル者アルトキハ直ニ其ノ引手者ニ経営者ノ住所氏名、住所及引手予定婦女数ヲ密ニ電張等ニ依リ内務省ニ通知スルコト

(四) 前項報告ニ基キ軍部ノ證明書ヲ送付スルニ

内務省

付之ニ依リ右砲撃ヲ目的トシテ航スル
婦女ヲ密ニ募集スルヲ
前項航船婦女ノ内地ニ帰ノ切合ハ其ノ
川平者氏名、航船婦女ノ数、内地ニ帰地名
予定月日及台湾京雄到着予定月日ヲ
内務省ニ通知スルヲ（此ノ通知ニ依リ台湾ヲ以テ伍船
ヲ手配ス）

二、ほ航婦女

(イ) 廻業ヲ目的トスル ほ航婦女ハ現在内地ニ於テ娼妓其ノ他事実上廻業ヲ営ミ居ル者ニシテ満二十一才以上且身体強壮ナルモノ

(ロ) 前項ノ外、右年二月二十三日警保ヲ通

牒ニ依リ再数フコト

(ハ) 礎業ヲ目的トスル特殊婦女ニ対スル身分

(ハ) 證明書ハ各給前健康診斷書ヲ提出

女ニ(ムルカ)又ハ健康診斷ヲ行フ等健康ナルコト

ヲ認メタル上之ヲ交付スルコト

三、引率者(提出)トノ契約

(イ) 引卒者(指主)ト係船婦女トノ締結ニハ

前借契約ニ可成短期ノ事トシ前借金ハ

可成小額ナラシムルコト

(ロ) 其ノ他稼業ニ関スル切ノ事項ハ現地

軍當局ノ指示ニ従フコト

四、募集

醜業ヲ目的トスル怪船婦女ノ募集ハ営業許可ヲ受ケタル周旋人ヲシテ陰ニ之ヲ為サシメ、其ノ希望婦女子ニ対シテハ必ズ現地ニ於テハ醜行ニ従事スルモノナルコトヲ説明セシムルコト、尚周旋料等ハ引率者（[illegible]）ニ於テ負担セシムルコト

五、予防注射、健康診断事

(イ) 傳染病ノ予防注射ハ現地ニ於テ軍之ヲ行フ。

(ロ) 健康診断ハ随時軍医ニ於テ之ヲ実施

又

(ハ) 治療ニ要スル薬品ハ軍事ニ之ヲ支給スル事

(ハ) 治療ニ要スル薬品ハ我邦ニ経過者ニ支拒ハ之ヲ但シ必要地ノ状況ニ依リ其事ニ補充困難トスル向ニ対シテハ當分ノ間

六、慰安所從業切不、言葉

(イ) 慰安所從業ノ切不及建物ニ軍ニ於テ之

(ロ) 其ノ他軍ニ於テ指揮監督スルモノトス

第二集

警保局警發甲第一三六號ノ二

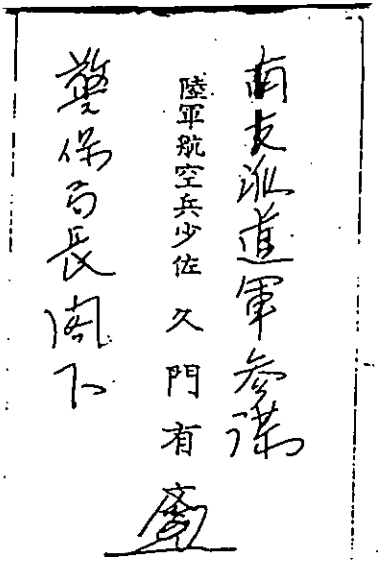
内務警保局長

[illegible]

南支方面ニ於ケル婦女ノ所在ニ関スル件

今般已ムヲ得ズ南支方面ヘ醜業ヲ目的トスル婦女約四百名ノ候航ヲ認ムルコトト相成之ヲ引率（[illegible]）スル者ヲ大阪、京都、兵庫、

福岡及山口ノ各府名下ヲ選定シ之ガ婦女ヲ
募集スル為別紙ノ通右府名ニ通牒ノ置候
ニ付ニハ或ハ貴等下ヲモ右接航ニ参加スル
婦女アリト思料スルニ付予メ御含置相成
為念
申進候



南支派遣軍參謀

陸軍航空兵少佐 久門有

[illegible]

[illegible]保司長閣下

⑩醜業婦渡支ニ関スル経緯［内務省］（不明）

内務省

醜業婦渡支ニ関スル経緯

一、十二月二十六日内務省興務保長ヨリ
兵庫縣興察部長宛「上海徳久
[redacted]、神戸市中野[redacted]ノ両名ハ
上海總領事館興察署長ノ証明
書及山下内務大臣秘書官ノ紹
介名刺ノ持参シ出頭スル筈ニ付、

事情聽取ノ上何分ノ便宜ヲ御取計
相成度ト云ヘ電報アリ
一、同月三十七日右ニ名出張セルガ同務大
臣秘書役ノ名刺ヲ提出シ德久ニ自
身ノ名刺ヲ提出セス且自分ヲシテ明ニセズ
中野ニ那ニ市場ヲ所四五八中越見ル
右名刺ヲ出シ先ガ同人ノ職業ニ貸座敷

内務省

業務ナリ。

(3)國人ノ申立ニ依レバ大阪税務ノ神中佐ト永田大尉トガ引率シ

ソウト称シ器少尉ガ名ノ鬼業ノ

ノ夢ガ事ヒントウモナルガ(5)道業ノ

許サナク且年未年始ノ休暇中

ナルガ拒ゲテ強支ノ手続ノセラレ度キ旨

申遣り

一、呂宋ゟ北ニ一般渡支者ト同様自分

所明者ヲ即粮略容器ヲ蒙給ル

ヲトヽロリ

一、祁尼ヲ乗船渡支シ候ヲ一年モ

隆路長崎ニ赴キ候ヲ一ヲ名住ル

見込ミ

内務省

一 一月八日 御左衛門 脇的 船丹 塩丸 ニテ
[illegible]
家署ニ於テ自分 [illegible]
[illegible]
一 開墾業ノ為業 [illegible]
[illegible]

内務省

外務省関係公表資料

①支那渡航者ニ対スル身分証明書発給ニ関スル件［福岡県知事］（昭12・12・15）

第三課

昭和十二年十二月拾五日拾受

外旅秘第七九號

昭和十二年十二月十五日

福岡縣知事　赤松小寅

内務大臣　末次信正殿

外務大臣　廣田弘毅殿

各廳府縣長官殿

支那渡航者ニ対スル身分證明書

発給ニ関スル件

支那渡航取扱手続施行以来十一月不日
追ノ間管下於身分證明書發給セルモノ
左記ノ通ニ有之
右及申（通）報候也

記

発給月日及発給署	行先地	渡航理由	期間	本籍住所	職業氏名年令
九月四日 福岡	上海	今快事変ニ依リ父母ノ消息不明トナリタル為調査ノタメ	一ヶ月間	東京市牛込区市ヶ谷薬王寺町四四 福岡市鳥飼四丁目三四四 芳賀方	楽師 岩井貞雄 大正六年八月廿九日生
九月六日 〃	上海	事変ノタメ一時引揚中ノ処取渡スルモノ	永住	福岡縣久留米市通リ町二七五 福岡市住吉下宮崎町九四五	フィニックス保険会社員 平田近治 明治四十年七月廿日生
〃 〃	上海	上海駐在海軍陸戦隊本部ノ下命ニ依リ物来然人ノタメ	自九月之日至九月十日	山口縣防府町中之関南蛮樋 福岡市住吉木ノ下町八四。	キリン麦酒株式会社員 西村義則 明治三十年三月十日生

［中略］

十一月十五日 八幡	天津	日本製鉄株式会社ノ派遣ヨリ北支資源調査ノ為	一ヶ年	長野県下伊那郡赤穂村大字赤穂二八三 八幡市竹下所六丁目八三九	日鉄書記	四藤
〃 十二日	石家荘	野戦兵備廠夜間警備中ノ実包北行三発ノ指弾ニ依ル	二ヶ年	八幡市大字枝光明十町四三。	工員	庵
十二月十七日 〃	天津	天北村三発ノ指弾ニ依リ死亡ス	三週間	八幡市大字枝光明十町四三。	北村	〃
十二月廿四日 〃	河北省井陘炭鉱	豊宇公司経営井陘炭鉱社員ニ依リ殺害サレ	永住	福岡県京都郡苅田町中五七八幡市五所五十日三三一三頭家二六	吳服商	古賀
十二月廿六日 〃	上海	上海黄口路自動車夜間運転手ニ依リ射殺サレタルモノニシテ	一ヶ年	八幡市大字嘉喜門一三一 八幡市大字尾倉二三五	鉱業	大愛
十二月廿九日 〃	河北省井陘炭鉱	豊宇公司ノ派遣ニヨリ北支資源調査ノ為	三ヶ月	八幡市大字枝光一丁目 八幡市清田所五十日	鉱業	女部
十二月廿九日 〃	上海	上海黄口路自動車夜間運転手ニ依リ射殺サレタルモノニシテ	一ヶ年	八幡市大字枝光明十町四三。	北村	〃
十二月三十日 〃	上海	阿修羅治ノ時ニ依ル上海北四川路海軍陸戦隊ノ射撃ニヨリ	一ヶ年	八幡市大字枝光明十町四三。	北村	〃
〃 〃	〃	〃	一年六ヶ月	八幡市大字嘉喜門一三一 八幡市大字尾倉二三五	鉱業	女部
十月十九日	天津	塘沽ニテ溝作病気	自十月九日 三十三日	直方市大字直方五七八	三菱	藤

［以下略］

②—1 済南其他膠済鉄道沿線渡航者取扱方ニ関スル件［大分県知事］（昭13・4・25）

亜米利加局

第三課

昭和十三年五月[illegible]日 接受

特旅第八二號

昭和十三年四月二十五日

大分縣知事 粟屋仙[illegible]

外務省亜米利加局長殿

済南其他膠済鉄道沿線渡航者取扱方ニ関スル件

済南其他膠済沿線渡航者ニ関シテハ本年二月八日付米三機密合第五八。號貴信ノ趣旨ニ依リ取締中ナルガ右ニヨレバ仝方面ヘノ初渡航者ニ対シテハ所轄警察署長ヨリ身分証明書ヲ下付スル可カラザルモノト解セラレ候處最近済南在留者ニシテ仝地總領事ヨリ酌婦雇傭ノ為皈國ス

ル旨ノ証明書ノ下付ヲ受ケ當地方ニ於テ酌婦ヲ募集シ管下所轄警察署ニ対シ身分証明書下付方出願セル事例有之右ハ特ニ總領事ノ証明書ヲ有スルヲ以テ身分証明書下付相成差支無キヤ尚今方面皇軍慰安所ノ酌婦等募集ヲナス旨ノ在支公館又ハ軍部ノ証明書ヲ有スル者ノ募集セル酌婦等ニ対シテハ身分証明書下付相成差支無キヤ疑義有之何分ノ御指示相得度

右及稟伺候也

（了）

②—2 済南其他膠済鉄道沿線渡航者取扱方ニ関スル件—回答［外務省亜米利加局長］（昭13・5・4）

文書課長 [illegible]

文書課發送 昭和拾參年五月 四日發送濟

淨書 [illegible]

校正（原稿）[illegible]（淨書）

主管 亞米利加局長 [illegible]

主任 第三課長 [illegible]

昭和十三年 五月 [illegible] 日起草

米三 機密 第六二二號

昭和拾參年五月四日

昭和 年 月 日附

附屬

受信人名 [illegible] 西来屋大分商行事

發信人名 吉澤亜米利加局長

記錄件名

件名 済南其他膠済鉄道沿線渡航者取扱方ニ関スル件

本件ニ関シ客月二十五日附特旅第八二号ヲ以テ御申越ノ趣了承右ニ信記載ノ事例ハ

前段及後段ノ如ノ共ニ本年二月二十三日附内務

公信案

外務省

(12.7 4)

者發警即五年以後者警保為長發支那
派航婦女ノ所數ニ関元依命適牒ニ依リ酒
那投機派支支障ナキ者ナル限リ手分設
明書ヲ發給セラレ差支無之比假回答申
進又

③「漢口攻略後邦人進出ニ対スル応急處理要綱」送付ノ件［在上海総領事代理］（昭13・9・28）

機密第三一〇七號

昭和十三年九月二十八日

在上海
總領事代理　後藤鎰尾

外務大臣　宇垣一成殿

「漢口攻略後邦人進出ニ對スル應急處理要綱」
送付ノ件

漢口攻略後ニ於ケル邦人進出ニ關シ九月十四日連絡會議ニ於テ決定セル（現地領事館ト十分連絡方念ヲ押シ置キタリ）應急處理要綱第中參考迄別紙ノ通送付ス、尚寫一部花輪總領事ニ交付シ置キタリ

外務省

昭和十三年九月十四日
連絡会議決定

漢口攻略後邦人進出ニ對スル應急處理要綱連絡會議決定

方針

漢口ニ進出セントスル邦人ニ對シテハ軍ノ充足ト復興ノ促進ヲ主眼トシ差當リ所要ノ統制ヲ加フ

要領

一、漢口居留民ノ復歸ハ優先的ニ之ヲ認ム、特ニ軍隊又ハ軍人、軍屬ヲ對象トスル商業從事者、飲食店業者、旅館業者、並ニ民團役員運輸業者等ヲ優先スルモノトス

二、居留民中ノ有力者數名ハ特務部ノ進出ニ當リ之ニ隨行ヲ許可シ漢口ノ復興、物資ノ供給、復歸居留民ノ指導等ニ關シ特務部ヲ輔佐セシム

三、居留民以外ノ進出ハ復歸希望居留民ノ輸送ニ餘裕ヲ生ジタル後ニ

外務省

(日本標準規格B5)

於テ進出後速カニ營業ヲ開始シ得ルモノヨリ優先的ニ之ヲ認ム、

但軍隊慰安所開設ノ爲進出スルモノハ此ノ限ニアラス

四 一般旅行者ハ漢口ニ於ケル宿營設備整備セラレ輸送力ニ餘裕アル場合ノ外差當リ之ヲ認メサルモノトス、但調査、其他ノ爲緊急ノ必要アルモノニ對シテハ此ノ限リニアラス

五 漢口攻略後進出セシムヘキ邦人輸送用船舶ハ日滿汽船ヲシテ豫メ準備セシメ置クモノトス

六 第一便船ニテ進出スルモノニ對シテハ商品以外ニ自家用食料トシテ概ネ一ケ月分ヲ携行セシムルモノトス

七 公共施設復舊用資財及缺乏物資ノ輸送ニ對シテハ特ニ考慮ヲ拂フモノトス

備考

漢口方面ニ對スル通行許可證ハ軍事上ノ必要ニ基キ軍隊ニ於テ發行交付スルモノ以外ハ陸海軍特務部ニ於テ發給スルモノトス

事務書

(日本標準規格B5)

電信寫

昭和14　三一七〇　略　漢口　二月三日後發
本省　三日後着

有田外務大臣　花輪總領事

第六八號

當地在留本邦人ハ一月末現在人口二二八九外ニ武昌約七〇〇人（右ハ屆出數ニシテ未登錄者相當アル見込）ニシテ是等ノ中ニハ臨時渡漢的ニ當地ヘ進出シ軍人相手ノ營業ヲ營ミ一儲セント企圖シ居ル向モ鮮カラス目下飲食店二一四軒、「カフエー」一九軒、喫茶店一七軒、料理屋八軒、雜貨商二二〇軒外ニ軍屬安所二〇軒（右ハ兵站慰兵除、當館カ許可シタル軒數ニシテ未開業ノモノモアリ）今後ニ於テモ便船毎ニ激增ノ傾向ニ在ルモ其ノ質ハ必スシモ優良トハ言ヒ

亞米利加 14.2.4 第三課

速ク擧ロ前記營業ノ如キハ既ニ飽和狀態ニ在リ

今後營者ノ增加ニ依リ共倒レニ至ルノ懸念モアリ殊ニ邦人使用家ハ最近支那人ノ復歸、復業ノ進展ニ伴ヒ借入難ノ狀態ニ在ルヲ以テ當地ヘ新規渡航セントスル向ニ對シテハ是等當地ノ實情ヲ充分認識セシメ苟モ資金、技術ヲ有セサル不堅實ナル分子カ漠然ト當地方ノ空景氣ニ憧レテ漫然渡航スルカ如キコトナキ樣指導致度ク右周知方然ルヘク御手配請フ

北京、天津、青島、濟南、上海、南京、九江、漢口ヘ轉電セリ

④—2 漢口ヘノ渡航者取締ニ関スル件［外務省亜米利加局長］（昭14・2・7）

文書課長

文書課發送 昭和拾四年貳月八日發送濟

淨書

校正（原稿）（淨書）

主管 亞米利加局長

主任 第三課長

昭和十四年二月四日起草

米三 機密 普通 合第 六〇五 號

昭和拾四年貳月七日 日附

附局

受信人名 警視總監 関東州廳長官 各地方長官

發信人名 吉澤局長

記錄件名

件名 漢口ヘノ渡航者取締ニ関スル件

本件ニ関シ客年十二月十六日附米三機密合

第五八〇二號往信ヲ以テ申進置タル處今

般在漢口花輪總領事ヨリ何地ニ於テ一月末現在邦

外務省

乙			
丙			
丁			
考			

想案

第一課長

第二課長

人 在留数ハ二二八九 ニ千八百余名 外ニ武昌ヨリ約七百余名
有之 飲食店二百十四軒、「カフエー」一九軒 喫茶
店一七軒、料理屋八軒及雑貨商二百二十軒
外ニ軍慰安所二十軒ノ多数ニ上リ今
後モ便船毎ニ激増ノ傾向ニ在ルモ其ノ
質ハ必シモ優良トハ言ヒ難ク 小部分ハ臨
時腰掛的ニ進出シ軍人相手ノ芸
業ヲ営シ一儲セントスルノ輩ナリ 如斯状

熊ニ於テ前記ノ如キ雅歎ノ事業者ハ
既ニ飽和状態ニ在リテ今後同業者ノ諸
加ハ共倒レニ至ルノ懸念存スルノミナラス
和人使用家屋ハ最近支那人ノ復歸、
復業ノ進展ニ伴ヒ借入困難ノ状態
ナリ就テ（ルヲ以テ）向後苟モ資金、技術ヲ有
ヒサル不足算ナル分子ヲ以テ（日本方ノ空虚氣ニ憧レテ）臨時腰掛的ニ
漠然ト協航スルカ如キハ之ヲ嚴重取締ルキト

必要ナルニ付テハ漫口ヘノ新規ニ航ニ対
シテハ右ノ意情ヲ充分深識セシメ事ト漫然ニ
航スルカ如キコトナキ探指導致度趣申越ノ
次第有之ヲ付要相右ノ事ヲ少々ノ上
大方向地
新後航者ニ周知（一般ニ普通ナ方ニ）
ヲ取ル事相成度
此新申進又

⑤—1 漢口陸軍天野部隊慰安所婦女渡支ノ件［外務大臣］（昭14・12・22）

電信課長

電信課發電係

主管 亞米利加局長

主任 第三課長

昭和十四年十二月二十二日起草

電送第 34890 號

昭和14.12.23 日 時 分

宛 在漢口 花輪總領事

件 漢口陸軍天野部隊 慰安所婦女渡支ノ件

第 三二三 號 アマヤ

記錄件名

發 野村大臣

在漢口香川縣天野部隊ニ於テハ軍慰安所開設ノタメ婦女五十名ヲ募集ヲ啓ル趣ヲ以テ右引率

（分類 ）

電信案

外務省

（原議用紙乙）

渡支許可方同縣ニ願出タル者アリ同縣軍側ヨリ
モ之カ斡旋方申入アリタルニ付事情已ムヲ得ズト
認メ内諾ヲ与ヘ置タル旨内務省ヨリ通報越シ
タル處右ハ貴館ト諒解[illegible]ナリヤ一行
ハ年内ニ出發スヘキ手筈ナルニ付貴見[illegible]
折返シ回電アリタシ

電信案

外務省

⑤-2 漢口陸軍天野部隊慰安所婦女渡支ノ件—回答〔在漢口総領事〕（昭14・12・27）

電信寫

祕

本省　二十七日後着

野村外務大臣　花輪總領事

第七三四號

貴電第三二三號ニ關シ（漢口陸軍天野部隊慰安所婦女渡支ノ件）

當地軍司令部ニ連絡シタル處慰安婦ノ内地ヨリノ招致ハ許可制ヲ取リ居リ今回天野部隊ノ慰安婦招致ニ關シテハ軍ニ對シ正式手續ヲ踏ミ居ラサルモ既ニ同部隊ニ於テ招致手筈ヲ爲シタル事實ニ鑑ミ之ヲ追認スル趣？ナルニ付右ニ御了知相成度ク尚本件ニ關シテハ事前ニ當館ニ何等連絡無ク尚軍意嚮トシテハ招致慰安婦ノ稼業ニ付テハ當館監督下ニ於テ就業セシメラレ度キ旨申出アリタルニ依リ來漢ノ上ハ當館ニ出頭方引率者ヘ傳達方御取計相煩度シ（了）

邦人渡支一時的制限に關する外務省發表

（昭和十五年五月七日午後五時）

從來支那に渡航する者は、其の素行、經歷等に徹し、不都合の廉のない者に限り、居住地所轄警察署長から、身分證明書の發給を受け得ることとなつて居たが、現在新支那建設の大業に邁進し居る現地としては、之に必要なる邦人の進出は要望し居る次第であるが、右に關係薄き不要不急の旅行者の如きは、此の際極力渡支を差控ふる樣希望して居る現狀なるに鑑み、今般、當分の間新支那建設に直接且積極的に協力し得る者の外、一般觀察旅行者の渡支は、之を差止むることとし、又其他の理由に基く者であつても、緊急已むを得ない者の外は、努めて之を制限し、以て現地の事情に適應する樣措置することに、本日閣議決定を見、五月二十日から實施せらるることとなつた。

右閣議決定の趣旨に基き、今後警察署長の渡支身分證明書の發給を受け得る者は、大體

(一)慰問を目的とする場合は、豫め陸海軍省の承認を得たるもの

(二)家事用務、現實の商取引、定住又は現地商社勤務を目的とする場合には在支關係先所轄領事館警察署の證印ある文書を有するものに限られることとなつた。尤も家事用務の爲緊急已むを得ない事情ある者は特に居住地所轄警察署長に事情を具申し、特別の取計を依頼することが出來ることになつてゐる。

今や支那に於ては、新國民政府の樹立を見、東亞新秩序の建設に一段階を劃した情勢に在り、同政府に積極的支援を與へて居る我國として、事變處理を促進させる爲には、今回の措置は機宜に適したもので、官廳關係の公用旅行者も、斯の心構であることは固よりであり現地の事態が許すに至る迄暫くの間、此の措置の徹底的實施に就き國民一般の協力を期待するものである。

⑥—2 渡支邦人暫定處理取扱方針中領事館警察署ノ證明書発給範囲ニ關スル件【警務部第三課】（昭15）

渡支邦人暫定處理取扱方針中領事館
警察署ノ證明書發給範圍ニ關スル件

警務部第三課

昭和十五年五月八日附米三機密合第五一一號大臣訓達ノ渡支事由
證明書發給ニ當リテハ同日附米三機密合第二一一九號次官通牒内
地其ノ他各官廳宛公文別紙甲號取扱方針並同乙號許可要領ニ基キ
處理スヘキモノナル處實際取扱ニ當リテハ種々疑問ヲ生シタルノ
ミナラス發給官ノ裁量如何ニ依ツテハ伸縮自在ノ融通性ヲ有シ各
館ノ取扱區々ニ亘ル虞アリ依テ左記ニ基キ範圍ヲ限定セムトス

記

一、取扱方針（以下方針ト稱ス）第二號ノ家事要務ハ許可要領（
以下要領ト稱ス）ニ定メラレタル範圍ノモノニ付近親者タル
コトヲ證スヘキ書類（例ヘハ戸籍謄本又ハ來往書信等）ヲ徴シ
眞ニ渡支ヲ必要トスル事由アリト認メタル場合ニ限リ證明ス

[中略]

實ニ該商社ニ勤務スルモノナルコト確實ト認メラレタル場合ニ限リ證明スルコト、必要ニ應シ雇主ノ署名ヲ徴スルコト

(3) 永住ヲ目的トスル家族ヲ呼寄ハ戸籍謄本又ハ內縁關係ヲ證スヘキ書類ヲ提出セシメ內縁關係ハ調査ノ上證明スルコト

備考

一、軍屬又ハ軍屬傭員ハ軍ニ於テ證明書ヲ發給スルニ付領事トシテハ關與スル限リニ在ラサルモ本件制限ノ適用ヲ免ルル目的ヲ以テ軍屬傭員ノ名ヲ利用シタル疑アリタルトキハ之ヲ摘發スルコト

二、特殊婦女（藝妓、酌婦、女給、軍慰安所屬傭員其ノ他）ハ原則トシテ證明書ヲ發給セサルコト但シ五月二十日ノ屬傭者數ヲ基準トシ其ノ後生シタル缺員補充ノ爲呼寄ヲ要スル場合ニ限リ廢業者又ハ退去者ヲ申告セシメ廢業屆、退去屆ト對照シタル上特ニ證明スルコトヲ得

[以下略]

「渡支邦人暫定處理ノ件」打合事項

内務省關係

一、問　演藝人ノ興行ノタメノ渡支ハ如何ニ取扱フヤ

答　「商取引ノタメ一時渡支セントスル者」トシテ在支關係興行主等ノ所轄領事館警察署ノ證印アル文書ヲ取付シムルコトトス

二、問　支那在住者ノ子女ニシテ本邦ニ遊學中ノ者カ暑中休暇等ニ兩親ノ許ニ歸還セントスル場合又ハ支那在住者ノ家族ニシテ內地ニ在ル者カ夫又ハ親ノ許ヲ一時訪問セントスル場合ヲ如何ニ取扱フヤ

答　「家事用務上眞ニ已ムヲ得サルモノ」トシテ取扱方針第二項ニ依リ取扱フコトトス

問　內緣關係ニ在ル者ノ呼寄ヲ如何ニ取扱フヤ

答　內緣關係ニ在ル者ニシテ事實上ノ配偶者ト認メラルル者ニ對シテハ呼寄ヲ認メ差支ナシ但シ右ノ如キ內緣關係ニ在リヤ否ヤハ本邦警察當局ノ調査ニ俟ツコトトス

（B5）

四問　支那在住者ニシテ婚姻ノタメ一時歸國ノ上再渡支セントスル場合ニ婚姻ノ相手方特定セサルトキハ本人ノ身分證明書ニ「婚姻ノタメ歸國スル」旨記載シアラハ之ニ依リ配偶者ハ渡支事由證明書ヲ要セスシテ渡支シ得ル樣取計レ度シ

五問　領事館ナキ地ノ軍ヨリ特殊婦女ヲ呼寄セントスル場合ハ如何ニスルヤ

答　當該軍ノ證明書ニ依リ最寄領事館ノ證明書（渡支事由證明書又ハ身分證明書）ヲ受クルコトトス

六問　渡支事由證明書ヲ所持スル者ニ對シテハ本邦警察署ニテ更メテ身許調査ヲ行フコトナク身分證明書ヲ發給シ居ル趣ノ處渡支者ニ對スル身許調査ハ從來通實施セラルル樣取計レタシ

外務省

七、新規渡支者ノ取締ニ關聯シ在支者ノ再渡支ヲ必要ニ應シ取締ルタメ在支領事館發給ノ身分證明書ノ發給振ニ關シ概ネ左ノ通措置スルコトトシタキ意嚮ナリ

1、在留民ニシテ刑網線キ等不正行爲ヲ爲ス虞アル者ニ對シテハ身分證明書ヲ發給セサルコト

2、渡支事由證明書等ニ依リ支那ニ定着スルノ意思又ハ定着ノ事實ナシト認メラルル者ニ對シテハ身分證明書ヲ發給セサルコト

3、本邦ヘ歸國シ再渡支ノ意思ナキ者ニ對シテハ身分證明書ヲ發給セサルコト

但シ右ノ場合ニハ本邦警察官ニ於テ身分證明書ノ提示ヲ要求スルコトナキ樣取計ハレタキコト

外務省

陸軍省關係

一、滿洲國ノ渡支取扱振中特例ノ範圍ニ關シ再考セラレタシ

二、軍屬、軍屬傭人ノ定義如何

三、現地憲兵隊ニ於テ軍屬、軍屬傭人ニ非サル者ニ對シ（主トシテ特殊婦女）證明書ヲ發給シ之ニ依リ渡支セシメ居ラルル向アルモ右ハ所定通リ領事館發給ノ證明書ニ依ラシムル樣取計ハレタシ

拓務省關係

一、朝鮮ニ於テ支那向渡航者ノ乘船又ハ國境通過ノ際ニ於ケル證明書ノ檢査ヲ勵行セラレタシ

二、本邦警察署又ハ在支領事館發給ノ身分證明書ノ寫眞ヲ貼替ヘ他人ニ於テ之ヲ利用シ渡支スルモノアリ注意セラレタシ

三、本邦警察署發給ノ身分證明書ニシテ寫眞ノ貼附ナキモノアリ注意セラレタシ

四、山海關ニ旅行スルニハ身分證明書ヲ要スルニ付誤解ナキ樣御指導願度

外務省

⑦〔軍慰安所從事者ニ對スル身分証明書発給ノ件〕〔台湾総督府外事部長〕（昭15・6・1）

電信課長

大臣

次官

東亞 閲了

歐亞

米洲

通商

條約

情報

文化

調査

人事

儀典

文書

會計

祕書官

昭和15　一五三四二　略　臺北　六月一日後發　亞、米

本省　一日夜着

有田外務大臣　千葉臺灣外事部長

第一〇九號

開館シ居ラサル領事館管轄區域タル前線ニ赴キ軍慰安所ニ從事スル者ニ對シテハ渡支事由證明書ノ取付ハ事實上不可能ナルヲ以テ陸海軍側ノ證明書ニ依身分證明書ノ發給相成リ差支ナキヤ折返シ何分ノ回電アリタシ（了）

⑧—1 渡支事由證明書等ノ取寄不能ト認メラルヽ対岸地域ヘノ渡航者ノ取扱ニ關スル件［台湾総督府外事部長］（昭15・9・2）

第三課

東亞局第三課長

亞米利加局第三課長

昭和十五年九月二日

臺灣總督府外事部長　千葉榮一

外務省
亞米利加局第三課長　眞木薫殿

外一第一、一六二號ノ一

渡支事由證明書等ノ取寄不能ト認メラルヽ對岸地域ヘノ渡航者ノ取扱ニ關スル件

本件ニ關シ高雄州知事ヨリ別紙甲號寫ノ通リ照會有リタル處斯種渡航者ノ取扱振ニ關シテハ陸海軍側ノ證明書ニ依リ最寄リノ領事館警察署ヨリ渡支事由證明書ヲ取付クル事ト致度キ趣貴官ヨリノ指示モ有ルニ付本件渡航者ニ對シテモ廣東總領事館發給ノ渡支事由證明書ヲ提出セシムベキヲ[illegible]當ト認ムル

モ本件慰安所從業員ノ渡航ヘ急ヲ要スルモノナルヱ付特ニ本件ニ限リ許可スヘキ旨別紙乙號寫ノ通リ高雄州知事宛回答シ置ヨルニ付御了知相成度此段申進ス

日本標準規格 B 4 (257×364)

甲ノ

寫

高醫高秘外第五六九二號
秘　昭和十五年八月二十三日

高雄州知事　赤堀鐵吉

外務部長殿

渡支事由證明書等ノ取寄不能ト認メラルヽ對岸地域ヘノ渡航者ノ取扱ニ關スル件

本籍
住所

當二十二年

右者名儀人トナリ夫[redacted]ナル者ト共ニ厦東省欽縣ニ於テ南支派遣軍臨田部隊林部隊專屬軍慰安所ヲ經營目下同軍ニ從ヒ

廣西省南寧附近ニ於テ航乘中ノ處今回酌婦連行ノ目的ヲ以テ
六月二十七日附右林部隊長發給證明書（別添第一號）及同日
附同地憲兵分遣隊長發給ノ渡航證明書（右第二號）並ニ同月
二十八日附酌婦呼奇證明書（同第三號）ヲ携帶歸還シ再渡航
等ノ爲本名等二名及連行スベキ酌婦六名ノ渡航證明書下付申
請アリタルガ支那渡航ニ關シテハ本年五月十三日附總外第一
一二號ヲ以テ「支那渡航邦人ノ取扱手續ニ關スル件」等ニ依リ普
通人ハ一律ニ現地領事館警察署發給ノ渡支部由證明書ヲ必要
トスルコトトナリ居レルニ本件發乘者ノ如キハ領事館警察署
トハ著シク遠隔ノ地ニアリ且ツ領事館ニ於テモ調査不能ノ地
域ト思料セラルルモノニアリテ短時日ニ所定證明書ノ取寄可
可能ト認メラレ例令所定證明書ノ發給アリタリトスルモ右ノ
理由ニヨリ單ニ形式的ナルモノト認メラルルニ於テハ渡航者ノ
身元目的其他確實ニシテ渡支セシムルモ支障ナキ者ニシテ特

ニ本件ノ如キ特種警備ニ就業シ居ルニ於テハ所属部隊長或ハ所轄憲兵隊長ノ発給スル証明書ニ依リ被抗セシメルヘク尤モ実際的処理ト思考セラレ候ニ付テハ本件処理ニ関シ何分ノ御回答相煩度

右照会ス

追テ関東領事館ニ於テハ本年五月二十日以降ニ於テ管下在留者ノ脱退ニ際シ内地人ニハ身分証明書ニ代ヘントノ意向ナルカ如キモ何等連絡ナク右ハ上記総務長官通牒ノ趣旨並ニ取扱方針ニ悖ルモノト認メラレ取扱ニ関シ併セテ配慮相成度申添候

第一號

證明書

寫眞

[redacted]

當年二十二才

右ハ當隊附屬慰安所經營者ニシテ今回慰安婦連行ノタメ歸蘇セシモノナリ

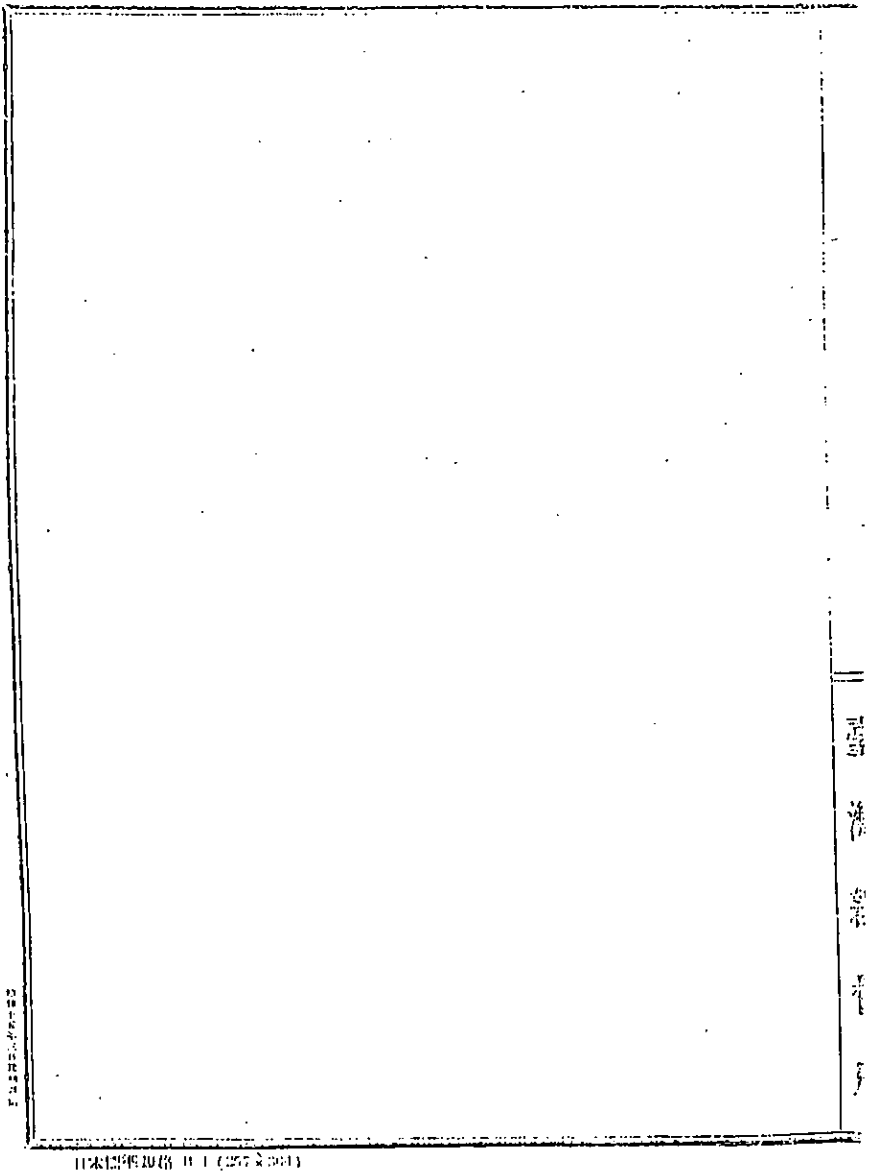
就テハ慰安婦ハ當隊慰安ノタメ是非必要ナルモノニ付之カ渡航ニ關シテハ何分ノ便宜附與方取計相成度

右證明ス

昭和十五年六月二十七日

南支派遣鹽田兵團林部隊長林義秀

林部隊長之印



第二號

渡航證明願

本籍 [redacted]

現住所 [redacted]

職氏名 慰安所業 [redacted]

當二十二年

一、渡航先 臺灣、高雄

二、目的 慰安婦招致ノ爲メ

三、期間 自昭和十五年六月二十七日至昭和十五年九月二十六日

四、出發地 欽縣

出發月日 昭和十五年六月三十日

五、其他

右之通リ渡航致度ニ付證明相成度及願候也

昭和十五年六月二十七日

[illegible]

欽州癈兵分遣隊長足立茂一殿

欽癈發第四六六號

右證明ス

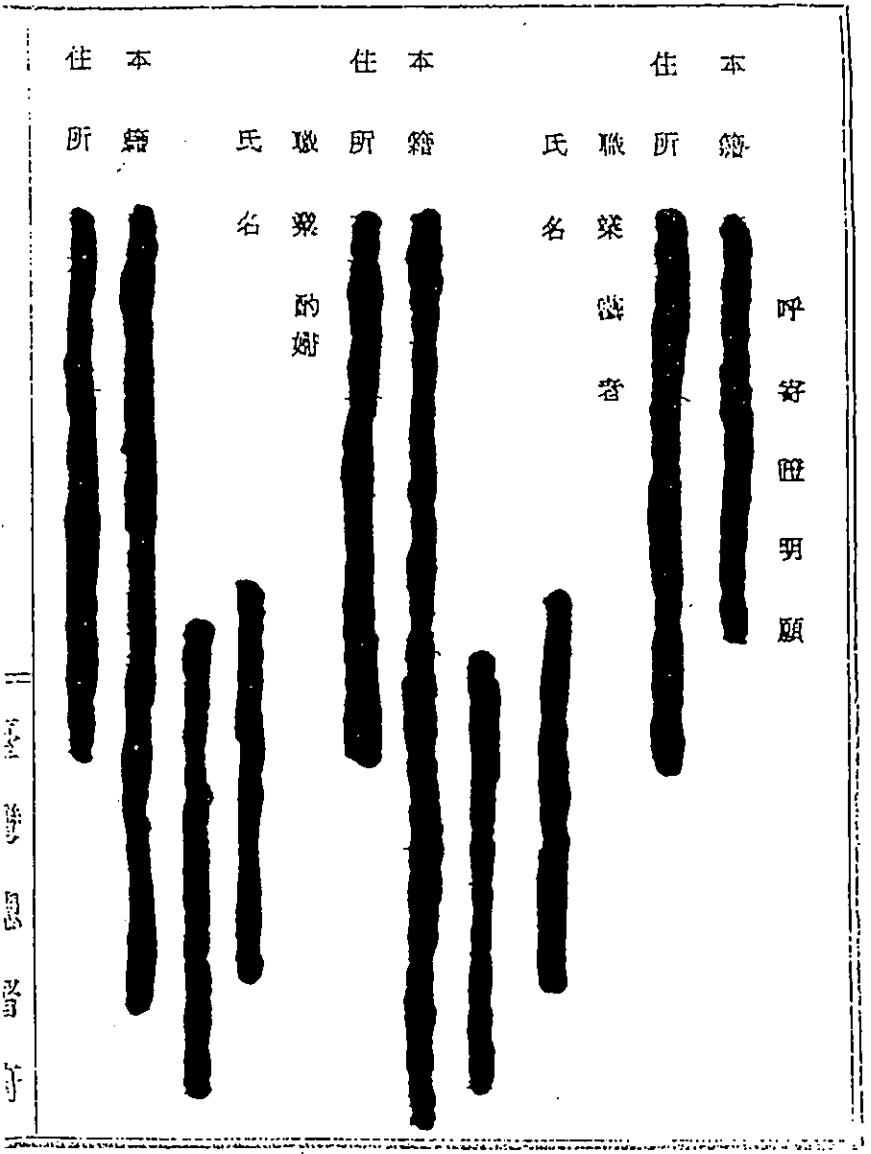
昭和十五年六月二十七日

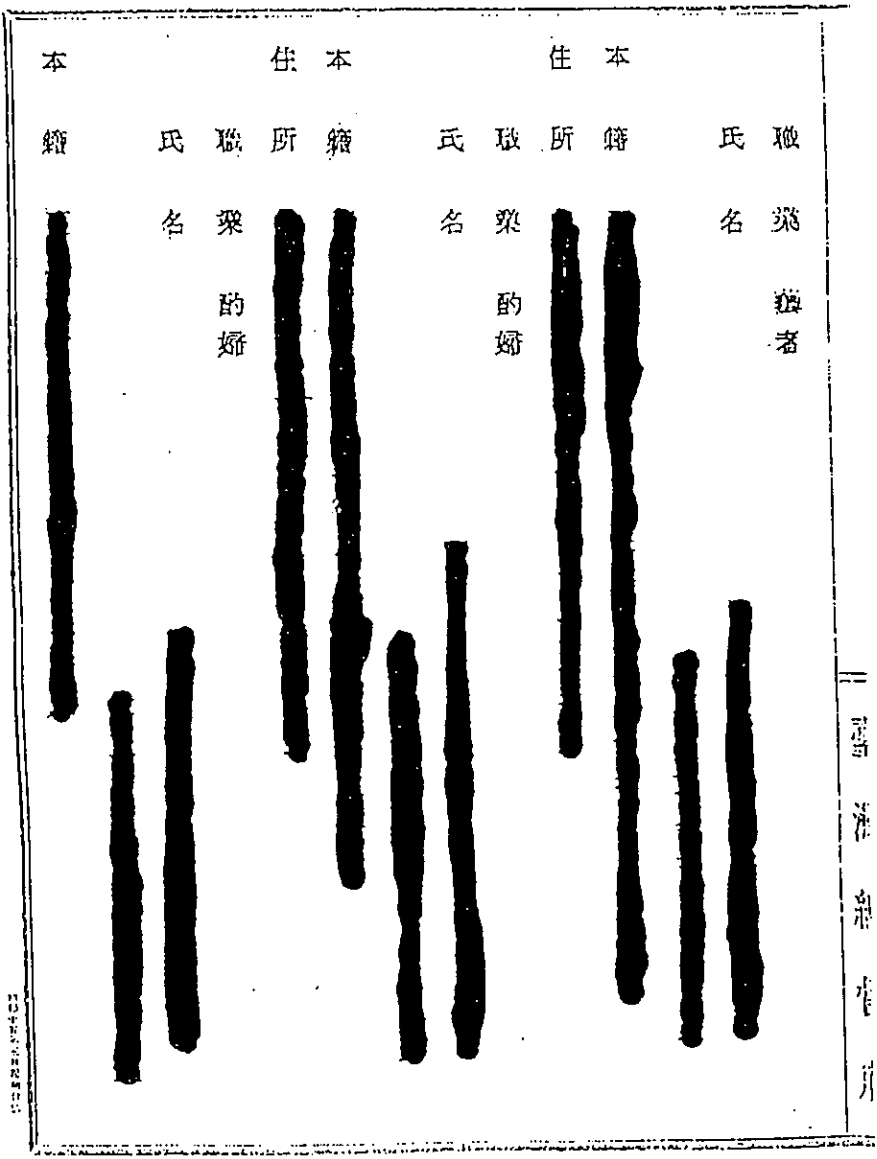
欽州癈兵分遣隊長足立茂一

欽州癈兵分
遣隊長印

右願出人 [redacted]

日本標準規格 B 4 (257×364)


本籍
住所
呼寄證明願
本籍
住所
職業雇傭者
氏名
本籍
住所
職業的娼妓
氏名
本籍
住所


被災者
氏名
本籍
住所
被災者の妻
氏名
本籍
住所
被災者の婦
氏名
本籍

住所 [redacted]

職業 酌婦

氏名 [redacted]

右者軍慰安所酌婦稼業ノ爲メ呼寄致度候間證明相成度此段及願候也

昭和十五年六月二十八日

右願出人本籍 [redacted]

現住所 [redacted]

職業 蓋萊慰安所

氏名 [redacted]

當二十二才

欽州憲兵隊長足立茂一殿

欽憲警第四六八號

右證明ス

昭和十五年六月二十八日

欽州憲兵分隊長足立茂一

欽州憲兵分遣隊長印

日本標準規格 B 4 (257×364)

乙号

昭和十五年九月二日

臺灣總督府外事部長　千葉桑一

高雄州知事殿

外一第一、一六二號

渡支事由證明書等ノ取寄不能ト認メラルル對岸地域ヘノ渡航者ノ取扱ニ關スル件

本件ニ關シ本年八月二十三日附高警高秘外第五六九二號ヲ以テ御照會越ノ趣了承、斯種渡航者ノ取扱振ニ關シテハ本年六月八日附外一第六六二號ノ三ヲ以テ申進置タルモ本件慰安所從業員ノ渡航ハ急ヲ要スルモノタルノミナラス貴官御申越ノ次第御尤ト存ゼラルルニ付特ニ本件ニ限リ渡支事由證明書ヲ取付ケシムル事ナク林部隊長發給ニ係ル證明書ヲ以テ出願セシメ身許目的等調査ノ上確

臺灣總督府

實ナルニ於テハ所定證明書發給相成差支無之ニ付此段回答ス

追而廣東總領事館發給ニ係ル身分證明書ヲ所持シ再渡航セントスル內地人ニ對シテハ改メテ身分證明書ヲ取付シムル事ナク渡航セシメ本島人ニ對スル同館發給ノ在留證明書ハ今回ノ渡支事由證明書ト同一効力ヲ有スルモノト看做シ御取計相成度申添フ

日本標準規格 B 4 (257×364)

⑨—1 南洋方面占領地ニ於ケル慰安所開設ニ關スル件［台湾総督府外事部長］（昭17・1・10）

秘

記錄 大東亞戰爭關係一件

件名 占領地ニ於ケル慰安所開設ニ關スル件

電信課長

大臣
次官
東亞局長
歐亞局長
米洲局長
通商局長
條約局長
弘報部長
調査部長
南洋課長
人事課長
儀典課長
文書課長
會計課長
秘書官

寫送先

南米

ノ昭和17 九六四 略 臺北 一月十日後發
本省 十日後着

東郷外務大臣

蜂谷外事部長

第一〇號

（南洋方面占領地ニ於ケル慰安所開設ニ關スル件）

南洋方面占領地ニ於テ單側ノ要求ニ依リ慰安所開設ノ爲渡航セントスル者（從業者ヲ含ム）ノ取扱振リニ關シ何分ノ御指示相煩度シ（了）

外務省

⑨-2 南方方面占領地ニ対シ慰安婦渡航方ノ件［外務大臣］（昭17・1・14）

電信課長

發電係

課長

電信案

外務省

管主 亞米利加局長

任主 第三課長

昭和十六年一月十二日起草

電送第1545號

發 昭和17年1月14日 前後5時35分

宛 台灣總督府 蜂谷外事部長

名件 南方方面占領地ニ対シ慰安婦渡航方ノ件

發 外務大臣

記錄件名

略 第六號

貴電第一〇号ニ関シ

此種渡航者ニ対シ旅券ヲ発給スレコトハ南方ニ於ケル軍ノ証明書ニ依リ軍用船

53

ヒヲ渡航セシメラレ度シ

電信案

外務省

極秘

電信寫

主管　南監（政）（総錄）

昭和18　二八〇　暗　西貢　二月八日前發
本省　八日後着

青木大東亞大臣　鈴木支部長代理

第一〇號

（佛印ヨリ内地、滿洲國、支那、「タイ」向）
（旅行許可ニ關スル件）

今般南方軍総參謀長ノ名ニ於テ當地軍ニ對シ佛印ヨリ内地、滿洲國、支那、「タイ」ヘノ軍人、軍屬以外ノ旅行許可ハ爾今大使府ニ於テ與ヘラルヘキ旨電報アリタル趣ヲ以テ當地軍關ヨリ當方ニ通絡越セルモ軍從業者（御用商人、飲食業者、慰安所從

業員等）ニ對シ當方ニ於テ其ノ旅行ノ際旅券又ハ國籍證明書等ヲ許與スルコトニ疑義アリタルヲ以テ本省ニ稟請スルコトトシ一應返答ヲ留保シタル處既ニ軍側ニ於テハ南方軍總參謀ノ命ニヨリ此ノ種ノモノヲ客年十二月末日限リ解除シ全部大東亞省ニ移管シ得ル如ク一方的解釋ヲナシ居ルモ當方トシテハ何等本省ヨリ通牒ナキ爲之ヲ認メ得サルノミカ斯テハ從來トリ來リタル渡航制限禁モ水泡ニ歸スヘク之カ根本的解決ヲ要スルモノト思考セラルルニ付陸軍省ト協議決定ノ上何分ノ儀至急御回電相煩度

佛印大、「タイ」ヘ轉電セリ

⑪軍從屬者ニ對スル旅行許可ノ件［事務総長］（昭18・3・10）

大東亞省

極秘

電信寫

主管　總錄

昭和18　三二九七　暗　河内　三月十日後發
本省省　十日夜着

青木大東亞大臣　栗山事務總長

第二一二號

（軍從屬者ニ對スル旅行許可ノ件）

貴大臣發西貢宛電報第四三號及西貢發貴大臣宛電報第一六二號ニ關シ、

軍從屬者ノ現地解除後ニ於ケル身分ノ變更ニ關シテハ從來確タル原則ナキ處實情ヲ見ルニ便宜上軍從屬者ノ資格（例ヘハ御用商人、慰安所員、酒保員等）ヲ取得シ軍ト共ニ或ハ現地軍呼寄ニ依リ入領セ

電信寫

ル者ニシテ其ノ後軍從屬者ノ資格ヲ離脫シ軍發給ノ證明書（軍紹介狀又ハ呼寄證明書等）ヲ當府ニ提示ノ上一般邦人トシテノ旅券若クハ國籍證明書ノ下附ヲ願出ツル次第ナリ然ルニ此ノ手續ヲ無條件ニ認ムル時ハ隨分不良ナル分子ノ渡航ヲ認ムルト同一結果トナル●現ニ此等ノ者ノ內最近歸旨退去處分ノ已ムナキニ至リタル者數名アリ尙ニ付當方トシテハ現地解除者在留ハ相當峻拒スル必要アリ就テハ本省ニ於テ陸海軍側ト御協議ノ上根本的取扱振ヲ御決定ノ上出先ニ御指示相成樣致度ク結果何分ノ儀御回電アリタシ

西貢「タイ」ニ轉電セリ

大東亞省

北警外秘第二三二八三號
昭和十四年一月十三日
臺北州知事藤田傳治郎

臺灣總督小林躋造殿

渡支取締方ノ件

昭和十三年十一月中ニ於ケル身分證明書並ニ外國旅券發給狀況左表ノ通リニ有之候條
右報告ス

記

一渡航身分證明書並外國旅券發給（本島含）狀況

［中略］

二、渡航別表

地区＼方別＼分	初渡航				再渡航			
	内地人	朝鮮人	本島人	計	内地人	朝鮮人	本島人	計
北支方面	三		一三	一六				
上海方面	九七		一三八	二三五	四		七	一一
南支方面	一七七	六一	三〇三	五四一	八	一	二一	三〇
計	二七七	六一	四五四	七九二	一二	一	二八	四一
累計	一六九五	一三九	一八一七	三六五一	一一〇	九	二六一	三八〇

三、渡航目的調

目的別＼区分	北支方面				上海方面				南支方面			
	内地人	朝鮮人	本島人	計	内地人	朝鮮人	本島人	計	内地人	朝鮮人	本島人	計
商用			三	三	一八		三五	五三	一四		一二二	一三六

各種視察	同棲同居	就職（歴安所関係含）	財産整理	皇軍慰問	手傳	社用	病氣看護	建築請負爭	各種営業関係			
	一	二										三
六	二	二										一三
六	三	四										一六
一四	一三	四〇		五	四	一		二	七			一〇四
												二五
三八	一四	四三			三	二	一		六			一四二
五二	二七	八三		五	七	三	一	二	一三			二四六
一九	五	一〇二		三	三	二六	一	八	二			一八三
		五一							一一			六二
三九	四八	八一	一〇		一四	二	二	一	七			三三六
五八	五三	二三四	一〇	三	一七	二八	三	九	二〇			五七一

⑫-2 渡支取締方ノ件［台北州知事］（昭14・3・2）

北警外秘第三一七〇號

昭和十四年三月二十日

臺北州知事戸水昇



臺灣總督小林躋造殿

渡支取締方ノ件

昭和十三年十二月中ニ於ケル身分証明書並ニ外國旅券發給狀況左表ノ通リニ有之候條

右報告ス

記

一、渡航身分證明書並外國旅券發給（本島人）狀況

［中略］

二、渡航別表

地方別	区分	初渡航	再渡航
北支方面	内地人	一四	
	朝鮮人		
	本島人	一七	
	計	三一	
	累計	二二六	
上海方面	内地人	七八	一
	朝鮮人	一	
	本島人	一四九	
	計	二二八	
	累計	一九二二	
南支方面	内地人	四六八	五
	朝鮮人	三九	
	本島人	五〇六	一四
	計	一〇一三	一九
	累計	二七八六	二四一
計	内地人	五六〇	六
	朝鮮人	四〇	
	本島人	六七二	一五
	計	一二七二	二一
	累計	四九二三	四〇一
累計	内地人	二二五五	一一五六
	朝鮮人	一七九	九
	本島人	二四八九	二七六
	計	四九二三	四〇一

三、渡航目的調

目的別区分	北支方面	上海方面	南支方面
内地人			
朝鮮人			
本島人		一	
計		一	
内地人			
朝鮮人			
本島人			一
計			一
内地人			
朝鮮人			
本島人			一
計			一

財産整理

		計	慰安所関係者	看病、手伝	商業、同従業員	運送業、同従業員	就職	同棲、同居	旅館、料理屋、営業並従業員	建築請負業及従業員	商用、社用	各種視察、慰問
		一四			二		二	二	一		六	一
		一七					三		一		七	六
		三一			二		五	二	二		一三	七
		七九			五	五	一七	一一	七	二	一六	一六
		一									一	
		一五〇		二	二		四三	二〇		一	四九	三二
		二三〇		二	七	五	六〇	三一	七	三	六六	四八
		四七三	一二六		一六	二	四二	二〇	一五五	五	六二	四五
		三九	一九				一四		六			
		五一九	一〇	一三	六		一九八	八一	一七	六	一三一	五七
		一〇三二	一五五	一三	二二	二	二五四	一〇一	一七八	一一	一九三	一〇二

［中略］

北警外秘第三一七二號

昭和十四年三月二日

臺北州知事　戸水昇

警務局長殿
總督官房外事部長殿
各州廳長殿
知事
各郡守
警察署長殿

渡支取締方ノ件

昭和十四年一月中ニ於ケル身分證明書並ニ外國旅券發給狀況左記ノ通リニ有之候條

右通報（達）ス

記

一、渡航身分證明書並外國旅券發給狀況

三渡航目的調

目的別	北支方面				上海方面				南支方面			
	内地人	朝鮮人	本島人	計	内地人	朝鮮人	本島人	計	内地人	朝鮮人	本島人	計
慰問視察	一		一	二	八		三七	四五	六六		六四	一三〇
商業					一		三	四	一〇		一九	二九
就職	一	三	三	四	一三		四〇	五五	四九		一二二	一七一
商用、社用			三	三	九		四二	五一	四三	一	七八	一二二
同視同居	三		二	五	一三		三三	四八	一七	一一	五八	七六
老舗業務関係					五		四	九	八四	四	二五	一一三
建築業関係					二		一	三	三		一	四
運輸業					一		一	二	一		一	二
財産整理											三	三
子弟及親戚					二		二	四	五九	八	三	七五
慰安所関係												
計	五		九	一四	五八		一六三	二二一	三三二	一四	三八二	七二八

［中略］

北警外秘第三五一九號
昭和十四年四月十日

臺北州知事　戸水昇

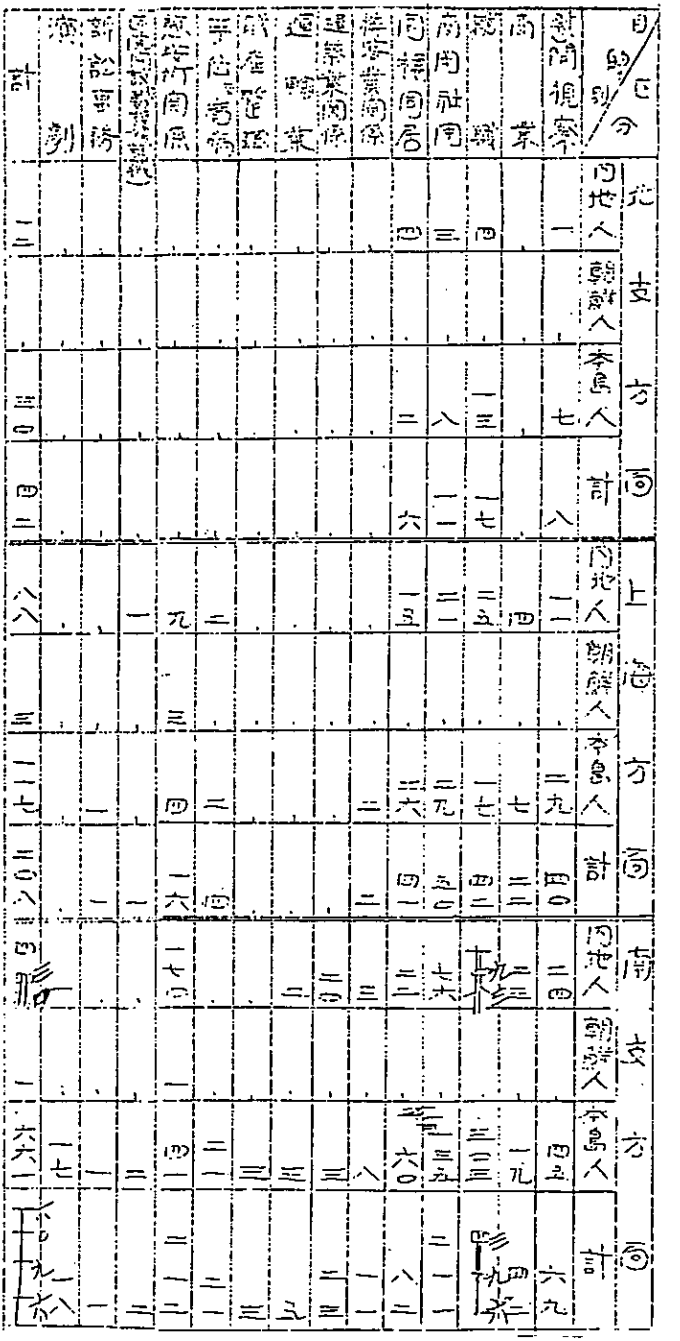
警務局長殿
總督官房外務部長殿
各州知事　廳長殿
各廳弁　警察署長殿

渡支取締方ノ件

昭和十四年二月中ニ於ケル身分證明書並ニ旅券發給狀況左記ノ通リニ有之候條
右通報（達）ス

記

三渡航目的調



［中略］

北警外秘第五六八号
昭和十四年四月二十四日
臺北州知事　戸水昇

警務局長　殿
總督官房外務部長　殿
各州知事　廳長　殿
各郡守警察署長　殿

渡支取締方ノ件

昭和十四年三月中ニ於ケル自分證明書並ニ外國旅券発給状況左記、通リニ有之候條右通報（達）ス

記

三、渡航目的調

区分	目的別	慰問視察	商業	就業	商用社用	同棲同居	接客業關係	建築業關係	運輸業	時產整理	學校通學	慰安所關係	計
北支方面	內地人	二		七			四	三					一六
	朝鮮人												
	本島人	八	二	六	三		一						二〇
	計	一〇	二	一三	三		五	三					三六
上海方面	內地人	一二	二	二二	一一	二八	七	一					八二
	朝鮮人						一						一
	本島人	一六	五	四三	五四	三四	八	一	六	九	四		一八〇
	計	二七	七	六五	六五	六二	一六	二	六	九	四		二六三
南支方面	內地人	三二	一〇	九八	六九	三七	九六	二三	四	三		一二	三八四
	朝鮮人	一		一			八			一			一一
	本島人	五〇	二五	二八九	一三九	七二	二一	六	一九	一〇	一五	一	五四七
	計	八三	三五	二八八	二〇八	一〇九	一二五	二九	二三	一四	一五	一三	九四二

⑫-6 渡支取締方ノ件［台北州知事］（昭14・5・21）

北警外秘第五九五七號
昭和十四年五月二十一日
臺北州知事 戸水昇

警務局長 殿
總督官房外務部長殿
各州知事 廳長殿
各郡守警察署長殿

渡支取締方ノ件

昭和十四年四月中ニ於ケル身分證明書並ニ外國旅券發給狀況左記ノ通リニ有之候條右通報（達）入

記

［中略］

三、渡航目的調

目的之別分	北支方面 內地人	北支方面 朝鮮人	北支方面 本島人	北支方面 計	上海方面 內地人	上海方面 朝鮮人	上海方面 本島人	上海方面 計	南支方面 內地人	南支方面 朝鮮人	南支方面 本島人	南支方面 計
慰問視察	三	.	六	九	八	.	三四	四二	二九	.	四一	七〇
商業	.	.	一	一	四	.	四	八	二一	.	四三	六四
就業	五	.	三	八	一五	.	二九	四四	七一	.	二二三	二九四
商用社用	四	.	五	九	九	.	六八	七七	九〇	.	一五六	二四六
同棲同居	五	.	七	一二	一五	.	五〇	六五	四六	.	一三九	一八五
接客業關係	一	.	.	一	一二	.	一六	二八	八三	三	六八	一五四
建築業關係	一	.	.	一	三	.	二	五	一三	.	五八	七一
運輸業	.	.	.	.	.	.	四	四	.	.	七	七
財產整理	.	.	.	.	.	.	一	一	.	.	二	二
手傳及看護	.	.	.	.	.	.	四	四	二	.	一六	一八
慰安所關係	.	.	.	.	二	.	.	二	二三	五	三	三一
醫院診療及就職	.	.	.	.	.	.	.	.	一	.	一	一
計	一九	.	二三	四一	六八	.	二一二	二八〇	三七九	八	七五六	一一四三

⑫-7 渡支取締方ノ件［台北州知事］（昭14・6・19）

北警外秘第八一六八號
昭和十四年六月十九日

臺北州知事 戸水昇

警務局長殿
總督官房外務部長殿
各州知事、廳長殿
各郡守、警察署長殿

渡支取締方之件

昭和十四年五月中ニ於ケル身分證明書並ニ外國旅券發給狀況左記ノ通リニ有之候條

右通報（達）ス

記

［中略］

目的別＼區分	北支方面				上海方面				南支方面			
	內地人	朝鮮人	本島人	計	內地人	朝鮮人	本島人	計	內地人	朝鮮人	本島人	計
公務	一	、	、	一	一	、	一	二	四	、	九	一三
視察（一時的用務）	二	、	一	三	三	、	二六	二九	二七	、	六一	八八
就業 工業	、	、	、	、	、	、	二	二	九	、	二四	三三
就業 交通業	、	、	、	、	一	、	、	一	大〇	、	六六	一二六
就業 運輸業	二	、	、	二	二	、	一	三	一	、	一	二
就業 商業	一	、	四	五	五	、	二九	三四	四四	、	一三一	一七五
就業 其他就職	二	、	三	五	四	四	二〇	二八	、	、	、	、
商用、社用	三	、	三	六	一六	、	三三	四九	五〇	、	七六	一二六
同棲同居	一	二	二	五	一四	、	三一	四五	四一	、	九二	一三三
接客業關係	、	、	、	、	六	、	六	一二	六五	三	四四	一一二
慰安所關係	、	、	、	、	八	、	四	一二	一八	三	八	二九
財產整理	、	、	、	、	、	、	二	二	一	、	一	二
手續及看護	、	、	一	一	三	、	六	九	二	、	一七	一九
醫業關係	、	、	、	、	、	、	、	、	一	、	、	一
慰安關係	一	、	、	一	、	、	、	、	一〇	、	二	一二

[以下略]

北警外秘第九五一一號
昭和十四年七月十五日
臺北州知事 戶水昇

警務局長殿
總督官房外務部長殿
各州知事廳長殿
各郡守、警察署長殿

渡支取締方ノ件

昭和十四年六月中ニ於ケル身分證明書並ニ外國旅券發給狀況左記ノ通リニ有

［中略］

三渡航目的調

目的別	区分	公務	視察(一時的用務)	就業 工業	就業 未建築業	就業 運輸業	就業 商業	就業 其他就業	商用、社用	同棲、同居
北支方面	内	二				一			一	六
	朝									
	本		三				二	二	八	一
	計	二	三			一	二	二	九	七
上海方面	内	一	二八				一	一〇	十八	一五
	朝							一		
	本	三	三一	六		二	二八	九	四六	五一
	計	四	五九	六		二	二九	二〇	五四	六六
南支方面	内	一五	一八	八	二一	二	一一	三〇	八九	四七
	朝									
	本	一六	三一	三四	五九	一三	六〇	五四	一二四	七三
	計	三一	四九	四二	八〇	一五	七一	八四	二二三	一二〇

	接客業関係	慰安所関係	財産整理	手傳又看護	醫業関係	慰問関係	修	金	計
一六	五						一		
一七							一		
二三	五						二		
七二	四					五			
一									
一九二	四	二	一	七	二				
二六五	八	二	一	七	二	五			
二八八	三三	一一	一			二			
七	三	四							
五四二	二三	一〇	二	二一	二	一〇			
八三七	六九	二五	三	三二	二	一三			

北警外秘第一一〇二六號

昭和十四年八月十六日

臺北州知事　戸水昇

警務局長殿
總督官房外務部長殿
各州知事、廳長殿
各郡守、警察署長殿

渡支取締方ノ件

昭和十四年七月中ニ於ケル身分證明書並ニ外國旅券發給狀況左記ノ通リニ有之候條

右通報（達）ス

記

［中略］

三、渡航目的

目的別＼区分	北支方面				上海方面				南支方面			
	内地人	朝鮮人	本島人	計	内地人	朝鮮人	本島人	計	内地人	朝鮮人	本島人	計
公務	一	、	、	一	一	、	、	一	六	、	一七	二三
視察（一時的用務）	一	、	二	三	三	、	四	七	一一	、	二八	三九
就業 工業	、	、	、	、	一	、	一	二	三	、	二六	二九
就業 土木建築業	二	、	、	二	、	、	二	二	一七	、	二二	四九
就業 運輸業	一	、	、	一	、	、	二	二	三	、	五	八
就業 商業	二	、	三	五	一三	、	一四	一七	二二	、	五五	七七
就業 其他就職	一	、	四	五	、	、	七	七	八一	、	六〇	八四一
商用、社用	一	、	七	九	四	、	三五	三九	五四	、	一二七	一八一
同棲、同居	三	、	九	一二	一四	、	四二	六七	八六	、	一三七	二二三
接客業關係	八	、	、	八	一	、	一三	一三	四九	、	四〇	八九
慾安所關係	、	、	、	、	、	、	、	、	一六	二二	三	四一
賤産整理	、	、	、	、	、	、	一	一	、	、	二	二
手傳及看護	一	、	、	一	一	、	三	四	、	、	一五	一五

［以下略］

北警外秘第二、八七七號

昭和十四年九月十三日

臺北州知事　戸水昇

警務局長殿
總督官房外務部長殿
各州知事、廳長殿
各郡守、警察署長殿

渡支取締方ヶ件

昭和十四年八月中ニ於ケル身分証明書並ニ外國旅券發給狀況左記、通リニ有之候條

右通報（達）ス

記

［中略］

三、渡航目的調

目的別＼区分	北支方面				上海方面				南支方面			
	内地人	朝鮮人	本島人	計	内地人	朝鮮人	本島人	計	内地人	朝鮮人	本島人	計
公務	3			3	1		1	2	2	1	1	3
視察（一時的用務）	2		2	4	1	1	4	6	7	1	6	13
就業 工業									14		14	14
就業 土木建築業					1		6	7	38		35	73
就業 運輸業							1	1	2		3	5
就業 商業	1		6	7	5	1	11	16	18	1	43	61
就業 其他就職				6	16		18	34	46	1	113	160
商用社用	1		4	5	4	1	37	41	52		93	145
同業同居	4		2	6	9		37	46	69	3	135	207
接客業関係					3		25	28	86	10	35	131
慰安所関係									8	1		9
戦跡整理							1	1	1		1	1
寺僧及看護					1		1	2	1		9	10
醫業関係												
慰問									1			1

［以下略］

⑫-11 渡支取締方ノ件［台北州知事］（昭14・10・13）

北警外秘第一二二五號

昭和十四年十月十二日

臺北州知事　戸水昇



警務部長殿
各州知事廳長殿
各郡守、警察署長殿

渡支取締方ノ件

昭和十四年九月中ニ於ケル身分証明書並外國旅券発給状況左記ノ通リニ有之候條
右通報（達）ス

記

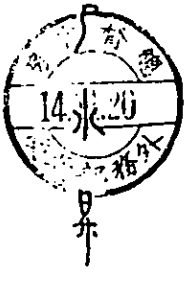
身分証明書並外國旅券發給状況［中略］

三、渡航目的調

目的別＼区分	北支方面				上海方面				南支方面			
	内地人	朝鮮人	本島人	計	内地人	朝鮮人	本島人	計	内地人	朝鮮人	本島人	計
公務	一	、	、	一	一	、	二	三	三	、	一〇	一三
視察(一時的用務)	一	一	、	二	二	、	四	六	六	、	六	一二
工業	、	、	、	、	、	、	三	三	六	、	二八	三四
土木建築業	、	、	、	、	一	、	一	一	二二	、	三七	六〇
運輸業	、	、	、	、	二	、	二	四	三	、	三	六
商業	、	、	一	一	六	、	一一	一七	一七	、	五六	七三
其ノ他就業	一	、	三	四	三	一	一四	一七	三六	、	八〇	一一六
商用社用	四	、	、	四	一〇	、	二〇	三〇	五五	、	六八	一二三
同棲同居	六	、	、	六	一一	、	四	五	二一	、	一〇四	一三五
接客業關係	、	、	、	、	六	、	一五	二一	五二	、	四三	八六
慰安所關係	、	、	、	、	、	、	、	、	九	二〇	一	三〇
財産整理	、	、	、	、	、	、	一	一	一	、	七	八

手傳及看護	醫業關係	慰問	修學	金融關係	計
、	、	、	、	、	一二
、	、	、	、	、	、
、		、	、	、	四
、	、	、	、	、	一六
四	一	、	、	、	四六
、	、	、	、	、	、
三	、	、	、	一	一一八
七	一	、	、	一	一六四
一〇	三	九	、	、	二六四
、	、	、	、	、	二〇
一五	五	一	、	一	四五五
二五	八	一〇	、	一	七三九

北警外秘第一四八〇八號
昭和十四年十一月十五日
臺北州知事



警務局長殿
總督官房外務部長殿
各州知事、廳長殿
各郡市警察署長殿

渡支取締方ノ件

昭和十四年十月中ニ於ケル身分証明書並外國旅券發給狀況左記ノ通リニ有之候條
右通報（達）ス

記

一、身分証明書並外國旅券發給狀況〔中略〕

三、渡航目的調

目的別＼區分	北支方面				上海方面				南支方面			
	內地人	朝鮮人	本島人	計	內地人	朝鮮人	本島人	計	內地人	朝鮮人	本島人	計
公務	、	、	一	一	、	、	、	、	、	、	一九	一九
視察（一時的用務）	、	、	、	、	二	、	六	八	六	、	四	一〇
工業	、	、	、	、	、	、	二	二	八	、	二〇	二八
土木建築業	、	、	、	、	、	、	一	一	二六	、	二二	五八
運輸業	、	、	、	、	二	、	、	二	一五	一	九	二五
商業	一	、	、	一	一	、	二四	二五	一三	一	五八	七二
其ノ他	一	、	四	五	三	、	一〇	一三	五〇	一	五七	一〇八
商用、社用	二	、	四	六	二	、	三〇	四二	六八	、	八四	一五二
同棲、同居	一	、	四	五	一四	、	二五	二九	六二	、	八五	一四七
接客業関係	、	一	、	、	一	、	五	六	四〇	、	四一	八一
慰安所関係	、	、	、	、	、	、	、	、	一六	一四	、	三〇
財産整理	、	、	、	、	、	、	一	一	、	、	二	二

	手傳及看護	醫業關係	慰問	修學	金融關係	計
一	一	一	一	一	一	五
二	一	一	一	一	一	一
三	一	一	一	一	一	一三
四	一	一	一	一	一	一八
五	一	一	一	一	一	二九
六	一	一	一	一	一	一
七	一	一	一	一	一	一九
八	一	一	一	一	一	一四八
九	一	一	一二	一	一	三二八
一〇	一	一	一	一	一	一八
一一	一	一	五	一	一	四三七
一二	一	一	一七	一	一	七八三

北警外秘第一五八七七號

昭和十四年十二月十一日

臺北州知事　戸水昇

警務局長殿
總督官房外務部長殿
各州知事、廳長殿
各郡守、警察署長殿

渡支取締方之件

昭和十四年十一月中ニ於ケル身分證明書並外國旅券發給狀況別表ノ通リニ有之候條

右通報（達）ス

一、身分證明書並外國旅券發給狀況

地區別 / 身分別	許可				否許可			
	內地人	朝鮮人	本島人	計	內地人	朝鮮人	本島人	計
北支方面	二	一	一五	三一三	一	一	一	二四
上海方面	四〇	一三一	一七一	二三〇九	一	一	六	六
南支方面	二八四	六〇	三四一	六八五	一	一	三一二	五七
計	三二七	六〇	四八四	八七一	一	一	三八	四三
累計	四五七六	二〇六	七六六六	一二四四八	一〇〇	二	七一六	八一八

二、渡航別表

地區別 / 身分別	初渡航				再渡航			
	內地人	朝鮮人	本島人	計	內地人	朝鮮人	本島人	計
北支方面	二	一	一一	一四	一	一	一	四
上海方面	三八	一	一一五	一六三	二	一	六	八
南支方面	二六六	五九	三〇一	六二六	一八	一	四〇	五九
計	三〇七	五九	四三七	八〇三	二〇	一	四七	六八
累計	四四七九	二〇五七	四六五一	一二一四九	九八	一	二〇〇	二九九

[中略]

三、渡航目的調

目的別＼區分	北支方面 內地人	北支方面 朝鮮人	北支方面 本島人	北支方面 計	上海方面 內地人	上海方面 朝鮮人	上海方面 本島人	上海方面 計	南支方面 內地人	南支方面 朝鮮人	南支方面 本島人	南支方面 計
公務	、	、	、	、	、	、	、	、	一	、	一三	一四
視察(時的用務)	、	、	一	一	二	、	二	四	三	、	七	一〇
工業	、	、	、	、	、	、	、	、	六	、	七	一三
土木、建築業	、	、	、	、	一	、	、	一	五	、	一八	二三
運輸業	、	、	、	、	一	、	、	一	三	、	、	三
商業	、	、	三	三	八	、	二八	三六	二六	、	五九	八五
其ノ他	二	、	二	四	三	、	二二	二五	四九	、	四六	九五
商用社用	一	、	一	二	六	、	二一	二七	三八	、	六九	一〇七
同棲同居	、	、	三	三	一一	、	四八	五九	七二	、	八四	一五六
接客業關係	、	、	、	、	四	、	一	五	五三	六	七	六六
慰安所關係	、	、	、	、	、	、	、	、	九	五四	八	七一
賊產整理	、	、	、	、	、	、	一	一	、	、	一	一

[以下略]

北警外秘第三一二號
昭和十五年一月十八日
臺北州知事　川村直岡

警務局長殿
總督官房外務部長殿
各州知事廳長殿
各郡守警察署長殿

渡支取締方之件

昭和十四年十二月中ニ於ケル身分證明書並外國旅券發給狀況別表ノ通リニ有之候條
右通　報（達）ス

［中略］

三、渡航目的調

區分 / 目的別	公務	視察（一時的用務）	工業	土木建築業	運輸業	商業	其他	商用社用	同棲、同居	接客業關係	慰安所關係	戰產整理	手傳及看護	醫業關係	慰問	修學	金融關係	農業	計
北支方面 內地人	〃	一	〃	〃	〃	〃	〃	一	一	五	〃	〃	三	〃	〃	〃	〃	〃	一二
北支方面 朝鮮人	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
北支方面 本島人	〃	〃	〃	〃	〃	三	三	五	四	〃	〃	二	〃	〃	〃	二	〃	〃	一九
北支方面 計	〃	一	〃	〃	〃	三	三	六	五	五	〃	二	三	〃	〃	二	〃	〃	三〇
上海方面 內地人	〃	四	〃	〃	〃	四	八	六	七	三	〃	〃	五	〃	〃	〃	〃	〃	三七
上海方面 朝鮮人	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
上海方面 本島人	一三	九	一五	九	一	二二	三四	三五	四四	九	〃	五	五	〃	〃	〃	〃	〃	〇二
上海方面 計	一三	一三	一五	九	一	二六	四二	四一	五一	一二	〃	五	一〇	〃	〃	〃	〃	〃	二三八
南支方面 內地人	〃	一一	二	八	二	八	三三	四八	五七	三八	九	〃	一九	〃	二	一	一	〃	二三九
南支方面 朝鮮人	〃	〃	〃	〃	二	〃	〃	〃	〃	〃	二	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	四
南支方面 本島人	一四	一一	七	二〇	六	七六	五〇	一〇一	一二一	二九	〃	二	二六	〃	一	一	〃	四	四六九
南支方面 計	一四	二二	九	二八	一〇	八四	八三	一四九	一七八	六七	一一	二	四五	〃	三	二	一	四	七一二

⑫—15 渡支取締方ノ件［台北州知事］（昭15・2・24）

北警外秘第一五九二號

昭和十五年二月二十四日

臺北州知事　川村直岡

警務局長殿

總督官房外務部長殿

各州知事　廳長殿

各郡守　警察署長殿

渡支取締方之件

昭和十五年一月中ニ於ケル身分渡航證明書並外國旅券發給狀況左記ノ通リニ有之候條右通報（達）ス

記

［中略］

三 被雇目的調

目的別／區分	北支方面 內地人	北支方面 朝鮮人	北支方面 本島人	北支方面 計	上海方面 內地人	上海方面 朝鮮人	上海方面 本島人	上海方面 計	南支方面 內地人	南支方面 朝鮮人	南支方面 本島人	南支方面 計
公務	、	、	、	、	二	、	三	五	一二	、	二七	三九
一般的用務（視察研究遊歷）		、	一	一	七	、	一二	一九	二四	、	一八	四二
皇軍慰問	、	、	、	、	、	、	、	、	、		一	一
農業	、	、	、	、	、	、	一	一	九	、	七	一六
漁業	、	、	、	、	、	、	、	、	二	、	一	三
鑛業	、	、	、	、	、	、	一	一	一	、	二	三
工業	、	、	、	、	、	一	五	六	八	、	一〇	一八
土木建築業	、	、	、	、	一	、	二	三	三四	、	二一	五五
運輸交通業	一	、	、	一	九	、	五	一四	四	、	二	六
商業	七	、	四	一一	三〇	、	四九	七九	五七	、	一三四	一九一
料理業	、	、	、	、	一	、	七	八	三七	、	二〇	五七

新聞雜誌通信業	布教及宗務	演藝及興行業	家內勞働	金融業	醫業	產婆看護附	慰安所關係	辯護士業	同棲同居	修學	計
一	一	一	一	一	一	一	一	一	九	一	一八
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	六
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一〇	一	二四
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一四	一	六七
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	五	一	一	二	一	一	六四	一	一六一
五	一	一	六	一	一	三	一	一	七八	一	二二九
五	一	一	三	一	六	二	二	一	八六	一	二九四
一	一	一	一	一	一	一	一	二	二	一	三
八	一	五	四	一	一	七	一	一	一二七	二	三九七
一二	一	五	七	一	七	九	三	一	三一五	二	六九四

北警外秘第一一六二七號
昭和十六年九月二十七日
臺北州知事　三輪幸助

警務局長
各州知事
各郡守警察署長　殿

渡支取締方ノ件

昭和十六年七月中ニ於ケル首題ノ件ニ左記ノ通リ
ニ有之候條
右通報（達）ス

記

［中略］

三、渡航目的調

地方別 / 目的別	北支方面			上海方面			南支方面			合計	累計
	内地人	朝鮮人	本島人	内地人	朝鮮人	本島人	内地人	朝鮮人	本島人		
公務				二		一	三		五	一二	五八
公務ニ依ル官吏						一			三	四	二四
修學											四
一時的用務				一		一	二三		一四	三七	三六
皇軍慰問											一六
農業				二			八		八	一六	二八七
漁業											二九
鉱業				一					一	二	一六
工業				二		二	四		四	一〇	九〇
土木建築業							三		五	八	九四
運輸交通業	一			二		五	三		七	一八	一〇三
商業			四	一		九	八		一〇	二八	四九九

料理屋業	新聞雜誌通信等	布教及宗教用務	演藝及興行等	家內勞働	金融業	醫業	產婆看護附添等	慰安所關係	辯護士業	間棲同居	其他	計	累計
							一			四		六	二五
				一						六		一一	六五
				一			一			一〇		一七	九〇
						一	一			八		一九	一〇九
													八
	一			三			一			五〇		八四	六三四
	一			三		一	二			五八		一〇三	七五一
二三	六			七		一	四			一三九		二二二	一〇六四
								九				九	二一
二	三			一八			一			二三六		三五七	一六二五
二五	九			二五		一	五	九		三六五		五八八	二七一〇
二五	一〇			二九		二	八	九		四三三		七〇八	三五五一
一二三	二九	六	一	二三一	二七	一四	五四	九七		一六六六	三七	三五五一	

［中略］

秘

新警高秘外第七八八四号ノ二
昭和十三年十二月十四日
新竹州知事
赤堀鐵吉

臺湾總督
各州知事廳長
總督官房外務部長
殿殿殿

渡支取締ニ関スル件

昭和十三年十一月中ニ於ケル身分證明書並ニ渡航證明書發給狀況別表ノ通リニ有之候条

三、渡航目的調

目的別 ＼ 区分	北支方面			上海方面			南支方面			
	内地人	朝鮮人	本邦人	内地人	朝鮮人	本邦人	内地人	朝鮮人	本邦人	計
父母ト面接ノタメ	四			三二			二			二
商業其他ノ為営業ノタメ	一						二			二
就職	一七			一三			三			三
商業視察	一			九			二			二
単純ナル旅行、観光ノ為				四			一			一
落其他ノ渡航							二			二
自然的自然増							二			二
建築請負							一			一
原住者ノ付添							二			二
商業ノ為	一			九			一			一
単純ナル旅行				二						
神社参拝				二						
経営				二						
父兄訪問										
計	一			九			一			一
累計	二三			三一			一三			一三
	一七			三〇			一五			一五
	四一			三九			二九			二九
	一			一			一			一
	二			二			一			一
	三			二			一			一
	二			二			一			一
	一			一			一			一
	一			一			一			一
	一			一

秘

新警高秘外第一五一號
昭和十四年一月十一日

新竹州知事　赤堀鐵吉

滿鐵總裁小林躋造殿
各州知事廳長殿
外務部長殿

渡支取締ニ関スル件

昭和十三年十二月中ニ於ケル身分證明書並ニ渡航證明書發給狀況左表ノ通リニ有之候条右報告（通報）ス

［中略］

三渡航目的調

目的別＼区分	北支方面 内	北支方面 朝	北支方面 本	北支方面 計	上海方面 内	上海方面 朝	上海方面 本	上海方面 計	南支方面 内	南支方面 朝	南支方面 本	南支方面 計
就職							八	八	三		二	五
父ニ卜同居ノタメ							四	四	一		三	四
父ニ子ヲ尺ト同居ノタメ							一	一	一			一
南支慰安所就業婦									三一	二二	五三	五三
石所料理屋経営									一	二	、	三
石所従業員									五	、	四	九
蔵種商手傳					二			二			一	一
炊事技術ノタメ									一	一	一	三
商業視察					二		九	一一	二	、	一一	一三
商用ノタメ							二	二	一	、	六	七
自動車業経営							一	一			五	五
通報会社支店勤務							一	一				
食堂給仕							一	一				
旅館経営											三	三
薬局生ト子							一	一				
校僕						、	二	二				
前支洽連司令部報導											一	一
古物商経営											一	一
新経業経営											一	一
商務経営ニ志願											二	二

[以下略]

（秘）新警高秘外第一一〇三號
昭和十四年二月十五日
新竹州知事　林田正治

台湾總督小林躋造殿
各州知事廳長殿
總督官房外務部長殿

渡支取締ニ關スル件

昭和十四年一月中ニ於ケル身分證明書並ニ渡航證明書發給狀況左表ノ通リニ有之候条右報告（通報）ス

［中略］

二、渡航別表

区分 / 地方別	初渡航 内地人	初渡航 朝鮮人	初渡航 本島人	初渡航 計	再渡航 内地人	再渡航 朝鮮人	再渡航 本島人	再渡航 計
北支方面	、	、	一	一	、	、	二	二
上海方面	一	、	二一	二二	、	、	六	六
南支方面	一二	一	一四一	一五四	一	、	三	四
計	一三	一	一六三	一七七	一	、	一一	一二
累計	一三四	五五	三二六	六一五	一九	一	一七六	一九六

三、渡航目的調

区分 / 目的別	北支方面 内	北支方面 朝	北支方面 本	北支方面 計	上海方面 内	上海方面 朝	上海方面 本	上海方面 計	南支方面 内	南支方面 朝	南支方面 本	南支方面 計
南支治遠軍慰問	、	、	、	、	、	、	、	、	一	、	一	二
酌婦	、	、	、	、	一	、	、	一	三	、	、	三
視察	、	、	、	、	、	、	七	七	一	、	九	一〇

累計	計	建築大工	醫業	訪問	サフエー経営	被傭	商用	就職	家族ト同居	飲食店経営	安所従業員
四	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
一	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
二〇	三	、	二	、	、	、	一	、	、	、	、
二五	三	、	二	、	、	、	一	、	、	、	、
三七	一	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
一九二	二六	、	一	一	、	二	五	八	二	、	、
二二九	二七	、	一	一	、	二	五	八	二	、	、
九七	一一	、	、	、	、	、	一	、	、	三	
五五	一	、	、	、	、	、	、	、	一	、	、
二八二	一三九	九六	、	一	四	九	四	一	五	六	三
四三四	一五一	九六	、	一	四	九	五	一	六	九	五

（〜）

（秘）新警高秘外第一九二號
昭和十四年三月十七日
新竹州知事　林田正治

臺灣總督小林躋造殿
各州知事廳長殿
總督官房外務部長殿

渡支取締ニ關スル件

昭和十四年二月中ニ於ケル身分證明書並ニ渡航證明書發給狀況別表ノ通リニ有之候条

［中略］

三、渡航目的調

區分	目的別	皇軍慰問	商用	慈安所就業	視察	女給	大工	雜役	医業	夜族同棲	就職	親類訪問	被傭	演劇	産婆	級任			計	累計
北支方面	內地人	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、			、	四
	朝鮮人	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、			、	一
	本島人	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、			、	二〇
	計	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、			、	二五
上海方面	內地人	一	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、			一	三八
	朝鮮人	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、				
	本島人	、	五	、	二	、	、	一	一	、	一	、	四	、	、	一	、		一五	二〇七
	計	一	五	、	二	、	、	一	一	、	一	、	四	、	、	一			一六	二四五
南支方面	內地人	、	三	三	二	四	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、			一二	一〇九
	朝鮮人	、	一	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、			一	五六
	本島人	一	一七	三	六	、	六	二	三	三	六	五	五	五	一	、			六三	三四五
	計	一	二一	六	八	四	六	二	三	三	六	五	五	五	一	、			七六	五〇〇

⑬—5 渡支取締ニ関スル件 〔新竹州知事〕（昭14・4・19）

渡新警高秘外第二、三五二號

昭和十四年四月十九日

新竹州知事林田正治

臺灣總督殿

總督官房外務部長殿

各州知事廳長殿

渡、支取締ニ関スル件

昭和十四年三月中ニ於ケル身分證明書並ニ渡航證明書發給状況、渡航別表及渡航目的調別表ノ通ニ有之候条

右報告一通報一ス

〔中略〕

三、渡航別表

地方別区分	初渡航				再渡航			
	内地人	朝鮮人	本島人	計	内地人	朝鮮人	本島人	計
北支方面			一三	一二				
上海方面	三		六一	六四			一	一
南支方面	三八	一	六二	一〇一			五	五
計	四一	一	一三五	一七七			六	六
累計	一八五	五七	五一一	八五三	二二	一	三一八	三五一

三、渡航目的調

目的別区分	北支方面			上海方面			南支方面		
	内地人	朝鮮人	本島人	内地人	朝鮮人	本島人	内地人	朝鮮人	本島人
皇軍慰問									
商用				二	一	五	一七	三	一五
慰安所就業							二	一	一八

[以下略]

秘

新警高秘外第六六五之弐ノ一
昭和十四年八月二十二日
新竹州知事 一番ヶ瀬佳雄

警務局長各州知事廳長
總督官房外務部長
各郡守警察署長 殿殿殿

渡支取締方ニ関スル件

昭和十四年七月中ニ於ケル渡航身分證明書並ニ外國旅券發給狀況別表ノ通リニ有之候条
右通報（牒）ス

［中略］

三、渡航目的調

七月分

目的別	巳分	視察	家族同棲	就職	被傭	雜貨商	女給	吳服商	大工	軍慰安所	煮芽油販賣
北支方面	內地人	一					一				
	朝鮮人										
	本島人	一	三	一							
	計	二	三	一			一				
上海方面	內地人		一	一							
	朝鮮人										
	本島人	一	六	五		二					一
	計	一	七	六		二					一
南支方面	內地人	一	三	三	五			一	二	一	
	朝鮮人									四	
	本島人	六	一六	六〇	一四				一	四	
	計	七	一九	六三	一九			一	二	九	

[以下略]

⑬—7 渡支取締方ニ関スル件［新竹州知事］（昭14・9・12）

秘

新警高秘外第七二二九號
昭和十四年九月十二日
新竹州知事　一番ヶ瀬佳雄

警務局長各州知事廳長殿
總督官房外務部長殿
各郡守警察署長殿

渡支取締方ニ関スル件

昭和十四年八月中ニ於ケル渡航身分證明書並ニ外國旅券発給状況別表ノ通リニ有之候条右通報（牒）ス

［中略］

三、渡航目的調

八月分

目的別	巳分	視察	家族同棲	就職	被傭	雜貨商	酌婦女給	大工	軍慰安所	家事打合
北支方面	內地人									一
	朝鮮人									
	本島人				一					
	計				一					一
上海方面	內地人			二						一
	朝鮮人									
	本島人	四	八	七	一	二				一
	計	四	八	九	一	二				二
南支方面	內地人	二		三					六	
	朝鮮人						五		五	
	本島人		五	五	六	四		一		三
	計	二	五	五三	六	四	五	一	一一	三

運輸業	貴藥商	煉瓦職工	帽子商	看護婦		計	累計
一	一					一	七
一							一
						一	六
						二	五
						三	五
							一
						二四	三八
				一		二七	四三八
						一一	二五
						一〇	六四
一	一	一四	一			八六	八〇八六
一	一	一四	一			二七	八〇八七

（秘）新警高秘外第八〇八九號
昭和十四年十月十二日
新竹州知事　一番瀬佳雄

警務局長各州知事廳長殿
總督官房外務部長殿
各憲兵隊長警察署長殿

渡支取締方ニ関スル件

昭和十四年九月中ニ於ケル渡航自分ニ
明書並ニ外國旅券發給狀況別表ノ通リ
ニ有之候條

［中略］

三渡航目的調

九月分

目的別 / 區分		祖家	家族同棟	就職	被傭	雜貨商	酌婦(女給)	養鷄業	經營	軍慰安所	家事打合	運輸業
北支方面	內地人			一								
	朝鮮人											
	本島人		一	二								
	計		一	三								
上海方面	內地人		一		一							
	朝鮮人											
	本島人		二	七	五	四						二
	計		三	七	六	四						二
南支方面	內地人		四	五						一	三	
	朝鮮人						三			一		
	本島人	一	九	二二	四	三		一			一	
	計	一	一三	二七	四	三	三	一		二	四	

				累計	計	測量師	就學	飲食店カフエー經營	商用	軍通譯	（產婆）
				九	二				一		
				一							
				五二	五	一	一				
				六二	七	一	一		一		
				五三	二						
				四〇九	二二					一	一
				四六二	二四					一	一
				二二九	一四				一		
				七八	四						
				八五八	五〇	一		一	一	五	一
				二七五	六八	一		一	二	五	一

［中略］

（秘）新警高秘外第八七二七號
昭和十四年十一月十三日
新竹州知事 一番ヶ瀬佳雄

警務局長各州知事廳長殿
總督官房外務部長殿
各郡守 警察署長殿

渡支取締方ニ關スル件

昭和十四年十月中ニ於ケル渡航身分證明書並ニ外國旅券發給狀況別表ノ通リ
ニ有之候条

三、渡航目的調

目的別＼区分	北支方面				上海方面				南支方面			
	同地人	朝鮮人	本島人	計	同地人	朝鮮人	本島人	計	同地人	朝鮮人	本島人	計
視察									二	、	、	二
家族同棲					、	、	三	三	一	、	五	六
就職			一	一	、	、	九	九	、	、	二〇	二〇
被傭									、	、	三	三
雜貨商						、	一	一	、	、	三	三
慰安所									一	四	、	五
自動車運転手									、	、	三	三
農業経営									、	、	一	一
看護婦									一	、	、	一
飲食店[illegible]人、[illegible]					、	、	一	一	二		一	三

單屬	家事打合	時計商	皇軍慰問	俘委會 殿國	日本通運會 北々員	石洞ノンク 工事監督	松原産業費		計	更小計
									、	九
									、	一
									一	五三
									一	六三
	、				一				一	五四
	、				、				、	、
	三				、				一七	四二六
	三				一				一八	四八〇
、		、	、	、		一	三		一一	二五〇
、		、	、	、		、	、		四	八二
五		一	一	一		、	、		四四	九〇二
五		一	一	一		一	三		五九	一二三四

以上

秘　新警高第九四〇二號
昭和十四年十二月十三日
新竹州知事　一番瀬佳雄

警務局長各州知事廳長殿
總督官房外務部長殿
各郡守警察署長殿

渡支取締方ニ関スル件

昭和十四年十一月中ニ於ケル渡航身分證明書並ニ外國旅券發給狀況別表ノ通リニ有之候条

［中略］

三渡航目的調

区分 / 目的別	家族同樣	就職	被傭	賣藥行商	農業不經營	病氣看護	料理人	米穀商	軍慰安所	會社業務
北支方面 內地人	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
北支方面 朝鮮人	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
北支方面 本島人	、	四	、	、	、	、	、	、	、	、
北支方面 計	、	四		、	、	、	、	、	、	、
上海方面 內地人	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
上海方面 朝鮮人	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
上海方面 本島人	一	二	、	、	、	、	、	一	、	、
上海方面 計	一	二	、	、	、	、	、	一	、	一
南支方面 內地人	一	一	一	、	、	、	、	、	、	、
南支方面 朝鮮人	、	、	、	、	、	、	三	、	二〇	、
南支方面 本島人	一四	二九	一二	一	一	一	三	、	、	、
南支方面 計	一五	三〇	一三	一	一	一	六	、	二〇	一

累計	計			酌婦	料理屋	婦伎	醫師醸造	就學	家事打合	單屬	皇軍慰問
九	、			、	、	、	、	、	、	、	、
一	、			、	、	、	、	、	、	、	、
五七	四			、	、	、	、	、	、	、	、
六七	四			、	、	、	、	、	、	、	、
五四	、			、	、	、	、	、	、	、	、
、	、			、	、	、	、	、	、	、	、
四三一	五			、	、	、	、	、	一	、	、
四八五	五			、	、	、	、	、	一	、	、
二五七	七			、	、	、	、	、	一	、	二
一一一	二九			五	一	、	、	、	、	、	、
九八一	七九			、	、	一	一	一	二	一三	、
一三四九	一一五			五	一	一	一	一	三	一三	二

秘

新警高秘外第二六四號

昭和十五年一月十五日

新竹州知事　一番ヶ瀬佳熊

警務局長各州知事廳長殿
總督官房外務部長殿
各部守警察署長殿

渡支取締方ニ關スル件

昭和十四年十二月中ニ於ケル渡航身分證明書並ニ外國旅券發給狀況別表一通リニ有之候条

［中略］

三、渡航目的調

十二月分

目的別＼已分	北支方面				上海方面				南支方面			
	日地人	朝鮮人	本島人	計	日地人	朝鮮人	本島人	計	日地人	朝鮮人	本島人	計
就職			一	一			一	一	二	、	三三	三五
食虐經營									一	、	二	二
軍慰安所手傳									一	、	、	一
復歸			一	一					、	、	一	一
賣掛代金回收									、	、	一	一
被傭							三	三	、	、	一五	一五
令拓從業員									、	、	二	二
軍政事夫									、	、	八	八
幸屬							一	一	、	、	七	七
家族同樣							四	四	、	、	二五	二五

累計	計			帽子商經營	貸人力車營業經營	鳴頂機械科販賣店經營	海產物商經營	商業視察	海軍打合	貿易商經營	就學
九	、										
一	、										
六三	六										四
七三	六										四
五四	、					、					
、	、										
四四一	一〇					一					
四九五	一〇					一					
二六一	四			、	、		、	、	、	、	
一一一	、			、	、		、	、	、	、	
一〇八二	一〇一			一	一		一	一	二	一	
一四五四	一〇五			一	一		一	一	二	一	

秘

新警高秘外第一〇二號
昭和十五年二月十六日
新竹州知事　一番ヶ瀬佳雄

警務局長各州知事廳長殿
總督官房外務部長殿
各郡守警察署長殿

渡支取締方ニ関スル件

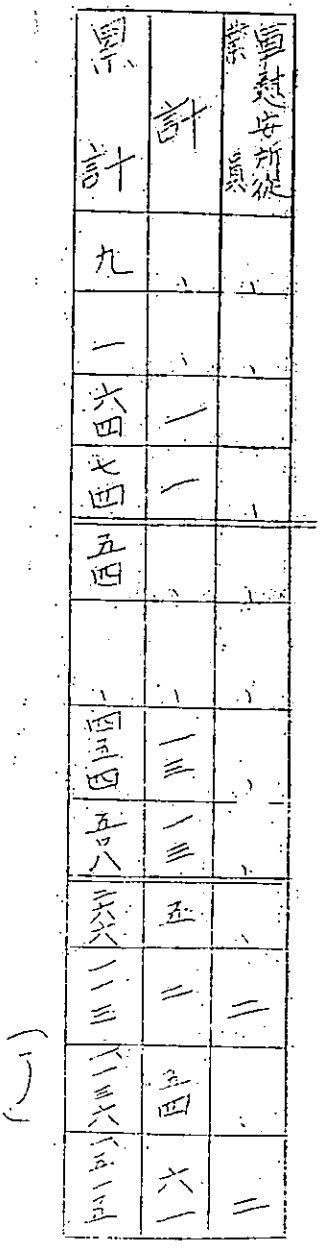
昭和十五年一月中ニ於ケル渡航身分證明書並ニ外國旅券發給狀況別表通

［中略］

三渡航目的調

目的別＼区分		就職	被傭	歸任	家族同接	農林業調査	訪問	視察	就學	商用
北支方面	內									
	朝									
	本	一								
	計	一								
上海方面	內									
	朝									
	本	六	二	一	二		一		一	
	計	六	二	一	二		一		一	
南支方面	內	一	二			一		一		
	朝									
	本	三一	五	二	九	五		一		一
	計	三二	七	二	九	六		二		一

軍慰安所從業員	計	累計
		九
		一
	一	六四
	一	七四
		五四
	一三	四五四
	一三	五〇八
	五	二六六
二	二	一一三
	五四	一一三六
二	六一	一五一五



⑭-1 渡支取締方ノ件【台中州知事】（昭14・1・17）

（秘）中警高秘外第二六七號
昭和十四年一月十七日
台中州知事　松岡一衛

台湾總督殿
各州知事廳長殿
各郡守警察署長殿

渡支取締方ノ件

昭和十三年十月中當州ニ於テ渡航身分證明書並外國旅券發給（本島人）狀況別表ノ通リニ有之候條

［中略］

局務警
14.1.18
第 926 號
諜安係

三、渡航目的調

目的別＼区分		北支方面	上海方面	南支方面
就職	邦人	一	六	一五
	朝鮮人			
	台湾人	一	二七	三八
	計	二	三三	五三
	累計	四三	一二九	一五七
戦塵整理	邦人			
	朝鮮人			
	台湾人			
	計	一	六	四
	累計			
視察訪問	邦人	五		
	朝鮮人			
	台湾人		三	二
	計	五	三	六
	累計			
商業	邦人		一	
	朝鮮人			
	台湾人	二	七	一七
	計	二	八	一七
	累計	三八	四五	二九
商業視察	邦人	一		
	朝鮮人			
	台湾人	一四	一七	四九
	計	一五	一七	五二
	累計	五五	五三	一八九
家族引揚	邦人			
	朝鮮人			
	台湾人			
	計			
	累計			一
医院開業	邦人			
	朝鮮人			
	台湾人		一	一
	計		一	一
	累計	五	二	八
公務出張	邦人			
	朝鮮人			
	台湾人			
	計			
	累計	一		二
物産経営	邦人			
	朝鮮人			
	台湾人			
	計			
	累計	二	一	一九
夫ト同棲	邦人			
	朝鮮人			
	台湾人			
	計			
	累計	九	二〇	四〇

累計	計	医業視察	病氣見舞	皇軍慰問	修學	知人訪問	工業視察	布教	復職ノタメ	農業視察	慰安所從業員	自動車業視察	家族訪問
二三	二	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
二一	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
一三二	一八	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	一
一八六	二〇	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	一
一八六	一八六	一	一	一	一	三	二	、	、	一	、	六	一〇
七五	一二	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
二	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
一九六	五七	、	、	、	、	、	、	、	、	一	、	、	、
二七三	六九	、	、	、	、	、	、	、	、	一	、	、	、
二七三	二七三	、	二	一	一	三	一	、	、	二	、	四	、
九二	二二	、	、	、	、	、	、	、	、	、	二	、	一
一四二	五七	、	、	、	、	、	、	、	、	、	五七	、	、
五九八	一三五	、	、	、	、	二	、	、	、	三	一六	、	四
八三〇	二一四	、	、	、	、	二	、	、	、	三	七五	、	五
八三〇	八三〇	、	、	一	、	二	一	二	一二五	八	一三二	六	八

秘 中警高秘外第一二四號

昭和十四年 二月十三日

台中州知事 松岡一衛

臺灣總督 殿
各州知事廳長 殿
各郡守警察署長 殿

渡支取締方ノ件

昭和十四年一月中當州ニ於テ渡航身分証明書竝外国旅券交付（本島人）状況別表ノ通リ二有之候條、〔中略〕

三 渡航目的調

区別	目的別	就職	財産整理	親族訪問	商業	商業視察	家族引揚	医院開業	公務出張
北支方面	内地人	2	、	、	、	、	、	、	、
	朝鮮本島人	7	、	、	3	4	、	、	、
	計	9	、	、	3	4	、	、	、
	累計	52	1	5	41	59	、	5	1
上海方面	内地人	9	、	、	1	、	、	、	、
	朝鮮本島人	、	、	、	、	、	、	、	、
	計	11	、	、	2	18	、	、	、
	累計	20	、	、	3	18	、	、	、
		149	6	3	48	71	、	2	、
南支方面	内地人	4	、	、	1	4	、	、	、
	朝鮮本島人	、	、	、	1	、	、	、	、
	計	25	、	、	24	22	、	、	、
	累計	29	、	、	25	26	、	、	、
		186	4	1	145	215	1	8	2

累計	計						医業視察	病気見舞	皇軍慰問	修學	知人訪問	工業視察	布教	復飯ノタメ	農業視察	慰問所従業員	自動車業視察	家族訪問	夫ト同棲	料理屋経営
35	2																			
21																				
154	22																		8	
210	24																		8	
210	210						1	1	1	1	3	2			1		6	10	17	3
86	11																		1	
2																				
232	36																	1	4	
320	47																	1	5	
320	320							2	1	1	3	1			2		4	1	25	1
102	10							1												
143	1																			
676	80										1								8	
921	91							1			1								8	
921	921							1	1			1	2	125	8	132	6	8	48	19

中警高秘外第六八〇號
昭和十四年三月十一日
台中州知事 松岡一衛

臺灣總督殿
各州知事廳長殿
各郡守警察署長殿

渡支取締方ノ件

昭和十四年二月中當州ニ於テ渡航身分証明書並外国旅券発給（本島人）狀況左記ノ通リニ有之候條

記

臺灣總督官房

[中略]

三渡航目的調

目的別 / 區分		就職	財產整理	親族訪問	商業	商業視察	家族引揚	医院用業	公務出張	料理屋經營
北支方面	內									
	朝									
	本	3			2	9				
	計	3			2	9				
	累計	55	1	5	43	68		5	1	3
上海方面	內	4								
	朝									
	本	10			5	22				
	計	14			5	22				
	累計	163	6	3	53	93		2		1
南支方面	內	22			9	3				
	朝	10			2					
	本	20			20	34				
	計	52			81	37				
	累計	238	4	6	176	252	1	8	2	19

累計	計	飯任	演劇	医業視察	病気見舞	皇軍慰問	修学	知人訪問	工業視察	布教	復旧ノタメ	農業視察	慰安所従業員	自動車業視察	家族訪問	夫ト同棲
35																
21																
174	20	1														5
230	20	1														5
230	230	1		1	1	1	1	3	2			1		6	10	2
94	8															4
2																
281	49				1											11
377	57				1											15
377	377				3	1	1	3	1			2		4	1	4
139	37					1										2
158	15												3			
766	90		3		1								1		3	8
1063	142		3		1	1							4		3	1
1063	1063		3		2	2		3	1	2	125	8	136	6	11	5

日本標準規格 B列4号 257×354mm

秘 中警高秘外第二九五五號

昭和十四年四月十八日

台中州知事 松岡一衛

台湾總督殿

各州知事廳長殿

各郡守警察署長殿

渡支取締方ノ件

昭和十四年三月中當州ニ於テ渡航身分證明書並ニ外國旅券發給申請人ノ狀況別表ノ通リニ有之候条右報告通報候ス

[中略]

三渡航目的調

目的別	区分	就職	財産整理	親族訪問	商業	商業視察	家族引揚	医院開業	公務出張	料理屋営業
北支方面	内地人	一	丨	丨	丨	一	丨	丨	丨	丨
	朝鮮人	丨	丨	丨	丨	丨	丨	丨	丨	丨
	本島人	二	丨	二	五	六	丨	丨	丨	丨
	計	三	丨	二	五	七	丨	丨	丨	丨
	累計	五八	一	七	四八	七五	丨	五	一	三
上海方面	内地人	二	丨	丨	一	二	丨	丨	丨	丨
	朝鮮人	丨	丨	丨	丨	丨	丨	丨	丨	丨
	本島人	一八	丨	丨	一〇	三四	丨	丨	丨	丨
	計	二〇	丨	丨	一一	三六	丨	丨	丨	丨
	累計	一八三	六	三	六四	一二九	丨	二	丨	一
南支方面	内地人	四七	丨	丨	八	二	丨	丨	丨	一
	朝鮮人	九	丨	三	二	丨	丨	丨	丨	一
	本島人	七〇	丨	五	二四	六六	丨	丨	丨	丨
	計	一二六	丨	八	三四	六八	丨	丨	丨	二
	累計	三六四	四	一四	二一〇	三二〇	一	八	二	二一

夫ト同棲	家族訪問	自動車業視察	慰安所從業員	農業視察	復飯タメ	布敷	工業視察	知人訪問	修學	皇軍慰問	病気見舞
、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
六	、	、	、	、	、	、	、	、	一	、	、
六	、	、	、	、	、	、	、	、	一	、	、
六	一〇	六	、	一	、	、	二	三	二	一	一
、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
四	二	、	、	一	、	、	、	、	、	、	、
四	二	、	、	一	、	、	、	、	、	、	、
四四	三	四	、	三	、	、	一	三	一	一	三
六	二	、	、	、	、	、	三	、	、	、	、
三	、	、	三	、	、	、	、	、	、	、	、
一二	一〇	一	、	五	、	、	二	、	、	、	、
二一	一二	一	三	五	、	、	五	、	、	、	、
七九	二三	七	一三九	一三	一二五	二	六	三	、	二	二

〔以下略〕

⑭-5 渡支取締方ノ件［台中州知事］（昭14・5・22）

秘

中警高秘外第三八三四號ノ一

昭和十四年五月二十二日

臺中州知事 松岡一衛

警務局長 殿

總督官房外務部長 殿

各州知事廳長 殿

各郡守警察署長 殿

渡支取締方ノ件

昭和十四年四月中当州ニ於テ渡航身分證明書並ニ外國旅券發給（本島人）状況別表

臺灣總督府

共第五號

[中略]

三渡航目的調

区分	目的別	就職	財産整理	親族訪問	商業	商業視察	家族別場	医院開業	公務出張	料理屋経営	夫ト同棲	家族訪問	自動車業視察	慰安所従業員	農業視察	飯舞ノタノ	布教
北支方面	内	二				二											
	朝																
	本	八		四		二						一					
	計	一〇		四		四						一					
	累計	六八	一	一一	四八	七九		五	一	三	二八	一一	六		一		
上海方面	内	五			四	一					二	一					
	朝																
	本	一八		五	八	二四					八	一			一		
	計	二三		五	一二	二五					一〇	二			一		
	累計	二〇六	六	八	七六	一五四		二		一	五四	五	四		四		
南支方面	内	二一				五					四	七					
	朝				一						一			一			
	本	一〇五		三	一〇	四〇					二六	二			三		
	計	一二六		三	一一	四五					三一	九		一	三		
	累計	四九〇	四	一七	二二一	三六五	一	八	二	二一	一一〇	三二	七	一四〇	一六	一二五	二

[以下略]

秘 中警高秘外第四三二號
昭和十四年六月十二日
台中州知事 松岡三衛

警務局長 殿
外務部長 殿
各州知事廳長 殿
各郡守警察署長 殿

渡支取締方ノ件

昭和十四年五月中當州下各郡署ニ於ケル首題ノ件別表ノ通リニ有之候條

三渡航目的調

区分	目的別	就職	財産整理	親戚訪問	商業	商業視察	家族引揚	医院開業	公務出張	料理屋經營	夫卜同棲	家族訪問
北支方面	内				1	1						
	朝											
	本	4			6	21						6
	計	4			7	22						6
	累計	72	1	11	55	101		5	1	9	28	17
上海方面	内	2			2	1					1	
	朝											
	本	19		5	12	16					18	5
	計	21		5	14	17					19	5
	累計	227	6	13	90	171		2		1	73	10
南支方面	内	36		1	6	7					9	1
	朝	2										
	本	128		2	39	57				1	31	7
	計	166		3	45	64				1	40	8
	累計	656	4	20	266	429	1	8	2	22	150	40

累計	計	通訳	隨行	皈任	演劇	医業視察	病氣見舞	皇軍慰問	修學	知人訪問	工業視察	布教	復皈爲メ	農業視察	慰安所從業員	交通業視察
143	2															
21																
256	45								3		2			2		1
320	47								3		2			2		1
320	320			1		1	1	1	5	3	4			3		7
119	6															
2																
505	85	2				1			1		5					1
626	91	2				1			1		5					1
626	626	2	1			4	3	1	2	3	8			4	0	5
324	62							2								
184	2															
1455	301								23		3			3	7	
1963	365							2	23		3			3	7	
1963	1963			1	3		2	21	26	3	9	2	125	19	147	7

日本標準規格 [illegible] 257×364mm

⑭-7 渡支取締方ノ件［台中州知事］（昭14・7・18）

中警高秘外第六一三五號

昭和十四年七月十八日

臺中州知事　松岡一衛

警務局長殿
外務部長殿
各州知事廳長殿
各郡守警察署長殿

渡支取締方ノ件

昭和十四年六月中當州下各郡署ニ於ケル首題ノ件別表ノ通リニ有之候條

右通報（牒）ス

［中略］

三、渡航目的調

区分 / 目的別	北支方面				上海方面				南支方面			
	内地人	朝鮮人	本島人	計	累計	内地人	朝鮮人	本島人	計	累計	内地人	朝鮮人	本島人	計	累計
就職	一	〃	七	八	八〇五	〃	〃	一八	二三	二五〇	九	二	六二	七四	七三〇
財産整理	〃	〃	〃	〃	一	〃	〃	一	一	七	一	〃	〃	一	二
親戚訪問	二	〃	〃	二	一三	二	〃	三	六	一八	二	〃	一二	一四	三四
商業	一二	〃	三	三	九八	一	〃	一二	一三	一〇三	二	一	二九	三八	三〇四
商業視察	〃	〃	六	六	一〇七	〃	〃	一四	一四	一八五	四	一	一七	二二	四五一
求族引揚	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	一
医院開業	〃	〃	〃	〃	九	〃	〃	〃	〃	二	〃	〃	〃	〃	八
公務出張	〃	〃	〃	〃	一	〃	〃	〃	〃	〃	二	〃	二	四	六
料理屋経営	〃	〃	〃	〃	三	〃	〃	〃	〃	一	〃	〃	〃	〃	二二
夫ト同棲	〃	〃	一	一	二九	三	〃	四	七	八〇	八	〃	三	一一	一六二
家族訪問	〃	〃	〃	〃	一七	一	〃	九	六	一六	一	〃	二	四	四四
交通業視察	〃	〃	二	二	九	〃	〃	〃	〃	五	〃	〃	〃	〃	七

累計	計	通訳	随行	帰任	演劇	医業視察	病気見舞	皇軍慰問	修学	知人訪問	工業視察	布教	復帰ハタメ	農業視察	慰安所従業
四六	三	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
二一	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
二七六	二〇	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	一	〃	〃	〃	〃	〃
三四三	二三	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	一	〃	〃	〃	〃	〃
三四三	三四三	〃	〃	一	〃	一	一	一	五	四	四	〃	〃	三	〃
一三二	一三	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
二	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
五六二	五七	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
六九六	七〇	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
六九六	六九六	二	一	〃	〃	四	三	一	二	三	八	〃	〃	四	〃
三五四	三〇	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	一	〃	〃	〃	〃	〃	〃
一八八	四	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
一六〇〇	一四九	二	〃	〃	〃	一	〃	〃	三	〃	三	〃	〃	一	〃
二一四二	一七九	二	〃	〃	〃	一	〃	〃	四	〃	三	〃	〃	一	〃
二一四二	二一四二	二	〃	一	三	一	二	二一	三〇	三	一二	二	一二九	二〇	一四七

⑭—8 渡支取締方ノ件［台中州知事］（昭14・8・11）

［中略］

秘

中警高秘外第六二七一號
昭和十四年八月十一日
台中州知事　松岡一衛

警務局長殿
外務部長殿
各州知事廳長殿
各郡守警察署長殿

渡支取締方ノ件

昭和十四年七月中當州下各郡署ニ於ケル首題ノ件別表ノ通リニ有之候條
右通報（諜）ス

三、渡航目的調

区分	目的別	就職	就産整理	親戚訪問	商業	商業視察	家族引揚	医院開業	公務出張	料理屋経営	夫ト同棲	家族訪問	交通業視察
北支方面	内地人	五	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
	朝鮮人	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
	本島人	二	一	一	二	一	一	一	一	一	一	一	一
	計	七	一	一	二	二	一	一	一	一	二	一	一
	累計	八七	一	一四	六〇	一〇九	一	五	一	三	三一	一八	九
上海方面	内地人	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
	朝鮮人	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
	本島人	一四	一	三	四	二	一	一	一	一	一	三	一
	計	一五	一	三	四	三	一	一	一	一	一	三	一
	累計	二六五	七	二二	一〇七	一八八	一	二	一	一	八一	一九	五
南支方面	内地人	一五	一	一	三	二	一	一	一	一	六	八	一
	朝鮮人	三	一	一	一	一	一	一	一	一	二	一	一
	本島人	四二	一	六	一二	四	一	一	一	一	九	一二	一
	計	六〇	一	七	一五	六	一	一	一	一	一七	二〇	一
	累計	七九〇	五	四一	三一九	四五七	一	九	七	二三	一七八	六四	七

慰安所従業婦	農業視察	領事ノタノ	布教	工業視察	知人訪問	修學	皇軍慰問	病兵見舞	医業視察	演劇	帰性	随行	通訳	理髪業経営	計	累計
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	九	九五
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	二一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	八	二八四
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一七	三八〇
一	四	一	一	五	四	九	一	一	一	一	一	一	一	一	三八〇	三八〇
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	二	一五四
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	二
一	一	一	一	一	一	二	一	一	一	一	一	一	一	一	三一	五九二
一	一	一	一	一	一	二	一	一	一	一	一	一	一	一	三三	七二九
一	五	一	一	九	五	四	一	三	四	一	一	一	二	一	七二九	七二九
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	三八	三九二
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一九九
一	一	一	一	一	一	一	一	三	一	一	一	一	三	一	九五	二六九
一	一	一	一	一	一	一	二	三	一	一	二	一	三	一	一四四	三八六
一	一	一	一	一	三	二	一	九	一	三	三	一	五	一	三八	三八八

秘

中警高秘外第七二五五號
昭和十四年十月十二日
臺中州知事 松岡一嚞

警務局長殿
外務部長殿
各州知事廳長殿
各郡守警察署長殿

渡支取締方ノ件

昭和十四年七月中當州下各郡署ニ於ケル首題ノ件別表ノ通リニ有之候條
右通報〔牒〕ス

【中略】



三、渡航目的調

目的別	北支方面			上海方面			南支方面		
	内地人	朝鮮人	本島人	内地人	朝鮮人	本島人	内地人	朝鮮人	本島人
就職	一	一	二	一	一	一三	一二	三	五〇
計	一	一	二	一	一	一三	一三	三	五〇
商業	一	一	一	一	一	四	一	一	四
料理屋経営	一	一	一	一	一	一	二	一	一
夫ト同棲	一	一	一	一	一	九	五	二	八
家族訪問	一	一	一	一	一	二	一	一	二
写真業経営	一	一	一	一	一	一	一	一	一
交通業視察	一	一	一	一	一	一	一	一	一
計	一	一	二	一	一	一三	一二	三	五〇

慰安并從業員	農業視察	果樹苗採取	工業視察	修學	帰社	興業	通譯	計
一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	五
一	一	一	一	一	一	一	一	六
一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	三二
一	一	一	一	一	一	一	一	三三
一	一	一	一	一	一	一	一	二二
一〇	一	一	一	一	一	一	一	一六
一	一	一	一	六	一	一	一	七七
一〇	一	一	一	六	一	一	一	二五

⑭-10 渡支取締方ノ件［台中州知事］（昭14・12・9）

秘

中警高秘外第八六〇一號ニ

昭和十四年十二月12日

台中州知事　松岡一衛

警務局長外務部長　殿

各州知事廳長　殿

各郡守警察署長　殿

渡支取締方ノ件

昭和十四年十一月中當州下各郡署ニ於ケル首題ノ件別表ノ通リニ有之候條

右通報（牒）ス

［中略］

三、渡航目的調

目的別＼区分	北支方面				上海方面				南支方面			
	内地人	朝鮮人	本島人	計	内地人	朝鮮人	本島人	計	内地人	朝鮮人	本島人	計
就職					三		七	一〇	五		三〇	三五
親戚訪問											二	二
商業							三	三	一		五	六
商業視察											一	一
業務督励											一	一
社務出張					一		一	二	三			三
料理屋経営											四	四
夫ト同棲			二	二					一八		一七	三六
永住訪問									一		一七	一七

交通業視察	慰安所従業婦	復帰ノタメ	遺骨受領	修學	皇軍慰問	病気罷免	帰仕	株式總會出席	軍通訳		計
											一
							二				九
				一			二				五
											五
							二				一六
							二				二一
	一				一		一				三〇
	五三										五八
一		一	二	一		二	四	一	二		七七
	五四	一	二	一	一	二	五	一	二		一六九

［中略］

秘

中警高秘外第三一四號ノ一

昭和十五年一月十七日

臺中州知事 奥田達郎

警務局長 外務部長 殿

各州知事 廳長 殿

各郡守 警察署長 殿

渡支取締方ノ件

昭和十四年十二月中當州下各郡署ニ於ケル首題ノ件別表ノ通リニ有之候条

三　渡航目的調

区分 / 目的別	北支方面				上海方面				南支方面			
	内地人	朝鮮人	台湾人	計	内地人	朝鮮人	台湾人	計	内地人	朝鮮人	台湾人	計
就職	二		七	九			二〇	二〇	七		四七	五四
財産整理												
親戚訪問									一		二	三
商業							三	三	一		二七	二八
商業視察							二	二			二	二
家族介護												
医院開業							一	一			二	二
在務出張	一			一					二			二
料理屋経営											二	二
天ト同棲		四		四			一五	一五	一七		三一	四八
家族訪問											四	四

交通業視察	慰安所從業員	慰安所經營	復歸ノ夕メ	向副業經營	工業視察	知人訪問	修學	皇室慰問	病院見舞	巡業視察	演劇	歸任	酒小從業員	軍通訴	計
															三
							六				一				一八
							六				一				二一
			一	一			一								四四
			一	一			一								四四
						一		一八				一			四〇
	一一														一一
		一	一	一	一		一		四			一一	二	二	一三二
	一一	一	一	一	一	一	一	一八	四			二	二	二	一八三

⑭—12 渡支取締方ノ件［台中州知事］（昭16・8・18）

秘 中警高秘外第六一四號

昭和十六年八月十八日

台中州知事 森田俊介

警務局長 各州知事 廳長 殿

臺灣總督府外事部長 殿

各郡守 警察署長 殿

渡支取締方ノ件

昭和十六年七月中ニ於ケル首題ノ件別表ノ通リニ有之候條

［中略］

右通報（縣）ス

渡航目的調

目的地＼區分	北支方面 内地人	北支方面 朝鮮人	北支方面 本島人	北支方面 計	上海方面 内地人	上海方面 朝鮮人	上海方面 本島人	上海方面 計	南支方 内地人	南支方 朝鮮人	南支方 本島人	南支方 計
就職	二	〃	三	五	〃	〃	八	八	六	〃	一〇六	一一五
同伴	〃	〃	二	二	二	〃	五	七	一六	〃	五七	七三
商業經營	〃	〃	〃	〃	〃	〃	二	二	〃	〃	三	三
興亞院工事從事ノタメ	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	一四	一四
慰安所從業	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	七	〃	七
歸任ノ爲	〃	〃	一	一	〃	〃	二	二	〃	〃	五	五
病氣看護ノ	〃	〃	〃	〃	〃	〃	一	一	〃	〃	〃	〃
台托從業員トシテ	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	三〇	三〇
遺產整理並ニ遺骨受領	〃	〃	〃	〃	〃	〃	一	一	〃	〃	〃	〃
其他	〃	〃	〃	〃	〃	〃	一	一	一	〃	二	二
計	二	〃	六	八	二	〃	二〇	二二	二三	七	二一七	二四七

高警高秘外第一二八ノ弐

昭和十四年二月十四日

高雄州知事　赤堀鐵吉

台湾総督殿

各郡守警察署長殿

渡支取締ニ関スル件

首題一月分別表ノ通リ

右報告（通牒）ス

［中略］

三、渡航目的調

目的別	北支方面			上海方面			南支方面			累計
	内地人	朝鮮人	本島人	内地人	朝鮮人	本島人	内地人	朝鮮人	本島人	
視察				二			四			四
軍隊向							三			三
商業							五	六		一一
料理店飲食店業	一			一			七	二		九
親族ノ許ニ居ル	二			一			三			三
従軍記者							一			一
新聞雑誌通信員							一七	一		一八
学生生徒							二二	二		二五
旅館給仕							一			一
就職				七			二八			二八
其他							三			三
計	二			一一			一〇四	一二		一一六
累計	二			一一			一〇四	一二		一一六

［中略］

高警高秘外第二、二八二號ノ一
昭和十四年三月二十二日

高雄州知事　赤堀鐵吉

台湾総督　殿
各郡守警察署長　殿

渡支取締ニ関スル件

首題ノ件三月分別表ノ通リ
右報告（通牒）ス

三渡航目的調

目的別＼区分	北支方面			上海方面			南支方面		
	内地人	朝鮮人	其他人 計	内地人	朝鮮人	其他人 計	内地人	朝鮮人	其他人 計
視察			六 六	一		四四 四五			一四二 一四二
皇軍慰問									
商業				二		一 一三	一		一 二 六九 八一
料理屋飲食店業							四	一	三 八
右従業員									二一 二一
軍慰安所関係							四六	四	五三 一〇三
酒保関係							一七		一七
運送事業関係							一四		一四
右仲仕、苦力									二〇 二〇
自動車修理関係									二六 三六
工場(旧工事関係)							五		九 一四
軍通譯									三 三
就職				九					一四 三四

[以下略]

（秘）高警高秘外第二八〇八號
昭和十四年四月十二日

高雄州知事 赤堀鐵吉

臺湾總督殿
各郡守警察署長殿

渡支取締ニ関スル件

首題ノ件三月分別表ノ通リ
右報告（通牒）ス

［中略］

三、渡航目的調

目的	已分	北支方面 内地人	北支方面 朝鮮人	北支方面 本島人	北支方面 計	上海方面 内地人	上海方面 朝鮮人	上海方面 本島人	上海方面 計	南支方面 内地人	南支方面 朝鮮人	南支方面 本島人	南支方面 計
視察		一	〃	〃	一	二	〃	二〇	二二	一五	〃	一一	二六
三軍慰問		〃	〃	〃		〃	〃	〃	〃	三	〃		三
商業		〃	〃	一	一	〃	〃	五	五	一〇	〃	二三	三三
行政官吏		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	五	〃	三	八
石從業員		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	一六	一	〃	一七
旅館業		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	七	〃	七	一四
軍慰安所下係		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	五八	〃	一七	七五
酒保下係		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	三	〃	四	七
運送事業		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	一	一
廉通譯		〃	〃	〃	〃	〃	〃	一	一	〃	〃	四	四
自動車修理		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	八	八
工場	從事者	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	一三	〃	六	一九

〔以下略〕

（秘）高警高秘外第三六七五號
昭和十四年五月十二日

高雄州知事赤堀鐵吉

台湾總督殿

各郡守警察署長殿

渡支取締ニ関スル件

首題ノ件四月分別表ノ通リ
右報告（通牒）ス

［中略］

三 渡航目的調

目的別＼巴分		視察	皇軍慰問	商業	料理屋飲食店營業	旅館營業干係	軍慰安所干係	運送干係	工場復旧作業及從業干係
北支方面	內地人	三	丨	丨	丨	丨	丨	丨	丨
	朝鮮人	丨	丨	丨	丨	丨	丨	丨	丨
	本島人	二	丨	丨	丨	丨	丨	丨	丨
	計	五	丨	丨	丨	丨	丨	丨	丨
上海方面	內地人	三	丨	丨	丨	丨	丨	丨	丨
	朝鮮人	丨	丨	丨	丨	丨	丨	丨	丨
	本島人	三	丨	四	丨	丨	丨	丨	丨
	計	一六	丨	四	丨	丨	丨	丨	丨
南支方面	內地人	二三	四	四	八	一七	二		一六
	朝鮮人	丨	丨	丨	丨	丨	一二	丨	丨
	本島人	三六	一	一九	五	丨	丨	一	八
	計	五九	五	二三	一三	一七	一四	一	二四

〔以下略〕

高警高秘外第四六三二號
昭和十四年六月十三日

秘

高雄州知事 赤堀鐵吉

臺灣總督殿
各郡守警察署長殿

渡支取締ニ関スル件

首題ノ件五月分別表ノ通リ

右報告（通牒）ス

［中略］

北支方面	一八	七	一五		
上海〃	八				
南支〃	一〇四	二	一一〇	三	一
計	一二〇	三	一五〇	二七三	四一
累計	六九一	三九	九六七	一六九七	三	一	四一	四五

備考一、本表ハ渡航許可シタルモノノ数ヲ計上スルコト

二、再渡航ハ事変ニ依リ引揚ケタルモノノ再渡航セルモノヲ計上スルコト

三、渡航目的調

区分 / 目的別	内地人	朝鮮人	本島人	計
北支方面	三		二	五
上海方面	二			二
南支方面	一〇		二	一二
親族	四			四
	二一			二一
	二五			二五

皇軍慰問	商業	飲食店營業	店從業員	軍慰安所關係	旅館從業員	水道工事	軍施設工事從業員	軍通譯	裁縫業	親族知友訪問	就職
	三										一
										一	二
	三									一	三
	四							一			
			一				一				
	一二		一					四			四
	一六							五			四
二	三二	四	一〇	七	四	四	一	四	二	一	五
		一		一							
	二九	二	三	一			一〇	二	一	二	一一
二	六一	七	一三	九	四	四	一一	六	三	三	一六

〔以下略〕

高警高秘外第六。八六號
昭和十四年七月二十五日

高雄州知事　赤塚鐵吉

臺灣總督殿
各郡守警察署長殿

渡支取締ニ関スル件

首題ノ件六月分別表ノ通リ
右報告（通牒）ス

［中略］

区分	目的別	視察	農業	商業	右從業者	飲食店營業	右從業者	旅館營業	右從業者	軍通譯	軍慰安所二係	軍慰安所二係	軍慰安所二係	飲食業二係	運送業二係	上水二事千係	親族同居
北支方面	內地人				一	二											
	朝鮮人																
	本島人	一															一
	計	一			一	二											一
上海方面	內地人			一													
	朝鮮人																
	本島人	四	一	四										一			六
	計	四	一	五										一			六
南支方面	內地人	七		一〇	七	二	四	四	七		三			一五	四	四	七
	朝鮮人																
	本島人	一七	二	一三	六	五	四		二	四	一五	一		六	四	一	八
	計	二四	二	二三	一三	七	八	四	九	四	一八	一		二一	八	五	一五

〔以下略〕

高警高秘外第六九二四號
昭和十四年八月二十二日
（秘）
高雄州知事　赤堀鐵吉

臺灣總督官房
警務局長各州知事廳長殿
各郡守警察署長殿

渡支取締ニ関スル件

首題ノ件七月分別表ノ通
右報告（通報）（通牒）ス

［中略］

三、渡航目的調

区分	目的別	視察	商業	右從業員	飲食店營業	右從業員	單通譯
北支方面	內地人	一		二	一		
	朝鮮人						
	水島人	三	一				
	計	四	一	二	一		
上海方面	內地人	三	五				
	朝鮮人						
	水島人	七	七				
	計	一〇	一二				
南支方面	內地人	八	一二	九	三	四	三
	朝鮮人				一		
	水島人	一五	二〇	一九	二	一〇	八
	計	二二	三二	二八	六	一四	一一

計	其他	就職	親族ト同居	親族及知友等訪問	土木事業	運輸事業関係	鐵工事業関係	軍慰安所関係
一三		一		八				
一二	一	二		四		一		
二五	一	三		一二		一		
一三				五				
三八			二	一九	三			
五一			二	二四	三			
一一〇	三	四	五	一七	一三	四	八	一七
六				二				
一二一	三	二	八	一六	八	五	五	
二二七	六	六	一三	二五	二一	九	一三	一七

高警高秘外第七七三五號

昭和十四年九月十八日

（秘）

高雄州知事　赤堀鐵吉

臺灣總督　殿
警務局長各州知事廳長殿
各郡守警察署長殿

渡支取締ニ関スル件

首題ノ件八月分別表ノ通

右報告、通報（牒）ス

一、渡航身分證明書並外國旅券（本島人）發給狀況（八月分）

地方別＼区分	許 内地人	許 朝鮮人	許 本島人	許 計	否 内地人	否 朝鮮人	否 本島人	否 計
北支方面	八		二	一〇				
上海	五		二三	二八				
南支	九九	二	七四	一七五				
計	一一二	二	二九九	二一三				
累計	一〇六七	四八	一四二〇	二五二四	一四		九	二三

二、渡航別表

地方別＼区分	初渡航 内地人	初渡航 朝鮮人	初渡航 本島人	初渡航 計	再渡航 内地人	再渡航 朝鮮人	再渡航 本島人	再渡航 計
北支方面	八		二	一〇				
上海	五		二三	二八				
南支	九九	二	七二	一七三			二	二
計	一一二	二	九七	二一一			二	二
累計	一〇六四	四七	一三六七	二二七八	三	一	五四	五八

三、渡航目的調

目的別＼区分	北支方面 内地人	北支方面 朝鮮人	北支方面 本島人	北支方面 計	上海方面 内地人	上海方面 朝鮮人	上海方面 本島人	上海方面 計	南支方面 内地人	南支方面 朝鮮人	南支方面 本島人	南支方面 計

四、其ノ他参考事項

ナシ

| | | |

高警高秘外第八三〇三號

（秘）　昭和十四年十月十四日

高雄州知事　赤堀鐵吉

臺湾総督　殿
警務局長各州知事ニ長殿
各郡守警察署長殿

渡支取締ニ関スル件

首題ノ件左記別表ノ通

323

［中略］

方別	内地人	朝鮮人	本島人	計
北支方面	五		三	八
上海〃	二	一	二九	三二
南支〃	八三	一	一一三	一九七
計	九〇	二	一四五	二三七
累計	二一五四	四九	一五一二	二、五一五
	三	一	五六	六〇

三、渡航目的調

目的別＼区分		視察
北支方面	内地人	一
	朝鮮人	
	本島人	一
	計	二
上海方面	内地人	
	朝鮮人	
	本島人	二
	計	二
南支方面	内地人	二
	朝鮮人	
	本島人	四
	計	六

商業	右從業員	飲食店業	右從業員	軍通譯	軍慰安所 千脉	鉄工事業 千係	運輸事業 千係	土木事業 千係	旅館営業	右從業員	親族訪問
							二				
					一						
			四	一							
六	四				一		二				
二	四	六			一一	六	一〇				二二
					一						
八	九	二	一一	一	二〇	四	四	三	一	一	二
一〇	一三	八	一九	一	二二	一〇	一四	三	一	一	二四

親族同居	就職	其他		計	累計
二	一	一		五	五、
一	一			三	四。
一	二	一		八	九。
				二	八一
				一	二
一二	五			三。	二七九
一二	五			三三	二六二
七	三	二		八三	九一四
				一	四六
二六	一三	五		一一四	二四九
三三	一六	七		一九八	二一〇九

四、其ノ他参考事項

ナシ

高警高秘外第九〇八九號

昭和十四年十一月十六日

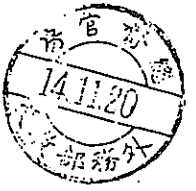
（秘）

高雄州知事 赤堀鐵吉

臺灣總督殿
警務局長各州知事廳長殿
各郡守警察署長殿

渡支取締ニ関スル件

首題十月分別表ノ通



一、身分證明書並外國旅券(本島人)發給狀況(十月分)

地方別 / 已分	計				否			
	內地人	朝鮮人	本島人	計	內地人	朝鮮人	本島人	計
北支方面	四		三	七				
上海方面	六		三六	四二				
南支方面	一二一	一四	一〇一	二三六				
計	一三一	一四	一四〇	二八五	一四		一〇	二四
累計	一二八八	六四	一七〇七	二、〇五九				

二、渡航別表

地方別 / 已分	初渡航				再渡航			
	內地人	朝鮮人	本島人	計	內地人	朝鮮人	本島人	計
北支方面	四	六	三	七	三	一	五七	六一
上海方面	六		三五	四一			一	一
南支方面	一二一	一四	一〇一	二三六				
計	一三一	一四	一三九	二八四				
累計	一二八五	六三	一六五一	二、九九九				

三、[illegible]

地方別 / 已分	北支方面				上海方面				南支方面			
	內地人	朝鮮人	本島人	計	內地人	朝鮮人	本島人	計	內地人	朝鮮人	本島人	計

| 視察 | 三 | 三 | 一 | 二 | 一 | 一 | 一

高警高秘外第九八九一號
昭和十四年十二月二十日

秘

高雄州知事 赤堀鐵吉

臺灣總督府
警務局長各州知事ニ長官殿
各郡守警察署長殿

渡支取締ニ関スル件

首題十一月分別表ノ通
右報告、通報（牒）ス

一、渡航身分証明書並外國旅券（本島人）發給狀況（十一月分）　高雄州

地方別＼区分	計				百			
	内地人	朝鮮人	本島人	計	内地人	朝鮮人	本島人	計
北支方面		四	四	四				
上海〃	八		二八	三六				
南支〃	一三六	二二	一〇一	二五九			一	一
計	一四四	二二	一三三	二九九			一	一
累計	一四三二	八六	一八四	三三五八	一四		一	二四

二、渡航別表

地方別＼区分	初渡航				再渡航			
	内地人	朝鮮人	本島人	計	内地人	朝鮮人	本島人	計
北支方面			四	四				
上海〃	八		二七	三五			一	一
南支〃	一三六	二二	一〇一	二五八			一	一
計	一四四	二二	一三一	二九七	三	一	二	二
累計	一四二九	八五	一七八二	三二九六		五九	六三	

三、渡航目的調

目的別＼区分	北支方面 内地人	北支方面 朝鮮人	北支方面 本島人	北支方面 計	上海方面 内地人	上海方面 朝鮮人	上海方面 本島人	上海方面 計	南支方面 内地人	南支方面 朝鮮人	南支方面 本島人	南支方面 計
視察					一			一	一		六	七
皇軍慰問							七	七	二		六	八
商業			二	二			一	一	九		二一	三〇
右從業員									一		七	八
料理飲食店營業									一〇			一〇
右從業員									一〇	六	二	一八
軍通譯			一	一			四	四			三	三
軍慰安所關係										一六	七	五四
鐵工事業關係									一		六	七
運輸〃					六		一	七	八		一	九
電氣〃									六		一	七
製糖〃									一四		一五	二九
親族訪問							三	三	二		二	五
親族卜同居					一		六	七	二六		九	三五
就業			一	一			四	四	一二		一〇	二二
新聞干係									一		一	二

〔以下略〕

高警高秘外第一八四號
昭和十五年一月十五日

高雄州知事 赤堀鐵吉

臺湾總督殿
警務局長各州知事ノ長殿
各郡守警察署長殿

渡支取締ニ関スル件

首題十二月分別表ノ通
右報告、通報（牒）ス

一、渡航身分證明書並外國旅券（本島人）發給狀況（十二月分）

地方別＼區分	許可				否			
	內地人	朝鮮人	本島人	計	內地人	朝鮮人	本島人	計
北支方面	二		四	六				
上海方面	三		三	六				
南支方面	八。	三	一二二	二。五	一四		一。	一四
計	八五	三	一五九	二四七				
累計	一五一七	八九	一九九九	三六。五				

二、渡航別表

地方別＼區分	初渡航				再渡航			
	內地人	朝鮮人	本島人	計	內地人	朝鮮人	本島人	計
北支方面	二		四	六				
上海方面	三		三三	三六				
南支方面	七九	三	一二二	二。四	一			一
計	八四	三	一五九	二四六	一		五九	六四
累計	一五五三	八八	一九四一	三五四二	四	一		

四、其他參考事項　ナシ

區分	目的別	視察	商業	商業從業員	料理屋從業員	軍通譯	軍慰安所關係	鉄工業關係	運輸事業關係	電氣事業關係	就職事業關係	親族訪問	仝上同居	就職	其他	計	累計
北支方面	內地人												二			二	五六
	朝鮮人																
	本島人													二	二	四	五一
	計												二	二	二	六	一〇七
上海方面	內地人			一				一						一		三	九八
	朝鮮人																二
	本島人	一	一	二		五		一	三				二	一六	一	三三	二七六
	計	一	一	四		五		二	三				二	一七	一	二六	四七六
南支方面	內地人	一	六	九	四		一七	七	六	一	四		二二	一	一	八〇	一二五一
	朝鮮人			一			二									三	八五
	本島人	三	二四	六	四	一四	二		三			四	二六	一二	一三	一二二	一五二三
	計	四	四〇	一六	八	一四	二二	七	九	一	四	四	四九	一三	一四	二〇五	二八五九

⑮-13 渡支取締ニ関スル件［高雄州知事］（昭15・2・19）

高警高秘外第九一八號

昭和十五年二月十九日

［秘］

高雄州知事　赤堀鐵吉

臺灣總督殿

警務局長各州知事長殿

各郡守警察署長殿

渡支取締ニ関スル件

首題一月分別表ノ通

右報告通報「牒」ス

一、渡航身分證明書並外國旅券（本島人）発給状況（一月分）

区分 / 地方別	許可				否			
	内地人	朝鮮人	本島人	計	内地人	朝鮮人	本島人	計
北支方面			三	三				
上海方面	二		二一	二三				
南支方面	五四	一	八一	一二六				
計	五六	一	一〇二	一六二				
累計	五六	一	一〇二	一六二				

二、渡航別表

区分 / 地方別	初渡航				再渡航			
	内地人	朝鮮人	本島人	計	内地人	朝鮮人	本島人	計
北支方面			三	三				
上海方面	二		二一	二三				
南支方面	五四		七九	一三四			二	二
計	五六		一〇三	一六〇			二	二
累計	五六		一〇三	一六〇			二	二

三 渡航目的別

区分	目的別	視察	商業	同従業員	飲食関係営業	医師営業関係	寝業関係	軍通譯	軍隊安所関係	合社宝島トシテ	就職	僕婢トシテ	親族ト同居	親族訪問	其他	計	累計
北支方面	内地人							一								一	一
	朝鮮人																
	本島人										二					二	二
	計							一			二					三	三
上海方面	内地人					一							一			二	二
	朝鮮人																
	本島人	三	三			三	三			三	三		四			二一	二一
	計	三	三			四	三			三	三		四			二三	二三
南支方面	内地人	三	三	二	四	三				六	五	一	二二	三	二	五四	五四
	朝鮮人								一							一	一
	本島人	四	一二	六	一	三		九	一五	一	一八		五	三	四	八一	八一
	計	七	一五	八	五	六		九	一六	七	二三	一	二七	六	六	一二六	一二六

秘 高警高秘外第五七二ノ號
昭和十六年八月二十五日

高雄州知事 坂口主税

臺灣總督殿
警務局長殿
各州知事庁長殿
各郡守警察署長殿

渡支取締ニ関スル件

首題七月分左表ノ通

右報告通報（牒）ス

記

一、渡航證明書及身分證明書外國旅券奔給狀況

地方別＼区分	許 内	許 朝	許 本	許 計	否 内	否 朝	否 本	否 計
北支方面	四		二	一六				
上海〃	一		一九	二〇			一	
南支〃	六〇	一	一二二	一八三				
計	六五	一	一四三	二〇八				
累計	三〇〇	三	八〇一	十一〇五				

二、渡航別表

地方別＼区分		初渡航					再渡航			
		内	朝	本	計		内	朝	本	計
北支方面		四		二	六					
上海〃		一		一九	二〇					
南支〃		六〇	一	一二二	一八三					
計		六五	一	一四三	二〇九					
累計		三〇〇	三	八〇〇	一一〇三				二	二

三 渡航目的別

目的地＼区分		北支方面				上海方面				南支方面			
		内	朝	本	計	内	朝	本	計	内	朝	本	計
商業経営						一		一	一			五	五
右催人								二	二	二		五	七
軍通譯								三	三	一		二	三

四、其他參考事項

ナシ

累計	計	其他	就職	俾僕トシテ	親族ト同居	一時的用務	鉄工事業〃	運輸事業干係	鑛業干係	漁業	農業	軍慰安所〃	無亞院工事干係
九	四		一		三								
一二	二				一			一					
二一	六		一		四			一					
一五	一												
一二五	二〇	二	一	二	八		一						
一三九	二〇	二	一	二	八		一						
二七七	六〇	一		一	三二	五		二				一五	一
三	一				一								
六六五	一二二			二	六五	五	三	五	二	二	七	五	一四
九四五	一八三	一	一	三	九八	一〇	三	七	二	二	七	二〇	一五

⑮—15 渡支取締ニ関スル件 ［高雄州知事］（不明）

「渡航身分証明書並外国旅券（本島人）發給状況（七月分）」高雄州

区分	許 内地人	許 朝鮮人	許 本島人	許 計	否 内地人	否 朝鮮人	否 本島人	否 計
北支方面	六		五	一一				
上海〃	二七	四	二七	五八	二			二
南支〃	一四	五	二九	四八				
計	四七	九	六一	一一七				
累計	一五四	三三	一六二	三四八	八			八

二、渡航別表

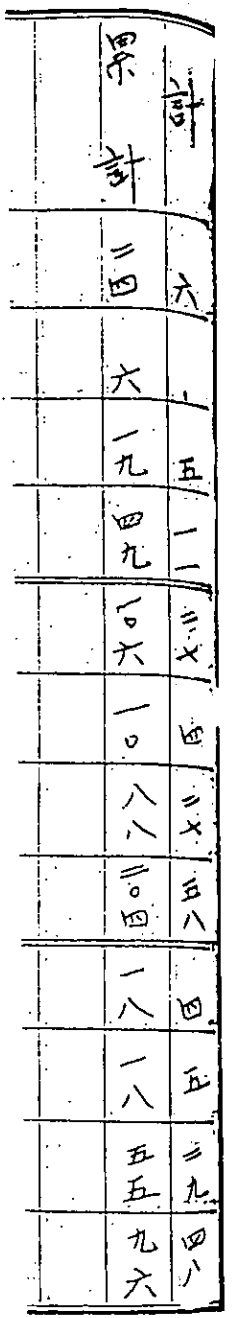
区分	初渡航 内地人	初渡航 朝鮮人	初渡航 本島人	初渡航 計	再渡航 内地人	再渡航 朝鮮人	再渡航 本島人	再渡航 計
北支方面	五		五	一〇				
上海〃	二七	四	二五	五六			二	二

	南支方面	計	累計
	一四	四六	一三六
	五	九	三三
	二三	五三	一一五
	四二	一九〇八	二八四
	一	一	一八七
	六	八	四七
	七	九	六四

三渡航目的調

区分 / 目的別		視察	皇軍慰問	就職	充業	軍慰安所	祖族門樓	祈祖事件
北支方面	內地人	一		一			四	
	朝鮮人							
	本島人	四			一			
	計	五		一	一		四	
上海方面	內地人	三	五	一六		一	二	
	朝鮮人					四		
	本島人	一二		八	四		三	
	計	一五	五	二四	四	五	五	
南支方面	內地人	三	四	七				
	朝鮮人					五		
	本島人	一二	一	三	九		一	三
	計	一五	五	一〇	九	五	一	三

計	累計
六	二四
一	六
五	一九
一一	四九
二七	一〇六
四	一〇
二七	八八
五八	二〇四
四	一八
五	一八
二九	五五
四八	九六



一、渡航身分証明書並外國旅券（本島人）發給狀況（十一月分）高雄州

地区別	内地人	朝鮮人	本島人	計
北支方面	二			二
上海方面	二三	三	二六	
南支方面	六三	二七	九。	
計	八八	三。	一一八	
累計	三五六	七八	二四。	四八七

二、渡航別表

地区別	内地人	朝鮮人	本島人	計
初渡航				
北支方面	二			二
上海方面	二三	三	二六	
再渡航				
北支方面				
上海方面				

否

	内地人	朝鮮人	本島人	計
	八			八

南支方面	計	累計
六一	八六	三二二
二六	二九	七六
		三二九
八七	一一五	七二七
二	二	三一
一	一	四
		七三
三	三	一〇八

三、度概目的調

区分 / 区的別	視察	就職	商業	料理屋	軍務所	親族問答	其他
北支方面							
男人		二					
婦人							
本人							
計		二					
男人	五	一四	三				一
婦人				三			
本人							
計	五	一四	三	三			一
男人	一二	四	一		四二	二	二
婦人	一				二六		
本人							
計	一三	四	一		六八	二	二

[以下略]

一、渡航身分証明書並外國旅券（本島人）發給狀況（十二月分）高雄州

地区別	内地人	朝鮮人	本島人	計
北支方面	二			二
上海方面			二	二
南支方面			五	五
計	二		七	九
累計	五二	一三四	二四七	四二六

二、渡航別表

地方別	内地人	朝鮮人	本島人	計
北支方面	二			二
上海方面	一九		一	二〇

地区別	内地人	朝鮮人	本島人	計
北支方面	一			一
上海方面			一	一

三、渡航目的別

区分 / 目的別	北支方面			上海方面			南支方面			南支方面計	累計
	男	女	計	男	女	計	男	女	計		
視察	一		一	五		五	五		五	一一	一三九
軍事ニ従事スル者											一六〇
商業				三		三	六		六	二二	四八二
就職				二		二	三七		三七	五五	一三一
軍事ニ非ザル者											
渡航ヲ許サレザリシ者											
其ノ他	一		一	一一		一一	一一		一一	二二	五四

（一月分）渡支取締ニ関スル月報　臺東廳

一、渡航身分證明書並外國旅券發給狀況（本島人）

地方別＼區分		内地人	朝鮮人	本島人	計	累計
北支方面	許可	一〇	二	、	一二	一八
上海〃	〃	、	、	、	、	、
南支〃	〃	一	、	、	一	一七
計	〃	一一	二	、	一三	五三
累計	〃	一九	二	三二	五三	五三
北支方面	否	、	、	、	、	、
上海〃	〃	、	、	、	、	、
南支〃	〃	、	、	、	、	、
計	〃	、	、	、	、	、
累計	〃	、	、	、	、	、

［中略］

三、渡航目的調

區分	目的別	復旧	官業視察	海運業視察	農業視察	親族知己訪問	皇軍慰問	土木建築業經營	就職	天下同樣
北支方面	內地人	、	、	、	、	、	、	、	、	、
	朝鮮人	、	、	、	、	、	、	、	、	、
	本島人	、	、	、	、	、	、	、	、	、
	計	、	、	、	、	、	、	、	、	、
	累計	、	一	、	、	三	、	、	一	一
上海方面	內地人	、	、	、	、	、	、	、	、	、
	朝鮮人	、	、	、	、	、	、	、	、	、
	本島人	、	、	、	、	、	、	、	、	、
	計	、	、	、	、	、	、	、	、	、
	累計	、	七	、	、	一	五	四	、	、
南支方面	內地人	、	、	、	、	、	一	、	、	、
	朝鮮人	、	、	、	、	、	、	、	、	、
	本島人	、	、	、	、	、	、	、	、	、
	計	、	、	、	、	、	、	、	、	、
	累計	三	一〇	一	一	一	一	、	、	、

				累計	計		慰安所従業婦	右所従業員	右家族	料理屋経営	自転車商経営
				一〇	一〇		、	六	二	二	、
				二	二		一	一	、	、	、
				六	、		、	、	、	、	、
				八	二		一	七	二	二	、
				八	八		一	七	二	二	、
				八	、		、	、	、	、	、
				、	、		、	、	、	、	、
				九	、		、	、	、	、	、
				一七	、		、	、	、	、	、
				一七	一七		、	、	、	、	、
				一	一		、	、	、	、	、
				、	、		、	、	、	、	、
				二七	、		、	、	、	、	、
				二八	、		、	、	、	、	、
				二八	二八		、	、	、	、	一

［中略］

（二月分）渡支取締月報　臺東廳

一、渡航身分證明書並外國旅券發給狀況

地區別 / 方別		內地人	朝鮮人	本島人	計	累計
許可	北支方面	、	、	、	、	一八
	上海〃	二	、	、	二	一九
	南支〃	、	九	、	九	二七
	計	二	九	、	一一	六四
	累計	二一	二一	三二	六四	/
否		、	、	、	、	、
		、	、	、	、	、
		、	、	、	、	、
		、	、	、	、	、
		、	、	、	、	、

三、渡航目的調

區分	目的別	復飯	商業視察	海運業視察	農業視察	親族訓問	皇軍慰問	土木建築業各營	就職	夫卜同棲
北支方面	內地人	、	、	、	、	、	、	、	、	、
	朝鮮人	、	、	、	、	、	、	、	、	、
	本島人	、	、	、	、	、	、	、	、	、
	計	、	、	、	、	、	、	、	、	、
	累計	、	一	、	、	三	、	、	一	一
上海方面	內地人	、	、	、	、	、	、	、	一	、
	朝鮮人	、	、	、	、	、	、	、	、	、
	本島人	、	、	、	、	、	、	、	、	、
	計	、	、	、	、	、	、	、	一	、
	累計	、	七	、	、	一	五	四	一	、
南支方面	內地人	、	、	、	、	、	、	、	、	、
	朝鮮人	、	一	、	、	、	、	、	、	、
	本島人	、	、	、	、	、	、	、	、	、
	計	、	一	、	、	、	、	、	、	、
	累計	三	二一	一	一	一	一	、	、	、

自轉車營業者	料理屋營業者	右家族	右所從業員	婦人子供從業者	酒類保管營業者		計	累計
、	、	、	、	、	、		、	一〇
、	、	、	、	、	、		、	二
、	、	、	、	、	、		、	六
、	、	、	、	、	、		、	一八
、	二	二	七	一	、		一八	/
、	、	、	、	、	一		二	一〇
、	、	、	、	、	、		、	、
、	、	、	、	、	、		、	九
、	、	、	、	、	一		二	一九
、	、	、	、	、	一		一九	/
、	、	、	、	、	、		、	一
、	一	一	六	、	、		九	九
、	、	、	、	、	、		、	一七
、	一	一	六	、	、		九	二七
一	一	一	六	、	、		二七	/

渡支取締ニ関スル月報

三月分

臺東廳

一、渡航身分證明書並外國旅券發給狀況

區分 / 地方別		許可				否				
		內地人	朝鮮人	本島人	計	累計	內地人	朝鮮人	本島人	計	累計
北支方面		、	、	、	、	六	、	、	、	、	、
上海ノ		三	三	一	七	二六	、	、	、	、	、
南支ノ		四	一	三	八	四七	、	、	、	、	、
計		七	四	四	一五	七九	、	、	、	、	、
累計		二九	一四	三六	七九	/	、	、	、	、	、

三、渡航目的調

區分＼目的別		復飯	商業視察	海運業視察	農業視察	親族知己訪問	皇軍慰問	土木建築業経営	就職	夫卜同棲
北支方面	内地人	、	、	、	、	、	、	、		、
	朝鮮人	、	、	、	、	、	、	、		、
	本島人	、	、	、	、	、	、	、		、
	計	、	、	、	、	、	、	、		、
	累計	、	一	、	、	三	、	、	一	一
上海方面	内地人	、	、	、	、	一	、	、	一	、
	朝鮮人	、	、	、	、	、	、	、	、	、
	本島人	、	、	、	、	、	、	、	一	、
	計	、	、	、	、	一	、	、	二	、
	累計	、	七	、	、	二	五	四	三	、
南支方面	内地人	、	二	、	、	、	、	、	一	、
	朝鮮人	、	、	、	、	、	、	、	、	、
	本島人	、	、	、	一	一	、	、	一	、
	計	、	二	、	一	一	、	、	二	、
	累計	三	一三	一	二	二	一	、	二	、

			累計	計	公務出張	商業	洒保 各營	慰安所 從業員	右所 從業員	右家族	料理屋 各營	自轉車業 各營
			、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
			、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
			六	、	、	、	、	、	、	、	、	、
			六	、	、	、	、	、	、	、	、	、
				六	、	、	、	、	、	、	、	、
			一三	三	一	、	、	、	、	、	、	、
			三	三	、	、	、	、	三	、	、	、
			一〇	一	、	、	、	、	、	、	、	、
			二六	七	一	、	、	、	三	、	、	、
				二六	一	、	一	、	三	、	、	、
			一六	四	、	一	、	、	、	、	、	、
			一一	一	、	、	、	、	一	、	、	、
			二〇	三	、	、	、	、	、	、	、	、
			四七	八	、	一	、	、	一	、	、	、
				四七	、	一	、	一	一四	三	三	一

⑯-4 渡支取締ニ関スル月報（四月分）［台東庁］（昭14・？）

四月分

渡支取締ニ関スル月報

臺東廳

一、渡航身分證明書並外國旅券発給状況

區分	地方別	北支方面	上海〃	南支〃	計	累計
許	内地人	、	、	三	三	三二
	朝鮮人	、	、	、	、	一四
	本島人	、	二	一	三	三九
	計	、	二	四	六	八五
	累計	六	二八	五一	八五	
否	内地人	、	、	、	、	、
	朝鮮人	、	、	、	、	、
	本島人	、	、	、	、	、
	計	、	、	、	、	、
	累計	、	、	、	、	、



三、渡航目的調

區分	目的別	復飯	商業視察	海運業視察	農業視察	親族知己訪問	皇軍慰問	土木建築業各營	就職	天下同樓	自轉車業各營
北支方面	內地人	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
	朝鮮人	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
	本島人	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
	計	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
	累計	、	一	、	、	三	、	、	一	一	、
上海方面	內地人	、	、	、	、	、	、	、		、	、
	朝鮮人	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
	本島人	、	、	、	、	、	、	、	一	、	、
	計	、	、	、	、	、	、	、	一	、	、
	累計	、	七	、	、	二	五	四	四	、	、
南支方面	內地人	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
	朝鮮人	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
	本島人	、	一	、	、	、	、	、	、	、	、
	計	、	一	、	、	、	、	、	、	、	、
	累計	三	四	一	二	二	一	、	二	、	一

			累計	計	遊技場全營	公務出張	商業	酒保全營	慰安所從業員	右所從業員	右家族	料理屋全營
			、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
		、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
			六	、	、	、	、	、	、	、	、	、
			六	、	、	、	、	、	、	、	、	、
			/	六	、	、	、	、	、	、	、	、
			一三	、	、	、	、	、	、	、	、	、
			三	、	、	、	、	、	、	、	、	、
			一二	二	一	、	、	、	、	、	、	、
			二八	二	一	、	、	、	、	、	、	、
			/	二八	一	一	、	一	、	三	、	、
			一九	三	、	一	二	、	、	、	、	、
			二	、	、	、	、	、	、	、	、	、
			二一	一	、	、	、	、	、	、	、	、
			五一	四	、	一	二	、	、	、	、	、
			/	五一	、	一	三	、	一	一四	三	三

［中略］

五月分渡支取締ニ関シ月報臺東廳

一、渡航身分證明書並外國旅券發給狀況

地方別＼區分	許可					否				
	內地人	朝鮮人	本島人	計	累計	內地人	朝鮮人	本島人	計	累計
北支方面	、	、	一	一	七	、	、	、	、	、
上海ノ	、	、	四	四	三二	、	、	、	、	、
南支ノ	五	、	一	六	五七	、	、	、	、	、
計	五	、	六	一一	九六	、	、	、	、	、
累計	三七	一四	四五	九六	/	、	、	、	、	、

三 渡航目的調

區分	目的別	復飯	商業視察	海運業視察	農業視察	親族知己訪問	皇軍慰問	土木建築業各營	就職	天下同棲	自轉車業各營
北支方面	內地人	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
	朝鮮人	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
	本島人	、	一	、	、	、	、	、	、	、	、
	計	、	一	、	、	、	、	、	、	、	、
	累計	、	二	、	、	三	、	、	一	一	、
上海方面	內地人	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
	朝鮮人	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
	本島人	、	二	、	、	、	、	、	一	一	、
	計	、	二	、	、	、	、	、	一	一	、
	累計	、	九	、	、	二	五	四	五	一	、
南支方面	內地人	、	、	、	、	、	五	、	、	、	、
	朝鮮人	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
	本島人	、	一	、	、	、	、	、	、	、	、
	計	、	一	、	、	、	五	、	、	、	、
	累計	三	一五	一	二	二	六	、	二	、	一

			累計	計	遊技場全營	公務之張	商業	酒保全營	慰安所從業員	右所從業員	右家族	料理屋全營
			、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
			、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
			七	一	、	、	、	、	、	、	、	、
			七	一	、	、	、	、	、	、	、	、
				七	、	、	、	、	、	、	、	、
			一三	、	、	、	、	、	、	、	、	、
			三	、	、	、	、	、	、	、	、	、
			一六	四	、	、	、	、	、	、	、	、
			三二	四	、	、	、	、	、	、	、	、
				三二	一	一	、	一	、	三	、	、
			二四	五	、	、	、	、	、	、	、	、
			一一	、	、	、	、	、	、	、	、	、
			二二	一	、	、	、	、	、	、	、	、
			五七	六三	、	、	、	、	、	、	、	、
				五七	、	一	三	、	一	一四	三	三

［中略］

六月分渡支取締ニ関スル月報　臺東廳

一、渡航身分證明書並外國旅券發給狀況

地方別＼区分		内地人	朝鮮人	本島人	計	累計
北支方面	許可	、	、	、		七
上海〃	〃	、	、	二	二	二三四
南支〃	〃	一	、	一	二	五九
計	〃	一	、	三	四	一〇〇
累計	〃	三八	一四	四八	一〇〇	
	否	、	、	、	、	、
	〃	、	、	、	、	、
	〃	、	、	、	、	、
	〃	、	、	、	、	、
	〃	、	、	、	、	、

三 渡航目的調

區分	目的別	復販	商業視察	海運業視察	農業視察	視族如己訪問	皇軍慰問	土木建築業各營	就職	天下同樓	自轉車業各營
北支方面	內地人	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
	朝鮮人	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
	本島人	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
	計	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
	累計	、	二	、	、	三	、	、	一	一	、
上海方面	內地人	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
	朝鮮人	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
	本島人	、	一	、	、	一	、	、	、	、	、
	計	、	一	、	、	一	、	、	、	、	、
	累計	、	一〇	、	、	三	五	四	五	一	、
南支方面	內地人	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
	朝鮮人	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
	本島人	、	、	、	、	、	、	、	、	一	、
	計	、	、	、	、	、	、	、	、	一	、
	累計	三	一五	一	二	二	六	、	二	一	一

		累計	計	軍事請負者事務員	遊技場經營	公務出張	商業	酒保經營	慰安所從業員	右所從業員	右家族	料理屋經營
		、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
		、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
		七	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
		七	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
		/	七	、	、	、	、	、	、	、	、	、
		一三	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
		三	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
		一八	二	、	、	、	、	、	、	、	、	、
		三四	二	、	、	、	、	、	、	、	、	、
		/	三四	、	一	一	、	一	、	三	、	、
		二五	一	一	、	、	、	、	、	、	、	、
		一一	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
		二三	一	、	、	、	、	、	、	、	、	、
		五九	二	一	、	、	、	、	、	、	、	、
		/	五九	一	、	一	三	、	一	一四	三	三

［中略］

七月分渡支取締月報

臺東廳

一、渡航身分證明書並外國旅券發給狀況

區分	地方別	內地人	朝鮮人	本島人	計	累計
許可	北支方面	二	、	、	二	九
	上海〃	一	、	、	一	三五
	南支〃	一	、	五	六	六五
	計	四	、	五	九	一〇九
	累計	四二	一四	五三	一〇九	/
否		、	、	、	、	、
		、	、	、	、	、
		、	、	、	、	、
		、	、	、	、	、
		、	、	、	、	、

三、渡航目的調

區分	目的別	復飯	商業視察	海運業視察	農業視察	親族知己訪問	皇軍慰問	土木建築業各營	就職	夫卜同棲	自轉車業各營
北支方面	內地人	、	、	、	、	、	、	、	一	、	、
	朝鮮人	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
	本島人	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
	計	、	、	、	、	、	、	、	一	、	、
	累計	、	二	、	、	三	、	、	二	一	、
上海方面	內地人	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
	朝鮮人	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
	本島人	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
	計	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
	累計	、	一〇	、	、	三	五	四	五	一	、
南支方面	內地人	、	、	、	、	、	、	、	一	、	、
	朝鮮人	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
	本島人	、	一	、	、	、	、	、	、	、	、
	計	、	一	、	、	、	、	、	一	、	、
	累計	三	一六	一	二	二	六	、	三	一	一

累計	計		呼寄	軍工事請負者事務員	遊技場全營	公務出張	商業	酒保全營	慰安所從業員	右所從業員	右家族	料理屋全營
二	二		、	、	、	一	、	、	、	、	、	、
、	、		、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
七	、		、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
九	二		、	、	、	一	、	、	、	、	、	、
/	九		、	、	、	一	、	、	、	、	、	、
一四	一		一	、	、	、	、	、	、	、	、	、
三	、		、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
一八	、		、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
三五	一		一	、	、	、	、	、	、	、	、	、
/	三五		一	[illegible]	一	一	、	一	、	三	、	、
三〇	五		四	、	、	、	、	、	、	、	、	、
二	、		、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
二四	一		、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
六五	六		四	、	、	、	、	、	、	、	、	、
/	六五		四	一	、	一	三	、	一	一四	三	三

［中略］

八月分渡支取締月報

臺東廳

一、渡航身分證明書並外國旅券發給狀況

地方別＼區分		內地人	朝鮮人	本島人	計	累計
北支方面	許可	、	、	、	、	九
上海ノ		四	、	、	四	三九
南支ノ		一	、	、	一	六六
計		五	、	、	五	二四
累計		四七	一四	五三	二四	/
北支方面	否	、	、	、	、	、
上海ノ		、	、	、	、	、
南支ノ		、	、	、	、	、
計		、	、	、	、	、
累計		、	、	、	、	、

三 渡航目的

目的別＼區分	北支方面			上海方面			南支方面		
	內地人	朝鮮人	本邦人計	內地人	朝鮮人	本邦人計	內地人	朝鮮人	本邦人計
視察									
商業				一〇					
海運業視察									
農業視察									
親族知己訪問	三			三					
軍人軍屬慰問				五					
土木建築業各營				四					
就職	二			六					
大工同棟	一			三					
自轉車業各營									

累計	計		軍事請負者事務員	吽奇	遊技場至營	公務出張	商業	酒保至營	慰安所從業員	右所從業員	右家族	料理屋至營
二	、		、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
、	、		、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
七	、		、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
九	、		、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
/	九		、	、	、	一	、	、	、	、	、	、
一八	四		、	一	、	、	、	、	、	、	、	、
三	、		、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
一八	、		、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
三九	四		、	一	、	、	、	、	、	、	、	、
/	三九		、	二	一	一	、	一	、	三	、	、
三一	一		、	、	、	一	、	、	、	、	、	、
二一	、		、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
二四	、		、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
六六	一		、	、	、	一	、	、	、	、	、	、
/	六六		一	四	、	二	三	、	一	一四	三	三

⑯—9 渡支取締月報（九月分）［台東庁］（昭14・？）

九月分

臺東廳

一、渡航身分證明書並外國旅券発給状況

地方別＼区分	許 内地人	許 朝鮮人	許 本島人	許 計	許 累計	否 内地人	否 朝鮮人	否 本島人	否 計	否 累計
北支方面	一	、	、	一	一〇	、	、	、	、	、
上海〃	、	、	二	二	四一	、	、	、	、	、
南支	一	、	、	一	六七	、	、	、	、	、
計	二	、	二	四	二八	、	、	、	、	、
累計	四九	一四	五五	二八		、	、	、	、	、

三、渡航目的調

目的別	北支方面			上海方面			南支方面		
	内朝	本計	累計	内朝	本計	累計	内朝	本計	累計
復仇									三
商業視察			二		二	一二			一六
海運業視察									一
農業視察									二
親族知己訪問			三			三			二
皇軍慰問						五			六
土木建築業ヲ營ム						四			
就職			二			六	一	一	四
大工同様			一			三			一
自転車業ヲ營ム									一
料理屋ヲ營ム									三

累計	計	軍工事請負者事務員	呼寄	遊技場至營	公務出張	商業	酒保至營	慰安所從業員	右所從業員	右家族
三	一	、	、	、	、	一	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
七	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
一〇	一	、	、	、	、	一	、	、	、	、
/	一〇	、	、	、	一	一	、	、	、	、
一八	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
三	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
二〇	二	、	、	、	、	、	、	、	、	、
四一	二	、	、	、	、	、	、	、	、	、
/	四一	、	二	一	一	、	一	、	三	、
三二	一	、	、	、	、	、	、	、	、	、
二一	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
二四	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
六七	一	、	、	、	、	、	、	、	、	、
/	六七	一	四	、	二	三	、	一	一四	三

［中略］

十月分

一、渡航身分證明書並外國旅券發給狀況

臺東廳

地方別＼區分	內地人	朝鮮人	本島人	計	累計	內地人	朝鮮人	本島人	計	累計
北支方面	、	、	、	、	一〇	、	、	、	、	、
上海方面	、	、	三	三	四四	、	、	、	、	、
南支方面	三	一	三	七	七四	、	、	、	、	、
計	三	一	六	一〇	一二八	、	、	、	、	、
累計	五二	一五	六一	一二八	/	、	、	、	、	、

三、渡航目的調

目的別＼區分	北支方面				上海方面				南支方面			
	内地	朝鮮	本計	累計	内地	朝鮮	本計	累計	内地	朝鮮	本計	累計
復旧												三
商業視察				二				一二				一六
漁業視察												一
農業視察												二
親族知己訪問				三			一	一				二
皇軍慰問											二	八
土木建築業ノ営ミ								四				
就職				二			一	七			一	六
大小同様				一				三			一	一
自轉車業ノ営ミ												一
料理屋ノ営ミ												三

累計	計	呼寄	產業視察	遊技場各營	公務出張	商業	酒保各營	慰安所從業員	右所從業員	右家族
三	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
七	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
一〇	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
	一〇	、	、	、	一	一	、	、	、	、
一八	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
三	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
二三	三	一	、	、	、	、	、	、	、	、
四四	三	一	、	、	、	、	、	、	、	、
	四四	三	、	一	一	、	一	、	三	、
三五	三	、	一	、	二	、	、	、	、	、
一二	一	、	、	、	、	、	、	一	、	、
二七	三	、	、	、	、	、	、	、	、	、
七四	七	、	一	、	二	、	、	一	、	、
	七四	四	一	、	四	三	、	二	一四	三

⑯—11渡支取締月報（十一月分）［台東庁］（昭14・？）

十一月分

臺東廳

一、渡航身分證明書並外國旅券祭給狀況

地方別＼區分	許 内地人	許 朝鮮人	許 本島人	許 計	許 累計	否 内地人	否 朝鮮人	否 本島人	否 計	否 累計
北支方面	、	、	、	、	一〇	、	、	、	、	、
上海方面	、	、	、	、	四四	、	、	、	、	、
南支方面	二	、	一	三	七七	、	、	、	、	、
計	二	、	一	三	一三一	、	、	、	、	、
累計	五四	一五	六二	一三一		、	、	、	、	、

三 渡航目的調

區分	目的別	復版	商業視察	海運業視察	農業視察	親族知己訪問	皇軍慰問	土木建築業務	就職	夫卜同棲	自動車業之營	料理屋之營
北支方面	內	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
	朝	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
	本	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
	計	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
	累計	、	二	、	、	三	、	、	二	一	、	、
上海方面	內	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
	朝	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
	本	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
	計	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
	累計	、	一二	、	、	四	五	四	七	三	、	、
南支方面	內	、	、	、	、	、	、	、	一	、	、	、
	朝	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
	本	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
	計	、	、	、	、	、	、	、	一	、	、	、
	累計	三	一六	一	二	二	八	、	七	一	一	三

累計	計	貿易商各營	呼音	產業視察	遊技場各營	公務出張	商業	酒保各營	慰安所從業員	右所從業員	右家族
三	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
七	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
一〇	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
	一〇	、	、	、	、	一	一	、	、	、	、
一八	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
三	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
二三	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
四四	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
	四四	、	三	、	一	一	、	一	、	三	、
三七	二	、	、	一	、	、	、	、	、	、	、
一二	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
二八	一	一	、	、	、	、	、	、	、	、	、
七七	三	一	、	一	、	、	、	、	、	、	、
	七七	一	四	二	、	四	三	、	二	一四	三

［中略］

東警高秘乙第八五號ノ二
昭和十五年一月十六日
臺東廳長　藤田淳敬

警務局長各州廳長殿
總督官房外務部長殿

渡支取締方ノ件

昭和十四年十二月中ニ於ケル首題ノ件別表ノ通リニ有之候条
右通報ス

三渡航目的調

目的別 / 区分	北支方面				上海方面				南支方面			
	内地人	朝鮮人	本島人	計	内地人	朝鮮人	本島人	計	内地人	朝鮮人	本島人	計
復職												三
商業視察				二				一三				一六
漁業視察												一
農業視察												二
親族知己訪問				三				四				二
皇軍慰問								五				八
土木建築業経営								四				
就職				二				八				八
犬ト同棲								三				一
自動車業経営												一
料理屋経営												三

累計	計	貿易商 圣 營	呼寄	產業視察	遊技場 圣 營	公務出張	商業	酒保圣營	慰安所 從業員	右所從業員	右家族
三											
八	一						一				
一一	一						一				
	一一					一	二				
一八											
三											
二三											
四四											
	四四		三		一	一		一		三	
三七											
一二											
二九	一										
七八	一										
	七八	一	四	二		四	三		二	一四	三

東警高秘外第五五五號ノ一
昭和十五年二月十四日
臺東廳長 藤田淳敎

警務局長各州廳長殿
總督官房外務部長 殿

渡支取締月報
首題ノ件ニ關シ一月中ニ於ケル狀況別表ノ通リニ有之候条
右通報ス

403
［中略］

三渡航目的調

目的別 / 区分	北支方面			上海方面			南支方面		
	同地人	朝鮮人	本島人	同地人	朝鮮人	本島人	同地人	朝鮮人	本島人
復帰									三
商業視察			二			一二			一六
漁業視察									一
農業視察									二
親族知己訪問			三			四			二
皇軍慰問						五			八
土木建築業経営						四			
就職			二		一	八			八
夫ト同棲			一			三			三
自転車業経営									一
料理屋経営									三

	累計	計	貿易商経營	呼寄	産業視察	遊技場経營	公務出張	商業	酒保経営	慰安所従業員	仝右従業員	仝右家族
	三											
	八											
	一一						一	二				
	一八											
	三											
	二四	一										
	四五	一										
		四五		三		一	一		一		三	
	四二	五					三					
	一二											
	二九											
	八三	五					三					
		八三	一	四	二		〆	三		二	一四	三

警高秘外第一四四號
昭和十四年一月二十日
臺南州知事 川村直岡

總督官房外務部長殿

渡支取締ニ関スル件

昭和十三年十二月中ニ於ケル當州ヨリ渡支取締
狀況別表記載ノ通ニ有之候條
右通報ス

[中略]

三、渡航目的調

區分	目的別	視察	商業	就職	料理屋飲食店	同居	文給仲居酌婦	建築請負	慰安所經營	內服運送監督
北支方面	內地人									
	朝鮮人									
	本島人	九	二	一						
	計	九	二	一						
上海方面	內地人	二				一		一		
	朝鮮人									
	本島人	七〇	二五	五	三					
	計	七二	二五	五	三	一		一		
南支方面	內地人	四	一	二	九		一三		一	
	朝鮮人				二二		五一		二二	
	本島人	一四九	八六	八	九	四				一
	計	一五三	八七	一〇	四〇	四	六四		二三	一
合計		二三四	一一四	一六	四三	五	六四	一	二三	一

[以下略]

⑰-2 渡支取締ニ関スル件 [台南州知事] (昭和14・9・6)

南警高秘外第七八〇〇號ノ一
昭和十四年九月六日
臺南州知事川村直岡

臺灣總督官房外務部長殿

渡支取締ニ関スル件

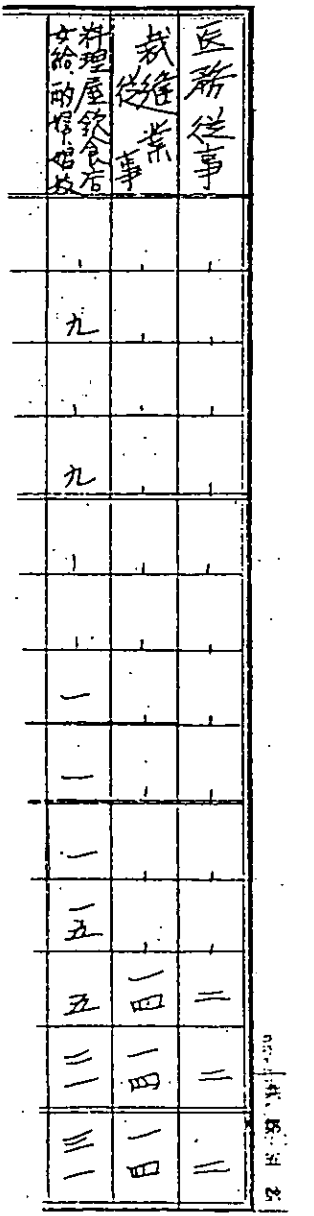
昭和十四年七月中ニ於ケル當州下渡支取締狀況表記載ノ通ニ有之候条
右通報ス

(三)渡航目的

目的別	已分	視察	就職	料理屋飲食店	同居同伴	親族訪問(家族多收族宮)	商業	軍通訳
北支方面	內地人	二	二		一			
	朝鮮人		一					
	本島人	七	三				一	
	計	九	六		一		一	
上海方面	內地人	三				四		
	朝鮮人							
	本島人	一九	五			二	八	
	計	二二	五			六	八	
南支方面	內地人	二	九		二一	一二		
	朝鮮人			一三				
	本島人	三六	三四	三	四四	二三	四七	一
	計	三八	四三	一六	六五	三五	四七	一
		六九	五四	一六	六六	四一	五六	一

養魚業	運送業	私立記者事務員	留學生	官衙事務員	商店員	自動車運転手	製菓工	建築請負監督從事員	慰安所経営	荷物受取	遺骨引取	事業経営
				一								
									一			
				一					一			
				丁								
一					三			二				一
一				一	三			二				一
		一		三	一			二				
									二	一		
二	一	一	一	五	一〇	六	一	二一			一	一
二	一	二	一	八	二一	六	一	二三	二一	一	一	一
三	一	二	一	一〇	一四	六	一	二五	一二	一	一	二

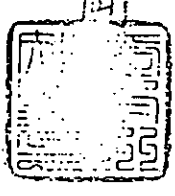
日本標準規格 B列5番 267 × 364 m.m.



医務従事	裁縫業従事	料理屋飲食店女給酌婦娼妓
		九
		九
		一
		一
		一
		一五
二	一四	五
二	一四	三一
二	一四	三一

[以下略]

（秘）南警高秘外第一〇六二七號ノ二
昭和十四年十二月十二日
台南州知事 川村直岡



警務局長殿
外務部長殿

渡支取締ニ関スル件

昭和十四年十二月中ニ於ケル當州下渡支取締狀況別表記載ノ通ニ有之候條
右通報ス

(三)渡航目的

區別	目的	視察	就職	料理屋	同居同伴	訪問	運輸交通	建築土木	歸還多	皇軍慰問
北支方面	內地人		一							
	朝鮮人									
	本島人									
	計		一							
上海方面	內地人									
	朝鮮人									
	本島人	五	三		三	二				
	計	五	三		三	二				
南支方面	內地人		八		一六	二				一二
	朝鮮人			一四						
	本島人	二五	一八	四	三二	一二	三	三		一
	計	二五	二六	一八	四八	一四	三	三		一三
合計		三〇	三〇	一八	五一	一六	三	三		一三

商業	学校教員講師	軍通譯	産婆	養豚	農業	旅館下傳	慰安所	医院下傳	會社事務員	軍酒保從業	電気工事
一一					一						五
一一					一						五
一						二	二		一	二	二
、						、	三九		、	、	、
三三	一	一	一	一	一	、	、	一	、	一	一二
三四	一	一	一	一	一	二	四一	一	一	三	一四
四五	一	一	一	一	一	二	四一	一	一	三	一九

[以下略]

[中略]

⑰—4 渡支取締ニ関スル件 [台南州知事] (昭15・2・26)

秘 南警高秘外第一四三八號ノ五

昭和十五年二月二十六日

台南州知事 石井龍猪

警務局長殿

外務部長殿

渡支取締ニ関スル件

昭和十五年一月中ニ於ケル當州下渡支取締状況別表記載ノ通ニ有之候條

右通報ス

警務局 第3590號 保安課

(三) 渡航目的

目的別 ＼ 區分		視察	就職	料理屋 [illegible]	同居同伴	訪問	運輸交通	建築土木	歸還多	商業
北支方面	內地人									
	朝鮮人									
	本島人	一	一			一				二
	計	一	一			一				二
上海方面	內地人									
	朝鮮人									
	本島人	七	三		六	一〇			一	一三
	計	七	三		六	一〇			一	一三
南支方面	內地人		一二		一一	二				五
	朝鮮人			一	六					
	本島人	二三	二〇	二	三六	一八	五	七	一	八〇
	計	二三	三三	三	五三	二〇	五	七	一	八五
合計		三一	三七	三	五九	三一	五	七	二	一〇〇

通譯	製煙從事	魚苗運搬	酌婦	仲居	慰安所抱主	畜産	農業	鑿井夫	官公吏	兵業	旅館	ペンキ塗工
									一			
									一			
									一			
							一		一			
			二				一					
	一											
			五	一	二							
九		一二				一	三	七	二	三	一	一
九	一	一二	六	一	二	一	三	七	二	三	一	一
九	一	一二	七	一	二	一	四	七	四	三	一	一

								合計	看護婦	寫眞業
								一		
								五		
								六		
								四二		
								四二		
								三四		
								一五		
								二三三	一	一
								二一二	一	一
								三三。	一	一

秘　花警高秘外第五六〇一號
昭和十四年十月十四日
花蓮港廳長　高原逸夫

警務局長殿
外務部長殿
各州知事廳長殿
各郡守殿

渡支取締方ノ件

昭和十四年九月中ニ於ケル渡航、身分證明書並ニ外國旅券發給狀況左記ノ通ニ有之候條
右通報（達）ス

［中略］

三、渡航目的調

目的別＼区分	北支方面			上海方面			南支方面		
	内地人	朝鮮人	本邦計	内地人	朝鮮人	本邦計	内地人	朝鮮人	本邦計
復仇									
商業視察			二			二			一六
海運業視察									一
農業視察									二
親族知己訪問			三			三			二
皇軍慰問						五			六
土木建築業者ノ營業						四			
就職			二			六			四
大工同棲			一			三			一
自動車業者ノ營業									一
料理屋業者ノ營業									三

累計	計	軍工事請負者事務員	呼寄	遊技場至營	公務出張	商業	酒保至營	慰安所從業員	右所從業員
三	一	、	、	、	、	一	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
七	、	、	、	、	、	、	、	、	、
一〇	一	、	、	、	、	一	、	、	、
/	一〇	、	、	、	一	一	、	、	、
一八	、	、	、	、	、	、	、	、	、
三	、	、	、	、	、	、	、	、	、
二〇	二	、	、	、	、	、	、	、	、
四一	二	、	、	、	、	、	、	、	、
/	四一	、	二	一	一	、	一	、	三
三二	一	、	、	、	、	、	、	、	、
二一	、	、	、	、	、	、	、	、	、
二四	、	、	、	、	、	、	、	、	、
六七	一	、	、	、	、	、	、	、	、
/	六七	一	四	、	二	三	、	一	一四

[中略]

⑲—1 渡支取締ニ関スル件 [澎湖庁長] (昭14・2・7)

澎警高秘第一三五七號

昭和十四年二月七日

澎湖廳長 今田卓爾



臺灣總督小林跨造殿

渡支取締ニ関スル件

昭和十四年一月中ニ於ケル渡支取締状況別紙ノ通リニ有之候條

右報告ス

[警] 澎湖廳

三、渡航目的調

区分 / 目的別	北支方面 内地人	北支方面 朝鮮人	北支方面 本島人	北支方面 計	上海方面 内地人	上海方面 朝鮮人	上海方面 本島人	上海方面 計	南支方面 内地人	南支方面 朝鮮人	南支方面 本島人	南支方面 計
苦業ノ為メ	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	二	二
軍慰安所開設ノ為又傭人トシテ	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	四	三	一	七
慰安所ノ傭人トシテ	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	一七	一〇	〃	二七
計	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	二一	一三	三	三七
累計	一	〃	一	二	三	一	二	六	三二	一三	三〇	七五

四、其ノ他参考事項

第二項累計欄中メ印ハ廈門復帰者ヲ示ス

第三項中 慰安所開設者内一同伴二計三、朝鮮人一同伴一計二、全傭人トシテ(帰場係)内一、鮮一、本一

二、渡航別表ハ(一)渡航許可シタルモノノ数ヲ計上スルコト
(二)再渡航ハ事変ニ依リ引揚タルモノノ再度渡航セルモノヲ計上スルコト

澎警高秘第五五一九號
昭和十四年五月九日
澎湖廳長 今田卓爾
臺灣總督小林躋造殿
渡支取締ニ關スル件
本年四月中ニ於ケル渡支取締狀況別表ノ通リニ有之候條
右報告ス

三渡航目的調

日的別＼区分	北支方面 内地人	北支方面 朝鮮人	北支方面 本島人	北支方面 計	上海方面 内地人	上海方面 朝鮮人	上海方面 本島人	上海方面 計	南支方面 内地人	南支方面 朝鮮人	南支方面 本島人	南支方面 計
公務出張									一			一
医院開業											五	五
商業及視察			一				一	一	二		三	六
国民安所開設									三			三
慶安所従業員									一七			一七
就職									二		一	三
夫婦同棲	参考	事項									三	三
計			一						二五		一二	三八
累計	一		二	三	三	一	二	六	五九	一三	五〇	一二二

二渡航別表ハ(一)渡航許可シタルモノノ数ヲ計上ス
(二)再渡航ハ事変ニ限リ引揚タルモノノ再度渡航セルモノヲ計上ス
×印

七月分（澎湖廳）

一、渡航身分證明書並外國旅券發給（本島人）狀況

地方別＼区分	内地人	朝鮮人	本島人	計
北支方面				
上海方面				
南支方面	一九		五	二四
計	一九		五	二四
累計	八六	一四	六九	一六九

二、渡航別表

地方別＼区分		内地人	朝鮮人	本島人	計
北支方面	初渡航				
上海方面					
南支方面		一八		四	二二
計		一八		四	二二
北支方面	再渡航				
上海方面					
南支方面		一		一	二
計		一		一	二

三、渡航目的調

目的別 ＼ 区分	北支方面 内地人	北支方面 朝鮮人	北支方面 本島人	北支方面 計	上海方面 内地人	上海方面 朝鮮人	上海方面 本島人	上海方面 計	南支方面 内地人	南支方面 朝鮮人	南支方面 本島人	南支方面 計
慰安所開設同伴									三	、	、	三
右ノ使用人トシテ									一三	、	二	一五
夫ノ呼寄同伴									三	、	、	三
就職									、	、	三	三
累計									一九	、	五	二四
累計	一	二	三	三	二	二	六	八二	一三	六五	一六九	

四、其ノ他参考事項

［中略］

昭和十年在上海總領事館警察事務狀況

同警察署長報告摘錄

目次

一　地方治安ノ概況
二　居留民ノ狀況
三　警察事務狀況
(一)　警察部第一課事務分掌
(二)　警察部第二課事務分掌
(三)　邦人戸口
(四)　邦人ノ請營業
(五)　警察文書

（日本標準規格B5）

昭和九年中邦人ノ諸營業

種別	開業	廢業	年末現在
醫師	一五	一三	五四
齒科醫師	四四		二四
獸醫師			四
入齒細工			三
藥劑師	六	五	一八
產婆	一〇	一	六七
看護婦	一四	五	五八
鍼灸按摩	三	一三	二四
整復術		一	三

(日本標準規格B5)

	湯屋	理髪	結髪	理髪職人	美容術	下宿業宿屋	宿屋	料理屋置屋	飲食店	喫茶汁粉	海軍慰安所
外務省	一	三	六	二五	二	一	一	三	一三	五	一
	三	四	二	二〇	一	三	一	六	一九	二	一
	五	一	八	一一	二	七	六	四	一一	一〇	四
	五	五	四	一二	三	二	一	二	一三	二	一

昭和十一年中ニ於ケル在留邦人ノ特種婦女ノ状況及其ノ取締（在上海総領事館警察署沿革誌ニ依ル）

一、藝妓

昭和十一年末現在ニ於ケル料理店兼置屋数二十四軒藝妓ノ数百四十五名ニシテ前年ニ比シ軒数ニ於テ増減ナキモ藝妓十名減少シ又藝妓ノ総揚高ニ於テ昭和十年ノ三十六萬八千七百八弗ニ對シ昭和十一年ハ三十四萬三千七十四弗ニシテ前年ニ比シ二萬五千六百三十四弗ノ減少ヲ示セリ然ルニ日支經濟提携問題ノ擡頭生産物價ノ漸騰等ニ由リ紡績其ノ他商社方面ノ取引活況ヲ呈シ十一日以來ハ此等花街方面ニモ影響シ頗ニ好況時代ヲ現出スルニ至レリ藝妓ノ大部分ハ家計不如意ニ因ル者又ハ幼少ヨリ仕込トシテ抱ヘラルル

者等ニシテ教育程度低キモ近時社會狀勢又ハ國民思想ノ變遷及接客ガ比較的上層階級ニ屬スル等ノ關係上相當常識ニ長ケ且契約年期滿了後再契約ヲ爲ス者稀ニシテ進ンデ他ノ正業ニ就カントスル者漸次增加ノ傾向アルト共ニ各營業主ニアリテハ之ガ爲新妓抱入ニ相當腐心シ居ル狀況ニアリ當館ニ於テハ右料理店貸座敷ニ對シテハ保安風俗衞生上ノ取締ヲ勵行シ居ル外新規營業主及稼業者ノ漸減策ヲ講ジツツアリ

二 酌婦

昭和十一年末現在ニ於テ（海軍慰安所タル料理店三軒ヲ含ム）ノ數ハ十軒酌婦數百三十一名（內內地人百二名ハ朝鮮人二十九名）アリテ內料理店三軒ハ居留邦人ヲ顧客ト爲シ他ノ七軒ハ海軍下士

兵ヲ專門トシテ絶對ニ地方客ニ接セシメズ且酌婦ノ健康診斷モ陸戰隊員及當館醫察官吏立會ノ上毎週二回專門醫ヲシテ施行シアルノ外慰安所ニ對シテハ海軍側トモ協調取締ヲ嚴ニシ且新規開業ヲ許サザルコトトセリ此等稼業者ハ孰レモ教育程度低キモ既往數年前ニ比シ品性常識共ニ幾分向上シツツアルヲ認メラルルト同時ニ女給「ダンサー」又ハ他ニ轉向セントスル者漸次增加ノ傾向ニ在リ一方抱入ニ付テハ前借ヲ認メズ稼高ノ折半契約方ヲ命令シ居ルモ事實上ノ娼妓稼業ト見ラルル本業ハ抱入ニ際シ幾分ノ前借アルヲ免レズ又此等ノ(者)ニシテ時ニ自由廢業等ノ申出ヲ爲ス者等アリテ其ノ都度臨機ノ措置ヲ講ゼリ

［中略］

昭和十一年在上海総領事館警察事務状況

同警察署長報告摘録

目次

一、地方治安ノ概況

二、在留邦人ノ状況

三、支那官憲竝ニ地方團體ノ在留邦人ニ對スル状況

四、警察事務状況

(一)警察署（警察部第一課）事務分掌

(二)警察部第二課事務分掌

(三)邦人戸口

(四)邦人ノ諸營業

［中略］

（日本標準規格B6）

［中略］

四　警察事務狀況

(一)　昭和十一年十二月末調警察署（警察部第一課）事務分掌

警察事務	警察署長	警部 主任	警部 副主任	特務	調査 視察	内勤	警務 調査
警視	一						
警部		一					
警部補			一				
巡査部長				一	一	一	
巡査						二	三
計	一	一	一	一	一	三	三

［中略］

(三)昭和十一年十二月末調邦人戸口

區分	戸數	人口		
		男	女	計
内地人	六四五九	一二五八五	一一〇四八	二三八一三
朝鮮人	四九八	八九七	九〇〇	一七九七
臺灣籍民	三一〇	四〇八	二四三	六五一
計	七二八五	一三八七〇	一二一九一	二六〇八一

(四)昭和十一年十二月末調邦人ノ諸營業

種別	營業者
醫師	六二
齒科醫師	二七
獸醫師	五

宿屋	一七
下宿兼宿屋	二八
料理店、置屋（芸妓）	二三
飲食店	一二五
喫茶、汁粉	二七
海軍慰安所	一〇
ダンスホール	四
倶楽部	一一
演芸映画館	二
遊戯場	二〇
印刷	五〇

［中略］

昭和十二年在上海總領事館警察事務状況

同警察署長報告摘錄

目次

一、上海ニ於ケル治安概況
二、在留邦人ノ状況
三、警察事務状況
(一)警察署事務分掌
(二)警察部第二課警察事務分掌
(三)邦人戸口
(四)邦人ノ諸営業
(五)警察文書

（日本標準規格B6）

三　警察事務状況

(一)　昭和十二年十二月末調警察署（警察部第一課）事務分掌

警察事務	警視	警部	警部補	巡査部長	巡査	計
警察署長代理		一				一
監督兼外勤監督		二	一			二
警務係		一	一	二	一六	二〇
情報係		一		二	一	四
行政係		一		二	六	九
司法係			一	四	一〇	一五
崑山路派出所				四	一六	二〇
北四川路派出所				三	一五	一八

［中略］

(四)昭和十二年邦人ノ諸営業

種別	開業	廃業	十二月末現在
医師	四	一	六五
歯科医師	四		二三
獣医師	一		六
歯科技工士			三
薬剤師	三	一	二一
産婆	二	五	七三
看護婦	七		七六
鍼灸按摩	一	一〇	二九
整骨復術	二		四

	湯屋	理髪	理髪職人	結髪	美容師	宿屋	下宿兼宿屋	料理屋（芸妓置）	飲食店	喫茶汁粉	海軍慰安所
	一	四	一一	五	一	一	一	一	五	四	一
	一	七	一	八	三	二	一	一	三	一	一
外務省	五	五三	一三五	四九	三三	一五	二七	二三	一二七	三一	九

昭和十三年中ニ於ケル在留邦人ノ特種婦女ノ状況及其ノ取締並ニ租界當局ノ私娼取締状況（在上海總領事館警察署沿革誌ニ依ル）

一、藝妓

上海ニ於ケル藝妓ノ保護取締及待遇ノ改善等ニ關シテハ常ニ細心ノ注意ヲ拂ヒ居ル處發ニ昭和四年五月當業者ヲシテ株式組織ノ檢番ヲ設置セシメ檢番料理店置屋及抱主藝妓間ニ於ケル貸借契約稼業期間收得金ノ分配給與等ニ關シ命令ヲ以テ藝妓ノ待遇改善ヲ圖ルト共ニ更ニ客年末一部命令内容ヲ改善シ今日ニ及ビタルガ藝妓ニ對スル待遇等ノ實情ハ寧ロ内地ノ夫レニ比シ遙ニ改善ノ域ニ達シ居ルト謂ヒ得ベシ昭和十二年八月日支事變ノ戰禍メ上海ニ波及スルヤ一時全部ノ避難引揚ヲ見タルガ同年十二

月頃ヨリ漸次復歸シ現在料理店置屋二十七軒娼妓數二百五十七名ニシテ前年末ニ比シ四軒ノ增加數ニ於テ六十名ノ增員トナレリ又娼妓ノ總稼高ハ前年事變引揚ノ關係上二十三萬一千餘弗ナリシガ本年十二月末日現在ニ於テハ八十五萬九千八百餘圓ニ上レリ此等料理店置屋及娼妓等ニ對シテハ常ニ保安風俗衛生上ノ取締ヲ勵行シ來リタルガ支那事變ニ由ル當地情勢ハ從來ノ漸減策ヲ持續シ得ザル事情アルニ顧ミ設備其ノ他ノ條件ヲ附シ增加ヲ認許スルコトトシ三十二月末現在料理店及置屋二十七軒娼妓二百五十七名ニ上リ前年ニ比シ六十名ノ增員ヲ見タリ

二、酌婦

在留邦人經營ノ貸席ハ內地公娼制ニ依ル乙種娼妓（娼妓）ヲ抱ヘ

明治四十年七月貸席ヲ開業シタルモノナルガ昭和四年六月上海公安局ハ管下全般ニ亘リ支那人公娼廢止ヲ佈布スルト共ニ支那街ニ在リシ邦人業者ニ對シテモ閉鎖ヲ強要スル等ノ態度ヲ示シ一方ウニ呼應シテ本邦人ヲ以テ組織スル婦人矯風會上海支部モ公娼制ニ極力反對ヲ唱ヘ外務省ニ陳情スル等ノ運動ヲ爲シ社會問題トシテ取リ擧ゲラレタル事アリ國際都市ニ於ケル邦人ノ體面ト社會風敎上常ニ問題視セラルルニ顧ミ當館ニ於テモ同年公娼廢止ニ代ルベキ辦法トシテ料理店酌婦制度ヲ設ケ爾來抱酌婦ノ改善ヲ計リ來リタル處昭和七年上海事變勃發ト共ニ[illegible]部隊ノ當地駐屯增員ニ依リ此等兵士ノ慰安機關ノ一助トシテ海軍慰安所（事實上ノ貸席）ヲ設置シ現在ニ至リタル然ルニ本業者モ今次事變勃發ト共ニ一時

［中略］

内地ニ避難シタルガ客年十一月頃ニハ常態ニ復シ其後在留邦人ノ激増ト共ニ遏月、末廣ノ貸席ヲ増シ十二月末日現在事實上ノ貸席十一軒（内海軍慰安所七軒ヲ含ム）抱酌婦百九十一名（内地人百七十一名朝鮮人二十名）トナリ前年ニ比シ七十三名ノ増員トナレリ而シテ一般貸席四軒ハ殆ド居留邦人ヲ顧客トシ他ノ海軍慰安所七軒ハ海軍下士官兵ヲ專門ニ絶對地方客ニ接セシメズ且酌婦ノ健康診斷モ陸戰隊及當館警察官吏立會ノ上毎週一回專門醫ヲシテ實施セシメ居ルモノナリ尚其ノ他當館管内ニ陸軍慰安所臨時酌婦三百名アリ

（日本標準規格B5）

丑 私娼

上海ハ魔都ノ稱アルガ如ク遊客ノ好奇心ヲ誘フ歡樂場隨處ニ存在シ就中一般人士ヲシテ顰蹙セシムルモノハ私娼ニシテ特ニ共同租界繁華街タル南京路兩側ノ如キハ支那人私娼又ハ如何ハシキ「ダンサー」等野鷄ト稱シテ出沒シ猥褻極マル言辭ヲ弄シ又ハ赤露ノ革命ニ由リ本國ヲ逃レ流浪セル白系露人ノ私娼ハ其ノ數五、六百名ヲ算出沒シ彼等ハ常ニ取締ノ隙ニ乘ジ各處ニ出沒シテ行容ヲ曳キ支那事變後ノ現在ニ於テモ邦人居住地區虹口及楊樹浦方面ノミニテモ約百五十名ノ多キニ達シ居レリ之ニ次グ本邦人私娼モ事變前二百五十名內外ト稱セラレタリシガ事變後戰時景氣ノ好況ニ由リ正業ニ轉ジ其ノ數著シク減ジ現在百五十名內外

(日本標準規格B5)

大別は前項に同じ

ト認メラル而シテ此等私娼ハ其ノ大半ハ朝鮮人ニシテ内地人私娼ノ大部分ハ一戸ヲ構ヘ支那人車夫等ヲ客引ニ使用或ハ租界内ニ怠安機關ノナキ陸軍兵士ヲ對手ニ語學教授主人ガ第一線ニ勤メ居ル留守宅又ハ其ノ他正業ヲ裝ヒ密カニ賣淫行爲ヲ爲シ居レルガ轉々居所ヲ替ヘ之ガ取締上ノ苦心少カラザルモノアリ

六 租界當局ノ私娼取締狀況

共同租界當局ハ保安衛生風俗方面ヨリ私娼ノ取締ヲ重要視シ居レルモ甚シク公安秩序ヲ紊サザル範圍ニ於ケル或程度迄放任シ居ルガ如ク場合ニ依リテハ私娼ヲ利用シ租界繁榮策ノ一助ト爲サントスル傾向スラ見受ケラル、一九二四年上海共同租界工部局ニ於ケル廢娼ノ實行ハ翌年三月ヲ以テ終リヲ告ゲタルガ結果

(日本標準規格B6)

[以下略]

昭和十三年在上海総領事館警察事務状況

同警察署長報告摘録

目次

一、地方治安概況
(一)上海ニ於ケル抗日團ノ活動
(二)抗日漢字紙ノ宣傳
二、警察事務状況
(一)警察部第一課警察事務分掌
(二)警察部第二課警察事務分掌
(三)邦人戸口
(四)邦人ノ諸營業

［中略］

四 昭和十三年中邦人ノ諸營業

職業	營業	開業	廢業	年末現在
醫師		四	二	大七
齒科醫師		一	一	二三
獸醫				大
入齒細工				三
藥劑師		三	一	二三
產婆		一大		八九
看護婦		二九		一〇五
鍼灸按摩		一三		四二
整復術		二		大

外務省

	工業原料藥品	藥種賣藥	古物商	行商	質屋	紹介周旋	通譯案内	興信告知	代書代辯	諸教授	撮術行爲
	一三	二〇	三九	一四		五			二	七	
外務省	一	四	一			一〇					
	四一	九〇	一四五	一三一	一二	五	七	一一	一四	七九	二五

（日本標準規格B5）

湯屋	三									八
理髮	一二		三						六二	
理髮職人	一							一三六		
結髮	四							五三		
美容師	一							三四		
宿屋	一〇		二					二一		
下宿兼宿屋	八							一五		
下宿業	七							二二		
料理屋置屋	五		一					二七		
飲食店	九七	一二						二〇三		
喫茶汁粉	二五		三					五三		

外務省

日本標準規格B号

| | | |

［中略］

在上海總領事館ニ於ケル特高警察事務狀況　昭和十二年十二月末調

目次

一般ノ狀況
二、在留内地人ノ狀況
三、在留朝鮮人ノ狀況
(一)在留朝鮮人ノ戸口累年比較
(二)在留朝鮮人ノ職業
(三)在留朝鮮人ノ取締
(四)要視察團體
1、民族主義派及混合團體
2、共產主義派團體

（日本標準規格B5）

[中略]

三、在留朝鮮人ノ狀況

上海ニ於ケル在留朝鮮人ノ戸數及人口ハ復雜ナル各國權力ノ錯雜等周圍ノ關係上未ダ正確ナル調査ヲ遂グルヲ得ザルモ次表ノ如ク年々增加ノ傾向ヲ示シ來レルガ昭和十二年八月上海ニ勃發シタル日支事變ノ影響ヲ蒙リ著シク減少シ來シ年末現在ノ調査ニ依レバ戸數三百九十三戸人口男四百九十二女五百九十二計千八十三人ニシテ之ヲ前年末現在ニ比較スルトキハ戸數二百三戸人口男四百六人女三百八人計七百十四人ノ減少ヲ見タリ

(一)在留朝鮮人ノ戸口ノ累年比較

年次	戸數	人口		
		男	女	計
昭和七年末	四三八	七四二	六一〇	一、三五二

(二)在留朝鮮人ノ職業

昭和十二年十二月末調

職業	本業者	
電車査票	一八	
歯科醫師	一	
媒婆	一	
料理店	一	
カフエー	七	
萬年筆製造	一	
同職工	一〇	
ダンス教師	二	
ダンサー	一八	

外務省

	陸軍慰安所	ダンサー	女給	外人妾	密売淫	計
	一	一八	七六	二〇	二〇	二六八

外務省

(日本標準規格B5)

［中略］

⑰「在天津総領事館塘沽出張所警察署警察史」抜粋（昭12・1・12）

昭和十二年

一月

支那税關吏ノ邦人毆打事件

一月十二日、塘沽出帆ノ天津丸當所員臨檢中支那海關吏曹玉斌外三名ハ邦人三等船客須崎憲雄（當四十一年）ヲ毆打左眼下ニ約一週間ノ治療ヲ要スル打撲傷ヲ負ハシメタルヲ以テ山元巡査部長ハ毆副税關長竝ニ被害者ヲ當派遣所ニ任意同行取調ヲ爲シタル結果本件ハ須崎ノ檢査拒絶ニ端ヲ發シ居ルモ檢査後邦人ニ傷害ヲ加ヘタル行爲ハ官吏ノ取ルベキ處置ニアラザルヲ以テ副税關長竝ニ加害者ハレタル邦人ニ謝罪セシメ尚今後邦人ノ携帯品等檢査ノ際ハ我方立會ノ上檢査スルコトトシ期ル不法事件ノ再發セザ

外務省

（日本標準規格B6）

在留民全般ニ豫防注射ヲ實施スルト共ニ罹病者家屋ノ消毒附近ノ交通ヲ遮斷シ一般在留民ニ對シテハ魚獲ヲ禁止シ野菜ノ消毒防蠅等衛生思想ノ普及及徹底ニ努力スルト共ニ一齊ニ檢病的戸口調査ヲ實施シ患者ノ早期發見ニ努ムル等全所員ヲ動員之ガ蔓延ノ防遏ヲ圖リタル結果十一月末ニ至リ終熄スルニ至レリ

因ニ當地ニハ從來防疫施設ナク居留民ノ增加ニ伴ヒ之ガ設立要望サレ居レリ

十二月

南京陷落祝賀大會

十二月十四日軍宣撫班ノ指導ニ依リ日支合同ノ南京陷落祝賀會ヲ明星小學校構堂ニ於テ擧行シ本大會終了後市內

(日本標準規格B5)

特種營業竝ニ特種婦女取締

當所ニ於テ取扱件數ノ最モ多キハ特殊營業關係事項ニシテ本年末ニ於ケル料理店、營業者ハ內地人五朝鮮人三之ガ從業藝妓十三名酌婦內地人十五名鮮人五十四名ニシテ當地ハ北支ノ關門タル關係上邦人ノ往來頻繁ニシテ加フルニ本事變勃發ニヨリ皇軍ノ通過駐屯部隊多ク此等ヲ相手トシ此種營業ハ段賑ヲ極メ居レリ之ガ取締ニ關シテハ月一回營業監査ヲ實施シ從業婦女ニ對シテハ每週金曜日現地關業醫ノ健康診斷ヲ實施シ傳染性疾患竝ニ性病ノ有無ヲ檢査シツツアリ

在留邦人職業別人

十二月末調在留邦人職業別人口左ノ通

外務省

〔以下略〕

(日本標準規格B5)

〔中略〕

㉘昭和十三年在漢口総領事館警察事務状況〔同警察署長報告摘録〕（昭13）

昭和十三年在漢口領事館警察事務状況

同警察署長報告摘録

目次

一、地方治安概況
(一)治安
(二)警備保安機關
二、在留邦人ノ状況
三、警察事務
(一)警察署事務分掌
(二)邦人戸口
(三)邦人ノ職業

外務省

(ロ) 昭和十三年十二月末調　邦人ノ職業

職業別	漢口		武昌		計
	男	女	男	女	
料理店、慰安所	一六		四一	四	六一
飲食店、食堂	一三六	一五	四	一三	一六八
カフエー、喫茶店	一三	一			一四
藝妓、酌婦		二〇〇		二九二	四九二
貿易商	五六				五六
雜貨商	九五	三	六	二	一〇六
製菓販賣	三三		三		三六
米穀、酒類販賣	五				五

（日本標準規格B5）

外務省 [以下略]

［中略］

㉙昭和十三年在南京総領事館蕪湖分館警察事務状況［同警察署長報告摘録］（昭13）

昭和十三年在南京総領事館蕪湖分館警察事務状況

同警察署長報告摘録

目次

一、地方治安概況
二、在留邦人ノ状況
三、警察事務状況
(一)警察署事務分掌
(二)邦人ノ戸口
(三)内地人ノ職業
(四)警察文書
(五)行政警察事項

外務省

日本標準規格B5

三、在留邦人ノ狀況

當館管內ニ於テ現在邦人ノ在留スル地方ハ無湖、安慶、太平、馬鞍山、裕溪口、廬州及蕪沚鎭ナル處

(一)無湖ハ水陸交通ノ便アリ通商貿易港トシテ外國人ニ開放セラレアリタル關係上早クヨリ邦人居住シアリテ事變前ハ一時其ノ數百三十餘名ニ達シタルコトアリシモ打續ク時局不安ト排日ノ影響ニ依リ漸減シ昭和十二年八月上旬事變ニ因ル引揚當時ハ其ノ數僅ニ三十名トナレリ然ルニ今次事變後邦人ノ在留者漸增シ來リ本年末ニ於テハ戶數一四八、人口五四五名ヲ算シ逐日漸增ノ傾向ニアリ

(二)安慶ニハ事變前邦人ノ在住スル者ナカリシガ本年六月皇軍ノ

(日本標準規格B5)

同地占領後飲食店、雜貨商及慰安所等軍隊ヲ目當トスル營業者及日清汽船安慶出張所等在住スルニ至リ同年末ニハ戸數四十一、人口二百十九ヲ算フルニ至レリ

(三)太平（當塗）ニモ事變前邦人ノ居住スルモノナカリシガ同地占領ト同時ニ邦人經營ニナル中公司太平鑛業所及華中鐵鑛公司出張所進出シ今ヤ戸數六、人口十一アリ

(四)馬鞍山ニハ事變前僅ニ一名ノ邦人在住シ居タルノミナリシガ事變後華中鐵鑛公司出張所ノ設置アリ本年末ニハ五戸六十七名トナリ全部鑛山從業員ノミナリ

(五)裕溪口及灣沚鎭ニモ事變前邦人ノ居住者無カリシモ本年末現在軍隊相手ノ營業者裕溪口ニ二戸三名、灣沚鎭ニ二戸十名ノ

在留者アリ

在留邦人ノ職業ハ我領事館員ヲ始メ日清汽船、近海郵船、中公司、華中鐵鑛公司等ノ會社員ノ外省内土産品ノ買付、輸出及本邦品ノ輸入商ノ如キ一般貿易業者、商店員、雜貨商竝ニ主トシテ軍人相手ノ料理店、飲食店、慰安所、寫眞屋、時計屋ハ其ノ主タルモノトス

外務省

(日本標準規格B5)

㉚昭和十三年在杭州領事館警察事務状況〔同警察署長報告摘録〕（昭13）

昭和十三年在杭州領事館警察事務状況

同警察署長報告摘録

目次

一、地方治安概況
二、在留邦人ノ状況
三、警察事務状況
(一)警察署事務分掌
(二)邦人戸口
(三)邦人ノ職業
(四)警察文書
(五)行政警察事項

外務省

日本標準規格B5

[中略]

(六)邦人ノ火災

(七)邦人ノ諸興業行

(八)在留禁止及保護送還

(九)邦人ノ傳染病

(十)傳染病豫防注射

(十一)種痘

(十二)檢視、檢證

(十三)犯罪件數及檢舉件數

(十四)犯罪即決

(十五)留置人

註記、以上ノ外醫察上特記スベキ事項ナシ

日本標準規格B5

(三)昭和十三年十二月末調　邦人ノ職業

職業別	男	女	計
纖維工業	一	一	二
飲食料品製造業	五		五
電氣事業者	一		一
土木建築業	三		三
物品販賣業	三五	二	三七
會社、銀行、商店員	一三七	一五	一五二
旅館	三		三
下宿屋	一		一
料理店	二		二

業	運送	自動車運轉手	鐵道從業員	郵便電信從業員	理髮業	旅館飲食店、料理店女中	婦	藝妓	映畫館	軍隊慰安所	飲食店
	二	二	一〇二	一六	一				二	四	二四
						八	二	一			
						七	一	五			
外務省	二	二	一〇二	一六	一	八七	二一	一五	二	四	二四

開館當時ニ於ケル狀況左ノ通

一、邦人關係

十二月一日九江在留邦人ハ五百五十七名ノ多キニ達シタルガ其ノ大部ハ軍ヲ對象トスル飲食店、酒保、寫眞業、特種慰安所關係者ニシテ孰レモ一時的在留者ニシテ就中全人口ノ四〇%ヲ占ムル所謂特種婦人ノ如キハ軍ノ命令ニ依リ移動シ居レル狀態ナルヲ以テ九江ノ復興乃至繁榮等ヲ樹立スルガ如キハ當分困難ナル實情ニアリ尚舊居留民ハ南潯鐵路關係者二名ヲ除キ他ハ殆ド復歸セルモ一概ネ單身一目下當地ハ廬山及南昌作戰上外支人ノ復歸ハ未ダ之ヲ許可セザルヲ以テ事變前ニ於ケルガ如キ商取引ヲ爲スコト全然不能ナル爲不得已軍人對手ノ所謂「纏詰品ノ販

貿ヲ爲シツツアル狀況ニシテ可及的速ニ對支那人トノ取引開始サルルノ時期到來ヲ待チツツアリ尚ニ於テハ此等舊居留民ニ對シテハ頗ル同情ジ家屋ノ如キモ從來最モ繁華ナリシ大中路ニ面セル支那人商舖ヲ好意的ニ割等テ便宜ヲ圖リツツアリ

又進出邦人ニ對シテモ同區域一帶ヲ日本人居住區域トシテ家屋ノ割當ヲ爲シツツアリ支那人復歸ノ上ハ之ガ屋賃等ニ付近ク結成セラルベキ自治委員會方面ト協定ノ要アルベク目下特務機關ト協議中ナリ從テ當館トシテモ在留邦人統制上速ニ日本人會ノ復活ヲ必要トスル次第ニテ目下民會長及民會役員等物色中ナルガ外人復歸ヲ認メザル關係上對外的ニ相當機微ナル關係モアリ之ガ復活ニ付テハ愼重ヲ期シツツアリ

昭和十三年四月十六日南京總領事館ニ於テ陸海外三省關係者會同在留邦人ノ各種營業許可及取締ニ關シ協議會ヲ開催シ各項ニ付キ左ノ通リ決定セリ（南京警察署沿革誌ニ依ル）

記

一、期日　昭和十三年四月十六日午前十時開始同午後五時終了

二、出席者

陸軍側　兵站司令部　千田大佐
第三師團參謀　栗栖中佐
第三師團軍醫部　高原軍醫中佐
南京特務機關　大西少佐
南京憲兵隊　小山中佐

（日本標準規格B6）

［中略］

南京憲兵隊　堀川大尉
同　北原中尉
海軍側　海軍武官　中原大佐
嵯峨艦長　上野中佐
領事館側　花輪総領事
田中領事
清水警察署長
佐々木警部補

三、議決事項

(一)各種営業別ニ依ル許否ノ方針及許可ノ限度

取締営業ニ屬セザル一般営業ハ許可件数過多トナリ在留民ガ

(日本標準規格 B5)

以上禁制品私ニ取扱フ者アル場合ハ法ニ照シ嚴重之ガ取締ヲ爲シ居留民ノ健全ナル發展ヲ期スベシ軍人軍屬以外ノ居留民ニシテ兵器（拳銃）彈藥等ヲ所持スル者ハ此ノ際領事館ニ届出登錄手續ヲ爲サシムベシ

(六)軍以外ニモ利用セラルル酒保慰安所ノ問題

陸海軍ニ專屬スル酒保及慰安所ハ陸海軍ノ直接經營監督スルモノナルニ付領事館ハ干與セザルベキモ一般ニ利用セラルル所謂酒保及慰安所ニ就テハ此ノ限リニアラズ此ノ場合業者ニ對スル一般ノ取締ハ領事館其ノ衝ニ當リ之ニ出入スル軍人軍屬ニ對スル取締ハ憲兵隊ニ於テ處理スルモノトス尙憲兵隊ハ必要ノ場合隨時臨檢其ノ他ノ取締ヲ爲スコトアルベシ

日本標準規格B5

要スルニ軍憲領事館ハ協力シテ軍及居留民ノ保健衛生ト業者ノ健全ナル發展ヲ期セントスルモノナリ

將來兵站部ノ指導ニ依リ所設セラルベキ軍專屬ノ特殊慰安所ハ憲兵隊ノ取締ル處ニシテ既設ノ慰安所ニ對シテハ兵站部ニ於テ一般居留民ノ利便ヲモ考慮ニ入レ其ノ一部ヲ特種慰安所ニ編入整理スルコトアルベシ

右ハ追テ各機關協議ノ上決定スルモノトス

軍專屬ノ酒保及特種慰安所ヲ（陸海共）ニ於テ許可シタル場合ハ領事館ノ事務處理ニ便タル爲當該軍憲ヨリ隨時其ノ業態營業者ノ本籍、住所氏名、年齢、出生、死亡其ノ他身分上ノ異動ヲ領事館ニ通報スルモノトス

外務省［以下略］

（日本標準規格B5）

［中略］

［前略］㉝「海口総領事館警察署瓊山派遣所警察史」抜粋（昭15）

昭和十五年

一月

拜賀式

一月一日午前九時ヨリ當所ニ於テ在留邦人參列ノ下ニ紀元二千六百年奉祝拜賀式ヲ擧行セリ

記

一、開式

一、皇居遙拜

一、皇軍將兵ノ武運長久ヲ祈リ併セテ戰沒將士ノ英靈ニ對シ一分間ノ默禱

一、紀元二千六百年ノ歌合唱

一、冷酒乾杯

外務省

日本国際問題研究所

還都紀念式

四月二十六日國府還都慶祝ノ爲中央政府國旗掲揚方ヲ一般在留民ニ通達シ尚同日午前八時ヨリ縣政府ニ於テ擧行セラレタル還都紀念式ニ所長代理トシテ新澤巡査參列ス

小磯拓務大臣來

四月二十七日午後二時小磯拓務大臣中島部隊慰問ノ爲來アリタルヲ以テ市内一般及沿道ノ警戒ニ當リタリ

國際勞働紀念日

五月

五月一日國際勞働紀念日ニ當リ鋭意情報ノ蒐集ニ努メ潛行的運動ノ視察警戒ニ努メタルモ何等異狀ヲ認メズ

歡迎會

同日午後七時ヨリ高雄食堂ニ於テ新警備隊長中島中佐ノ歡迎會ヲ催シタリ

管内狀況視察

五月十一日午前十一時ヨリ美林舖方面ニ管内狀況視察ノ

察出張爲出張ノ小口本署長ニ新澤巡査ヲ附シ同日午后五時歸所ス

會場警戒取締

五月十九日午後八時ヨリ忠介路百五十二號廣場ニ於テ軍主催ニ依ル支那民衆宣撫映畫會開催セラレタルヲ以テ全員之ガ場內竝ニ附近ヲ警戒シタリ

在瓊各機關連絡協調懇談會

五月二十三日午後一時ヨリ中島警備部隊宣撫班樓上ニ於テ在瓊各機關ノ連絡協調ヲ圖ル爲之ガ第一回懇談會ヲ開催セラル宮尾所長出席ス

因ニ協議事項左ノ通リ

1、瓊山市進出邦人借家手續等ニ關スル件（部隊本部提議）

2、大宮來瓊ニ際シ連絡ノ件（當所提議）

3、非常情報入手ニ際シ緊密ナル連絡方ノ件（當所提議）

4、靈祭其ノ他軍側ノ諸催物ニ邦人ノ參加希望ノ件（部隊本部提議）

5、慰安所竝ニ軍側慰安設備ニ對スル意向（部隊本部提議）

6、軍人軍屬ノ出入スル諸營業新設ニ關シ連絡希望ノ件（憲兵隊提議）

7、情報ノ交換ニ關スル件（當所提議）

軍招待慰安會場警戒取締

五月二十六日午前十時ヨリ瓊山盆壹拓農場ニ於テ同農場主催ニ依ル在瓊各部隊將校ヲ招待慰安會開催セラレタルニ付宮尾部長、新澤巡査、安本巡査ハ之ガ會場警戒ニ任シタリ

㉞—1 邦人出国者統計表進達ノ件［在山海関副領事］（昭15・6・15）

第三課

昭和十五年七月

第三課

第三

機密第二四一號

昭和十五年六月十五日

在山海關

副領事　小坂部　蕉

外務大臣　有田八郎殿

邦人出國者統計表進達ノ件

五月中當地經由ノ邦人出國者統計左表ノ通ニ付此段報告申進ス

記

邦人出國者統計表　五月分

內地人		朝鮮人		臺灣人		小計		計
男	女	男	女	男	女	男	女	
四四九一	四〇四一	二二一二	一四〇九	、	、	七二〇二	五四五〇	一二六五二

在山海關日本領事館

昭和十五年

五月中入國者職業調査表（第五號）

廣東

業別＼行先地別	廣東	澳門	香港	海口	合計
單人 單属	七八	、	、	、	七八
官公吏	五二	、	、	、	五二
會社員	二五八	、	、	、	二五八
銀行員	七	、	、	、	七
商店事務員	九一	、	、	、	九一
貿易商	一九	、	、	、	一九
教育關係	四	、	、	、	四
飲食料理業	二五	、	、	、	二五
藝函婦仲居	八三	、	、	、	八三
女給	四一	、	、	、	四一

寫眞業	一一									一一	
一般商業	一八五									一八五	
記者	一六									一六	
筆庭音所酒保	二〇									二〇	
船員	九									九	
料理人	二三									二三	
時計商	七									七	
學生	一									一	
人工	五									五	
貸地業	三									三	
祥戰宗教	三									三	
旅館業	一									一	



［以下略］

[中略]

㉞-2 邦人渡支狀況ニ關スル件 [在山海関副領事] (昭15・7・19)

機密第二七九號　　別紙添附

昭和十五年七月十九日

在山海關
副領事　小坂部　薀

外務大臣　有田八郎殿

邦人渡支狀況ニ關スル件

本件ニ關シ六月中當地經由邦人渡支狀況ハ別表ノ通リ七、六六〇名ニシテ之ヲ五月分ニ比較スレハ入支者五七八名ノ減少ヲ來シ居ルカ右ハ五月二十日ヨリ實施セル新規渡航制限強化ニ基因スルモノニシテ之ヲ更ニ本制限實施前四月分一六、五八九名ニ比較對照スレハ約六〇%ノ減少ヲ來シ尚旅行者ヲ行先別ニ區分スルニ第一表ノ北京行ノ二、九二九名ヲ第一位ニ天津ノ一、二七七名張家口ノ四七七名太原ノ三〇七名

在山海關日本領事館

昭和十五年六五月中入國者職業調査表（第五號）

廣東

業別＼行先地別	廣東	澳門	香港	海口	合計
軍人 軍属	一三一	九	一九	九	一六八
官公吏	三〇	一三	一四	四	六一
會社員	九四	三一	二二	三	一五〇
銀行員	四	二	一七		二三
商店事務員	六二	九	一七	二	九〇
貿易商	一三	七	九		二九
教育關係	七	二	一		一〇
飲食料理業	八	四	三	一	一六
藝函婦仲居	七六	一	五		八二
女給	一六				一六

寫眞業	一般商業	記者	婦人慰安所酒保	船員	料理人	時計商	學生	大工	貸地業	神職宗教	旅館業
七	一三九	七	二六	一二	一二	三	二二	七	三	四	三
二	四	一		二		一	五				二
	二三	四				一	六				
一	二										
一〇	一六八	一二	二六	一四	一二	五	三三	七	三	四	五

[以下略]

㉞—3 邦人出國者統計報告ノ件［在山海関副領事］（昭15・8・14）

亞米利加局長

第三課

機密第三一五號

昭和十五年八月十四日

在山海關

副領事　小坂部　蘊

別紙添附

外務大臣　松岡洋右殿

邦人出國者統計報告ノ件

七月中當山海關經由邦人出國者統計ハ左表ノ通ニシテ之ヲ客月分ノ八八五六名ニ比較スレハ一〇五八名ノ増加ヲ示シ居ル處右ハ主トシテ學校ノ暑中休暇ヲ利用シ日本又ハ鮮滿ニ旅行スルモノ増加シタルニ因ルモノト見做サレ居ルモ入國者ノ七四二九名ニ比シ出超一〇五八名ノ數字ヲ示シ居ルハ事變以來最初ノ現象ニシテ之カ眞相ハ爲替管理及渡支制限ノ强化ト關聯シ將來邦人發展ノ資料トシテ更ニ調査ヲ爲ス必要アルモノト思料セラル

［中略］

在山海關日本領事館

D

亞米利加局
15.9.12
第三課

昭和十五年

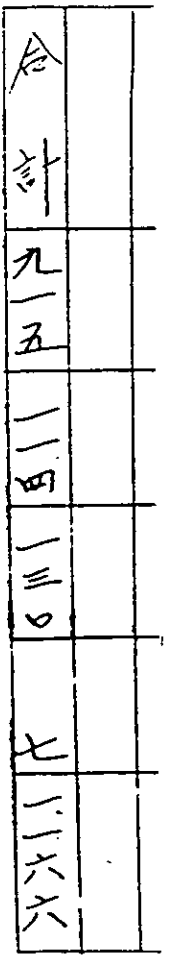
七五月中入國者職業調査表（第五號）

廣東

業別／行先地別	廣東	澳門	香港	海口	合計
軍人軍属	一二七	一五	一二		一五四
官公吏	三〇	一二	一七	一	六〇
會社員	五一	一九	二五		九五
銀行員	三		三	一	七
商店事務員	六二	一六	一一		八九
貿易商	一二	五	一〇		二七
教育關係	六		三		九
飲食料理業	一一		二		一三
藝酌婦仲居	四五	五			五〇
女給	一七				一七
寫眞業	三	一			四
一般商業	七六	八	二九		一一三

記者	筆尅妾所酒保	船員	料理人	時計商	學生	人工	貸地業	神職宗教	旅館業	運輸業	家政婦附添看護	裁縫業	通信員	建築業
二〇	一八	一三	九	三	二四	二	二	二	二	六	八	一		一
三		三			一〇					二				
二					三									
					五									
二五	一八	一六	九	三	四二	二	二	二	二	八	八	一		一

医師藥劑師	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
運轉手	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四
職工	三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六
理髮業	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
慰問團	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
祖祭	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
農業	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七
若水業	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
雜貨商	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
澳業	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
從屬者	二九九	一四	一二	一二	一二	一二	一二	一二	一二	一二	一二	一二	一二	一二
其他	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、


合計
九一五
一一四
一三〇
七
二六六

㉟渡支邦人暫定處理ニ關スル統計報告方ノ件［在漢口總領事］（昭15・10・3）

第三課

亞米利加局長

機密第八二六號

昭和十五年十月三日

在漢口

總領事　伊東隆治

外務大臣　松岡洋右殿

渡支邦人暫定處理ニ關スル統計報告方ノ件

八月二十六日附米三機密合第一〇七七號貴信御來示ノ趣敬承右ハ別表ノ通リ（武昌、大冶ヲ含ム）ニ付此段報告申進ス

別紙添付

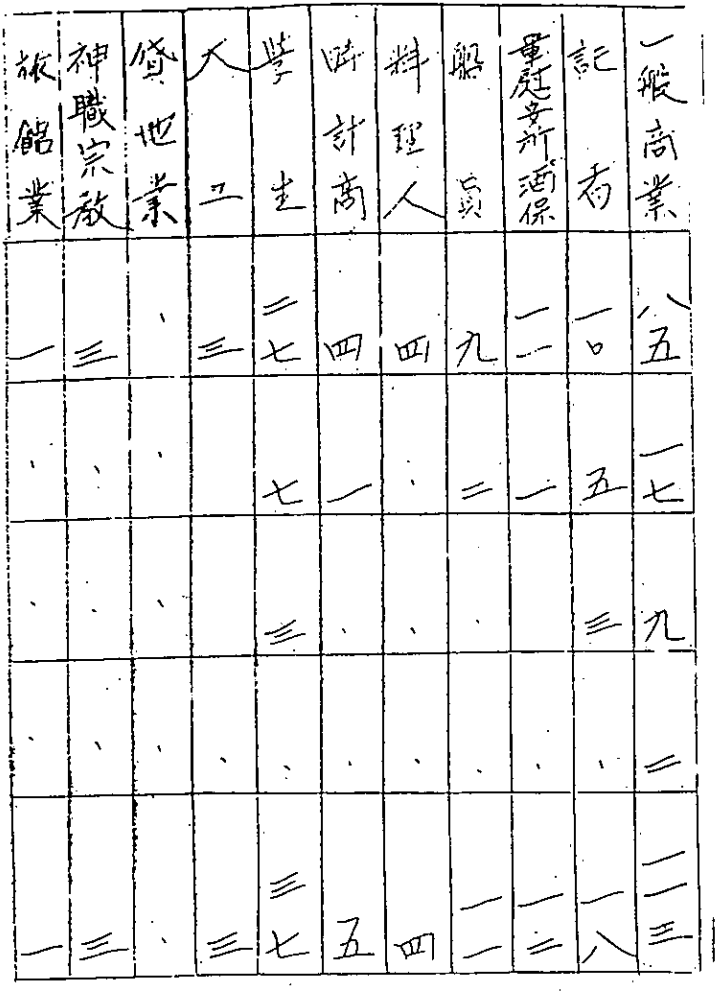
在漢口日本總領事館

[中略]

昭和十五年八五月中入國者職業調査表（第五號）

廣東

業別＼行先地別	廣東	澳門	香港	海口	合計
軍人軍属	二八	一三	五	二	四八
官公吏	二九	九	一〇	三	五一
會社員	九一	三五	一七	一	一四四
銀行員	一		二	、	二
商店事務員	四一	八	六	二	五七
貿易商	八	八	四	、	二〇
教育關係	九	四	五	、	一八
飲食料理業	四	、	一	、	五
藝酌婦仲居	三四	四	、	二	四〇
女給	一六	、	、	、	一六



一般商業	記者	量庭安所酒保	船員	料理人	時計商	學生	人工	貸地業	神職宗教	旅館業
八五	一〇	一一	九	四	四	二七	三	、	三	一
一七	五	一	二	、	一	七		、	、	、
九	三		、	、	、	三		、	、	、
二	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
一一三	一八	一二	一一	四	五	三七	三	、	三	一

[以下略]

極秘

亞米利加局長

極秘第三八三號

昭和十六年五月十日

在廣東

總領事 高津富雄

外務大臣 松岡洋右殿

渡支邦人暫定處理ニ關スル各種統計表(四月)送付ノ件

昭和十五年八月二十六日附米三機密合第一〇七七號貴信ヲ以テ御調達ノ四月分調査表別添ノ通リ玆ニ送付ス

本信寫送付先 北中支各警務部、厦門、汕頭、海口、上海

別紙添付

昭和拾六年六月受領

在廣東日本總領事館

四月中入國者職業別調査表（第五号）

職業別＼行先地別	廣東	澳門	香港	海口	合計
軍人、軍屬	一二四	一九	一	五	一四九
官公吏	三五	一一	四	四	五四
會社員	六一	二五	三六	六	一二八
銀行員	四	二		一	七
商店事務員	二一	六	八	一	三六
貿易商	二一	一八	一五	一	五五
教育關係	三五	一			三六
飲食料理業	六	二	〃	二	一〇
藝酌婦仲居	二五			三	二八
女給	五				五
寫眞業	一				一

在廣東日本總領事館

在廣東日本總領事館

一般商業	記者	船員	料理人	時計商	學生	大工	貸地業	神職宗教	旅館業	運輸業	家政婦附添看護	裁縫業
二五	三	一六	一三	二				二	二	二	四	四
七	三	一						一		一		一
四	一											
	四											
三六	一一	一七	一三	二				三	二	三	四	五

㊱—2渡支邦人暫定處理ニ關スル各種統計報告ノ件［在広東総領事］（昭16・6・11）

昭和拾六年七月七日

別紙添付

極秘

第三課

極秘第四七五號

昭和十六年六月十一日

在廣東

總領事　高津富雄

外務大臣　松岡洋右殿

渡支邦人暫定處理ニ關スル各種統計報告ノ件

昭和十六年五月中ニ於ケル本件ニ關シ當館ニ於テ取扱タル事項別表ノ通ニ付此段報告申進ス

本信寫送付先　南京（大）、上海、汕頭、海口、厦門

北、中支警務部

在廣東日本總領事館

五月中入國者職業別調查表

職業別 / 行先地別	南京	漢口	香港	上海	合計
軍人軍屬	三四	一一	二	五	五二
官公吏	四二	七	三	三	五五
會社員	八三	二八	一二	五	三八
銀行員	二		一		三
商店事務員	五二	五	七	二	六六
貿易商	一八	一六	一二	一	四七
教育關係	三				三
飲食料理業	一三	一	一	一	一六
藝妓酌婦仲居	五五			二	五七
女給	二七				二七
寫眞業	三	一			四
一般商業者	三九	一三	四	一	五七
記	八	四	一		一三
軍酒保慰安所	一七			二	一九
船員	六				六
科理人	二二				二二
時計商	一				一
學生					
大工	一				一
貸地業					
神職宗教	一	五			六

[以下略]

第三課

普通第五八〇號
昭和十六年七月二十一日

在廣東
總領事代理 吉岡武

昭和拾六年八月四日 接受

別紙添付

外務大臣 豐田貞次郎殿

渡支邦人暫定處理ニ關スル各種統計報告ノ件

本件ニ關シ昭和十六年六月中當館ニ於テ取扱タル事項別表ノ通リニ付此段報告申進ス

本信寫送付先 北中支警務部、上海、南京、廈門、汕頭、海口、南京大使館、上海朝鮮總督府出張所、當外

六月中入國者職業別調査表

職業別＼行先地別	廣東	澳門	香港	海口	合計
軍入軍屬	一二〇	五		七	一三二
官公吏	五一	七	二		六〇
會社員	六五	一七	一二	一〇	一〇四
銀行員					
商店事務員	四三	五	五	二	五五
貿易商	六	一二	五		二三
教育關係	四				四
飲食料理業	八				八
藝酌婦仲居	七一				七一
女給	二一				二一
寫眞業	五				五
一般商業	三〇	一四	五	一	五〇
記者	四	一			五
軍酒保慰安所	七				七
船員					
料理人	八				八
時計商	三		一		四
學生	三五				三五
大工	四				四
貸地業					
神職宗教	一	一			二

[以下略]

㊱—4 渡支邦人暫定處理ニ關スル各種統計報告ノ件［在広東総領事］（昭16・8・12）

亞米利加局長

普通第六四六號

昭和十六年八月十二日

在廣東

總領事 高津富雄

第三課

昭和拾六年八月廿六日接受

外務大臣 豊田貞次郎 殿

渡支邦人暫定處理ニ關スル各種統計報告ノ件

本件ニ關シ昭和十六年七月中當館ニ於テ取扱ヒタル事項別表ノ通リニ付此段報告申進ス

本信寫送付先 北中支警務部、上海、南京、厦門、汕頭、海口、南京大使館、上海朝鮮総督府出張所、台外

七月中入國者職業別調查表

職業別 / 行先地別	廣東	澳門	香港	海口	合計
無職業入算腳	七七	四二		一五	一三四
官公吏	四〇	六	四		五〇
會社員	五二	二七	一一	一六	一〇六
銀行員	二	一			三
商店事務員	二三	一四	四	三	四四
貿易商	一〇	九	九	一	二九
教育關係	三	一			四
飲食料理業	六				六
藝酌婦仲居	一七			二	一九
女給	三				三
寫眞業	三	二			五
一般商業	一九	二三	四	二	四八
記者	一一	二			一三
軍酒保慰安所	五			一	六
船員					
料理人	六				六
時計商	三		一		四
學生	八〇				八〇
大工	一				一
貸地業	二				二
神職宗教	三		一		四

[以下略]

㊱—5 渡支邦人暫定處理ニ關スル各種統計報告ノ件［在広東総領事］（昭16・9・8）

昭和拾六年九月廿九日接受

亞米利加局長

普通第七三四號

昭和十六年九月八日

在廣東

總領事　高津富雄

別紙添付

外務大臣　豐田貞次郎　殿

渡支那人暫定處理ニ關スル各種統計報告ノ件

本件ニ關シ昭和十六年八月中當館ニ於テ取扱タル事項別表ノ通リニ付此段報告申進ス

本信寫送付先　北中支警務部、上海、南京、厦門、汕頭、海口、南京大使館、上海朝鮮總督府出張所、臺灣總督府外事部長

八月中入國者職業別調査表

職業別＼行先地別	廣東	澳門	香港	海口	合計
軍人軍屬	七一	一六	八	四	九一
官公吏	三九	七	八		五四
會社員	六四	二四	三四	一	一二三
銀行員	一	三	二		六
商店事務員	六九	一七	一二	[illegible]	九九
貿易商	一〇	一九	二一		五〇
教育關係	一二		四		一六
飲食料理業	一〇		五	一	一六
藝酌婦仲居	二八		四	三	三五
女給	四				四
寫眞業	三				三
一般商業	二一	八	一三	一	四三
記者	八	七			一五
軍酒保慰安所	六			[illegible]	七
船員	三				三
料理人	四	一	四	二	一一
時計商	一		二		三
學生	三五	一	一二		四八
大工	一				一
貸地業	一				一
神職宗教	一	一	一		三

〔以下略〕

㊱-6 渡支邦人暫定處理ニ關スル各種統計報告ノ件［在広東総領事］（昭16・10・9）

昭和十六年拾月廿日　接受

亜米利加局長

普通第八五九號

昭和十六年十月九日

第三課

在廣東

總領事　高津冨雄

外務大臣　豊田貞次郎　殿

渡支邦人暫定處理ニ關スル各種統計報告ノ件

本件ニ關シ九月中當館ニ於テ取扱タル事項別表ノ通リニ付右茲ニ報告申進ス

本信寫送付先　北中支警務部長、上海、南京、廈門、汕頭、海口、南京大使館、上海朝鮮總督府出張所長、臺灣總督府外事部長

九月中入國者職業別調査表

職業別 / 行先地別	廣東	澳門	香港	海口	合計
軍入軍屬	五一	二九			八〇
官公吏	五六	四	一〇		七〇
會社員	六四	六二	一一	三	一四〇
銀行員			一		一
商店事務員	三二	一二	一二	一	五七
貿易商	一六	一七	七		四〇
教育關係	九		四		一三
飲食料理業	六		二		八
藝酌婦仲居	四七			一	四八
女給	三一				三一
寫眞業	六		一		七
一般商業	一七	五	四		二六
記者	六	一	一	二	一〇
軍酒保慰安所	四				四
船員	五				五
料理人	九				九
時計商	三				三
學生			一		一
大工	三				三
貸地業					
神職宗教		一	二		三

〔以下略〕

㊱-7 渡支邦人暫定處理ニ關スル各種統計報告ノ件［在広東総領事］（昭16・11・11）

第三課

昭和拾六年十一月廿七日接受

暨米利加局長

普通第九八五號

昭和十六年十一月十一日

在廣東

總領事　高　津　富　雄

外務大臣　東　郷　茂　徳　殿

渡支邦人暫定處理ニ關スル各種統計報告ノ件

本件ニ關シ十月中當館ニ於テ取扱ヒタル事項別表ノ通リニ付此段報告申進ス

本信寫送付先　北中支警務部、南京（大）、上海、南京、廈門、汕頭、海口、上海朝鮮總督府出張所、臺灣總督府外事部長

職業別 / 行先地別	東京	門司	神戸	横浜	長崎
軍人軍属	一三七	四九			一八六
官公吏	三三	五			四一
会社員	八三	三五			一二四
銀行員	五				八
商店事務員	五二	一一			七八
貿易商	二三	一七			四六
教育関係	三				三
飲食料理業	一〇				一一
醫酌婦仲居	一二				一三
女給	一〇				一一
寫眞業	三		一		四
一般商業	三一	一〇	四		四五
記者	一一	五	四		二〇
軍酒保慰安所	六				七
船員	九			一	一〇
料理人	五				五
時計商	二				二
學生					
大工		一			一
貸地業					
神殿宗教	五				五

［以下略］

㊱—8 渡支邦人暫定處理ニ關スル各種統計報告ノ件［在広東総領事］（昭16・12・16）

機密

亞米利加局長
機密第一一二二號

第三課

昭和十六年十二月十六日

昭和拾六年十二月廿六日接受

在廣東
總領事 高津篤雄

在廣東日本帝國總領事

外務大臣 東郷茂徳殿

渡支邦人暫定處理ニ關スル各種統計報告ノ件

本件ニ關シ本年十一月中當館ニ於テ取扱タル事項別表ノ通ニ付此段報告申進ス

本信寫送附先 北中支西務部長、上海、南京、廈門、汕頭、海口、南京大使館、上海朝鮮總督府出張所長、臺灣總督府外事部長

亞米利加局
18.12.26
第三課

十一　月中入國者職業別調査表

職業別＼行先地別	廣東	漢門	香港	海口	合計
軍人軍屬	二〇七	四三	五		二五〇
官公吏	三二	一五	一二		五二
會社員	七二	四九		三	一三六
銀行員	四				四
商店事務員	二九	一七	三		四九
貿易商	五	二〇	四		二九
教育關係	二				二
飲食料理業	六		一		七
藝酌婦仲居	七六				七六
女給	一五				一五
寫眞業	四				四
一般商業	一四	一二	一		二七
記者	一四	四			一八
軍酒保慰安所	一二				一二
船員	七				七
料理人	四				四
時計商	一		一		二
學生	一				一
大工	一				一
貸地業					
神職宗教					

〔以下略〕

㊱—9 渡支邦人暫定處理ニ關スル各種統計報告ノ件［在広東総領事］（昭17・4・20）

亞米利加局長

第三課

昭和十七年五月廿日

別紙添付

普通第三八二號

昭和十七年四月二十日

在廣東

總領事　高津富雄

外務大臣　東郷茂徳殿

渡支邦人暫定處理ニ關スル各種統計報告ノ件

本件ニ關シ三月中當館ニ於テ取扱ヒタル事項別表ノ通リニ付此段報告申進ス

本信寫送附先　北中支各警務部長、上海、南京、厦門、汕頭、海口、上海朝鮮總督府出張所長、臺灣總督府外事部長

在廣東日本總領事館

日本標準規格B5

三　月中入國者職業別調査表

職業別 / 行先地別	廈門	東京	門香	港港	口台	計
軍人軍屬	一五五	一七	一三九		五	三一六
官公吏	三四	五	一八	一		五八
會社員	五九	一五	二九	一	一〇四	
銀行員	三		一	一	五	
商店事務員	三四	七	二〇	一	六二	
貿易商	一〇	一二	二		二四	
教育關係	四		二		六	
飲食料理業	九		一一		二〇	
藝酌婦仲居	三〇		三三		六三	
女給	三一				三一	
寫眞業	二		一		三	
一般商業	一五	四	一一	一	三一	
記者	六	二	六		一四	
軍酒保慰安所	八		一四	一	二三	
船員	四		一		五	
料理人	二				二	
時計商	一		一		二	
學生	三	一			四	
大工						
貸地業	一				一	
神職宗教						

［以下略］

㊱-10 渡支邦人暫定處理ニ關スル各種統計報告ノ件（月報）［在広東総領事］（昭17・5・19）

昭和拾七年六月八日 接

別紙添付

普通第四九〇號

昭和十七年五月十九日

在廣東

總領事 高津富雄

外務大臣 東郷茂徳殿

渡支邦人暫定處理ニ關スル各種統計報告ノ件（月報）

本件ニ關シ本年四月中旬當館ニ於テ取扱ヒタル事項別添ノ通ニ付此段報告ス

本信寫送付先 中北支各警務部長、上海、南京、厦門、汕頭、海口各公館長

在廣東日本総領事館

四月中入國者職業別調查表

職業別 / 行先地別	廣東	澳門	香港	海口	合計
軍人軍屬	三二四	一六	一五三	一四	五〇七
官公吏	三二	九	九	二	五二
會社員	四八	一七	二四	八	九七
銀行員			五		五
商店事務員	一八	一二	一〇	四	四三
貿易商	八	一二	四	四	二四
教育関係	一〇		一		一一
飲食料理業	三		二	一	六
藝酌婦仲居	一〇		一		一一
女給	七				七
寫眞業	二				二
一般商業	一一	四	六	一	二二
記者			二		二
亭酒保慰安所	三		三		六
船員	四	一	一		六
料理人	一		二		三
時計商	一				一
學生				一	一
旅館業	一		一		二

［以下略］

秘

秘第五九九號
昭和十七年六月二十六日
在廣東
總領事 高津育雄

外務大臣 東郷茂徳殿

渡支暫定處理ニ關スル各種統計報告ノ件

本件ニ關シ五月中當館ニ於テ取扱ヒタル事項別表ノ通ニ付此ノ段
進達ス

本信寫送付先 中北支各警務部長、上海、南京、廈門、汕頭、
海口

在廣東日本總領事館

昭和拾七年七月六日 接受

第三課

別紙添付

日本標準規格B5

五月中入國者職業別調查表

第五號

職業別 / 行先地別	廣東	澳門	香港	海口	合計
軍人軍屬	一八〇	二〇	一六五	二	三六七
官公吏	四八	一〇	一三		七一
會社員	七五	一七	二一	八	一二一
銀行員			一		一
商店事務員	三二	五	二六	一	六四
貿易商	一一	九	二		二二
教育關係	六				六
飲食料理業	五		一	一	七
藝妓娼婦仲居	一八		五		二三
女給	八		一		九
寫眞業	五	三			九
一般商業	二四	四	一五	二	四五
記者	三		三	一	七
軍酒保賣店	四	一	七		一二
船員	一八		一	四	二三
料理人	一				一

[以下略]

米利加局邦

普通第六八〇號

昭和十七年七月十六日

在廣東
總領事 高津富雄

外務大臣 東郷茂徳殿

渡支邦人暫定處理ニ關スル各種統計報告ノ件

本件ニ關シ本年六月中當館ニ於テ取扱タル事項別添ノ通ニ付此段報告申進ス

本信寫送付先 北中支警務部長 上海 南京 厦門 汕頭 海口各公館長 臺灣總督府外事部長

昭和拾七年七月廿七日接受
別紙添付

在廣東日本領事館

六月中入國者職業別調查表

第五號

職業別 / 行先地別	廣東	澳門	香港	海口	合計
軍人軍屬	一〇三	二七	四〇	二四	二九四
官公吏	三一	七	九	二	五〇
會社員	三二	一五	三八	四七	一三二
銀行員	三			二	五
商店事務員	四一	六	二一	一二	九〇
貿易商	六	一三	一一		二九
教育關係	二		一		三
飲食料理業	三		五	一	九
藝妓婦仲居	一		三		四
女給	二		一	一	四
寫眞業	一	一		一	二
一般商業	一一	四	二八		五三
記者	二		一	二	五
軍酒保慰安所	七		五	一	一三
船員	二			一六	一八
料理人	二		一		三
學生	八				八
大工				六	六

[以下略]

㊱—13 渡支邦人暫定處理ニ關スル各種統計報告ノ件［在広東総領事］（昭17・10・27）

通商局長　第三課長　昭和拾七年十一月拾七日

普通第一〇〇六號

昭和十七年十月二十七日

在廣東

總領事　高津富雄

外務大臣　谷正之殿

渡支暫定處理ニ關スル各種統計報告ノ件

本件ニ關シ九月中當館ニ於テ取扱ヒタル事項別添ノ通ニ付此ノ段

進達ス

本信寫送付先　中北支警務部長、上海、南京、廈門、汕頭、海口、臺灣總督府外事部

在廣東日本總領事館

（日本標準規格B5）

通 17.11.17 受付

入國者職業別調查表（九月中）

第五號

職業別＼行先地別	廣東	澳門	香港	海口	合計
軍人軍屬	一九六	一六	二一一		四二三
官公吏	二一	七	一二		五〇
會社員	四四	一三	七八	六	一四一
銀行員			一		一
商店事務員	二四	二	四六	八	八〇
貿易商	四	八	二八	一	四一
教育關係	四				一四
飲食料理業	一		六	一	八
藝酌婦仲居	一一		七	一	一九
女給	二			六	八
寫眞業			二		二
一般商業	一三	四	三七		五四
記者	二		三		五
華商保慰安所	一		三		四
船員	一				一
料理人	二		二	一	五
時計商	二		一		三
學生	二				二
貸地業	二				二
神職宗教	一		四		五

㊲—1 渡支邦人暫定處理ニ關スル各種統計報告ノ件［在廈門總領事］

昭和拾六年八月拾六日接受

亞米利加局長

第三課

（昭16・8・9）

別紙添附B

普通第六〇一號

昭和十六年八月九日

在廈門

總領事　石川　實

外務大臣　豐田貞次郎　殿

渡支邦人暫定處理ニ關スル各種統計報告ノ件

本件ニ關シ本年七月中當館ニ於テ取扱タル事項別表ノ通ニ付此段報告申進ス

（了）

本信寫送附先　上海　廣東　汕頭

在廈門日本帝國總領事館

[中略]

七月中入國者職業別調查表 (一) (第五號)

職業別 / 行先地別	廈門
軍人軍屬	12
官公吏	46
銀行會社員	43
貿易商	19
醫業	1
材木商	3
土木建築業	3
青果商	1
記者	2
料理屋飲食店	10
合計	
備考	

月中入國者職業別調査表（三）（第五號）

職業別＼行先地別											
旅館業	2										
慰安所	2										
藥種商	5										
裁縫業	4										
教育関係	5										
農業	9										
時計商	1										
左官	1										
海産物商	1										
文房具商	1										
											合計
											備考

［以下略］

㊲—2渡支邦人暫定處理ニ關スル各種統計報告ノ件［在廈門総領事］（昭16・9・5）

亞米利加局長

第三課

昭和拾六年九月拾[illegible]日

別紙添附B

普通第六七九號

昭和十六年九月五日

在廈門

總領事　石川

外務大臣　豊田貞次郎　殿

渡支邦人暫定處理ニ關スル各種統計報告ノ件

本件ニ關シ本年八月中當館ニ於テ取扱タル事項別表ノ通ニ付此段報告申進ス

（了）

本信寫送付先　上海　廣東　汕頭

在廈門日本帝國總領事館

［中略］

月中入國者職業別調査表（二）（第五號）

職業別 / 行先地別		合計	備考
宗教関係者	1		
商店員	14		
藝妓婦、仲居	14		
女中	4		
慰安所	2		
左官	4		
記者	3		
辯護士	1		
看護婦	1		
土木請負業	2		

［以下略］

㊲—3 渡支邦人暫定處理ニ關スル各種統計報告ノ件［在廈門総領事］（昭16・11・7）

昭和拾六年十一月拾八日接受

亞米利加局長

普通第八五四號

昭和十六年十一月七日

在廈門

總領事　石川

第三課

外務大臣　東郷茂徳殿

渡支邦人暫定處理ニ關スル各種統計報告ノ件

本件ニ關シ本年十月中當館ニ於テ取扱タル事項別表ノ通ニ付此段報告申進ス

在廈門日本帝國總領事館

〔中略〕

月中入國者職業別調査表

(三)

(第五號)

行先地別 / 業別											
女給	5										
商店員	9										
慰安所	1										
自転車商	1										
醤油製造業	1										
獸肉商	1										
文房具商	1										
玉史業	1										
戒絶業	2										
呉服商	1										
											合計
											備考

〔以下略〕

㊲—4 渡支邦人暫定處理ニ關スル各種統計報告ノ件［在廈門總領事］（昭17・1・17）

亞米利加局長

第三課

昭和拾七年壹月廿參日接受

別紙添附 B

普通第三六號

昭和十七年一月十七日

在廈門

總領事 石川實

外務大臣 東鄕茂德殿

渡支邦人暫定處理ニ關スル各種統計報告ノ件

本件ニ關シ昭和十六年十二月中當館ニ於テ取扱タル事項別表ノ通ニ付此段報告申進ス

本信寫送附先 上海 廣東 汕頭

（了）

在廈門日本帝國總領事館

［中略］

月中入國者職業別調査表（二）（第五號）

職業別 ＼ 行先地別										
土木建築請負業	1									
船員	1									
学生	3									
雑貨商	6									
女給	1									
職業紹介仲居	3									
社寺所	1									
文房具商	3									
商店員	3									
鉄工業	2									
合計										
備考										

［以下略］

㊲—5 渡支邦人暫定處理ニ關スル各種統計報告ノ件［在廈門總領事代理］（昭17・4・11）

亞米利加局長

第三課

昭和拾七年四月拾八日接受

附屬書添附

普通第二五七號

昭和十七年四月十一日

在廈門

總領事代理　今城登

外務大臣　東郷茂徳殿

渡支邦人暫定處理ニ關スル各種統計報告ノ件

本件ニ關シ本年三月中當館ニ於テ取扱タル事項別表ノ通ニ付此段報告申進ス

本信寫送附先　上海　廣東　汕頭

在廈門日本帝國總領事館

三月中人國者職業別調査表

(一)

(第五號)

職業別 / 行先地別	門	合計	備考
軍人軍屬	9		
官公吏	25		
銀行會社員	15		
貿易商	6		
土木建築業	5		
料理屋、飲食店 カフェー	3		
商店事務員	6		
藝、酌婦、仲居	4		
女中	2		
慰安所	2		

[以下略]

亜米利加局長

普通第三四七號

昭和十七年五月十二日

在廈門

總領事 小澤成一

外務大臣 東郷茂徳殿

渡支邦人暫定處理ニ關スル各種統計報告ノ件

本件ニ關シ本年四月中當館ニ於テ取扱タル事項別表ノ通ニ付此段報告申進ス

（了）

本信寫送附先 上海 廣東 汕頭

第三課

附屬書添付

在廈門日本帝國總領事館

〔中略〕

月中入國者職業別調查表　(二)　(第五號)

職業別 ＼ 行先地別	廈門	合計	備考
商店事務員	4		
教育關係者	13		
船員	2		
學生	2		
女給	1		
洋裁業	2		
藝酌婦、仲居	5		
運轉手	1		
記者	1		
慰安所	3		

〔以下略〕

㊲—7 渡支邦人暫定處理ニ關スル各種統計報告ノ件［在廈門総領事］（昭17・10・13）

昭和拾七年拾月廿參日接

附屬添付

東亞局第三課

亞米利加局長

了　第三課　了

普通第七一六號

昭和十七年十月十三日

在廈門

總領事　小澤成

外務大臣　谷　正之　殿

渡支邦人暫定處理ニ關スル各種統計報告ノ件

本件ニ關シ本年九月中當館ニ於テ取扱タル事項別表ノ通ニ付此段報告申進ス

本信寫送附先　上海　廣東　汕頭

臺灣總督府外事部

在廈門日本帝國總領事館

九　月中入國者職業別調査表　(一)　(第五號)

職業別＼行先地別	廈門										合計	備考
車人車屬	6											
官公吏	27											
會社員	20											
貿易商	6											
教育關係者	12											
醫業	1											
帳場	1											
料理屋、飲食店	1											
慰安所	2											
商店員	5											

[以下略]

㊳—1 渡支邦人暫定處理ニ關スル各種統計報告ノ件［在汕頭領事］（昭16・12・11）

亞米利加周長

第三課

有附屬物

秘

秘第一六二號

昭和十六年十二月十一日

在汕頭
領事 高井末彦

外務大臣 東郷茂德殿

渡支邦人暫定處理ニ關スル各種統計報告ノ件

十一月中當館ニ於テ取扱ヒタル本件別表ノ通ニ付此段報告申進ス

本信寫送付先 中支警務部 上海 厦門 廣東 海口
臺外

在汕頭日本領事館

甲號　十月中入國者職業別調查表　（第五號）

職業別 ＼ 行先地別	官公吏	會社員	貿易商	店員	無職	女給	雜貨商	看護婦
汕頭	5	16	6	6	32	15	5	2
潮州	〃	〃	〃	〃	3	〃	〃	〃
澄海	〃	〃	〃	〃	1	〃	〃	〃
合計	5	16	6	6	36	15	5	2
備考								

亞米利加局長

秘第一四二號

昭和十七年四月六日

在汕頭
領事 高井末吉

外務大臣 東郷茂徳殿

渡支邦人暫定處理ニ關スル各種統計報告ノ件

三月中當館ニ於テ取扱ヒタル本件別表ノ通リニ付此段報告申進ス

本信寫送付先 上海 厦門 廣東 海口
中支警務部 臺外

第三課

昭和十七年 四月廿七日 接受

有附屬物

在汕頭日本領事館

甲號　自至　三月中入國者職業別調査表　（第五號）

職業別＼行先地別	汕頭	廈州	灌埠	灌海	越濠島		合計	備考
官公吏	4						4	
會社員	8						8	
商店員	2						2	
貿易商	5						5	
教育關係	1						1	
軍慰安所經營			1				1	
醫的婦仲居	1						1	
宗教家	1						1	
附添婦	2						2	
醫師	1						1	
建築業	1						1	
石工	1						1	
從屬者	10						10	
其ノ他	1						1	
合計	38		1				39	

㊴—1 渡支暫定處理ニ關スル各種統計表送附ノ件〔在海口總領事代理〕（昭16・11・7）

第三課

附屬添付

亞米利加局長

普通第四五三號

昭和十六年十一月七日

在海口

總領事代理　平田學

外務大臣　東鄉茂德殿

渡支暫定處理ニ關スル各種統計表送附ノ件

昭和十五年八月二十六日附米三機合第一、〇七七號貴信ニ關シ十月分調査表別添ノ通此段報告申進ス

在海口日本總領事館

課書文 16.11.21 受收

16.11.21 第三課

月中入國者職業別調査表（第五號）

職業別＼行先地別										合計	備考
官吏	八									八	
會社員 銀行員 店員、事務員	八一	八	三六	一五	二	二	六	二	一	五	一五八	
新聞記者	一										一	
土木建築業	二										二	
船員	二										二	
製材工 大工	一	五	九								一五	
自動車運転者	一五										一五	
軍御用商人	二										二	
通信工夫	八										八	

理髪業	二										二
料理人	一〇				一						一一
交換手タイピスト看護婦	四										四
發電機員、製鉄工員	五										五
寫眞業	二										二
飲食店、軍需安新業	三				一						四
女給、仲居、酌婦	四一			一	三						四五
其他ノ有業者	二〇										二〇
無職業者	六〇	四		一	二	一					六八
合計	二六七	一七	四五	一五	四	九	七	二	一	五	三七二
											六八

第三課

普通第五〇三號

昭和十六年十二月十日

在海口
總領事代理　平田學平

外務大臣　東鄕茂徳殿

渡支暫定處理ニ關スル各種統計表送付ノ件

昭和十五年八月二十六日附米三機合第一〇七七號貴信ニ基ク本件十一月分調査表別添ノ通ニ付報告ス

本信寫送附先　南大、上海、廣東、厦門、汕頭

附屬添付

亞米利加局 17.1.7 第三課

在海口大日本帝國總領事館

十一月中入國者職業別調査表

（第五號）

職業別＼行先地別	海口	三亜	北黎	瓊山	儋縣	崖縣	澄邁	榆林				合計	備考
官公吏雇傭員	四	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃				四	
会社員銀行員事務員及店員	五九	六	一	〃	五	一	〃	一				七三	
物品販賣業	三	一	〃	〃	〃	〃	〃	〃				四	
医務関スル業務	五	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃				五	
新聞記者	三	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃				三	
料理店飲食店	四	一	〃	〃	〃	〃	〃	〃				五	
電信電話従業員	六	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃				六	
家事被傭人	三	一	〃	一	〃	〃	〃	〃				五	
大工左官傭人	一五	一	〃	〃	〃	〃	〃	〃				一六	

總計	無職	其他有業者	藝妓娼妓酌婦其他	慰安所	料理人	農耕	藝術家(畫家)	船舶從業員	教員	自動車運轉者	水產業
一五八	三〇	一	八	二	二	六	一	〃	〃	五	一
一八	四	〃	三	〃	〃	〃	〃	一	〃	〃	〃
二	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
二二	八	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	一	一	〃
五	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
一	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
一	一	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
一	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
一九六	四三	一	二二	二	二	六	一	一	一	六	一

普通第三六號

昭和十三年十二月三日

在漢口
総領事　花輪義敬

外務大臣　有田八郎殿

本邦人職業別表送附ノ件

本年十一月末現在（漢口武昌）在留本邦人職業別表別紙添附ノ通御參考迄送附ス

追テ本信寫送付先　上海谷公使、上海、南京、九江、廈門
廣東、青島、天津、漢口、北京、張家口

別紙添附

在漢口日本總領事館

12 年 28 16

本籍へ

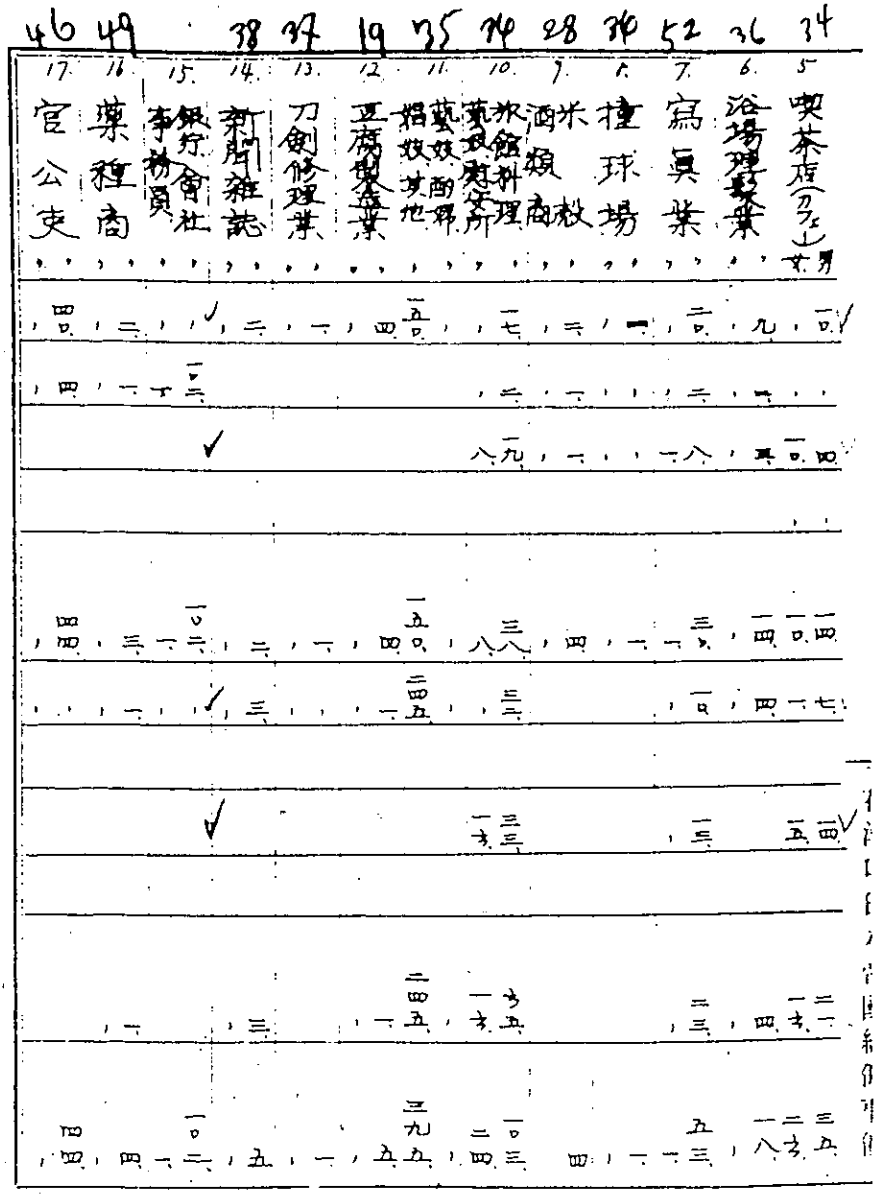
職業別統計表（昭和十三年十月三十日現在）

漢口武昌合計

職業別 / 地方別		内地人計 男	内地人計 女	内地人合計	朝鮮人 男	朝鮮人 女	臺灣人 男	臺灣人 女	總計
本業者	新	四四一二	五六		五三四四				三三
	舊	一八五	一		二五				一九四
家族及傭人	新	九〇八八	二八		二三九				一三五
	舊	五四	九		一				一〇
計		一三五四一八三	八四〇		九二五八				一二五五
本業者	新	一二七〇	一八二		三〇一九				三九〇
	舊								
家族及傭人	新	九八五七	一五五		三二一〇				一九七
	舊								
計		二〇九一二七	三三六		一八九				五八七
合計		八三三一三	一一七六		一五四二四七				一七四二

1. 飲食店 男 一〇四 女 五
2. 食料雜貨 一一 四九 一一 五 一 一 一

46	49		38	37	19	35	34	28	34	52	36	34
17. 官公吏	16. 藥種商	15. 銀行會社事務員	14. 新聞雜誌	13. 刀劍修理業	12. 豆腐製造業	11. 藝妓酌婦娼妓其他	10. 旅館料理	9. 米穀酒類商	8. 撞球場	7. 寫眞業	6. 浴場理髮業	5. 喫茶店(カフェー)男女
四〇	二	✓	二	一	四	一五〇	一七	二	一	二〇	九	一〇 ✓
四	一	一〇二					二	一		二	一	
		✓					一九八	一		一八	五	一〇四
四四	三	一〇二	二	一	四	一五〇	三八八	四	一	三〇	一四	一〇一四
	一	✓	三		一	二四五	三二			一〇	四	一七
		✓					三三 一六			一三		一五一四 ✓
	一		三		一	二四五	一六五 一六			二三	四	一六二一
四四	四	一〇二	五	一	五	三九五	二〇三 二四	四	一	五三	一八	二六三五



	15	47	54	41	51	34		
18. 洗濯業 男	二	一	三	一	一	二	一	一
17. 箕家業	一	一	一	一	一	一	一	一
20. 教育宗教関係者	一	四	五	五	五	五	五	五
21. 雇員店員	七	一八	二五	二五	二五	二五	二五	二五
22. 自動車自轉車修理	五	一	八	一	一	一	九	九
23. 新聞記者通信員	一五二	二	一五四	一	一	一五四	一	一
24. 園藝	一	一	一	一	一	一	一	一
25. 貿易商	二六	一	二七	一	一	二七	二七	二七
26. 映画館	一	一	一	一	一	一	一	一

備考

一、十一月二十七日大倍丸ニテ渡來セル百六十三名ハ職業未決定ノ者多數ナルト殆ト未届出ニ付職業別表ニハ計上セス（新旧渡來者内譯 旧六十九名 新九十四名）

㊶在支邦人職業別人口統計表提出ノ件［在廈門総領事］（昭14・9・27）

門査部長

昭和十四年拾月六日

次便

公普通第五四六號

昭和十四年九月二十七日

在廈門

總領事　内田五郎

外務大臣　野村吉三郎殿

在支邦人職業別人口統計表提出ノ件

九月二十日附貴電御來示ニ係ル昭和十三年十月一日現在ニ於ケル首題統計表別添提出ス

追而從來當館ニハ在支邦人職業別人口統計表用紙無之且本年度同定期報告期日モ接迫致シ居ルヲ以テ至急同統計表用紙五十部御送付方御配慮相煩度

在廈門日本帝國總領事館

在支邦人職業別人口統計表

昭和十三年十月一日現在

地方別 / 職業別		廈門		
		本業者	家族	計
本邦内地人計	男	六八九	四二〇	一、一〇九
	女	一三一	二二五	三四六
本邦内地人合計				一、四五五
朝鮮人	男		三九	三九
	女		九五	九五
臺湾人	男		三三六	三三六
	女		一六六三	一六六三
總計				三、九九九
前年同期ト比較	×減 △増			
戸數				一、六五二
醫師	男	三	三	六
	女		三	三
限地開業醫師	男	三	四	七
	女		三	三
齒科醫師	男	三	六	九
	女		六	六

産婆看護婦	薬種賣藥商	代書業	旅館業	料理屋カフエー飲食店	藝酌婦仲居女給	旅館飲食店女中	海軍慰安所	慰安所從業婦	數内賣業	撞球及遊技場	自動車業	通関運送業
男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男
女	女	女	女	女	女	女	女	女	女	女	女	女
一	五	一	二一	一五三	四七	一〇	四	一三	一	一一	二	三
		一	二一	八七						四三		
一	五	二	四二	一二三〇	四七	一〇	四	一三	一	五四	一二	三
一	五	二	六	三三	四七	一〇	四	一三	一	九	二	三

㊷九江在留邦人職業別人口統計表提出ノ件［在南京総領事］（昭13・11・8）

昭和十三年十一月十七日接受

普通第五六一號

昭和十三年十一月八日

在南京

總領事　堀

外務大臣　有田八郎殿

九江在留邦人職業別人口統計表提出ノ件

十一月一日現在九江在留邦人職業別人口統計表二通別添茲ニ提出ス

御査閲相成度

別紙添附

在南京日本總領事館

九江在留民職業別人口統計表

（昭和十三年十月一日現在）

職業別＼區分		內地人				朝鮮人				台湾人				合計
		戶數	男 大人	男 小人	女 大人	女 小人	計	戶數	男 大人	男 小人	女 大人	女 小人	計	
官吏		9	九				九							九
會社員		3	三				三							三
旅館		3	九		二		二。		一				一。	二三
寫眞業		5	二				二	4	一。				一。	二一
時計商		9	二二		一		二三							二三
賣藥商		2	五				五							五
理髮業		4	四	一	一		六							六
食料品並雜貨商		6	九		一	一	一一							一一
飲食店		26	五六		三六		九二	3	五		一		六	九八
自動車運轉手		1	一				一							一

豆腐屋	特種慰安所	全就業ノ特種婦女	新聞雜誌取次販賣	合計	十月一日現在合計数
	15		1	84	37
	四二		一	一七一	六七
				一	
	二六	一〇七		一八三	一五一
	一			二	一
	六九	一〇七	一	三五七	二一九
1	9			17	12
一	二六			四三	二四
	一			一	
	八	一四三		一五二	九九
	二			二	二
一	三七	一四三		一九八	一二五
				二	
				二	
一	一〇六	二五〇	一	五五七	三四四

備考

1. 帝國軍人軍屬軍雇傭人及酒保商人ハ算入セス
2. 一般營業者ハ許可ヲ受ケタル者ノ内當地ニ實在者ノミヲ計上ス
3. 特種慰安所及特種婦人ハ開業中ノモノノミヲ計上ス

㊸—1 在留民職業別人口統計表進達ノ件［在九江領事代理］（昭14・2・20）
昭和14年3月8日 接受
調査部

普通第五六號
昭和十四年二月二十日
在九江
領事代理 小林喜久寿

外務大臣 有田八郎殿

別紙添附

在留民職業別人口統計表進達ノ件

本年二月一日現在ニ於ケル九江在留民職業別人口統計表別紙ノ通進達ス

本信寫送付先 上海、南京、漢口、蕪湖

在九江日本領事館

九江在留民職業別人口統計表（昭和十四年二月一日現在）

在九江日本領事館

區分	職業別	官吏	會社員	旅館業	寫真業	時計商	理髮業	賣藥業	食料品並ニ雜貨商	陶器金物商
內地人	戶數	14	6	3	5	6	6	1	28	1
	男 大人	一四	一〇	一一	一六	一八	六	二	八五	一
	男 小人	二							四	
	女 大人	六	二	一四	一	五			一四	
	女 小人	一							四	
	計	二三	一二	二五	一七	二三	六	二	一〇七	一
朝鮮人	戶數				1				5	
	男 大人			一	三				一一	
	男 小人								一	
	女 大人								一	
	女 小人									
	計			一	三				一三	
	合計	二三	一二	二六	二〇	二三	六	二	一二〇	一

備考	一月一日現在（参考）	合計	特種就業婦人	慰安所	豆腐製造販賣	新聞雑誌取次販賣	飲食店	菓子製造販賣業
1. 台湾人ノ在留者ナシ 2. 帝國軍人、軍属、軍雇傭人及酒保商人ハ算入セス	111	131		8		1	47	5
	二三	二九		二		一	九七	七
	九	九					三	
	一五五	一七一	五四	七			六五	三
	一。	九		一			二	一
	四。七	四八。	五四	三一		一	一六七	一一
	15	19		7	2		4	
	三一	三八		一三	三		七	
		一						
	七八	七九	六七	七			四	
	一。九	一一八	六七	二。	三		一一	
	五一六	五九八	一二一	五一	三	一	一七八	一一

⑬-2 九江在留民職業別人口報告ノ件［在九江領事代理］（昭14・3・6）
調査部
昭和十四年三月拾八日接受

普通第六二號
昭和十四年三月六日
在九江
領事代理 小森喜久壽

外務大臣 有田八郎殿

九江在留民職業別人口報告ノ件

本年三月一日現在ニ於ケル當地在留邦人職業別人口別添統計表ノ通報告ス

本信寫送付先 上海、南京、漢口、蕪湖

調 14.3.18 二

九江在留民職業別人口統計表（昭和十四年三月一日現在）

在九江日本領事館

區分 / 職業別		內地人				朝鮮人				合計
		戶數	男 大人	男 小人	女 大人	女 小人	計	戶數	男 大人	男 小人	女 大人	女 小人	計	
官吏		15	一五	三	七	二	二七							二七
會社員		6	一三				一三							一三
旅館業		3	一三		一七	二	三二		一				一	三三
寫眞業		6	一八		一		一九	2	四		一		五	二四
時計商		7	三		七		三							三
理髮業		4	四				四							四
賣藥商		2	三				三							三
食料品並雜貨商		47	一三三	一	一八	四	一五六	8	二五	一	二		二八	一八四
陶器金物商		1	一											一

備考	二月一日現在（参考）	合計	特殊就業婦人	特殊慰安所経営	豆腐製造販売	新聞雑誌取次販売	飲食店	菓子製造販売
1 台湾籍民ノ在留者ナシ 2 帝國軍人軍属、軍雇傭人及酒保商人ハ算入セス	131	159		9		1	48	10
	二九一	三四七		二六		一	八一	一五
	九	一二		一			六	一
	一七二	二一二	七六	九			六九	八
	九	一五		一			三	三
	四八〇	五八六	七六	三七		一	一五九	二七
	19	24		10	2		2	
	三八	五五		一六	三		六	
	一	三		二				
	七九	一四〇	一二三	一〇			四	
		四		二			二	
	一二八	三〇二	一二三	三〇	三		一二	
	五九八	七八八	一九九	六七	三	一	一七二	二七

㊸—3 九江在留民職業別人口統計表進達ノ件［在九江領事代理］（昭14・4・15）

昭和十四年五月壹日　接受

調査部

普通第一〇一號

昭和十四年四月十五日

在九江

領事代理　小森喜久

外務大臣　有田八郎殿

九江在留民職業別人口統計表進達ノ件

本年四月一日現在ニ於ケル當館管内職業別人口統計表別紙ノ通進達ス御査閲相成度

本信寫送付先　上海、南京、漢口、蕪湖

在九江日本領事館

別紙添附

九江在留民職業別人口統計表（昭和十四年四月一日現在）

於九江日本領事館

區分 / 職業別	內地人				朝鮮人				台湾人				合計
	戸數	男 大人	男 小人	女 大人小人	計	戸數	男 大人小人	女 大人小人	計	戸數	男 大人小人	女 大人小人	計	
官吏	12	16	5	6	27									43
會社員	5	14	1	2	17									17
旅館業	3	12		14	26									26
寫眞業	7	3		5	8	2	4		4					31
時計商	9	5		3	8	1	2	1	3					32
理髮業	4	4		1	5									5
賣藥商	3	7		1	8									8
食料品並雜貨商	47	13	2	13	28	16	4	1	5					33
菓子製造販賣業	7	12		4	16									12

飲食店	陶器店	新聞雑誌取次販賣	豆腐製造業	洗濯業	貿易商	産婆	運送及建築業	特殊慰安所	同就業婦人	歯科医師	合計	三月一日現在（各庁）
40	2	1			3	1	1	9		1	169	159
一〇	二	一			七		五	三五		一	四二	三二
四								一			一三	一三
八四	一				一	一	一	一四	九三		三五	二三
二								一			一六	一五
一九	三	一			八	一	六	五一	九三	一	六八	五六
了			1					1			31	24
八			三					二〇			七八	五五
二								一			四	三
六								一一	九五		二八	一四
一								三			四	四
一七			三					三五	九五		三四	三三
				1							2	
				三							四	
				三							四	
三七	三	一	三	三	八	一	六	八六	一八	一	八五	七八

備考　帝國軍人、軍属、軍庭傷人及酒保商人ハ算入セス。

普通第一一二號

昭和十四年五月四日

在九江

領事代理 小森喜久藏

外務大臣 有田八郎殿

九江在留民職業別人口統計表進達ノ件

五月一日現在ニ於ケル當地在留邦人職業別人口統計表別紙ノ通進達ス

本信寫送付先 上海、南京、漢口、蕪湖、

調 14.5.19 二

九江在留邦人職業別人口統計表

昭和十四年五月一日現在調
在九江日本領事館

職業別	内地人 戸数	内地人 男 大人	内地人 男 小人	内地人 女 大人	内地人 女 小人	内地人 計	朝鮮人 戸数	朝鮮人 男 大人	朝鮮人 男 小人	朝鮮人 女 大人	朝鮮人 女 小人	朝鮮人 計	台湾人 戸数	台湾人 男 大人	台湾人 男 小人	台湾人 女 大人	台湾人 女 小人	台湾人 計	合計
官吏	14	一四	六	七	五	三三													三三
公吏	6	五		二		七													七
會社員	6	二一	一	三		三五													三五
食料品雜貨商	58	一五五	六	四一	七	二〇九	四二	二六	一	五	一	三三							二四二
飲食店	44	九三	五	八四	一	一八五	三	四	一	四	二	一一							二九七
理髮店	3	七		二		九													九
時計商	7	二〇		三		二三													二三
寫眞商	5	一五		三		一八	四	四		一		六							二四
菓子商	9	一六	一	五		二四													二四
賣藥業	1	三	〇	一		四													四
旅館業	3	一九		一七		三七	〇	一				一							三八
洗濯業						〇							一	一				一	一

| | | |

㊸—5 在留民職業別人口統計表進達ノ件［在九江領事代理］（昭14・6・1）

昭和十四年六月廿貳日接受

調査部

普通第一四六號

昭和十四年六月一日

在九江

領事代理　小森喜久森

外務大臣　有田八郎殿

在留民職業別人口統計表進達ノ件

六月一日現在當地在留民職業別人口統計表別添ノ通進達ス

本信寫送付先　上海　南京　漢口　蕪湖

別紙添附

在九江日本領事館

九江在留邦人職業別統計表　昭和十四年六月一日現在

職業別 ＼ 区分		内地人	朝鮮人	台湾人	合計
官吏	戸数	14			
	男 大人	一四			
	男 小人	六			
	女 大人	七			
	女 小人	五			
	計	三二			
公吏	戸数	6			
	男 大人	五			
	男 小人				
	女 大人	二			
	女 小人	一			
	計	九			
公社員	戸数	7			
	男 大人	二九			
	男 小人	一			
	女 大人	二			
	女 小人				
	計	三二			
雑貨商	戸数	56	17		
	男 大人	一五五	二五		
	男 小人	大			
	女 大人	四五	三		
	女 小人	六	一		
	計	二一二	二九		二四一
理髪店	戸数	2			
	男 大人	四			
	女 大人				
	計	四			四
時計商	戸数	8			
	男 大人	三一			
	女 大人	四			
	計	三五			三五
写真業	戸数	7	2		
	男 大人	二三	六		
	男 小人		一		
	女 大人	五	二		
	計	二八	九		三七
菓子商	戸数	4			
	男 大人	五			
	男 小人	一			
	女 大人	一			
	計	七			七
賣菓業	戸数	3			
	男 大人	五			
	女 大人	一			
	計	六			六
洗濯業	戸数			1	
	男 大人			一	
	計			一	一
豆腐製造業	戸数		1		
	男 大人		二		
	計		二		二

	運送業	電気工事請負業	新聞通信社	産婆	歯科医	旅館業	料理店	飲食店	慰安所	特種婦人	合計	前月合計
	1	1	4	1	1	3	1	47	10		176	182
	五	二	二〇		二	一五	四	一〇七	三七		四六五	四五九
	一						一	五			二一	二一
	一			一		一四	五	八九	二八	一二五	二五一	三二七
						二		六	一		二一	一八
	七	二	二〇	一	二	三一	一〇	二〇七	六六	一二五	八三六	八三五
								5	11		26	26
						一		三	二〇		五七	六三
								一	一		三	四
								一二	四	九九	一二〇	一三二
								一	一		三	四
						一		一七	二六	九九	一八三	二〇五
											1	1
	一		一								三	二
										一	一	
	一		一							一	四	二
	八	二	二一	一	二	三二	一〇	二二四	九二	二二三	一〇二三	一〇四〇

備考

一、軍庭傭人及部隊附酒保商人ハ算入セス。

一、右統計表ニ計上セサル業者。新聞雜誌取次店二、賣藥業二、菓子商三、洗濯業一、遊戯場一、

一、先月ヨリ減少セルハ邦人ノ南昌進出ニ因ル。

㊸—6 在留民職業別人口統計表進達ノ件［在九江領事代理］（昭14・8・7）

調査部長

普通第二一六號

昭和十四年八月七日

在九江
領事代理 小森喜久

別紙添附

外務大臣 有田八郎殿

在留民職業別人口統計表進達ノ件

八月一日現在當地在留民職業別人口統計表別添ノ通進達ス

本信寫送附先 上海、南京、漢口、蕪湖、

在九江日本領事館

九江在留邦人職業別統計表

昭和十四年八月一日現在

職業別 / 区別		官吏	公吏	会社員	雑貨商	理髪店	時計店	写真業	菓子商	売薬商	洗濯業	土木建築業	運送業
内地人	戸数	21	3	12	62	1	8	4	4	1	1		2
	男 大人	二二	三	二九	二〇〇	一	三三	二	一〇	二	一		二
	男 小人	三		一	四			一	一				
	女 大人	八	二	四	二八		五	六	五				
	女 小人	四	一		八				四				
	計	三六	六	三四	二五〇	一	三八	一九	二〇	二	一	一	二
朝鮮人	戸数				8			2	1	1	1	1	
	男 大人				三二			九	一	二	一	二	
	男 小人												
	女 大人				三		一	三					
	女 小人				一								
	計				一二六		一	一二	一	二	一	二	
台湾人	戸数							1					
	男 大人							一					
	男 小人												
	女 大人												
	女 小人												
	計							一					
合計		三六	六	三四	二八六	一	三九	三二	二一	四	二	二	二

前月トノ比較	計	特種婦人	慰安所	飲食店	料理店	旅館業	歯科医	産婆	書籍商	新聞通信業	講負業	洋服洋品店
(十)5	179		8	34	2	3	1	1	1	4	4	2
(十)32	四八二		二七	五九	一六	一七	三		三	二一	八	五
(一)4	一四		二	一							一	
(一)35	二六五	九〇	一〇	六一	一六	一四		一			三	二
(十)3	二二			二		二					一	
(一)4	七八三	九〇	三九	一二三	三二	三三	三	一	三	二一	一三	七
(十)8	28		5	4								
(十)25	七一		一五	五		三					一	
(一)2												
(一)12	九一	六八	六	九							一	
(一)1	二			一								
(十)10	一六四	六八	二一	一五		三					二	
(一)1	1											
	二										一	
	一				一							
	三				一						一	
(十)6	九五〇	一五八	六〇	一三八	三三	三六	三	一	三	二一	一六	七

備考

一、前月トノ比較相甲(十)ハ増(一)ハ減ヲ示ス

一、軍庇佛人及部隊附酒保商人ハ算入セス

一、二種以上ノ営業ヲナス者ハ其ノ主タルモノヲ記載セリ

調亞部長

普通第二五五號
昭和十四年九月九日

在九江
領事代理 小森孝久

別紙添附

外務大臣 阿部信行殿

在留邦人職業別人口統計表進達ノ件

九月一日現在九江、南昌及牯嶺ニ於ケル在留邦人職業別人口統計表別添ノ通進達ス

本信寫送附先 上海、南京、漢口、

在中華民國日本大使館

九江在留邦人職業別統計表

昭和十四年九月一日現在

職業別	内地人 戸数	内地人 男 大人	内地人 男 小人	内地人 女 大人	内地人 女 小人	内地人 計	朝鮮人 戸数	朝鮮人 男 大人	朝鮮人 男 小人	朝鮮人 女 大人	朝鮮人 女 小人	朝鮮人 計	台湾人 戸数	台湾人 男 大人	台湾人 男 小人	台湾人 女 大人	台湾人 女 小人	台湾人 計	合計
官吏	18	一八	三	九	四	三四													三四
教育関係者	1	一		一		二													二
事務員	9	四五		四	一	五〇		一				一							五一
借倡	1	二				二													二
雑貨商	69	一八〇	四	四二	九	三三五	5	三		七		三八							三七三
理髪店	1	二				二													二
時計店	9	二四		六		三〇								一			一	一	三一
寫眞業	4	一一		三		一四	1	一		一		二	1	一			一	二	一七
菓子商	3	三		二		五													五
賣藥商	3	六	二	一	一	一〇													一〇
洗濯業	2	五		二	一	六	1	一				一							七
豆腐製造業	1	三		三		六	1	二				二							八
運送業	3	二一	一	一		二三													二三
自轉車店	1	一		二		三	1												四

	洋服洋品店	請負業	新聞通信業	書籍商	産業	歯科医	旅館業	料理店	飲食店	慰安所	特殊婦人	其他無業者	計	前月ト比較
(ハ)	1	6	4	1	1	1	3	4	43	7			195	(ハ) 17
(ヤ)	1	八	一九	二			一一	一三	七三	二四			四八三	(ヤ) 1
(ナ)				一				一	五			一	一八	(ナ) 5
(ラ)	一	二		一	一		一五	六	七七	四	九八	三	二四〇	(ラ) 19
(ム)				一					二			一	二〇	(ム) 2
(ウ)	二	二〇	一九	五	一	一	二六	二〇	一五七	二八	九八	六	八〇五	(ウ) 22
(ノ)									二	5			16	(ノ) 12
(オ)							一		五	一一			五四	(オ) 17
(ク)										一			一	(ク) 1
(ヤ)							一		四	四	五〇		六七	(ヤ) 12
同									二	二			三	同
(マ)		一							九	一八	五〇		三四	(マ) 49
同													1	同
同													二	同
一											一		一	
同													三	同
(ハ)	二	二一	一九	五	一	一	二七	二〇	一六六	四六	一二九	六	九三	(ハ) 17

備考

一、前月ト比較欄中(十)ハ増(一)ハ減ヲ示ス

一、單獨傷人及部隊附酒保商人ハ算入セス

一、二種以上ノ営業ヲナス者ハ其ノ主タルモノニ記載セリ

㊹-1 南昌在留邦人職業別人口統計報告ノ件［在九江領事代理］（昭14・8・9）

昭和十四年八月廿壹日接受

調査部長

普通第二一七號

昭和十四年八月九日

在九江

領事代理 小森喜久

別紙添附

外務大臣 有田八郎殿

南昌在留邦人職業別人口統計報告ノ件

八月一日現在ニ於ケル南昌在留邦人職業別人口統計別添ノ通リ報告ス

在九江日本領事館

南昌居留民職業別人口統計表（昭和十四年八月一日現在）

在九江日本帝國領事館警察署

區別	職業別	運輸業	醫師	食料品雜貨店	寫眞商	時計商	賣藥兼雜貨商	刀劍商	旅館業	製菓商
內地人	戶數	3		30	3	3	1	1	3	4
	男 大人	三		五一	七	六	二	二	五	六
	男 小人									一
	女 大人			一三			一		六	二
	女 小人			一						一
	計	三		六四	七	六	三	二	一一	一〇
朝鮮人	戶數		1	1	4	1	1		2	1
	男 大人		一	三	一一	三	二		五	二
	男 小人									
	女 大人			一			一		二	
	女 小人								二	五
	計		一	四	一一	三	三		九	二
台灣人	戶數									1
	男 大人									三
	男 小人									
	女 大人									
	女 小人									
	計									三
合計		三	一	六八	一八	九	六	二	二〇	一五

在九江日本帝國領事館

豆腐商	獸肉野菜販賣業	洗濯業	浴場業	理髪業	飲食店	料理店	特種慰安所	同就業婦人	合計
1				6	24	2	3		84
一				六	四五	六	五		一四五
									一
				一	三一	一二	三	八	七六
									二
一				七	七六	一八	八	八	三二四
	2	1	1		8		8		31
	三	一	二		一九		一九		七一
					一				一
	一		一		一四		九	九四	一三
					二		一		五
	四	一	三		三六		二九	九四	二〇〇
									1
					一				四
					一				四
					一				四
					一				二
一	四	一	三	七	三	八	一八	二	八

備考 本統計ニハ軍人軍屬、軍雇傭人及酒保商人ハ算入セス

南昌居留民職業別人口統計表

昭和十四年九月一日現在

在九江日本領事館警察署南昌分署

職業別	区分	内地人 戸数	内地人 男 大人	内地人 男 小人	内地人 女 大人	内地人 女 小人	内地人 計	朝鮮人 戸数	朝鮮人 男 大人	朝鮮人 男 小人	朝鮮人 女 大人	朝鮮人 女 小人	朝鮮人 計	台湾人 戸数	台湾人 男 大人	台湾人 男 小人	台湾人 女 大人	台湾人 女 小人	台湾人 計	合計
官吏		3	三		一		四													五
運輸業		3	三		一		四													四
醫師								1	一				一							一
食料品雑貨商		34	六九		二一	一	九一	3	九		二		一二							一〇三
寫眞商		3	一〇		一		一一	5	一四		二		一六							二七
時計商		4	一二				一二	1	四				四							一五
賣藥兼雜貨商		1	四		一		五													五
刀劍商		1	二				二													二
旅館業		2	五		五		一〇	2	五		四		一一〇							二〇

備考	八月一日人口数（各考）	合計	同業特種婦人	特種慰安所	料理店	飲食店	理髪業	浴場業	洗濯業	獣肉野菜販売業	豆腐商	製菓業
軍人・軍属・及酒保商人ハ算入セス	87	93		3	2	26	4				1	6
	二四八	二八四		五	六	五二	五				一	九
	二	二										二
	七五	二四	一	三	一二	四四	二					三
	二	三				一						一
	二二七	二九三	一	八	一七	九六	七				一	一五
	31	32		8		7	1	1	1	1		1
	七二	九四		三六		一五	一	一	一	五		二
	二	一				一						
	二三	一三九	一〇〇	一四		一五		一	一			
	五	四				三						
	二〇〇	二三八	一〇〇	五〇		三四	一	二	二	五		二
	1	1										1
	四	三										三
	四	三										三
	四三一	五三四	一一一	五八	一七	一三〇	八	二	二	五	一	二〇

⑮—1 在留邦人人口統計職業別報告ノ件［在蕪湖副領事］（昭14・4・4）

調査部

昭和十四年四月拾七日接受

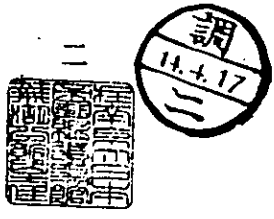
別紙添附

普通第七七號

昭和十四年四月四日

在蕪湖

副領事 岡部計二



外務大臣 有田八郎殿

在留邦人人口統計職業別報告ノ件

本月一日現在ニ於ケル當館管内在留邦人人口及職業別統計表別紙ノ通報告ス

本信寫送付先 上海 南京 漢口 九江

在南京日本總領事館蕪湖分館

蕪湖在留民職業別人口統計表（昭和十四年四月一日現在）

區別	種別	官公吏	教育關係者	宗教關係者	医務關係者	會社員	時計商	土木建築業	食料品雜貨商	貿易商	旅館業
內地人	戶數	一一	一	一	一	五四	一	二	二三	五七	一
	男 大人	一一	一	一	一	五五	一	二	四八	八二	
	男 小人	一							五		
	女 大人	五	一			五	一		一四	五	七
	女 小人	三				二			四		一
	計	二〇	二	一	一	六二	二	二	七一	八七	八
朝鮮人	戶數				一		一		六	九	
	男 大人				二		二		一三	二三	
	男 小人										
	女 大人				一				二	一	
	女 小人										
	計				三		二		一四	二三	
台灣人	戶數					五				六	
	男 大人					五				七	
	男 小人										
	女 大人										
	女 小人										
	計					五				七	
合計	戶數	一一	一	一	二	五九	二	二	二九	七二	一
	人口	二〇	二	一	四	六七	四	二	八五	一一七	八

慰安所	料理店	飲食店	運送業	機械器具修理	鴛業	製材業	餅菓子製造業	貴薬業	洋服商	其他	無職	計
四	二	一五	二	一	四	一	四	二	一	三	三	一九四二六五
一三	一〇	一七	二	三	五	二	四	二	一	四		
		一					一	一				九五九
五	三	一三			二	三	六	二			三	
		三			一		一					一五四八
六二	三	五七	二	三	八	五	三	五	一	四	三	
二		二									二	二三
五		四	二				一				二	五二
二六		四					一				二	三七
											二	五
三一		八	二				二				六	九一
												一一
												一三
六	二	一七	二	一	四	一	四	二	一	三	五	一二二八
九三	三〇	六五	四	三	八	五	一四	五	一	四	九	五五一

㊺—2 在留邦人人口統計職業別報告ノ件［在蕪湖副領事］（昭14・6・2）

調査部

普通第一二二號

昭和十四年六月二日

在蕪湖
副領事 岡部計二





昭和十四年六月廿日 接受

別紙添附

外務大臣 有田八郎殿

在留邦人々口統計職業別報告ノ件

六月一日現在ニ於ケル當館管內在留邦人々口及職業別々紙ノ通報告申進ス

本信寫 上海 南京 漢口 九江

在南京日本總領事館蕪湖分館

[前略]

藥種商	書籍販賣業	寫眞業	菓子製造業	飮食店	刀劍商	洋服店	製茶業	慰安所	料理店	無職	其他	計
二	一	三	二	一六二	一	一	一	四一三	二	三	七	三四三二
二		三	二	四二	二	二	三	一四八	九	四	九	一四九〇
一				四								
二	一	二	一	五二			三	二六三	三四	七	一〇	一七五四二
		一	三	八三	三	三	六	二		一		一九四八
				二				二		二		二三三
				四				二		三		四八五
				二				三四		五		一二一四
				六								
												一四二六五
二	一	三	二	一八	一	一	一	六	二	四	七	六四二
五	一	六	三	二	三	二	六	八七	三四	一二	一〇	

㊺—3 在留邦人人口統計職業別報告ノ件［在蕪湖副領事］（昭14・7・4）

昭和十四年七月拾八日接受

別紙添付

調査部

普通第一四五號

昭和十四年七月四日

在蕪湖
副領事 岡部計二

外務大臣 有田八郎殿

在留邦人々口統計職業別報告ノ件

七月一日現在ニ於ケル當館管内在留邦人々口及職業別々紙ノ通報告申進ス

寫送付先 上海 南京 漢口 九江

在南京日本總領事館蕪湖分館

燕湖在留民職業別人口統計表（昭和十四年七月一日現在）

區別	種別	官公吏	教育關係者	宗教關係者	醫務關係者	會社員	時計商	旅館業	雜貨商	貿易商	運輸業
內地人	戶數	10	1	1	3	198	2	2	25	63	2
	男 大人	一〇	一	一	四	一九八	三		五〇	九八	二
	男 小人	一							三	三	
	女 大人	六	一			一〇	四	九	一七	八	
	女 小人	四				三	三	一	五		
	計	二一	二	一	四	二二三	一〇	一〇	七五	一〇九	二
朝鮮人	戶數				1	1	1		7	10	3
	男 大人				一	一	二		一〇	二五	一〇
	男 小人									三	
	女 大人				一				二	三	一
	女 小人								一		一
	計				二	一	二		一三	三一	一二
台灣人	戶數					2			1	9	
	男 大人					二			一	一二	
	男 小人										
	女 大人							一			
	女 小人					一					
	計					三		一	一	一二	
合計	戶數	10	1	1	4	201	3	2	33	82	5
	人口	二一	二	一	六	二一七	一二	一一	八九	一五一	一四

計	寫眞業	其他	無職	料理店	慰安所	製材業	洋服店	刀劍商	飲食店	菓子製造業	書籍販賣業	藥種商
354	4	8	4	2	4	1	1	1	16	3	1	2
四二八	五	八	四	九	一一	三	二	三	二一	三		二
一五					一				四			一
一八五	二	二	一	二三	四六				四三		一	二
一八	一				一							
六四八	八	一〇	五	三二	五九	三	二	三	六八	三	一	五
二七			1		2				1			
五六			一		二				四			
三												
二六			一		一六				二			
四			二									
八九			四		一八				六			
12												
一四												
一												
一												
一六												
393	4	8	5	2	6	1	1	1	17	3	1	2
七五一	八	一〇	九	三二	七七	三	二	三	七四	三	一	五

有其法日本紡織等食分食

㊺1-4 在留邦人人口統計職業別報告ノ件［在蕪湖副領事］（昭14・8・2）

昭和十四年八月拾貳日接受

調査部長

普通第一七〇號

昭和十四年八月二日

在蕪湖

副領事 岡部計二



外務大臣 有田八郎殿

在留邦人々口統計職業別報告ノ件

八月一日現在ニ於ケル當館管内在留邦人々口及職業別々紙ノ通報告申進ス

追而 上海、南京、漢口、九江、



在南京日本總領事館蕪湖分館

蕪湖在留民職業別人口統計表（昭和十四年八月一日現在）

種別	区別	官公吏	教育関係者	宗教関係者	医務関係者	會社員	時計商	旅館業	雜貨商	貿易商	運輸業
内地人	戸数	九	一	一	一	二二四	二	二	二六	六六	二
	男 大人	九	一	一	一	二二四	三		五四	一八	四
	男 小人	一				二			二	四	
	女 大人	四	一			一三	四	一〇	一六	一〇	
	女 小人	四				三	三	一	四		
	計	一八	二	一	一	一四三	一〇	一一	七七	一三	四
朝鮮人	戸数				一	一	一		八	一三	三
	男 大人				一	一	二		一一	二四	九
	男 小人									三	
	女 大人				一			一	二	三	一
	女 小人								一		一
	計				二	一	二	一	一四	三〇	一一
台湾人	戸数					二			一	一〇	
	男 大人					二			二	一三	
	男 小人										
	女 大人					一					
	女 小人										
	計					三			二	一三	
合計	戸数	九	一	一	二	二二七	三	二	三五	八八	五
	人口	一八	二	一	三	二四六	一三	一二	九三	一六四	一五

計	甘他	無職	料理店	慰安所	製竹業	洋服店	刀劍商	飲食店	某子製造業	寫眞業	書籍賣業	藥種商
三八二	一〇	三	二	四	一	一	一	一七	三	四	一	二
四二九	一三	三	九	一〇	三	二	三	二〇	四	五	一	二
一六				一				四				一
一七三	三	一	三〇	三一				四六		二		二
一七				一						一		
六八五	一五	四	三九	四三	三	二	三	七〇	四	八	一	五
二九		一		二								
五一		一		二								
三												
三九		一		三〇								
三				一								
九六		二		三三								
五		二										
一八		二										
一												
一九		二										
四二七	一〇	六	二	六	一	一	一	一七	三	四	一	二
八〇〇	一五	八	三九	七六	三	二	三	七〇	四	八	一	五

㊺-5 在留邦人人口統計職業別報告ノ件［在蕪湖副領事］（昭14・9・3）

調査部長

別紙添附

普通第一九一號

昭和十四年九月三日

在蕪湖
副領事 岡部計二

外務大臣 阿部信行殿

在留邦人人口統計職業別報告ノ件

九月一日現在ニ於ケル當館管内在留邦人人口及職業別統計表別紙ノ通報告申進ス

本信寫送付先 上海 南京 漢口 九江

在南京日本總領事館蕪湖分館

無湖在留民職業別人口統計表（昭和十四年九月一日現在）

種別＼区別	内地人			朝鮮人			台湾人			合計
	戸数	男	女	計	戸数	男	女	計	戸数	人口
官吏	一〇	一〇	一三	二三					一〇	一七
教育関係者	一	一	一	二					一	二
宗教関係者	二	二		二					二	二
医務関係者	三	六	一	七	一	一		一	四	九
会社員	三二	二三	一四	三七	三	三	一	四	三五	四一
時計商	二	三	三	六	一	二		二	三	八
飲食業	二	一	一	二	一	一		一	三	一二
雑貨商	七	五	四	九	一	一		一	八	一〇
貿易商	六	二	二	四					六	一八
運輸業	三	八		八	三	二		二	一一	一〇

在蕪湖日本總領事館分館

計	其他	無職	料理店	慰安所	製材業	土木建築	刀劍業	飲食店	菓子製造業	湯導業	書籍販賣業	藥種商
三八七	五	六	二	六	一	三		一七	二	三	一	二
五〇三	五	四	八	一二	二	七		二四	二	八		二
二一								三				一
九二	一	三二	二五	三二	一	一		四八	一	二	一	三
二〇	一	一	一	一				二		一		
七三六	七	三七	三四	四四	三	八		七七	三	一一	一	六
二三		一		一								
四九		二		三								
六												
四〇				三〇				一				
九五		二		三三				一				
一三												
二〇												
一												
三												
一												
二五												
四二三	五	七	二	七	一	三		一七	二	三	一	二
八五六	七	三九	三四	七七	三	八		七八	三	一一	一	六

㊻杭州在留邦人營業種別並ニ投資額一覧表送付ノ件［在杭州領事代理］（昭14・2・24）

昭和十四年三月八日 接受

東亞司 第三課 小

普通第六六號

昭和十四年二月二十四日

在杭州

領事代理 道明輝

外務大臣 有田八郎殿

杭州在留邦人營業種別並ニ投資額一覧表送付ノ件

當館警察署ニ於テ調査シタル二月現在ニ於ケル在留邦人ノ營業種別並ニ投資額一覧表別紙ノ通御參考迄送附ス

本信寫送付先

上海

在杭州日本領事館

亞 14.3.8 三

杭州在留邦人營業種別並二投資額一覽表（昭和十四年二月現在調）

在杭州日本領事館警察署

法人之部

營業種別	資本金額	稱號	營業主又八管理人	營業場所	電話	備考
水電事業	日一〇、〇〇〇、〇〇〇 支一五、〇〇〇、〇〇〇	華中水電株式會社	中澤達也	迎紫路	一、二二七	日支合併二十二資本金額八本支店ノ全資本ヲ表八人
通信事業	日一〇、〇〇〇、〇〇〇 支五、〇〇〇、〇〇〇	華中電氣通信株式會社	横手朝	憙興路二三	一、〇〇〇 一、〇一〇	仝
蠶絲業	日五、〇八、〇〇〇 支二、〇〇二、〇〇〇	華中蠶絲株式會社	清水半二	東街路四〇五	一、二二一	仝
乘合自動車業	日二、五〇〇、〇〇〇 支五〇〇、〇〇〇	華中都市自動車株式會社	秋山托夫	上要街七七	一、二六一	仝
纖維工業	不詳	三友紡績株式會社	小川亨	拱宸橋		
仝	五〇、〇〇〇	福源廠	釘井茂一	三元坊五〇	一、三三六	
貿易商	三〇〇、〇〇〇	阿部市洋行	野田昌宏	湖濱路日四三 五四八	一、二六二	本店資本金百萬圓
仝	一〇〇、〇〇〇	增幸洋行	野崎勝之輔	右同	一、二一五	本店資本金百萬圓

營業種別	資本金額	稱號	營業主又ハ營理人	營業場所	電話	備考
貿易商	一〇〇、〇〇〇	吉田號	岡巖	湖濱路自四三至四八	一、三八三	本店資本金百萬圓
仝	一〇〇、〇〇〇	福原商店	釘井茂一	三元坊五〇	一、三三六	右同
仝	一〇〇、〇〇〇	大丸洋行出張所	山根一	保佑坊二八	一、二三四	右同
運送業	三五、〇〇〇、〇〇〇	日本通運株式會社	柏谷強一	杭州驛前	一、二五八	本店資本金ニシテ當地ニ於ケル資本額不明
旅行案内業	二〇〇、〇〇〇	日本國際觀光局	谷山正弘	新民路三五五	一、二六三	右同
映画興業	二五〇、〇〇〇	東和劇場	岡本勢衛	延齡路二四三		右同
百貨店業	銀一五〇、〇〇〇	實業百貨店	市川隆三	迎紫路	一、三三四	

資本金(金)計　六千參百七拾萬八千圓也

資本金(銀)計　拾五萬元也

備考

一、資本金額欄中　日ハ日本側　支ハ支那側、投資額ヲ表ハス

二、單位ハ圓トス

[中略]

個人之部

營業種別	資本金額	稱號	營業主又ハ管理人	營業場所	電話	備考
貿易商	四〇、〇〇〇	峯嶺行出張所	内山甚作	新民路三五五	一、二三一	本表ハ本店資本金ヲ表ハス
仝	一〇、〇〇〇	久大洋行出張所	崎山憲雄	新民路四一〇		
仝	一〇、〇〇〇	福泰洋行杭州分行	田中華之助	新民路四〇〇		
仝	二〇、〇〇〇	日發貿易公司	陳千萬	壽安路一〇		
仝	一〇、〇〇〇	神戸商會	山口敬一	敬仁街二二六		
仝	一〇、〇〇〇	靖東公司	田和繁之助	永福里六		
仝	一〇、〇〇〇	大杯洋行	郭芳鈞	大平坊大馬路四三		
仝	八、〇〇〇	東華洋行	八田温造	保佑坊四八	一、二一七	
仝	二、〇〇〇	新興貿易公司杭州支店	鈴木平一	塩橋街七二		
雜貨商	一〇、〇〇〇	三益社	福田充親	延齡路二四一	一、三七一	本店資本金拾萬圓
仝	八、〇〇〇	萬利洋行杭州出張所	金高延二	延齡路一五五四		

營業種別	資本金額	稱號	營業主又八管理人	營業場所	電話	備考
美容院	四五〇	日本理髮館結髮部	永田ウメノ	仁和路七〇七一		
仝	二〇〇	東京洋行美容院	宗光絹子	湖濱路二七		
理髮店	一三〇〇	日本理髮館	高瀨富雄	仁和路七〇七一		
仝		實業百貨店理髮部	市川隆三	迎紫路百貨店口	一三三四	百貨店ト同一資本
タクシー業	一〇、〇〇〇	杭州タクシー	相場萬吉	迎紫路百貨店口		
慰安所業	三五、〇〇〇	關門亭	[redacted]	慈幼路聚新邨		
仝	二、〇〇〇	長生樓	[redacted]	長生路湖邊村八		
仝	一、五〇〇	鶴屋	[redacted]	長生路湖邊村三九		
果物商	五〇	富士屋	金聖桂	延齡路一二九		

資本金計　千五百七拾四萬九千四百五拾圓也

備考

編集復刻 御女性のためのアジア平和国民基金編
政府調査「従軍慰安婦」関係資料集成①
警察庁関係公表資料／外務省関係公表資料
一九九七年三月二十日 第一刷発行
揃定価 一〇〇、〇〇〇円(税別)
後藤乾一
編集代表 高崎宗司
和田春樹
装幀 三谷靱彦
発行者 北村正光
発行所 株式会社龍渓書舎
東京都板橋区南町43―4―一〇三
郵便番号 一七三―〇〇二七
電話 〇三―三五五四―八〇四五(代表)
FAX〇三―三五五四―八四四四
振替 〇〇一三〇―一―七六一二三
印刷 勝美印刷 製本 岸田製本

検印廃止

ISBN4-8447-3474-1

編集復刻

(財)女性のためのアジア平和国民基金編

政府調査

「従軍慰安婦」関係資料集成 ②

防衛庁関係公表資料(上)

龍溪書舎

目　次　（第二巻）

防衛庁関係公表資料（上）

一　軍慰安所従業婦等募集ニ関スル件［陸軍省副官］（昭13・3・4）……3
二　戦時服務提要［教育総監部本部長］（昭13・5・25）……9
三―㈠　軍人軍隊ノ対住民行為ニ関スル注意ノ件［北支那方面軍参謀長］（昭13・6・27）……21
三―㈡　軍人軍隊ノ対住民行為ニ関スル注意ノ件［北支那方面軍参謀長］（昭13・6・27）……27
四　慰安所ノ状況［波集団司令部］（昭14・4）……37
五　支那事変ノ経験ヨリ観タル軍紀振作対策［陸軍省副官］（昭15・9・19）……43
六　戦場生活ニ於ケル特異現象ト其対策［早尾乕雄］（昭14・6）……55
七　支那事変ニ於ケル軍紀風紀ノ見地ヨリ観察セル性病ニ就テ［大本営陸軍部研究班］（昭15・10）……75
八　昭和一四年八月第二旬衛生旬報［南支派遣軍軍医部］（昭14・8）……79
九　呂集団特務部月報（昭15・4）……93

一〇　政務月報［遠藤兵団政務部］（昭16・2）……109
一一―㈠　昭和一六年一一月陸軍々人軍属非行表［中支那派遣憲兵隊司令部］（昭16）……119
一一―㈡　昭和一六年一一月憲兵干与邦人（含、台鮮人）犯罪表［中支那派遣憲兵隊司令部］（昭16）……127
一一―㈢　昭和一六年一二月陸軍々人軍属犯罪表［中支那派遣憲兵隊司令部］（昭16）……131
一一―㈣　昭和一六年一二月中陸軍々人軍属非行表［中支那派遣憲兵隊司令部］（昭16）……135
一一―㈤　昭和一六年一二月憲兵関与邦人（含、台鮮人）犯罪表［中支那派遣憲兵隊司令部］（昭16）……139
一二　軍紀違犯者ノ件特別報告［第13師団長］（昭17・1）……143
一三　特別報告中軍人変死ノ件報告［第13師団長］（昭17・3）……147
一四　軍紀違犯事件詳報［第11軍司令官］（昭17・3・20）……151
一五　軍紀違犯事項ニ関スル件報告［支那派遣軍総司令部］（昭17・3・30）……157
一六―㈠　昭和一七年一月陸軍々人軍属犯罪表［中支那派遣憲兵隊司令部］（昭17）……161
一六―㈡　昭和一七年二月陸軍々人軍属犯罪表［中支那派遣憲兵隊司令部］（昭17）……165
一六―㈢　昭和一七年二月軍人軍属非行表［中支那派遣憲兵隊司令部］（昭17）……169
一七　逃亡ニ関スル報告［第22師団長］（昭17・3・27）……175

一八　軍紀違犯事項報告［第58師団長］（昭17・4・8）……181
一九　陸軍軍事警察年報（昭和一六年）［中支那派遣憲兵隊司令部］（昭17・5・3）……183
二〇―(一)　昭和一七年四月陸軍々人軍属犯罪表［中支那派遣憲兵隊司令部］（昭17）……187
二〇―(二)　昭和一七年四月陸軍々人軍属非行表［中支那派遣憲兵隊司令部］（昭17）……191
二一　軍法会議判決［北支派遣軍］（昭17・5・5）……195
二二　軍人ノ変死ニ関スル件報告［第3飛行師団司令部］（昭和17）……199
二三―(一)　南方派遣渡航者ニ関スル件［台湾軍司令官］（昭17・3・12）……203
二三―(二)　南方派遣渡航者ニ関スル件［陸軍省副官］（昭17・3・16）……205
二三―(三)　南方派遣渡航者ニ関スル件［台湾軍参謀長］（昭17・6・13）……207
二四―(一)　渡航手続ニ関スル件［波集団参謀長］（昭17・11・12）……209
二四―(二)　渡航手続ニ関スル件［陸軍次官］（昭17・11・18）……213
二五　戦時月報［香港占領地総督部］（昭17・4）……217
二六　香港ノ警備並ニ軍政実施ニ関スル香港占領地総督第二遣支艦隊司令長官間協定覚書（昭17・5・4）……221
二七　状況報告［独立攻城重砲兵第2大隊長］（昭13・1・20）……225
二八　独立攻城重砲兵第二大隊第二中隊陣中日誌（昭13・1・26）……229

二九　独立攻城重砲兵第二大隊第二中隊陣中日誌（昭13・2・1、24、27）……233
三〇　独立攻城重砲兵第二大隊第二中隊陣中日誌（昭13・3・3、11、14、16）……241
三一　常州駐屯間内務規定［独立攻城重砲兵第2大隊］（昭13・3・16）……251
三二―(一)　第一四師団衛生隊第三中隊陣中日誌四号（昭13・4・10）……259
三二―(二)　第一四師団衛生隊第三中隊陣中日誌八号（昭13・11）……263
三二―(三)　第一四師団衛生隊第三中隊陣中日誌一〇号（昭14・1）……271
三二―(四)　第一四師団衛生隊第三中隊陣中日誌一四号（昭和14・5）……275
三二―(五)　第一四師団衛生隊担架第三中隊陣中日誌一六号（昭14・7）……281
三二―(六)　第一四師団衛生隊担架第三中隊陣中日誌一七号（昭14・8）……287
三三　第三兵站部向井支部陣中日誌（昭13・7・1）……293
三四　第二軍状況概要［第2軍司令部（中支武漢地区）］（昭13・12・10）……297
三五―(一)　独立山砲兵第三連隊陣中日誌（昭14・1・7、4・23）……305
三五―(二)　独立山砲兵第三連隊陣中日誌（昭14・6・7、30）……311
三六　第一〇八師団第四野戦病院業務詳報［北警備隊］（昭14・6・12）……321
三七　森川部隊特種慰安業務ニ関スル規定［森川部隊長］（昭14・11・14）……327
三八　幹部ニ対スル衛生教育順序［北支那派遣軍甲集団軍医部］（昭15・11）……337

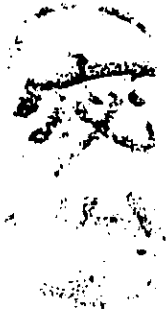
三九　第一病院支那事変第八回功績概見表〔第一病院長〕（昭15・12・10）……347
四〇―(一)　歩兵第一一連隊第一大隊砲小隊陣中日誌（昭16・1・16、5・3、6・20）……357
四〇―(二)　歩兵第一一連隊第一大隊砲小隊陣中日誌（昭17・3・20、27）……365
四〇―(三)　歩兵第一一連隊第一大隊砲小隊陣中日誌（昭17・4・3、5）……373
四一　独立山砲兵第三連隊陣中日誌（昭16・4・9）……377
四二　歩兵第一一連隊第七中隊陣中日誌（昭17・3・23、4・3）……381
四三　野戦高射砲第四五大隊第一中隊陣中日誌（昭17・4・3、5・14）……385
四四―(一)　父島要塞司令部参謀部陣中日誌（昭17・4・11、14、16）……391
四四―(二)　父島要塞司令部参謀部陣中日誌（昭17・5・9、12）……399
四五　歩兵第一一連隊第三中隊陣中日誌（昭17・4・24）……403
四六　独立自動車第四二大隊第一中隊陣中日誌（昭17・4・30）……409
四七　クワラピラ・バハウ駐留規定〔クワラピラ警備隊長〕（昭17・4・25）……415

防衛庁関係公表資料(上)

昭和十三年

支受大日記

陸軍省





第二三四頁

保存期限	決裁指定	決行指定	
永久	[illegible]	[illegible]	[illegible]

受領番號：[illegible]陸文[illegible]第二一九七號

件名：軍慰安所從業婦等募集二關之九件

大臣：委

政務次官：

次官：[illegible]

參與官：

高級副官：[illegible]

主務局長：[illegible]

主務課長：[illegible]

主務副官：[illegible]

書記官：

主務課員：[illegible]

起元題（課名）：兵務課

主務局課				大臣官房	
番號	受領	提出	受領	結了	
兵務甲第一八號	昭和　年　月　日	昭和　年　三月　四日	昭和　年　月　日	昭和　年　三月十一日	

決行（決裁）後回覽	連帶	
局（部）長	局（部）長	
課長	課長	

陸支密

副官ヨリ北支方面軍及中支駐屯軍
（派遣）
参謀長宛通牒案

支那事変地ニ於ケル慰安所設置ノ為内地ニ於テ之カ従業婦等ヲ募集スルニ当リ故ニ軍部諒解等ノ名儀ヲ利用シ為ニ軍ノ威信ヲ傷ツケ且ツ一般民ノ誤解ヲ招ク虞アルモノ或ハ従軍記者、慰問者等ノ人シテ不統制ニ募集シ社會問題ヲ惹起スル虞アルモノ或ハ募集ニ任スル者ノ人選適切ヲ欠キ為ニ募集ノ方法誘拐ノ類ト警察当局ニ検挙取調ヲ受クルモノアル等注意ヲ要スルモノ少カラサルニ就テハ将来是等ノ募集等ニ当リテハ派遣軍ニ於テ統制シ之ニ任スル人物ノ選定ヲ周到適切ニシ其實施ニ當リテハ関係地方ノ憲

兵又警察當局ノ連繫ヲ密ニシ次テ軍ノ威信
保持上地、社會問題上遺漏ナキ様配慮相成
度依命通牒ス

陸支密第七四五號　昭和十年三月四日

部外秘

教育総監部編纂

戦時服務提要

345

序文

本書ハ實戰ノ敎訓ニ基キ主トシテ初級將校ノ爲必要ナル戰時服務ノ要領ニ關シ參考タルベキ事項ヲ輯錄セルモノナリ未ダ完璧ニ至ラズト雖モ廣ク國軍幹部ヲ裨益スル所アリト認メ一般ニ之ヲ頒ツコトトセリ

昭和十三年五月二十五日

敎育總監部本部長　安藤利吉

戰時ニ於ケル服務ハ典範令ノ明示スル所ニ從ヒ專ラ戰鬪ヲ以テ第一義トスベシト雖モ亦同時ニ戰時諸規則ニ據リ處理スベキコト少カラズ

本書ハ其ノ服務ノ要領ニ就キ初級將校ニ對シ必要ナル指針ヲ與ヘンガ爲參考トシテ編纂セルモノナリ

目次

緒言
第一章　日本精神ノ發揚……一
第二章　將校ノ責務……三
第三章　將校平素ノ嗜ミ及出征時ノ處置……一一
第四章　軍紀ノ振肅……一七
第五章　動員……二三
第六章　公用書類ノ準備及記載竝ニ保管……二八
第七章　人馬ノ給養……三六
第八章　人馬ノ衛生……四三
第九章　戰死傷病人(馬)ニ對スル處置……五八
第十章　戰場掃除……七二

目次

第十一章　人馬ノ補充……七七
第十二章　戰時進級及敍位、敍勳……九〇
第十三章　兵器、彈藥其ノ他ノ補充……九五
第十四章　後方勤務……一〇六
第十五章　宣傳及防諜……一〇九
第十六章　給與……一一三
第十七章　歸還及復員……一二三
第十八章　功績調査……一二四
第十九章　戰死傷者ニ對スル恩典……一四七
第二十章　其ノ他ノ雜件……一五〇
附錄
附表　戰時ニ於ケル基本的諸規則一覽表

緒言

軍ハ天皇御親率ノ下ニ我ガ建國ノ理想タル八紘一宇ノ大精神ヲ實現スベキ聖戰ニ任ズルモノニシテ平時ニ在リテハ其ノ嚴然タル存立ニ依リ皇威ヲ中外ニ宣揚スルヲ以テ使命トス

翻ツテ現代戰ノ特質ヲ觀察スルニ往時ノ如ク殆ド武力戰ノミニ依リ終始シ而モ其ノ態様比較的小規模ニシテ單純ナリシニ比シ全ク面目ヲ一新シ平戰兩時ノ明確ナル區別ヲ缺キ戰爭狀態ハ既ニ平時ヨリ開始セラレ經濟、外交、思想等各方面ニ亙リ廣汎ニシテ深刻且執拗ナル抗爭葛藤ト化シ科學ノ異常ナル進歩發達ト國家相互間ノ複雜ナル依存關係トハ相俟ツテ戰爭ノ形態ヲ著シク變化シ其ノ方法亦大規模且複雜トナレリ是ニ於テカ軍ノ平戰兩時ニ於ケル使命ハ愈〻重キヲ加ヘタルモノト謂フベク國民皆兵ノ眞義ニ徹底シテ精銳ナル軍ヲ練成維持スルト共ニ國民精神ヲ作興シ以テ皇

基ヲ恢弘シ國威ヲ宣揚スルノ聖業ヲ完成セザルベカラズ

抑將校特ニ豫、後備役將校ハ軍ニ從ツテハ軍隊ノ楨幹トシテ軍人精神及軍紀ノ本源トナリ鄉ニ在ツテハ其ノ中堅トシテ國民精神作興ノ中心原動力トナリ以テ皇國ノ爲一身ノ利害、生死ヲ超越シ一意忠節ヲ盡クスヲ以テ本分ト爲スベキモノニシテ軍ノ使命ト現代戰ノ特質トニ鑑ミルトキ愈〻其ノ責務ノ重且大ナルモノアルニ至レリト謂フベシ宜シク居常平戰兩時ニ於ケル其ノ重大使命ヲ遂行スルニ足ルノ研鑽ト修養トヲ重ネ以テ聖旨ニ副ヒ奉ランコトヲ期セザルベカラズ

テ戰力ノ發揮ニ遺憾ナカラシムルノ著意ヲ必要トス

2. 戰地ニ於テハ被服ハ一般ニ汚穢シ易キヲ以テ機會ヲ求メ洗濯シ爲シ得レバ更新スルヲ可トスト雖モ給水、補給意ノ如クナラザルヲ常トスルヲ以テ屢〻除虱、曝干等ヲ勵行セシムルノ著意ヲ必要トス

3. 徵發被服ノ使用ハ成ルベク避クルヲ要ス止ムヲ得ズ使用スル場合ニ於テハ衛生部員ヲシテ所要ノ消毒ヲ行ハシムルヲ可トス

4. 寒地ノ作戰ニ於テハ防寒具ノ使用特ニ其ノ時機ヲ適切ナラシメ疾病就中凍傷ノ豫防ニ遺憾ナカラシムルヲ要ス

四、防　疫

傳染病ノ豫防ニ關シテハ幹部以下特ニ細心ノ注意ヲ拂ヒ嚴格ナル個人衛生ト相俟チテ防疫ノ處置ヲ完全ナラシメ以テ戰場到ル處ニ潛在スル病菌、疫癘ヲ征服シ如何ナル非衛生的環境ニ在リテ困苦缺乏ノ生活ヲ敢テスルモ克ク之ヲ克服シ得ザル

ベカラズ

防疫ニ關シ特ニ留意スベキ事項左ノ如シ

1. 豫防接種

豫防接種ハ積極的防疫ノ手段ナリ然ルニ戰時忽々ノ際動員下令後數種ノ豫防接種ヲ必要ナル期間ニ實施スルハ多大ノ困難ヲ伴フ所ナリ將校ハ豫防接種ノ目的ニ鑑ミ動員間ハ勿論戰地到著後ト雖モ極力機ヲ捉ヘ之ガ實施ヲ確實ナラシムル如ク指導スルヲ要ス

2. 傳染源ノ芟除及傳染杜絶

患者ハ早期ニ之ヲ發見シ隔離、消毒等ヲ徹底的ナラシメ以テ病源ヲ芟除シ患者竝ニ汚染ノ疑アル人蓄、物件トノ接觸ヲ絶チ以テ病毒ノ侵入ヲ防止スルヲ要ス

此ノ際ニ於ケル不徹底ナル處置ハ忽チ慘害ヲ招來スルモノトス

敵ノ放棄シタル施設、物件等ノ利用ニ方リテハ傳染病豫防上特ニ顧慮スルコト

緊要ナリ

性病ニ關シテハ積極的豫防法ヲ講ズルハ勿論慰安所ノ衞生施設ヲ完備スルト共ニ軍所定以外ノ賣笑婦、土民等トノ接觸ハ嚴ニ之ヲ根絶スルヲ要ス

五、凍傷ノ豫防

凍傷豫防ニ關スル幹部ノ適切ナル著意ト兵ノ確實ナル實行トハ冬季作戰ノ大敵タル凍傷ヲ克服スルノ要道ナリ

凍傷豫防上注意スベキ事項左ノ如シ

1. 凍傷ニ關スル衞生知識ノ向上ノ徹底ヲ圖ルコト
2. 作戰地ノ氣象狀態ニ應ジ防寒被服ノ著脫特ニ發汗後ノ處置ヲ適切ニスル等豫防ニ遺憾ナカラシムルコト
3. 防寒被服ノ適合特ニ著裝法、修理ノ適否ニ注意スルコト
4. 適切ナル給養特ニ溫食ノ支給ニ勉メ又睡眠不足ヲ避クルコト

［以下略］

自昭和十三年七月一日
至同　七月廿一日

陣中日誌

歩兵第九旅團

【前略】

七月二十七日
曼霹雨

一、警備隊司令部ハ宿縣ニ位置ス

二、密偵ノ報告ニ依レハ張家圍子(任橋東北方六粁)王庄(任橋西北方六粁)附近ニ蟠居シアリシ共産匪(匪首不明)約千五百ハ霊霹方向ニ移動セリト

三、夕川少將及納見大佐ハ昨二十六日無事青島上陸ノ旨瀧口少佐ヨリ電報アリ

四、北支那方面軍參謀長ヨリ軍人軍隊ノ對住民行爲ニ關スル注意左記ノ通リ通牒アリ

方軍參二密第一六一號

軍人軍隊ノ對住民行爲ニ關スル注意ノ件通牒

昭和十三年六月二十七日

北支那方面軍參謀長 岡部直三郎

一、軍占據地域内ノ治安ハ徐州會戰ノ結果一時好轉セ

ニヤニ看受ケラレレモ最近ニ至リ山東省方面ニ於ケル交通線ノ復ニ盛トナリ又北部京漢線西方地區共産遊撃隊ノ活動ハ北京北方地區ヲ経テ從來ノ平和境冀東方面ニ迄擴大セラル、等再ビ逆轉ノ傾向ヲ示シツヽアリ、治安回復ノ前途實ニ多難ナルヲ覺エレム

治安回復ノ進捗遅々タル主ナル原因ハ後方安定ニ任スル兵力ノ不足ニ在ルコト勿論ナルモ一面軍人及軍隊ノ住民ニ對スル不法行爲カ住民ノ怨嗟ヲ買ヒ反抗意識ヲ煽リ共産抗日系分子ノ民衆煽動ノ口實トナリ治安工作ニ重大ナル悪影響ヲ及ホスコト甚シトセス

而テ諸情報ニヨルニ斯ノ如キ強烈ナル反日意識ヲ激成セシメシ原因ハ各所ニ於ケル日本軍人ノ強姦事件カ全般ニ傳播シ實ニ豫想外ノ深刻ナル反日感情ヲ

醸成セルニ在リト謂フ

三、

由來山東、河南、河北南部等ニ在ル紅槍會大刀會及之レニ類スル自衛團體ハ古來軍隊ノ掠奪強姦行爲ニ對スル反抗熾烈ナルカ特ニ強姦ニ對シテハ各地ノ住民一齊ニ立ケ死ヲ以テ報復スルヲ常トシアリ（昭和十二年十月六日方面軍ヨリ配布セル紅槍會ノ習性ニ就テ參照）從テ各地ニ頻發スル強姦ハ單ナル刑法上ノ罪惡ニ留ラス治安ヲ害シ軍全般ノ作戰行動ヲ阻害シ累ヲ國家ニ及ホス重大反逆行爲ト謂フヘク部下統率ノ責ニアル者ハ國軍國家ノ爲メ泣テ長稷ヲ斬リ他人ヲシテ戒心セシメ再ヒ斯ル行爲ノ發生ヲ絶滅スルヲ要ス若シ之ヲ不問ニ附スル指揮官アラハ是不忠ノ臣ト謂ハサルヘカラス

四、

右ノ如ク軍人個人ノ行爲ヲ嚴重取締ルト共ニ面成ルヘク速ニ性的慰安ノ設備ヲ整ヘ設備ノ無キタメ不本意ト

ヲ禁ヲ侵ス者無カラシムルヲ緊要トス

五、右ノ外討伐部隊カ戰鬪上ノ必要ニ基クニ非ラスシテ單ニ敵兵ノ存在セシ故ニ或ハ住民地附近ノ交通ヲ匪賊カ破壞セリトノ理由ニ依リ住民ノ家屋ヲ燒却スルカ如キハ徒ニ無辜ノ住民ヲシテ自暴自棄ニ陷リ匪賊ニ投セシムル結果トナルヲ以テ住民地ノ燒却ハ嚴ニ之レヲ禁止スルヲ要ス近時各遊擊部隊ハ縣政府ヲ作リ相當組織アル行政ニ布キアルヲ以テ討伐部隊ノ行爲住民ヲ庇護スルノ態度ニ出テサルニ於テハ住民ヲシテ日本軍ヨリモ反ツテ遊擊部隊ヲ德トスルニ至ラシムヘシ

六、前述ノ諸項ハ從來屢々注意セラレシ所ナルク其徹底特ニ實行部隊タル中隊以下ニ對スル徹底十分ナラサル憾アリ此際特ニ下級部隊ヘノ徹底ヲ期シ信賞必罰ヲ以テ臨マレ度ク命ニ依リ通牒ス

③—2軍人軍隊ノ對住民行為ニ關スル注意ノ件［北支那方面軍参謀長］（昭13・6・27）

昭和一三、七、一—七、三一

歩兵第四十一聯隊 陣中日誌

5/5

歩兵第四十一聯隊

原本史料

防衛研修所戦史室

支那事変 文化 361

〔前略〕

七月十三日

晴

宿縣

日々命令

軍司令官

訓示

一、森田隊ハ八時出発固鎮ニ向ヒ前進十九時到着ス

二、左ノ日々命令ヲ下達ス

日々命令

七月十三日
於宿縣部隊本部

一　陸軍軍醫中尉　望月第夫

聯隊本部附ヲ命ス　（七月十二日附）

三、本日左ノ通リ第二軍司令官ヨリノ訓示ヲ受ク

依テ之カ息ヲ印刷配布ス

訓示

稔彦曩ニ閫外ノ重任ヲ拝シ武勲赫々タル第二軍ヲ統率シテ徐州会戦ニ臨ムヤ各隊克ク有形無形ノ戦力ヲ発揚シ衆敵堅陣ヲ重砕シテ偉大ナル戦果ヲ収メタリ是レ固ヨリ御稜威ノ然ラシムルトコロナリト雖モ亦以テ将兵ノ奮戦健闘

ニ由ル茲ニ深ク其ノ勞ヲ多トスルト共ニ此ノ間陣
歿ノ英靈ニ對シ衷心敬弔ノ意ヲ表ス
惟フニ戰局ノ前途尚遼遠ニシテ暴戾ナル敵軍
ニ更ニ一大鐵槌ヲ加フルノ要アルハ敢テ贅言ニ要
セサル所之カ為今圖作戰ノ轉機ニ際シ眞ノ戰
斗序列政変ノ大命ニ接シ或ハ死生ヲ俱ニセル部
隊ト袂ヲ別チ或ハ依然相携ヘテ新任務ニ就
キ或ハ新ニ麾下ニ精強ナル部隊ヲ迎フル等
陣容ノ変更ヲ見ルニ至レリ
抑々本次事変ハ大日本國民ニ課セラレタル天
ノ試錬ニシテ軍ハ既ニ幾多光輝アル戰績ヲ収
メ得タリト雖敵ノ死命ヲ制シ能ク聖戰ノ目
的ヲ達成シ得ルト否トハ寧口懸リテ今後作
戰ニ存ス是ヲ得ヲ以テ出テナ他ニ轉スルモノト

依然軍ニ留ルモノト將タ又新ニ軍ニ入ルモノトヲ問ハス愈々志氣ヲ昂揚シ益々軍紀ヲ振作シ征戰長期ニ亘ルモ有ユル難苦ヲ打開シテ戰捷ノ一途ニ邁進シ彼ヲシテ屈服セシメムニハ止マサルノ氣魄ヲ堅持セサルヘカラス況ンヤ敵軍ニシテ尚且長期抗戰ヲ呼號シ執拗ナル抵抗ヲ持續スル我ニシテ堅忍不拔ノ意志ヲ缺クルトコロアランカ安ンソ能ク聖戰ノ目的ヲ貫徹シ得ンヤ今ヤ新陣容ヲ以テ乾坤一擲ノ次期作戰ニ向ワントスル將兵一同愈々盡忠報國ノ精神ヲ砥礪シテ一度作戰行動ヲ再興スルヤ前途ニ橫ル天嶮地障ヲ踏破シ炎暑瘴癘ヲ克服シ勇躍奮進敵ヲシテ餘喘ヲカラシムルノ諸準備ニ遺憾ナキヲ期スヘシ

昭和十三年七月十日

第二軍司令官　稔彦王

四、軍人軍隊ノ對住民行為ニ関スル注意ノ件アリタルニ付印刷配布シ之カ徹底ヲ計ル其ノ内容左ノ如シ

方軍参ニ密第一六一號

軍人軍隊ノ對住民行為ニ関スル注意ノ件通牒

北支那方面軍参謀長　岡部直三郎

一、軍占據地域内ノ治安ハ徐州會戦ノ結果一時好轉セシヤニ看受セラレシモ最近ニ至リ山東省方面ニ於ケル交通線ノ破壊復ヒ盛トナリ又北部京漢線西方地區共産遊東隊ノ活動ハ北京北方地區ヲ経テ從来ノ平和境冀東

方面ニ迄擴大セラルヽ等再ヒ逆轉ノ傾ヲ示シツヽアリ治安回復ノ前途実ニ多難ナルヲ覺エム

二、治安回復ノ進捗遅々タル主ナル原因ハ後方安定ニ任スル兵力ノ不足ニ在ルコト勿論ナルモ一面軍人及軍隊ノ住民ニ對スル不法行為カ住民ノ怨嗟ヲ買ヒ及抗意識ヲ煽リ共産抗日系分子民衆煽動ノ口実トナリ治安工作ニ重大ナル悪影響ヲ及ボスコト尠シトセス

而シテ諸情報ニヨルニ斯ノ如キ強烈ナル反日意識ヲ激成セシメシ原因ハ各地ニ於ケル日本軍人ノ強姦事件カ全般ニ傳播シ実ニ豫想外ノ深刻ナル反日感情ヲ醸成セルニ在リト謂フ

三、由来山東河南河北南部等ニ在ル紅槍會大刀會及之ニ類スル自衛団体ハ古来軍家

ノ掠奪強姦行為ニ對スル反抗熾烈ナルカ
特ニ強姦ニ對シテハ各地ノ住民一齊ニ立チ死
ヲ以テ報復セルヲ常トシアリ（昭和十二年十月六
日方面軍ヨリ配布セル紅槍會ノ習性ニ就テ
參照）從テ各地ニ頻発スル強姦ハ單ナル刑法
上ノ罪悪ニ留ラス治安ヲ害シ軍全般ノ作戰
行動ヲ阻害シ累ヲ國家ニ及ボス重大反逆
行為ト謂フヘク部下統率ノ責ニアル者ハ國
軍國家ノ為泣テ馬謖ヲ斬リ他人ヲシテ戒
心セシメ再ヒ斬ク行為ノ発生ヲ絶滅スルヲ要ス
若シ之ヲ不問ニ附スル指揮官アラハ是不忠ノ
臣ト謂ハサルヘカラス

四 右ノ如ク軍人個人ノ行為ヲ嚴重取締ルト共
ニ一盤成ルベク速ニ性的慰安ノ設備ヲ整ヘ設

備ノ無キタメ不本意乍ラ禁ヲ侵ス者ナラシムルヲ緊要トス

五

右ノ外討伐部隊カ戰斗上ノ必要ニ基ク非スンテ單ニ敵兵ノ存在セシ故ニ依リ或ハ住民地附近ノ交通ヲ匪賊カ破壞セリトノ理由ニ依リ住民ノ家屋ヲ燒却スルカ如キハ徒ニ無辜ノ住民ヲシテ自暴自棄ニ陷リ匪賊ニ投セシムル結果トナルヲ以テ住民地ノ燒却ハ嚴ニ之ヲ禁止スルヲ要ス近時各遊棗部隊ハ縣政府ヲ作リ相當組織アル行政ヲ布キアルヲ以テ討伐部隊ノ行爲住民ヲ庇護スルノ態度ニ出テサルニ於テハ住民ヲシテ日本軍ヨリモ反テ遊棗部隊ヲ德トスルニ至ラシムベシ

六

前述ノ諸項ハ從來屢々注意セラレシ所ナル

カ共ノ徹底特ニ実行部隊タル中隊以下ニ對スル徹底十分ナラサル憾アリ此ノ際特ニ下級部隊ヘノ徹底ヲ期シ信賞必罰ヲ以テ臨マシ度ク命ニ依リ通牒ス

五 加給品ヲ左ノ如ク分配ス

加給品　米廣　各人一本

糧秣補充六 本日左ノ如ク糧秣補充ヲ受ク

陸支密大日記
S14－41

昭和十四年自四月壹旬
至四月貳拾日

戰時旬報（後方關係）

南支二ノ三

波集團司令部

［前略］

二 慰安所ノ状況

1、慰安所ハ所管警備隊長及憲兵隊監督ノ下ニ警備地區内将校以下ノ為開業セシメアリ

2、近来各種慰安設備（食堂 カフェー 料理屋其他）ノ増加ト共ニ軍慰安所ハ逐次衰微ノ傾アリ

3、現在従業婦女ノ数ハ概ネ千名内外ニ

（3）

シテ軍ニ於テ統制セルモノ約八五〇名
各部隊郷土ヨリ呼ヒタルモノ約一五〇
名ト推定ス

右ノ他第一線ニ於テ慰安所ノ設置困難
ナルモノニシテ現地ノモノヲ使用セルモノ若干アリ

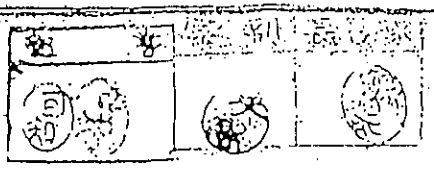
4 慰安所ノ配當及衛生狀態概況別紙
ノ如シ

慰安所配當及衛生狀況一覽表

區分	場所	人員数	罹病率千百分率
軍直部隊	市内	一五九	二八%
久納兵團	廣東市東部	二二三	一%
濱本兵團	廣東市北部	一二九	一〇%
兵站部隊	河南	一二二	四%
佛山支隊	佛山	四一	二一%
飯田支隊	海口	一八〇	
合計		八五〇	

備考 右ハ憲兵駐留地ノミノモノヲ計上ス 右以外 三水 九江 宮窪 增城 石龍等ニモ設置サレアルモ極メテ少数ニシテ詳細不明ナリ

⑤支那事變ノ經驗ヨリ觀タル軍紀振作對策［陸軍省副官］（昭15・9・19）

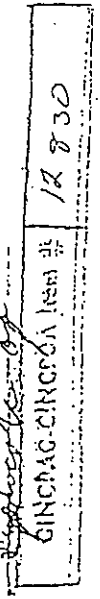


部外祕

陸密第一九五五號

支那事變ノ經驗ヨリ觀タル

軍紀振作對策



OACMIRS-MB-120

Copy 1

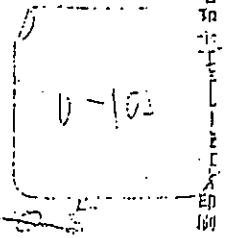
WDC# 146816

32962

CINCPAC-CINCPOA Item # 12830

砲銃隊本部

30035



昭和十五年[illegible]印刷

本冊ハ支那事變ノ經驗ニ基キ軍紀振作上主トシテ軍隊ニ於テ留意スヘキ事項ヲ記述セルモノニシテ内容更ニ推敲ノ餘地アルモ敢テ指導ノ參考トシテ印刷ニ附スルコトトセリ

陸密第一九五五號

教育指導參考資料送付ノ件關係陸軍部隊へ通牒

昭和十五年九月十九日　陸軍省副官　川原直一

「支那事變ノ經驗ヨリ觀タル軍紀振作對策」教育指導ノ參考トシテ送付ス

支那事變ノ經驗ヨリ觀タル

軍紀振作對策

目次

緒言
第一、一般的事項
第二、主トシテ事變地ニ於テ著意スヘキ事項
第三、其ノ他
結言
附錄
主要多發犯ノ若干ニ對スル一部ノ觀察

緒言

一、要旨

軍紀ハ軍隊ノ命脈ナリ而シテ其ノ弛張ハ實ニ軍ノ運命ヲ左右スルモノニシテ透徹セル訓練モ之ニヨリテ能ク其ノ成果ヲ實戰場裡ニ發揚スルヲ得ヘク軍隊ノ指揮亦之ニヨリテ完璧ヲ期シ得ヘク聖戰ニ從フ皇軍ノ聲價モ之ニヨリテ光彩ヲ發揮スルコトヲ得ヘシ然ルニ支那事變勃發以來ノ實績ニ徵スルニ各關係當事者ノ努力ニ依リ漸次緊張ノ道程ニ在リト信スルモ赫々タル武勳ノ反面ニ幾多其ノ弛緩ヲ實證セル事犯ヲ生起シ就中統帥指揮ノ神聖ヲ冒瀆シ軍存立ノ本義ヲ害スル軍紀犯竝ニ武士道的精神及狹ノ缺如ニ因由スル諸犯多發シ軍紀ヲ侵害セルノミナラス軍ノ威信ヲ失墜シ延イテハ聖戰ニ對スル內外ノ嫌惡反感ヲ招來シ治安工作ヲ害シ國際關係ニ惡影響ヲ及ホシ聖戰目的ノ達成ヲ困難ナラシメアルモノアルハ眞ニ遺憾トスル所ナリ戰爭狀態長期ニ亙ルニ從ヒ動モスレハ軍紀弛緩ノ諸因ヲ包藏シアルニ鑑ミ之カ振作ニ關シテハ格別ノ配慮ヲ要ス

二、支那事變間ニ於ケル犯罪、非行ノ特色

支那事變間ニ於ケル犯罪、非違ノ件數ハ國軍總兵員數ノ激增セルニ比スレハ其ノ增加率ハ必スシ

[中略]

事變勃發以來ノ實情ニ徴スルニ赫々タル武勳ノ反面ニ掠奪、強姦、放火、俘虜慘殺等皇軍タルノ本質ニ反スル幾多ノ犯行ヲ生シ爲ニ聖戰ニ對スル內外ノ嫌惡反感ヲ招來シ聖戰目的ノ達成ヲ困難ナラシメアルハ遺憾トスル所ナリ宜シク皇軍ノ本質竝ニ今次聖戰ノ目的ハ抗日排日容共政權及其ノ軍隊ヲ打倒シ東洋永遠ノ平和ヲ確立シ新秩序ノ建設ニ寄與スルニ在リテ決シテ一般民衆ヲ敵トスルモノニ非サル所以ヲ一兵ニ至ルマテ徹底セシメ其ノ行動ヲシテ之ニ即應セシムルコト肝要ナリ

二、事變地ニ於ケル軍紀ノ實相特ニ犯罪非行ノ特色ヲ把握シ其ノ因テ來ル所ヲ究メ指導取締上ノ要點ヲ逸セサル如ク留意スルヲ要ス

三、戰鬪行動直後ニ於ケル軍紀風紀ニ關スル指導取締ニ就キ格別ナル留意ヲ必要トス

犯罪非行生起ノ狀況ヲ觀察スルニ戰鬪行動直後ニ多發スルヲ認ム是レ戰鬪間ニ於ケル殺伐タル心情ノ餘波ヲ受ケアリト思料セラルルヲ以テ戰鬪直後ノ指導取締ニハ特別ナル留意ヲ必要トス

四、事變地ニ於テモ萬難ヲ排シテ敎育訓練ヲ勵行スルヲ要ス

今次事變ニ於ケル部隊ノ編成、素質及戰場ノ諸相ヨリ考フルニ「且敎ヘ且戰フ」ハ最モ必要トスル

所ニシテ之ニ依リテ將兵ヲシテ常ニ軍紀ヲ嚴正ニシ志氣ヲ振起シ團結ヲ強化シ戰力ヲ發揮スルコトヲ得ヘシ特ニ戰場ノ機微ノ間ニ實施セル精神敎育ハ深キ感銘ヲ與ヘ發奮興起ノ基トナルハ想像外ニシテ平時ニ於テ見ラレサル所ナリ而シテ戰地ニ於テ最モ困難トスルハ資料ノ乏シキニアリ特ニ現下軍隊下級幹部ノ精神敎育能力ニ鑑ミ之カ資料ヲ作製配布スルノ著意ヲ必要トス

又戰地ニ於ケル起居ハ不規則ニ亙リ易キヲ以テ機會ヲ求メテ軍紀訓練ヲ實施スルハ價値大ナルモノアルヘシ

尙從來犯行者取調ノ結果ニ徵スルニ陸軍刑法、同懲罰令ニ關スル必要事項ノ敎育不十分ナルタメ不知ノ間ニ犯罪非行ヲナセルモノ尠カラサルヲ以テ苟モ此等敎育ノ不徹底ニ基キ勳功アル部下ヲシテ犯罪者タルノ汚名ヲ蒙ラシムルコトナキヲ要ス

五　事變地ニ於テハ特ニ環境ヲ整理シ慰安施設ニ關シ周到ナル考慮ヲ拂ヒ殺伐ナル感情及劣情ヲ緩和抑制スルコトニ留意スルヲ要ス

環境カ軍人ノ心理延イテハ軍紀ノ振作ニ影響アルハ贅言ヲ要セサル所ナリ故ニ兵營(宿舍)ニ於ケル起居ノ設備ヲ適切ニシ慰安ノ諸施設ニ留意スルヲ必要トス特ニ性的慰安所ヨリ受クル兵ノ精神的影響ハ最モ率直深刻ニシテ之カ指導監督ノ適否ハ志氣ノ振興、軍紀ノ維持、犯罪及性病ノ豫防

等ニ影響スル所大ナルヲ思ハサルヘカラス

第三、其ノ他

一、在郷軍人ニ對スル教育指導ニ就テ

今次事變勃發後二ケ年間ニ發生セル在支全軍ノ犯罪ヲ役種別ニ就テ調査スルニ

豫備役　四六三
後備役　六一四　一、三六二
補充兵役　二八五

現役　三一二

ニシテ應召者ニ極メテ多ク又應召者ノ犯セシ罪質ハ軍成立ノ根元ニ觸ルル對上官犯或ハ聖戰完遂ヲ妨害スヘキ掠奪、強盜、強姦等極メテ惡質ナルモノ多發シアリ此ニ依リテ觀ルモ軍紀振作上在鄉軍人ノ敎育指導ニハ格別ナル配慮ヲ要スルモノト思料セラル

二、事變地在留邦人ノ取締指導ニ就テ

部隊ノ駐留、移動ヲ問ハス最モ關係深キハ邦人居留民ナルヘシ過去ノ事例ニ依リ之ヲ觀察スルニ

特ニ作戰部隊ニ跟隨移動スル邦人ノ中ニハ不良性ヲ帶ヒ部隊ノ軍紀ヲ紊シ宣撫工作ヲ害スルモノアルヲ以テ之カ取締ヲ適切ニシ累ヲ軍隊ニ及ホササルコトニ著意スルヲ要ス

結　言

軍紀振作ノ爲ニハ以上述フルカ如ク各般ノ事項ニ亙リ著意スルヲ要スルモ軍紀振作ノ要ハ軍紀ノ源泉タル將校先ツ自ラ武德ヲ涵養シ統率指揮ヲ嚴正ニスルト共ニ敎育指導ヲ適切ニシ部下ノ服從觀念ヲ透徹セシメ且信賞必罰ヲ勵行シ身ヲ以テ之カ振作ヲ圖ルニ在リ特ニ軍紀ノ根本ニ牴觸シ自由主義思想ニ胚胎セル下剋上的對上官ノ軍紀犯竝ニ皇軍ノ本質ニ背馳スル掠奪、强姦等ノ惡質犯多發セルハ國軍ノ爲誠ニ痛嘆ニ堪ヘサル所ニシテ宜シク其ノ因テ來ル所ヲ究メ拔本塞源的芟除策ヲ講シ軍紀ヲ確立シ以テ益々皇軍ノ眞價ヲ發揚スルヲ要ス

［中略］

敎育能力ノ不十分竝ニ下級者ノ軍紀ニ對スル觀念ノ缺如ニ基因スル所大ナリト思料セラル尙幹部ノ軍紀振作ニ關スル監督指導的確ヲ缺キ事犯生起スルモ表面ヲ糊塗シ斷乎タル處分ノ實施ヲ躊躇シ爲ニ逐次重大事犯ヲ累加セシメアルモノ少カラサルコト竝ニ飮酒カ犯行直接ノ動機トナレルモノ多キコトハ敎育指導上特ニ注意ヲ要スル所ナリ

本事犯ハ軍隊存立ノ根本ヲ破壞スル虞アルモノナルヲ以テ深ク其ノ原因ヲ究メ徹底セル對策ヲ講シ之ヲ警防スルト共ニ一度事犯生起セハ斷乎タル處置ニ出テ以テ軍紀ヲ確立スルヲ要ス

二、掠奪、强姦、賭博等ニ就テ

支那事變勃發ヨリ昭和十四年末ニ至ル間ニ軍法會議ニ於テ處刑セラレシ者ハ掠奪、同强姦致死傷四二〇、强姦、同致死傷三一二、賭博四九四ニ達シアリ其ノ他支那人ニ對スル暴行、放火慘殺等ノ所爲亦散見スル所ナリ

抑〻此種事犯ハ皇軍ノ本質ニ戻ル惡質犯ニシテ軍紀ヲ紊ルノミナラス事變地民衆ノ抗日意識ヲ煽リ治安工作ヲ妨ケ支那側及第三國ノ宣傳資料ニ利用セラレテ皇軍ノ聲價ヲ傷ケ延イテハ對外政策ニモ不利ナル影響ヲ及ホシ聖戰目的ノ遂行ヲ阻害スル等其ノ弊害誠ニ大ナルモノアリ宜シク軍隊幹部ニ於テ部下ノ敎育指導ヲ適切ニシ特ニ今次聖戰ノ目的ヲ一兵ニ至ルマテ徹底セシメ其ノ行動

ヲ之ニ即應セシムルト共ニ慰安其ノ他ノ諸施設ヲ強化スル等各種ノ手段ヲ講シ以テ此種犯行ヲ防遏シ皇軍ノ眞價ヲ發揚スルヲ要ス

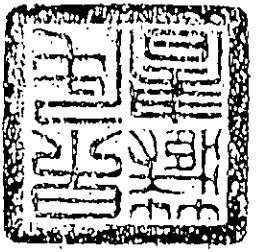
三、經理上ノ非違行爲ニ就テ

經理上ノ非違行爲ノ防遏ニ就テハ各種ノ機會ニ於テ上司ヨリ屢〻注意ヲ喚起セラレタル所ナルモ事犯ハ依然トシテ續出シアリ

而シテ往々其ノ手段極メテ巧妙ニシテ尋常ノ手段ヲ以テハ之カ警防容易ナラサルモノアルコト、甚シキハ巧妙ナル方法ニ依リ賄賂ヲ要求セルカ如キモノアルコト、非行者ノ大部ハ遊興ニ耽リ而モ長期間ニ亙リ犯行ヲ繼續セルモノ多キコト竝ニ事變ニ當リ軍關係業務ニ從事スルニ至レル軍屬等ニ在リテハ地力ノ風習ヨリ推斷シテ此種非違行爲ニ對スル是非ノ觀念透徹セサルモノアルコト等ハ監督指導上留意ヲ要スル所ナリ

民間業者中ニハ各種ノ老獪ナル術策ヲ以テ軍關係者ニ接近シ不正手段ニ依リ利益ヲ壟斷セントスルモノヲ生シ易キ社會ノ實相ニ鑑ミ本事犯ノ防遏ニ就テハ特ニ深甚ナル配慮ヲ必要トス

［以下略］





A

戰場ニ於ケル特殊現象ト其対策

（戰場心理ノ研究各論）

早尾史料経歴書

本史料は早尾史料（昭和三十六年度寄贈史料及領書参照）の一つである。

早尾史料は、昭和三十六年十月二十五日戦史室編さん官長尾正夫（一等陸佐）を介し、早尾席雄氏（元軍医大尉、金沢医大出、現家裁高松（米軍）精神鑑定医新宿区下落合一の四一五）より、戦史室に寄贈されたものである。

氏は精神病理学の研究家で、本史料は同氏の上海事変従軍内、戦場心理の実態を研究せるものである。

昭和三十六年十月二十五日

戦史室長　西浦　進

編さん官　長尾正夫

支那事変従軍中提出セル論文

（自昭和十三年十月至同十四年十月）

一、戦場心理ノ研究（総論）
二、戦場ニ於ケル特殊現象ト其対策（右各論）
三、戦場ニ於ケル神経病並精神病（総論）
四、　〃　（各論）
五、戦場ニ於ケル自殺全因ニ就テ
六、中支ニアリシ支那人精神病院ニ於ケル調査書
七、戦場ニ於ケル犯罪就テ（総論）
八、　〃　（各論）
九、戦場ニ於ケル精神鑑定例

（軍医部依嘱）

（軍法務部依嘱）

戦場ニ於ケル特異現象ト其ノ対策

緒言

日支事変ニ應召シ戦場生活ヲ体験ナス時ニ戦場生活ハ出征将士ノ精神ニ向ツテ日常生活ニテハ到底経験ナシ得又様々ノ刺激ヤ衝動ガ加ヘラレ其等ガ度重ナルト共ニ遂ニ特異ナル現象ヲ精神ニ示ス事ナルヲ知ツタ即チ是等ノ現象ガ神経病精神病ノ症候ノ中ニ織リ込マレルデアル

是等ノ事実ハ既ニ欧洲大戦ニアリテ知ラレタルモノナルガ故ニ敢テ珍トナスニ足ラヌカモ知レナイ然シ私ハ戦場デ自ラ経験シテ其ノ事実ヲ確認シ得タノト共ニ欧洲大戦時ニハ[illegible]ナカツタ現象モ存在スルコトヲ知ルデ此處ニ稿ヲ起スコトヽナツタ

戦場生活ニワサハシキ現象ヲ示ス期間ハ誠ニ短ク速カニ是

ヲ記載シ或ハ撮影シ置カザル時ハ患者ガ戦線カラ後送セラルヽニ随ヒ其ノ収容ハ漸次消滅シ終ニ姿ヲ没スルニ至ルカラ収地ニ着イタ患者ニ再ビ是ヲ求メ様トシテモ不可能デアル。戦地病院デサヘモ其ノ最後方兵站病院ヘ達シタ頃ニハ餘程其ノ収容ニ変化ガアル

故ニ私ハ戦場ノ主要病院ニハ必ズ一人ノ専門軍医ヲ配属セシメ病床日誌ノ記載ニ備ヘテ置カネバナラヌト主張シタ是ニヨツテ収地ノミニアリ実戦ニ参加ナキ軍医ノ感ジスル不便ヲ除ノデアル此ノ主張ハ漸次実施セラレタ戦地唯一ノ精神病床ハ上海陸軍病院収ニアル是ハ昭和十三年十月カラ開設セラレタ従ツテ専門ノ専任軍医ガアル其他ハ幸ニ専門家ハ居ラヌトシテモ病床ヲ持ツテ居ラズ他科ノ病室ノ一部ヲ借リ居ルニ過ギナイ、然シ上海以外ノ主要病院ニハ専門家ノ配属セラレヌモノガ未ダ多数ニアル 反之患者輸送班ノ如キモノニ却

ツテ専門家ガ配属サレア居ル始末デアル或ハ隊附トシテ存在シ是ヲ他ニ改特配属セシムルコトノ困難ガアルト言ハレル此ノ為メニ未ダ曰ク記載ノ改善ハ十分ナリトハ言ヒ難イ幸ニ改地ノ患者集合地タル広島、大及、小倉等ノ陸軍病院ニハ此較的早クカラ専門家ノ配属ガアッタノデ曰ク記ノ改善ハ概ネヨク整ッタガ此度ニ於テハ最早戦場デ目撃スル生々シイ特異ナ現象ハ既ニ求メ難イノデアル

余ハ左ニ戦場デ其ノ等ニアタリ経験シタ事柄ニ就イテ全ク遠慮ナク記述シ同好ノ士ノ為メニ参考ニ供ヘタイト思フ若シ多少ナリトモ戦場生活ノ真ノ姿ヲ傳ヘルコトガ出来タナラバ誠ニ幸デアル

昭和十四年六月脱稿ヲ終ル

於國府台陸軍病院附
陸軍軍医中尉
金沢医科大学教授 宇尾所

三

戦場生活ニ關係アル特異事項

戦場デハ内地ニテ到底経験ノ出来ヌ色々ノ事柄ガ生活ノ中ヘ織リ込マレサ是ニヨツテ身心ガ支配セラレ是ヲ刺激スルコトガ甚大デアル次ニ述ベントスルモノヽ内容ハ悉ク是等ガ刺激トナリ人々ノ生来性素因ガ是ニ反應シテ病的徴候ヲ示スニ至ル事実ヲ逐次記述スルノガ目的デアル即チ特異事項トハ左ノ如キモノデアル

一、燈火管制
二、細菌戦
三、毒物投入及注入
四、毒瓦斯
五、爆撃

七、敵襲

六、便衣隊ト正規兵

七、人徴発ト掠奪

八、防諜ト「スパイ」

九、上官命令違ト抗命

十、詐病

十一、懐郷心

十二、戦病ト戦傷

十三、戦争恐怖ト陣中逃亡

十四、軍紀ト憲兵ノ活躍

十五、後送ト内地帰還

十六、飲酒ト傷害

十七、性慾ト強姦

十八、戦争ト虚偽症

十九、戦争ト妄想幻覚

〔中略〕

四

二十四 戦争ト予期願望

二十五 戦争ト迷信

二十二 戦争ト希死

十七、性慾ト強姦

出征者ニ対シテ性慾ヲ長ク抑制セシメルコトハ自然ニ支那婦人ニ対シテ暴行スルコトヽナロウト兵站ハ気ヲヤカセ中支ニモ早速ニ慰安所ヲ開設シタ其ノ主要ナル目的ハ性ノ満足ニヨリ将兵ノ気分ヲ和ゲ皇軍ノ威厳ヲ傷ケル強姦ヲ防グノニアツタ

慰安所ノ急設ハ確カニ其ノ目的ノ一部ハ達セラレタ然シアノ多数ノ将兵ニ対シテ慰安所ノ女ノ数ハ問題ニナラヌ上海ヤ南京ナドニハ慰安所以外ニ其ノ道ハ開ケテルカラ慰安所ノ不足シタ地方ヘ或ハ前線ヘト送リ出サレルノデアツタガソレデモ地方的ニハ強姦ノ数ハ相当ニアリ亦前線ニモ是ヲ多ク見ル是ハ尚女ノ供給ノ不足シテルコトニ因ルハ勿論ノコトダガヤハリ留学生ガ西洋女ニ興味持ツト同様デ支那女トイフ所ニ好奇心ガ湧クト共ニ内地デハ到底許サレヌコトガ敵ノ女ダカラ自由ニナルトイフ考ガ非常ニ働イテ居ルタメニ支那娘ヲ見タラ憑カレタ様ニヒヤツケラレテ行ク従ツテ検挙サレタ

者コソ不幸ナンテ蔭ニハドレ程アルカ解ラヌト思フ
憲兵ノ活躍ノナカツタ頃デ而モ支那兵ニヨリ荒サレズ殆ンド抵抗モ
ナク日本兵ノ通過ニマカセタ市町村アタリハ支那人モ逃ゲズニ多ク居
ツタカラ相当ニ被害ガアツタトイフ加之部隊長ハ兵ノ元気ヲツクルニ
却ツテ必要トシ見テ知ラヌ振リニ過シタノサヘアツタ位デアル
然ルガ故ニ支那土民ハ日本兵ヲ見ルト娘ハ何處カヘ隠サレテヰウ
上海ニ残留シタ日本人ハ支那人、西洋人ノ前ニ日本ノ軍人ハ非常ニ
礼節ヲ重ンズルカラ支那婦人ヲ冒スナンテ事ハ断シテナイト予メ
吹聴シタモノダツタ　然ルニ事実ハ是ニ相違シタノデ支那良民ノ日
本兵ヲ怖ルヽコト甚シク若イ女ハ悉ク隠サレテ影モナイ様ニナツタ
ト言ハレル
然ルニ南京ノ避難民辺カラハ糊口ノ道ヲ得ルタメニ昔ノ夜鷹ノ
如クニ若キ支那婦人ガ枕ニナルモノ下敷ニナスモノダケヲ携エテ昼夜兵ノ宿
舎ニアラハルヽ様ニナツタノデ風儀ノ紊サレタ事モアツタ

コウナルト憲兵ノ方モ強姦カ和姦カノ区別ヲ考ヘネバナラナクナリ
若シ其ノ場所ニ敷物代用品ガアツタリ支那婦人ガ日本貨ヲ持ツテ
居ツタ事実ガ認メラレタラ和姦トシテ取リ扱ツテ見ル様ニナリ強姦ノ
数ハ実際ヨリハ少クナツタトイフ、敵國人トイフ感ノ働クタメニ無償ニテ
行ヒ要求サレタ時ニ是ヲ追ヒ払ツタリスル為メニ自治委員会カラノ
告訴ニ会ツテ恥ツカシ例モ少クナイノデアル
勝利者ナルガ故ニ金銀財宝ハ言フニ及バス敵国婦女子ノ身体迄
汚ストハ誠ニ文明人ノナスベキ行為トハ考ヘラレナイ東洋ノ礼節ノ
国ヲ誇ル国民トシテ断愧ニタヘヌ事デアル昔和倭ハ上海ニ上陸
シ南京ニ至ル迄此ノ様ナ暴挙ニ出タ為メニ非常ニ野蠻人トシ
テ卑メラレ嫌ハレタトイフガ今ニ於テモ尚同ジ事ガ繰リ返サルヽハ何
トシタ恥辱デアロウ　憲兵ノ活躍ハ是ヲ一掃シ皇軍ノ名誉
恢復ニ努力シツヽアルコトハ感謝ニタヘヌ
次ニ強姦事件ノ実例ヲ列挙スル

(一)

成ル兵ハ兵站病院ヲ退院帰営ノ途次飲酒酩酊ノ上
所属隊宿舎ノ附近ノ支那家屋ヘ侵入シ同家二階ニ居合セタ支
那婦女（当三十才）ヲ強姦シタ

(二)

（A、B）二人兵ハ他ノ一人（C）ヲ誘ヒテ外出シタ A ハ支那婦人（当三十年）ヲ見ル
ト劣情ヲ起シ強姦ヲ志シ C ヲシテ同女ヲ附近ノ空家ヘ連レ行カシ
メCヲシテ所携ノ小銃ヲ発射セシメ更ニ着剣ノ上剣先ヲ同女
ニ突付ケテ脅迫セシメ同女ガ恐怖スルヲ見ルト附近ノ民家内ヘ
引キ入レ強姦シタ B ハ A ノ目的ヲ達シタノヲ知ルト A ノ立チ出タ
後ヘ入リ込ンデ同女ヲ強姦シタ

(三)

成ル兵ハ成ル支那民家ヘ立チ寄ルト同家ノ娘（当十六年）ガ兵
ヲ見テ怖レ逃ゲ去ラウトスルト是ノ捕ヘテ強姦シタバカリデナク
翌日モ到ツテ再ビ強姦シタ

(四)

成ル兵ハ飲酒酩酊ノ上無断外出シ支那婦人某（当四十年）
方（侵入シ所携ノ軍刀ヲ引キ抜イテ脅迫シテ上強姦シタ

(五)

或ル兵ハ加給ノ酒ニ酔ヒ戦友ト共ニ外出シ支那婦人某(当四十二年)ヲ認メ是ヲ姦淫セント思ヒ同家内ニ侵入シテ同女ニ性交ヲ要求シタ、同女ハ日本兵ヲ怖レテ抵抗ノ出来ナイノニ乗ジテ姦淫シタ、

(六)

或ル兵ハ支那酒ニ酔ヒツヽ支那店ニ立ケ寄リ焼鳥ヲ食スル時其ノ傍ニ居タ支那少女(当六年)ヲ見ルト同女ガ十三才未満ノ少女デアルコトヲ認識シナガラ姦淫セント思ヒ同女ヲ抱キナガラ室内ヘ入リ同女ノ父ニ銃剣ヲツキツケ退去ヲ命ジ置キ同女ヲ姦淫セントセシモ少女ノ為メ目的ヲ達シ兼ネ指頭ヲ以テ押シ関ガントシテ負傷セシメタリ

(七)

或ル兵ハ武装街頭ニ出デ支那民家ノ表戸ヲ蹴外シ家内ヘ侵入シ隠レテ居タ支那女(当十六年)ヲ発見シ同女ニ銃口ヲ差向ケ脅迫ノ上姦淫シタ 次ニ同女ヲ宿舎ヘ連レ行キ帰宅スレバ殺スゾト脅迫シテ不法監禁ヲシタ 其ノ間無抵抗ナノニ乗ジテ姦淫シタ

(八)

其ノ翌々日同女ノ宅ヘ侵入シ怖レ隠レ居ルヲ発見シ強姦シタ

或ル兵ハ戦友二人ト共ニ支那酒ヤ「ビール」ヲ飲ンダ上支那婦人ヲ探シ求メタ上輪姦シタ、

(九)

或ル兵ハ歯科治療ニ行ツタ帰途ニ「ビール」ヲ飲ミ醉ニ乗ジ支那家屋ヘ「ワク」シテ入ツタ、男ガ茶ヲ出シテクレタ、外ニ話声ガスルノデ着剣デ警戒ニ出コウトスル時ニ辷ツタ其折リニ支那女ニ触レタカモ知レヌト話シタガ是ハ偽リデ強姦未遂デアツタ、

(十)

或ル兵ハ街上ノ支那家屋ヘ入ルト母親ト娘トガ居タ娘ヘ要求ヲスルト承知シタ母親ハ是ヲ見テ出テ行ツタノデ其ノ娘ヲ姦淫セントシ、タガ発育シテ居ラナクテ出来ナカツタ、(娘ハ十才位)其ノマヽ帰ツタ娘ヘ隊ヘ来レバ残飯ヲヤルカラト隊名ヲ書キ置イタニトカラ憲兵ニ捕ヘラレタ

以上ノ述ヘタ様ナ例ハ尚沢山ニ挙ゲル事ガ出来ル強姦ヲヤツテモ

六

容易ニ発覚シナイダロウト考ヘルコトハ大変ナ誤デコンナニ知レ易イ事柄ハナイノデアルト話務部当局ハ兵達ヲ戒メテ居ツタガ全ク其ノ通リデアル

畢ノ軍人ハ何故ニ此ノ様ニ性慾ノ上ニ理性ガ保テナイカト私ハ大陸上陸ト共ニ直チニ痛感シ戦場生活一ケ年ヲ通シテ終始痛感シタ、然シ軍当局ハ敢テ是ヲ不思議トセズ更ニ此方面ニ対スル訓戒ハ耳ニシタ事ガナイ而モ軍経営ノ慰安所ヲ旺ンニ設ケ軍人ノ為メニ賤業婦ヲ提供シタノミナラズ娼婦カラ性病ヲ軍人間ニ蔓延セシメタノミナラズ遂ニ其レノミヲ収容スル兵站病院ヲ作ル必要ヲ生ジタ程性病ノアル間ハ帰還ヲ停止シタ兵ニノミカク厳ニシナガラ将校間ニ却テ性病多カリタ若イ将校ドコロカ上長官ノ間ニ患者ハアリ軍医ニ秘密治療ヲ受ケテ居ル性病ヲ支那人カラ得タ様ニ慰安所ヲ設ケ四地、四野人ヲ娼妓トシテ使用シナガラ皮肉ニモ彼女等ガ性病ヲ恐ゲタ

軍当局ハ軍人ノ性慾ハ抑ヘル事ハ不可能タトシテ支那婦人ヲ強姦セヌ様ニト慰安所ヲ設ケタ 然シ強姦ハ甚ダ旺ンニ行ハレテ支那良民ハ日本軍人ヲ見レバ必ズ是ヲ怖レタ

将校ハ率先シテ慰安所ヘ行キ兵ニモ是ヲスヽメ慰安所ハ公用ト定メラレタ 心アル兵ハ慰安所ノ内容ヲ知ツテ軍当局ヲ冷笑シテ居ツタ位デアル 然ルニ慰安所ヘ行ケヌ位ノ兵ハ気違ダト罵ツタ将校モアツタ

要之戦場生活ハ殺風景ダカラ気ガ荒クナル 是ヲ抑ヘル為メニハ兵ニ女ヲ抱カセルヨリ善イ策ハナイトシタノハ尤モデアル

然シ日本軍人ガ戦争ニ来テ大キナ顔ヲシテ慰安所ヘ暇サヘアレバ通フ姿ヲ見テ支那人ハ笑ツテ居ツタ

上海上陸シタ其ノ日ニ何處ヘ行ツタラ女ガ買ヘルカト在留日本人ニ聞クト言フノデ日本ノ兵隊サンハ戦争ニ来タノヂアナイノカト反問シテルノヲ聞イタ

七七

上海デモ南京デモ日本服姿ノ婦人ヲ見ルト ゲラ〳〵笑ツテ取ヂモ
知ラズニ揶揄スルソレガ家庭婦人タルト賣笑婦タルト区別ガナイ
慰問ニ来タ女学生ヤ婦人ニ向ツテモ平気デ無作法ナ動作ヲシ
言葉ヲ掛ケル ドウシテ軍人ハ此ノ様ニ性慾ニカツエテ居リ亦甚ノ
抑制ガナイカト思ハレル、海軍ニ人ハ決シテ此ノ様ナ風ヲ見セナイノ
ハ海軍ニ人ノ平常ノ教育ガ宜シイ為メト考ヘラレル、
此ノ様ニ陸軍ニ人ハ性慾ノ奴隷ノ如クニ戦場ヲ荒シテ居ルノデア
ルカラ強姦ノ頻発モ亦止ムヲ得ヌコト、思ハレタ
宣撫班ニ一方ニハ大キナ成果ヲ挙ゲツヽ一方カラ是ヲ破壊スル
様ナ破簾痴ナ行為ガ行ハレテル 即強姦ト金品ノ脅過ト
デアル、是ハ其ノ職ヲ利用スル無頼ノ徒ガ通譯トシテ入リ込
ンデ居ルカラデアル、此ノ様ナ不徳行為ノタメニ大切ナ宣撫事
業ガ妨碍サレル事一方ナラズト私ハ話シ聞カサレタ、

陸軍

「以下略」

極秘
無形戰力軍紀風紀關係資料第五號

支那事變ニ於ケル軍紀風紀ノ見地ヨリ觀察セル性病ニ就テ

昭和十五年十月
大本營陸軍部研究班

性病患者職業別、教育程度、感染地、相手女調査表

性病患者職業別表

職業別	患者數
農漁業	四、六〇五
商業	三、一四八
職人	三〇二七
工業	一、二九四
官吏	一、〇七七
公吏	四二九
技術官	八五五
教育者	一二六
軍人	三六
其ノ他	八八八
計	一五、四八五

備考
一、下層階級ニ多キハ注意ヲ要ス

性病患者教育程度表

學別	患者數
尋中退	一二
尋卒	三、〇一五
高小中退	一一七
高卒	五八八五
中學中退	一七四
中學卒	七六七
專門校退	九
專門卒	四二
大學中退	七
大學卒	二八
計	一〇〇五六

備考
一、高卒者ニ極メテ多キハ兵數ノ多キニ依ルベキモ一面從來ノ野卑ノ生活ニ基キ性慾ヲ制シ得ザルニアラザルカ

性病感染地別表

感染地	患者數
內地	一、五三四
朝鮮	二四
滿洲	一六四
北支	八六二八
中支	五九六五
計	一六三一五

備考
一、北支ノ八千六百餘名及中支ノ約六千名ハ注意ノ要アリ

相手女國籍表

國籍別	受病者數
日本女	二、四一八
朝鮮女	四、四〇三
支那女	三、〇五〇
國籍不明	公娼 二、八三七
	私娼 九一四
	不詳 一、一三三
計	一四、七五五

備考
一、朝鮮女ノ活躍ハ他ヲ壓倒シアリ將來愛ノ參考タリ得ベシ

サック」ノ効能

區分	受感數
「サック」ヲ使用	一四〇
「サック」ヲ使用セズ	三七
再愛	一五
計	一九二

備考
一、本表ハ蘇州病院ニ於テ僅カ一九二名ノ患者ニ就テ調査シタルモノニシテ本表ニ信賴シ得ザルモ參考トスルニ足ル
二、本表ニ依レバ平時態長ナル場合ハ兎モ角兵馬倥傯ノ間ニ在リテハ効果少キヲ知ル

昭和十四年八月第二旬 衛生旬報

南支派遣軍軍醫部

0592

[前略]

者(共二)發生セルヲ以テ同隊爾檢索實施ニ關シ
別紙第二ノ如ク南支那防疫給水部長ニ指示ス
ハ十四日總衛甲第五三號ニ基ク支那事變歸還人
員「マラリア」原蟲保有者同疑似要治療者ニ關ス
ル件當軍七月末日迄ニ係ル事實ヲ別紙第三ノ
如ク野戰衛生長官ニ報告ス
ハ十六日花柳病豫防ノ徹底ヲ期スヘク南支參通
丁第一ロ三號(別紙第四)ニ依リ軍慰安所以外ノ
接客業者取締ニ關シ憲兵隊並總領事館ニ通牒
スルト共ニ別紙第五ノ如ク市内邦人接客業者

0593

[中略]

ニ對スル健康診斷並檢徴要領ヲ規定シ之カ實施ヲ廣東博愛會ヲシテ擔當セシムル之ト共ニ本通牒ノ要旨ヲ別紙第六ノ如ク抜粋シ隷下一般ニ通報シ軍内一般ニ一層ノ注意ヲ喚起セシム

尚一方之カ主旨徹底ノ爲市内邦人接客業婦ヲ憲兵隊講堂ニ集メ佐藤軍部員ヨリ花柳病豫防ニ就キ憲兵隊將校ヨリ取締規定ニ就キ夫々講話ヲ行ハシメタリ

〃

先般南支防疫給水部ノ實施セル廣東市内ノ

別紙第四

南支参通丁第一〇三號

軍慰安所以外ノ接客業者取締ニ関スル件通牒

昭和十四年八月十三日　南支派遣軍参謀長土橋勇逸

首題ノ件ニ関シ別紙要領ニ依リ実施セラレ度依命通牒ス

6190

別紙

軍慰安所以外ノ接客業者取締要領

第一　軍慰安所以外ノ邦人接客業者ニ対スル取締
本取締ハ軍憲兵隊及日本総領事館之ヲ実施シ軍衛生機
関之ニ協力ス

一　健康診断及検黴ノ実施
イ　接客業婦（芸妓、酌婦、女給）ニ対シ毎月一回健康診断ヲ実
施酌婦ニ対シ毎週一回検黴ヲ実施ス
ロ　健康診断及検黴ハ所要ニ応シ衛生機関之ヲ援助ス

二　有疾者ノ処置
患者ハ一切接客ヲ禁止シ其実施ヲ厳ニ取締リ禁ヲ犯スモノアル
トキハ営業停止等厳重ニ処分スルコトアリ

三　豫防設備
枕席ヲ用意スル営業者ヲシテ心ス豫防設備ノ完備セシム

四　必要ト認ムルトキハ総領事館所管区域ニ対シ軍ニ於テ直

接接客業婦ノ健康状態及衛生施設ヲ檢査ス

五 女給ノ賣淫行爲ハ之ヲ禁止フルト共ニ之カ取締ヲ勵行シ禁ヲ犯スモノアルトキハ營業停止等嚴重ニ處分ス

六 報告 通報

一 總領事館ハ所管區域内ノ接客業婦ノ人名（藝名、本名共ニ）ハ移動ノ都度軍憲兵隊ニ軍憲兵隊ハ軍司令部及關係各部隊ニ報告通報ス

二 檢徴成績ハ檢査擔任者ヨリ別ニ定ムル所ニ依リ軍憲兵隊ニ軍憲兵隊ハ軍司令部及關係各部隊ニ報告通報ス

三 總領事館ハ所管區域内ノ女給取締状況ヲ毎月一回軍憲兵隊ニ軍憲兵隊ハ軍司令部及關係各部隊ニ定期報告ス

四 軍ニ於テノ實施セル檢査ノ所見ハ關係機關ニ通報ス

第二 軍特殊慰安所以外ノ支那接客業者ニ對スル取締

本取締ニ關シ軍特務機關ハ支那側諸機關ヲ指導シテ之カ實行ヲ容易ナラシメ軍憲兵隊ハ支那側諸機關及日本人ノ實行ヲ取締ルモノトス

一、軍特殊慰安所從業婦以外ノ支那娼婦ハ之ヲ軍隊宿営地ヨリ遠隔セル地點ニ於テ一地者ハ數地ニ集結シ公娼トシテ適宜ノ方法ニ依リ定期検徴ヲ実スル如ク指導ス

軍人軍屬ノ右地域出入ヲ許サス

二、日本人ノ蛋民船内等ニ出入シ水上接客業者ニ接スルコトヲ許サス

三、前二項ノ取締状況ハ毎月一回軍憲兵隊ヨリ軍司令部ニ定期報告スルモノトス

以上ハ主トシテ廣東市内及其附近ノ接客業者ニ対スル取締ナルモ各兵團(隊)ハ本締要領ニ基キ自己警備区内ノ飲食店カフエー等ヲ取締リ毎月一回其状況ヲ軍司令部ニ定期報告ス

2290

別紙第五
南支醫第八四五號

市内接客業者健康診斷ノ
実施ニ関スル件通牒

昭和十四年八月十六日　南支派遣軍軍醫部長

廣東博愛會醫院長殿

別紙南支參通丁第一〇三號第一ノ二基ク
廣東市内邦人接客業者ニ對スル健康診斷及
檢黴ハ自今左記ノ要領ニ依リ貴院ニテ之カ実施
ヲ担當相成度

左記

一、健康診斷ハ毎月一回檢黴ハ毎週一回実施ス

ルモノトス

二、健康診断ニ慢性傳染病ノ早期發見ニ重点ヲ指向シ尿檢査要スレハ喀痰檢査又血液檢檢黴毒反應ノ實施スルモノトス

三、有疾者ハ努メテ之ヲ收容入院治療トスルモノトス

四、檢査成績ハ別紙様式ニ依リ週末統合ノ上本職又軍憲兵隊領事館ニ提出スルモノトス檢査所見ト取締等ニ関スル参考意見アラバ附記スルモノトス

五、檢査醫官ノ氏名檢査實施日割ハ本職宛豫メ通報スヘシ

六、実施ノ細部ニ関シテハ直接憲兵隊領事館警察ト連絡協定スルモノトス

追而実施ニ関シ勤務方收容力等ニツキ意見アラハ速ニ申出ラレ度申添フ

別紙第六

通報

昭和十四年八月十七日
於廣東

一、軍ハ最近軍慰安所以外ノ接客業者取締ニ関スル事項ヲ定メ南支参通第一〇二號関係各部隊ニ通牒セリ其ノ中直接軍人軍屬ニ関スル事項左ノ如シ

イ、女給ノ賣淫行爲ハ之ヲ禁止スルト共ニ之カ取締ヲ励行シ禁ヲ犯スモノアルトキハ営業禁止等厳重ニ処分ス

ロ、軍特種慰安所従業婦以外ノ支那娼婦ハ之ヲ其ノ區域内ニ集結シ軍人軍屬ノ之等ニ接スルヲ厳禁ス就中避民船等ニ出入シ水上接客

0625

業婦ニ接スルコトハ危険ヲ伴フヲ以テ日本人全般ニ對シ之ヲ嚴禁ス

右ハ單ニ皇軍人軍當ノ花柳病豫防ノ實績ヲ向上セシムル爲メ引イテ戰力ノ低下ヲ防止セントスル意圖ナルヲ以テ各部隊ハ右ノ規則ヲ嚴守セシムルト共ニ花柳病豫防方法ノ實行ヲ必ス嚴守セシムル如ク指導シ而シテ相俟ツテ日下軍ノ最モ恥辱トスル花柳病ノ多發ヲ防止スルノミナラス更ニ之カ撲滅ノ期シ度ヲ以テ以上ノ主旨ヲ具現スル如ク各隊ニ於テ特ニ御勞力相成度

別紙第七

南支醫第八六六號

市内飲食店衛生巡視ニ關スル件通牒

昭和十四年八月五日　南支派遣軍陸軍部長

今般市内飲食店ニ對シ軍ニ於テ衛生巡察ヲ實施シタル成績左記ノ如ク付關係者ヲシテ之カ指導監督ニ努メシメ以テ軍自衛ニ協力方配慮相成度

追テ別紙附表中ハヲ附シタルハ將來指導上持留意スヘキモノト被存ニ付可然訓諭方相成度

左記

市内飲食店衛生巡察ノ件

八月二日中央憲兵分隊長望月少佐ノ協力ノ下ニ同中部陸防疫作候班一班檢疫班四ヲ以テ實施シタル衛生巡察ノ概要左ノ如シ

秘

昭和十五年四月（第七號。通卷第十七號）

呂集團特務部月報

呂集團特務部

送附先

陸軍次官	一	廣東特務機關長 一
參謀次長	一	上海特務機關長 一
支那派遣軍總參謀長	一	蚌埠特務機關長 一
興亞院總務長官	一	武昌警備隊長 一
興亞院華中連絡部長官	一	漢陽警備隊長 一
武漢警備司令官	一	町尻部隊本部宣務部 一
美座憲兵隊長	一	武昌分室 一
松田兵站司令官	一	漢陽分室 一
檜垣碇泊場司令官	一	九江特務機關長 一
漢口海軍特務部長	一	南昌特務班長 一
漢口軍報道部長	一	呂特上海連絡所 一
在漢口總領事	一	各縣政府內面指導官 各一
南京特務機關長	一	各縣政務指導內面指導官 各一
蘇浙皖綏靖軍總司令部顧問部部長		

呂集團特務部月報（四月分）

目次

武漢

司法

1 武漢司法部ヲ武漢司法委員會ト改稱ス
2 武漢司法部法院組織法ノ廢止
3 司法訓練所畢業人員任用辨法ノ制定
4 司法官資格審查委員會
5 武漢司法工作報告冊ノ刊行
6 司法訓練所狀況
7 武漢司法委員會所屬各機關四月分受理件數並ニ人員

治安・警務

1 治安狀況

2 難民狀況
3 娼區ノ設定
4 司法及逃避罪

對民衆工作

1 難民救濟狀況
2 乘船許可證ノ發給
3 小本貸借狀況
4 罹災民ノ救濟
5 軍隊宿營地區內貧民ノ移轉完了
6 乞丐ノ收容
7 臨時自治公益會ノ成立
8 勞工登記及工會ノ成立
9 勞資爭議ノ調停
10 東亞運動大會參加狀況

衛生

1 コレラ豫防注射實施
2 春季種痘實施
3 武昌衛生事務所ノ設立
4 婦女檢疫所ノ設立
5 醫師、士、藥師、助產士、護士、藥劑生、牙醫ノ登記
6 診療班業務概況
7 防　疫
8 特殊營業戶數表

教育

1 市政一周年紀念祝賀大運動會
2 校舍增設準備
3 學校衛生
4 ラヂオノ設置

［中略］

地區	前月計	本月計	増	減	備考
漢口方面	四、五七〇	四、六二〇	五〇		
武昌方面	一七、五〇〇	一七、四八〇		二〇	
漢陽方面	五四、五四三	五五、三八一	七三八		漢陽ハ難民ノ區別ナシ

3 娼區ノ設定

漢口在住ノ娼婦ハ現在ノ登記人員二百數十名ニ過キサルモ、實數ハ優ニ三千名以上ニ達シアルモノト思料セラル。是等ハ市街ノ隨所ニ散在シ、風紀ヲ害スル一面又汎ク病毒ヲ傳播シ、延テハ皇軍ノ衛生上ニモ累ヲ及ホスヲ顧慮シ、統制、取締、衛生上ノ各見地ヨリ全市ニ二十箇所ノ娼區ヲ設定シ、六月末日迄ニ數區域ニ收容シ、妓女ノ登記、等級ノ區分ヲナシ衛生局ノ檢病施設ト相俟ツテ花柳界ノ改善ヲ圖ルコトトナレリ。而シテ武昌、漢陽方面モ逐次漢口ニ準スル方針ナリ。

4 司法及違警罪

本月中ニ於ケル武漢特別市政府警察廳及所屬各局署刑事並ニ違警罪
狀況次表ノ如シ

武漢特別市市政府警察廳及所屬各局署刑事每月比較表　自三月十六日至四月十五日

件名	四月件數	四月人數 男	四月人數 女	三月件數	三月人數 男	三月人數 女	增 件數	增 人數	減 件數	減 人數
賭博				一	一					
殺人	一	一		一	一					
搶奪	三	四		二	二		一	二		
強盜				一	四					
傷害致死	一	一								
傷害文書	八	七	一	一	四		七	四		
公共危險	四	九	二	一	一		三	一〇		
妨害公務	二	一〇	三	三	四			九	一	

[中略]

生員六名ヲ配シテ清潔保持ニ努ムルコトトセリ。

4 波女檢徵所ノ設立

波女檢徵所修繕工事ハ三月ヨリ開始シアリタル處四月上旬竣工シタルヲ以テ四月十六日正式設立ヲ了シ近ク檢徵實施ノ豫定ナリ。

5 醫師、士、藥師、助產士、護士、藥劑生、牙醫ノ登記

市政府衛生局ニ於テハ四月十日ヨリ武漢特別市區域內ニ於ケル醫師、士、藥師、助產士、護士、藥劑生、牙醫ノ登記ヲ行ヒ、以後無資格者ニ對シテハ嚴重取締ヲ行フコトトナレリ。

6 診療班業務概況

本月中取扱患者數次ノ如シ

外來
- 中國人 新患 一、五三一名
- 中國人 舊患 六、一〇八名
- 日本人 新患 三六六名
- 日本人 舊患 一、八六〇名

入院	中國人	二七二名
	日本人	六〇三名
コレラ豫防注射	中國人	二九五名
健康診斷	中國人	七名
	日本人	四三五名
檢徴		
明治小學校兒童體格檢査		四五〇名
接客業者及其使用中國人ノ健康診斷		一、九九五名

本月ニ入リ天然痘患者日本人間ニ發生セシ新患者十四名ヲ數ヘ何レモ民國隔離所ニ收容シテ其治療ニ當レリ。

又一方班員ヲ派シ、明治小學校或ハ三民路等ニ於テ衛生談話ヲ施行セシメ防疫智識ノ普及ニ力メタリ。

7 防疫

(1) 傳染病發生狀況

[中略]

シ當分檢閱ヲ窓兵隊ニ於テ行フ。四月二十日ヨリ末日迄ノ當郵局取扱ヒノモノ左記ノ如シ

	南昌出信	致	控	留
日本人	二九六	〃	一三三	〃
支那人	六六一	二五	二五八	四

5 樂戶（遊廓）公娼ノ施設

風紀衛生公安ノ維持ノタメ樂戶公娼ノ取締及營業稅徵收暫行規定ヲ設ケ特定地區第三市場附近ノ一廓ヲ限リ營業ヲ許可スルコトトセリ。現在許可シタルモノ三戶ニシテ暫行現定左記ノ如シ

南昌市政府籌備處ニ於ケル樂戶（遊廓）公娼ノ取締及營業稅徵收暫行規定

第一條　本處ハ娼妓ヲ取締リ社會ヲ改進センカタメ樂戶公娼藝妓ニ關スルモノ均シク本規定ニ依リ營業免許證ヲ發給シ營業セ

シム

第二條　樂戸開設ヲ希望スルモノハ本處醫務科ニ於テ登記ヲ申請シ免許證ヲ領得シタル後營業スルコトヲ得

第三條　樂戸開設者ハ左列ノ手續ヲナス

一、戸主、氏名、年齢、本籍、現住所
二、樂戸ノ屋號
三、樂戸ノ所在地
四、公娼ノ名數
五、樂戸ノ等級
六、保證人

第四條　樂戸ハ每月營業ヲ納メル以外免許證ヲ三ケ月毎ニ更換シ免許狀及手數料ハ左記三種ニ分ク

甲種ハ免許狀二圓、每月營業稅十七圓
乙種ハ免許狀一圓、每月營業稅十圓

丙種ハ免許税五十銭、毎月営業税七圓

第五條　各種楽戸ノ所有公娼ハ十名未満トス

第六條　楽戸ハ屋號規定左ノ如シ

甲種ハ〇〇「堂」ト稱シ

乙種ハ〇〇「班」ト稱シ

丙種ハ〇〇「店」ト稱ス

第七條　各種遊廓ハ本廳警務科ヨリ燈（硝子製）ヲ領得シ玄關ノ上ニ釣リテ識別ニ資ス（灯代三圓）

第八條　公娼ヲ希望スルモノハ左記ノ届出ヲ爲ス

一、姓名、年齢、本籍、現住所　二、本家ノ職業

三、親類ノ有無　四、公娼ニ希望スル理由

五、志願スル娼妓ノ種別　六、保證人

第九條　公娼ハ一、二、三、種ニ分ケ各種楽戸ニ於テ営業シ毎月営業税ヲ納メル以外免許證ヲ領有シ三ケ月毎ニ交換シ免許税及営業

ノ一回分ハ左ノ如シ

一種、免許税一回毎月営業税五回

二種、免許税八十銭毎月営業税四回

三種、免許税六十銭毎月営業税三回

第十條　娼妓トシテ免許申請ノ時ハ四寸半ノ寫眞二枚ヲ添付シテ一枚ハ警務科ニ保存シ一枚ハ免許證ニ貼付ス、又三ケ月毎ニ寫眞貼付交換申請ス

第十一條　藝妓ハ毎月営業税ヲ納メル以外免許証ハ六ケ月毎ニ更換シ営業税及免許税ハ左ノ如シ

免許税一回、毎月営業税三回

第十二條　各種娼妓ノ花代並ニ出局（宴會應召）金ハ左記ノ規定ヲ超過スルコトヲ得ス

一種ハ一晩十圓、二種ハ一晩八圓、三種ハ一晩六圓、出局一回一圓

第十三條　娼妓ノ公娼トシテ營業ヲ停止シ出嫁スル者アル時ハ免許證取消ヲ申請スルコト

第十四條　各種娼妓ハ毎週一回醫務所ニ赴キ檢査ヲ受ク、若シ疾病アル時ハ治療期間ニ於テハ營業ヲ停止スルコト

第十五條　出局娼妓ハ必ス局票ヲ携帶シ局票ハ一枚ニ付二十錢トシテ本處營務科ヨリ購入ス

第十六條　樂戸トシテ左列ノ一ヲ有スル時ハ本處ヨリ適當ニ處置ス

一、樂戸免許證ヲ故意ニ訂正セルモノ

二、收容者年齡十六才未滿又ハ十六才ノモノニシテモ發育健全ナラサルモノ

三、原配遺棄ヲ有シ娼妓生活ヲ後悔セルモノ

四、良家婦女ヲ誘致セシモノ

五、娼妓ノ人數ヲ隱瞞スルモノ

六、娼妓ノ出局ニ不要事ヲ記入シ又故意ニ訂正セシモノ

七、娼妓トシテ出稼セントスルモノヲ故意ニ留メタルモノ
八、其ノ他一切本規定ヲ違反セルモノ

第十七條　娼妓トシテ左列ノ一ツヲ有スル者ハ本廳ヨリ適當處罰ス
一、免許證ヲ故意ニ訂正セシモノ
二、出局票ニ記入セシ妓名、時日、場所カ符合セヌモノ
三、娼妓トシテ樂戸ニ入ラス私自ニ營業スルモノ
四、花柳病ヲ有シナカラ隱匿スルモノ
五、其ノ他一切規定ヲ違反スルモノ

第十八條　本規定ハ參事會ニ於テ隨時訂正スル事ヲ得

第十九條　本規定ハ公佈日ヨリ施行ス

6 阿片吸飲所ノ設置

戒煙留行辨法及施行細則ヲ制定シ吸飲所ヲ設置セリ。大体市内各要所ニ八ケ所ヲ許可スル豫定ナルモ現在許可セルモノハ二ケ所ナリ。

留行辨法及施行細則左記ノ如シ

[以下略]



昭和十六年二月

政務月報（三號）

遠藤兵團政務部

配布區分表

配布先	員數
波果團司令部	八
同　經理部	二
廣東陸軍特務機關	一
遠藤兵團司令部	三
〃　報道部	一
〃　憲兵隊	一
潮州警備隊	一
潮州政務班	一
石鼓警備隊	一

配布先	員數
澄菴警備隊	二
達濠〃	一
汕頭〃	一
汕頭碇泊司令部	一
汕頭駐在海軍武官府	一
在汕頭日本領事館	一
遠藤兵團政務部	(控)一
障中日誌	八
計	三六

[中略]

目次

第一章　一般狀況　一頁
第二章　一般政務並ニ產業經濟指導業務　六頁
第一項　一般政務　六頁
第二項　產業經濟指導業務　八頁
第三章　金融、通貨、貿易狀況　一二頁
第一項　經濟並ニ金融ノ一般狀況　一二頁
第二項　現地通貨ノ流通並ニ信用狀況並ニ爲替交換特別資金ノ狀況　一二頁
第三項　商品市場ノ狀況　一八頁
第四項　諸統計　二一頁
第五項　其他參考トナルベキ事項　二一六頁
第四章　行政機關指導狀況ト業績　二一七頁
第一項　汕頭市政府　二一七頁

【中略】

第四章　行政機關指導狀況ト業績

第一項　汕頭市政府

一、各局ノ業績

1、社會局

婦女補習班校開設ノ件

汕頭中國婦女會ノ婦女子ノ爲ニ實習女學校ヲ開設シ之カ開校式ヲ一日十時ヨリ同校ニ於テ盛大ニ擧行セリ

2、僑務局

A、本月中ニ於ケル出境者及入境者數次ノ如シ

出境者		入境者	
渡航先	員數	渡航先	員數
暹國	三五九	暹國	一一六
新嘉坡新	三八九	新嘉坡新	一一八
計	七四八	計	二三四

2、道路補修

最近ノ連續的降雨ノ爲メ警備道路ハ各所ニ破損ヲ生ジタルニヨリ修路夫ヲシテ補修工作ニ從事セシメ交通ノ安全ヲ期シタリ

第五項　澄海縣政府

一　治安ノ情況

澄海縣當面ノ敵ハ僞縣長李少如及游擊隊長洪之政ノ指揮スル十三ケ中隊兵力約千五百ニシテ訓練裝備共ニ不十分ナリ

敵ハ皇軍部隊ノ進擊ヲ恐レ韓江左岸ニ今尙堅固ナル陣地構築ヲ急キツツアルモ其行動益々退嬰化シ我カ勢力圏内ニ潛入セシヲ聞カズ治安ノ狀況良好ナルモ冠山鄉、蓮田鄉（南港江、北港江方面）以北ノ住民ハ人心尙モ惡ク敵地ヘ密輸ノ幇助ヲ行ヒアルモノノ如シ

又金剛圍蓮洲鄉、乾浦方面ハ便衣隊土匪ノ出沒ヲ見ル

二　民生關係

1、事變後ニ於ケル各區鄉人口ノ狀況ヲ明瞭ナラシメ又聯防組織

ノ育成ニ資センガ爲戸口調査ヲ二月二十日一齊ニ各區鄉所縣警察署ニ於テ調査ヲ開始セリ

尙調査完了ハ三月十日前後ノ見込ニシテ之カ調査ヲ終ツテ良民証ノ交附ヲナス準備完了セリ

2、敵地ヨリノ流通物資中木炭約三十万斤、薪十万斤其他砂糖（数量不明）カ數ヘラル

3、皇軍部隊ノ警備ト良民保護ニ依リ近時歸來民及敵地ヨリ巻ケヲ逃レテ我カ勢力圏内ニ住居ヲ移ス者日一日ト多キヲ加ヘツツアリ

民國二十九年十一月二十五日縣政府成立當時ニ於テ

四万五千餘名ナリシモ

民國三十年二月五日現在ニ於テ

六万五千ノ多キニ達シ

良民ハ安居樂業シ居レリ

4、日本人關係

本縣內ニ近時居住者增加シ八十一名ノ多キヲ數フルニ至レリ之ヲ職業別ニ見レバ宣撫用品取扱十九、慰安所三、食堂二、商業二、醫者一ニシテ營業行爲以外ノ行爲アルヲ聞カズ又支那民衆ニ對スル不法行爲アルヲ見ズ

警察關係

縣政府成立以來銃砲警察關係ノ組織ニ關シ準備中ニシテ着々之カ進捗ヲ見ツツアルモ教育訓練ニ關シテハ未タ不完全ナリ

組別	員數	小銃數	小銃彈	備考
第一區警察署	三〇名	三三	一三〇	使用可能小銃 三〇
第二區〃	四〇名	三〇	一一〇	〃 一〇
第三區〃	四〇名	三三	一三〇	〃 一二
第四區〃	六〇名	三三	一四〇	〃 一一
警察組	二〇名			
政務警察隊	三〇名	三四	二一〇	使用可能小銃 二一
計	二三〇名	一四五	七四〇	計七五

水上警察隊

水上警察隊ノ編成ヲナシ水上ノ防備及密輸船ノ監視ヲナサントス目下皇軍部隊ノ協力援助ヲ得テ準備中ナリ

水上警察隊編成豫定

人員六十名　資格高小卒業以上ノ學力ヲ有スルモノ

採用方法――試驗制度（主ニ人物考査）

教育訓練期間　第一期一ケ月（第一期訓練終了後實地訓練ヲ經テ卒業トス

教育方法――一般警察行政、犯罪捜査、精神訓練、衛生警察、特高警察

訓練方法――特ニ皇軍ノ協力ヲ得テ軍學教練ヲナス

二月中犯罪統計左ノ如シ

強盗	一二	窃盗	二二
便衣雖疑	五	帶器片	五

⑪—1 昭和一六年一一月陸軍々人軍属非行表 [中支那派遣憲兵隊司令部] (昭16)

[中略]

附表第二

昭和十六年十一月陸軍々人軍属非行表　中支那派遣憲兵隊司令部

所管所属	役種官等級	人員	非行月日	非行ノ概要	處置
中支派遣武内部隊甘上部隊渡辺部隊	現	一	一一、三〇	一九二〇頃飲酒酩酊ノ上無断外出シ支那人住居ニ侵入口論ノ末殴打暴行ス	非違通報所属長ニ於テ重営倉十五日ニ処ス
中支派遣高屋部隊加藤隊	現	曹	一一、三	延刻外出中飲酒酩酊シ二〇〇〇頃市安慰安所ニ到リ暴行居内ニ乱入ス	始末書ヲ出シ非違通報所属長ニ於テ重謹慎五日ニ処ス
中支派遣武内部隊平木部隊白井隊	補	上	一一、七	外出中一四〇〇頃飲酒酩酊ノ上慰安所ニ到リ扇ヲ破壊同僚ニ暴行ノ為ス	非違通報所属長ニ於テハ重営倉八日ニ処ス
中支派遣渕川部隊川島隊	豫	軍	一一、三	二一三〇頃無断外出シ市内支那料理店ニ於テ飲酒酩酊ノ上飲食店ニ到リ支那人ニ暴行ス	非違通報所属長ニ於テ重謹慎三日ニ処ス
				軍事郵便検閲ヲ免ルヽ目的ヲ以テ慰	非違通報

中支派遣武内部隊渡辺部隊本部	獣醫伍 一	一一、一五	安所帳場名義ヲ使用支那側郵政局ヲ通シ郷里ヨリ金百円ヲ送金セシヘ	所属長ニ於テ嚴重訓戒	
中支派遣（光井部隊）岩井隊（倉橋部隊配属）	軍属 一	一一、一五	一〇〇〇頃公用外出中市内支那人飲食店ニ於テ飲酒酩酊ノ上支那人経営運輸公司ニ到リ故ナク支那人ヲ殴打シ之ヲ制止セントシタル支警ヲ殴打ス、	非違通報部隊長ニ於テ嚴重説諭	
中支派遣（祭第七三六〇部隊）	現衛曹 一	一一、二六	允許外出シ飲酒酩酊散策中新街口ニ於テ中国人葬儀ニ遭遇スルヤ衆人ノ前ニ於テ霊柩ニ飛付キ葬儀ノ進行ヲ停止セシメ附近ニ居合セタル上官ヨリ其非違ヲ制止セラルヽモ之ニ應セス	非違通報	
中支派遣（第七九七五部隊）	現一 一	一〇、一六	戦友二名ト允許外出シ支那料理店ニ於テ飲酒酩酊シ偶々来店セシ他部隊兵ト喧噪シ両者争闘スルヒ至ル	非違通報重営倉一日	
	現一 一		戦友ノ喧嘩ヲ制止スルコトナク之ニ追従喧噪ス	非違通報軽営倉一日	

中支派遣松竹部隊 松四部隊	補上 一	一一三、	許可外出中飲酒酩酊シ支那人ヲ殴打ス	非違通報、部隊ニ於テ厳重説諭
中支派遣松竹部隊 松第三部隊本部	現曹 一、	一一、二、	飲酒ノ上慰安所ニ立入リ花券ヲ購入セス登楼シタルヲ以テ酌婦之ニ応セサリシタメ激昂シ酌婦ヲ殴打暴行ス	非違通報、部隊ニ於テ厳重説諭
中支派遣松竹部隊、松第十部隊 清水隊	現一 二、	一一、七、	両名外出中虹口市内「カフエー」ニ於テ飲酒酩酊シ飲食代金拾壹円四拾銭ヲ請求セルヤ所持金ナシト稱シ支拂ヒ且同店女給ノ態度横柄ナリト難詰威喝ノ上一五三ノ項同店ヲ立出テ附近露人「カフエー」ニ至リ再ヒ暴行セントス	最論ニ所属隊責任者ニ不足代金支拂ヲ如ク指示シ身柄引渡ス
中支派遣 南部ノ隊但馬部 隊香川隊	隊少 一	二、二三、	支那料理店ニ於テ飲酒酩酊ノ上飯途終靖軍將兵ノ談笑シアルヲ自己ヲ冷笑シアルモノト誤認シ居合セタル終靖軍將兵五名ヲ殴打暴行ス	非違通報

中支派遣南部隊但馬部隊香川隊	現一、二、	二、一六、	陣地構築用木材ノ調査採木中民家ヨリ養鶏七羽ヲ強要持帰ラントス	非違通報	
中支派遣第一ロ二野戰郵便局第一分局	軍属(集配人)一、	一〇、三〇、	1. 同僚ト共ニ飲酒酩酊ノ上二一〇〇上司不在ナルヲ奇貨トシ支那人旅館ニ至リ支那人一ヲ不法暴行旅館主ニ姑娘堤供ヲ要求ス 2. 支那淫賣窟ニ至リ遊興宿泊翌三十日〇六三〇帰局ス	嚴重説諭ノ上所属長三仕ス 所属長ニ於テハ訓告処分ニ付ス 外出禁止(三十日間)	
中支派遣中山部隊古東部隊	現上一	六、一五、九、及二一	宣撫班勤務中支那婦女ト関係ヲ結ヒ軍紀ヲ紊ル	非違通報	
中支派遣中山部隊本部	現獣少尉一	二、三、	市内「カフエー」ニ於テ飲酒酩酊ノ上来客ニ對シ暴行ヲ加フ	非違通報、所属長ニ於テ訓戒ス	
中支派遣大賀部隊佐藤光部隊	補衛一一	二、一、	慰安婦ノ依頼ヲ受ケ「モルヒネ」其他ノ軍用薬品ヲ持出サントス	非違通報所属長ニ於テ重営倉二十日ニ処ス	
	補衛上二	二、一、	情ヲ知リ乍ラ前記兵一ノ行為ヲ援助ス	非違通報所属長ニ於テ重営倉五日ニ処ス	

中支派遣阿南部隊攻本伊部隊山辺隊	補兵 一	二、二、	無断外出ス	非違通報
中支派遣大賀部隊幸長部隊置鳥隊	現伍、一、	二、二、	飲酒酩酊ノ上支那人店舗ニ斬ニ侵入暴行ス	非違通報、金三円ヲ辨償セシメ所属長ニ処置一仕訓戒ス
中支派遣阿南部隊梅村隊	隊兵長 一	九、二、	不要電線撤收作業中將校宿舎ニ無断侵入シ人ナキヲ奇貨トシ旋風機営内靴等各一ヲ所属隊ニ持ム飯リ隠匿一部ヲ私用ス	所属長ニ處置一仕ス、所属長ニ於テ上記物品ヲ返済ノ上重営倉二十日ニ処ス
中支派遣青木部隊重松部隊	役種不明 陸軍中尉 一	二、五、	漢口出張中料亭飲食店ニ於テ飲酒酩酊ノ上女給ニ情交ヲ強要シタルモ之ニ應セス且本人ノ暴言ニ女給等カ逃避スルヤ之ニ憤慨暴行ス	非違通報
中支派遣鈴木[illegible]部隊熊田部隊進藤隊	補一、一、	二、六、	引率外出中飲酒酩酊シ集合時刻ニ遅レタルタメ無断慰安所ニ宿泊セントス	非違通報
中支派遣藤沢部隊	現衛見習士官 一	二、七、	言語不通ト酒勢ヨリ逆上シ夜間警戒勤務中ノ支那側警士ヲ殴打ス	非違通報、所属長ニ於テ重謹慎五日ニ処ス

中支派遣豊島部隊宮永部隊原田隊	現上、一、	二、七、	公用外出中飲酒酩酊シ軍慰安所ニ到リ上衣ヲ脱シ下駄履トナリ飲食店並慰安所等ヲ彷徨ス	非違通報
中支派遣阿南部隊川原部隊塩野隊	補一 一、	二、三、	允許外出中飲酒酩酊シ慰安所ニ至リ馴染女ニ先客アリタルニ依リ酒勢ニ乗シ同所帖場ニ暴行セントセルヲ他部隊兵ニ制止セラルヽヤ激昂暴行ス	非違通報所属長ニ於テ重営倉五日ニ處ス
中支派遣森戸部隊高橋部隊益田隊	補一 一、	二、一五、	歯科治療ノタメ武昌ニ出張中飲酒ノ上無断外出シ軍慰安所ニ到リ遊興セントセルモ休業中ニテ慰安婦ニ拒絶セラルヤ之ニ憤慨同慰安婦ヲ道路上ニ引出シ殴打ス	非違通報
中支派遣阿南部隊大久保部隊本部	予伍 一	二、一六、	允許外出中飲酒酩酊ノ上居留邦人(女)ヲ殴打ス	同右
中支派遣亀山部隊高木隊	現一 一	二、二七、	允許外出飲酒酩酊シ支那人ヨリ果物物ヲ購入セントセルモ言語不通ヨリ激昂器物ヲ破壊ス	破壊器物代(二円)ヲ辨償セシメ所属隊ニ引渡ス

中支派遣[illegible]部隊伊丹部隊	補一 一	一一、一三	日直勤務中無断外出シ飲酒酩酊徘徊ス	非違通報所属長ニ於テ重営倉十日ニ処ス	
中支派遣北野部隊飛田部隊不部	軍属(通訳)一	一一、一二	上司ノ監督充分サラサルヲ奇貨トシ屡々阿片ヲ吸煙シ遂ニ阿片中毒トナル	非違通報	
中支派遣阿南部隊江口(上)部隊河原隊	現上 一	一一、一六	允許外出中飲酒酩酊ノ上私娼屋附近徘徊中支那人ニ對シ暴行ス	非違通報所属長ニ於テ軽営倉十日ニ処ス	
中支派遣早坂部隊斉藤隊	現伍 一	一一、二一	戦友数名ヨリ借金遊興シ之ヲ為メ郷里ヨリ送金ヲ受クルニ際シ所属長ノ通信検閲ヲ免レントス	非違通報	
中支派遣豊島部隊宮本部隊原田隊	現一 一	一一、二五	入院中日夕呉呼後鉄條網ヲ脱柵飲食店ニ到リ飲酒ス	非違通報	
中支派遣豊島部隊片岡部隊渡辺隊	補一 七	一〇、二七 一〇、二八	中隊炊事場及當番室ニ於テ日夕呉呼後約二時間ニ亘リ賭博類似行為ヲナス	所属長ニ一任所属長ニ於テ処置考慮中	

⑪—2 昭和一六年一一月憲兵干與邦人（含台鮮人）犯罪表［中支那派遣憲兵隊司令部］（昭16）

［中略］

附表第四

昭和十六年十一月憲兵干與邦人（含台鮮人）犯罪表　中支那派遣憲兵隊司令部

罪名	住所氏名 年令	犯行月日	犯行ノ概要	處置	處分結果
公文書偽造同行使詐欺	本籍地 岡山縣小田郡[redacted] 住所 南京市中山東路八二号 保險外交員 子二 [redacted] 当三十二年	十五年一月中旬ヨリ十六年十月末日迄	保險外交員トシテ稼動中信用取得ト收入ノ増加ヲ圖ル目的ヲ以テ憲兵中尉ト詐稱シ同中尉ノ服飾ヲ僭用十五年三月公文書タル本籍地村長發給ノ身分證明書ヲ偽造行使シ同年十月二十三日家屋讓渡ニ藉口シ金五百円ヲ編取ス	十一月十四日登部隊軍法會議ニ事件送致	昭一六一三一〇 懲役一年二月
軍機保護法違反	本籍地 福岡縣八幡市[redacted]番地 會社員 [redacted] 当三十六年	二、八	被告ハ登部隊ヨリ會社宛配布サレタル軍事極秘書類三通ヲ自己ノ携行スル手提鞄内ニ納メ自宅ヘノ皈途佛祖寺電車内ニ於テ該手提鞄ヲ置キ忘レ因テ軍事極秘書類ヲ遺失ス	十一月十九日一件書類ヲ登部隊軍法會議長官宛捜査報告	審理中

自殺幇助	窃盗
住所 上海東宝興路二五号 貸座敷業 酌婦 [redacted] コト 当二十六年	本籍 徳島縣板野郡 [redacted] 住所 湖南省岳陽縣岳州洞庭路二四号 軍慰安所帳場 [redacted] 当二十五年
昭一六、一〇、二五、	自 三月上旬 至 十月下旬
軍属 [redacted] 当二十五年 ヨリ情死ヲ迫ラレルヤ之ニ同情シ [redacted] ノ購入シ来レル「カルモチン」ヲ嚥下シ [redacted] ノミ死亡シ被告ハ未遂ニ終ル	軍特殊慰安所帳場トシテ稼働中 一、同慰安所内ニ於テ三月上旬頃営業主ノ上衣物入中ヨリ軍票七円ヲ窃取シ 二、五月上旬帳場ニ放置シアリタル営業主所有ノ腕時計(時價一〇円)一個ヲ窃取シ馴染女ニ手交シ 三、十月中四回ニ亘リ帳場内ニ於テ費二金合計四百三十二円(軍票)法幣百円ヲ窃取シ 右窃取セル代金ハ一部ヲ遊興ニ費
十一月五日登部隊軍法會議検察官宛事件送致	憲兵探知捜査ノ上十月三十日頃事館警察署ニ移牒ス
審理中	未定

| 窃盗 | | |

⑪-3 昭和一六年一二月陸軍々人軍属犯罪表 [中支那派遣憲兵隊司令部] (昭16)

附表第一

昭和十六年十二月陸軍々人軍属犯罪表

中支那派遣憲兵隊司令部

罪名	用兵器上官暴行傷害上官侮辱
所管所属	中支派遣憲兵第一六三九部隊
本籍役種官等級氏名年令	本籍 大分縣日田郡 [redacted] 補一 [redacted] 当二十四年
犯行月日	一二三
犯行ノ概要	週番上等兵トシテ服務中 (一)所属内務班ニ於テ飲酒泥酔シ日夕点呼立會前伍長一ヨリ服装ヲ注意セラレタルニ立腹シ「点呼ノ俺カトル占部カ何タ功績カ何タレト暴言ヲ吐テ公然上官ヲ侮辱シ (二)更ニ点呼終了後狂態ヲ演シタル為下士官兵等ニ就寝セシメラレタルカ同日二二三〇頃起上リ兵一ノ銃剣ヲ無断抜取リ下士官室ニ闖入シ失庭ニ就寝讀書中ノ占部伍長ノ右前膊部ヲ突刺シ兵器ヲ用ヒ上官暴行シ且傷害ヲ与フ
處置	所属長ノ妻嘱ニ依リ捜査ノ上十二月十三日呂集團臨時軍法會議檢察官宛事件送致
處分結果	審理中

軍中逃亡

中支派遣
原第七九三五
部隊池田隊

現二
[redacted]
当二十二年

自 一一 二一
至 一二 四

ヲ以テ勿取シ
(四)同日前記犯罪事實発覚尚未
所属中隊ニ於テ監視セラレアリタ
ル方同月二十八日兵舎東側ヨリ脱柵
離隊外走シ十二月四日富陽警備
隊陣地ニ首出スル迄軍中故ナク無
役ヲ離ル

十二月二十七日登
部隊臨時軍法
會議檢察官
三中仟送致

同
石

一長沙作戦参加途中當陽慰安所
ニ在ル情婦ヲ恩慕ノ餘リ七月十八日
自己ノ疾病ヲ誇張受診ニ赴ト称
シ前記情婦ノ許ニ到リ同月二十七日
急性大腸炎ニテ入院スル迄軍中ニ
在リテ故ナク八日間餘職役ヲ離レ
二更ニ大腸炎治癒退院後前記情
婦ノ許ニ到リ流連遊興シ其後軍
醫作成スヘキ公文書ヲ偽造入院
十月六日治癒退院後憲兵ニ逮捕

官吏氏名	官吏ノ身分	犯罪ノ事実	処分	備考
憲兵伍長	憲兵伍長	一、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	二、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	三、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	四、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	五、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	六、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	七、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	八、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	九、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	十、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	十一、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	十二、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	十三、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	十四、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	十五、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	十六、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	十七、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	十八、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	十九、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	二十、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	二十一、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	二十二、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	二十三、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	二十四、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	二十五、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	二十六、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	二十七、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	二十八、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	二十九、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	三十、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	三十一、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	三十二、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	三十三、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	三十四、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	三十五、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	三十六、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	三十七、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	三十八、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	三十九、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	四十、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	四十一、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	四十二、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	四十三、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	四十四、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	四十五、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	四十六、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	四十七、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	四十八、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	四十九、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	五十、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	五十一、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	五十二、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	五十三、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	五十四、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	五十五、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	五十六、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	五十七、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	五十八、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	五十九、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	六十、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	六十一、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	六十二、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	六十三、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	六十四、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	六十五、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	六十六、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	六十七、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	六十八、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	六十九、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	七十、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	七十一、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	七十二、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	七十三、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	七十四、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	七十五、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	七十六、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	七十七、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	七十八、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	七十九、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	八十、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	八十一、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	八十二、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	八十三、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	八十四、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	八十五、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	八十六、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	八十七、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	八十八、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	八十九、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	九十、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	九十一、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	九十二、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	九十三、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	九十四、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	九十五、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	九十六、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	九十七、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	九十八、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	九十九、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	百、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	百一、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	百二、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	百三、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	百四、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	百五、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	百六、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	百七、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	百八、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	百九、前記ノ如ク軍司令官ノ命ニ依リ支那人ノ捜索ニ従事中ニ在リテ故ラニ職務ニ関シ	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス	憲兵懲罰令ニ依リ重謹慎十日ニ処ス
憲兵伍長	憲兵伍長	百十、前記ノ如ク軍司令官ノ

附表第二

昭和十六年十二月中陸軍々人軍属非行表　中支那派遣憲兵隊司令部

所属所	従軍官等級人員	非行月日	非行ノ概要	処置
中支派遣支那部隊朝比奈隊	現　一	一二、四、	允許外出ニ飲酒酩酊上慰安所ニ到リ休業中ノ慰安婦ニ接客ヲ要求拒否セラルヤ同女ヲ殴打暴行ス	非違通報所属隊長ニ於テ厳諭
中支派遣第四六三九部隊紺屋隊浦口隊	補陸一　一	一二、七、	公用外出中飲酒酩酊上旅館ニ立入リ支那婦人ト口論ス	説諭、上所属隊ニ引渡シ所属長ニ厳諭ス
中支派遣第二六三七部隊	現軍医曹中尉　一	一二、七、	外出中「カフェー」ニ於テ飲酒酩酊、上些細ノ事ヨリ常人ト喧嘩口論ニ及ビ暴行ス	憲兵説諭ノ上非違通報部隊長ニ於テハ厳重訓戒

中支派遣倭七九九〇部隊古西隊	現一	一	一二、一七	退院敗隊ノ途中在南京「戰友ノ家」ニ於テ飲酒酩酊シ再ヒ南京市碑亭巷「白バラ」食堂ニ到リ所持金一円ナルニモ不拘日本酒四本(價格三円六十錢)ヲ飲酒更ニ「ビール」瓶ヲ以テ窓硝子二枚ヲ破壞ス
中支派遣栄九八七五部隊	現一	一	一二、二〇	允許外出中飲酒酩酊シ支那人慰安所ニ於テ理由ナク火鉢一、硝子三枚格子戸ノ一部ヲ破壞(損害額約二十円程度)シ敗途外被銃創ヲ路傍ニ放置ス
中支派遣栄一大四三部隊桑原部隊	軍属	一	一二、二九	部隊内ニ於テ飲酒酩酊ノ上脱柵外出シ浴衣ノ上外套ヲ着シ服装ヲ奈シ遊興セントス

憲兵説諭ノ上所属隊ニ非違通報

憲兵説諭ノ上所属隊ニ引渡シ所属隊ニ於テハ二ヶ月間外出ヲ禁止ス

憲兵説諭ノ上通報所属隊ニ於テ嚴重訓戒ヲナス

中支派遣河南部隊 溝口隊	補上	二	一二、一九、	允許外出中華人菜館ニ於テ十一月余ニ相當スル無銭飲食ヲナス	所属長ニ通報 所属長ニ於テ支那タルヲ以テ處置一任 討伐参加中ニ付未處置
中支派遣明九〇二〇部隊	現上	一	一一、二八、	允許外出中露店支那人ヨリ鎖ヲ買ハントセルモ高價ナルタメ立去ラントセル際同支那人カ「一個没有您小盗兒」ト呼ヒタルニ憤慨シ同人ヲ殴打暴行ス	本人ハ東京帰行本校ヘ派遣ノ途ニシテ且改悛ノ情顯著ナル為輸送指揮官立會ノ上被害者ニ治療費三十円ヲ恵與セシム
中支派遣大久保部隊北沢隊	軍属	一	一一、二五、	特殊慰安所ニ到リ飲酒酩酊ノ上同樓家屋ヲ破壊スル等ノ暴行ヲナス	非違通報
中支派遣山本(省)部隊岳州支廠	軍属	一			
中支派遣佐藤(武)部隊山上部隊春藤隊	補一	一	一一、三〇、	允許外出シ飲酒酩酊ノ上慰安所街ヲ徘徊中酒勢ニ乗シ慰安婦二名ニ暴行ス	所属長ニ通報 被害者ニ對シテハ所属隊ヨリ各三十円ノ慰藉料恵與ス

中支派遣斉藤部隊梅村隊	予兵長	一	一一、二九、	飲酒酩酊ノ上允許外出シ隊ヲヨリ知己タル軍慰安所ニ到リ同主人ニ二百円借用方甲出テタルモ之ヲ拒絶セラルヽヤ酒勢ニ乗シ同主人並ニ同室ニ居合セタル慰安婦ヲ殴打ス
中支派遣廣第七三五部隊	現曹 予軍	一、一、	一一、三〇、	飲酒酩酊ノ上允許外出シ應城ノ内食堂ニ到リ再ヒ飲酒中同食堂ニ居合セタル支那人ノ態度不遜ナリトテ殴打暴行ス
中支派遣大賀部隊佐ニ不部隊清瀬隊	現、一、	一、	九、二三、	檢問實施中金指環三個及一円銀貨四十三枚ヲ押收シ乍ラ上司ニ報告スルコトナク居室ニ保管ス

嚴諭ノ上所属長ニ口頭ヲ以テ非違通報	嚴諭ノ上所属長ニ引渡ス
非違通報所属長ニ於テ重營倉七日ニ處ス	

⑪-5 昭和一六年一二月憲兵關與邦人（含台鮮人）犯罪表［中支那派遣憲兵隊司令部］（昭16）

附表第四

昭和十六年十二月憲兵關與邦人（含台鮮人）犯罪表　中支那派遣憲兵隊司令部

罪名	內台鮮人別、職業、性別、氏名、年令（本籍、住所、役種官等級）	犯行月日	犯行ノ概要	處置	處分結果
贈賄	本籍 兵庫縣神戸市灘區[redacted] 住所 安徽省蕪湖市中山路 無職 [redacted] 當二十五年	自一六二至一六二	物資搬出入ニ關シ便宜供與ヲ受クベキ巧ミニ警備隊長（在尉）ニ接近シ數回ニ亘リ約二百三十余相當ノ饗應ヲ為シ或ハ藝妓ヲ提供シ警備隊長ヨリ預リタル法幣一万一千五百元ヲ無斷携帶上海ニ到リ內二千又百元ヲ横領費消ス	十二月十二日登部隊軍法會議檢察官ニ事件送致	審理中
賄賂	本籍 廣島縣廣島市[redacted] 住所 右同 洋服裁縫業 [redacted]	自一六四中旬至一六八中旬	元鴻州部隊軍屬トシテ勤務中後記相報告[redacted]等ノ勧誘ヲ受ケ同人等ト共ニ約十四ニ亘リ同部隊倉庫ヨリ軍用白米六十八俵食塩二俵砂糖一俵ヲ窃取シ地方人等ニ無償交付又ハ賣却シ之ヲ分	十二月十二日支那派遣軍々法會議檢察官ニ事件送致	

	窃盗	兵役法施行規則違
[redacted] 當二十一年	本籍 鹿児島縣肝属郡[redacted] 番地不詳 住所 南昌市霊公廟八三 軍特殊慰安所敷島楼内 慰安婦 [redacted] 當二十五年	本籍 福井縣南條郡[redacted] 住所 河南省信陽縣城内 日本人街一五號 隊 [redacted]
	一六 二、一三 二、二七 二、二九	自 一五九 至 一六七
ノ支那人五名ヲ發見スルヤ之ヲ抑留ノ上部下支那人ヲシテ二十四百元ヲ喝取セシム	軍特殊慰安所ニ於テ旅館中金銭ニ窮シタル結果遊客(軍人軍属)或ハ帳場賣留金ヨリ前後三回ニ亘リ四百五十円ヲ窃取ス	渡支ニ際シ聯隊區司令官宛外國旅行屆ヲ提出スヘキニ之カ手續ヲ怠タリ湖南省信陽到着後外國在留屆ヲ忘却シ在留五ヶ月余ニテ手續ヲ為シタルモ同手續提出以前臨時召集發令サレ同令状交付ヲ不能ナラシム
報告	十二月五日 南昌領事館警察署ニ事件移牒	福井聯隊區司令官ノ告發並請江憲兵分隊長ヨリノ移牒ニヨリ捜査ノ上十二月二十八日在漢口總領館檢
	未	定









反	右同	詐欺
當三十五 三	本籍 三重縣桑名郡 [redacted] 住所 湖北省隨縣浙河市城内 補隆一 [redacted] 當三十一 三	本籍 滋賀縣甲賀郡 [redacted] 住所 河南省信陽縣信陽城内 白砂九一方 [redacted] 當三十一 三
	自一四、二 至一六、九 三ヵ	自一六、五 一九 至一六、二 二
	渡支ニ際シ聯隊區司令官宛外國旅行(在留)屆ヲ提出スヘキニ之カ手續ヲ怠リ渡支後江西省南昌市並湖北省漢口應山浙河等各地ヲ轉々トシテ其ノ間昭和十六年九月三十日本籍地ニ於ケル簡閲點呼ヲ無屆不參ス	一、支拂能力ナキニ不拘他人ヲ欺罔シ前後五回ニ亘リ二百三十八円欺取シ 二、支拂ノ意志ナク他人ヨリ前後二回ニ亘リ物品ヲ購入之カ代償二十九円十錢詐取シ 三、前後二回ニ亘リ計二十五円六十錢ノ無錢飲食ヲナス
事ヲ務取扱宛事件送致	渋谷憲兵分隊ヨリノ移牒ニ依リ捜査ノ上十月二十五日在漢口總領事館檢事ヲ務取扱宛事件送致	捜査ノ上十二月十二日在漢口總領事館檢事ヲ務取扱宛事件送致

未定

人事秘密

一、軍紀違犯者ノ件特別報告

所屬官氏名　第十三師團經理部附　現役陸軍主計曹長 [redacted]

二、發生月日時

一月三日二一三〇頃

三、違犯事項ノ概要

[redacted] 部附陸軍主計准尉吉川義雄等ト共ニ昭和十七年一月三日一七三〇宜昌市日華區所在ノ軍人食堂日華倶樂部ニ於テ第十三師團經理部附ヨリ内地部隊ニ轉出スベキ下士官ノ送別宴ヲ催シ終了後吉川准尉外三、四名ト市内ニ馬路銀矜食堂ニ立寄リ飲酒酩酊ノ上更ニ市内平和里軍特殊慰心安所「あやめ」本館ニ到リ

其ノ玄關内廣間ヲル慰安婦客待所ニ於テ狂
燥乱舞中二三〇頃偶〻慰安所素見ニ來
會セル獨立工兵第八聯隊副官陸軍大尉野路
宗十郎同聯隊附陸軍中尉谷村政男及
同聯隊中隊長陸軍中尉宇尾喜久松トノ間ニ
紛争ヲ生シ[redacted]ハ野路大尉ニ對シ抜刀脅迫シ
過ッテ傍ニ在リシ谷村中尉ノ左前胸部第二肋
骨部ニ長サ約八糎深サ約二五糎ノ横狀切創(全
治三週間)ヲ負ハシメタリ

四 動機

前記[redacted]が「あやめ」本館玄關内廣間ニ
於テ放歌乱舞シ在リシ吉川准尉ニ對シ敬禮ヲ
要求シ敬禮ヲ爲セル吉川准尉ノ態度不良ナ
リトテ更ニ叱責シ且其ノ襟首ヲ突飛セルヲ見ルヤ

傍ニ在リテ酩酊自制心ヲ失ヘル[redacted]ハ該大尉ノ言動ニ對シ極度ニ激昂シ偶々携帶シ在リシ吉川准尉ノ軍刀（實際ハ部附奥田技手ノモノヲ吉川准尉ガ間違ヘテ携行セシモノヲ更ニ[redacted]ガ携帶セシモノナリ）ヲ拔キ放チ振リ廻シツヽ二三歩前進シ[redacted]ヲ脅迫遁走セシメタリ其ノ際傍ニ在リタル谷村中尉ニ對シ受傷セシメタルモノナリ

五處置

師團長ハ直チニ宜昌憲兵派遣隊長ヲシテ事件ノ調査ニ任セシメ[redacted]主計曹長ヲ搜査處分ニ附セシメ獨立工兵第八聯隊長ハ[redacted]ヲ又第十三師團經理部長ハ吉川主計准尉ヲ夫々重謹愼十日ニ處シ將來ヲ誡ムル所アリタリ

六責任者ノ處分

師團長ハ第十三師團經理部長陸軍主計大佐對馬俊夫ニ對シ部下ノ監督指導不十分ナル廉ニ因リ重謹愼三日ニ處ス

特別報告中軍人變死ノ件報告

一、官等級　陸軍一等兵

二、氏名　昭和八年徴集　[redacted]

三、所屬部隊　步兵第百十六聯隊水部

四、月日時　三月十三日二三〇

五、場所　湖北省宜昌縣宜昌市二馬路

六、手段　聯隊行李班長代理石島兵長ニ十六年式拳銃（彈藥二十三發共）ヲ以テ自殺ス

七、平素又ハ變死前後ニ於ケル參考事項

昭和十七年一月頃ヨリ紫金貞慰安所「カ」慰安婦（半島人）「[redacted]ト」遊興ヲ續ケ遂ニ將來同棲ノ志シ偶々部隊ノ配備變更ニ伴ヒ宜昌ニ移動シ三月十二日宜昌二馬路飲食店「大阪屋」ニ於テ既ニ紫金貞ヨリ宜昌慰安所「カ」支店ニ引キ揚

ヶ來レル「[redacted]」ト媾曳シ本人ノ除隊現地就職ノ
時機迄「大阪屋」女給トシテ奉公シ速カニ慰安婦
ヲ廢業スベキ旨ヲ要求セシモ即答ナカリシヲ以テ
明十三日再會ヲ約シ翌十三日日夕點呼後聯隊
行李班長代理石島兵長既巡察ノ爲不在ナルニ
乘ジ同人居室ヨリ二十六年式拳銃（彈藥二十三發共）
ヲ持チ出シ無斷外出シ「大阪屋」ニ赴キ「[redacted]」ヲ
呼ビ出シ前日要求ノ確答ヲ迫リシモ拒絶セラレ
興奮ノ餘リ二一一五頃所持シ來リシ拳銃ヲ發
射シ「[redacted]」ニ重傷（右胸部盲管銃創）ヲ負ハシ
メ其ノ殪ルルヲ認ムルヤ自己ノ咽喉部ヲ自ラ射貫ヲ
瀕死ノ重傷（咽喉部盲管銃創）ヲ負ヒ第四
野戰病院林宮内兩軍醫少尉ノ手當ヲ受ケ
第四野戰病院ニ担送中二三〇〇絶命セリ

八原　因　将来同棲ヲ志シタル慰安婦ノ同意
ヲ得ザリシヲ他ニ情夫アリト邪推嫉妬曲解興奮
セルニ因ルモノト認ム
九故意又ハ不可抗力ノ別
故意
一〇既遂未遂ノ別
本人ハ絶命セルモ被害者ハ全治約一ヶ月ヲ要スル見込
ニテ目下第四野戦病院ニ入院中ナリ
一一処置　三月十三日二〇〇頃宜昌憲兵派遣隊
ヨリ右事件ノ通報ニ接シ聯隊本部日直士官渡
邊曹長現場ニ到リ次イデ西村副官駆ケツケ調
査ノ上死體ヲ引キ取リ翌十四日一二〇〇荼毘ニ附ス
一二責任者處分
聯隊長ハ聯隊副官西村少尉ニ對シ政監督指導

陸軍

[以下略]

軍紀違犯事件詳報

一、發生年月日

自昭和十六年五月下旬

至昭和十六年十二月初旬

二、發生場所

宜昌　患者痢送部第三班

三、違犯事項ノ概要

第三班ノ宜昌駐留間昭和十六年五月下旬ヨリ昭和十六年十二月初旬ニ亘ル間ニ於テ屢々糧秣倉庫及衛生材料庫内ニ盗難アリテ當該部隊ハ極力内外ニ亘リ捜査セルモ發見ニ至ラス引續キ警戒中十二月六日漢口移駐後班長内務檢査實施ノ際陸軍衛生[redacted]ノ手箱内ヨリ宜昌慰安所慰安婦[redacted]ヨリノ封書一通並ニ[redacted]及陸軍衛生一

第兵[redacted]發信ノ[redacted]軍曹宛同封信書一
通ヲ發見シ其ノ内容ニ盜難ニ関係アリト認メラル
ル不審ノ點アルヲ以テ當人ニ就キ取調ヘタルモ容易ニ
自供セス且ツ宜昌ノ遠隔ニシテ調査ノ困難ヲ感シ漢
口憲兵分隊ニ調査方ヲ委囑セリ其ノ結果左記犯
罪判明セリ

陸軍衛生軍曹[redacted]

右ハ昭和十六年五月下旬ヨリ同年十二月初旬ニ至ル間
前後十數回ニ亘リ自己カ保管出納係助手ノ職
責ヲ利用シ「モルヒネ」注射液約三十本收取線香約
四五箱其ノ他衛生材料ヲ横領シ馴染慰安婦ニ
與ヘ又同年十二月轉移駐ノ際日用品トシテ經理係
保管ニ係ル支那紙ヲ窃取シテ軍票三拾圓ニ賣
却セリ

陸軍衛生一等兵 [redacted]

右ハ昭和十六年五月下旬ヨリ同年十二月初旬ニ亘ル間ニ於テ糧秣倉庫内ノ白米、味噌、鰯、砂糖ヲ持ナ出シ之ヲ慰安婦ニ與ヘタリ

昭和十六年四月頃内務班ニ於テ杉田隊外出証ヲ拾得シ之ヲ外出ニ利用セント企圖シ漢口移駐後事務室ニ人ナ隙ヲ窺ヒ隊印ヲ押捺シテ公文書偽造タル外出証ヲ所持セリ同年七、八月頃宜昌ニ於テ支那人子供ヨリ米約五升及石油ランプヲ掠奪シ馴染慰安婦ニ與ヘ又同年八月宜昌第二野戰病院ヨリ「六〇六號」注射液ヲ詐取シ同地慰安所「あやめ」帳場田口某ニ注射ヲ施シ軍票拾圓ノ謝禮ヲ受ケタリ

四、原因

過度ノ飲食遊興ノ為遊興費ニ窮シ且ツ馴染慰

陸軍

安婦ノ歡心ヲ買ハンガ為ナリ

五、處置

班長ノ取調ニ對シ[redacted]衛生一等兵ハ外出証偽造ニ関スシ自供セルモ其ノ他ニ関シテハ両名兵頑トシテ自供セス且ツ犯罪地ノ遠隔ニシテ取調困難ナルヲ以テ一月三十日身柄ト共ニ横口憲兵分隊ニ捜査ヲ依頼シ前記犯行判明セルヲ以テ犯行ノ軍紀ニ反ホス影響重大トルニ鑑ミ直ニ檢察處分ヲ憲兵分隊ニ委囑セリ

六、責任者ノ處分

第五患者給送部長ハ左ノ如ク夫々責任者ヲ處分ス

陸軍軍醫中尉[redacted]

右ハ衛生材料係トシテ其ノ保管出納適切ヲ缺キ

下級者ノ指導監督不十分ナル結果助手下士官ヲシテ官物横領ノ犯行ヲ犯サシムルニ至ラシメタル科ニ依リ軽譴責三日ニ處ス

陸軍軍醫中尉 [redacted]

右ハ経理糧秣係トシテ其ノ保管出納適切ヲ缺キ下級者ノ監督指導不十分ニシテ屢々糧食物品ヲ窃取セラルルニ至ラシメタル科ニ依リ軽譴責二日ニ處ス

陸軍中尉 [redacted]

右ハ聯長トシテ部下ノ監督指導適切ヲ缺キ部下下士官又ハ下士官ヲシテ軍紀風紀ヲ紊リ皇軍ノ威信ヲ失墜セシメタル科ニ依リ重譴責五日ニ處ス

七、其ノ他必要ナル事項

陸軍衛生伍長 [redacted]

ハ、経歴、職業、教育程度

陸軍

[以下略]

⑮軍紀違犯事項ニ関スル件報告［支那派遣軍総司令部］（昭17・3・30）

總副報第五〇號

特別報告提出ノ件

昭和十七年三月三十日　支那派遣軍總司令部

陸軍省御中

時機宜報告規程ニ依ル首題ノ件左記ノ通提出ス

記

軍紀違犯事項ニ関スル件報告　一通（別紙）

上海憲兵隊本部　陸軍憲兵軍曹

同　右

蘇州憲兵隊蘇州憲兵分隊

陸軍憲兵伍長

陸軍省 17.4.18 防衛課

陸軍大臣 17.4.22

陸軍 17.4.20

（日本標準規格 B—5）

違犯事項ノ概要	原因 動機	処置
[redacted]軍曹ハ二月九日一九〇〇頃構内酒保ニ於テ同課勤務加藤伍長ト飲酒醉余二一〇〇頃両名相携ヘテ無断外出シ上海市虬江路慰安所ニ於テ[redacted]軍曹カ携行セル押收拳銃ヲ取出シ弾丸ヲ抽出セントナシアリタルモ容易ニ抽出シ得サリシヲ以テ加藤伍長カ抽出スヘク受取ラントセル刹那同伍長ニ暴發命中シ為ニ同伍長ニ左恥部腹部穿透性盲管銃創兼左中指爪根部貫通銃創ヲ負ハシメ遂ニ二月十一日死亡セシムルニ至ラシメタリ	醉余ノ過失ニ因ル	二月二十日過失傷害致死罪トシテ登部隊臨時軍法會議検察官ニ事件送致セリ

責任者ノ処分	其他参考事項
所属憲兵隊長ニ於テ 一、部下ノ指導監督不行届ノ科ニ依リ第一課長 謹責・副官 軽謹慎三日ニ処セリ 二、兵器係主任将校ハ兵器ノ保管取扱適正ヲ欠キタル科ニ依リ 軽謹慎二日処セリ 三、週番士官ハ週番勤務ノ適正ヲ欠キタル科ニ依リ軽謹慎一日ニ処セリ 四、内務班長ハ班員ノ指導監督不行届ノ科ニ依リ軽謹慎三日ニ処セリ	一、家庭ノ状況 一家ハ父母兄弟十三名暮シテ精米業ヲ営ミ下ルモ家計裕福ナラズ 二、前科 ナシ 三、教育ノ程度 中学卒業 四、平素ノ勤務状況 本部庶務課ニ在リテ鶴心ニ服務シ其成績概ネ良好ナリ

[以下略]

[中略]

⑯-1 昭和一七年一月陸軍々人軍属犯罪表 [中支那派遣憲兵隊司令部] (昭17)

附表第一

昭和十七年一月陸軍々人軍属犯罪表　中支那派遣憲兵隊司令部

罪名	所管 所属	本籍 役種 官等級 氏名 年令	犯行月日	犯行ノ概要	處置	處分結果
上官侮辱	中支派遣 廣第七三二 部隊石上隊	本籍 大分縣宇佐郡 [redacted] 一番地	一二、三一	飲酒酩酊ノ上二一三日頃同隊下士官室ニ到リ無断ニテ寝台ニ就床セントシタルヲ同下士官ヨリ取室ノ上就寝スヽダ説示セラルルヤ憤慨ノ上一二問答後「何ヲ」ト反抗的態度ヲ示シタルヲ同伍長ニ叱責セラルヽヤ「下士官カ何カヽヤルナラ	所属長ヨリノ委嘱ニ依リ捜査ノ上一月十日呂集団臨時軍法会議長官宛捜査報告	審理中

	窃盗 横領	
中支派遣	中支派遣 登第七三三七 部隊古谷隊	
本籍	本籍 長野縣岡谷市 [redacted] 現一 [redacted] 当二十三年	
華街露店両替屋ニ到リ前記同様券銃ヲ以テ威嚇シ軍票一百拾八円ヲ掠奪ス	戦友ノ時計四個時價約四十二円ヲ窃取シタル外部隊内ニテ拾得セル時計及財布各一個（時價約十六円）ヲ着服其ノ一部ヲ賣却シ飲食ニ費消ス	奥漢線官塘駅ニ駅長並助役トシテ服務中（1）[redacted]（駅長ハ部下タル
	一月二十五日 登第七三三〇 部隊 軍法会議 検察官 宛事件 送致	十二月二十一日 常人三名 ト共ニ
	懲役一年	審

收賄　詐欺

呂第五三七一
部隊
岩田部隊
市川隊

愛知縣丹羽郡
[redacted]
予軍
[redacted]
当三十年

本籍
石川縣河北郡字
[redacted]
予兵長
[redacted]
当二十八年

昭一六
自五月旬
至
十月中旬

[redacted]（助役）ト共謀犯意
継續ノ上前后六回ニ
亘リ在官塘邦人四ヨリ
職務ニ関シ軍票八十五
円黒短靴一足毛絲製
ヲ受ケ一枚ヲ收受該
軍票ノ一部ヲ遊興ニ
費消残額ハ貯金或ハ
保管ス
(2)
[redacted]ト共謀ノ
上在官塘邦人ヨリ金
品ヲ收受シ
昭和十六年春上旬ヨリ
九月中旬迄ノ間在官
塘慰安所ニ於テ遊
興シ之カ遊興費ニ窮

呂集団
臨時軍法
会議長官
宛
捜査報告

中　理

〔以下略〕

⑯ 2 昭和一七年二月陸軍々人軍属犯罪表 「中支那派遣憲兵隊司令部」（昭17）

附表第一

昭和十七年二月陸軍々人軍属犯罪表

中支那派遣憲兵隊司令部

罪別	所属	本籍 役種官等級 氏名年令	犯行月日	犯行ノ概要	處置	處分結果
用兵器上官暴行抗命	中支派遣 名第五五一五 部隊甲村隊	本籍 福岡縣鞍手郡 [redacted] 現軍 [redacted] 当二十四年 本籍 福岡縣三潴郡 [redacted] 現一 [redacted] 当二十五年	二月十日 一四三〇頃	公務出張ノ飯途 (1) 武昌市ニ於テ飲酒酩酊ノ上 [redacted] 軍曹ハ映画劇場内支那人賣店ニ於テ暴行シ將校一ヨリ制止セラルヽモ之ニ從ハス (2) 同將校ヨリ反抗的態度ヲ詰問セラルヽヤ「將校カ何タ此方ヘ来イ〳〵」ト連呼左手ニテ抜劍右肘部ヲ以テ数回同將校ニ体当リヲ為シ或ハ銃劍ヲ右手ニ持ケ替ヘ前方ヘ突出シ兵一モ之ニ助勢シ右手ニテ帯劍ノ	被害者ノ局出並所属隊ノ委嘱ニ依リ捜査ノ上二月二十四日召集團臨時軍法會議長官宛捜査報告	審理中

柄ヲ握リ抜劍スル如ク身構ヘ同
將校ニ向ヒ
山砲ヲナメタカ將校カ何タ」ト
呼ヒ危害ヲ加ヘントスル氣勢ヲ示シ
依テ両名共ニ兵器ヲ用ヒ上官ニ
暴行脅迫ス

用兵器
上官暴行
傷害
並
傷害致死

中支派遣
鯨第六八九一
部隊藤田
隊

本籍
高知縣安藝郡
[redacted]
補上
[redacted]
当二十五年

自
二月三日
二三、三〇
二月四日
〇〇三〇

(1) 二月三日加給品ノ酒及戰友ノ購入シ
来レル支那酒ヲ飲ミ酩酊シ兵舎内
ヲ能徊シアリタルヲ衛兵司令並
下士官一ニ注意セラルヽヤ憤慨シ手榴
彈二個ヲ持出シ兵舎裏口内ニ於テ
放尿中ヲ週番士官及前記下士官
ヨリ再ヒ注意ヲ受クルヤ上官タルコト
ヲ認識シ乍手榴彈ヲ投擲シ依テ
兵器ヲ用ヒ上官ニ暴行シ
(2) 右手榴彈ノ炸烈ニ依リ前記下士官
ニ及兵二ニ傷害ヲ與ヘ中一名ヲ死ニ
至ラシム

所属長依
囑ニ依リ捜
査ノ上二月二
十三日呂集團
臨時軍法會
議長官宛
捜査報告

審理中

用兵器
上官脅迫
抗命
傷害

甲支派遣
谷第四二四
部隊兇玉
隊

本籍
東京市下谷區
地
現一
当二十四年

昭一七一四
自
一五二
至
一六四〇

用兵器
上官暴行
脅迫

甲支派遣
楮第六八四六
部隊

本籍
和歌山縣有田郡
現上
当二十五年

一、二五

(イ)一月十四日駄馬銅付ニ端ヲ発シ古参上等兵ハト格闘ヲ為シタルヲ兵長一ニ仲裁セラレ且足蹴ニセラレタルニ憤慨シ右両名ニ對シ復讐センモノト決意シ其後同兵長ノ後方ヨリ歩兵銃ニテ頭部ヲ毆打シ約四程ノ挫傷ヲ与ヘ

(ロ)更ニ分隊長及下士官一ニ制止セラレタルモ之ニ従ハス前記上等兵ニ暴行シ

(ハ)前記暴行中引止メラレタルニ憤慨シ前記下士官ニ對シ銃劍ニテヲ掛ケ「貴様モヤルノカ」ト抜劍ノ氣勢ヲ示シ兵器ヲ用ヒ上官ヲ脅迫ス

允許外出中飲酒酩酊ノ上慰安所ニ赴キタル際同所帳場ニ於テ待機中ノ同隊幹部候補生(軍曹)角谷正二ニ対シ「オイ角谷」ト呼掛ケタルカ角谷候補生ガ素見的態度ヲ以テ應答セルニ憤

所属長ヨリノ
厳喝ニヨリ捜
査ノ上二月十三
日呂集團臨
時軍法會議
長官宛捜査
報告

二月二日呂集
團臨時軍法
會議檢察
官宛事件送
致

審理中

審理中

〔以下略〕

附表第二

昭和十七年二月軍人軍属非行表　中支那派遣憲兵隊司令部

所管所属	役種官等級人員	非行月日	非行ノ概要	処置
中支派遣某部隊服部隊	現役、一、	二、一、	允許外出中ニ七、〇頃酔餘基督病院職員宿舎ニ侵入シ支那人ヲ殴打軽傷ヲ負ハシメ且服装ヲ紊シ泥靴ヲ穿ケタル儘当上横臥ス	非違通報
中支派遣某部隊第六三三七部隊白井隊	予ノ曹一	二、七、	飲酒酩酊ノ上、二三〇頃慰安所ニ登楼シ慰安婦ト對談セル自己ノ財布及時計ヲ戦友ニ預ケ置キタルヲ忘失シ該女ヲ窃取セルモノト誤認シ抜刀ノ上該女及楼主ヲ詰問ス	同右
中支派遣川下部隊菅隊	予、医中、一	二、九、	二二、〇頃酔余慰安所ニ赴キ居合セタル他部隊伍長ノ態度不遜ナリトシテ殴打暴行ス	所属長ニ非違通報所属長ニ於テ重謹慎十日ニ處ス
祭第七三六七部隊永野隊	現、一、	二、一、		

中支派遣鐘山教習隊第一中隊	軍属 一	二、一九、	禁止セラレアル支那側郵便ヲ利用シ送金依頼等ヲナス		非違通報
中支派遣栄第一六二九部隊製氷工場	同 右 一	二、二〇、			
中支派遣栄第一六二七部隊稲葉部隊吉崎隊	同 右 一	二、二一、			
中支派遣祭第九四六五部隊	現 伍 一	二、一一、	允許外出中飲酒酩酊シ單独外出禁止區域タル天子廟附近ヲ散策シ支那人慰安所ニ立入リ抜劍威嚇暴行セントス		所属隊ニ身柄引渡シ所属隊ニ於テ嚴訓セリ
中支派遣祭第七三六〇部隊鈴木隊	予、軍 一	二、二四、	允許外出中飲酒酩酊ノ上單独外出禁止區域密淫賣窟ニ立入リ遊興シ酒勢ニ乗シ居室入口ノ扇ヲ破損暴行ス		同 右
中支派遣栄第二二二六部隊	現、軍、一、	二、二八、	允許外出飲酒酩酊ノ上支那人皮革店ニ於テ價格八円ノ手套ヲ一円ニテ購入セントシタルモ肯セサル爲暴行ノ擧ニ出テ中国人一ニ軽微ナル打撲傷ヲ負ハシム		被害者ニ治療費トシテ若干ヲ與ヘシメ嚴訓ノ上所属隊ニ電話通報ス所属隊ニ於テハ嚴訓ス

中支派遣 栄第七七八部隊 三島隊	予軍、一、	二、二八	允許外出シ飲酒酩酊ノ上「カフエー」調理場ニ至リ居合セタル使用中國人ヲ故ナク殴打暴行ス	非違通報 所属長ハ訓戒、處分ヲナス	
中支派遣 菅原部隊	予、住、一、	二、四、	一八ヶ頃ノ無断外出シ飲酒酩酊ノ上慰安所ニ登樓シタルカ應對悪キニ激昂シ部屋仕切戸ヲ破損シ尚主人ニ對シ暴行ヲナス	厳諭ノ上所属長ニ通報 部隊移動ニヨリ處置不明	
中支派遣 曉第二九五九部隊花園隊ノ	補一、一、	二、六	二ヶ頃宿舎監視勤務中無断区域外支那民家ニ立入リ言語不通ニヨリ濫ニ支那人ニ暴行ヲナス	厳諭ノ上所属長ニ通報、所属長ニ於テ重営倉七日ニ処ス	
中支派遣 予第二九七七部隊ノ奈田隊	現上 一	二、八	允許外出飲酒酩酊ノ上皈隊スヘク黄包車ニ乗車セルカ意ノ如ク赴カサルニ憤激シ之ヲ殴打暴行ス	非違通報 所属長ヨリ重営倉七日ニ処セラレ至大ニ對シテハ部隊側ヨリ慰藉料トシテ三十円支付円満解決	
中支派遣 現部隊渡辺部隊初年兵教育隊	現上、一	二、九、	支那側郵政局ヲ利用シ支那人宛自己ノ軍務ノ苦痛ヲ通信ス	非違通報	
中支派遣 現四〇七四部隊本部	現一上、一、	二、六、	外出中飲酒酩酊シ支那人家屋内ニ立入リ服装ヲ着シク乗リタル上土間ニ寝轉ビタルモノナリ	非違通報	

中支派遣淀四〇七七部隊坂部隊	現軍 一 予軍 一	二、一五、	無断外出シ淫賣屋ニ立入リタル儘同所ニ宿泊シ翌朝矣呼時ニ至ルモ皈隊セス	非違通報 部隊側ニ於テ重謹慎三日ニ処ス	
中支派遣淀四〇七九部隊百田隊	現上、 二、	二、二二、	飲酒酩酊ノ上支那人料理店ニテ暴行並無銭飲食セントシ抜剣ノ上店員ヲ脅迫ス	保護檢束 非通	
中支派遣鯉三一九一部隊井上隊	現軍 一	二、二三、	飲酒酩酊シ慰安所ニ於テ抜剣板壁ヲ破壊シ且楼主酌婦等ヲ面罵ス	非通 部隊ニ於テ厳重訓戒外出止一月	
中支派遣原第七九三六部隊赤司部隊	現軍医中尉 一	二、二〇、	寒稽古納會ニ際シ宴会ニ列席二二〇〇頃皈隊途中酒勢ニ駆ラレ支那人経営旅館ニ立寄リタルカボーイノ態度不遜ナリト器具ヲ破壊且支那人一ニ微傷ヲ負ハシム	非違通報（二頭） 所属長ニ於テ重謹慎七日ニ処シ受傷者ニ見舞金ヲ手交	
中支派遣南部隊大塚隊	現兵長 二	二、一、	飲酒ノ上無断外出シ二一〇〇頃明江路ヲ無帯剣ニテ徘徊ス	厳諭ノ上所属長ニ通報	
中支派遣岐阜特務機関部隊連絡官事務所	軍属 一	二、九、	軍指定寫眞業邦人一ノ依頼ヲ受ケ無断庁印ヲ使用シ公文書類似書類ヲ発行ス	始末書ヲ徴シ厳諭ノ上非違通報	

中支派遣独立混成第十四旅団第六五大隊	現兵一	自七日至九日	出張連絡所ニ宿泊中無断外出シ二日間離隊シ慰安所映画館等ヲ徘徊ス	非違通報
中支派遣独立混成十四旅団第六五大隊	豫軍一	二、九	公用外出中酩酊ノ上市内ニ於テ通行人ニ暴行ヲナス	非違通報所属長ニ於テノ重謹慎三日
中支派遣第九師団第五兵站輜重兵中隊	豫軍一	二、九、	飲酒酩酊ノ上時間外ナルニ拘ラス市内ヲ徘徊通行人ニ暴行ス	非違通報重謹慎五日乃至重営倉五日
中支派遣独立混成第十四旅団砲兵隊	豫少尉二	二、一〇、	飲酒酩酊ノ上深夜市内慰安所ニ至リ登楼方要求拒絶セラルハヤ帖場ニ対シ暴行ヲナシ将校タルノ体面ヲ汚シ	非違通報所属長ニ於テ重謹慎五日
中支派遣第[illegible]部隊九	現上一	二、二、	無断外出シ飲酒酩酊ノ上街路上ヲ徘徊ス	非違通報重営倉五日
中支派遣第六一兵部隊下島隊	稀上一	二、二、	無断外出ノ上立入禁止区域タル難民区ニ立入リ閉門中ノ支那芝居ヲ開帖セシメント暴言ヲ吐ク	非違通報
中支派遣谷四二九部隊南部隊	現一一	二、一五、	允許外出飲酒酩酊ノ上慰安所ニ到リ同楼慰安婦ヲ殴打或ハ抜剣シ看板ヲ破壊セントス	非違通報

[以下略]

⑰逃亡ニ關スル報告［第22師團長］（昭17・3・27）

特別報告提出ノ件

昭和十七年三月二十七日　第二十二師團長　大城戸三治

陸軍大臣　東條英機殿

左記ノ者ニ對スル首題ノ件別紙ノ通報告

左記

第二十二師團司令部　陸軍傭人

（大正十二年二月十八日生）

支那派遣軍總司令部　經由

昭和拾七年四月拾七日

總副報第　六九號

陸軍大臣　17.5.14

陸軍　17.5.12　4-9　防衛課

陸軍　17.5.13　第2号　課費課

逃亡ニ關スル報告

一 逃亡月日時

昭和十七年二月二十六日二十時四十分頃

二 違犯事項ノ概要

昭和十七年二月二十六日夜師團司令部ハ幹部實設演習ノ爲老東嶽(杭州西方六粁)ニ宿營スルニ當リ水人[redacted]ハ管理部山崎主計中尉ヨリ馬糧ノ運搬ヲ命セラレ同日十六時頃一回馬糧ヲ運搬シ該地ニ於テ概ネ一時間馬糧ヲ分配シ其ノ他連絡ヲナシ二十時頃衛兵長早出中尉指揮スル師團長護衛貨車ニ便乘シ二十時四十分頃師團長宿舍前ニテ全員敬禮ノ爲下車セシ際夜暗ニ乘シ逃亡シタルモ司令部内ニテハ當夜[redacted]ハ演習地ニアルモノト思ヒ衛兵ト管理部班トハ兵舍ヲ異ニシアリ其ノ儘過シ翌二十七日夜管理部班ノ歸還ニ伴ヒ逃亡セルコトヲ發

覺ス（註衛兵長早出沖尉ハ[redacted]ノ便来シタルコトヲ知ラス）

三 原因ト認ムヘキ事項

東京理研合成樹脂株式會社職工タリシ當時住々カフエ
ー等ニ出入シタルコトアリ逃亡當時ハ司令部ノ幹部ノ大
部ハ演習ノ爲不在ナルヲ窺ヒ遊蕩ヲ思付キ慰安所等
ヲ彷徨中歸隊時期ヲ逸シ遂ニ逃走シタルモノト思料ス

四 動機

幹部大部演習ノ爲不在ナルヲ窺ヒ俄ニ遊蕩ヲ思付慰
安所等ヲ彷徨シ時間ヲ經過シ歸ル時期ヲ逸シ自責又
ハ罰ヲ恐レテ逃亡シタルモノノ如ク他ニ確タル資料ナシ

五 處置及其ノ後ノ狀況

三月二十七日逃亡不在發覺ト共ニ司令部内ノ捜索一部兵
力ニ依ル杭州市内ノ捜索ヲ實施スルト共憲兵隊ニ捜索
手配ヲ依頼ス

2. 二十八、二十九日及三十日夫々一部兵力ヲ以テ杭州市内ヲ捜索セルモ發見スルニ至ラス

3. 憲兵隊ノ調査及其ノ他ニ依リ判明セル逃走後ニ於ケル状況左ノ如シ

イ. 二月二十六日夜ハ杭州市内慰安所開門亭ニ立テ寄リタルモ暫次ニシテ同所ヲ出テ市内支那旅館滄州旅館ニ宿泊ス

ロ. 二十七日ノ足取不明ナルモ同夜錢塘江畔芝江大學内ニ宿泊翌二十八日錢塘江鉄橋ヲ自動車ニ便乗渡江シタルコト確實ナリ

ハ. 三月六日頃本人蕭山(南岸地區)市内ヲ歩行シアリシヲ元師團管理部傭人タリシ台湾人詹壽春發見シタルコトヲ十四日頃聴取ス

二. 以上ニ依リ本人ハ自殺惑ハ敵地投降等ノ[illegible]ニ出スルコトナク

陸軍

杭州周邊地區ヲ彷徨中ト判断セラレ憲兵隊及錢塘江
南岸地區警備隊ニ連絡依頼シ捜索継續中ナルモ未タ
手懸ヲ得ス

六、責任者ノ處分

管理部長ハ司令部内各雇傭人取扱關係者ニ對シ
之カ取扱ハ兵同様十分其ノ個性ヲ熟知シ一層骨肉ノ至
情ヲ以テ監督指導シ再ヒ斯クノ如キ事ナキ様嚴ニ注
意ヲ與フ又雇傭人全員ニ對シ右ノ非違ヲ説キ懇々説
諭セリ

直接責任者タル管理部庶務掛將校ノ責任ニ就テ檢
討スルニ當人ハ司令部来馬小隊長ニシテ當時尚演習ニ
参加シアリテ歸隊シアラス事故ノ原因他ノ人爲的介在ナ
シト認メ且逃亡後本人ノ行動等ヲ判断スルニ思慮浅キ若
者ノ一時的思索[illegible]

七、其ノ他必要ナル事項

1. 服装所持金及携行品

軍衣、軍袴、冬襦袢、同袴下、戰帽、防雨外套

所持金概ネ三十圓内外

2. 本籍地及採用前ノ職業家庭状況

群馬縣碓氷郡 [redacted]

自 [illegible] 年 [illegible] 月 至 [illegible] 年 [illegible] 月 東京市本郷區 [redacted]

家庭ハ父母、姉弟妹六ノ家庭ニシテ父ハ養蚕教師トシテ

家ヲ支ヘ月收百圓内外ナルモ生計豊ナラス

3. 採用後出入セシ場所遊興程度

外出ハ常ニ單獨ヲ選ヒ主トシテ映画及支那飲食店ニ

出入シ其ノ間慰安所等ニモ二三回出入シアリ

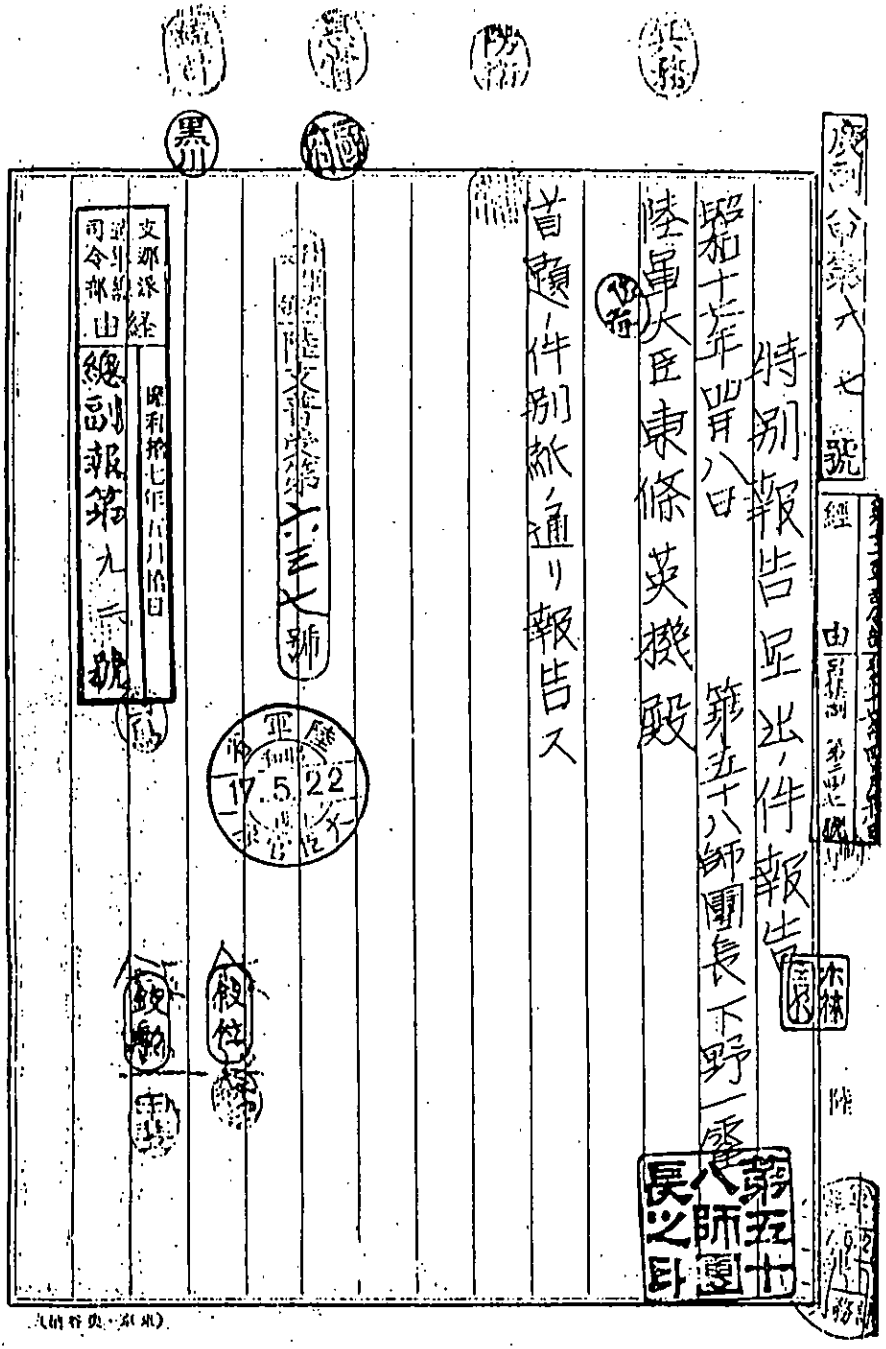
4. 本人ノ性行

温順ニシテ明朗ナルモ幾分意志薄弱ナル所アリ

陸軍

[以下略]

⑱軍紀違犯事項報告［第58師團長］（昭17・4・8）



軍紀違犯事項報告

一、所屬官等級氏名

獨立歩兵第九十三大隊第五中隊陸軍一等兵 [redacted]

同　　同　[redacted]

二、發生年月日

昭和十七年三月二十六日自一八、三〇至二一、〇〇間

三、違犯事項ノ概要

當日〇、九〇〇兩名ハ無斷外出シ慰安所ニ於テ遊興飲酒シ一八、〇〇頃歸隊中ヲ恰モ之ヲ捜索中ノ中隊下士官ニ連レ戻サルルヤ自己内務班内ニ至リ [redacted] 一等兵ハ下士官ノ制止ニモ攔ラズ實包四發ヲ發射シ [redacted] 一等兵ハ實包ヲ發射シント暴ルノヲ取押ヘラレ日夕点呼後、兩名ノ者ハ二二名ヨリ[illegible]ヲ命ユラ[illegible]

陸軍

[以下略]

極秘

陸軍軍事警察年報（昭和十六年）

昭和十七年五月三日
中支那派遣憲兵隊司令部

別紙第一

對上官犯罪主要事例

役種官等級人員	犯罪ノ概要
補一、一	飲酒酩酊シタル儘廐當番ニ服務中酩酊ノ上通リ掛リタル下士官一ヨリ廐當番カ定位置外ニ在ルコトヲ理由ニ叱責毆打セラレ不快ニ思ヒ居タル際後刻廐舍附近ニ於テ再ヒ前記下士官ニ出合ヒタルヲ以テ故意ニ誰何シ茲ニ口論トナリタルモ戰友ニ制止セラレ其ノ場ヲ退カントシタルニ同下士官カ「貴様逃ケルカ」ト罵聲ヲ浴セ乍ラ追從シ來リ其ノ態度頗ル執拗ナルニ激怒シ之ヲ殺害セント決意所携ノ銃ヲ發射シ腹部貫通銃創ヲ生セシメ殺害ス
	飲酒酩酊ノ上無斷外出シ慰安所ニ赴キタルヲ所屬小隊長(中隊長代理)ニ發見セラレ慰安婦ノ面前ニ於テ叱責セラレタルニ激昂歸隊後日本刀ヲ携行同小隊長ノ居室ニ至リ上官タルコトヲ認識シ乍ラ面前ニ於テ

[以下略]

⑳1 昭和一七年四月陸軍々人軍属犯罪表 [中支那派遣憲兵隊司令部] (昭17)

別紙三表第一

昭和十七年四月陸軍々人軍属犯罪表　中支那派遣憲兵隊司令部

罪名	所管所属	本籍役種官等級氏名年令	犯行月日	犯行ノ概要	處置	處分結果
上官面前侮辱、党與上官暴行	中支派遣第五三八三部隊	本籍岐阜縣海津郡[redacted]隊軍[redacted]當二十六年	四、四	両名ニテ外出中飲酒酩酊ノ上二三ヶ日頃慰安所ニ於テ大聲ニテ喧噪中同所ニ居合セタル陸軍少尉一ヨリ「静粛ニセヨ」ト諭旨セラレタルニ[redacted]ハ憤激シ上官タルヲ認識シアルニ不拘同少尉ニ對シ「ヤルナラ來イ貴様等新兵カ何タ」ト其面前ニ於テ侮辱シ且押シ倒スヘク両手ヲ突キ出シタルヲ以テ両者組打チトナリタルヲ目撃セル[redacted]ハ[redacted]ニ加担シ両者ニテ同少尉顔	憲兵捜査ノ上四月三十日管轄軍法會議長官宛捜査報告	審理中
党與上官暴行		本籍石川縣金澤市[redacted]隊伍[redacted]當二十九年				

戰時逃亡

中支派遣曉第九四一部隊

本籍大分縣宇佐郡[redacted]軍屬（船員）[redacted]當二十年

自二十四至三十三

漢口碇泊中ノ所屬船ヨリ逃亡シ市内淫賣窟並黄陂縣下新呆附近等ヲ徘徊宿泊シ漢口市内ニ於テ憲兵ニ逮捕セラルヽ迄戰時ニアリテ故ナク十七日間職役ヲ離ル

三月四日管轄軍法會議長官先攫査報告

管轄軍法會議ニ事件送致

允許外出シ外出時限五十分前ニ皈營レタル處皈營時刻遲キ故ヲ以テ古年兵ヨリ叱責毆打サレ尚當日外出中敬禮哨ニ注意セラレタル旨ヲ告ケタル所日夕点呼後再詰問スルトノ言ニ怯ヘ家庭ノ事情ヨリ軍隊生活ヲ嫌忌シアリタル折柄日夕点呼後ノ叱責ヲ恐レ二十時頃[illegible]

審理中

[中略]

軍用物毀棄 掠奪 窃盗

中支派遣 月第七三八八 部隊川根隊

本籍 岡山縣小田郡 [redacted] 三二八

現一 [redacted] 當二十二年

決意洋車夫ヲ銃劍ニテ威嚇シ支那服上衣及帽子ヲ強奪シ更ニ支那民家ニ侵入支那「ズボン」支那服ヲ提供セシメテ変装シ自己着裝ノ防雨外套、略帽、軍衣袴、編上靴、巻脚絆及三十年式銃劍ヲ遺棄後偶々通行中ノ華人ノ身体検査ヲ實施聯銀券二十圓ヲ掠奪逃走シ該金銭ヲ遊興費及飲食代ニ費消更ニ翌二十九日市内露店ヨリ四圓二十銭ヲ窃取ス

一、許可外出中飲酒シ慰安所使用人(平島人)ト慰安所ニ赴ク途上口論ノ結果

四月八日管轄軍法會議長官宛捜

審理中

備考	處分結果		
四、六	三月々報中		
窃盜	窃盜	窃盜	
現一	現二	軍属	
懲役一年	懲役一年	懲役六月二年間執行猶豫	

ニ於テ發火ノ因ヲ為シタルモノト推定セラル
然而本火ニ依リ本縣憲兵隊本部將校宿舍全燒シ損害約一萬圓ヲ生ス

⑳-2 昭和一七年四月陸軍々人軍属非行表 「中支那派遣憲兵隊司令部」（昭17）

附表第六

昭和十七年四月陸軍々人軍属非行表　中支那派遣憲兵隊司令部

所管所属	役種	官等級	非行人員	非行ノ内容	處置
中支派遣	軍属	一	四一九	允許外出中飲酒酩酊シ一二四ロ頃慰安所ニ登楼遊興中待遇上ノ不満ヨリ「アルコトル」瓶ニテ酌婦ノ左後頭部ヲ毆打打撲傷ヲ負ハシム	所属長ニ處置ヲ在所属隊ニ於テハ嚴重訓戒當分ノ間外出禁止ニ處ス
中支派遣 晩第二九五八部隊	補上	一	四二五	禁止セラレアル支那側郵便小包ヲ利用シ内地ヘ向テ「ノオル」靴下等ヲ發送セントス	所属隊ニ通報シ現品ハ本人ニ還付ス
中支派遣 呂第五五一部隊	補一	二	四二	公用外出中飲食店ニ立入リ飲酒酩酊ノ上遊興中ノ客ニ對シ暴行ヲ加フ	非違通報部隊側ニ於テハ重営倉音
中支派遣				允許外出中陸軍慰安所ニ於テ	非違通報

藤田隊	第一六九部隊補一	一四、一	慰安婦ヲ殴打暴行且器物ヲ破壊ス	部隊側ニ於テハ重営倉三十日
佐々木隊	中支派遣 第五三三部隊	四、一九	允許外出中飲食店ニ於テ飲酒酩酊上遊興中他部隊兵ヲ殴打暴行シ尚器物ヲ破壊ス	非違通報 部隊側ニ於テハ各重営倉二十日
徳廣隊	中支派遣 第九三部隊軍属 一	一四、二四	勤務中飲食店ニ於テ飲酒上慰安所ニ到リ当日休日ナルニ拘ラス登楼セントシタルヲ楚ニ制止セラルルヤ之ニ憤激シ楼ニ暴行ス	非違通報 重営倉三日並苦役三日
坂六隊	中支派遣 第五六一部隊補一	一四、二五	允許外出中飲酒酩酊シタル結果上衣及帯剣ヲ脱シ通行人及支那人商店ニ入リ暴行ス路上ニ横タワル等服装態度ヲ紊ス	非違通報
支那派遣軍		自二月	本名ハ車体番号ヲ自動車ニ「ガソリン」使用許可証ヲ附シ於	

部隊	職	人	事	事
總司令部松機關	囑託	至四、四	機關ノ名ニ於テ支那人ニ無免許運轉（非ナルヲ知リツヽ）セシム	非違通報
中支派遣第四二野戰郵便局	軍屬	二	兩名ハ私服外出シ許可ナク旧英租界、佛租界ニ立入リ賭博類似行爲ヲナス	所屬長ニ處置一任
中支派遣曉第二九四一部隊德廣部隊四八隊	軍屬	一	外出中飲酒酩酊ノ上上衣及股釦ヲ脱シ剩ヘ公衆面前ニ於テ路上ニ横臥喧噪スル等ノ醜態ヲナス	非違通報
中支派遣曉第二九四六部隊牧野部隊高橋隊六二號	軍屬	一	所屬船ニ於テ飲酒酩酊ノ上附近繋留中ノ曉第二九四一部隊所屬支那人乘組船ニ到リ船員ニ暴行ヲ加フ	所屬隊責任者ヲ呼出シ身柄ヲ引渡ス
第二十二師團步兵第八十四聯隊第一大隊第四中隊	豫中尉	一	新設部隊要員トシテ派遣セラレ夫々來湖軍人倶樂部ニ於テ別個飲酒中互ニ酒勢ノ乘スル處ト	非違通報（口頭）

14

[以下略]

判決

本籍 [redacted]

所屬 北支派遣憲第四二五七部隊附

陸軍主計中尉從七位勳六等 [redacted]

明治四十一年五月十四日生

右ノ者ニ對スル業務上横領收賄被告事件ニ付當軍法會議ハ檢察官陸軍法務官岡田痴一干與審理ヲ遂ケ判決スルコト左ノ如シ

主文

被告人ヲ懲役一年ニ處ス

右被告人ヨリ金七百六拾八圓六拾四錢ヲ追徵ス

理由

被告人ハ中學校卒業後昭和四年一月現役兵トシテ入隊シ伍長下士官ニ進級シテ勤續中同十二年十一月陸軍經理學校ニ入校卒業ノ上

犯意ヲ繼續シテ

一、同十五年十月十九日頃前記潤治ヨリ平壤府櫻町料亭梅わかコト山村との方ニ於テ一人當金十一圓四十八錢相當ノ飲食遊興ノ饗應アルヤ右ハ同潤治カ自己ノ業務タル陸軍倉庫ヨリノ請負ニ係ル壓搾馬糧ノ製造竝ニ製品ノ納入ニ付被告人ヨリ指導ヲ受ケ種々世話ニ爲リタル謝禮ト將來モ引續キ便宜ノ取扱ヲ得ントノ趣旨ヲ以テ致告人ニ對シ贈賄スルモノナルノ情ヲ知悉シ乍ラ之カ饗應ヲ受ケ

二、同年十一月十六日頃及同十六年二月十二日頃ノ二回ニ亘リ前記常吉ヨリ同府港町料亭喜よ美コト山田ます枝方ニ於テ一人當合計金五十一圓二十五錢相當ノ飲食遊興ノ饗應アルヤ右ハ前同樣ノ趣旨ヲ以テ右常吉カ被告人ニ對シ贈賄スルモノナルノ情ヲ知リ乍ラ之カ饗應ヲ受ケ

三、同十五年十一月三十日頃及同十六年一月十八日頃ノ二回ニ亘リ前記常吉及前記善太郎ノ兩名ヨリ同府黃金町料亭たまや

コト後藤源次郎方外一ヶ所ニ於テ一人當合計金四十五圓九十一錢相當ノ飲食遊興ノ饗應アルヤ前同樣ノ趣旨ヲ以テ被告人ニ贈賄スルノ情ヲ知リ乍ラ該饗應ヲ受ケ

四、同十五年十二月中旬頃豫テ馴染ナリシ京城府彌生町貸座敷業江口又三郎方抱娼妓[redacted]コト[redacted]ヨリ同女ノ廢業ニ要スル金錢ノ調達ヲ依頼セラルルヤ前記常吉トノ間ニ前敍ノ如キ職務上ノ關係アルヲ奇貨トシ同人ニ對シ當時同支庫雇員タリシ[redacted]ヲ通シテ金一千圓ノ借用方ヲ懇請シ以テ職務ニ關シ賄賂ヲ要求シ

五、同十六年二月初旬頃右安子ヨリ重ネテ調金ヲ依頼セラルルヤ同月十二日頃再度前記常吉ニ對シ前同樣職務上ノ關係ヲ通リ右政二ヲ通シテ表面借用ヲ裝ヒ金六百圓ノ融通方ヲ懇請シ因テ同夜前揭料亭喜よ美方ニ於テ右常吉ヨリ金六百圓ヲ提供セラルルヤ右ハ同人カ自己ノ業務タル馬糧ノ製造竝ニ製品ノ納入等ニ付從來被告人ヨリ指導ヲ受ケ種々世話ニ爲リタル謝

[以下略]

軍人ノ變死ニ関スル件報告　第三飛行師團司令部

一、官等級　陸軍曹長

一、氏名　[redacted]

一、所属部隊　第九十一飛行場大隊

一、月日時　昭和十七年九月十五日十八時三十分頃

一、場所　中華民國江蘇省上海江湾西兵舎

一、手段　拳銃自殺（十四年式）

彈藥ノ出所　本人ニ支給シアル十六發ノ中一發使用

一、平素及自殺前後ニ於ケル參考事項

本人ハ極メテ温順ニシテ責任感旺盛ナルモ西覇氣ニ乏シク服務狀態稍々生氣ヲ缺ク、家庭ハ父母、弟妹二計五人ニシテ何レモ健康、家計ハ父也ヲ司リ農ヲ營ミ村内中流ノ生計ヲ爲ス

昭和十六年九月欠事掛下士官ヲ命ゼラレテ以來

17.11.17

陸軍

精勵恪勤克ク主計將校ヲ補佐シテ其ノ任務ヲ
遂行シアリシガ昭和十七年七月十七日自己ガ炊事勤
務以來部下タリシ陸軍調理手原島源太郎ノ轉勤ニ
方リ送別會ヲ實施セントテ當日一九〇〇ヨリ二四〇〇迄
自身ノミ臨時外出ノ許可ヲ受ケ擅ニ炊事勤務
中ノ陸軍上等兵[redacted]以下九名ヲ無斷引率
外出シ江湾鎮江湾食堂ニ到リ飲酒酩酊ノ後
歸營ニ當リテ自ラ引率セル上等兵[redacted]ノ
列中ニ無キヲ知リシモ深ク尋ヌル事モナク他ノ兵ヲ
引率シテ二三三〇頃歸營セリ
一方[redacted]曹長ノ手裡ヲ脱セル[redacted]ハ
更ニ丸金食堂ニ赴キ飲酒酩酊ノ後劣情ヲ催シ
翌十八日〇二〇〇頃慰安所ニ赴キタルモ既ニ閉門後
ナリシ為止ムナク歸途ニ就キタル際偶々江湾鎮花

園寺一八七徐林弟方前ニ差掛ルヤ醉狂ヨリ同家
表扉ヲ叩キテ開門セシメ就寢中ノ[redacted]（一
五歳）ナル姑娘ヲ認メ遽カニ同女ヲ姦淫セントノ劣
情ニ馳ラレ銃劍ヲ以テ同女ヲ脅迫約五十米隔リ
タル畑地ニ連行強テ姦淫シ其ノ目的ヲ遂ゲタルモ
同家ヨリノ報告ニ依リ憲兵ニ連行セラレ身柄共
軍法會議ニ送致ノ後七月二十七日懲役三年一
等兵ニ降等ノ判決ニ處セラル
尚[redacted]曹長ハ炊事勤務兵ヲ無断ニテ引率外出
シ且部下ヲシテ重大ナル過失ヲ犯サシメシ科ニ依リ
七月二十三日重謹慎二十日ニ處シ同行セル他ノ兵八
名ニ對シテハ嚴戒飭スルト共ニ七月二十三日以降一ケ
月間ノ外出禁止ヲ命ジタリ
前來[redacted]曹長ハ主夏任成ヨリ心中深ク期スル所

陸軍

〔以下略〕

㉓—1 南方派遣渡航者ニ關スル件 [台湾軍司令官] (昭17・3・12)

60-2

陸軍省受領 陸亞密受第二二九號

秘 電報譯 三月一二日午前後一九時三〇分發 三月一二日午前後二二時四〇分著

發信地

大臣宛 發信者 台湾軍司令官

台電 第六〇二號

陸密電第六三號ニ関シ「ホルネオ」行キ慰安土人五〇名為シ得ル限リ派遣方南方總軍ヨリ要求セルヲ以テ陸密電第六二三號ニ基キ憲兵調査選定セル左記経営者三名渡航認可アリ度申請ス

左記

愛媛縣越智郡[redacted]台北州基隆市日

3

新町二ノ六 [redacted] 四十二歳 朝鮮全羅南道済州島 [redacted] 台北州基隆市義重町四ノ一五

[redacted] 三十五歳 高知縣長岡郡 [redacted] 高雄州潮州郡潮州街二六七 [redacted] 五十一歳

終

0491

第八六頁

保存期限 三年

決裁指定

決行指定

受付番号

件名 陸亜密受第三三五九号 南方派遣渡航者ニ関スル件 其ノ壱 軍

起案者 副官 決裁後回付 前課長 課名 軍事 軍務

恩賞

主務局課

番号	受領	提出	大臣官房 受領	大臣官房 了結
兵備第三〇八號	昭和 年 月 日	昭和十七年三月十六日	昭和 年 月 日	昭和 年 月 日

大臣 委

次官 委

軍事課長

軍務局長

軍務課長 菅井

軍務課員 恩

軍務課員 員子

兵備 代

兵備

高級副官

軍事課長

軍務局長

軍務局長 代

軍務局長

軍務局長 代

軍務局長

軍務局長

軍務局長

0492

副官ヨリ基湾軍参謀長宛

返電案（暗号）

陸亜密電

三月十二日附基電第六〇二号ノ件

認可セラル依命



0493

㉓—3 南方派遣渡航者ニ關スル件［台湾軍参謀長］（昭17・6・13）

要二三九

秘 電報譯 六月一三日午前後一時一五分發 六月一三日午前後一時一五分發

發信地

副 官宛 發信者 台湾軍参謀長

名電 第九三五號

本年三月名電第六〇二號申請陸亜密電第一八八號認可ニ依ル「ボルネオ」ニ派遣セル特種慰安婦五十名ニ関スル現地著後ノ實況人員不足シ稼業ニ堪ヘザル者等ヲ生ズル為尚二十名増加ノ要アリトシ左記引率岡部隊發給ノ呼寄認可證ヲ携行歸名セリ事實止ムヲ得ザルモノト認メラルルニ付慰安婦二十名増派諒承

檢閲者

17.6.14 陸軍大臣

17.6.1 兵備

番號 取扱

32

相成度

尚将来此ノ種少数ノ補充交代増員等必要ヲ生ズル場合ニハ右ノ如ク適宜處理シ度隊ヘ諒承アリ度

左記

基隆市日新町二ノ六

[redacted]

終戦

㉔—1 渡航手續ニ關スル件［波集團參謀長］（昭17・11・12）

発信地 第廣東號

秘 電報譯 一一月一二日午前後一三時二〇分發 一一月一二日午前後一四時五二分著

次官宛 發信者 波集團參謀長

波集參電第五一〇号 廿

邦人ノ南方渡航統制ニ関シテハ軍ハ三月三十日附陸亜密第九九三号ニ係ル暫定措置要領ニ基キ嚴ニ実施中ナルモ左記項目ノ通疑義ノ莫之アルニ付御回示

陸軍

軍務課 675

〔中略〕

相成度

左記

一 軍酒保要員坑ニ慰安婦ニ対スル正式渡航

手續ヲ如何ニスルヤ

二 第三國人ノ南方渡航ハ一月二十二日附陸亜密

第一八六号（乙）項ニ基キ新渡航ハ差當リ之ヲ

認メザルノ方針ハ了承セルモ第三國人

通報先

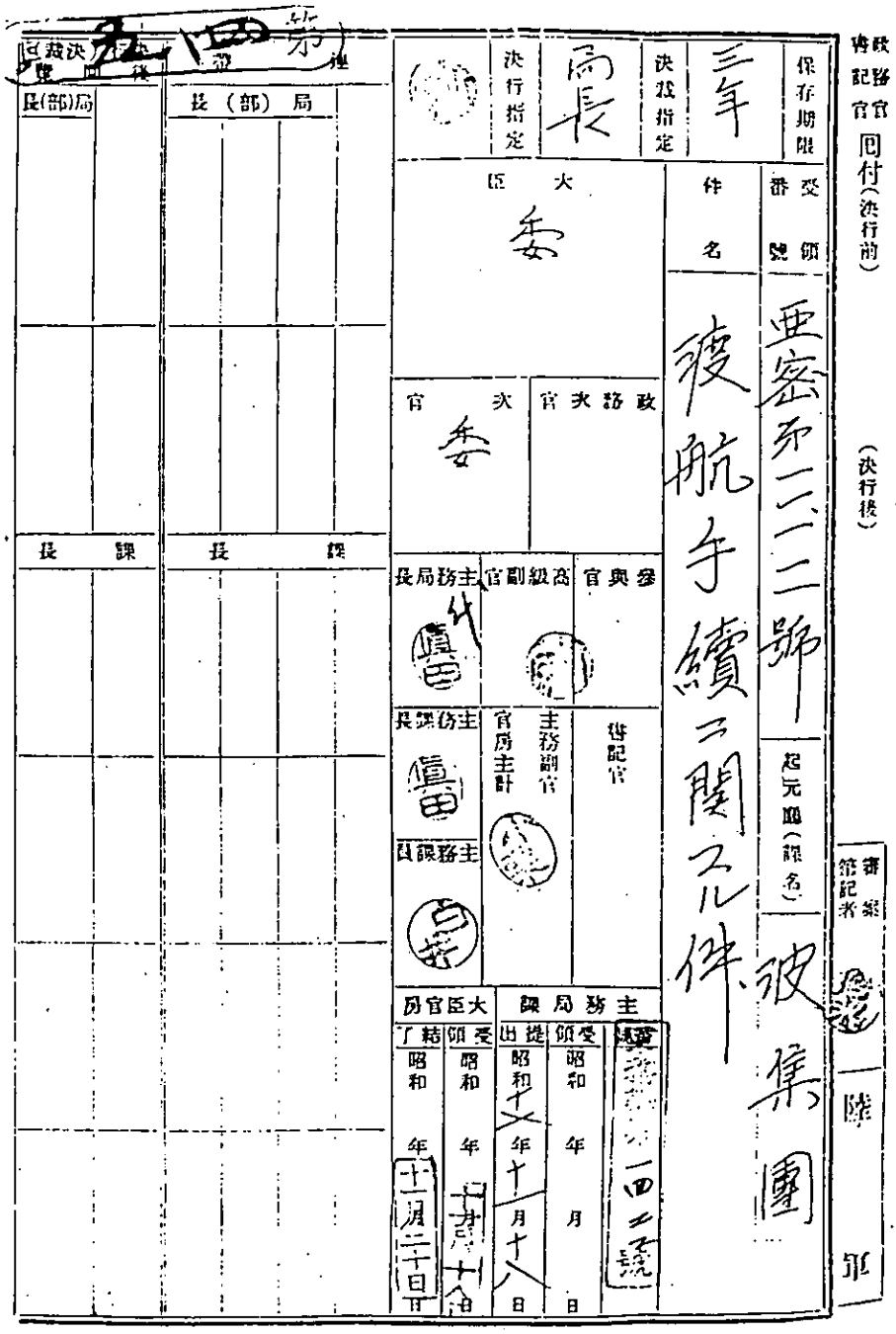
（特ニ中華民國人並ニ敵性ナキ印度人ニシテ止ムヲ得ザル事由存スル場合ノ渡航正式手續ヲ如何ニスルヤ

（特ニ南方占領地並ニ佛印泰ニ區別シテ承知致度）

陸軍省（總軍ハ參考）

陸亜

㉔—2 渡航手續ニ關スル件［陸軍次官］（昭17・11・18）



（陸亜密電）

次官ヨリ坡集團參謀長、
南方軍總參謀長宛電報案
（暗號）

坡集參電第五一〇號返

一、軍醫保要員並慰安婦ニ對スル渡
航手續ハ昭和十七年四月二十三日陸亜
密第二八三號ノ下ニ依リ處理
セラルヘキモノナリ

尚慰安婦ハ既ニ南方地域ニ於テハ
飽和状況ナル由ニ付為念
ニ已ムヲ得サル事由ニ依リ第三國人ノ占
領地ニ渡航スルモノハ個々ニ詮議スヘキ
ニ付陸軍省ニ連絡セラレ度
尚佛印及泰ニ渡航スルモノニ就テハ
軍ニ於テ利用セントスルモノハ前項ニ準シ、

陸亜

貴方ニ於テ證明ヲ與ヘテ渡航
ヲ必理シ
也ト其他一般渡航者ハ外交
手続キニ依ルモノナリ
通電先波、(岡ハ参考)

陸軍

一三九八

108

昭和拾七年十一月廿八日



㉕戰時月報［香港占領地総督部］（昭17・4）

戰時月報

香港占領地総督部

昭和十七年四月

陸軍省 17.6.26 醫事課

陸軍省 17.6.23 第132號 機械課

陸軍省 17.6.17 工政課

陸軍省 17.6.17 工政課

陸軍省 17.6.10 防衛課

陸軍省 17.6.13 獄醫課

陸軍省 17.6.20 第319號 鉱砲課

陸軍省 17.6.12 馬政課

陸軍省 17.6.4 前午

陸軍省 17.6.24

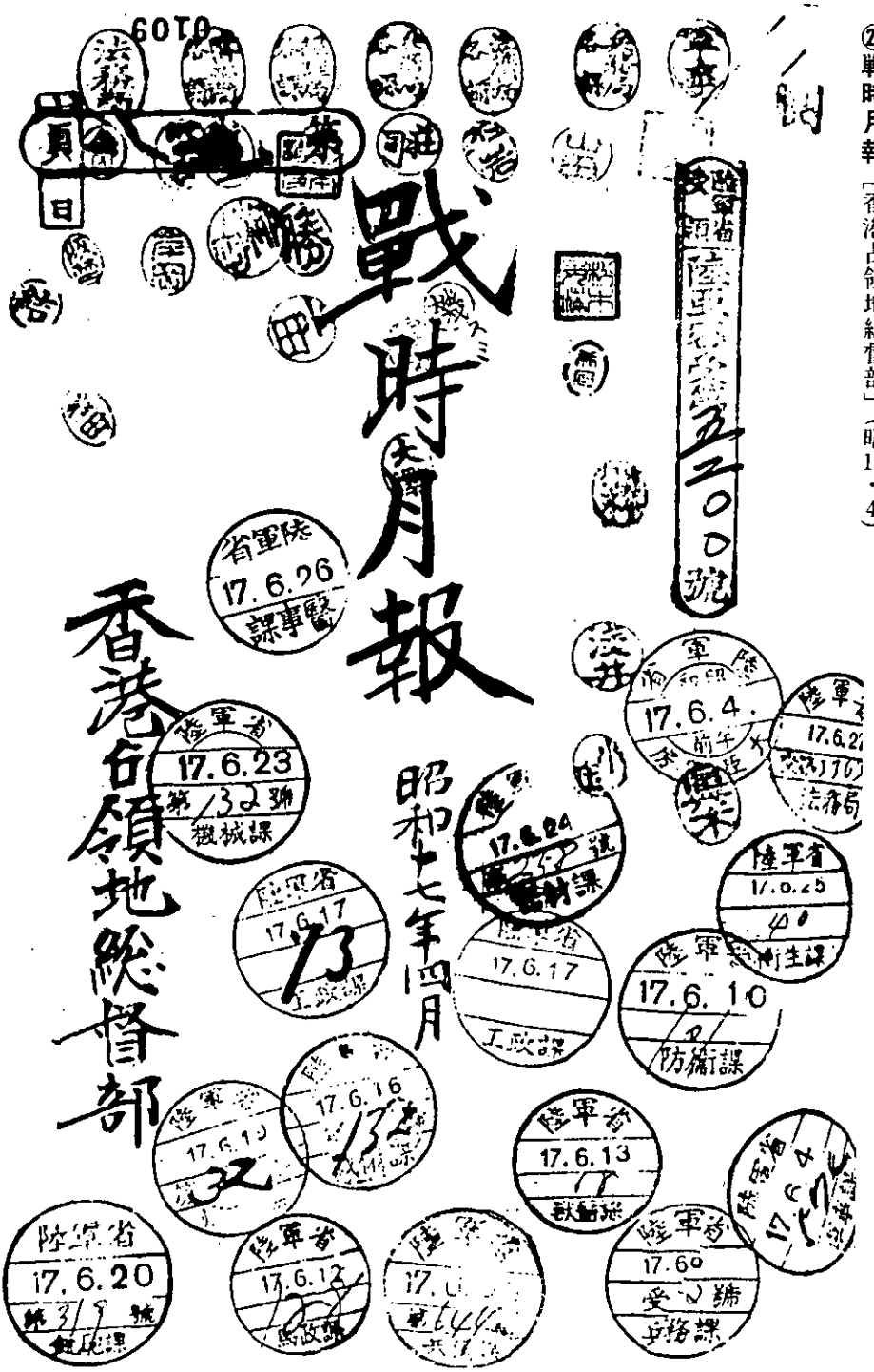
陸軍省 17.6.25 衛生課

陸軍省 17.6.16

陸軍省 17.6.20 第319號 鉱砲課

陸軍省 17.6.12 馬政課

陸軍省 17.6.20 受2號 兵務課



〔前略〕

現在軍政會計ニ屬スル出納官吏（出納員）ハ二十五名ニシテ其ノ內行政機關八名ヲ除キ他ハ何レモ事業關係ニシテ其ノ種類左ノ如シ

電氣　一　水道　一　瓦斯　一　遞信　一
衛生　一　煙草　一　放送　一　鐵道　一
市場　一　農業　一　運輸　二　土木　一
冷凍　一

其ノ從業人員表及軍政會計每月末殘高附表第六ノ如シ

第六　衛生

一　軍隊衛生

軍傳染病豫防規定及軍防瘧要領ヲ制定シ軍隊保育要領亦起案中ナリ傳染病豫防ニ就テハ現地ノ實情ニ鑑ミ最大ノ努力ヲ拂ヒツツアリシモ「コレラ」患者二名ヲ出シタル外ナシ、又脚氣患者增加ノ傾向ニアルヲ以テ給養ノ改善ヲ督勵シアリ、花柳病亦增加ノ傾向ヲ示シアルヲ以テ慰安所來者ヲ限定セル一定地區ニ集結セシムル如ク計畫シ慰安所內衛生施設ヲ定備セシムルト共ニ軍人軍屬ノ豫防處置ニ萬全

ヲ期シツツアリ月間患者發生狀況附表第四ノ如シ

二　地方衛生

地方衛生狀態ハ住民ノ衛生思想低ク腸管系傳染病深ク侵淫シ就中「コレラ」ノ如キハ數年來越年ノ狀況ニシテ本年初發以來一、一九五名（內保菌者五二名）ニ遞シアリ

其ノ他ノ傳染病ニ於テモ相當多數發生シアルモノト推定セラルルヲ以テ衛生行政機構ノ定備ヲ急キ施設ノ改善ト相俟チテ地方衛生ノ向上ヲ期シアリ

本月中ニ於ケル疫病調査、豫防接種患者發見狀況左ノ如シ

檢　痰　數	二四、六七六名（內陽性五）
コレラ豫防接種	四三〇、四三九名
檢疫戶數	五七、九八一戶
檢疫人員	二九四、五三六名
摘發數	一九四名
チブス豫防接種	九一四名

［以下略］

㉖香港ノ警備竝ニ軍政實施ニ關スル香港占領地總督第二遣支艦隊司令長官間協定覺書（昭17・5・4）

昭和十七年五月四日　五拾部ノ内第拾號

軍事極秘

香港ノ警備竝ニ軍政實施ニ關スル香港占領地總督第二遣支艦隊司令長官間協定覺書

香港占領地總督陸軍中將　磯谷廉介

第二遣支艦隊司令長官海軍中將　新見政一

［前略］

ニ關スル事項

(一)香港攻略ニ關スル第二十三號司令官第二遣支艦隊司令長官間協定第十五ノ(ロ)項ニ依ル海軍警備擔任地域内海軍管理一般諸施設中左ノ外其ノ管理ヲ總督ニ移管ス

(イ)第二海軍病舍(舊東華東病院)

(ロ)海軍軍法會議廳舍(舊少年感化院)

(ハ)海軍自動車修理工場(舊香港ホテルガレージ)

(ニ)海軍自動車修理工場附屬倉庫(舊テキサス倉庫)

(ホ)北角海軍倉庫地帶

(ノ)第十一特別工作部廳舍(舊政廳倉庫)但シ將來海軍水路部

豫定地

(2)海軍北角倉庫及附近廣場(舊西南運輸倉庫)

(3) 海軍水上警備隊見張所竝ニ特務倉庫（舊太古洋行石炭置場）

(ヘ) 下士官兵集會所附近廣場竝建物

(ト) 港務部見張所兼倉庫（ヨツト倶樂部）

(チ) 海軍經理部第四、第五倉庫但シ軍需品格納ノ要無キニ至ラハ移管ス

(リ) 兵舍竝ニ宿舍

現在使用中ノ海軍兵舍竝ニ宿舍

(ヌ) 慰安施設

海軍會館（舊英京飯店）海軍將校倶樂部（六國飯店）海軍慰安所（四軒）海軍指定食堂（五軒）但シ適當ノ時機ニ移管ノコトトス

(ル) 舊クリケツトグラウンドハ總督部管理シ陸海軍共用トス

〔以下略〕

秘

自昭和十二年十二月一日
至昭和十二年十二月三十一日

陣中日誌

B C D R

獨立攻城重砲兵第二大隊本部

状況報告

一 全般

當大隊ノ一般ノ状態ハ戰鬪力ノ充實軍容ノ整備豫豫期ノ如ク進渉シ直チニ立テ次期作戰ニ應シ得ルノ状態ニ在リ

然レ共細部ニ至リテハ尚改善向上ヲ要スル点多キニ鑑ミ益々精神威力ノ鍛練ト訓練ノ精列ヲ期シ以テ上司ノ要望ニ答ヘントス

二 軍紀風紀

軍紀風紀状態ハ緊張シアルモノト認ムルモ稍々モスレハ身戰場ニ在ルノ自覺ニ乏シク偷安ヲ事

「中略」

戰傷　[illegible]名
循環器　四名
呼吸器　二名
花柳病　一名
感冒、胃神經病各一　三名
計　二四名

十一、慰安

慰安設備ハ兵站ノ經營スルモノ及軍直部隊ノ經營スルモノノ二ヶ所アリテ定日ニ幹部引卒ノ許ニ概ネ一隊約一時間ノ配當ナリ衛生上ノ檢査ノ爲メ軍醫ヲシテ豫メ立會点檢セシメツヽアリ

十二、其他

〔以下略〕

秘

自昭和拾參年壹月壹日

至仝　年壹月參拾壹日

陣中日誌

其二

獨立攻城重砲兵第二大隊第二中隊

[前略]

1/26

爲ヲセマラサルコト

九今後各隊ニ下士官ヲ差出スコトアルヲ以テ協議サレタシ

警備隊會報

警備隊會報

一各隊ハ規定以外ノ點燈ヲセサルコト

二部隊トシテ外出セシムル時ハ警備隊ニ通報スルコト

三二十九日ニ各隊ノ酒保商人ヲ憲兵隊ニ出頭セシムルコト

四支那通貨ハ各隊ニテ處分スヘシ

第四野戰病院

一去日九歳ノ女児ニ暴行セシモノアリ

調査ノ結果同女ハ花柳病ニ感染シアリ之ニ鑑ミ各隊ノ花柳病患者ニ注意スヘシ

昭和十二・大阪・高木納

二 浜姑娼婦中検査ニ合格セルモノハ合格票（木札）ヲ持セシムルニ付注意スヘシ

一 支那民家ニ立入ラサルコト

二 支那人ニ對シ暴行セサルコト

三 軍票ノ價値ニ對シ認識セシムルコト

四 良民戸籍簿ヲ作成スルニ付附近支那民ニ戸籍ノ登録セシムルコト

南三十六野戦郵便局

一 明日ヨリ爲替ノ取扱ヲ実施ス

會報事項

三 午後四時ニ於ケル會報事項要旨左ノ如シ

一 明二十七日左ノ時間表ニ依リ身体検査ヲ実施ス

記

［以下略］

秘

自昭和十三年二月一日

至仝　年二月二十八日

陣中日誌

獨立攻城重砲兵第二大隊第二中隊

二月一日(火) 晴

課目 一 實施課目

午前 軍紀教練及兵器手入

午後 小銃戰鬪法

砲臺整備要員出發 二 南京附近砲臺整備要員トシテ左記人員ハ齋藤中尉ノ指揮ヲ受ケ南京ニ向ヒ出發ス

山本栄伍長(長)

名和上等兵 古久保上等兵 本田上等兵 加藤 金澤

中山 橋角 奥島 黒崎 村中 徳田

辻 澤田 中谷

木下准尉南京出張 木下准尉 軍司令部ニ連絡ノタメ同行ス

三 乘用車二〇二號(運轉手 長崎 助手 熊代)ヲ在鎮江軍直轄砲兵隊司令部ニ貸與ス

會報 四 中隊會報

[中略]

一、携帯兵器ノ手入ヲ確實ニ行フコト
明朝禮時銃劍、革具ヲ檢査ス
二、娯樂所ノ日割決定次第示ス
行フトキハ必ス外出證携行ノコト
豫防藥星秘膏ヲ支給スルモ絶對的ニ非リ
ルヲ以テ注意スヘシ
三、衛戍地會報
1、一月二十八日午前十時三十分和正街廣場ニテ
煙草二箱ヲ盗メルモノアリ
2、一月二十七日鎮江ニ於テ「トラック」衝突シ死
者ヲ出シタル件アリ運轉ニ注意スヘシ
四、警備隊司令部命令ノ要旨
密偵ノ報告ニヨレハ横林鎮附近ニ下逞ノ
徒出沒シアリ栗林部隊ハ之カ討伐ニ

(昭和十二年、四始所蔵日介納)

二月二十四日(水)晴

課目	一 實施課目
	観測小隊　小隊教練
	戰砲隊　砲廠ノ地均シ作業ヲ實施
	二 午後二時ヨリ健康診断
獨攻二日命第二六號受領	二 獨攻二日命第二六號ヲ受領ス
會報	四 中隊會報
	一 明後二十六日酒保品運搬ノタメ自動貨車一ヲ本部ニ差出シ段列見本軍曹ノ指揮ヲ受ケシムヘシ
	食糧運搬ノタメ自動貨車一ヲ鎮江ニ差出スヘシ
	二 慰安所ノ使用時間變更セラル
	下士官　自午前十時　至午前十一時

陸軍

[中略]

兵 次回ハ自午後三時至午後四時

三、本日健康診断ヲ受ケサルモノハ明日之ヲ行フ

四、送金希望者ハ明日午後五時ヨリ七時マテノ間ニ

井上少尉ノマトニ差出スヘシ

26

(昭和十二、四、西島産業出合納)

[中略]

二月二十七日(日) 晴

課目 一 實施課目

午前 軍紀敎練

午後 「バスケットボール」場ノ地均シ作業ヲ行フ

藤田少尉歸還

二 藤田少尉 午後十時 蘇州ヨリ歸還ス

會報

三 中隊會報

一、近ノ大隊長ノ清潔檢查アリ 井戸、便所ヲ特

二 清潔ニスヘシ

二、運動盛ントナルニ伴ヒ 外傷豫防及被服保存

二 注意スヘシ

三、慰安所ニツキ

下士官ノ時間定レルニツキ注意スヘシ

四、三月一日夜 朝日新聞社ノ慰問映画アル筈

場所未定

陸軍

自昭和十三年三月一日
至仝　年三月三十一日

陣中日誌

獨立攻城重砲兵第二大隊第二中隊

［前略］

三月三日（水）曇小雨　休養日

一朝禮後軍紀教練（敬禮動作）ヲ行フ

二午後大阪工廠附一瀬中佐火砲ノ視察ニ來ル

會報

三午後七時中隊會報

一中支派遣軍ノ名稱變更ヲル

「上海畑部隊本部」

爾今郵便物ノ宛名ハ、上海派遣万波部隊松田隊」トス

二兵中ニ支那人飲食店ニ立入ル者アリ

衛生上不可ナリ　立入リヲ禁ス

三城内ニテ強奪、掠奪各一件アリ（衛戍地會報）嚴ニ注意スベシ

四外出證ヲ所持セスシテ慰安所ニ行ク者アリ

[中略]

ス 割當ノ日ナラサルニ行ク者アリ

五 慰安所規定中必要ナル事項及注意ヲ左ニ示ス

1. 下士官、兵ノ入口ハ南側東門トス

2. 單價

支那人 一円

朝鮮人 一円五十錢

日本人 二円

3. 金ハ必ス支拂フコト

4. 時間ハ概ネ一時間以内

5. 防毒ニ注意スルコト

6. 飲酒者ノ出入ヲ禁ス

二月十一日（金）曇

課目

一 實施課目

午前、午後共ノ 觀測分隊 射撃修正計算板ノ用法

通信分隊 手旗現字通信

戰砲隊 火砲射撃準備

二 朝禮時北支ニ於テ行動セル軍ニ對シ賜リタル勅語及寺内大將ノ奉答文ヲ傳達ス（別紙）

三 午後一時 松本伍長、北上、梅川ハ貨車二〇八號（杉本、下村上）ニテ鎮江ヘ郵便物受領ノ爲出發

午後五時二十分歸著ス

北村伍長上海ヨリ歸還

四 上海ヘ火砲屬品受領ノ爲出張中ノ北村伍長ハ本日午後六時半、大隊本部側車ニテ歸來ス

井上少尉ハ「あづま」旅館ニ在リト

中隊命令

五 中隊命令

陸軍

「中略」

陸軍砲兵一等兵　坊田敏夫

補助憲兵トシテ　松井上等兵ト交代常州憲兵分遣隊ニ勤務スヘシ

中隊會報

中隊會報

一、下士官ニシテ慰安所ニ夜行ク者アリ

昨日憲兵隊ニテ確證ヲ得タリト

曰直巡察將校ニテヨク取締ルコト

又他部隊ノ割當日ニ行ク者アリ

二、外出先ノ兵ノ行動不良ナリ

巡察者、憲兵ニ非違ヲ認メラルルカ如キ事無キ樣ニ特ニ慰安所ニ於ケル行動ヲ慎ムヘシ

三、明日食糧運搬ノ爲貨車一輛ヲ差出スコト

（昭和十二、四、西島彦榮副合納）

三月十四日(月)曇後晴

課目 一 實施課目

午前 觀測分隊 方向交會法
通信分隊 回光通信
戰砲隊 分隊教練

午後 觀測分隊 方向交會法
通信分隊 電話通信故障發見法
戰砲隊 分隊教練

二 生駒營長以下十名ハ二〇六號ニテ江陰方面ヘ自動車部分品拾集ノ爲午前七時五十分出發 午後二時歸著ス

會報 二 午後七時中隊會報

一 夏服ハ四月下旬支給ノ豫定

二 軍司令部ヨリ演習用具、空包支給ナルル

[中略]

ニ付、明日會報時マテニ入用数報告ノコト

三、齒科藥劑ヲ軍ヨリ支給サルル豫定ナリ

又齒科醫巡回施療ニ來ル筈ナリ

四、自動車ノ部隊號標識ハ前後ニ附スコト

五、襟章、肩章ハ警備間ニ於テハ必ス附スコト

六、兵器ノ修理ニ関シ左ノ通報アリ

第一兵器現地修理班（松尾部隊）カ出來攻城砲兵廠ニテ不可能ナル修理ヲ行フト

七、慰安所ニ於テハ行動ヲ慎ミ暴行ナト行ハヌコト

獨攻ニ日命第三大號受領

四、獨攻ニ日命第三大號ヲ受領ス

中隊命令

五、中隊命令

陸軍砲兵伍長　吉田清吉

（昭和十二、四、西島産業組合納）

三月十六日(水)晴

課目　一　當施課目

午前　兵器手入

午後　携帯兵器検査

中隊長歸還　二　午後五時五十分　中隊長ハ夏川ヲ伴ヒ二〇一號(山本ヒ、八幡)ニテ歸還ス

會報　二　午後七時中隊會報

一　衛戍地會報中必要ナル事項

1. 無料ニテ物品ヲ徴發スル者アリ

2. 城内外ニテ婦女子ニ暴行ヲ加ヘントセシ者アリ

3. 濫リニ民家ニ立入リ婦女子ヲ探ス者アリ

4. 支那人經營ノ飲食店ニ立入リ飲食スル者アリ

5. 新聞配達人ヨリ新聞ヲ奪ハントシタル者アリ

嚴ニ戒ムベシ

二、次ノ物品ヲ慰安所ニ置忘レアリ憲兵隊ニテ保管ス

1. 巻脚絆 一組

2. 十九円五十錢入財布

三、人力車經營セラレンドス 無料ニテ乘ルヘカラス

四、慰安所ノ公休日ハ毎月十五日トス

四 中隊長ハ上海出張間 上海第二兵站病院ニ入院中シアリシ 柴田竹次郎ヲ見舞ヒタルモ柴田ハ去ル十二日内地ニ向ヒ還送セラレタリトノ事ナリ

五 (1) 獨攻ニ作命第五大號ヲ受領ス

(1) 獨攻ニ作命第五大號受領

(昭和十二、四、西島兵站組合試)

[以下略]

昭和十三年三月

常州駐屯間内務規定

獨立攻城重砲兵第二大隊

常州駐屯間内務規定ヲ本書ノ通リ定ム

昭和十二年三月十六日

大隊長　万波少佐

目次

第一章　總則
第二章　日課時限、起居及容儀
第三章　諸勤務將校勤務、下士官勤務、衛兵勤務當番勤務）
第四章　火災豫防、消防、非常呼集
第五章　命令下達及會報
第六章　連絡
第七章　郵便物
第八章　休日及外出出張
第九章　慰安所使用規定
第十章　軍機保護及防諜
第十一章　支那人ノ取扱
第十二章　炊事及入浴
第十三章　衛生

［中略］

第九章　慰安所使用規定

第九　方針

緩和慰安ノ道ヲ講シテ軍紀粛正ノ一助トナサントスルニ在リ

第十　設備

慰安所ハ日華會館南側圍壁内ニ設ケ日華會館附屬建物ヲ下士官、兵棟ニ區分ス

下士官兵ノ出入口南側表門トス

衛生上ニ關シ樓主ハ消毒設備ヲナシ置クモノトス

各隊ノ使用日ヲ左ノ如ク定ム

星部隊	日曜日
栗岩部隊	月火曜日
松村部隊	水木曜日
成田部隊	土曜日
阿知波部隊	金曜日

村田部隊　日曜日

其他臨時駐屯部隊ノ使用ニ関シテハ別ニ示ス

第六十　實施單價及時間

1. 下士官兵、營業時間ヲ午前九時ヨリ午后六時迄トス

2. 單價

使用時間ハ一人一時間ヲ限度トス

支那人　一円〇〇銭

半島人　一円五十銭

内地人　二円〇〇銭

以上ハ下士官、兵トシ將校（准尉含ム）ハ倍額トス

（防毒面ヲ附ス）

第六十一　檢査

毎週、月曜日及金曜日トシ金曜日ヲ定例檢徴日トス

檢査時間ハ午前八時ヨリ午前十時迄トス

檢査主任官ハ第四野戰病院醫官トシ兵站予備病院並各隊醫官ハ之ヲ補助スルモノトス、檢査主任官ハ其ノ結果ヲ第三項部隊ニ通報スルモノトス

第六十三　慰安所利用ノ注意事項左ノ如シ

1　慰安所内ニ於テ飲酒スルヲ禁ス

2　金額支拂及時間ヲ嚴守ス

3　女ハ總テ有毒者ト思惟シ防毒ニ關シ万全ヲ期スヘシ

4　營業者ニ對シ粗暴ノ行爲アルヘカラス

5　酒肴ヲ帶ヒタル者出入ヲ禁ス

第六十四　雜件

1　營業者ハ支那人ヲ客トシテ採ルコトヲ許サス

2　營業者ハ酒肴茶菓ノ饗應ヲ禁ス

3　營業者ハ特ニ許シタル場所以外ニ外出スルヲ禁ス

4　營業者ハ總テ檢徵ノ結果合格証ヲ所持スルモノニ限ル

第六十五　監督擔任

監督擔任部隊ハ憲兵分遣隊トス

第六十五　附加事項

1　部隊慰安日ハ木曜日トシ當日ハ各隊ヨリ使用時限ニ幹部ヲシテ巡察セシムルモノトス

2　慰安所ニ至ルトキハ各隊毎ニ引率セシムヘシ

但シ巻脚胖ヲ除クコトヲ得

3　毎日十五日ハ慰安所ノ公休日トス

［以下略］

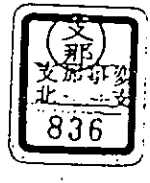
㉜-1 第一四師團衛生隊第三中隊陣中日誌四號（昭13・4・10）

自、昭和十三、四、一
至昭和十三、六、二十六

第四号
陣中日誌

第十四師団衛生隊第三中隊

防衛研究所図書館



四月十日
亦新御飯馬口
雅

一、日直上ト兵 武井邦三郎服務ス
二、東口郭隊衛兵ト辛左ノ通リ服務ス
五、衛兵司令 伍長 齋原正直、歩哨掛 畠中信男 歩哨
田中豊吉、青木平四郎、田郭井林吉、高柳長郎
高橋正三、中澤良一 今井熊弁 小石川浅吉
石島利郎、
三、東口下士哨ト辛左ノ通リ服務ス
哨長 伍長 谷島定雄 歩哨掛 石坂一二男 歩哨
江表豊二郎、田中正一、久保田廣一、大表健一郎
小山正一、今井慶吾、小林清美 櫻井正一
四、本日午前八時三十分須茶少尉以下七十名那須郭隊配屬
ト辛出発ス（郭下小隊）
五、上ト兵 草間兵以下二口名午前八時三十分前進衛生隊ト辛青山
写医大尉ノ指揮ニ依リ出発ス

六、警備人員僅少ニ付キ各分隊長ヲ集メ配備ノ区障碍物ノ構築ニ付現地ニ到リ指示ス

七、部隊長出哨線及宿舎ヲ巡視セラル

八、浜野曹長部隊ニ連隊校ノ勤務ニ服ス

九、本日ノ診断ノ結果依田都徳軍郷予備病院ニ入院ス

一〇、衛生隊會報

四月十日午後五時於軍郷鉄馬ニ本部

一、外出ニ於テル敬礼ハ概シテ良好ナルモ服装ハ一般ニ不良ナリ一般ニ注意ヲ喚起セラレ度シ

二、補任及恩賞其他関係事項ニ関シ又ハ希望アル時ハ取リ纏メ来ルナニ日迄ニ本部ニ提出相成リ度シ

3 北支方面ニ於ケル等用手票ノ使用ヲ禁止セラレアルニ付キ所持セル者ハ本部ニ於テ交換セラレ度シ

4、支那妓女ノ検徴ノ成績ヲ見ルニ殆ト有毒ナルニ依リ支那妓楼ニ出入セサルコト

5 入院患者アル時ハ患者ノ給與通報送附ニ付特ニ迅速ナラシムル如リ努メラレタシ

㉜-2 第一四師團衛生隊第三中隊陣中日誌八號（昭13・11）

昭和十三、十一

第八号

陣中日誌

第十四師団衛生隊

防衛研究所図書館



〔前略〕

アラバ明日ハ時迄ニ本部ニ報告セラレタシ

(二) 丹河橋梁ハ予定ノ通リ明日ハ開通ス

(三) 明日ハ外出日ニ付左ノ如キ事項ニ注意スベシ

イ、個人及部隊ノ各警ヲ訪ザル様注意スベシ

ロ、敬禮ニ就テハ上官ハ元ヨリ同級ト雖モ互ニ敬礼ヲ交ス様ニ注意セラレタシ

ハ、服装ハ正シク其態度厳正ナルヲ要ス

ニ、外出先ニ於テ自制心ヲ失フ程多糧ニ飲酒セザル様注意シ置カレタシ又時候ハ食欲増進ノ候ナルモ支那人飲食店ニ入リ暴飲暴食等セザル様注意アリタシ

ホ、各兵ノ所持スル時計ハ外出スル時ニ基準トスル時計ニ合セ外出セシメラレタシ

ヘ、警備隊ニ於テハ冶割表ヲ配布セラレタル事ニ付

(大阪・反本約)

10.16 十一月八日 於寓晴 變

十九

八、同時男嚴守ノ上入若セシメラレ之 南門街入浴場

本日ノ患者情況左ノ通リトス

罹患 三口 軽患五 治癒 二 [illegible] 繃休 一二

就業二一、計三三名

九、人員第三中隊一五六 車輌隊八一

衛生部三三大行李一六 小行李十六

高橋隊長以下三口二名 馬匹五五頭

一、本日部隊日直将校西田准尉服務ス

二、本日巡察下士官近兼軍曹服務ス

三、本日ノ日直下士官大森伍長同上等兵畠中信男服務ス

四、本日第一部隊衛兵トシテ左ノ通リ服務ス

司令伍長篠崎耕一郎 歩哨 横 森常市
歩哨 染野宗五郎、横山金作 中村清一
大川一男 安保萬一郎、駒場七郎

五、本日第二部隊衛兵ト亨左ノ通リ服務ス
司令特、守谷文衛 歩哨 榊山常志
渡辺芳治、藤 義良雄、鳥羽芳高 林辰、雄

六、歩二八旅日命第一四一號
西部警備隊日日命令
一月八日十五時 於西部警備隊司令部

(一) 尓今野砲兵第二日聯隊第一大隊ハ旅團司令部及衛
生隊(人ヲ)ノ病馬並ニ装蹄ヲ実施スベシ
西部警備隊長 木村村少將

丁達法 印刷交附ス

七、衛生隊第三部日日命令
陸命第号 伍長
十一月八日十七日 於陳慶衛生隊本部
須崎外美

(大阪・阪本)

No. 17

〃 上等兵　　山田義明

右酒保委員並ニ助手ヲ命ス

依テ来ル十一日ヨリ重田主計ノ指示ヲ受ケ服務スベシ

(一) 大行李ヨリ濾水器運搬ノ為メ挽馬一頭ニ保管轉管

換ヲ命ス依テ十一月六日小行李ニ引渡スベシ

(三) 尓後衛生隊ノ病馬並ニ裝蹄ハ野砲兵第一大隊ニ於テノ

実施セルニ付同隊ニ至リ治療及裝蹄ヲ行フベシ

八、衛生隊第三部會報　　同　於懐慶衛生隊本部　日

(一) 来ル十一日十時ヨリ工兵隊ニ於テ慰霊際ヲ沁河北岸廣

場ニ於テ行ナハルヽニ付各隊ニ於テ知人又ハ希望者ハ同日

八時三十分迄ニ本部ニ集合セシメラレ度シ

(二) 服装ハ徒手帯劍巻脚絆トス

来ル十一月十五日頃故者山遊弥少從佐以下六柱

ノ慰霊祭ヲ行ナハルヽニ付各隊ハ十四日迄ニ本部ニ

陸軍

安置ニ得ル如ク豫メ準備セラレ度シ

(三) 料タニ飲食店料理店営業者ヲ集メ協議ノ結果左ノ通リ定メラル

定價ハ近日中ニ各営業者ヲ集メ協議ノ結果左ノ通リ定メラル

イ. 精酒一本（一合ハ） 五拾錢

ロ. ビール一本 八拾錢

(四) 藝娼妓一対ニ對スル玉代 下二田下士官

參田准士官以上四円

(五) 酒類販賣ニ就テハ藝娼妓ヲ抱ヘ左ル家ニアリテハ酒類一切ノ販賣ヲ厳禁シアルニ付私知セラレ度シ

(六) 藝娼妓ノ合格者ト雖モ無帯毒ハ保シ難キヲ以テ必ス防毒ヲ実施セル様指導セラレ度シ

(七) 過日會報告映画ハ来ル十一月十日旅團司令

（大阪・民本納）

10.18

部前ニ於テ十九時ヨリ二十二時迄実施ス依テ各係
毎ニ引率シ同日十八時三十分迄ニ同所ニ集合セラレタシ

九、懐慶野戦倉庫会報　十一日八日　於懐慶

(一) 明九日九時ヨリ左記燈火用燃料ヲ交附ス

左記

一 ハローソク、又、石油 3、隣寸

一 本日ノ患者情況左ノ通アトス

旧患三三、新患二 治癒一一、入院二、鰊休三

二 就業二口

十、人員担架帯三中隊一五七　車輌 小隊八一

衛生部三三　大行李一六　小行李一六

高橋隊長以下三〇七名　馬匹五五頭

一〇 新郷少尉中ノ室田之計仰長、尚義明帰隊ス

昭和十四、一

弟十号

陣中日誌

弟十四師団衛生隊弟三中隊

防衛研究所図書館
842

〔前略〕

給養ハ兵站給養ニ依ルベシ但シ用者ニ場所ニ帰
除スヿヿシ

三、衛生隊第三部長　高橋中尉

十、衛生隊第三部會報　一日二十三日　於廣慶寺部

(一) 明二十四日左記ニ依リ日例身体検査ヲ行フ

1、時刻及場

自九時三十分　至十時三十分　捏架第三中隊

自十時三十分　至十一時　小栖小隊

自十一時　至十一時三十分　大小行李、衛生部

2、場所　衛生部

3、当日ノ勤務者及其他ノ勤務者ニ對シ矢右ノ
順序ニ依リ十三時ヨリ宮祐ス

(二) 支那人接客婦ニハ有毒者多キニ考ヘラルレニ
付成ルベク支那人料理店ニ立刊ラ又様注

(大阪　阪本朝)

~~64~~ 56

一月二十四日 晴 於懷慶

意セシメラレ度ニ

本日ノ患者情況左ノ通リトス

將患五、内練休三 就業五

人員 担架第三中隊一五四 車輌小隊七八

衛生部三六 大行李一七 小行李一七

高橋隊長以下三口二名 馬匹 [illegible]頭

七一

一、本日部隊日直將校勤務トシテ遠野曹長服務ス

二、本日巡察下士官近藤伍曹服務ス

三、本日第一部隊衛兵トシテ左ノ通リ服務ス

司令上等兵横森常一、步哨掛倉田守

步哨中村清一、飯島辰秋、駒場七郎

四、本日第二部隊衛兵トシテ左ノ通リ服務ス

[以下略]

昭和十四・五

十四号 陣中日誌

第十四師団衛生隊第三中隊

防衛研究所図書館



[前略]

兵器手の具

3、排列方法、各宿舎毎ニ宿舎前ニ机ヲ出シ品目別ニ排列シ名札ヲ附ス　小銃ハ分角解ス　銃剣軍刀ハ其レソレ革具ヲ別ニ排列ス

4、受検ニ際シテハ勤務者以外全員立會フベシ服装ハ平常ノ儘トス

5、左ノ留了補助官ヲ命ス

補助官	分担
須茶中尉	銃口及照準具（助手大森伍長）
西田准尉	手の（小銃）（助手山口伍長）
下山軍曹	小銃ノ機能（助手船橋上ノ兵）
前原宇都	軽機ノ機能ニ手入兵器手の具喇叭及員数検査（助手長幅上ノ兵）
幸澤伍長	銃剣ノ手の機能

（大阪　阪本納）

中島伍長　帯革　剣差シ

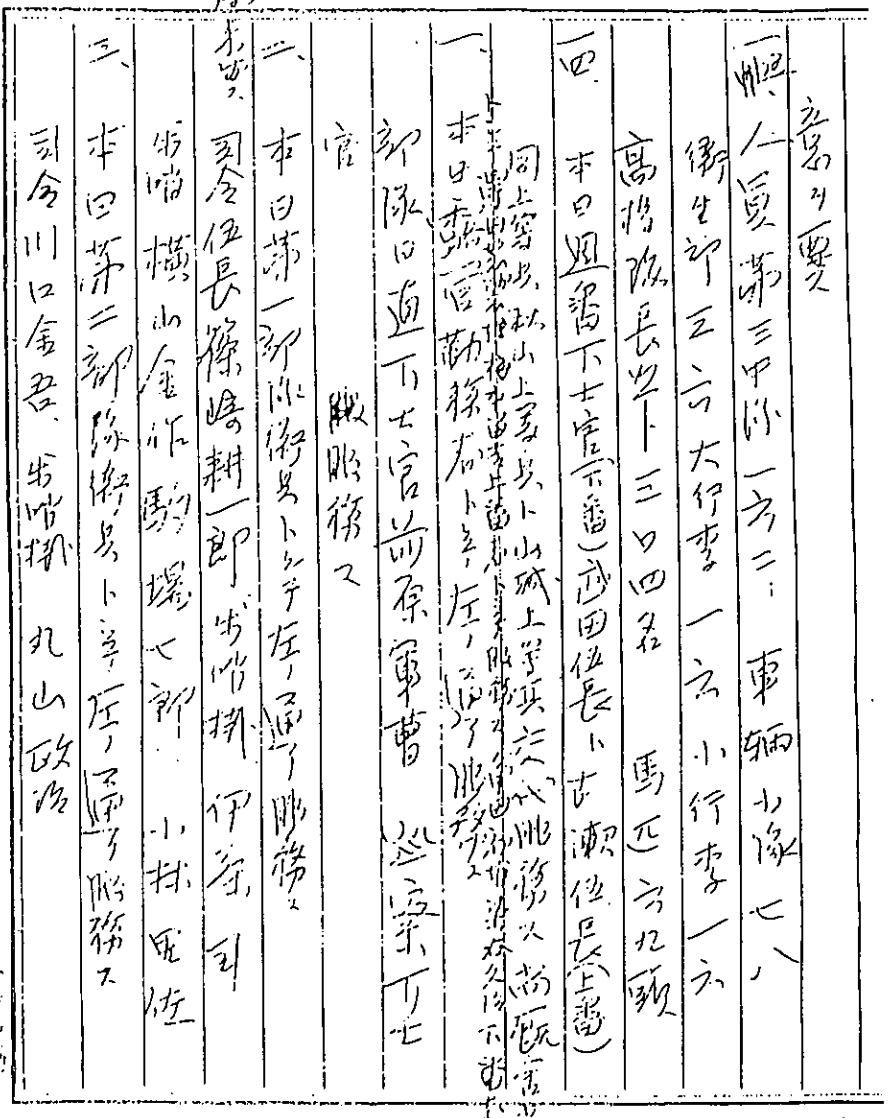
宝井伍長　薬盒

外ニ担架第三中隊ハ山口伍長、大夫伍長外
兵三名ヲ助手ト名差ニ出スベシ但シ筆記具携行ノコト
又補助官及助手ハ十二時五十分迄ニ衛生部ニ集合ノ如ベシ
以講評ハ十八時ヨリ本部ニ於テ実施ス各隊下士官（車輌
部隊ハ各隊長班長）以上集合スベシ服装ハ一般講評
時ニ同シ

衛生隊第三部長　高橋中尉

一三、本日晴壊慶露営會報　五月十三日於寛慶

一、近来支那人密姪賣者城内各所ニ點在スル如之等ノ殆ト大部ハ猛烈ナル花柳病四離病者ナルヲ以テ絶對ニ立入リヲ禁止ス公認ノ者ト雖支那人ハ不健全者多キヲ以テ注



22

山崎宮雄　榊山常志　上野種雄　降旗将司

四、本日第一野戦病院衛兵ト多左ノ通リ服務ヲ

司令上下兵衛山縁松江、歩哨掛　神永義三

歩哨　吉山登、増山福治、田中玄明

五、本日懐慶野戦倉庫衛兵ト多左ノ通リ服務ヲ

司令伍長島中信男　歩哨掛　長岡武雄　歩哨

青木平四郎　野口由五助、須原季忠外

六、十三時ヨリ前日ノ命令ニ基キ兵キ検査ヲ実施

ス十六時終了シ十八時補助官ニ依リ講評

ヲナシ終リテ部長総評ヲ行フ

七、本日ノ患者情況左ノ通リ

旧患二三、新患三、治癒一、練休九

就業一六　計二五名

八、衛生隊第三部日部命令　五月十四日十八時　於懐慶衛生隊第三部本部

㉜-5第一四師團衛生隊担架第三中隊陣中日誌一六號（昭14・7）

昭和十四・七

十六号

陣中日誌

第十四師団衛生隊担架第三中隊

防衛研究所図書館



衛生隊第三部日日命令

七月二十一日十二時
於懷慶衛生隊第三部本部

一

(車) 陸軍輜重兵上等兵　久保田　実

右者俸給受領書控提出ノタメ明八月一日懷慶ニ発開封衛生隊車輌中隊事務室ニ出張ヲ命ス

(車) 陸軍輜重兵一等兵　野笹富一

右者郵便受領者園原安吉ト其ノ勤務ヲ交代服務ノ為メ明八月一日懷慶出発開封衛生隊本部ニ出張ヲ命ス　但シ何レモ連絡自動車及列車ニ依リ給養ハ兵站ニ依ルモ開封ニ於テハ部隊給養ニ依ルヘシ

二

(車) 陸軍輜重兵軍曹　南坂英雄

右者輜重兵器受領ノタメ来ル八月二日懷慶ニ発開封衛生隊車輌中隊ニ出張ヲ命ス

(車) 陸軍輜重兵一等兵　今井新

右者車輌中隊事務室助手トシテ服務ノタメ来ル八

月二日懐慶ヒ発開封衛生隊車輌中隊事務室ニ
出張ヲ命ス
但シ何レモ連絡自動車及列車ニ依リ給養ハ兵
站ニ依ルモ開封ニ於テハ部隊給養ニ依ルヘシ
三、衛生部ハ雨今接客婦衛生検査ヲ別紙担任区
分表ニ依リ実施スヘシ
四、衛生部ハ雨今難民ニ対スル施療ヲ実施スヘシ
但其材料ハ第一野戦病院ヨリ交付セラルヽ筈
細部ハ直接第一野戦病院ト連絡スヘシ

衛生隊第三部長　高橋中尉

衛生隊第二部會報　七月廿日於懷慶

一、本七月三十一日ノ馬匹檢査ニ從事ゼル下士官以下ニ對シテハ明八月　日外出ヲ許可スルニ付一般ニ承知ノコト

二、懷慶露營會報（寫）

寫ル八月三日旧懷慶野戰郵便局ニ於テ清化鎭野戰郵便局ニ金錢並務出張取扱ヒ實施ス

但シ一日限リトシ八月十日實施豫定ハ取止ム

昭和十四・八

第十七号

陣中日誌

第十四師団衛生隊担架第三中隊

防衛研究所図書館



34.

一月十一日
曇り
於懷慶

高橋隊長以下二三八名　馬匹六九頭

参考、本日ハ朝ヨリ終日太陽ヲ見ス時々晴シタルモ引
續イテ雨ノタメ相当減少シタル水ハ再ビ二寸
位ノ増水ヲ見タリ然ルニ天候恢復ノ見込ミ
立タス夜ニ入リテハ一入強ク降リ續ケ居タリ

一、本日露營勤務員トシテ左ノ通リ服務ス
部隊日直將校　須原中尉　巡察下士官平澤
軍曹服務ス

二、本日第一部隊衛兵トシテ左ノ通リ服務ス
司令伍長大島貞雄　歩哨掛　田中正一
歩哨　矢島清次　本橋勢雄　松本吉貞

三、本日第二部隊衛兵トシテ左ノ通リ服務ス
司令一等兵二村一正　歩哨掛　柳山常志

[前略]

陸軍

歩哨 向井周松 村津光人 芹澤恭平

裏豊治

四、本日野戦倉庫衛兵トシテ左ノ通リ服務ス

司令軍曹武井邦三郎 歩哨掛野口村作

歩哨音兼利兼吉 紫崎惠之助 春原勝

五、本日西南門ノ歩哨トシテ左ノ通リ服務ス

司令伍長武田芳郎 歩哨掛中泉豊三郎

歩哨竹内運一、山城政雄 中野留吉

本日増加衛兵トシテ左ノ通リ服務ス

(車)山崎高雄 丸山村治郎 (小)中澤政博

六、経理室ニ於テハ一日分ノ副食物ヲ購入シ各隊ニ分配

セル外業務ナシ

七、本日命令会報ナシ 集ケタル命令受領者ニ對

シ昨夜来ノ止ミ所ナキ豪雨ニ依リ到ル処ニ倒壊

(大阪 阪本納)

…二付　各隊共々（各部隊）…
…スル様又其他ノ事項ヲ…

陸軍

家屋アルニ付各隊（各部隊）總テノ具ニ就テ十充
注意スル様又其他ノ事項ヲ上ゲテ注意セリ
八、本日ノ患者情況左ノ通リ
旧患二六、新患四、練休一一、就業
一九、計三口、他部隊一
施療和方少尉　同助手ハ前日ニ合シ
接客婦治療稲葉中尉　助手号一
九、人員担架第三中隊一口二　車輌少隊
六九、衛生部三七　大行李一五
小行李一五
高橋隊長以下二三八名馬匹六九頭
参考、[illegible]前夜十時三十分頃ヨリ雨ヒ降
雨トナリ夜中一寸ノ晴レ間モナリ降リ續キタ
リ本日午後一時雨降晴レタルニヨリ天候恢復ト

〔以下略〕

㉝第三兵站部向井支部陣中日誌（昭13・7・1）

自昭和十三年七月一日
至今八月二日

陣中日誌

寫碭山

向井支部

[前略]

長ニ報告書ヲ提出ス

四、碭山宜撫班ヨリ慰安所設置ニ関シ申入アリシヲ以テ

敬言備隊長ト圖リ之ヲ許可セリ

五、十七時運給只ヨリ左記ノ書類ヲ受領ス

左記

軍監甲 [illegible] 四十四年 四一五年 二通

會報 一通

情況 [illegible] 一通

一、[illegible]部隊繋理部長ヨリ次ノ電報ニ接ス

電文

極千六〇竹一〇埔二月八時徐州駅器十一時碭山駅

(次第[illegible])

通過第三〇九列車貨車番號（八一三九）ニテ発送ニ付御

下手配ヲ乞フ

七、国防支隊患者四十五名ヲ残置シ二十四時碧山ヲ出発セリ

八本日ノ給養人員　四九人名

原本史料

昭和一三、一二、一〇

第二軍状況概要

2A

司令部

防衛研修所戦史室

支那 支那事変 武漢 53

目次

第一　軍一般ノ態勢
第二　軍當面ノ敵情
第三　各兵團ノ狀況
第四　漢口及漢陽警備
第五　治安及宣撫
第六　人馬ノ補充
第七　交通及通信
第八　後方一般ノ狀況

區分ス

漢口地區ハ獨立工兵第一聯隊長ノ指揮スル歩兵三大隊(一中隊ヲ缺ク)及工兵二中隊ヲ基幹トシ張公堤及漢口軍橋ノ保護市内外ノ警備並治安維持等ニ任ジアリ

漢陽地區ハ歩兵第九聯隊第三大隊長ノ指揮スル歩兵一大隊ヲ基幹トシ主力ヲ漢陽附近ニ集結シ隨時担任區域内各方面ニ出動シ得ルノ準備ニ在リ

警備司令官ハ歩兵一中隊ノ外氣球隊等ヲ直轄シ兩地區ノ警備ヲ統轄シアリ十二月上旬ニ於ケル漢口警備

隊配置ノ概要第一圖ノ如ク漢口漢陽警備ノ爲ニ概ネ現在ノ兵力ヲ以テ支障ナキモノト認ム

三、警備司令官ハ軍紀風紀ノ維持取締リハ勿論、防火、衛生、防疫、外出、慰安等廣範圍ニ亘リ軍隊ノ内務ヲ區處スルニ當リテハ勉メテ嚴格主義ヲ採リ皇軍本來ノ面目ヲ發揮シ威信ヲ發揚スルニ遺憾ナキヲ期シツツアリ以下各項ニ就キ其概要ヲ述ブ

(イ) 軍紀風紀

警備司令官ハ警備勤務ノ實行ヲ圓滑ニシ且軍紀風紀ノ維

[中略]

(二) 外出 慰安

外出ハ警備第一主義ニ基キ當分ノ間引率外出、慰安所出入ノ爲ノ外出以外之ヲ認メス 慰安所ハ十一月二十日ヨリ之ヲ開設シ切符制度ニヨリ混雜ヲ防止シ以テ皇軍ノ眞ヲ維持スルコトニ努メツツアリテ概ネ所期ノ目的ヲ達シアルモノト信ス

四、外人及支那人ニ對シテハ派遣軍ノ規定ニ基キ其通行居住ヲ取締ル一方軍隊ニ對シ其趣旨ヲ徹底シ特ニ第三國權益ヲ尊重スヘキヲ強調シ過誤ノ豫防ヲ期シツツアリ

入城以来渉外關係ニ於テ未タ大ナル事件ヲ生セサルハ幸トスル所ナリ（以下第三圖參照）支那人ニ對シテハ當初安居證ヲ有セサル者ヲ中國區ニ驅逐スル計畫ノ下ニ準備中偶々放火事件頻發セルニ鑑ミ十一月十五日軍ハ斷乎トシテ舊避難民區東端及之ヨリ北方鐵道線ニ至ル片點線路以東鐵道線以南地域ニ於ケル軍隊區商業區、日華區及中國區ノ支那人ノ通行居住ヲ禁止シ警備隊協力ノ下ニ安居證ヲ有セサル支那人（特三區ヲ除ク）ヲ禁止區域以西ニ驅逐ス十一月下旬ニ至リ事態漸

4

[以下略]

㉟—1 獨立山砲兵第三聯隊陣中日誌（昭14・1・7、4・23）

昭和一四、一、一—一四、廿卅 四、三〇

独立山砲兵第三聯隊陣中日誌

原本史料

防衛研修所戦史室

支那
支那中央
武装
294

一月七日　應山城外ニ於テ警備ニ任ス

晴　一〇〇〇聯隊長副官同行監生店警備隊ヲ巡視ス

於應山　一三〇〇ヨリ約ニ時間大原大尉教官トシ聯隊將校教育ヲ

實施ス　課目對遊擊戰法

一四〇〇左記日々命令下達

日々命令　一月七日

一、別紙ノ通リ慰安所監督將校ヲ差出スヘシ

二、陸軍獸医中尉　麻生將春

陸軍獸医豫伍長　中金次郎

一月八日ヨリ二泊三泊ノ豫定ヲ以テ事務連絡及鼻疽檢血持參ノ

爲在漢口軍獸医部並ニ野戰軍軍医防疫部ヘ出張ヲ命ス

三、陸軍砲兵伍長　井手口苦吉郎

一月九日ヨリ約一月半ノ豫定ヲ以テ遺骨及地還送宰領者トシテ

上海ニ於ケル告別式參列ノ後内地護送ニ任スヘシ

四月二日　聯隊本部及第二大隊ハ独山ニ作命第五六號ニヨリ城内及
晴　城外陳家湾附近ニテ待機
應山　聯隊段列半部ハ漢口ヨリ汽車輸送ニテ應山ニ前進中
尤記聯隊日々命令ヲ下達ス

日々命令　四月二十二日　應山

砲兵少尉　蓮尾明
外下士官兵　七名

地図及領残置物件調及用度品購入ノ爲二十三日ヨリ二泊三日ノ予定ヲ以テ漢口ニ出張ノ命ス

四月二十三日　漢口ヨリ汽車輸送ニテ前進中ノ聯隊段列半部本日一二〇〇
應山ニ到着應山城内及城外ニ於テ待機中
昨二十二日　日々命令ニ依リ蓮尾少尉以下七名漢口ニ出張ス
尤記ヨリ命令下達ス

日々命令　四月二十三日　應山

一、補充員タル衛生下士官到着セシニ付左ノ通ヽ配當ス

第大隊　後衛生伍長　小山田末廣

同　補衛生一等兵　間部隆

同　同　庵原長

同　同　岡田正幸

同　同　小下國雄

聯隊段列　同　光石晴次

二、陸軍砲兵一等兵　平田半次郎

命砲上等兵（三月三十日附）

三、靖國神社臨時大祭施行セラルヽ付ヲ各隊ハ四月二十五日遙拜式ヲ実スヘシ追テ遙拜ハ同日一〇、一五ヽ御親拜時刻ニ行フヘシ

四、後備役輜重兵軍曹　名島利雄

給二等給　（三月一日附）

一、別紙特種慰安業務ニ関スル規定抜萃ノ配布ス

聯隊、慰安所利用日ハ毎月曜日トス

但シ明三四月ハ二十五日ト変更ス

自昭和十四年六月一日
至昭和十四年六月三十日

陣中日誌

獨立山砲兵第三聯隊

各隊長ニ與フル指示

雨和十四年六月七日
應山聯隊本部

顧ルニ聯隊ハ昨年十一月第三師團ニ配屬セラレ全力ヲ此ノ地ニ集結シ爾後上司ノ指示ニ基キ滯在稍々久シキニ亘ルヲ覺悟シ教育内務其ノ他ノ諸行事ヲ計畫シ之カ實行ノ途上偶々本年一月俄カニ進發ヲ命セラレ折柄ノ霖雨ヲ冒シ泥濘百數十里ヲ行軍シテ南昌攻略戰ニ參加シ彼ノ壯烈極マル修水河畔ノ砲兵戰次ヲテ晝夜兼行果敢アル追撃ニ於テ恰モ山砲ノ獨占的砲兵戰ヲ遂行シ以テ月餘ト豫想セラレタル南昌攻略モ僅ニ旬日ヨ出テスシテ此ヲ占領セリ

此ニ休養ノ遑マナク直チニ轉進ヲ命セラレ行軍並船舶鐵道輸送第ヲ併用シ極メテ多忙ノ間ニ夫々兵力ヲ集結シ主力ヲ以テ第三師團一部ヲ以テ第十六師團ニ配屬セラレ今次裏東命戰ニ參加シ共ニ勇戰力鬪以テ違大ナル戰果ヲ挙ケ得タルコト既ニ諸官ノ諒知セラルル所ナリ

而シテ第十六師團方面ノ狀況ニ就テハ未タ詳細ヲ承知シ得サルモ
當方面ニ於テハ我カ砲兵戰隊ノ勇猛果敢且歩兵ニ對スル密接ナル
協力ヲ以テ歩兵ノ攻撃ヲ極メテ容易ナラシメタル所ニシテ諸官以下
ノ勞ニ對シ深甚ナル謝意ヲ表スルト共ニ中隊長堤大尉以下名譽
ノ戰死者ニ對シテ謹テ敬弔ノ意ヲ捧クル次第ナリ
茲ニ大會戰ノ一段落ト共ニ聊カ將來ニ關スル本戰ノ企圖ヲ開示シテ
其ノ御問ヲ所ヲ明ニセントス
當聯隊ノ參戰久シキニ渡リ近來ノ動モスレハ地方面ニ移轉スルマニ臆
測スルモノナキニ非サルモ苟モ事將來ノ行動ニ關スル限リ極秘ニシ
テ窺知スルヲ得サルモ先ツ當分少クモ今夏ハ異働ナキモノト判斷セラ
ルヽヲ以テ各隊ハ以下指示スル所ニ依リ今後ノ作戰準備教育
内務及事務整理ニ盡碎シ以テ萬遺憾ナキヲ期セラレンコトヲ
望ム
以下項ヲ追ツテ述ヘントス

（昭和十六・大平社轉）

〔中略〕

一、軍紀風紀

軍紀風紀ノ緊肅ニ就テハ作年武漢攻略戰後訓指セシヲ以テ今茲ニ重ネテ之ヲ詳述セサルモ最近某中隊ニ於軍紀ヲ紊リ處罪セラレタル下士官及兵アリ宜シク前述訓示ヲ再讀シ各級幹部自肅自戒ト懇切ナル指導トヲ更ニ要望シテ已マサル次第ナリ

宣撫工作ノ進捗ニ伴ヒ更ニ注意ヲ倍蓰スルヲ要スルハ第一支那婦女ニ對スル言動第二掠奪啟發的行爲、第三飲食、酒暴行、第四軍機漏洩第五火災及破壞的ニ行爲之ナリ

二、教育

教育ニ關シテハ別冊ヲ以テ指示ス仍テ昭和十四年初頭ニ與ヘタル教育ニ關スル指示ト共ニ合冊スヘシ

三、宿舍及給養

時恰モ白暑ノ候剩ヘ當地ハ暑嚴シク且各種傳染病流行ノ地ナレハ衛生施設ト給養トヲ適切ナラシムルコトニ關シテハ各隊長ニ於

〔中略〕

七、豫後備召集將校ノ考科表ニ就テ口達ス

八、下士官考科表ノ新調及整理

新任下士官多ク又下士官ノ身上異動勘カラサル現況ニ於テ着ニ之カ新調及整理ヲナシ遺漏ナキヲ要ス

九、古年次兵ノ交代

少クモ大正十一年徴集以前ノ兵ハ交代セシメタキ希望ヲ有スルヲ以テ此ノ際調査ノ上聯隊本部ニ提出スヘシ

十、漢口出張者

努メテ取纏メ出張ノ回数及人員ヲ最少限度ニ制限スルヲ要ス

十一、酒保ノ開設

酒保ハ聯隊ニ二個（再大隊各一個）ヲ開設シ聯隊本部聯隊段列要スレハ中隊ニ分所ヲ設置スヘシ

酒保品ハ野戰倉庫ヨリ購買スルヲ本則トス

十二、慰安所ニ就テ口達ス

（昭和十六・大平社納）

交通狀況精神的慰安郵便物酒保等ニ対スル意見

一、交通ニ関スル件

部隊ノ大部分ハ應山北方二行乃至五行ノ本道ヨリ更ラニ小経ニテ一行乃至二行行程地域ニ默々宿營シアルヲ以テ各隊間ノ交通ハ相當不便ヲ感シツツアリ然レテ糧秣ノ補給其ノ他ノ運搬ハ目下駄馬ニヨルモ人馬共ニ疲労著シク次期作戰ニモ支障ヲ生スルノ虞レアリ故ニ自隊ニ於テ極力道路ノ補修・勉メツヽアルモ自動車道ヲ構築シ自動車ノ配給ヲ受ケ之ニ依ル運搬スル如ク顧慮セラレ度

二、精神的慰安ニ関スル件

イ、慰問團及軍樂隊ヲ一層増派シ且慰問品及慰問文ノ屢々送付アル様配慮セラレ度

ロ、慰問袋ハ師團ノ配屬替ニナル關係上支給セラルル回数極メテ尠ク且郷土師團ニ配屬セラレオラサル關係上郷土ヨリノ慰問品ハ受領シタルコト殆ントナシ郷土ヨリノ慰問袋ハ兵ニ多大ノ精神的慰安ヲ與フルモノト思考セラル、ニ

[中略]

付特別ノ配慮ヲ拂ハレ度

3 特殊慰安所ノ外ニ尚師團ニ於テ販賣人ヲ指定シ氣持ヨキ飲食店又ハカフエー式ノモノヲ設置(要スレハ軍人ホーム)シ一層兵ノ慰安ニ努メラレ度

4 現在ノ特殊慰安所ハ慰安婦少ク只情慾ヲ滿スニスキス今少シ慰安婦ヲ増シ精神的慰安ヲモナサシムルガ如ク指導セラレ度

三 郵便物ニ關スル件

中支派遣作戰地内ノ居留民ニ對スル郵便物ノ發送ヲ禁セラレアルモ檢査ヲ嚴ニシ發送出來得ル如クセラレ度

四 酒保ニ關スル件

酒保品ノ品種數量ヲ増加シ品質ヲ向上シ兵ノ希望ヲ滿足センムル樣セラル、ト共ニ食料品ノミナラス日用品等ヲモ販賣スル酒保ヲ設置セラレ度

五 其他

各中隊段列ニ一個宛木製五人入ル位ノ浴槽ヲ支給セラレ度

(昭和十六・大平記)

三

豫備役主計軍曹　平野守

後備役獸醫務軍曹　中島金藏

給ニ等給　（昭和一四五一五附）

六月二十九日　應山及其ノ北方地區ニ駐軍

晴　一二〇〇聯隊長雞公山ヨリ歸隊ス

應山

六月三十日　應山及其ノ北方地區ニ駐軍

晴　一〇三〇別紙日々命令下達

應山　人馬ノ現況別紙旬報ノ如シ

日々命令　昭和十四年六月三十日

一來ル七月七日日支事變ニ週年記念日ニ付聯隊本部大隊、聯隊

段列、毎ニ左ノ行事ヲ行フヘシ

ノ事變一週年ニ當リ下賜セラレタル

勅語拝讀（陸海軍人ニ賜ハリタルモノ　一般國民ニ賜リタルモノ）

2. 皇居遙拜　一二〇〇

3. 精神訓話

二、本事變記念日ノ記念事業トシテ將兵左ノ事項ヲ躬行スルモノトス

1. 將兵記念貯金若ニハ送金

聯隊長以下七月分捧給中

1. 將校准士官　月額ノ概ネ 1/5

2. 下士官　月額ノ概ネ 1/5

3. 上等兵以下　一圓以上

（郵便局ノ七月七日ノスタンプヲ押捺ス）

2. 銃後ニ感謝文ノ発送

聯隊長以下七月七日附ヲ以テ銃後関係個所ニ各人少クモ一通葉書感謝文ヲ發送スル事。

備考

當日ノ慰安所利用ハ成スヘク遠慮スルヲ可トス

（昭和十六・大平社納）

㊱第一〇八師團第四野戦病院業務詳報［北警備隊］（昭14・6・12）

昭和十二、十三、十四年

業務詳報

第百八師團第四野戦病院

防衛研究所図書館

支那 支那事変 北支 769

矢作命第七七九號

北警備隊命令　六月十二日十五時　於霍縣濟南司令部

一、北警備隊ハ第四野戰病院ノ半部ヲ師團長ノ直轄タラシメントス、

二、第四野戰病院長ハ速ニ其ノ第二半部ヲ臨汾ニ汽車輸送シ師團長ノ直轄タラシムベシ、

第二野戰病院ヨリ西宮防疫檢査班及歯科醫（歯科醫扱一ヲ附ス）ヲ第二半部長ノ指揮下ニ入ラシメラルヽ筈、

汽車輸送ニ関シテハ直接停車場司令部ニ連絡スベシ

北警備隊長　矢野少將

病院ハ軍醫部ノ指示ニ從ヒ第二半部ヲ派遣師團ノ直轄タラシムルニ決シ停車場司令部ニ連繋シ貨車ヲ請求シ必要材料ヲ積載シ六月十八日出發臨汾ニ向ヒ前進

[中略]

一回衛生講話救急法実施等ヲナサシメ非常ノ場合ニ於ケル救護演練ヲナセリ

開設間ニ於テコレラ痘瘡ハ勿論要疫ノ流行ヲ防止シ得タルハ官民一般充ク防疫衛生ヲ理解シ熱意ヲ以テ之レニ当リタル結果ト信ズ

尚支那側警務局ト連繋シ傳染病患者早期発見ニ努カメ隔離入院セシメタリ

「尚花柳病予防ノ為毎週一回接客業婦ニ對シ検徴ヲ實施シ不合格者ハ入院治療ヲナサシメ憲兵ヲシテ監督セシメタリ」

三警戒ニ就テ

開設當初ハ尚周囲ニ残敵蟠居シ時々敵襲ヲ企ハルノ状況ニアリ病院自隊ニ於テ自衛隊ヲ組織シ本部前ニ衛兵所ヲ設ケ病院正門ト共ニ立哨セシメ廐舎ト共ニ相

シ兵站宿舎ニ一泊シ十九日第二野戦病院ト交代引継ヲ完了セリ従来病院全員ニテ業務ヲ執行セル霍縣臨汾共ニ各半部ヲ以テ之ニ当ルコトヽナリ而モ一万患者ノ後送容易ニ行ハレズ各員異常ノ緊張ヲ以テ勤務セリ

(二) 防疫ニ就テ

開設當時ハ城内到ル処塵埃山積シ蠅蛆発生多ク極メテ不潔非衛生的ナリシヲ以テ憲兵隊、警備隊ト協議ノ上居留民會(出)防婦人會支那側衛生務局等ヲ督励シ掃除区域ヲ定メテ清掃ヲナサシメ病院ヨリ一週二回衛生巡察ヲ出シ之ガ監督ヲナシ其ノ励行ヲ徹底セシメ面目ヲ一新セリ尚飲食業接客業者ノ食堂炊事場便所等ノ清潔ニ就テモ改善セシメタリ

尚季節ニ従ヒテ種痘赤痢チフス、コレラノ予防接種ヲ施行シ悪疫予防ヲ誘リ居留民国防婦人會ニ對シ毎月

[以下略]

昭和十四年十一月十四日

森川部隊特種慰安業務ニ関スル規定

森川部隊

第一 本規定ハ森川部隊警備地域内特種慰安業務ニ関シ規定ス

第二 特種慰安業所開設ノ趣旨ハ將兵ノ利伐ノ気風ヲ

緩和調節シ以テ軍紀振作ノ一助タラシムル事ニ在

リ從和調節シ以テ軍紀振作ノ一助タラシムルニ在リ

從テ之ガ奬勵又ハ宣傳ニ墮スルノ行爲ハ嚴ニ取締ヲ要ス

第三 警備地域内ノ慰安業務ヲ實施スル爲委員ヲ任

命ス

其差岁及任務分担附表第一ノ如シ

第四 警備隊長ハ慰安業務ヲ監督指導スルモノトス

第五 慰安所及食堂附近ノ警戒並ニ軍紀風紀ノ取締ハ

華容鎮及葛店警備隊長ノ担任トス

第六 慰安所ハ葛店及華容鎮ニセヲ設ク

第七 特種慰安所ニ要スル経費ハ一切経営者ノ負担トス

而シテ経営者ハ左ノ諸項ヲ確實ニ實施スベシ

東京 小雅納

設置ノ主旨ニ反シ又ハ諸規定ノ履行不確ナルモノハ営業ヲ停止シ又ハ退去ヲ命ズ

1. 指定セラレタル階級以外ノ者ノ立入ヲ厳守スベシ
2. 営業時間ヲ厳守スベシ
3. 料金及所定時間ヲ明瞭ナル所ニ掲示スベシ
4. 入所券「サック」ハ将校ニテ発行スル慰安許可證ト料金トヲ引換ニ交付スベシ
5. 逃亡者ニ対シテハ利用者概況ヲ報告スベシ
6. 毎週土曜日ハ二・ヨリ開業トシ同日ハ検徴ヲ受クベシ又毎月第三土曜日ハ公休日トシ第一土曜日ニハ健康診断ヲ受クベシ
7. 常ニ慰安所内ヲ清潔ニシ飲食物及酒類ノ販賣ヲ禁ズ

8. 慰安婦ハ身体ヲ清潔ニシ常ニ室内ヲ清掃セシメ且「サック」ヲ交附シ置クベシ又洗滌設備ヲ整ヘ之ガ励行ヲ監督スベシ

9. 検徴室ヲ設備シ不合格者ハ之ヲ隔離收容シ一般病者ハ自室ニ於テ保養セシムベシ但シ戸扉ハ其ノ旨標示スベシ

10 経営者ハ毎日ノ賣上表ヲ製作シ毎週月曜日警備隊長ヲ経テ聯隊本部ニ報告スベシ

11 慰安婦ノ外出ニ関シテハ聯隊長ノ許下ヲ受クベシ

第八 慰安所ヲ利用セントスル下士官以下ハ左ノ各號ヲ嚴守スベシ

1. 聯隊ニテ發行スル慰安許下證ヲ携行シ入所券購入ニ際シ慰安所経営者ニ交付スベシ本券ハ一回限リトス

2 飲酒酩酊セルモノハ入所ヲ禁ズ

3 飲食物ヲ持入ルヲ許サズ

4 慰安所内ニ於テ喧噪ナルベカラズ

東京 小律納

5 慰安婦ニ對シ粗暴サル行動ヲナスベカラズ

6 用済後ハ心ズ洗滌スベシ

7 利用時間ヲ嚴守シ他人ニ迷惑ヲ及ボスベカラズ

8 慰安所附近ノ支那街ニ立入ルベカラズ

第九 慰所所ハ左ノ時間及区分ニ依リ之ヲ利用スベシ

第一 第二 葛店警備隊　新店警備隊

第三 第四 華容鎮警備隊

但シ第二ノ開設時期ハ別ニ示ス

利用時間

兵　一〇〇〇 ―― 一八〇〇

下士官　一九〇〇 ―― 二一〇〇

但シ土曜日ハ一二〇〇ヨリ開業ス

第十 利用料金ハ左ノ区分ニ依ル

將校　一時間　三円〇〇

下士官　三十分　一、二。

兵　三十分　一、〇〇

但シ「サック」ハ経営者ノ支弁トス

第十一　営業ヲ停止シタルトキハ之ヲ入口ニ標示シ軍人軍属ノ立入ヲ厳禁ス

第十二　慰安所設置所別紙附図第一第二ノ如シ

第十三　各隊ノ利用日配当ハ別ニ示ス

第十四　各隊ノ食堂ノ利用日ハ慰安所ノ利用日ニ同シ

第十五　各隊ノ食堂ノ経営者ハ第七及其ノ第二第三第四項ヲ確実ニ実行スヘシ

第十六　食堂ハ営業時間販売品ヲ左ノ如クスヘシ

毎日　一〇、〇―一二、〇〇迄

但シ第一第三土曜日ハ休業トス

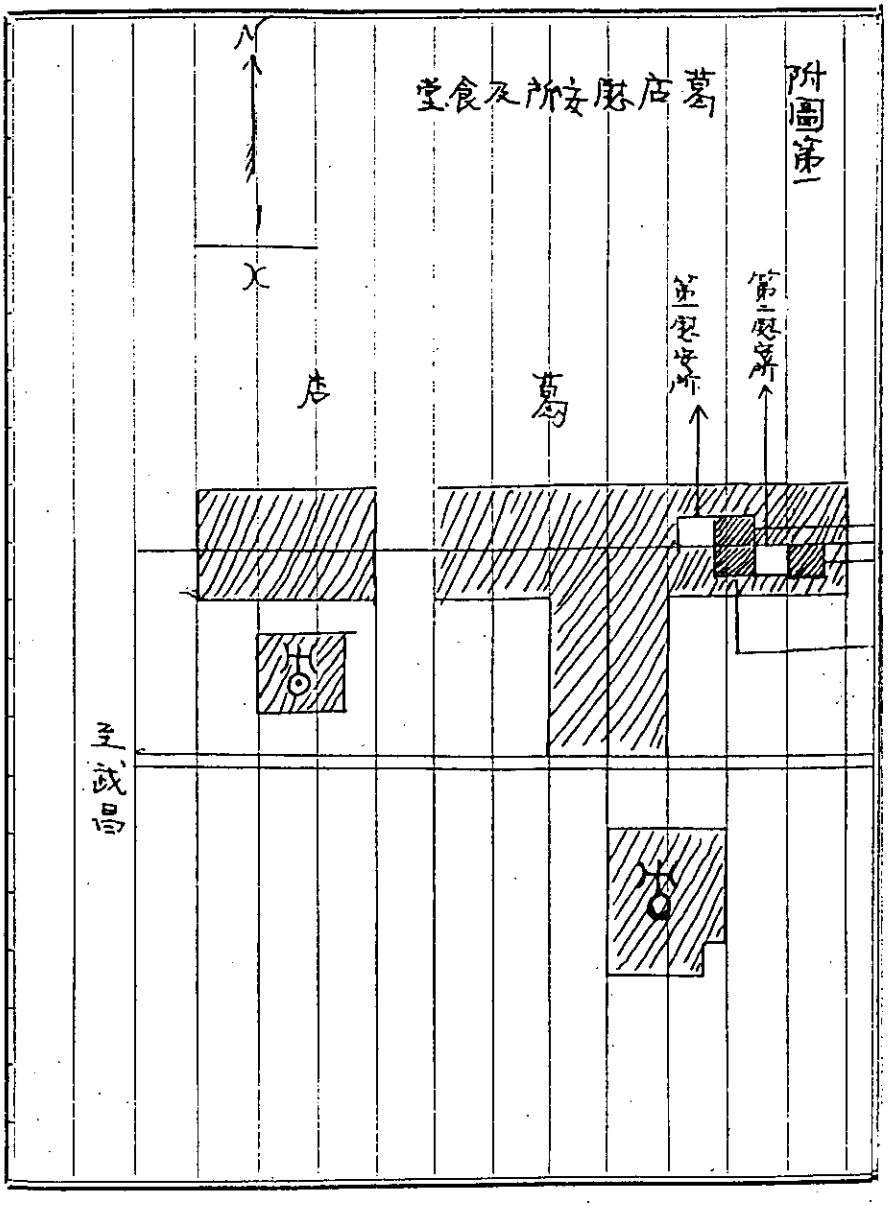
菓子及一般飲食物酒等

附表第一

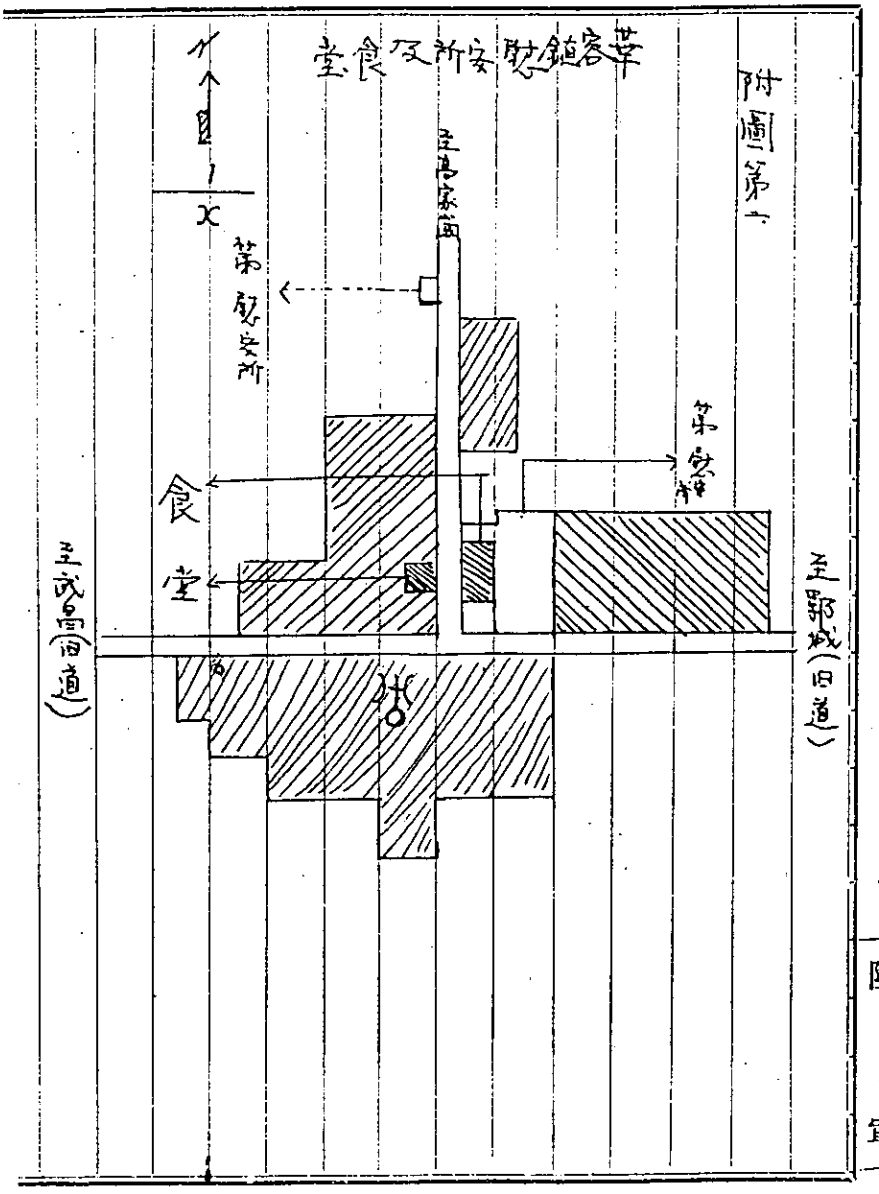
森川部隊詩種慰安業務委員

任務	差支部隊	官名
慰安ニ関スル業務ノ全般統制	聯本	村上大尉
第一第二慰安所及食堂ノ経営指導		中島少尉 内田中尉 原〃准尉
第三第四慰安所及食堂ノ経営指導		古賀中尉 福田中尉
慰安婦ノ検査及衛生施設ノ指導		軍醫各〃

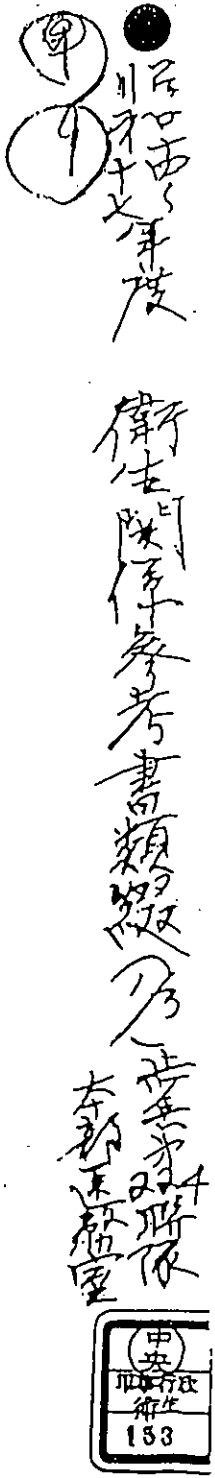
食堂 至華容鎮



東京小津納



附圖第一
華客鎮慰安所及食堂
至高家崗
第慰安所
第慰安所
食堂
至武昌(旧道)
至鄂城(旧道)
陸軍


中央衛生
153

【前略】

（甲集團軍醫部）

韓命に對スル衛生教育順序

一、保育　常松軍醫少佐
二、結核豫防　小林軍醫大佐
三、不慮外傷豫防　林軍醫少佐
四、「マラリア」豫防　平野軍醫少將
五、凍傷豫防　三好軍醫中佐

二口分間休憩（供覽品說明）

六、消化器傳染病豫防　西村軍醫中佐
七、花柳病豫防　服部軍醫大尉
八、衛生上ヨリ見タル兵要地誌ノ利用　平野軍醫少將

備考　二月九、十兩日共ニ正十四時ヨリ偕行者會議室ニ於テ實施ス

ルモノトス

花柳病豫防

花柳病ハ身ヲ害シ家庭ヲ壞シ國ヲ亡ス

「軍ノ性病豫防對策

I 精神ト教育及各種慰安施設等ニ依リ特殊慰安所ニ立入ル機會ヲ與ヘサル如クスルヲ第一トス

II 傳染ノ虞アル者ハ治癒ニ至ル迄内地ニ歸送セス

II 性病患者ハ治癒後ト雖モ再発ノ虞アルモノハ其ノ旨現地陸軍病院長ヨリ出身地市町村長ニ通報ス

二 花柳病ハ主トシテ性交ニ依リ感染シ藝娼妓ハ殆ント全部有毒者ナリ依テ性交ノ際ニハ次ノ豫防法ヲ確實ニ實施スヘシ

イ、飲酒後性交シテハナラナイ

ロ、検徴證明書ヲ確メヨ

ハ、性交前女ニ洗滌セシメヨ

一、「サック」ハ必ス使用トセヨ

ホ、星秘膏ヲ使用セヨ、

性交前少量ヲ陰莖ニ塗リ次ヲ「サック」ヲ被セ更ニ「サック」ノ表面ニ少量ヲ塗リ殘餘ヲ性交後尿道内ニ注入セヨ、

ヘ、用濟後速ニ放尿及洗濯消毒ヲ行ヘ、性交後五分間以内ニ消毒セサレハ消毒ノ効ナシ

ト、歸國後醫務室ニ立寄リ處置ヲ乞ヘ

チ、異常アル者ハ早期ニ受診シ徹底的ニ治療ヲ受ケヨ

リ、色盲ノ者ハ花柳病ニ罹リ易キヲ以テ特ニ消毒ヲ嚴重ニ行ヘ

性病ニ關スル諸統計表

昭和十五年一月調
北支派遣多田部隊副島部隊調査

性病患者感染機會調査表

區分	人員數	%
帶患	六二九	一一、六一
召集地	一五三	二、八三
内地帰還間 公務出張間	二二七	四、一九
戰地	四、四〇九	八一、三八
計	五、四一八	

調査人員五、四一八名

注意
性病ガ如何ニ戰地ニ於テ多ク罹患セルカニ注意セネバナラヌト同時ニ戰地ニ在ル娼婦ハ殆ンド全部ガ性病保有者ナリト言フモ過言ナラズト見考セヨ

治癒退院患者病名別治療日數調査表

病名別	延日數	一患者平均治療日數
麻毒性疾患	三五九、三八六	九一、六〇
軟性下疳横痃	六四、九〇五	五八、二〇
徽毒	六九、八三三	三六、一三
鼠蹊淋巴肉芽腫症	九四、九二七	一〇三、五四
計	六八九、〇四〇	八六、八二五

調査人員七、九三六名

注意
性病患者ノ増加ガ如何ニ戰力ニ影響スルカヲ考ヘ一度罹患スレバ如何ニ數十日ニ亘ル入院ヲ要スルカニ注意スルヲ要ス

性病患者對手國籍別調査表

國籍別	人員數	%
日本人	一、四二七	二六、三四
朝鮮人	二、四五五	四五、三一
支那人	一、五三五	二八、三三
西洋人	一	〇、〇二
計	五、四一八	

調査人員五、四一八名

注意
本事變ニ於テ半島婦人ノ進出ハ活発デアル丈ケ病源ヲ有スルモノガ多イ

性病患者性交時飲酒状況調査表

病名別	性交時ノ深飲シテ居ルモノ	調査人員ニ對スル百分率
麻毒性疾患	一、三二〇	四七、四六
軟性下疳横痃	四五二	四四、一八
徽毒	三七九	四七、九七
鼠蹊淋巴肉芽腫症	四一一	五〇、〇〇
計	二、五六三	四七、三一

調査人員五、四一八名

注意
性病患者ノ殆ンド過半ハ感染ノ時飲酒シテ居タモノデアル 此等飲酒ハ理性ヲ失ヒ性病感染ノ機會ヲ多ク作ルヲ示ス

性病患者役種別調査表

役種別	人員數	%
現役	七五一	一三、八六
豫備役	一、八三七	三三、九二
後備役	一、九三七	三五、七五
補充兵役	八〇八	一四、九一
軍屬	八五	一、五六
計	五、四一八	

調査人員五、四一八名

注意
性病ハ役種ノ如何ヲ問ハズ感染スルモノデアル

對性病身體檢査[illegible]調査表

病名別	總治癒延日數	一人平均治療日數
麻毒性疾患	五三三、九六六	二七、三一
軟性下疳横痃	五〇、〇〇九	三〇、七三
徽毒	二〇、四六六	二〇、一五
鼠蹊淋巴肉芽腫症	一三、〇八	四八、四九
計	六二三、七五九	四五、六四

調査人員一、三九七名

注意
内地帰還ニ際シ性病罹患者ハ右表ノ如ク多クノ入院日數ヲ要スルノデアル

性病患者妻帯ノ有無調査表

區分	妻帯者 人員數	無妻者 人員數
麻毒性疾患	一、三三六	一、四四五
軟性下疳横痃	四七五	五四八
徽毒	三五二	四三八
鼠蹊淋巴肉芽腫症	三九八	四二六
計	二、五六一	二、八五七

調査人員五、四一八名

注意
本事變ニ於テハ右表ノ如ク妻帯者モ感染シテヰル

入院患者性病豫防常識調査表

區分	知ッテ居ルモノ 豫防法	知ッテ居ル豫防法ヲ實施セザルモノ
サック使用	一、一五八	八三
星秘膏使用	七四六	五八
洗滌法	七一四	一八一
放尿	八四三	一一二
[illegible]	二九九	一七
知ラヌモノ	一七	一九

調査人員一、二二〇名

注意
感染豫防ニ對スル豫備知識ヲ十分ニ知得シ置クノ必要ガアル 豫防法ヲ知得シナガラ之ヲ完全ニ實施セザル状況ナリ

性病患者年齢別調査表

年齢別	人員數	%
二五歳以下	一、八一四	三三、四八
二六歳三〇歳	一、八八一	三四、七二
三一歳三五歳	九六三	一七、七七
三六歳四〇歳	七四九	一三、八三
四一歳以上	一一	〇、二〇
計	五、四一八	

調査人員五、四一六名

注意
性病ハ年齢ノ如何ヲ問ハズ感染スルモ特ニ三〇歳以下ノ血氣盛リノ者ニ多シ

性病患者既往症調査表

病名別	既往症ヲ有スルモノ	調査人員ニ對スル百分率
麻毒性疾患	一、一六九	四二、〇四
軟性下疳横痃	二六七	二六、一〇
徽毒	二〇一	二五、四四
鼠蹊淋巴肉芽腫症	一四九	一八、〇八
計	一、七八六	三二、九六

調査人員五、四一八名

注意
右ノ表ハ一例デアルケレ共國民ノ中ニハ右表ニ示ス如ク既往症ヲ有セル性病患者ガアル

性病患者豫防法實施調査表

豫防法	人員數	%
サック使用	二、六三五	四八、四五
星秘膏使用	八七一	一六、〇八
性交後洗滌	二、七一五	五〇、一一
性交後放尿	三、二三〇	五九、六二

調査人員五、四一八名

注意
右表ノ豫防法ヲ名實全部ヤル程感染ノ悪處カラ遠ザカルコトガ出來ル

軍極秘

A3330

支那事變
第八回功績概見表綴

特設部隊
特設艦船

海軍武功調査

一病機密第五號ノ九三

第一病院支那事變第八回功績概見表

十二月十日進達

海軍軍醫大佐　松見茂雄

第一病院長印

區分	功績等級	期間	作戰行動事變關係業務等	成果	參考事項	記事
第一病院		昭和十二年十月十日	戰傷病者ノ收容	揚子江部隊及		
			治療並ニ後送作	第一線部隊ノ		
			業ニ從事シ尚	戰傷病者ノ		
			常ニ部内及海軍	收容治療後送		
			警備區内ニ於ケル	ニ任ジ海軍警備		
			傳染病発生ニ留意	區内ニ於ケル防疫		
			シ其ノ状況調査蒐	ノ指導並ニ實施		
			集ニ努メ更ニ難民	以テ武漢ノ地ニ		
			區ニ於ケル檢病ロ口	虎疫侵入ヲ完全		

12.20 接

[中略]

第一病院	漢口検疫	自六月一日至六月十日	戰傷病者ノ收容	揚子江部隊及	暑気ヲ加ヘリ	六月十八日	外来診療延数 七二八名				
	從事		治療並ニ後送作	第一線部隊ノ	防疫其ノ他	第一造支	歯科診療延数 一二二七名				
	セル防疫		業ニ從事シ部内	患者收容治	諸作業遂	艦隊命	慰安婦健康診断 二八二名				
	隊員		及海軍警備區内	療後送防疫	行ハ益々	今第四號	慰安婦入院治療 四名				
	勲功乙		防疫ニ從事ス	作業ニ從事セリ	困難ヲ招来	漢口方面					
			收容患者 九五名	且前月第一回コラ	セリ	特別根					
			患者後送作業	予防接種大体完		據地隊					
			六月二十八日	了セル毛尚引續		司令官ハ					
			五〇名 牟婁丸ヘ	キ六月五日ヨリ漢水		漢口方面					

② 6月1日～6月30日

[中略]

伝染病情報蒐集											
並ニ通報	六二回										
治療件数	一一六八件										
調剤件数	六八五件										
手術件数	一八件										
エックス線撮影件数	四二六件										
外来診療延数	八七九名										
歯科診療延数	一〇四名										
駐在婦健康診断	二七名										
駐在婦入院治療	一〇名										

③ 7月1日～7月31日

[中略]

													第一病院
												沒日方面	檢疫ニ
												自八月一日 至八月三十一日	
(七)傳染病情報蒐集	茲ニ通報 十五回	治療件数 九五二七件	調劑件数 九一五八件	手術件数 二七件	エックス線撮影件数 五六八件	外来診療延数 一〇二六名	歯科診療延数 五八八名	慰安婦健康診断 三六五名	慰安婦入院治療 一四名	戰傷病者ノ收容	治療茲ニ患者		
先月下旬下痢患者	多発セル考慮第十五	航空隊ノ防疫作業	ニ協力スル等其ノ防	疫ニ對處セル實跡	ハ極メテ大ニシテ	軍作戰行動上	寄與スル如甚大	ナリ		揚子江部隊茲ニ	第一線部隊ノ戰		
												戰傷病者	ノ收容防疫

(四) 8月1日～8月31日

[中略]

																第一病院	後疫二
																後疫二	
																自九月一日至九月二十日	
(七)傳染病情報蒐集	茲ニ通報 一四回	治療件数 一〇三三件	調劑件数 一三三四五件	手術件数 二二件	エックス線撮影件数 一〇一九件	外来診療延数 九四七名	歯科診療延数 八七〇名	慰安婦健康診断 三八〇名	慰安婦入院治療 九名	戦傷病者ノ收容	治療茲ニ後送防疫						
以上ノ如ク防疫ニ	對處セル實跡ハ	甚大ニシテ作戦	部隊ニ何等支	障ヲ招来セシメ	ザリキ成果ハ極メ	テ顕著ナルモノト	信ス				本月モ引續キ揚	子江部隊及第一					

海軍

[中略]

							エックス線撮影件数	大ニシテ軍作戦行
						三八七件	動ニ貢献セル所	
						外来診療延数七〇二名	蓋シ勘カラザルベシ	
						歯科診療延数九三三名		
						慰安婦健康診断三四三名		
						慰安婦入院治療六名		
		第一病院	漢口南自十月至百日			戦傷病者ノ收容	揚子江部隊及	
			検疫ニ			治療後送並ニ防	第一線部隊ノ	
			従事セル			疫作業ニ従事	傷病者ノ收容	全員一致
			防疫係員			收容患者数八九名	治療並ニ防疫	協力各自
			派遣甲			防疫作業	作業ニ従事	ノ任務ヲ
						(一)検病作業	部内外ト連繋ヲ	遂行以テ
						江上民船検病隻数	蜜ニシ以テ部内及	武漢ニ於ケル

(二二一二頁)

⑥ 10月1日～10月31日

[中略]

													第一病院
												自十一月一日 至十一月十五日	
而傳染病情報蒐集	並ニ通報 一〇回	治療件数 四八〇件	調剤件数 七九二八件	手術件数 一一件	エックス線撮影件数 三三件	外来診療延数 五七四名	歯科診療延数 七〇〇名	慰安婦健康診断 三五二名	慰安婦入院治療 一〇名	戦傷病者ノ收容	治療並ニ部内及		
部隊ニ寄與セル	成果ハ極メテ甚	大ナルモノト認ム								揚子江部隊及	第一線部隊ヲ		
	十月五日	前任院長	退任後任	院長着任									

(二二一二 以 四)

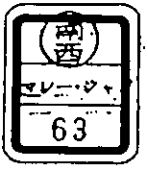
11月1日
～11月10日

| | | |

昭和一六、一、一～一六、五、三一　中國

歩兵第一一聯隊第一大隊砲小隊 陣中日誌

防衛研修所戦史部



上陸戰斗（縄梯子ノ登降）
射撃用意及解除　砲側動作（直接間接照準）
分解搬送
姿勢変換ノ際五番砲手タリシ大下一等兵防楯ニ依リ
顔面ノ外傷ヲ受フ姿勢変換ニ際シ顔面ヲ餘リ乘リ出シ
ソルヲメナリ　将來兵五番砲手ハ此ノ點ニ注意シ前者ノ轍
ヲ履ニサルコト肝要ナリ
人員　小隊長以下四二名　馬匹一頭

人馬數
月日
位置
行事

一月十六日（木）晴
於吳淞兵營
一日朝點呼後縄梯子ノ登降及二杆土嚢運搬駈歩ヲ
實施ス
二九時觀測手被教育者曰下兵長以下六名及自動車

[中略]

教育

于被教育者冨岡一等兵以下八名第一兵營ニ至ル

一、演習 自九三〇 至一二三〇 出場人員小隊長以下十五名

射撃用意及解除

砲側動作（直接間接照準）

二、衛生 自二一〇〇 至二一三〇 衛生法（花柳病予防法）

坪井衛生一等兵指導

三、精神訓話要旨 一、井上一等兵處罰事情

二、上官ノ指導ト戰友ノ切磋

三、陛下ノ赤子、而親ノ愛兒、鄉黨ノ期待

本分ト病人ノ惱ミ

四、慰安所交通ヒ

五、早期受診

六、信賞必罰

七、轉禍爲福

[中略]

月日 位置 行事

出張 二名

給水班 二名

材料監視 一名

残留者 六名

計 五五名

五月三日(金)雨

於寧波

一、八時沖片上等兵以下十名糧秣受領ノタメ經理室使役兵トシテ出場ス十二時受領ノ上歸營ス

二、向片上等兵以下四名残置中ノ迫撃砲運搬ノタメ大隊本部使役兵トシテ十四時三十分出發中學校ニ到ル十五時三十分歸隊ス

三、残置荷物監視兵トシテ服務中ノ森一等兵任務終

西側地區ニ陣地ヲ構築スベシ

九、省略

十、出發ハ楠本部隊長寧波到着時トシ細部ニ關シテハ別命ス

二、携帶口糧甲三日分(第二中隊ハ四日分)ヲ携行スベシ

三、予ハ部隊本部ニ在リ

大本部隊長代理 小川中尉

下達法印刷交付

一、取締上必要アル爲寧波市内ニ臨時宿營ヲ部隊アル時ハ兵站部ハ速ニ部隊ヲ概略人員、場所ヲ警備隊本部ニ通報セラレ度シ

一、江北岸ニ目下慰安所開設中ナルモ別命アル迄之ヲ禁ズ

警備會報

月日
位置
行事

六月二十日（金）晴
於慈谿
一、日朝點呼後保健運動ヲ實施ス
二、七時三十分道路作業員小隊長以下七名出場ス
三、九時大隊郵便物便役兵トシテ池本一等兵出場ス
四、九時旧大隊本部宿舍整理ノ多ノ栗原一等兵以下三名渡邊伍長ノ指示ヲ受ク
五、十四時ヨリ勤務下番者吉中上等兵以下五名ヲシテ飲料水運搬ヲ實施ス
六、十七時三十分道路作業人員帰隊ス
七、日夕點呼後軍歌演習ヲ實施ス

日々命令

一、演藝場設備掛トシテ左記ノ通リ明二十日九時迄

會報

ニ部隊本部前ニ集合シ狹戸尾少尉ノ指示ヲ受クベシ

服裝ハ徒手帶劍巻脚絆トス

左記

金子隊　兵三

松永隊　下士官一　兵三

一、衛生ニツイテ

イ、各隊ハ快晴ノ日ヲ利用シ時々寢具被服ノ日光消毒ヲ行ハレ度

ロ、近時下利患者多シ

其ノ因トシテ果物多食ナルト未消毒ノマヽ利用スル懸念アリ注意セラレ度

一、明後ニナ二日ヨリ前慰安所跡ニ軍人倶樂部ニ開設スルニ付利用セラレ度

[以下略]

軍事極秘

自昭和十七年三月一日
至昭和十七年三月三十一日

陣中日誌

第五號

歩兵第十一聯隊第一大隊砲小隊（乗）

(紙)

聯隊日々命令

勤務

操ヲ實施ス

十二月二十九日 2 (Ibid) 陸軍上等兵 近藤信道

任陸軍伍長 (頭書ノ日附)

日直下士官 荒重兵長

日直上等兵 原田上等兵

北部部隊衛兵

歩哨 藤澤一等兵

同 平野一等兵

同 串田一等兵

同 田坂一等兵

炊事勤務者 福川上等兵以下四名

人員

小隊長以下四七名 (内酒保勤務一名 出張一名)

月日

三月二十日 金曜

天候　晴　午後日雲リ

位置　於「マラツカ」北部兵營

行事

一、日朝點呼後駈歩及保健体操ヲ實施ス

二、午前中全員以テ舍内外ノ大掃除及整頓ヲ實施ス

三、十時各隊長集合ノ為小隊長十一時大隊本部ニ至リ十二時歸隊ス

四、本日大隊日々命令ニ依ル兵團長南地區警備隊視察ノ為徒手帶劍ニテ十六時三十分全員夫々班内ニ整列ス

十七時兵團長兵營ニ到著小隊最モ激烈ナル戰鬪ハ何處ノ戰鬪ナリシヤト質問アリ亡キ戰友ノ勇敢ナル行動ヲ偲ビ生前ノ篤行ヲ讃ヘ共ニ語リテ故人ノ冥福ヲ祈ルベキコト次イデ

[中略]

油断ナク現在ノ任務ヲ遂行スベキコト等溢ル、
如キ慈眼ヲ以テ懇々ト諭サル
十七時三十分巡視終ル
五、十九時ヨリ全員自轉車ノ手入整備ヲ實施ス
六、日夕點呼後軍歌演習及保健運動ヲ實施ス
大隊長命令
一、兵團長ハ本二十日南地區警備隊ノ警備狀況視察
ノ爲來馬セラル
依而別紙(省略)兵團長警備狀況視察計畫ノ
通リ心得ベシ　以下省略
一、慰安所ニ於ケル規定ヲ別紙(省略)ノ通リ定ム
追而「マラカ」警備並駐留規定中第五章十八項ハ之
ヲ削除シ慰安所使用ハ當日ニ依リ休務スベシ
(大隊砲小隊慰安所使用ハ當日毎週金曜日トス)

(新注小 九・三十四頁)



	歩哨掛　原田上等兵
	歩哨　宮地一等兵
	同　重田一等兵
	同　藤澤一等兵
患者	次事勤務者福川上等兵以下四名
	練兵休　森一等兵（水虫）
	同　田坂一等兵（左胃々折）
	就業　楠部一等兵（マラリヤ再発）
人員	小隊長以下四七名（内酒保勤務一名 出張四名）
月日	三月二十七日　金曜
天候	晴
位置	於「マラッカ」北部兵營
行事	一日朝點呼後駈歩及保健体操實施

二、八時三十分ヨリ三十分間ノ豫定ヲ以テ各班内ノ水洗ヒ
ヲ為シ清掃整頓ヲ實施ス
三、檢擧セシ抗日分子容疑者革僑監視ノ為串田一等兵
以下三名十一時大隊本部ト出場ス
四、本日ハ休養日ナルヲ以テ林軍曹以下三十七名極樂園及
慰安所ニ至リ十八時二十分全員異常ナク歸隊ス
五、三月二十二日日本酒五本受領セシニ依リ十九時ヨリ小隊長以
下全員ノ會食ヲ實施盛大裡ニ二十一時十分終了ス

大隊日々命令

一、爾今歩哨線ヲ通過スル住民ノ身体檢査ハ實施
セザルモノトス
但シ特ニ疑ハシキ者ト認メタル（支那人土人ヲ問ハズ）モノニ
限リ檢査スルモノトス
一、2 (illegible) 陸軍一等兵 渡邊數一

（紙津小九・三十四期）

［以下略］

軍事極秘

自昭和十七年四月一日
至昭和十七年四月三十日

陣中日誌 第六號

歩兵第十一聯隊第一大隊砲小隊㊞

〔中略〕

〔前略〕

月日
天候
位置
行事

四月三日　神武天皇祭（金曜日）

晴

於マラッカ北部兵營

一、日朝點呼後駈歩及保健運動ヲ實施ス

二、本日ハ神武天皇祭ナルヲ以テ十時ヲ期シ各隊毎ニ遥拝式ヲ擧行ス

小隊ハ車庫裏椰子林ニ至リ全員整列十時ヲ期シ小隊長ノ聲イトモ嚴カニ神武天皇御代ヲ偲ビツヽ遥カ畝傍山ノ東南橿原神宮ニ向ヒ拝禮ヲ行フ

人員　小隊長以下　四三名（内酒保勤務一名）
　　クワラランプール出張二名
　　計　四五名

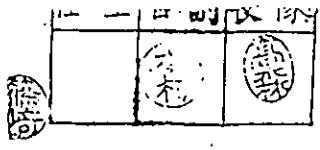
月日　四月五日（日曜日）

天候　晴

位置　於マラカ北部兵營

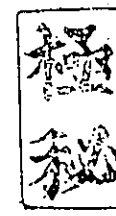
行事
一、日朝點呼後駈歩及保健運動ヲ實施ス
二、三日金曜日（小隊休務日）ニ於ケル勤務者林軍曹以下六名十時ヨリ市内慰安所及娯樂場ニ外出ラナシ十九時全員異常ナク歸隊ス
三、昨四日大隊砲彈道試驗射撃ニ於ケル彈著調査

〔以下略〕



陣中日誌

自昭和十六年四月一日
至昭和十六年四月三十日



獨立山砲兵第三聯隊

日日命令　　四月九日

一、高森部隊特殊慰安業務規定中第一五、第一六ヲ左ノ如ク改正ス

第一五　慰安所ヲ利用シ得ル毎日ノ時間左ノ如シ

兵　ロ九、ロロヨリ夕食一時間前迄

下士官　ロ九、ロロヨリ日夕点呼三十分前迄

准士官以上　点呼後ヨリ利用スル事ヲ得

第一六　慰安所　料金ヲ當分ノ間左ノ如ク定ム

一　兵　三十分　一円

三十分ヲ増ス毎ニ五十錢ヲ増ス

二　下士官　三十分　一円二十錢

三十分ヲ増ス毎ニ一円ヲ増ス

皿將校

一時間三円
一時間ヲ増ス毎ニ二円ヲ増ス
宿泊二十二時以降八円

軍事極秘

自昭和十七年三月一日

至昭和十七年三月三十一日

陣中日誌

第五號

歩兵第一一聯隊第七中隊

[中略]

[前略]

下達法 各隊命令受領者ヲ集メ口達筆記セシム

會報 八

南警備隊會報 三月二十三日 一六ロロ セレムベン部隊本部

一各隊ハ悪疫發散ノ折柄毎日蠅取時間ヲ指定シ或ハ毎週防塵日ヲ決定シ殺蠅ヲ勵行スルト共ニヤニリア豫防ニ努メラレ度

尚寝冷ニ起因スル下痢患者發生ノ徴アリ毛布或ハ敷布ヲ腹ニ巻ク等適宜ノ方法ヲ講ジ以テ之ガ豫防ニ努メラレ度

一兵站ニ於テ指定セル慰安所ノ外私娼家屋ニ立入リヲ嚴禁ス

一装備用自轉車ヲ私用ニタメ使用スルコトヲ禁ズ

會報 九

南警備隊會報 三月二十三日 一九三〇 セレムハ警備隊本部

一云ル三月八日信第七號ヲ以テ通牒セシ軍事郵便物通牒號使用例中

東京・八木岡鶴

第三分 哨 寺本兵長以下五名
第四分 哨 打坂伍長以下七名

會報

五 歩兵第十一聯隊會報 四月二日一六ツロセレムベン部隊本部

一 別紙豫定表ニ基キ聯隊兵器修理ヲ實施スルニ付豫メ準備セラレ度

現在員

九二名

月日

四月三日 金曜日 晴後雨 於クワラビニー

一 中隊ハ九時三十分橋本少尉以下二十六名「トレンビ」方面ノ掃蕩後ノ再調査ヲ實施セレム 十三時五十分全員無事歸隊シ不偵分子一名ヲ刺殺ス

二 本日ヨリ慰安所開設セルヲ以テ午後一般ニ休養セシム

本日警備異常ナシ

勤務

三 本日警備異常勤務員左ノ如シ

巡察 下士官 中塚軍曹

〔東京・大橋訥〕

〔以下略〕

㊸野戦高射砲第四五大隊第一中隊陣中日誌（昭17・4・3、5・14）

46.(通)
47.
48.(洞)

昭和十七年

野戦高射砲第四十五大隊第一中隊陣中日誌

防衛研修所戦史部

防衛
321

4/3

45

[前略]

五、外出時ニ於テ物品ヲ勉メテ購入セザルコト

軍ニ於テ近ク酒保ヲ開設シ物品ヲ廉價

ニテ販賣スルヲ準備中

(二)明日ヨリ慰心安場ヲ開設セラルニ付左記ノ通リ心得ヘ

ニレ度シ

左記

一、場所　南兵營歩兵第四十七聯隊東側

二、價格　將校　一時間　二円

下士官　同　一円五十錢

兵　同　一円

代價ハ絶對ニ嚴守セラレ度シ

三、慰問安公娼總計目下四口名ヲ左記布

片ヲ以テ衛生狀態ヲ区分ス

白　許可請ナルモ衛生具使用ノコト

桃　要　注意

赤　不許可　有毒患者

四方法　入口左側事務所ニテ代金ヲ支拂ヒ

切符ヲ受取リ集合所ヲ女ニ其ノ切符

ヲ渡ス

五注意　入口以外ヲ入リ勝手ニ遊バザルヲ

言語等不可解ノタメ暴行セザルヲ

大慰安場使用時間

兵　自九時至十時　下士官　一天ロロ　二一ロロ

(二)左記ノ位置ニ映画鈸開設セラル

映画ハ一週間毎ニ替ヲ一日二回ヲ

(四)四日一日ヲ電灯・水道料ヲ支拂ヲ如ク十リタルニ付

特ニ電灯節約ヲ厳ニ實行セラレ度シ

(家賃ハ支拂ハザルモノトス)

一字抹消
一字抹消
一字抹消

5/14

命令受領

下達法　命令受領者ヲ集メ口達筆記セシム

左記命令ヲ受領ス

左記

會報　五月十四日　一六〇〇　スラバヤ市

一、五月十五日開催豫定ノ將校集合ノ教育ハ都合ニヨリ中止ス

二、左記ノ通リ通情報アリタリ

左記

確實ナル情報ニ依レバ米陸軍機ノ表式左ノ如ク変更セラルルコトトナリ　レタルコトトナレリ

一、赤色圓ヲ除ク

二、尾翼赤色並ニ白色横線ヲ除ク

三、飛行實施ニ關シ別紙寫ノ通リ通牒アリタリ

四、五月十四日、十五日、両日南慰安所閉鎖サルルニ付立

手抹消

陣中日誌用紙

陸軍

入ラザル様セラレ度シ

五、南北両慰安所ノ有毒婦ヲ上野驛南地區ニ收容セラレタルニ付キ絶對ニ出入ラザル様セラレ度シ

人員

中隊長以下五十六名

映画觀覧

自一六、三日 至二一、三日 中隊長以下三十名マキシム映画館ニ於テ映画觀覧

五月十五日

天候

金曜日

晴時々雨

任務及陣地

兵站病院西南方ニ在リテ工場地帯 市重要施設

中部兵營並ニ東京新宿両驛ノ掩護ニ任ズ

外出

自一〇九、〇〇〇 至一八、〇〇〇 白石軍曹以下二十五名スラバヤ市内ニ外出ス

命令受領

左記命令ヲ受領ス

左記

〔以下略〕

戦史叢書

父島要塞司令部参謀部陣中日誌

自 昭和十七年一月一日
至 昭和十七年二月三十一日

防衛研修所蔵

昭和十七年二月一日
父島要塞司令部参謀部

中本 小笠原 13

同下士官　陸軍曹長　菊地里留

右頭書ノ通（自四月十一日至四月十八日）間司令部週番勤務ヲ命ス

防衛報告　四、「本十日父島要塞管区内防衛上異状ナシ」

暗號電報　五、發信電報　八通

發著信　著信電報　三通

其他　六、出張中　小嶋中佐、重井少尉

四月十一日雨後曇　一、父島要塞日々命令

日命　一、昭和十七年度父島要塞主要行事豫定表左ノ通リ訂正ス

在母島歩砲工兵諸隊定五月二十七、八日ヲ同月二十八、九日ニ改ム

防毒具ニ関スル件　二、父要参電第一一三號

「一月二十八日陸密第二大四號ニ依ル完防及軽防各二十

組當部教育用トシテ至急支付相成度
正式申請書類十七日頃發便船ニテ提出ス」

補充支代ニ関スル計畫表中訂正ノ件

三、父要參電第一一四號
「父島要塞司令官ヨリ小嶋中佐ヘ
ノ、補充支代ニ関スル計畫表中重砲兵聯隊兵科永年計畫中編成定員ノ兵及合計ニ各二十名ヲ加フ
ス、要塞部隊ヲ通ジ九三名ノ現役兵ヲ計畫シアリ削除スヘ之ガ訂正ハ玉井中尉携行セリ」

父要參電第一一〇號返

四、東單參電第九三號
「父要參電第一一〇號返異存ナキニ付責部ニ於テ支歩ノ上處理セラレ度
又慰安婦ハ出發準備完了シアル由何日頃出發セシメテ可ナリヤ」

東單參電

四、父要參電第一一五號

第九三號返

「東軍參電第九二號返慰安婦ハ設備完了次第報告スベキニ付御指導アリ度

現在ノ處五月中旬ノ豫定」

防衛報告

五、「本十一日父島要塞管區内防衛上異狀ナシ」

暗號電報

大、發信電報五通

發著信

著信電報大通

其他

七、出張中 小嶋中佐 重井少尉

四月十二日晴

防衛報告

一、「本十二日父島要塞管區内防衛上異狀ナシ」

暗號電報

二、發信電報ナシ

發著信

著信電報ナシ

其他

三、出張中 小嶋中佐 重井少尉

四月十三日晴

防衛報告

一、「本十三日父島要塞管区内防衛上異状ナシ」

小嶋中佐ヨリ

二、東甲副電第一二九號

「一、十三日無事甲司令部ニ出頭ス

2、補充交代ニ就テハ其ノ後方針ニ変更アリ関係書類ハ十七日發ノ芝園丸ニテ發送セラルル筈ニ付更ニ計畫ヲ復興セラレ度

3、暗號教育取道者ハ十七日出発セシムル豫定ナリ

4、関係各隊ヘ連絡ヲ乞フ」

暗號電報

三、發信電報四通

發着信

着信電報四通

其他

四、出張中　小嶋中佐　重非少尉

四月十四日晴

一、父要参電第一一七號

業者及營外

「田島参謀へ

酒保ノ件

1. 業者ノ為ノ建物ハ目下計畫中ニシテ五月末日完成スル豫定ナリ

2. 右業者ノ世帯数並ニ總人員家族ト慰安婦ニ区分概数ヲ承知致度

3. 營外要塞酒保ハ目下開設準備中ナリ」

防衛報告

二、「本十四日父島要塞管区内防衛上異状ナシ」

暗號電報

三、發信電報 大通

發著信

著信電報 ナシ

其他

四、出張中 小嶋中佐 重井少尉

四月十五日

一、父要参電第一一八號

「東大一編第二九號 四月十五日受付便船ナキ関係上五月十日頃提出ノ豫定ニ付承知アリ度」

防衛報告　二「本十五日父島要塞管区内防衛上異状ナシ」

暗號電報　三、發信電報　二通

發着信　着信電報　二通

其他　四、出張中　小嶋中佐、重井少尉

四月十六日時　一、東軍司電第一三五號

業者ニ関ス　「　小嶋中佐ヨリ

九件　特殊飲食店八十五名宛二軒ノ豫定ナリ

業者(中村)十七日芝園丸ニテ先發ノ筈連絡セラレ度」

防衛報告　二「本十六日父島要塞管区内防衛上異状ナシ」

暗號電報　三、發信電報　ナシ

發着信　着信電報　一通

其他　四、出張中　小嶋中佐、重井少尉

(47)

(44)-2 父島要塞司令部参謀部陣中日誌（昭17・5・9、12）

自昭和十七年五月一日
至昭和十七年五月參壹日

紙數	參壹枚
附圖	／枚

父島要塞司令部參謀部陣中日誌

［前略］

五月九日曇

一、本九日内務教育檢閲ヲ實施セリ 自〇八〇〇 至一五〇〇

補助官、大島中佐、小嶋中佐、大峡大尉、新田中尉

玉井中尉、重井少尉

防衛報告

二、本九日父島要塞管區内防衛上異狀ナシ

娯樂所ニ

三、東部軍參編電第二〇二號

関スル件

「娯樂所（女）洲崎ヨリ二十六名、吉原ヨリ十五名業者ニ於テ準備シアリ十五日頃出帆ノ芝園丸ニテ輸送ノ豫定ナリ人員ノ數差支ナキヤ返」

暗號電報

四、發信電報 一通

發著信

著信電報 二通

五月十日 曇時々雨

防衛報告　一、本十日父島要塞管五内防衛上異状ナシ

防空情報　二、東軍参電第一二一號

「防空情報、米國陸軍機ハ主翼ヨリ赤色丸ヲ及尾翼ヨリ赤色及白ノ線ヲ除クコトトセルモノノ如シ

右ノ情報ハ眞偽疑ハシキモ参考迄ニ」

暗號電報　三、發信電報ナシ

發著信　著信電報一通

五月十一日 雨

防衛報告　一、本十一日父島要塞管五内防衛上異状ナシ

暗號電報　二、發信電報　三通

發著信　著信電報　二通

五月十二日晴

海隆丸ニ関スル件

一、父要参電第一四一號

「海隆丸出港ニ関シ宇品船舶輸送司令部ニ左ノ如ク打電セリ

海隆丸（三八二）本十二日左記ノ通リ搭載終了ス

出帆日時十三日〇七、〇〇ノ豫定（東京向ケ出帆途中八丈島ニ軍夫ヲ下船セシムル為寄港ス）十七日早朝入港ノ豫定ナリ

左記

彈藥及信管　三四八九梱

空樽（糧秣関係）　大九二梱

ビール其ノ他空壜　四七八梱

軍人、軍夫東京府労務者等　七四名（内軍夫一九名八八丈島ニテ下船）」

地區隊長ニ関スル件

二、東軍參電第一一二號

「陸軍重砲兵學校要塞地ヱ隊長學生トシテ高瀬一雄少佐（片山少佐ノ交代者）ヲ分遣スルコトニ定メラル

高瀬少佐ヘハ傳達者」

防衛報告

三、本十二日父島要塞管区内防衛上異狀ナシ

娯樂所ニ関スル件

四、東部軍參編電第二一〇號

「十五日出帆芝園丸ニテ洲崎、吉原ヨリ女各十名宛附屬人員十名合計三十名貴地ニ到ル一應到著後ノ處置並ニ爾後ノ娯樂場ニ関スル件ハ貴部ニ於テ業者ヲ指導セラレ度」

五、健脚部隊競走訓練規定ヲ別冊ノ通リ各隊ニ配布ス

略號電報發著信

大　發信電報　五通

著信電報　四通

〔以下略〕

自昭和十七年四月一日
至昭和十七年四月三十日

陣中日誌

第六號

歩兵第十一聯隊第三中隊
梅村

[前略]

四月二十四日

一、〇八〇〇起床點呼後宿舍附近ニ於テ駈歩並體操ヲ實

金曜日

施ス

晴

二、自一〇〇〇至一一〇〇小隊宿舍ニ於テ中隊長、横路少尉以下四十三

於「セレンバン」

名ニ對シ精神訓話ヲ「支那事變間ノ陣中美談ニ就イ

テ」支那事變中江陰要塞攻撃ニ際シ両角、田代部

隊ニ屬シタル某工兵隊ノ勇敢適切ナル諸行動ヲ話シ
ソレニ關聯シテ吾々ハ常ニ大命ノ下ニ任務遂行ノ爲
其ノ死場所ヲ選ブノ觀念ヲ肝ニ銘ジテ戰鬪間駐留間
共ニ行動スル樣、尚今次馬來作戰間生死ノ巷ニ彷徨シテ
感ジシ自己ノ死生感ヲ精神修養ノ資トシテ大イニ社會ニ
出デテモ活用スル如ク訓話ス

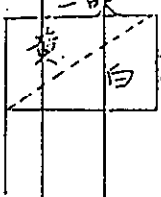
三、自一一一五至一二〇〇 横路少尉以下二三名宿舍前廣場ニ於テ體操並
蹴球ヲ實施ス

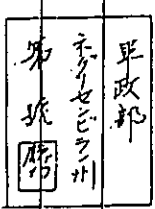
會報

四、南警備隊會報 四月二十四日 二〇〇〇 セレンバン警備隊本部

一、「ネグリセンビラン」州廳使用ノ自動車ハ爾今左記ノ通リ
標識ヲ定メタルニ付承知セラレ度

知事 標旗 一吹





一、慰安所ニ於テ切符ヲ購入スルコトヲ慰安スル者アリ必ズ事前ニ切符ヲ購入スルヲ要ス各隊巡察將校モ亦此ノ點ニ着意シテ巡察スルト共ニ違反者アラバ速ニ報告セラレ度

五、自一五三〇至一八〇〇雨ノ爲全員班内ノ清潔整頓ヲ實施ス

六、自二〇三〇至二二三〇將校宿舍ニ於テ横路少尉指導ノ許ニ新上等兵十三名ニ對シ歩兵操典ニ基キ學科ス

七、自二〇三〇至二二〇〇白井軍曹以下三十五名點呼場ニ於テ軍歌演習竝號令調整ヲ實施ス

勤務

八、日直下士官　三浦軍曹

日直上等兵　平井上等兵

部隊衛兵　藥研地伍長以下八名

中隊衛兵　山本伍長以下五名

海行

九、中隊長以下七十六名

㊻獨立自動車第四二大隊第一中隊陣中日誌（昭17・4・30）

軍事極秘

自昭和十七年四月一日
至昭和十七年四月三十日

陣中日誌

第七號

獨立自動車第四十二大隊第一中隊

第一中隊之印

WDCH
67281

調製部数九部之内
第八號

207326
207326

CAPTURED AT
HUBBOLT
3 May 44

5

四月三十日
晴

一、昭南島ニ駐留ス

二、中隊(第二小隊欠)ハ一部ヲ以テ前任務ヲ續行主力ヲ以テ引續キ昭南神社建設ニ協力夫々左ノ如ク輸送ニ任ス

(イ)第一小隊五輛ハ碇泊場司令部ニ協力艤装材料並ニ碇泊場材料ヲ西埠頭ヨリ東埠頭ニ輸送シ一八、三〇歸隊ス又他ノ五輛ハ第五師團追送貨物ノ輸送ニ任シ昭南駅ヨリ中央埠頭ニ七回往復輸送シ一八、〇〇歸隊ス

(ロ)第三小隊一〇輛ハ昭南神社建設ニ協力砂利ヲ「スクダイ」ヨリ昭南神社建設地ニ輸送一六、〇〇歸隊ス

三、一八、〇〇左ノ獨自五七作命第八四號受領ス

獨立自動車第五十七大隊命令

四月三十日
昭南島

大、一八、〇、左ノ會報下達ス

會報

本日部隊長ヨリ左ノ如キ注意並ニ指示アリタルニ付一般ニ徹底セシメラレ度
一、高松宮殿下ニハ目下當地ニ視察ノタメ御來遊中ナリ
二、警戒ニ就テ
イ、當地域ハ一般ニ治安確立シアルモノ、如クナルモ「スマトラ」方面ニハ屢ミ敵機襲來シツアル狀況ニ鑑ミ上空ニ對スル顧慮尚等閑ニセラレ樣尚當市ハ警戒管制ヲ實施中ナリ
ロ、海上ニ於テモ往々怪行動船舶ノ出沒ヲ見又潛水艦ノ顧慮ナシトセス一般ニ注意ヲ要ス
ハ、鐵道沿線ニ「ダイナマイト」等ノ埋設セラレアルヲ聞ク
ニ、市中ニ於ケル抗日分子、檢擧等ニ當リテモ日本軍人襲撃等ヲ企圖シアルカ如シ
以上ノ如キ狀況ニ見ルモ中政府管地ノ警戒ハ

[以下略]

(19)

至厳ナルヲ要シ一般ヘ勿論警戒勤務者ヘ確實ニ服務スルヲ要望シ二十三時以後地方人ノ通行ヲ禁止スヘシ

三、自動車事故ニ就テ

屢次ニ亘ル注意ヲ遵行シ特ニ速度並交通規定ヲ厳守シ事故ノ絶無ヲ期スヘシ

四、慰安ニ就テ

ノ海岸附近ニ「プール」アリ一般軍人ニ開放セラレアリ外出日等ニ於テ将校ノ指揮ヲ以テ水浴スルヲ可トス

五、指定以外ノ慰安所ヘノ立入ヲ禁止ス

日本軍人暗殺ノ計画アリ外出ニ當リテハ必ス三名以上連行ノ規定ヲ厳守スヘシ

七、本日ノ勤務者左ノ如シ

日直将校　山本中尉

日直下士　中村軍曹

八、警戒ハ指揮班並ニ各小隊分指ノ位置ニ於テ夫々銃前哨ヲ以テ担任ス

昭和十七年四月二十五日

クワラピラ バハウ駐留規定

クワラピラ警備隊

〔前略〕

日トス

ノ外出區域ハ「グワラピラ並バハウ」警備地域内トス

（附圖第一第二）

休務日ニ於ケル外出ニ関スル規定ハ總ベテ「セレムバン」駐留規定ニ依ルベシ

ノ公用外出者並一般休務日ニ於ケル外出者ハ當分間町内ニ於ケル飲酒食ヲ嚴禁ス

但シ慰安所内ニ設置シアル飲食店内ノ飲食ハ此ノ限リニアラズ

ヘ公用外出者ニ付テハ「セレムバン」駐留規定ニ依ルモノトス

第五　非常及火災

三、非常及火災ニ際シテハ「セレムバン」駐留規定ニ依ル外左ノ如ク處置スルモノトス

イ、非常及火災ノ際ハ機ヲ失セズ臨機ノ處置ヲ講ジト共ニ速ニ警備隊長ニ報告スルモノトス

ロ、非常ニ際シテ警急集合場（クワラピラ又バハウ共宿舎前廣場）ニ集合シ別命ヲ待ツベシ

ハ、服裝ハ特ニ示サザル場合ハ軍裝ニシテ背嚢ヲ除キ彈藥ハ定數ヲ攜行スルモノトス

ニ、自轉車ノ携行ニ付テハ別命ス

第六　衛生

［以下略］

編集復刻 ㊙女性のためのアジア平和国民基金編
政府調査「従軍慰安婦」関係資料集成②
防衛庁関係公表資料(上)
一九九七年三月二十日 第一刷発行
揃定価 一〇〇、〇〇〇円(税別)
後藤乾一
編集代表 高崎宗司
和田春樹
装幀 三谷靱彦
発行者 北村正光
発行所 株式会社龍溪書舎
東京都板橋区南町43—4—一〇三
郵便番号一七三—〇〇二七
電話〇三—三五五四—八〇四五(代表)
FAX〇三—三五五四—八四四四
振替〇〇一三〇—一—七六一二三
印刷 勝美印刷 製本 岸田製本

検印廃止

ISBN4-8447-3474-1

編集復刻

(財)女性のためのアジア平和国民基金編

政府調査

「従軍慰安婦」関係資料集成 ③

防衛庁関係公表資料(下)

龍溪書舎

目　次　（第三巻）

防衛庁関係公表資料（下）

四八　大東亜戦争関係将兵ノ性病処置ニ関スル件［陸軍省副官］（昭17・6）……3
四九―㈠　昭和一七年九月副官会同席上意見、質疑及回答［支那派遣軍総司令部］（昭17・10・3）…7
四九―㈡　昭和一七年九月副官会同席上意見、質疑及回答（追加）［支那派遣軍総司令部］（昭17・9）……17
五〇　軍政規定集第三号［馬来軍政監部］（昭18・11・11）……21
五一　検徴成績ノ件通報［イロイロ患者療養所］（昭17・5・12～12・27）……45
五二　野戦高射砲第四五大隊第一中隊陣中日誌（昭17・5・13、16）……105
五三　独立自動車第四二大隊第一中隊陣中日誌（昭17・5・14）……113
五四　独立自動車第三九大隊第四中隊陣中日誌（昭17・5・29、30）……117
五五　慰安所ニ関スル規定［独立守備歩兵第35大隊］（昭17・6・6、11）……123

五六　情況報告［ブツアン警備隊長］（昭17・6・16）……129
五七　部隊軍紀風紀粛正ニ対スル服務計画提出ノ件報告［イロイロ派遣憲兵隊長］（昭17・6・25）……133
五八　独立自動車第四二大隊第一中隊陣中日誌（昭17・7・6）……139
五九　戦時月報［独立守備歩兵第35大隊］（昭17・7・31）……145
六〇　軍人倶楽部規定［マスバテ島警備隊長］（昭17・8・16）……149
六一　独立自動車第三九大隊第四中隊陣中日誌（昭17・8・18、24）……153
六二　独立自動車第四二大隊第一中隊行動詳報（昭17・8・24）……159
六三　第二五軍情報記録［富集団司令部］（昭17・8・25）……165
六四　独立自動車第三九大隊第四中隊陣中日誌（昭17・9・8）……171
六五　歩兵第一一連隊第一大隊砲小隊陣中日誌（昭17・9・8）……175
六六　独立守備歩兵第三五大隊陣中日誌（昭17・10・5）……179
六七　慰安所規定送付ノ件［軍政監部ビサヤ支部イロイロ出張所］（昭17・11・22）……187
六八　兵站勤務ニ関スル規定ノ件達［第14軍司令官］（昭17・11・17）……195
六九　サック支給ノ連絡［カトバロガン分隊あて］（昭17・11・21、12・12）……199
七〇　パナイ島接客業組合骨子［パナイ島接客業組合］（昭17・12）……201
七一　情報旬報［独立守備歩兵第35大隊］（昭17・12）……205

七二　在淮陰芸娼妓検梅成績表［歩兵第54連隊］（昭18・1・29、18・4）……209
七三　衛生業務要報［第15師団軍医部］（昭18・1、18・2）……213
七四　独立自動車第四二大隊第一中隊行動詳報（昭18・1・13）……227
七五　独立守備歩兵第三五大隊陣中日誌（昭18・2・14）……231
七六　防犯資料［第36師団司令部］（昭18・3・4）……237
七七―(一)　軍慰安並娯楽設備状況ニ関スル件照会［バギオ憲兵分隊長］（昭18・8・2）……243
七七―(二)　軍慰安並娯楽設備状況調査ノ件「通牒」［セブ憲兵分隊長］（昭18・8・10）……245
七七―(三)　軍慰安所並娯楽状況調査ノ件（回答）［タクロバン憲兵分隊長］（昭18・8・14）……247
七八　慰安婦一ノ金銭紛失ニ関スル件報告（タクロバン憲兵分隊長あて）（昭18・8・3）……251
七九　巡察計画表［タクロバン憲兵分隊］（昭18・10・14）……257
八〇　雪第三五二五部隊日々命令（昭18・11・7）……261
八一―(一)　林第三六二九部隊日日命令（昭18・12・11、21、25）……263
八一―(二)　林第三六二九部隊日日命令（昭19・1・1、3、6）……271
八二　外出及軍人倶楽部ニ関スル規定［直兵団遠山隊］（昭19）……277
八三　陸軍軍人軍属非行表（一〇月、一一月）［バヨンボン憲兵分隊］（昭19・10・11）……285
八四　タクロバン憲兵分隊作命綴［垣第六五五〇部隊参謀長・独立混成第33旅団長］

八五　軍政月報［馬来軍政監部］（昭19・1・10、3・17）……287
八六　サンタクルース患者療養所［第16師団第2野戦病院陸軍軍医中尉］（昭19・2・29）……295
八七―(一)　要塞建築勤務第六中隊陣中日誌（昭19・5・14）……299
八七―(二)　要塞建築勤務第六中隊陣中日誌（昭19・5・24、26、27、31）……305
八八　オルモック派遣隊現状報告［オルモック派遣隊長］（昭19・6・4、5、9）……319
八九　軍人倶楽部利用規定［中山警備隊（在広東）］（昭19・5・27）……327
九〇　第三魚雷艇隊戦時日誌（昭19・7・20）……331
九一―(一)　石兵団会報第五四号（昭19・9・14）……341
九一―(二)　石兵団会報第五六号（昭19・9・17）……347
九一―(三)　石兵団会報第五七号（昭19・9・19）……351
九一―(四)　石兵団会報第五八号（昭19・9・21）……355
九一―(五)　石兵団会報第六二号（昭19・9・28）……357
九一―(六)　石兵団会報第六四号（昭19・10・2）……361
九一―(七)　石兵団会報第七四号（昭19・10・19）……363
九一―(八)　石兵団会報第七九号（昭19・10・26）……365

九一―(九)　石兵団会報第八四号（昭19・11・12）……371
九一―(一〇)　石兵団会報第九〇号（昭19・12・4）……373
九一―(一一)　石兵団会報第一〇一号（昭19・12・28）……375
九二　沖縄真志喜警備中隊陣中日誌（昭19・11・7～12・16）……379
九三　独立混成第一五連隊連隊砲中隊陣中日誌（昭19・10・4）……393
九四　独立混成第一五連隊第二機関銃中隊陣中日誌（昭19・11・4）……397
九五―(一)　独五混成第一五連隊第一大隊本部陣中日誌（昭19・11・7、15、17、26）……401
九五―(二)　独立混成第一五連隊本部隊陣中日誌（昭19・12・28、31）……407
九五―(三)　独立歩兵第一五連隊本部陣中日誌（昭20・1・8、13）……415
九六　独立混成第一五連隊第八中隊陣中日誌（昭19・11・9）……425
九七　独立混成第一五連隊第三中隊陣中日誌（昭19・11・24）……429
九八　要塞建築勤務第六中隊北飛行場五六飛大派遣、重信班陣中日誌（昭19・12・24～31）……433
九九　駐屯地会報ニ於ケル示達事項［南地区駐屯地司令官］（昭20・1・13）……445
百　第二大隊命令［國頭支隊第2歩兵隊第2大隊本部］（昭20・1・14）……451
百一　独立重砲兵第一〇〇大隊平山隊作命綴［中隊長］（昭20・2・10）……455
百二　第六二師団副官部陣中日誌（昭20・1・15）……459

百三　独立混成第四四旅団第二歩兵隊第二大隊機関銃中隊日命会報録（昭20・1・15）……463
百四　輜重兵第四九連隊第一中隊陣中日誌（昭20・2・1）……467
百五　独立第二九大隊本部陣中日誌（昭20・2・24）……473
百六　海軍慰安所利用内規［第12特別根拠地隊司令部］（昭20・3・18）……477
百七　性病予防ニ関スル件通知［第12特別根拠地隊軍医長］（昭20・3・29）……481
百八　歩兵第一〇六連隊連隊砲中隊陣中日誌（昭20・2・23）……487
百九　金辺憲兵隊日誌（昭20・9・7）……491
百十　復員並居留民船舶輸送情報第七号［陸軍省交通部］（昭20・9・29）……495
百十一　第四八師団戦史資料並終戦状況［師団長］（昭21・7・5）……499

防衛庁関係公表資料(下)

㊽ 大東亜戦争關係將兵ノ性病処置ニ關スル件 [陸軍省副官] (昭17・6)

(決行後)

(決行前)

(決行後)

第六九頁

保存期限	十年
決裁指定	原本
決行指定	兼任
受領番號	陸軍省受領 陸亞密受第五八二號
件名	大東亜戰爭關係將兵ノ性病處置ニ關スル件
起元題(課名)	衛生課
大臣	委任
政務次官	
次官	
參與官	
高級副官	
主務局長	
主務課長	
主務副官	
官房主計	
書記官	
主務課員	
大臣官房	
主務局課	
番號	衛寮第五十號
受領	昭和 年 月 日
提出	昭和十六年 六月十四日
受領	昭和 年 六月十六日
結了	昭和 年 七月二日
連帶	
局長(部)	軍務 兵務
	経理
課長	兵站總監部 兵務
	軍務
	軍務
	兵備
課長	
決行(決裁)後	
局部長	
課長	

(5)

陸亞密第　號　　〔甲一〕

大東亞戰爭關係將兵ノ性病處置ニ關スル件陸軍

一般ヘ通牒案

昭和十七年六月　日

陸軍省副官川原直一

出動地ニ於ケル性病豫防ノ徹底ヲ期シ以テ戰力ノ減退ト病毒ノ國內搬入ニ依ル民族ノ將來ニ及ボス惡影響トヲ防止センカ爲左ノ通リ定メラレタルニ付依命通牒ス

左記

一、派遣部隊ニ於ケル性病豫防ニ就テハ嚴正適切ナル指導ニ依リ感染ノ機會ヲ避ケシムルト共ニ出動地ニ於ケル慰安所等ノ衛生管理ニ關シ遺漏ナキヲ期スルモノトス

二、內地ニ歸還スヘキ將兵ニ就テハ現地ニ於テ歸還前對性病身體檢査ヲ實施シ傳染ノ虞アル患者ハ最寄ノ病院ニ收容加療シ治癒又

ハ症狀固定シ傳染ノ虞ナキニ至ル迄内地ニ歸還セシメサルモノトス

三、性病患者ニシテ治癒後ト雖モ再發ノ虞アル者ハ其ノ留入院シアル病院長ヨリ退院歸郷ノ際出身地地方長官宛通報スルモノトス

陸亞密第二一一二號　昭和拾七年六月拾八日

理由

古今東西ヲ問ハス戰爭後國内ニ性病ノ蔓延シタル前例尠シカラス

大東亞戰爭參加將兵ノ内地ニ歸還ニ方リ國内ニ性病ノ蔓延ヲ來サシムルハ皆ニ歸還將兵ノ家庭問題ニ止ラス我カ國人口政策上眞ニ由々シキ事ニシテ之カ對策ハ眞急且嚴格ナルヲ要ス

之本案ヲ提セントスル所以ナリ

陸軍







昭和十七年九月

副官（庶務將校）會同席上

意見、質疑及回答

支那派遣軍總司令部

目次

一、人事ニ關スル事項（別冊）
二、獨託雇傭人ニ關スル事項
三、恩賞一般（除功績）ニ關スル事項
四、刑懲罰ニ關スル事項
五、在外者特別休暇ニ關スル事項
六、功績ニ關スル事項
七、陸軍秘密書類ニ關スル事項
八、恤兵慰問ニ關スル事項
九、宿泊慰安ニ關スル事項
一〇、職業輔導ニ關スル事項
一一、其他

[前略]

八、中支、北支、南支ノ遺骨遠送規定ヲ統一規定セラレ度

理由　中支那、北支那ニ於ケル遺骨遠送業務ハ區々ニシテ當師團ノ如ク全支那ニ亘リ駐屯シ且其ノ機動性頻繁ナルニ鑑ミ中支、北支毎ニ遠送ノ方法、書類ノ樣式、同盟師部數、遺骨收容箱ノ寸法並思盡搭合配ニ關スル分骨ノ方法、名簿調製等相違シアリテ取扱上不便ナリ（三FD）

答　研究スヘシ

九、上海地區ニ於ケル愚安施設ハ比較的少數ナルニ付增設方考慮セラレ度

特ニ從全誤業施設ハ年少軍屬多數ヲ有スル當隊トシテ特ニ希望ス（自動車廠、兵器廠、貨物廠）

意見　上海地區ニ於ケル愚安施設左記ノ如シ

1、特種愚安所　一六ケ所　的殖數　一四〇名

1429

[中略]

ノ復業アリ價格ノ點ニ付テハ一部種株燃料等ヲ筆ヨリ拂下ケ向其他諸
費ニツキ購入斡旋等ノ方法ニヨリ極力底價格ニテ販賣スヘク努力シアリ

一一、上海市内ニ於ケル將校、下士官ノ集會所ヲ強化增設セラレ度

（自動車廠、兵器廠、貨物廠）

意見　宿行社ノ新設等ノ復業アリ

一二、衛生「サック」ヲ慰安所經營者ニ拂下ラレ度件

現在重ニ於テハ一名當リ二ケ月ニ一個ノ「衛生サック」ヲ交付シ居レ共
生記ノ理由ニ依リ此ヲ各慰安所經營者ニ拂下ラレ度

1、從來慰問所ニ於テ使用スル「サック」ハ各業者夫々市販物ヲ購入シ
豆腐者ニ必ス無料ニテ交付シ居リシモ最近市販物ハ拂底シ入手全ク絶
望ノ状態ナリ

2、上海地區ノ如ク軍ニ於テ慰安所ヲ設備シアリ且規定ニ依リ各業者ヲシテ登樓者ニ必ス交付使用セシメ居ルタメ各人ニ「サツク」ヲ持參シムルヨリ各業者ニ交付セシムルカ有效ナルヘシ

3、從來ノ状況ヲ看ルニ登樓者ニシテ「サツク」ヲ持參セル者ハ殆ントナシ即チ各人ニ交付セラレタル「サツク」ハ殆ント使用セス無數ニ成業スルカ或ハ軍慰安所以外ノ場所ニ於テ使用スルモノト推察サル

4、各人ニ「サツク」ヲ持參セシムル時ハ此ヲ利用シ軍慰安所以外ノ場所ニ立入リ易キタメ事故發生ノ誘因トナル僅アリ

因ニ一ケ月使用量ハ約四二〇〇〇個ナリ此カ各業者ニ拂下ハ登第七三三一部隊酒保部ヲ利用シ慰安所係ニ於テ統制案配ノ上拂下セシム

一三、軍事用調理店賣量及慰安所ニ軍ヨリ膳物資拂下ラレ度件

1435

最近上海地區モ漸次諸物資拂底トナリ各施設營業ニ必要ナル諸物資モ入手困難トナリ且相當高價トナレリ

此カ解入斡旋ノ爲メ係員ハ東奔西走シ居ルモ充分ナラス此ノ際兵站施設ヲ強化スルタメ事ニ於テ差支ヘナキ程度ニ諸物資ヲ有償ヲ以テ拂下スル運ヲ講セラレ度（以上 13A）

意見　本件ハ登東區經理部ニ對スル權限數量ノ範圍内ニ於テ處理スルヲ適當トスルニ付同經理部ニ於テ研究セラレ度

㊾—2 昭和一七年九月副官會同席上意見、質疑及回答（追加）［支那派遣軍総司令部］（昭17・9）

秘

昭和一七年九月

副官（庶務將校）會同席上意見、質疑及回答（追加）

支那派遣軍總司令部

第九　宿泊慰安ニ關スル事項

一、南京停車場構内ニ從前ノ如ク宿舍様出張所ヲ設置セラレ度

理由　從泊場司令部車站總算宿舍等各分散シアルヲ以テ旅行者及出張者ハ甚シク不便ナリ（九江蘇病）

答　研究スヘシ

二、南京ニ於ケル宿泊事務取扱者ヲ停車場、從泊場司令部又ハ宿行社内ニ設ケラレ度（三FD）

答　研究スヘシ

三、將校宿泊ニ關シ夜間遠ク南京ニ到着ノ場合ハ軍ニ電話ヲ以テ宿泊事務所ニ連絡ノ上指命ノ旅館ニ投宿シ其ノ空白又ハ歸途旅行券ヲ宿泊事務所ニ提出整理シテ差支ナキヤ（欲下候様）

［中略］

九、上海地區ニ於ケル慰安施設ハ比較的少數ナルニ付增設方考慮セラレ度特ニ從全談業施設ハ年少軍屬多數ヲ有スル實際トシテ特ニ希望ス（自動車廠、兵器廠、食物廠）

意見、上海地區ニ於ケル慰安施設左記ノ如シ

1、將兵慰安所　一六ケ所　酌婦數　一四〇名

2、休憩娛樂施設

(イ)　兵專用休憩所　料理店貸置　七ケ所

右施設ニ包含セラレタル娛樂設備左ノ如シ

撞球　四盤　ピンポン　三盤

スニスコート　二面　大弓場　一

柏撲場　一　函碁將棋　各十面

圖書室　一　電蓄ラジオ　六ケ

(ロ)　演藝場

上海調査　收容人員約三千名平時ハ居ント毎日曜日ニ主トシテ

兵他慰問演藝等實施シアリ

3　其他利用シ得ル民間施設

軍政規定集　昭和十八年十一月十一日
第三號　馬來軍政監部

馬來監達第二八號

慰安施設及旅館營業取締規程制定ノ件達

部內一般

慰安施設及旅館營業取締規程左ノ通定ム

昭和十八年十一月十一日

馬來軍政監

慰安施設及旅館營業取締規程

第一章　總則

第一條　本規程ハ軍人軍屬並ニ一般邦人ヲ對象トスル慰安施設及旅館ノ整備並ニ營業取締ニ關スル事項ヲ規定ス

第二條　本規程ノ運用ニ當リテハ常ニ軍ト緊密ナル連絡ヲ保持シ之ガ協調ニ努ムベシ

第三條　慰安施設及旅館ハ軍人軍屬並ニ一般邦人ノ志氣ヲ昂揚シ日本人タルノ品格ヲ保持スルコトヲ主眼トス

第四條　慰安施設ハ處理上之ヲ左ノ如ク區分ス

一　娛樂施設（映畫、演劇、演技、讀書、音樂、運動）

二　飮食施設（喫茶、食堂、料理屋）

三　特殊慰安施設（慰安所）

第五條　慰安施設ハ特ニ下士官以下ノ教育情操ヲ助成スル堅實ナル娛樂施設ノ整備ヲ第一義トシ飮食施設及特殊慰安施設ハ必要ノ最少限度ニ止メ且ツ酒亂ニ陷リ易キ（例ヘ

ハ日本式カフエー十ノ如キ）施設ハ之ヲ避クルモノトス

第六條　飲食施設及特殊慰安施設（慰安所）ハ其ノ營業場所等ヲ考慮シ現地人ニ對スル文化施策ニ惡影響ヲ及ホサザル如ク努ムベシ

第七條　慰安施設ノ經營者ハ邦人ニ限定スルヲ本則トスルモ從業員ハ爲シ得ル限リ現地人ヲ活用シ邦人ノ使用ハ必要最少限度ニ止ムルモノトス

第八條　慰安施設營業ヲ左ノ如ク區分ス

一　軍專用

一般人ノ出入利用ヲ許サザルモノ

二　軍利用

一般人ノ出入利用ヲ許スモ軍人軍屬ニ對シ特ニ利便ヲ與フルモノ

三　其ノ他ノ營業

右以外ノモノ

第九條　軍專用及軍利用ノ認定ハ軍ニ於テ行フ

第十條　本規程ニ於テ軍トアルハ第二師團長又ハ第二師團長ノ指示スル獨立守備隊長ヲ謂フ

第十一條　海軍ノ所管ニ屬スル慰安施設及旅館ハ軍政機關ニ於テ關與セザルモノトス

第二章　營業處理

第十二條　左記事項ハ地方長官ニ於テ處理スベシ

一　營業ノ許可、禁止、停止

二　營業ノ譲渡及營業所移轉ノ許可

三　稼業婦ノ就業及就業所變更ノ許可

四　營業者及稼業婦ノ廢業許可

第十三條　地方長官ニ於テ軍專用及軍利用ノ認定並ニ取消ノ要アリト認ムルトキハ其

ノ事由ヲ具シ軍政監ニ報告スヘシ

第十四條　軍政監前條ノ報告ヲ受ケタルトキハ意見ヲ附シ軍ニ要請スルモノトス

第十五條　地方長官ニ於テ營業者及從業員ノ轉業轉籍ニ關スル許可申請ヲ受理シタルトキハ實情調査ノ上意見ヲ附シ軍政監ニ進達スヘシ

第十六條　地方長官ニ於テ邦人ノ營業經營者及從業員呼寄ノ要アリト認メタルトキハ關係者ノ呼寄證明願ニ其ノ事由ヲ具シ軍政監ニ報告シ其ノ決定ヲ得テ處理スヘシ

第十七條　軍政監前條ノ報告ヲ受ケタルトキハ意見ヲ附シ軍ニ申請スルモノトス

第十八條　地方長官ハ營業處理ニ關シ左ノ各號ニ準據スヘシ

一　開設ニ關シ軍ノ要望又ハ軍政監ノ指示アルトキハ家屋設備ノ貸與等ヲ斡旋シ且ツ敵産ニカカルモノナルトキハ敵産管理ノ諸規定ニ依リ處理スルコト

二　營業ノ整備並ニ營業者及從業員ノ處分ニ關シ軍ノ要望アルトキハ其ノ要望ニ從ヒ處理スルコト

第十九條　本規程ニ依リ許可スル一般邦人ノ專用ニ供スヘキ旅館ノ經營者ハ邦人ニ限ル

第二十條　軍專用及軍利用店ノ販賣價格、代金、サービス料等ハ別途定ムル所ニ依ル

第二十一條　地方長官ハ慰安施設及旅館ノ營業者並ニ從業員ニ對シ每月一回健康診斷ヲ行フヘシ

前項ノ外稼業婦ニ對シ每週一回檢徵ヲ行フヘシ

第二十二條　地方長官ハ一般衛生管理ニ關シ必要アルトキハ關係軍隊ニ援助ヲ求ムルコトヲ得

第三章　監　督

第二十三條　地方長官ハ各營業者及從業員ニ對シ馬來監督第二十九號慰安施設及旅館營業遵守規則（以下單ニ遵守規則ト稱ス）ノ勵行ニ付取締ヲ行フヘシ

第二十四條　新ニ營業ヲ許可セントスルトキハ遵守規則ノ勵行ヲ許可條件トシ既設營業ニ對シテハ之ニ據ラシムル如ク措置スヘシ

第二十五條　地方長官ハ營業開設ニ當リテハ公安風俗及衛生上支障ナキ樣營業所ノ構造設備ヲ爲サシムヘシ

第二十六條　地方長官ハ慰安施設及旅館營業者名簿並ニ稼業婦名簿（樣式適宜）ヲ備付ケ異動ノ都度整理スヘシ

前項ノ外稼業婦ニ對シ證票（樣式適宜）ヲ交付シ就業中之ヲ携帶セシムルモノトス

第二十七條　地方長官ニ於テ軍事用及軍利用營業ノ許否並ニ禁止處分ヲナサントスルトキハ其ノ事由ヲ具シ軍政監ニ稟申スヘシ

前項以外ノ處分ニ於テモ特別ノ事情アルトキ亦同ジ

第二十八條　地方長官ハ本規程ニ依リ處理シタル事項ハ其都度軍政監ニ報告スヘシ

第二十九條　本規程施行ノ爲必要ナル取締事項ハ地方長官之ヲ定ムルコトヲ得

第四章　雜　則

第三十條　支部ニ於テ從來實施セル事項ニシテ本規程ニ反スルモノハ漸次本規程ニ據ル如ク措置スヘシ但シ簿册ノ如キ支障無キ限リ從來ノモノヲ用ユルコトヲ得

附　則

本規程ハ昭和十八年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十八年十月五日馬來監達第二十四號慰安施設及旅館營業取締規程ハ之ヲ廢止ス

馬來監達第二九號

慰安施設及旅館營業遵守規則制定ノ件達

部內一般

慰安施設及旅館營業遵守規則左ノ通定ム

昭和十八年十一月十一日

馬來軍政監

慰安施設及旅館營業遵守規則

第一條　慰安施設及旅館營業者ハ軍及軍政監部ノ別ニ指示スル事項ノ外本則ヲ遵守スヘシ

第二條　慰安施設營業者ハ營業ノ區分ニ從ヒ店頭見易キ個所ニ附表第一號ノ標識ヲ掲クヘシ但シ軍關係ニ非ザルモノハ此ノ限リニ在ラズ

第三條　從業員ヲ雇入レ又ハ解雇シタルトキハ其都度附表第二號樣式ニ依リ所轄地方長官ニ届出ツヘシ但シ遠隔ノ地ニアリテハ所轄警察署ヲ經由スルコトヲ得

第四條　營業者ハ附表第三號及第四號樣式ノ從業員名簿ヲ備付ケ異動ノ都度整理シ置クヘシ

第五條　營業者ハ各營業種別毎ニ組合ヲ組織シ所轄地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第六條　營業者稼業婦ヲ雇入レタルトキハ別冊醫妓、酌婦、雇傭契約規則ニ基キ雇傭契約ヲ定メ所轄地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第七條　營業者ハ左ノ事項ヲ遵守スベシ

一　外部ヨリ見透シ得ル場所ニ於テ婦女子ヲシテ客ト戯レ或ハ異樣ノ服裝又ハ見苦シキ姿態ヲナサシメザルコト

二　婦女子ヲシテ遊興ヲ勸誘セシメザルコト

三　婦女子ヲシテ客ニ隨伴外出セシメザルコト

四　社交ダンスヲ行ハシメザルコト

五　旅館ニ於テハ婦人ヲ客室ニ出入セシメザルコト

六　「レコード」及樂器類ハ十七時以降二十三時迄ノ使用差支ヘナキモ頽廢的ノ歌詞音樂類ノ演奏及擴聲器ノ備付ヲナサザルコト

七　營業所ハ常ニ清潔ニシ衛生上遺憾ナキヲ期スルコト

八　從業員ノ保健衛生上必要ナル設備ヲナシ又冗費ヲ節約セシメ堅實ナル生活ヲナサシムル樣常ニ指導監督スルコト

九　營業時間ハ十二時ヨリ二十四時迄トス

一〇　客室（特殊慰安所ヲ除ク）及裝飾燈ノ全部並ニ屋外照明燈ノ大部ハ二十四時ニ滅燈スルコト

一一　何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハズ客ニ所定以外ノ料金ヲ請求セザルコト

第八條　營業者ハ所定ノ販賣價格料金サービス料其他之ニ準ズルモノヲ各客室ニ掲示シ置クベシ

第九條　營業者及從業員ハ地方長官ノ指示シタル所ニ依リ健康診斷ヲ受クベシ稼業婦ハ前項ノ外檢黴ヲ受クベシ

第十條　營業者及從業員ハ軍ノ衛生巡察ヨリ指示注意ヲ受ケタルトキハ之ニ從フベシ

第十一條　稼業婦ハ就業認可ヲ受クルニ非サレバ就業スベカラズ

檢徵ノ結果病毒感染セリト認メラレタル者ハ全治ノ認定アル迄就業スベカラズ

第十二條　營業者及從業員ハ軍政監ノ許可ヲ受クルニアラザレバ轉業轉籍ヲ爲スコトヲ得ズ

前項ノ許可申請ハ所轄地方長官ヲ經由スベシ

第十三條　營業者及稼業婦ニシテ廢業セントスルトキハ所轄地方長官ニ願出許可ヲ受クベシ

第十四條　經營者ハ營業開始ニ當リ敵産ニ付テハ敵産管理人トシテ所要ノ整理ヲ爲スベシ

前項ノ敵産ハ非敵産物件ト區分整理スルモノトス

第十五條　兵站旅館ニ於テ一般人ヲ宿泊セシメタルトキハ規定料金ノ外左ノ金額ヲ徵收スベシ

一　將官待遇　五圓
一　佐官待遇　四圓
一　尉官待遇　三圓

前項ノ徵收額ハ軍政監ニ納付スベシ

第十六條　營業者（兵站旅館ニシテ一部ノ委託經營ニ屬スルモノヲ除ク）ハ現金出納簿（様式適宜）ヲ備ヘ尚所要ニ應シ補助簿ヲ備ヘ日日收支ヲ明確ナラシムベシ

第十七條　營業者（除特殊慰安施設營業）ハ左ノ各號ノ決算書ヲ所轄支部警務部經由ノ上軍政監ニ提出スベシ

一　每月附表第五號ノ收支計算書
二　六ケ月每ニ附表第六號ノ資産負債内譯表

第十八條　特殊慰安施設（慰安所）營業者ハ毎月別表第七號ノ收支計算書ヲ翌月十日迄ニ所轄支部警務部經由ノ上軍政監ニ提出スベシ

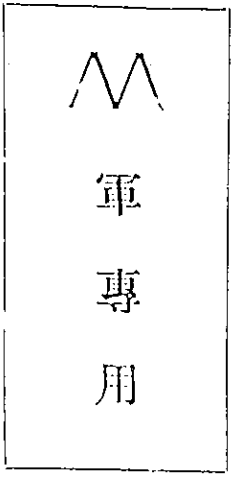
第十九條　營業者ハ本則ノ外地方長官ノ指示命令ヲ遵守スベシ

附　則

本規則ハ昭和十八年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

附表第一號

一、軍專用



大キサ　縦八十糎　横三十糎　程度ヲ超ヘザルコト

二、軍利用



附表第二號

従業員雇入（解雇）届

本籍 住所 氏名	性別	年齢	種族別	従業ノ種別	雇入年月日	解雇年月日

昭和　年　月　日

営業所

営業者

州（市）長官殿

（印）

附表第三號

一　從業員名簿（其ノ一）

昭和　年　月　日起

從業員名簿

屋號
營業者

附第表四號

從業員名簿（其ノ二）

從業種別			
氏名			
年齢			
性別			
種族別			
本籍住所			
雇入（解雇）年月日	雇入		
	解雇		

附表第五號

收支計算書

昭和　年　月分

業種　　屋號　　氏名

收入			支出		
科目	摘要	金額	科目	摘要	金額
軍支拂宿泊料	名分		營業費		
同食事料	名分		勞務費		
一般人支拂宿泊料			給料	人	
料理收入			賃金	人	
飮料收入			手當	人	
花代總收入			飮料購入		
接待料收入			材料購入		
雜收入			慰安支拂		
			接待料給仕割戻額		
			諸公課		
			納付金		
			雜費		
(差引損失)			(差引益金)		
	合計				
			合計		

注意　1. 料理店喫茶店旅館等業種ニヨリ科目ヲ適宜取捨シ又ハ新設スルコトヲ得

2. 營業費中ニハ營業者所有ノ不動產(諸設備ヲ含ム)ノ價却ヲ含ム

以上御届ニ及候也

昭和　年　月　日

右(營業者氏名)　　印

馬來軍政監殿

別表第六號

資産負債内譯表

昭和　　年　　月現在

業種　　屋號　　氏名

資産			負債		
科目	内譯	金額	科目	内譯	金額
固定資産			資本		
營業用設備什器			自己資金		
			借入資金		
開業費			買掛金		
貸付金			從業員預金		
賣掛金			何々		
棚卸資金					
預金					
現金					
何々					

右御届ニ及候也

昭和　　年　　月　　日

右(營業者氏名)

馬來軍政監殿

附表第七號

收支計算書

昭和　年　月　分

何々倶樂部　　營業者氏名

收入				支出			
科目	摘要	金額		科目	摘要	金額	
主代總收入				主代（稼業婦ニ拂戻）			
雜收入				賄費			
				光熱費			
				衞生費			
				組合費			
				家賃			
				給料			
				營繕費			
				備品費			
				雜費			
				本月利益			

備考1.投資額（稼業婦ニ貸與シアル前借金及開業迄ニ特ニ要シタル經費）

（イ）當初ノ金額

（ロ）現在迄ニ回收シタル額

前月迄ノ回收額

本月回收額

計

（ハ）差引未回收額

2.人員數　（イ）稼業婦　名　（ロ）其他使用人　名

右御届ニ及候也

昭和　年　月　日

右何々　(印)

馬來軍政監殿

資産負債内譯表說明事項

一、本表ノ勘定科目ハ業態ノ主要項目ニ就キ設定シタルモノナルヲ以テ指定以外ノ資産負債ニ對シテハ經營者ニ於テ其ノ性質ヲ明確ナラシムベク科目ヲ區分設定シ各勘定科目ノ月末現在高ヲ計上スルモノトス

二、固定資産ニハ開業ノ爲ニ要シタル建物及工作物ノ新築模樣替ヘ等ニ要シタル金額ヲ計上ス

三、營業用設備什器ハ當該科目ノ初度調辦額ヲ計上シ別ニ定ムル原價償却法ニ依ル

四、開業費ニハ開業ニ至ル間ニ於ケル從業員ノ給料及旅費其他ノ諸掛ヲ計上ス

五、貸付金ニハ從業婦ニ對シテ貸付ヲ爲シタル債權額ヲ計上ス

六、預掛金ニハ月末現在ニ於ケル未收入金ヲ計上ス

七、買掛金ニハ仕入シタル諸材料品ニ對スル未支拂金ヲ計上ス

八、損益計算上諸公課及支拂利子等ニ對シ期間計算ヲナシタル引當金ニ對シテハ之ヲ負債ニ計上スルモノトス

九、固定資産ノ減價償却ハ

旅館　年　料理屋　年

（別　則）

藝妓、酌婦雇傭契約規則

第一條　營業者藝妓酌婦（以下稼業婦ト稱ス）ヲ雇入レントスルトキハ其ノ契約ヲ左記標準ニ依リ爲スベシ

但シ從來ノ契約中稼業婦ノ利益ニ屬スルモノニシテ其ノ契約ヲ存續セントスルトキハ此ノ限リニ在ラズ

一　稼業婦が稼業ニ依ル收益金ヨリ強制貯金ヲ控除シタル殘高ノ收得歩合ハ左記ニ據ルベシ

（イ）稼業婦稼高ノ配當歩合

償務殘額	雇主所得	本人所得
千五百圓以上	六割以内	四割以上
千五百圓未滿	五割以内	五割以上
無借金	四割以内	六割以上

（ロ）前借金及別借金ハ總テ無利息トス

第二條　稼業婦ニ屬スル左ノ費用及物品ハ雇主ノ負擔トス

一、居室、戸棚、衣類箪笥、消毒用器具

二、寢具一式

三、食費、燈火

四、消毒藥品

五、健康診斷ニ要スル費用

第三條　雇主ハ稼業婦ノ毎月稼高ノ百分ノ三ヲ地方長官ノ指定スル郵便局ニ稼業婦本人ノ名儀ヲ以テ貯金シ稼業婦廢業ノ時本人ニ交付スルモノトス

第四條　稼業婦ノ配當所得金ヲ以テスル前借金返濟ハ毎月其所得ノ三分ノ二以上トシ殘金ハ稼業婦ノ自由トス

第五條　稼業上ニ起因スル姙娠分娩及疾病ニ要スル諸費用ハ雇主、稼業婦折半負擔トシ其ノ他ニ起因スルモノハ稼業婦ノ負擔トス但シ此ノ場合ニ於テモ雇主ハ見舞金トシテ適當ノ補助ヲナスモノトス

第六條　遊客其他ヨリ稼業婦ニ於テ直接收受シタル金品ハ總テ稼業婦ノ收得トス

第七條　遊興費ノ不拂ハ總テ營業主ノ負擔トス

第八條　稼業婦廢業シタルトキハ雇主ハ稼業當日迄ノ稼高ヲ精算スベシ

第九條　稼業婦ガ本契約締結ノ日ヨリ滿六ケ月以內ニ於テ雇主ノ意ニ反シテ解約セントスルトキハ雇主ニ對シ相當額ノ違約金ヲ補償スルモノトス但シ其ノ金額ハ所轄地方長官ノ承認ヲ得テ決定スベシ

第十條　雇主ハ樣式第一號ノ貸借計算簿及樣式第二號ノ稼高日記帳各二通ヲ調製シ其ノ各一通ヲ稼業婦ニ交付シ每月末計算ノ上整理シ置クベシ

第十一條　稼業婦一時ニ別借百圓以上爲サントスルトキハ所轄地方長官ノ認可ヲ受クベシ

第十二條　左ノ場合ニ於テハ貸借計算簿及稼高日記帳ヲ所轄地方長官ニ提出シ檢閱ヲ受クベシ

一、稼業婦ノ開業就業所ノ變更又ハ廢業セントスルトキ

二、別借金ノ認可ヲ受クルトキ

三、契約ヲ變更セントスルトキ

四、亡失、毀損等ニ依リ帳簿ヲ變更セントスルトキ

第十三條　本則ニ定メタル事項以外ノ雇傭關係ヲ契約セントスルトキハ其都度所轄地方長官ノ認可ヲ受クベシ

第十四條　本則施行ノトキ契約シアルモノハ本則ニ依リ契約シタルモノト看做ス但シ稼業婦ノ不利益トナル事項ハ本則ニ適合スル如ク變更スベシ

昭和　年　月　日起

貸借計算簿

軍事（利）用
（屋號　）

營業者氏名
藝名
氏名

貸借計算簿

年月日	貸借理由	貸借金額	返済金額	差引現在高	雇主印	稼業婦印

昭和　年　月　日起

稼高日記帳

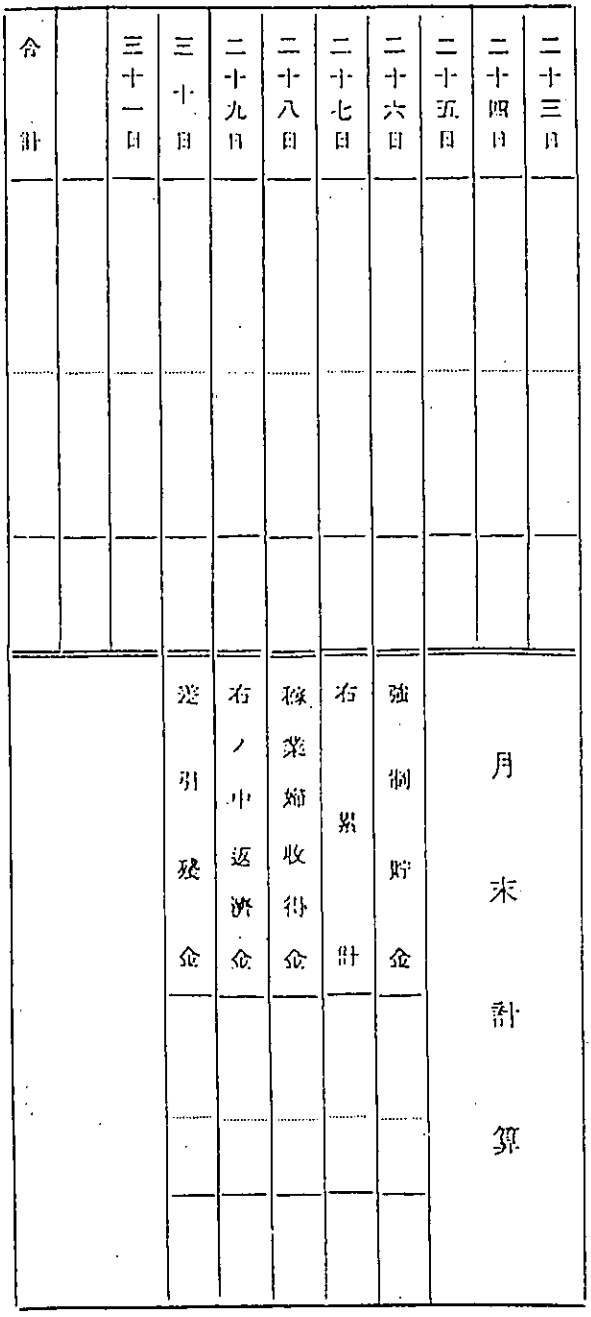
軍事（利）用
（屋號　）

營業者氏名
藝名
氏名

稼高日記帳

三月分

月日	稼高金額	印	月日	稼高金額	印
一日			十二日		
二日			十三日		
三日			十四日		
四日			十五日		
五日			十六日		
六日			十七日		
七日			十八日		
八日			十九日		
九日			二十日		
十日			二十一日		
十一日			二十二日		



二十三日											
二十四日											
二十五日											
二十六日											
二十七日											
二十八日											
二十九日											
三十日											
三十一日											
合計											

月末計算

強制貯金			
右累計			
稼業婦收得金			
右ノ中返濟金			
差引殘金			

係	主任	長
土田	内田	

㊿検徴成績ノ件通報

「イロイロ患者療養所」（昭17・5・12～12・27）★

山庭第一口號

検徴成績ノ件通報

昭和十七年五月十二日　イロイロ患者療養所　山口

イロイロ憲兵分隊御中

第一慰安所本日ノ検徴成績左記ノ通リ通報ス

左記

被検査者姓名	検査成績	病名
[redacted]	可	
[redacted]	可	
[redacted]	可	
[redacted]	可	
[redacted]	可	
[redacted]	可	
[redacted]	不可	膣部糜爛

陸軍

★

〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	昭和17年
12月27日	11月3、10、27日	10月5、13、19、27日	9月1、10、22、29日	8月5、11、18、25日	7月7、13、20、28日	6月9、15、23、29日	5月12、19、26、29日

係	主任	長
土田	岡	大

山庶第一二號

檢徵成績ノ件通牒

昭和十七年五月十九日　イロイロ患者療養所(告)

憲兵隊　事中

首題ノ件第一慰安所檢徵成績別紙ノ通リニ付通牒ス

別紙

氏名	可不	疾名	備考
[redacted]	可		
[redacted]	可		
[redacted]	可		
[redacted]	可		
[redacted]	可		
[redacted]	可		
[redacted]	可		
[redacted]	不可	腟部ビラン	
[redacted]	可		
[redacted]	可		
[redacted]	可		
[redacted]	不可		月経
[redacted]	可		
[redacted]	可		

陸軍

係	主任	理事
土田	内田	

山廣一方號

検徴成績ノ件通牒

昭和十七年五月二十六日　イヴイロ患者療養所

憲兵隊御中

首題ニ関スル件左記ノ通リニ付通牒ス

左記

氏名	年齢	可否	病名
[redacted]	一八	可	
[redacted]	一六	不可	外陰部摩爛
[redacted]	三一	可	
[redacted]	一八	可	陰唇病アリ
[redacted]	二〇	不可	陰部摩爛
[redacted]	一八	可	
[redacted]	一七	一	

氏名	年齢	可否	病名
[redacted]	一八	可	
[redacted]	一九	可	
[redacted]	一六	可	
[redacted]		不可	頸部カタル
[redacted]		可	
[redacted]			月経
[redacted]			全

陸軍

係	主任	佐
土田	國	大

山庶第一八號

検徴成績ノ件報告

昭和十七年五月二十九日　イロイロ悪者療養所 [illegible]

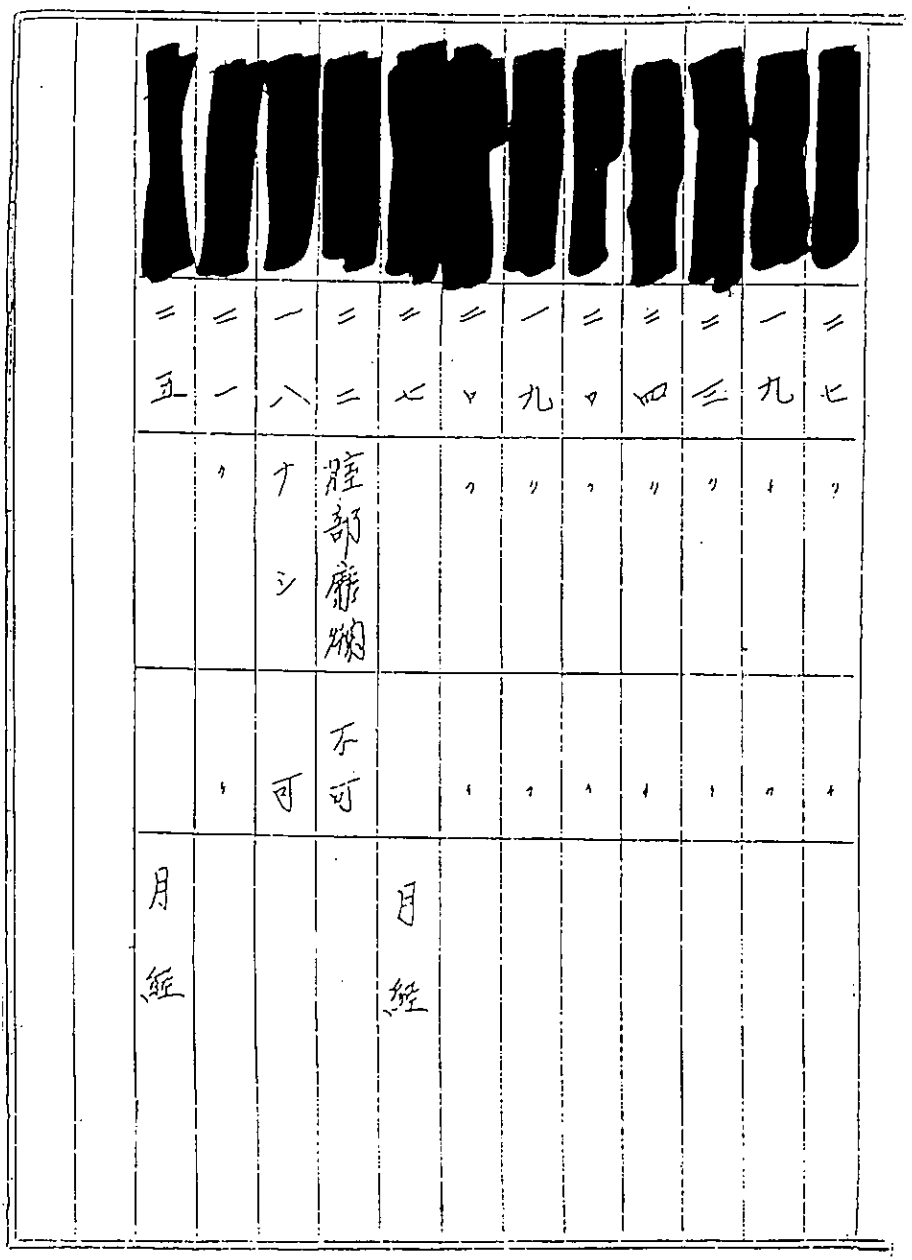
憲兵隊師中

首題ニ関スル件左記ノ通リ通報ス

左記

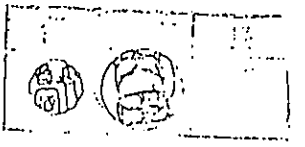
氏名	年齢	病名	良否	摘要
[redacted]	二二才	ナシ	可	
[redacted]	一五	〃	可	
[redacted]	三二	〃	〃	
[redacted]	二六	〃	〃	
[redacted]	二三	〃	〃	
[redacted]	二〇	〃	〃	
[redacted]	二四	〃	〃	

陸軍



二五	二一	一八	二二	二七	二六	一九	二〇	二四	二三	一九	二七
	〃	ナシ	腟部靡爛		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
	〃	可	不可		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
月経				月経							

（山谷農・京東）



検徴成績ノ件

昭和十七年六月九日　イロイロ兵站支部醫務室　松村

首題ニ關スル件左記ノ通ーニ付

左記

氏名	年	可否	病名	氏名	年	可否	病名
[redacted]	三十一才	可		[redacted]	十七才	可	
[redacted]	十八才	可		[redacted]	二十五才	否	腟部糜爛
[redacted]	二十才	可		[redacted]	二十一才	可	
[redacted]	十七才	月經		[redacted]	十八才	可	
[redacted]	十九才	〃		[redacted]	十八才	月經	
[redacted]	十六才	〃					
[redacted]	十六才	可					
[redacted]	十七才	可	子宮腟部輕度ノ糜爛				

陸軍

検黴成績ノ件

昭和十七年六月九日

イロイロ兵站支部醫務室（松村）

首題ニ關スル件左記ノ通リニ付

左記

氏名	年	可否	病名
[redacted]	二十才	可	
[redacted]	十九才	可	
[redacted]	二十六才	可	
[redacted]	二十三才	月經	
[redacted]	二十才	可	
[redacted]	二十才	可	
[redacted]	二十二才	可	
[redacted]	二十二才	可	
[redacted]	二十五才	可	

氏名	年	可否	病名
[redacted]	二十一才	可	
[redacted]	二十才	可	
[redacted]	二十三才	可	
[redacted]	十九才	否	濕疹
[redacted]	二十六才	可	
[redacted]	三十一才	可	
[redacted]	二十六才	否	膣部糜爛
[redacted]	三十才	月經	
[redacted]	二十四才	否	麻病

陸軍

氏名	年	可否	病名
[redacted]	十五才	可	

陸軍

係	主任	長

檢徵成績ニ関スル件

イロイロ支部醫務室 松村

昭和十七年六月十五日

首題ニ関スル件左記別紙ノ通配布ス

陸軍

氏名	年	可否	病名	氏名	年	可否	病名
[redacted]	三十四才	月經		[redacted]	二十三才	可	
	二十三才	帳	膣部糜爛				
	二十才	可					
	二十五才	可					
	十九才	可					
	二十三才	可					
	二十一才	不在	胃腸入院				
	二十二才	可					
	二十一才	可					
	二十六才	可					
	二十三才	可					
	二十才	月經					

陸部

氏名	年	可否	病名	氏名	年	可否	病名
[redacted]	二十才	可		[redacted]	十八才	可	
[redacted]	二十一才	否	膣部糜爛	[redacted]	一十三才	可	
[redacted]	一七才	可					
[redacted]	二十一才	可					
[redacted]	三十一才	月經					
[redacted]	十六才	否	陰部潰瘍				
[redacted]	十六才	可					
[redacted]	二十才	可					
[redacted]	十九才	否	膣部糜爛				
[redacted]	十八才	可					
[redacted]	十八才	可					
[redacted]	十六才	可					
[redacted]	二十七才	否	膣部糜爛				

陸軍



檢徵成績ニ関スル件

昭和十七年六月二十三日

イロイロ兵站支部醫務室

首題ニ関スル件左記ノ通リ別紙配布ス

憲兵隊古中

松村

陸軍

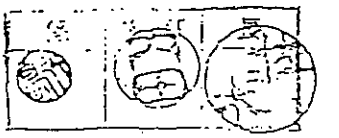
第二慰安婦

氏名	年	可否	病名
[redacted]			
	二〇才	可	
	二二才	月經	
	二三才	可	
	二一才	入院	盲腸
	二十三才	可	
	一九才	可	
	二六才	可	
	二一才	可	
	二五才	可	
	二四才	可	

第一慰安婦

氏名	年	可否	病名
[redacted]			
	十六才	月經	
	三一才	可	
	一八才	月經	
	二〇才	月經	
	一六才	否	外部 淋疹
	一六才	月經	
	一九才	可	
	二一才	月經	
	一八才	可	
	二七才	月經	
	一八才	月經	
	一七才	可	

陸軍



檢徴成績ニ関スル件

昭和十七年六月二十九日

イロイロ兵站支部醫務室 松村

首題ニ関スル件左記ノ通リ別紙配布ス

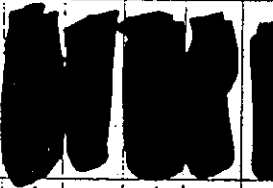
各隊法中

陸軍



第一慰安所

氏名	年	可否	病名
[redacted]	十六才	可	
	二十才	可	
	十八才	可	
	二十七才	可	
	二十二才	否	淋病
	三十二才	可	
	十八才	可	
	二〇才	可	
	十八才	否	腟加糜爛
	十七才	可	
	十九才	可	
	十六才	可	



第二慰安所

氏名	年	可否	病名
[redacted]	三十三才	否	腟加糜爛
	二十一才	養生	
	三三才	可	
	十九才	可	
	二十五才	月経	
	三十一才	可	
	三十六才	可	
	三十三才	否	腟加糜爛
	三十才	可	
	三十四才	月経	

陸軍

十八才	十八才	二十才	十六才											
可	可	否	月經											
		陸初糜爛												

係	主任
[illegible]	[illegible]

檢黴成績ニ關スル件

昭和十七年七月七日

イロイロ兵站支部醫務室

首題ニ關スル件左記ノ通リニ付通報ス

左記

第一慰安所

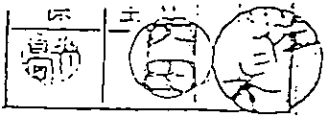
氏名	年	暑	病名
[redacted]	二一	可	
	一八	可	
	二七	否	二〇腫部糜爛
	三一	可	
	一八	可	
	二〇	可	
	一八	可	

氏名	年	暑	病名
[redacted]	一七	可	
	一六	可	
	一八	可	
	一八	月經	
	二〇	可	
	一八	否	淋病

陸軍

第二慰安所

氏名	年	罹病名
[redacted]	二五 可	
	二六 可	
	二一 月経	
	二二 否	子宮膣部糜爛
	二三 月経	
	二 可	
	一九 可	
	二二 可	
	二〇 可	
	二四 可	



檢徴ノ成績ニ関スル件

昭和十七年七月十三日

イロイロ兵站支部醫務室 松村

首題ニ関スル件別紙ヲ配布ス

陸軍

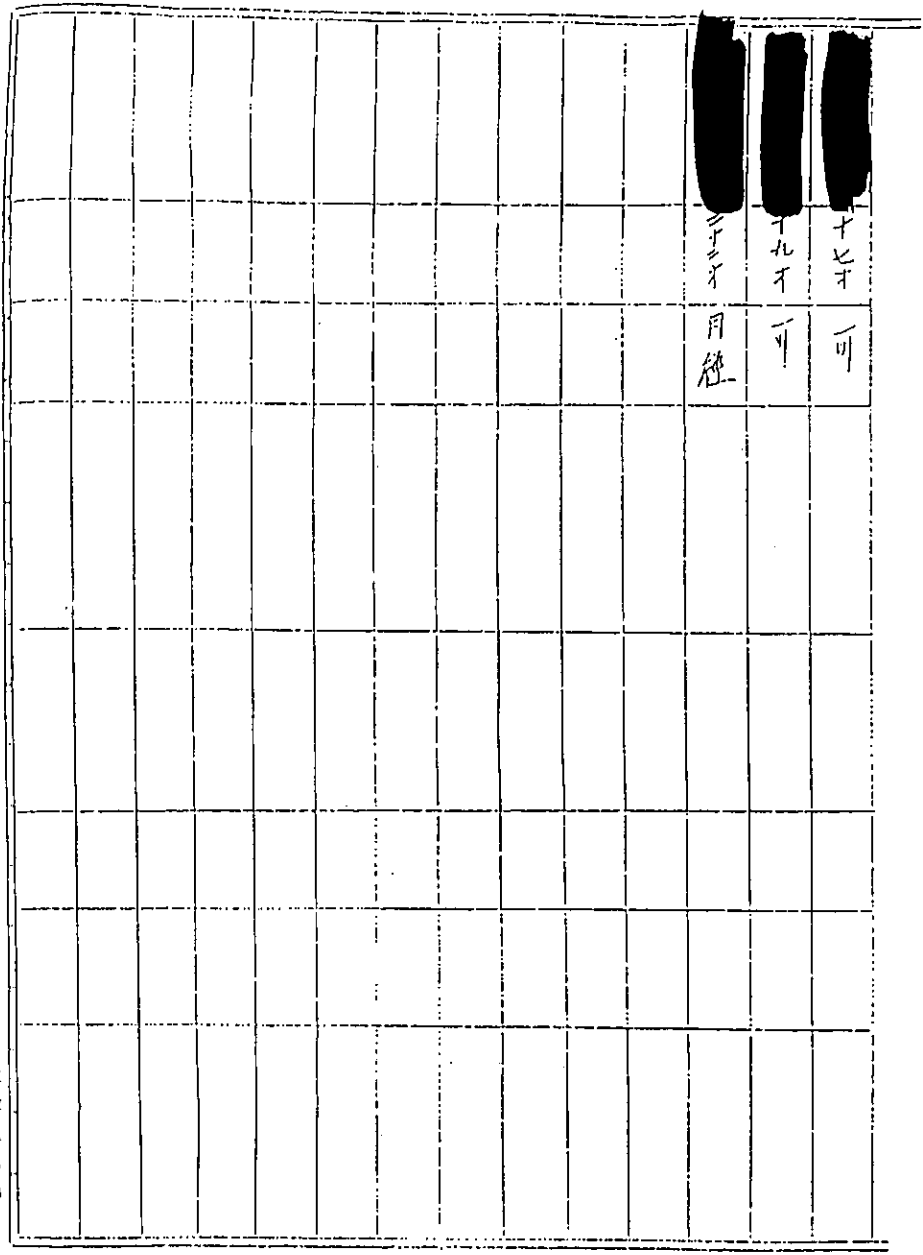
第一慰安所

氏名	年	可否	疾名
[redacted]	三十才	否	淋病
	十八才	月経	
	三十二才	否	子宮膣潰瘍
	三十一才	可	
	十八才	可	
	二十才	可	
	十九才	月経	
	十七才	可	
	十六才	可	
	十八才	可	
	十八才	否	淋病
	十八才	否	子宮膣部糜爛
	三十才	可	

第二慰安所

氏名	年	可否	疾名
[redacted]	三十五才	可	
	三十六才	否	疾病
	三十二才	可	
	二十二才	可	
	三十三才	可	
	三十一才	可	
	十九才	可	
	三十三才	可	
	二十才	可	
	三十四才	可	

陸軍


十七才
十九才
二十三才

検徴成績ニ関スル件

昭和十七年七月二十日

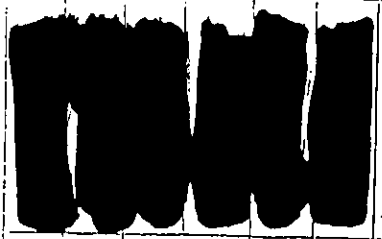
イロイロ兵站支部医務室

首題ニ関スル件左記ノ通ニ付通報ス

左記

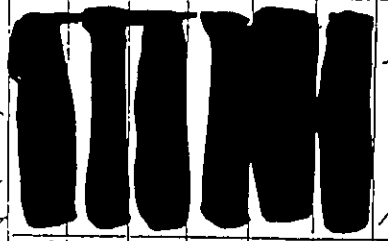
氏名	年	罹病名	氏名	年	罹病名
[redacted]	二一	否 淋病	[redacted]	一八	可
	一八	可		一八	可
	三二	可		二〇	可
	一八	否 子宮腟部糜爛		一六	否 淋病
	三〇	可		一六	否 淋病
	一八	可		二三	可
	二七	可		一七	可
	二六	可		一九	可

陸軍



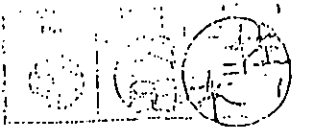
氏名	年	醫	病名
	五	可	
	六	可	
	二	可	
	三	可	
	三	可	
	三	可	

以上第一慰安所



氏名	年	醫	病名
	一九	月經	
	三	可	
	二〇	可	
	二四	可	
	二六	否	子宮陰部潰瘍
	二〇	可	

以上第二慰安所



検徴成績ニ關スル件

昭和十七年七月二十八日

イロイロ兵站支部醫務室（松井）

首題ニ關スル件左記ノ通リニ付通報ス

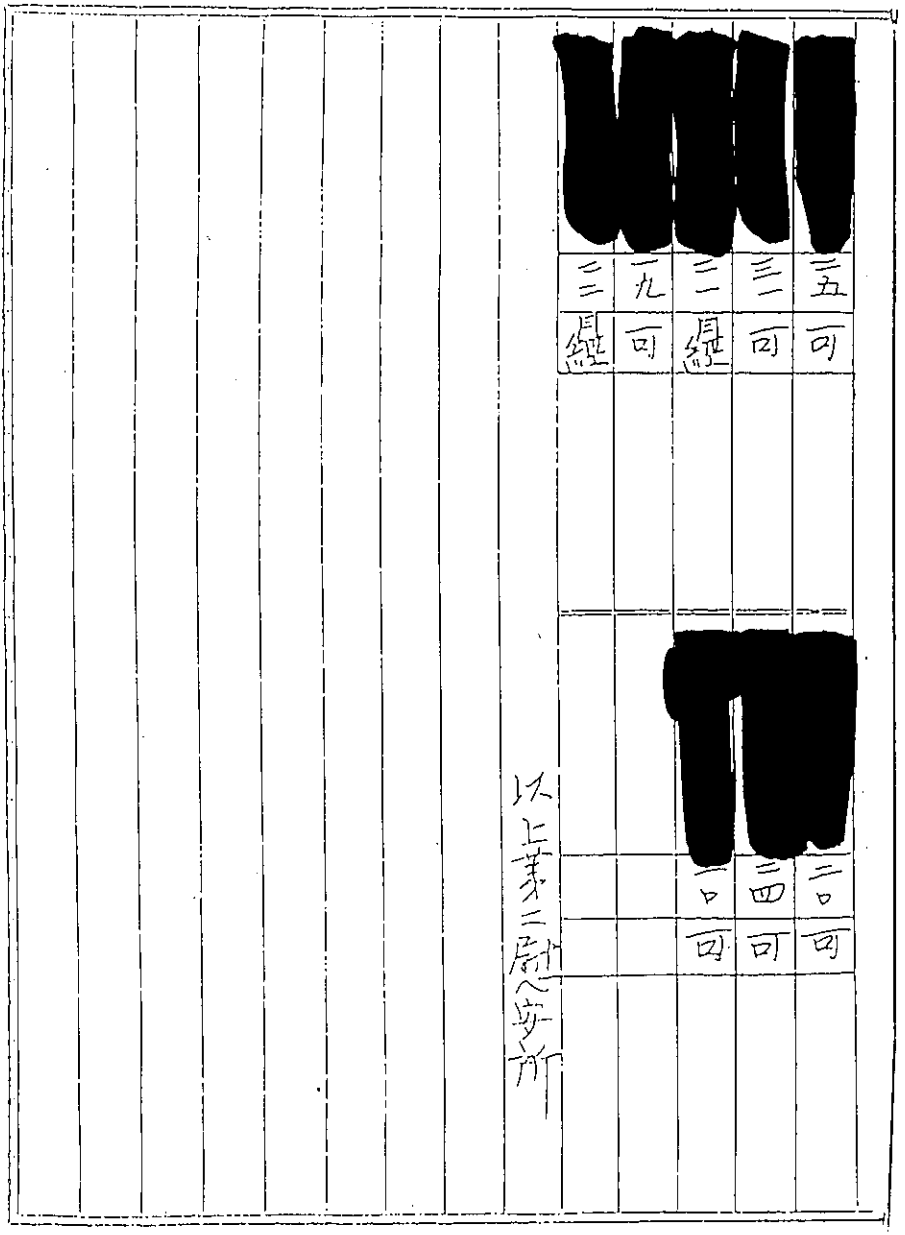
左記

氏名	年	罹病	名	氏名	年	罹病	名
[redacted]	一八	可		[redacted]	一八	可	
	一八	否	子宮腟部潰瘍		一八	可	
	三一	可			二〇	可	
	一六	可			一六	否	淋病
	一八	可			一七	可	
	二七	經			一九	可	
	一七	可			三七	否	淋病
	一七	可					

以上第一慰安所

二五	三一	二一	一九	二二
可	可	經	可	經
二〇	二四	一〇		
可	可	可		

以上第二尉へ安所





係	主任	所
[illegible]	[illegible]	[illegible]

検黴成績ニ關スル件

昭和十七年八月五日

イロイロ兵站支部醫務室 松村

首題ニ關スル件左記ノ通ニ付通報ス

左記

氏名	年	可否	病名
[illegible]	一八	月經	
[illegible]	一八	可	
[illegible]	三一	可	
[illegible]	一六	可	
[illegible]	一七	否	淋病
[illegible]	一六	可	
[illegible]	一八	可	
[illegible]	一八	可	

氏名	年	可否	病名
[illegible]	二〇	可	
[illegible]	一六	否	淋病
[illegible]	一七	可	
[illegible]	一九	可	
[illegible]	一六	可	

以上第一慰安所

陸軍

年	月	日	氏

氏名	年	可否	病名
[illegible]	二五	月經	
[illegible]	二六	可	
[illegible]	三一	可	
[illegible]	三三	可	
[illegible]	二三	月經	
[illegible]	二一	可	

氏名	年	可否	病名
[illegible]	一九	可	
[illegible]	二〇	否	急性氣管支炎
[illegible]	二六	可	
[illegible]	二〇	可	
[illegible]	二五	月經	

以上第二慰安所

長	庶主任	部

検黴成績ニ關スル件

昭和十七年八月十一日

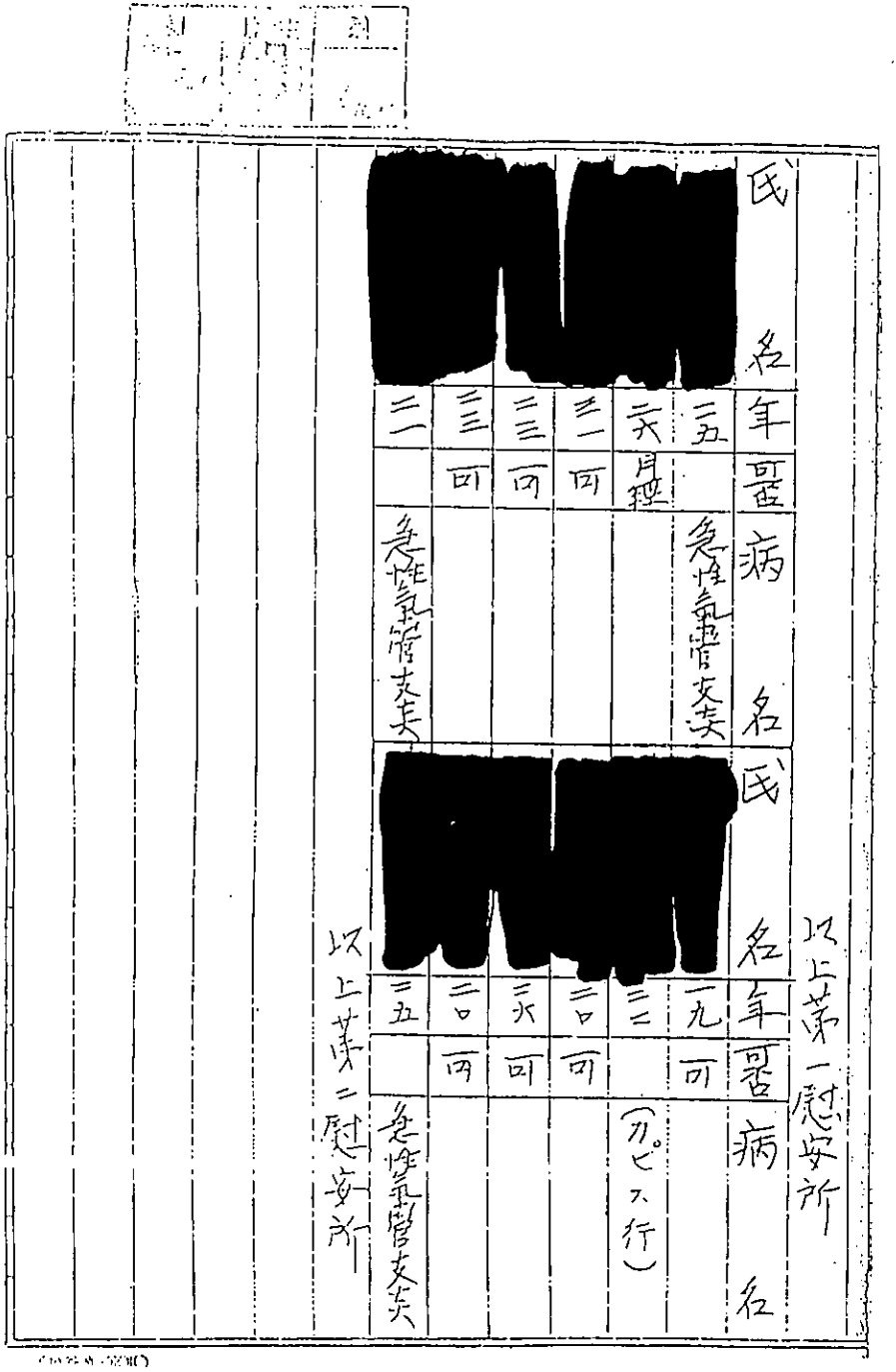
イロイロ支站支部醫務室

首題ニ關スル件左記ノ通リニ付通報ス

記

左

氏名	年齢	病名
[redacted]	一八	可	否	二ヶ月經	三	一九	可	可	
	一八	可	否	二ヶ月經	三	一九	可	可	
	一七	可	否	淋病	三	一九	可	可	
	一八	可	否	二ヶ月經	三	一九	可	可	
	一九	可	否	二ヶ月經	三	一九	可	可	
	二〇	可	否	二ヶ月經	三	一九	可	可	
	一八	可	否	二ヶ月經	三	一九	可	可	
	一九	可	否	二ヶ月經	三	一九	可	可	
	一八



氏名	年	罹病	名
[redacted]	二五	急性氣管支炎	
	天月程		
	二一 可		
	二三 可		
	二三 可		
	二一	急性氣管支炎	

以上第一慰安所

氏名	年	罹病	名
[redacted]	一九 可		
	二二	(カピス行)	
	二四 可		
	二六 可		
	二〇 可		
	二五	急性氣管支炎	

以上第二慰安所

係	主任	
[illegible]	[illegible]	[illegible]

検徴成績ニ開スル件

昭和十七年八月十八日

イロイロ兵站支部醫務室（松村）

首題ニ開スル件左記ノ通リニ付通報ス

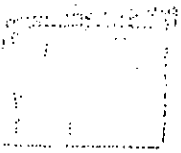
左記

氏名（新）	旧名	年	可否	病名
[illegible]		一八	可	
		一八	可	
		三一	可	
		一六	可	
		一八	可	
		一六	可	
		一八	可	
		一八	可	

氏名（新）	旧名	年	可否	病名
[illegible]		一六	否	淋病
		一七	可	
		一九	前	月経
		一六	可	
		二五	可	
		一九	月経	
		二〇	月経	

八月拾九日

陸軍



氏名	年	罹病名
[redacted]	二五	可
	二六	可
	三二	可
	三三	月経
	三三	可
	二二	可

以上第一慰安所

氏名	年	罹病名
[redacted]	一九	可
	二五	否
	二三	可
	二九	可
	二ヶ	否

淋病

足部外傷

以上第二慰安所

係	主任	所
[illegible]	[illegible]	[illegible]

檢徵成績ニ関スル件

昭和十七年八月二十五日

イロイロ兵站支部醫務室 松村

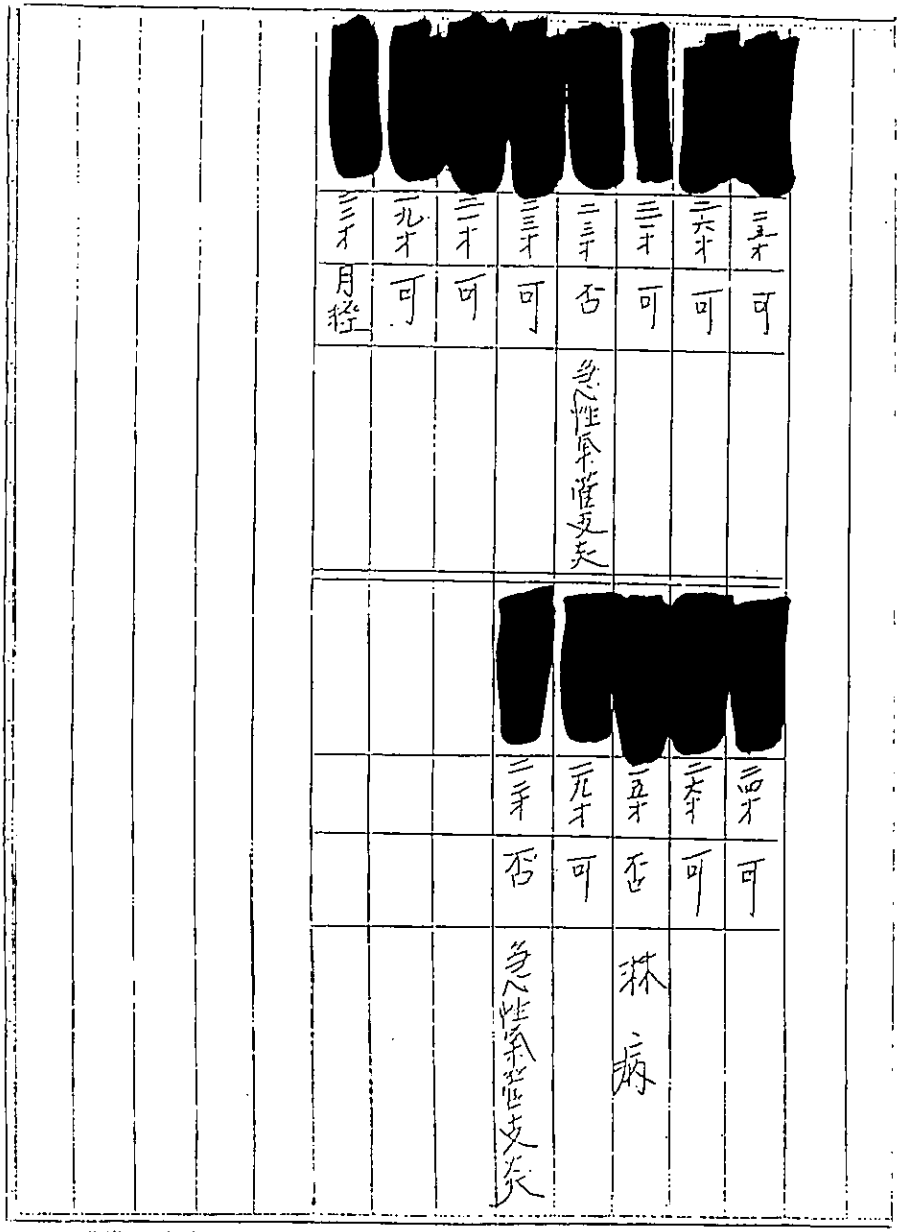
首題ニ関スル件左記ノ通ニ付キ通報ス

左記

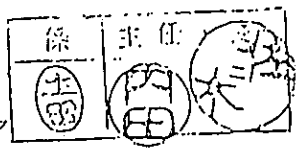
氏名	年	可否	病名
[illegible]	一八才	可	
[illegible]	一八才	可	
[illegible]	三一才	可	
[illegible]	一六才	可	
[illegible]	一八才	可	
[illegible]	一七才	否	淋病
[illegible]	一六才	可	
[illegible]	一八才	可	

氏名	年	可否	病名
[illegible]	一八才	可	
[illegible]	二〇才	可	
[illegible]	一七才	否	于宮陛部糜爛
[illegible]	一九才	可	
[illegible]	一六才	可	
[illegible]	二五才	可	
[illegible]	二二才	可	

陸軍



[redacted]							
二五才	二六才	二一才	二三才	二三才	二一才	一九才	二三才
可	可	可	否	可	可	可	月経
			急性氣管支炎				
[redacted]							
二四才	二六才	一五才	一九才	二二才			
可	可	否	可	否			
		淋病		急性氣管支炎			



係	主任	
主	内田	大

第一慰安所

檢徵成績ニ関スル件

昭和十七年九月一日

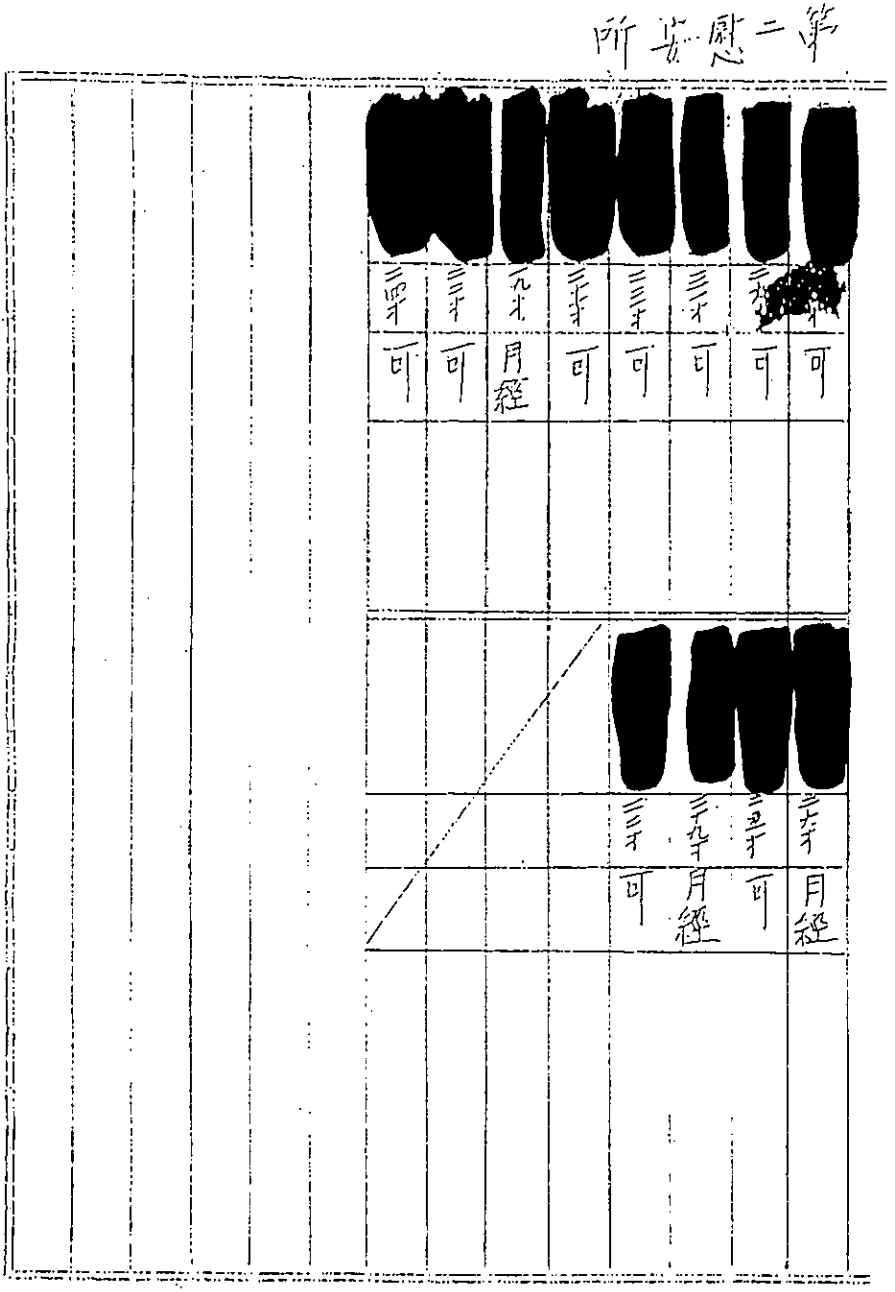
イロイロ兵站支部醫務室

首題ニ関スル件左記ノ通リニ付キ通報ス

左記

[redacted]	一八才	一八才	三才	一六才	一八才	十七才	十六才	十七才
可	可	可	可	可	否	月經	可	否
					淋病			子宮腔部糜爛
[redacted]	一六才	二五才	十七才	一九才	一九才			
不在	可	可	可	否	淋病			

國 軍



検徴成績ニ関スル件

昭和十七年九月十日

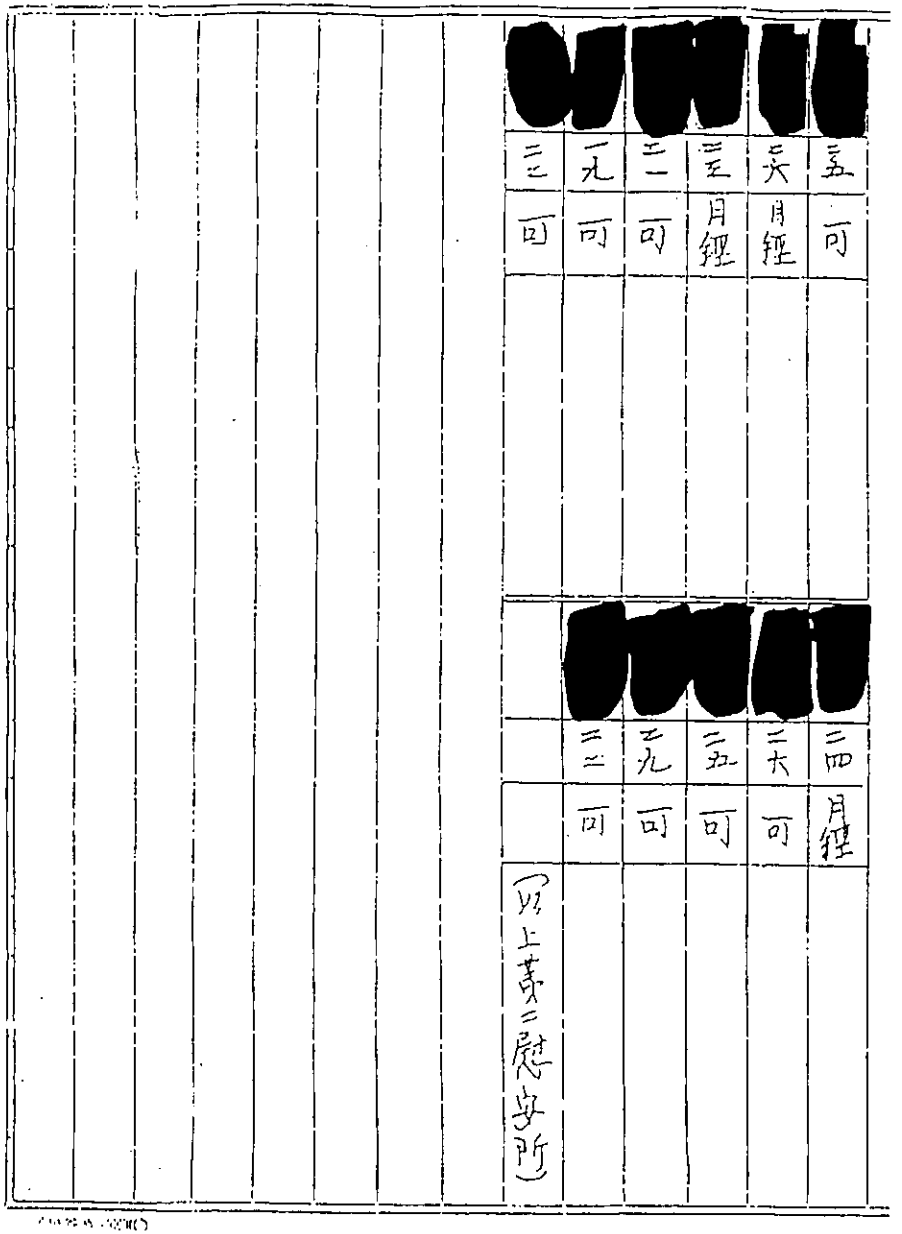
イロイロ兵站支部医務室（松村）

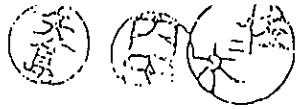
首題ニ関スル件左記ノ通リ付通報ス

左記

氏名	年	否	病名	氏名	年	否	病名
[redacted]	八	可		[redacted]	二〇	否	子宮腟部糜爛
[redacted]	一八	月経		[redacted]	一七	可	
[redacted]	三二	可		[redacted]	一九	可	
[redacted]	一六	可		[redacted]	二五	月経	
[redacted]	一八	可		[redacted]	一七	月経	
[redacted]	一六	可		[redacted]	二五	可	
[redacted]	八	可					（注第一慰安所）

二五	二六	二七	二一	一九	二二
可	月經	月經	可	可	可
二四	二六	二五	二九	二二	
月經	可	可	可	可	
					以上第二慰安所





検黴成績ニ開スル件

昭和十七年九月二十二日

イロイロ兵站支部醫務官土（秋村）

首題ニ開スル件左記ノ通リニ付通報ス

左記

氏名	年	可否	病名	氏名	年	可否	病名
[redacted]	一八	可		[redacted]	一七	可	
	三一	〃			一九	〃	
	一六	〃			二九	〃	
	一八	〃			二五	否	淋病
	一七	否	淋病				（以上第一慰安所）
	一六	可					
	一八	〃					
	二〇	否	子宮腟部糜爛				

一四〇

								[illegible]							
								二五	二六	二三	二一	一九	二五	二五
								可	〃	〃	〃	〃	月經	月經
								[illegible]						
								二四	二六	二五	二九	二二		
								可	〃	〃	可	月經		
														(以上茂二慰之所)

(紙作成・京東)

係	主任	井

検黴成績ニ關スル件

昭和十七年九月二十九日

イロイロ呉海支部醫務室（松村）

首題ニ關スル件左記ノ通リニ付通報ス

左記

氏名	年	可否	病名
[redacted]	八	否	子宮膣管カタル
	三	可	
	二六	可	
	二七	否	淋病
	二六	可	
	二八	可	
	二八	可	
	二六	可	

氏名	年	可否	病名
[redacted]	一九	可	
	二六	否	子宮膣管カタル
	二五	可	
	二九	可	
	一九	否	淋病
	二五	否	淋病
	二一	否	子宮膣部糜爛

（以上ヨリ一慰安所）

氏名	年	可否	病名
[illegible]	二五	可	
[illegible]	二六	可	
[illegible]	三一	休養中	
[illegible]	二五	仝	
[illegible]	二五	可	
[illegible]	二一	可	

氏名	年	可否	病名
[illegible]	一九	月經	
[illegible]	二三	否	外陰部濕疹
[illegible]	二四	可	
[illegible]	二六	月經	
[illegible]	二六	可	
[illegible]	二二	可	

（以上不二尉安所）

（川村典・以米）

係	主任	長
[illegible]	[illegible]	[illegible]

検徴成績ニ関スル件

昭和十七年十月五日

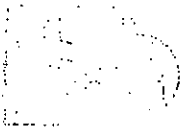
イロイロ兵站支部医務室

首題ニ関スル件左記ノ通リニ付通報ス

左記

氏名	年	可否	病名
[redacted]	一八	可	
[redacted]	三一	可	
[redacted]	一六	可	
[redacted]	一六	可	
[redacted]	一八	可	
[redacted]	一八	可	
[redacted]	一七	否	子宮腟部糜爛
[redacted]	一六	否	子宮腟管カタル

氏名	年	可否	病名
[redacted]	二五	否	子宮腟部糜爛
[redacted]	二九	可	
[redacted]	二五	否	淋病
[redacted]	二一	否	子宮腟部糜爛
			(以上第一慰安所)



一九	二一	二三	二三	三一	二六	二五
可	可	可	〃	休養中	可	可

	二二	二九	二六	二六	二四	二二
	可	可	可	月經	可	可

以上第二慰之字所

(附計員・文米)

大急	酒井		



検徴成績ニ關スル件

昭和十七年十月十三日

イロイロ兵站支部醫務室（松村）

首題ニ關スル件左記ノ通リニ付通報ス

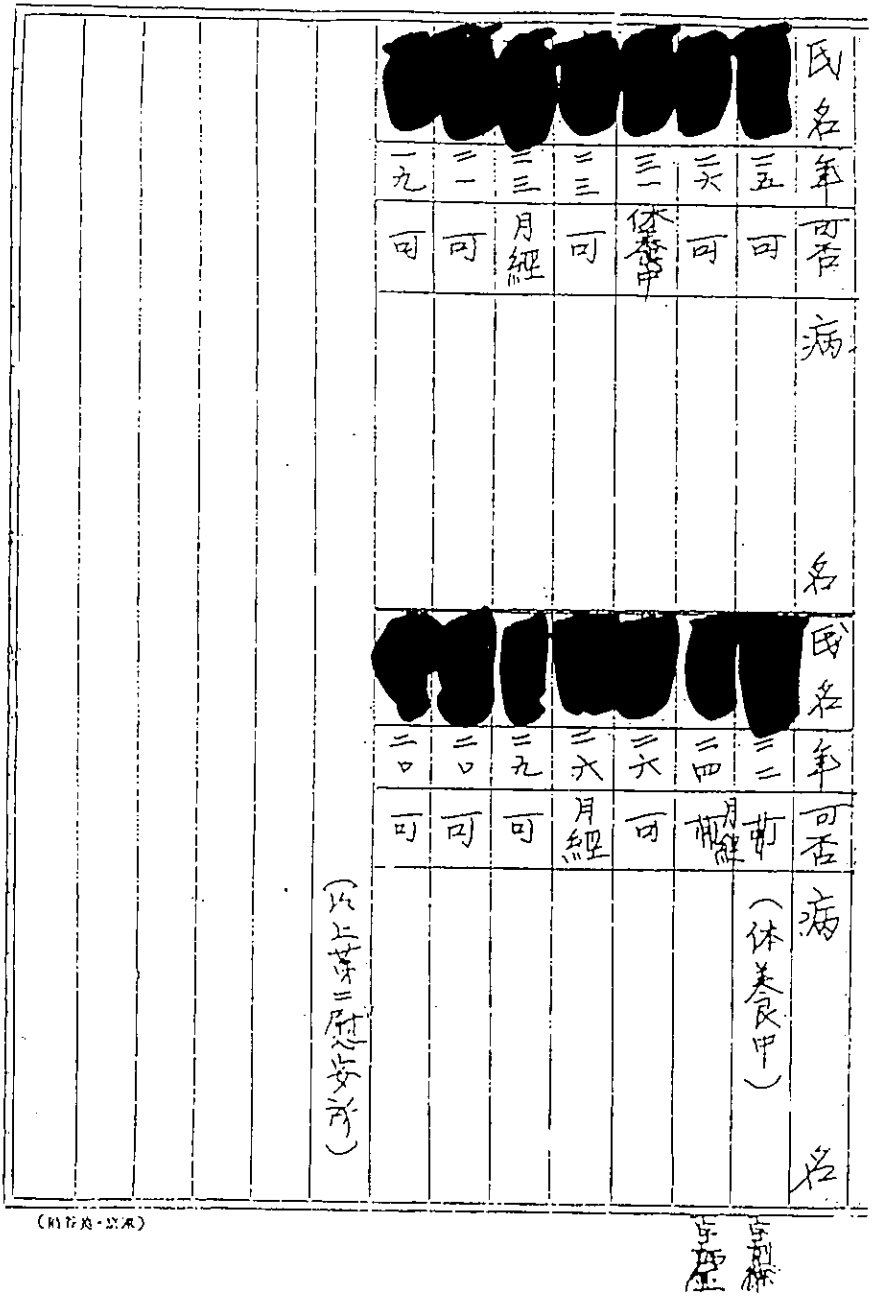
左記

氏名	年	可否	病名
[illegible]	一八	可	
[illegible]	三一	可	
[illegible]	一六	可	
[illegible]	一六	可	
[illegible]	一八	可	
[illegible]	一八	可	
[illegible]	一七	否	子宮腟部糜爛
[illegible]	一九	月經	

氏名	年	可否	病名
[illegible]	一六	可	
[illegible]	二五	可	
[illegible]	二九	可	
[illegible]	一九	否	淋病
[illegible]	二五	否	仝
[illegible]	二一	可	
[illegible]	二〇	可	

（以上第一慰安所）

陸軍



氏名	年	可否	病名
[redacted]	一五	可	
	二六	可	
	三一	休養中	
	二三	可	
	二三	月經	
	二一	可	
	一九	可	

氏名	年	可否	病名
[redacted]	二二	可	（休養中）
	二四	月經	
	二六	可	
	二六	月經	
	二九	可	
	二〇	可	
	二〇	可	

（以上第二慰安所）

（附答題・宮原）

宮前樣

宮原

分隊長	班長	主任	係
大[illegible]	[illegible]		矢[illegible]

検徴成績ニ關スル件

昭和十七年十月十九日

イロイロ兵站支部醫務室 松村

首題ニ關スル件左記ノ通リニ付通報ス

左記

氏名	年	可否	病名
[illegible]	一八	可	
	三一	可	
	一六	可	
	一六	可	
	一八	可	
	一八	可	
	一七	可	
	二〇	可	

氏名	年	可否	病名
[illegible]	一六	可	
	二五	可	
	二九	可	
	二一	可	
	二〇	可	
	一九	可	

（以上第一慰安所）

氏名	[redacted]							
年	三一	三三	三三	一九	二二	二四	二六	二六
可否	可	可	可	可	可	可	可	可
病名								

氏名	[redacted]							
年	二九	二〇	二〇	二五	二六	二一		
可否	可	可	可	月經	月經	月經		
病名							(以上第二慰安所)	

(柄谷高・京水)

検黴成績ニ関スル件

昭和十七年十月二十七日

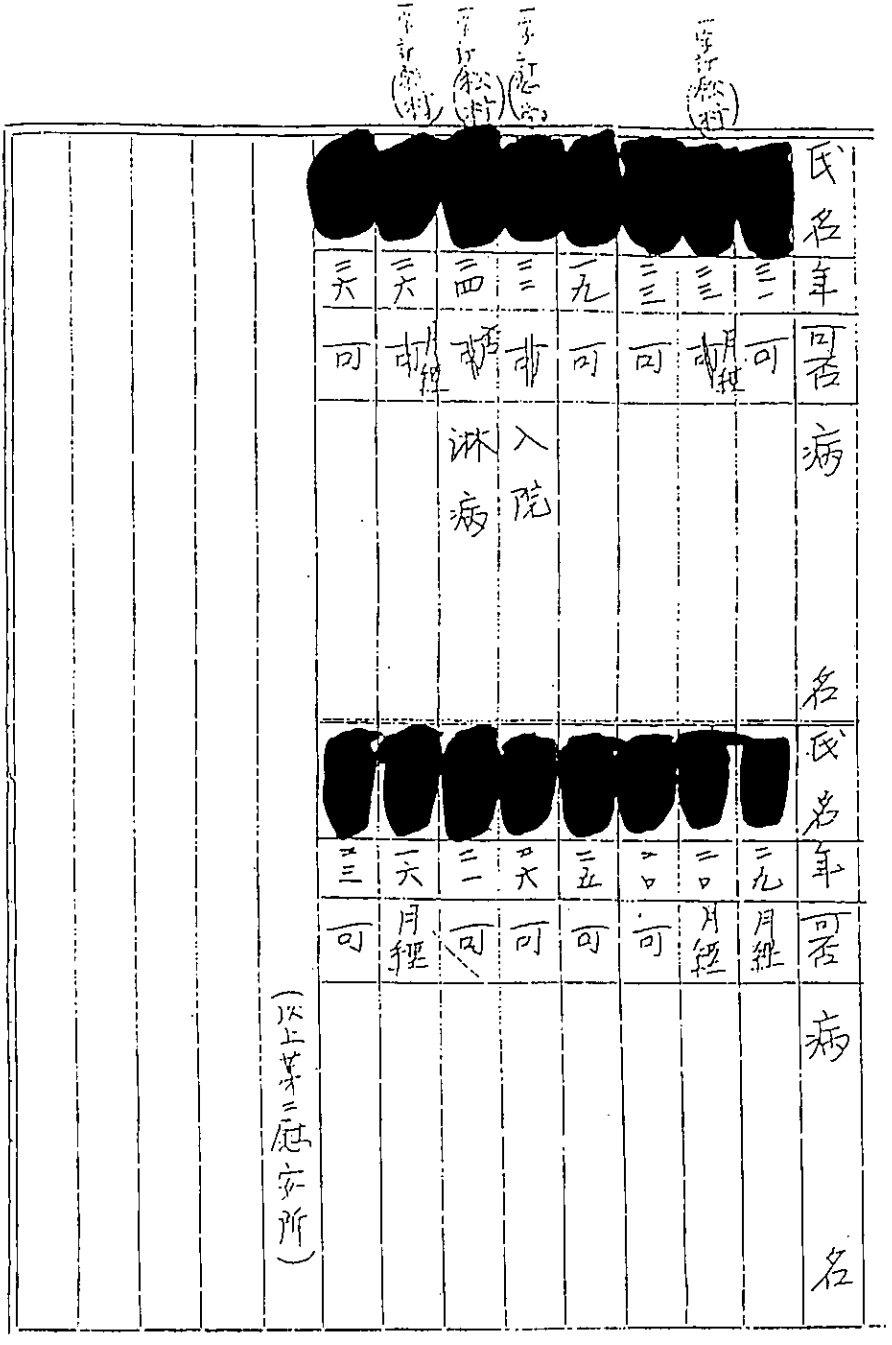
イロイロ兵站支部医務室(梅毒科)

首題ニ関スル件左記ノ通リニ付通報ス

左記

氏名	年	可否	病名	氏名	年	可否	病名
[redacted]	七	可		[redacted]	一九	可	
	八	可			一六	可	
	三	可			三五	可	
	三六	可			二一	可	
	三六	可			二〇	可	
	八	可					
	八	可					
	二	可					

(以上第一駐屯所)



氏名	年	居	病名	氏名	年	居	病名
[redacted]	三二	可		[redacted]	二九	月經	
	三三	可			二〇	可	
	三三	月經			二〇	月經	
	三二	可			二五	可	
	二九	可	入院		二六	可	
	三〇	可	淋病		三二	可	
	二六	月經			二六	月經	
	二六	可			三三	可	

（以上某三區安所）

検疫成績ニ関スル件

昭和十八年三月廿日

[redacted]

[redacted]

大

氏名	年齢	職業	氏名	年齢	職業	氏名	年齢	職業
[redacted]	四		[redacted]	四		[redacted]	四	
	四			四			四	
	四			四			四	
	四			四	

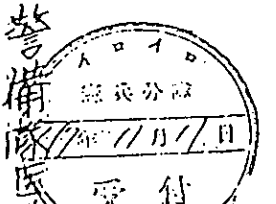
氏名	性別	年齢	続柄	職業	備考
[redacted]	男	五六	戸主	会社員	
	女	五二	妻		
	男	二四	長男	学生	
	女	二一	長女	会社員	
	男	一八	二男	学生	
	女	一五	三女	学生	
	男	一二	四男	学生	
	女	九	五女	学生	
	男	六	六男	学生	
	女	三	七女		
	男	〇	八男		
	女	〇	九女		

（裏面に続く）

通報

一、檢徵ノ成績左記ノ通リ通報ス

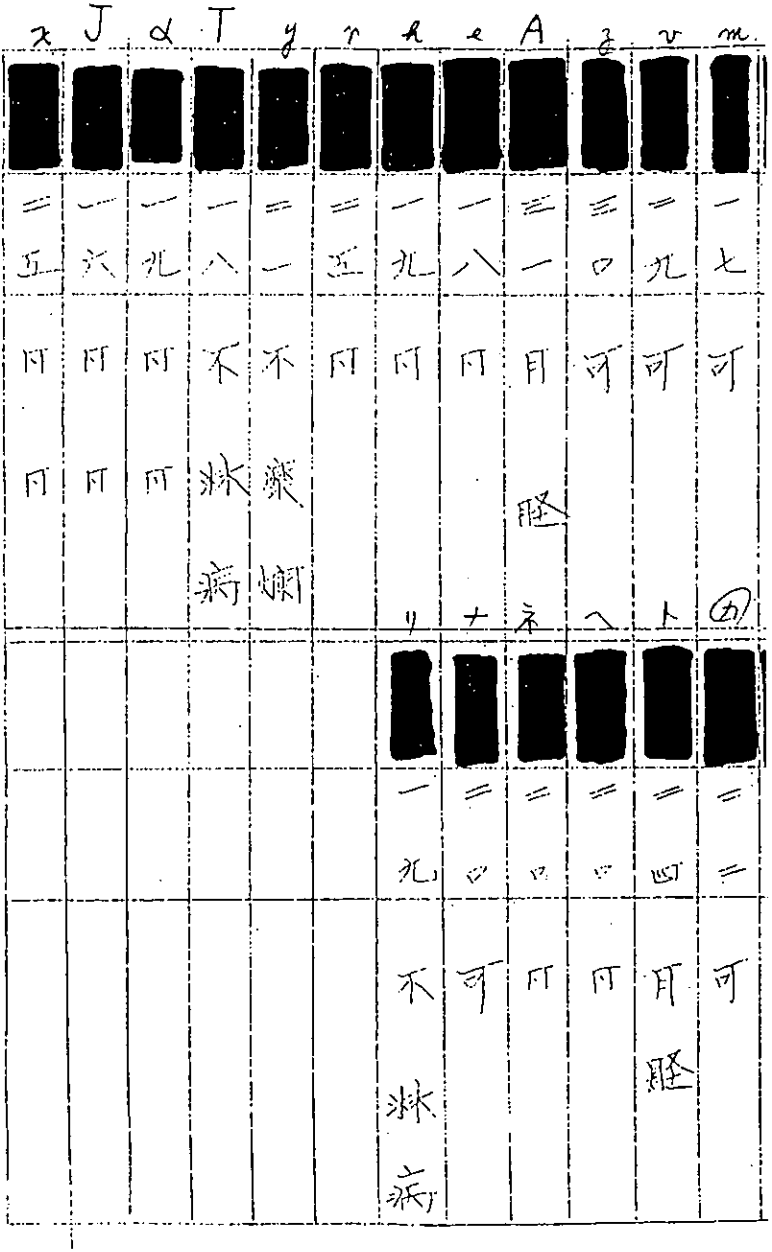
十一月十日イロイロ警備隊医務室



分隊長	班	主任	係		
大倉	酒井	H	M	U	D
左記	第一慰安取	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]
	姓名	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]
	年令	一八	一六	二六	二〇
	成績	可	可	可	可
		ラ	ム	ヨ	ヌ
	第二慰安取	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]
	姓名	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]
	年令	二九	三一	二五	二三
	成績	可	可	可	可

イロイロ
憲兵分隊
年 月 日
受付

x	J	α	T	y	r	h	e	A	z	v	m
[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]
二五	一六	一九	一八	二一	二五	一九	一八	三一	三〇	二九	一七
円	円	円	不淋病	不漿爛	円	円	円	月胫	可	可	可
円	円	円									
						リ	ナ	ネ	ヘ	ト	カ
						[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]
						一九	二〇	二〇	二〇	二四	二二
						不淋病	可	円	円	月胫	可



通報

一檢黴ノ成績左記ノ通リ通報ス

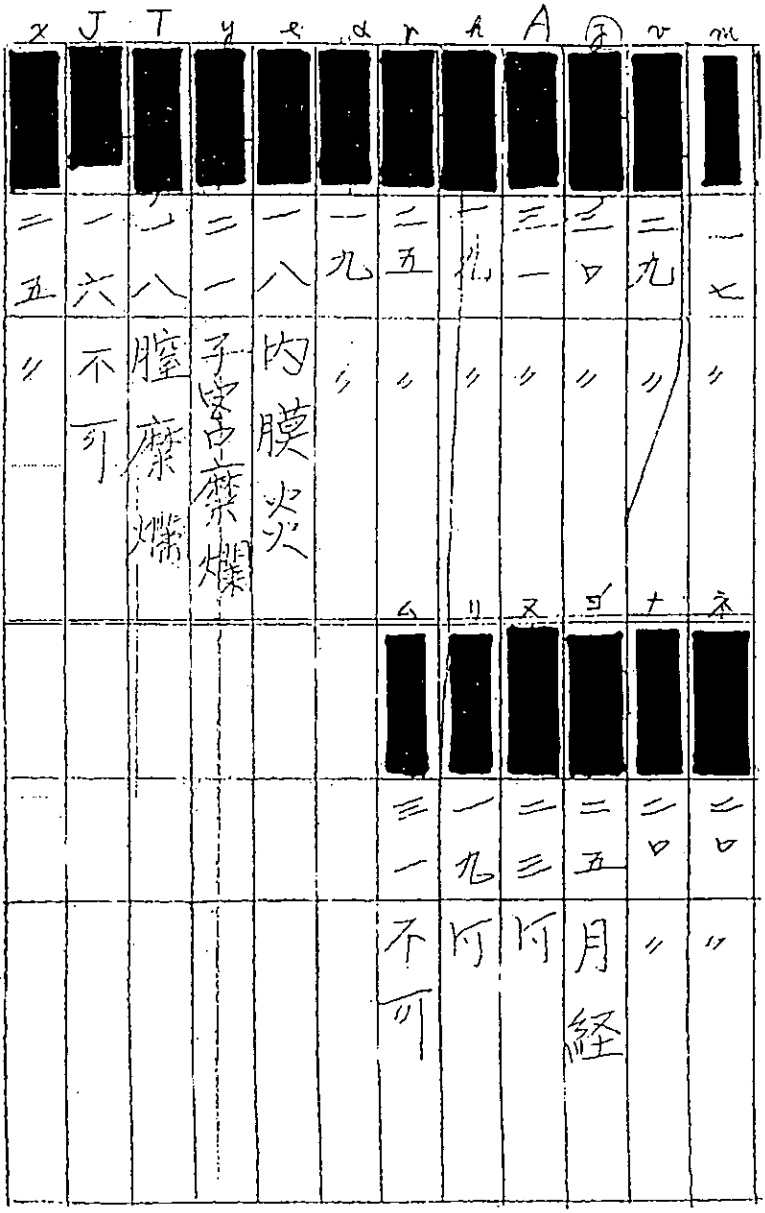
記

十月二十七日イロイロ警備隊

	第一慰安所					第二慰安所				
	姓名	年令	成績			姓名	年令	成績		
H	[redacted]	一八	可	ラ		[redacted]	二九	可		
M	[redacted]	一六	〃	カ		[redacted]	二二	〃		
U	[redacted]	一六	月経	ト		[redacted]	二四	〃		
D	[redacted]	二〇	可	ヘ		[redacted]	二〇	〃		

イロイロ
憲兵分隊
17年11月29日
付

x	J	T	y	e	α	r	h	A	ⓖ	v	m
[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]
二五	一六	一八	二一	一八	一九	二五	一九	三一	三〇	二九	一七
〃	不可	膣糜爛	子宮糜爛	内膜炎	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
						ム	リ	ヌ	ヨ	ナ	ネ
						[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]
						三一	一九	二三	二五	二〇	二〇
						不可	可	可	月経	〃	〃



通報

十二月二十七日イロイロ警備隊

一 檢徵ノ成績左記ノ通リ通報ス

左記

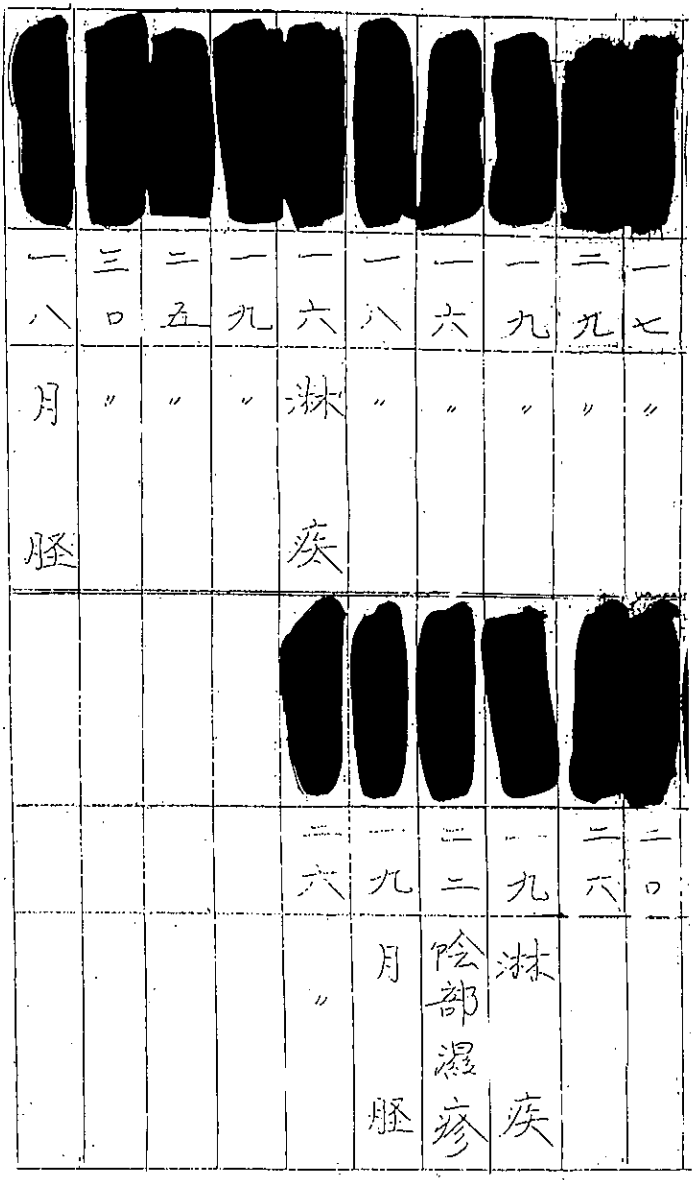
第一慰安所

姓名	年令	成績
[redacted]	二一	可
[redacted]	一八	〃
[redacted]	三一	〃
[redacted]	一六	〃
[redacted]	一八	〃

第二慰安所

姓名	年令	成績
[redacted]	一九	可
[redacted]	三一	〃
[redacted]	二〇	〃
[redacted]	二五	〃
[redacted]	二四	〃

受



ICPOA-#380-M

㊷野戦高射砲第四五大隊第一中隊陣中日誌（昭17・5・13、16）

自昭和十七年五月一日
至昭和十七年五月二十日

陣中日誌

第拾貳號ノ壹

野戰高射砲第四十五大隊第一中隊

S-476
(32)

EXAMINED AND NOT TRANSLATED
FORWARD TO

五月十三日　水曜日

天候　曇勝驟雨

任務及陣地　兵站病院西南方ニ在リテ工場地帶重要施設

訓練　中部兵營並ニ東京、新宿両驛ノ掩護ニ任ス

自〇九、三〇至一一、〇〇　分隊教練實施　教官荒木少尉

命令受領　左記命令ヲ受領ス

左記

中隊命令　五月十三日　一六、〇〇　スラバヤ市

一、高四五日命第四十八號ニ基キ中隊ノ職分担ヲ左記ノ如ク一部變更ス

左記

一、陸軍准尉　桑畑豊吉

免　第二小隊長

陸軍准尉　柳原藤雄

免人事掛
命第二小隊長
但シ當分ノ間人事掛ヲ指導スベシ
陸軍曹長　清永勝
免　庶務掛
命人事掛
陸軍曹長　吉永林合
命庶務掛

中隊長　山田中尉

會報受領

左記會報ヲ受領ス

左記

會　報　五月十三日一天。スラバヤ市

一、左記ノ通リ48D参謀長ヨリ注意アリタルニ付爾今カカル注意ヲ再ビ受ケザル様指導相成リ度シ

（料金受取人）

二字挿入

〔中略〕

左記

(一) 一般民家ニ尚立入リ物品等無断持出且亂暴ヲ働ク等ノ不徳儀ヲ犯ス者アルハ甚ダ遺憾ナリ殊ニ兵團食堂ノ近隣ニ此ノ種ノ事故頻發スル趣ナルニ付嚴ニ注意サレ度シ

二 目下兵站宿泊所休養中ノ朝鮮慰安婦ヲ無断連出ス者有リトノ注意アリタルニ付念ノ爲會報ス

三 五月十一日晝間 マキシム映画館ニ於テ黒皮戦布一ヶ 48D ニ屆出アリタル由ニ付調査ノ上明會報時迄通報アリタシ

内容品 ギルタ軍票一〇円一枚 ペソ軍票一弐一枚 ジヤワ紙幣一円一枚 日本銅貨一弐二枚 小形鏡一ケ 寫眞五枚 名刺六枚 御守二枚

四、明五月十四日ヨリ十日間 在スラバヤ駐留部隊将兵ノ慰問映画會開催サルルニ付警備並ニ勤務ニ支

集結

中部兵營並ニ東京、新宿兩驛ノ掩護ニ任ズ
高四五作命第四九號第二項ニ基キ井上小隊ハ一〇、
二〇中隊主力陣地ニ集結完了ス、

命令受領

左記命令ヲ受領ス

左記

高四五日命
追加命令

大隊命令　五月十六日一六、〇
マラバヤ市

一、陸軍少尉　大森新次
交換兵器調査ノ爲五月十六日出發、マラン二出
張シ用濟後歸隊スベシ

大隊長　王田少佐

下達法　命令受領者ヲ集メ口達筆記セシム

會報受領

左記會報ヲ受領ス

左記

會報　五月十六日一六、〇
マラバヤ市

一、本十六日一四、〇〇ヨリ左記ニ依リ日本慰安婦營業ヲ開始ス

左記

南慰安所　明月組　十三名

第二將校倶樂部　曙組　十名

値　段　兵　一時間　二圓

他ハ從前通リ

二、第二將校倶樂部ニ於テハ爾今サービス料ヲ玉代ノ半分トス

日本人　三〇分　一圓

現住民　三〇分　五〇錢

ビールハ一本四十五錢ニ値上サル

三、慰安所ニ於テ經營者ノ規定通リニ料金ヲ支拂ハサル者アリ人ヲ後違反者ハ處罰セラルノニ付注意アリタシ



一字訂正

彈藥

四別紙埜止區域（有毒慰安婦隔離區域）ニ立入リヲ
嚴禁セルガ市内巡察ハ右區域ヲ巡察セラレ度シ
井上小隊ノ中隊主力ヘノ復歸ニヨル中隊彈藥現在
數左ノ通リ
高射砲火銃彈　七八三發
小銃彈　二一九〇發

人員

中隊長以下一〇九名

五月十七日　日曜日

天候　晴

任務及陣地

兵站病院西南方ニ在リテ工場地帶市重要施設
中部兵營並ニ東京、新宿兩驛ノ掩護ニ任ス

「以下略」

CAPTURED AT
HUMBOLT
25 MAY 44

212:104

軍事極秘

陣中日誌

自昭和十七年五月一日
至昭和十七年五月三十一日

第八號

212:104

調製部教育部之內
第九號

獨立自動車第四十二大隊第一中隊

第一中隊之印

WDC#
183044
396.901

[中略]

[前略]

八、本日ノ勤務者左ノ如シ
日直將校　守山准尉
日直下士　戸倉武長
衛兵司令　中村軍曹
九、給與ハ中隊給與トス

五月壹日
晴

一、昭南島ニ駐留ス
二、〇九三〇中隊(第二小隊ヲ)ハ依然前任務ヲ續行
第二十三野戰兵器廠ニ協力シ輸送ニ在ス
(イ)第一小隊ハ一〇車輛ヲ以テ屑鉄ヲ「アレキサンダー」ヨリ西埠頭ニ「タングリン」ヨリ「バッナービスタ」ボート」ニ輸送夫々一九〇〇歸隊ス
(ロ)第三小隊ハ一〇車輛ヲ以テ屑鉄ヲ「アレキサンダー」ヨリ西埠頭ニ又ハ西埠頭内ニ於テ救回輸送シ一八三〇歸隊ス
三、一〇〇〇ヨリ注射ヲ實施ス
四、一八三〇左ノ獨自四ニ大日令第三九號受領ス

[後略]

関砲ノ實包射撃ヲ實施ス

二、官制第一日ノ實施要領ハ一般ニ不良ニシテ軍隊及軍人ニ於テ不良ナルハ嚴ニ注意ヲ要望ス遮光設備ナク燈火ノ屋外ニ洩レルモノ又ハ遮光覆ノ形式的ヲ短イモノ又ハ高過キルモノ布亦ハ紙ノ薄過キルモノニ付テ注意ス

三、夜間自動車ノ運行民間側ハナク軍隊軍政部新聞社等ニシテ遮光設備ナキモノ多数アリ注意サレ度

軍會報　五月十四日

一、本日二二〇〇ヨリノ映画ノ上映ハ二〇〇〇ニ変更サル

二、最近軍人軍属ニシテ慰安所等ノ往復ニ自動車ヲ使用スルモノ多シ揮發油節約上禁止スヘシ

六、左ノ富集参甲第四十六號受領ス

在昭南部隊ノ敬禮及起居容儀振肅ニ関スル件達

省略

[以下略]

昭和一七、三～一七、七

独立自動車第三九大隊第四中隊陣中日誌

防衛研修所戦史部



罹患(初發再發)セル者及當日罹患中ノ者ヲ含ム
ニ總人員調トス(南方作戰上陸前日現在調トス)
六、本日ノ勤務員左ノ如シ
日直士官 清水曹長
日直下士官 石原軍曹 日直上等兵 北野上等兵
車厰當番 塚田伍長以下九名
七 本日ノ人車數前日ニ同シ

一月二十九日 晴 バタビヤ

一 臨擊中尉以下九時出發附表ノ如ク輸送ニ任
シ十八時歸營ス
二 自十四時至十七時日直司令ノ許ニ使役兵トシテ
兵一名服務ス
三 午後未教育者ノ懸縱教練既教育ハ車輛ノ
整備ヲ實施ス

為セザルモノアリ

二、將校ノ乘車シアル自動車ニ所定ノ標旗ヲ立テザルモノアリ

三、將校ニシテ下士官兵ノ食堂ニ多數ニテ入ルモノアリ

四、將校慰安所ニ下士官兵ノ出入スルモノアリ

九、自二十時至二十二時講堂ニ於テ映畫見學ヲ實施ス

十、本日ノ勤務員左ノ如シ

日直勤務前日ニ同ジ

車廠當番細田上等兵以下八名

十一、本日ノ人車數前日ニ同ジ

五月三十日 晴

バタビヤ

一、霜村少尉以下九時出發附表ノ如ク輸送ニ任ジ

十七時歸營ス

二、炊事場工事使役兵トシテ木村一等兵服務ス

三、午前午後車輛ノ整備手入ヲ實施ス
四、自九時三十分至二十時三十分武井軍醫ハ花柳病
並ニ外傷ニ關スル衛生學科ヲ實施ス
五、[illegible]馬川等兵退室ス
六、左ノ如ク七隊命令ヲ受領ス
一、花柳病豫防ニ關シ別紙規定ノ通定ム
依ッテ五月三十一日ヨリ實施スベシ
七、左ノ如ク[illegible]隊命令ヲ下達ス
一、明三十一日左ノ通部隊衛兵ヲ命ズ
司令 德山高伍長 歩哨掛 第一小隊 一、
喇叭手 指揮班 一、歩哨 指揮班 一、
歩哨 第一小隊 二、歩哨 第二第三小隊各三、
二、六月一日二日ノ日直下士官德山高伍長ヲ中山
軍曹ニ變更ス

五月三十日第六項別紙

花柳病豫防規定

第一條　慰安婦ニ接スルハ萬止ヲ得サル場合ニ限ル

第二條　慰安婦ニ接スル場合ハ必ズ「サック」並ニ昼秘膏ヲ使用スルト共ニ交接後ハ直ニ陰部ノ消毒ヲ實施スベシ

第三條　慰安婦ニ接シタル場合ニハ三時間以内ニ歸營シ醫務室ニ到リ申告簿ニ所要ノ申告ヲナスト共ニ當直軍醫ノ診療ヲ受クヘシ

第四條　陰部ノ檢査ハ毎週必ズ一回實施ス

第五條　交接後三時間以内ニ申告ヲ怠リ罹病セル者ハ處分スル外前屬市長村長ニ其旨通報スルモノトス

二字抹消

⑤⑤慰安所ニ關スル規定［獨立守備歩兵第35大隊］（昭17・6・6、11）

別紙

慰安所ニ関スル規定

六月六日
於ブツアン

一、慰安所開設ニ関シ左記ノ如ク規定ス

一、開始時間

兵	自	一三・〇〇
	至	一七・〇〇
下士官	自	一七・〇〇
	至	二四・〇〇
将校		二四・〇〇 又後

二、金額

兵	一五・〇
下士官	二〇・〇〇
将校	三〇・〇〇

三、日割

[中略]

山口家　月火水土、
市栄家　日水、
公休日　金曜日
〃外出ハ勤務ニ支障ナキ限リ小家毎ニ外出セシムルモノトス
一、下士官ノ外出ハ衛生施設ニ関シテハ田中見習士官之ヲ担任スヘシ
二、其他細部ニ関シテハ各家長ニ於テ之ヲ規定スヘシ

六月十二日
木 晴
於カガヤン

一、本日九時現屬部隊長ヲ本部ニ集合セシメ隊長ハ訓示ヲス

二、吉江大佐ハ本日十三時ヨリ状況視察ノタメ配屬隷下諸部隊ヲ巡視ス

三、大隊本部「カガヤン」到着後ニ於ケル現在ノ状況別紙ノ如ク守備隊司令官ニ報告ス

四、本日吉江部隊日々命令別紙ノ通リ

五、前項命令進如別紙ノ如シ

六、大隊新作戦命令（乙）別紙ノ通リ

七、本日集情報別紙ノ如シ

八、本日會報別紙ノ如シ

九、本日號令左ノ如シ

独守三五作命乙第五號

陸軍

會報

六月十一日

一、慰安所設置ニ関シ左ノ通リ定ム

ノ時間　兵　一三、〇〇――一八、〇〇

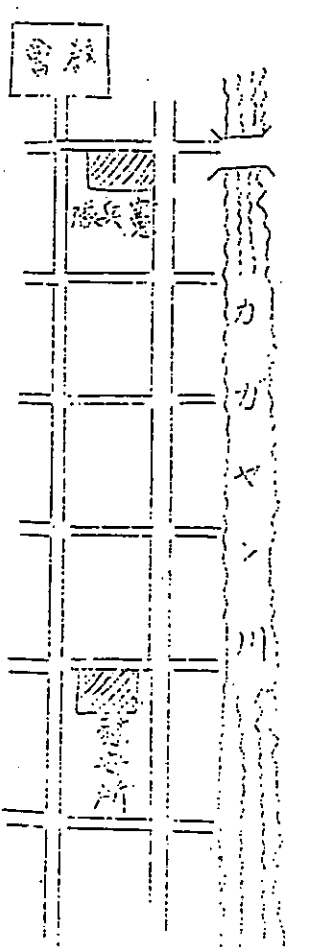
下士官　一八、〇〇――二〇、〇〇

将校　二〇、〇〇以降

二　料金

時間	将校及同待遇者	下士官及同待遇者	兵
三十分	三、〇〇	一、五〇	一、〇〇
一時間	四、〇〇	二、五〇	二、〇〇
前半及終半夜	六、〇〇		
一泊	八、〇〇		

六、場所



二「ブコ」東方山道五粁ノ道路破壊セノタメ六月十二日ヨリ約五日間立花道路作業隊ニ於テ橋梁ヲ改修ス依テ十五日（一日間）ハ一般ニ「カガヤン」―「マラバライ」間ノ通行ヲ禁ス

［以下略］

昭和十七年六月十六日

情況報告

ブッアン警備隊
山口中尉

［前略］

四、衛生情態

ブワン警備隊（鉄半田隊）全員元氣旺盛ニシテ日夜警備ニ其ノ他勤務ニ奮キシツヽ在リ山口隊ニハ患者約十名半田隊ニハ約三名ニシテ其レ等ハ主トシテデング熱患者ニシテ之カ予防ノタメ蚊蠅ノ驅除法舍内外ノ清潔ニ一層留意シテ兵ノ健康増進ヲ図リツヽ在リ

五、慰安所及酒保

比女三名ヲ以テ慰安所ヲ開設シ兵ノ慰安ニ供シツヽ在リ将来女ノ増員ヲ討画シツヽ在リ

酒保ハ主トシテ果物、コーヒ、ウドン等ヲ販賣セシメ兵ノ慰安ニ供シツヽ在リイスレモ概シテ好成績ノ傾向ニ在リ

六、給養

重携行ノ糧秣意外ニ優良食物ハ主トシテ附近住民ヨリ買入レ野菜有等ハ十日程前迄ニハ可ナリ不便ヲ感ジナキ

［以下略］

㊼部隊軍紀風紀粛正ニ對スル服務計畫提出ノ件報告［イロイロ派遣憲兵隊長］（昭17・6・25）

極秘

昭和十七年

警務書類綴（甲）

保存期限三年

イロイロ派遣憲兵隊

283

長	任主	係
大	田	雲谷

控

秘

イロイロ憲警第一五號

部隊軍紀風紀肅正ニ對スル

服務計畫提出ノ件報告

雲谷

昭和十七年六月二十五日　イロイロ派遣憲兵長　佐々木幸太郎

第一野戰憲兵隊長　大田清一殿

六月十日一野憲警第五三號ニ基ク首題ノ件別紙ノ通

計畫シタルニ付報告ス

發送先

隊長

部隊軍紀風紀粛正ニ対スル服務計畫 台湾派遣憲兵隊

區分	着意着眼	手段方法	摘要
宿港部隊上陸時取締	掠奪、強姦、離隊（逃亡）、上官侮辱暴行、防諜、抗命	(1)岸壁附近ノ巡察 (2)部隊長（憲兵）ト連絡 (3)一齊取締（慰安所、酒場、敏感ナル街、娯樂場） (4)言動、所持品ノ檢査（通言ハ憲兵ト連絡スルモノ其他犯罪關係）	
通過部隊宿營ノ時ニ於ケル取締	防諜、掠奪、強姦、賭博、逃亡、暴行、脅迫、侮辱、抗命、上官侮辱、自殺	(1)部隊長ニ連絡宿營期間ヲ明カニス (2)宿營地附近ノ絶エサル巡察 (3)言動、所持品ノ檢査（通言ハ憲兵ト連絡スルモノ其他犯罪關係）	
駐留部隊ノ取締	上官暴行、暴行脅迫侮辱抗命、防諜、經理ノ非違、傷害、逃亡、掠奪、強姦	(1)部隊ニ連絡素質調査及内務刷新狀況内査 (2)部隊ノ精神教育徹底ノ望 (3)巡察（隊附警察） (4)酒場、繁華街、慰安所、娯樂場、取締（視察） (5)宿舍附近ノ環境及起居設備ノ檢（巡）査 (6)將校宿舍附近ノ巡察	
駐留部隊ノ休出時ノ取締	無銭飲食（遊興）、暴行脅迫侮辱抗命、逃亡（離隊）、自殺、傷害、上官暴行（侮辱）、賭博、強姦、掠奪、反戰及軍策動、流言（非語）、外出者ノ有（無）、外出証又公用証ノ濫用	(1)部隊ノ連絡 (2)巡察 (1)非違犯罪ノ警防 (2)言動ノ査（通言ハ憲兵ト連絡スルモノ其他犯罪關係） (3)一齊取締（視察） (1)酒場 (2)繁華街 (3)慰安所 (4)娯樂場 檢問所ノ強化 （外出軍人ノ取締） (5)酒販賣ノ制限並強烈ナルヲヤキー販賣取締 (6)暴利販賣品ノ取締（軍政部ト協力）	
備考	一、本計畫ハ當派遣隊ニ於テ既ニ實施中ノモノヲ		

⑱獨立自動車第四二大隊第一中隊陣中日誌（昭17・7・6）

軍事極秘

自昭和十七年七月一日
至昭和十七年七月三十一日

調製部数九部之内
第七號

陣中日誌

第拾號

獨立自動車第四十二大隊第一中隊

第一中隊之印

WDC 11330

〔中略〕

〔前略〕

中隊命令（日命第八九號）

七月五日 昭南島

陸軍一等兵 小川信太郎

一 右者負傷ノタメ在昭南第六十八兵站病院ニ入院ヲ命ス（横山部隊）

五 本日ノ勤務者左ノ如シ

日直將校 宇山准尉

日直下士 惡木兵長

衛兵司令 清水(三)匹長

六 給與ハ中隊給與トス

七月六日 清

一、昭南島ニ駐留ス

二、〇九、〇〇中隊ハ引續キ前任務ヲ續行「ジヨホール」地區ニ至リ左ノ輸送ニ任ス

(イ) 第一小隊ハ小隊長山本中尉ノ指揮ニ依リ一三車輌ヲ以テ「ジヨホールバール」北方一五粁地点「スクダイ」

定スヘシ

七、一七、〇〇左ノ獨自四二大日命奏五大號受領ス

日々命令　七月四日一七、〇〇　昭　南

（他中隊ノ敍勳日命ニ付キ省略ス）

八、一七、〇〇左ノ軍會報受領ス

（イ）軍會報　七月四日一二、〇〇　昭　南

山下軍司令官ノ新任務（征地共）ニ関シテハ國軍ノ機密ニ関スルヲ以テ嚴ニ秘匿方留意セラレ度

（ロ）軍會報　七月四日一五、〇〇　昭　南

風紀ノ肅正竝ニ防諜及悪疾豫防ノ爲自今軍ニ於テ設置シタル特殊慰安所以外特ニ私娼窟等ニ於テ特殊慰安ヲ求ムル事ヲ禁ス

九、一七、〇〇左ノ警備會報彙領ス

昭南警備會報　七月五日

一、將校暗殺ヲ企圖セシ不逞團ヲ檢擧シタル處彼等ハ

將校倶樂部酒場ノ使用人ヲ買收シ毒藥使用ヲ準備シアリシコト判明セリ注意セラレタシ

二、自動車交通事故依然多發シアリ速度制限一般運轉規定等ヲ嚴守スルハ勿論車体檢査重量積載狀況等ヲモ檢査シ事故絶無ヲ期セラレタシ

一〇、一七〇〇左ノ兵站指定営業者ニ對スル規定受領ス

兵站指定営業者ニ對スル規定

省略

一一、一八〇〇中隊ハ軍宣傳班ノ實施スル當部隊慰問映画ヲ芙蓉劇場ニ於テ觀覽ス

一二、一八三〇左ノ中隊會報下達ス

會報　七月五日

一、軍及警備隊ヨリ左記ノ如ク會報アリタルニ付徹底セラレ度

左記

三三

〔以下略〕

軍事極秘

自七月一日
至七月三十一日

戰時月報

獨立守備歩兵第三十五大隊

[前略]

患者ナルモ二名ハ再發患者ナリ然レ共再發患者ノ症狀ハ初發ニ比シ輕症ナリ　次イデ急性咽頭炎一七名　外傷九名ナリ特ニ直視スヘキ疾患ノ發生ヲ認メス　多發疾病トシテハ外被病多數發生ス　雨期ニ依ル濕度ノ關係ニ原因スルモノト認ム

四　其ノ他

目下隷下部隊及在留邦人ノ診療竝慰撫施療ヲ爲シアリ

又當「カヴィン」市ハ慰安婦四名アリ　全部健康ニシテ特ニ兼重ナル監督指導ヲ爲シアリ

[以下略]

軍人倶樂部規定

一、軍人倶樂部（軍屬含）ノ慰安ヲ求ムル所トス

二、使用配當ヲ左ノ如シ

日曜日	本隊本部
月曜日	第十一中隊
火曜日	機関銃中隊
水曜日	衛生隊
木曜日	工兵隊
金曜日	休育隊
土曜日	午前検査

三、使用時間ヲ左ノ通リ定ム

兵　一〇〇〇―一六三〇

下士官　一七〇〇―一九三〇

四、秩序安寧ハ左ノ如シ

下士官兵　一比五〇仙　ザップの弾
將　校　二比五〇仙

但シ實施ハ一回トシ其時間ハ四十分以内トス
四十分増ス毎ニ一比宛増額トス

五、俱樂部ニ於テ守ルベキ件左ノ如シ

1、慰安ヲ求メントスルモノハ必ズ受付ニ於テ番號札ヲ受ケ其順序ヲ守リ料金ハ慰安婦ニ渡スコト

2、規定ヲ厳守シ公徳ヲ重ンジ他人ニ迷惑ヲ及ボサザルコト

3、豫防法ハ必ズ實行シ花柳病ニ罹ラザルコト
「ザック」及予防藥（一揃五錢）ハ之ヲ慰安婦ヨリ受領シ

4、不用意ノ言動ヲ慎ミ防諜ニ注意スルコト

5、慰安所ニ於テハ飲酒ヲ禁ズ

6、酩酊ノ上暴行等ノ行為アルベカラザルコト

六、毎週土曜日昼間ハ健康診断休業トス

六、其ノ他

イ、倶楽部ニ到ル下士官兵ハ中隊長(独立小隊長「工兵隊ハ輜重小隊長」)ノ発行スル外出証ヲ携行スルモノトシ二人以上同行シ且遠ク市内ヲ漫歩セザルコト

ロ、服装ハ略装ニシテ帯剣シ巻脚絆ヲ穿ツ

昭和一七、二、一～一七、八、三一

独立自動車第三九大隊第四中隊陣中日誌

防衛研修所戦史室



日	日	日直士官	日直下士官	日直上等兵
八日 十八日 十九日		蓑見習士官	小口伍長	柳澤上等兵
八日 二十日 二十一日		霜村少尉	須田軍曹	箕谷上等兵
八日 二十二日 二十三日		清水曹長	平野伍長	山田上等兵
八日 二十四日 二十五日			猶井軍曹	遠田上等兵

八、本日ノ勤務員左ノ如シ

日直勤務者前日ニ同ジ

車廠當番　田中上等兵以下七名

九、本日ノ人車數左ノ如シ

將校四、下士官兵一三七　計一四一

自動車前日ニ同ジ

八日十八日

一、中隊長以下九時出發附表ノ如ク行動輸送

於テ之ガ準備ヲナシアリ

二、別紙衛生ニ關スル注意ガリ教育徹底セシメラレ度

三、明十九日九時三十分各中隊（含ム特殊自動車隊）ハ貨車ニ輸兵三名宛ヲ兵器委員ノ許ニ差出シ遠衛兵長ノ指示ヲ受ケシメラレ度

警備會報　八日十八日

一、左記ノ如ク慰安所㊅軍慰安所位置ニ於テ八日十六日ヨリ開業ス

左記

慰安婦（朝鮮人）　七名

二、「（ヲビヤ）市内映畫常設館畫間興行左ノ

軍會報　八月二十四日

一、慰安施設ニ關シ左記事項ノ意見ヲ明ニ

五日會報時迄ニ提出相成度

左記

1、慰安所ヲ軍人用、軍屬用ニ區分スルノ可否

2、現在慰安所位置ノ適否

3、慰安所或ハ慰安婦ノ增減

4、慰安所ノ設備ニ就テ

5、料金ニ就テ

6、其ノ他改善又ハ希望事項

右ノ事項ハ可成理由ヲ附記セラレ度

治第四六三〇部隊會報　八月二十四日

一、先頃豫報シ置キタル現地除隊者詮衡

〔以下略〕

㊷獨立自動車第四二大隊第一中隊行動詳報（昭17・8・24）

軍事極秘

自昭和十七年八月一日
至昭和十七年八月三十一日

調製部数九部之内
第七號

行動詳報

第拾號

獨立自動車第四十二大隊第一中隊

第一中隊之印

195

WDC #11331

[前略]

リヲ演スル等危害予防及皇軍ノ威容保持上寒心ニ堪ヘサルモノアリ

2、営内下士官兵ノ外出時限ハ軍隊内務書ニ示サレアル如ク實施スルト共ニ外出証モ軍隊内務書ニ規定セラレアル正規ノモノヲ調製使用セシメラレ度

3、待機自動車ニシテ標識旗ヲ附シタルママノモノ多シ上官車内ニ在ラサル場合ハ必ス標識旗ハ取リ置ク様指導セラレ度

4、両日ニ於ケル注意者別紙ノ如シ

(別紙省略ス)

二、一七〇〇左ノ軍會報受領ス

軍會報　八月二十四日

一、近時軍人軍屬ニシテ軍用車又ハ人力車等ニ地方ノ婦女子ヲ同乗セシムルモノアリ殊ニ慰安婦等ヲ同乗セシムル者ヲ散見スルハ頗ル遺憾トスル處ニシ

(21)

テ自今嚴ニ戒愼セラレ度

二、飲食店慰安所等ニテビール瓶「コップ」ヲ故意ニ破損スル者アルモ屢次ノ注意ニ鑑ミ嚴ニ戒メラレ度尚自今故意ニ破損スル者ハ業者ニ對シ辨償スルモノトス

三、將校慰安所眞砂ハ從業婦ノ監督不行屆ノ廉ニ依リ來ル二十五日(火)及二十六日(水)ノ兩日營業ヲ停止セシムルヲ以テ同日ノ利用ヲ禁止ス

一二、一七〇〇左ノ部隊會報受領ス

會報

八月二十四日 昭南

近來交通事故ノ大ナルモノ惹起ノ傾向アリ幹部ハ次ノ事項ヲ良ク理解セシメ之カ絶無ヲ期スベシ

一、作戰時ト異リ何等生命ヲ賭シテ迄速度ヲ出シ或ハ危險ナル操作ヲナス要毫モ無シ

二、全ク本人ノ不注意ニ起因スル交通事故ハ其ノ程度

ニ應シ將來隊長ニ於テ處分スルヲ要ス

小事故頻發者及細心ナラサル運轉手ハ將來運轉証明書ヲ剝脱シ運轉セシメサル様スルニト

ム不注意ニ依リ死亡セル者ハ靖國神社ヘ合祀セサル如ク通牒アリ

敬禮ニ関スル件

細部ニ關シ若干疑議ノ点アリシヲ以テ左ノ通リ定ム

一車輌(單獨)走行間ノ敬禮

人操縱手ハ上官ニ對シ前方ヲ直視シタル儘上体ヲ十五度前傾シ助手(助手台ニナル者)ハ擧手注目ノ敬禮ヲナスモノトス

(部隊ヨリ甚シク離隔シ當然單獨車輌ト自覺シタル場合ヲ含ム)

ク荷框ニ搭乘者ハ最上級者長トナリ「気ヲ付ケ」ト呼ヒ同人ノミ敬禮シ他ハ上体ノ姿勢ヲ正ス

二七

[以下略]

⑥③第二五軍情報記録［富集團司令部］（昭17・8・25）

[illegible]

富集參情第九十四號

機関參謀	水	政	砲	宣	主	醫	機	參謀副長	參謀長	司令長官
	庶	附	副	補	航	通	空			

第二十五軍情報記録（第六十八號）

（自七月十一日　至七月末日）

昭和十七年八月二十五日

富集團司令部

［中略］

目次

第一　概況
第二　治安狀況
第三　治安工作狀況
第四　其ノ他

4

州別ニ分布状態

各州ニ分布状況ハ昭南ニ八三名ヲ最多トシ「ジョホール」州一二七名之ニ次ギ「ネグリセンビラン」州ノ二名ヲ最小トス

渡来府縣別ハ朝鮮ノ一九六名　長崎縣五九名　臺灣ノ四九名ノ順序トス

5.

教育程度及職業別

在住邦人ノ教育程度ハ次表ノ如クニシテ無學十一六七名　又、職業別ハ慰安婦ノ一九四名

ヲ最高トスルハ注意ヲ要ス

専門學校以上	六七	(六)
中等學校程度	一六三	(一三)
小學校程度	三四一	(八〇)
無學	一六六	(七九)
計	七三七	(一七七)

(一)ハ、戰前渡來在住者トス

昭和一七、九、二～二八、九、三。

独立自動車第三十九大隊第四中隊陣中日誌

防衛研修所戦史部

南西 マレー・ジャ 115

〔前略〕

三、タンジョンプリヤクレ埠頭内ニハ吸殻入ヲ設置シアルニ付爾今吸殻入ナキ場所ニ於テハ絶對ニ喫煙セザル様各隊ニ於テ之ガ徹底ヲ期セラレ度

警備會報　九日八日

一、八日二十七日「ペッサルバルウ」ペチヤ上ニ於テ左記物品ヲ拾得セリ憲兵隊ニ於テ保管シアルニ付該當者調査ノ上來隊セシメラレ度

左記

夏シヤツ　一、防暑襦袢（道上ガ松ト註記シアリ）一、腹巻一、

二、八日二十七日振天慰安所内「ペチヤ」上ニ左記物品遺棄シアルヲ彼木部隊佐々木隊志

村任長拾得セリ（憲兵隊保管）

左記

桑田ノ印鑑（サツクニ抗戰必勝ト書シアリ）煙草ナンダル一、

三、九日七日軍會報ニ依ル御賜煙草發送ニ付テハ野戰郵便所ニ於テ連絡中ニ付發送中止サレ度

尚決定次第野戰郵便所ヨリ通牒ス

七、本日ノ勤務員左ノ如シ

日直勤務者前日ニ同ジ

部隊衛兵　大谷軍曹以下九名

車廠當番　千場上等兵以下七名

八、本日ノ人車數前日ニ同ジ

〔以下略〕

昭和一七、七、一〜一七、一二、三一

歩兵第十一聯隊第一大隊砲小隊 陣中日誌

防衛研修所戦史部

南西 マレー・ジャ 67

月日　九月八日　火曜日
天候　晴
位置　於マラガ北部兵營
行事　一、日朝点呼後駈歩及保健体操ヲ實施ス
二、糧秣及酒保共受領使役トシテ十七時小畠等
外二下二名新宅伍長ノ指揮ニ入ラシム
三、夕食後約一時間全員「フットボール」ニ依ル球
戯ヲ實施ス
會報　一、軍紀風紀ニ就テ
私物梯絆ヲ着用シ外出スル下士官アリ不可ナリ
公用者ニシテ歩哨立哨シアラザル處ヨリ出入スルモノ
アリ
一、「マラガ」軍人倶樂部（倫敦慰安所）ハ本八日限リ
閉業セシメタルニ附爾今立入ラザル樣注意相成度

軍事機密

自昭和十七年十月一日
至昭和十七年十月三十一日

陣中日誌

獨立守備歩兵第三十五大隊

十月五日
月　西
於ダンサラン

一、本日生田部隊日々命令ニ基キ外出日ヲ別紙吉江部隊日々命令ノ通リ定ム

二、「カガヤン」出張中ノ吉江大隊長ヨリ司令官宛左記電報アリ

左記

一、「ブツアン」方面ノ情勢ハ逮捕セル密偵及捕虜ノ言ヲ綜合スルニ叛乱単ハ依然「ブツアン」其他ニ対シ企圖ヲ有スルモノヽ如シ

二、「ブツアン」部隊ヲシテ積極的ニ之カ禍根絶ツテ速カニ「ダンサラン」ニ復帰スル如ク指示

三、小官五日朝、野砲ト共ニ「ダンサラン」ニ向フ

三、本日生田部隊會報別紙ノ如シ

四、本日吉江部隊會報別紙ノ如シ

〔以下略〕

五、航空機生産関係者ト云フ兵二名内地ノタメ出發ス

六、十月上旬情報旬報到ル ノ通リ報告

七、本日聽員

	將校	准士官	下二官	兵	通譯軍屬	計	摘要
	二五	七	七九	六三二	一二	七五四	欠四上將終月也帰還

生日命第一五七號

生田部隊日々命令

十月五日一五〇〇
メンサテソ

一、外出日ヲ別紙第一第二ニ依リ規定ス
細部ハ各隊長ニ於テ規定スルモノトス

別紙省略

吉江部隊日々命令　十月五日　ダンテラン

一、外出ニ関シ左記ノ通リ規定ス

イ、外出ハ一般ニ一二、〇〇以後トシ必ズ二名以上同行スルモノトス

2、民家ニ立寄ルヲ禁ズ

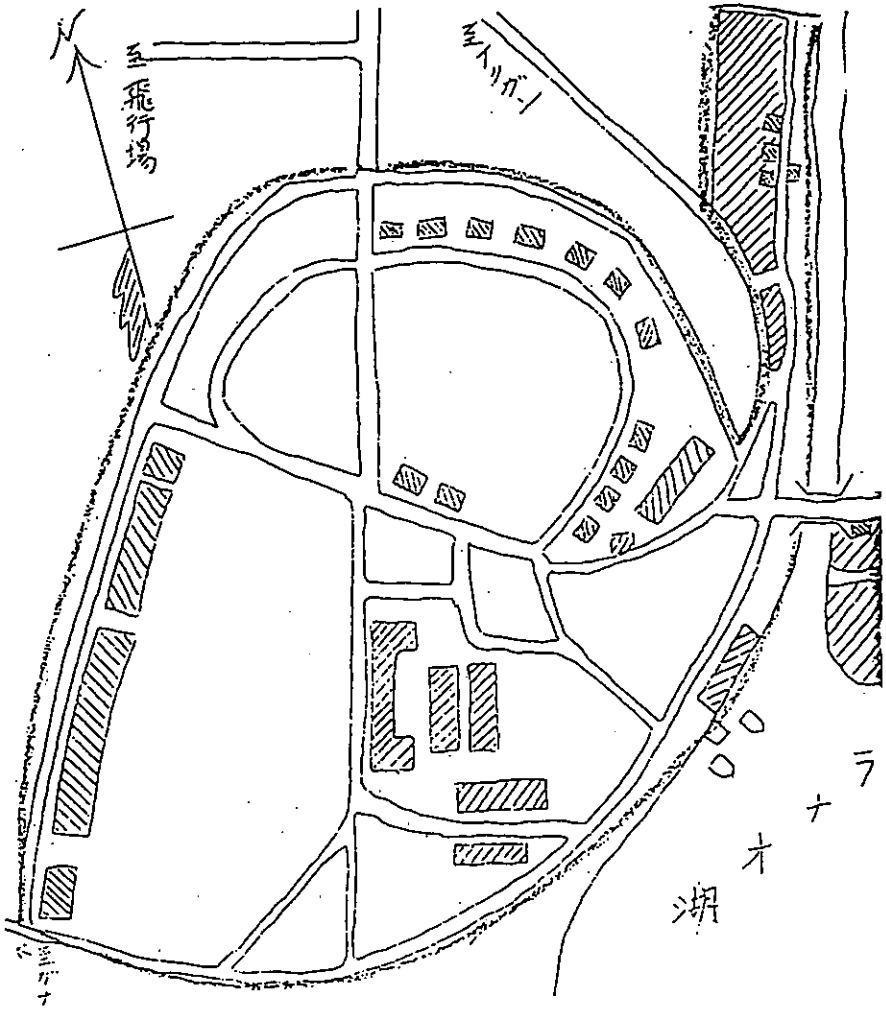
3、外出散歩區域別紙第一ノ如シ

4、慰安所使用日割表別紙第二ノ如シ

別紙第一

圖要域區出外

域區出外



別紙第二

慰安所使用日割表

曜日	使用部隊
月	田中大隊
火	司令部、竹下隊（内匠大隊）
水	吉岡隊、市原隊
木	田中大隊
金	司令部 竹下隊（内匠大隊）
土	
日	本部、村山隊、川村隊

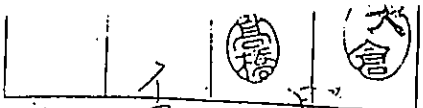
備考

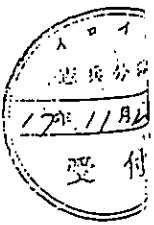
一、使用時間 矢八一六、〇〇迄 下士官八一九、〇〇迄トス

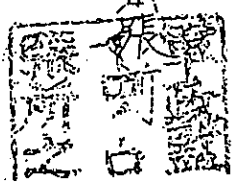
⑰慰安所規定送付ノ件

［軍政監部ビサヤ支部イロイロ出張所］（昭17・11・22）

15-2







呈ノ外

慰安所（亞細亞會館第一慰安所）規定送付ノ件

昭和十七年十一月二十二日

軍政監部ビサヤ支部イロイロ出張所

イロイロ憲兵分隊御中

首題ノ件別紙ノ如ク送付ス

以上

慰安所規定（第一慰安所 亜細亜會館）

一、本規定ハ比島軍政監部ビサヤ支部イロイロ出張所管理地区内ニ於ケル慰安所営施ニ関スル事項ヲ規定ス

二、慰安所ノ監督指導ハ軍政監部之ヲ管掌ス（接客婦ノ検徴ハ毎週火曜日拾五時ヨリ行フ）

三、警備隊警官ハ衛生ニ関スル監督指導ヲ担任スルモノトス

四、本慰安所ヲ利用シ得ベキモノハ判服着用ノ軍人軍属ニ限ル

五、慰安所経営者ハ左記事項ヲ厳守スベシ

イ、家屋寝具ノ清潔並日光消毒

ロ、洗滌消毒施設ノ完備

ハ、「ゴック」使用セサル者ノ遊興拒止

4. 患婦接客禁止

5. 慰安婦外出ヲ嚴重取締

6. 毎日入浴ノ實施

7. 規定以外ノ遊興拒止

8. 營業者ハ毎日營業狀態ヲ軍政監部ニ報告ノ事

六、慰安所ヲ利用セントスル者ハ左記事項ヲ嚴守スヘシ

1. 防牒ノ絶對嚴守

2. 慰安婦及樓主ニ對シ暴行脅迫行爲ナキ事

3. 料金ハ軍票トシテ前拂トス

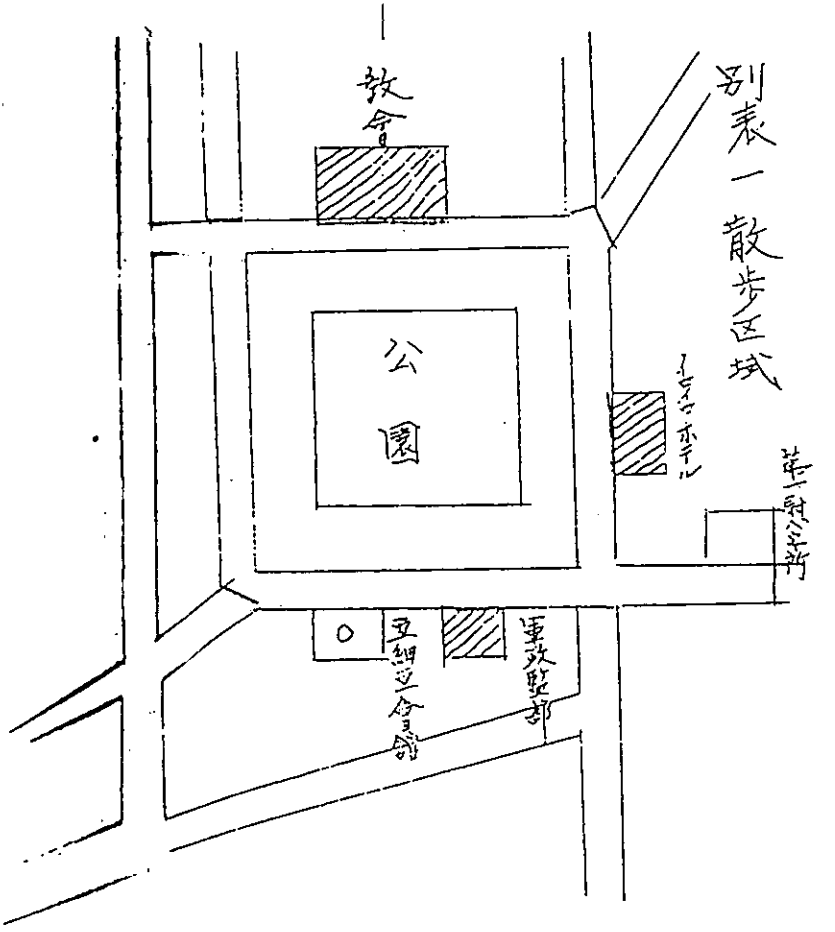
4. 「サツクニ」ヲ使用シ且洗滌ヲ確實ニ實行シ性病豫防ニ萬全ヲ期スコト

5. 比島軍政監部ビサヤ支部ノ各出張所長ノ許可ナクシテ慰安婦ノ連出シハ堅ク禁ズ

七、慰安婦散歩ハ毎日午前八時ヨリ午前十時マデトシ其ノ他ニアリテハ北倫軍政監部ビサヤ支部イロイロ出張所長ノ許可ヲ受クベシ尚散歩区域ハ別表ニ依ル

八、慰安所使用ハ外出許可証（亦ハ之ニ代ルベキ証明書）携帯有限

九、営業時間及料金ハ別紙ニ依ル



公園ヲ中心トスル赤丸界ノ範囲内トス

別表二

營業時間及料金表

区分	営業時間	遊興時間	料金 第一慰安所	料金 亜細亜會館	備考
六	自九、〇〇 至一六、〇〇	三〇分	一、〇〇	一、五〇	
下士官 軍属	自一六、〇〇 至一九、〇〇	三〇分	一、五〇	二、五〇	
見習士官 将校	自一九、〇〇 至二四、〇〇	一時間	三、〇〇	六、〇〇	

陸支密第八號

兵站勤務ニ關スル規定ノ件達

兵站勤務ニ關スル規定本邦ノ部ノ通改定ス

昭和十七年十一月十七日

第十四軍司令官　田中静壹

三　慰安ニ関スル事項

五、兵站地ノ施設ハ既存ノ諸施設ヲ利用スルヲ本則トシ兵站地勤務ヲ担任スル部隊長之ヲ実施スルモノトス　但シ新築改築等大ナル工事ヲ要スル場合ハ該メ軍司令官ノ認可ヲ受クルモノトス

六、兵站地勤務ヲ担任スル部隊長ハ軍ノ認可ヲ受ケ所要ノ旅館又ハ家屋ヲ兵站旅館ニ指定シ其ノ経営ヲ依託、解除シ又所要ノ飲食店及慰安所ヲ指定、解除スルコトヲ得

七、兵站地勤務ヲ担任スル部隊長ハ状況止ムヲ得スト認ムル場合ハ兵站旅館ニ軍人軍属以外ノ者ノ宿泊ヲ認可スルコトヲ得　但シ宿泊治療ニ要スル場合ハ一切自辨セシムルモノトス

兵站旅館宿泊者ニシテ連続宿泊二十日以上ニ亘ル場合ハ軍ノ承認ヲ要ス

八、兵站指定旅館、飲食店又ハ慰安所ノ取締リニ関シテハ所要ノ規定

ヲ定メ遺憾ナカラシムルモノトス

飲食品ノ販賣價格及慰安所ノ料金ノ公定ニ關シテハ軍ノ認可ヲ要ス

九、兵站地勤務ヲ擔任スル部隊長（文官ナル場合ヲ除ク）ハ其ノ兵站地ニ於テ帝治給養ヲ受ケツツアル懲罰權ナキ指揮官ノ率ユル軍隊及軍人軍屬中ノ下士官以下ニ對シテハ懲罰令第二十四條第二項及第三項ニ據リ處罰シ得ルモノトス

十、各部隊ハ携行不能ナル軍需品其ノ他ノ荷物ノ保管ヲ補給諸廠又ハ兵站地勤務ヲ擔任スル部隊等ニ依託スル場合ニ於テハ特ニ輕易ナルモノヲ除キ監視者ヲ附スルヲ本則トス

第三章　補給

十一、補給及補給請求ノ系統ハ軍兵站勤務令附圖第一乃至第七ニ據ル外左記ニ據ルモノトス

一　補給諸廠ハ左ノ區分ニ依リ擔任地域内ニ於ケル各部隊（軍隊下、

〔以下略〕

⑲サック支給ノ連絡〔カトバロガン分隊あて〕（昭17・11・21、12・12）

連絡

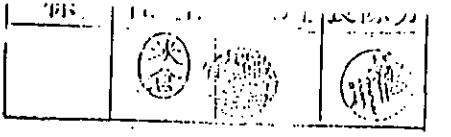
昭和十七年十一月二十一日　本部庶務

カトバロガン分隊庶務御中

曩ニ本部ヨリ配布シタル「サック」ヲ某分隊ニ於テハ下士官以下ニ於テ適宜分配シタル事例ヲアルモ之ハ分（遣）隊長以下全員ニ對スル分トシテ配布シタルモノニ付承知相成度

但シ傭人（含比島人）ニシテ妻帯シアルモノ及ニ十才未満ノモノニハ配布セサル様セラレ度尚之ガ使用ニ關シテハ充分教育サレ度為念

憲兵分隊
19年2月3日
第144號



保	住	住	長
	決		

連絡

十二月十二日

庶務係　殿　本部庶務

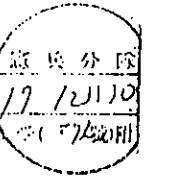
別送「サツクレ」ヲ左記ニヨリ分配相成度

左記

一、將校以下各二個宛トス
但シ家族ト同棲シアル通譯其他ノ傭人及
未成年者ニハ分配セサルモノトス

二、若シ員數ニ不足アル場合ハ彼是融通
ノ上分配セラレ度

三、使用ニ關スル教育ヲ十分徹底セシメ分配
セラレ度



憲兵分隊
17 12 11 10
受(下)(文)(印)

[中略]

⑦⓪パナイ島接客業組合骨子［パナイ島接客業組合］（昭17・12）

大倉

高橋

パナイ島
事業統制會

會長　石井禮一
會計　花桝屋好成

◎統制會下ノ各組合ハ在セブ、ビサヤ日本人會ヲ経由シテ、セブ軍政監部支部長ノ認可ヲ受ケタル組合ニアラザレバ正式ノ組合ト認メヌニト、ナリタル故目下各組共認可方申請中ナリ、

パナイ島接客業組合

一、軍指導監督下ニ置カレ
軍人、軍属ヲ主トシテ取扱ヒ、（一定時間ノミ一般邦人ニ接客スルコトヲ得）

二、一般治安行政上風紀ニ注意シ軍政監部施行セレ
タル法規ヲ嚴守スルモノトス

三、左ノ事業ヲ行フ

(一) 酒場　主任　増子喜作
(二) 娯楽場　〃　宮田共三吉
(三) 理髪業　〃　親川源次
(四) 映画　〃　増子喜作、助手檀上寛夫、
(五) ホテル　〃　増子喜作、助手城間正辰
(六) 慰安所凡テノ　〃　[redacted]　助手[redacted]

四、營業ヨリ生スル収入ハ十日毎ニ事業統制會ニ納入ス、
會計ノ直接監督權ハ事業統制會ニアリ

五、組合員ハ月十五比宛ヲ小使トシテ事業統制会ヨリ借入レテナスコトヲ得、

六、組合員

〃 〃 〃 〃 〃 〃

増子喜作
宮田與三吉
城間正辰
檀上寛夫
親川源次
宮城奥勝
伊村 渠鍔

防衛研修所戦史室

極秘

昭和十七年十二月下旬

情報旬報（第十九號）

獨立守備歩兵第三十五大隊

［前略］

四　其ノ他

インパルタオ米軍病院閉鎖ニ伴ヒ諸衛生材料ヲ接收之ヲ南方第十三陸軍病院カガヤン分院ニ引繼ヲ爲セリ　性病豫防ニ關シテハ嚴ニ注意ヲ拂ヒ月例身體檢查衛生知識ノ向上檢黴ノ徹底、慰安所ノ監視ニ努メ月間性病患者ナシ

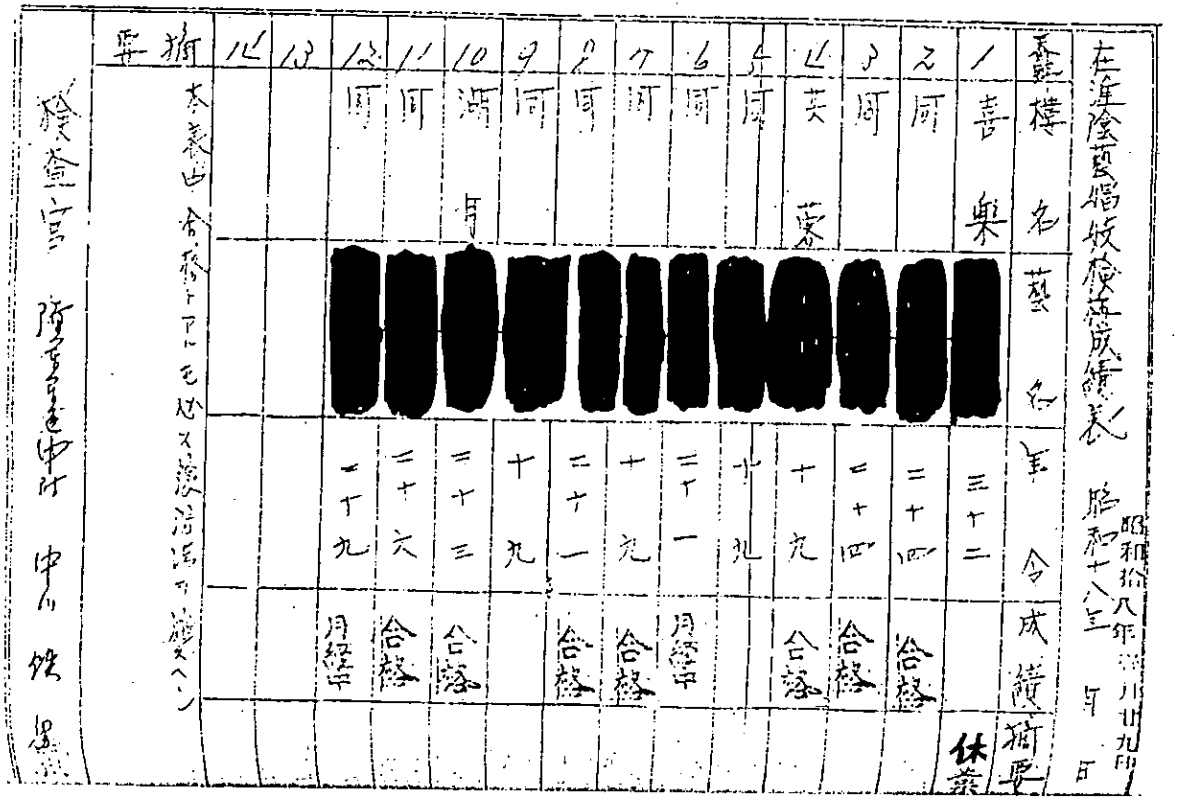
昭和一八、一四 — 一八、六、四

17D 歩兵第五十四聯隊（月七三五）資料

原本史料

防衛研修所戦史室





在淮陰藝娼妓檢梅成績表

昭和拾八年[illegible]月廿九日

昭和十八年　月　日

番	樓名	藝名	年令	成績	摘要
1	喜樂	[redacted]	三十二		休業
2	同	[redacted]	二十四	合格	
3	同	[redacted]	二十四	合格	
4	英蓉	[redacted]	十九	合格	
5	同	[redacted]	十九		
6	同	[redacted]	二十一	月經中	
7	同	[redacted]	十九	合格	
8	同	[redacted]	二十一	合格	
9	同	[redacted]	十九		
10	湖月	[redacted]	二十三	合格	
11	同	[redacted]	二十六	合格	
12	同	[redacted]	二十九	月經中	
13					
14					

摘要

本表由合格トアルモ必ス[illegible]ヘシ

檢査官　[illegible]　中川　姓　[illegible]

[以下略]

(3)

極秘 一五師醫庶第之五號

調製官 陸軍軍醫大佐 原田嘉元

昭和十八年一月	自一日 至三十一日	衛生業務要報
地名	南京	部隊號 第十五師團軍醫部

一部隊行動ノ概要

〔一〕敵情

第三戰區ノ敵ハ依然部署ノ變更人事ノ更送ヲ實施中ニシテ移動頻繁ナリ

師團當面ノ敵正規軍ハ一部部署ノ變更ヲ實施セル外消極退嬰的ニシテ何等見ルヘキモノナシ

在支米空軍ハ依然昆明及霑益竝ニ雲南驛飛行場ヲ基地トシテ緬甸方面出擊ニ專念シアルモノノ如シ

然レ共中旬以降昆明、衡陽、芷江等ノ電臺間ニ於ケル交信相當活潑化シアリ亦重慶空軍ハ國民政府參戰ニ伴ヒ荊門及當陽ニ來襲スル等勝敗ヲ要スルモノアリ

月末現在師團當面敵情附圖第一ノ如シ

18.2.23
18.2.2

(5) 工一五、師團通信隊職一五八夫々特別訓練班ヲ設置ス

2. 一般兵ノ保育狀況

各級幹部ノ保育ニ關スル識能竝ニ熱意向上ニ伴ヒ漸進的訓練ト給養休養ノ適正ヲ具現シツヽアリ

3. 結核豫防ノ狀況

近ク現地到著ノ昭和十七年度徵集初年兵ヲ迎ヘントスルニ方リ營內淨化ニ着意實施シツヽアリ

尙來月當初師團統一シテ結核檢索作業及營內、供用物件ノ消毒ヲ實施スル豫定ナリ

(三) 衞生部員ノ表彰懲罰ニ關スル事項

1. 表彰

漸續作戰間衞生部員トシテ責任觀念旺盛ニシテ其ノ職責ヲ完遂セル左記ノ者ニ對シ師團長ヨリ別紙第ヘ、九一〇ノ如ク夫々賞詞ヲ附與セラレタリ

方記

第十五師團野戰病院　陸軍軍醫中尉　山本光秋

步兵第五十一聯隊第六中隊　陸軍衛生上等兵　吉原薰

步兵第六十七聯隊第九中隊　陸軍衛生上等兵　米田敏一

2. 懲罰

部隊	處罰者	罰目
南京第二陸病	將校一	重謹愼七日

(四) 特殊慰安婦檢診ノ狀況

區分 / 地方別	檢査同數	平均一日現在人員	檢査延人員 內地人	半島人	中國人	計	不合格者數 內地人	半島人	中國人	計
南京	四	四一三	一〇〇七	一一三	九一三	一六三三	一三	二	一二	二七
蕪湖	二一四	七三	八八	七三	一二九	二九〇	七	七	一〇	二四

	金壇	鎮江	計
	二一四	四	二一四
	二三一	三一	九四〇
			一〇九九
	一二		一九八
	九四	一二四	八二〇
	六六	一二四	三一三
			二〇
			九
	一九	一八	九九
	一九	一八	八四

(五) 衛生材料ノ狀況

ノ月間常續補給ハ順調ニ實施セラレ商月ニ引續キ衛生材料檢査ヲ實施之カ狀況ヲ概査セリ

2. 昭和十八年度第一期四種混合接種液及痘苗ヲ各部隊ニ交付セリ

月間中支那派遣軍衛生廠ヨリ受領セルモノ左記ノ如シ

器械	拔栓子	外一三點
藥物	一イヒナオール	外八一點
消耗品	脫脂綿	外二七點

ノ月間隸下部隊ヘ交付セル材料左記ノ如シ

器械	寒暖計	外六三點
藥物	健胃錠	外一三八點

[中略]

其ノ他

隊下配属部隊ニ入営スヘキ初年兵ニ使用スル「ツベルクリン」溶液及血液検査ニ必要ナル所要材料ヲ交付スルト共ニ入隊時身體検査ニ支障ナカラシムル可ク適宜材料ヲ交付貸與セリ

七　氣　象

別表第一ノ如シ

八　将来ニ對スル意見

ナシ

［以下略］

隊長	隊官	醫官	衛生下士官

極秘

一五師醫庶第九五號

調製官　陸軍軍醫大佐　原田嘉元

昭和十八年二月自一日至二十八日　衛生業務要報

地名	南京
部隊號	第十五師團軍醫部

一、部隊行動ノ概要

(一)敵情

師團當面ノ敵ハ依然部署ノ變更竝ニ整軍ニ沒頭シアリテ何等游擊行動ノ認ムヘキモノナク極メテ靜穩ナリ

敵ノ偵諜行動ハ最近活潑化シツヽアリテ特ニ我カ占據地區內飛行場ノ調査ヲ企圖シアルモノヽ如シ

重慶空軍ハ一部ヲ以テ揚子江上船舶航行ノ掩護ニ任セシムルト共ニ機ヲ見テ中北支前線方面ニ對シ游擊的出動ヲ企圖セルモノヽ如ク主力ハ依然成都及重慶地區ニ在リテ防空及訓練ヲ實施シアリ

在支米空軍ハ依然昆明以西地區ニ在リテ一部緬甸方面出擊ニ從事シアルカ如キモ主力ハ專ラ戰力ノ回復向上ヲ圖リツヽアルモノヽ如ク其ノ

劍術防具
防毒面　各部除　〇、五%「ネオキシロン」水擦拭消毒

(2) 師團全員ノ喀痰檢查ノ實施

初年兵入隊前ニ於テ開放性結核ヲ摘發芟除シ營內浄化ヲ圖ル爲本月十日ヨリ二十五日ニ亘リ一齊ニ喀痰檢查ヲ實施セリ本檢查能率向上ノタメ檢索班三ヲ編成シ各地區警備隊ノ實施スル檢索作業ニ協力セシメタリ檢索班ノ編成ハ軍醫將校一、衛生下士官二、衛生兵五、（携行材料ハ顯微鏡二具其ノ他）ニシテ師團野戰病院一個班ヲ中支那防疫給水部第四支部二個班ヲ差出サシメタリ、詳細ハ別紙第二一五師作命丙第二〇號ノ如シ

本成果ハ檢索人員七六三八名中五名ノ陽性件數ヲ摘發セリ

七、特殊慰安婦檢診ノ狀況

區分 / 地區別	檢查人員			不合格者數		
	平均一日檢查延人員					
同數現在人員	內地人	半島人	中國人	計	內地人	半島人	中國人	計

南京	無湖	金壇	鎮江	巢縣	溧水	計
四	三一四	四	四	三	三	三一四
四五七	九七	一一	三九	三四	一〇	六二八
九四八	一一四		一二			一〇七四
八一	九三	一九		一一		一七四
八八七	一五九	二二	一四五	九一	五〇	九八二
一八九	三四六	四一	一八九	一〇二	三〇	二三三〇
一七	五		七			二七
四		一		二		八
一九	二〇	六	四五	一二	一二	一〇八
三二	二七	七	八〇	一九	一二	一四三

ヘ 衛生材料ノ狀況

(一) 補給ノ狀況

師團衛生材料整備ノ狀況ハ前月ニ引續キ順調ニ行ハレ野戰貨物廠ヨリノ受領各隊ヘノ交付等定期補給業務モ極メテ圓滑ニ行ハレタリ

(イ) 中支那野戰貨物廠ヨリ受領セルモノ

器械體溫計 外一〇點

藥物硫黃浴劑 外三八點

［中略］

防疫給水部第四支部月間給水量左表ノ如シ

出張所別	地區別	總給水量	一日平均給水量
金壇出張所	金壇	一三六四石	四五石
蕪湖出張所	蕪湖	四三〇石	一四石
計		一七九四石	五九石

月初ヨリ實施セル衛生浄水機ノ巡回性能調査ハ本月中旬ヲ以テ終了セリ其ノ成績附表第四ノ如シ

(二) 健兵對策實施ノ狀況

ノ特別訓練兵保育ノ狀況

師團特別訓練隊ノ狀況

第十三軍結核豫防規定第三條ニ基キ先月二十五日發
師參甲第四五三號ニ依リ結核性疾患ノ絶滅ヲ期シ
又要保護兵ヲ訓練シテ健兵ヲ育成シ之ヲ射撃ノ
精兵タラシムル目的ヲ以テ湯水鎭ニ設置セル特別訓
練隊ハ本月五日編成ヲ完結シ十日訓練兵三八二名ハ
隊ヲ見旦下銳意保育訓練ニ勉メアリ
保育上特ニ着意實施シアル事項左ノ如シ
(1) 教育ニ於ケル保育
師團特別訓練隊ニ於ケル教育企画別冊ノ如クニシテ
保育上著眼シアル事項ヲ摘記セバ左ノ如シ

地方衛生事業ノ向上ニ資セリ

(六)地方接客業者衛生施設指導並特種慰安婦検診ニ関スル事項

南京蕪湖鎮江其他各小地區ニ於テハ毎週概ネ一回軍醫將校ヲシテ地方接客業ニ店ノ衛生巡察ヲ實施セシメ衛生思想ノ普及向上同施設ノ改善ヲ促進シアリ

特種慰安婦検診ノ状況左表ノ如シ

地区別 / 区分	検査回数	平均一日現在人員	検査延人員			不合格者数		
			内地人	半島人	中國人	計	内地人	半島人	中國人	計
南京	五	四三三	七四九	五	六二二	一四二	八		七	一五
蕪湖	三一四	七六	一〇三	八二	一〇五	三八九	六	一	一〇	一七
金壇	四一五	三〇		二七	九〇	二一七		六	一五	二一
鎮江	四	二九			一一四	一一四		七	五〇	一八
計	三一五	五六八	八五一	一五九	九二二	一九三二	一四	七	五〇	七一

(七)衛生材料ノ狀況

一ヶ月間常續補給ハ一般ニ順調ニ實施セラレアリテ師團ニ於テハ軍ノ指示ニ基キ隷下配屬部隊所要戰傷一會戰分戰病一ヶ月分ノ材料ヲ師團倉庫ニ整備シアリ

[以下略]

昭和八、一、一～一八、三、八

独立自動車第四二大隊第一中隊行動詳報

南西 マレー・ビ 111

防衛研修所戦史部

〔中略〕

〔前略〕

一月十三日

晴

一、昭南島ニ駐留ス

二、〇八、三〇青水軍曹以下四名特設自動車中隊ニ至リ該隊ノ輸送業務並ニ教育指導ニ任ス

三、〇九、〇〇中隊ハ依然貨物廠ニ協力各分隊長ノ指揮ヲ以テ貨車一〇輛ニテ左ノ輸送ニ任ス

(イ)小泉軍曹ハ貨車五輛ヲ以テ西埠頭ニ至リ糧秣馬糧ヲ全廠本倉庫ニ輸送シ一七、三〇歸隊ス

(ロ)小俣軍曹ハ貨車五輛ヲ以テ西埠頭ニ至リ糧秣ヲ全埠頭内ニ於テ輸送シ一七、四〇歸隊ス

四、〇九、三〇中隊ハ携帯兵器檢査ヲ實施ス

五、一七、〇〇左ノ獨自四ニ大作命第二二二號受領ス

大隊命令

一月十三日 昭南

一、第一中隊長ハ明十四日別ニ一分隊(三車輛)ヲ第三陸軍病院ノ陣営具輸送ニ協力セシムヘシ

輸送ノ細部ハ該病院宮前書長ト協定セシムヘシ

四一

日トシ許可スヘキモノニ非ス(内一九七)

(ロ)遊興等ノ目的ヲ以テ許可スルハ誤リトス(内二〇二)

(ハ)許可権疑ハシキ者ニシテ許可スル向アルモ速ニ明書ニハ職名(校長副官週番司令等)ヲ明示スルヲ要ス

名刺ヲ以テ代用シ或ハ時間ヲ明示セサレモノ等アリテ適当ナラス

ろ 引率外出ニ就テ

引率外出ハ指揮官ノ直接指揮下ニ在リテ行動スヘキモノニシテ途中解散シ各個行動セシムルハ本旨ニ非ス即チ引率外出ニテ慰安所等ニ至リ遊興セシムル等ハ適当ナラス

ろ 公用外出ニ就テ

公用ト認メ難キ用件ニテ公用外出セシムル向アリテ速ニ公用外出者自ラ公私ノ別ヲ誤リ私用ヲ

[以下略]

軍事機密

自昭和十八年二月一日
至昭和十八年二月二十八日

陣中日誌（第四號）

獨立守備歩兵第三十五大隊

二、本日一〇、ロロヨリ警備會報ヲ実施ス
會議事項左ノ如シ
左記
イ「カドヤン」駐屯地警備計畫ノ説明
ロ「カドヤン」周辺ノ敵蠢動状況
三、本日月命別隊ノ通リ下達ス
四、本日會報別隊ノ如シ

二月十四日
日晴
於カガヤン

一、ロ九、三ロ生田部隊長宛左記電報
報告ス
左記
「ダラカグ」方面匪首「ボーレル」(元少佐)目下
該地東方約十五粁「インバトグ」ニ在ルコト

會報

カガヤン

一、左記ノ如ク兵站警備隊ニ公用證及外出證ヲ交付ス

左記

公用證 自 至 兵 警 戸 戸 戸 一 五 一 號

外出證 自 至 兵 警 戸 戸 戸 五 〇 一 號

一、明十四日ヨリ別紙要圖ノ個所ニ下士官及兵田トシテ戸三慰安所ヲ開業セシム

使用時服ハ從前通リトシ之ヲ嚴守スヘシ

三、明十四日以降慰安所料金ヲ左ノ如ク

定ム

左記

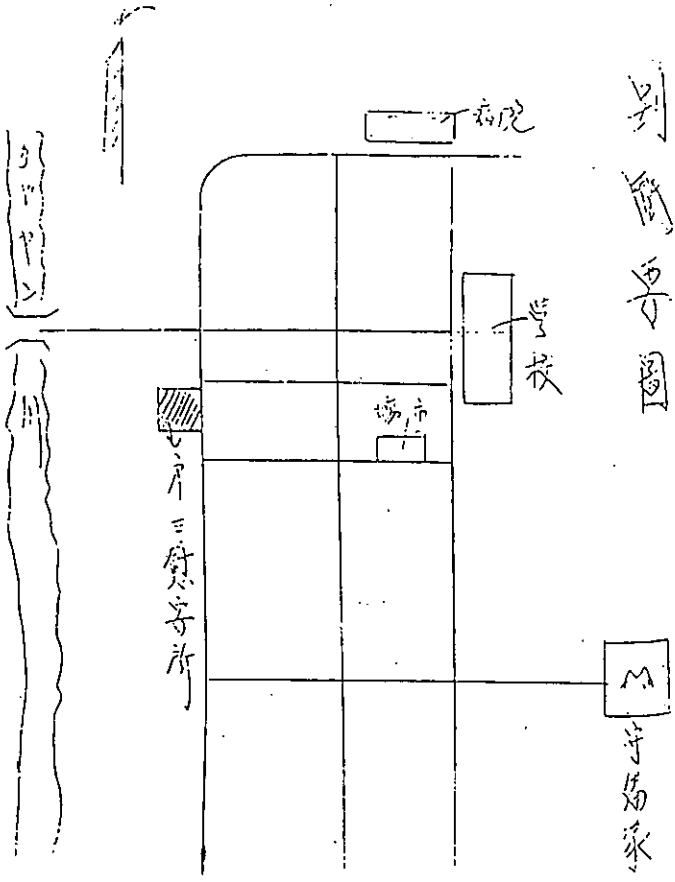
下士官　二円

兵　一円五ヲ表

（三十分）

比島人慰安所ノ料金ニ関シテハ従前

通リトス



案内図

⑯防犯資料［第36師團司令部］（昭18・3・4）

別紙

自昭和十八年三月
至昭和十八年五月

防犯資料一

第三十六師團司令部

歩試試試
18 7. 18
受第3387號
22-13

懲罰

山砲兵第三十六聯隊　　陸軍上等兵　[redacted]

犯行ノ概要

昭和十八年二月十一日沁縣城内ノ朝鮮妓樓ニ於テ登樓遊興シ花柳病ニ罹病シ軍務ヲ怠ル

罰目　輕營倉三日　（昭一八三一五　中隊長）

◎性病ニ關シテハ精神訓話、衛生講話及予防手段等各般ニ亘リ教育ヲ周到ニ實施スルノ要アリ

教育ヲ行ハスシテ罹病ノ事實ノミヲ責ムルカ如キコトナキヲ要ス

[redacted]

懲罰

步兵第二百二十二聯隊第一中隊　陸軍上等兵　[redacted]

犯行ノ概要

昭和十八年三月七日飲酒酩酊ノ外出先ニ於テ朝鮮姉様ニ於テ遊興性病ニ感染シ軍務ヲ怠ル

罰目　重營倉三日　（昭一八四一中隊長）

步兵第二百二十二聯隊第四中隊　陸軍上等兵　[redacted]

犯行ノ概要

右ニ同シ

罰目　重營倉三日　（昭一八四一中隊長）

◎右ニ同シ　[redacted]

慈罰

山砲兵第三十六聯隊第九中隊　陸軍上等兵

犯行ノ概要

昭和十八年三月三十一日促馬村朝鮮料理店ニ登樓シ花柳病ニ罹病ス

罰目　重營倉二日

（昭一八四一一）

中隊長

◎右ニ同シ

懲罰

歩兵第二百二十三聯隊第九中隊　　[redacted]　上等兵

犯行ノ概要

昭和十八年三月三日部隊衛兵司令トシテ任務終了下番ノ際屋外ニ於テ弾薬摘ケヲ怠リ室内ニ於テ銃ヲ手入セントシテ暴発ス

（昭一八、三、三一）

（中隊長）

罰目　重営倉三日

◎制式動作ヲ確實ニ實行セハ暴発事故ハ絶無ナル筈ナリ日常ニ於ケル諸動作ニ關シ幹部ハ克ク部下ノ銃砲操作ヲ凝視シ制式勵行ノ要性ヲ附與セサルヘカラス

[redacted]

バギオ憲警第八六號
昭和十八年八月二日
バギオ憲兵分隊長

軍慰安並娯樂設備狀況ニ關スル件照會

セブ憲兵分隊長殿

首題ノ件當地兵團ヨリノ依賴有之參考ニ資シ度ニ付貴配備管下取纏メ左記ニ依リ可成詳細ニ調査相成度照會ス

左記

慰安所				
町名	慰安所數	慰安婦數	料金時間	參考
口口市（町）	口ヶ所	日人 口名 北人 口名 其他 口名	兵口分口此 下士官口分口此 將校口分口此	

194

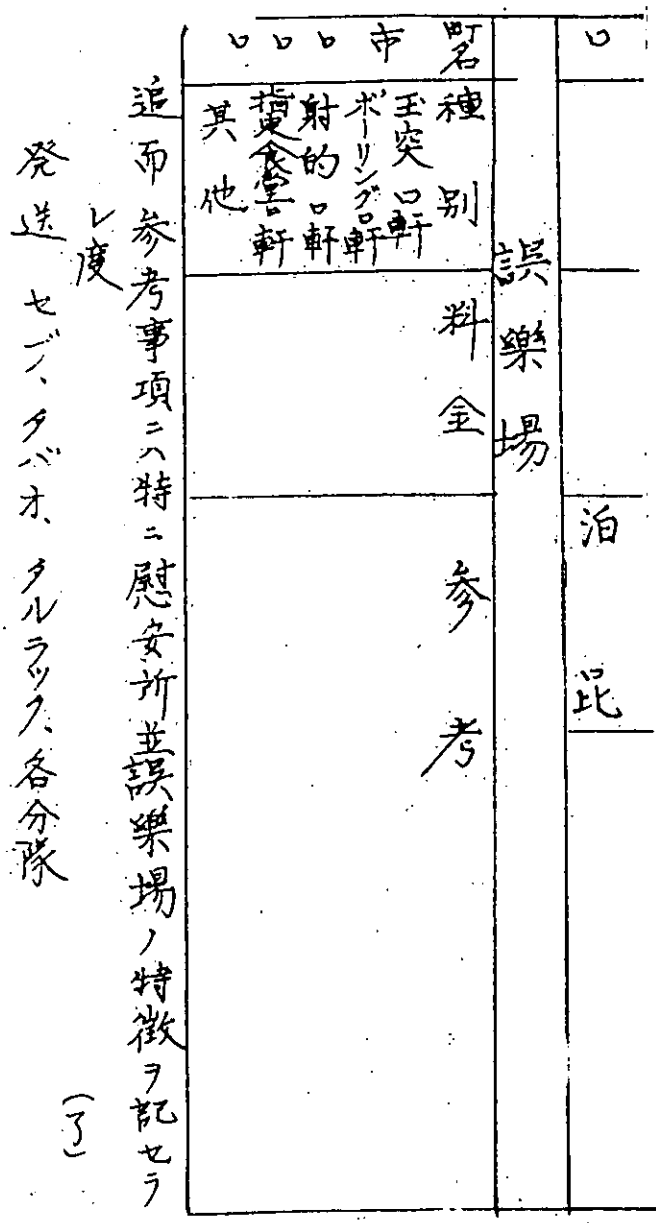
口			泊
	誤樂場		比
町名	種別	料金	参考
市	玉突口軒 ボーリング口軒 射的口軒		
口	撞食喜軒 其他		
口			

追而参考事項ニハ特ニ慰安所並誤樂場ノ特徴ヲ記セラレ度

発送 セブ、タバオ、タルラック、各分隊

(了)

1908



係	統主	長	隊	隊長
福元	[illegible]	/	[illegible]	[illegible]

⑰-2 軍慰安並娯樂設備状況調査ノ件「通牒」［セブ憲兵分隊長］（昭18・8・10）

セブ警第七六號

軍慰安並誤樂設備状況調査ノ件「通牒」

昭和十八年八月十日　セブ憲兵分隊長 [illegible]

タクロバン憲兵分隊長殿

別紙寫ノ如クバギオ分隊ヨリ照會有之ニ付キ貴管内ニ於ケル状況至急調査ノ上バギオ分隊ニ直接回答セラレ度通牒ス

追而右回答ノ際当隊ニ於テモ参考ト為ニ付キ同寫ヲ送付相成度

（了）

タクロバン憲兵分隊 18年8月11日 受(795)號印

陸

分隊長	附	班長	主任	係
[illegible]	[illegible]	/	[illegible]	[illegible]

控

⑦⑦—3軍慰安所並娯樂状況調査ノ件（回答）［タクロバン憲兵分隊長］（昭18・8・14）

陸軍

タクロバン憲警第一八號

西慰安所並娯樂
状況調査ノ件回答

昭和十八年八月十四日タクロバン憲兵分隊長東平健

八月二日バギオ憲警第八六號照會ニ基ク
首題ノ件別紙ノ通リニ付回答ス

（了）

發送先
バギオ分隊長
寫セブ分隊長

別紙

慰安所

町名	慰安所数	慰安婦数	料金	時間	参考事項
町			兵	一時間一比五仙	一経営者ハ比人(サ)ニシテ監督兼通譯トシテ在留邦人一ヲ配置セシメアリ
バン	壱	九名	軍属〃	二比	
クロ		(比人)	下士官〃	二比	
タ			将校〃	三比	二クロバン以外ノ各警備地区ニハ不定期ニ出張セシメアリ
			泊	五比	

陸軍

娯樂場

町名	種別	料金	參考事項
町ンバロクタ	ボリング場一軒	一面五錢	一ボーリング場 タクロバン町内北人経営ニヨル只一ノ遊戯場ニシテ軍人ノ来遊ヲ観迎シアリ
	指定食堂四軒		二指定食堂 邦人経営二比人経営二計四軒ハ軍指定指食堂トシテ駐屯部隊ヨリ[illegible]ルヽ特配アリ（各軒一月ニ付約二四〇本）
	常設映画館一軒		三常設映画館 比人経営ニシテ僻地ナルト交通不便ニヨリ手持ノ戦前映画上映多シ時折ニュース上映アリ

東京 小津[illegible]

⑱慰安婦一ノ金銭紛失ニ關スル件報告〔タクロバン憲兵分隊長あて〕（昭18・8・3）

慰安婦一ノ金銭紛失ニ關スル件
報告
昭和十八年八月三日　奥田兵長
分隊長殿
首題件状況左記報告
左記
一被害者住所氏名年令
本籍
比女
当二十九年
二被害年日時及場所

八月二日、目一五口口分ー至一五三口分間
ヲクロ心ン慰安所　四号室

三、被害品目
金十八円五十錢
以該軍票五円三枚一円二枚十錢五枚
旧紙幣一円一枚

四、被害前後ノ状況
本名ハ数ヶ月前ヨリ病気ニテ休業シア
リ其ニ当日モ自室ニ於テ休養シアリタル處
十五時頃、遊客多数（十二三名）アリタルヲ以テ
自室ヨリ起出テ「キツプ」ヲ販賣シアリタル

處十五將軍分項部屋ヨリ出テ來レ、名ハ一ハ
婦人用香水ヲ所持（ズボン物入ニ押入レ）シテ
リタルヲ以テ不審ヲ拘キ其ヲ返納方ヲ依賴之
ヲ受領本名ハ香水ト合ハナルヲ以テ、自室
ニ帰リタル處被服冊（戸口ヲ入リ左側ニ位置
ス）ノ鍵カ外サレ戸ノ開ケ放サレアルヲ以テ更
ニ不審ヲ拘キ内部ヲ點検スルニ金一八円
五十錢粉失（戸ヲ開キ直ニ賊布ノ中味ノミヲ
撥出シ他被服ニハ手ヲ付ケアラス）シアルヲ以テ
監督者（平常）ニ屋出タルモノナリ
五監督者ノ処置
監督者該事件ノ部外ニ洩ルヲ極度ニ

恐レ値ニ紛失金十八円ニ不我[illegible]自己所持
[illegible]ニ與ヘ四々理ニ事ヲ解決セリ
其他
六参考事項

(三) 当日ノ客ハ「ドラグ」「カトバロカン」ヨリ警衆ノ
タメ来所セル軍人下士官二兵千約二
名ニシテ慰安婦ハ何レモ氏名顔等ヲ
知得シアニ入

(三) 西督府(至平)ハ過去ニ於テモ女ヲ士斯
様ニ事アリタルヲ以テ今回モ兵隊ト
早期断スルヲハ[illegible]出来

(三) 又ト
雪水一ハ本名ノニ非ス コミン所有ノモノナリ

七 憲兵ノ處置所見

憲兵ハ即將監候スト共ニ関係者ニ付任意取調犯行手口ヨリ観察ニ及部ノ事情ニ長タル者ト判断ノ下ニ監督者ニ一任円満裡ニ解決セリ

○

昭和一八、一〇、一四

タクロバン憲兵分隊巡察計画表参考綴

北防 防衛 572

昭和十八年十月十四日案

巡察計画表

服務者 井上兵長 田村一等兵 比警四名

巡察経路	警察目標	立寄先及連絡箇所	時刻	主要着眼事項	摘要
分隊	市場	刑務所		一、外部的思想宣傳状況 1、附近ニ反戦反軍的ビラ等ノ添付セルモノナキヤ 2、敵匪ノ連絡箇所ノ有無ナキヤ 二、敵匪侵入ト思料ノ附近状況 1、附近ニ謀略的行為ナキヤ 2、敵匪ニ依リ住民ノ動向如何ナルヤ 三、軍人巡警ノ状況 1、歩哨ノ勤情 2、自警團員ノ勤情 3、軍人外出者ニシテ案紀風紀ヲ紊スルモノナキヤ	一、上記着眼ノ外行故上ニ付ノチモ着意ス 二、巡察中ノ意ヲ要スルモノ又ハ重要事項ハ直ニ禁憲一ヲシテ分隊ニ報告シ其ノ他ノモノハ既隊後報告ス
リサール街					
ベテラノス街	華僑倉庫	自警團詰所			
レアール街	波止場				
グランカピタン街					
クラデイオ街	飲食店	巡警隊			
ウエルソン街	慰安所	墓場分哨			
マルテレス街					
分隊					

⑧⓪雪第三五二五部隊日々命令（昭18・11・7）

雪二五日命第二六號

雪第三五二五部隊日々命令

十一月七日十五時
金路口

一、明八日九時迄糧秣受領ノ勤務員トシテ土井部隊ヨリ兵三〇名炊事ニ差出シ糧秣委員ノ指示ヲ受ケシムベシ服裝ハ單獨ノ軍裝トス

二、陸軍軍曹　梅津秀雄
外兵一名

業務連絡ノタメ本七日ヨリ三泊四日ノ予定ヲ以テ上海並杭州ニ出張ヲ命ズ

三、陸軍少尉　岡松朝雄

聯隊旗手上海出張不在間同官代理ヲ命ス

四、雪二五日命第一八號第三項中週番司令石塚中尉トアヲ山形中尉ニ變更ス

〔中略〕

九十一日七日以後将校以下ニ一般外出ヲ許可

ア 各部隊長ハ外出ニ當リ左記外出ニ關スル細部ノ注意ヲ嚴守セシムベシ

左記

(一)将校、准士官下士官ハ二、三名以上ノ組ヲ以テ行動シ單獨ニテ行動セサルモノトス

(二)兵ハ引率外出シ映画館、慰安所以外ニ於テ解散ヲ禁ス 用濟後ハ部隊ヲ纏メ皈還スルモノトス

(三)軍隊ニテ經営又ハ特ニ指定シテ出入ヲ許可セル飲食店以外ニ立入ルヲ禁ス

(四)南京警備規定ニヨル松山部隊外出日ハ毎週木曜日トス

(五)将校以下外出先ニ於テ特ニ左ノ件ニ注意スルモノトス

イ 防諜上部隊ノ企圖行動等ヲ口外セサルコト [以下略]

軍事極秘

自昭和十八年十二月一日

至昭和十八年十二月三十一日

陣中日誌

第三七號

野戰高射砲第五十一大隊本部

FD721

21030

FD821

林三六九日命第七號

林第三六九部隊日日命令　十二月十一日

一、本職自十二月十四日至十二月十九日間「マンダレー」駐屯地司令官ノ代理ヲ

二、通信工手　本部陸軍一等兵　松本半三郎

同　同　谷島良佐

同　第一中隊同　花塚昇

同　第三中隊同　清水三男

同　電氣工手　鉄列同　服部鑵二

同　同　同　遠藤恒夫

鍛工手　同　同　石田豊治

同　同　同　茅嶋晴八

右者夫々嶺書ノ通リ通信工手、電氣工手及鍛工手ヲ

命ズ

陸軍大尉　山田俊

陸軍中尉　鏡味徳次

右者夫々業務連絡ノ爲本千一日ヨリ一泊ノ豫定ヲ以テ「明妙」軍司令部ニ出張ヲ命ズ

乘用車一（操縦手共）ヲ附ス

四

陸軍中尉　中村宗一

右者十二月十三日自一八〇〇至二一〇〇間「アマラプラ」及「ミンゲ」渡河點附近第二種巡察勤務ニ服スベシ

着眼　1. 服裝態度特ニ敬禮ノ勵行狀況

2. 無許可外出

3. 慰安所等ニ於ケル下士官兵ノ行動態度

下達法　印刷交付

林三六二九日命第一二號

林第三六二九部隊日日命令　十二月二十一日

一　第三中隊　陸軍軍曹　後藤松夫

敍勲七等授瑞寶章（昭和十八年九月十一日附）

二　第二中隊　陸軍一等兵　上岡康治

第一中隊　同　高木末吉

第三中隊　同　大阪芳雄

右者豫備役主計下士官要員被教育者トシテ十二月二十六日ヨリ約三ヶ月ノ豫定ヲ以テ第十五軍經理部ニ分遣ヲ命ズ

依ツテ十二月二十五日迄ニ「明妙」第十五軍經理部ニ到着スベシ

陸軍曹長　佐原健

三　右者本二十一日自一七、三〇至二〇、三〇間「マンダレー」第三區第二種巡察勤務ニ服スベシ

着眼ノ　服裝　態度　敬禮ノ狀況

2、無許可外出
3、空襲時ニ於ケル待避状況
4、食堂及慰安所等ニ於ケル行動

下達法 印刷交付

林三六二九日命第一三號

林第三六二九部隊日日命令　十二月二十五日

陸軍大尉　山田　俊

一、右者本職代理トシテ明二十六日ヨリ一泊ノ豫定ヲ以テ第三中隊慰靈祭ニ參列ヲ命ズ

乘用車一（操縱手共）ヲ附ス

二、來ル三十日別紙計畫ニ基キ緬甸防衛軍三吋臨時高射砲要員ノ後期査閲ヲ實施ス

陸軍少尉　伊藤武夫

三、右者十二月三十日自一九〇〇至二一〇〇間ニ於テ「アマラプラ」及「ミンゲ」渡河點附近第二種巡察勤務ニ服スベシ

着眼　1、服裝態度敬禮ノ狀況　2、空襲時ニ於ケル待避狀況　3、無許可外出　4、食堂及慰安所等ニ於ケル行動

下達法　印刷交付

81—2 林第三六二九部隊日日命令（昭19・1・1、3、6）

軍事極秘

自昭和十九年一月一日
至昭和十九年一月三十一日

陣中日誌

第二十八號

野戰高射砲第五十一大隊本部

378

NDC# 47722

〔中略〕

林三六九日命第一八號

林第三六九部隊日日命令　一月一日

一　陸軍中尉　武田宗三

右者一月四日「マンダレー」出發新任地ニ赴任スベシ

二　本部陸軍兵長　瀧川一義

第三中隊同　安田由左エ門

第一中隊同　水野澄雄

第三中隊同　宇佐美益一

第一中隊同　鈴木貞雄

三　任陸軍伍長

本部陸軍上等兵　荻原政人

同　二村作次郎

同　鈴木俊二

第一中隊同　青木勇三

同

段列陸軍一等兵　鷲巣武
同　同　淺見國一

命陸軍上等兵

陸軍少尉　横地寛

五

右者一月四日自一〇七三〇至二〇七三〇間ニ於テ「アマラプラ」及「サカイン」渡河
點附近第二種巡察勤務ニ服スベシ

着眼　1、服装態度敬禮ノ状況　2、無許可外出
3、慰安所食堂等ニ於ケル行動　4、空襲時ニ於ケル待
機状況

六

第一號　陸軍曹長　中島登夫
第二號　同　堤端義雄
第三號　陸軍兵技曹長　中村晃三
第四號　陸軍曹長　坪井容正
第五號　同　佐原健

〔以下略〕

林三六九日命第二〇號

林第三六九部隊日日命令々一月三日

一　本職自一月六日間マンダレー警備隊長ノ代理ス

二　昭和十八年七月二十日日命第八九號第二項各隊ノ休務日、外出日ヲ左記ノ通リ變更ス

記

左

休務日　日曜日

外出日　第一、第二中隊　土日曜日

大隊本部大隊殿列　日曜日

注意　態度服裝敬禮ヲ嚴正ニシ外出日時限並ニ慰安所使用時限ヲ嚴守スベシ

下達法　印刷交付

林三六二九日命第二一號

林第三六二九部隊日日命令　一月六日

陸軍主計中尉　西巻孝一郎

一

右者自一月十日至一月十三日間昭和十九年度陸軍經理學校甲種學生候補者試驗受驗ノ爲「明妙第十五軍經理部ニ出張ヲ命ズ

依ッテ一月九日迄ニ同部ニ到着スベシ

細部ニ關シテハ別ニ指示ス

陸軍准尉　加藤弘

二

右者一月九日自一三〇〇至一六〇〇間ニ於テ「マンダレー」第一第二道第二種巡察勤務ニ服スヘシ

着眼ハ服裝態度敬禮ノ狀況ヲ無許可外出

ヲ慰安所食堂等ニ於ケル行動　空襲時ニ於ケル待機狀況

昭和十九年

外出及軍人倶樂部ニ關スル規定

遠山隊

外岩及軍人倶樂部ニ関スル規定

第一條　本規定ハ斗門警備隊外岩及軍人倶樂部ニ必要ナル事項ヲ規定ス

第二條　本規定以外ノ事項ニ関シテハ軍隊内務令中山駐留規定及中山警備隊軍人倶樂部規定ニ依ルモノトス

第三條　外岩ニ際シテハ服装、姿勢態度ヲ嚴正ニシ皇軍タルノ自覺ヲ以テ行動セザルベカラズ

外岩日及時間左ノ如シ

兵　日曜日トシ十二時ヨリ十八時迄トス

下士官水曜日トシ十二時ヨリ日夕點呼迄トス

営外者ニ関シテハ規定セズ

外岩区域ハ部落内ハ東西護沙隊分哨迄トシ表門前ハ約二百米槁梁迄トス

部落内ノ行動中ハ二名以上同行シ單獨行動ヲ禁ズ

第四條　週番士官ハ外岩日ハ第二種巡察ニ任シ軍紀風紀ノ

取締ヲ爲スモノトス

第三條　服裝ハ單独、軍裝トシテ兵ニ在リテハ外出腕章ヲ腕ニ附ス

第四條　外出章ハ、保管及授受ニ関シテハ軍隊内務令ニ依ルモノトス

第五條　軍人倶樂部ヲ使用シ得ルモノハ軍人軍屬ニシテ下士官以下ニアリテハ外出ヲ許可セラレタル日ニ於テ第五條ノ服裝ヲ爲シタルモノトス

第六條　軍人倶樂部料金左ノ如シ

兵	一時間	八円
下士官	同	拾円
營外者	同	拾五円

宿泊ハ營外者ノミトシ、四拾円

第九條　外出ニ際シテハ防諜ニ注意シ軍人倶樂部ニ於テハ軍紀風紀ヲ嚴正ニシ著シク酒氣ヲ帶ビタル者ハ出入ヲ禁ス又酒類ヲ持込ムベカラズ

其ノ他他人ニ迷惑ヲ及ホスベカラズ

第十條　軍人倶楽部営業主ハ別紙第一日誌ヲ翌日午前中ニ又別紙第二月報ヲ翌月二日迄ニ警備隊ニ提出スルモノトス

第十一條　庶務掛ハ軍人倶楽部業務ヲ監督シ其ノ事務ニ任ズルモノトス

第十二條　本規定ヲ遵守セザル者ハ爾後ノ外出ヲ禁ズ

第十三條　営業主ニ関スル事項ハ中山警備隊軍人倶楽部規定ヲ準用ス

日報

昭和　年　月　日　松月軍人倶樂部營業主

斗門警備隊軍人倶樂部掛松本曹長殿

本日左記ノ如ク賣上ゲタルニ付報告ス

左記

藝名	賣上額	登樓人員				廿四ヶ度回數	摘ノ要
		將校	下士官	兵	計		
計							

昭和　年　月　日　松月軍人倶楽部営業主

斗門警備隊軍人倶楽部掛　松本営長殿

昭和　年　月分賞与及分配区分左記報告ス

左記

氏名	賞与額	営業主収入	慰安婦収入	慰安婦稼高賞日数	摘要
				日	
				日	
				日	

⑧③陸軍軍人軍属非行表（一〇月、一一月）［バヨンボン憲兵分隊］（昭19・10、11）

陸軍軍人軍属非行表（十月）バヨンボン憲兵分隊

所管所属	役種官等職人員	非行月日	非行ノ概要	処置及分結果
駿一百二十三部隊	予陸上一	一六	外出先ニ於テ飲酒酩酊上慰安所ニ於テ登樓ス[illegible]ニ入ラントセル際[illegible]セル[illegible]極[illegible]ニ[illegible]投剣[illegible]衣類、其他金[illegible]敵[illegible]軍人[illegible]ノ体[illegible]	罷諭上非違通報（口頭）

別表第一

陸軍令人軍屬非行表（十一月）

所管	所屬	役職官等級人員	非行月日	非行ノ概要	文書ヲ以テ分給案
軍管理未穀部	八日ルボルヲ所	軍屬一	一、三	軍未開永ニ於テ傳角牛ノ比人勤務時限内ニ端勝開張中ヲ嚴諭ノ上供求聞知本人ノ行銘ニ呼ヲ懲罰ノ餘リ衆人ノ面前ニ於テ願面ヲ改ヲ民心把握上遺憾ノ事アリ	書ヲ徴ス所長ニ口頭非違通報
陸軍令人軍屬非行表（十一月）八日ルボルヲ案ニ分隊	威井入入要部隊 草崎隊（自動車隊）	現陸兵一	自二日、一回 至一、一三	上記期間兵站所屬ニ賦為牛十數個ニ在リ無所出處所ニ於テ牛牲屋ニ感染ノ情痕ヲ所在部隊ニ管理ニ係ル郵用倉庫ヨリ牲射痕ヲ郵取第其自己ノ為ニ為ニテ費部遊興費ニ充ル事ニアリタリ	前洞ノ結果事件報徴ナ以テ兵部隊側ニ移牒ス所屬長ニ口頭非違通報

昭和一九、一、二～一九、九、二五

タクロバン憲兵分隊作命綴

防衛 553

軍事極秘

垣サレ巻甲第二號

師團長「レイテ」島警備地區巡視ノ件通牒

昭和十九年一月十日　垣第六五五〇部隊巻謀長

東平憲兵隊長殿

首題ノ件ニ關シ別紙ノ通リ巡視セラルヽニ付通牒ス

特ニ經路ニ關シテハ防諜ニ注意サレ度爲念

通牒先

III/9i、20i、西村隊、直轄宣傳班、喜村隊/16P、原隊/636 9品、海上機隊、DTL、4FL、土、BO、渡邊隊、各部、タクロバン MP、軍調査班、物資蒐集班、軍防諜班、患者療養所、碇泊場連絡所、日本人會、

憲兵分隊
年 月 日

三 各部隊ハ依然前任務ヲ續行スベシ

四 予ハ「ダクロバン」ニ位置ス

獨立混成第三十三旅團長 見城五八郎

下達法 III/9i 16Pibs ニハ電報シタル後其ノ他兵印刷交付

配布先 20i III/9i 16Pibs 喜多村/16P 萩原隊/16P 小柿隊/32Bs 柏原隊/47L

原隊/63Bs 上村隊/古 渡辺自動車修理班 木原隊/BO 4FL

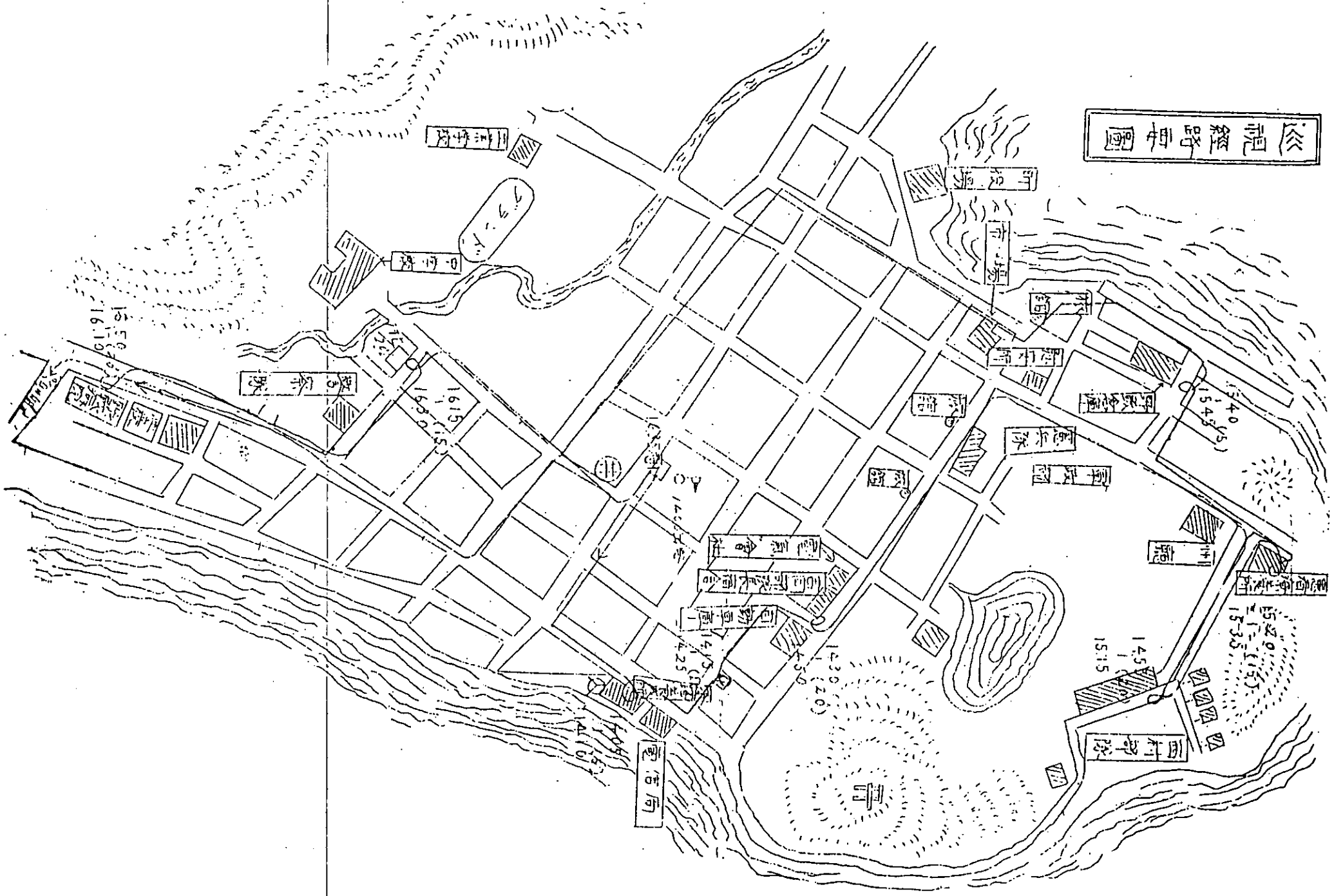
〈カ〉 軍産業調査團、松本建技中尉

報告(通報)先

14A 16D 14Ps 22FB 「ダクロバン」憲兵隊 「ダクロバン」疫消場連絡所

「ダクロバン」氣象班 中津濱少尉 第三二八野戰郵便所

第一〇二海軍施設部ダクロバン出張所



宮兵12

勤作命第一八號

獨立混成第三十三旅團命令

三月十七日 一五〇〇 タクロバン

一、第四野戰病院長ハ「タクロバン」舍營地ニ於ケル陸軍指定ノ飲食店、同慰安所ノ衛生ニ關スル指導監督ニ任スルノ外市内一般ノ衛生施設ニ對スル指導援助ニ任ズヘシ

二、予ハ「タクロバン」ニ在リ

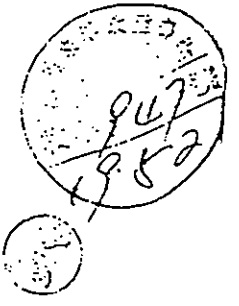
獨立混成第三十三旅團長 見城五八郎

19 3 11 18

軍政月報

昭和十九年二月廿九日

馬來軍政監部



［前略］

	馬来人	支那人	印度人	計	累計
理数科	一七	八	五	三〇	三〇
体操科	二〇	四	六	三〇	六〇
計	五五	二一	一四	九〇	一九五

3 二月二十九日馬来語通訓練所第三期生卒業式ヲ挙行セリ

卒業者数 七二名

累計 二六九名

六衛生

醫薬品衛生材料配給状況（二月分）

(イ) 軍事用特殊慰安所料理店倶楽部用一ヶ月分トシテ

衛生サック 七五、〇〇〇個

過マンガン酸加里 七瓩

ヲ各州市向ニ慰安婦数ニ応ジク配給ス
尚今後毎月引続キ補給ノ予定ナリ

(ロ)

流行性感冒対策トシテ

アスピリン　一、〇〇〇ポンド
フェナセチン　五〇〇　〃
硫規鉄　二〇〇本(一五〇〇人)

〃各州市向配給中ナリ

(ハ)

其他應急處置用トシテ配給セル分ノ主ナルモノハ鉄道局従業員用・土木科轟山工事場用ナリ

[以下略]

⑧⑥サンタクルース患者療養所［第16師團第2野戦病院陸軍軍醫中尉］（昭19・5・14）

自昭和十九年二月二十三日
至昭和十九年五月十四日

「サンタクルース」患者療養所

レイテ島

第十六師団第二野戦病院
第二半部の一部

防衛研究所図書館

中央
軍事行政
衛生
26

調製官　陸軍軍醫中尉　福田正男（福田）

一患者療養所一般行動

部隊ハ芳作命第四二號ニ基キ系作命第七二號ニ依ル人員材料ヲ以テ二月二十三日「ラグナ」州「サンタクルース」所ニ到リ同地ノ「ラグナ」州立病院内ニ開設中ノ第十六師團衛生隊ヨリ收容患者十七名並ニ同收療諸施設ヲ引續キ患者療養所ヲ開ン「ラグナ」州一帶ノ警備ニ任スル諸部隊ノ發生患者ノ收療後送並ニ同地區ノ一般衛生指導ニ任シツヽアリシガ師團ノ轉進ニ伴ヒ五月九日芳作命第五五號ニ依リ當患者療養所ノ閉鎖命令ヲ受ケ直チニ交代準備ヲナシ五月十四日十四時第十六師團衛生隊交代要員到着ト同時ニ收容患者十八名（内軍人軍屬外患者二名ヲ含ム）及同收療諸施設ヲ引継キ患者療養所ヲ閉鎖シ翌十五日人員並ニ材料ト共「ルセナ」第二半部ニ復歸ス

本期間ニ於ケル主要ナル行動行事左ノ如シ

二月二十三日

所長以下二十名並ニ所要ノ材料ヲ以テ同地ニ開設中ノ衛生隊ト收容患者並ニ同業務ヲ引継患者療養所ヲ開設ス

モノハ疥癬濕疹熱帶潰瘍等ニシテ各性狀ニ應シ硫黃浴劑ニ依ル溫浴ヲ施セル後「ピチロール」軟膏硫黃軟膏癒創膏又ハ硼酸軟膏等ノ貼用「ミチガール」塗布等ヲ行ヘリ挫傷患者ニハ「イヒチオール」酒精ノ塗布「フロー」液ノ罨法等ヲ施行シ骨折患者ニ對シテハ何レモ副木ニ依ル固定「ギブス」繃帶ヲ施行セリ

(二) 花柳病

花柳病患者ハ依然減少ヲ見ズ他疾病ニ比シ罹患率大ナリ之ガ傳染源芟除ノ爲慰安婦ノ檢査ヲ嚴密シ一般兵員ノ個人衛生ノ徹底ヲ期シ罹患絶滅ニ努力セリ

其ノ大部ヲ示ムル淋疾ニ對シテハ「ネオプロントヂール」筋注「レギオン」「トリハロミン」ノ靜注「スルフラミン」劑ノ衝擊療法等ヲ行ヒ「ロ五ー二ヽ〇%」「プロタルゴール」二〇%硼酸水液ノ漸進的尿道洗滌ヲ長期ニ亘リ施行シ第四性病ニハ導ラ「スルフラミン」劑ノ衝擊内服ニ依リ根治ヲ計リ硬性下疳ニハ「ハルサルバルサン」劑ノ注射ヲ行ヒ硬軟下疳性潰瘍ニハ燒灼「デルマトール」「ヨードフォルム」末ノ撒布癒創膏貼布等ヲ行ヒ前記疾患何レモ全治期ニ至レバ誘發法ヲ施行檢血檢鏡ヲ實施シ根治ニ努メタリ

本開設期間中ニ於ケル手術名簿寫附表第四ノ如シ

[中略]

[中略]

2 内科

本開設期間中内科疾患ノ收容總數ハ三一名(兼發ヲ含ム)ニシテ之ガ主ナルモノハ細菌性赤痢三、肺結核二、脚氣二、急性大腸炎三、「マラリア」二、「デング」熱一、蛔蟲病二、濕性胸膜炎二、「カタール」性黄疸一、急性咽頭炎一、「クループ」性肺炎一、急性扁桃腺炎二、喝病一、左腹壁神經痛一、其ノ他七名ナリ

主要疾病別治療ノ狀況左ノ如シ

(一)「マラリア」

本開設間中ニ收容セル「マラリア」患者ノ多クハ兼發ニシテ「マラリア」ニ據ル入院ハ僅少ナリ何レモ(三日熱)ニシテ重篤ナル者ナク收容セル二名中一名ハ治癒一名ハ轉送セリ「マラリア」患者ニシテ再發傾向大ナルモノニ對シテハ收療上ノ都合モアリ後送ニ依リ專門的加療ヲ受ケシメタリ

(二)赤痢性疾患

第十六師團衛生隊ヨリ引継ゲル赤痢患者ハ三名ニシテ内一名ハ治癒ノ後体力恢復ノ必要ヲ認メ「カラウアン」療養所ニ轉送セリ 他ノ二名ハ何レモ治癒傾向ニアリ現今鋭

附表第四

自昭和十九年二月二十五日、至昭和十九年五月十五日 サンタクルース患者療養所 手術名簿

病名	發病日	手術日	適應症	手術記事	輸送	陸号	階級	氏名
左拇指並ニ右小指潔痕兼傳染性腺病疹	一月二十三日	二月二十五日	疼痛	切開爪甲剝離	輸送	歩三三一大本	補陸二	辻春一
第四腰椎骨折	二月二十八日	三月二日	腰椎部疼痛	ベブス麻製作	輸送	歩三三一大本	補陸二	鈴木逸二
左第六、七肋骨骨折	二月二十九日	三月一日		絆創骨固定	輸送	歩三三一大本	補陸二	奥村先雄
急性蟲様突起炎	二月二十九日	三月二日	廻盲部ノ疼痛	蟲様突起切除術	治癒	歩三三一砲	陸上	中林國雄
急性蟲様突起炎	三月一日		廻盲部ノ疼痛	蟲様突起切除術	輸送	歩三三一中	陸二	片田薫

[以下略]

控

87-1 要塞建築勤務第六中隊陣中日誌（昭19・5・24、26、27、31）

陣中日誌

自昭和十九年五月一日
至昭和十九年五月三十一日
軍事秘密

第二號

要塞建築勤務第六中隊

RS 02300
Cincpac-Cincpoa
Bk 24 8/3
OKINAWA IO July

〔前略〕

勤務

五月二十四日 曇天 伊江島

二 前日ニ同ジ

出場人員 將校三 准下士官九 兵三二七

小湾派遣隊 將校一 准下士官一 兵五三

嘉手納分遣隊 准下士官一 兵二六

小那覇分遣隊 兵二四

命令 作命

一、作爲セシ命令左ノ如シ

要建六中作命第二十九號

要塞建築勤務第六中隊命令 五月二十四日一二〇〇 伊江島兵舎

一、中隊ハ明二十五日建築中ノ兵寮ヲ物品販賣所ニ改築シ新ニ慰安所建築作業ニ任ゼントス

二、樋渡少尉ハ橋元分隊及野下分隊ノ一部ヲ指揮シ前項作業ヲ実施スベシ

三、所要材料ニ関シテハ浜田中尉及ビ平野少尉ニ連絡スベシ 〔址・雑〕

行動

二、古瀬伍長以下四三名ハ翼ヶ丘第一工區ニ至リ上ヒツコ設備作業

〔中略〕

ニ從事セリ

進度　布設線路四〇〇米撤收後新ニ三〇〇米布設トロッコ用枠箱

一一個製作　トロッコ臺天板取付四七台　食卓一脚　釜蓋一個

食器入箱一個（何レモ現場事務所用）

實働時間　一〇時間三〇分

(ロ)重信伍長以下四三名八翼ヶ丘第三區ニ至リ　トロッコ設備作業

ニ從事セリ

進度　トロッコ線路布設一〇〇米　トロッコ枠箱　九個製作

實働時間　一〇時間三〇分

(ハ)橋元伍長以下三九名八酒保建築作業ニ從事セリ

兵寮トシテ建築セシヲ　都合ニ依リ酒保ニ変更ノ為

既設々備ヲ撤收シ内部ノ模様替ヲ実施ス

進度　各間仕切　各室床設備　撤收後酒保トシテノ新計畫ニ

基キ　土間　食卓　賣店設備　及　土壁塗

運搬ニ從事セリ

進度 根倒シ松丸太 枝拂ヒ集積一九〇本 兵寮建築敷地

(約一、〇〇〇米突)ヘ手挽車輌ニテ運搬二八〇本

實働時間 一〇時間

(八)古瀬伍長以下四三名ハ翼ヶ立第一工區ニ至リトロッコ設備

作業ニ從事セリ

進度 トロッコ軌條二〇五米突撤收 布設三八〇米突レール轉止

大五〇〇個 小四二〇個製作

實働時間 一〇時間三〇分

(二)車信伍長以下四三名ハ翼ヶ立第二工區ニ至リトロッコ設備

作業ニ從事セリ

進度 軌條布設一一九米 引續キ掘開土運搬五五立方米

實働時間 一〇時間三〇分

(ホ)松原上等兵以下四名 器具貸出 返納整理及大鋸五丁

尺横鋸四丁 鑿七丁 刃研手入

實働時間　九時間

(八)海老原二等兵以下三名八部隊本部ニ至リ備品製作ニ從事セリ

進度　印鑑箱一個　豆腐製造箱三個　釜蓋一個製作

實働時間　九時間

(十)中隊事務室　上田曹長以下九名事務整理　其他連絡

事務ニ從事ス

業務間作業

二、井久保軍曹八内務監視兵八名ヲ指揮シ露天待避壕構築

ニ從事セリ

進度　長サ三米　深サ一米五　ヲ七分通リ掘開

衛生

三、一八〇〇ヨリ部隊醫務室ニ於テ月例身体檢査ヲ実施セリ

勤務

四、週番下士一　同上等兵一、中隊当番一　炊事五　測量助手一

東元衛生兵長作業隊救護所勤務

五月二十六日

出場人員　將校三　準下士官九　兵三二七

晴天

伊江島

行動

小湾派遣隊　將校一　進下士官一　兵五三

嘉手納分遣隊　進下士官一　兵二六

小那覇分遣隊　兵二四

一、中隊ハ前日ニ引續キ左ノ各作業ヲ実施セリ

(イ)橋元伍長以下五ニ名ハ慰安所建築ノ爲用材伐採運搬並ニ敷地經始ニ從事セリ

進度　柱材梁材其他一六七本伐採　手挽車輌一〇台ニテ建築敷地ニ運搬　敷地經始

實働時間　八時間

(ロ)野下兵長以下三〇名ハ前日ニ引續キ伐採丸太整理運搬ニ從事セリ

進度　枝拂ヒ集積二〇〇本　手挽車輌ニテ運搬二九五本

實働時間　一〇時間三〇分

(ハ)重信伍長以下四〇名ハ翼ヶ丘第ニ工區ニ至リトロッコ設備

[中略]

作業ニ從事セリ

進度 軌條布設一七四米トロッコニ依ル掘開土運搬四一四立方米

實働時間 一〇時間三〇分

(二)古瀬伍長以下四三名ハ翼ヶ丘第一工區ニ至リトロッコ線路布設

作業ニ從業セリ

進度 既布設線撤收三米 布設二九八米レール止大二五〇個

小四一〇個 トロッコブレーキ四〇台分製作

實働時間 一〇時間三〇分

(ホ)松原上等兵以下四名ハ中隊器材ノ手入整理ニ從事セリ

進度 末使用木工器具二八箱開梱 油引キ手入後格納

斧 一五丁 刃研 山鋸二〇本目立

實働時間 九時間三〇分

(ヘ)中隊事務室上田曹長以下九名ハ書類作製整理

(ト)連絡事務ニ從事セリ

衛生
勤務
命令
日命
五月二十七日
晴後曇
伊江島

二、一八三〇ヨリ部隊醫務室ニ於テ月例身体検査ヲ実施セリ
三、週番下士官一 週番上等兵一 中隊当番一 炊事五 測量助手一
作業隊被護所一
受領セシ命令左ノ如シ
五〇飛大日命三七號
第五〇飛行場大隊日日命令 五月二十六日一四〇〇 伊江島安含
一、明二十七日一二〇〇以後 休務ヲ実施ス 依テ勤務ニ支障無キモノハ夕食時限迄 伊江村内ニ外出ヲ許可ス
二、勞務者ハ作業隊長ニ於テ一二〇〇以後 適宜休務並ニ伊江村内ニ外出セシムルコトヲ得
出場人員 將校三 准下士官九 兵三二七
小湾派遣隊 准下士官一 兵五三
嘉手納分遣隊 准下士官一 兵二六
小那覇分遣隊 兵二四

[中略]

行動

一、中隊ハ前日ニ引續キ午前中左ノ各作業ヲ実施セリ

(イ)橋元伍長以下八七名ハ慰安所建築敷地ノ整備ニ従事セリ

進度　敷地積土及埋立　敷地ヘノ道路一〇〇米　補修

實働時間　三時間三〇分

(ロ)古瀬伍長以下四〇名ハ翼立第三區ニ至リトロッコ設備及ビ修理作業ニ従事セリ

進度　既設線路補修三〇〇米　トロッコ枠箱修理三個トロッコブレーキ修理八個　同製作七個

實働時間　五時間

(ハ)重信伍長以下四〇名ハ翼立第三區ニ至リトロッコ設備ニ従事セリ

進度　軌條布設七三米　レール轉ビ止製作五〇個

實働時間　四時間三〇分

(ニ)松原上等兵以下三名ハ中隊器材手入整備ニ従事セリ

命令作命

四 第五〇飛行場大隊長 第三飛行場中隊長 要塞建築勤務第六中隊長ハ各々現任務ヲ續行スベシ

五 第一三九飛行場設定隊ノ任務ハ那覇到着後別ニ示ス大予八那覇ニ在リ

航空地區司令官 青柳時香

三 受領セシ命令左ノ如シ

五〇飛大作命第四九號

第五〇飛行場大隊命令 五月三十九日二〇〇 伊江島兵舎

一 軍ノ任務及軍隊區分其他ハ一九航地作命甲第八號ノ如シ

二 大隊依然現任務ヲ續行セントス

三 兩中隊長 要塞建築勤務第六中隊長 伊江島中飛行場作業隊長ハ各々現任務ヲ續行スベシ

四 予ハ伊江島兵舎ニ在リ

下達法 將校會員ヲ集メ口達後印刷配布

勤務　五月二十日　晴天　伊江島　行動

四、週番下士官一　同上等兵一　中隊当番一　筆五　測量班助手一

作業隊校護所一

出場人員　將校三　準下士官九　兵三二七

小湾派遣隊　將校一　準下士官一　兵五三

嘉手納分遣隊　準下士官一　兵二六

小那覇分遣隊　兵二四

一、中隊八前日ニ引續キ左ノ各作業ヲ実施セリ

(イ)橋元伍長以下五三名ハ慰安所建築ヲ續行セリ

進度　棄木用松丸太二六〇本伐採運搬　根太取付圖固定済

間柱取付五分通リ　通貫取付五分通リ　大槌一個製作

實働時間　八時間

(ロ)野下兵長以下三八名ハ物品販賣所　増築作業ヲ續行セリ

進度　物置　製品臺　竈　設備

(ハ)古瀬伍長以下四九名ハ翼ヶ丘第二工區ニ至リ　トロッコ設備作業

ニ從事セリ

進度　軌條布設一二〇米　布設軌條修理一〇〇米　軌條配置一二五米　トロッコ修理六臺　連結代用板一〇〇枚　全釘二八〇本　割楔三〇〇本　工具格納箱一個製作

實働時間　一〇時間三〇分

(二)重信伍長以下四一名ハ翼ヶ丘第一工區ニ至リ　トロッコ設備作業ヲ續行セリ

進度　軌條布設一三九米　レール轉止六〇〇個製作

實働時間　一〇時間

(木)松原上等兵以下二名ハ中隊器材庫ニテ器具手入ニ從事セリ

進度　梱包器材開梱三箱手入油引格納

實働時間　九時間

(八)中隊本部上田曹長以下九名ハ書類整理及ビ諸連絡事務ニ從事セリ

勤務
二、週番下士官一同上等兵一中隊当番一炊事五
測量班助手一作業隊救護所一

命令日命
三、作為セル命令左ノ如シ
要建六中日命第十八號
要塞建築勤務第六中隊日日命令 五月三十日 10:00 伊江島兵舎
一、本職派遣隊業務指導並ニ地區司令部連絡ノ為
本三十一日ヨリ四日迄ノ豫定ヲ以テ小湾嘉手納那覇
名派遣隊及那覇市ニ出張ス
陸軍上等兵 山堀敏治
〃 二等兵 坂本基一
〃 〃 山田兼則
右本職ニ隨行ヲ命ズ

命令日命
四、受領セル命令左ノ如シ
五〇飛大日命第四三號

[以下略]

⑧⑦—2 要塞建築勤務第六中隊陣中日誌（昭19・6・4、5）

自昭和十九年六月一日
至昭和十九年六月三十日
軍事秘密

陣中日誌

第三號

要塞建築勤務第六中隊

RS 77222
Cinepac-Cinepoa
B-13088
Okinawa 28 April 46
WDC # 5956

勤務命令作命

(ヘ)門脇ニ等兵以下三名ハ翼ヶ丘第三工區ニテ設定隊長ノ命令ニ基キ假鍛工場開設並ニ修理作業ニ從事セリ

進度 火造爐設置 鎹二イタ釘四製作十字鍬修理四丁

實働時間 一〇時間

(ト)中隊本部ハ上田曹長以下七名書類整理及連絡事務ニ從事セリ

四、週番下士官一、同上等兵一、中隊当番一、炊事五、測量助手一、救護所一

五、受領セル命令左ノ如シ

五〇飛大作命第 號外 口達

第五〇飛行場大隊命令 六月四日二〇、〇〇 伊江島兵舎

一、建築中隊長ハ所要ノ人員ヲ以テ可成速ニ假慰安所ノ設備ヲ実施スベシ

二、所要資材ニ関シテハ目下建築中ノ兵寮用材料ヲ一時轉用スルノ外副官ニ連絡スベシ

三、副官ハ建築中隊長ト協定シ前項作業ノ區署及資材ヲ

準備スベシ

命令 作命

六 作為セル命令左ノ如シ

要建六中作命第三號

要塞建築勤務第六中隊命令 六月四日 伊江島兵舎

一、中隊ハ明五日所命ノ家屋ニ假慰安所設備ヲ急造セントス

二、樋渡少尉ハ所要ノ兵力ヲ以テ前項作業ヲ實施スベシ

三、作業ノ細部並ニ主要材料ハ兵寮建築用材ノ轉用ヲナスト

共ニ不足ノ分ハ部隊副官ニ連絡スベシ

六月五日 晴天 伊江島

出場人員 將校三 准下士官九 兵三二七

小湾派遣 〃 一 〃 一 〃 五三

嘉手納分遣 〃 一 〃 二六

小那覇分遣 〃 二四

行動

一、中隊ハ前日作業續行ト共ニ假慰安所設備作業ヲ実施セリ

（昭一四・一〇・奉天大野治）

(イ)橋元伍長以下八七名ハ兵寮屋根葺及ビ假廚安所設備
作業ニ從事セリ
進度 兵寮屋根葺人員六三名茅及竹運搬屋根茅葺約五分
通リ進捗、假廚安所設備二四名天幕及ビ「産」ニ間住切
炊事場便所設備全完了
實働時間 九時間三〇分
(ロ)古瀬伍長以下四六名ハ翼ヶ丘第二工區ニ至リ線路補修
其他雜作業ヲ續行セリ
進度 軌條布設五三〇米同補修七〇〇米トロッコ修理一七台
連結板代用板一五三枚 スパイキ代用二八〇個製作湯呑
用杓子四個製作
實働時間 一〇時間
(ハ)重信伍長以下四八名ハ翼ヶ丘第二工區ニ至リトロッコ設備
其他雜作業ヲ續行セリ

小那覇分遣　〃　二四

行動

一、降雨ノ為舍内待機、其ノ後天候回復ノ為前日作業續行
左ノ各作業ヲ実施セリ

(イ)古瀬伍長以下四八名ハ翼ヶ丘第一工區ニ至リ線路補修
其他雜務ニ從事ス

進度　線路補修三〇〇米、トロッコ車輪修理八台、代用釘
一〇〇本、ブレーキ棒六本製作、鍛工場用天幕支柱及ビ
桁製作

實働時間　五時間

(ロ)重信伍長以下三九名ハ翼ヶ丘第二工區ニ至リ土工作業
ニ從事セリ

進度「トロッコ」ニヨル掘開土ノ搬送　五二立方米

實働時間　五時間

(ハ)橋元伍長以下五八名ハ兵寮建築ニ續行其ノ他雜作業

ニ從事ス

進度　六月五日急設ノ假慰安所ノ施設撤收及ビ兵寮ノ床板張リ四二、三五平方米屋根葺用茅ノ整理收場設備ノ爲、杭木伐採一間毎打入

實働時間　四時間三〇分

(二)松原上等兵以下七名ハ中隊器材庫ニテ器具手入其他雜務ニ從事ス

進度　鋼鉄、鍛鉄ノ選別整理後、大斧刃立六丁、釿刃立六丁、大山鋸目立七丁、補給中隊、警備中隊宿舍窓明ケ

(ホ)門脇ニ等兵外三名ハ翼ケ丘鍛工場ニ至リ設定隊器材修理ニ從事ス

進度　鑿台一、炭掻キ一、修理、大釘六本製作、爆破鑿(長四五糎)二、同上修理八本

(ヘ)中隊本部井久保軍曹以下七名ハ書類整理及諸連絡ニ

[以下略]

[中略]

⑱オルモック派遣隊現状報告［オルモック派遣隊長］（昭19・5・27）

昭和十九年五月二十七日

オルモック派遣隊長　東山達治

第三十一警備隊先任將校殿

オルモック派遣隊現状報告

一　隊員ノ状況

(一)現員

士官	警部	下士官	兵	警備員	合計
一	三	三（内一運転員）	三	七五	八五

(二)軍紀風紀

軍紀ハ嚴正ニシテ風紀ハ良好ニ保タレツヽアリ

(三)衛生状況

隊員一同元気旺盛ナルモ割合ニ受診患者多シ

第一次警備員受診患者

却幾一（軽業）　淋病一（執業）

（葉山）　（木村）

味噌醤油皆無ナルモ塩ヲ用フル為支出不自ナシ

(3) 居住関係

別ニ不自由ナシ航空隊兵舎(警備隊本部)ハ電灯及入浴室炊設備未完成ナルモ近ク完成スル見込入浴ハ附近「バウ」河ニテ水浴ヲ以テ之ニ代ヘツヽアリ

(4) 其他

(イ) 誤楽、現在ノ處皆無ニテ施設部ニ「ラヂオ」一アルノミナリ

(ロ) 慰安所指定食堂等陸軍関係ノモノモナシ「オルモツク」ニ賣笑婦十四五名アル由ナルモ全部有毒者ニテ立入禁止セリ

(ハ) 老地ニハ理髪店ナク「オルモツク」行カザレバ用ヲ達シ得ズ

刺刀ハ冬自持参シ居ルモ「バリカン」ナシ出来得レバ一二個送

(二) 日用品酒類、現地ニテ買入スルモノ殆トナシ、煙草、芥子、綿糸、綿布（被服修理布及銃器手入布）等送付致度

付願度

二、治安ノ状況

最近陸軍側ノ討伐頻繁ナルト、警備員ノ増加ニ依リ、稍々平穏トナリ、民心安定セルモノノ如シ

飛行場作業人夫モ四月三十日襲撃事件ヲ以テ急減一千三百余ノ人夫内三、四百名トナリシモ、五月七、八日頃ヨリ増加シ、現在一千数百名トナリ、工事モ順調ニ進渉シツヽアリ

五月五日以後発生セル其主要事件（海軍側ノミ）

五月六日飛行場作業場ニテ居留不審ニテ捕獲、調査ノ結果「ビリヤシン」匪「スパイ」ト判明、陸軍ニ移牒、五月八日陸軍ニテ刺殺

五月八日「バウ」河砂利採集場附近ニテ居留不審ニテ二名

海軍

〔以下略〕

⑲軍人倶樂部利用規定［中山警備隊（在広東）］（昭19・5）

昭和十九年五月

軍人倶樂部利用規定

改革日
真兵団

中山警備隊

（改表見明中統）

軍人倶樂部利用規定

第一章 總則

第一條 本規定ハ軍人倶樂部ノ利用ニ関シ必要ナル事項ヲ規定ス

第二條 本規定中第一軍人倶樂部ト稱スルハ食堂ヲ第二軍人倶樂部ト稱スルハ慰安所トス

第三條 部隊副官ハ軍人倶樂部ノ業務ヲ統轄監督指導シ円滑確実ナル運營ヲ爲スモノトス

第四條 部隊附醫官ハ軍人倶樂部ノ衛生施設及

衛生施設、実施状況並ニ家族、稼業婦使用人、保健、調理、献立等、衛生ニ関スル業務ヲ担任ス

第五條　部隊附主計官ハ軍人倶樂部ノ經理ニ関スル業務ヲ担任ス

第六條　第二軍人倶樂部ノ利用及分並ニ料金表別紙ノ如シ

第二章　第一軍人倶樂部

第七條　第一軍人倶樂部ニ於ケル飲食物ハ該營業

主ノ調理セルモノ及酒保品ニ限ル

第八條　左ノ者ハ軍人倶樂部ノ利用ヲ禁ス

ノ所定ノ服裝ヲナサヽル者

ロ第七條以外ノ飲食物ヲ携行セル者

ハ他人ニ迷惑ヲ及ホス者

第九條　第一軍人倶樂部ニ於テ宴會又ハ會食ヲ行ハントスルトキハ前日迄ニ副官ニ通報シ營業主ニ交渉スルモノトス

第十條　第一軍人倶樂部ニ於テ利用有器物ヲ破

相シタル場合ハ正當ノ價格ヲ支辨スルモノトス

第十條　第二軍人倶樂部ヨリ部隊其ノ他ノ場所ニ飲食物ノ搬出給仕婦ノ出張ヲ要求スルヲ許サス　但シ宴會其ノ他ノ理由ニヨリ之ヲ爲サントスル者ハ豫メ警備隊長ノ許可ヲ受クルモノトス

第十一條　第二軍人倶樂部ノ營業時間ハ一〇時ヨリ二四時ノ間トス

第三章　第二軍人倶樂部

第十二條　第二軍人倶樂部ニ於テ飲食スルコトヲ許サス

第四條　料金ハ現金先拂トス

第五條　婦女ノ出入ハ原則トシテ之ヲ許サス

第六條　左記ノ者ハ第二軍人倶樂部ノ利用ヲ禁ス

ノ許可時間以外ニ利用セントスル者

2 所定ノ服裝ヲ爲サヽル者

3 著シク酒氣ヲ帶ヒタル者

4 他ニ迷惑ヲ及ホス惧レアル者

5 第十七條以外ノ者及之ヲ同伴セル者

第七條　軍人倶樂部ノ利用ハ軍人軍屬ニ限ル但シ第一軍人倶樂部ノミ將校ノ同伴セル場合

ハ地方人ト雖モ之ヲ許可ス

第四章　雑件

第十八條　利用者ハ防諜ニ関シテ細心ノ注意ヲ拂フヘシ

第十九條　利用者ハ営業主、妓婦、施設其ノ他軍人、軍属、軍事ニ関シ不當ナルコト見聞セハ部隊副官ニ通報スルモノトス

第二十條　利用者ニシテ本規定ヲ遵守セサル者ハ直ニ利用ヲ禁止スルト共ニ爾後外出ヲ禁ス

第二軍人倶樂部利用時間表

名称／区別	兵	下士官軍屬	將校准士官
利用時間	自〇九三〇 至一五三〇	自一六〇〇 至二〇〇〇	二〇三〇以降 營業時間内

第二軍人倶樂部料金表

階級／料金	玉代			
区分	三〇分仕切	一時間仕切	後半夜仕切	終夜通シ
將校准士官軍屬	一一、〇〇	一七、〇〇	四〇、〇〇	後半夜仕切料金ト二十四時迄ノ時間花代ヲ加ヘシモノ
下士官	九、〇〇	[illegible]		
兵	六、〇〇	九、〇〇		

備考
本料金ハ備備券拂トス

自昭和十九年七月一日
至昭和十九年七月三十一日

第三魚雷艇隊戦時日誌

九月六日送付

第三魚雷艇隊

19.9.1 接受

［前略］

當魚雷艇ニハ医務科治療施設ハ無ク隊ノ基地ニ於テ設備シ現在當隊ニ於テハ民家ヲ借用シ居ルニ依リ治療施設ノ完備ハ不可能ナルモ其ノ民家ノ一部ヲ治療室及ビ事務室並ニ倉庫ト區劃シ使用シ居ル狀態

第二出征中ノ事項

(一) 醫務科員ノ異動　本期間中軍醫科士官着任ス

着任年月日	前所轄	職	官	氏	名	記事
九一七一一	横工廠	軍醫長	軍医中尉	濱本	英雄	

(二) 天候ノ概要並ニ気象衛生的影響

本期間中ニ於ケル釧路気候概況左表ノ如シ

最高気温　二四九度（前月ニ比シ〇八〇下降）

最低〃〃　九四〇度（前月ニ比シ六〇下降）

平均〃〃　一六四度（前月ニ比シ二六七下降）

(三) 月日前在及任務行動ノ概要

當釧路海濱附近ニ對潜警戒及整備訓練

(四) 出征中ニ於ケル治療品被服糧食飲料水其ノ他衛生ニ關係アル物品ニ關スル事項竝ニ搭載補給ノ概要

(イ) 治療品ニ於テハ主トシテ横病藥劑又ハ大湊病藥劑部ヨリ

(ロ) 被服糧食ニ於テハ大湊海軍々需部ヨリ

(ハ) 生糧品ニ於テハ當地指定所ヨリ補給シ居レリ

(五) 醫務科 治療施設 新設改造ノ概要 略

(六) 出征中ノ衛生狀況

(イ) 受診患者ノ狀況

本期間中ニ於ケル患者實數三名患者延數三一名平病一名外傷二名ナリ

(ロ) 傳染病流行病一時ニ多発セル傷病ノ概要 無

(七) 被服防寒防熱換気入浴等ノ衛生ニ關スル事項

當隊主計科ニ於テハ被服防寒衣半長靴等貸與現在兵舍ノ新設無キモ換氣入浴等モ適当良好ニ行ナワレ居レリ

(八)寄泊地舍營地占領地ノ衛生概況

現在釧路市ニ於ケル傳染病患者ハ腸チブス三名發疹チブス二名有リ市立避病院ニ隔離ス現在ハ多發流行病ナリ七月七日ヨリ一週間ニ亘リ市役所衛生課ニ於テ各工場學校市民ニ對シチブス予防注射ヲ施行セリ

(九)防疫傷病防止ノ他保健ニ関スル事項

(イ)七月十九日 月例健康檢査施行(発見患者ナシ)

(ロ)七月二十日海軍指定食堂及當市遊廊ヲ視察点檢シ洗滌室ノ完備其ノ他衛生状況良好ト認ムル所六軒ヲ指定シ兵員ノ慰安所トシ七月二十八日總員ニ對シ衛生講話ヲ行ニ一般衛生ニ関スル諸注意事項ヲ達シ傳染病及性病患者ノ發生防止ヲ計

[以下略]

(91)—1 石兵團會報第五四號(昭19・9・14)

秘

昭和十九年度

(六二部隊)

石兵團會報綴

球一五五七六部隊

Batch No 186 Item 4
Class "B"
Found by 96th CIC Det.
at 18175 W
26-4-45

WDCH
72094

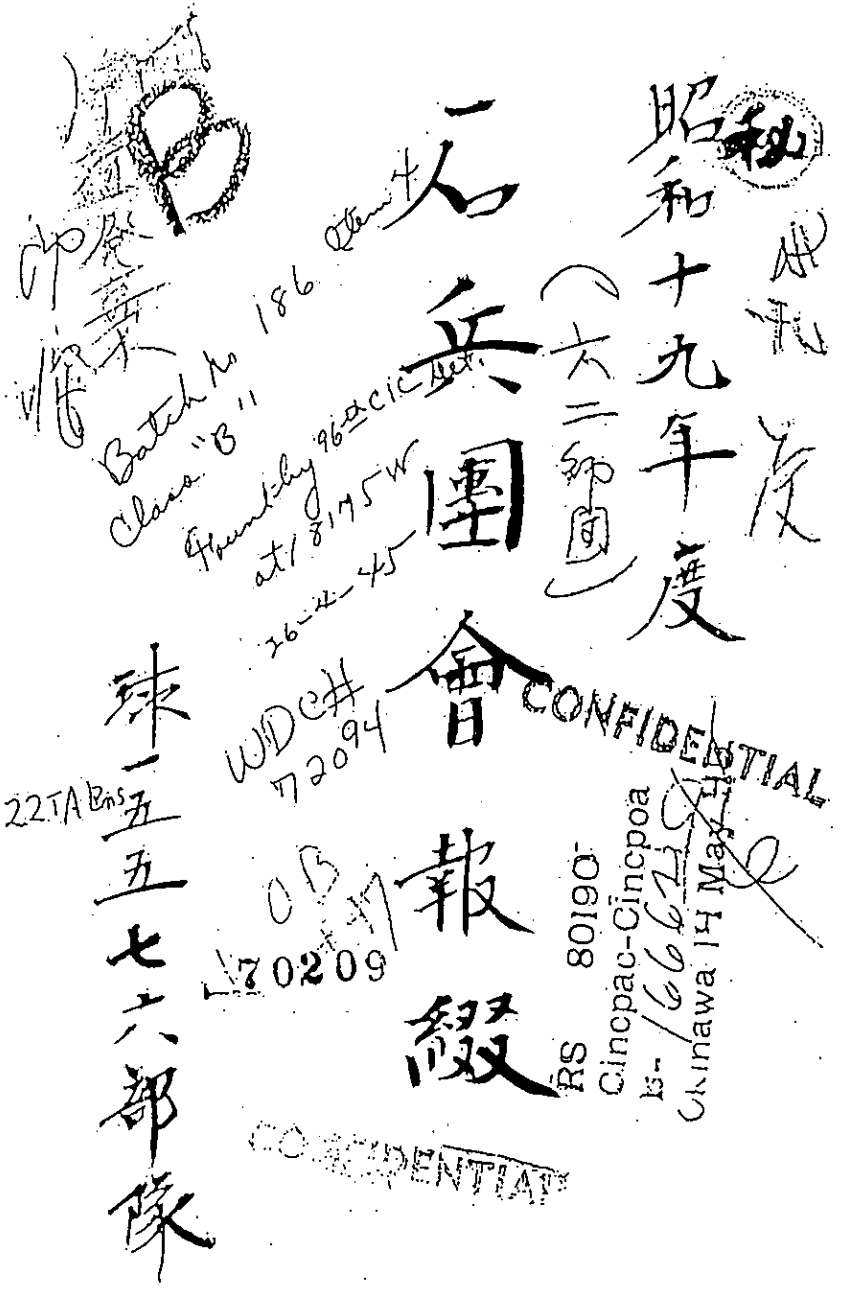
22TA Bns

OB
70209

CONFIDENTIAL

RS 80190
Cincpac-Cincpoa
B-16662
Okinawa 14 May 44

CONFIDENTIAL



第五四號

石兵團會報

九月十四日一八〇〇

仲間

一 原職檢事ノモノノ有無ヲ調査ノ上 十六日正午迄ニ報告ノコト

二 外出ニ關シ左ノ如ク實施ノコト

1 下士官兵ノ延刻外出ハ許可セザルコト

2 旅團毎ニ基ノ防衛區域ヲ外出區域トシ外出日其ノ他適宜旅團ニテ統制ノコト

3 直轄部隊ノ外出區域及外出日ハ別紙ノ如シ（外出許可ノ時期ハ別ニ承ス）

4 慰安所ノ價格ハ左ノ如ク暫定ス

一時間　二十三時以降翌日朝迄

兵　四〇〇　將校　一五〇〇

下士官　五〇〇　佐官　二〇〇〇

將校　六〇〇　（本價格ニハ十二割ノ税ヲ含ム）

5 取敢ヘス當分ノ間馴致ノ爲切符制トシ慰安婦一人ニ對シ兵二枚

下士官一枚　将校一枚ト概定

㈥各部隊ハ師團旅團ノ統制ノ許ニ外出ヲ許可スルコトヲ得

㈢各部隊ニ於テ要修ノ理兵器及部品材料ノ必要ヲ生ジタル場合ハ發ヲ先セス速カニ兵器部ニ電話等ヲ以テ連絡處置シ常ニ兵器整備ノ完璧ヲ期スル如ク努メラレ度

㈣最近石第三五九二部隊ニ於テ乘馬ノ騒擾ニ際シ乘馬着ノ佩刀ヨリ刀身抜ケ落チ其ノ刀尖ヲ以テ乘馬ニ腸露脱ニ至ル傷害ヲ與ヘ遂ニ斃死セシメタル事例アリ

本件ニ關シテハ兵團編成以來三件ノ前例アリ　自今乘馬セントスル者刀本分者ハ其ノ鯉口ノ故障有無ニ就キ特ニ注意セラレ度

㈤石第三五九六部隊ニ於テ過勞ニ基ク起立不能(腰痿)馬ヲ發生ス馬數僅少ナルヲ以テ或ハ乘用トシ或ハ駄載鞍曳等各般ノ用役ニ之ヲ用ヰルハ止ムヲ得ザルモ　此ノ際過勞ニ陷ラシメザル様特ニ注意セラレ度

第五六號

石兵團會報

九月十七日一六〇〇
仲間

一 九月二十三日靖國神社合祀申請書記ノ集合教育ヲ兒〇〇ヨリ九月二五日〇九〇〇ヨリ司令部位置ニテ機密掛將校（下士官）ノ集合教育ヲ行フニ付區處部隊モ出席差支ナシ

二 九月下旬ヨリ十月初旬ニ亘リ考科表調製官（准士官以下ノ調製官）ニ對シ考科表記載法ノ教育ヲ行ハシメラルヽ豫定ニ付考科表ニ關シ質疑事項有無ヲ九月廿五日迄ニ筆記提出セラレ度

三 戰時名簿ノ點檢ハ下士官以上ニハ點檢セシムルコト、記載洩シ誤記等ハ本人ニ各ヨリ知得シアリ本人ニ點檢セシメタル際ハ月日ヲ記入捺印セシムルコト

四 石第三五九四部隊ニテ爆破作業ニ方リ重傷者ヲ生ジタリ各隊ハ左記事項注意ノ上遺漏ナキヲ期セラレ度

（後次人員）

| 隊長副官 | 兵事 | 日誌 | 副官 | 副官 | 副官 | 庶務 | 庶務 | 庶務 | 會計 | 會計 | 會計 | 衛生 | 衛生 | 衛生 | 獸醫 | 獸醫 | 獸醫

狀況下ニアラザル時ハ右爆破教範ノ各條項中必要事項ハ必ズ守ルモノトス

五 在仲間後方施設ヲ左ノ如ク稱呼シ九月二十日ヨリ營業ヲ開始ス

所在地	名稱	所在地	名稱	所在地	名稱
安波茶	見晴亭	經塚	觀月亭	安波茶	軍人會館

又司令部及直轄部隊ニ外出ハ二十日ヨリ實施ノコト

六 巡察報告中左ノ如キ事例アリ各隊ハ嚴ニ監督指導セラレ度

七 各部隊ハ慰安所開設ニ當リ左記事項ヲ速ニ報告セラレ度（自後變更アルトキハ常ニ書ニ付テ其旨報告）

左記

1 後方施設擔任委員名（委員全員ヲ報告スルニ及ベス庶務掛ヘミニテ可）

2 營業開始月日

3 經營場所（經營場所ハ現在所ノ外ニ參謀決旧○○旅館跡又ハ民家等ノ如ク附記セラレ度）

4 經營者長名

5 妓女數

6 經營内規等アラハ其ノ寫

八 本輪送間ノ紛失荷物別紙(各大隊迄)ヲ配布ス各部隊調査ノ上心當リアラハ通報セラレ度

配布先 各中隊迄 各部班

第五七號

石兵團會報

九月十九日一六〇〇
仲間

一 十九日更ニ工兵隊ニテ作業中落盤ヨリ胸部打撲傷ヲ受ケ重傷者一名ヲ生ジタリ（枠ガ落盤ニ堪ヘ得ス爲ニ負傷ス）各隊ハ枠ヲ組ミタル後作業ヲ進捗セシムル如ク注意ノコト
又枠ハ土質ニ應ズル如ク作成ノコト

二 巡察報告ニ依レバ左ノ如キ事項アリ各隊注意ノコト
〃 兵舍附近ニテ無帽ニテ出居ル者多シ特ニ日没後ニ多シ
之石第三五九ニ部隊歩兵砲中隊平田一等兵同谷等兵ハ棚原ニ於テ其ノ指揮ニアリタル荷馬車ニ乗込ミ且掌握不確實ナリ

三 石兵團會報第五六號ノ軍人會館ノ營業開始日ヲ九月二十日トアルヲ九月二十五日ト變更ス

91-4 石兵團會報第五八號（昭19・9・21）

第五八號

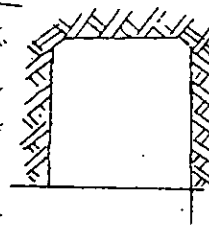
石兵團會報

三浦

九月二十一日一〇〇〇
仲間

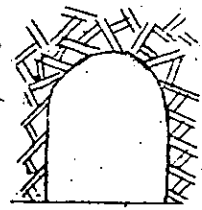
一 事務上ノ過失ガ近來頻發スルニ付各部隊司令部各部副官庶務將校ハ業務手簿ヲ作リ遺漏ナキヲ期スルコト

二 爆破作業中ハ附近ノ兵ハ鐵帽ヲ使用ノコト又掩蔽部掘開ニ方リ將來框ヲ入ルヽヲ豫想シテ左ノ如ク爲シアルハ注意ヲ要ス



危險ナリ

框ヲ入レザル時ハ左ノ如ク掘開スルヲ可トス



穹窿型トスルコト
將來框ヲ入レル際ハ右圖ノ如ク隅角ヲ削リ取ルモノトス
又框ヲ入レタル際ハ頂板上ニ空隙ヲ生ゼザル如クスルコト

三 後方施設ニ就キ左ノ件注意セラレ度

1 税金額ハ營業者ヲシテ貯金ノ方法ニテ保存セシメ他日税額決定ノ
折ハ適宜ノ處置ヲ取リ得ル如クスルコト
2 檢徴ニ方リテハ妓女ニ不快ノ感ヲ與フルガ如キコトナキコト 某兵團ニハ
妓女ノ顏ト局部ヲ見ツヽ爲セルモノアリ
3 經營者ト妓女トノ關係ヲ調査シ 分娩前等ヲ研究シ遺漏ナキ如クセ
ラレ度
4 他兵團方面ニテハ國民學校兒童ガノゾキ見風敎上不可ナルモノアリノゾケ
ザル如ク施設セラレ度
5 風敎上妓女ヲシテ附近ヲ猥リニ散策セシメザル如ク村民ヨリ申出アリ
場所ニヨリテハ注意セラレ度
6 妓女等ガ那覇ニ時折歸リ度キ希望アリ然ルトキハ便アラバ證明
書ヲ委員ニ於テ發行シ自動貨車等ヲ利用セシメラレ度
然ル時ハ助手合ニ乘セヌコト
7 妓女ハ煙草ニ苦シミアル旨申出アリ出來得レバ便宜ヲ與ヘラレ度

ヨ二十八日以降ハ切符ヲ更ニ兵一下士官一ヲ増加差支ヘナシ
ヲ配當外出出來得ザル時ハ少ナクモ前日正午迄屆出ノコト
無屆ニテ當日ヲ使用セザルニ至リタル部隊ニハ後方施設ノ使用ヲ
禁止セシムルコト

四 下士官中ニ陸軍刑法第二十二條ノ軍事緊急行爲ト第四十六條ノ部
下多衆犯不鎮定ノ解釋ヲ誤リアルモノアリ(狀況口達)
教育ヲ要ス

五 別紙ノ如キ通牒アリタリ各部隊ハ心當リノ有無ヲ二十五日迄ニ覺書
ニテ可ナルニ付報告ノコト

六 當部ヨリ發行スル辞令ニシテ未ダ交付ヲ受ケザル者アラバ調査ノ上
所屬部隊發令月日官氏名ヲ九月末迄ニ通報セラレ度

七 各部隊ニテ捜査處分ニ附スベキ事件發生セル時ハ司法警察官吏
ノ職務ノ執行スベキモノハ陸訓第二十七號陸軍司法警察執務心得ヲ
熟讀ノ上執務ノコト捜査事件ノ處理ニ付檢察官ニ送致スベキヤ
長官ニ捜査報告スベキハ第五章ニ明カニシテ各調査ニハ署名スベキ旨記

〔以下略〕

［中略］

第六二號

石兵團會報

九月二十八日 浦添國民學校

一 二十六日午前飛行場ノ作業中石第三五九三部隊ノ兵一爆破實施中ニ負傷セリ各隊ハ遺漏ナカルベキモ兵團會報第五六號四ノ爆破軍紀ノ確立ニ八一段ノ注意ヲ拂フコト

二 某隊ニテ六月二十五日新鄭患者療養所ニ於テ死亡セル兵ノ速報電報ヲ九月二十五日ニ當部ニテ受領セリ調査セルニ遺骨還送名簿ニナシカル事務上ノ粗漏ト謂フベシ當部ニテハ死没者ノ連名簿ヲ作製シ處理シアリ各隊モ之ニ準スルモノヲ作製シ整理シカルルコトナキ樣嚴ニ注意セラレ度



七 後方施設ニ就キ

イ 「サック」ノ支給ヲ適切ニシ不足ナキ如クセラレ度

ロ 燈火材料ノ配給ハ注意セラレ度 又燈火管制ハ軍施設ナルヲ以テ免ルヽコト能ザルモノナルヲ以テ注意ノコト

ハ 經營者ト妓セトノ關係ヲ具體的ニ調査シ次期會報時鉛筆書ニテ可ナルニ付報告ノコト

ニ 外出者中水筒ニ酒ヲ入レテ携行シ登樓飲酒スル者アリカヽルモノヲ發見セル其ノ部隊ニ使用禁止ヲセシメラレ度

ホ 兵中切符ナクシテ慰安所ニ至ルモノ及切符ヲ見セルコトナク各室ヲ覗キ廻ルモノアリ爾今使用時間ヲ十二時三十分ヨリ概ネ指定スルコト又切符ハ張場ニ直チニ提示スル如ク指導ノコト

配布先 中隊迄 各部班

第六四號

石兵團會報

十月二日一六〇〇
浦添國民學校

一 自今申告書ハ端書（端書ナキトキハ端書ノ形式ニテ用紙隨意）ニテ提出ノコト

二 各部隊現地自活用仔豚ノ飼育ハ遂次開始セラレアルモ沖繩縣ハ豚ノ傳染病濃厚常在地ニシテ豫防注射ヲセザレバ全滅スルコトアリ 依テ巡回豫防注射實施上必要ナルニ付各部隊ハ仔豚購入ノ都度其ノ頭數購入町村名ヲ獸醫部ニ通報ノコト

三 那覇開南中學校ニ開設中ノ陸軍病院ハ沖繩陸軍病院ニシテ那覇陸軍病院ニアラザルニ付承知ノコト

四 巡察報告中左ノ如キモノアリ

一 ノ石第四二八四部隊秋津隊林兵長曾加上等兵ハ九月二十八日外出證ヲ所持セズ外出シ理髮店ニ立入リアリタリ

2 各隊共出入口ハ亂雜ニシテ泥靴跡多シ（九月十六日石第四二八四部隊）

3 石第三五九二部隊 陸軍上等兵田中清ハ公用證ヲ所持セスシテ九月二十九日築城材料ヲ運搬シアルハ不可ナリ

4 部隊號ノ標識ヲ附セザル兵多シ（九月二十六日）

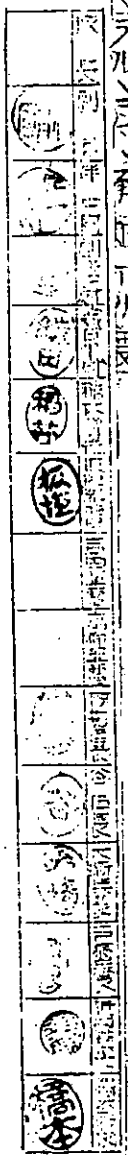
5 巡察懸章ヲ附シアル巡察官ヲ見テ道路上ヨリ急ニ穩敵セル者アリ（九月二十六日）

6 石第三五九七部隊柴橋小隊ハ九月二十六日西原糧秣輸送ノ歸途西原ー翁長道ニ於テ轉覆セル山部隊ノ自動貨車ノ引上ゲ作業ニ全員協力三十分後之ガ引上ゲ作業ヲ完了セリ

小隊長以下終始一貫徹底シテ援助セル行爲ハ可ナリ

五 衛生「ヲク」ハ後方施設担任部隊ニ一括交付シ直接慰安所ニ備

一 付ラルヽニ付承[illegible]アリ[illegible]



將校 1 2 3 4 5 6 7

下士官 1 2 3 4 5 6 7

第七四號

石兵團會報

十月十九日一二〇〇
浦添國民學校

一、野外ニ於ケル射撃ハ危險ヲ伴フヲ以テ諸兵射撃教範第四部第二節ノ實施ヲ確實ニシ危害豫防ニ注意セラレ度特ニ地方官憲ト連絡シ部外者ニ危險ヲ及ボサザルコトニ注意事

二、石第三五九六部隊地區内ニアル徐行敬禮ノ標示ハ兵團ハ何等開與シアルモノニアラズ念ノ爲

三、過般靖國神社合祀名簿ノ記載要領ニ關シ主任書記ヲ集合セシメ懇切丁寧ニ手ヲトル如ク教育セシメカヽハラズ石第三五九三部隊ノ如キハ殆ト盡クガ不備ナリ近來提出セラルヽ書類ハ規則規定ニ準據セズ慣例常識ニヨルト思ハルヽ節ナキニアラズ各隊ハカカリコトナキ様嚴ニ注意ノコト靖國神社合祀名簿ハ石第三五九二部隊ハ名簿十五通中脱字一字ナミナリシハ最近異色アル好成績ナリ

[中略]

禁ジアルヲ聞キタルカト尋又ルモ聞キタルコトナシト答ヘタリ

12. 石第四三八二部隊(島袋)陣地構築材料監視 大内一等兵態度厳正好則ヲ理解シアリテ良好ナリ(十月十六日)

14 島袋兵器部ノ火薬庫ハ茅屋ニシテ戸モナク倉庫内ニハ爆破用火薬ト共ニ乾草ヲ置キ其ノ側ニ天幕[illegible]シアリ又監視兵ヲ附シアラズ 危険ニシテ不可ナリ(十月十六日)

15 石第三五九九部隊衛兵司令 市川上等兵以下態度厳正ニシテ良ノ任務ヲ理解シ熱心ニ服務シアリテ良好ナリ(十月十五日)

16 軍醫部ノ公用兵谷岡一等兵(石第三五九四部隊)ハ公用證ヲ持参スルモ無帯剣ニテ仲間村内ヲ歩行シアリ(十月十五日)

17 球第一〇二九〇部隊松尾隊北住上等兵ハ散髪屋ノ歸ヘリト稱シ地下足袋ノ「コハゼ」ヲカケス階級章モ附セズ歩行シアリ(十月十五日)

18 石第三五九五部隊谷川隊彈薬庫ハ茅屋ニシテ破損大ナリ 雨天ノ際等ヲ考慮セバ適當ナラス(十月十五日)

19 安波茶西方約二〇〇米附近ニ部隊使用ノ馬車ニシテ監視者ナキタメ長時間道路上ニ停止休憩シ道路ヲ閉鎖シアルモアリ注意ヲ要ス

20 石第四二八七部隊ノ兵舎内外ノ清潔整頓ハ良好ナリ

21 石第一八八一部隊兵器部勤務ハ（石第四二八三部隊平井隊）ノ兵ノ敬禮ハ嚴正ニシテ良好ナリ

十 後方施設ニ就キ

1 兵團會報第六ニ號ニ注意セラレアル所ナルモ未ダ兵ニシテ切符ヲ見セルコトナク各室ヲ覗キ或ハ妓女ノ手ヲ握リ强要スル者アリ又夜間切符ヲ持ノズシテ張場ニ至リ断ラルヽヤ投石シ暴行ヲナスモノアリ斯ルコトナキ様注意ノコト

2 兵團會報第六號ニテ経營者ト妓女トノ關係ヲ調査報告ノコトトアルモ未ダ提出セザル部隊アリ速ケニ提出ノコト

又経營者ト妓女トノ分前ハ今後七分（妓女）三分（経營者）トシ[illegible]ノ経費ハ全部経營者ノ負担トス但シ以前ヨリ現在ノ経營者ト妓女トノ關係ニアルモノハコノ限リニ非ズ

［以下略］

[中略]

⑨1—8 石兵團會報第七九號（昭19・10・26）

第七九號

石兵團會報

十月二十六日一六〇〇
浦添國民學校

一、司令部彈藥庫（表門衛兵所附近）ニ二十五日〇六ニ〇頃約ニ米ノ金「バブ」一ガ彈藥庫内ニ入ラントスルヲ捕獲セリ
「バブ」冬眠ノ準備トシテ倉庫等ニ入ルニ非スヤト思料セラルニ付各隊ハ注意ノコト
住民ノ言ニ依レバ「バブ」ハ硫黄ヲ嫌フヲ以テ洞穴ノ如キニ硫黄ヲ燃ス時ハ數ケ月「バブ」來ラザル由

二、遺骨ハ昨二十五日司令部ニ於テ兵團長以下幕僚部長告別ノ後球部隊本部ニ安置セリ　遺留品ハ追ツテ示ス時機近各部隊保管ノ事

三、質疑事項ハ一件一葉トスル如ク先ニ指示シアルモ未タ數件ヲ一葉トスル向キアリ一件一葉ヲ嚴守セラレ度

四、過般行ヒタル將校特別補充上申者ノ昭和十九年度考科表

八 後方施設ニ就キ

イ 慰安所ノ切符ノ月日及時間等ヲ故意ニ訂正シテ持參スルモノ

一人ニテ四枚ノ切符ヲ持參スルモノ 翌朝ヒロロ頃來ルモノ

准尉ニシテ切符ナクシテノ飲酒泥醉シテ登樓シ張場又ハ妓女

ヲ部屋ニ寢轉ヒ無理ヲ强要スルモノアリ（二十四日石第四二八三部隊）

月日時間ヲ訂正セルモノハ無効トシ切符餘リタル際ハ速カニ委員

ニ返納シカヽルコトナキ如クセラレ度

配布先 中隊迄各部班

㉑-9 石兵團會報第八四號（昭19・11・12）

將校下士官

第八四號

石兵團會報

十一月十二日 二〇〇

浦添國民學校

一、洞窟用丸太ハ近時船舶ノ増加配當ニヨリ概ネ順調ニ入荷シツヽアリ揚陸場ニ於ケル迅速處理ヲ圖リ輸送回数ノ増加ヲ圖リ度キニ付各部隊ニ於テハ交付指示ヲ承知セバ可及的速カニ受領手配セラレ度

二、空襲時那覇ヨリノ避難民ニヨル農作物ノ被害ハ農民ニ對シ生産意欲ニ相當ノ影響ヲ與ヘコレガ減退ヲ來シアルノ現況ナリ

延ノテハ軍所要供出農産物ノ供出減ノ口實ヲ與フル原因トナルベキヲ以テ農作物ノ愛護觀念ノ強調ニ關シテハ軍民ヲ問ハズ指導セラレ度

三、陣地工事ノ為公共物ヲ何等連絡交渉モセズ無断使用セル向キアル由ナルモ材料ノ取得ニ關シテハ幹部ニ於テ現地現物ニ於テ的確ナル指示ヲ與ヘ又事前ノ連絡ヲ密ニシ紛議非難等ナキ如ク處理セラレ度

例ハ某部隊兵ハ某請負師ノ採集シアル砕石ヲ工事ニ使用シアリテ之ガ非ヲ注意セル所將校ノ令令ニヨルモノナリト稱シ工事ニ使用セリ

2 某部隊ハ無断排水溝ノ石垣ヲ崩シ採石シ二事ニ使用ス

四 蘇鐵ヲ稍ニ無亂ノ程度ニ切倒シ又ハ偽装等ニ相當使用シアル狀況ナルモ軍ハ年産二十八萬貫ヲ目標トシ蘇鐵澱粉ヲ採取計畫中ナリ 蘇鐵ハ軍現地自活上相當重要ナルモノニ付一般ニ注意シ必要以外ニ切取ル等ノコトナク愛護ノコト

五 各隊ハ空爆ニ依リ避難シ來リ慰安婦トシテ新ニ採用シアル者ニシテ既ニ球軍ト慰安婦トシテ契約シアルモノアラバ調査ノ上

十月十四日迄左記様式ニ依リ報告ノコト

左記

元住所	元屋號	氏名	年令	摘要

六 巡察報告中次ノ如キ事項アリ

1 石第三五九九部隊衛兵司令花房伍長以下ノ服務ハ服装態度共ニ嚴正ニシテ良好ナリ（十月四日）

第九〇號

石兵團會報

十二月四日一大〇〇
浦添國民學校

十二月二日早朝牧港附近道路上(宮城)ニ於テ左記物品ヲ拾得セリ目下石第三五九五部隊ニテ保管シアルニ付心當リアラバ該隊ニ連絡セラレ度

左記

1 腰吊圖囊 一個

2 收入品

イ 現金 貳百參拾圓六拾八錢

ロ 辻菜ト刻スル印鑑 一個

ハ 新潮社文庫 一冊(大町辻少尉ト記入サレアリ)

慰安所ニ關シ左ノ如ク改定スルニ付各部隊ハ適宜實施セラレ度

ハ石兵團會報第五四號二ノ4ノ慰安所ノ料金ヲ十二月五日ヨリ左ノ如ク改ム

一時間 半夜 一夜

兵 二、五〇

下士官 三、〇〇 將校及 一〇、〇〇 二五、〇〇
(三、六〇) 准士官 (一二、〇〇) (三〇、〇〇)

將校准士官 五、〇〇
(六、〇〇)

(一)内ハ藝妓又ハ特ニ他府縣ヨリ招致セル者トシ前半夜ニ引續キ後半夜ニ亘ル時ハ其ノ差額ヲ支拂フモノトス即ノ後半夜ニ亘ル時ハ十五圓ヲ更ニ支拂ヒ合計二十五圓トナル

2 慰安所使用時刻ハ兵ハ夕食時限一時間前迄下士官ハ點呼時限一時間前迄トシ開始時間ヲ更ニ操上グル如クスルコト

3 石兵團會報第五八號第三項ノ〇ハ十二月五日以降廢止 免税トナル豫定
從來ノ税額トシテ保存セシメアルモノハ別ニ示スモ慰安婦ノ收入ニ歸スル如クナル豫定

4 切符制ハ依然存置シ其ノ枚数ハ適宜各地區安ニ定ムルコト

5 仲間ニ第三慰安所(旧軍醫部跡)ヲ設ケ十二月五日ヨリ營業ヲ開始ス使用日割ハ仲間慰安所内規ニ依ルモ切符ハ發行セズ價格ハ〇ノ(一)内ニヨルモトス

㉑—11石兵團會報第一〇一號（昭19・12・28）

第一〇一號

石兵團會報

十二月二十八日一六〇

浦添國民學校

一、内務令二三六ノ入退院患者ノ身上其他所要事項ノ通報ノ勵行ヲ確實ニシ以テ患者ノ軍紀風紀ノ取締ヲ容易確實ナラシメ退院患者ノ離隊逃亡等ノ事故發生ノ防止ニ努メラレ度

二、初年次兵ノ離隊跡ヲ絶タザルニ付各隊ハ指導ヲ嚴ニシカヽル事故ノ絶無ヲ期セラレ度　初年次兵中ニハ軍隊生活ト他ノ出稼奉公ト同一視シ、又ソレニ近キ考ヲ有スルモノ防犯資料ニアル如ク絶無ニアラズ　精神要素涵養ノ參考トセラレ度

三、某隊ニテ内務ニ關スル規定ニ將校ノ宿舍ヲ將校官舍ト記シアルモ將校官舍ノ思想ハ適當ナラズ　宿舍ノ義トスベシ　又將校ハ兵團ノ現況ニ於テハ部隊ト同居スルヲ建前トス

四、留守業務規定ニ基ク遺髮遺書ノ整備要領ニ關シ於テ起案中ナルヲ以テ近ク通牒セラルベシ　遺髮ハ丸刈一回

ニ付今ヨリ準備シ置カレ度

五 十二月三十七日石師副人恩第三三號ニ依リ入院患者ニ對スル傷ヲ等差ニ關シ隷下各部隊宛ニ通牒セシモ也ガ内容ハ中隊幹部ニ至ル迄承知セシムルト共ニ爾後ニ於ケル業務處理ニ關シ關係諸官ノ指導ヲ適切ナラシメラレ度（幹部ハ必ズ閲讀シ置クコト）

六 大政翼贊會廣島支部ヨリ皇軍感謝決議文ヲ送付セラレタリ、

七 軍會報中必要事項左ノ如シ特ニ憲兵隊申出ノ地方人ノ通信ニ現レタル事項等ハ兵團ニハ絶無ナラシム如ク各部隊ハ嚴ニ注意シ且〇〇後點檢スルコト

1. 九月以降軍内ニ於テ火災ヲ生ゼシ事件八件アリ、一ニ幹部ノ監督取締リノ不徹底ト取扱者ノ不始末ニヨルモノナリ、火災事件ニ關シテハ上司ニ於テ重要視シアリテ責任者ハ夫々處罰セラレアリ 火災ノ多キ時期ニ入リタルヲ以テ各隊ハ注意ノコト

2. 軍内某慰安所ニ於テ飲酒ノ上帳場ニ於テ睡眠シ財布ヲ拔カレタル

事件アリ、遊興ニ於テモ規定ヲ嚴守シ規定外ノ場所等ニテ遊興睡眠等セザル如ク特ニ注意セラレ度

3 軍内ニテ最近飲酒ノ上慰安所ニ於テ暴行ヲナス者アリト、慰安所ニ於テ面白ク遊ブ如クセラレ度、古語ニモ「遊ブ時ニハ馬鹿ニナレ」ト言ヒアリ

4 軍編成以来飲酒ニヨル犯罪多キニ鑑ミ、年末年始ニ於ケル此ノ種犯罪ノ防止ニ努メラレ度（法務部）

5 最近各隊、各所ニ於テ檢徴ヲ實施シ此レニ要スル藥品ヲ軍醫部ニ請求スル向アルモ此ノ種藥品ハ入手困難ナル現況ニ付最寄部隊協定ノ上一括實施セラレ度（軍醫部）

6 今後入院スル患者ハ個人裝備ノ兵器ヲ持參セシムルノ要ナシ陸軍病院用トシテ兵器ヲ交付セラレタルニヨル（陸軍病院）石兵團會報第四二號第九項ノ2巻ノ照

7 憲兵隊ノ申出ニ左記要注意事象アリ

イ、盗難事件頻發シアリ特ニ自動車部品等ノ窃盗多キ[illegible]車所有部隊ハ注意セラレ度、海軍側ニ於テ[illegible]

［以下略］

⑨② 沖縄真志喜警備中隊陣中日誌（昭19・11・7～12・16）

昭和19.10.1～20.3.26
沖縄真志喜警備中隊陣中日誌
62D.13ibs.3co
(52)

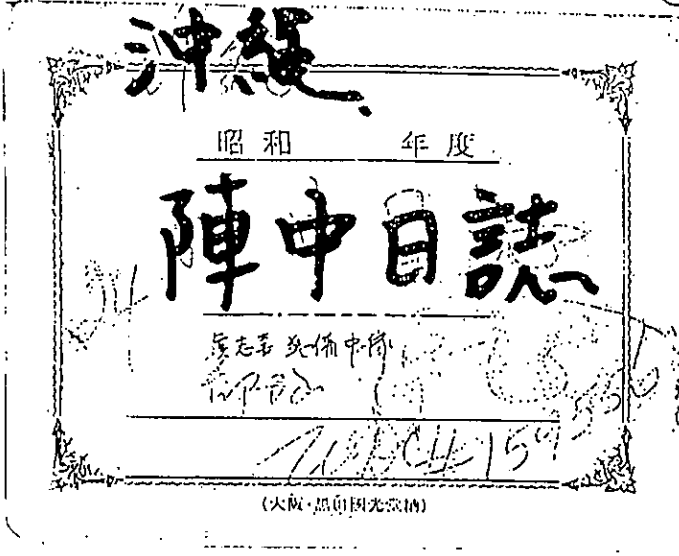
沖縄

昭和　　年度

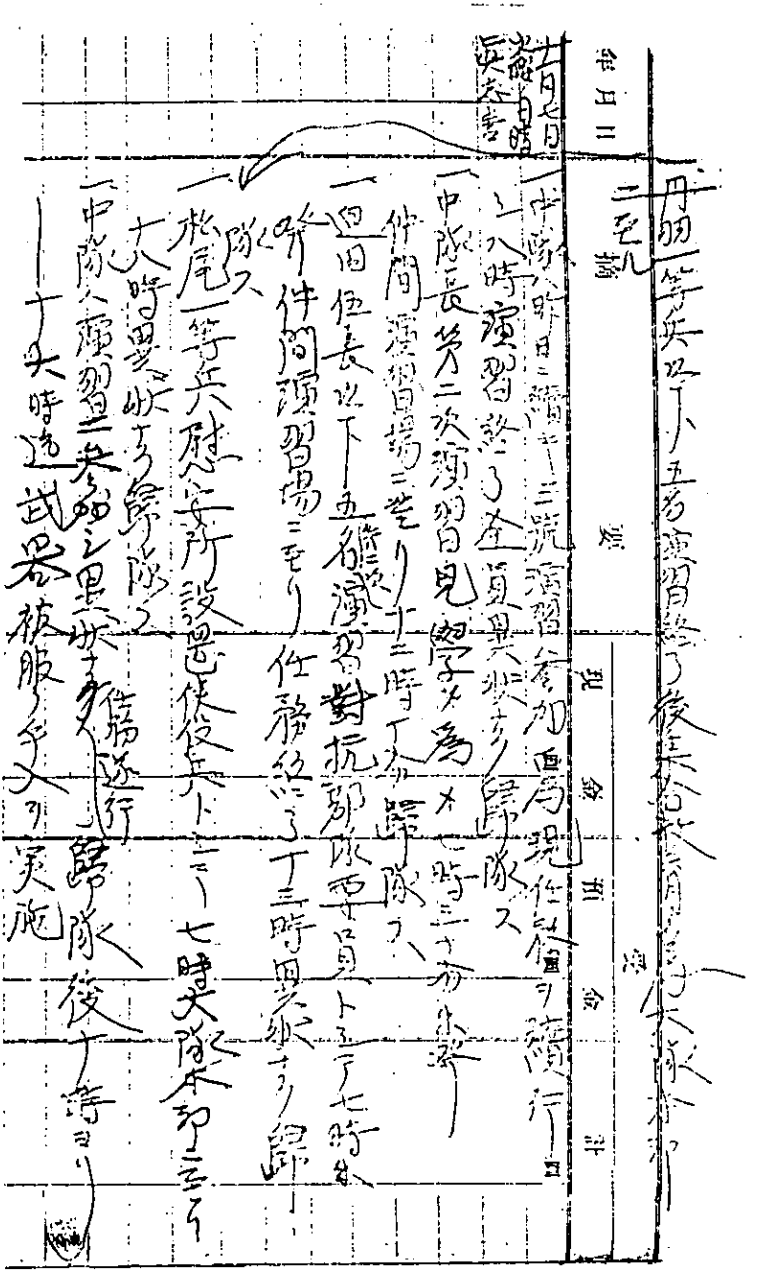
陣中日誌

真志喜 警備中隊

(大阪・黒田図光堂納)



沖縄
沖縄
115



一勤務

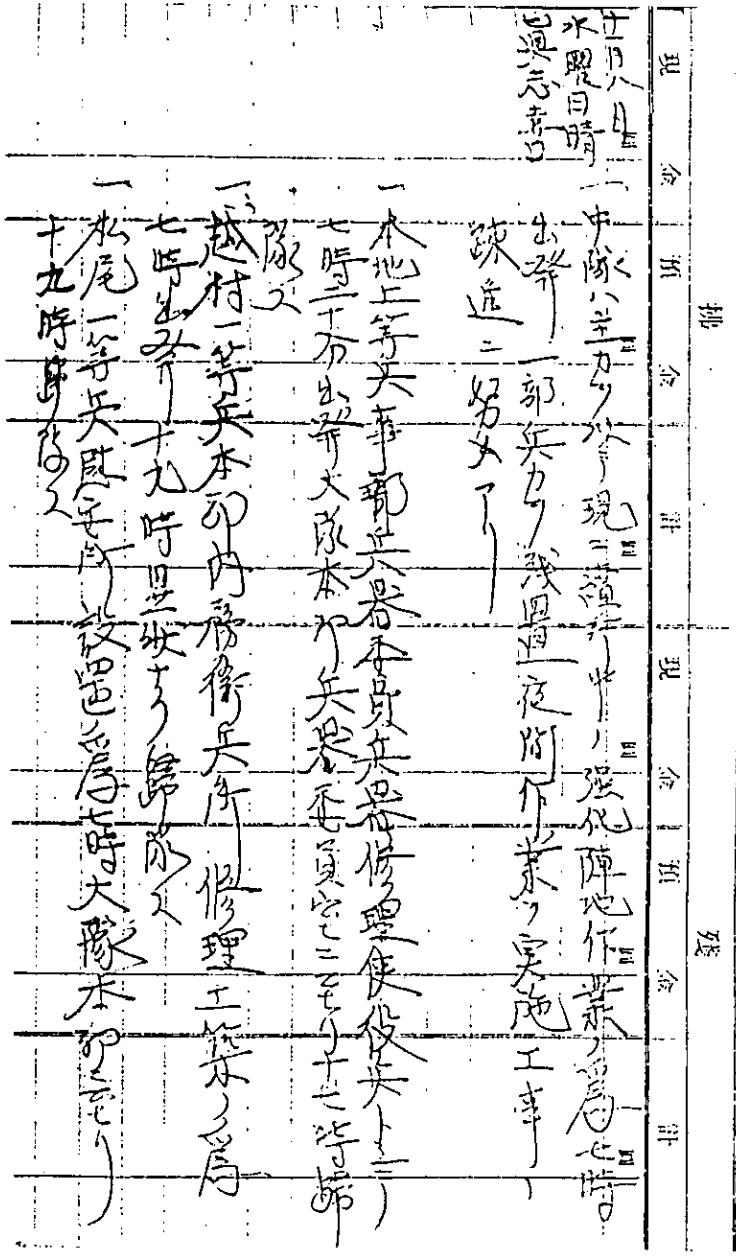
一部隊日直副官トシテ成日長服勤ス

一日直士官　林少ノ

衛生　持記事復ス

現員　將校五下士官兵六九

命令　別紙ノ如シ



[中略]

勤務

一、日直士官　井上少尉

一、内務衛兵　随日兵長以下二名

一、翠薬倉衛兵　前日兵長以下九名

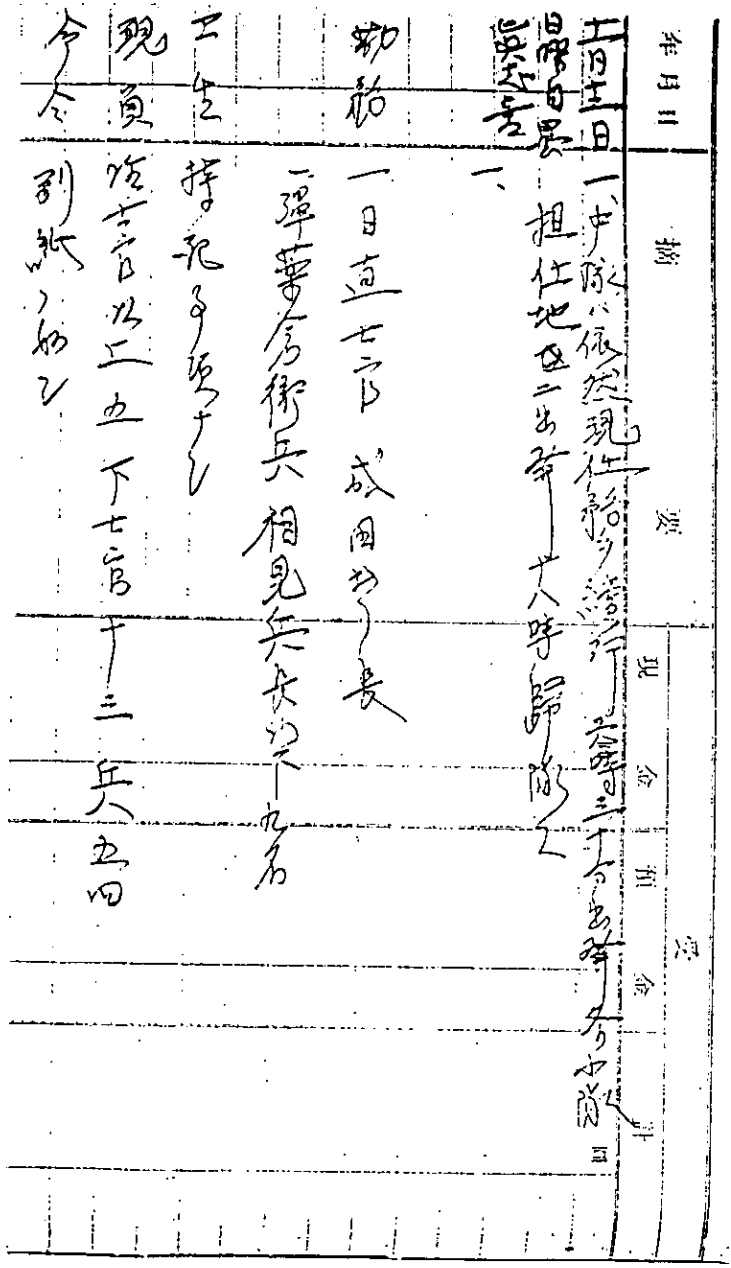
工事

一、特記事項ナシ

現員

一、准士官以上五、下士官十三、兵八五六

命令　別紙ノ如シ



十月十三日
月曜日晴
[illegible]

一中隊ハ主力ヲ以テ囲仕地ヲ陣地作業ノ爲六時三十右出発

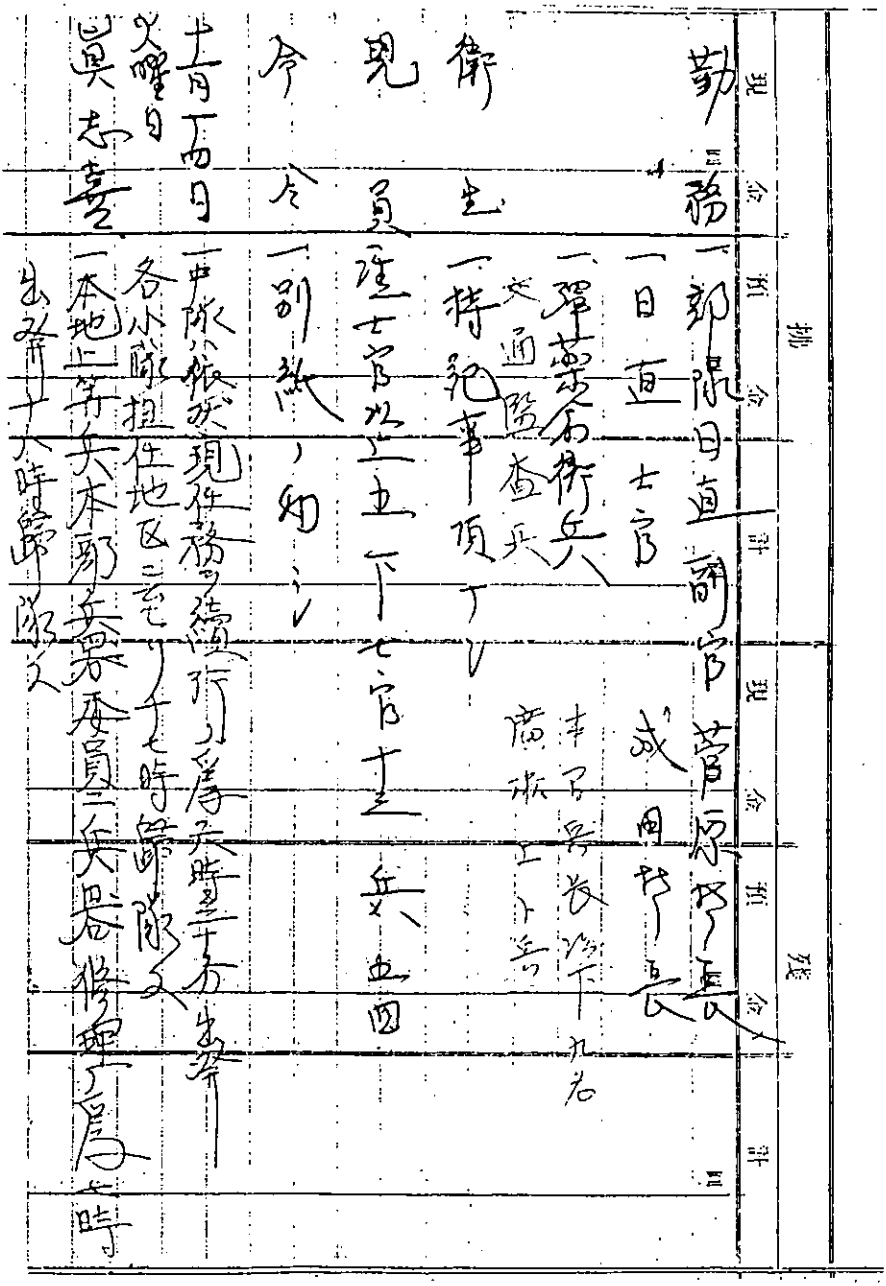
一中隊ハ作命第八十六號ニ基ヅキ初年兵狙撃手檢閲ノ爲教官拂少ク以下九名大山射撃場ニ至リ終了

時異狀ナク歸隊ス

一中隊長初年兵狙撃手檢閲ノ爲七時出発大山射ヲ場ニ至リ十二時三十分時歸隊ス

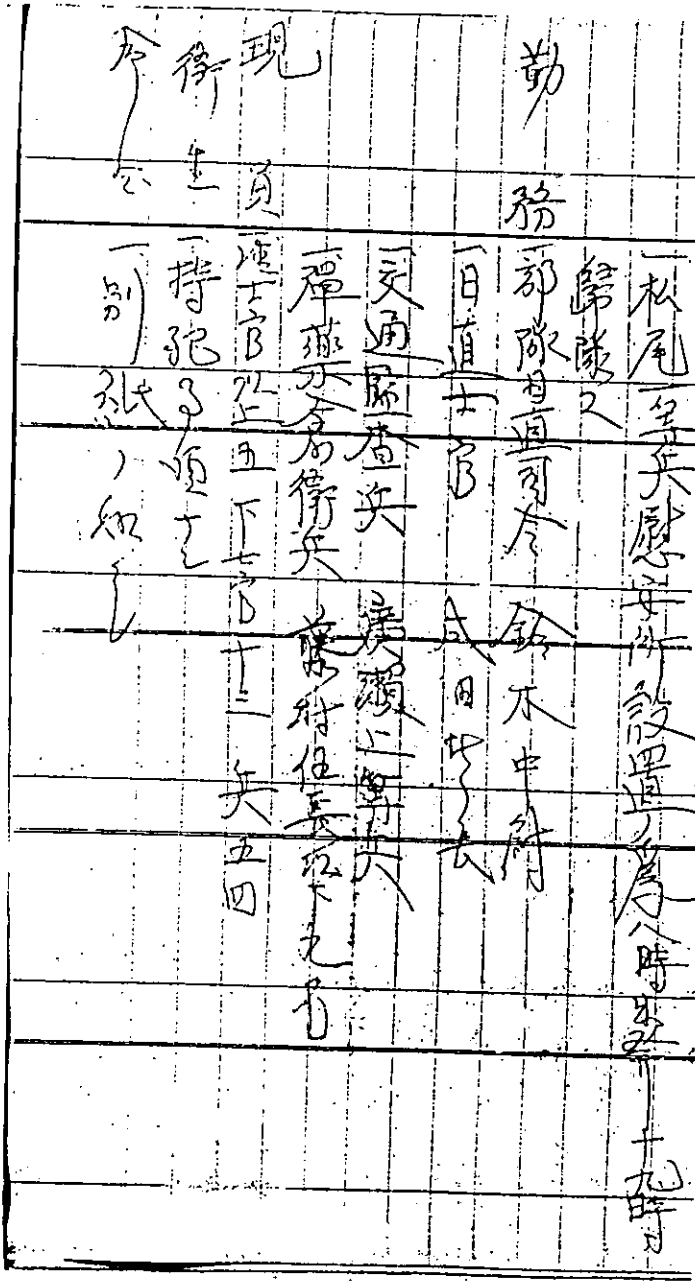
一中西上等兵以下二名檢閲使役兵トシテ七時大山射撃場ニ至リ三時異狀ナク歸隊ス

一松尾一等兵慰安所役罪ノ爲大隊本部ニ至リ十八時歸隊ス



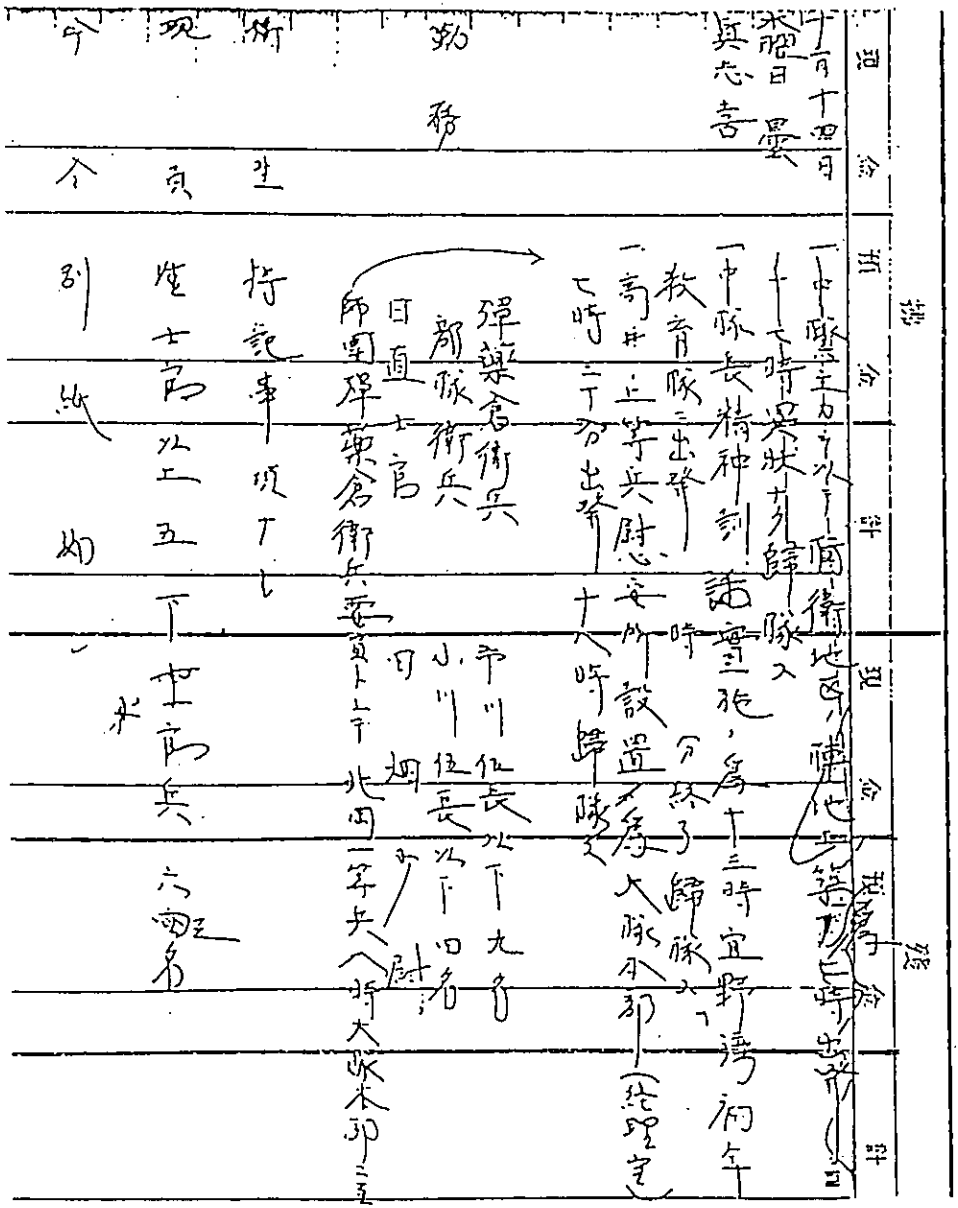
勤務 一郊隊日直 副官 菅原 [illegible]長
一日直 士官 成田 [illegible]長
一彈藥衛兵 本官兵長以下九名
交通監査兵 廣瀬上ト兵
衛生 一持記事項ナシ
現員 准士官以上五 下士官十三 兵五四
令令 一別紙ノ如シ
十月丁酉日 一中隊ハ依然現任務ヲ續行ノ爲天時三十分出発
火曜日 各小隊担任地区ニ至リ午七時歸隊ス
眞志喜 一本地上等兵本部兵器委員ニ兵器修理ノ爲七時
出発十八時歸隊ス

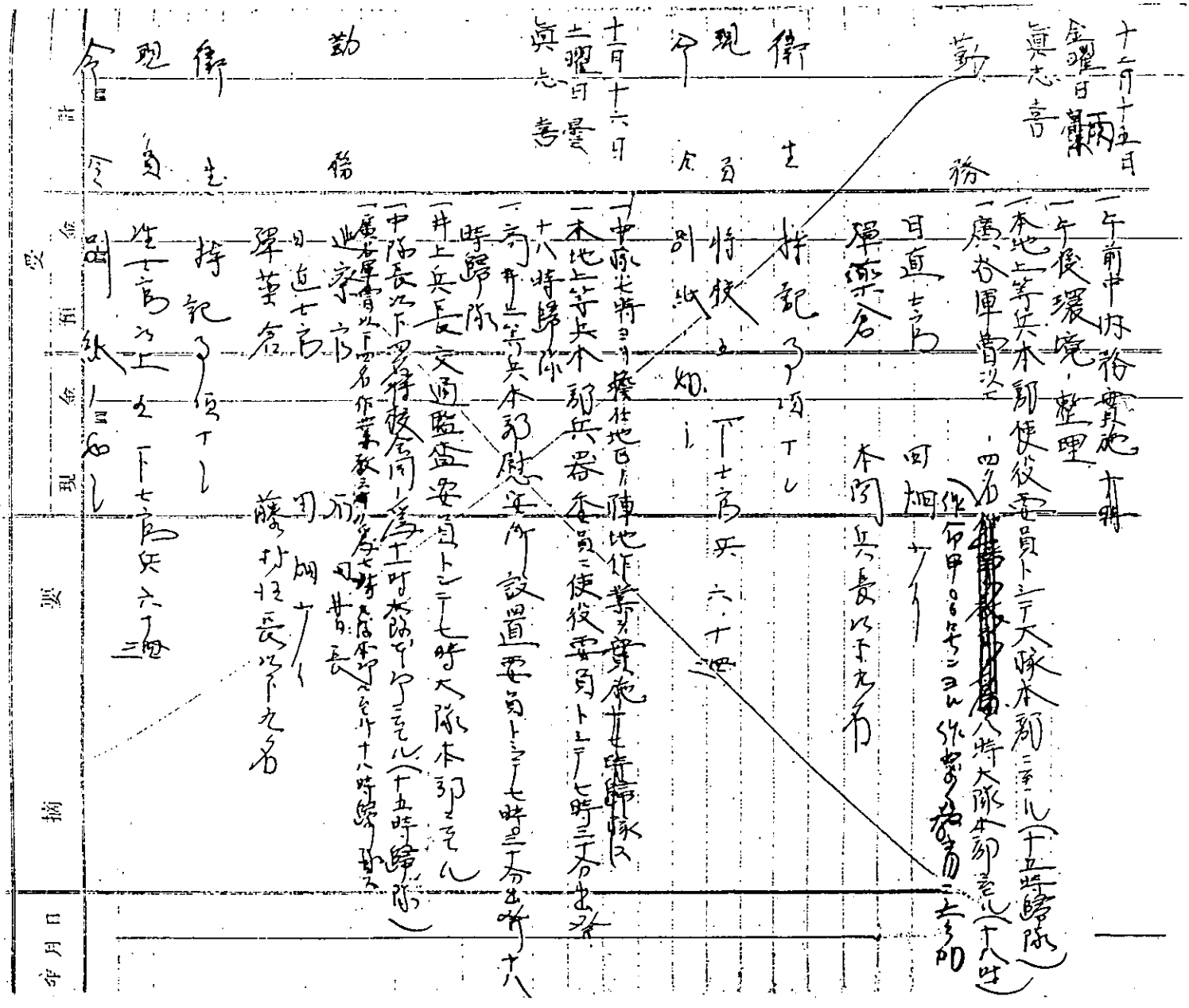
[中略]



一松尾一等兵慰安所設置之為八時出発十九時
歸隊又
勤務
一部隊日直司令　鈴木中尉
一日直士官　氏田[illegible]長
一交通監査兵　廣瀬上等兵
一彈藥令局衛兵　藤村任長以下九名
現員
一准士官以上五　下士官十二　兵五四
衛生
一持弛る頃之
令令
一別紙ノ如シ

年	月	日	事
十二月十二日	水曜日	晴	一各小隊七時ヨリ十七時迄
			一中隊長以下九名慰靈祭參列ノ爲十二時出發 大隊本部ニ至リ十六時歸隊ス
			一須賀兵長慰靈祭儀仗兵トシテ十四時大隊本部ニ至リ十七時歸隊ス
			一高井上等兵慰安所設置要員トシテ本部經理室ニ至リ十八時歸隊ス
			一石岡二等兵被服修理ノ爲宜野湾被服修理所ニ至リ十七時歸隊
勤務	衛生	令	日直士官 成田曹長
		令	巡察將校 甲畑少尉
		令	彈藥倉 西伍長以下九名
		令	持記事項下ニ
		令	別紙ノ如ニ入院中ノ吉田友(十二月二十六日病死ス)
		令	將校五 下士官兵六十四名





自昭和十九年十月一日
至昭和十九年十月三十一日

陣中日誌

獨立混成第十五聯隊聯隊砲中隊

七、謝花北里各分宿小隊ニ於テ各小隊長指導ノ許ニ人夫
三九名使用シ陣地構築ヲナサシム

十月四日
晴天（水）
渡久地

一、〇八〇〇中隊ハ兵舎内ニ於テ聯隊ノ指示事項ニ基キ勅諭
奉讀式ヲ與行ス
二、〇九〇〇醫務室ニ於テ隊長以下全員体重測定ヲ實施ス
三、一〇〇〇兵舎前ニ於テ町田軍醫ノ衛生講話アリ指揮班
全員ニ聽講セシム
四、同時伊野波及地帯陣地偵察ノタメ出発一四〇〇皈隊ス

第一小隊長　陸軍少尉　武藤仁雄

七、本日患者 練兵休 陸軍々曹 岡田茂夫

八、一四〇〇 第一大隊配備要圖ヲ將校全員提出ス

一〇一五〇〇 武藤、佐藤両小隊長ヲ中隊本部ニ招致作命

第七八号ニ依ル築城並ニ分屯ニ関スル指示ヲ與フ

一一、謝花北里各分宿小隊ハ作業ヲ中止シ器具及材料ノ

整理及分宿地移動準備ヲナサシム

獨混命第七號 一二、一九五〇 獨立混成第十五聯隊命令省略

駐屯地命第二號 一三、一五〇〇 北地区駐屯地命令

一、本部町渡久地ニ開設セシ軍慰安所ヲ渡久地軍慰安

所ト呼稱ス

二、渡久地慰安所ハ十月五日〇〇〇〇ヨリ使用許可ス

三、渡久地慰安所ノ使用ニ関シテハ北地区駐屯地軍慰安

所使用規定ヲ嚴ニ履行スベシ

[以下略]

自昭和十九年十一月一日
至昭和十九年十一月三十日

陣中日誌

獨立混成第十五聯隊第二機関銃中隊

〔前略〕

金曜日 晴

明治節

日課

衛生

二、一〇〇〇（今帰仁校遥拝式）在今帰仁校将校全員参列

三、〇八三〇ー一八〇〇陣地構築作業

四、細密診断

山本伍長、木村一等兵、大島一等兵

西田上等兵、山田一等兵

以上血沈ヲ行ヒタリ

宿営地

五、沖縄縣國頭郡今帰仁村謝名

勤務

大、歩哨、前川一等兵、宮林一等兵

頭書ノ勤務ニ服スヘシ

人員

中野中尉以下五ニ名（中隊長出張）

十一月四日 晴

土曜日

一、本日休養

二、本日ヨリ兵寮開設サル

三、慰安場規定配布同時ニ開設

四、一八三〇中隊長帰営

〔以下略〕

自昭和十九年十月一日
至昭和十九年十月晉表紙共 枚

陣中日誌

第六號

獨立混成第一五聯隊第一大隊本部

人員
十月七日(火)晴
謝花
受領

以テ那覇市ニ出張ス
不在間大隊ノ指揮ヲ御子神大尉執ルベシ
三十六名　乘馬　二頭軍犬二匹

一、大隊長「ト」号演習見學出張　〇五〇〇―二二〇〇
二、彈薬庫設定作業　〇八〇〇―一七三〇
三、蛸壺式待避壕設定作業　一三〇〇―一五〇〇
四、大隊副官慰安婦招致件就キ今歸仁方面出張　一三三〇

北地區隊命令　二、七　一〇〇〇　後久地

一、軍ハ地方住民トノ混住ヲ嚴禁シ二月一〇日マデニ之ガ清掃ヲ期ス
二、地區隊ハ軍ノ方針ニ基キ来ル十日マデニ現ニ地方住民ト混居シアル部隊ヲ藁屋幕舍等ニ転居セシメントス
三、本部各隊ハ現作業ヲ実施スル傍一部ノ兵力ヲ以テ陣地

[中略]

大隊會報

一、各隊ハ曇ニ提出セル疑兵疑砲ヲ持歸リ偽陣地ニ備ヘツケルコト

二、鉄材蒐集ノタメ明十五日第二中隊第三中隊ヨリ各兵一名ヲ差出シ〇八三〇マデニ聯隊本部ニ到リ兵器委員笠井軍曹ノ指示ヲ受ケシムルコト

服裝ハ徒手帶劍昼食携行ノコト

人(馬)員

三十六名(在渡邊)(兼馬 二頭 軍犬二匹

十月十五日曇

謝花

一、大隊長對砲爆施設及物資集積狀況視察 〇八〇〇 一八〇〇

二、大隊副官隨行セシム

三、軍察及慰安所施設作業 〇八〇〇 一七〇〇

四、陣地構築作業 〇八〇〇 一七三〇

五、糧秣集積所一部変更移集ス

六、軍官民連合警備演習ニ関シ警防団編成

陸軍

二十六日 陸密第四二八號ノ主旨ノ徹底ヲ期セルタメ旅団ヲ
左記要領ニ依リ実施スルコトニ定メラレタルニ付キ各隊ニ
毎月二十三日迄ニ瘠品ヲ生シタル場合ハ大隊本部兵器
掛ニ返納ノコト
二、瘠品乾電池ヒ真空管ヲ毎月取纏メ旅団ニ返納スル
モノトス蓄電池荷造リノ際ハ電化ヲ完全ニ除去シ輸
送間漏ノタメ他ノ軍需品ヲ損瘠セシムルコトナキ様
留意セラレタシ

人員 三十八名 乗馬 二頭 軍犬 二頭

十月十七日晴後雲

謝花

一、陣地構築作業（飯沼伍長以下三名）ロ八ロロー 七三ロ
二、軍寮及軍慰安所施設作業 ロ八ロロー 七三ロ
三、御子神大尉各隊兩號戰備状況視察セシム ロ六三ロ ロ九ロロ
四、聯隊長第二中隊ヘ對砲爆施設並ニ集積状況巡視ノ

ノ予定ヲ以テ名護町球一八八ロロ部隊ニ出張ヲ命ズ

人員　三十四名　軍馬　二頭　軍犬　二匹

十月二十六日　晴

謝花

受領

独混五作命七四号

一、市子神大尉以下九名ヲシテ警備隊坦架隊訓練セシム

二、慰安所設備完了ス

北地區隊命令　二一六一五ロロ　度　久　地

一、部隊ハ情勢ノ即應スル為對戰車肉攻資材ノ整備及之ガ取扱ノ教育ヲ実施ス

二、兵器委員ハ三十日午前第一大隊同午后第二大隊ノ下士官以上全員ニ對シ前項教育ヲ担任実施スベシ

三、第一線両大隊ハ専習員トシテ下士官以上全員ヲ集合兵器委員ノ教育ヲ受ケシムベシ

四、本部及独立中隊ハ第一大隊ノ教育ニ参加スベシ

五、教育計画ハ別ニ配布ス

〔以下略〕

㉟-2 獨立混成第一五聯隊本部陣中日誌（昭19・12・28、31）

自昭和十九年十二月一日
至昭和十九年十二月三十一日

陣中日誌

獨立混成第十五聯隊本部

F 90466
Спорас-Сінсроа
B- 23 634
OKINAWA 2 July

[前略]

[illegible]字
削除

十二月二七日(曇)
土地
受領
獨混一五作命一〇〇
號

十二月二八日(曇)
土地

一、大隊長第三大隊ニ出張ス 一〇〇〇
二、御子神大尉ニ第三林中隊第一機関銃中隊作業情況ヲ視察セシム 一〇〇〇
三、御子神大尉渡辺伍長ヲシテ越来村会ニ立会セシム

南地区隊命令 一二、二七、〇九〇〇 島袋

一、十二月二十七日ヨリ一泊ト隊定ヲ以テ北地区隊ノ配備並ニ陣地施設ヲ視察セントス
二、岡澤大尉及傳令一ハ本職ニ随行スベシ

南地区隊長 美田大佐

一、大隊長戦斗指揮所作業指示ス 一〇〇〇
二、大隊長第三大隊ニ出張ス 一五〇〇
三、水野少尉旧駐屯地ヨリ連絡ノ為来隊ス 一〇〇〇
四、御子神大尉ヲシテ第一中隊並二大隊戦斗指揮所ヲ視察セシム 渡辺伍長随行 一三〇〇

[中略]

五、臨時軍馬受領ノタメ山谷少尉以下一一名金武村ヘ出張

受領

獨立混成第十五联隊命令　一二、二八、一大ロロ　島袋

獨混一五作命第一ロ一號

一、旅團ハ嘉手納連絡所ノ編成ヲ変更ス

二、联隊ハ獨混四四旅作命第一ロ六號ニ基キ派遣セル將校以下一部ノ兵力ヲ撤收シ夫々原所屬ニ復歸セシメントス

三、中村中尉ハ十二月二十八日一二ロロヲ以テ現任務ヲ特設警備第二二四中隊ニ移讓スルト共ニ下士官一、兵七ヲ新連絡所長ノ指揮下ニ服務セシムヘシ

四、中村中尉ハ任務移讓後撤收人員ヲ指揮シ速カニ原所屬ニ復歸スヘシ

獨立混成第一五联隊長　美田大佐

會報

桑江慰安所使用ノ件

都屋監視哨長竹内軍曹

歩哨 古林一等兵 夏野一等兵
鷲見一等兵 向川一等兵

渡 其知監視哨長松下上等兵

歩哨 平山一等兵 鍛治一等兵
山岡一等兵

員

渡慶次 將校以下七三名

分屯隊 將校以下三〇名

後 發 將校以下二三名

十二月三十日 晴
渡慶次

一 午前中ハ舍内外ノ清潔整頓 便所ノ喰取リ 及 實施ス

二 ロ九、三〇ヨリ中隊長ノ内務巡視ヲ受ク

三 午後ハ全員入浴ヲ行ヒ還境ノ整理ヲ行ヒ後休養スルコト

空襲警報

四 ロ八、一〇 空襲警報令 ロ八、三五 空襲警報解除

受領 井上隊 命令第二十四號 十二月二十一日

井二日命令

一 明元旦新年拜賀式ヲ擧行ス 依而左ノ通心得ヘシ

イ、整列　ロ九、ロ〇

ロ、場所　校庭

ハ、大隊長臨場

ニ、皇居遙拜

ホ、訓示

ヘ、萬歲奉唱

ト、警敬禮

チ、閲散

各隊ハ口人、四口迄ニ整列完了隊形ハ現地ニ於テ示ス

服裝ハ單獨ノ軍裝トシ略綬佩用トス

分屯隊ハ現地ニ於テ擧行スヘシ

二、別紙ノ通日直將校ニ服務スヘシ

別紙　三日　田開書長　十日　田開書長

四日　大門中尉　十一日　大門中尉

日直

巡察
三、第一二區巡察將校左ノ通リ服務スヘシ
自十二月三十日 至一月六日 中野中尉
自一月七日 至一月十二日 義井少尉
自一月十三日 至一月十八日 田村少尉
自一月十九日 至一月二十七日 吉川准尉

受領井會報
六、井上隊會報
一、慰安所使用規定別紙ノ通リ配布ス（後略ス）
開業八一月二日ヨリトス
二、陣中日誌ノ提出ハ明元旦夕刻マテノコト
七、中隊新陣地配備要圖別紙ノ如シ

勤務
中隊日直下士官 奥原軍曹
同 上等兵 山城上等兵
部隊衛兵司令 立本伍長
歩哨若干 上等兵

分屯隊勤務

八分屯隊八午前中ノ舍内外ノ整頓午後休養

日直下士官　竹内軍曹

都屋監視哨長　竹前伍長

歩哨　澤田一等兵　入井一等兵
　　下山一等兵　小柴一等兵

渡具知監視哨長　中山伍長

歩哨　越巻一等兵　長瀬一等兵
　　中瀬一等兵

兵移動

九麻柄軍曹以下二名　弾薬集積荷馬車監視トシテ今歸

仁ヨリ中隊ニ復歸ス

人員

渡慶次　將校以下　七五名

分屯隊　將校以下　三口名

後發　將校以下　二一名

[以下略]

昭和十九年十二月一日 昭和二〇年一月三〇日

沖縄陣中日誌

独立歩兵第十五聯隊本部

防衛研修所戦史室

沖合 沖縄 119

石九六會第五號

會報

一月八日一六〇〇
玉城國民學校

一、師團第一回武技競技會ハ來ル一月下旬師團司令部於テ將校下士官兵ニ區分シ銃劍術手榴彈投擲ノ種目ヲ實施セラルヽ豫定ニ付各隊ハ一層之ガ練磨ニ勉メラレ度尚實施方法ノ細部ハ追テ示サルヽ筈

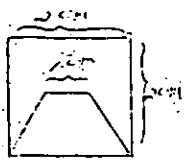
二、十一大隊ニ於テ火災ヲ起シ兵舍ヲ燒キ爲ニ輕機四小銃一一ヲ燒失セリ
各隊ハ特ニ火災豫防ニ注意且常時豫防對策等ヲ構シ苟モ不注意ニ依リ係ル不詳事件ヲ惹起スルガ如キ事ナキ樣嚴ニ監督指導セラレ度

三、一月六日附部隊勤務ヲ命セラレタル成毛軍醫少尉ハ一月七日着隊ス

四、水崎隊ヨリ左官ノ心得アル兵一名ヲ明九日八時迄ニ經理室前ニ差出シ武藤主計中尉ノ指示ヲ受クベシ

五、後方施設ニ關スル内規ヲ別冊ノ通リ定ム

六、臼砲與山隊（球一八八〇四部隊）富名腰ニ宿營シ胸部標識ノ如シ



後方施設ニ關スル内規

昭和二〇
石第三五九六部隊

第一　本規定ハ石第三五九六部隊後方施設ニ必要ナル事項ヲ定ム

第二　本施設ヲ大和會館（分館ヲ敷島館）ト呼稱シ石第三五九六部隊（配屬部隊ヲ含ム）及特ニ指定スル協同部隊之ヲ使用ス

第三　會館ノ使用區分左ノ如シ

大和會館　本部　江戸隊　松島隊　天倉隊　須川隊
外山隊　出村隊　患者療養所

敷島會館　伊藤隊　松田隊　水崎隊　橋本隊　作業隊　通信班　古瀬隊

第四　左ノ各項ニ該當スル者ハ會館ニ出入スルコトヲ得ズ

ノ見習士官

2 本業基本教育間ノ初年兵ヲ部隊長又ハ各隊長ニ於テ出入ヲ不適當ト認メタルモノ

第五 會館利用時間ハ其分ニ應ズルノ外外出時限内トシ正午ヨリ兵ノ食時限一時間前下士官ハ營呼時限一時間前迄トス（營外下士官ハ營内下士官ニ同ジ）

尚下士官以下ノ臨時延刻外出ヲ嚴禁ス

第六 左記委員ヲ設ケ各其業務ヲ分担セシム

左記

イ 委員長 全般統轄

ロ 甲委員 軍紀風紀

ハ 乙委員 經理一般

ニ 丙委員 衛生一般

第七 會館ヲ利用シテ將校ハ下士官ト下士官ハ兵ト會食スルコトヲ禁ズ

第八　會食場ノ使用ハ部隊長ノ將校團結又ハ地方要人ノ必要上招待スル場合ニ限ル

但シ將校ニシテ會食場ノ使用ヲ是非必要トスル場合ハ利用目的ヲ明ニシ前日正午迄ニ委員長ノ許ニ申出デ部隊長ノ認可ヲ受クルモノトス

第九　會館ノ休日ハ毎月八日及二十三日トシ從業員　身体檢査ハ毎週土曜日ノ午前ニ於テ軍醫之ヲ實施スルモノトス

第十　會館使用ニ方リ堅ク左記諸件ヲ嚴守スルモノトス

一　軍紀風紀ヲ嚴正ニスルコト　特ニ局柄地方人ニ惡感作ヲ及ホサヾル如ク注意ノコト

二　吸煙ニ關シ特ニ注意シ軍ノ秘密ヲ漏洩スルガ如キ有害ナル談話ヲ禁ス

三　禮儀ヲ重ンジ又經營者從業者ニ對シ非常識ナル言動ヲ爲サヾルコト

※建物及備付ノ器物諸物品　破損シ或ハ使用物品ヲ持出ササルコト

破損ニ對シテハ損害賠償ノ責ヲ負ハシム

第十一　花代左ノ如シ

一時間　兵　二五ｐ　下士官　三ｐ　將校（准士官ヲ含ム）五ｐ

前半夜（二十三時迄）一ｐ

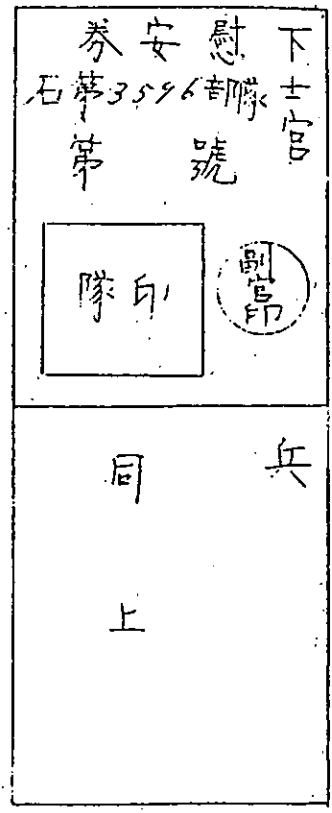
後半夜（二十三時以後）一ｐ　將校（准士官ヲ含ム）後半夜三時以後ハ營業セス

前後半夜（三時　迄）一五ｐ

第十二　當分ノ間切符制トシ從業員一名ニ對シ一日　下士官三枚　兵三枚以内トス

切符ハ本部ニ於テ發行シ樣式左ノ如シ

第十四　経営者ハ前項様式ノ慰安券ヲ携行セサル者ハ出入セシメサルコト



會報

一月十三日 六ロロ

王城國民學校

一 蛭子隊（五三二五部隊）下士官以下ノ外出ハ飯塚部隊外出ニ關スル規定並後方施設内規ニ基キ毎週日曜日及木曜日ニ實施スルモノトス

尚後方施設ハ富里ニ設備シアルモノヲ利用スルモノトス

二 前田隊（石兵團病馬廠）將校一下士官一兵一ロハ慶良原ニ宿營シ作業ヲ開始セリ

三 前田隊下士官以下ノ外出ハ飯塚部隊外出ニ關スル規定並後方施設内規ニ基キ毎週水曜日ニ實施スルモノトス

尚後方施設ハ富里ニ設備シアルモノヲ利用スルモノトス

四 橋本隊ハ一二八五高地ト學校裏ト學校前間ヲ營内ト看做シ單獨兵ヲ無帶劍ニテ行動セシムルハ軍紀上不適當ナリ

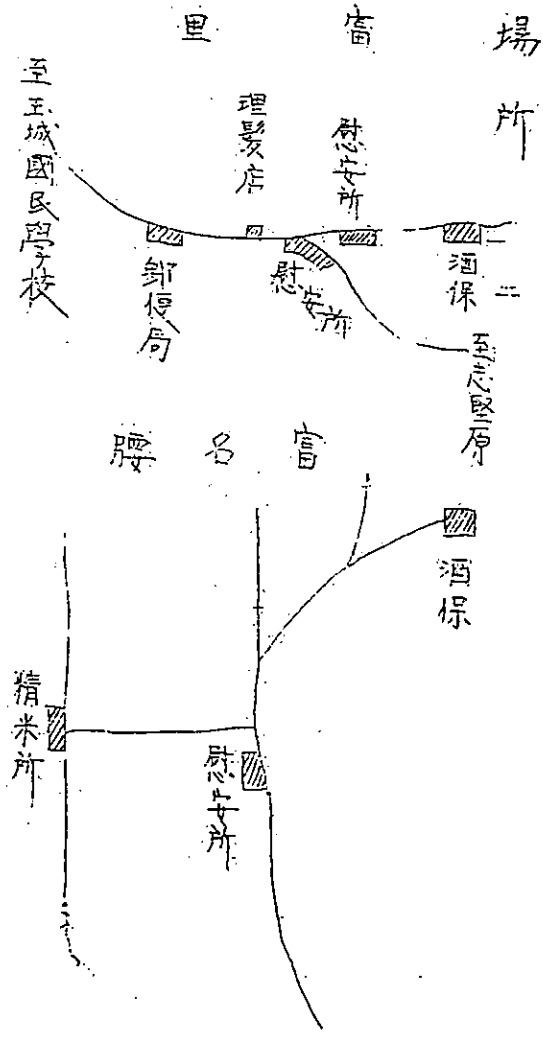
營内ハ宿舍ヲ中心トスル一區域トシ成ル可ク小範圍ニ規定スルヲ要ス

五 自今ラジヲノ聽取ヲ禁ジラレタルヲ以テ各種受信機（個人用）ニツキ調査シ携行者アラハ一時取上ゲ處置セラレ度

尚所有者ノ有無ヲ速ニ報告ノコト

六 空襲警報間ニ於ケル爆破作業中止ニ關シ再三注意シアルトコロナルモ未タ徹底セズ 速ハニ末梢部隊ニ至ル迄傳達徹底セラレ度

（土兵團會報 一月九日）


場所
富里
至玉城國民學校
理髮店
慰安所
郵便局
慰安所
酒保
至志堅原
富名腰
酒保
精米所
慰安所

自昭和十九年十一月一日
至昭和十九年十一月三十日

本文罫紙共三十五枚

陣中日誌

獨立混成第十五聯隊第八中隊調製

〔前略〕

日直下士官・吉田軍曹

大隊人員 變化ナシ

伊江島地區隊命令 十月九日 伊江島 六〇〇

受領命令(後革)

四日命第八〇號

四日直並ニ巡察將校左ノ通リ服務スベシ

月日	日直將校	巡察將校
二、一三		中澤少尉
二、一五	竹田中尉	
〃、一九		渡邊中尉

會報

一 爾今休日ヲ左記ノ如ク實施スベシ

左記

水曜日 第八中隊 野砲

二 休日ノ日 勤勞奉仕アル際ハ各隊ハ午前午後共約半數ノ兵力ヲ陣地構築ニ差出スベシ

三 自己中隊休日ニ當リ午後陣地構築ニ出場スル者ニ限リ
自一九。〇至二三。ノ間外出セシムルコトヲ得
四 休日ノ際ニ於ケル外出時刻ハ一般ニ一三。〇以降兵ニ在リテハ一六。〇迄下士官ニ在リテハ一八。〇迄トス但シ下士官
慰安所ノ使用ハ一六。〇以降トス
五、軍療及慰安所ハ毎日（金曜日ヲ除ク）九ニ。ー一八。〇迄開設セシム但シ午前中ノ使用ハ休日配當中隊ノ
兵員中午後作業ニ出場スル者ノミトシ中隊ニ於テ
細部ハ指示スベシ
六 下士官以下ハ自己配當休日ニ軍療慰安所ノ使用シ
其他ノ日ニ於ケル外出ニ使用ハ嚴禁ス
七 一般ニ公用以外ノ外出ヲ禁ス 公用者ハ准尉以上ノ證
明書又ハ公用腕章ヲ附シアルヲ要ス
旦准尉以上ノ軍療ニ慰安所ノ利用ハ日夕點呼後

［以下略］

自昭和十九年十一月一日
至昭和十九年十一月三十日表紙共三十六枚

陣中日誌 第六號

獨立混成第十五聯隊第三中隊

人員　一二二名

十月二十四日　曇リ　雨模様

一、中隊長ロヒ三ロヨリ幹部教育出場ノタメ出發（一泊二日）
小隊長三名モ隊長ト共ニ出發ス

二、塚越曹長　旅團司令部ニ於テ実施サル法務部將校講話聽講ノタメ　ロ六ロロ出發　一九ロロ　取隊ス

三、各將校不在ノタメ各小隊連絡掛下士官指導ノ下ニ兵舎建築ニ從事ス

四、其ノ他特記事項ナシ

受領命令
他震日命第一〇号

獨立混成第十五聯隊命令　十月二十四日

一、十二月一日ヨリ十二月三日ニ到ル間別紙計画ニ依リ對戰車肉迫攻撃査閲ヲ実施ス

（納谷典・記載）

同日大隊命令

一、十一月二十日ヨリ別命アル迄本部及各隊ノ外出ニ関シ左ノ通リ心得ヘシ

1. 目的　軍慰安所及軍寮使用セシム

2. 外出許可人員　各隊人員ノ三分ノ一以内

3. 外出区域　謝花地区内（各隊ノ駐屯地ヨリ謝花ニ通スル道路ヲ含ム）

4. 外出時限　一二〇〇以後トシ服營時刻ニ関シテハ軍隊内務令ニヨル

5. 服装　北地区駐屯地規定ニ依ル

6. 外出日　日曜　1　2. 中隊

月曜　本　3. 1MG　以下繰返シ土曜ハ休マス

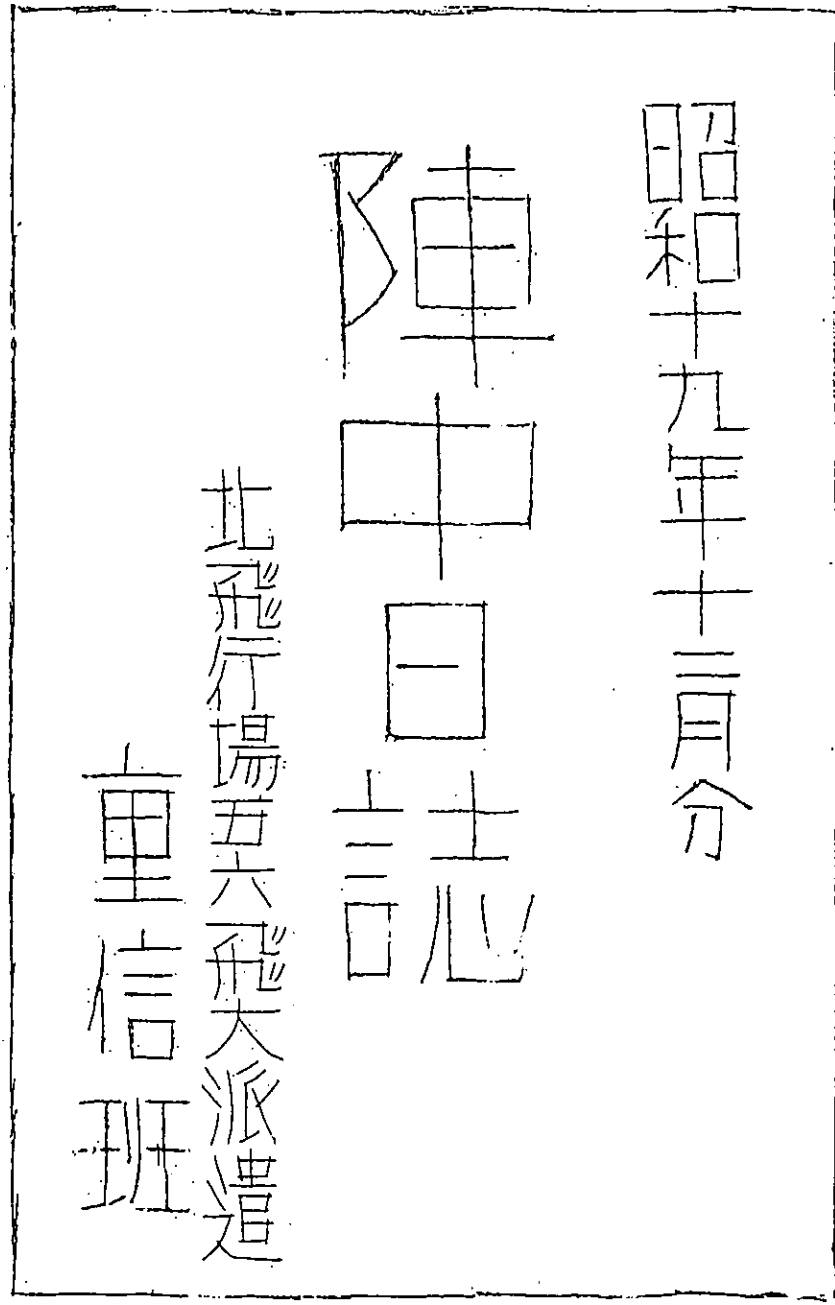
但シ都合ニ依リ各隊ニ於テ外出日ヲ交代スルコトヲ得

二、各隊内務掛准尉ハ外出簿ヲ作製ノ上外出前日迄ニ外出希望者ノ氏名ヲ記入セシメ点検シタル後中隊長ノ許可ヲ受ルモノトス

三、各隊週番（日直）士官ハ外出筑ニ依リ外出人員ヲ承知シタル後之ガ服装

陸軍

〔以下略〕


昭和十九年十二月分
陣中日誌
北飛行場五六飛大派遣
重信班

[前略]

衛生　十二月二十三日　曇　天　五荒行場　行、勤

實働時間　各班共九時間

一、入院　三入室二

出場人員　下士官一　兵三八

一、作業隊長ノ命ニ依リ　重信伍長ハ兵三名ヲ區署シ　左ノ各作業ヲ續行セリ

(イ)宮田上等兵ハ兵一〇名ヲ指揮シ　前日ニ引續キ便所移轉及　洞窟並設作業ニ從事セリ

進度　便所移轉完了　洞窟枠嵌込二ケ所完了

(ロ)荒武上等兵ハ兵二〇名ヲ指揮シ　松立木伐採及　鍛工場設置並ニ木工雜作業ニ從事セリ

進度　松立木伐採二五・四九石　鍛工場　深間四・〇〇　松行〇・〇〇

衛生 十二月二十日 晴天 [illegible]行場 行動

米設置六分通リ迄トロッコ枠箱修理二台完了

實働時間 各班共九時間

一入院三入室二

出場人員 下士官一 女三八

一作業隊長ノ命ニ依リ重信伍長ハ女三名ヲ

區署シ左ノ各作業ヲ實施セリ

(イ)宮田上等兵ハ女九名ヲ指揮シ洞窟施設

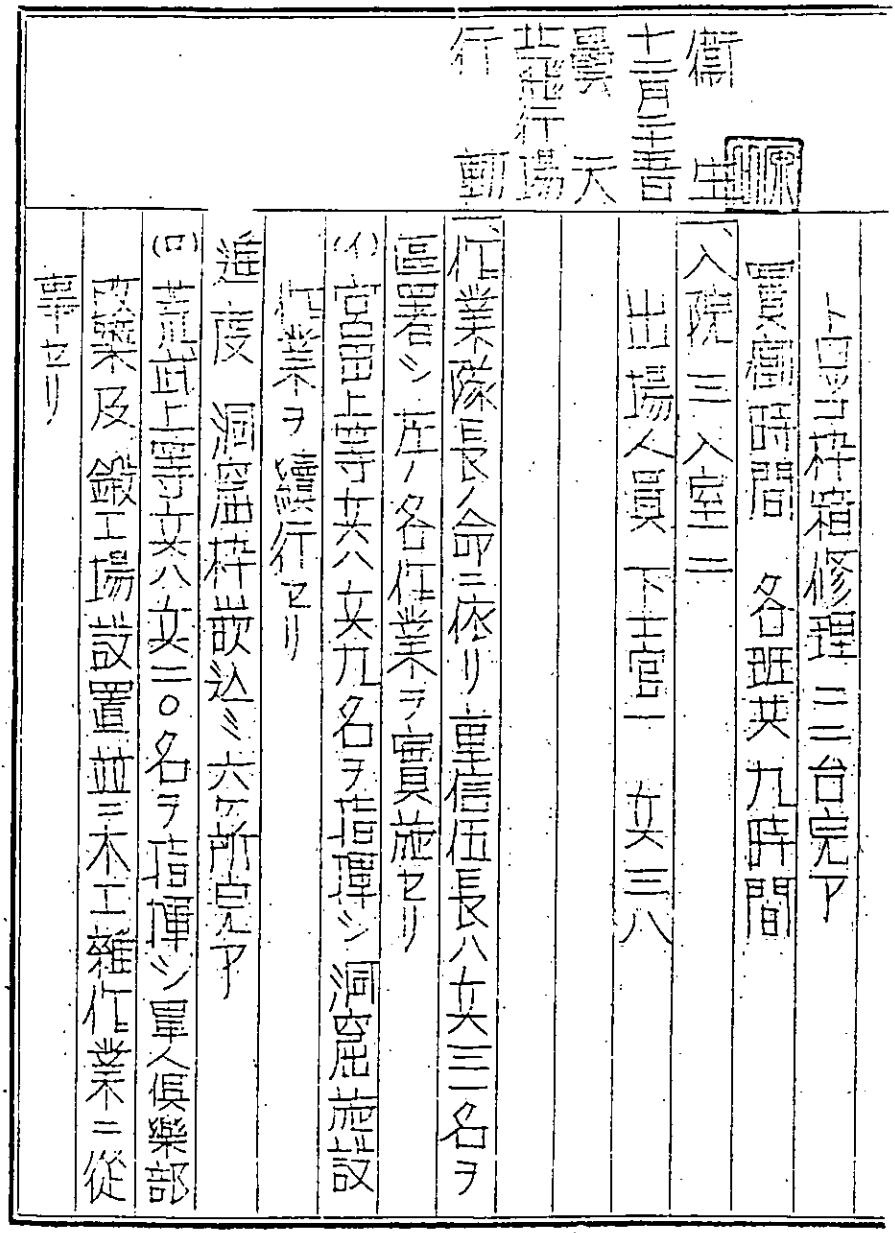
作業ヲ續行セリ

進度 洞窟枠嵌込ミ 七ヶ所完了

(ロ)荒武上等兵ハ女二〇名ヲ指揮シ軍人倶樂

部改築 及木工雜作業ニ從事セリ

進度 軍人倶樂部内部改造三分通リ迄



衛生
十二月二十三日
曇天
北部行場
行動

トロッコ枠箱修理 二台完了

實衛時間 各班共 九時間

入院 三 入室 二

出場人員 下士官一 女三八

作業隊長ノ命ニ依リ 重信伍長ハ女三名ヲ
區署シ 左ノ各作業ヲ實施セリ

(イ) 宮田上等女ハ女九名ヲ指揮シ 洞窟施設
作業ヲ續行セリ

進度 洞窟枠嵌込ミ六ヶ所完了

(ロ) 荒武上等女ハ女二〇名ヲ指揮シ 軍人倶樂部
改築及鍛工場設置並ニ木工雜作業ニ從
事セリ

衛生
十二月三日
曇天
並飛行場
行動

進度 軍人倶樂部内部改造 五分通リ迄
鍛工場設置八分通リ迄 松立木伐採一〇石
トロッコ枠箱修理一一台完了

入院三 入室二
出場人員 下士官一 女三九

作業隊長ノ命ニ依リ重信伍長ハ作業班區署
作業指示後 本隊ニ出張 鍛工器材ノ受領及
事務連絡ニ從事シ 即日歸隊セリ
各班ノ實施セル 作業成果左ノ如シ
(イ) 宮田上等女ハ女九名ヲ指揮シ 洞窟施設
作業ニ從事セリ
進度 洞窟枠嵌込ミ六ヶ所完了

(ロ)荒武上等兵八兵二〇名ヲ指揮シ第四三七部隊
軍人倶樂部改築及鍛工場設置作業ニ
從事セリ
進度 軍人倶樂部内部改造八分通リ迄
鍛工場設置完了
實働時間 各班共九時間
「要建六中日命第一三四号ニ基キ門脇一等兵八
當分ノ間 重信分隊ニ於テ勤務ヲ命ゼラレ
一八・〇〇着隊セリ
「入院三 入室一
出場人員 下士官一 兵三九
「作業隊長ノ命ニ依リ 重信伍長八兵三二名

衛生
十二月二十日
晴天
北部行場
行動

陣中日誌用紙

衛生 十二月三日 曇天 北飛行場 行動

ヲ區署シ 松立木伐採及鍛工作業ニ從事セリ

進度 松立木伐採五三石 鍛場火式及器材修理

實働時間 九時間

入院 三 入室 二

出場人員 下士官一 女三九

作業隊長ノ命ニ依リ 重信伍長八女三二名ヲ

區署シ 左ノ各作業ヲ實施セリ

(イ) 宮田上等女八女二名ヲ指揮シ軍人倶樂部

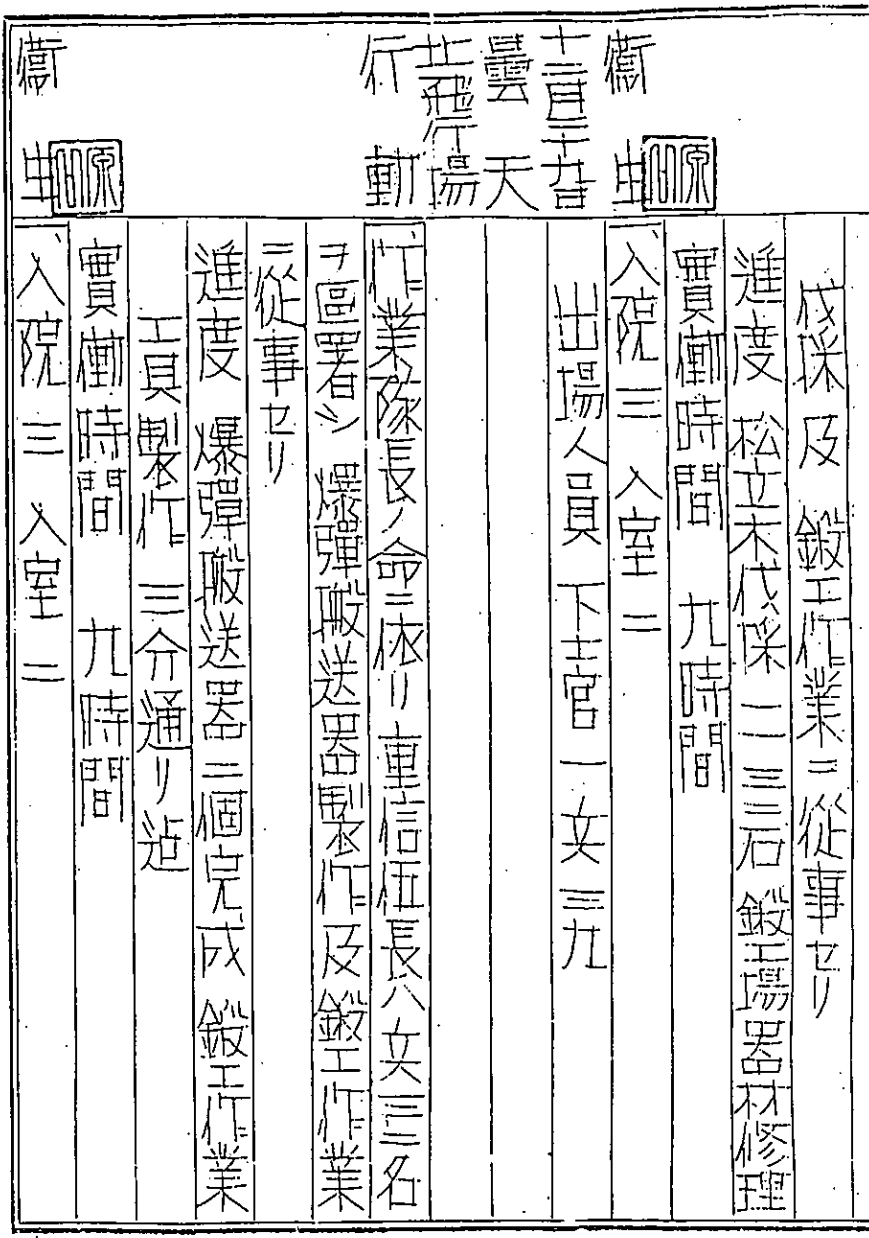
内部改築作業ニ從事セリ

進度 五六飛大軍人倶樂部改築ニ介通リ迄

第四七部隊軍人倶樂部改築模様替完了

(ロ) 荒武上等女八女二〇名ヲ指揮シ建築材料

陸軍



伐採及鍛工作業ニ從事セリ

進度 松立木伐採二三石 鍛工場器材修理

實働時間 九時間

衛生 原 入院三 入室二

十二月二十五日 出場人員 下士官一 女三九

曇天

廿六日 行場

行動 作業隊長ノ命ニ依リ重信伍長八女三名ヲ區署シ爆彈搬送器製作及鍛工作業ニ從事セリ

進度 爆彈搬送器二個完成 鍛工作業工具製作三分通リ迄

實働時間 九時間

衛生 原 入院三 入室二

十二月二十日
曇　天
北飛行場
行　動

出場人員　下士官一　兵三九

作業隊長ノ命ニ依リ作業中止　重信伍長ハ
午前中被服器材ノ手入整頓ニ從事シ午後
兵二九名ヲ指揮シ本隊ニ至リ演藝會ヲ
觀覽休養セリ

衛　生

入院三　入室二

十二月二十日
曇　天
北飛行場
行　動

出場人員　下士官一　兵三九

作業隊長ノ命ニ依リ　重信伍長ハ兵三二名ヲ
區署シ　左ノ各作業ヲ實施セリ

(イ)荒武隊上等兵八兵一三名ヲ指揮シ　軍人

衛

生

倶樂部内部改築作業ニ從事セリ

進度　内部改築完了（別紙略圖ノ通リ）

(ロ)宮田上等女八女一七名ヲ指揮シ伐採及

鍛工作業ニ從事セリ

進度　伐採松丸太八二四石　鍛工作業工具

製作　五分通リ迄

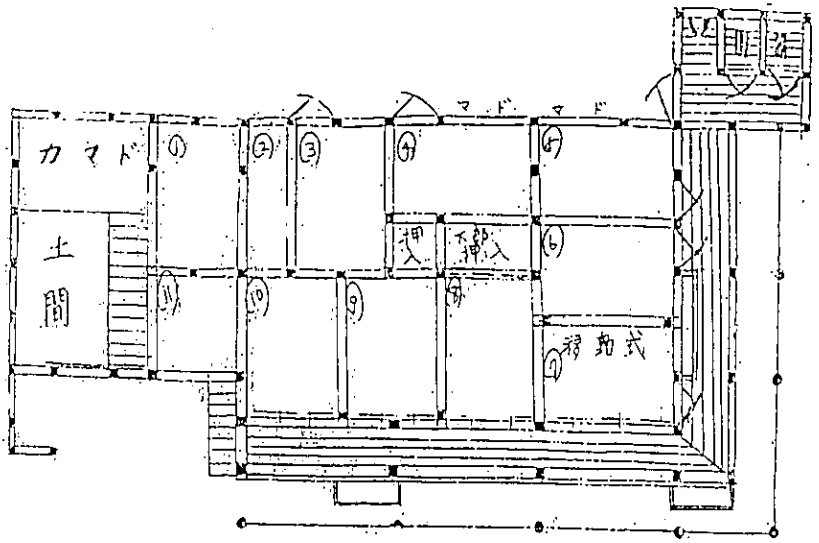
實働時間　各班共　九時間

入院三　入室二

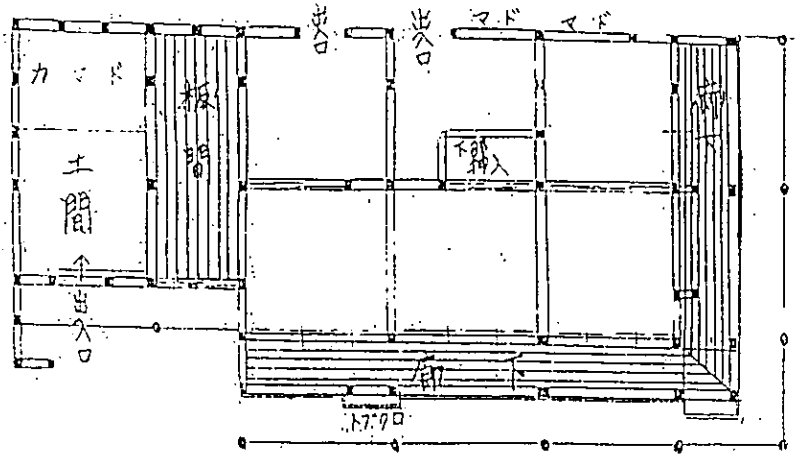
軍人倶樂部内部改築設計略圖

便所

改築



試設



陣中日誌

自昭和二十年一月一日
至昭和二十年一月三十一日

獨立混成第五聯隊本部

駐屯地會報ニ於ケル示達事項

昭和二〇、
南地區駐屯地司令官

一、軍紀ノ振作ニ就テ

駐屯地一般ノ軍紀ハ劃期的ニ振作向上ヲ要ス

左ニ振作ノ爲要望スル点ヲ示ス

(1) 「上ハ大權ノ承行ヲ謹嚴ニシ、下ハ謹シテ服從ノ至誠ヲ致ス」觀念ノ透徹ヲ要ス

(2) 軍紀ノ振作カ戰捷必須ノ要件ニシテ將校ハ軍紀ノ根源ナルニ思ヒヲ致シ自隊ハ勿論他隊ノ者ト雖モ軍紀ヲ紊リアルモノニ對シテハ看過放任スルコトナク現場ニ於テ矯正スル熱意ヲ望ム

(3) 敬禮ノ嚴格ナル實施ヲ強ク要望ス

幹部ハ敬禮ノ實施不正ナル者ハ自他隊ヲ問ハス嚴ニ矯正シ駐屯地内ノ敬禮ノ實施ヲ劃期的ニ向上セシメヨ

ヲ望ム

(4) 部隊ノ指揮掌握ヲ確實ナラシムルヲ要ス

(5) 巡察將校ノ活躍ヲ望ム

(6) 服裝ヲ端正ニシ態度ヲ嚴肅ナラシムル如ク指導セラレ度

嘉手納ニ於テハ時間外ノ外出、服裝態度特ニ不正ナルモノ多シ將來看過セス

二、部隊ノ混住ニ伴フ風紀對策ニ就テ

三、慰安所ノ問題ニ就テ

四、對住民及物資取得ニ就テ

五、樹木伐採、陣地其ノ他施設構築時ノ相互協定ニ就テ

軍並ニ旅團ニ於ケル副官會同會報事項

昭二五、一、二
南地区駐屯地司令部

軍會報事項

1、未ダ自動車事故多發ノ傾向アリ、指揮監督ヲ嚴ニサレタシ

2、十二月末、未檢閲書簡二千通ニ達ス
尚外デ投函スルモノアリ注意ヲ要ス

3、山部隊一般ニ敬禮良好ナリ（罹災）民ニ對シ金一封ヲ送レルモノ等アリタリ

4、飲酒ノ上將校ノ部下ヲ刺シタル例宮古島ニアリ
亦本島ニ於テモ正月二日上等兵ガ銃劍ヲ以テ班長ヲ刺シタリ

5、火災予防ニハ嚴ニ注意スベシ（別紙ノ如キ例アリ）
週番日直者ハ内務令ノ通リニ取締ルベシ

6、十二月十八日嘉手納ヨリ那覇行ノ山第三〇三四部隊ノ自動車ヨリ
落セル中尉ノ軍刀アリ
銃劍モ拾得ニアルモ尾出ナシ

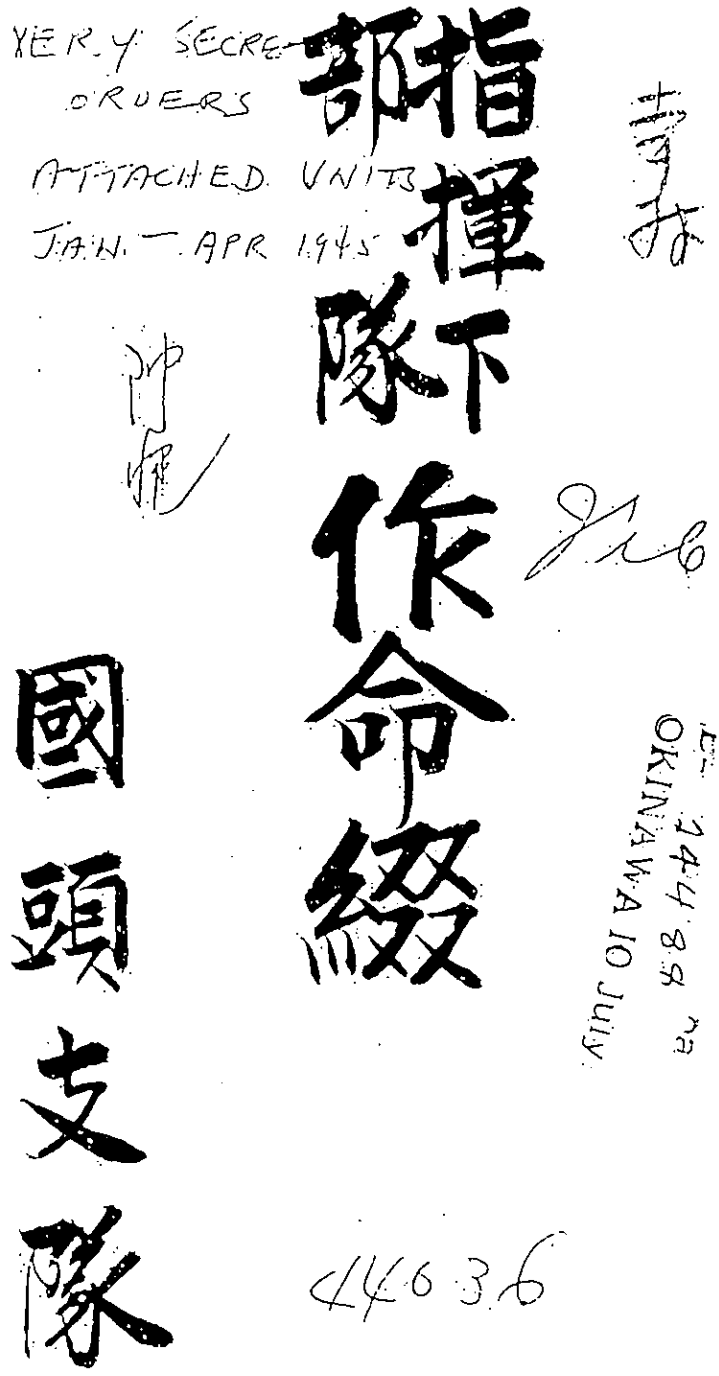
7、外出ハ内務令ニ從フベシ現在ニ於テハ臨時外出ハナキモノト思考ス

8、慰安所ノ使用時間ヲ嚴守サレタシ
9、野戰兵器廠ハ南風原字宮平ノ織物工場ニ移轉セリ
電話津賀山一四
10、齒科治療ハ昭和十五年陸普第八二九號ヲ研究ノ上實施セラレタシ

旅團長注意事項
一、敵機行動中ハ自動車ヲ動カスナ
二、酒ハ善用スベシ飲酒ニ依ルト雖モ事故者ニ對シテ寛大ニ失スルナ
三、燒カズ、取ラズ、犯サズ、ノ三原則ニ徹セヨ
四、各級指揮官ノ位置ハ高所ヲ選定シ指揮官ノ位置スベキ場所ニ本部ハ宿營スベシ
五、各隊相互ニ惡感情ヲ持合スハ不可ナリ
特ニ加手納附近ニ於テアリ

［以下略］

⑩第二大隊命令［國頭支隊第2歩兵隊第2大隊本部］（昭20・1・14）



指揮下部隊作命綴

國頭支隊

VERY SECRET
ORDERS
ATTACHED UNITS
JAN — APR 1945

44636

F 2243
C
E 44 88 ra
OKINAWA 10 July

[前略]

佐作命第三號

第二大隊命令　一一四　一八〇〇　眞部山第二大隊本部

一國頭支隊ハ一月十四日宇作命第大號ニヨリ眞部山陣地内ニ兵寮ヲ設置シ兵ノ慰安施設ヲ增強セラル

二大隊ハ本築造ニ付諸般ノ援助ヲナサントス

三各隊ハ之カ築造ノ多メ一月十六日ヨリ約十日間ノ豫定ヲ以テ左記人員ヲ差出シ支隊高級主計ノ指示ヲ受ケシムヘシ

左記

第四中隊　下士官一　兵三

第五中隊　下士官一　兵二

第六中隊　將校一　兵三

芳二機関銃中隊　　矢二

尚清末隊矢三渕隊矢二平山隊矢二中川隊矢二
ヲ差出サル、答
携行品ハ土工材料各個トシ毎日晝食携行ノ
上通勤トス
芳一日ハ〇八〇〇運立橋ニ集合スヘシ
四余ハ眞部山芳二大隊本部ニ在リ

芳二大隊長　佐藤少佐

下達法　口達筆記

報告先　芳二歩兵隊

昭和一九・七・二七ー二〇・四・八

独立重砲兵第百大隊平山隊 作命綴

（球一六八〇四部隊平山隊）

原本史料

防衛研修所戦史室

台 沖縄 186

平作命第五號（宇作命第六號）

平山隊命令　一月十四日一八〇〇　船窪台

一、國頭支隊ハ兵ノ慰安施設増強ノタメ一月十六日ヨリ約十日間ノ豫定ヲ以テ眞部山陣地内ニ兵寮ヲ築造セテル

二、中隊ハ之ガ築造ノ爲一部兵力ヲ差出サントス

三、指揮小隊及戰砲隊ヨリ各々兵一名ヲ差出シ一月十六日〇八〇〇迄ニ満名運立橋ニ到リ第二歩兵隊中島主計大尉ノ指示ヲ受ケ右作業ニ參加セシムベシ

服裝ハ單獨ノ軍裝トシ晝食土工器具（円匙十字鍬各一）ヲ携行トス

隊長　平山大尉

下達法　口達

報告（通報）先　2i　II/2i



平作命第十七号

平山隊命令

船 有村 日一四〇〇 宿台

一、中隊ハ當分ノ間満名ニ連絡所ヲ設置シ集積糧秣、兵器、築城資材等ノ監視及対外連絡ノ適確円滑ヲ期セントス

二、指揮小隊ハ主力ヲ以テ連絡所ノ設備ニ任ジ明十一日中ニ之ヲ完成スベシ

連絡所ー中隊事務室間ノ連絡ハ中隊事務室ー沖縄第九砲台間ヨリ引込ミ三所一系トナスベシ

三、連絡所勤務員ノ編成ハ兵長(上等兵)以下四名(発表ニ依リ増減スルコトアリ)トシ二月十一日一〇〇〇以降服務スベシ

四、細部ニ関シテハ古賀中尉ヲシテ指示セシム

五、新行橋衛兵ハ二月十一日〇八〇〇以降其ノ編成ヲ解キ原所属ニ復帰スベシ

隊長 平山大尉

下達法 口達

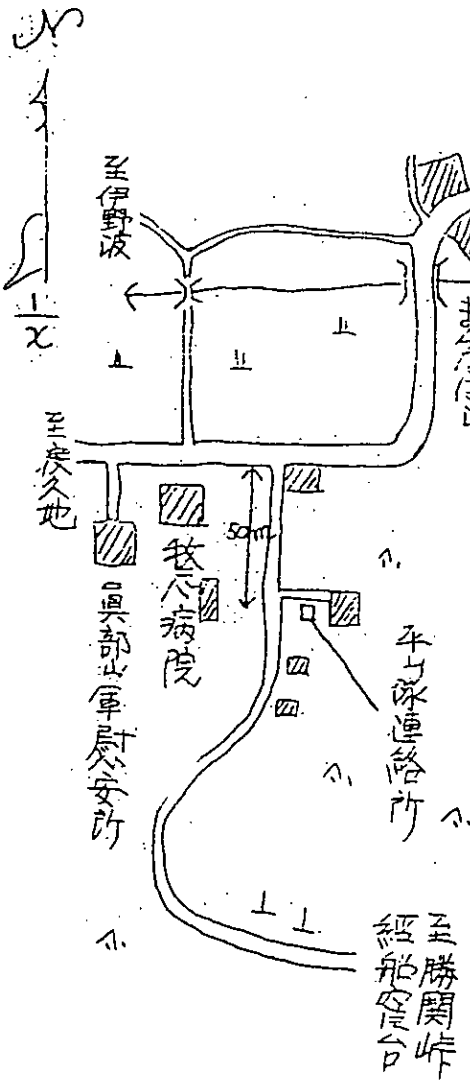
報告(通報)先 2i I/2i II/2i 9NA 26sep 50ab

東京 小津 社

平作命第十七号別紙

一、名称　平山隊連絡所

二、位置



⑩② 第六二師團副官部陣中日誌（昭20・1・15）

軍事極秘

控

自昭和二十年一月一日
至昭和二十年一月三十一日

陣日第一九號

附	部	次級副官	兩級副官

陣中日誌

第六十二師團副官部

一月十五日 月 小雨

最高温度 一五度

最低温度 一三度

仲間村

命令

移駐準備

進級

退院

一、師團長本郷中將ハ昭和十九年三月七日附勲一等ニ敍セラレ瑞寶章ヲ賜ハル

二、別紙左記命令ヲ下達ス

石兵團日々命令第八號

部内日々命令第一四號

三、1、先發者篠中尉以下掩蔽壕構築及宿舍設備作業ヲ實施ス

2、配屬自動貨車ニ依リ陣營具其他物品ヲ輸送ス

3、管理班山口軍曹以下五名首里慰安所設備作業ヲ實施ス

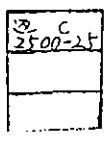
四、副官部勤務中ノ獨立歩兵第二十三大隊白井一等兵衛兵隊勤務同山口一等兵近藤一等兵ハ一月十日附陸軍上等兵ヲ命ゼラル

五、一月二日第六十二師團野戰病院ニ入院セシ管理班

返還史料

獨立混成第四四旅団
第二歩兵隊第二大隊
機関銃中隊日命
会報録

防衛研修所戦史室



一月九日　曜日　天候　傳達者印

[illegible]報

空襲警報発令九ヶ所ニ門解除一ヶ所
警戒警報解除一ヶ所五ヶ所沖縄本島地区
第三十二軍司令官

宇令報

一連射砲中隊附陸軍中尉菅正臨
一月二日名護患者療養所ニ於テ死亡
依テ一月一日一四時ヨリ伊豆味部隊本部
ニ於テ告別式ヲ挙行スルニ付第一大隊及
第二大隊歩兵砲中隊将校下士官兵ノ
代表者各々二名宛参列セシムベシ
尚伊豆味部隊並ニ連射砲中隊ハ全員
参列スベシ　服装ハ単独ノ軍装トシ
略綬佩用ナス
二、一月一日及ビ一月二日実施予定ノ被服還被
教育ヲ一月一日及ビ一二日ニ変更ス

不在者

一月一五日　曜日　天候　傳達者印

中隊命令

一、宇佐命第六号ニ基ク兵舎設置使役兵ト
シテ明一六日ヨリ左記日割ニ依リ勤ムベシ
自一六日至一八日（陸上　平仲　桃ニ部
　　〃　〃　瑞慶覧昌正
自十九日至二一日（〃　〃　岡城　克己
　　〃　〃　長谷　重幼
自二十二日至二十五日（〃　〃　佐藤　仁志部
　　〃　〃　城川　義春
二、オ百八〇、八〇〇迄ニ運土橋ニ集合シ高砂
主計ノ指示ヲ受クベシ　携行器具ハ土工
器具各種トス
三、勤務更正ノ期間中ハ対空監視勤務
ハ除外ス

宇令報

一、一月六日陸軍中隊保管馬ハ毒草ヲ食セ
ルニ起因シ遂ニ頭数ニ殿死ス老人数
兵ニ対スル幹部ノ指導監督不十分ト
認メ該兵及ビ之ガ責任者ソレゾレ
厳重処罰ス

不在者

昭和二〇、二、一～二〇、二、二八

輜重兵第四十九聯隊第一中隊陣中日誌

防衛研修所戦史部

図西 ビル 260

二月一日 晴
キヤウタン
日出一八度
日没二八五度

一〇七〇〇佐藤軍曹以下三七名(輓牛車二五車輌)日命ニ基キ牛糧受領ノ爲「ヘグー」ニ向ヒ出發ス 一七〇〇歸隊ス

二 牛車ノ整備ヲ實施セシム

三 下士官全員成山大尉行ノ斬込戰鬪ノ幹部教育ニ出席セシム

日命 四 命令

一 第一中隊 陸軍兵長 渡邊知
第三中隊 同 柳井達男
第二中隊 同 烏川彦一
第一中隊 同 阿部弘美
第二中隊 同 生田太郎
本部 同 小田島藤吉
第三中隊 同 時任三郎
任陸軍伍長

二 部隊内務規定第二十四條ヲ左記ノ通ク補訂ス一般ニ外出ハ土

曜日一〇ヨリ兵ハ夕食時限迄下士官ハ二三〇迄トス

尚下士官ハ令第百八十八條ニヨリ金曜日一八〇ヨリ二三〇迄外出ヲ許可ス

三来ル二月三日獣醫資材臨時檢查ヲ實施セラル

依而左記ノ通リ心得ベシ

左記

一 實施時刻及場所 一三〇 一三三〇 獣醫室

二 受檢ノ細部ニ関シテハ伊林獣醫少尉ヲシテ指示セシム

會報

五 會報

一爾今部隊休日ハ土曜日ト定メラレタルニ付部隊内務規定第二十三條中ノ日曜日ハ平日通リ服務スルモノニ付承知セラレ度

二今般「キヤウタン」慰安所ヲ開設セラレタルニ付此ノ際特ニ軍人ノ軍人タル分ヲ銘記シ極端ニ流レズ止ム所ヲ知リ左記事項徹底嚴守セシメテ利用ヲ適切ナラシメラレ度

左記

(一)言語不適ニ起因シ乱棒ヲナシ女ヲ欧打セザル事

(二)官物ヲ携行女ニ與ヘ或ハ女ノ持物ヲ持歸ラザル事

(三)建物ヲ損壞セザル事

(四)防毒並ニ消毒ヲ嚴ニシ病氣ニ罹ラサル様注意スル事

(五)使用時間及使用時間別ヲ嚴守スル事

(六)慰安所ノ話ヲ絶對隊ニ持歸リ話サザル事

退院

四二〇〇〇ヨリ津末軍醫ヲシテ四五六分隊ニ衛生教育ヲ實施セシム

五陸軍一等兵古賀利作退院ス

人員

本日現在員將校以下二八八名

二月二日晴

キヤウタン

日出二一度

日没二六度

一飼料菓刈作業ヲ實施セシム

二一〇〇ノヨリ下士官全員成山大尉ノ軍行ヲ斬込戰鬪ノ幹部教育ニ出席セシム

三一一〇ノヨリ外出セシム

日命

四命令

〔以下略〕

返還史料

獨立第二十九大隊
海上挺進基地第二十九大隊
本部陣中日誌

自 昭和二十年二月十七日
至 同 年二月廿八日

沖台 沖縄 220

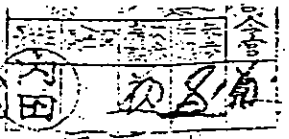
防衛廳傳修所戰史室

二月二十四日　一〇八〇〇本部ニ於テ大隊全將校ニ対シ光成副官ハ旅團並ニ
雨風　聯隊ノ戰斗指導方針ニツキ説明ス
島尻郡　二野田中尉、光成副官ハ同道陣地須察ヲナス
玉城村　三一三〇〇前川ニ於ケル旅團長聯隊長及各大隊長
ノ陣地配備ニツイテノ打合会同ニ光成副官出席ス
四一五三〇左記会報下達

会報　會報　二月二十四日

一、近時慰安所ニ於テノ暴行ニ及ブ者アリ嚴ニ注意スベシ
二、明二十五日左記人員ヲ炊事場ニ差出シ永井軍曹ノ指示ヲ
受ケシムベシ　第一、二中隊ヨリ兵各一名充
五、各中隊別作業出動人員
第一中隊七二、第二中隊一〇五　第三中隊一三三
六、本日ノ人員數前日ニ同シ

⑯ 海軍慰安所利用内規［第12特別根拠地隊司令部］（昭20・3・18）



號外

昭和二十年三月十八日

庶務主任 西本

第十二特別根據地隊司令部

一 當分ノ間海軍慰安所利用内規ヲ左ノ通定ム

海軍慰安所管理經營ハ海軍司令部ニ於テ一括之ヲ行フ

二 家屋ハ業者ニ無償貸與スルモノトシ家具調度品等ハ必要最少限一時貸與ス

業者ハ貸與物件保管ノ責ニ任ズルモノトス

三 業者ハ清潔整頓ヲ旨トシ衛生ニ関シテハ司令部ノ指示ニ從フモノトス

軍医長ハ毎月第二、第四大曜日ニ健康診断ヲ行ヒ其ノ結果ヲ報告スルモノトシ不合格者ハ営業ヲ停止セシム

四 海軍慰安所ヲ別チテ鶴ノ家、亀ノ家、松ノ家、竹ノ家及梅ノ家ノ五トス

五 鶴ノ家、亀ノ家（准士官以上用）ノ利用ニ関シ左ノ通定ム

(イ)時間及料金

[中略]

標準ニ依リ配付ス

(ロ)利用者ハ本券購入(料金ハ前項所定通)ノ上慰安所ニ於テ相手業者ニ手交ス

(ハ)各隊(艇部所)長ハ右料金ヲ取纏メ別紙様式調書ト共ニ半月毎ニ主計長宛送付スルモノトス

(ニ)業者ニ対スル支拂ハ毎月一ヶ月間ニ於ケル稼高ヨリ生活諸費其ノ他ヲ控除ノ上支給ス

(ホ)慰安所内ニ於テハ現金支拂ハ一切禁止ス

一、毎月八日ハ定休日ニ於ス

二、利用者業者共ニ家屋諸ニ備付品等ノ取扱ヲ丁寧ニシ毀損亡失等ナキ様留意ノコト

三、不都合アリト認メタル場合ハ該業主ヲシテ営業停止又ハ當該利用者ノ出入禁止ヲ命ハルコトアリ

(別紙)

隊 ○○ 調書 慰安券 月 日

券別	准士官以上			下士官用	兵用	計
	第一種	第二種	第三種			
枚数						
金額						
摘要						

時間	料金	記事
二四ヽヽ以降	一五円ヽヽ	
短時間	七円ヽヽ	二四ヽヽ以前約一時間ヲ標準トス

(ロ) 利用者ノ範囲
(一) 海軍准士官以上及同待遇者
(二) 判任一等待遇以上ノ海軍文官、軍属
(三) 商社ハ司令部ニ於テ許可セラレタル者
(四) 其ノ他特ニ司令部ニテ許可セラレタル者
(ハ) 其ノ他
慰安所内ニ於ケル飲食ヲ禁止ス

六 松ノ家(下士官兵用)ノ利用ニ関シ左ノ通定ム
(イ) 時間及料金

時間	下士官	兵	記事
三ヽ分	三円ヽヽ	二円ヽヽ	

(ロ) 利用者ノ範囲
海軍下士官兵
(ハ) 其ノ他
(一) 慰安所内ニ於ケル飲食ヲ禁止ス

(ニ)[illegible]准士官ハ之ヲ利用スルコトヲ得
但シ料金ハ短時間(一時間以内)五円ロロトス

七 竹ノ家(施設部隊員用)ノ利用ニ関シ左ノ通定ム

(イ)時間及料金

時間	料金	記事
一時間以内	五円ロロ	

(ロ)利用者ノ範囲
施設部隊員

(ハ)其ノ他
慰安所内ニ於ケル飲食ヲ禁止ス

八 梅ノ家(施設部以外軍属商社関係員用)ノ利用ニ関シ左ノ通定ム

(イ)時間及料金

時間	料金	記事
一時間以内	五円ロロ	

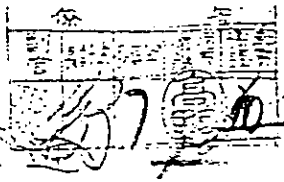
(ロ)利用者ノ範囲
施設部以外ノ軍属並ニ商社関係員

(ハ)其ノ他
慰安所内ニ於ケル飲食ハ禁止ス

九 各慰安所ニ於ケル料金支拂等ニ関シテハ左ニ依ル

(イ)司令部ニ於テ慰安所使用券ヲ発行シ之ヲ各隊(艇部所)ニ別ニ定ムル

⑩⑦ 性病豫防ニ關スル件通知 [第12特別根拠地隊軍醫長] (昭20・3・29)



先任參謀

號外

昭和二十年三月二十九日

兵務主

軍醫長

各隊(部所)長殿

性病豫防ニ關スル件通知

通ク慰安所開設セラルルニ就テハ性病患者發生ノ絶無ヲ期シ

左記實施相成度

記

一 性病豫防講話 (別紙參照)

二 性病豫防掲示教育(別紙掲示ノコト「ポスター」作製中)

三 「サツク」及消毒「クリーム」ノ交付

外出員ニ對シ慰安券ヲ交付スル場合ハ同時ニサツク及消毒クリーム各一個宛交付シ之ガ使用ヲ励行セシメラレ度(「クリーム」容器「サツク」ハ業者側ヲシテ回收セシム)

四 早期需診

慰安所利用後局所ニ異狀アルモノハ早期ニ需診セシヌラレ度(別紙添付)

(終)

性病に就て

性病には

淋病　梅毒　軟性下疳（横痃）等がある

□淋病

急性症、感染後二、三日間で尿道から膿が出て放尿の際焼ける難い痛みがある膿は次第に多くなり疼痛を益々加はって来る

此の時期に受療すると意外に早く全治するが受診を怠ったり不養生をすると遂には慢性症となって一生苦しまねばならん

○慢性症　尿道の外、膀胱、関節等も侵さ或更に男子は攝護腺睾丸等も侵されて子供が出来なくなる

淋芒が眼に這入ると膿漏眼（風眼）となり七割目になる事もある

又淋病は膿が出なくなっても病芒は当分体内に遺っている

何時でも他人に傳染する頗る危険なものである

○其の感染経路

主として不潔な性交によって傳染する。其の外病苦のついた指先于拭、褌、腰巻、下着、寝具等からも感染する

▽梅毒

先天梅毒　親から血液の中に病毒を受けて生れて来たもの

後天梅毒　無垢の健康体が他から病毒を受けて發病するもの

の二つがある

○後天梅毒

第一期　性交後二ー三週間位で亀頭冠溝部に痙そうが出来次で堅い横痃が出来る

○第二期　第一期から一ー二年間皮膚に色々な発疹が出来る

頭髪や眉毛が抜けてつまくなったり声が嗄れたりする

第三期　病毒が段々内臓を冒し、骨がうみとなって鼻が落ちたり頭に穴があいたりする

第四期　受毒後十年以上を経て脳や脊髄を冒して遂には不治の精神病者や脊髄病（よいくし）になる

▽先天梅毒　親ばかりでなく「親の因果が子に報ひ子供に傳染して流産　死産の原因となり又生れた子供は多く病弱で身体も精神も満足でなく成長しても夭折不具、癆疾病弱者になる等累を可愛いゝ子孫に迄遺す恐ろしい病気である

。其の感染経路

主として生殖器から感染するが接吻、授乳、指先、食器、煙管等からでも傳染する事がある

▽軟性下疳

性交後二十四日で局部に「毛切れ」又は浅い瘡が出来それがつぶれて段々大きく深くなる又梅毒と混合感染したり横痃がふき出る事もある

○其の感染経路

梅毒に同じ

▽横痃

股のつけ根の所が次第に腫れて来るもので軟性下疳の初期に多く起り淋病でも時々出来る事がある亦梅毒から来たものは堅いだけで痛みも化膿もしないが軟性下疳から来たものは痛があり紅く腫れて化膿する

▽性病豫防法

(一)上陸時は必ず「クリーム」と「コントーム」(サック)を携行ル事

(二)性交時は「コントーム」(サック)を使用する事

(三)次で消毒「クリーム」の1/3を尿道口へ押込み残り2/3を外側全面二塗

次の放尿時まで大り紙で包

(三) 性交後は必ず放尿する事（手指で龜頭を軽く和分み腹圧でしぼり
と放尿入）

(四) 次で消毒水で洗滌する事（陰茎外側を良く洗ひ尿道を洗滌入

(五) 次で消毒クリームの1/3を尿道口え押込み残り2/3を
外側全面に塗り次の放尿迄大り紙で包で置く事

(六) 尿道から膿が出たり瘡が出来たら直に需診する事
右の注意を確實に實行すれば大体安全であるが必しも
一〇〇％懼病しなつとは云えない

▽絶對完全なる豫防法
君子危きに近よらず

昭和二〇、二、一～二〇、三、二八

歩兵第百六聯隊聯隊砲中隊陣中日誌

南西 ビルマ 323

防衛研修所戦史部

[前略]

會報要旨一再三注意シアルニ拘ス演習出先ニ於テ部落内ニ出入スルモノアリ
各隊長ハ之カ指導監督ヲ嚴ニシ今後斯カル行爲ノ絶無ヲ期スル
コト

糧　秣　携帶口糧乙及携帶罐詰各二日分受領

兵　器　四式山砲彈藥箱五四個受領

現在人馬　中隊長以下一三九名　馬　乘一　輓二四　牛　乘八　輓二

月　日　二月二十三日

天　候　曇　一時雨

宿營地名　キヤウタン北部兵舍

教　育　一、一〇〇〇　二〇〇〇　中隊長學科（馬事教育「飼育管理ニ就テ」）ヲ實施

行　事　一、午前中白川少尉指導ニテ輓馬調教
一、午後指揮班通信教育（通話要領各番ノ任務）第一二少
隊分隊戰斗（對戰車射擊）彈藥少隊役牛調教ヲ各
小隊長指導ニテ實施

[中略]

森第一八七〇九部隊ノ自動車一分隊（五輛）
四、爾餘ノ各隊（部隊主力橋梁警備隊ヲ含ム）ハ速ニ準備ヲ整ヘ出動命令受領後三ヶ時間以内ニ出動シ得ル態勢ニ在ルヘシ
但橋梁警備隊ハ撤收ハ別命ス
五、各隊ハ出動態勢完了セハ報告スヘシ
六、出動其ノ他所要ノ細部ハ別命ス
七、余ハ「キヤウタン」本部ニ在リ

部隊長　十時大佐

下達法
命令受領者ヲ集メ口達筆記セシム、
會報要旨ハ慰安所附近ニ開設シアル現地人賣店ニハ一切立寄ラザル様指導ノコト

中隊命令ハ免

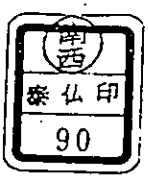
陸軍軍曹　前泉次郎

［以下略］

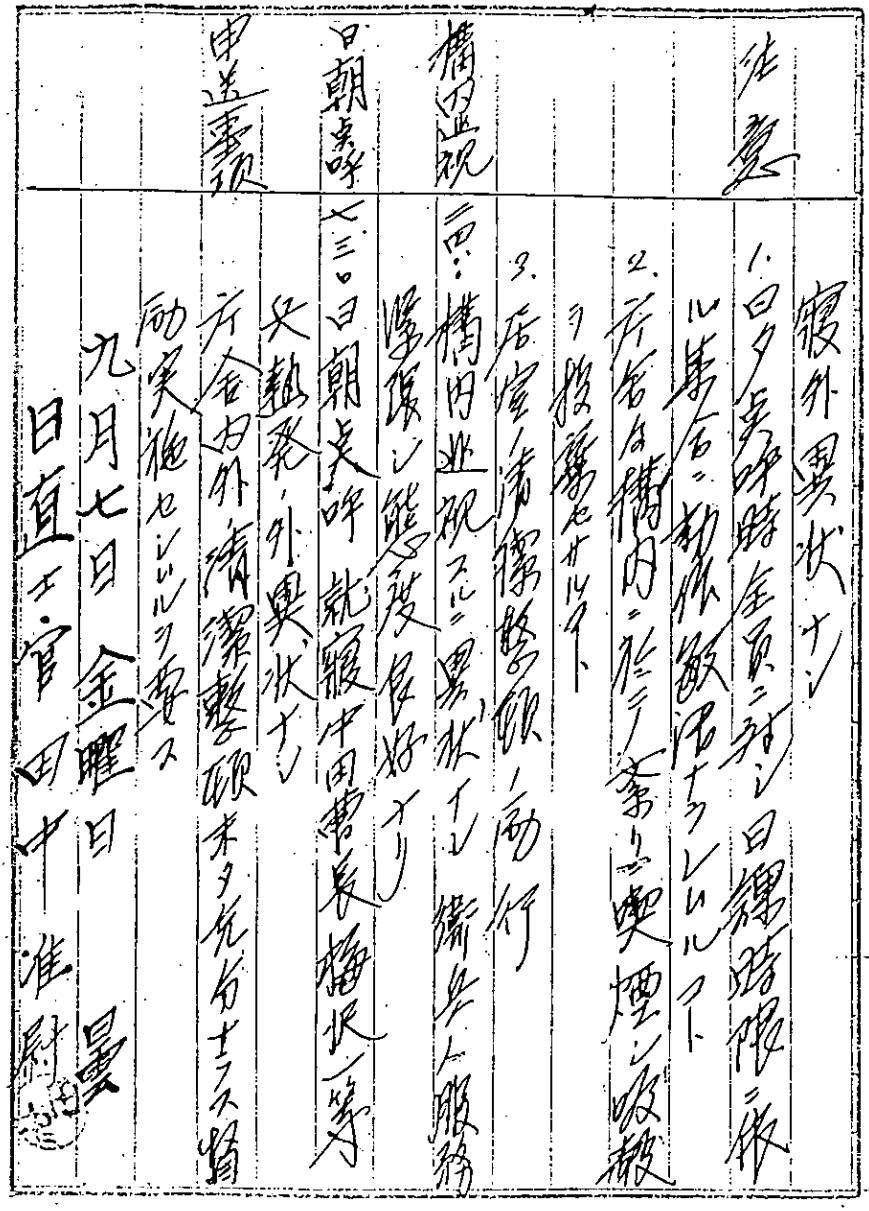
昭和二〇、九、四～二〇、一〇、四　仏印

金辺憲兵隊日誌

防衛研修所図書館



[前略]



注意

寢外異状ナシ

1. 日夕点呼時全員ニ対シ日課時限ニ依ル集合ニ勅依敏活ナラシムルコト

2. 庁舎ノ構内ニ於テノ案リニ喫煙シ吸殻ヲ投棄セサルコト

3. 居室ノ清潔整頓ノ励行

構内巡視

二四・構内巡視スルニ異状ナシ 衛兵ノ服務緊張シ態度良好ナリ

日朝点呼

七・三〇日朝点呼 就寝中田曹長梅沢一等兵熱発ノ外異状ナシ

申送事項

庁舎内外清潔整頓未タ充分ナラス特励実施セシムルヲ要ス

九月七日 金曜日 曇

日直士官 田中准尉

陸軍

査

會報資料及爆雷提出

整頓整理セラレアリ

一五〇〇左記要旨ノ會報資料一七〇〇

拾得セル爆雷一箱（一個入）ヲ壯兵団

副官部ニ提出ス

左記

一下ニ官ニシテ和服ニテ登朝左慰安所

ニテ遊興セル者多数アル件

二カンダル省カスト云ヘル村ハサウノ河ニ

浮流中ノ爆雷現地側ニ於テ拾得届出

アリタルモ部隊不明ナル件

日夕照呼

二一三〇日夕照呼異状ナシ

口達

左記要旨ノ口達ヲ照呼信ナス

一、爾今夜間勤務ハ原則トシテ禁止ス

又要ニヨリ勤務スル場合ハ所在ヲ口直

［以下略］

陸軍

⑩復員並居留民船舶輸送情報第七號［陸軍省交通部］（昭20・9・29）

復員並居留民船舶輸送情報第七號　昭二〇・九・二九　交通部

北支向船舶運航ニ關シ左記ノ如ク聯合國側ノ認可ヲ得タリ

船名	總噸數	速力	運航計畫	搭載物件	摘要
江島丸	六四三五	七	新潟發　十月三日 塘沽着　十月十日 塘沽發　十月十二日 門司着　十月十七日	新潟－塘沽　華人五千 塘沽－門司　邦人五千	
榮豐丸	六八〇〇	七	玉發　十月七日 三池發　十月十二日 釜山着　十月十四日 釜山發　十月十五日 塘沽着　十月二十日 塘沽發　十月二十二日 門司着　十月二十七日	玉－釜山　鮮人五千 三池－塘沽　滿人船員百 塘沽－門司　邦人五千	瀬戸内海機雷狀況ニヨリ日程ヲ變更スルコトアルヘシ
辰日丸	六八七三	七	新潟發　十月一日 小樽着　十月三日 小樽發　十月五日 塘沽着　十月十五日 塘沽發　十月十七日 門司着　十月二十一日	小樽－塘沽　華人五千 塘沽－門司　邦人五千	

備考

一、船内治安維持ノ爲米國憲兵乘船方交渉中（考慮ヲ約シアリ　乘船實現ノ見込ナリ）

二、塘沽ニ於ケル搭載邦人ノ選定ハ現地ニ一任セラル

配布先　二課・軍事課・軍務課・兵備課・衣糧課・補任課・戰備課・官房・大臣秘書官
次官秘書官
船司・一船司・内鐵・
留守業務部（三）
軍務一課・海總・船運・右末機關

電報　一〇五

陸軍省交通部長

通電先　威・支總・灣・船司・二總・北部軍（參考札幌地區鐵）

參考　一、五船司・釜山・大阪・神戸・伏木・室蘭・博多・青島・西部軍

交船電第四四號

神祐丸外配船豫定ノ件

左記豫定ヲ以テ配船スル如ク聯合國側ト交渉中ニ付準備進メラレ度

一、神祐丸　台灣人三千五百搭載

宇品十日發　崎戸十二日着　バンカー搭載

十四日發　基隆十九日着　台灣人揚陸　二十日發　マニラ二

五日發　邦人三千搭載　二十七日發　門司十一月七日着

二、信濃丸　鮮人三千五百搭載

室蘭十日發　釜山十四日着　鮮人揚陸　十五日發　廣東二十

一日着　邦人三千搭載　二十三日發　門司二十九日着

三、北鮮丸　伏木十日發　唐津十二日着　鮮人一千及バンカー搭載十四日

發　釜山十六日着鮮人揚陸　同日出發　青島十八日着　邦人

第四十八師團戰史資料竝終戰狀況

第四十八師團（「スンバワ」島「ポック」）

昭和二十年七月五日　師團長中將　山田國太郎

復員廳總裁殿

一、前言

第四十八師團戰史資料ハ停戰時其ノ大部ヲ上司ノ指令ニ基キ處分シ又殘部モ濠洲軍ニ提出セシヲ以テ正確ナル資料殆ド皆無ナリ依ツテ將兵ノ記憶ヲ綜合シ主トシテ「ナモール」島防衛作戰以降ヲ勉メテ詳細ナラシムルモノ記述シ「アイリツピン」又「ジヤワ」作戰ハ既提出資料ニ依リ得ベキヲ以テ概要ニ止メタリ

以下指定様式ニ依リ記述ス

二、行動經過ノ概要（別冊第一部隊略歷參照）

［中略］

ハ、第四十八師團ハ昭和十五年十二月三十日下令同月三十一日編成ヲ

ノ昭和十九年十一月頃於ケル在「ナモール」陸軍部隊ノ編成
装備ノ概要附表第一ノ如シ

2、将校職員表

イ、終戦時ニ於ケル隷指揮下部隊（陸軍）将校職員表（別州第二）
終戦後集結後ニ於ケル将校職員表別州第三ノ如シ

ロ、所属司令部ノ将校職員表附表第二ノ如シ

3、台湾人及朝鮮人ノ使役状況

イ、台湾人ハ編成当初ヨリ主トシテ司令部ニ於テ約一〇〇名
足ラス使役セシモ昭和十八年後半期ヨリ特別志願兵トシテ
到着セルモノ約四五〇名程度ナリ

ロ、朝鮮人ハ慰安幸者関係約五〇名程度ノ状況ナリ

4、現地住民ノ使役ハ概ネ五万名ニ達シ内約三千名ハ「ジャワ」人
「アンボン」人等ヨリ採用セラレタルモ兵補又「ナモール」島ニ於テハ
更ニ約五千名モ亦兵補ニ準ジ使役シ他ハ陣地及道路

楷築竝畏耕作業其ノ他雜用ニ使役セリ

編集復刻 韓国女性のためのアジア平和国民基金編
政府調査「従軍慰安婦」関係資料集成③
防衛庁関係公表資料(下)
一九九七年三月二十日 第一刷発行
揃定価 一〇〇、〇〇〇円(税別)

後藤乾一
編集代表 高崎宗司
和田春樹
装幀 三谷靱彦
発行者 北村正光
発行所 龍渓書舎
東京都板橋区南町43―4―一〇三
郵便番号一七三―〇〇二七
電話〇三―三五五四―八〇四五(代表)
FAX〇三―三五五四―八四四四
振替〇〇一三〇―一―七六一三三
印刷 勝美印刷 製本 岸田製本

検印廃止

ISBN4-8447-3474-1

編集復刻

(財)女性のためのアジア平和国民基金編

政府調査

「従軍慰安婦」関係資料集成④

国立公文書館所蔵資料
大英帝国戦争博物館所蔵資料
厚生省関係公表資料

龍溪書舎

目　次（第四巻）

一、国立公文書館〔大英帝国戦争博物館〕所蔵資料

【内閣・内務省関係】

一、渡支邦人暫定処理ニ関スル件〔内務省警保局長〕（昭16・8・16）……5
二、行政事務ノ整理簡捷化及中央官庁ノ権限ノ地方委譲等ニ関スル件
〔閣議決定〕（昭18・12・14）……27
三、第二次許可認可等行政事務簡捷化ニ関スル件〔閣議決定〕（昭19・1・6）……33
四、朝鮮総督府部内臨時職員設置制中改正ノ件〔閣議決定〕（昭19・7・12）……43

【軍関係】

一、恤兵金ノ処分ニ関スル件〔閣議決定〕（昭7・7・19）……133
二―(一)　衛生業務旬報〔混成第14旅団司令部〕（昭8・3・21～31）……159
二―(二)　衛生業務旬報〔混成第14旅団司令部〕（昭8・4・11～20）……167
二―(三)　衛生業務旬報〔混成第14旅団司令部〕（昭8・4・21～30）……173
二―(四)　衛生業務旬報〔混成第14旅団司令部〕（昭8・5・1～10）……183
二―(五)　衛生業務旬報〔混成第14旅団司令部〕（昭8・7・1～10）……197

二―(六)　衛生業務旬報［混成第14旅団司令部］（昭8・7・11～20）……203
二―(七)　衛生業務旬報［混成第14旅団司令部］（昭8・8・11～20）……211
三、満州事変陸軍衛生史第四巻［陸軍省］（昭10・8・1）……217
四、北支那竝満州国視察報告［工兵第4大隊中隊長］（昭9・3）……233
五、飛行第一二連隊長ニ与フル注意事項［関東軍司令部］（昭10・7・17）……241
六、陸軍軍事警察月報［北支那派遣軍憲兵隊司令部］（昭20・8・4）……247
七、駐屯地慰安所規定［「マンダレー」駐屯地司令部］（昭18・5・26）……281
八、第五野戦輸送司令部駐屯地業務規定［第5野戦輸送司令部］（昭18・10・3）……295
九、「マンダレー」駐屯地業務規定［第5野戦輸送司令部］（昭18・10・20）……305
一〇、「マンダレー」駐屯地勤務規定［第5野戦輸送司令部］（昭20・1・2）……321

二、厚生省関係公表資料

一、日本派遣南方軍最高司令官宛聯合国指令書第一号［仏領印度支那聯合国軍司令官］（昭20・9・7）……339
二、沖縄本島ノ状況［歩兵第22連隊附軍医大尉］（昭21・1・9）……341
三、南部セレベス賣淫施設（慰安所）調書［セレベス民政部第2復員班長］（昭21・6・20）……343

四、法務部（ＧＨＱ）少佐からの記録要求の件〔終戦連絡事務局連絡官〕（昭22・1・9）……361
五、「俘虜名票」に関する調査結果概要〔厚生省社会・援護局〕（平5・10・8）……363

国立公文書館
大英帝国戦争博物館 所蔵資料

内閣・内務省関係

昭和十六年

滿支外地渡航取締例規

国立公文書館	
分類	通 甲
排架番号	3 A
	15
	44 - 1

7

1

警保局外發甲第七二號

昭和十六年八月十六日

內務省警保局長

各廳府縣長官殿

渡支邦人暫定處理ニ關スル件

邦人ノ渡支ニ關シテハ昨年五月七日閣議決定ノ方針ニ基キ關係各省協議ノ上其ノ要領手續等決定實施中ノ處其ノ取扱數次ニ亘リ追加訂正セラレタル結果稍複雜化シタルニ依リ今般之ヲ整理統合シ別添ノ通「取扱要領」ヲ制定シタルニヨリ閣議決定「渡支邦人暫定處理ニ關スル件」ヲ基礎トシ爾今其ノ取扱方右ニ依リ實施相成度

追而左ノ各通牒ハ之ヲ廢ス

一、昭和十五年五月七日　警保局外發甲第三一號

渡支邦人暫定處理ニ關スル件

大阪府外事課 前 777號 昭和16 8 20

二、昭和十五年五月二十二日　警保局外發甲第三五號
渡支身分證明書發給調ニ關スル件
三、昭和十五年五月二十七日　警保局外發甲第四一號
青少年雇入制限令ノ適用ヲ受クベキ者ノ渡支取締方ノ件
四、昭和十五年六月一日　警保局外發甲第四四號
渡支邦人暫定處理ニ關スル件
五、昭和十五年八月十三日　警保局外發甲第七二號
渡支事由證明書樣式改正方ニ關スル件
六、昭和十五年九月十六日　警保局外發甲第七九號
渡支邦人暫定處理ニ關スル件
七、昭和十五年十二月二十三日　警保局外發甲第一一五號
渡支邦人暫定處理ニ關スル證明書樣式ニ關スル件

渡支邦人暫定處理ニ關スル件（昭和十五年五月七日閣議決定）

從來渡支者ニ對スル身分證明書ノ發給ニ關シテハ昭和十二年八月三十一日附米三機密合第三七七六號外務次官發各地方長官宛依命通牒「不良分子ノ渡支取締方ニ關スル件」ニ依リ取扱ヒ主トシテ本人ノ素性、經歷、平素ノ行動等ニ徴シ渡支後不正行爲ヲ爲ス虞ナキヤ否ヤヲ考慮ノ上其ノ虞ナキ者ニ限リ右證明書ヲ發給シツツアリシ處該制度實施以來客年十二月末迄ニ於ケル本邦人渡支者ノ延人員ハ五十九萬人ニ達スル狀態ナリ一方現地ニ於ケル圓系通貨（滯銀券、軍票等）ノ膨脹著シク之ガ價値維持ノ必要上極力是等圓系通貨ノ氾濫ヲ防止スルノ措置ヲ講ズルハ喫緊ノ要務ナル處此種通貨ノ氾濫ヲ防止スル手段ニ關シテハ各方面ニ渉リ夫々ノ見地ヨリ詳細ニ檢討考慮ヲ要スヘキコト勿論ナルモ上記ノ渡支者ニ於テモ夫々相當ノ邦貨ヲ携行シ現地ニ於テ圓系通貨ヲ放出スル次第ニテ其ノ額ハ一ケ年間概ネ一億圓ノ巨額ニ達スル實情ナルニモ鑑ミ此方面ヨリスル圓系通貨ノ膨脹ヲ防止スルコトモ亦極メテ緊要ナリ然ルニ是等個人又ハ團体ノ

中ニハ其ノ渡支ノ目的理由等ニ徴シ必ズシモ上述ノ如キ現地ノ切迫シタル實情ヲ無視シテ迄渡支セシムルノ必要ナキ者多々有之モノト認メラルルノミナラズ視察、慰問等ニ藉口スル不要不急ノ旅行客亦尠カラザル現狀ナルニ付テハ渡支身分證明書ノ發給ニ當リテハ鞏リ警察上ノ取締ニ止マラズ現地ノ實情ト睨ミ合セ在支圓系通貨放出制限ノ見地ヨリ不必要ト認メラルル邦人ノ渡支ハ極力制限スルコト適切緊要ナリ。

仍テ今後ハ從來ニ於ケル不良分子ノ取締ノ外概ネ別紙ノ取扱方針ヲモ併セ實施シ不要不急ノ目的ニ出ツル支那渡航ヲ禁止シ以テ國策ノ緊急性ニ即應スルコトト致度

「別紙」

取扱方針

一般ニ視察ヲ目的トスル支那渡航ハ當分ノ間之ヲ禁止スルコトトシ其ノ他特ニ支那渡航ヲ要スルモノニ對シテハ左記ニ該當スル場合ニ

限リ所轄警察署長ニ於テ身分證明書ヲ發給シ渡航セシムルモノトス
外地ニ於テモ本方針ニ準シ措置スルモノトス
本方針ハ支那現地ノ事態ノ許スニ到リタルトキハ速ニ之ヲ緩和スルモノトス

記

一、旅館（演藝又ハ演藝ニ依ル興行ヲ含ム）ノ爲渡支センントスル者ハ團体ヲ含ム）ニ就テハ陸海軍當局ノ證明ヲ得タルモノ
二、家事使用務ノ爲一時渡支センントスル者ニ就テハ在支關係者ノ所轄領事館警察署ノ證印ヲ押捺セル文書ヲ有スルモ
三、商取引ノ爲一時旅行センントスル者ニ就テハ在支關係會社、商店又ハ取引先ノ所轄領事館警察署ノ證印ヲ押捺セル文書ヲ有スルモノ
四、定住又ハ現地勤務ノ爲渡支センントスル者ニ就テハ行先地所轄領事館警察署ノ證印ヲ押捺セル文書ヲ有スルモノ又ハ在支陸海軍ノ發給シタル軍屬タルノ身分證明書（呼寄證明書ヲ含ム）ヲ有スルモノ
五、其ノ他ノ者ニシテ眞ニ已ムヲ得ザル事情アリト認メラルルモノ

秘

取扱要領

一、日本内地及外地ヨリ視察ヲ目的トスルモノニ非ズシテ特ニ支那渡航ヲ要スル一般邦人（朝鮮人、臺灣籍民ヲ含ム）ニ對シテハ左記ニ該當スル場合ニ限リ居住地所轄警察署長ニ於テ第一號樣式ノ渡支身分證明書ヲ發給ス

滿洲國在留者一時本邦ニ歸國シ支那ヲ經由歸滿セントスルトキ亦同ジ

(イ)慰問ノ爲渡支セントスル者ハ陸軍關係ニ在リテハ聯隊區司令部又ハ師團司令部（經理部）ヲ經由シ陸軍省恤兵部、海軍關係ニ在リテハ鎭守府、要港部又ハ地方海軍人事部ヲ經由シ海軍省軍務局第四課ニ各出願シ其ノ承認ヲ受ケ第二號樣式ニ依ル證明書ヲ下附セラレタル者

(ロ)近親者ノ葬儀及葬儀等眞ニ已ムヲ得ザル場合及本邦在學中ノ支那在住者ノ子女暑中休暇ヲ利用シ親許ニ赴ク者等家事用務ノ爲一時渡支セントスル者ニシテ在支關係者ノ所轄領事館警察署發

昭和一七、七、二九
事務局外発甲第七二号
ニヨリ改正ノ旨通牒

給ニ係ル第三號様式ニ依ル證明書ヲ所持スル者但シ支那在住者ノ妻子ニシテ本邦ニ居住スル者夫又ハ親許ニ一時渡支セントスル者ハ緊急ノ場合ノ外之ヲ認メザルモノトス

(ハ)在支關係會社商店又ハ取引先トノ間ニ現實ニ商行爲存在シ又ハ具体的ナル商業進出者ニシテ渡支セザレバ眞ニ處理シ難キ事情アル商取引ノ場合ニ於テ在支所轄領事館警察署發給ノ證明書ヲ所持スル者

但シ渡支後數領事館管轄地域ニ亘リ旅行セントスル者ハ其ノ一領事館警察署發給ノ證明書ヲ所持スルヲ以テ足ル

(ニ)半永久的ニ支那ニ居住シ具体的計畫ト所要ノ準備トヲ以テ一般實務ニ從事又ハ在支商社ニ勤務スル者及其ノ家族（内縁關係ニアル配偶者ヲ家事使用人ヲ含ム）ニシテ行先地所轄領事館警察署發給ノ證明書ヲ所持スル者

(ホ)現地軍ノ採用ニ係ル軍屬又ハ屬傭人ニシテ陸軍ニ在リテハ在支派遣高等司令部、憲兵隊及特務機關、海軍ニ在リテハ艦隊司令

及軍顧問（蒙古軍及北支中支南支軍顧問ノ謂ノ以下之ニ同ジ）

部、在勤武官、根據地隊司令部及特務部發給ニ係ル身分證明書ヲ所持スル者又ハ渡支後以上各軍關係ニ採用セラルル見込ノ者ニシテ當該軍發給ノ呼寄證明書ヲ所持スル者

(ヘ)現地軍ニ配屬セラルル軍屬又ハ軍雇傭人ニシテ陸海軍省ニ於テ採用セラレ陸軍省ニ在リテハ第四號樣式、海軍省ニ在リテハ第五號樣式ニ依ル證明書ヲ發給セラレタル者

(ト)現地勤務ノ軍屬又ハ軍雇傭人ノ家族呼寄ニヨリ渡支セントスル者ニシテ所屬部隊長發給ノ家族呼寄許可書ヲ所持スル者

(チ)從軍僧、從軍神官、從軍記者、從軍畫家等ノ從軍者ニシテ陸海軍省ノ發給スル從軍免許證ヲ所持スル者

(リ)家族ノ死亡、急病其ノ他之ニ準スベキ要急ノ際ニシテ所轄領事館警察署發給ノ證明書ノ下附ヲ受クル暇ナク眞ニ已ムヲ得ザル者

(ヌ)政治、經濟、文化的見地ヨリ事要處理ニ直接且積極的ニ關係アル者ニ就キ興亞院又ハ外務省ニ於テ關係官廳ト協議ノ上承認セ

ラレ興亞院ヨリハ第六號樣式、外務省ヨリハ第七號樣式ニ依ル證明書ノ發給ヲ受ケタル者

(ハ) 一時歸國中ノ在支邦人又ハ新規渡支者ニ與ヘラレタル在支帝國領事館發給ノ證明書ニ其ノ同伴者トシテ明記セラレタル者

但シ婚姻ノ爲一時歸國シタル者ノ身分證明書ニ「婚姻ノ爲歸國スル」ノ旨記載アリタルトキハ配偶者ノ氏名、年齡等ノ明記アルヲ要セズ

(ヲ) 本邦ニ於テ婦女（藝妓、酌婦、女給等）雇入ノ爲一時歸國シタル在支接客營業者ニ對シ與ヘラレタル在支帝國領事館警察署發給ノ證明書ニ雇入員數ヲ明記セル場合其ノ員數ニ相當スル被傭婦女

二、青少年雇入制限令ノ適用ヲ受クル者ニシテ雇傭セラレテ渡支センストスル者ニ對シ渡支身分證明書ヲ發給セントスル場合ニ於テハ前項ノ證明書ノ他ニ其ノ雇傭者ニ與ヘラレタル第八號樣式ニ依ル地方長官又ハ職業紹介所長發給ノ證明書ヲ必要トス

三、左記各號ニ該當スル渡支者ニ對シテハ警察署長渡支身分證明書ノ發給ヲ要セズ

(イ) 公務ノ爲派遣セラルル官公吏（日系及招聘官公吏ヲ含ム）其ノ他ノ者及現地赴任ノ官吏ノ家族使用人ニシテ永住ノ目的ヲ以テ官吏ノ任地ニ赴ク場合（派遣官廳（公吏ニ對シテハ廳府縣長官）ニ於テ發給セル第九號樣式ニ依ル身分證明書ヲ所持スル者

(ロ) 現役又ハ召集中ノ帝國軍人軍屬ニシテ制服ヲ着用スル者

(ハ) 現役又ハ召集中ノ帝國軍人軍屬制服以外ノ略服ヲ着用スル者ニシテ陸軍ニ在リテハ第一〇號樣式ニ依ル所屬隊長、海軍ニ在リテハ第一一號樣式ニ依ル所屬團長ノ發給スル身分證明書ヲ所持スル者

(ニ) 帝國政府發給ノ支那渡航旅券（臺灣籍民ニ對シ發給スル渡航證明書ヲ含ム）ヲ所持スル者

(ホ) 正規渡航者ノ同伴者ニシテ十五才未滿ノ者

(ヘ) 一時歸國中ノ在支邦人ニシテ在支帝國領事館發給ノ證明書ヲ所

押スル者但シ一時歸國中ノ者再渡支前證明書ノ有效期間ヲ經過シタル者ヲ除ク

四　領事館長ハ渡支身分證明書發給ニ關シテハ手數料ヲ徵收セザルモノトス

五　警察署長渡支身分證明書下附ノ出願アリタルトキハ第一二號樣式ニ依ル願書ヲ徵シ本人ノ身分、職業、渡航目的、期間、關係文書等ヲ調査シ左ノ通リ取扱フベシ

(イ)素性、經歷、平素ノ言動等不良ニシテ渡支後不正行爲ヲ爲スノ虞アル者ニ對シテハ渡支身分證明書ヲ發給セザルコト

(ロ)關係軍、官廳發給ニ係ル文書ヲ有スル者ニ關シ詐欺ノ方法ヲ以テ文書ノ交付ヲ受ケタル疑アリ又ハ身分關係ニ疑義アリ其ノ他特ニ阻止ヲ要スル場合ハ本省ニ稟議ノ上其ノ措置ヲ決スルコト

(ハ)取扱要領一ノ(リ)ニ該當スル者ニ對シ渡支身分證明書ヲ發給セントスルトキハ之ヲ證スルニ足ル資料等ヲ愼重精査ノ上決スルコト

(ニ)渡航ヲ阻止シタル場合ハ克ク渡航制限ノ趣旨ヲ徹底セシムルコト

(ホ)保釋中ノ者、刑ノ執行猶豫中ノ者、刑ノ執行停止中ノ者、假出獄中ノ者、其ノ他裁判(豫審又ハ公判)繫屬中ニシテ身柄不拘束ノ者等渡支ヲ出願シタル場合ハ關ノ所轄檢事局ト打合ノ上許否ヲ決定スルコト

(ヘ)關係軍、官廳ニ於テ發給シタル證明書及其ノ他參考書類ハ許否決定ト同時ニ返戻スルコト

(ト)陸海軍省ノ許可ヲ受ケタル從軍者及興亞院又ハ外務省ノ渡支承認書ノ下附ヲ受ケタル者ニ對シ渡支身分證明書ノ發給ヲ拒否カヘタルトキハ速ニ其ノ理由ヲ附シ本省ニ報告スルコト

(チ)取扱要領ニ依ル第八號樣式證明書所持者ニ對シ身分證明書ノ發給ヲ拒否シタル場合ハ之ヲ發給シタル[redacted]所長ニ證明書ノ番號及氏名ヲ通報スルコト

(リ)年令十二年以上三十年未滿ノ男子及年令十二年以上二十年未滿ノ女子渡支セントスル場合ハ「青少年關入制限令」及同關係法

令ノ適用ノ有無ニ關シ調査ヲ爲スコト

(ヌ) 取扱要領一ノ(ヲ)ニ該當スル在支接客營業者ノ本邦ニ於テ雇入レタル婦女ニ對シ渡支身分證明書ヲ與ヘントスル場合ハ各警察署毎ニ營業者ノ所持スル在支領事館警察署發給ノ證明書ニ其ノ發給セシ員數ヲ記入シ署印ヲ押捺スルコト

取扱要領一ノ(ル)但書ニ該當スル配偶者ニ對シ渡支身分證明書ヲ與ヘントスル場合ハ婚姻ノ爲一時歸國シタル者ノ所持スル在支領事館警察署發給ノ證明書ニ配偶者ノ氏名、年令ヲ記載シ署印ヲ押捺スルコト

(ル) 十五才未滿ノ同伴者ハ之ヲ世帶主其ノ他ノ引卒者ノ渡支身分證明書ニ併記シ寫眞ハ之ヲ省略スルコト

(ヲ) 關係庫、官廳團体ニ對シ證明書ノ下附ヤリタルトキハ第一三號樣式ニ依ル團体渡支身分證明書ヲ發給スルコト

(ワ) 渡支身分證明書再下附ノ出願アリタル場合ハ雙ニ發給シタル警察署ニ願人ノ寫眞ヲ添附照會ノ上事實並相違ナキトキニ限リ再

下附ヲ爲スコト

(カ)一時歸國中ノ在支邦人ニシテ在支帝國領事館發給ノ證明書ヲ所持スル者再渡支前證明書ノ有效期間ヲ經過シタル爲證明ヲ出願シタルトキハ其ノ遲延ニ付正當ノ理由アル場合ニ限リ居所又ハ出發港（航空機ノ出發地ヲ含ム）所轄警察署長ハ其ノ所持スル在支帝國領事館發給ノ證明書ニ奥書證明ヲ爲スコト

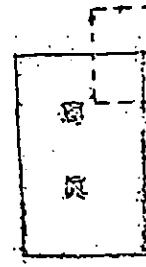
六、出發港又ハ航空機ノ出發地所轄警察署長ハ正規ノ手續ニ依ラズ又ハ一時歸國者ニシテ證明書ノ有效期間ヲ失シタル者ヲ發見シタルトキハ乘船又ハ搭乘ヲ阻止スルコト

證明書ノ發給手續ニ環境アリト認メラルル場合ハ甚大ナル支障ナキ限リ之ヲ發給シタル關係方面ニ通報シ注意ヲ喚起スルニ止メ其ノ乘船又ハ搭乘ヲ阻止セザルコト

七、警察署長ノ發給セル渡支身分證明書ニ關シテハ第一四號樣式ニ依リ毎月末日現在ヲ以テ調査シ翌月十日迄ニ本省ニ報告ノコト

第一號樣式

渡支身分證明書



本籍
現住所
職業

氏名
生年月日

一、支那へ渡航ヲ必要トスル
目的
理由
期間

右證明ス

年　月　日

警察署長官　氏　名　印

第十一號樣式（海軍省ノ分）

身分證明書

官氏名
年月日生

右ハ　ノ爲渡支スルモノナリ

右證明ス

昭和　年　月　日

廳長　氏　名　印

第十二號樣式

渡支身分證明書下附願

寫眞

一、本籍

二、現住所

三、職業

四、氏名（及別名）　　年　月　日生

五、兵役關係

六、支那ニ渡航ヲ必要トスル目的理由

七、渡航ノ經路及行先地

八、期間　自昭和　年　月　日　至昭和　年　月　日

九、關係軍官廳發給證明書

一段支那ニ居住セシ事實

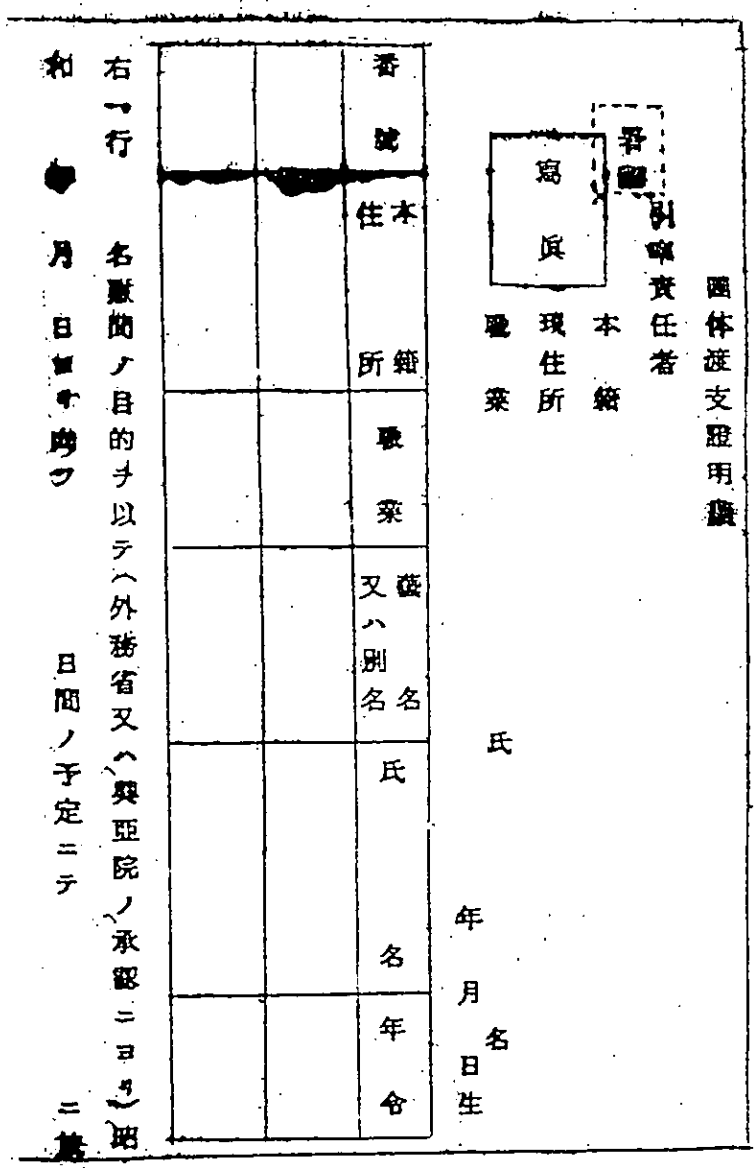
右之通ト相違無之候條渡支身分證明書發給相成度此段及御
願候也

昭和　年　月　日

右　氏名　印

警察署長　殿

第十三號様式



團体渡支證明書

署印

寫眞

引率責任者

本籍

現住所

職業

氏名

年月日生

番號	本籍住所	職業	藝名又ハ別名	氏名	年令

右一行　名數間ノ目的ヲ以テ（外務省又ハ興亞院ノ承認ニヨリ）昭和　年　月　日ヨリ向フ　日間ノ予定ニテ　ニ旅

閣甲第四八二號

起案	昭和十八年十二月 日	閣議決定	昭和十八年十二月十四日
		裁可	昭和 年 月 日
		施行	昭和 年 月 日

内閣總理大臣	内閣書記官長	法制局長官	内閣書記官

外務大臣	内務大臣	大藏大臣	陸軍大臣
海軍大臣	司法大臣	文部大臣	厚生大臣
大東亞大臣	農商大臣	鐵道大臣	運輸通信大臣
岸國務大臣	大麻國務大臣	後藤國務大臣	藤原國務大臣

別紙

行政事務ノ整理簡捷化及中央官

廳ノ權限ノ地方委讓等ニ關ス
ル件
右閣議ニ供ス

昭和十八年十二月十四日
閣議決定

行政事務ノ整理簡捷化及中央官廳ノ權限ノ
地方委讓等ニ關スル件

首題ノ件ニ關シテハ關係各廳及地方行政協議會長ヨリ夫々別冊ノ通意見ノ提出アリタル處右ノ內◎印ノモノハ至急實施スルヲ適當ト認メラルルヲ以テ各廳ハ速ニ實施ノ措置ヲトルコト

追テ右實施ヲ爲スベキモノノ種類別件數ハ別表ノ通

內閣

官廳事務ノ簡素化等調

計	3	2							1			
		計	ヘ	ホ	ニ	ハ	ロ	イ	計	ロ	イ	
29	6	6		1				5	17	7	10	内閣
3									3	2	1	外務
219	24	193	7	26	65		8	87	2		2	内務
532	97	310		5	257		8	40	125	40	85	大蔵
8	6	2						2				陸軍
6	3	2						2	1	1		海軍
8	1	2	1		1				5	5		司法
73	31	40		2	4		18	16	2		2	文部
155	56	81	2	6	21		13	39	18	9	9	厚生
												大東亜
491	115	340		29	120	1	77	113	36		36	農商
243	33	199	34	1	122		3	39	11	1	10	軍需
167	80	62	2	1	26	3	27	3	25	12	13	運輸通信
2									2	2		会計検査院
1									1		1	賓府院
1									1		1	衆議院
1838	452	1237	46	71	616	4	154	346	249	79	170	計

乙號

厚生省關係事項

件名	協議會長側ノ要望意見	厚生省ノ措置意見	備考
◎ 一、汚物處分手數料條例ノ認可	委議	委議スルモノトス	○
× 一、國民醫療法ノ施行規則第八條ニ依ル醫籍又ハ齒科醫籍ノ訂正	委議	醫籍及齒科醫籍ハ厚生省ニ備ヘオクモノナルヲ以テ、之ガ訂正ノミヲ委議スルコトハ困難ナリト認ム	
◎ 一、勤勞官理ニ關スル指導統轄事務等ヲ地方廳ニ一元		勞務官事務所ハ十一月一日ヲ以テ之ヲ廢止セリ	

一、目的内ヲ採用地域トスル一般青壯年ノ追加求人物當ニ關スル大臣ノ權限(勞務調整令ニ依ルモノ	委讓	考究ノ上委讓スルモノトス
一、文部省直轄學校報國隊ニ對スル出動命令	委讓	文部省ト協議ノ上考究スルモノトス
一、軍慰安所ニ於ケル酌婦女給等ノ雇人就職ノ認可ニ付テノ厚生大臣ヘノ稟伺(勞務調整令ニ依ルモノ)	委讓	稟伺ハ之ヲ廢止シ地方長官限リニテ爲サシムルモノトス
一、工場法戰時特例ニ依リ六	委讓	委讓シ難キモノト認ム

〔以下略〕

③第二次許可認可等行政事務簡捷化ニ關スル件「閣議決定」（昭19・1・6）

閣甲第三號

起案 昭和十九年一月六日

閣議決定 昭和 年 月 日

裁可 昭和 年 月 日

施行 昭和 年 月 日

內閣總理大臣

內閣書記官長

內閣書記官

法制局長官

外務大臣

海軍大臣

大東亞大臣

內務大臣

司法大臣

農商大臣

大藏大臣

文部大臣

軍需大臣

陸軍大臣

厚生大臣

運輸通信大臣

別紙第二次許可認可等行政事務

簡捷化ニ關スル件

右閣議ニ供ス

第二次許可認可等行政事務簡捷化ニ關スル件

一、地方廳ニ於ケル許可認可等行政事務簡素化要望事項ニ付關係各廳ヨリ夫々意見ノ回答アリタルガ右ノ中各省（廳）ニ於テ實施ヲ可トスル事項トシテ回答アリタル別冊調書所掲ノ各事項ハ各簡素化措置補其ノ他ニ記載ノ通リ各廳ニ於テ速ニ之ガ實施ノ措置ヲ執ルモノトス。

二、前項簡素化ノ實施ニ付テハ別冊調書ニ備考トシテ各省（廳）ノ意見ヲ記載シアル事項ハ差當リ夫々右ノ意見ノ如ク處理スルモノトス。

追テ本件簡素化實施ノ種類別件數別冊附表ノ通

關係廳庁通牒ニハ追書ヲ附セザルコト

六　厚生省関係

一、許可認可事項

事項	根據法令	處分行政廳	簡素化措置	理由
1 傷痍軍人職業再教育ノ爲ニスル學資給與許可	（昭和一三、八、一二）（昭和一六、三、二九）厚生事務局長通牒	知事	手續簡易化	手續中簡素化ノ要アルモノアリト認ム
2 國立公園專用特許	國立公園法第四條第二項	厚生大臣	知事ニ委任	
3 貯蓄金管理方法認可	工場法施行令第二十五條	知事	廢止	
4 試驗備期間延長許可	同第二十七條ノ二、第三項	同	同	
5 徒弟收容許可	同第二十八條第四號	同	同	
6 退職積立金積立免除許可	退職積立金及退職手當法第十一條第二項	知事	廢止	勞働者年金保險法ニ吸收スルコト
7 利益金免除許可	同第十七條但書	同	同	同
8 準備積立金規程許可	同第三十條第一項	同	同	同
9 任意適用許可	同第三條第一項	同	同	同

（厚、許1）

二、稟議事項

事項	根據法令	稟議先	申請者	簡素化措置	理由
1 無醫村診療所位置變更及同醫業報酬額變更ノ稟議	昭和十二年六月一日衛第五六號次官通牒	厚生大臣	知事	廢止	廢止スルモ支障ナキモノト認ム
2 國民體力法第十二條ノ二ノ規定ニ依ル指示ニ關スル承認	國民體力法施行規則第十一條ノ二	厚生大臣	知事	稟議廢止	年度初ニ豫算配付セラルルナラバ事前承認ヲ受ケサルモ可ナリト認メラル
3 私立看護婦學校看護婦講習所指定ニ關スル稟議	大正四年九月內務省發第一三二號私立看護婦學校看護婦講習所指定ノ際稟議方ニ關スル件	厚生大臣	知事	廢止	指定標準ニ基キ知事指定スルモノニ付稟議ヲ廢シ支障ナシト認ム
4 國立公園監理專任職員昇給事前協議ノ件	昭和十四年八月三十日體發第一八六號厚生省體力局長通知	厚生省人口局長	同	協議廢止	事務簡捷ノ爲

5	醜和事業專務職員設置ニ關スル稟議	昭和十四年八月八日發社第七六號社會局長通牒	生活局長	同	稟議廢止	廢止スルモ支障ナキモノト認ム
6	醜和事業指導職員配置ニ關スル稟議	昭和十六年三月十九日發社第三五號社會局長通牒	社會局長	同	稟議廢止	同
7	方面事業指導職員設置ニ關スル稟議	昭和十二年四月八日發社第三六號社會局長通牒	生活局長	知事	同	同
8	[redacted]慰安所的必要ニ依リ的婦女給ヲ雇入レノ場合	昭和十六年十二月十六日厚生省役徴第一八六號厚生次官ヨリ各地方長官宛通牒	厚生大臣	縣	縣内ニ限リ稟議ヲ要セス	事務ノ敏速簡素ヲ圖ル爲
9	屠芥處理場許可ノ事前打合	汚物掃除法施行規則第五條 昭和十四年四月二十六日衛發第一七八號衛生局長通牒	厚生大臣	同	同	

〔以下略〕

二

④朝鮮總督府部内臨時職員設置制中改正ノ件［閣議決定］（昭19・7・12）

内甲一九一

昭和十九年七月六日　内閣書記官長　内閣書記官

内閣總理大臣　法制局長官

閣議承認濟

外務大臣	海軍大臣	大東亞大臣	岸國務大臣
内務大臣	司法大臣	農商大臣	大麻國務大臣
大藏大臣	文部大臣	軍需大臣	後藤國務大臣
陸軍大臣	厚生大臣	運輸通信大臣	藤原國務大臣

別紙　内務大臣請議朝鮮總督府部内臨時職員設置制中改正ノ件

法制局

枢密院第七九號

ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ請議ノ通閣議決定セラレ可然ト認ム

勅令案

呈案附箋ノ通

（起案用紙甲三ノ一號）

法制局

主任者　管理局橋爪總務課長

内務省朝管第一六〇號

朝鮮總督府部内臨時職員設置制中改正ノ件

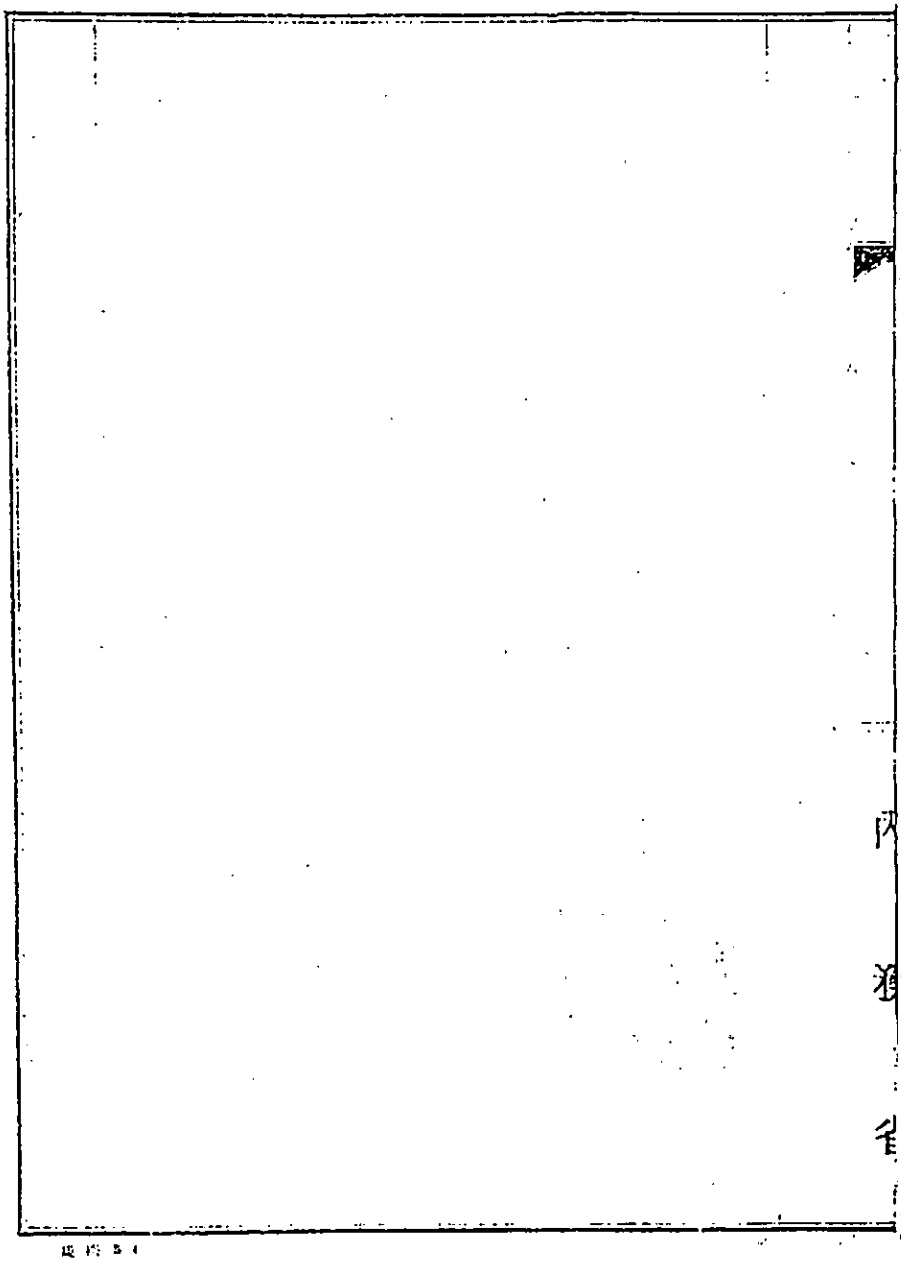
朝鮮ニ於ケル諸般行政事務ノ進展ニ伴ヒ之ガ關係職員ヲ増員スルノ要アルニ依リ朝鮮總督府部内臨時職員設置制中改正ノ必要ヲ認ム仍テ別紙勅令案ヲ提出ス

右閣議ヲ請フ

昭和十九年六月二十七日

内務大臣　安藤紀三郎

内閣總理大臣　東條英機　殿



朝鮮總督府部内臨時職員設置制中改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公
布セシム

御名御璽

昭和十九年七月十一日

内閣總理大臣

内務大臣

勅令第四百五十五號

朝鮮總督府部內臨時職員設置制中左ノ通改正ス

第一條第七號ヲ左ノ如ク改ム

七　戰時特殊損害保險ニ關スル事務ニ從事スル者

同條第八號中「技師　專任五人」ヲ「技師　專任六人」ニ、「技手　專任十三人」ヲ「技手　專任十四人」ニ改ム

同條第三十二號中「屬　專任三人」ヲ「屬　專任五人」ニ改ム

同條第三十三號中「事務官　專任三人」ヲ「事務官　專任四人」ニ、「屬（技手）　專任十八人」ヲ「屬（技手）　專任二十人」ニ改ム

第三條第四號中「審部　專任四十二人」ヲ「審部　專任四十五人」

［中略］

ニ、「警部補　專任百四十人」ヲ「警部補　專任百四十七人」ニ改ム

同條第十二號中「屬　專任十二人」ヲ「屬　專任十七人」ニ改ム

同條第十三號中「理事官　專任二人　屬　專任百六十八人」ヲ「理事官　專任六人　屬　專任百七十四人」ニ改ム

第四條第四號ヲ左ノ如ク改ム

四　國民徵用ニ關スル事務ニ從事スル者

［中略］

理由

戰時特殊損害保險、燃料選鑛、軍事援護、貯蓄奬勵、經濟警察、國民徵用、ニ關スル事務ニ從事セシムル爲總督府ニ事務官一人技師一人屬五人技手人ヲ、道ニ理事官四人屬十五人警部三人警部補七人ヲ、府郡島ニ理事官一人屬二十四人ヲ增員スルノ要アルニ依ル

[中略]

屬　　專任十五人

同條ニ　　號ヲ加フ

九　貯蓄奬勵ニ關スル事務ニ從事スル者

理事官　　專任一人

屬　　專任九人

員、外郎蓄奬勵ニ關スル事務ニ從事セシムル爲京城府ニ理事官專任一人ヲ置ク

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

説明

一、鉱料選鍊研究ニ關スル事務ニ從事スル者ノ增員

技師　一人

技手　一人

決戰下「コバルト」、「リシウム」、「鋼素」ハ各種兵器ノ重要資材タルノミナラズ醫療方面ニモ極メテ貴重ナル資源ニシテ朝鮮內各地ニ相亞ギ發見セラレ其ノ量相當豐富ニ賦存セルコト判明セリ依ツテ之ガ選鍊方途ヲ確立シ資源ノ確保ヲ圖ランガ爲技師一人技手一人ヲ增員セントス

二、軍事扶助、傷痍軍人ノ保護、職業紹介其ノ他軍事援護等ニ關スル事務ニ從事スル者ノ增員

總督府關　二人

道　關　五人

昭和十九年度ヨリノ朝鮮人ニ對スル徵兵制度ノ實施ニ伴ヒ軍事援

內務省

護事務ノ激增ト朝鮮人家庭ニ對スル徵兵制度ノ眞精神徹底ノ適正ヲ期スル爲總督府ニ屬二人、京畿道、全羅南道、慶尙北道、慶尙南道、平安北道ニ夫々屬一人宛ヲ增員シ事務ノ適切ナル遂行ヲ期セントス

三、貯蓄奬勵ニ關スル事務ニ從事スル者ノ增員

總督府事務官	一人
屬	二人
道理事官	四人
屬	六人
府理事官	一人
屬	九人

朝鮮ハ內地ニ比シ所得ノ割ニ扶養人口多ク又一般ニ民度低キ爲國策ノ滲透啓發、貯蓄勸奬等ニハ豫想以上ノ困難ヲ伴ヒ昭和十九年度ニ於ケル貯蓄目標額十八億圓（十八年度十二億圓）ノ達成ニハ

一層個別的且綿密的指導督励ヲ行フノ要アルヲ以テ總督府ニ事務官一人國二人、道及主要都市ノ實情ニ應ジ道理事官四人、道國六人及府理事官一人府國九人ヲ增置セントス

四戰時特殊損害保險ニ關スル事務ニ從事スル者ノ增員

總督府國　一人

朝鮮ニ於ケル戰時特殊損害保險法ノ施行ニ伴ヒ事務ノ內容著シク擴張セラレタル處戰爭保險臨時措置法實施ノ際ニハ專任職員配置セザリシヲ以テ著增スベキ事務ノ圓滑迅速ナル處理ヲ期スル爲專任ノ國一人ヲ增置セントス

五國民徵用ニ關スル事務ニ從事スル者ノ增員

道國　四人

郡國　十五人

戰局ノ進展ニ伴ヒ朝鮮內勞務事情ハ近時逼迫ノ度ヲ加ヘ所要勞務者確保ノ爲ニハ國民徵用令ヲ全面的ニ發動スルノ要アルヲ以テ從

來勞務給源トシテハ比較的重要視セラレザリシ西北鮮四道ニ道屬各一人及郡屬十五人ヲ增置以テ國民徵用ノ實施ニ遺憾ナキヲ期セントス

六、經濟統制ニ伴フ警察事務ニ從事スル者ノ增員

道　警　部　三人

道　警部補　七人

朝鮮ニ於ケル戰力增強上ノ溢路就中勞務ノ不足乃至稼働率ノ低位、移動ノ頻發等ニ對シ積極的施策ヲ進メ之ガ實效ヲ擧グル爲ニハ警察ノ有スル強力ナル組織網ト實踐力ヲ以テ指導協力スルノ要アルヲ以テ重要ト認メラルル京畿、平南、咸北ノ三道ニ道警部、全南慶南北、黃海、平北、咸南ノ七道ニ道警部補各一人ヲ增置シ第一線ニ於ケル經濟警察機構ノ充實ヲ圖リ計畫生產ノ完遂ト治安維持ニ萬遺憾ナキヲ期セントス

（参照）　（朝鮮総督府部内臨時職員設置制）

七　削除

八　燃料選鉱研究ニ関スル事務ニ従事スル者

技師　専任五人

属　専任一人

技手　専任十三人

三十二　軍事扶助、傷病軍人ノ保護、職業紹介其ノ他軍事援護ニ関スル事務ニ従事スル者

属　専任三人

三十三　物価調整及貯蓄奨励ニ関スル事務ニ従事スル者

書記官　専任一人

事務官　専任三人

理事官　専任三人

技師　専任三人

（属　技手）　専任十八人

第三節　朝鮮総督府道ニ左ノ職員ヲ置ク

四　経済統制ニ伴ヲ警察事務ニ従事スル者

警視　専任十人

警部　専任四十二人

技手　専任十一人

警部補　専任百四十人

十二　軍事扶助、傷病軍人ノ保護、職業紹介其ノ他軍事援護ニ関スル事務ニ従事スル者

属　専任十二人

十三　物資需給調整並ニ物価調整及貯蓄奨励ニ関スル事務ニ従事スル者

理事官　専任二人

（属　技手）　専任百六十八人

二十三　国民徴用ニ関スル事務ニ従事スル者

属　専任九人

第四節　朝鮮総督府部島ニ左ノ職員ヲ置ク

四　削除

八　物資需給調整ニ関スル事務ニ従事スル者

属　専任百二十五人

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

左ノ勅令ハ之ヲ廃止ス

明治四十四年勅令第八十二號

明治四十五年勅令第二十三號

大正二年勅令第九十九號

大正七年勅令第三十七號

大正七年勅令第三百七十一號

大正八年勅令第百三十七號

大正八年勅令第百五十五號

大正八年勅令第百五十六號

大正八年勅令第二百四十一號

昭和十九年度内務省所管朝鮮總督府特別會計
歲入歲出豫定計算書各目明細書（抄）

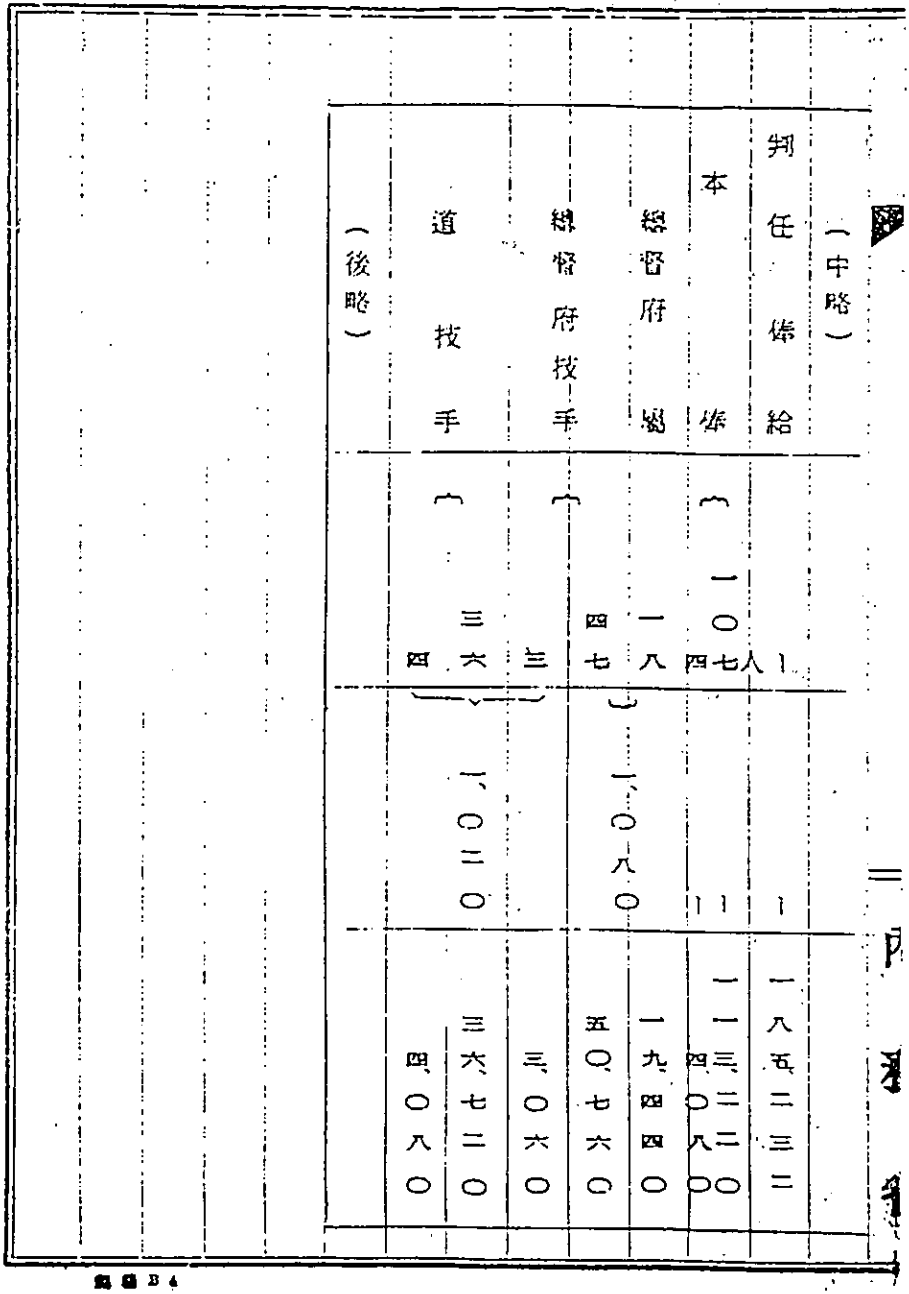
歲出臨時部

第四款　朝鮮臨時行政諸費

第三項　調査及研究費　二、三八七、六九五圓

目	十九年度豫定額	十八年度豫定額	比較増△減
俸給	二六九、九六〇圓	二七四、二八八圓	△四、三二八圓

區別	員數	單位俸額	金額
奏任俸給	一	一	八四、七二八圓
本俸	二〇人	一	六〇、五二〇
總督府事務官	一	三、三六〇圓	三、三六〇
總督府技師	一四	三、〇〇〇	三三、六〇〇
	一	二、八〇〇	二、八〇〇



（中略）					
判任俸給	一	一	一	一八五、二三二	
本俸	一〇七四人	一一	一一三、二二〇	四〇八〇	
總督府屬	一八四七	一、〇八〇	一九、四四〇	五〇、七六〇	
總督府技手	三		三、〇六〇		
道技手	三六四	一、〇二〇	三六、七二〇	四、〇八〇	
（後略）					

昭和十九年度内務省所管朝鮮總督府特別會計

歳入歳出豫定計算書各目明細書（抄）

歳出臨時部

第四款　朝鮮臨時行政諸費

第十八項　軍事援護費　四一一、八三二圓

目	十九年度豫定額	十八年度豫定額	比較増△減
一俸給	五五、二九六圓	三九、七四四圓	一五、五五二圓

區別	員數	單位額	金額
判任俸給	人	圓	五五、二九六圓
本府	三二	一	三四、五六〇
總督府	五	〃	五四〇〇
道	一九	一、〇八〇	二〇、五二〇
府	八	六	八、六四〇

昭和十九年度內務省所管朝鮮總督府歲入歲出

追加豫定計算書各目明細書（抄）

歲出臨時部

第四款　朝鮮臨時行政諸費

第七項　貯蓄奬勵費　二〇〇、九五二圓

一俸給　六五、四九六

奏任俸給	一	一	二四、〇二四圓
本俸	一	一	一七、一六〇
總督府事務官	一	三、三六〇	三、三六〇
道理事官	四	二、七六〇	一一、〇四〇
府理事官	一		二、七六〇
加俸	一七、一六〇圓	十分ノ四	六、八六四
判任俸給	一	一	四一、四七二

本俸	一	一	二五、九二〇	
總督府屬	二人	一	二、一六〇	
道屬	一二	一、〇八〇	一二、九六〇	
府屬	一〇		一〇、八〇〇	
加俸	二五、九二〇圓	十分ノ六	一五、五五二	

昭和十九年度內務省所管朝鮮總督府特別會計

歲入歲出追加豫定計算書各目明細書（抄）

歲出臨時部

第四款　朝鮮臨時行政諸費　一一、九三六、七四三圓

第一項　總動員業務其ノ他諸費　一七、一五二

目	十九年度追加豫定額
一俸給	一、七二八圓

區別	員數	單位費額	金額
判任俸給	一人		一、七二八圓
本俸（總督府屬）		一〇八〇圓	一、〇八〇
加俸	一、〇八〇	十分ノ六	六四八

昭和十九年度内務省所管朝鮮總督府特別會計

歳入歳出豫定計算書各目明細書（抄）

歳出臨時部

第四款　朝鮮臨時行政諸費

第十項　國民動員費　三、二四八、五〇二圓

目	十九年度豫定額	十八年度豫定額	比較増△減
一俸給	八〇〇、一九八圓	七六〇、四五四圓	三九、七四四圓

區分	員數	單位俸額	金額
（前略）			
本俸	三一八〇人	一一	三五、二〇八圓
總督府屬	一四	一、〇八〇	一五、一二〇
道屬	四六		四九、六八〇
（中略）			

屬	府	五四	一、〇八〇	五八、三二〇
屬	郡	一八七	二〇、九四〇	
屬	島	一	一、〇八〇	

（後略）

昭和十九年度内務省所管朝鮮總督府特別會計

歲入歲出豫定計算書各目明細書（抄）

歲出臨時部

第四款　朝鮮臨時行政諸費

第九項　經濟統制費　六、二一二、七五五圓

目	十九年度豫定額	十八年度豫定額	比較增△減
一　俸給	三、〇二七、八二八圓	二、八六四、五七〇圓	一六三、二五八圓

（前略）

道督部	四五人	一、〇八〇圓	四八、六〇〇圓	
（中略）				
道督部補	一四七	七二〇	一〇五、八四〇	
（後略）				

朝鮮總督府部内臨時職員設置制（抄）

印ハ改正ノ箇所ヲ示ス

第一條　朝鮮總督府ニ左ノ職員ヲ置ク

戰時特殊損害保險ニ關スル事務ニ從事スル者

七　削除

顧　專任一人

八　燃料選鑛研究ニ關スル事務ニ從事スル者

技師　專任五人　六

事　專任一人

十四

技手　專任十三人

三十二　軍事扶助、傷痍軍人ノ保護、職業紹介其ノ他軍事援護ニ關ス

ル事務ニ從事スル者

隔　　專任三人　五

三十三　物價調整及貯蓄奬勵ニ關スル事務ニ從事スル者

書記官　　專任一人

事務官　　專任三人　四

理事官　　專任三人

技師　　專任三人

職　　二十

技手　　專任十八人

第三條　朝鮮總督府道ニ左ノ職員ヲ置ク

四　經濟統制ニ伴フ警察事務ニ從事スル者

警視　　專任十人

醫部	專任	四十五 四十二人
技手	專任	十一人
醫部補	專任	百四十七 百四十人

十二　軍事扶助、傷痍軍人ノ保護、職業紹介　其ノ他軍事援護ニ關スル事務ニ從事スル者

廳	專任	十七 十二人

十三　物資需給調整並ニ物價調整及貯蓄奬勵ニ關スル事務ニ從事スル者

理事官	專任	六 二人
廳 技手	專任	百七十四 百六十八人

二十三　國民徴用ニ關スル事務ニ從事スル者

十三

屬　專任九人

第四條　朝鮮總督府府部島ニ左ノ職員ヲ置ク

國民徴用ニ關スル事務ニ從事スル者

四　削除

屬　專任十五人

八　物資需給調整ニ關スル事務ニ從事スル者

屬　專任百二十五人

九　貯蓄奬勵ニ關スル事務ニ從事スル者

理事官　專任一人

屬　專任九人

定員增員表

官署別	事項別	官職	現在官制定員	增員	改正官制定員
本府	戰時特殊損害保險	屬	〇	一	一
	燃料選鑛研究	技師	五	一	六
		技手	一三	一	一四
	軍事扶助等	屬	三	二	五
	貯蓄奬勵	事務官	三	一	四
		屬	一八	二	二〇
		技手	十八	十	十〇
	警察統制ニ伴フ警察事務	警部	四二	三	四五
		警部補	一四〇	七	一四七

道					府郡島		
軍事扶助等	貯蓄獎勵			國民徵用	國民徵用	貯蓄獎勵	
屬	理事官	屬	技手	屬	屬	理事官	屬
一二	二	一六八		九	〇	〇	〇
五	四	六		四	一五	一	九
一七	六	一七四		一三	一五	一	九

說明資料

説明資料目次

第一　燃料還鎖研究ニ關スル事務ニ從事スル者ノ增員說明
第二　軍事扶助、傷痍軍人ノ保護、職業紹介其ノ他軍事援護ニ關スル事務ニ從事スル者ノ增員說明
第三　貯蓄奬勵ニ關スル事務ニ從事スル者ノ增員說明
第四　戰時特殊損害保險ニ關スル事務ニ從事スル者ノ增員說明
第五　國民徵用ニ關スル事務ニ從事スル者ノ增員說明
第六　經濟統制ニ伴フ警察事務ニ從事スル者ノ增員說明

［中略］

第五　國民徴用ニ關スル事務ニ従事スル者ノ増員説明

國民徵用ニ關スル事務ニ從事スル者ノ增員說明

道　局　四人

郡　局　十五人

緊迫セル現時局下ニ於テ朝鮮ニ負何セラレタル各種重要物資生產ノ飛躍的增強ニ伴フ勞務需要ノ急激ナル增加ト戰局ノ進展ニ應ジ內地其ノ他鮮外供出勞務者ノ著增等ニ依リ鮮內勞務事情ハ近時逼迫ノ度ヲ加ヘ所要勞務ノ確保極メテ困難ト爲リタルニ鑑ミ朝鮮ニ在リテハ從來一部特殊ノモノヲ除キ殆ンド發動セザリシ國民徵用令ヲ全面的ニ發動シ勞務要員ノ圓滑ナル充足ヲ圖ルコトトシタル處勞務給源トシテ比較的重要視セザリシ西北鮮四道ニ於テモ勞務供出ヲ強化スル爲此等四道ニ道局各一人增員シ以テ國民徵用ノ實施ニ遺憾ナキヲ期スルノ要アリ

同父勞務關係諸法令及勞務需給調整ノ爲ノ行政措置ハ總テ府郡島ニ於テ實際的ニ處理運用セラレツツアルカ從來之ニ對スル職員ノ設置ハ極メテ少數ニシテ殊ニ西北鮮四道ノ郡ニ在リテハ勞務關係職員未設置ノ所多ク事務執行上遺憾ノ點尠カラザリシ處今回更ニ敍上ノ通國民徵用ノ擴大實施ニ伴ヒ第一線行政擔タル郡ノ事務ハ著シク增高シ現在ノ狀態ニ於テハ到底之ガ萬全ヲ期シ難キニ付郡屬十五人ヲ增員シ國民徵用

圖常ナル實施ヲ圖ラントス

道府員職員ノ事務分掌表

分掌事項

一 國民徵用令ノ周知徹底ニ關スル事項

二 工場事業場ノ指定ニ關スル事項

三 徵用、徵用變更、徵用解除ノ請求又ハ申請ノ審査ニ關スル事項

四 出頭命令書、徵用令書、出頭變更令書、徵用取消令書、徵用解除令書ノ交付ニ關スル事項

五 出頭者ノ檢査又ハ調査ニ關スル事項

六 出頭職員ノ支給ニ關スル事項

七 管理工場又ハ指定工場ニ於ケル被徵用者ノ給與ニ關スル事項

八 管理工場又ハ指定工場ニ於ケル被徵用者ノ從業條件ニ關スル事項

九 徵用セラルベキ者及被徵用者ノ醵成ニ關スル事項

一〇 被徵用者ノ勞務管理ニ關スル事項

一一 徵用扶助並被護ニ關スル事項

一二 國民徵用ニ關スル諸調査統計ニ關スル事項

分掌職員

周一

都增員職員ノ事務分擔表

分擔事項	分擔職員
一 國民徵用令ノ周知徹底ニ關スル事項	
二 徵用セラルベキ者ノ調査登錄ニ關スル事項	
三 出頭命令書、徵用令書、出頭變更令書、徵用取消令書ノ交付ニ關スル事項	
四 徵用セラルベキ者ノ銓衡及出頭者ノ檢査又ハ調査ニ關スル事項	
五 出頭旅費ノ支給ニ關スル事項	
六 徵用者ノ輸送引率ニ關スル事項	
七 徵用扶助並援護ニ關スル事項	
八 勞務調整令ノ周知徹底ニ關スル事項	
九 從業者ノ雇入、使用、解雇、就職、從業、退職ノ認可ニ關スル事項	屬一
一〇 國民勤勞報國協力令ノ周知徹底ニ關スル事項	
一一 國民勤勞報國協力申請又ハ請求ノ審査ニ關スル事項	

一三　國民動勞報國隊ノ編成及動力ニ關スル調査統計ニ關スル事項

一四　國民動勞報國隊ノ動力ニ關スル監督ニ關スル事項

一五　勞務者ノ內地其ノ他域外供出斡旋ニ關スル事項

一六　軍要員ノ供出斡旋ニ關スル事項

一七　其ノ他勞務ノ需給調整ニ關スル事項

道勞務課定員配置表

道名	理學官 現在定員	理學官 增員	理學官 改正定員	地方 現在定員	地方 增員	地方 改正定員	技手 現在定員	技手 增員	技手 改正定員
京畿				○八		○八	○一		○
忠北	○一		○一	○五		○五	○五		
忠南	○一		○一	○五		○五	○一		○一
全北				○五		○五			
全南				○五		○五	○一		○一
慶北				○五		○五	○一		○一
慶南				○六		○六	○一		○一
黃海	○一		○一	○六		○六			
平南				○六	○一	○七	○一		○一
平北	○一		○一	○五	○一	○六	○一		○一
江原	○一		○一	○六		○六			
咸南	○一		○一	○六	○一	○七	○一		○一
咸北	○一		○一	○六	○一	○七	○一		○一
計	○七		○七	○七四	○四	○七八	○九		○九

備考 ○印ハ臨時部職員ヲ示ス

晉都高地定員配置表

道名	現在定員	增員	改正定員
京畿	一七八人 四八	人	一七八人 四八
忠北	六九 一七		六九 一七
忠南	一〇七 二六		一〇七 二六
全北	一一六 二八		一一六 二八
全南	一七二 四一		一七二 四一
慶北	一七九 四一		一七九 四一
慶南	一六七 四三		一六七 四三
黃海	一二七 五〇		一二七 五〇

	平南	平北	江原	咸南	咸北	合計
	○	○	○	○	○	○
	一一四 二〇	一三六 一六	一五一 三一	一三〇 一九	八九 一九	一、七三五 三七九
	○	○		○	○	○
	四	四		四	三	一五
	○	○	○	○	○	○
	一一四 二四	一三六 二〇	一五一 三一	一三〇 二三	八九 二二	一、〇三五 三九四

備考 ○印ハ臨時部職員ヲ示ス

道勞務課定員現員表

一九四一現在

道名	京畿	忠北	忠南	全北	全南	慶北	慶南	黄海	平南	平北	江原	咸南	咸北	合計
理事官 定員		○一	○一					○一		○一	○一	○一	○一	○七
理事官 現員		○一	○一					○一		○一	○一	○一	○一	○七
理事官 缺員														
局 定員	○八	○五	○五	○五	○五	○五	○六	○六	○六	○五	○六	○六	○六	○七四
局 現員	○八	○五	○五	○五	○五	○五	○六	○六	○六	○五	○六	○六	○六	○七四
局 缺員														
技手 定員	○一		○一		○一	○一	○一		○一	○一		○一	○一	○九
技手 現員	○一		○一		○一	○一	○一		○一	○一		○一	○一	○九
技手 缺員														
計 定員	○九	○六	○七	○五	○六	○六	○七	○七	○七	○七	○七	○八	○八	○九〇
計 現員	○九	○六	○七	○五	○六	○六	○七	○七	○七	○七	○七	○八	○八	○九〇
計 缺員														

備考 ○印ハ臨時部職員ヲ示ス

昭和十九年國民徴用見込調　一九四三〇

地域別	朝鮮				內地	合計
	車	工場	鑛山	計		
本年見込員數	一〇、〇〇〇	一二〇、〇〇〇	六〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	二二〇、〇〇〇
仝上中實施員數	二、四〇〇	五六、六八五	二九、八三四	八六、五一九		八六、五一九
備考	×印ハ現員徴用其ノ他ハ新規徴用トス					

國民徴用被害状調

地域別	昭和十六年度	昭和十七年度	昭和十八年度	計
朝鮮		九〇	六八	三八
内地	四八九五	三八七一	二三四一	一一〇四
南方		一三五		一三五
計	四八九五	四〇九六	二九八九	一一八〇

國民徴用狀況調

道別／年次別	昭和十六年	昭和十七年	昭和十八年	備考
京畿道	三八四	三八三	四九〇	徴用員數ハ全部軍關係ナリ
忠清北道	二三四	一九八	九九	
忠清南道	六〇八	四六五	二九〇	
全羅北道	八五一	六一七	三九四	
全羅南道	九二五	七三二	五二八	
慶尚北道	七九八	五四二	三〇四	
慶尚南道	七八五	五〇二	四八四	
黄海道	一五六	九五	七八	
平安南道		七九	七三	
平安北道		七五	五二	
江原道	一五四	九六	七九	
咸鏡南道		二三三	五八	
咸鏡北道		七九	六〇	
計	四八九五	四〇九六	二、九八九	

昭和十九年各道別勞務動員見込表

道名	道内動員数	道外動員数（道外供出割當数）	引受数	計	備考
京畿道	四〇〇七二	五二三二五	四四〇〇	九六七九七	一、道外動員数ハ道外供出（本府兼當）内地供出、軍要員供出数ヲ合セタルモノトス
忠清北道	一七三四七	二二七九〇		四〇〇九七	
忠清南道	一三六六〇	四八六九〇		六二三一〇	
全羅北道	二六五八〇	六九九二五		九六五〇五	
全羅南道	二二四一九	七八五七五		九九九九四	二、本表中ニハ本府保留員数三、五〇〇人ヲ含ム
慶尚北道	一七三九五	六二九七五		七九三七〇	
慶尚南道	五二八七二	五〇三〇〇		一〇三一七二	
黄海道	六三四八四	一〇〇〇〇	五九〇〇	七八三八四	
平安南道	九一二九八	一八〇〇	二二七八〇	一一五八七八	
平安北道	四七一二六	四三〇〇	八〇〇〇	五九四二六	
江原道	三六五五九	三一〇〇〇	一八〇〇	六九三三九	
咸鏡南道	八〇四四五	二一〇〇	二一九〇〇	一〇四四四五	
咸鏡北道	一〇一九一〇	一三〇〇	三六七二〇	一三九五三〇	
合計	六〇八七四三	四三五〇〇〇	一〇一九〇〇	一一四五二四三	

軍需勞務要員斡旋數調

道別＼年次別	昭和十七年	昭和十八年	昭和十九年見込數	備考
京畿道	一八九四	一四八九	三五〇〇	
忠清北道	一〇七九	六六八	二〇〇〇	
忠清南道	一七〇八	一四六〇	三五〇〇	
全羅北道	[illegible]	六四九	四五〇〇	
全羅南道	三九九六	一二六一	三四〇〇	
慶尚北道	一三四八	七六六	五四〇〇	
慶尚南道	一二七四	七六四	二五〇〇	
黃海道	八五四	六六四	八〇〇	
平安南道	五六二	三七七	五〇〇	
平安北道	五四九	七八	八〇〇	
江原道	一一七八	四四五	二五〇〇	
咸鏡南道	六八一	三三八	三〇〇	
咸鏡北道	二九五	六七	三〇〇	
計	一八三九〇	九三二六	三〇〇〇〇	

鮮內需要勞務者資庭數調（本府資庭）

道別＼年次別	昭和十七年	昭和十八年	昭和十九年 見込數
京畿道	○ 一八四二 × 一二一二	○ 二一二八	○ 七八二五 × 四四〇〇
忠淸北道	○ 二六八九	○ 二八九一	○ 五七五〇
忠淸南道	○ 四一七九	○ 四七五一	○ 一〇一五〇
全羅北道	○ 一六五九二	○ 一七二八三	○ 二六四二九
全羅南道	○ 一九八三一	○ 二一九四一	○ 三〇二七五
慶尙北道	○ 六九〇	○ 六八七	○ 一〇一七九
慶尙南道	○ 六七五	○ 五七七	○ 八二〇〇
黃海道	○ 四七〇 × 一一三四		× 五九〇〇

備考	計	本府	東北道	東海道	江原道	平安北道	平安南道
○印ハ供出数 ×印ハ引受数	○[illegible] ×[illegible]		× [illegible]	× [illegible]	○ [illegible] × [illegible]	× [illegible]	× [illegible]
トス但シ本府引受三、五〇〇ハ保留員数トス	○[illegible] ×[illegible]		× [illegible]	× [illegible]	○ [illegible] × [illegible]	× [illegible]	× [illegible]
	○[illegible] ×[illegible]	× [illegible]	× [illegible]	× [illegible]	○ [illegible] × [illegible]	○ [illegible] × [illegible]	× [illegible]

一

鮮內需要勞務者各廳數調（道各廳）

道別 年次別	昭和十七年	昭和十八年	昭和十九年見込數	備考
京畿道	四七七七九	三〇九四〇	四〇〇七二	
忠清北道	二八一五八	二〇四〇〇	一七三四七	
忠清南道	三九八六	八六〇〇	一三六六〇	
全羅北道	二〇〇〇	一〇三七七六	二六五八〇	
全羅南道	二六三九三	二〇一六〇	二二四一九	
慶尚北道	七六七二一	一六六四八	一七三九五	
慶尚南道	三八九七五	三五八八〇	五二八七二	
黃海道	九五五四	三八八〇〇	六二四八四	
平安南道	二八四三八	二五二二八	九二二五八	
平安北道	二一〇〇	五六〇〇	四七一二六	
江原道	一八二一二	二二五六八	三六五三五	
咸鏡南道	三二〇五四	四二七八〇	八〇四四五	
咸鏡北道	一九六〇六	三七六〇〇	一〇二五一〇	
計	三三三九七六	四〇八九七六	六〇八七四三	

內地樺太南洋移入朝鮮人勞務者渡航狀況

年度別	區分	國民動員計畫ニ依ル計畫數	募集許可(斡旋)申請數	募集許可(斡旋割當)數	渡航者數	備考
昭和十四年度	內地	八五〇〇〇	五二一三一	五二一三一	四九八一九	
	樺太	-	六四六六	六四六六	三五〇一	
	南洋	-	-	-	-	
	計	八五〇〇〇	五八五九七	五八五九七	五三一二〇	
昭和十五年度	內地	八八八〇〇	六五八七〇	六五八七〇	五五九七九	
	樺太	八五〇〇	四五一〇	四五一〇	二六〇五	
	南洋		一一五〇	一一五〇	八一四	
	計	九七五〇〇	七一五三〇	七一五三〇	五九二九八	
昭和十六年度	內地	八一〇〇〇	六七六三八	六七六三八	六三八六六	
	樺太	一二〇〇	一五二一	一五二一	一四五一	
	南洋	一七八〇〇	二一六九	二一六九	一七八一	

昭和十七年度	内地	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
	華太南洋	600,000	600,000	600,000	600,000
	計	1,600,000	1,600,000	1,600,000	1,600,000
昭和十八年度	内地	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
	華太南洋	600,000	600,000	600,000	600,000
	計	1,600,000	1,600,000	1,600,000	1,600,000
昭和十九年度	内地	1,000,000			
	華太南洋	600,000			
	計	1,600,000			

昭和十九年度內地樺太兩洋移入朝鮮人勞務者供出計畫遵照

道名	昭和十九年度割當數 男	女	計	備考
京畿道	三九、五五〇	一、四五〇	四一、〇〇〇	
忠淸北道	一四、五〇〇	五〇〇	一五、〇〇〇	
忠淸南道	三三、八〇〇	一、二〇〇	三五、〇〇〇	
全羅北道	三七、七〇〇	一、三〇〇	三九、〇〇〇	
全羅南道	四三、四〇〇	一、五〇〇	四四、九〇〇	
慶尙北道	四四、八〇〇	一、六〇〇	四六、四〇〇	
慶尙南道	三八、二五〇	一、三五〇	三九、六〇〇	
黃海道	八、九〇〇	三〇〇	九、二〇〇	
平安南道	一、三〇〇	-	一、三〇〇	
平安北道	一、八〇〇	-	一、八〇〇	
江原道	二三、二〇〇	八〇〇	二四、〇〇〇	
咸鏡南道	一、八〇〇	-	一、八〇〇	
咸鏡北道	一、〇〇〇	-	一、〇〇〇	
合計	二九〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	

生産増強勞務強化要求

一、方針

現下戰局ノ推移ニ鑑ミ生産増強ハ焦眉ノ急務ナル處之ガ基本的要件ノ一タル勞務對策ニ付勞總力ノ最高度發揮ヲ期スル爲將ニ左ノ方策ヲ實施セントス

二、實施要領

本對策ニ於テ工場、事業場トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノトス

(1) 軍作業廠、或ハ管理工場竝ノ他軍ノ必要ニ基キ本府ニ於テ指定スルモノ

(2) 生産力擴充計畫該當工場、事業場ニシテ本府ノ指定スルモノ

(3) 特ニ本府ニ於テ必要ヲ認メ指定スル工場、事業物

(一) 勞務對策

(1) 事業主及勞務者ニ對シ從來ノ勞務觀念ヨリ脫却シ各單位職場

ノ産業單圖タルノ生活ヲ樹立セシムルト共ニ工場事業場ニ於ケル責任者ヲシテ職場ニ愈ルルノ決意ノ下ニ陣頭指揮ニ進身セシムルコト

(2) 工場事業場ニ於ケル勤勞管理機構及勤勞管理ノ陣容ヲ整備セシムルコト

(二) 勞務配置對策

(1) 時局重要産業ニ於ケル勞務ノ確保ヲ期スル爲左ニ依リ國民徵用ノ擴張實施ヲ圖ルコト

(イ) 徵用ハ機械、輕金屬等ノ重點産業ニモ擴張實施スルコトトシ徵用ヲ要スル工場ハ之ヲ原則トシテ朝鮮總督ノ管理工場トスルコト

右ノ外特ニ重要ナル礦山ニ付テモ必要ニ依リ徵用ヲ實施スルコト

(ロ) 徴用期間ハ當分ノ間原則トシテ一年以内トスルコト

(ハ) 徴用ニ當リテハ都市ニ於ケル無業者及不要不急産業從事者ヲ他ニ先ンジテ徴用スル如ク運用スルコト

(ヲ) 勤労報國隊ノ活動ヲ左ニ依リ強化シ國民勤労報國協力令ヲ積極的ニ活用スルコト

(イ) 工場ノ事業場ニ於ケル簡易ナル作業ハ主トシテ勤労報國隊ニ依リ勞務ノ充實ヲ圖ル如ク運用スルコト

(ロ) 都市ノ勤労報國隊ヲモ積極的ニ動員スルコトトシ成ルベク同一業種又ハ職域單位ニ之ヲ編成セシムルコト

(ハ) 勤労報國隊ニ依ル出動員數ハ一年ヲ通ジ道内全戸數ノ一割ヲ目標トスルコト石以上ノ出動ヲ爲シツツアル道ニ在リテハ現在ノ出動員數ヲ目標トスルコト

(ニ) 學徒戦時動員體制確立要綱ニ依リ積極的ニ學徒ノ動員ヲ行フ

コト

(3) 徴兵徴兵ヲ受ケタル者ニシテ徴集又ハ召集セラレザルモノハ原則トシテ一定期間國家ノ緊要トスル業務ニ從事セシムル爲之ヲ動員スルコト

(4) 學校卒業者使用制限令ノ適用ヲ受クル學校卒業者以外ノ新規學校卒業者ノ使用ヲ統制シ之ガ重點的配置ヲ圖ルコト

(5) 女子勞務ヲ以テ支障ナキ職種ニ對シテハ勞務調整令ニ依リ男子從業者ノ雇入、使用、配置及從業ノ禁止又ハ制限ヲ實施スルコト

(6) 主要都市ニ於ケル日雇勞務者ヲ統制シ左ニ依リ之ガ適正配置ヲ圖ルコト

(1) 土木建築業、交通運輸業等ニ於ケル日雇勞務者、右關係事業主及勞務供給業者ヲ以テ勞務報公費（假冊）ヲ組織セシムルコト

(ロ) 日雇勞務者ノ使用ハ勞務報公會ヲ通ジテ行ハシムルコ

(7) 囚人、司法保護對象者及仔勝勞務ヲ有效ニ利用スルコト

(8) 女子遊休勞力ノ積極的活用ヲ圖ル爲左ニ依リ措置スルコト

(イ) 女子ノ特性ニ適應スル職種ヲ選定シ新規學校卒業者及年齢十四年以上ノ未婚者等ノ全面的動員體制ヲ確立スルコト

右ノ措置ニ關聯シ之ガ勤勞管理兵ノ他諸施設等ニ付特別ノ考慮ヲ爲スコト

(ロ) 勞務調整令ヲ改正シ接客業、娛樂業等ニ於ケル女子青少年（概不年齢十二年以上二十五年未滿ノ者）ノ使用制限ヲ實施スルコト尚此ノ場合勞務調整令ノ適用ヲ受ケザル女子青少年ニシテ警察取締ヲ受クル者ニ付テハ本件ニ準ジ之ガ取締ヲ強化スルコト

(ニ) 勞務移動防止對策

(1) 勞務調整令ニ依ル無謀可ノ雇入、就職ノ絶無ヲ期シ之ニ違反シタル者ニ對シテハ嚴罰方針ヲ以テ臨ムコト

(2) 勞務調整令ニ依ル從業者ノ解雇、退職ノ制限ヲ鑛山ニモ實施スルト共ニ之ガ取締ヲ強化スルコト

(3) 勞務者ノ住宅ヲ確保スルコトトシ簡素健全ナル構造ニ依ラシムルコト鑛山ニ於テハ特ニ赤松材小經木等ニ依ル朝鮮式住宅ヲ奬勵スルコト

(4) 配給機構ヲ改善シ左ニ依リ物資ノ確保ヲ期スルコト

(イ) 主要資材　勞務者一人ニ付一般定量ノ配給ヲ爲スノ外採掘日數ニ應ジ若干ノ特配ヲ行フコト

右特配分ニ付テハ生産增強ニ效果アラシムル如ク工場事業場ニ於テ適切ナル給與ヲ實施セシムルコト

(ロ) 味噌、醬油、鹽等ノ供給ノ圓滑ヲ期スルコト

(ハ)作業用必需品特ニ作業衣、地下足袋、手拭、並手、脚絆、洗面石鹸、鉱時石鹸等ノ優先増配ヲ為スコト

(ニ)酒類、煙草ノ供給ノ圓滑ヲ期スルコト

(5)左ニ依リ厚生施設ノ改善充實ヲ圖ルコト

(イ)鑛業衛生施設ノ擴充ヲ圖ラシムルコト

(ロ)購買組合、共濟機關等ノ施設ヲ促進セシムルコト

(6)開拓氏以外勞務者ノ漫然渡支渡滿抑制ノ方策ヲ講スルト共ニ圖境附近ニ於ケル勞務者ノ鮮外就勞ヲ規制スルコト

(四)賃金對策

(1)勤勞能率ノ增進ヲ圖リ生産ノ向上ヲ期スル為工場、畜産場ニ於ケル勞務者ノ賃金ニ準力性ヲ認ムルト共ニ特ニ鑛山勞務者ノ坑内請負賃金ノ增額ヲ圖ルコト

(2)日圖勞務者ノ最高賃金ヲ公定シ其ノ抑制ヲ圖ルコト

(五) 養成對策

(1) 工場、事業場ニ於ケル仕事家組織ノ徹底ヲ期シ養成要綱ノ實踐ヲ期スルコト

(2) 事業主、經營幹部、勞務監督者等ニ對シ産業指揮者トシテノ練成ヲ實施スルコト

(3) 工場、事業場ニ於ケル中堅勞務者ノ養成ニ資スル爲明確勞務協會道支部ノ設立ニ係ル道中堅勞務者指導訓練所ヲ積極的ニ活用スルコト

(4) 工場、事業場技能者養成令ニ依ル養成義務ヲ有スル工場、事業場ニ對シテハ之ガ養成施設ヲ擴充強化セシムルコト

科目	算出内訳	金額
朝鮮臨時行政諸費		四六六五六
國民動員費		四六六五六
俸給		四一四七二
	判任俸給	二五九二〇
	本俸	四三二〇
	道廳 四人各一〇八〇圓	二一六〇〇
	郡廳二〇人各七〇八〇圓	一五五二
	加俸	五一八四
賞與		

法制局第二部　宮内參事官

本件說明內容は嚴格には警察の觀念に包括せられざるべし。增員を警察署に配置し得るや一應の疑を存す。第三條第四號中之を加ふるは「勤勞動員の保存警察と考へらるる部分」を所掌とする職員と諒解し、且經濟統制とは物的資源のみならず人的資源の統制をも包含する觀念なりとの說明を容認する結果也。

（警察署の職權に「勤勞動員」を加ふるは(1)統治上の影響、(2)今回增員の規模を理由として總統制の諒承せざる所なり。）

第六　經濟統制ニ伴フ警察事務ニ従事スル者ノ増員説明

官制改正説明資料目次

一、経済統制ニ伴フ警察事務ニ従事スル者ノ増員説明 …… 1頁

二、附表

経済警察官増員配置表 …… 3頁

各道経済警察職員定員調 …… 4頁

道警察部経済警察課事務分担別定員配置表 …… 5頁

四大重要産業ニ関スル工場、鉱山、事業場調 …… 6頁

生産拡充推進計画該当工場、鉱山、事業場調 …… 7頁

第一次各道別現員復用実施状況 …… 8頁

第二次各道別現員復用実施状況 …… 9頁

経済統制令別違反取締状況表 …… 10頁

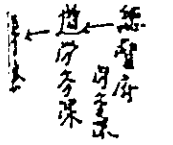
国民徴用令等務調整令違反状況（各道別） …… 13頁

労務動員ニ関スル法令ノ取締状況 …… 15頁

関係歳算書 …… 15頁

經濟統制ニ伴フ警察事務ニ從事スル者ノ增員說明

戰力增強上戰時物資ノ增產ハ刻下ノ急務ナル處之ガ生產ノ現況ヲ看ルニ猶幾多ノ隘路ノ存スルハ遺憾トスル處ナリ而シテ其ノ生產阻害ノ原因ハ資材、勞務、輸送力等ノ全カラザルニ存ズトハ謂ヒ就中勞務ノ不足乃至總動率ノ低位、移動ノ頻繁等ガ其ノ重要ナル原因ヲ爲スモノナルヲ以テ朝鮮ニ於テモ勞務所管局ニ於テ客年十月「生產增強勞務強化對策」ヲ樹立シ動勞動員ノ強化、勞務者移動防止、總動率ノ向上、勞管理ノ改善等ニ對積極的施策ヲ講メツツアル處朝鮮ノ現狀ニ於テハ之ガ實効奉場ヲ期スル爲ニハ勞務訂整令、國民徵用令等法令ノ違反取締ヲ適正強化スルト共ニ警察ノ有スル強力ナル組織網ト統制アル實踐力ヲ以テ指導協力スルコトコソ最モ効果的ナリ而シテ警察部門ニ於テハ產業經濟界ノ實在ニ通曉セル經濟警察ニ於テ之ヲ掌ルヲ適切ト認メ客年來勞務當局ト緊密ナル連絡ヲトリ勞務對策ニ即應シテ取締ノ強化ニ依ル協力ヲ爲シツツアル處其ノ成果見ルベキモノアリ



線テ境内ニ於ケル勞務事情ヲ觀ルニ支那事變以來急激ナル諸産業ノ勃興ト之ニ對應スル實力ノ開發、交通施設ノ擴充等ニ因リ勞務需要ハ愈々飛躍的ニ增大シ昭和十八年度ニ於テハ國民動員計畫ニ基キ本府ニ於テ斡旋セルモノノミニテモ一三八、四三八名ノ多キニ達シ本年度ハ本府斡旋域内供出一〇五、〇〇〇名内地南洋方面供出三〇〇、〇〇〇名軍要員〔三〇〕、〇〇〇名計四〔三九〕、〇〇〇名其ノ外道内ニ於テ操作スベキ工場、鑛山、土建其ノ他ニ於テ要望シツツアル見込要員ハ一〇〇萬名以上ヲ豫想セラレ且本年度以降ハ徴兵令ノ實施ニ伴フ壯丁ノ徴集アル等加速度的ニ勞務ノ最的逼迫ヲ來タスト共ニ一面半島ニ於ケル民衆ハ民度低キ爲ニ戰時下ニ於ケル勞務ノ重要性ニ對スル認識猶ホ淺ク動勞報國隊ノ出動ヲモ齎シク徴用ナリト爲シ一般勞務募集ニ對シテモ忌避逃走シ現ハ不正暴行ノ事ニ出ズルモノアルノミナラズ未婚女子ノ徴用ハ必要ニシテ中ニハ此等ヲ慰安婦トナスガ如キ荒唐無稽ナル流言巷間ニ傳ハリ此等惡質ナル流言ト相俟ツテ勞務事情ハ今後益々困難ニ赴クモノト豫想セラル而シテ勞務ノ逼迫化ニ伴ヒ襲ニ第一次（二月八日）及第二次（四月八日）ノ現

員徴用ヲ實施シ更ニ第三次徴用ニ目下計畫中ナルガ鮮内外ニ於ケル勞務者ノ供給確保ヲ圖ル爲ニハ勞務動員手段ノ強化、勞務者移動防止稼働率ノ向上ハ必至ニシテ之ガ成果ヲ發揚スル爲ニハ

イ國民徴用令、勞務調整令違反ノ絶滅

ロ勞務ニ關スル惡質流言ノ取締

ハ對敵工場、鑛山、事業場ニ於ケル勞務者ノ就勞確保（移動防止、稼働率向上、勞務紛糾等）ノ援助

ニ本府斡旋勞務者ノ供出ニ對スル協力

ホ日俯勞務者統制機關（勞務報公會）ノ指導

ヘ生産增強賃金對策ノ維持（賃金統制令違反取締）

等警察力ヲ以テ指導取締ヲ強化スルト共ニ極厚ナル協力援助トヲ必要トス然ルニ警察ニ於ケル既往配置職員ハ敏時下激增スル諸般ノ事務ニ鑑念シ至ク餘裕ナキヲ以テ道ニ警部三名警部補七名ヲ增員シ第一線ニ於ケル經濟警察機構ノ充實ヲ圖リ綜合生產增強諸施策トノ關聯ニ於テ其ノ警察的裏付ケトシテ適時適切ナル指導ヲ爲シ第一線活動ニ機動性ヲ附與シ計畫生產ノ完遂ト治安維持ニ萬遺憾ナキヲ期セントス

經濟警察官增員配置表

（一九五一）

道名	道配置 警部	道配置 警部補	道配置 巡査	署配置 巡査	署配置 巡査内譯	署配置巡査内譯	署配置巡査内譯	署配置巡査内譯	合計 警部	合計 警部補	合計 巡査
京畿道	一		二	九	三	一	五		一		一一
忠清北道			一	三	二	一					四
忠清南道			一	三	一	一	一				四
全羅北道			二	二	一	一					四
全羅南道		一	二	二	一	一				一	四
慶尚北道		一	一	三	一	一	一			一	四
慶尚南道		一	一	三	一	一	一			一	四
黄海道		一	二	九	三	二		四		一	一一
平安南道	一		一	一六	六	二	三	五	一		一七
平安北道		一	二	五	二	一	一	一		一	七
江原道		一	二	五	三	一		一		一	七
咸鏡南道		一	二	一〇	三	二	二	三		一	一二
咸鏡北道	一		三	一八	九	二	三	四	一		二一
合計	三	七	二二	八八	三六	一七	一七	一八	三	七	一一〇

備考　道配置巡査中ニ八斡旋勞務者供出ヲ對象トスル要員ヲ含ム

各道經濟警察職員定員調

昭和十九年五月現在

道別	警視	警部	技手	警部補	巡査 内地人	巡査 朝鮮人	巡査 計	囑託	雇員	合計
京畿道	一	一二	一	二二	二三三	七九	三一二	二	一	三五二
忠清北道		一		七	四〇	一三	五三			六一
忠清南道		二		八	五三	一七	七〇	一	一	八二
全羅北道	一	二		八	五五	一九	七四	一	一	八七
全羅南道	一	二	一	一一	八二	三二	一一五	一	一	一三二
慶尚北道	一	三	一	一一	八八	三二	一二〇	一	一	一三八
慶尚南道	一	四	一	一四	一一五	四六	一六一	一	一	一八三
黄海道		一	一	八	六六	二二	八八			九八
平安南道	一	三	一	一一	一一〇	四一	一五一	一	一	一七〇
平安北道	一	三	一	八	七九	三一	一一〇	一	一	一二五
江原道		二	一	九	七一	二六	九七			一〇九
咸鏡南道	一	四	一	九	八七	三四	一二一	一	一	一三八
咸鏡北道	一	三	一	一三	九七	三二	一二九	一	一	一四九
合計	九	四二	一一	一四〇	一、一七六	四二五	一六〇一	一一	一〇	一、八二四

道警察部經濟警察課事務分担別定員配置表（昭和二九年五月末日）

道別	京畿道	忠清北道	忠清南道	全羅北道	全羅南道	慶尚北道	慶尚南道	黄海道	平安南道	平安北道	江原道	咸鏡南道	咸鏡北道	合計
課長 警視	一													九
課長 警部			一	一				一			一			四
庶務係 警部	一		一	一	一	一	一		一	一	一	一	一	一二
庶務係 警部補	一							一	一	一				六
取締係 警部	二			一		一			一	一				六
取締係 巡査	二							一	一	一	一	一	一	一一
情報係 警部補	六	二	二	二	一	一	二	一	三	一	三	二	三	二九
情報係 巡査	一						一							二
保安係 警部補	三	一	一	二	二	二	二	三	二	二	一	一	二	二七
指導教養係 警部	二											一		五
指導教養係 警部補	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一二
定員 巡査	五〇	一二	一四	一四	一四	二一	三五	一三	二七	二三	一六	一四	一七	二七〇
定員 警視	一			一		一	一		一	一		一		九
定員 警部	六	一	二	二	二	二	二	一	二	二	二	二	一	二八
定員 警部補	一					一	一	一	一	一	一	一	一	一一
定員 巡査	一一	五	一四	一四	一四	二一	三五	一三	二七	二三	一六	一四	一七	二七〇
定員 合計	六	五	四	五	五	六	六	五	六	五	五	四	六	七四

四大重點產業ニ屬スル工場、鎮守府業場調

（一九、五、一）

道名＼種別	鐵鋼	輕金屬	石炭	船舶	計
京畿道	一一	一			一二
忠清北道	七		一		八
忠清南道	二		一		三
全羅北道	一				一
全羅南道			五		五
慶尚北道	三		五		八
慶尚南道	二		一	一	四
黃海道	一五		二		一七
平安南道	八	三	一六		二七
平安北道	五	二	三		二〇
江原道	七		七		一四
咸鏡南道	一一	三			一四
咸鏡北道	五	一	三三		三九
合計	七七	一〇	七四	一	一六二

生産擴充推進計劃該當工場鑛山事業場調（昭和一九・四）

道名	非鉄金属	石油及其ノ代用品	ソーダ	硫安	セメント	鉄道車輛	電力	硝酸	計
京畿道	四					三	四		一一
忠清北道	四								四
忠清南道	五								五
全羅北道	二						二		四
全羅南道	四						二		六
慶尚北道	九						一		一〇
慶尚南道	六					一			七
黄海道	一一			一	二		一		一五
平安南道	一一		一		二	一	一		一六
平安北道	一六	一		一			二		二〇
江原道	一二		一		一		二		一六
咸鏡南道	二〇	一	二	一	一	一	三	一	三〇
咸鏡北道	一四	三		一	一		二		二一
合計	一一八	五	四	四	七	六	二〇	一	一六五

第一次各道別現員徵用實施狀況

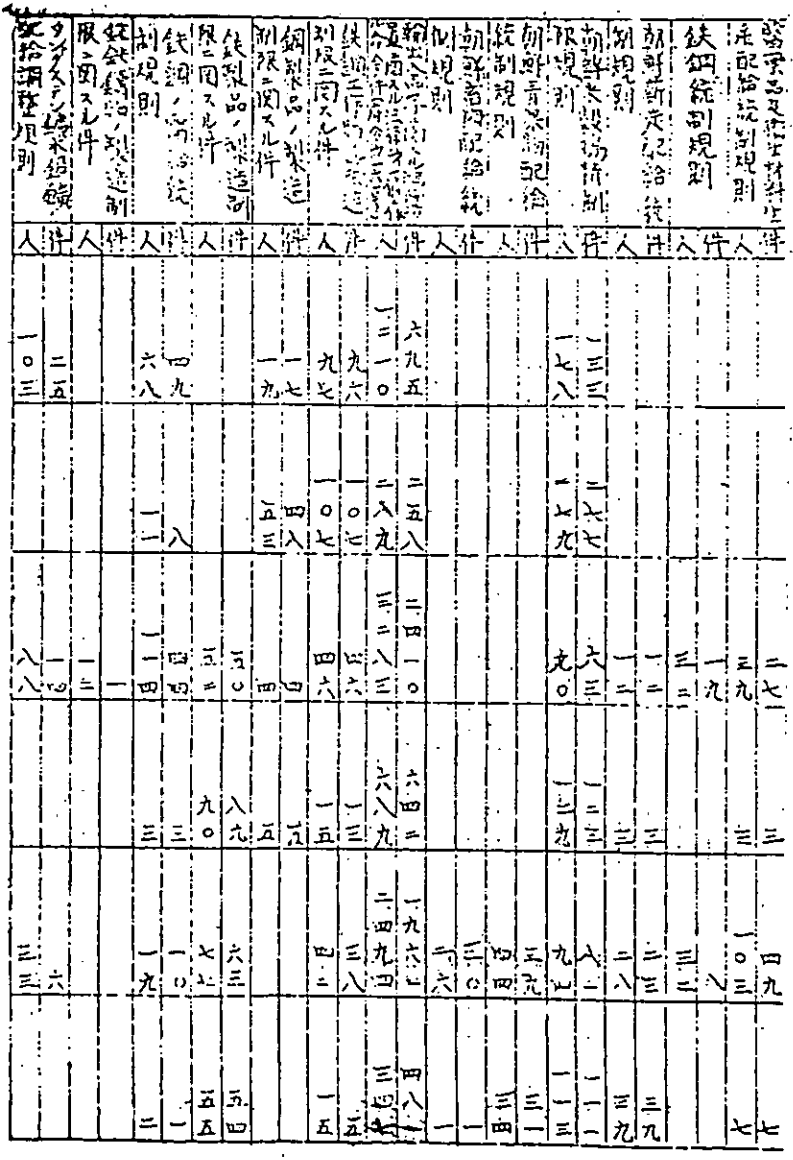
道別	徵用實施工場數	全鑛山數	計	徵用實施于定人員	當日令狀交付數	令狀交付未交付數	令狀交付步合
黃海道	一		一	六、二九三	六、〇一四	二七九	95%
平安南道	三	一	四	五、一〇四	四、六九一	四一三	92%
平安北道	二		二	二、二九九	一、九八三	三一六	86%
江原道	〃	一	一	二、〇四二	一、八三四	二〇八	90%
咸鏡南道	四		四	五、五六七	四、二四九	一、三一八	76%
咸鏡北道	一	一	二	五、九三六	五、八二〇	一一六	98%
計	一一	三	一四	二七、二四一	二四、五九一	二、六五〇	90%

第二次各道別徵用實施狀況

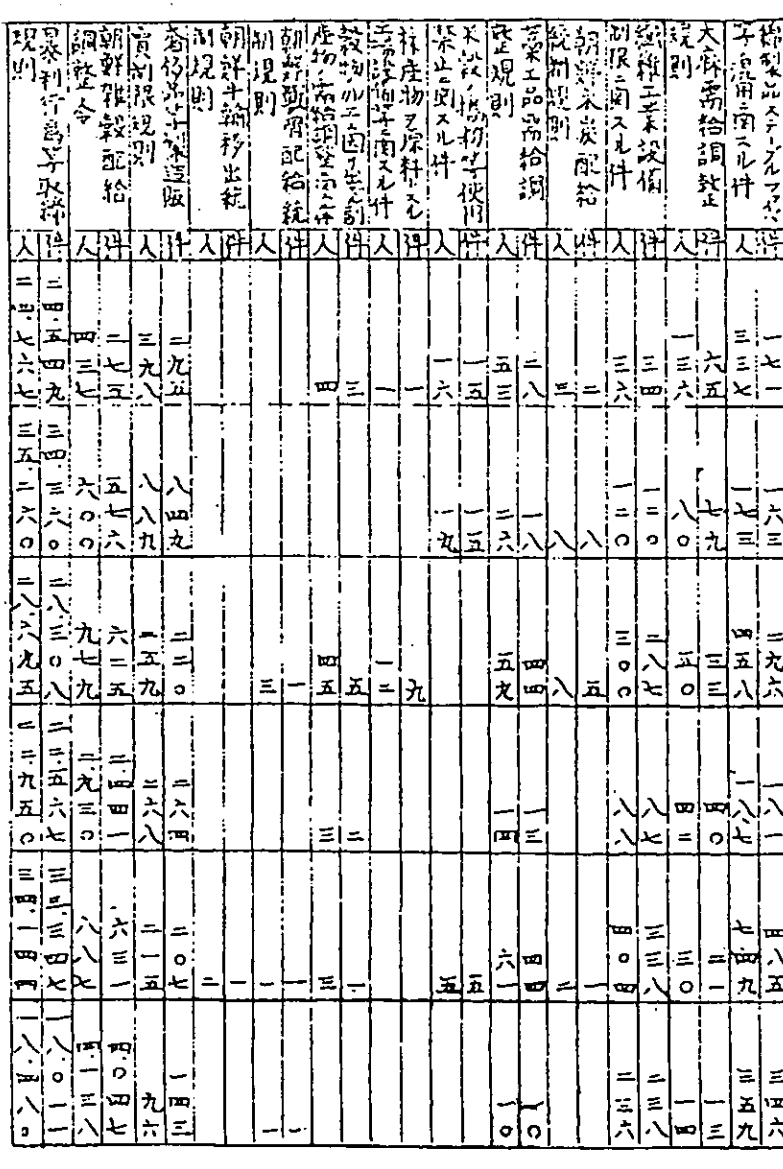
道名＼區別	徵用實施工場數	仝鎬山數	計	徵用實施予定人員	當日令狀交付數	仝上京交付數	令狀交付步合
京畿	八		八	六、七一七	五、四二〇	一、二九七	81 %
忠北							
忠南	二		二	八七八	八二八	五〇	95 %
全北		一	一	一、〇〇一	九〇一	一〇〇	90 %
全南		一	一	一、二三〇	一、一七九	五一	97 %
慶北		二	二	二、五一一	二、四九五	一六	99 %
慶南		一	一	四〇六	四〇六		100 %
黃海	二	六	八	八、二六四	八、一三八	一二六	98 %
平南	三		三	三、一六八	三、〇一六	一五二	95 %
平北	三		三	一、二四九	九一二	三三七	73 %
江原	三	一	四	七、〇八九	六、七八二	三〇七	95 %
咸南	九	二	一一	一六、九六〇	一三、九九二	二、九六八	82 %
咸北	六		六	四、八二〇	四、七一四	一〇六	98 %
計	三六	一四	五〇	五四、二九三	四八、七七三	五、五二〇	90 %

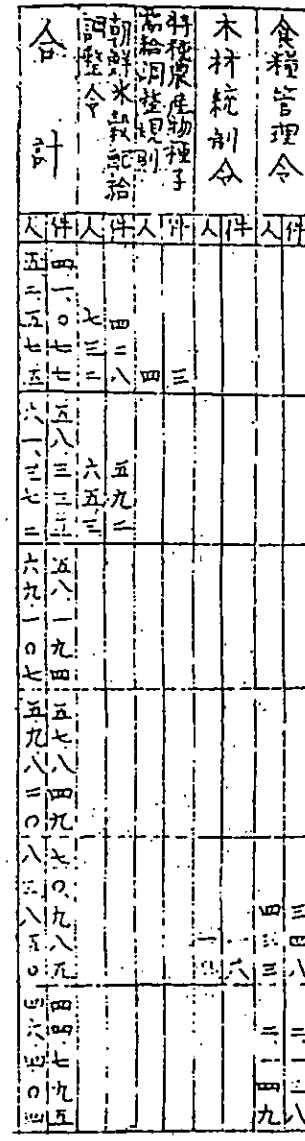
法令別	昭和十六年		昭和十七年		昭和十八年	
	檢舉		檢舉		檢舉	
	件	人	件	人	件	人
價格等統制令	一二三六八	二〇三〇六	一八六〇二	二〇四二六	一七一六四	二五八六〇二
總家賃統制令	一二一〇	一二八六	一二一八二	一三一二六	七三九	一〇三八
小作料統制令	六八七	八一	二四五	二五四	七九五	一〇三八
賃金統制令	五	五	五	五	一九八	六七
價格等統制令	一一	一五	八九	八九	二八	三三
公地使用統制令	一三〇	二五四	四八	五五	一九九	三八五
臨時農地管理令	一一	二〇	一〇	二〇	六七	九六
朝鮮農地作付統制令						
臨時農地價格統制令	三六八	一〇七	一三	二三	一〇九	五五
企業許可令					五五一四	五七一二
金屬回收令					一四三三八	一四四一五
勞務調整令					六四一四	六六六八

法令別	昭和十八年			
	檢舉		諭示	
	件	人	件	人
價格等統制令	一二〇一七	一三五九九	一八四八	二二五
總家賃統制令	一一〇二	一三一四	四	四
小作料統制令	一〇五二	一三一四	三八	四〇
賃金統制令	八六	一〇	二	二
價格等統制令	四二五	五七	二	二
公地使用統制令	七一	九一	二	二
臨時農地管理令	六四	八四	二	二
朝鮮農地作付統制令	四四	五六	二	二
臨時農地價格統制令	一六五	二一六	三	三
企業許可令	六四一四	八六六八	二	三
金屬回收令	四八九九	六九九三	二	二
勞務調整令	二	二	二	二



	件	人	件	人	件	人	件	人	件	人	件	人	件	人	件	人	件	人	件	人	件	人	件	人	件	人	件	人	件	人	件	人
銅ノ使用制限ニ関スル件	一五一	二二四	二	六	二二四	四五一					九三	一五〇	八二八	九九四	二〇	二五	一	三	二	四	二七	六〇	一	二	二	一	一	一	二	二	一	一
鉛亜鉛錫等ノ使用制限ニ関スル件	五二	五三	四	四	一六三	一七四					五〇	五三	一〇二	一〇六	八	八	一	一			一三六	一四〇			一	一	一	一	一	一	一	二
鉄屑故銅及故鉛配給統制規則	一三六	一九一			一三二	二三四					七九	一〇四	一二六一	一四八一	一八	二一					六	六	一四	一二	八	一	一	一	一	一	一	二
製鉄ノ設備制限規則	一五	一五	一	一	四七	四八					四七	四八	一二八	一三六							三	三										
皮革ノ使用制限ニ関スル件	七三	八二	一	一	一二八	二二三	一	二	九九	六六	一二七	一七一七	二〇三九	二五	二七	三	三	一〇	六六	四	七	三	三	二	二	二	二	二	二	二	二	二
皮革ノ配給統制ニ関スル件	七	七			一六	一六					六	七	二一三	二三〇	六	六			一	一												





食糧管理令		木材統制令		特種農産物種子蒿給洞整規則		朝鮮米穀配給調整令		合計	
件	人	件	人	件	人	件	人	件	人
				三	四	四二八	七三二	四一〇七七	五二五七五
						五九二	六五三	五八三三五	六一三七二
								五八一九四	六九一〇七
								五七八四九	五九八二〇
三四八	四三三	一八	一四					七〇九八五	八三八五〇
二一三八	二一四九							四四七九五	四六四〇四

國民徵用令、勞務調整令違反狀況（自一月至四月）

法令別 / 道名 / 指定別	國民徵用令				勞務調整令				計			
	徵募		諭示		徵募		諭示		徵募		諭示	
	件數	人員	件數	人員	件數	人員	件數	人員	件數	人員	件數	人員
京畿道	二	二	五	五		一二五九	二〇八五		二	二	一二五四	二〇九〇
忠清北道			一五	一五	五	六	八六	八六	五	六	九九	九九
忠清南道	四	四	七	七		一	一		四	四	八	八
全羅北道	九	九	八	八					九	九	八	八
全羅南道	一八	一八	一四〇	一四〇	四	四	七四	七四	二二	二二	二一三	二一四
慶尚北道	一	一							一	一		
隆尚南道	一〇	一〇	一〇	一二		二二	二二		一〇	一〇	五二	五四
黃海道	八	八	八	八	一	八二	八二		九	九	九〇	九〇
平安南道	一五	一五	五二	五一					一五	一五	五二	五二
平安北道			五一	四一	一	四〇	五七		一	一	七一	九八
江原道	一	一				五〇	五〇		一	一	五〇	五〇
咸鏡南道	二	二	五七七	五八〇	一五	一八	九五六	九五二	一七	二〇	一五一五	一五五二
咸鏡北道	二	二	二	二			一二八	一五〇	二	二	一五〇	一五二
合計	七〇	七〇	六五四	六四八	二四	五〇	二六四六	五五一九	九四	一〇〇	五六七九	四一六七

勞務動員ニ關スル流言取締狀況（自一月至四月）

法令別 / 指定別 / 名	朝鮮臨時保安令 警察犯處罰規則		保安法 陸軍刑法	
	檢擧		除示	
	件數	人員	件數	人員
京畿道	七	一二		
忠淸北道	一五	三〇		
忠淸南道	一五	一五	一九八	一九八
全羅北道	六	七	一四	一四
全羅南道	二六	二六	一八八	一八八
慶尙北道	二	二	一	一
慶尙南道	六四	六五	三七	三八
黃海道	二	二	一二	一二
平安南道	三	三	一	一
平安北道				
江原道	一二	一二	二	二
咸鏡南道				
咸鏡北道				
合計	一五二	一七四	四五三	四五四

臨係豫算表

科目	算出內譯	算出額
朝鮮臨時行政諸費		二一五八五七
經濟統制費		一五〇一一二
俸給		一三五九二
	判任俸給	六二八〇
	本俸	五二四〇
	書部（乙）三人各一〇八〇圓	五〇四〇
	書部補（甲）七人　七二〇圓	四九六八
	加俸	一四四
	精勤加俸書部補二人二付一人四人各三六圓	二二六七二〇
	巡查俸給	九〇〇〇〇
	本俸	

賞兵	經費（年）一〇〇人各六〇〇圓 （年）五〇人 加俸 精勤加俸二〇人（五人二付一人各二四圓	六〇〇〇〇 五〇〇〇〇 四六〇〇〇 七二〇 一〇六五六

（以下省略）

軍関係

①恤兵金ノ處分ニ関スル件［閣議決定］（昭7・7・19）

陸甲第一八號

起案 昭和七年七月十八日

裁可 年月日

決定 七年七月十九日

施行 年月日

内閣書記官

内閣總理大臣

内閣書記官

外務大臣	陸軍大臣	文部大臣
内務大臣	海軍大臣	農林大臣
大藏大臣	司法大臣	商工大臣
遞信大臣	鐵道大臣	拓務大臣

別紙陸海軍両大臣請議恤兵金ノ處分ニ関スル件ハ相當ノ儀ト被

認ニ付請議ノ通閣議決定相成
然ルベシ

指令案

恤兵金ノ處分ニ関スル件請議ノ通

昭和七年七月十九日指令

陸滿普第一七四二號

恤兵金ノ處分ニ關スル件

昭和七年七月十八日　海軍大臣　岡田啓介

陸軍大臣　荒木貞夫

內閣總理大臣　子爵　齋藤實殿

今回ノ滿洲事變ニ際シ陸海軍々人軍屬ヲ慰恤スル爲寄附ヲ受ケタル金員ハ之ヲ從來ノ戰役ノ例ニ慣ヒ出征將士ノ慰恤、遺家族ノ應急的慰藉及救護等ニ使用シツツアルモ此ノ際此ノ多額ナル寄附金ヲ基本トシ恒久的施設トシテ財團法人ヲ組織シ必要ナル軍事的社會施設ヲ行ハシメントス此ノ交付金額二百萬

主任者　陸軍三等主計　井上藏作

陸甲一八

國トシ將來恤兵金ニシテ處分殘額ヲ生シタル場合モ亦右財團法人ニ交付スルコトトシ尚財團法人組織ノ時期ノ決定ハ之ヲ陸海軍大臣ニ委任セラレ度右開陳ヲ請フ

理由書

今回ノ滿洲事變勃發以後本年六月末迄ニ恤兵金トシテ受理シタル寄附金ハ陸軍ニ於テ三百五十五萬餘圓、海軍ニ於テ五十八萬餘圓ニシテ同日迄ニ使用シタル額ハ陸軍ニ於テ七十一萬餘圓、海軍ニ於テ三十八萬餘圓差引陸海軍現存合計額三百四萬餘圓ヲ有ス此ノ多額ナル金員ヲ以テ從來ノ戰役ニ於ケルカ如ク一時的ニシテ且ツ應急的ノ救恤及救護等ニノミ費消スルコトハ却テ寄附者ノ意思ヲ徒ラナラシムルノ虞アルヲ以テ寧ロ此ノ際其ノ餘裕ヲ以テ財團法人ヲ組織シ特ニ戰歿將士遺家族及傷痍軍人ノ職業補導生業助成其

ノ他生産的ナル軍事的社會施設ヲ行ハシメ以テ寄附者ノ意思ヲ有效且ツ永久的ニ存續發揮セシムルヲ適當ト認ムルニ由ル

参考

恤兵金使用景況一覽表（其ノ二）

六月三十日調　陸軍恤兵部

受入總額	使用總高	現在保有額	摘要
三、五五四、四〇八円〇六〇	七一五、一八二円三五〇	二、八三九、二二五円五一〇	

使用總額内譯

種別	金額	摘要
恤兵品代	二三〇、〇一二円五一〇（一八二、八四二円三四〇）	括弧内ハ恤兵部開設前宮房[illegible]タルヌノヲ示ス
遺族弔慰金	一三五、三五九円五八〇（五、六二五円〇〇〇）	
家族慰恤金	四三、二八六円四一〇（二五、〇四〇円〇〇〇）	
慰問金	七〇、五四八円四〇〇	
軍馬其他軍用動物慰問金	（三、四七七円六七〇）	
雜費	一八、九九〇円六四〇	

一、使用内訳ハ封ヲ明細別紙其ノ二乃至其ノ七ノ如シ

恤兵金使用一覧表（其ノ三）恤兵金ヲ以テ購入セシ恤兵品ノ部

自大正八年十月至大正八年十二月末日　陸軍恤兵部

品種	関東軍	青島守備軍	西伯利亜派遣軍	朝鮮軍	朝鮮内地及病院	想数量	金額	摘要
東京市下東一住所ノアルニ	一組	一組		一組	（二〇）	二四組	二、〇〇〇、〇〇〇	北満内ヘ各部団ヘ送付ノ分
キング	一、八〇〇部	一五〇部				一、九五〇部	七八〇、〇〇〇	
富士	九〇〇部	七五部				九七五部	二九〇、〇〇〇	
婦人倶楽部	六三〇、〇〇〇枚	九〇、〇〇〇枚		二二五、〇〇〇枚	三七五、〇〇〇枚	一、六二五、〇〇〇		
婦人画報	三五二、〇〇〇枚			九〇、〇〇〇枚	一五、〇〇〇枚	三七六、〇〇〇枚	一五〇、八〇〇	
つはもの	一七、五〇〇部	二、〇〇〇部	七五〇〇部	四〇〇部	六〇〇部	二八〇、〇〇〇部	八六七、〇〇〇	
千歳糸子			三〇、〇〇〇個		三、〇〇〇個	三三、〇〇〇個	二五九、〇〇〇	
御所落雁			三〇、〇〇〇個		三、〇〇〇個	三三、〇〇〇個	二三三、〇〇〇	
上海名変フイルム	一組	一組		一組	（一五）	一八組	五四五九、六〇〇	北満内ヘ各部団ヘ送付ノ分
籐椅子						三八個	一一〇、二〇〇	
寝椅子					八、	八、	六二四〇〇	
机					六、	六、	二一、〇〇〇	
額（画共）					六〇、	六〇、	一三七、七六〇	
郵便切手		八九一、〇〇枚				八九一、〇〇枚	一、三五六、五〇〇	
レコード					一五〇枚	一五〇枚	一六五、五〇〇	
レコードサック					五個	五個	五、〇〇〇	
レコード針					一六〇箱	五〇箱	三一〇箱	
軍歌集	一、八〇〇部 千五〇〇部			四七〇〇部	九〇〇部	五、三〇〇部	一、五三一、三〇〇	
エキセロー不凍インキ						三製	一二九〇	
煙草					四七〇七本	四七〇七本	三五三〇〇	陸軍恤兵部
菓子					一五六九個	一五六九個	四七〇七〇	赤十字社救護班
汁粉					一五六九個	一五六九個	七四五三〇	赤十字社救護班
荷造及運搬賃等							八三五三一〇	
計							三二九三六七七〇	

恤兵金交付一覧表（其四）　現金配給ノ部　昭和七・五・一〇調

送付先	項目	金額	遺族	氏名	死亡地	死亡年月日	備考
近衛師団	森茂	二八〇〇〇〇					
第一師団	〃	三五〇〇〇〇	〃	〃	〃	〃	〃
第二師団	〃	一五六〇〇〇	〃	〃	〃	〃	〃
第三師団	〃	二五〇〇〇〇	〃	〃	〃	〃	〃
第四師団	〃	五〇〇〇〇	〃	〃	〃	〃	〃
第五師団	〃	一〇〇〇〇	〃	〃	〃	〃	〃
第六師団	〃	八〇〇〇〇	〃	〃	〃	〃	〃
第七師団	〃						
第八師団	〃	五一〇〇〇〇	〃	〃	〃	〃	〃
第九師団	〃	四四八〇〇〇	〃	〃	〃	〃	〃
第十師団	〃	三一〇〇〇〇	〃	〃	〃	〃	〃
第十一師団	〃	三九〇〇〇〇	〃	〃	〃	〃	〃
第十二師団	〃	一六六〇〇〇	〃	〃	〃	〃	〃
第十四師団	〃	二二〇〇〇〇	〃	〃	〃	〃	〃
第十六師団	〃	二〇〇〇〇	〃	〃	〃	〃	〃
第十九師団	〃	二七〇〇〇〇	〃	〃	〃	〃	〃
第二十師団	〃	五一〇〇〇〇	〃	〃	〃	〃	〃
関東軍司令部	〃	四〇〇〇〇	〃	〃	〃	〃	〃
陸軍省副官	〃	七七 五九五八	〃	〃	〃	〃	〃
陸軍運輸部長	〃	一〇〇〇〇	〃	〃	〃	〃	〃
陸軍経理学校長	〃						
本郷豚像区許	〃	三〇〇〇〇	〃	〃	〃	〃	〃
麻布	〃						
甲府	〃	六〇〇〇	〃	〃	〃	〃	〃
千葉	〃						
新発田	〃	二四〇〇〇〇	〃	〃	〃	〃	〃
高田	〃	一七〇〇〇〇	〃	〃	〃	〃	〃
仙台	〃	九五〇〇〇	〃	〃	〃	〃	〃
若松	〃	四五〇〇〇	〃	〃	〃	〃	〃
弘前	〃	五〇〇〇〇	〃	〃	〃	〃	〃
静岡	〃	一〇〇〇〇	〃	〃	〃	〃	〃
豊橋	〃	一〇〇〇〇	〃	〃	〃	〃	〃
大阪	〃	一〇〇〇〇	〃	〃	〃	〃	〃
堺	〃	一〇〇〇〇	〃	〃	〃	〃	〃
山口	〃	三〇〇〇〇	〃	〃	〃	〃	〃
都城	〃	二〇〇〇〇	〃	〃	〃	〃	〃
熊本	〃	六〇〇〇	〃	〃	〃	〃	〃
沖縄	〃	一〇〇〇	〃	〃	〃	〃	〃
鹿児島	〃	二〇〇〇〇	〃	〃	〃	〃	〃
大分	〃						
西舘	〃						
釧路	〃						
弘前	〃	四〇〇〇	〃	〃	〃	〃	〃

| | | |

恤兵金使用一覧表（其ノ五）現金配給ノ部

自五月十二日 至六月三十日 陸軍恤兵部

遺族救恤費

送付先	金額	摘要
近衛師団参謀長	二〇〇、〇〇〇円	各合百円ヲ直接送策ニ送附
第一〃	五〇〇、〇〇〇	〃
第二〃	七〇〇、〇〇〇	〃
第四〃	五〇〇、〇〇〇	〃
第五〃	一〇〇、〇〇〇	〃
第六〃	一〇〇、〇〇〇	〃
第八〃	七〇〇、〇〇〇	〃
第九〃	三〇〇、〇〇〇	〃
第十〃	三、二〇〇、〇〇〇	〃
第十一〃	一〇〇、〇〇〇	〃
第十二〃	三〇〇、〇〇〇	〃
第十四〃	一、六〇〇、〇〇〇	〃
第十九〃	二、六〇〇、〇〇〇	〃
第二十〃	五〇〇、〇〇〇	〃
参謀本部	一〇〇、〇〇〇	〃
関東軍副官	一〇〇、〇〇〇	〃
熊本憲兵隊	一〇〇、〇〇〇	〃
姫路〃	一〇〇、〇〇〇	〃
本郷隊区司令官	一〇〇、〇〇〇	〃
名古屋〃	一〇〇、〇〇〇	〃
岐阜〃	一〇〇、〇〇〇	〃
金澤〃	一〇〇、〇〇〇	〃
大分〃	一〇〇、〇〇〇	〃
合計	一三、三〇〇、〇〇〇	

家族救恤費

送付先	金額	摘要
第一師団参謀長	三六〇、〇〇〇	出征者負担家族ニ概ネ二十円ヲ限度トシテ送金
第七〃	二〇、〇〇〇	〃
第十四〃	一、四七〇、〇〇〇	〃
第十九〃	一、六二〇、八〇	〃
宇都宮服務区司令官	二〇、〇〇〇	〃
沖縄〃	二〇、〇〇〇	〃
函館〃	一五三、〇〇〇	恤兵寄附金ヨリ繰替
釧路〃	一八九、八一〇	支給
合計	二、三九四、八九〇	

慰問金（慰問品費ヲ含ム）

送付先	金額	摘要
近衛師団参謀長	一、一三〇、〇〇〇円	救護將兵慰恤及慰問
第一〃	三〇五、〇〇〇	慰安袋ノ原料金ニテ直送シタルモノ
第二〃	一、一五〇、〇〇〇	〃
第四〃	五八〇、〇〇〇	〃
第五〃	二、二二五、〇〇〇	〃
第六〃	三二五、〇〇〇	〃
第九〃	一、三二八、七六〇	〃
第十一〃	四、一二五、五七七、三七五	〃
第十二〃	九七五、〇〇〇	〃
第十四〃	七、〇六二、二〇〇	〃
第十六〃	一四〇、〇〇〇	〃
第十九〃	二、七〇〇、〇〇〇	〃
陸軍運輸部長	三、二五五、〇〇〇	〃
宇品檣楼支廠	八一九、〇〇〇	〃
参謀本部	四一〇、〇〇〇	〃
合計	[illegible]	

恤兵品代ト慰問金トノ計

恤兵金使用一覽表（其六）軍馬軍用動物慰問金ノ部 昭和七、五、一〇調

送付先	金額	使途
関東軍	三四七七、六七円	昭和六、一二関東軍司令部ヘ送付シ適宜分配ス

恤兵金使用一覽表（其四）雜費ノ部 昭和七、五、一〇調

種類	金額	使途
郵便切手	一五四、八〇円	師團等ヨリ遺族又ハ家族等ニ救恤金ヲ送付スル為使用シタル郵料トス
謝禮用繪葉書	七六七〇、〇〇	金品寄贈者ニ對スル謝禮用トス
寫眞帖類	六、五〇	寫眞帖作製ノ為見本トシテ購入
満蒙は明け行く	三二、八〇	接待用トシテ絵葉書及小冊子購入
木札及荷札	二二九、七〇	恤兵品運送ノ爲メ
慰問品格納箱	七、六〇	宇品糧秣廠ニテ格納箱購入ス
人夫賃	二五〇、一九	恤兵品ノ破損セシモノ等ノ梱包換等ノタメ
標記金札	一〇、五〇	恤兵品ニ對シ標札附着ノタメ
自動車賃	八三、六八	勅諭下賜五十年紀念祝賀會ニ東一場病兵招待ノタメ、及東京出征家族状況調査
運搬賃	一〇一、七〇	恤兵品運送ノタメ
新聞代	一六、六九	接待用トシテ
新聞挾	四、〇〇	仝右
案内用郵料	一三〇、〇〇	観兵式及靖國神社祭ニ金品寄贈者ヲ招待セシタメノ郵料
茶椀及盆	三、四五	接待用トシテ
香茶	二、六〇	仝右
合計	八七〇四、二一円	

恤兵金使用一覧表（其ノ四）雑費ノ部

自五月十二日 臨軍恤兵部
至六月二十日 迄於テ主由調

種別	金額	使途
郵便切手	一九七、一九〇	遺家族救恤費送金ニ要セシ郵便切手及為替料金
人夫賃	一〇三、二二〇	宇品糧秣支廠ニテ使用ノ分
自動車賃	一四三、一五〇	還送患者、禮狀運搬品遺家族調査ノ為使用
運搬賃	一六九、八一〇	恤兵品運賃
番茶	一三〇	接待用
恤兵品郵送料金	三〇〇、〇〇〇	山砲兵等十一聯隊ノ分
禮狀筆耕料	八三六、九四〇	東京市職業紹介所及錦耕社
活字扱	二二五〇〇	禮狀用トシテ
郵便切手	八、四二五、四二〇	寄附金禮狀郵便切手代、各師団司令部ノ分ヲ含ム
其ノ他雑品	七九五〇〇	
合計	一〇、二八六、四三〇	

恤兵金收支累計旬報　陸軍恤兵部

昭和七年六月二十日調

科目別收支計算高

科目	區分	收入	支出	差引殘額
從軍軍人	前旬末高	二、八六三、九〇八、六	四七七、四〇五、三二	二三八六、五〇二、四四
軍屬	今旬高	五、六九八、八三	五、九九七、九三	二九九、一〇
恤兵金	計	二、八六九、六〇六、八九	四八三、四〇二、三六	二、三八六、二〇三、六四
遺族	前旬末高	三八五、二九八、八七	一三六、九八四、五八	二四八、三一四、二九
救恤金	今旬高	二、三五七、二七	四、〇〇〇、〇〇	一、六四三、七三
	計	三八七、六五六、一四	一四〇、九八四、五八	二四六、六七一、五六
家族	前旬末高	二八〇、三九一、三	六八、三〇六四一	二一二、〇三二、七二
救恤金	今旬高		二、〇〇〇	二、〇〇〇
	計	二八〇、三九一、三	六八、三〇六四一	二一二、〇三二、七二

軍馬及軍用動物	前旬未高	五九五一三四	三、四七七六七	二、四七三六七	
	今旬高				
慰恤金	計	五、九五一三四	三、四七七六七	二、四七三六七	
	前旬未高	一〇、八五四五六	一八、七六六〇七	七、九一一五一	
雜	今旬高		二三四五七	二二四五七	
	計	一〇、八五四五六	一八、九九〇六四	八、一三六〇八	
恤兵金	前旬未高	三、五四六、三五一九六	七〇四、九四〇〇五	二、八四一、四一一九一	
收支	今旬高	八、〇五六一〇	一〇、二四二五〇	二、一八六四〇	
累計	總計	三、五五四、四〇八〇〇	七一五、一八二五五	二、八三九二二五五一	

備考

一、朱書ハ整理科目中ニ於ケル不足額トス

但シ整理科目間ノ融通ハ恤兵部ノ決議ヲ經テ時期ヲ劃シテ移動スルコトヲ得

昭和七年七月　日

海軍省經理局　桑原主計少佐

内閣

横溝總務課長殿

恤兵金使用狀況ノ件通知

陸軍省井上主計正ヨリ傳言ニ係ル海軍省所管恤兵金使用狀況別紙ノ通ニ有之候

（終）

恤兵金使用状況一覧表（其ノ一）　六月三十日調
海軍省経理局

受入総額	使用総額	残高
二八八一一八圓四二〇	二八八一一八圓四二〇	一〇〇〇〇〇〇〇

備考

一、受入総額、使用総額中ニハ上海、青島其他各海軍病院等ニ於テ直接受理シタルモノヲ含テ恤兵金トシテ受入ノ上各寄附者ノ意思ニ従ヒソノ受理官衙ヲシテ使用セシメタル額一一七七二二圓一二〇ヲ含ム

一、使用総額中ニハ支出未済ノ分ヲ含ム（内譯ノ通リ）

恤兵金使用狀況一覽表（其ノ二）

六月三十日現在

陸軍省經理局

使用內譯

種別	金額
運送部設置補助金	一三五、四〇九　五一〇
傷病者療養設置補助金	二一、二一七　九五〇
死亡者遺族交付金	二五、八五二　二二〇
葬祭補助金	四、六六五　〇〇〇
戰傷病者家族見舞金	一六、三二〇　〇〇〇
出征軍人家族救恤金	二、〇八〇　〇〇〇
恤兵雜件費	五萬九七九〇
小計	二〇六、一三六　四七〇
鐵道部設置積立金	四七、一八一　九六〇

傷病者療養慰安保留（雜誌發行基金其他）	一三〇、〇〇〇　〇〇〇
死歿者遺族交付保留（大同靖國神社會紀豫定者ノ分ヲ含ム）	三、〇〇〇　〇〇〇
戰傷病者家族見舞保留	一、八〇〇　〇〇〇
小計	一八一、九八一　九六〇
合計	三八八、一一八　四三〇

恤兵金使用状況一覧表（其ノ三）　六月三十日調

海軍省経理局

派遣部隊慰問資金ヲ以ツテ購入シ送付セル恤兵品

品名	数量	金額	
絵葉書（八枚一組）	四〇、〇〇〇組	二、〇八〇	〇〇〇
フイルム（大平洋）	壹	一、〇〇〇	〇〇〇
計		三、〇八〇	〇〇〇

秘

昭和八年三月自二十一日至二十日衛生業務旬報

混成第十四旅團司令部

調製官混成第十四旅團司令部附陸軍二等軍醫正中野織治

光緒八年三月（自二十一日至二十二日）衛生業務旬報　於平泉、混成第十四旅團司令部

一部隊行動ノ概要

前旬ニ引續キ諸隊ハ長城附近ニ於テ對陣中旅團任務ハ亦変更セラレ桃林口（之ヲ合フス）以西洪山口（之ヲ合ム）ニ亘ル長城ノ線ヲ守備スルト共ニ擔任警備地域内（北ハ七家子ー金家店ヲ連ヌル線以南、南ハ長城ノ線　西ハ金家店ー光頭山ー七溝ー架叉山ー洪山口ヲ連ヌル線（之ヲ合ム）ヲ以テ川原旅團ニ界シ東ハ九頭山ー四道嶺ー井龍山ー東盤山ー桃林口連ヌル線（之ヲ合フス）ヲ以テ鈴木旅團ニ界スル間）ノ敗残兵匪ヲ掃蕩シ治安維持ニ任スルコトトナリ新ニ歩兵第四十五聯隊（一大隊欠）ヲ基幹トスル迎支隊ヲ配属セラレタルヲ以テ二月十二日軍隊區分ヲ変更シ各其任務ヲ定メラレタリ即チ次ノ如シ

二、衛生機關業務ノ概要

衛生班ハ二十五日部隊ノ移動ニ伴ヒ警戒ノ都合上喜峰口關門附近ニ移動開設シ前任務ヲ續行セリ

本旬間收容シタル患者數ハ戰傷三名、平病五名ニシテ内一名急性穿孔性壞疽性蟲様突起炎アリ二十四日手術ヲ施シタリ、而シテ本旬間後送シタルモノハ六名ニシテ治癒退院セシメタルモノモ亦六名ニシテ旬末現在患者ハ三名ナリ、

三、患者輸送ノ狀況

本旬間衛生班ヨリ平泉關東軍臨時第一野戰病院ヘ後送シタル患者數ハ六名ニシテ内二名ハ二十三日旅團自動車班ノ糧秣輸送ノ歸路ヲ利用シ内二名ハ二十五日旅團司令部ノ平泉ニ歸還スルニ際シ司令部看護長ニ依託シ第一日ハ大行李ニテ次テ第二日ハ自動車班ノ自動車ニテ輸送セリ、又一名ハ二十六日大行李

空車輛ヲ利用シ尚一名ハ三十四歩五ノ第二大隊ニ属セシ野砲中隊ノ歸還ニ際シ關東軍自動車隊ノ自動車ニ便乘セシメテ後送シ遺憾ナキヲ得タリ

四、衛生材料補給ノ状況

戰傷及平病用一般ノ材料ハ未タ不足ヲ感スル程度ナラサルモ特種藥物消耗品中若干補足ヲ要スルモノアリ、補給方ヲ申請セリ其他衛生班ヨリ他部隊ニ補給シ或ハ他部隊ヨリ受領シタルモノハ衛生班ノ旬報ニ示スヲ以テ茲ニハ省略ス、旅團司令部ヨリ乘馬対伐隊ヘ撤曹錠、ドレル散錠、硼酸錠、健胃錠各三口個ヲ補給シタリ

五、一般衛生状態

一、患者ノ状況

本旬間各部隊ノ休業以上ノ新患總数ハ三十四名ニシテ九

旬ニ先シ八十一名ヲ減セリ、其ノ減少シタル主ナル原因ハ戰傷ニシテ先旬ノ八十五名ニ對シ本旬ハ僅カニ五名ニ過キス戰死者モ先旬ノ二十二名ニ比シ僅カニ二名ナリ、

而シテ平病者ノ數ハ先旬ノ二十九名ニ比シ二十九名ニシテ衛生狀態ハ概ネ良好ナリ、而シテ平病中特ニ記スベキモノハ司令部ノ馬丁及歩二二ノ兵中花柳病ニ罹リ入院シタルモノ各一名アルコトト歩二五、歩二七、歩二八ニ各一名ノ胸膜炎患者ヲ出シタルコトニシテ他ハ特ニ記スヘキモノナシ、

先旬報告シタル騎兵隊ノ凍傷患者ハ全部治癒退院シ障碍ヲ貽スモノナカリシハ幸ヒナリキ

部隊別患者表

部隊別	区分	新患	死亡	転送	治癒	後遺	摘要
旅團司令部		一		一			

歩二五ノ五	一三			七	一	五				五
歩二六ノ五	二			二						
歩二七ノ五	一一	二	七			二	戦傷五 内戦九二			
歩二八ノ五	二		二							
騎七ノ2										
野砲七ノ五	一					一				
通信隊										
自動車隊	四		一	三						
衛生班										
計	三四	二	二〇	四	八					

2、被服ノ状況

出發以來約一ヶ月間行軍戦闘警戒勤務等劇シカリシ

差被服ノ洗濯ヲナス暇ナク大多数ノモノハ風ニ悩マサレタル

[以下略]

秘

昭和八年四月自三十一日衛生業務旬報

混成第十四旅團司令部

リ杏花満開ノ好季節トナリタルモ尚朝夕ノ日差強ク日ニヨリテモ暮シキ差異アリ、二十日ハ小雪降リ二三寸積リ日中ノ氣温五、六度ニ降レリ旅團司令部ニテ測定シタル氣温表次ノ如シ

氣温表

月日	天候	測定時間 午前六時	測定時間 午後二時	測定時間 午後十時
十一日	快晴	五、〇	一九、〇	五、〇
十二日	〃	三、〇	一四、〇	四、〇
十三日	〃	〇、〇	一七、〇	二、〇
十四日	〃	二、〇	一七、〇	三、〇
十五日	〃	六、〇	一六、〇	一、〇

月日	天候	測定時間 午前六時	測定時間 午後二時	測定時間 午後十時
十六日	快晴	〇、〇	一七、〇	三、〇
十七日	〃	四、〇	二〇、〇	三、〇
十八日	〃	二、〇	二〇、〇	四、〇
十九日	〃	四、〇	一八、〇	八、〇
二十日	小雪	(一)六、〇	四、〇	(一)一、〇

右ハ平泉ニテ測定セルモノトス、

六、防疫及衛生施設

平泉ニ内鮮人娼妓ニハ必ス入リ来リ開業スルニ付キ十六日之レカ検徴ヲ實施シ将来毎週一回實施スルコトトセリ、第一回検査成績次ノ如シ

花柳病豫防法ニ就テハ藝娼妓ニハ健康診断票ヲ所持セシメ客ノ求メニヨリ提示セシムル如ク指示シ之レヲ兵員ニ周知セシム、其他星秘膏、「サツフ」ノ使用ヲ厳達スル他外出者ハ歸宅後必ス陰部ヲ昇汞水ヲ以テ洗滌セシムル如ク指示シタリ

検徴成績

	検査人員	有毒者人員	病名別検査人員ニ対スル%		
			疾病	梅毒	其他
日本人藝妓	一				
同 酌婦	二				一
鮮人藝妓	二				一
同 酌婦	二二	20% 四	二	二	一五

計	三八	105	四	五二六	五二六	一七

備考、検診者

関東軍臨時第一野戦病院附陸軍二等軍醫正　島津清志

歩兵第二十五聯隊第二大隊附陸軍二等軍醫　針谷順

七、其他必要ト認ムル事項

1、最キニ大學院入學ノ為更迭シタル歩二六ノ稲垣二等軍醫ハ十二日着任シ矢部軍醫ハ十五日大平方ヲ出發セリ、又歩二七ノ内藤二等軍醫ハ十九日着任シ佐々木軍醫ハ二十日樂陽城ヲ出發セリ、

2、歩二五ノ第六中隊看護兵及歩二七ノ第二中隊看護兵ハ共ニ病氣ノ為内地ニ還送セラレ缺員中ニテ衛生班ヨリ臨時配属シ居リタルモ歩二五ノ六ノ看護兵ハ十七日歩二七ノ二ノ看護兵ハ二十日共ニ補充員内地ヨリ到着セリ、

〔以下略〕

秘

昭和八年四月第三十旬衛生業務旬報

混成第十四旅團司令部

車輌ヲ以テ五名ヲ後送シ次テ二十六日自動車班ノ自動車歸還ニ際シ五名ヲ後送シ前後二回ニ十名ヲ後送セリ、東矢支隊ニ属セシ衛生班ハ支隊ト別カルルニ際シ當時入班中ノ患者二名ヲ二十三日蕪家口ニ於テ平泉ニ歸還スヘキ旨ノ文ノ醫官ニ托シ平泉關東軍臨時第一野戰病院ニ轉送シタリ

四、衛生材料補給ノ狀況

ノ四月九日混一四旅醫第二六二號ニテ請求シタル補充員ニ對スル痘苗六口口名分四月二十六日到着シタルニ付直チニ在平泉部隊ノ分ヲ分配シ他ハ四月二十日衛生班送付シ各隊ニ分配セシメタリ、其ノ分配區分ハ防疫ノ項ニ記ス

五、各種衛生材料ハ朝陽支庫ニ請求シ更領品目ヲ關東軍

軍醫部ニ報告スヘシト四月二十四日軍軍醫部長ヨリ電報アリタルニヨリ奉天陸軍関東倉庫ヘ五月分ノ衛生材料其他受領ノ為出張中ノ(他ノ要事ニ兼ネ出張ヨリ)看護長ニ右ノ旨電報スルト共ニ朝陽支庫ヘ豫メ準備シ置クヲ要スト認ムヘキ材料ノ準備方ヲ電報ニテ依頼セリ

3、旅團司令部ノ携行衛生材料ハ隊醫板一號、二號、担架、隊瓦斯醫板等ノ定数材料ノ外七梱アリ、内三梱ハ隊醫板内容ノ藥物消耗品ノ増加携行品ニシテ外四梱ハ主トシテ保健、防疫用トシ消毒ポンプ、二銀膏クレゾール石鹸液、コスタ、「ザツリ」等ナリ、

五、一般衛生状況

1、患者ノ状況

本旬間各部隊ノ休業以上ノ新患總数ハ三十五名ニシテ先

旬ニ比シ七十八名ヲ減セリ其ノ主ナルモノハ先旬ハ戰傷八十二名アリタルニ對シ單ニ一名アリタルニ過キサルカ為メニシテ平病ハ先旬ノ三十二名ニ比スレハ及ツテ四名ヲ增加シタルコトトナル然レトモ其ノ患者ノ種類ハ多種多様ニシテ胸膜炎一、花柳病一、蟲様突起炎一等注意スヘキモノナルモ他ハ特ニ記スヘキモノナシ

部隊別患者ノ状況次表ノ如シ

部隊別	新患	戰歿別 死亡	戰歿別 救送	戰歿別 治癒	戰歿別 拔遣	摘要
歩二五ノ五	八		四		五	
歩二六ノ五	三		二	一		
歩二七ノ五	一一		五	二	四	
歩二八ノ五	五		五			
野砲七ノ五	四		三		一	戰傷一（再発）
自動車班	四		一	三		
計	三五		二〇	六	一〇	

月日	天候	測定時間例			測定場所
		午前六時	午後二時	午後十時	
四月二十一日	曇	〇.〇	七.〇	一.〇	平原二ツ
二十二日	快晴	八.〇	一六.〇	五.〇	〃
二十三日	〃	七.〇	二一.〇	一〇.〇	〃
二十四日	〃	八.〇	二二.〇	七.〇	〃
二十五日	〃	測定九ヵリシモ 概不前日ニ同シ			

月日	天候	測定時間例			測定場所
		午前六時	午後二時	午後十時	
二十六日	快晴	二.〇	二〇.〇	四.〇	平原二ツ
二十七日	曇	二.〇	一五.〇	六.〇	〃
二十八日	〃	五.〇	一五.〇	六.〇	〃
二十九日	快晴	五.〇	二三.〇	一〇.〇	〃
三十日	〃	八.〇	二三.〇	一二.〇	〃

二、防疫及衛生施設

1、歩兵第二十六聯隊第二大隊ニ於テ大平房警備隊ニ於テ兵一名二十七日發病二十八日程紅熱疑似ニヨリ朝陽関東軍臨時第三野戦病院ニ入院シタル為同隊ニ於テハ厳密ナル防疫處置ヲナシ其後續發ノ徴ナシ、

2、腸チフス、パラチフス豫防接種、赤痢豫防錠ノ内服、種痘

等ニ関シテハ十八日各部隊長ニ次ノ如ク通牒セリ
腸チフスA及B型パラチフス混合豫防接種液未剤
豫防錠、満洲種痘苗ヲ左記ノ通リ近ク衛生班ヲシテ
交付セシムルニ付腸チフスA及B型パラチフス混合豫
防接種未剤豫防錠ハ内服ノ金員ニ(最近貰受済
ミノ者ヲ除ク)種痘ノ補充員金員ニ成ルヘク速カニ渡
ス様スルコトナク貰受ケ度通牒ス
追テ今回ハ時候柄急ヲ要スルヲ以テ機ヲ逸スルコトナク
成ル丈速カニ實施スル如ク特ニ御配慮相成度申添フ

種類	腸チフスA及B型パラチフス混合豫防接種液	腸チフスA及B型パラチフス混合豫防接種液未剤豫防錠	満洲種痘苗
〃	二〇人	二〇人	二〇人
	二〇	二〇	二〇
	二〇	二〇	二〇
	二〇	二〇	二〇

3、三十日平泉ニ於ケル内鮮人藝娼妓全員ヲ警察署ニ集メ
署長立會ノ上ニテ花柳病豫防及其他ノ防疫上ニ関シ
衛生講話ヲナシ續イテ各妓樓ヲ署長及憲兵上等ニ巡
視シ衛生並ニ花柳病豫防施設ニ関シ指示シタリ、
4、平泉ニ於テ二十三日實施シタル第二回藝娼妓檢徴成績
次ノ如シ、檢査醫官ハ関東軍臨時第一野戰病院附陸
軍二等軍醫等森義郎トス

	内地人		朝鮮人	
	藝妓	酌婦	藝妓	酌婦
檢査人員	二	五	三	二四
有毒者人員				八
同上病名別檢査人員ニ對スル% 麻疾				11.4 四
徴毒				11.4 四
其他		一	一	五

七

計	田田	八	11.4	田	11.4	田	七

七、其他必要ト認ムル事項

1、熱河作戰間ニ戰死シタル者其他ニ對スル第一回補充員九十二名ハ二十九日平泉旅團司令部ニ到著各隊ニ分配シタリ、

2、歩兵第二十七聯隊第一大隊ニ於テ昨年十月以來三月末日迄ニ胸膜失患者二〇名肺尖失患者三名ノ多數患者ヲ出シタルヲ以テ之レカ原因調査ヲ同隊附醫官ニ命シタルニ四月二十四日詳細調査報告セリ、

其ノ詳細ハ既ニ其際報告シタルヲ以テ茲ニ省略スルモ要スルニ患者ノ最モ多發シタルハ一月ノ八名二月ノ七名ニシテ當大隊ハ昨年十月出征以來東邊道第一次第二次計

伐ニ引續キ大興安嶺ノ作戰ニ參加シ續イテ休養ノ暇
モナク吉林省東境方面ノ昨戰ニ出動シ非常ナル辛
苦ヲ當メタル為メ疲勞ノ蓄積ニヨリ一月二月ニ多發
シタルモノト判斷シ居レリ

八、意見、　ナシ

秘

昭和八年五月自一日至十日衛生業務旬報

混成第十四旅團司令部

イ、六ロ瓦、リチネ六ロ瓦、ヒコゴール液三ロ瓦、ベルオキシード三ロ瓦、沃丁一ロ瓦、健胃錠一二ロ箇、參ノ硫膏四ロ瓦、アスピリン錠三ロ箇、酒精一ロ瓦、ピロカルピン軟膏一ロ瓦、巻軸帶六巻、藥包紙三ロ枚、等主ナルモノトス、

五、一般衛生狀況

ノ、患者ノ狀況

本旬間各部隊ノ休業以上ノ新患總數ハ四一名ニシテ先旬ニ比シ六名ヲ増加セリ新患中戰傷ハ二名ニシテ他ハ平病ナリ之等疾病中病名ノ決定セルモノハ急性胃腸炎七、外傷三、戰傷二、中耳炎一、扁桃腺炎一、花柳病一等ニシテ病名未定二七名ナリ此ノ中野砲兵第二大隊第五中隊ノ上等看護兵一胸膜炎ノ疑ヒニテ入班シ入班後濕性胸膜炎ニ決定セラレタリ其ノ他特ニ記スベキ疾病ナシ部隊別患者ノ狀況

[中略]

次表ノ如シ

部隊別患者表

部隊別	新患	転歸別 死亡	転送	治癒	後遺	摘要
歩二五ノII	一一		九		六	
歩二六ノII	七		六	一		
歩二七ノI	一二		一一	一		内戰傷衝發一
歩二八ノII	三		三			
野砲七ノII	五		四		一	内戰傷一
自動車班	三		一	二		
計	四一		三四	四	七	

備考

一其ノ他ノ部隊ニハ患者ナシ

二轉歸數ノ新患ニ比シ多キハ先日病名未定患者アリタルニヨル

混成第十四旅團藝娼妓酌婦健康診斷實施要領 昭和八年四月三十日

一 旅團ノ警備區域外（滿鉄附屬地ヲ除ク）ニ於テ營業スル藝娼妓酌婦ニ對スル健康ハ本要領ニヨリ實施スルモノトス、

二 本健康診斷ハ軍隊防疫上ノ必要ニヨリ實施スルモノナルモ事苟モ人權ニ關スルモノナルヲ以テ愼重ニ實施スルハ勿論良ク憲兵又ハ警察官ト協議シ遺漏ナキヲ期スルモノトス、

三 健康診斷ハ旅團司令部附軍醫正（旅團司令部所在地外ニテハ其ノ地高級醫官）ノ指示スル醫官ヲシテ實施セシムルモノトス、

四 健康診斷實施回數ハ憲兵又ハ警察官ト協議上定ムベキモ一般檢査ハ毎月一回局部檢査（檢黴）ハ毎週一回以上檢査ヲ要スルモノトス、

檢査日時場所等ハ檢査醫官憲兵又ハ警察官ト協議

ノ上定ムルモノトス

五 検査醫官ハ健康診断ノ結果疾病ニ罹リ稼業ニ堪ヘサルモノ又ハ傳染性疾病ヲ有スル者ヲ発見シタル時ハ其旨憲兵又ハ警察官ニ通報スルモノトス、

六 検査醫官ハ藝娼妓酌婦健康診断簿(別紙様式第一)ヲ備ヘ検査毎ニ所見ヲ記入捺印シ後症ニ資スルモノトス

七 防疫ノ必要上藝娼妓酌婦ニハ健康診断受検票(別紙様式第二)ヲ各人毎ニ常ニ携帯セシメ客ノ求メニヨリ提示セシムルモノトス、

検査醫官ハ健康診断實施毎ニ健康診断受検票ニ疾病ノ有無(有病者ハ病名ヲ記入ス)ヲ記入捺印ノ上之ヲ本人ニ交付スルモノトス

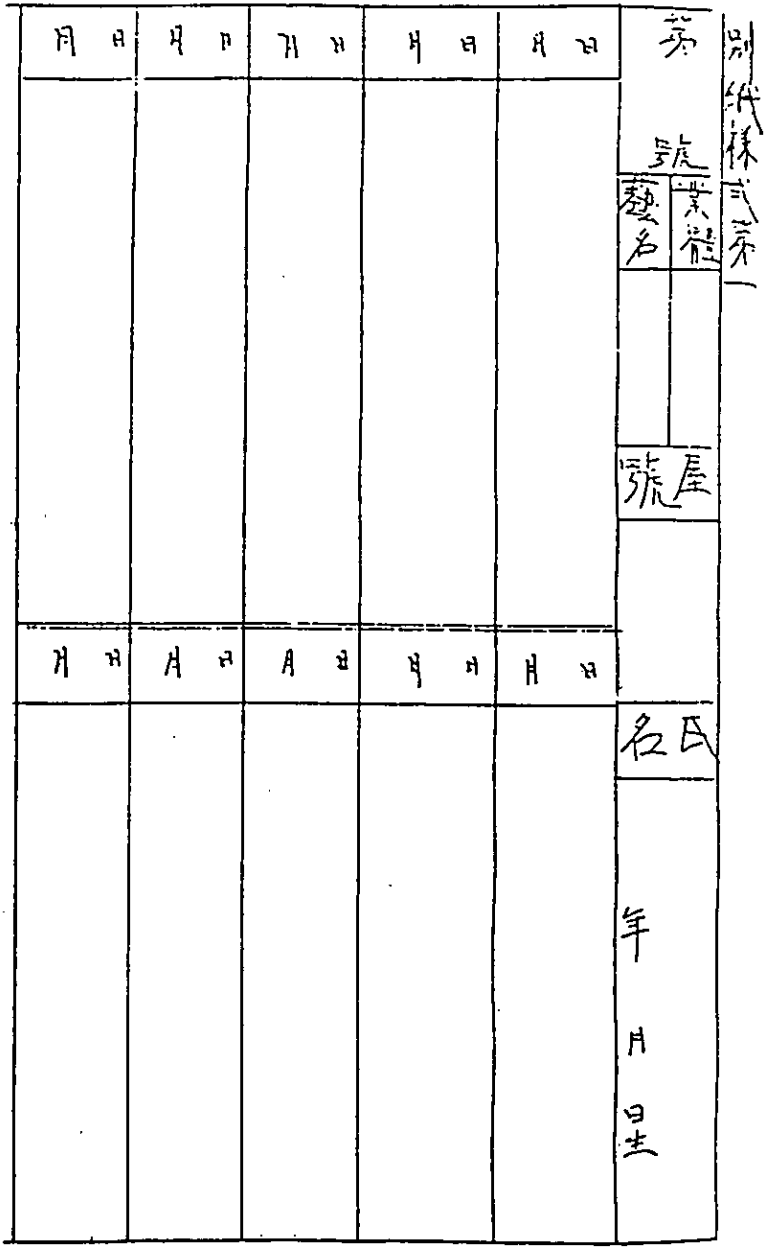
八 検査醫官ハ検査終了後成ルヘク速カニ検査概況ニ検査

成績表（別紙様式第三）四通ヲ添ヘ旅團司令部附軍醫正ニ提出スルモノトス、

九 不健康者ニ対シテハ樓主ヲシテ速クニ治療ヲ受ケシムル如ク指導スルモノトス但シ地方ニ適當ナル診療機関在ラサル場合ニ於テハ関東軍地方民施療實施要領ニヨリ施療ヲ實施シ防疫ニ資スルモノトス、

一〇 妓樓ニ於ケル花柳病豫防施設ニ就テハ出来得ル丈完備セシムル如ク指導スルモノトス、

以上


別紙様式第一
番号
業種
屋号
氏名
年月日生

月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	
						六
月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	
						三

表面

注意事項

本票ハ紛失セサル様注意ニ受検ノ際ハ勿論常ニ
之ヲ携帯スヘシ
一検査ハ毎週一回實施
二検査月日欄ニ検査醫官ノ捺印ナキモノハ其週間
受検査セサルコトヲ示ス
三本票ハ他人ニ貸与スルコトヲ得ス
四憲兵警察官又ハ客ノ求メアルトキハ本票ノ提出
ヲ拒ムコトヲ得ス
五本票ヲ紛失シタルトキハ直チニ検査醫官ニ再下
付ヲ願出ヘシ

混成第十四旅團司令部

第　號

業體	名
屋號	氏名

健康診断受検票

昭和　年　月　日

別紙樣三十二

年月日　檢徵成績表

檢查成績	日本帝						計	總計
	內地人		鮮人		〃	〃		
	藝妓	酌婦	藝妓	酌婦				
檢查人員								
有毒者人員								
檢查人員								
梅毒	2%一							
痲疹		3%五						
軟下疳								
膜炎								
……								
……								
摘要								

（参考法規）

娼妓取締ニ関スル規則

第二條　娼妓名簿ニ登録セラレサル者ハ娼妓稼ヲナスコトヲ得ス

娼妓名簿ハ娼妓所在地所轄警察官署ニ備フヘキモノトス

娼妓名簿ニ登録セラレタル者ハ取締上警察官署ノ監督ヲ受クルモノトス

第三條　第三項

娼妓名簿登録申請者ハ登録前廳府縣令ノ規定ニ從ヒ健康診斷ヲ受クヘキモノトス

第九條　娼妓ハ廳府縣令ノ規定ニ從ヒ健康診斷ヲ受クヘシ

第十條　警察官署ノ指定シタル醫師又ハ病院ニ於テ疾

病ニ罹リ稼業ニ堪ヘサル者又傳染性疾患ア
ト診断シタル娼妓ハ治癒ノ上健康診ノ断ヲ受
クルニ非ラサレハ稼業ニ就クコトヲ得ス

第十三條ノ一ノ事項ニ該當スル者ハ三月以下ノ懲役又ハ百円
以下ノ罰金ニ處ス

三第十條ニヨリ稼業ニ就クコトヲ得サル者又ハ稼業
停止中ノ娼妓ヲシテ強イテ嫁業ニ就カシメタル者

第十三條ノ二、左ノ事項ニ該當スル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

二、第六條第九條第十條ニ違背シタル者

秘

昭和八年七月中旬 衛生業務旬報

混成第一四旅團司令部

監部造衛生班ヲシテ材料ヲ送付セシメタリ、

3、建昌營部隊ヨリハ施療ヲ開始シ度 意見具申アリ、又山海関ニテモ施療ヲ実施スル必要アルヲ認メタルヲ以テ、之ヲ軍々醫部長ニ申請シ認可ヲ受ケタルヲ以テ之レニ要スル材料部隊及衛生班用各一箇月分ヲ七月五日軍々醫部長ニ請求セリ、

五、一般衛生状態、

一、患者ノ状況、

本旬間各部隊ノ休業以上ノ新患總数ハ四九名ニシテ内一名ハ戰傷他ハ平病ニシテ前旬ニ比シ一四名ヲ減セリ患者中多数ナルハ病名未定ノ二〇名、急性胃腸炎ノ一七名、感冒性疫患三名、外傷二名、花柳病二名、胸膜炎一名、外痔核、外被病、戰傷、肛圍膿瘍各

[中略]

一名等ニシテ、赤痢患者ハ全ノナシ、

部隊別患者ノ狀況左表ノ如シ、

部隊別患者表

部隊別 / 患者数	新患数	死亡	治癒	轉送	後遺	摘要
歩二五ノ工	一一			八	三	
歩二六ノ工	八		三	五		内戰傷一
歩二七ノ工	四			三	一	
歩二八ノ工	一〇		六	四		
騎七ノ乙	六		三	三		
野砲七ノ工	六			二	四	
自動車班	四		二	二		
計、	四九		一四	二七	八	

三

ノ本刑手ハ戰鬪間紛失シタルモノ多數アリ尚ホ不足ノ模様アリ、

4、先旬報告シタル如ク山海関治安維持會ト塵芥、汚物、糞穢、馬糞等ノ搬出法ニ就キ協議中ナリシ處漸ク協定出來タルヲ以テ十日ノ會報ニテ別紙ノ如ク各隊ニ通報シ実施スルコトニシタリ、

5、山海関支那人遊廓ハ駐留以来駐留規定ヲ以テ立入禁止区域ト定メラレアリタルモ、諸種ノ関係ニテ各隊ヨリ、禁止ヲ解除セラレ度、意見出テタルヲ以テ支那娼妓ニ対シテ檢黴ヲ實施スルヲ得ハ解禁スルモ可ナリトノ意見纏マリ、軍部ニ於テ、檢黴スルコトニ就キ治安維持會ト交渉シ其ノ快諾ヲ得タルヲ以テ来ル十四日嚴格ナル檢黴ヲ実施シタル後十六日ヨリ

駐留隊ヲ設ケ立入ヲ許可セラルルコトトナリタリ、

七、其他必要ト認ムル事項、

イ、建昌營、懲江部隊ヲ施療ヲ実施シ度キ希望ノ意見具申アリ、又山海関ニテモ治安維持會等ヨリ盛ニ希望セラルルノミナラス、宜傳防疫等ノ意味ヨリ其ノ必要アルヲ認メタルヲ以テ、四日電報ヲ以テ山海関及建昌營ニ於テ施療ヲ実施シ度キ旨、軍醫部長ニ申請シタル處、直チニ認可セラレタルヲ以テ其ノ旨懲江部隊ニ電報セルト共ニ、衛生班長ニ山海関ニ於テ施療ヲ開始スヘキ命シ、衛生材料ノ準備、診療場所ノ準備等ヲ命シタリ、

ロ、旅團司令部附中野軍醫中尉ハ七月七、八日新京関東軍司令部ニ於テ開催セラルヘキ軍内、軍醫部

五

[以下略]

秘

昭和八年七月至十日 衛生業務旬報

混成第一四旅團司令部

2、七月十七日軍ヶ醫部長ヨリ「コレラ」豫防接種液三、二〇〇人分送付ノ通牒ヲ受ケタリ、然ルニ目下工兵第一四大隊ヨリ二小隊配屬中ナルヲ以テ、其レニ必要ナル八〇人分ヲ追加請求シタルニ十九日倉庫ヨリ送付セシタル旨通知アリタリ、

3、先般軍内軍醫部長、病院長、會議ノ際意見具申依頼シ置キタル、喀痰檢査用、顯微鏡二具、屬具一具、十八日衛生班ニ到着セリ、

五、一般衛生狀態、

一、患者ノ狀況

本旬間各部隊ノ休業以上ノ新患総数ハ四八名ヲ算シ内一名ハ戰傷他ハ平病ニシテ前旬ニ比シ一名ヲ減シタリ、患者中多数ナルハ急性胃腸炎ノ一四名病名未定ノ一二名、感冒性疾患ノ八名、外傷及外被病ノ各四名、

[中略]

痔疾三名、戰傷者、花柳病、肺尖炎各一名ノ順序トス、
患者中將校患者二急性腸炎一、兩側肺尖炎患者一、アリ
部隊別患者ノ狀況左表ノ如シ、

部隊別患者表

部隊別＼患者數	新患數	治癒	転送	後遺	摘要
歩二五ノII	四		一	三	
歩二六ノII	二		一	二	
歩二七ノI	五	一	三	一	
歩二八ノII	一六	一四	二		内戰傷一名アリ、感冒性疾患五名、急性腸炎三名、急性胃腸炎七名アリ、
騎七ノ二中	一三	六		七	
野砲七ノII	五	二	一	二	
通信隊	二		一	一	
衛生班	一		一		
計	四八	二三	九	一六	

六 防疫及衛生施設

1 又那娼妓ノ檢徴ハ十四日實施シ爾後毎週一回實施スルコトニ定メタリ、成績ハ極メテ不良ニシテ、概ネ三〇%以上ノ罹病者アル状況ナルモ、諸種ノ関係ニテ駐留規定ヨリ立入ヲ解禁スルコトニ決ルリ、

2 又那娼妓ノ罹病者ノ治療ヲ滿洲国々境檢疫所醫員ニテ施療ヲ實施スルコトニ協定實施セリ、

3 十五日軍醫部ヨリ北平ニ眞性「コレラ」一名発生シタル旨通知アリ、更ニ二十日承德ニ一名去ル十七日発生シタル旨ノ通知ヲ受ケタリ、

4 右ニヨリ「コレラ」豫防ニ萬全ヲ期セラレ度、旨軍醫部ヨリ通牒アリタルヲ以テ各隊ニ通牒シテ遺漏ナキヲ期セシメタリ、

5 腸チフス パラAB豫防接種ハ各隊概ネ先旬ヨリ實施ヲ

口

ニシテ旅団司令部ハ左記日割ニヨリ實施ヲ開始セリ、

第一回、第二回、第三回、第四回

甲班、自二日　自三日　八月十日

乙班、〃二日　〃三日　〃四日　〃十一日

七其ノ他必要ト認ムル事項

八月十五日部隊長會議ヲ開催セラレ司令部附軍醫正ハ別冊ノ如ク衛生成績向上ニ関シ同席上ニ於テ口演ヲナシ隊長ノ奮勵ヲ希望シタリ、

九衛生班附陸軍二等軍醫白岩義明両側肺尖炎ニ罹リ十八日衛生班ニ入班セリ、白岩軍醫ハ歩二八ノ第二大隊濱崎軍醫ノ入院セシ後歩二八ヘ臨時配属中ナリシヲ以テ、今回野砲隊市村軍醫ヲ歩二八ヘ臨時配属セシメ、在山海関部隊ノ診療ハ歩二六ト衛生班ニテ分担スル如ク命シ

タリ、

3、衛生班ヨリ豫ネテ野砲兵第五中隊ヘ配属中ナリシ龍看護兵ハ七月十六日帰班シタリ、

八、意見　ナシ、

秘

昭和八年八月自十日至二十日 衛生業務旬報

混成第十四旅團司令部

[前略]

六、防疫及衛生施設

1、関醫丙第七六一號ニヨル飛行機ノ汚染防止法(註)ニ消毒ニ関シ各部隊ノ注意ヲ蓓蓰ス、

2、團下各部隊ノ腸「チフス、パラチフス」混合豫防接種(註)ニ「コレラ」豫防接種ハ軍醫配属ナキ撒河橋部隊(歩ニ五ノ七中、山砲一分隊)ヲ除キ全部完了セリ、撒河橋部隊ハ接種液ノ有効期限ヲ経過セル為、再申請中ナルヲ以テ、接種液到着ノ上ハ直チニ實施ノ豫定ナリ、

3、歩兵第二十七聯隊第一大隊ノ喀痰検査ハ一般豫防的處置ト共ニ前旬ヨリ引續キ順調ニ實施セラレ、隊附軍醫ノ熱心ト努力トハ逐次其ノ効價ヲ發揮シツヽアリ 本旬結核ノ最モ膿厚ト目セラル、第二中隊及機関銃隊ヨリ各一名ノ抗酸性菌(ガフキー一號乃至三號程度)保有者ヲ検出シ

直ニ患者ヲ隔離入班セシメ、居室、被服、食器等ノ消毒ヲ勵行セリ。

尚歩兵第二十五聯隊騎兵第七聯隊（建昌營部隊）ノ目下喀痰檢査實施中ナリ。

4. 前所部隊（歩三ノ一大隊本部及第三中隊、MG）ハ本旬ニ於テ炊事場完成セルヲ以テ、場内外ノ消毒的清潔法ヲ實施シ、防疫的施設ヲ行ヒ且ツ調理上ノ諸注意ニ関シ周到ナル敎育ヲ實施セリ。

5. 司令部附軍醫正ハ本旬山海関ニ於ケル日鮮支人藝酌婦檢徴狀況竝ニ妓樓ノ花柳病豫防施設等ニ関シ視察セル結果、支那人娼妓ハ有毒者常ニ他ニ比シ多數ヲ占ムルニ拘ラス、治療ノ要求ニ應セス、且ツ豫防的施設ヲ忌ミ行ハサルヲ以テ、有毒者ハ逐日増加ヲ見ツヽアリ。

一面多数ノ移住日鮮人娼婦ニヨリ開閉ハ充分ナルノ現況ヲ看取シ衛生部員ノ過少ニシテ餘力ニ乏シキ現下支那人娼妓ノ檢徴ハ徒勞ナルヲ以テ、爾今之レヲ廢止スルノ可ナルヲ決意シ之レカ意見具申ヲナシ關係部隊ハ實況ヲ通報シ兵員ノ之レニ接セサル樣特ニ注意ヲ促セリ

尙前所部隊ニ於テモ同地日鮮人藝酌婦ハ有毒者多數ナルヲ以テ、六軒ヲ四軒ニ立寄禁止ヲ命セリ、

七、其ノ他必要ト認ムル事項、

ノ、司令部附軍醫衛生兵ハ本旬旅團長ニ隨行シテ、歩三六大隊本部、第五、第六中隊、歩三七第三中隊、野砲七第三大隊、通信隊、自動車班、衛生班（以上山海關部隊）及歩三七大隊本部、第一、第二中隊（前所部隊）、歩三八大隊本部、第五、第六中隊（綏中部隊）歩三八、第七中隊（興城部隊）ノ衛

二

394
35

日本將校ノ外
閲覧ヲ禁ス

滿洲事變陸軍衞生史 第四卷

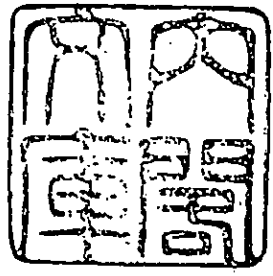
衞生勤務 其四

昭和十年八月一日調製

陸軍省

③滿州事變陸軍衛生史 第4卷 [陸軍省] (昭10・8・1)

内閣文庫
和書
九口六二五号
冊



凡例

一　本史ハ主トシテ滿洲事變ニ於ケル陸軍ノ衛生醫事ニ關スル事項ヲ蒐錄セルモノトス

二　本史ハ特ニ示スモノヲ除クノ外事變開始ヨリ昭和九年三月三十一日迄ノ事實ニ就キ之ヲ編纂セリ

三　「祕」ニ屬スル編制及統計關係事項ノ詳細ハ之ヲ第八卷（「祕」二號ニ一括收錄セリ

四　本卷ニハ作戰及軍政其他一般的情勢ニ關スル事項ヲ省略又ハ簡記シタルヲ以テ其詳細ハ各軍ノ衛生業務篇（第一、二卷）ヲ參照スヘシ

五　時刻ハ當該地方ノ標準時（滿洲國、北支、上海地方ノ正午ハ日本中央標準時ノ午後一時ニ相當ス）ニ據リ溫度ハ攝氏ヲ使用セリ

六　事變間ニ名稱ヲ變更セラレタル地名、鐵道名等ハ記事當時ノモノヲ使用セリ但下士官兵ノ名稱ハ總テ昭和六年十一月陸普第四七五五號ニ依リ改正セラレタルモノニ據レリ

七　本卷各記事ノ研究ニ方リテハ今次事變ニ關スル戰史、政史、給養史及（昭和八年十一月陸軍軍醫團ヨリ刊行シタル滿洲事變衛生勤務記念寫眞帖ヲ參照スルヲ可トス

八　本卷ニ揭ケタル主要事件名、地名、物名、人名等ノ索引及各卷ノ總目次ハ之ヲ第九卷ニ揭ク

九　本卷所載ノ地名ハ添附地圖ノ外陸地測量部刊行五十萬分一及十萬分一地圖ヲ參照スルヲ便トス

一〇　各巻ノ主要内容及取扱區分ハ左記總目次ノ如シ

滿洲事變陸軍衛生史總目次

第一巻　衛生勤務　其一「秘」規則適用

第一篇　總論

第二篇　中央部ノ衛生業務

第三篇　關東軍ノ衛生業務

第二巻　衛生勤務　其二「秘」規則適用

第四篇　上海派遣軍ノ衛生業務

第五篇　朝鮮軍ノ衛生業務

第六篇　支那駐屯軍ノ衛生業務

第七篇　内地師團鎮留守師團ノ事變業務

第八篇　戰地衛生機關

第九篇　内地衛戍病院

第三巻　衛生勤務　其三「特」日本特校ノ外閲覧ヲ禁ス

第十篇　戰地兵要衛生概誌

第十一篇　衛生

第十二篇　調査研究事項

第十三篇　教育

第十四篇　衛生部ノ人事

第十五篇　衛生部ノ戰病死傷者

第十六篇　恩給診斷附扶助料

第十七篇　衛生部員ノ功績

第十八篇　事變傷病者ニ對スル皇室ノ御仁慈

第十九篇　衛生勤務ニ關係アル國民ノ後援

第二十篇　意見

第四巻　衛生勤務　其四「特」日本特校ノ外閲覧ヲ禁ス

第二十一篇　防疫

第二十二篇　檢疫

第二十三篇　患者輸送

第二十四篇　陸軍軍醫學校ノ業務

第二十五篇　衛生材料

第二十六篇　陸軍衛生材料廠ノ業務

第二十七篇　陸軍運輸部ノ衛生業務

第二十八篇　軍隊輸送船ノ衛生業務

第二十九篇　衛生勤務關係ノ滿洲事件費ニ就テ

滿洲事變陸軍衛生史　第四卷

第二十一篇　防疫

第一章　總論

第一節　總說

事變防疫業務ノ特長

今次事變ニ於ケル派遣部隊ハ作戰地方ノ衛生狀態著シク不良ヲ極メ各種急性傳染病毒ノ侵淫濃密ナリシニ拘ラス繁劇ナル軍事行動ノ傍ラ克ク艱苦缺乏ニ堪ヘテ保健防疫ニ邁進シ既往戰役ニ嘗テ見サル良好ナル防疫成績ヲ擧ケタリ是偏ニ諸隊ニ於ケル幹部ノ機宜ニ即シタル施設竝指導ト兵員ノ自覺ニ基ク衛生履行トノ賜ト謂フヘク就中病毒ノ侵襲ヲ豫防シ或ハ隊內蔓延ヲ防遏シ軍事行動ヲシテ支障ナカラシメタルハ實ニ衛生部員ノ積極的畫策ト眞摯精勵トノ結果ニ因ラサルハナシ而シテ今次事變ニ於ケル防疫業務ノ特長トシテ擧クヘキハ出動部隊中一部ハ戰時編制ニ據リタルモノアルモ其大部ハ特殊ノ臨時編成部隊ニシテ兵員數ハ多カラスト雖之ニ伴ヒ衛生部員亦人少ナリシ爲防疫業務ノ實施ニ方リテモ支障少カラス加之作戰地方ハ上海方面ヲ除キテハ廣汎ニシテ且疾風迅雷的ノ行動多ク既往ニ於ケル諸戰役ト大ニ趣ヲ異ニシ防疫業務亦之ニ隨ヒテ機動性ヲ要求セラルルコト多カリシ事ニシテ特設防疫機關トシテハ上海派遣軍ニ第四野戰防疫部ヲ屬セラレ卓越セル性能ヲ發揮シ關東軍ニ於テハ各衛戍病(分)院及各師(混成旅)團衛生班、間島臨時派遣隊ニ於テハ其衛生班(軍事部隊ノ爲ニハ第十九師團衛戍病院)、第十九、第二十師團越境出動部隊ニ於テハ夫々鮮內ノ衛戍病(分)院、支那駐屯軍ニ於テハ駐屯軍病院各、菌檢索實施機關トシテ活躍シ昭和七年夏季ニ於ケル哈爾賓ノコレラ大流行ニ方リテハ關東軍ニ於テ臨時防疫班ヲ編成シテ地方防疫ニ協力シ尙防疫處置ニ關スル連繫指導ノ爲無電又ハ有線通信機關ヲ活用シタルカ如キ又菌檢索材料、豫防接種液等ノ補給、防疫指

顧慮シテ可檢便ハ其大部ヲ熱河省内ニ於ケル各集合地ヨリ空輸ヲ以テ、一部ハ部隊ノ通過時ヲ利用シテ之ヲ交付シ檢疫委員ハ第一梯團ニ對シ三月九日ヨリ十四日ニ亙リ又第二梯團ニ對シ三月二十一日ヨリ二十六日ニ亙リ菌檢索ヲ實施シ五、五七一名中ヨリ赤痢菌保有症五名ヲ檢出セリ

11　第十及第十四師團歸還時（昭和九年四月乃至五月）ノ檢疫業務ニ關シ軍軍醫部長（軍醫監 梶井貞吉）ハ三月二十二日左ノ通リ兩師團軍醫部長ニ指示セリ

内地歸還ニ伴フ衛生業務ニ關スル指示拔萃

（昭和九年三月二十二日 於新京關東軍軍醫部）

部隊檢疫ニ關シ左ノ通リ實施スヘシ

1　左記衛戍病院又ハ分院ニ於テ簡便ノ菌檢索ノミヲ實施ス依テ關係師團軍醫部長ハ當該病（分）院長ト協議シ萬遺漏ナキヲ期セラレ度

左記

哈爾濱衛戍病院
齊齊哈爾衛戍病院
新京衛戍病院
拉法衛戍病院延吉分院
但延吉分院ハ附近部隊ノ分ノミヲ取扱ノモノトス

2　身體檢査ハ出發前各部隊醫官ニ於テ適宜實施スヘシ（以下第八師團ニ對スルト同樣ナルヲ以テ省略ス）

歸還部隊ニ對スル腸管傳染病病原菌檢索ハ各最寄衛戍病院ニ於テ實施セラレ菌保有症第十師團（八、六五一名）ヨリ三名（赤痢二、B型パラチフス一）、第十四師團（九、四一三名）ヨリ八名（赤痢五、A型パラチフス一、B型パラチフス二）ヲ檢出セリ第十師團ハ北鮮清津及雄基ヲ經由シ價島ニ於テ、第十四師團ノ主力ハ大連ヲ、一部ハ釜山ヲ經由シテ敦賀ニ於テ檢疫ヲ受ケタリ

第十三節　地方側ニ對スル防疫指導

軍軍醫部長ノ指導方針

關東軍軍醫部長ハ滿洲國ノ現況ニ鑑ミ先ツ地方側ノ衛生防疫ヲ指導啓發シテ環境ノ衛生狀態ヲ向上セシムルニアラサレハ軍隊防疫ノ成果得テ望ムヘカラスト爲シ兼ネテ新興滿洲國ノ諸施設ヲ誘掖整備シテ住民ノ福祉增進ヲ圖ルニ決シ積極的地方指導ノ方針ヲ立テ昭和七年四月二十九日各部隊附醫官ニ對シ左ノ通牒ヲ發シテ企圖ヲ明ニセリ

衛生施設改善ニ關スル件通牒

滿洲ニ於ケル地方衛生諸般ノ施設ハ滿鐵附屬地ヲ除クノ外ハ極メテ不備ニシテ住民ノ衛生ニ對スル關心絶無ナルト相俟チ傳染病ノ發生四季ヲ通シ其跡ヲ絶タス爲ニ軍隊ハ常ニ傳染病侵襲ノ脅威ヲ蒙リツツアル事實ニ稽ヘ隊内衛生施設ノ改善ニ滿足セス軍部指導者トナリテ各駐屯地官民ト提携シ衛生委員會ヲ設置シ

地方衛生施設ノ向上改善ヲ圖ルハ啻ニ住民ノ福祉增進上ノミナラス軍隊ノ衛生上ニモ極メテ有意義ナルヲ確信ス然レトモ其急速ナル根本的改善ハ經費之ヲ許ササルヘキヲ以テ左ニ掲クル如キ實施容易ナル事項ヨリ漸ヲ逐テ實施シ以テ防疫ノ完璧ヲ期スル如クセラレ度

左記

1 檢病的戶口調査
2 傳染病、同疑似者ノ屆出及軍部ト地方側トノ相互通牒
3 種痘、豫防接種
4 街路上ノ放尿脫糞禁止、共同便所ノ設置
5 飲食物販賣上ノ取締
6 傳染病發生時ノ消毒
7 不用水溜ノ埋立、排水ノ改善
8 井戶ノ改善
9 除穢ノ勵行
10 隔離舍ノ設置
11 蠅、蚊、蟲、臭蟲、鼠等ノ驅除
12 定期大消毒法ノ實施

即チ之カ實施ノ爲軍ニ於テハ滿洲國政府ニ對シ、師團ニ於テハ關係省政府乃至主要都市當局ニ對シ又各部隊ニ於テハ夫々駐屯地ノ地方官憲等ト緊密ナル連繫ヲ保持シ衛生防疫業務ノ指導援助ニ努ムルト共ニ軍部ハ常ニ滿洲國側ト滿鐵、關東廳、外務省側及蘇國側トノ間ニ在リテ連繫ノ楔子トナリテ其協力統制ニ努メタリ今軍部ニ於テ實施シタル主要地方防疫指導事項ノ概要ヲ掲クレハ下ノ如シ（特殊傳染病流行時ニ於ケル防疫指導ニ就テハ既ニ記述シタルヲ以テ省略ス）

主要ナル地方指導例

一 關東軍軍醫部長ハ昭和七年初頭ヨリ日滿防疫會議ノ開催ヲ計畫シ滿洲國政府ニ對シ之カ主宰ヲ提唱シタルニ同國ハ國政未タ整ハサルノ故ヲ以テ正式會議ノ開催ヲ不能トシタルモ折衝指導ノ結果昭和七年五月三十日長春ニ於テ軍部（家原軍軍醫部部員）、高原長春、分院長、關東廳（山口衛生課長）、滿鐵（千種衛生課長、村川防疫主任）、滿洲國（都留民政部衛生司醫務科長、趙民政部衛生司防疫科長）當事者相會シ打合會議ヲ開キ主トシテ左記事項ニ就キ協議セリ

1 滿洲國ニ於テ計畫又ハ實施中ノ防疫事項ノ件
2 防疫制度改善ノ件
3 傳染病發生時ノ情報交換ノ件
4 ペスト、コレラノ發生及其他傳染病多發時ニ於ケル共同防疫ノ件
5 滿洲國人ニ種痘實施ノ件

二 獨立守備步兵第三大隊ハ昭和六年九月十九日營口河北占領後直ニ同地ニ軍政ヲ布キ二十日軍政所（日本領事館）ニ同地日滿首腦者ヲ召集シテ衛生會議ヲ開キ地方防疫ニ就キ協議シ且既設ノ防疫諸機關ヲシテ引續キ業務ヲ實施セシムル外臨時辨法ニ依リ船舶檢疫、戶口調査、死體檢案、市街清掃等ヲ勵行スル如ク協定セリ

三　在錦州第二十師團軍醫部長（軍醫監中山貞秀）ハ昭和七年三月地方衛生施設改善ノ爲錦州日滿合同衛生委員會ヲ設立シ四月九日會同ヲ行ヒ（委員長中山軍醫監、（錦州地區委員會副委員長、錦州軍醫部長）宇井領事館警務課長、中島日本人會長、（錦洲周邊委員）滿鐵錦州醫院長、谷醫長外一〇名）軍醫部作製ノ案ヲ基礎トシテ左記事項ノ實施ヲ決議セリ

1　軍關係部ノ日滿人ノ傳染病檢索（日本軍隊ニ出入スル日滿人ノ系統的檢索ハ日本軍醫ニ於テ實施）
2　檢病的ノ戸口調査（錦洲周邊ハ特務分課ニ於テ調査ニ當リ疑ハシキ患者ノ發見セハ特務局ニ報告シ醫師ノ派遣ヲ受ケ日本人側ノ戸口調査ハ領事館警察ニテ行フ）
3　傳染病、同疑似者ノ屆出竝通報（錦洲周邊ニ發生ノ場合ハ特務局ヨリ日本領事館及憲兵隊ニ、日本側ニ發生ノ場合ハ領事館警察及憲兵隊ヨリ特務局ニ通報ス）
4　傳染病隔離病舍ノ開設（錦洲周邊ハ適當ナル地方醫院内ニ隔離室ヲ設ケ日本側ハ時東隔離病舍新設ノ豫定）
5　共同便所ノ新設、保存、消毒、防蠅（現在ノ便所五個ヲ改造ノ外ニ七個所ヲ新設ス豫算ハ滿日洗取努力ヲシテ洗取リシム）
6　飲料放棄便禁止
7　各戸厠ノ糞尿洗取、消毒、保存、防蠅（便所洗取、石灰撒布、防蠅網取附ヲ實施ス）
8　塵芥除去及塵芥積却場設置
9　排水溝工事
10　井戸ノ改良
11　飲食物販賣上ノ取締
12　春秋二季大掃除法ノ實施
13　駆蚊駆蠅

四　第八師團軍醫部長ハ承德地方衛生指導ノ爲昭和八年四月十二日軍幹務機關長、憲兵隊長、地方側主脳者等ト協議ヲ遂ケ同月十五日衛生委員ヲ任命シ翌十六日委員會ヲ開催シ軍醫部作製ノ原案ヲ基礎トシテ左記事項ヲ協定セリ（委員長）地方治安維持會長、（軍部委員）浦、井上軍醫部員外九名、（滿洲國側委員）二名

1　檢病的戸口調査
2　傳染病及疑似患者ノ屆出
3　傳染病發生時ノ消毒及傳染病隔離病舍ノ設置
4　種痘
5　共同便所ノ新設及消毒、防蠅方法
6　飲料放棄便禁止
7　各家屋厠ノ糞尿洗取及消毒、清潔、防蠅
8　塵芥除去及塵芥積却場設置
9　排水溝工事
10　井戸ノ改良
11　飲食物販賣上ノ取締
12　春秋二季大掃除法ノ實施
13　駆蚊駆蠅

同年六月三十日第二回会同ヲ催シ一部委員ノ改任竝第一回決議事項ノ進捗程度ノ打合セヲ行ヒコレラ従事時ノ対策等ニ就キ審議研究スル所アリタリ

五　昭和八年八月凌源在留邦人ニ赤痢及腸チフス各一ヲ発生シ其後続発ヲ見ナルモ患者ノ隔離ヲ厳リ同地開設第六師団衛生班第二年部ハ八月十八日遼兵隊、領事館警察分署、凌源駐警務局及日本人居留民会ト協力シ左ノ如ク調査班ヲ組織シ二、六二六戸ニ就キ検病的戸口調査ヲ実施シ血便排泄者六名、下痢患者一三名ヲ検出セリ（調査済家屋ニハ設標ヲ附与セリ）

検病的戸口調査班編成表

区分＼編成	衛生班	憲兵隊	領事、居留民会	警務局	計
第一班	軍医少佐 一	上等兵 一 通訳 一	領事 一	巡査 二	五
第二班	看護兵 二	上等兵 一 通訳 一	領事 一	巡査 二	五
第三班	看護兵 二	上等兵 一 通訳 一	領事 一	巡査 二	五
第四班	看護兵 二	上等兵 一 通訳 一	民会 二	巡査 二	六
計	一〇	一七	八	一〇	四五

六　昭和八年五月敦化駐屯歩兵第十聯隊（聯隊附平賀正水野文次郎）ニ於テハ其指導ノ下ニ同地ニ於ケル衛生組合ヲ組織セシノ内規ヲ設ケテ地方衛生ノ改善ニ資セリ組合内規左ノ如シ

衛生組合内規

第一條　本組合ハ敦化衛生組合（以下本ニ組合ト略称ス）ト称シ敦化城内外在住民ノ健康保全ニ関スル一切ノ施設ヲ計画実施スルヲ以テ目的トス

第二條　組合ニ長一、理事一、委員六ノ役員ヲ以テ組合長ハ理事ヲ兼務スルコトヲ得

第三條　役員ハ総テ名誉職トス

第四條　組合長ハ理事以下ノ役員ヲ指揮シ必要ニ応ジ役員会ヲ召集シ其議長ニ依

9 左ノ事項ヲ除算スルモノトス但事業ヲ廃シ役員会社ノ清算ノ為メニ於ケル先ツ歴急措置ヲ講ジ後ルヘキ迄ニ役員会社ニ報告スルモノトス

左記

1 毎年四月乃至十月ノ間ハ毎月一回、其他ノ五箇月間ハ概ネ二箇所内外一般ニ各戸毎ニ清潔検査ヲ施行ス

2 右検査ノ場合ハ同時ニ井戸及飲食物ノ検査ヲモ行フモノトス

3 各戸第川箇園主義ヲ実現セシメ戸外ニ於ケル排泄物ノ処理ヲ期ス

4 屋外又ハ下水流溝ヲ清掃組合所定ノ場所ニ搬出投棄スル為人夫ヲ雇傭シ其実施ヲ指導監督スルカ為ニハ関係官衙又ハ居留民会長ト協力ス

5 四季ヲ通シ各季節ニ適合スル保健衛生又ハ防疫ニ関スル標語ポスター又ハ宣伝文ヲ印刷配布又ハ要所ニ貼付シ一般市民ニ対スル衛生思想ノ普及向上ヲ図ルモノトス

6 常ニ関係官衙又ハ居留民会ト緊ニ連絡シ衛生業務ノ円滑ナル発展ニ努ムルモノトス

7 旅客業者ニハ便宜ヲ与ヘシメ一般民ヲシテ時上其他公衆ノ出入スル所ニ吐痰スルヲ厳禁シ且手兵ノ要旨ヲ周知セシムルコト

8 城内外所要箇所ニ共同便所ノ設置及之カ清潔保持ニ関シ資ニ任スルモノトス

9 成ルヘク各戸第川ノ整備ヲ設置スルコト

10 伝染病ノ来襲又ハ発生ノ場合ハ機ヲ失セス之カ防疫法ヲ実施シ上下協力シテ未然ニ防遏シ又ハ蔓延ノ防止ニ努力スルモノトス

第五條　組合長ハ伝染病防疫ニ関シ其資ニ任ス之カ為実施スヘキ左項次ノ如シ

其一　平常ノ施設

伝染病防疫上在住民一般ニ常注意事項

1 即刻物医師又ハ適宜衛生課ニ依リ伝染病ニ関スル知識ノ普及向上ヲ図ル

2 一般民ニ対シ生水ヲ飲用セサル習慣ヲ養成セシム

3 蝿、蚊、蚤及南京虫等ノ伝染病ヲ媒介スル昆虫類及鼠族ノ駆除ヲ励行シ防蝿、防鼠ノ設備ヲ為スコト

4 定期検疫ニ際シ検疫済ナキ船ニ乗ルコト

5 腺チフス、パラチフス、伝染赤痢ニ対シテハ成ルヘク予防注射ヲ実施スルコト

6 食器ハ成ルヘク煮沸消毒ニ耐ノモノヲ選ヒ場合ニ依リ熱湯ヲ注キタル後洗浄スル習慣ヲ養成スルコト

7 酒類ノ販売ヲ禁止ス

8 生食スル食品(例ヘハ投物類)ト雖モ必ス食品トニ使用スル庖丁及俎ハ別ニ区分シ置クコト

第六條　伝染病発生時ノ処置ヲ左ノ二期ニ分ツ

第一期　発化ト関係アル地域ニ伝染病発生シ漸次蔓延ノ兆アルトキ

第二期　発化若クハ其附近ニペスト、コレラ等ノ激烈ナル伝染病発生シ又ハ其他ノ伝染病流行蔓延ノ際アルトキ

第七條　第一期防疫法ハ概ネ左ノ各項ヲ実施スルモノトス

1 伝染病流行地ニ渡行セントスル者ニ対シテハ状況ニ依リ之ヲ延期又ハ中止セシムルコト

2 伝染病流行地ヨリ来リ又ハ之ニ立寄リタル者ニ対シテハ監視ノ強化ヲ求メ要スレハ隔離スルコト

第八條　第二期防疫法ハ前條ノ外概ネ左ノ各項ヲ実施スルモノトス

1 防疫委員ヲ編成スルコト

2 市長ノ家族多数ノ防疫委員ヲシテ其健康状態ヲ調査セシメ早期発見ニ努ムルコト

3 ペスト患者ハ皮膚病変ノ治療ヲ特ニ重及鼠ノ駆除ニ努ムル様見シタルトキハ所要ノ検査ヲ施スコト

ペスト疑患地ヨリ来レル同郷郷隣ノ属アル物件殊ニ綿花、古着、乾魚、紙屑等ノ取扱ニ注意スルコト

4 コレラ、ペスト患者ニ在リテハ要スレハ消毒法ヲ実施スルコト

5 発病ノ原因及伝染経路ヲ迅速ニ調査シ病毒消滅ノ疑アル者ハ隔離スルコト

6 病原菌検索ノ必要アル伝染病ニ就テハ所要ノ方法ヲ以テ検索ヲ実施スルコト

7　傳染病ノ發生ニ際シ食器ノ消毒、マスクノ使用及含嗽等ヲ勵行スルコト
8　要スレハ營業ノ一部又ハ全部ヲ停止セシムルコト
9　飛ヲ逸セス消毒法ヲ實施スルコト
第九條　組合長ハ防疫委員其他傳染業務ニ從事シ又ハ從事セントスル者ニ對シ豫防注射ヲ行ヒ又ハ行ハシムルコトヲ得
組合長ハ前項ノ豫防注射ヲ行ヒタルトキハ其ノ證明書ヲ交付スヘシ
第十條　傳染病豫防委員長ハ傳染病發生ノ際ハ勿論、其他ハ毎月一回衛生課
特別警戒、巡視分擔區長、組合長、居留民會長等ニ連絡通報ヲ發スルモノトス
第十一條　豫防委員ハ委員、同助手若干名ヲ以テ組織シ委員ハ主トシテ組合役員中ヨリ、助手ハ其他ノ在住民中ヨリ委員長ヲ以テ之ニ充ツ
委員ハ業務執行中左腕ニ赤色ノ腕章ヲ附スルモノトス
第十二條　委員長ハ傳染病豫防ニ關スル施行方法ヲ定メ組合長ノ承認ヲ得テ之ヲ實施シ其執行ヲ監督ス
委員以下ハ委員長ノ命ヲ承ケ各ニ其業務ニ服スルモノトス
第十三條　豫防委員ノ業務概ネ左ノ如シ
1　檢疫ニ關スル事項
2　隔離ニ關スル事項
3　屍屋ニ關スル事項
4　清潔檢查ニ關スル事項
5　衛生講話、健康診斷、豫防接種ニ關スル事項
6　飲食品、飲用水ニ關スル事項
7　傳染病調查ニ關スル事項
8　防疫用品ノ配給及消毒ニ關スル事項
9　防疫用器材ニ關スル事項
第十四條　本病發生又ハコノ隔離期間ヲ左ノ如ク定ム
コレラ、赤痢　五日間
痘瘡、ペスト　一〇日間
猩紅熱、ヂフテリア、流行性腦脊髓膜炎　七日間
腸チフス、パラチフス、發疹チフス　一四日間
第十五條　豫防委員長ハ右ノ期間ヲ經過シタル者ニ對シテハ醫師ノ意見ヲ徵シ隔離ヲ解除スルコトヲ得
第十六條　屍屋檢案作業ハ其等病院ニ依託實施シ作業ニ要スル人員ハ豫防委員長ニ於テ決定ノ所要材料ノ購入及經費ニ關シテハ組合長ト協議ノ上決定スルモノトス

七　鎭安ニ於テハ混成第三十八旅團司令部附軍醫正ノ提唱ニ依リ昭和七年六月二日衛生委員會成立シ其決議ヲ以テ左記事項ヲ改善實施セリ（委員長　山田軍醫正）

1　檢屍的共同調查
2　傳染病、同疑似者ノ屍出及軍部ト地方側トノ相互通報
3　共同使所設置ノ各消毒、屍屋消毒ノ勵行、發疹消毒及發疹ノ禁止
4　廢棄物ノ堆積及修理、廢棄汚穢物ノ活動
5　飲水ノ改良
6　夏季大清潔施行實施
7　飲食物販賣店ノ防蠅設備改善
8　清潔飲料ノ檢查取締
9　理髮店ノ衛生設備及取締
10　花柳病豫防
11　市民ニ對スル衛生指導（宣傳、衛生講話等）
12　屍臭施設ノ改善

八　混成第十四旅團司令部附軍醫正三浦軍醫正（中野增治）ハ山海關ニ於ケル地方衛生業務指導ノ爲昭和八年七月衛生委員會ヲ組織指導

セリ委員會規程左ノ如シ

衛生委員會規程

一　山海關ニ於ケル衛生防疫實施ノ爲衛生委員會ヲ設ケ治安維持會內ニ置クモノトス

二　本會ハ左ノ委員ヲ選任シ衛生防疫ニ關スル實施事項ヲ合議スルモノトス

治安維持會　四　商務會　二　旅團司令部　二　守備隊　一
憲兵隊　二　居留民會　二　警察署　三

三　衛生委員會會長ハ治安維持會會長トス

四　委員長ハ業務ノ統一ヲ圖リ時々衛生會議ヲ開キテ實施事項ヲ協定シ業務ノ遂行ヲ期スルモノトス

五　委員ハ委員長ヲ輔佐シテ衛生防疫ニ關スル實施事項ヲ立案協定スルト共ニ各其機關內ニ於ケル實行委員ヲ督勵シテ業務ノ遂行ヲ圖ルモノトス

六　實行委員ハ委員及助手若干名トシ衛生委員ヲ選出シタル各機關ニ於テ業務ノ實施ニ必要ナル人員ヲ適宜任命スルモノトス

各機關ハ實行委員及助手編成ノ狀況及員數ヲ衛生委員會會長ニ通報スルモノトス

七　實行委員ハ各機關ヨリ選出シタル衛生委員ノ區處ニ依リ衛生委員會ニ於テ協定シタル實施事項ノ實施ニ努ムルモノトス

八　衛生委員會ニ於テ協定シタル事項ノ實施ニ要スル經費ハ各機關ノ負擔トス

九　本會ニ於テ協定スヘキ事項次ノ如シ

1　平時衛生施設ニ關スル事項
2　コレラ、ペスト等ノ激烈ナル傳染病流行時ニ於ケル防疫ニ關スル事項

一〇　平時衛生施設ニ關スル事項概ネ次ノ如シ

1　住宅內外ノ清潔法ヲ勵行スルコト
2　市內及附近ノ溝渠、水溜ヲ浚渫シテ排水ヲ良好ニシ濕水ナカラシメ已ムヲ得サル溝渠等ノ水溜ニハ石油乳劑ヲ投入スルコト
3　各戶ニ塵芥箱ヲ備ヘシメ塵芥、汚物、炊事ノ殘渣、馬糞等ト共ニ搬出ノ方法ヲ講スルコト
4　大小便所ヲ各戶ニ設備シ便所以外ニサ排便セシメサルコト
5　大便所ニハ石灰末ヲ備ヘ用便後撒布セシメ便ヲ覆ハシムルコト
6　大小便ノ搬出方法ヲ講スルコト
7　井戶枠ヲ作リ汚水ノ流入ヲ防キ釣瓶臺ヲ設ケ不潔ナル箇所ニ釣瓶ヲ置カシメサルコト
8　井水ヲ檢査シテ飲用適否ヲ標示スルコト
9　生水ヲ飲用セシメサル如ク指導スルコト
10　飲用氷ト冷却用氷トノ區分ヲ明ニシ之カ販賣ヲ監督スルコト
11　蠅ノ驅除法ヲ勵行スルコト
12　飲食品製造販賣店ニ於ケル飲食品用器ノ清潔及防塵處置ヲ勵行セシムルコト
13　屠獸所ノ監視並屠獸檢査ヲ勵行スルコト
14　鷄鴨鼓ノ檢徴ヲ勵行スルト共ニ私鷄ノ取締ヲ嚴ニスルコト
15　戶口檢査ヲ勵行スルコト
16　死亡者ノ屆出ヲ勵行スルコト
17　衛生講話ヲ勵行シテ一般市民ノ衛生思想ノ向上ヲ圖ルコト

一一　コレラ、ペスト等激烈ナル傳染病流行時ニ於ケル防疫ニ關スル事項概ネ次ノ如シ

1　平時ニ於ケル衛生施設ノ實施ヲ一層確實ニ勵行スルコト
2　野菜、果物ノクロール消毒ヲ實施スルコト
3　生魚ノ販賣ヲ禁止スルコト
4　旅行者ノ檢疫ヲ勵行スルコト
5　旅行地ヨリ來ル者ノ檢疫ヲ勵行シ要スレハ隔離スルコト
6　流行地ヘノ旅行ヲ禁止スルコト
7　患者ノ早期發見ニ努ムルコト
8　患者ノ收容及隔離所ノ設備ヲ爲スコト
9　豫防接種ヲ勵行スルコト

10 患者發生シタル場合ノ消毒ノ實施方法ヲ規定シ置クコト
11 患者發生家屋附近ニハ立入ヲ禁止スルコト
12 檢病的戸口調査ヲ勵行シ患者ノ發見ニ努ムルコト
13 傳染病患者發生セシトキ、死亡者アルトキ、死體檢索ヲ爲シタルトキハ其都度發生場所、日時、氏名、病名、徵候ノ概要ヲ速ニ各機關ニ通報スルコト

九 第十四師團軍醫部長ハ其指導ノ下ニ昭和七年十月黑龍江省臨時防疫會ヲ組織セシメ章程ヲ設ケテ地方衛生ノ向上ヲ圖レリ（章程省略）

第三章 上海派遣軍ノ防疫業務

第一節 軍防疫ノ概要

上海派遣軍防疫ノ概要

軍ノ作戰地方ハ所謂江南瘴癘ノ地ニシテ**チフス**性疾患、赤痢及發疹性傳染病侵淫シ又**コレラ**ハ殆ト毎夏猖獗ヲ極メ慘害著シキモノアルニ鑑ミ中央當局ニ於テハ派遣軍ニ對シ特ニ豫防上ノ注意ヲ喚起スルト共ニ給水器材ヲ整備シ淨水藥、**クレオソート**丸ヲ支給シ且地方衛生狀況調査書類、「下士官兵衛生心得」等ヲ交付シ爾後狀況ニ應シ**コレラ**豫防接種液、赤痢豫防錠等ヲ追送スル所アリ軍當局亦克ク中央ノ意圖ヲ體シ軍防疫方針ヲ制定シテ準繩ヲ明ニスルト共ニ積極的ニ部隊防疫ノ指導ニ任シ野戰防疫部ノ運用ヲ適切ニシ其他地方衛生狀況ノ調査ヲ勵行シテ傳染病患者ノ早期摘發ニ努メ豫防ノ具全ヲ期セリ而シテ軍防疫ノ重點ハ派兵ノ前半期ニ於テハ主トシテ痘瘡ニ、後半期ニ於テハ特ニ**コレラ**ニ指向シ且部隊ノ內地歸還ニ方リテハ**コレラ**病毒ノ內地輸入防止ノ爲乘船地ニ於テ隔離、健康診斷、糞便菌檢索等ヲ行ヒ克ク戰疫ヲ豫防シ軍ノ作戰ヲシテ後顧ナカラシムルヲ得タリ（地方傳染病ノ狀況ハ第十篇（戰地兵要衛生概誌）參照）

第二節 軍ニ於ケル戰疫發生ノ概況

軍ニ於ケル戰疫發生ノ概況

軍派兵間ニ發生シタル急性傳染病ハ六四名（菌保有者ヲ含ミ軍屬ヲ含マス）ニシテ人員毎千一日比例〇・〇二、患者毎千比例〇・七八、戰死傷一ニ對シ〇・〇三ニ相當ス師團別發生ノ概況次表ノ如シ

備考　一　以上ハ今後二箇月分ノ推定ナルヲ以テ節約シ有效ニ使用スルヲ要ス
二　使用法ヲ共ニ徹底セシムルヲ要ス

熱河方面ニ於ケル材料ノ空輸

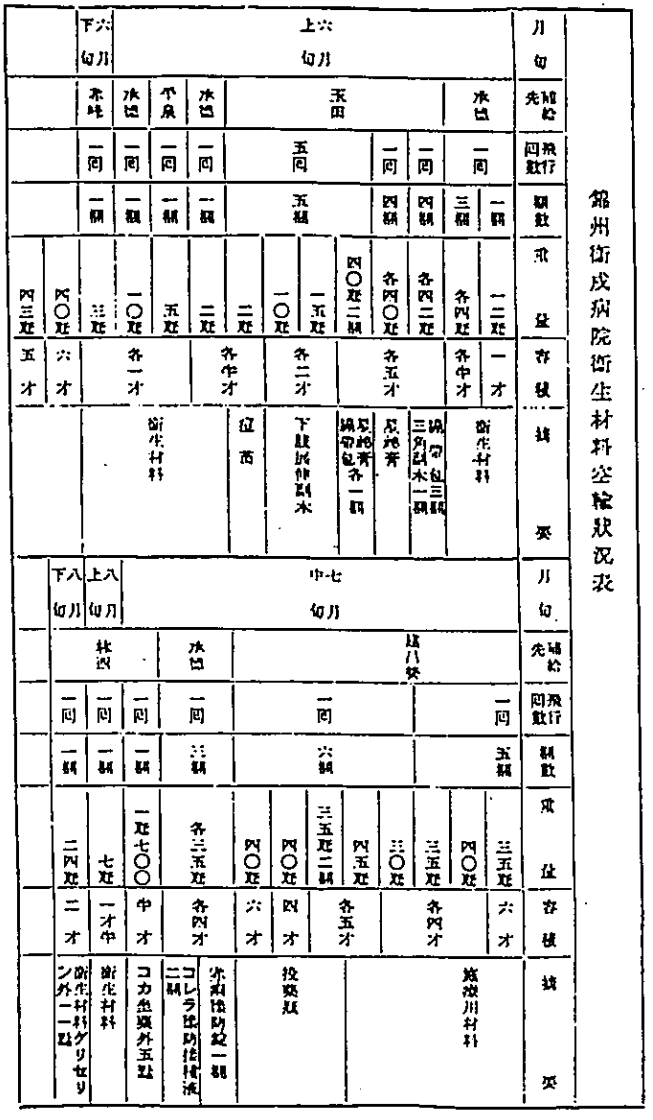
第三款　熱河方面ニ於ケル衛生材料ノ空輸

熱河省方面ニ對スル衛生材料ノ空輸ハ錦州衛戍病院及關東陸軍倉庫朝陽支庫ニ於テ實施セリ其狀況ハ次表ノ如シ

朝陽支庫衛生材料空輸狀況表

月日	發送先	品目	數量	員數	綱數	摘要
六月七日	承德第八師團衛生班	大注射器	箇	一〇	二	
		バンセプチン	〃	五〇		
		鋼料器械	綱	三	三	
六月九日	奈峰第六師團衛生班第二部	ザロール	瓦	一、〇〇〇	一	
		ツヨール	〃	二、〇〇〇		
		膠囊	箱	二四		
六月十七日	承德第八師團衛生班	入院患者調査表	枚	三〇〇	一	
		手術衣襟	〃	五〇	一	
		同	〃	五〇	一	
		病床日誌	〃	五〇〇	一	
		同	〃	五〇〇	一	
		保健錠	箇	九九〇		
		クレゾール石鹼液	瓦	二、〇〇〇		

月日	發送先	品目	數量	員數	綱數	摘要
六月二十七日	奈峰第六師團衛生班	プロタルゴール	瓦	一〇〇	一	放客機ニ依リ著陸ノ上交付
		メンタ酒	〃	二、〇〇〇		
		硝苷錠	箇	一、〇〇〇		
七月四日		尿道注射器	〃	一〇	一	
		麻痺ワクチン	瓶	五		
		ツヨール	瓦	一、〇〇〇		
		膠囊	箱	二四		
七月八日	承德第八師團衛生班	硫マ	瓦	三〇、〇〇〇	三	
		メチーレン青	〃	一〇〇		
七月中旬		抜鑷針其他				
		大注射器	箇	四		
		硝カルチウム液	〃	五〇		
		葡萄糖液	〃	五〇		



錦州衛戍病院衛生材料交換状況表

月旬	補給先	飛行回数	調数	衛生材料名	数量	容積	摘要
六月上旬	水田	一回	一調	大型繃帯	一二疋	一才	衛生材料
			三調	小型繃帯	各四疋	各中才	
		一回	四調	三角巾	各四二疋	各五才	繃帯包三調 三角巾木一調
		一回	四調	大型繃帯	各四〇疋		足絶者 足絶者 繃帯包各一調
	五田	一回	四調	小型繃帯	四〇疋二		
		五回	五調	大型繃帯	一五疋	各二才	下肢副木
				小型繃帯	一〇疋		
	水田	一回	一調	大型繃帯	二疋	各中才	位置
	平原	一回	一調	小型繃帯	五疋	各一才	衛生材料
	水田	一回	一調	大型繃帯	二疋		
				小型繃帯	一〇疋		
	水田	一回	一調	大型繃帯	一〇疋		
	未峰	一回	一調	小型繃帯	三疋	各一才	
六月下旬				大型繃帯	四〇疋	六才	
				小型繃帯	四三疋	五才	
七月中旬	補給先	飛行回数	調数	衛生材料名	数量	容積	摘要
八月上旬	第八隊	一回	五調	大型繃帯	三五疋	六才	繃帯材料
				小型繃帯	四〇疋		
		一回	六調	大型繃帯	三五疋	各四才	
				小型繃帯	三〇疋		
				大型繃帯	四五疋	各五才	
				小型繃帯	三五疋二		
				大型繃帯	四〇疋	四才	投薬具
				小型繃帯	四〇疋	六才	
八月下旬	水田	一回	三調	大型繃帯	各三五疋	各四才	衛生材料 コカ血清外五疋 コレラ防疫材料一調
	林西	一回	一調	大型繃帯	一疋七〇〇	中才	
		一回	一調	小型繃帯	七疋	一才中	
		一回	一調	大型繃帯	二四疋	二才	衛生材料グリセリン外一疋

月旬	補給先	飛行回数	調数	衛生材料名	数量	容積	摘要
七月二十一日	本峰第六師團衛生班		一調	繃帯	五〇〇	一	二
				大型繃帯十トリウム	二、〇〇〇	〃	
				ヘサチラミン	四八	箇	
				乾板 カビキ	三	打	
八月中旬				皮下注射器針	二〇	箇	二
				リンゲル液	一〇	〃	
				エキホス	五、〇〇〇	瓦	

［以下略］

昭和九年三月

北支那竝滿洲國視察報告

工兵第四大隊中隊長陸軍工兵大尉 塩見久吉

目次

一、緒言
二、北支問題
三、北鉄問題
四、匪賊討伐
五、満洲國軍隊
六、駐満軍隊ノ志氣
七、満洲國移住ノ奬勵
八、國語ノ奬勵ト他國語ノ研究
九、將来戦ニ應スル國軍練成
十、結言

[前略]

留意ノ要アリ）ニ努ムルノ要アリ

特ニ蒙古騎兵聯隊ハ之ヲ最大限度ニ増設、訓練シ皇軍ノ第一線ニ活躍セシムルヲ要ス

右ノ如ク心身共ニ訓練セラレタル満洲國軍隊ヲ皇軍一部ノ指導ノ下ニ後方連絡ニ又守備勤務ニ従事セシメナハ皇軍ハ後顧ノ患ナク全力ヲ第一線ニ傾注シ大敵ニ當ルヲ得ン

六　駐満軍隊ノ志氣

駐満將校以下極メテ緊張シアリテ、特ニ國境ニ近ツクニ従ヒ營舍悪シク慰安ノ道ナキニ拘ラス緊張ノ度ノ高キヲ感ス、又初年兵ニシテ討伐ニ行カサルモノハ注イテ連行ヲ願出ツルカ如キ、共ニ皇軍ノ任務ヲ了解シ之ニ邁進セントスル結果ニシテ、又一面國民後援ノ賜ナリ

然レ共物事ハ一段落ツクト共ニ心ニ弛ミヲ生シ事件ノ永

頽スルト共ニ緊張ヲ欠クニ至ルモノナリ。而シテ此間ニ不軍
規ヲ養成シ不正行為サヘ敢テナス者ナキニ非サルナリ
此弊風ハ現役満期ノ後即チ予後備役兵ニ延蔓延シ
國軍ノ練成ニ影響スル所大ナリ。
「シベリヤ」出兵ノ末期ニ於テ此例ナキニ非サルヤヲ聞ク
目下ノ情況ハ正シク其危機ニ直面セルモノニシテ駐蒲衛戍
ノ文化等ニテ其大部ハ削除セラルヽナランモ部分的ニハ
其弊風ノ残ラサルヤ保シ難シ
故ニ幹部ハ常ニ左ノ諸項ニ留意シ教育指導スルコト緊
要ナリ。
ノ、國軍ノ危機特ニ隣邦軍ノ兵力裝備等ヲ徹底教
育シ任務ノ重且ツ大ナルコトヲ理解セシムルト共ニ之ニ
對スル訓練教育ヲナシ精神的實質的ニ緊張
セシム

2. 慰安法ヲ講スルコトハ駐満部隊ニ於テ最モ緊要ナリ
折角守備ニ討伐ニ重大使命ヲ果シテ歸營セ
ルモ之ニ對スル物質的慰安ナク待ツモノハ廢屋ノ
如キ古兵營ノミニテハ軍心弛ミ易ク荒ミ易カラ
スヤ又満鉄其他ノ大會社々員ニ比シ甚シキ貧弱
ナル給與ヲ受ケアル幹部ハ物價ノ高騰ト相俟テ相
當困難シ居ル者アルヤニ聞及ヘリ

3. 熱シ易ク令メ易キハ我國民ノ常ニシテ事變ノ當初
コソ慰問品慰問使等々東奔西走席ノ温マルノ暇ナ
キ兵ニ送ラレシカ業漸ク成リテ稍々寂寥ヲ感スル
ニ至リ國民一般モ之ヲ顧サルニ至リシニ非サルヤノ感
アリ

要スルニ目下ノ時期カ志氣振興ハ上最モ重大ナル時ト信ス
故ニ諸施設ヲ完備シ指揮官ハ部下ヲ掌握シ以テ異

心ヲシテ倦マシメサル如ク努力セサルヘカラス

七　満洲國移住ノ奬勵

満洲國ヘノ移住ノ緊要ナルコトハ輙々ヲ要セサル所ナルモ往々ニシテ何等調査研究スルコトナクシテ渡満シ失敗スル者アルハ全人等ノ爲惜ム所ナリ然レ共彼等ハ一個人ノミノ損失ニテ足ルモ、意志薄弱ナル者或ハ無頼ノ徒ノ渡満スルハ之ヲ防カサルヘカラス　優越感ヲ以テ暴威ヲ振ヒ或ハ「モヒ」密賣ヲナシ或ハ博徒ノ宿舎ヲナス等　法網ヲ潜リ無辜ノ民ヲ苦シメル等是ナリ

特ニ是等ノ徒ノ樂東附近ニ多キハ日支親善上ヨリ見ルモ面白カラサル現象ニシテ甚シキハ日本軍ノ陰ニ隠レテ暴威ヲ振フト聞クニ至リテハ許シ難キ現象ト云ハサルヘカラス

之等徒輩ハ日満或ハ日支親善ヲ阻害スルコト大ナルハ、カノ

〔以下略〕

秘

飛行第十二聯隊長ニ與フル注意事項

昭和十年七月十七日
關東軍司令部

注意ヲ倍蓰スルヲ要ス

經　理

一、經理一般ノ狀態ハ概ネ良好ナルモ第二大隊ニ對スル統轄指導ハ更ニ綿密積極的ニ實施スルヲ要ス

二、動員計畫ニ伴フ衣糧其他諸資材ノ準備ハ概ネ良好ナリ

保育及衛生

一、衛生一般ノ成績ハ可ナリ然レトモ尚結核胸膜炎胃腸疾患並花柳病ノ發

生ズカラサルニ鑑ミ此等ノ防遏ニ一段ノ努力ヲ拂ヒ實績ノ向上ヲ圖ルヲ要ス

二、保育及防疫ニ關スル計畫立實施ハ概ネ適當ニシテ食器ノ煮沸消毒ヲ勵行シアルハ可ナルモ附具ノ清拭及消毒ノ確實ナラサル、起床時冷水摩擦等保健法ノ實施確實ナラサル、咳嗽者名簿記載ノ的確ナラサル或ハ衛兵所酒保醫務室ニ於ケル地方傳染病發生狀況ノ圖示的確ナラサル(新京部隊)又ハ下

病患者用便所ノ設備ナキ（公主嶺部隊）
初年兵班ニモ布団ノ備付ナキ（公主嶺部隊）
炊事場ニ於テ漬物用俎庖丁ノ使用區分的
確ナラサル（公主嶺部隊）等規程ノ履行確
實ナラサルモノアリ

三、兵ノ衛生法及救急法教育ハ聯隊教育企
畫ニ於テ其進度ヲ示シ各中隊ニ於ケル實
施ヲ齊一確實ナラシムルヲ可トス
兵ノ之ニ關スル識能ハ向上ノ要アリ
又毒瓦斯ノ種類性狀竝瓦斯傷救急

救處置及淨水藥使用法ハ更ニ的確ニ
教育シ置クヲ要ス
四 出動用衛生材料ノ整備ハ可ナルモ格納
ニ關シテハ注意ヲ要スルモノアリ（新京部隊）

⑥陸軍軍事警察月報［北支那派遣軍憲兵隊司令部］（昭20・8・4）

昭和二十年八月四日

陸軍軍事警察月報

国立公文書館
分類
配架番号
51-10

JP/TOK/13954
SA 10087
Sack 2 Item 89

寫

極秘

北支憲警第一八六號

陸軍軍事警察月報

昭和二十年八月四日

北支那派遣憲兵隊司令官

昭和二十年六月首題月報別冊ノ通提出（送付）ス

發送先

大本營・陸軍省・總軍（甲集司經由）

寫憲司・北部・東北・東部・東海・中部・中國・四國・西部・朝台・關・中支各憲司・南支憲・憲校・乙・仁・戊・秀嶺各集司

隷下各隊（分隊迄）

東部憲司

一般狀況

犯罪

七二件九七名（前月四〇件四九名）

多發犯罪左ノ如ク逃亡首位ヲ占ム

○逃亡　一五件一六名
○掠奪　一〇件一二名
○窃盗　一〇件二七名
○戰地強姦　八件九名

非行

六三三件八七一名（前月五三五件七四九名）

飲酒ニ基因セル暴行傷害等依然首位ヲ占メ脫柵逃奔並輕微ナル窃盗・賭博等犯罪關係非違次テ多發ス

逃亡離隊

四三件五二名（前月五四件六二名）

主ナル原因左ノ如ク厳格ナル軍隊生活ヲ厭忌セルモノ依然首位ヲ占メ尚本期間朝鮮出身兵二五件一〇名（前月三件七名）ノ發生アリタリ

○厳格ナル軍隊生活嫌忌　八件一三名
○身体虚弱ヲ苦慮　七件　七名
○叱責ヲ怖レ（悲觀シ）　四件　四名
○發作的精神異狀　四件　四名

二、犯罪ノ狀況

軍刑法犯　四七件五二名（前月二八件二八名）
刑法犯　二五件四五名（〃　一二件二一名）
其他法令犯　ナシ（〃　ナシ）
計　七二件九七名（〃　四〇件四九名）

ニシテ之ヲ階級別ニ觀レハ

將校　一名（前月　一名）

准士官　ナシ（前月ナシ）
下士官　九名（〃九名）
兵　五七名（〃一八名）
軍屬　一般　二一名（〃七名）
　　交通團　九名（〃一四名）

ノ如ク前月ニ比シ兵・軍屬ニ顯著ナル增加ヲ示セリ
主ナル犯罪事例左ノ如ク詳細附表第一・第二ノ如シ

◎將校

軍務執行妨害・傷害

壘第一四七五部隊平山隊豫備役中尉一（中隊長）ハ部隊長ノ招宴ニ臨ミ飲酒酩酊二一〇〇頃同僚中隊長數名ト共ニ軍人倶樂部ニ赴キタルモ入口ニ於テ仲居ヨリ公休日ナリトテ拒絕セラレタル折柄

偶々所用ヲ終リ倶楽部ヲ立出テタル主計某ヲ現認スルヤ仲居ノ送別的態度ナリト曲解憤慨シ経営主ヲ殴打転倒セシメタル上更ニ足蹴踏付ケ等ノ暴行ヲ為シ因テ全治四週間ヲ要スル打撲裂傷擦過傷ヲ負ハシメ更ニ屈出ニ依リ現場ニ到リタル憲兵下士官ニ対シ暴言ヲ吐キツツ二回ニ亘リ左頬ヲ強打シ更ニ胸倉ヲ掴リ壁ニ衝キ頭部ヲ打付ケ因テ職務ノ執行ヲ妨害ス

◎下士官

一上官暴行

甲第一八五一部隊本部豫備役技術軍曹一ハ六月二十九日允許外出シ同僚ト共ニ郷州市内食堂ニテ白酒約一合五勺ヲ飲酒稍々酩酊ノ上市内ヲ徘徊中野戦郵便局前ニテ酒友タル某伍長ト再会シ同所ニテ談話中前方ヲ通過セル同部隊曹長ニ敬礼セル為同曹長ヨリ注意ヲ受クルヤ之ニ応スルコトナク不遜ナル態度ヲ示シタル為該曹長

ヨリ毆打セラレントスルヤ激昂シ脇下ニ入リ腰投ヲ掛ケントシタルモ果サス遂ニ組打トナリタル際同曹長ノ顔面ヲ三回ニ亘リ毆打シ同僚ヨリ制止セラルルヤ暴言ヲ以テ之ヲ侮辱ス

◎兵

用兇器上官傷害致死

甲第一八五五部隊油田隊・補充兵役衛生上等兵一ハ六月二十四日允許外出ノ上同僚四名ト共ニ北京市内散策後「つはもの」宗ニ於テ飲酒泥醉シ前記同僚ノ保護ヲ受ケツツ歸隊ノ途ニツキ一七三〇頃所屬隊表門衛兵所ニ到着シタル際服裝ヲ著シク紊シ（第二釦以下全部外シ略帽ヲ冠ラス）アリタル爲衛兵司令稻垣伍長ヨリ「酩酊シテモ服裝ヲ正シテ通レ其儘テハ營門ヲ通サヌ」ト注意セラルルヤ之ニ激昂シ衛兵前ニ到リ「稻垣」ト怒號シタル上「キチント直セハ良イタロウ」「稻垣」ト放言シツツ醉歩・蹣跚トシテ衛兵所

内ニ侵入シ稻垣伍長ニ近接矢庭ニ自己所携ノ三十年銃劍ヲ拔キ稻垣伍長ノ左肩胛蔵線上第九第十肋間部ヲ刺突・脾臓ニ達スル深サ約十五糎ノ切創ヲ與ヘ因ツテ出血多量ノ爲遂ニ死ニ至ラシメタリ

戰地强姦哨令違反勤務漫罵事

壘第一四七七部隊水庭隊補充兵役兵長一ヘ彈藥庫分哨長トシテ勤務中

1. 五月十五日軍屬某ヨリ「ブランデー」一本（約四合入）ノ贈與ヲ受クルヤ豫テ面識アル常人一ト共ニ同分哨假眼室ニ於テ會飲シ因テ勤務ヲ怠リ哨令ニ違反シ

2. 右飲酒中警備地區副村長ヲ呼ヒ奇セ共ニ飲酒シ一九〇〇頃醉余同副村長ト同行村公所ニ到リ暫時休息後日沒トナリタル爲歸哨スヘク同所ヲ立出テ途中附近民家ノ婦女一ト遭遇スルヤ俄ニ劣情ニ驅ラレ之ヲ强姦スヘク決意シ矢庭ニ所携ノ銃劍ヲ引拔キ之ヲ擬シテ脅迫ノ上河原ニ連行該女ヲ强ヒテ[illegible]淫シ

ヌ五月二十六日巡察中同分哨兵一カ酩酊ヲ上部落方向ニ無断出向セントスルヲ發見スルヤ古年兵ナル爲之ヲ制止シ得ス保護シ目的ニテ追尾中該兵カ婦女姦淫ノ目的ナルヲ察知セルモ却テ之ト共謀共姦淫センコトヲ決意シ該兵カ民家ニ侵入妻女一ヲ强姦シアルヲ發見スルヤ室外ニ在リテ見張リ警戒ヲ爲シ該兵カ姦淫後立出ツルヤ劣情押ヘ難シ室内ニ侵入前記妻女ヲ更ニ强テ姦淫ス

◎軍　屬

掠奪ニ殺人教唆

甲第一四一七部隊軍屬（半島人通譯）一一ハ所屬隊偵諜班ニ於テ服務中物慾ニ驅ラレ附近蕃民カ兵威ニ怖レアルニ乘シ密偵ヲ通シ正月用祝儀或ハ捕獲者釋放ヲ報酬ヲ或ハ討伐時部落民ノ不在ヲ奇貨トシ家畜ヲ奪取スル等前後五回ニ亘リ合計九万四千圓ヲ搶取シタ

ル外懲テ自己婚約中ノ婦女カ他ニ情夫アルヲ聞知スルヤ報酬金ヲ
万圓ノ提供ヲ條件ニ該情夫ノ殺害方教唆ヲ因テ探偵ヲシテ該情夫
ヲ殺害セシメタリ

戰地强姦

北支那交通圖德縣自動車營業所軍屬一ハ四月下旬二回ニ亘リ暴食
後同營業所附近ニ於テ野外運動中偶々同所ヲ通リ掛リタル華女一
ヲ發見スルヤ劣情ニ驅ラレ同女ヲ人通リナキ附近民家ニ連行シテ
之ヲ姦淫シタル外華女一ニ對シ猥褻行爲ヲナス

非行ノ狀況

六三三件八七一名中所屬長ニ通報セルモノ一七八件二八八名ニシテ
前月ニ比シ通報セルモノ一一件六一名增加セリ之ヲ階級別ニ觀ルニ

將　校　八名（前月　九名）
准士官　四名（〃　一〇名）

下士官　五七名（前月　三六名）

兵　一三二名（〃　一一四名）

軍屬　一般　五三名（〃　三四名）
　　交通團　三四名（〃　二四名）

計　二八八名（〃　二二七名）

ノ如ク前月ニ比シ下士官一般軍屬ニ顯著ナル增加ヲ示シタリ

主ナル非行ヲ擧クレハ

○酩酊暴行（言）傷害服裝態度不良　一〇三名

○輕微ナル窃盜收賄賭博掠奪等　七二名

○脫柵（無斷外出）遊興　二一名

等ニシテ飲酒ニ基因セル非行依然多發シアリ

主ナル非行事例左ノ如ク詳細附表第三第四ノ如シ

◎將校

○隼第一七三三六部隊現役中尉一ハ飲酒酩酊ノ上繁華街ニ於テ拔

刃洋車夫ヲ脅迫ノ上乘車シ車上ニテ尚拔刀セル軍刀ヲ振上ケツツ洋車夫ヲ威嚇シ部下兵四ヲシテ後押シヲナサシメ通行ス

○將第一四六三部隊豫備役中尉一ハ同僚將校二ト共ニ飲酒酩酊ノ上半島料亭ニ到リ妻女ニ對シ暴行ヲ爲シタル外妓女一ニ對シ拔刀シテ之ヲ威嚇ス

◎准士官

●秀嶺第一七二〇部隊現役主計准尉一ハ昨年一月頃ヨリ「ゆゑ」ニイ一女給ト刷染トナルヤ屢々青島ニ出張市井ノ旅館ニ同伴投宿シ醜行ヲ重ネ遂ニ懷姙セシメ該女給ヲ離別方哀願セルモ肯セス却テ之ヲ毆打暴行ス

●仁第一四〇二部隊現役衛生出張員[illegible]ヲ連行シテ軍慰安所ニ到リ慰安婦ト口論中該犬カ慰安婦及家族二華人二ニ咬ミ付キ咬傷ヲ與ヘタルニ何等之カ防禦策ヲ講セス放任ス

◎下士官

○[illegible]第一八五六部隊並河隊現役衛生曹長一ハ允許外出ノ上飲酒酩酊二二〇〇頃洋車ニ乘車歸隊途次洋車夫ノ動作緩慢ナルニ憤激シ拔刀ノ上洋車夫ノ臀部ヲ刺突シ全治一週間ヲ要スル刺創ヲ與フ

○至隆第一五六八一部隊菅原隊現役曹長一ハ分遣隊長トシテ服務中情婦ノ訪問ヲ受クルヤ上司ニ無斷兵舍附近ニ宿泊セシメ一週間ニ亘リ同居生活ヲ爲ス

○[illegible]第三九一五部隊豫備役軍曹一ハ陣地構築ニ服務中無斷外出ノ上時殊慰安所ニ到リ登樓翌朝迄遊興セルカ此ノ間酌婦ノ態度不良ナリト憤慨該酌婦ノ腕時計ヲ奪取歸隊ス

○甲第一四八一部隊現役曹長一軍曹二ハ允許外出中使用密偵ヨリ華人飯店ニ於テ饗應ヲ受ケ酩酊ノ上更ニ「カフエー」ニ到リ飲酒酩酊偶々來客ノ船員五名ニ惡戲セルニ端ヲ發シ口論トナルヤ該船員三名ヲ洗濯板又ハ所持ノ拳銃ニテ毆打シ二名ニ全治一週

六

間ヲ要スル傷害ヲ與フ

◎兵

○甲第一五七五八部隊加藤隊現役上等兵一ハ交通團員妻女ト十數回ニ亘リ不倫關係ヲ結ヒアリタルヲ夫ヨリ發見セラレ關係ヲ絶ツヘタ誓約書ヲ徵セラレタルモ尚文通ヲ爲シテ家庭爭議ヲ惹起セシメ軍人ノ体面ヲ汚ス

○甲第一四〇九部隊現役上等兵一ハ照空勤務中難興要捻出ノ爲分屯地ヲ離脱前後三回ニ亘リ通行華人ヲ恐喝金品ヲ掠取セントシタルモ未遂ニ終ル

○甲第一四八七部隊現役兵四豫備役兵一ハ飛行場設定勤務ニ服務中共謀又ハ單獨ニテ外出華人飲食店ニ於テ無錢飲食又ハ器物ヲ破損シ或ハ苦力監視中動作緩慢ナリトテ排水溝ニ突キ落シテ墜死セシメタル外苦力ノ拔荷行爲ニ憤激シ銃劍ニテ毆打傷害ヲ與フ

◎軍　屬

○一般軍屬

○甲第一八〇〇部隊保刈隊軍屬（技術雇員）ハ飲酒ノ上同僚宅ヲ訪問途次知人ニ遭遇スルヤ醉余業務上知得セル今次臨時召集ニ關シ「今度大キナ召集カアル二十日迄ニ將校下士官三十日迄ニ未教育既教育ノ兵約一万名カ召集ニナル」云々ト軍事上ノ秘密ヲ漏洩因テ流言ノ因ヲ醸成ス

○戊第五三〇九部隊岡田隊軍屬（自動車手）一ハ割烹ニテ飲酒酩酊ノ上女中ノ座席ニ來ラサルニ不滿ヲ抱キ土足ノ儘女中部屋ニ亂入居合セタル女中ニ對シ太鼓並煮沸シアル鍋焼ウドン鍋敷等ヲ投ケ全治一週間ヲ要スル火傷並傷害ヲ與フ

○交通隊員

○新鄉交通分團軍屬三ハ華人一ヨリ小銃彈藥ノ密送方依頼ヲ受クルヤ報酬ヲ目的ニ小銃彈藥二二〇〇發ヲ輸送セントシテ未

逃亡ニ就ル

四逃亡離隊ノ狀況

逃亡　二七件三五名（前月三二件三九名）

離隊　一六件一七名（〃　二二件二三名）

計　四三件五二名（〃　五四件六二名）

ニシテ之カ主ナル原因ヲ擧クレハ

○嚴格ナル軍隊生活嫌忌　八件一三名

○身体虚弱ヲ苦慮　七件七名

○叱責ヲ怖レ（悲觀シ）　四件四名

○發作的精神異狀　四件四名

等ニシテ嚴格ナル軍隊生活ヲ嫌忌セルモノ依然首位ヲ占ム

尙本期間朝鮮出身兵ノ逃亡離隊五件一〇名（前月三件七名）ノ發生アリタリ

詳細附表第五・第六ノ如シ

附表第一

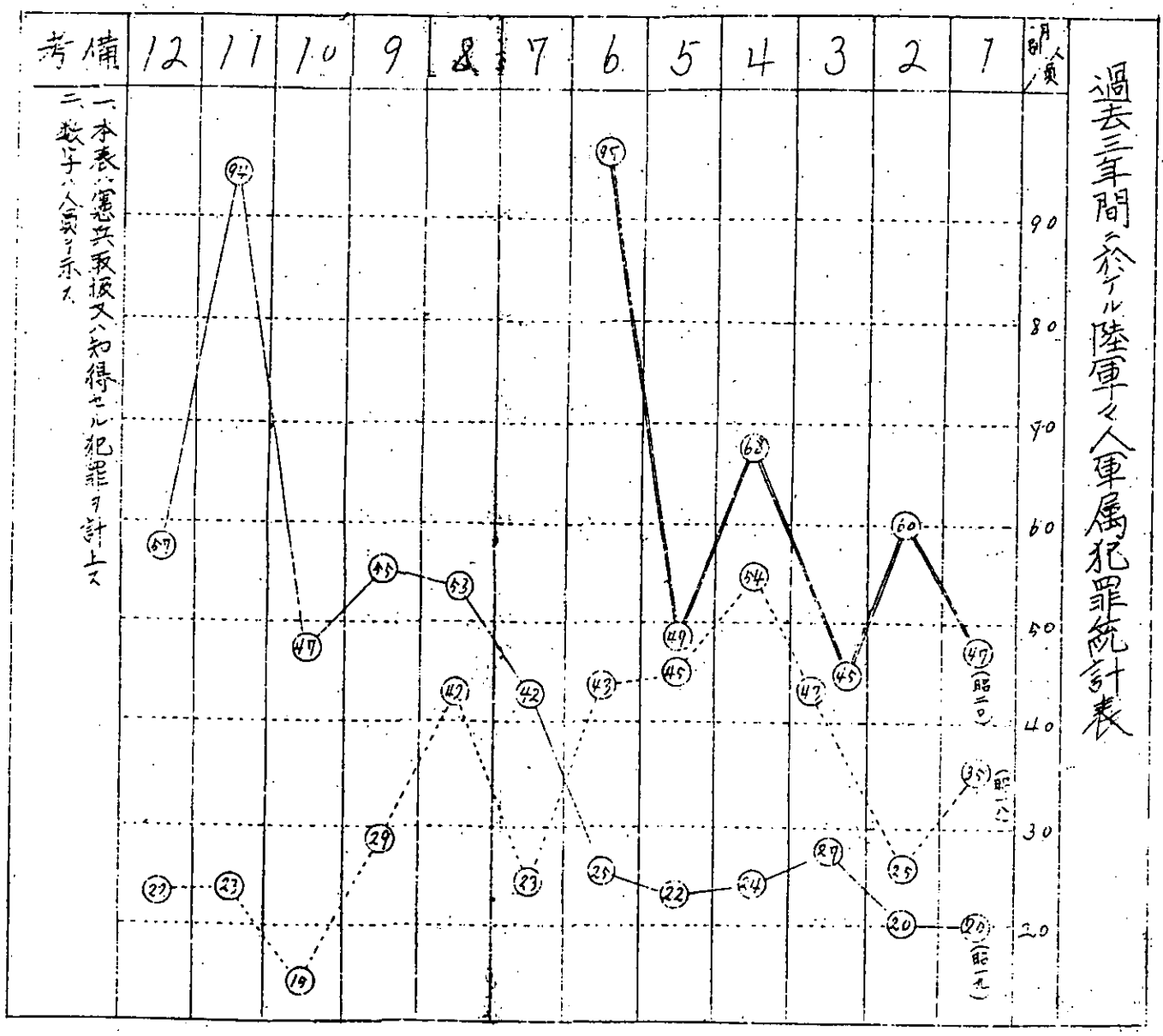
陸軍々人軍屬犯罪表（六月）

階級（種別）	罪名	逃亡（收賄窃盜、軍用物損壞、横領）	奔敵	用兇器上官傷害致死	用兇器上官暴行（脅迫）	上官暴行（上官侮辱）	上官傷害	掠奪（搶盜、計劃、軍用物毀棄、横領）	戰地強姦（含致死）	消令[illegible]
件數	總軍刑法 計	一五	三	一	二	三	一	一〇	八	二
將校	現									
下士官	現	一	一					一	一	
	豫					一				
兵	現	五	一		一	一		五	六	一
	豫	二			一	一		四		
	補	六	一			一	一	一	一	一
	國									
軍屬	一般							二		
	交通團	二						一	一	
計		一六	三	一	二	四	一	一二	九	二

| 法 | | |

附表第二

過去三年間ニ於ケル陸軍々人軍属犯罪統計表



陸軍々人軍屬非行統計表（六月）

内容別	階級（役種）別	件数	將校 現	將校 召	准士官 現	下士官 現	下士官 召	兵 現	兵 召	兵 補	軍屬 一般	軍屬 交通用	計
計		一七八	三	五	四	三四	二三	七五	二九	二八	五六	三四	二八八
賭博ヲ爲ス		七三	二	三		一六	一〇	三二	一五	五	一六	四	一〇三
禁止区域ニ立入遊興ス		一二				六	一	八	四	四	二		二五
脱柵（無断外出）遊興ス		一六				一	五	一〇		三	二		二一
軽微ナル犯罪（窃盗収賄恐嚇等）		一三			一	一	一	三	一	一	二	七	一七
賭博ヲ爲ス		八						四	一	二	二五	一八	五〇
禁止区域ニ立入遊興ス		七				一		一	三		三		八
防諜上有害通信（言動）		六				二	一				一		四
無断常人宅ニ宿泊ス		五					一	三		七			一一
掠奪類似行爲		四						三		一			五
華側鉄便利用通信		三					一		二	二			五
[illegible]通事故意起		三						二		一			三
婦人関係（風紀紊乱）		四	一		一	三							四

| | | |

附表第四

過去三年間ニ於ケル陸軍々人軍属非行動態表

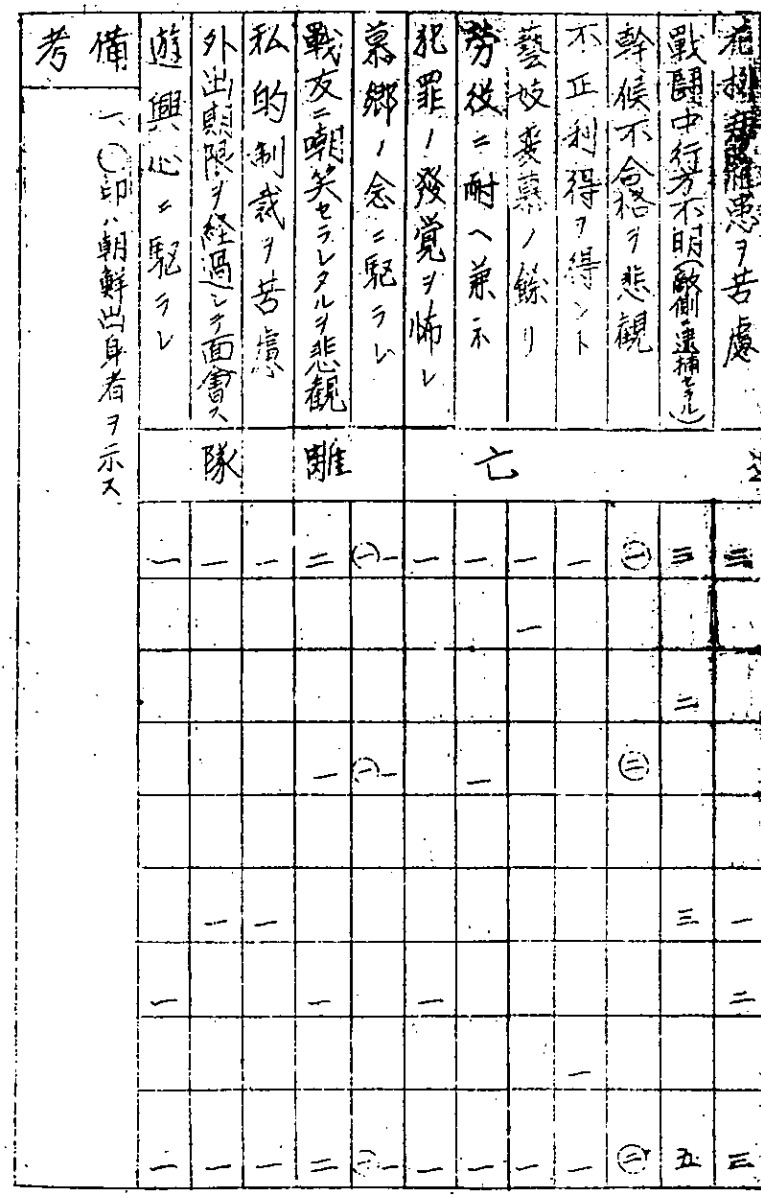
月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	備考
人員													
250													
200													
150													
100													
50													
昭二〇	213	152	227	206	237	288	157	130	241	233	211	152	
昭一九	122	104	131	95	78	107	89	76	29	28	42	69	
昭一八	98	90	86	92	67	62	87						

一、本表憲兵取扱ヒタルモノ中所属表ニ非通報セルモノヲ計上ス

附表第五

陸軍々人軍屬逃亡離隊統計表（六月）

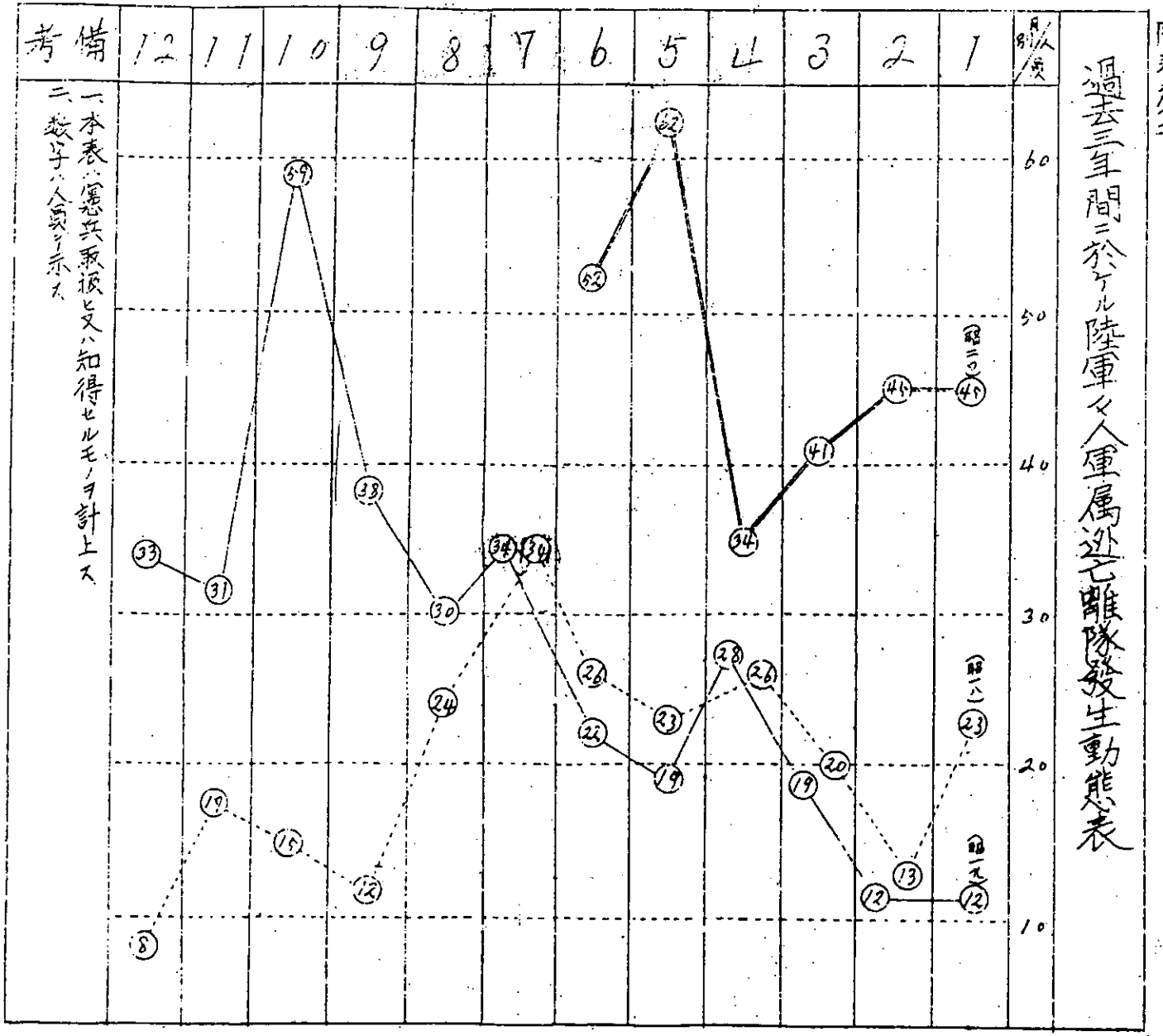
階級（役種）	原因別	合計	逃亡離隊	逃亡	計	身体虚弱ヲ苦慮		叱責ヲ怖レ（悲観シ）		發作的精神異狀		嚴格ナル軍隊生活嫌忌		家庭[illegible]過ヲ悲観	
別		計	計	計	計	逃亡	離隊	逃亡	離隊	逃亡	離隊			外	
件数		四三	二三	一五	一（一）	三	四	一	三	一	三	五（五）		[illegible]	
將校	召	一	一												
下士官	現	二	二												
兵	現	二七	一〇	八	一八	一	二	一	二		二	五（六）		二	
兵	召	一	一											一	
兵	補	一四	八	六		二	二		一		一	一		一	
軍屬	一般	六	三（一）	二						一		（二）			
軍屬	文通団	一	一												
計		五二	二六（九）	一六（一）		三	四	一	三	一	三	六（七）		四	

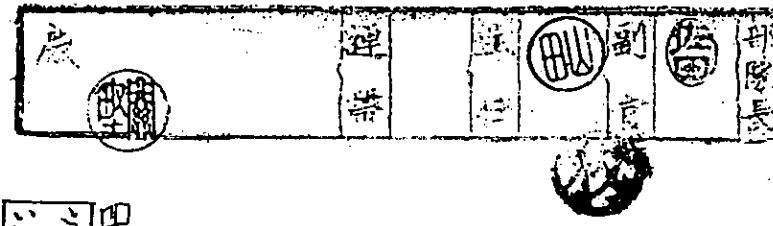


花柳病罹患ヲ苦慮	戰鬪中行方不明(敵側ニ逮捕セラル)	幹候不合格ヲ悲觀	不正利得ヲ得ント	藝妓愛慕ノ餘リ	勞役ニ耐ヘ兼ネ	犯罪ノ發覺ヲ怖レ	慕郷ノ念ニ駆ラレ	戰友ニ嘲笑セラレタルヲ悲觀	私的制裁ヲ苦慮	外出期限ヲ経過シテ面會ス	遊興心ニ駆ラレ	備考						
逃					亡			離			隊							
三	三	(二)	一	一	一	一	(一)一	二	一	一	一	一、○印ハ朝鮮出身者ヲ示ス						
				一														
	二																	
		(二)			一		(一)一	一										
一	三								一	一								
二						一		一			一							
			一															
三	五	(二)	一	一	一	一	(一)一	二	一	一	一							

附表第六

過去三年間ニ於ケル陸軍々人軍属逃亡離隊発生動態表







駐屯地慰安所規定

昭和十八年五月二十六日
「マンダレー」駐屯地司令部



目次

第一章　總則
第二章　經營
第三章　衛生
第四章　雜則及其他

駐屯地慰安所ニ關スル規定

第一章 總則

第一條 本規定ハ駐屯地慰安所ニ關スル必要ナル事項ヲ規定ス

第二條 慰安所ハ日本軍人軍屬ニ於テ使用スルヲ本則トスルモ軍人軍屬ノ使用ニ支障ヲ與ヘサル限度ニ於テ左記各項ヲ嚴守ノ上當分ノ中「マンダレー」在住ノ日本人ハ二四、三〇以降ニ限リ特ニ登樓ヲ許可ス從ツテ二四三〇以前ニ於ケル立入リハ之ヲ嚴禁ス

記

イ、軍人軍屬ノ遊興ヲ妨害セサルコト

ロ、規則ニ違反シ又ハ風紀ヲ紊スカ如キ行爲ヲナサヽルコト

ハ、登樓時刻以前ニ於ケル豫約ヲ嚴禁ス

4、料金ハ總テ將校ノ額トス

5、前各項ニ違背セル者ニ對シテハ許可證ヲ引上ケ爾後立入ヲ禁止スル外其ノ行爲ノ如何ニ據リテハ其ノ商社ハモトヨリ日本人全部ヲ禁止スルコトアルヘシ

但シ奥地等ヨリノ來縵者ニシテ右ノ時間以降ニ登樓シ得サル特別ノ事情アルモノニ限リ日本人會長ハ自己ノ責任ヲ以テ其ノ都度豫定時間資格氏名等ヲ記入セル證明書ヲ本人ニ交付シ之ヲ樓主ニ明示スルニ依リ開業時間内適宜登樓スルコトヲ得

日本人會長
村田八郎

第三條

本規定ニ將校トアルハ准士官、見習士官及高等文官同待遇囑託ニ又下士官トアルハ判任文官同待遇囑託同雇員ニ兵トアルハ待遇ヲ定メサル囑託同雇員及傭人ニ適用ス

第四條

慰安所ニ於ケル軍紀風紀及非違行爲ノ取締リハ巡察將校又ハ駐屯地司令部娯樂係將校下士官ヲ以テ

右地府[illegible]
1. 將校ノ引率
2. 將校、下士官
3. 同行
3. 不合格者ヘ
ノ登樓

テ行フヲ本則トス

第五條　慰安所使用日ハ下士官兵ニアリテハ各隊外出日トス

第六條　慰安所ニ出入スル下士官兵ハ外出証ヲ有スルモノニ限リ且ツ部隊ノ規定セル部隊標識及階級章ヲ附スルモノトシ慰安所内ニ掲示シアル注意事項ヲ嚴守スルモノトス

第七條　慰安所ニ於テ營業者又ハ慰安婦ヨリ不當ノ取扱ヲ受セルカ或ハ金錢等ノ強要ヲ受ケタル場合ハ直チニ其ノ旨ヲ所属隊長ヲ経テ駐屯地司令部ニ報告スルモノトシ如何ナル場合ト雖モ歐打暴行等ノ所爲アルベカラス

第八條　慰安所内ニ於テ規定ヲ履行セサル者ハ直チニ其ノ使用ヲ禁止スルノミナラス駐屯地會報ヲ以テ一般ニ

告知シ要スレハ當該部隊ノ使用ヲ一時停止スルコトアリ

第二章　經營

第九條　慰安所ニ於ケル料金ハ軍ノ定ムル軍票ニ依ルモノトシ其ノ他ノ物品ヲ以テナスコトヲ得ス

第十條　慰安所ノ使用時間及ヒ料金ハ別紙第一ニ據ルモ狀況ニ依リ變更スルコトアリ

第十一條　慰安所經營者ハ各慰安婦室ノ入口並ニ見易キ箇所ニ木札ヲ以テ慰安婦ノ芸名及合不合格ヲ掲示シ置クモノトス

第十二條　設備費及患者ノ治療費ハ總テ經營者ノ負擔トスルモ營繕ニ關スル簡單ナル設備ハ軍ニ於テ實施スルコトアリ

第十三條　經營者ハ其ノ月ノ賣上高ヲ翌月五日迄ニ別紙第二

第十四條　ノ様式ニ據リ駐屯地司令部ニ提出スルモノトス
貨物廠等ヨリ交付ヲ受クヘキ調味品類其ノ他ノ
必需品ハ所要一ヶ月前ニ駐屯地司令部ニ請求スル
モノトス

第三章　衛生

第十五條　慰安所ニ必ス消毒所ヲ經營者ニ依リ設置スル
モノトス

第十六條　消毒所ノ消毒設備ハ灌水器ニ一萬倍ノ過マンガ剥液
ヲ滿タシ置クモノトス

第十七條　「サツク」(星秘膏)ヲ使用セサル者ハ遊興セシノサルモ
ノトス

第十八條　遊興者及其ノ相方ハ毎回消毒所ニ於テ確實ニ消毒
ヲ行フモノトス

第十九條　慰安婦ノ健康ニ就イテハ経営者ハ特ニ注意シ営業開始前慰安婦ヲシテ軍ノ實施スル一般身体検査及局部検査ヲ受ケシムルモノトス

第二十條　毎週一回慰安婦ノ身体検査ヲ實施シ其ノ程度依リ左ノ如ク區分シ其ノ証票ヲ慰安婦ニ所持セシムルモノトス

左　記

合格　営業ヲ許可セラレタル者

不合格　休業スヘキ者

第二十一條　経営者（慰安婦）ハ軍人軍屬ヨリ毎週ノ検査成績ノ提示ヲ要求セラレタル時ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第四章　雑則及其ノ他

第二十二條　管理部隊ハ別紙第三ノ慰安所注意事項ヲ営業

第十二條　所ニ掲示スルモノトス
慰安婦ノ他出ニ際シテハ経営者ノ証印アル他出証
ヲ携行セシムルモノトス

別紙第一

慰安所使用時間及ビ遊興料金表

區分	時間	遊興時間	遊興料金
兵	自一〇時 至一七時	三十分	一円五〇
下士官	自一七時 至二一時	四十分	二〇
將校	自二一時 至二四時	五十分	三〇
	自二四時 至翌八時	泊リ	八〇

備考　商社関係使用者ハ規定第二條ヲ厳守スルモノトス

別紙第二

自　月　日
至　月　日　慰安所賣上高報告

慰安所名
経営者氏名

區分	遊興人員	賣上高	摘要
將校			
下士官			
兵			
計			

備考

一現在スル慰安婦名ヲ本欄ニ記入スルモノトス

別紙第三

慰安所ニ於ケル軍人軍屬其他使用者ノ守ル可キ

注意事項

一、大日本帝國軍人軍屬及日本人タル事ヲ自覺シ其威信ヲ失墜スルカ如キ行爲ヲナサヽルコト

二、特ニ防諜ニ注意スルコト

三、慰安所ニ於テ使用スル通貨ハ「ルピー」又ハ「ドル」軍票タルヘキコト

四、料金ハ規定ノ料金表ニヨリ現金ニテ豫メ支拂ヒタル後遊興ヲナスヘキコト

五、過度ノ飲酒者ハ遊興セサルコト

六、從業員(慰安婦ヲ含ム)ニ對シ粗暴ノ振舞ヲナサヽルコト

七、「サック」(星秘膏)ヲ必ス使用シ確實ニ洗滌ヲ行ヒ性病予防ヲ完全ナラシムルコト

八、規定ノ時間ヲ嚴守スルコト

昭和　年　月　日　「マンダレー」駐屯地司令部

印

⑧第五野戰輸送司令部駐屯地業務規定［第五野戰輸送司令部］（昭18・10・3）

隊長	副官	主任	連帶

軍事極秘

五輸駐防第二八號

昭和十八年十月三日

第五野戰輸送司令部

第五野戰輸送司令部駐屯地業務規定

仕高

18 11 5

第二五號



五輸駐防第二八號

第五野戰輸送司令部駐屯地業務規定ノ件達

駐屯地諸部隊一般

第五野戰輸送司令部駐屯地業務規定本冊ノ通定メ

昭和十八年十二月一日ヨリ之ヲ施行ヘ

昭和十八年十月三十一日　第五野戰輸送司令官　高田清秀

配布區分

配布先	部数	配布先	部数
扶桑司	一	忠五八小	一
五三兵站本部	二	特建二八中	一
高射五一大	一	三〇三野戦	一
水勤三三中	一	マンダレー勞務部	一
陸勤大九中	一	マンレー憲	一
五特鉄工作	一	兵器支廠	一
特設水勤二一	一	貨物支廠	一
一三兵站病馬廠	一	自動車支廠	一
獨自五九大	一	一六一停司	一
二〇航空補充	一	三特水輸隊	一
特設陸勤一〇	一	一五軍兵器廠	一
電一九附五中	一	同自動車廠	一

患七一小	一		
架杙二二中	一		
一五軍資物廠	一		
一一特鉄運輸	一		
七航地区出張	一		
菊經出張	一		
八特鉄工務	一		
五特鉄橋梁	一		
部内(部副經医獸)	五		
		豫備	四二
		計	八〇

備考

本配布区分以外ノ駐屯部隊ニ對シテハ駐屯地會報ヲ利用シ所要ノ事項ヲ口達筆記セシム

第五野戰輸送司令部駐屯地業務規定目次

頁

第一章　總則　一

第二章　駐屯地司令官ノ職域　二

第三章　警備　五

第四章　軍紀軍紀風紀　一五

第五章　建物軍需資材　一三

第六章　防疫衛生　一六

第七章　其ノ他　二七

第五野戦輸送司令部駐屯地業務規定

第一章　總則

第一條　本規定ハ第五野戦輸送司令官ヲ駐屯地司令官タル場合其ノ駐屯地業務執行ノ爲必要ナル一般的事項ニ關シ定メ駐屯地ノ實情ニ即應シテ勤務上必要ナル細部ノ事項ニ就テハ別ニ之ヲ定ム

第二條　駐屯地業務ニ關シ本規定ニ於テ定メタル以外ノ事項ニ關シテハ林集團司令部規定（昭和十七年十月二十日林集團司令部）ニ據ル外所要ニ應シ衞戍令、衞戍勤務令、作戰要務令、自動車交通規定（昭和十七年六月十五日第十五軍司令部）其他第十五軍ノ定ムル諸規定ニ示ス所ヲ準用ス但シ兵器ノ使用ニ就テハ作戰要務令ニ據ル

第三條　駐屯地　兵ハ地名ヲ冠シテ某駐屯地ト稱ス

[illegible]部隊ニ[illegible]

ニシテ臨時ニ兵員ノ役ニ外出ヲ許可セントスルトキハ部隊長[illegible]隊ノ

司令官ノ認可ヲ受クルモノトス若シ認可ヲ受クルコトナク外出セン

メタル場合外出者ハ當日慰安所ヲ利用シ得ナルモノトス

第三十八條　下士官以下ノ公用外出者ニハ左腕ニ左ノ腕章

ヲ附着セシム

[illegible]

部隊印

白布　黒書

大サ　適宜トス

要スルハ番號ヲ記ス

前項腕章ハ各部隊毎ニ原簿ヲ備ヘ[illegible]出納ヲ確[illegible]ニスルト

共ニ紛失等ノ場合ノ處置ヲ敏速的確ナラシムルヲ要ス

狀況止ムヲ得ナル場合ニハ腕章ニ代フルニ公用證（様式[illegible]隊内務令

ニ準ス但シ固有部隊名等ヲ避ク）ヲ以テスルコトヲ得

第三十九條　日課時限慰安所ノ設置並ニ其ノ使用日割ハ

銃等射撃場火砲射撃場等ニ關シテハ必要ノ都度司令官之ヲ定ム

第四十條　駐屯地外ニ於テ掃蕩演習行軍實定(實彈空包)射撃爆燃作業等ヲ行フ場合ニハ成ルヘク實施二日前迄ニ概要ヲ司令官ニ報告ス

第四十一條　外出中ノ軍人軍屬ノ行動ニ關シテハ既ニ關係諸條ニ於テ要求セル所ニ據ルノ外左ノ通心得ルモノトス

1. 軍人軍屬ニシテ空襲警報ニ遭遇セハ速カニ最寄部隊ニ待避スルモノトス

各部隊(衛兵歩哨)ハ前項待避者ノミナラス新來ノ通過者ヲモ進ンテ營内ニ案内シ避難セシムルヲ要ス

2. 軍人軍屬ニシテ死傷者ヲ生シタル場合ニハ最寄部隊ニ於テ之ヲ收療スルト共ニ所屬部隊ニ通報ノ處置ヲ執ル

3. 外出者ハ空襲ニ依ル防護處理等ノ爲最寄部隊ニ要求アリタルトキハ之ニ應ズスヘキモノトス

4. 前三項 為外出者帰營時限ニ遅ルル虞アルカ遅レタル場合ニハ其ノ旨關係部隊長ハ證明ヘ

5. 防諜ニ特ニ注意ス

6. 軍ニ於テ指定セルモノ以外ノ飲食店等ノ賣品ヲ飲食スヘカラズ

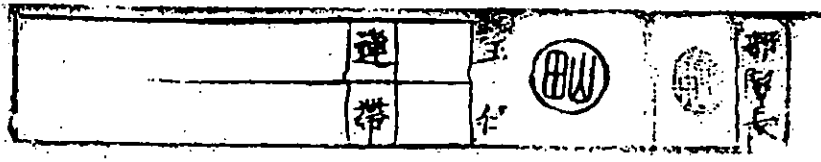
7. 慰安所ヲ利用スル者ハ常ニ其ノ規定ヲ遵守スルミナラス苟モ不徳義ノ言動ヲ為シ日本軍人名譽ヲ汚スコトアルヘカラス

8. 將兵ハ外出間常ニ軍紀ノ嚴肅敬禮ノ嚴正服裝ノ端正ヲ旨トスヘシ

9. 將兵ハ外出間苟モ裸体ハ排尿醜酊ヲ住民ノ眼前ニ暴露スヘカラス

二二

[以下略]



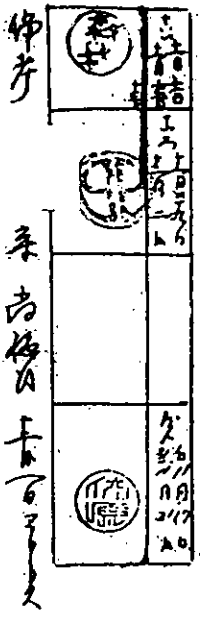
軍事極秘

五輸駐防第二九號

昭和十八年十月二十

第五野戦輸送司令部

「マンダレー」駐屯地業務規定



回覧



五輸駐　第二九號

「マンダレー」駐屯地業務規定ノ件達

「マンダレー」駐屯地諸部隊一般

「マンダレー」駐屯地業務規定本冊ノ通制定シ昭和十八年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

追テ「マンダレー」駐屯地勤務規定（昭和十七年十二月二十日林密第七〇二四部隊）「マンダレー」附近統制地區防空暫行規定（昭和十八年三月二十日林第七〇二四部隊）ハ本令施行ノ日ヲ以テ昭和十八年十一月三十日限廢止ス

昭和十八年十月三十一日　中兵站地區司令官　高田清秀

「マンダレー」駐屯地業務規定目次

第一章　総　則……一頁
第二章　兵站地區隊長ノ職務……二
第三章　警　備……四
第四章　軍紀・風紀……八
第五章　建物資材……一一
第六章　防疫衛生……一二
第七章　其ノ他……一四

[前略]

新駐屯部隊ハ速カニ地區隊本部ニ連絡シテ其ノ決定ヲ受クルモノトス

第十七條 (イ)一般外出日ニ於ケル外出時限ハ一〇〇〇ヨリ下士官(判任官)二一〇〇迄兵(下士官勤務兵長ヲ含ム)(雇傭人)ハ一九〇〇迄トシ且兵営内居住下士官以下(軍属ヲ含ム)ノ為ス者(軍隊内務令第一九三号ニ依リ為ス)ニ於テ[illegible]

第十八條 (ロ)軍隊内務令第一八四ニ依ル為ス者成ハ「[illegible]」駐屯地勤務執行ノ者成(第十六條及別紙第一之三)ニ同ジ各部隊長ハ一般外出日ニ於ケル下士官以下外出者ノ服装ヲ[illegible]ニヨリ鉄帽 水筒 認識票 繃帯包ヲ成ルヘク携行セシムルモノトス

第十九條 日課時限ノ基準別紙第九ノ如シ

第二十條 慰安所ニ関シテハ駐屯地慰安所規定(昭和十八年十二月二十六日「マンダレー」駐屯地司令部)ニ據ルヘシ

第二十一條 小銃(機関銃 擲弾筒 手榴弾ヲ含ム)射撃場別紙第十ノ如シ

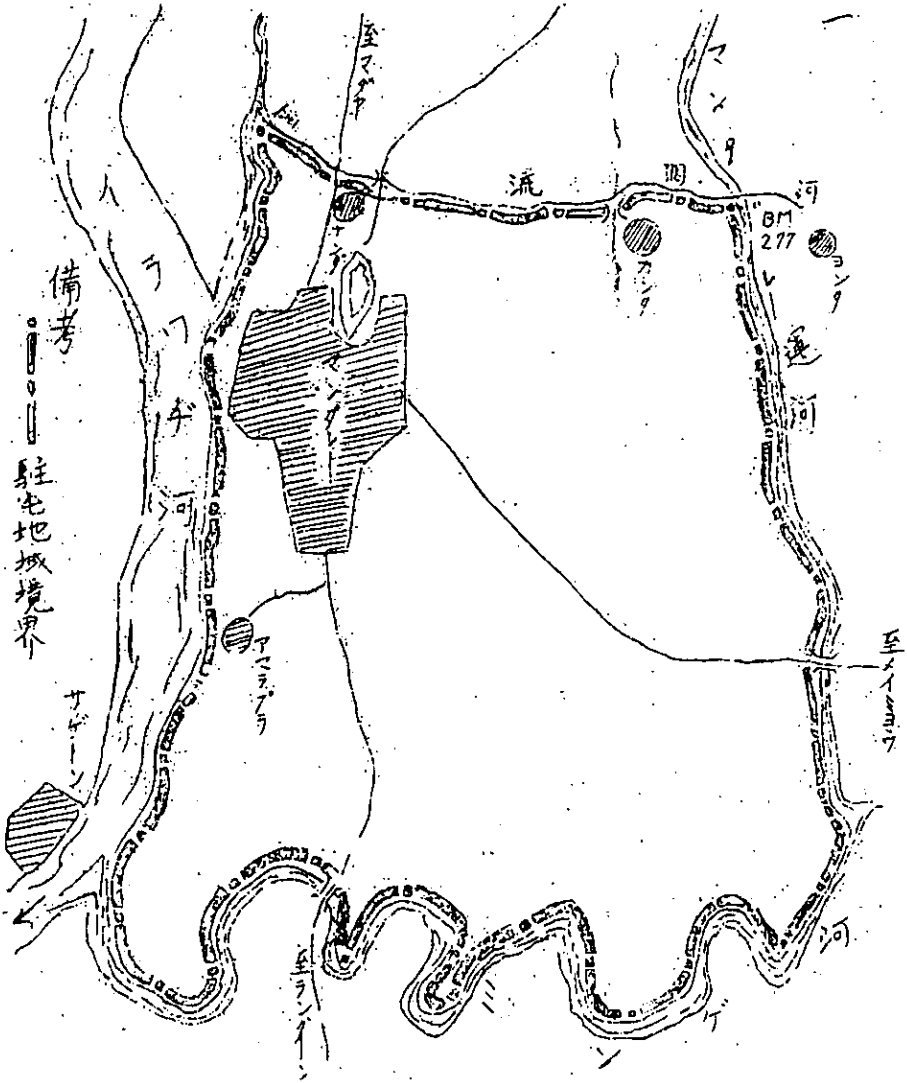
第二十二條 火砲射撃場別紙第十一ノ如シ

第二十三條 前二條ノ射撃場ヲ使用シ若クハ駐屯地内ニ於テ爆破作業等ヲ行ハントスル場合ニハ部隊長ハ實施二日前迄ニ地區隊長ニ概要ヲ報告シ地區隊長ハ司令官ニ報告スヘシ

[以下略]

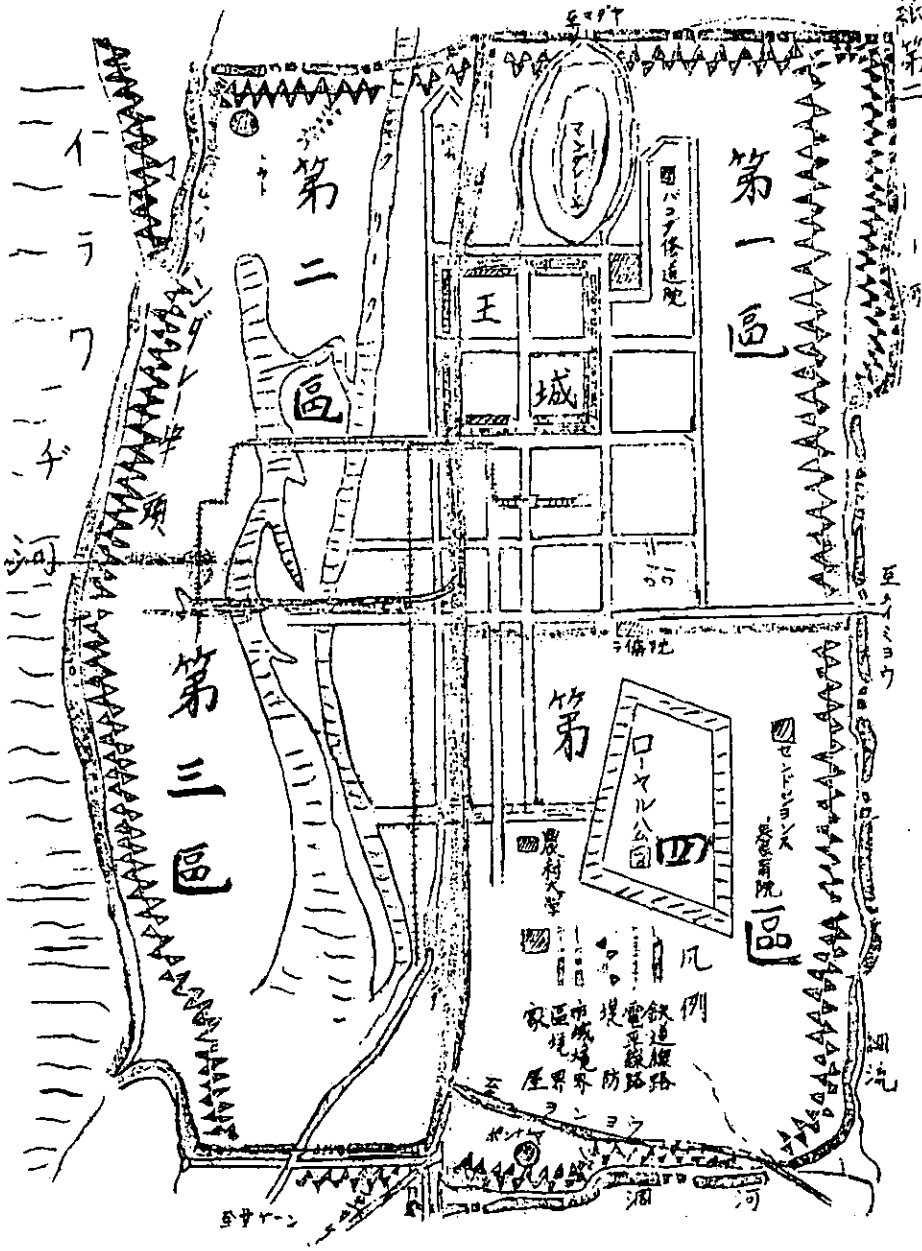
別紙第一

「マンダレー」駐屯地域要図



別紙第二

「マンダレー」市域及境界要図



別紙第八（五三站駐警第二二號ニ依リ訂正ノ分）

「マンダレー」駐屯部隊一般外出日割表

部隊名	人員割合	日	月	火	水	木	金	土	備考
第五野戰輸送司令部	1	○							
第五十三兵站地區隊	1/2	○					○		
第百六十一停車場司令部	1/2						○	○	
第八特設鐵道工務隊	1/2		○	○	○				
野戰高射砲第五十一大隊	1/3	○		○				○	
獨立自動車第五十九大隊	1							○	
架橋材料第二十二中隊	1/2			○		○			
第十三兵站病馬廠	1/2				○		○		
野戰貨物廠	1							○	「マンダレー」支廠
野戰兵器廠	1		○						「マンダレー」支廠
野戰自動車廠	1			○					「マンダレー」支廠
獨立輜重兵第五十五中隊	1					○			
架橋材料第二十一中隊	1/2					○	○		津久井隊
患者輸送第七十一小隊	1				○				
水上勤務第二十三中隊	1/3		○		○		○		
陸上勤務第七十九中隊	1/2	○	○						
特設水上勤務第二十一中隊	1/2						○	○	
電信第十九聯隊第四中隊	1					○			
特設建築勤務第二十八中隊	1					○			
第三〇三野戰節便所	1	○							
菊部隊經理部出張所	1	○							
特設自動車第五十中隊	1						○		
特設自動車第五十一中隊	1						○		
第二〇野戰航空補給廠	1/2		○	○					
第七航空地區司令部	1/2		○		○				「マンダレー」出張所
第五特設鐵道橋梁隊	1/3	○	○	○					
第百三十一兵站病院「マンダレー」療養所	1			○					
第五特設鐵道工作隊	1/2	○		○					
第十一特設鐵道運輸隊	1/3	○	○		○				
森勞務部「マンダレー」出張所	1	○							
第五特設鐵道用度隊「マンダレー」支部	1			○					

兵補ノ部

獨立自動車第五十九大隊	1	○							
水上勤務第二十三中隊	1/3		○		○				
特設水上勤務第二十一中隊	1/2					○	○		
特設建築勤務第二十八中隊	1/2				○	○			
第二〇野戰航空補給廠	1/2		○	○					

備考

一、○印ハ外出曜日ヲ示ス

一回外出人員ヲ全員ニ對スル

割合ナリ

別紙第九

「マンダレー」附近日課時限ノ基準

日課	時限 十月―三月	時限 四月―九月
起床	〇九〇〇	〇八三〇
朝食	一〇〇〇	〇九三〇
教育訓練其他	一一〇〇〇 四〇〇	一一〇九三〇 四〇〇
晝食	一四三〇	一四三〇
業務終了	一八〇〇	一七三〇
夕食	一九〇〇	一九〇〇
消燈	二三〇〇	二三〇〇

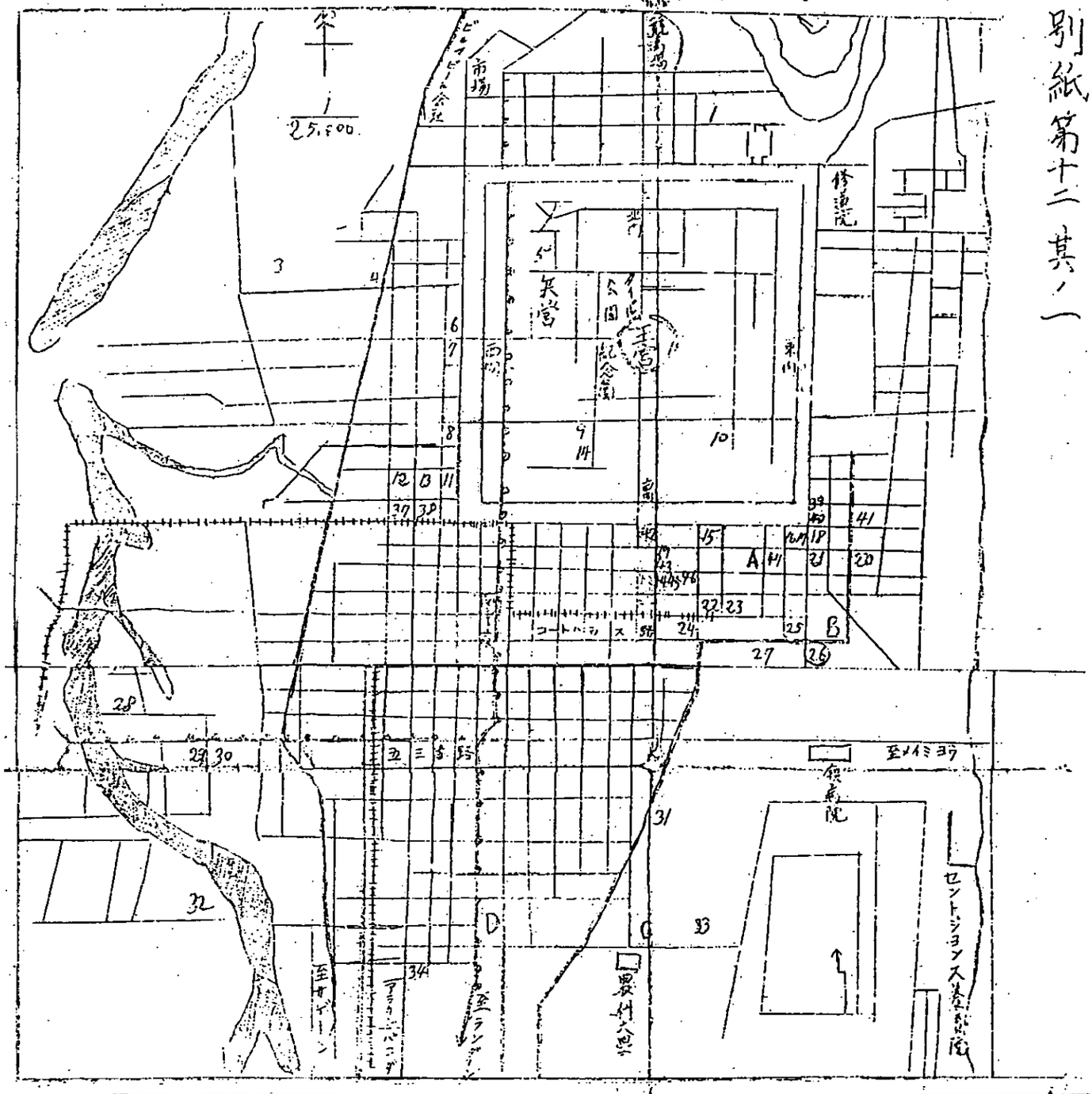
備考

一 細部ハ各部隊長ニ於テ定ム

二 各部隊長ハ業務ノ都合ニ依リ本表時限ヲ変更スルコトヲ得

別紙第十二 其ノ一

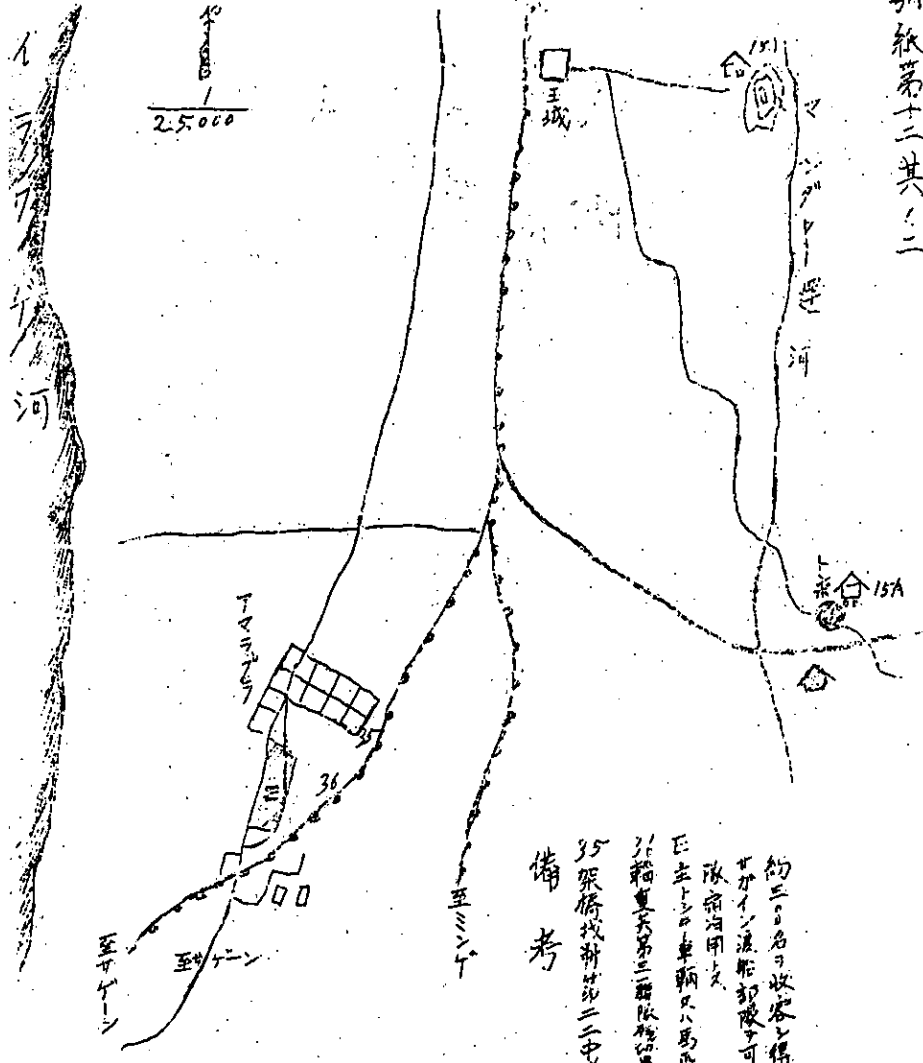
「マンダレー」駐屯地配宿要図 其ノ一



| 備考 | | |

「マンダレ」駐屯地配宿要圖 其ノ二

別紙第十二 其ノ二



別紙第十三

「マンダレー」駐屯地区内軍指定飲食店表

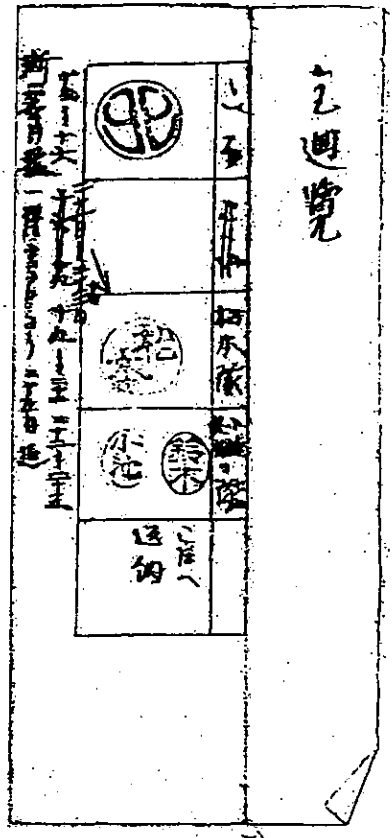
一、「マンダレー」食堂
二、錦水閣
三、戰友食堂
四、日の丸屋
五、兵站酒保
六、瓦斯園

軍事極秘

マ駐廃第五十四號

第29號

マンダレー駐屯地勤務規定



駐屯地司令
十年一月二日

マ駐庶第五十四號

「マンダレー」駐屯地勤務規定制定 件達

「マンダレー」駐屯地諸部隊 殿

マンダレー駐屯地勤務規定本所 通制定ヲ昭和二十年一月十一日ヨリマヽ施行ス

追而

「マンダレー」駐屯地業務規定（本部ハ二〇防第七〇號）昭和二十年一月十日限之ヲ廃止ス

二本規定ノ配布ヲ受ケタル駐屯部隊駐屯地外ニ移動セントスルトキハ、必ス本規定ヲ司令部ニ返納スヘシ

昭和二十年一月二日

「マンダレー」駐屯地司令官 粕谷留吉

目次

第一章 總則
第二章 駐屯地司令官職域
第三章 防衛
第四章 軍紀風紀
第五章 建物軍需資材
第六章 防疫衛生
第七章 定例報告
第八章 其他

○ (5)野戰郵便所以外 取扱ニ基ヲ私信及私報ヲ禁示止ス

(6)軍機動時期等ノ重要時期ニ一時駐屯地ニ滯留スル部隊ハ特ニ左ノ點ニ注意スルモノトス

(イ)宿營ハ分散配置ヲナサシム

(ロ)行軍移動ハ成ル可ク小縱隊トシ且時期的ニ不規ナラシカル如ク勉ム

○第二十四條 敵情並ニ土民其ノ他ニ關スル情報ヲ得若クハ宣傳物件投下等認メタル場合ニハ速カニ司令部若クハ最寄憲兵隊ニ報告通報シ落下傘ニ依ル降下兵ハ之ヲ逮捕シ司令部又ハ最寄憲兵隊ニ連行スルモノトス

○第二十五條 司令官 防諜上其ノ他必要ト認メタル場合私服ヲ許可セシムルコトアリ 此ノ際司令官ノ發行セル私服許可證明書ヲ携行スルモノトス

第二十六條 駐屯地ノ電話網別紙第七ノ如シ

第二十七條 駐屯部隊ノ暗號電報取扱ニ關シテハ本林第一二二〇部隊覓報發信統制規定ニ據ル

第四章 軍秩 軍紀風紀

第二十八條 駐屯地ニ於ケル軍ノ秩序ヲ維持シ至嚴ナル軍紀風紀ヲ確立ス

ル為駐屯部隊ハ一時滞留部隊ノ通過部隊ノ長ハ自己ノ責任ニ於テ部下ノ監督ニ遺憾ナキヲ期スルト共ニ將校ハ進ンテ他隊ノ軍人軍属ト雖モ之ヲ矯正スル義務アルモノトス

第三十九條　新ニ駐屯地ニ駐屯駐留若クハ通過セントスル部隊ハ速カニ連絡者ヲ司令部ニ先發セシメ所要ノ連絡ヲナスト共ニ部隊到着セハ速カニ隊長若クハ將校（此ヲ得サレハ准士官以下）ヲシテ其ノ旨司令官ニ申告セシムルモノトス

部隊駐屯地以外ニ移動スルトキ亦前項ニ同シ

第三十條　駐屯地ニ所謂遊兵ヲ滞留セシメサル為凡テ駐屯地勤務ニ服スル者自ラノ責任ニ於テ取締ルモノトス

第三十一條　駐屯部隊若クハ一時駐屯地ニ滞留スル部隊駐屯地ヲ去ルニ方リ隊屬貨物等ヲ駐屯地ニ残置セントスル場合ハ司令部ニ其荷物等ノ種類數量監視ノ方法等ヲ届出テ認可ヲ得ルモノトス

司令部ハ成シ得ル限リ之ヲ適當ナル部隊ヲシテ保管セシメ以テ徒ラニ監視

爲ニ兵員ヲ残置スルヲ避ケシムルト共ニ駐屯地ノ秩序ノ維持ノ助成ニ勉ムルモノトス

○第三十二條　駐屯地内ヲ運行スル自動車ハ左記規定速度ヲ嚴守シ事故絶無ヲ期スルモノトス

左記

車種	市内	市外	摘要
乘用車（側車ヲ含ム）	三〇粁以下	六〇粁以下	各渡船場停車場ヨリ一粁以内地域ハ市外ト雖モ市内ト看做ス
貨車	三〇粁以下	四〇粁以下	
部隊	二〇粁以下	三五粁以下	

備考　一、鉄道踏切通過ノ時ハ豫メ列車ノ近接ナキヲ確認シタル後最低速度ニ通過スルモノトス
二、夜間ニ在リテハ前號ニ掲ラス夫々危険ナキ速度ニ更ニ低下スルモノトス

○第三十三條　駐屯地内ヲ運行スル自動車ニシテ代工車若クハ積載量僅少ナル場合努メテ便乘者ノ便乘ニ供シ車輌ノ有効的利用ヲ計ルモノトス

第三十四條　各駐屯部隊ノ一般外出日ハ概ネ一週内一日（勤務交代兵ノタメ二日）トシ其ノ日時ハ司令官之ヲ統制ス

前項指定外出日ニ外出ヲ實施シ得サリ　駐屯部隊ニシテ臨時ニ

兵員一般外出ヲ許可セントスルトキハ部隊長ニ於テ豫メ司令官ノ認可ヲ受ヘカルモノトス

○第三十五條　一般外出日ニ於ケル外出時限ハ一〇〇〇ヨリトシ兵（雇傭人）ニ在リテハ一九〇〇迄　下士官（判任官）ニ在リテハ二一〇〇迄トシ且下士官（軍屬ヲ含ム）以下外出者ニハ外出證ヲ携行セシムルモノトス

第三十六條　外出日域ハ「マンタレー」駐屯地域トス（第九條別紙第一參照）

○第三十七條　各部隊長ハ前ノ外出者ニ於ケル下士官以下ノ外出者ノ服裝ヲ定ムルニ方リ鐵帽水筒認識票繃帶包ヲ携行セシムルモノトス　但シ右裝備ナキ部隊ハ其旨司令部ニ届告シ用ヒサルヲ得

第三十八條　下士官以下ノ公用外出者ハ左腕ニ左ノ腕章ヲ附着セシムルモノトス

公用腕章（乘車）

公用証　第二號
公用
乘車八一四五部隊　印

公用腕章（徒歩）

公用証　第二號
公用
乘車八一四五部隊　印

白布墨書
（乘車ノ公用腕章ハ朱線二條トス）

狀況止ムヲ得サル場合ニハ腕章ニ代フルニ公用證(様式軍隊内務書ニ準ス)ヲ以テスルコトヲ得

四 第三十九條 外出中ノ軍人軍屬ノ行動ニ関シテハ既ニ関係諸條ニ於テ要求セル所ニ據ルノ外左ノ通心得ヘシ

(1) 軍人、軍屬ハ外出間常ニ軍紀ノ嚴肅、敬禮ノ嚴正、服裝ノ端正ヲ旨トスヘシ

(2) 軍人、軍屬ニシテ空襲警報ニ遭遇セハ速カニ最寄部隊ニ又ハ附近ノ適地ニ待避スルモノトス

各部隊(衛兵)ハ前項待避者ノミナラス新來ノ通過者ヲモ進ンテ營内ニ避難セシムルヲ要ス

(3) 軍人、軍屬ニシテ死傷者ヲ生シタル場合ニハ最寄部隊ニ於テ之ヲ收療スルト共ニ所屬部隊ニ通報、處置ヲ執ルモノトス

(4) 外出者ハ空襲ニ依ル防護處理等、爲最寄部隊ノ要求アリタルトキハ支障ナキ限リ之ニ應スヘキモノトス

(5) 前三項ノ營外出者歸營時間遲ルヽ虞アルカ又ハ遲レタル場合

云其旨関係部隊長ハ證明スルモノトス

(6) 防諜ニ特ニ注意ス

(7) 軍ニ於テ指定セル以外ノ飲食店等ニ立入リ飲食スヘカラス（別紙十一参照）

(8) 慰安所ヲ利用スル者ハ当ニ駐屯地慰安所規定（別冊）ヲ遵守スルナラス苟モ不徳義ノ言動ヲ為シ其ノ名誉ヲ汚スコトアルヘカラス

(9) 將兵外出間苟モ裸体、排尿、酩酊ヲ住民眼前ニ暴露スヘカラス

第四十條　小銃（機関銃擲弾筒手榴弾ヲ含ム）射撃場別紙第八ノ如シ

第四十一條　火砲射撃場別紙第九ノ如シ

第四十二條　前一條射撃場ヲ使用シ若クハ駐屯地区内ニ於テ爆破作業等ヲ行ハントスル場合ハ部隊長ハ實施二日前迄ニ司令官ノ認可ヲ受クルモノトス

第四十三條　日課時限基準別紙第十ノ如ク定ム

第五章　建物、軍需資材

第四十四條　駐屯地ニ於ケル部隊配宿ノタメノ家屋配當ハ司令部於官掌ス

第四十五條　部隊若クハ軍人軍属ニ供用シアル建物ノ保存火災ノ隊防等ニ

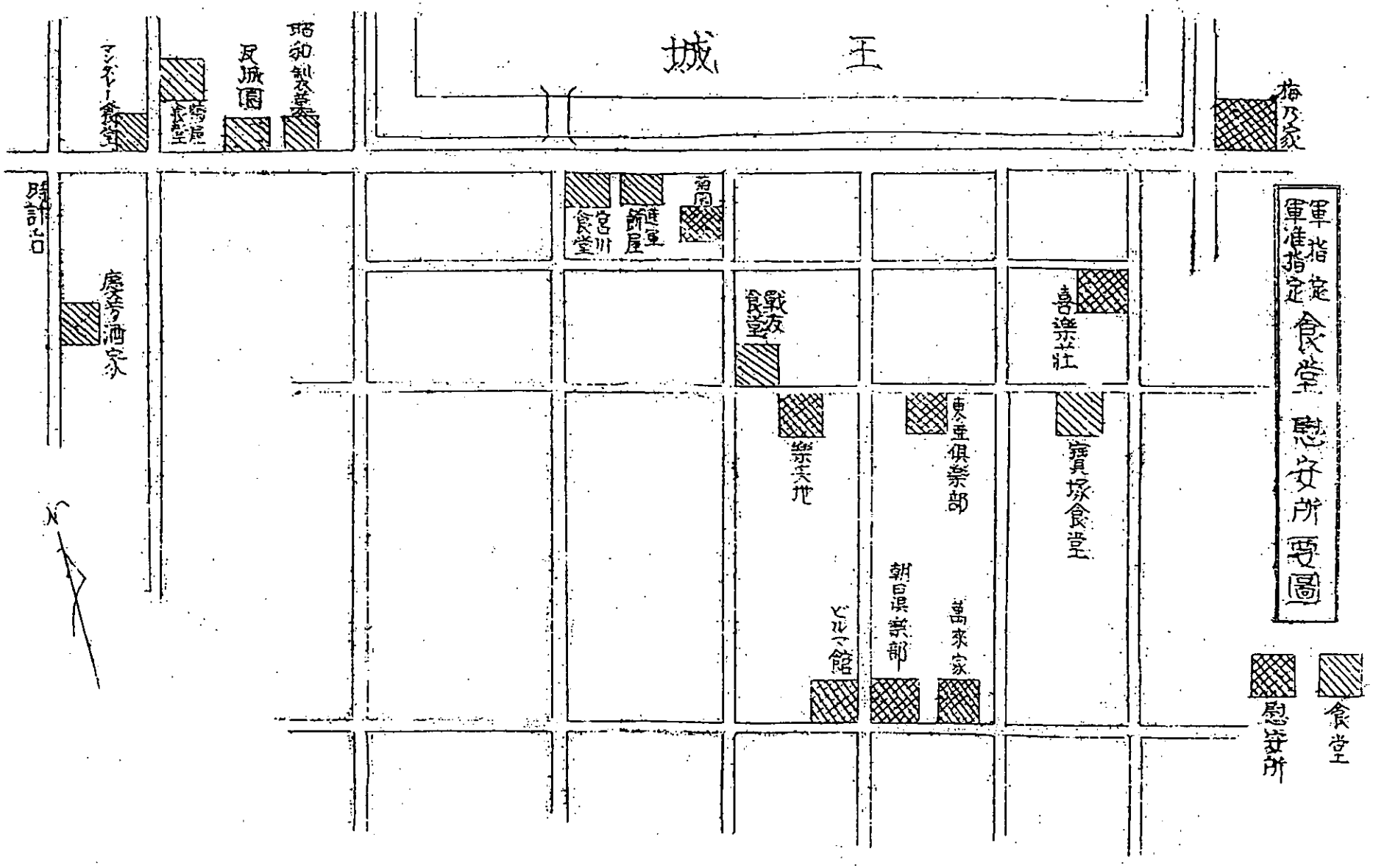
［以下略］

別紙第十一號

軍指定軍準指定食堂慰安所

事業種目	店名	販賣種目	定休日	摘要
軍指定飲食店	戰友食堂	日本料理	一日二六日	晝間營業
同	宮川食堂	同	八三	同
同	マンダレー食堂	支那料理	一三二八	夜間ハ宴會ノミトス
同	菊屋食堂	日本料理	五二〇	營業時間自一九〇〇至二四〇〇
同	寶塚食堂	同	一一二六	同
軍準指定飲食店	慶芳酒家	支那料理	九二四	晝間ハ營業
同	昭和製菓	菓子	一五二〇	同
同	進軍餅屋	餅	三二八	同
同	兒坂園	喫茶	一一二六	同

軍指定慰安所	樓名	國籍別	定休日	摘要
同	梅乃家	内地人 八日	三日	將校慰安所
同	萬來家	廣東人 一一	二六	
同	東亜倶樂部	半島人 三	二八	
同	朝日倶樂部	同 五	二〇	
同	菊園	同 九	二四	
軍進指定慰安所	樂天地	ビルマ人 五	三〇	
同	ビルマ館	同 一三	二八	
同	喜樂荘	同 一	二六	
同	新緬館	同 八	二三	ビルマ兵補専用


王城
梅乃家
昭和製菓
反城園
時計台
慶芳酒家
宮川食堂
進軍飯屋
戰友食堂
喜樂荘
東亞倶樂部
寶塚食堂
樂天地
ビルマ館
朝日倶樂部
萬來家
軍指定
軍准指定
食堂
慰安所要圖
慰安所
食堂

厚生省関係公表資料

日本派遣南方軍最高司令官宛

聯合國指令書第一號

一九四五年八月二十七日蘭貢ニ於テ署名日本派遣南方總軍司令官代理トシテ捺印セラレタル地方的取極メニ基キ佛領印度支那占領聯合國陸軍司令官ノ發セル命令

（中略）

遊女屋並ニ慰安隊

27 總テノ日本遊女屋並ニ慰安隊ハ日本軍ト共ニ撤退セシムヘシ

28、日本醫務當局ハ[redacted]大佐ト相談シ性病患者ト知ラレタル婦人ハ國籍ノ如何ヲ問ハス之ヲ西貢内ノ一定病院ニ收容シ貴官ハ病院ノ適正警備ト收容者ノ適正治療トヲナサシムヘシ

一九四五年九月七日

聯合國陸軍最高司令官ノ名ニ於テ
佛領印度支那聯合國軍司令官
陸軍少將[redacted]（署名）

②沖縄本島ノ状況［歩兵第22聯隊附軍医大尉］（昭21・1・9）

参考情報 第一二號

沖縄本島ノ状況

昭二一・一一六

資料 課

（註）本資料ハ一月九日沖縄本島ヨリ帰還セル歩兵第二十二聯隊附軍医大尉[redacted]ノ報告要旨ヲ複寫セルモノナリ

（中略）

二 終戦後ニ於ケル軍隊及邦人状況軍紀一般秩序

（中略）

（二）邦人ノ状況

前項ニ述ベタル如ク、地方人ハ柵内ニ收容米軍ノ給與ヲ受ケアルヲ以テ、全員無財産トナリアルモ、日日ノ生活ハ寧ロ今日ノ東京都民ヨリ幸福ナラカ、PW收容所ニ收容シアリシ沖縄出身ノ軍人（含特技）ハ十一月以降全員開放サレ、青年層不足ニヨリ女護ヶ島ノ顧ナリ 未婚女性ノ大歓迎ヲ受ケタリト聞ク 沖縄 明知等ト云

五

言フベキ人ハ前開南中学校長某氏ナリ 最近米軍ノ資材揚陸ニヨリ復興計画ハ着々進ミ沖縄人ノ思想ハ現在大部

可能なニ三有リ

シテ三ニ別レ、青年層ハ吾々ハ飽クマデモ日本人ナリ何時カハ必ズ日本ニ復帰スベシトノ希望ヲ有シ、壮年層ハ沖縄、沖縄自身ニテ独立シ日、米両方トモ頼リニセズト言ヒ、老年層ハ「ヤンキー」様々ナリト聞クモ米ノ実物宣撫ニ加ヘテハ三層トモ総テ「ヤンキー」様々ナランヤト思ハル、点ナキニシモ非ズ　尚十一月中旬南鮮地方ニ疎開シアリシ中縄出身、婦女子ハ全員米船ニヨリ帰岳セリ。住民間ニハ軍票流通シ非ズ。内地ノ邦人ハ石川ノ日本単人収容所ニ収容サレアルモノノ数僅少、一部ハ軍人ニ混ジ還送セラレタルモノノ如シ。朝鮮人ノ慰安婦、内地婦人(極ノテ僅少、生存者アルヤ疑ハシ)ハ地方人ト共ニ収容サレアリ。

尚今後問題トナルベキハ、内地ノ将校、下士官、兵ニシテ便衣ヲ着シ住民トシテ投降シ地方人収容所ニアリテ巡査(CP)教員配給所役員等ニナリ沖縄人ト結婚シ沖縄人ト軍人収容所ニ移サレタル者アレド未ダ多数潜入シアルモノノ如シ

(中略)

昭和二十一年一月九日

馬堀収容所ニテ

南部セレベス
賣淫施設（慰安所）調書

人事部長[redacted] 人事課長[redacted] 部員[redacted]

昭和二十一年六月二十日

セレベス民政部第二復員班長

海軍司政官[redacted]

復員廳第二復員局長殿

セレベス民政部第二復員班員復員ニ

關スル件報告

昭和二十一年四月二十四日英印軍命令ニ依リ南部セレベス民政要員中各縣、分縣監理官警察職員、刑務所關係職員タリシモノハ引揚最終船ニ残留スベキ旨命セラル、

民政部長官ハ残留先任官タル海軍司政官[redacted]ヲシテ第二復員班ヲ編成セシメ其ノ長ヲ被命依ツテ

海軍

(一六一三 物田、物)

次第二、第三船ニテ帰還セルモ前後五回ニ亘リ十二名ノ新ナル義粮干係收容者ヲ出シタルハ甚タ遺憾トスル事ナリ

事務的方面ニ付テハ一日数回ニ亘リ英印軍及蘭印軍ヨリ民政部長官宛ノ電信電話ノ照會アリ輕微ナルモノハ都度口答シタルモ重要ナルモノハ文書ヲ以テ回答セルガ其ノ重ナルモノハ南部セレベス全地域ニ亘ル慰安所施設及其ノ責任者調、各級分級監理官警察職員ノ勤務期間調等ニシテ其ノ字別係ス

斯クシテ六月四日マリンプン出發パレパレキャンプニ集結 六月九日レバチイ型ジョウジボインレックスター那(七〇〇〇屯)入船ト同時ニキャンプ出發(金)ヲ徒歩三粁ノ私物検査ノ上一五〇〇乗船一六〇〇出港、海上波静カシテ事故ナク全員六月二十日出遊港ニ六十七名復員終了セリ

海

(一六一三・納四・納)

勢の連鎖第一九二〇號ニ關ニシ仲田參

昭和二年五月三十日

民政部第二總員班長

第二軍方級別及數

蘭軍々法會議檢察官命ニ依ル賣淫施設調査ノ

指令ニ基キ民政部關係事項ニ關シ殊ニ當者ニ依キ

極力調査シタルモ責任者既ニ歸還セル為正確ヲ

期シ難キモ概要左ノ如シ

記

(イ) 民政部關係施設ニ使用セラレタル婦女ノ數

二二三

二二名

(ロ)

組織及之ニ関スル責任機関並ニ責任者(氏名階級現在地)

施設設置ノ許可並ニ監督ハ形式的ニハ民政部政務部

第一、第三両課ヲ通シ民政部長官之ヲ行ヒタルモ実

際上婦女ノ募集並ニ雇傭契約ハ民政部嘱託[redacted]

[redacted](帰還)及実業団員[redacted](帰還)之ヲ行ヒ

各地方施設ニ配置シタリ而シテ婦女ノ配置後ノ

維持経営ハ左表ノ如ク一般邦人並ニ原現民

之ニ当リタリ

尚各地方施設ニ対スル婦女ノ保護、収入文書、休養

給与等ノ監督、風紀衛生等ノ取締指導ニ等シ

開シテハ各教、分教監理及之ヲ行ヒタリ

(八) 雪隠婦ノ生活方法、給養、報酬

有伴ニ關シテハ施設ニ依リ多少ノ差異アルモ
大畧左記ノ如シ

(1) 生活方法

~~[illegible]~~ 施設機関ニ於テ施設セシ一定ニ家屋ニ居住シ
食事、休養、外出等自由トス

(2) 給養

生活ニ必要ナル衣服、寝具、食器類、家賃
兵燹、水道料、使用人給料、医療等
~~[illegible]~~ 施設機関ニ於テ負担スルノ外稼育任ナ有
シテ不時家族等ノ吉凶ノ為金銭必要ノ場

今ハ贈與ス

(3) 報酬

稱号ノ一ツ本人ノ所得トス

尚本人所得外ノ一ツ金額ハ前記文書ニ充當シ
残余アル場合ハ規程ニ依リ民政部ニ一部
納入セルモノナリ

(二)

同上同務民族種族(別人員数)

トラジヤ族也ニ 其他

カヤシ族 四

チヤカシ族 四

ジヤワ族 二

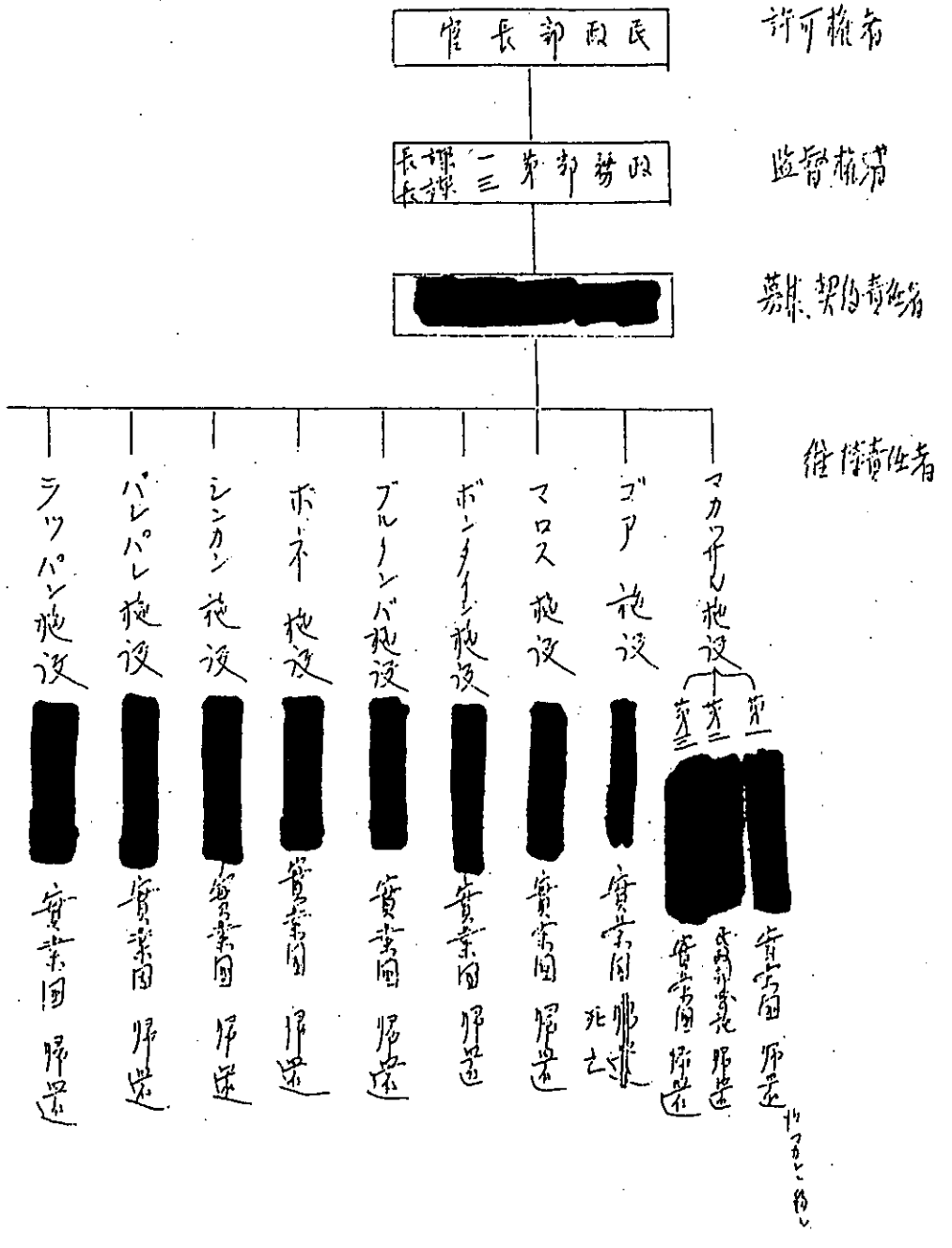
マンダル族 四

チヤカシ族 五

ジヤワ族(コロネサン)二人

マカヲル族 其他

備考マカヲル本ハ責任者同述ノ為


民政部長官
許可権者
総務部第三課長
二課長
監督権者
[redacted]
募集契約責任者
従業者使用者
マカオ出張所
ゴア 出張所
マロス 出張所
ボンタイン出張所
ブルンバ出張所
ボネ 出張所
シンカン 出張所
パレパレ出張所
ラッパン出張所
[redacted]
実業団 帰還
実業団 帰還
実業団 帰還

ピンラン施設 [redacted] 實業國 歸還

カロレ施設 [redacted] 仝 實業國 歸還

エンレカン施設 [redacted] 仝 實業國 歸還

チアロツク施設

マゼネ施設 [redacted] 實業國 歸還

ポレワリ施設 [redacted] 實業國 歸還

パロポ施設 [redacted] 實業國 歸還

マカレ施設 [redacted] 實業國 歸還

マサムバ施設 [redacted] 實業國 歸還

マリリ施設 [redacted] 實業國 歸還

ウオート施設 [redacted] 實業國 歸還

サライヤル [redacted] 〃 〃

市 賣淫施設ノ所在地並場所別從業婦及從業男子ノ數

施設ノ名称	所在地	從業婦	從業男子	賣淫婦	賣淫婦種族
マカサル第一施設	マカサル第一カンポン ピーサン			約三〇	
マカサル第二 〃	右同	不明		約四〇	
マカサル第三 〃	マカサル第一庫島通			約二〇	
ゴア 〃	ゴアヨリ為スンダニチアサ町	一	一	五	トラジヤ五
マロス 〃	マロスヨリ為マロス町		三	六	トラジヤ三 マンダレ二 ジヤワ一
ボンタイン 〃	ボンタインヨリ為ボンタイン町	一	二	一〇	ジヤワ一〇
ブルタンバ 〃	ブルタンバヨリ為ブルタンバ町	一	三	一四	トラジヤ一四
ボネ 〃	ボネヨリ為ワタンボネ町	一	一	三	ジヤワ三
シンカン 〃	ワヂヨリ為シンカン町	、	三	五	マカサル五
パレパレ 〃	パレパレヨリ為パレパレ町	、	三	一九	ジヤワ三 トラジヤ一四 マンダレ二

ラツパン 〃	シナレレンラツパンのねラツパン町	一	三	九	トラシヤ 九		
ピンラン 〃	ピンランのねピンラン町	一	一	七	トラシヤ 五 シヤウ 二		
エンレカン 〃	エンレカンのねエンレカン町	三	三	四	カロン 四 トラシヤ 四		
マゼネ 〃	マゼネのねマゼネ町	一		四	シヤウ(コ) 四		
ポレワリ 〃	ポレワリのねポレワリ町	一		六	シヤウ(コ) 六		
パロポ 〃	パロポのねパロポ町	二		六	トラシヤ 四 シヤウ 二		
マカレ 〃	マカレのねマカレ町		五	一〇	トラシヤ 二 シヤウ(コ) 八		
マサンバ 〃	マサンバのねマサンバ町カブナ	一	三	五	トラシヤ 二 シヤウ(コ) 五		
マリリ 〃	マリリのねマリリ町	一	一	四	シヤウ(コ)		
ウオート 〃	マリリのねウオート町		一	五	シヤウ(コ) 四 トラシヤ 一		
サライヤル	サライヤルのねベンケン	一	13	二六	サライヤル マカレサル		

慶泊施設ニ關スル調査報告

第二軍司令部

摘要	同一部隊	同一給養（給與）	營舍生活方法	慶泊施設ノ所在地	責任者
從業者ノ男女別人員	慶泊施設ノ國籍或民族別人員				

④法務部（GHQ）少佐からの記録要求の件［終戦連絡事務局連絡官］（昭22・1・9）

終連報甲第一五七八號 発[redacted]連絡官 受[redacted]事務官 昭二二、一、九
時当一四〇〇 担任[redacted]事務官 連絡課

要回答	法調	[redacted]嘱託に傳達済	舞通

[redacted]等の記録要求の件

○法務部 ラ[redacted]少佐 （一月七日附）

○一月二十一日 送

○LS—Z 四七五〇

[redacted] 曹長

一九四六年 五月九日にG—一二號で南方から帰還した

LS—Z 四七五一

[redacted]

二十四才位 和歌山学生 彼の父は一九四〇、四一、四二年に海南島で慰安所を経営してゐた

彼は四二年三月—七月の間 海南島からジャハに航海した

四二年八月 彼はジャバ スマランで [redacted] という慰安所に経営してゐた

四四年の半ば又は後半期頃活動してゐた

彼は東ジャバに移動したと思はれる 我後ジャバから帰つた筈

LS—Z 四七五二

[redacted]

三十二才位 和歌山県生

四二年七月十三日に海南島からジャバに航海した

同年八月にジャバスマランに来て「レストラン」「[redacted]」荘及慰安所「[redacted]ソウ」を経営してゐた 終戦後

四五年十一月 スマランにゐた シンガポールを経て多分帰つた筈

LS—Z 四七五三

[redacted]

マレイ憲兵隊長

(又は [redacted])

四六年十二月三十日大阪で捕へられ現在 (黒鴨にあり)

平成５年１０月８日
厚生省社会・援護局

「俘虜名票」に関する調査結果概要

1　調査の経緯

(1)　朝鮮半島出身旧軍人軍属の資料の一つである「俘虜名票」について、数の確認等最終点検を行っていた際、その職業欄に慰安婦に該当するのではないかと思われる記述が見つかった。

(2)　このため、「俘虜名票」の全数について、精査、点検を行った。

（注）「俘虜名票」は、連合軍作成の英文資料で、個人ごとに出身地、職業等を記載した個人別カードである。

2　調査結果の概要

(1)　「俘虜名票」総数
　　１６４，３９５名

(2)　男女別内訳
　　〔男〕１６３，５６６名
　　〔女〕　　８２９名

(3)　女性の出身地別、職業別内訳

朝鮮半島　１９名	台　湾　２４名	日　本７８６名
COMFORT GIRL　10	PROSTITUTE　1	COMFORT GIRL　19
COMFORT UNIT　1	その他　23	その他　767
その他　8		

（注）職業は、職業欄の記載によった。

照　会　先
社会・援護局援護企画課
担当　課長補佐　長門利明
TEL（代）０３（３５０３）１７１１
（内）３４０９
TEL（直）０３（３５９１）９８６６

（参考）
女性の出身地別職業一覧

（1）朝鮮半島出身

Occupation 欄の記載（職　業）	件　数
Comfort Girl	10
Comfort Unit	1
Farmer	2
House Wife	1
Nurse	1
Waitress	1
None	3
計	19

（2）台湾出身

Occupation 欄の記載（職　業）	件　数
Nurse	10
Farmer	5
Waitress	3
House Maid	1
House Wife	1
Prostitute	1
Sales Girl	1
Typist	1
None	1
計	24

（3）日本出身

Occupation 欄の記載 （職　業）	件　数
Nurse	435
Typist	44
Office Worker	38
Clerk	33
Student	32
Waitress	20
Comfort Girl	19
Secretary	13
Geisha	9
House Wife	9
Farmer	6
Office Clerk	5
Sales Girl	5
Telephone Operator	5
Army PX Worker	4
Dietician	4
Company Employee	3
Red Cross Nurse	3
Army Nurse	2
Cook	2
Factory Worker	2
Government Worker	2
House Keeper	2
Nurse Medical Corps	2
Nurse Aid	2
Restaurant Owner	2
Seamstress	2
Stenographer	2
Student Nurse	2
Tea House Employee	2
Army PX Officer	1
Bank Employee	1
Bicycle Shop Owner	1
Blue Printer	1
Cafe Worker	1
Canteen Worker	1
Cashier	1

Occupation 欄の記載 (職　業)	件　数
Chemist	1
Clerk In Store	1
Entertainer	1
Factory Employee	1
Factory Interpreter	1
Finance Worker	1
Hospital	1
House Keeping	1
House Girl	1
Interpreter	1
Maid	1
Medical Corps	1
Merchant	1
Musician	1
Nurse Instructress	1
Nurse Red Cross	1
Nurse School Graduate	1
Nursing	1
Nursing School Grad	1
Nursing Assistant	1
Pharmacist	1
Pharmacy	1
PX Employee	1
Red Cross Worker	1
Sales Woman	1
Store Employee	1
Student Of Red Cross School	1
Student·Teacher (Japanese)	1
Supply Work	1
Teacher	1
Tea House Matron	1
Tobacco Maker	1
Undertaker For Japanese Army.	1
Weaver	1
Worked In Restaurant	1
Worker	1
None	32
計	786

編集復刻 ㊀女性のためのアジア平和国民基金編
政府調査「従軍慰安婦」関係資料集成④
国立公文書館所蔵資料／大英帝国戦争博物館所蔵資料
厚生省関係公表資料
一九九八年七月二十日 第一刷発行
揃定価 一〇〇、〇〇〇円(税別)
後藤乾一
編集代表 高崎宗司
和田春樹
装幀 三谷鞆彦
発行者 北村正光
発行所 ㈱龍溪書舎
東京都板橋区南町43―4―一〇三
郵便番号 一七三―〇〇二七
電話 〇三―三五五四―八〇四五(代表)
FAX〇三―三五五四―八四四四
振替 〇〇一三〇―一―七六一二三
印刷 勝美印刷 製本 岸田製本

検印廃止

ISBN4-8447-3474-1

編集復刻

㈶女性のためのアジア平和国民基金編

政府調査

「従軍慰安婦」関係資料集成⑤

●米国国立公文書館所蔵資料
国立国会図書館所蔵資料
各巻資料の概要紹介

龍溪書舎

目　次　（第五巻）

資料の概要紹介

第一巻 …… 3
第二巻 …… 49
第三巻 …… 65
第四巻 …… 87
第五巻 …… 99

米国国立公文書館・国立国会図書館所蔵資料

I、連合軍翻訳通訳部局（ATIS）関係文書
一、尋問調書（Interrogation Report）　No. 24 …… 9
二、尋問調書　〃　No. 25 …… 19

三、尋問調書 〃 No 27 …… 25
四、尋問調書 〃 No 28 …… 29
五、尋問調書 〃 No 30 …… 33
六、尋問調書 〃 No 31 …… 39
七、尋問調書 〃 No 34 …… 43
八、尋問調書 〃 No 37 …… 49
九、尋問調書 〃 No 46 …… 53
一〇、尋問調書 〃 No 48 …… 59
一一、尋問調書 〃 No 50 …… 63
一二、尋問調書 〃 No 52 …… 67
一三、尋問調書 〃 No 53 …… 71
一四、尋問調書 〃 No 57 …… 75
一五、尋問調書 〃 No 60 …… 79
一六、尋問調書 〃 No 63 …… 83
一七、尋問調書 〃 No 67 …… 87
一八、尋問調書 〃 No 78 …… 91

一九、尋問調書　〃　No. 94 …… 97
二〇、尋問調書　〃　〃　No. 104 …… 101
二一、尋問調書　〃　〃　No. 573 …… 107
二二、捕虜尋問調書 (Prisoner of War Interrogation Report) …… 113
二三、時報 (Bulletin)　No. 1483 …… 115
二四、時事翻訳 (Current Translations)　No. 100 …… 121
二五、調査報告書 (Research Report)　No. 120 (2) …… 125
二六、調査報告書　〃　No. 120 (1) …… 137

II、連合軍東南アジア翻訳・尋問センター (SEATIC) 関係文書

一、SEATIC時報　No. 116 …… 169
二、SEATIC時報　No. 131 …… 175
三、SEATIC時報　No. 182 …… 183
四、SEATIC時報　No. 186 …… 189
五、SEATIC時報　No. 197 …… 195

III、戦争情報局 (United States Office of War Information) 関係資料

一、心理戰作戰班報告書 (Japanese Prisoner of War Information Report) 49号 …… 203
IV、写真資料 …… 211

資料の概要紹介

説　明

日本政府は平成四年七月および平成五年八月に「いわゆる従軍慰安婦問題の調査結果について」として、それまで発見した資料のすべてについて「概要紹介」を発表した。本書はそこで紹介された資料の原文を写真製版で公開したものだが、発表された「資料の概要紹介」も、資料の要点を概観するのに便利な文書であるので、以下にそれを収録する。

掲載にあたっては、政府作成の「資料の概要紹介」を基本的に引用しながら、スタイル文体の統一をはかるために、編者の責任で若干の修正をほどこした。原資料にある今日からみれば不適切と思われる表現は、本書の「概要紹介」でも、原則としてそのままにした。

なお二回の発表のあとでそのつど発表された資料については、政府発表の「概要紹介」を欠くものがある。その場合には、第一巻収録分の警察庁公表資料をはじめとして、編者が独自に「概要紹介」を作成した。

第一巻

一、警察庁関係公表資料

文書件名 〔簿冊の表題〕	発行時期 （昭和）	発信者	宛先	記述の概要
①不良分子の渡支取締方に関する件 〔旧内務省文書〕	一二・八・三一	外務次官	警視総監、各地方長官、関東州庁長官	従来は支那に渡航するには旅券の必要がなかったが、日支事変後の混乱で無頼の徒の渡航を取り締まるため、こののちは旅券を有するか、所轄警察署長発給の身分証明書をもつことが必要となったことを知らせ、制定された「支那渡航取扱手続」を通知している。

②上海派遣軍内陸軍慰安所に於ける酌婦募集に関する件〔同右〕	一三・一・一九	群馬県知事	内務大臣、陸軍大臣、各庁府県長官	募集に来た業者について「公序良俗」に反するようなことを吹聴するのは「皇軍の威信」を失墜させるとして、厳重取締を求めている。
③北支派遣軍慰安酌婦募集に関する件〔同右〕	一三・一・二五	山形県知事	内務大臣、陸軍大臣、各府県長官	募集業者について銃後の民心、とくに応召兵士の家の婦女子の精神に悪影響を及ぼし、婦女の身売防止の精神にも反するとして、募集を断念させる説得を行ったと報告している。
④支那渡航婦女募集取締に関する件〔同右〕	一三・一・二五	高知県知事	内務大臣、各庁府県知事	軍の威信にかかわる言辞を弄する募集業者の活動は禁止し、渡航希望者にも証明書を出さないことにすると報告している。
⑤時局利用婦女誘拐被疑事件に関する件〔同右〕	一三・二・七（資料に一二年とあるは間違い）	和歌山県知事	内務省警保局長	軍部の命令で「上海皇軍慰安所」に送る酌婦募集にきたと述べる二人の大阪の貸席業者が婦女子誘拐の疑いで取調を受けた件の報告。照会して得られた長崎県外事警察課長の回答（昭和一三年一月二〇日）を付す。そこには、一二年一二月二一日在上海総領事館警察署長より長崎水上警察署長あてに来た軍慰安所設置への協力依頼が付されている。この依頼状には領事館、憲兵隊、武官室の任務分担が説明され、女性に書かせる承諾書の文案も添えられていた。

⑥上海派遣軍内陸軍慰安所に於ける酌婦募集に関する件〔同右〕	一三・二・一四	茨城県知事	内務大臣、陸軍大臣、各庁府県長官ほか	県内でも募集の事実があったことを伝え、その業者が「公序良俗」に反するようなことを吹聴したのは「皇軍の威信」を失墜させるとして、厳重取締を指示したと報告している。
⑦上海派遣軍内陸軍慰安所に於ける酌婦募集に関する件〔同右〕	一三・二・一五	宮城県知事	内務大臣、各庁府県長官	群馬県知事の通報にこたえて、県内での周旋業者の活動を調査した結果を報告している。
⑧―1支那渡航婦女の取扱に関する件〔同右〕	一三・二・一八	内務省警保局長通牒案		⑧―2の案
⑧―2支那渡航婦女の取扱に関する件〔同右〕	一三・二・二三	内務省警保局長	各庁府県長官	この通牒は、募集者の言動を遺憾として、慰安婦となる者は内地ですでに「醜業婦」である者で、かつ二一歳以上でなければならないこと、渡航のために本人が警察に出頭することと親権者の承諾をとることを義務づけている。婦女の募集周旋にあたって、軍の諒解または軍と連絡があるかのように言う者は取り締まるべきだとしている。

⑨―1支那渡航婦女に関する件伺〔同右〕	一三・一一・四	内務省警保局警務課長	警保局長	南支派遣軍古荘部隊参謀と陸軍省徴募課長から南支派遣軍の慰安所設置のため婦女約四百名を渡航させるのに援助が求められているので、二月二三日の通牒の趣旨によってこれを取り扱うことにする、大阪一〇〇名、京都五〇名、兵庫一〇〇名、福岡一〇〇名、山口五〇名と割当し、その引率者を選定し募集を行わせたいと提案している。
⑨―2南支方面渡航婦女の取扱に関する件〔同右〕	一三・一一・八	内務省警保局長		四百名の派遣にさいして抱主たる引率者の選定、渡航婦女の条件、引率者との契約、募集の仕方、慰安所設置の場所などについて通達している。
⑩醜業婦渡支に関する経緯〔同右〕	日付け不明	内務省内で作成された	あて先不明	昭和一二年一二月二六日付けで内務省警務課長から兵庫県警察部長に対して、上海と神戸の業者が行くので、便宜を計ってほしいとの電報が打たれたことが述べられている。一三年一月八日には神戸発臨時船丹後丸で四、五〇名が渡支したが、うち二〇名は兵庫県警察が証明書を発行した者であるとある。

二、外務省関係公表資料

文書件名 ［簿冊の表題］	発行時期 （昭和）	発信者	宛先	記述の概要
①支那渡航者に対する身分証明書発給に関する件 （「支那事変に際し邦人の渡支制限並取締関係雑件　各種証明関係　身分証明関係」第二巻）	一二・一二・一五	福岡県知事	内務大臣 外務大臣	身分証明書を発給した者の名簿の中に、上海北四川路海軍慰安所酌婦として呼び寄せを受けた朝鮮人と思われる女性二名（本籍が朝鮮半島）の名前がある。

②—1 済南其他膠済鉄道沿線渡航者取扱方に関する件「支那事変に際し邦人の渡支制限並取締関係在支各地区別取締関係」第一巻	一三・四・二五	大分県知事	外務省亜米利加局長	皇軍慰安所の酌婦募集等のために帰国する旨の在支公館又は軍部の証明書を有する者が募集した酌婦に対して身分証明書を交付してよいかどうか指示を仰いだもの。
②—2 同右—回答〔同右〕	一三・五・四	外務省亜米利加局長	大分県知事	内務省警保局長発の支那渡航婦女の取扱いに関する依命通牒により渡支に支障がない者に限り身分証明書を発給して差し支えない旨回答したもの。
③「漢口攻略後邦人進出に対する応急処理要綱」送付の件〔同右〕	一三・九・二八	在上海総領事代理	外務大臣	漢口への居留民以外の進出は復帰希望居留民の輸送に余裕を生じた後に、進出後速やかに営業を開始できる者から優先的に認めるが、軍隊慰安所開設のために進出する者はこの限りでない。
④—1〔漢口への渡航者取締に関する件〕〔同右〕	一四・二・三	在漢口総領事	外務大臣	臨時腰掛的に当地へ進出し軍人相手の営業を営み一儲けしようとする者が少なくなく、飲食店、「カフェー」等の他に軍慰安所二〇軒（未開業を含む）が存在する。共倒れにならぬよう渡航取締を求める。

④—2漢口への渡航者取締に関する件〔同右〕	一四・二・七	外務省亜米利加局長	警視総監 関東州庁長官 各地方長官	漢口総領事からの報告（④—1）を引用し、同地に軍慰安所二〇軒が存在することを述べ、共倒れにならぬよう渡航者への周知普導を指示する。
⑤—1漢口陸軍天野部隊慰安所婦女渡支の件〔「支那事変に際し邦人の渡支制限並取締関係雑件」第一巻〕	一四・一二・二二	外務大臣	在漢口総領事	在漢口香川県天野部隊において、軍慰安所開設のため婦女五〇名を募集しているので、右引率渡支について許可方同県に申請する者がおり、同県関係軍側からもこの斡旋方申入れがあるところ、止むを得ないとして内諾を与えた旨内務省から通報してきたため、在漢口総領事館はこのことを了解済であるかどうか確認を求めたもの。
⑤—2同右—回答〔同右〕	一四・一二・二七	在漢口総領事	外務大臣	当地軍司令部に照会したところ、慰安婦の内地からの招致は許可制をとっており、今回の天野部隊の慰安婦招致に関しては、軍に対して正式な手続を踏んでいないが、既に同隊において手筈をとった事実に鑑み、これを追認する趣であるので了知ありたい。なお、本件に関しては事前に当館に何の連絡もなく、軍の意向としては招致慰安婦の稼業については当館の監督下において就業させて欲しい旨申出があるので、来漢の上は当館に出頭することを引率者に伝達して欲しい。

⑥—1邦人渡支一時的制限に関する外務省発表 〔「支那事変に際し邦人の渡支制限並取締関係暫定処理要綱」第一巻〕	一五・五・七	外務省		一般旅行者の渡支を差止め、㈠慰問を目的とする者、㈡家事用務、商取引、定住、現地商社勤務を目的とする者に限ることと発表した。 この資料は政府発表には含まれていなかったが、すでに公表されたのでとくに補った（編集者）
⑥—2渡支邦人暫定処理取扱方針中領事館警察署の証明書発給範囲に関する件 〔同右〕	一五	警務部第三課	同右	特殊婦女（芸妓、酌婦、女給、軍慰安所雇傭員その他）は原則として証明書を発給しないこと。ただし欠員補充はみとめる。
⑥—3「渡支邦人暫定処理の件」打合事項 〔同右〕	一五	不明	不明	軍属、軍雇用人でない者（主として特殊婦女）の渡支は現地憲兵隊発給の証明書ではなく、領事館発給の証明書に依らしめる様取り計らわれたい。

⑦〔軍慰安所従事者に対する身分証明書発給の件〕「支那事変に際し邦人の渡支制限並取締関係暫定処理要綱」第二巻	一五・六・一	台湾総督府外事部長	外務大臣	開館していない領事館管轄区域の前線に赴いて軍慰安所に従事する者に対しては、陸海軍の証明書によって身分証明書の発給を行いたいが差し支えないか指示を仰ぐもの。
⑧―1渡支事由証明書等の取寄不能と認められる、対岸地域への渡航者の取扱に関する件〔同右〕	一五・九・二	台湾総督府外事部長	外務省亜米利加局第三課長	高雄州知事より照会（⑧―2）があった件は、通常であれば陸海軍側の証明書により最寄りの領事館警察署より渡支事由証明書を取り付けることとなるが、本件慰安所従業員の渡航は急を要するので本件に限り許可すべき旨高雄州知事に回答（⑧―3）したので了知して欲しい。
⑧―2　同右〔同右〕	一五・八・二三	高雄州知事	台湾総督府外事部長	広東省欽県の南支派遣軍塩田部隊及び林部隊の専属の軍慰安所経営者及び酌婦等の渡支事由証明書等は、所属部隊長或は所轄憲兵隊長の発給する証明書により渡航させるのが実際的処理であると思うが回答をいただきたい。（右記渡航者の証明願、渡航証明願、呼寄証明願が添付されている。）

⑧—3　同右—回答 〔同右〕	一五・九・二	台湾総督府 外事部長	高雄州知事	本件慰安所従業員の渡航に限り、渡支事由証明書を取り付けることなく、部隊長の発給する証明書をもって出願させ、身許目的等調査の上、所定の証明書を発給して差し支えないことを回答する。
⑨—1南洋方面占領地に於ける慰安所開設に関する件 「大東亜戦争に際し南方地域（占領地を含む）渡航制限並取締関係雑件」	一七・一・一〇	台湾総督府 外事部長	外務大臣	南洋方面占領地に於いて軍側の要求により慰安所開設のため渡航しようとする者（従業者も含む）の取扱について指示を仰ぐもの。
⑨—2南洋方面占領地に対し慰安婦渡航方の件 〔同右〕	一七・一・一四	外務大臣	台湾総督府 外事部長	この種の渡航者に対しては軍の証明書により渡航させるよう回答したもの。
⑩仏印より内地、満州国、支那「タイ」向旅行許可に関する件 〔同右〕	一八・二・八	在西貢支部 長代理	大東亜大臣	軍従属者（御用商人、飲食業者、慰安所従業員等）への旅券、国籍証明書の許与について、軍との間に解釈の違いがあるので、本省において陸軍省と協議決定した上での指示を仰ぐもの。

⑪軍従属者に対する旅行許可の件〔同右〕	一八・三・一〇	事務総長	大東亜大臣	軍従属者の資格（例えば御用商人、慰安所員、酒保員等）を離脱した者に対して、無条件に一般邦人としての旅券もしくは国籍証明書の給付を行うと、不良分子の渡航を認めるのと同一結果となるので、現地解除者の在留は相当峻拒する必要があり、この点につき本省において陸海軍側と協議の上、根本的取扱についての指示を仰ぐもの。
⑫―1渡支取締方の件〔「支那事変に際し邦人の渡支制限並取締関係雑件　邦人渡支取締に関する拓務省報告」第一巻〕	一四・一・一三	台北州知事	台湾総督	昭和一三年一一月中に「就職（慰安所関係含）」として身分証明書並びに外国旅券発給を行った者として、北支方面に内地人二、本島人二の計四、上海方面に内地人四〇、本島人四三、計八三、南支方面に内地人一〇二、朝鮮人五一、本島人八一、計二三四の記述がある。
⑫―2同右〔同右〕	一四・三・二	同右	同右	昭和一三年一二月中に「慰安所関係者」として身分証明書並びに外国旅券発給を行った者として、南支方面に内地人一二六、朝鮮人一九、本島人一〇、計一五五の記述がある。

⑫—3　同右 〔同右〕	一四・三・二	同右	警務局長 総督官房外務部長 各州知事庁長 各郡守警察署長	昭和一四年一月中に「慰安所関係」として身分証明書並びに外国旅券発給を行った者として、南支方面に内地人五九、朝鮮人八、本島人八、計七五の記述がある。
⑫—4　同右 〔同右〕	一四・四・一〇	同右	同右	昭和一四年二月中に「慰安所関係」として身分証明書並びに外国旅券発給を行った者として、上海方面に内地人九、朝鮮人三、本島人四、計一六、南支方面に内地人一七〇、朝鮮人一、本島人四一、計二一二の記述がある。
⑫—5　同右 〔同右〕	一四・四・二四	同右	同右	昭和一四年三月中に「慰安所関係」として身分証明書並びに外国旅券発給を行った者として、南支方面に内地人一二、本島人一、計一三の記述がある。
⑫—6　同右 〔同右〕	一四・五・二一	同右	同右	昭和一四年四月中に「慰安所関係」として身分証明書並びに外国旅券発給を行った者として、上海方面に内地人二の計二、南支方面に内地人二三、朝鮮人五、本島人三、計三一の記述がある。

⑫—7　同右 〔同右〕	一四・六・一九	同右	同右	昭和一四年五月中に「慰安所関係」として身分証明書並びに外国旅券発給を行った者として、上海方面に内地人八、本島人四、計一二、南支方面に内地人一八、朝鮮人三、本島人八、計二九の記述がある。
⑫—8　同右 〔同右〕	一四・七・一五	同右	同右	昭和一四年六月中に「慰安所関係」として身分証明書並びに外国旅券発給を行った者として、上海方面に本島人二、計二、南支方面に内地人一一、朝鮮人四、本島人一〇、計二五の記述がある。
⑫—9　同右 〔同右〕	一四・八・一六	同右	同右	昭和一四年七月中に「慰安所関係」として身分証明書並びに外国旅券発給を行った者として、南支方面に内地人一六、朝鮮人二二、本島人三、計四一の記述がある。
⑫—10　同右 「支那事変に際し邦人の渡支制限並取締関係邦人渡支取締に関する拓務省報告」第二巻	一四・九・一三	同右	同右	昭和一四年八月分の渡航目的調査表の中に、「慰安所関係」として南支方面に内地人八、朝鮮人一、計九の記述がある。

⑫—11 同右〔同右〕	一四・一〇・一三	同右	同右	昭和一四年九月中に「慰安所関係」として身分証明書並びに外国旅券発給を行った者として、南支方面に内地人九、朝鮮人二〇、本島人一、計三〇の記述がある。
⑫—12 同右〔同右〕	一四・一一・一五	同右	同右	昭和一四年一〇月中に「慰安所関係」として身分証明書並びに外国旅券発給を行った者として、南支方面に内地人一六、朝鮮人一四、計三〇の記述がある。
⑫—13 同右〔同右〕	一四・一二・一一	同右	同右	昭和一四年一一月中に「慰安所関係」として身分証明書並びに外国旅券発給を行った者として、南支方面に内地人九、朝鮮人五四、本島人八、計七一の記述がある。
⑫—14 同右〔同右〕	一五・一・一八	同右	同右	昭和一四年一二月中に「慰安所関係」として身分証明書並びに外国旅券発給を行った者として、南支方面に内地人九、朝鮮人二、計一一の記述がある。
⑫—15 同右〔同右〕	一五・二・二四	同右	同右	昭和一五年一月中に「慰安所関係」として身分証明書並びに外国旅券発給を行った者として、南支方面に内地人二、朝鮮人一、計三の記述がある。
⑫—16 同右〔同右〕	一六・九・二七	同右	同右	昭和一六年七月中の渡航目的調査表の中に、「慰安所関係」として南支方面に朝鮮人九、計九、累計九七の記述がある。

⑬—1 渡支取締に関する件 「支那事変に際し邦人の渡支制限並取締関係雑件　邦人渡支取締に関する拓務省報告」第一巻	一三・一二・一四	新竹州知事	台湾総督 各州知事庁長 総督官房外務部長	昭和一三年一一月中に「軍慰安所の酌婦及び雇人」として身分証明書並びに外国旅券発給を行った者として上海方面に内地人四、計四、南支方面に内地人一五、朝鮮人二九、本島人一、計四五の記述、「軍慰安所経営」として上海方面に内地人二、計二の記述がある。
⑬—2 同右 〔同右〕	一四・一・一一	同右	同右	昭和一三年一二月中に「南支慰安所就業婦」として身分証明書並びに外国旅券発給を行った者として、内地人三一、朝鮮人二二、計五三、「慰安所料理屋経営」として内地人一、朝鮮人二、計三、「慰安所従業員」として内地人五、本島人四、計九の記述がある。
⑬—3 同右 〔同右〕	一四・二・一五	同右	同右	昭和一四年一月中に「南支派遣軍慰安所従業員」として身分証明書並びに外国旅券発給を行った者として内地人二、本島人三、計五の記述がある。
⑬—4 同右 〔同右〕	一四・三・一七	同右	同右	昭和一四年二月中に「慰安所就業」として身分証明書並びに外国旅券発給を行った者として、南支方面に内地人三、本島人三、計六の記述がある。

⑬—5　同右 〔同右〕	一四・四・一九	同右	同右	昭和一四年三月中に「慰安所就業」として身分証明書並びに外国旅券発給を行った者として、南支方面に内地人二、朝鮮人一、計三の記述がある。
⑬—6渡支取締方に関する件 〔同右〕	一四・八・二二	同右	警務局長 各州知事庁長　総督 官房外務部長　各郡 守警察署長	昭和一四年七月中に「軍慰安所」として身分証明書並びに外国旅券発給を行った者として、南支方面に内地人一、朝鮮人四、本島人四、計九の記述がある。
⑬—7　同右 〔「支那事変に際し邦人の渡支制限並取締関係邦人渡支取締に関する拓務省報告」第二巻〕	一四・九・一二	同右	同右	昭和一四年八月中に「軍慰安所」として身分証明書並びに外国旅券発給を行った者として、南支方面に内地人六、朝鮮人五、計一一の記述がある。
⑬—8　同右 〔同右〕	一四・一〇・一二	同右	同右	昭和一四年九月中に「軍慰安所」として身分証明書並びに外国旅券発給を行った者として、南支方面に内地人一、朝鮮人一、計二の記述がある。
⑬—9　同右 〔同右〕	一四・一一・一三	同右	同右	昭和一四年一〇月中に「軍慰安所」として身分証明書並びに外国旅券発給を行った者として、南支方面に内地人一、朝鮮人四、計五の記述がある。

⑬—10　同右 〔同右〕	一四・一二・一三	同右	同右	昭和一四年一一月中に「軍慰安所」として身分証明書並びに外国旅券発給を行った者として、南支方面に朝鮮人二〇、計二〇の記述がある。
⑬—11　同右 〔同右〕	一五・一・一五	同右	同右	昭和一四年一二月中に「軍慰安所手伝」として身分証明書並びに外国旅券発給を行った者として、南支方面に内地人一、計一の記述がある。
⑬—12 〔同右〕	一五・二・一六	同右	同右	昭和一五年一月中に「軍慰安所従業員」として身分証明書並びに外国旅券発給を行った者として、南支方面に朝鮮人二、計二の記述がある。
⑭—1　渡支取締方の件 （「支那事変に際し邦人の渡支制限並取締関係雑件　邦人渡支取締に関する拓務省報告」第一巻）	一四・一・一七	台中州知事 台湾総督 各州知事庁長 各郡守警察署長	同右	昭和一三年一二月中に「慰安所従業員」として身分証明書並びに外国旅券発給を行った者として、南支方面に内地人二、朝鮮人五七、本島人一六、計七五、累計一三二の記述がある。
⑭—2　同右 〔同右〕	一四・二・一三	同右	同右	昭和一四年一月までに「慰安所従業員」として身分証明書並びに外国旅券発給を行った者として、南支方面に累計一三二の記述がある。

⑭—3　同右 〔同右〕	一四・三・一一	同右	同右	昭和一四年二月中に「慰安所従業員」として身分証明書並びに外国旅券発給を行った者として、南支方面に朝鮮人三、本島人一、計四、累計一三六の記述がある。
⑭—4　同右 〔同右〕	一四・四・一八	同右	同右	昭和一四年三月中に「慰安所従業員」として身分証明書並びに外国旅券発給を行った者として、南支方面に朝鮮人三、計三、累計一三九の記述がある。
⑭—5　同右 〔同右〕	一四・五・二二	同右	警務局長 外務部長 各州知事庁長 各郡守警察署長	昭和一四年四月中に「慰安所従業員」として身分証明書並びに外国旅券発給を行った者として、南支方面に朝鮮人一、計一、累計一四〇の記述がある。
⑭—6　同右 〔同右〕	一四・六・一二	同右	同右	昭和一四年五月中に「慰安所従業員」として身分証明書並びに外国旅券発給を行った者として、南支方面に本島七、計七、累計一四七の記述がある。
⑭—7　同右 〔同右〕	一四・七・一八	同右	同右	昭和一四年六月までに「慰安所従業員」として身分証明書並びに外国旅券発給を行った者として、南支方面に累計一四七の記述がある。

⑭—8　同右〔同右〕	一四・八・一一	同右	同右	昭和一四年七月中に「慰安所従業員」として身分証明書並びに外国旅券発給を行った者として、南支方面に朝鮮人五、計五、累計一五二の記述がある。
⑭—9　同右「支那事変に際し邦人の渡支制限並取締関係邦人渡支取締に関する拓務省報告」第二巻	一四・一〇・一二	同右	同右	昭和一四年九月中の渡航目的調査表の中に、「慰安所従業員」として南支方面に朝鮮人一〇、計一〇の記述がある。
⑭—10　同右〔同右〕	一四・一二・九	同右	警務局長 外務部長 各州知事庁長 各郡守警察署長	昭和一四年一一月中の渡航目的調査表の中に、「慰安所従業員」として南支方面に内地人一、朝鮮人五三、計五四の記述がある。
⑭—11　同右〔同右〕	一五・一・一七	同右	同右	昭和一四年一二月中の渡航目的調査表の中に、「慰安所従業員」として南支方面に朝鮮人一一、計一一の記述が、慰安所経営として南支方面に本島人一、計一の記述がある。

⑭—12　同右 〔同右〕	一六・八・一八	同右	警務局長 各州知事庁長 外事部長 各郡守警察署長	昭和一六年七月中の渡航目的調査表の中に、「慰安所従業」として南支方面に朝鮮人七、計七の記述がある。
⑮—1　渡支取締に関する件 〔「支那事変に際し邦人の渡支制限並取締関係雑件　邦人渡支取締に関する拓務省報告」第一巻〕	一四・二・一四	高雄州知事	台湾総督 各郡守警察署長	昭和一四年一月分の渡航目的調査表の中に、「軍慰安所従業員」として南支方面に内地人三二、朝鮮人三、計三五の記述がある。
⑮—2　同右 〔同右〕	一四・三・二二	同右	同右	昭和一四年二月分の渡航目的調査表の中に、「軍慰安所関係」として南支方面に内地人四六、朝鮮人四、本島人五三、計一〇三の記述がある。
⑮—3　同右 〔同右〕	一四・四・一二	同右	同右	昭和一四年三月分の渡航目的調査表の中に、「軍慰安所関係」として南支方面に内地人五八、本島人一七、計七五の記述がある。

⑮—4　同右〔同右〕	一四・五・一二	同右	同右	昭和一四年四月分の渡航目的調査表の中に、「軍慰安所関係」として南支方面に内地人二、朝鮮人一二、計一四の記述がある。
⑮—5　同右〔同右〕	一四・六・一三	同右	同右	昭和一四年五月分の渡航目的調査表の中に、「軍慰安所関係」として南支方面に内地人七、朝鮮人一、本島人一、計九の記述がある。
⑮—6　同右〔同右〕	一四・七・二五	同右	同右	昭和一四年六月分の渡航目的調査表の中に、「軍慰安所関係」として南支方面に内地人三、本島人一五、計一八の記述がある。
⑮—7　同右〔同右〕	一四・八・二二	同右	台湾総督 警務局長 各州知事庁長　各郡守 警察署長	昭和一四年七月分の渡航目的調査表の中に、「軍慰安所関係」として南支方面に内地人一七、計一七の記述がある。
⑮—8　同右 （「支那事変に際し邦人の渡支制限並取締関係邦人渡支取締に関する拓務省報告」第二巻）	一四・九・一八	同右	同右	昭和一四年八月分の渡航目的調査表の中に、「軍慰安所関係」として南支方面に内地人一七、計一七の記述がある。

⑮—9　同右 〔同右〕	一四・一〇・一四	同右	同右	昭和一四年九月分の渡航目的調査表の中に、「軍慰安所関係」として上海方面に朝鮮人一、計一の記述が、南支方面に内地人一一、朝鮮人一、本島人二〇、計三二の記述がある。
⑮—10　同右 〔同右〕	一四・一一・一六	同右	同右	昭和一四年一〇月分の渡航目的調査表の中に、「軍慰安所関係」として南支方面に内地人八、朝鮮人一四、本島人一、計二三の記述がある。
⑮—11　同右 〔同右〕	一四・一二・二〇	同右	同右	昭和一四年一一月分の渡航目的調査表の中に、「軍慰安所関係」として南支方面に内地人?、朝鮮人一六、本島人七、計五四の記述がある。
⑮—12　同右 〔同右〕	一五・一・一五	同右	同右	昭和一四年一二月分の渡航目的調査表の中に、「軍慰安所関係」として南支方面に内地人一七、朝鮮人二、本島人三、計二二の記述がある。
⑮—13　同右 〔同右〕	一五・二・一九	同右	同右	昭和一五年一月分の渡航目的調査表の中に、「軍慰安所関係」として南支方面に朝鮮人一、本島人一五、計一六の記述がある。
⑮—14　同右 〔同右〕	一六・八・二五	同右	同右	昭和一六年七月分の渡航目的調査表の中に、「軍慰安所関係」として南支方面に内地人一五、本島人五、計二〇の記述がある。

⑮―15　同右（「支那事変に際し邦人の渡支制限並取締関係雑件　邦人渡支取締に関する拓務省報告」第一巻）	不明	同右	不明	七月分の渡航目的調査表の中に、「軍慰安所就業」として上海方面に内地人一、朝鮮人四、計五、南支方面に朝鮮人五、計五の記述がある。
⑮―16　同右（「支那事変に際し邦人の渡支制限並取締関係邦人渡支取締に関する拓務省報告」第二巻）	不明	同右	不明	一一月分の渡航目的調査表の中に、「軍慰安所関係」として南支方面に内地人四二、朝鮮人二六、計六八の記述がある。
⑮―17　同右（同右）	不明	同右	不明	一二月分の渡航目的調査表の中に、「軍慰安所就業」として南支方面に内地人一二四、朝鮮人五四、計一七八の記述がある。

⑯—1渡支取締に関する月報（一月分）〔「支那事変に際し邦人の渡支制限並取締関係雑件　邦人渡支取締に関する拓務省報告」第一巻〕	一四	台東庁	不明	昭和一四年一月分の渡航目的調査表の中に「慰安所従業婦」として北支方面に朝鮮人一、計一、累計一の記述がある。
⑯—2渡支取締月報（二月分）〔同右〕	同右	同右	不明	昭和一四年二月分の渡航目的調査表の中に「慰安所従業婦」として、北支方面に累計一の記述がある。
⑯—3渡支取締に関する月報（三月分）〔同右〕	同右	同右	不明	昭和一四年三月分の渡航目的調査表の中に「慰安所従業婦」として、南（北）支方面に累計一の記述がある。
⑯—4　同右（四月分）〔同右〕	同右	同右	不明	昭和一四年四月分の渡航目的調査表の中に「慰安所従業婦」として、南（北）支方面に累計一の記述がある。
⑯—5　同右（五月分）〔同右〕	同右	同右	不明	昭和一四年五月分の渡航目的調査表の中に「慰安所従業婦」として、南（北）支方面に累計一の記述がある。

⑯—6　同右(六月分) 〔同右〕	同右	同右	不明	昭和一四年六月分の渡航目的調査表の中に、「慰安所従業員」として南〔北〕支方面に累計一の記述がある。
⑯—7　同右(七月分) 〔同右〕	同右	同右	不明	昭和一四年七月分の渡航目的調査表の中に、「慰安所従業員」として南〔北〕支方面に累計一の記述がある。
⑯—8 渡支取締月報 (八月分) 「支那事変に際し邦人の渡支制限並取締関係邦人渡支取締に関する拓務省報告(第二巻)」	同右	同右	不明	昭和一四年八月分の渡航目的調査表の中に、「慰安所従業員」として南〔北〕支方面に累計一の記述がある。
⑯—9　同右(九月分) 〔同右〕	同右	同右	不明	昭和一四年九月分の渡航目的調査表の中に、「慰安所従業員」として南〔北〕支方面に累計一の記述がある。
⑯—10　同右(十月分) 〔同右〕	同右	同右	不明	昭和一四年一〇月分の渡航目的調査表の中に、「慰安所従業員」として南支方面に朝鮮人一、計一、累計二の記述がある。

⑯—11　同右（十一月分）〔同右〕	同右	同右	不明	昭和一四年一一月分の渡航目的調査表の中に、「慰安所従業員」として南支方面に累計二の記述がある。
⑯—12渡支取締方の件〔同右〕	一五・一・一七	台東庁長	警務局長　各州知事庁長　総督官房外務部長	昭和一四年一二月分の渡航目的調査表の中に、「慰安所従業員」として南支方面に累計二の記述がある。
⑯—13渡支取締月報〔同右〕	一五・二・一四	同右	同右	昭和一五年一月分の渡航目的調査表の中に、「慰安所従業員」として南支方面に累計二の記述がある。
⑰—1渡支取締に関する件「支那事変に際し邦人の渡支制限並取締関係邦人渡支取締に関する拓務省報告」第一巻	一四・一・二〇	台南州知事	総督官房外務部長	昭和一三年一二月中の渡航目的調査表の中に、「慰安所経営」として南支方面に内地人一、朝鮮人二二、計二三の記述がある。
⑰—2　同右〔同右〕	一四・九・六	同右	同右	昭和一四年七月中の渡航目的調査表の中に「慰安所経営」として北支方面に朝鮮人一、計一、南支方面に朝鮮人一一、計一一の記述がある。

⑰—3　同右 〔「支那事変に際し邦人の渡支制限並取締関係邦人渡支取締に関する拓務省報告」第二巻〕	一四・一二・一二	同右	警務局長 外務部長	昭和一四年一一月中の渡航目的調査表の中に、「慰安所」として南支方面に内地人二、朝鮮人三九、計四一の記述がある。
⑰—4　同右 〔同右〕	一五・二・二六	同右	同右	昭和一五年一月中の渡航目的調査表の中に、「慰安所炊事婦」として南支方面に朝鮮人二、計二の記述がある。
⑱渡支取締方の件 〔同右〕	一四・一〇・一四	花蓮港庁長 警務局長 外務部長 各州知事庁長 各郡守		昭和一四年九月中に「慰安所従業員」として身分証明書並びに外国旅券発給を行った者として、南支方面に累計一の記述がある。 ⑯—11と同じ表であるが、原文のまま（編者注）。

⑲—1渡支取締に関する件「支那事変に際し邦人の渡支制限並取締関係雑件　邦人渡支取締に関する拓務省報告」第一巻	一四・二・七	澎湖庁長	台湾総督	昭和一四年一月中の渡航目的調査表の中に、「軍慰安所開設のため及び傭人」として南支方面に内地人四、朝鮮人三、本島人一、計七の記述が、「慰安所の酌婦」として南支方面に内地人一七、朝鮮人一〇、計二七の記述がある。
⑲—2　同右〔同右〕	一四・五・九	同右	同右	昭和一四年四月中の渡航目的調査表の中に、「軍慰安所開設」として南支方面に内地人三、計三の記述が、「慰安所従業員」として南支方面に内地人一七、計一七の記述がある。
⑲—3　同右〔同右〕	一四	同右	不明	昭和一四年七月分の渡航目的調査表の中に、「慰安所開設及び同伴」として南支方面に内地人三、計三の記述が、「右の使用人として」として南支方面に内地人一三、本島人二、計一五の記述がある。

⑳昭和一〇年在上海総領事館警察事務状況〔同警察署長報告摘録〕〔「外務省警察史」在上海総領事館」（第二冊）〕	一〇	在上海総領事館警察署長		昭和九年の邦人の諸営業表の中に、「海軍慰安所」として同年末現在で一四の記述がある。
㉑昭和一一年中に於ける在留邦人の特種婦女の状況及其の取締〔在上海総領事館警察署沿革誌に依る〕〔同右〕	一一	不明		酌婦について、昭和一一年末現在において、海軍慰安所たる料理店三軒を含み軒数は一〇軒、酌婦数一三一名（内、内地人一〇二名、朝鮮人二九名）であり、その内七軒は海軍下士兵を専門としており、かつ酌婦の健康診断も陸戦隊員及び当館警察官吏立会いの上毎週二回専門医が施行している他、慰安所に対しては海軍側とも協調取締りを厳格にし、かつ新規開業を許さないこととしている。
㉒昭和一一年在上海総領事館警察事務状況〔同警察署長報告摘録〕〔同右〕	一一	在上海総領事館警察署長		昭和一一年一二月末の邦人の諸営業調査表の中に、「料理店、芸妓、置屋」の営業者として二三、「海軍慰安所」の営業者として一〇の記述がある。

㉓昭和一二年在上海総領事館警察事務状況〔同警察署長報告摘録〕〔同右〕	一二	同右		昭和一二年の邦人の諸営業調査表の中に、「料理店、芸妓、置屋」として一二月末現在で二三、「海軍慰安所」として廃業一、一二月末現在で九の記述がある。 また、在留朝鮮人の職業（昭和一二年一二月末調）で、「陸軍慰安所」の記述がある。
㉔昭和一三年中に於ける在留邦人の特種婦女の状況及其の取締並に租界当局の私娼取締状況〔在上海総領事館警察署沿革誌に依る〕〔同右〕	一三	不明		酌婦について、昭和四年に公娼廃止に代わるべき便法として料理店酌婦制度を設け、抱酌婦の改善を計ってきていたが、昭和七年の上海事変勃発と共に我が軍部隊の当地駐屯増員に依り、これら兵士の慰安機関の一助として海軍慰安所を設置し現在に至っている。昭和一三年末現在、貸席一一軒（内地軍慰安所七軒を含む）抱酌婦一九一名（内地人一七一名、朝鮮人二〇名）となり、海軍慰安所七軒は海軍下士官兵を専門としており、かつ酌婦の健康診断も陸戦隊及び当館警察官吏立会いの上毎週一回専門医をして実施している。その他当館管内に陸軍慰安所臨時酌婦三〇〇名がいる。

㉕昭和一三年在上海総領事館警察事務状況 〔同警察署長報告摘録〕 〔同右〕	一三	在上海総領事館警察署長		昭和一三年中の邦人の諸営業調査表の中に、「料理屋、置屋」として開業五、廃業一、年末現在二七、「海軍慰安所」として開業三、廃業一、年末現在一二の記述がある。
㉖在上海総領事館における特高警察事務状況 〔「外務省警察史」在上海総領事館朝鮮民族運動」第五冊〕	一二・一二	不明		昭和一二年一二月末の調査によると、在留朝鮮人の職業として「陸軍慰安所」一の記述がある。
㉗「在天津総領事館塘沽出張所警察署警察史」（抜粋） 〔「外務省警察史」在天津総領事館「塘沽出張所」〕	一二・一二	在天津総領事館塘沽出張所警察署長		昭和一二年末における料理店は、営業者は内地人五名、朝鮮人三名、従業芸妓一三名、酌婦内地人一五名、酌婦朝鮮人五四名であり、当地は北支の関門である関係上、皇軍の通過、駐屯部隊が多く、これらを相手にしたこの種の営業は賑わいを極めており、この取締りに関しては、月一回営業監査を実施し、従業婦女に対しては、毎週金曜日現地開業医の健康診断を実施し、伝染性疾患並に性病の有無を検査している。

㉘昭和一三年在漢口領事館警察事務状況〔同警察署長報告摘録〕（「外務省警察史」在漢口総領事館、在鄭州領事館」）	一三	在漢口領事館警察署長		昭和一三年一二月末の邦人の職業調査表の中に、「料理店、慰安所」として漢口に男一六、武昌に男四一、女四、「芸妓、酌婦」として漢口に女二〇〇、武昌に女二九二の記述がある。
㉙昭和一三年在南京総領事館蕪湖分館警察事務状況〔同警察署長報告摘録〕（「外務省警察史」「在蕪湖領事館」）	一三	在南京総領事館蕪湖分館警察署長		安慶においては、昭和一三年一二月末の邦人の在留邦人の状況について、昭和一三年の皇軍の同地占領後飲食店、雑貨商及び慰安所等軍隊を目当てとする営業者、汽船会社等が存在するに至り、同年末には戸数四一、人口二一九に至った。 また、裕溪口及び灣沚鎮にも昭和一三年末現在軍隊相手の営業者が裕溪口に二戸三名、灣沚鎮に二戸一〇名おり、主な職業は汽船会社等の会社員の他、土産品の買い付け、一般貿易業者、商店員、雑貨商並びに軍人相手の料理店、飲食店、慰安所、写真屋、時計屋である。

㉚昭和一三年在杭州領事館警察事務状況（同警察署長報告摘録）（「外務省警察史」（在杭州領事館））	一三	在杭州領事館警察署長		昭和一三年一二月末の邦人の職業調査表の中に、「軍隊慰安所」として男四、「芸妓」として女一五、「酌婦」として女二一の記述がある。
㉛「外務省警察史　在九江領事館」抜粋	一三	在九江領事館警察署長		開館当時の邦人関係の状況として、昭和一三年一二月一日の九江在留邦人は五五七名であるが、その大部分は軍を対象とする飲食店、酒保、写真業、特殊慰安関係者で、いずれも一時的在留者であるが、就中全人口の四〇％を占めるいわゆる特殊婦人は軍の命令によって移動している状態である。
㉜「外務省警察史　在南京総領事館」抜粋	一三	在南京総領事館警察署長		昭和一三年四月一六日に南京総領事館に於いて開かれた陸海外三省関係者会同において、在留邦人の各種営業許可及び取締りに関して次のとおり決定した。 陸海軍に専属する酒保及び慰安所は陸海軍の直接経営監督するものであるので、領事館は関与しないが、一般に利用されているいわゆる酒保及び慰安所については、この限りではなく、業者に対する一般の取締りは領事館が、出入りする軍人軍

				属に対する取締りは憲兵隊が処理することとする。なお憲兵隊は必要な場合、随時臨検その他の取り締まりをなすことができる。また、将来兵站部の指導により設置される軍専属の特殊慰安所は憲兵隊が取り締まる。また、軍専属の酒保及び特殊慰安所を陸海軍において許可した場合は、軍憲より随時その業態、営業者の本籍、住所氏名、年齢、出生、死亡その他身分上の異動を領事館に通報する。
㉝「海口総領事館警察署瓊山派遣所警察史」抜粋（「外務省警察史」「在海口総領事館」）	一五・五	海口総領事館瓊山派遣所警察所長	不明	昭和一五年五月二三日に開かれた在瓊各機関連絡協調懇談会の協議事項の一つとして、「慰安所並に軍側慰安設備に対する意向（部隊本部提議）」の記述がある。

㉞—1邦人出国者統計表進達の件（「支那事変に際し邦人の渡支制限並取締関係暫定処理要綱渡支邦人暫定処理に関する統計報告」第一巻）	一五・六・一五	在山海関副領事	外務大臣	昭和一五年五月中の入国者職業別調査表の中に、「軍慰安所酒保」として広東二〇、合計二〇の記述がある。
㉞—2邦人渡支状況に関する件〔同右〕	一五・七・一九	同右	同右	昭和一五年六月中の入国者職業別調査表の中に、「軍慰安所酒保」として広東二六、合計二六の記述がある。
㉞—3邦人出国者統計報告の件〔同右〕	一五・八・一四	同右	同右	昭和一五年七月中の入国者職業別調査表の中に、「軍慰安所酒保」として広東一八、合計一八の記述がある。
㉟渡支邦人暫定処理に関する統計報告方の件〔同右〕	一五・一〇・三	在漢口総領事	同右	昭和一五年八月中の入国者職業別調査表の中に、「軍慰安所酒保」として広東一一、澳門一、合計一二の記述がある。

㊱—1 渡支邦人暫定処理に関する各種統計表（四月）送付の件（「支那事変に際し邦人の渡支制限並取締関係暫定処理要綱渡支邦人暫定処理に関する統計報告」第一巻）	一六・五・一〇	在広東総領事	外務大臣	昭和一六年四月分の入国者職業別調査表の中に、「軍酒保慰安所」として広東二一、海口二、計二三の記述がある。
㊱—2 渡支邦人暫定処理に関する各種統計報告の件（同右　第二巻）	一六・六・一一	同右	同右	昭和一六年五月中の入国者職業別調査表の中に、「軍酒保慰安所」として広東一七、海口二、計一九の記述がある。
㊱—3 同右（同右　第一巻）	一六・七・二二	在広東総領事代理	同右	昭和一六年六月中の入国者職業別調査表の中に、「軍酒保慰安所」として広東七、計七の記述がある。
㊱—4 同右（同右）	一六・八・一二	在広東総領事	同右	昭和一六年七月中の入国者職業別調査表の中に、「軍酒保慰安所」として広東五、海口一、計六の記述がある。

㊱—5　同右 〔同右〕	一六・九・八	同右	同右	昭和一六年八月中の入国者職業別調査表の中に、「軍酒保慰安所」として広東六、海口一、計七の記述がある。
㊱—6　同右 〔同右　第三巻〕	一六・一〇・九	同右	同右	昭和一六年九月中の入国者職業別調査表の中に、「軍酒保慰安所」として広東四、合計四の記述がある。
㊱—7　同右 〔同右〕	一六・一一・一一	同右	同右	昭和一六年一〇月中の入国者職業別調査表の中に、「軍酒保慰安所」として広東六、海口一、合計七の記述がある。
㊱—8　同右 〔「外国渡航者数表関係一件　渡支邦人暫定処理に関する統計報告（昭和一六・一二—一七・一）」〕	一六・一二・一六	同右	同右	昭和一六年一一月中の入国者職業別調査表の中に、「軍酒保慰安所」として広東一二、計一二の記述がある。

㊱—9　同右「支那事変に際し邦人の渡支制限並取締関係雑件　渡支邦人暫定処理に基く統計報告（昭和一七年）」	一七・四・二〇	同右	同右	昭和一七年三月中の入国者職業別調査表の中に、「軍酒保慰安所」として広東八、香港一四、海口一、計二三の記述がある。
㊱—10　同右〔同右〕	一七・五・一九	同右	同右	昭和一七年四月中の入国者職業別調査表の中に、「軍酒保慰安所」として広東三、香港三、計六の記述がある。
㊱—11　同右「支那事変に際し邦人の渡支制限並取締関係暫定処理要綱渡支邦人暫定処理に関する統計報告」第三巻	一七・六・二六	同右	同右	昭和一七年五月中の入国者職業別調査表の中に、「軍酒保慰安所」として広東四、澳門一、香港七、合計一二の記述がある。
㊱—12　同右〔同右〕第四巻	一七・七・一六	同右	同右	昭和一七年六月中の入国者職業別調査表の中に、「軍酒保慰安所」として広東七、香港五、海口一、計一三の記述がある。

㊱—13　同右（同右　第三巻）	一七・一〇・二七	同右	同右	昭和一七年九月分の入国者職業別調査表の中に、「軍酒保慰安所」として広東一、香港三、合計四の記述がある。
㊲—1　渡支邦人暫定処理ニ関スル各種統計報告の件（同右　第二巻）	一六・八・九	在厦門総領事	同右	昭和一六年七月中の入国者職業別調査表の中に、「慰安所」として二の記述がある。
㊲—2　同右〔同右〕	一六・九・五	同右	同右	昭和一六年八月中の入国者職業別調査表の中に、「慰安所」として二の記述がある。
㊲—3　同右（同右　第三巻）	一六・一一・七	同右	同右	昭和一六年一〇月中の入国者職業別調査表の中に、「慰安所」として一の記述がある。
㊲—4　同右「外国渡航者数表関係一件　渡支邦人暫定処理に関する統計報告（昭和一六・一二—一七・一二）」	一七・一・一七	同右	同右	昭和一六年一二月中の入国者職業別調査表の中に、「慰安所」として一の記述がある。

㊲—5　同右「支那事変に際し邦人の渡支制限並取締関係雑件　渡支邦人暫定処理に基く統計報告（昭和一七年）」	一七・四・一一	在厦門総領事代理	同右	昭和一七年三月中の入国者職業別調査表の中に、「慰安所」として二の記述がある。
㊲—6　同右〔同右〕	一七・五・一二	在厦門総領事	同右	昭和一七年四月中の入国者職業別調査表の中に、「慰安所」として三の記述がある。
㊲—7　同右「支那事変に際し邦人の渡支制限並取締関係暫定処理要綱渡支邦人暫定処理に関する統計報告」第四巻	一七・一〇・一三	同右	同右	昭和一七年九月中の入国者職業別調査表の中に、「慰安所」として二の記述がある。

㊳—1 渡支邦人暫定処理ニ関スル各種統計報告ノ件 「外国渡航者数表関係一件　渡支邦人暫定処理に関する統計報告（昭和一六・一二—一七・一）」	一六・一二・一一	在汕頭領事	同右	昭和一六年一一月中の入国者職業別調査表の中に、「料理屋業、慰安所」として汕頭四、計四の記述がある。
㊳—2 同右 〔同右〕	一七・四・六	同右	同右	昭和一七年三月中の入国者職業別調査表の中に、「軍慰安所関係」として奄埠一、計一の記述がある。
㊴—1 渡支暫定処理に関する各種統計表送付の件 「支那事変に際し邦人の渡支制限並取締関係暫定処理要綱渡支邦人暫定処理に関する統計報告」第三巻	一六・一一・七	在海口総領事代理	同右	昭和一六年一〇月中の入国者職業別調査表の中に、「飲食店、軍慰安所業」として計四の記述がある。

㊴―2　同右（「外国渡航者数表関係一件　渡支邦人暫定処理に関する統計報告（昭和一六・一二―一七・一二）」）	一六・一二・一〇	同右	同右	昭和一六年一一月分入国者職業別調査表の中に、「慰安所」として海口二、計二の記述が、「芸妓娼妓酌婦その他」として海口八、三亜三、計一一の記述がある。
㊵本邦人職業別表送付の件（「在外本邦人職業別人口表一件」）	一三・一二・三	在漢口総領事	同右	昭和一三年一一月末の在留邦人職業別統計表の中に、「旅館、料理、芸妓、慰安所」の分類で、漢口に本業者として男一九、同家族及使用人として男一九、女八、武昌に本業者として男三二、家族及び使用人として男三三、女一六の記述が、「芸妓、酌婦、娼妓、その他」の分類で、漢口に本業者として女一五〇、武昌に本業者として女二四五の記述がある。

㊶在支邦人職業別人口統計表提出の件（「在外本邦人職業別人口表一」第二巻）	一四・九・二七	在厦門総領事	同右	昭和一三年一〇月一日現在の在留邦人職業別統計表の中に、「海軍慰安所」の分類で、厦門に本業者として女四、「慰安所従業婦」の分類で本業者として女一三の記述がある。
㊷九江在留邦人職業別人口統計表提出の件（「在外本邦人職業別人口表一」第一巻）	一三・一一・八	在南京総領事	同右	昭和一三年一一月一日現在の在留邦人職業別統計表の中に、「特殊慰安所」の分類で、内地人が戸数一五、男大人四二、女大人二六、女小人一の計六九、朝鮮人が戸数九、男大人二六、男小人一、女大人八、女小人二の計三七の記述が、「同就業の特殊婦女」の分類で、内地人が女大人一〇七、朝鮮人が女大人一四三の記述がある。
㊸―1在留民職業別人口統計表進達の件（「在外本邦人職業別人口表一」件」第一五巻）	一四・二・二〇	在九江領事代理	同右	昭和一四年二月一日現在の在留民職業別人口統計表の中に、「特殊慰安所」の分類で、内地人三一、朝鮮人二〇、計五一の記述、「同就業特殊婦人」の分類で、内地人五四、朝鮮人六七、計一二一の記述がある。

㊸—2 九江在留民職業別人口報告の件 〔同右〕	一四・三・六	同右	同右	昭和一四年三月一日現在の在留民職業別人口統計表の中に、「特殊慰安所」の分類で、内地人三七、朝鮮人三〇、計六七の記述、「同就業特殊婦人」の分類で、内地人七六、朝鮮人一一三、計一九九の記述がある。
㊸—3 九江在留民職業別人口統計表進達の件 〔同右〕	一四・四・一五	同右	同右	昭和一四年四月一日現在の在留民職業人口統計表の中に、「特殊慰安所」の分類で、内地人五一、朝鮮人三五、計八六の記述、「同就業婦人」の分類で、内地人九三、朝鮮人九五、計一八八の記述がある。
㊸—4 同右 〔同右〕	一四・五・四	同右	同右	昭和一四年五月一日現在の在留民職業別人口統計表の中に、「慰安所」の分類で、内地人六六、朝鮮人三九、計一〇五の記述、「特殊婦人」の分類で内地人一二五、朝鮮人一〇四、計二二九の記述がある。
㊸—5 在留民職業別人口統計表進達の件 〔同右〕	一四・六・一	同右	同右	昭和一四年六月一日現在の在留民職業別人口統計表の中に、「慰安所」の分類で、内地人六六、朝鮮人二六、計九二の記述、「特殊婦人」の分類で、内地人一二五、朝鮮人九九、台湾人一、合計二二五の記述がある。

㊸—6　同右 〔同右〕	一四・八・七	同右	同右	昭和一四年八月一日現在の在留民職業別統計表の中に、「慰安所」の分類で、内地人が戸数八、男大人二七、男小人二、女大人一〇の計三九、朝鮮人が戸数五、男大人一五、女大人六の計二一の記述が、「特殊婦人」の分類で、内地人が女大人九〇、朝鮮人が女大人六八の記述がある。
㊸—7在留邦人職業別人口統計表進達の件 〔同右〕	一四・九・九	同右	同右	昭和一四年九月一日現在の在留邦人職業別人口統計表の中に、「慰安所」の分類で、内地人二八、朝鮮人一八、計四六の記述、「特殊婦人」の分類で、内地人九八、朝鮮人五〇、台湾人一、合計一四九の記述がある。
㊹—1南昌在留邦人職業別人口統計報告の件 〔同右〕	一四・八・九	同右	同右	昭和一四年八月一日現在の南昌在留民職業別統計表の中に、「特殊慰安所」の分類で、内地人が戸数三、男大人五、女大人三の計八、朝鮮人が戸数八、男大人一九、女大人九、女小人一の計二九の記述が、「同就業婦人」の分類で、内地人が女大人八、朝鮮人が女大人九四の記述がある。
㊹—2南昌居留民職業別人口統計表 〔同右〕	一四・九・一	在九江日本領事館警察署南昌分署	不明	昭和一四年九月一日現在の南昌居留民職業別人口統計表の中に、「特殊慰安所」の分類で、内地人八、朝鮮人五〇、計五八の記述、「同就業特殊婦人」の分類で、内地人一一、朝鮮人一〇〇、合計一一一の記述がある。

㊺—1在留邦人人口統計職業別報告の件（同右）	一四・四・四	在無湖副領事	同右	昭和一四年四月一日現在の無湖在留邦人人口及職業別人口統計表の中に、「慰安所」の分類で、内地人六二、朝鮮人三一、計九三の記述がある。
㊺—2　同右（同右）	一四・六・二	同右	同右	昭和一四年六月一日現在の無湖在留邦人人口及職業別人口統計表の中に、「慰安所」の分類で、内地人六三、朝鮮人二四、計八七の記述がある。
㊺—3　同右（同右）	一四・七・四	同右	同右	昭和一四年七月一日現在の無湖在留邦人人口及職業別人口統計表の中に、「慰安所」の分類で、内地人五九、朝鮮人一八、計七七の記述がある。
㊺—4　同右（同右）	一四・八・二	同右	同右	昭和一四年八月一日現在の無湖在留邦人人口及職業別人口統計表の中に、「慰安所」の分類で、内地人四三、朝鮮人三三、計七六の記述がある。
㊺—5　同右（同右）	一四・九・三	同右	同右	昭和一四年九月一日現在の無湖在留邦人人口及職業別人口統計表の中に、「慰安所」の分類で、内地人四四、朝鮮人三三、計七七の記述がある。
㊻杭州在留邦人営業種別並びに投資額一覧表送付の件（同右）	一四・二・二四	在杭州領事代理	外務大臣	昭和一四年二月現在の杭州在留邦人営業種別並びに投資額一覧表の中の個人の部に、「慰安所業」を営む者三軒に関する記述がある。

第二巻

防衛庁関係公表資料（上）

文書件名 ［簿冊の表題］	発行時期 （昭和）	発信者	宛先	記述の概要
①軍慰安所従業婦等の募集に関する件 （「支受大日記密（昭和一三年）」）	一三・三・四	陸軍省副官	北支那方面軍及び中支派遣軍参謀長	支那事変地に於ける慰安所の従業婦等の募集に任ずる者の人選を適切にし、軍の威信保持上並びに社会問題上遺漏なき様配慮されたいとの通牒。
②戦時服務提要	一三・五・二五	教育総監部本部長	初級将校	性病に関しては、積極的予防法を講ずるは勿論、慰安所の衛生施設を完備すると共に軍所定以外の売笑婦、土民等との接触は厳に根絶することを要すと指示している。

③—1軍人軍隊の対住民行為に関する注意の件（「歩兵第九旅団陣中日誌（昭和一三・七）」）	一三・六・二七	北支那方面軍参謀長	隷下部隊	同右	軍占領地域内の日本軍人の住民に対する不法行為（強姦事件）により、反日感情を醸成していると言われることから、軍人個人の行為を厳重に取り締まると共に、なるべく速やかに性的慰安の設備を整えることが緊要であると注意している。
③—2軍人軍隊の対住民行為に関する注意の件（「歩兵第四一連隊陣中日誌（昭和一三・七）」）	同右	同右	同右	同右	
④慰安所の状況（「陸支密大日記」三一号（昭和一四年）」）	一四・四	波集団司令部	陸軍省		所管警備隊長及び憲兵隊の監督の下、慰安所を開業せしめた。近来各種慰安設備（食堂、カフェー、料理屋他）の増加と共に軍慰安所は衰微の徴あり。慰安所の従業婦女数は約千名でそのうち約八五〇名を軍が統制し、一五〇名は各部隊が郷土から呼んだ者である。 また、慰安所の配当及衛生状態概況の中で、罹病率として、軍直部隊二八%、久納兵団一%、濱本兵団一〇%、兵站部隊四%、佛山支隊二%の記述がある。

⑤支那事変の経験より観たる軍紀振作対策	一五・九・一九	陸軍省副官	関係陸軍部隊	支那事変地では、特に環境を整理し、慰安施設に関して周到なる考慮を払い、殺伐な感情及び劣情を緩和抑制することに留意を要すること、及び、慰安施設は士気の振興、軍紀の維持、犯罪及び性病の予防等に対する影響が大きいため、慰安の諸施設に留意する必要がある等。
⑥戦場生活に於ける特異現象と其対策	一四・六	早尾唐雄		戦場における特異事項として、細菌戦、毒瓦斯、戦争恐怖と陣中逃亡、防諜とスパイ、戦争と妄想幻覚など人間心理についての研究論文。 慰安婦・慰安所関係記事は、「性欲と強姦」の項で、皇軍威厳を傷つける強姦を防ぐ目的で中支に兵站機関が慰安所を開設したこと等につき記述がある。
⑦支那事変に於ける軍紀風紀の見地より観察せる性病に就て（無形戦力軍紀）（関係資料第五号）	一五・一〇	大本営陸軍部研究班		蘇州陸軍病院の提示した性病患者についての統計資料を編集した附表がある。 性病感染者の「相手女国籍別」（日本、朝鮮、支那等）の統計がある。

⑧昭和一四年八月第二旬衛生旬報（「昭和一五年陸支密大日記第一号二／三」）	一四・八	南支派遣軍軍医部		花柳病予防の徹底のため軍慰安所以外の接客業者の取締が通牒されたとして、その通牒全文、さらに市内接客業者健康診断実施に関する件通牒などを収録している。
⑨呂集団特務部月報（「陸支密大日記第三号三／四（昭和一六年）」）	一五・四	呂集団特務部	陸軍次官等	中国漢口全市に二〇箇所の娼区を設定、花柳界の改善を図ることとなった。妓女検徴所の修繕工事が四月上旬竣工するのを以て、近く検徴実施の予定である。楽戸（遊郭）公娼の取締暫定規定を設け、営業を許可した。
⑩政務月報（「陸支密大日記第一四号三／四省（昭和一六年）」）	一六・二	遠藤兵団政務部	波集団司令部等	澄海県における日本人慰安所数三。
⑪―1昭和一六年一一月陸軍々人軍属非行表（「陸支密大日記第六号」）	一六	中支那派遣憲兵隊司令部	陸軍大臣	慰安所での酩酊暴行、酌婦の殴打、慰安婦の依頼によるモルヒネの持出など。

⑪―2昭和一六年一一月憲兵干与邦人（含台鮮人）犯罪表〔同右〕	一六	同右	同右	軍慰安所帳場の窃盗事件。
⑪―3昭和一六年一二月陸軍々人軍属犯罪表〔「陸支密大日記」第七号〕	一六	同右	同右	慰安婦を情婦として職役に就かず、公文書を偽造した事件。
⑪―4昭和一六年一二月中陸軍々人軍属非行表〔同右〕	一六	同右	同右	慰安所での酪酊暴行事件。
⑪―5昭和一六年一二月憲兵関与邦人（含台鮮人）犯罪表〔同右〕	一六	同右	同右	軍特殊慰安所で働く慰安婦の窃盗事件。
⑫軍紀違犯者の件特別報告	一七・一	第一三師団長	同右	慰安所で酪酊して、軍人同志で傷害事件をおこしたもの。

⑬特別報告軍人変死の件報告（「陸支密大日記」第九号）	一七・三	同右	同右	慰安婦との同棲を約束した兵士が嫉妬のため慰安婦を殺し自殺した事件。
⑭軍紀違犯事件詳報（同右）	一七・三・二〇	第一一軍司令官	同右	衛生軍曹がなじみの慰安婦にモルヒネを与えた事件。
⑮軍紀違犯事項に関する件報告	一七・三・三〇	支那派遣軍総司令部	同右	慰安所内における陸軍軍曹の拳銃暴発による致死事件。
⑯—1昭和一七年一月陸軍々人軍属犯罪表（同右）	一七	中支那派遣憲兵隊司令部	同右	慰安所遊興費に窮した兵士の詐欺事件。
⑯—2昭和一七年二月陸軍々人軍属犯罪表（同右）	一七	同右	同右	慰安所で酩酊し、上官を暴行脅迫した事件。
⑯—3昭和一七年二月軍人軍属非行表	一七	同右	同右	慰安所で酩酊の暴行事件七件。
⑰逃亡に関する報告（同右）	一七・三・二七	第二二師団長	同右	帰隊時期を逸して慰安所から逃亡した事件。
⑱軍紀違犯事項報告（同右）	一七・四・八	第五八師団長	同右	慰安所で飲酒後、内務班にて実包四発を発射した兵士に関する報告。

⑲陸軍軍事警察年報（昭和一六年）〔同右〕	一七・五・三	中支那派遣憲兵隊司令部	同右	飲酒酩酊の上無断外出し、慰安婦の面前で叱責されたのに激昂して小隊長に暴行した兵士に関する報告。
⑳—1昭和一七年四月陸軍々人軍属犯罪表〔同右〕	一七	同右		慰安所で叱責された少尉に暴行した兵二人の事件。
⑳—2昭和一七年四月陸軍々人軍属非行表〔同右〕	一七	同右		慰安所での酩酊暴行事件。
㉑軍法会議判決（「陸支密大日」「記」第一〇号）	一七・五・五	北支派遣軍		娼妓の廃業に要する金銭のため収賄した陸軍主計中尉に対する軍法会議判決又。
㉒軍人変死に関する件報告（「陸支密大日」「記」第一三号）	一七	第三飛行師団司令部		慰安所閉門のため帰途中国人の家に押し入り娘を強姦したため軍法会議で一等兵に降等の判決を受けたのち、自殺した曹長に関する報告
㉓—1南方派遣渡航者に関する件（「陸亜密大日記」第二二号二／三（昭和一七年））	一七・三・一二	台湾軍司令官	陸軍大臣	南方総軍がボルネオ行き慰安土人五〇名の派遣方要求してきているので、経営者三名の渡航認可を申請する。

㉓—2同右〔同右〕	一七・三・一六	陸軍省副官	台湾軍参謀長	右記の件につき認可。
㉓—3同右〔同右〕	一七・六・一三	台湾軍参謀長	陸軍省副官	特殊慰安婦五〇名では不足、更に二〇名増加の要ありとして、引率者（経営者）が現地部隊の「呼寄認可証」を携行して帰台したので、慰安婦二〇名の増派を了承されたい。
㉔—1渡航手続に関する件〔「昭和一七年陸亜密大日記第五五号二／三」〕	一七・一一・一二	波集団参謀長	陸軍次官	邦人の南方渡航統制に関しては暫定措置要領に基き実施しているが、軍酒保要員並に慰安婦に対する正式渡航手続をどうするか指示してほしい。
㉔—2同右〔同右〕	一七・一一・一八	陸軍次官	波集団参謀長 南方軍総参謀長	軍酒保要員並慰安婦に対する渡航手続きは昭和一七年四月二三日陸亜密第一二八三号一の「ト」により処理すべきだが、慰安婦は既に南方地域に於いては飽和状況なる由である。
㉕戦時月報〔「陸亜密大日記第二四号一／三（昭和一七年）」〕	一七・四	香港占領地総督部	陸軍省	花柳病増加の傾向あり、慰安所を限定地区に集結するよう計画し、慰安所内の衛生施設を定備せしめ軍人・軍属の予防処置に万全を期している。

㉖香港の警備並に軍政実施に関する香港占領地総督第二遣支艦隊司令長官間協定覚書 （「昭和一七年陸亜密大日記第一九号二／三」）	一七・五・四	香港占領地総督第二遣支艦隊司令官		海軍司令長官から香港占領地総督への管理移管事項の中に、海軍会館（旧英京飯店）、海軍将校倶楽部（六国飯店）とともに海軍慰安所（四軒）が含められる。
㉗状況報告 （「独立攻城重砲兵第二大隊陣中日誌（昭和一二・一二・一～一三・一・三一）」）	一三・一・二〇	独立攻城重砲兵第二大隊長	旅団長（推定）	慰安設備は兵站経営、軍直部隊経営の計二ケ所、定日に幹部引率の下一隊概ね一時間利用、衛生上の検査のため、軍医をして予め立会い点検させている。
㉘独立攻城重砲第二大隊第二中隊陣中日誌 （昭和一三年一月）	一三・一・二六			第四野戦病院に関する記述に、兵站娼婦中検査に合格せる者は合格票（木札）を持せしむるに付注意すへしとの項がある。

㉙同右（昭和一三・二・一～二・二七）	一三・二・一、二四、二七			二月一日の項に娯楽所の日割決定次第示すとの記述がある。 二月二四日の項に、下士官と兵についての慰安所の使用時間の変更の記述がある。 二月二七日の項に下士官の慰安所利用時間について記述がある。
㉚同右（昭和一三・一～三・三一）	一三・三・三、一一、一四、一六			三月三日の項に慰安所規定中の必要な事項が示された。単価は支那人　一円、朝鮮人　一円五〇銭、日本人　二円とある。 三月一一日と一四日の項に、慰安所に於ける行動を慎むべしとの記述がある。 三月一六日の項に慰安所の公休日について記述がある。
㉛常州駐屯間内務規定（「独立攻城重砲兵第二大隊関係史料」）	一三・三・一六	独立攻城重砲兵第二大隊長	第二大隊	慰安所使用規定あり。慰安所の方針、各隊の利用日、利用時間及び単価、定例検徴日時の設定、慰安所利用の注意事項等を定めている。
㉜―1第一四師団衛生隊第三中隊陣中日誌第四号	一三・四・一〇			「支那妓女の検徴の成績を見るに殆ど有毒なるにより支那妓楼に出入りせざること。」

㉜—2同右　第八号	一三・一一			芸娼妓玉代指定（兵二円、下士官三円、准士官以上四円）、酒類販売禁止、防毒の完全実施の示達。
㉜—3同右　第一〇号	一四・一			支那人接客婦は有毒者が多いので、支那人料理店へ入らぬよう注意せよ。
㉜—4同右　第一四号	一四・五			支那人密淫売者城内各所に点在するが、大部分は猛烈なる性病患者のため立入は絶対禁止。
㉜—5同右　第一六号	一四・七			衛生部は爾今接客婦衛生検査を別紙担当区分表（欠）により実施すべし。
㉜—6同右　第一七号	一四・八			接客婦の治療担当者として軍医中尉一及び兵一を指名。
㉝第三兵站部向井支部陣中日誌（昭和一三・五・九～一三・一〇・三一）	一三・七・一			碭山宣撫班から慰安所設置に関し申し入れがあったので、警備隊長と図り許可した。
㉞第二軍状況概要（昭和一三・一二・一〇）	一三・一二・一〇	第二軍司令部（中支武漢地区）		警備第一主義のため、外出は引率外出、慰安所出入以外の外出を認めず。慰安所は一一月二五日に開設し、切符制度により混雑を防止し、皇軍の面目を維持することに努めつつあるとの記述。

㉟―1独立山砲兵第三連隊陣中日誌（昭和一四・一・一―四・三〇）	一四・一・七、四・二三	独立山砲兵第三連隊長		一月七日の項に慰安所監督将校を差し出すべし、との記述がある。 四月二三日の項に慰安業務に関する規定配布、連隊の慰安所利用日は毎週月曜日とするとの記述がある。
㉟―2同右（昭和一四・六・一〇～六・三〇）	一四・六・七、三			六月七日の指示の中に現在の特殊慰安所は慰安婦が少なく情欲を満たすにすぎず、今少し慰安婦を増やし精神的慰安をもたらすよう指導せられたしとの記述がある。 また六月三〇日の項に日支事変記念日ゆえ当日の慰安所利用は成るべく遠慮するを可とすとの記述がある。
㊱第一〇八師団第四野戦病院業務詳報（昭和一二、一三、一四年）	一四・六・一二	北警備隊長		花柳病予防のため毎週一回接客業婦の検徴実施、不合格者は入院させ憲兵に監督させたとの記述がある。
㊲森川部隊特種慰安業務に関する規定（「独立山砲兵第三連隊陣中日誌」）	一四・一一・一四	森川部隊長		森川部隊警備地域内特殊慰安業務に関して営業時間、利用時間等を規定したもの。 附表として、「森川部隊特殊慰安業務委員」、附図として、慰安所及び食堂の地図を掲載。（慰安所の数は四）

㊳幹部に対する衛生教育順序（歩兵第二二四連隊本部医務室「昭和一四～一七年度衛生関係参考書類綴」一／三）	一五・一一	北支那派遣甲集団軍医部		軍人に対する性病予防対策等（飲食後の性交禁止、検徴証明書の確認、性交前の洗浄、「サック」の使用等）を指導。 「性病患者相手女国籍別調査表」には調査人員五四一八名のうち、朝鮮人を相手にした者二四五五名（四五・三一％）とある。
㊴第一病院支那事変第八回功績概見表（特設艦船部隊「支那事変功績概見表綴」）	一五・一二・一〇	第一病院長	海軍省功績調査部	慰安婦健康診断　四月～一一月延べ一九九五人 慰安婦入院治療　四月～一一月延べ五五人
㊵―1歩兵第一一連隊第一大隊砲小隊陣中日誌（昭和一六・一・一～五・三一）	一六・一・一六、五・三、六・二〇			一月一六日の精神訓話要旨中に「慰安所通い」の記述がある。 五月三日の項に「江北岸ニ目下慰安所開設中ナルモ別命アル迄立入リ禁ズ」との記述がある。 六月二〇日の項に「前慰安所跡ニ軍人倶楽部ヲ開設スルニ付利用セラレタシ」との記述がある。

㊵—2同右 第五号 （昭和一七・三・一～三・三一）	一七・三・二〇、二七			三月二〇日の項に、大隊砲小隊の慰安所使用配当日は毎週金曜日とするとの記述がある。 三月二七日の項に、大隊砲小隊三七名が慰安所等に至り、全員異常なく帰隊したとの記述がある。
㊵—3同右 第六号 （昭和一七・四・一～四・三〇）	一七・四・五			四月三日は神武天皇祭であったが、勤務者六名が慰安所等に外出し、異常なく帰隊したとの記述がある。
㊶独立山砲兵第三連隊陣中日誌 （昭和一六・四・一～四・三〇）	一六・四・九	高森部隊		部隊の特殊慰安業務規定の改正が命令された。 利用時間の変更及び利用料金を改正している。
㊷歩兵第一一連隊第七中隊陣中日誌 第五号第六号 （昭和一七・三・一～三一）	一七・三・二三、四・三			三月二三日の項に、兵站指定慰安所以外の私娼家屋への立入りを厳禁するとの命令。 四月三日の項に、本日より慰安所が開設したため、午後一般に休養せしむとの記述がある。

㊸野戦高射砲第四五大隊第一中隊陣中日誌（昭和一七年）	一七・四・三、五・一四			明日より慰安場を開設せらるるとの通知がある。場所は南兵営歩兵第四七連隊東側で、価格は将校一時間二円等。慰安公娼総計目下四〇名。 五月一四日の項に、五月一四日一五日両日南慰安所は閉鎖さるるに付立入らざる様せられたし、南北両慰安所の有毒婦を上野駅南地区に収容せられたるに付き絶対に立入らざる様せられたしとの記述ある。
㊹―1父島要塞司令部参謀部陣中日誌（昭和一七・一～一二）	一七・四・一一、一四、一六			四月一一日に東部軍参謀部より、準備完了した慰安婦を何日頃出発させて可なりやとの問合わせ電報。 父島要塞側は、設備完了次第報告する、五月中旬の予定と返電。 四月一四日、父島要塞側は、業者用建物完成は五月末日の予定、業者の世帯数、総人数を家族と慰安婦に区分して承知したいとの電報。 四月一六日、東部軍参謀部は、特殊飲食店は一五名宛二軒の予定と返電。

㊹—2同右 （昭和一七・五・一〇 ～三一）	一七・五・九、 一二			五月九日、東部軍参謀部は洲崎から二六名、吉原から一五名の女子を業者が準備し、一五日頃輸送予定であるが、人員数差支えないかと問合わせ電報。 五月一二日には、女子を洲崎と吉原から各一〇名、付属人員一〇名とともに計三〇名を一五日輸送した、到着後の処置、爾後の娯楽場（慰安所）に関して、業者を貴部で指導されたいとの電報。
㊺歩兵第一一連隊第三中隊陣中日誌 （昭和一七・四・一 ～四・三一）	一七・四・二四			切符を購入せず慰安する者あり、そういうことのないように注意を喚起し、各隊の巡察将校は違反者を発見した場合、速やかに報告せよとの指示あり。

第三巻

防衛庁関係公表資料（下）

文書件名【簿冊の表題】	発行時期（昭和）	発信者	宛先	記述の概要
㊽大東亜戦争関係将兵の性病処置に関する件「亜密大日記二」四号（昭和一七年）」	一七・六	陸軍省副官		派遣部隊に於ける性病予防に就いては厳正適切なる指導により感染の機会を避けるとともに、出動地に於ける慰安所等の衛生管理に関し遺漏なきを期すること。

㊾—1昭和一七年九月副官会同席上意見、質疑及回答（「陸支密大日記」三九号（昭和一七年））	一七・一〇・三	支那派遣軍総司令部	陸軍省副官	支那派遣軍の隷下部隊等の副官による会同の意見を纏めたもの。 現在軍の交付中の衛生サックの交付を各慰安所経営者に払い下げてほしいとの意見あり。その理由は、従来は各業者が市販品を購入し無料で交付していたが、市販品は払底し入手困難になったこと。 軍の規定で交付するよりも業者が交付するほうが有効なること。 各人に交付しても持参する者がほとんどないこと、各人に交付すると慰安所以外に立入り事故発生の誘因となる恐れがあること。 慰安施設の少ない上海地区に増設を考慮することを要望。 上海地区の慰安施設の中心特殊慰安所一六ケ所、酌婦数一四〇名の記述がある。
㊾—2同右（追加）（「陸支密大日記」第三九号（昭和一七年））	一七・一〇・三	同右	同右	

㊿軍政規定集第三号「軍政部内処諸規定部内関係書類綴（昭和一八・六～一九・六）」	一八・一一・一一	馬来軍政監部		・慰安所施設及び旅館営業取締規定（馬来監達第二八号） 慰安施設の区分、位置及び地方担当事項について規定。 ・慰安施設及び旅館営業遵守規則（馬来監達第二九号） 地方長官の認可事項、健康診断等受診、収支計算書の提出、別冊で稼業婦の雇入れ等について規定。
㊿軍政規定集第三号「軍政部内処諸規定部内関係書類綴（昭和一八・六～一九・六）」	一八・一一・一一	馬来軍政監部		慰安婦の性病検査表二九件
㊿軍政規定集第三号「軍政部内処諸規定部内関係書類綴（昭和一八・六～一九・六）」	一八・一一・一一	馬来軍政監部		五月一三日の項に、兵站宿泊所において休養中の朝鮮人慰安婦を無断で連れ出す者がいるとの注意を受けたとの記述がある。 五月一六日から日本慰安婦が営業を開始するとして、南慰安所一三名、第二将校倶楽部一〇名であることが指摘されている。
㊿軍政規定集第三号「軍政部内処諸規定部内関係書類綴（昭和一八・六～一九・六）」	一八・一一・一一	馬来軍政監部		慰安婦の性病検査表二九件

㊸独立自動車第四二大隊第一中隊陣中日誌（第八号）（昭和一七・五・一〜六・三〇）	一七・五・一四			「最近軍人軍属ニシテ慰安所等ヘノ往復ニ自動車ヲ使用スルモノ多シ」との記述あり。
㊹独立自動車第三九大隊第四中隊陣中日誌（昭和一七・三〜七）	一七・五・二九、三〇			五月二七日の項に将校慰安所に下士官兵が出入りしているとの記述あり。 五月三〇日の項に、花柳病予防規定が挙げられており、中に慰安婦との接し方等の記述あり。
㊺慰安所に関する規定（「独立守備歩兵第三五大隊陣中日誌（昭和一七・四・一〜六・三〇）」）	一七・六・六、一一	独立守備歩兵第三五大隊		慰安所営業時間、金額、各隊の利用日が記され、衛生施設に関しては見習い士官が担当することが指示されている。 六月二日の項に慰安所設置について、時間、金額、所在地が記されている。

㊻情況報告 （「独立守備歩兵第三五大隊第一中隊陣中日誌（昭和一七・四・一～一七・三〇）」）	一七・六・一六	ブツアン警備隊		比人女性三名で慰安所を開設し、将来女性の増員を計画中であると述べられている。
㊼部隊軍紀風紀粛正に対する服務計画提出の件報告 （イロイロ派遣憲兵隊警務書類綴（昭和一七年））	一七・六・二五	イロイロ派遣憲兵隊長	第一野戦憲兵隊長	寄港、駐留部隊の軍紀風紀の取締りのため「慰安所」の視察を行うとの記事あり。
㊽独立自動車第四二大隊第一中隊陣中日誌第十号（昭和一七年）	一七・七・六			七月四日付の会報で、風紀の粛清と防諜のため、軍において設置した特殊慰安所以外での特殊慰安を禁止した。

㊾戦時月報「独立守備歩兵第三五大隊陣中日誌（昭和一七・八・一～八・三一）」	一七・七・三一		カガヤン市に慰安婦四名あり。全員健康で、特に厳重な監督指導をしているとの記述あり。
㊿軍人倶楽部規定「マスバテ島警備隊日命綴（昭和一七年）」	一七・八・一六	マスバテ島警備隊長	軍人倶楽部（慰安所）の各部隊使用日、使用時間、料金、遵守事項等を規定している。
(61)独立自動車第三九大隊第四中隊陣中日誌（昭和一七・二・一～八・三一）	一七・八・一八、二四		八月一八日の頃に、一六日より慰安所が開業された、「慰安婦（朝鮮人）七名」との記述あり。 八月二四日の頃に、慰安施設に関し、設備、料金、慰安所・慰安婦の数等の事項について意見提出を求める記述あり。
(62)独立自動車第四二大隊第一中隊行動詳報第十号（昭和一七年）	一七・八・二四		慰安所における軍人の不法行為（物の破損等）に対して本人に注意するとともに、業者に弁償させよと指示している。 また、将校慰安所真砂においては、従業婦の監督不行き届きにより、二日間営業停止。同日の利用を禁止するとの通知があった。

㊸第二五軍情報記録 （「第二五軍情報」記録　富集団司令部第六八号（昭和一七・七）」）	一七・八・二五	富集団司令部		在住邦人の教育程度が表示され、無学一六七名、慰安婦一九四名を最高とするは注意を要すとの記述があった。
㊹独立自動車第三九大隊第四中隊陣中日誌（昭和一七・九・一～九・三〇）	一七・九・八			振天慰安所内「ペチヤ」上に印鑑が遺棄されていた…との記述あり。
㊺歩兵第一一連隊第一大隊砲小隊陣中日記（昭和一七年）	一七・九・八	小隊長	所属隊員	「マラッカ」軍人倶楽部（倫敦慰安所）の閉業に関する通知。
㊻独立守備歩兵第三五大隊陣中日誌（昭和一七年）	一七・一〇・五	独立守備歩兵第三五大隊	隷下部隊	吉江部隊の慰安所使用日割表。
㊼慰安所規定 （「イロイロ派遣憲兵隊雑書綴（昭和一七年）」）	一七・一一・二二	軍政監部ビサヤ支部イロイロ出張所	イロイロ憲兵分隊	慰安所規定（慰安所の監督指導は軍政監部が管掌すること、警備隊医官は衛生に関する監督指導を担任すること、利用者、経営者等の厳守事項等）。

㊽兵站勤務に関する規定の件達（「タクロバン憲兵分隊発来翰綴」）	一七・一一・一七	第一四軍司令官	隷下部隊	慰安所の取締りについては規定を定め、慰安所の料金の公定に関しては軍の認可を要するとの記事あり。
㊾サック支給の連絡（「カトバロガン分隊あて」〔同右〕）	一七・一一・二一、一二・一二	不明	カトバロガン分隊	本部より分遣隊に「サック」を送り将校以下全員に分配させる指示。
㊿パナイ島接客業組合骨子（「イロイロ派遣憲兵隊雑書綴」（昭和一七年））	一七・一二	パナイ島接客業組合		パナイ島接客業組合規約案（利用者の範囲、事業の種類、主任の名等）。
(71)情報旬報（「独立守備歩兵第三五大隊陣中日誌（昭和一八・一・一～二・二八）」）	一七・一二	独立守備歩兵第三五大隊		性病の予防に関しては、厳に注意を払い、身体検査等のほか、検査の徹底、慰安所監視に努め、月間性病患者なし。

⑫在淮陰芸娼妓検徴成績表 （「第一七師団歩兵第五四連隊（月七三八五）資料（昭和一八年）」）	一八・一・二九 一八・四	歩兵第五四連隊		在淮陰芸娼妓検徴成績表（梅毒検査結果状況表）楼名、日本人芸名、年齢、検査結果等（一二名）を表で記述。
⑬衛生業務要報 （「師団衛生業務要報綴」）	一八・一、二	第一五師団軍医部		南京、蕪湖などの地の特殊慰安婦の検診状況を三つの時点で内地人、半島人、中国人に分けて示している。 「引率外出ニテ慰安所等ニ至リ遊興セシムル等ハ適当ナラス」との記述あり。
⑭独立自動車第四二大隊第一中隊行動詳報（昭和一八・一・一～二・二八）	一八・一・一三			
⑮独立守備歩兵第三五大隊陣中日誌（昭和一八・一～二）	一八・二・一四			下士官及び兵用の第三慰安所を二月一四日から開業。 一四日以降、慰安所料金（三〇分）は、下士官二円、兵一円五〇銭と定める。 フィリピン島人慰安所の料金に関しては従前通りとす。

⑯防犯資料 「防犯資料　第三六師団司令部（昭和一八年）」	一八・三、一八・四	第三六師団司令部		現地日本軍人（五名）が朝鮮妓楼で花柳病にかかり軍務を怠ったため、懲罰軽営倉、重営倉三日に処す。
⑰―1軍慰安並娯楽設備状況に関する件照会 「第一四軍憲兵隊軍事警察月報（昭和一八年）」	一八・八・二	バギオ憲兵分隊長	セブ憲兵分隊長	当地兵団から照会あり、貴管内の下記状況を至急調査し回答されたい。「慰安所：町名、数、慰安婦数、料金時間」
⑰―2軍慰安並娯楽設備状況調査の件「通牒」 〔同右〕	一八・八・一〇	セブ憲兵分隊長	タクロバン憲兵分隊長	バギオ分隊より照会あり直接回答されたし
⑰―3軍慰安所並娯楽状況調査の件（回答） 〔同右〕	一八・八・一四	タクロバン憲兵分隊長	セブ憲兵分隊長	右記に対するタクロバン憲兵分隊長からの回答。（町名、慰安所数、慰安婦数、料金時間、参考事項）

㊽慰安婦一の金銭紛失ニ関する件報告 （「雑書綴」（昭和一七年））	一八・八・三		タクロバン憲兵分隊長	タクロバン慰安所のフィリピン人慰安婦が金銭を軍人に盗まれた事件に関する報告。
㊾巡察計画表	一八・一〇・一四	タクロバン憲兵分隊	隷下部隊	憲兵の巡察計画表の立寄先として「慰安所」が記載されている。
㊿雪第三五二五部隊日々命令（「歩兵第二二四連隊資料綴（昭和一八年）」）	一八・一一・七	第三五二五部隊長（在山西省）	三五二五隊員	外出時の行動についての指示（兵は引率外出とし、慰安所以外に於いて解散を禁止する）。
(81)一林第三六二九部隊日日命令（「野戦高射砲第五一大隊本部陣中日誌」二七号（昭和一八・一二・一～一二・三一））	一八・一二・一一、二一、二五			巡察命令勤務の着眼項目として、「慰安所等ニ於ケル下士官兵ノ行動態度」があげられている。

㉛—2同右（同右）二八号（昭和一九・一・一〜一・三〇）	一九・一・一、三、六			巡察命令勤務の着眼項目として、「慰安所食堂等ニ於ケル行動」があげられている。
㉜外出及軍人倶楽部に関する規定（「諸規定綴　遠山隊（昭和一九年）」）	一九	直兵団遠山隊	所属隊員	軍人倶楽部の料金、営業主の慰安婦の営業に関する日報、月報の様式等を規定している。
㉝陸軍軍人軍属非行表（一〇月、一一月）（「バヨンボン憲兵分隊警務関係起案綴」）	一九・一〇、一一	バヨンボン憲兵分隊		一〇月の表に、飲酒酩酊の上慰安所に登楼、暴行した兵の事件の記述あり。 一一月の表に、無断外出し慰安所に出入中に性病に感染し、注射液を盗ませた兵の事件の記述あり。
㉞タクロバン憲兵分隊作命綴	一九・一・一〇 一九・三・一七	垣第六五五〇部隊参謀長 独立混成第三三旅団長	第四野戦病院長	「レイテ」島警備地区巡視「経路要図」に慰安所の記載あり。 タクバロン宿営地における慰安所等の衛生に関する指導監督に第四野戦病院長を任ずる命令。

㊽軍政月報（馬来軍政監部）	一九・二・二九	馬来軍政監部		軍専用特殊慰安所料理店倶楽部用一ケ月分として、衛生サック七五、〇〇〇個を各州市向けに慰安婦数に応じて配給したとの記述あり。
㊾サンタクルース患者療養所「サンタクルース患者療養所第一六師団第二野戦病院」	一九・五・一四	第一六師団野戦病院陸軍軍医中尉		当地において花柳病患者が減少せず罹患率が高いため、慰安婦の検査を厳密にすべし。
㊾―1要塞建築勤務第六中隊陣中日誌二／七（昭和一九・五・一～五・三一）	一九・五・二四～三一	要塞建築勤務第六中隊		五月二五日より伊江島で新たに慰安所建築作業を開始する予定。 五月二六日伊江島で慰安所建築に五二名が従事。 五月二七日慰安所建築敷地の整備に八七名が従事。 五月三一日伊江島で慰安所建築を五三名が統行。
㊾―2同右三／七（昭和一九・六・一～六・三〇）	一九・六・四、五			六月四日第五〇飛行場大隊長より建築中隊長は伊江島に所要の人員をもつてなるべく速やに仮慰安所の設備を実施すべしとの命令。 六月五日中尉は仮慰安所設備作業を実施した。

㊽オルモック派遣隊現状報告（「警備関係綴　第三一警備隊オルモック派遣隊（昭和一九年）」）	一九・五・二七	オルモック派遣隊長	第三一警備隊先任将校	陸軍関係の慰安所はなく、オルモックに「売笑婦」一四、五名存在するが、全員有毒患者にて陸軍において立ち入りを禁止した。
㊾軍人倶楽部利用規定（「諸規定綴　中山隊（昭和一九年）」）	一九・五	中山警備隊（在広東）		軍人倶楽部の利用規定（第一倶楽部は食堂、第二倶楽部は慰安所）。部隊副官が軍人倶楽部の業務を監督すること、部隊附医官は軍人倶楽部の衛生に関する業務を担任すること、部隊附主計官は軍人倶楽部の経理に関する業務を担任すること、第二倶楽部における利用時間、利用単価等。
㊿第三魚雷艇隊戦時日誌（昭和一九年七月）	一九・七・二〇	第三魚雷艇隊		釧路市内において、海軍指定食堂及び遊郭のうち衛生状態が良好の六軒を兵員の慰安所に指定した。
(91)―1石兵団会報第五四号（「第六二師団会報綴（独立速射砲第二二大隊受領）」）	一九・九・一四	第六二師団司令部（在沖縄）	各部隊	慰安所の価格を兵、下士官、将校、佐官別に決定し、切符制とすることを指示している。

⑨1―2石兵団会報第五六号〔同右〕	一九・九・一七	同右	同右	九月二〇日に営業を開始する後方施設として「軍人会館」等三か所が指摘されている。各部隊が慰安所を開設する際の報告事項を示す(1)後方施設担当委員名　(2)営業開始日　(3)経営場所　(4)経営者氏名　(5)妓女数　(6)経営内規等)。
⑨1―3石兵団会報第五七号〔同右〕	一九・九・一九	同右	同右	石兵団会報第五六号の軍人会館の営業開始日を九月二〇日から二五日へ変更。
⑨1―4石兵団会報第五八号〔同右〕	一九・九・二一	同右	同右	「後方施設」の監督事項　(1)営業者の納税準備　(2)検徴時の「思いやり」事項　(3)経営者と妓女の利益配分の適正化　(4)対学童・村民風紀対策　(5)自動車及びたばこ便宜提供)。
⑨1―5石兵団会報第六二号〔同右〕	一九・九・二八	同右	同右	「後方施設」の監督事項　(1)サックの適切支給　(2)灯火材料の配給要領　(3)経営者と妓女の関係　(4)飲酒登楼者のある部隊の使用禁止　(5)利用時間厳守と切符提示の励行)。
⑨1―6石兵団会報第六四号〔同右〕	一九・一〇・二	同右	同右	「サック」を後方施設担任部隊に一括交付し、直接慰安所に備え付けることにつき連絡。

⑨1―7石兵団会報第七四号〔同右〕	一九・一〇・一九	同右	同右	「後方施設」の監督事項(1)兵団会報第六二号の注意再喚起 (2)経営者と妓女の利益配分比率)。
⑨1―8石兵団会報第七九号〔同右〕	一九・一〇・二六	同右	同右	「後方施設」の監督事項(1)切符記載事項の故意訂正 (2)切符複数持参者 (3)時間外利用者 (4)泥酔登楼者)。
⑨1―9石兵団会報第八四号〔同右〕	一九・一一・一二	同右	同右	空襲避難者で慰安婦として、第三二軍と契約した者の報告様式。
⑨1―10石兵団会報第九〇号〔同右〕	一九・一二・四	同右	同右	慰安所利用要領の改訂(1)料金 (2)使用時間その他)。
⑨1―11石兵団会報第一〇一号〔同右〕	一九・一二・二八	同右	同右	飲酒による慰安所での犯罪の防止等、慰安所での注意事項。
⑨2沖縄真志喜警備中隊陣中日誌(第六二師団独立歩兵第一三大隊第三中隊)	一九・一一・七～一二・一六			慰安所設置のため一名派遣。

㉝独立混成第一五連隊連隊砲中隊陣中日誌（昭和一九・一〇）	一九・一〇・四		
㉞独立混成第一五連隊第二機関銃中隊陣中日誌（昭和一九・一一・一～一九・一一・三〇）	一九・一一・四		
㉟―1独立混成第一五連隊第一大隊本部陣中日誌第六号（昭和一九・一一・一～一九・一一・三〇）	一九・一一・七、一五、一七、二六		本部町（沖縄）渡久地に新設の軍慰安所の呼称を渡久地軍慰安所とし、その使用に関しては、「北地区駐屯地軍慰安所使用規定」を厳に履行すべしとある。 「慰安所規定配布同時ニ開設」との記述あり。 一一月七日の項に「大隊副官慰安婦招致ノ件ニ就キ今帰仁方面出張　一三三〇」との記述あり。 「慰安所施設作業」が行われているとの記述につづいて二六日の項には「慰安所設備完了ス」との記述がある。

㉕—2独立混成第一五連隊本部陣中日誌（昭和一九・一二）	一九・一二・二八、三一			桑江慰安所使用の件。 慰安所使用規定を配布。
㉕—3独立歩兵第一五連隊本部陣中日誌（昭和一九・一二・一～二〇・一・三〇）	二〇・一・八、一三			「後方施設ニ関スル内規」として慰安所利用規定（慰安券の様式、慰安所の利用時間等）を定めている。蛭子隊、前田隊においては、「後方施設ハ宮里ニ設備シアルモノヲ利用スルモノトス」との記述がある。
㉖独立混成第一五連隊第八中隊陣中日誌（昭和一九・一一・一～一九・一一・三〇）	一九・一一・九			「休日ノ際ニ於ケル外出時刻ハ…下士官ノ慰安所ノ使用ハ一六〇〇以降トス、軍寮及慰安所ハ毎日（金曜日ヲ除ク）〇九三〇—一八〇〇迄開設セシム」との記述がある。
㉗独立混成第一五連隊第三中隊陣中日誌第六号（昭和一九・一一・一～一九・一一・三〇）	一九・一一・二四			外出に関する命令に外出目的として「軍慰安所及軍寮使用セシム」との記述がある。

㊽要塞建築勤務第六中隊北飛行場五六飛大隊派遣隊重信班陣中日誌 （「要塞建築勤務第六中隊陣中日誌六／七（昭和一九・一二・一～一二・三一）」）	一九・一二・二四～三一	北飛行場五六飛大隊派遣隊重信班長（沖縄、読谷）		軍人倶楽部改築作業に従事。一二月三一日第四二七部隊等軍人倶楽部の内部改築は完了。「軍人倶楽部内部改築設計略図」の添付あり。
㊾駐屯地会報に於ける示達事項 （「独立混成第一五連隊陣中日誌（昭和二〇・一）」）	二〇・一・一三	南地区駐屯地司令官	駐屯地所在部隊	慰安所使用時間の厳守。
㊿第二大隊命令 （「沖縄、国頭支隊関係部隊作命綴（昭和二〇・一・二〇～二〇・四・八）」）	二〇・一・一四	国頭支隊第二歩兵隊第二大隊本部	所属隊員	国頭支隊の慰安施設増強に各隊隷下の人員を差し出す旨の命令。増強作業は一月一六日から約一〇日間の予定。

⑩① 独立重砲兵第百大隊 平山隊作命綴 （昭和一九・七・二七 ～二〇・四・八）	二〇・一・一四、 二・一〇	平山大尉 （中隊長）		国頭支隊の慰安施設増強に隷下の人員を差し出すための命令。 二月一〇日の作戦命令別紙地図中に「眞部山軍慰安所」の位置が記載されている。
⑩② 第六二師団副官部陣中日誌 （昭和二〇・一～二）	二〇・一・一五			一月一五日移駐準備として兵五名で首里慰安所設備作業を実施。
⑩③ 独立混成第四四旅団 第二歩兵隊第二大隊 機関銃中隊日命会報 録	二〇・一・一五	第二歩兵隊 第二大隊機 関銃中隊長	所属隊員	国頭支隊より兵寮設置使役兵として人員を差し出す。
⑩④ 輜重兵第四九連隊第 一中隊陣中日誌 （昭和二〇・二・一 ～二・二八）	二〇・二・一			「今般「キャウタン」慰安所ヲ開設セラレタルニ付此ノ際特ニ軍人ノ軍人タル分ヲ銘記シ」…との記述がある。

⑩⑤独立第二九大隊本部陣中日誌（昭和二〇・二・一七～二〇・二・二八）	二〇・二・二四			「慰安所ニ於テ暴行ニ及ブ者アリ厳ニ注意スベシ」との記述がある。
⑩⑥海軍慰安所利用内規（「スチュワード」（砲台現況報告」）	二〇・三・一八	第一二特別根拠地隊司令部	所属隊員等	慰安所の利用について、現地海軍部隊（第一二特別根拠地隊司令部）が定めたもの。「海軍慰安所の区分、利用方法、料金」等の記述がある。
⑩⑦性病予防に関する件通知（「スチュワード」（砲台現況報告」）	二〇・三・二九	第一二特別根拠地隊軍医長	所属隊員	「近く慰安所開設セラルルニ就イテ」軍医長が策定した性病発生の予防に関する通知、「慰安所、慰安券等」の記述がある。（別紙として「性病について」を添付）
⑩⑧歩兵第一〇六連隊連隊砲中隊陣中日誌（昭和二〇・二・一～二・二八）	二〇・二・二三			「慰安所付近ニ開設シアル現地人売店ニハ一切立寄ラザルヨウ指導ノコト」との記述がある。

⑩⑨金辺憲兵隊日誌（昭和二〇・九・四～一〇・四）	二〇・九・七	金辺憲兵隊	荘兵団副官部	陸軍輸送関係機関	「下士官ニテ私服ニテ翌朝迄慰安所ニテ遊興セル者多数アル」との記述がある。
⑪⑩復員並居留民船舶輸送情報第七号「船舶輸送情報綴（昭和二〇年）」	二〇・九・二九	陸軍省交通部	陸軍輸送関係機関	朝鮮人輸送計画（朝鮮人五千名、一〇月七日、岡山県玉野市発、三池経由釜山へ帰国。朝鮮人三千五百名、一〇月一〇日、北海道室蘭発、釜山へ帰国）。	
⑪⑪第四八師団戦史資料並終戦状況「第四八師団終戦処理状況報告」（昭和二一年）	二一・七・五	第四八師団長	復員庁総裁	朝鮮人の使役状況（朝鮮人は慰安業関係者約五〇名程度）。	

第四巻

一、国立公文書館・大英帝国戦争博物館所蔵資料

［内閣・内務省関係］

文書件名［簿冊の表題］	発行時期（昭和）	発信者	宛先	記述の概要
①渡支邦人暫定処理に関する件［「昭和一六年満支外	一六・八・一六	内務省警保局長	各庁府県長官	昭和一五年五月七日の閣議決定「渡支邦人暫定処理に関する件」およびそれに基く新制定の「取扱要領」を通達する。例外的に渡支を認める者の

地渡航取締例規」）			中に、婦女雇入のため一時帰国した在接客業者が雇入員数を明記した在支領事館警察署発給の証明書を所持する場合、その員数の被傭婦女が含まれている。
②行政事務の整理簡捷化及中央官庁の権限の地方委譲等に関する件（昭和一八年一二月一四日）	一八・一二・一四	閣議決定	首題の件に関し関係各庁及地方行政協議会長より夫々意見の提出があったうち、◎印のものは至急実施することが適当と認められるので各庁は速やかに実施の措置をとることと決定する。 厚生省関係事項のうち、◎印のあるものの中に、軍慰安所に於ける酌婦女給の雇入就職の認可についての厚生大臣への稟伺（労務調整令に依るもの）はこれを廃止し地方長官限りにて為さしむるものとすとある。
③第二次許可認可等行政事務簡捷化に関する件	一九・一・六	閣議決定	首題の件に関し関係各庁より夫々実施を可とする回答のあった事項は速やかに実施の措置をとることと決定する。厚生省関係事項のうちに、 一、慰安所的必要に依り酌婦女給を雇入れの場合は県内に限り稟議を要せずとするとある。

④朝鮮総督府部内臨時職員設置制中改正の件	一九・七・一二	閣議決定	朝鮮における行政事務の進展に伴い職員の増員を行う決定の中、国民徴用事務、経済統制警察事務の増員が含まれている。国民徴用事務の増員に関連して、動員労務者数および労務強化対策の説明があり、女子遊休労力の活用方針について記述がある。経済統制警察事務の増員の説明の中に「半島に於ける民衆は民度低き為に戦時下に於ける労務の重要性に対する認識なお浅く勤労報国隊の出勤をも甚しく徴用なりと為し一般労務募集に対しても忌避逃亡し或は不正暴行の挙に出ずるものあるのみならず未婚女子の徴用は必至にして中にはこれらを慰安婦となすが如き荒唐無稽なる流言巷間に伝わり此等悪質なる流言と相俟て労務事情は今後益々困難に赴くものと予想される」との記述がある。

〔軍関係〕

文書件名［簿冊の表題］	発行時期（昭和）	発信者	宛先	記述の概要
①恤兵金の処分に関する件	七・七・一九	閣議決定		満州事変中に受理した恤兵金の使用一覧表（其の五）（自昭和七年五月一二日至六月三〇日迄に於ける支出調の中に、「慰安施設の為現金にて直送したるもの」という記述がある。
②―(1)衛生業務旬報	八・三・二一～三一	混成第一四旅団司令部		部隊内では花柳病患者が司令部の兵の中に一名出た。
②―(2)　同右	八・四・一一～二〇	同右		平泉に内鮮人娼妓三八名が来て開業することにつき一六日に検徴を実施し、将来毎週一回実施することとした。 花柳病予防については芸娼妓には健康診断票を所持させて客の求めにより提示させるよう指示し、これを兵員に周知させた。その他星秘膏「サック」の利用を厳選する他、外出者は帰宅後必ず陰部を昇汞水で洗浄させるよう指示した。

	②—(3) 同右	八・四・二一～三〇	同右
	②—(4) 同右	八・五・一～一〇	同右

第一回検徴成績は次の通り

病名別	検査人員	有毒者人員	痲病	梅毒	その他
日本人芸妓	一	・	・	・	・
同 酌婦	二	・	・	・	一
朝鮮人芸妓	二	・	・	・	一
同 酌婦	三三	四	二	二	一五
計	三八	四			一七

三〇日平泉における内鮮人芸娼妓全員を警察署に集め署長立会いの上で花柳病予防及びその防疫上に関し、衛生講話をし、続いて各妓楼を署長及憲兵と共に巡視し衛生並花柳病予防施設に関して指示した。

平泉に於いて二三日に実施した第二回芸娼妓検徴成績次の通り。

病名別	検査人員	有毒者人員	痲疾	梅毒	その他
内地人芸妓	二	一	一	一	一
酌婦	五	一	一	一	一
朝鮮人芸妓	三	一	一	一	一
酌婦	三四	八	四	四	五

混成第一四旅団芸娼妓酌婦健康診断実施要領（昭和八年四月二八日）を収めている。その中に、旅団の警備区内（満鉄附属地を除く）に於いて営業する芸娼妓酌婦に対する健康診断は本要領によ

	②—(5) 同右	八・七・一〜一〇	同右	

り旅団司令部附軍医正の指示する医官をして実施させるものとするとある。また本健康診断は軍隊防疫上の必要により実施するものであるが、事が苟も人権に関するものなので慎重に実施することは勿論良く憲兵又は警察官と協議し遺漏がないよう期するものとするとある。

参考として娼妓取締規則が付されている。その中に、娼妓名簿に記録されていない者は娼妓稼業をなすことはできず、娼妓名簿は娼妓所在地所轄警察署に備えるものとするとある。

支那娼妓に対して検徴を実施することができれば、支那人遊郭を解禁することを可とするとの意見がまとまり、軍部に於て検徴することについて治安維持会と交渉しその快諾を得たので、一四日厳格な検徴を実施した後一六日より駐留規定を改め立入りを許可することとした。

②—(6) 同右	八・七・一一～二〇	同右	支那娼妓の検徴は一四日実施し爾後毎週一回実施することと定めた。成績は極めて不良で、概ね三〇%以上の罹病者がある状況であるものの、諸種の関係で駐留規定により立入りを解禁することに決めた。 支那娼妓の罹病者の治療を満州国々境検疫所医員において施療を実施することで協定実施した。
②—(7) 同右	八・八・一一～二〇	同右	山海関に於ける日鮮芸人芸酌婦検徴状況並びに妓楼の花柳病予防施設等に関して視察した結果、支那人娼妓は有毒者が常に他に比べて多数を占めるにもかかわらず治療の要求に応じず、且つ予防的施設をも行わないので有毒者は逐日増加を見つつある。一面多数の移住日鮮人娼妓により需用は充分な現況に鑑み、衛生部員の過少で余力に乏しい現下、支那人娼妓の検徴は徒労なので、以後廃止するを決意し、これを具申し、関係部隊には実況を通報し、兵員の之れに接しない様特に注意を促した。尚前所部隊に於ても同地日鮮人芸酌婦は有毒者が多いので、六軒中四軒に立寄禁止を命じた。

③満州事変陸軍衛生史（第四巻）（昭和一〇年八月一日）		陸軍省		混成第一四旅団制定の「衛生委員会規程」の中に、芸娼妓の検徴を励行すると共に私娼の取締を厳にすることとある。
④北支那竝満州国視察報告「満受大日記」（一一冊の内其（五））	九・三	工兵第四大隊中隊長	陸軍大臣	慰安法を講ずることは最も緊要である。重大使命を果して帰営してもこれに対する物質的慰安はなく待つのは廃屋のような古兵営だけでは軍心は弛み易く荒れ易くなる。 志気振興上最も重大なる時と信じるので諸施設を完備し、指揮官は部下を把握することで軍心を倦ましめないよう努力すべきである。
⑤飛行第一二連隊長に与ふる注意事項「満受大日記」（一一冊の内其（九））	一〇・七・一七	関東軍司令部	飛行第一二連隊長	衛生一般の成績は可であるが、花柳病の発生が少なくないことに鑑みこれらの防遏に一段の努力を払い実績の向上を図ることを要する。

⑥陸軍軍事警察月報〔同右〕	二〇・八・四	北支那派遣軍憲兵隊司令部	なし	仁第一四〇二部隊現役衛生准尉が犬を連れて軍慰安所に至り、慰安婦と口論中その犬が慰安婦及家族二、華人二に咬み付き咬傷を与えたのに何等これに対する防御策を講せず放任したことが記録されている。 駕第三九一五部隊予備役軍曹は陣地構築に服務中無断外出の上特殊慰安所に到り登楼翌朝まで遊興したが、此の間酌婦の態度不良であると憤慨し、その酌婦の腕時計を窃取帰隊したことが記録されている。
⑦駐屯地慰安所規定	一八・五・二六	「マンダレー」駐屯地司令部		全四章、全二三条の規定。第二条に、「慰安所ハ日本軍人軍属ニ於テ使用スルヲ本則」とするも、支障を与えない限度でマンダレー在住の日本人にも利用を許可（二四：三〇以降）するとある。料金は軍票によること、設備の営繕は軍が実施することとある。使用時間及び料金表、慰安所売上高報告書の見本、注意事項が添布されている。
⑧第五野戦輸送司令部駐屯地業務規定	一八・一〇・三	第五野戦輸送司令部	駐屯地諸部隊一般	第三九条に「慰安所の設置ならびに其の使用日割…に関しては必要の都度司令官之を定む」との記述がある。

⑨「マンダレー」駐屯地業務規定	一八・一〇・二〇	同右	「マンダレー」駐屯地諸部隊一般	第二〇条に、慰安所については「駐屯地慰安所規定（昭和一八年五月二六日「マンダレー」駐屯地司令部）」に拠るべしとの記述がある。別紙駐屯地地図に慰安所の記載がある。
⑩「マンダレー」駐屯地勤務規定	二〇・一・二	同右	同右	第三九条(8)に、慰安所を利用する者は「駐屯地慰安所規定」を遵守し不徳義の言動により名誉を汚してはならない」との記述がある。

二、厚生省関係公表資料

文書件名（簿冊の表題）	発行時期（昭和）	発信者	宛先	記述の概要
①日本派遣南方軍最高司令官宛連合国指令書第一号（「日本国軍と連合国軍総司令部との往復文書」）	二〇・九・七	仏領印度支那占領連合国軍司令官	日本派遣南方軍最高司令官	遊女屋並びに慰安隊を日本軍とともに撤退させ、性病患者と判明した婦人は国籍の如何にかかわらず一定の病院に収容し、適正警備と収容者の適正治療を行え、との記述がある。
②沖縄本島の状況（「部隊復員関係」「資料」）	二一・一・九	歩兵第二二連隊附軍医大尉		沖縄本島の終戦後における「邦人の状況」の中で、収容所に「朝鮮人の慰安婦、内地婦人が地方人とともに収容されていた」との記述がある。
③南部セレベス売淫施設（慰安所）調書	二一・六・二〇	セレベス民政部第二復員班長	復員庁第二復員局長	民政部において許可した施設に使用されていた婦女は二二三名、施設設置の許可は民政部長官が行う。 婦女の募集並びに雇用契約は主として民政部嘱託（帰還）及び実業団員（帰還）が行い、各地方

				施設に配置した。婦女の配置後の維持経営は一般邦人並びに現地民が当たり、各地方施設に対する婦女の保護、収入支出、休養、給与等の適正監督、風紀粛正等の取締指導等に関しては各県の監理官が行った。 この他、売淫婦の生活方法、給養、報酬、民族、種族（別人員数）等に関する記述がある。
④法務部（GHQ）少佐からの記録要求の件（「日本国軍と連合国軍総司令部との往復文書」）	二二・一・九	終戦連絡事務局連絡官	同上事務官	父親が海南島で、本人もジャバで慰安所を経営していたという日本人等についての記録を要求。
⑤「俘虜名票」に関する調査結果概要	平成五・一〇・八	厚生省社会・援護局		「俘虜名票」の職業（Occupation）欄の一部に「Comfort Girl」等の記述がある。

第五巻

米国国立公文書館・国立国会図書館所蔵資料

I、連合軍翻訳通訳部局（ATIS）関係文書

文書件名	日付	対象地	内容	記述の概要
①尋問調書（Interrogation Report）No. 24	一九四二・一二・三一	ラバウル	日本人捕虜の供述	ラバウルで、日本人と朝鮮人双方の慰安婦を見たことがある。
②尋問調書No. 25	一九四三・一・一〇	ラバウル	日本人捕虜の供述	ラバウルには、二つの慰安所があり、朝鮮人と日本人を合わせて約一〇〇人くらいの女性がいた。
③尋問調書No. 27	一九四三・一・二八	ラバウル	日本人捕虜の供述	ラバウルには、日本人女性と朝鮮人女性のいる慰安所があった。

④尋問調書No.28	一九四三・一・三	マニラ	日本人捕虜の供述	慰安所の女性は検診を受けているので、軍人で罹病する者はそう多くない。慰安所は軍に管理されており、主要都市には大抵ある。自分はマニラの慰安所へ行った。朝鮮人、フィリピン人、中国人の女性一〇名がいる慰安所が五、六軒あった。
	○			
⑤尋問調書No.30	一九四三・二・二	ベラーワン（インドネシア・スマトラ島）	日本人捕虜の供述	ベラーワン（Belawan）には陸軍公認の慰安所が一軒あり、現地女性二名と六名の中国人女性が働いていた。性病に対しては厳重な予防策がとられていた。
⑥尋問調書No.31	一九四三・二・一	ダヴァオ	日本人捕虜の供述	慰安所は軍の内部に設置された。ダヴァオの慰安所には、朝鮮人、台湾人及び現地人の慰安婦がいた。
⑦尋問調書No.34	一九四三・二・二三	上海	日本人捕虜の供述	上海においては、朝鮮人慰安婦のいる軍公認の慰安所があった。近くミンダナオに一軒慰安所が設置されるという噂を耳にしたことがある。
⑧尋問調書No.37	一九四三・二・二三		日本人捕虜の供述	部隊が大挙して駐屯していた場所には、陸軍と海軍の双方によって直ちに慰安所が設けられた。通常、朝鮮人と中国人の女性が雇われたが、時折現地女性も加えられた。営業利益は当該軍隊（Services）に入った。

⑨尋問調書No.46	一九四三・四・一	マニラ、ダヴァオ	日本人捕虜の供述	マニラとダヴァオに慰安所があり、朝鮮人女性がいた。これらの慰安所は陸軍によって公認されていたが、営業利益は経営者に入っていたと思う。
⑩尋問調書No.48	一九四三・四・七		日本人捕虜の供述	慰安所は陸軍内に設置され、そこにいた女性のほとんどは日本人と朝鮮人であった。
⑪尋問調書No.50	一九四三・四・九	ラバウル	日本人捕虜の供述	ラバウルの慰安所は軍隊の管理下にあり、日本人女性が働いていた。
⑫尋問調書No.52	一九四三・四・一三	仏領インドシナ中国、ラバウル	日本人捕虜の供述	慰安所は陸軍により仏領インドシナ（日本人女性）、中国（日本人女性及び中国人女性）、ラバウル（女性の国籍は不明）に設置されていた。
⑬尋問調書No.53	一九四三・四・一三		日本人捕虜の供述	陸軍は中国人、朝鮮人、台湾人及び日本人女性のいる慰安所を設置していた。現地人女性はいなかった。
⑭尋問調書No.57	一九四三・四・一七	ラバウル	日本人捕虜の供述	ラバウルには約二〇の慰安所があり、五つはココポ地域にあり、他は町の中にあった。全員日本人女性であった。これらの慰安所は主として将校によって利用され、兵卒はめったに入れなかった。値段は将校五円、兵卒一円であった。
⑮尋問調書No.60	一九四三・四・一七	ラバウル	日本人捕虜の証言	陸戦の作戦地域における慰安所は、陸軍が開設し管理した。ラバウルの慰安所で雇用されていた慰安婦の詳細については自分は知らない。

⑯尋問調書No.63	一九四三・四・一	ラバウル	日本人捕虜の供述	ラバウルには慰安所があると聞いており、陸上勤務部隊の指揮下民間人が経営にあたっているのだと思う。慰安婦は日本人女性である。
九				
⑰尋問調書No.67	一九四三・四・三	ラバウル	捕虜（中国人軍属）の供述	ラバウルでは、中国人は慰安所への出入りを禁止されていた。慰安所は軍によって維持されており、慰安婦は朝鮮人であった。
〇				
⑱尋問調書No.78	一九四三・五・一	ラバウル	日本人捕虜の供述	ラバウルには二〇歳から二五歳の日本人女性がいる海軍慰安所があり、これらの女性は皆、日本から来た商売女であったと聞いている。
五				
⑲尋問調書No.94	一九四三・六・一		日本人捕虜（軍医）の供述	軍が慰安所を経営したということは断じてなく、民間人が経営していたのを監督していた程度にすぎない。このような監督は戦争開始とともにはじまり、敵対行為が終了すると即座に中止されるとの取り決めがあった。
五				
⑳尋問調書No.104	一九四三・六・二		日本人捕虜の供述	陸軍によって複数の慰安所が設けられたが、兵隊二千人に女性一人の割合だったので、将校だけしか利用できなかった。
七				
㉑尋問調書No.573	一九四五・一・二	マニラ	日本人捕虜の供述	マニラの慰安所のうち幾つかは陸軍の管轄下にあった。そこでは値段は二～三円であり、慰安婦は日本人及び朝鮮人であった。民間人が経営しているところでは女性はフィリピン人で値段は一〇～二〇円だった。
三				

㉒捕虜尋問調書（Prisoner of War Interrogation Report）	一九四三		日本人捕虜の証言	ラバウルには三つの慰安所があった。慰安所を営業するためには軍の許可を得なければならない。慰安所建物は軍が経営者に貸し出す形になる。慰安婦（中国人、朝鮮人、インドネシア人）の年齢は約二〇歳から約二五歳までである。彼女たちは政府によってラバウルに送りこまれたのではなく、占領前から当地に来ていたと思われる。慰安婦は毎週軍医によって検査を受けていた。 慰安所の利用料金は、平均およそ二円五〇銭くらいである。料金は約一時間の滞在、茶菓、浴室の使用、性病予防措置を含んだものである。避妊具（サック）の着用が義務づけられていたが、軍に備え付けのものはなかった。ビール、酒類、食べ物は慰安所内で途方もない高額で売られている。 現地人女性との性的接触は軍法により禁じられていた。
㉓時報（Bulletin） No. 1483	一九四四・一〇・五	ダリャオ（フィリピン）	日本人将校の日記（一九四二・六・九付）	南シナを出発して以来初めて、我々は着物を着てパラソルを持った日本人女性を見た。我々にとってこれに勝る歓びがあるだろうか。彼女らは陸軍の慰安婦として、我々より一足早くこの地に上陸していたのである。

ラバウル

ラバウルの海軍慰安所に関する注意事項

ラバウルの海軍慰安所に関する注意事項

I 海軍慰安所（特殊倉庫）は次のとおり

a 東らしゅん荘、たけいし隊、北らしゅん荘

b 第一ときわ荘、第二ときわ荘、第三ときわ荘

II 営業時間

たけいし隊と第二ときわ荘は八時より一八時まで（但し 判任官級の軍人は翌朝六時までの宿泊可）

III 料金

	三〇分		一時間		二時より翌朝六時までの宿泊	
	日本人	朝鮮人	日本人	朝鮮人	日本人	朝鮮人
たけいし隊、第二ときわ荘 下士官、軍人	二・五	二・〇	三・〇	二・五	一〇・〇	一〇・〇
たけいし隊、第二ときわ荘 水兵	二・〇	一・五	二・五	二・〇	…	…

IV 特殊倉庫の中では飲酒は禁止する

V 利用希望者は窓口で切符を買い、それを女性の持つ「B」券と交換すること

VI 女性はコンドームを使用しない者との行為を拒否できる

VII 男性は各自コンドームを持参しなければならない

VIII 特殊倉庫に入る際、下士官と水兵は制服を着

	㉕調査報告書 (Research Report) No. 120 (2)	一九四五・二・一 六		
	㉖調査報告書 No. 120 (1)	一九四五・一一・ 一五		
用すること IX　女性によって上記規則のいずれかの違反がなされた場合は、営業する権利を失う	連合軍内部で作成した報告書		連合軍内部で作成した調査報告書	日本軍における娯楽 II—九、慰安所 a　ビルマ 捕虜四名の証言 b　スマトラ 捕虜一名の証言 c　南西太平洋地域 捕虜四名の証言と捕虜一名の日記の抜粋
				日本軍における娯楽 II—九　慰安所 a　規則 (1)　マニラ (a)　軍発行の「マニラにおける軍公認の食堂及び慰安所に関する規則」(一九四三・二)の抜粋 五、軍公認の食堂または慰安所を経営しようとする者は下記の文書をマニラ軍当局に提出しなければならない。経営者は営業経験のある日本人に限る。

a　開業許可申請書：三部
b　営業計画書：三部
c　宣誓供述書：三部
d　履歴書：三部

六、開業を許可された者は営業に必要な雇員一覧表（三部）、各雇員の履歴書（一部）、慰安婦（芸者、酌婦）申請書（三部）をマニラ軍当局に提出すること。右手続きが完了し、営業地の視察並びに雇員の身体検査が終了して初めて開業が許可される。

七、雇員の変更を希望する場合は軍当局の許可を得ること。従って、離任を希望する慰安婦は申請書を提出しなければならない。慰安婦の配置換えを希望する際も申請書を提出しなければならない。

八、慰安婦の増員を希望する経営者は軍当局に通知すること。身体検査の日時を追って通知する。身体検査終了後、診断書、履歴書、身分証明書を軍当局に通知すること。許可前に慰安所内に立ち入ることを禁ずる。

九、軍公認の食堂または慰安所として使用される建物は軍当局の認可を受けなければならない。規則を遵守できない経営者は強制退去させる。

建物の修繕が必要な場合には必ず事前に届け出ること。

一〇、慰安婦は、原則として契約期間の終了後も再雇用してよい（但し右は少なくとも一年以上海外にいた者には適用しない）。雇用の継続を希望する者は軍当局に申請し許可を得ること。

二、軍当局は、原則として未成年者を芸者もしくは酌婦として雇用することを禁ずる。但し一定の条件により未成年者をメイドとして雇用することを許可する場合がある。未成年者の雇用には軍当局の許可を必要とする。

三、営業時間は午前〇時まで（食堂については午後一一時まで）とする。

(b)　マニラ陸軍航空隊貯蔵所の軍命令草案・会報集（一九四四・八・一四～一九四四・一〇・一四）の抜粋

(2)　南部地域。南部司令部（おそらく上海地域）発行の軍慰安所関係の諸規則

(a)　南部軍兵舎特別慰安所に関する規則

(b)　南部軍特別慰安所経営規定

(3)　タクロバン

「タクロバン慰安所規定」から抜粋

(4)　ブラウエン（タクロバン司令部管内）

「慰安所規定」（一九四四・八）から抜粋

(5) ラバウル

「ラバウルにおける海軍慰安所に関する注意事項」（一五対空防衛部隊所有）から抜粋

b ビルマ

(1) 一九四四年八月一〇日に妻及び二〇名の慰安婦とともに捕虜となった民間人慰安所経営者の証言

・ソウルで食堂を営んでいたが、経営に行き詰まり、慰安婦をビルマに連れていく許可を軍に申請した。

一名当たり三〇〇円から一〇〇〇円を家族に払い、一九歳から三一歳までの二二名の朝鮮人女性を買った。朝鮮軍司令部は輸送、配給等について便宜を図ってくれるよう全ての軍司令部に対し要請する旨の書簡を出してくれた。七〇三人の朝鮮人女性、九〇人の日本人の集団で一九四二年七月一〇日、釜山から出航し八月二〇日、ラングーンに到着した。ラングーンで二〇～三〇名のグループに分けられ、ビルマ各地に配置された。

・ミッチーナーでは自分のを入れて全部で三つの慰安所があり、六三名の慰安婦がいた。三か所

にはそれぞれ二二人の朝鮮人女性、二〇人の朝鮮人女性、二一人の中国人女性（広東で買われた）がいた。

・慰安婦は売上げの半分を受領し、交通費、食費、医療費は無料という条件で雇用されていた。家族への前渡金及び利息を弁済すれば、無料で朝鮮に送り返され自由になると考えられていた。しかし、戦況の影響で自分の慰安所にいた慰安婦は誰も帰国を許されなかった。一九四三年六月に第一五軍司令部は弁済を終えた慰安婦を帰国させる手配をしたが、条件を満たして帰国を希望していた一人の慰安婦は説得されて引き続き現地に留まった。

・自分の慰安所では、慰安婦の平均収入は月当たり三〇〇円～一五〇〇円であったが、規則で最低月一五〇円は経営者に収める事になっていた。

・慰安所は第一一四歩兵連隊の監督下にあり、通常二名の兵士が利用者の監視のため派遣されてきていた。憲兵も一名慰安所を警備していた。一日の慰安所の利用者数は、兵士・下士官が八〇～九〇名、士官が一〇～一五名であった。慰安所内では酒類は自由に販売されていたが、泥酔者が出ないよう憲兵が監視していた。

・一九四四年七月三一日の夜中に、六三名の慰安婦及び経営者がミッチーナーからの避難を開始した。一〇隻の小船でイラワジ川を渡った。二〇名の中国人慰安婦はジャングルに残され、中国軍の手に委ねられた。八月一〇日に捕らえられたが、六三名中四名は途中で死亡し、二名は日本軍兵士と誤認されて射殺された。

(2)〜(5) ビルマ地域各部隊の日本兵捕虜の証言

・個々の師団には五〜六の慰安所があり、日本人及び朝鮮人の慰安婦がいた。

c スマトラ

捕虜（一九四二年一一月一一日にパパキ橋の近くで捕らえられた）の証言

・ベラワンに軍の慰安所があり、現地人女性二名と中国人女性六名がいた。

d 南西太平洋地域

捕虜（六名）の証言及び日記

・ラバウルには二つの慰安所があり、朝鮮人及び日本人の慰安婦が合計で約一〇〇名いた。

・軍が慰安所を提供していたが、兵士二〇〇〇人に対し一人の女性しかいなかった。

II、連合軍東南アジア翻訳・尋問センター（SEATIC）関係文書

文書件名	日付	対象地	内容	記述の概要
①SEATIC資料No.116	一九四五・三・三 一	ビルマ	日本人捕虜の供述調書	マンダレー～ミッチーナー鉄道沿線においては、鉄道に沿った日本軍駐屯地のほとんど全てに慰安所があり、通常朝鮮人と中国人の慰安婦がいた。
②SEATIC資料No.131	一九四五・四・二 八	ビルマ	日本人捕虜の供述調書	メイミョには何人かの慰安婦がいたが、自分は彼女たちに会う機会はなかった。慰安所の利用料金は三円五〇銭ないしは五円だった。
③SEATIC資料No.182	一九四五・七・六	マレイシア	マレイシアにおける現地人の供述	日本軍人が、若い娘を得ようとして中国人の家に押し入っていくところを見たことがある。 クアラ・ルンプールでは、友人の中国人が自宅から退去させられ、その住宅は軍人のための食堂に改造された。有益な目的のために使われるのならまだしも、食堂や慰安所に（自分たちの家が）改造されるのはたまらない、と多くの中国人が言っている。

④SEATIC資料No.186	一九四五・七・一二	ビルマ	日本人捕虜の供述	ミッチーナーには五軒の売春宿があったが、自分は行ったことがないので、慰安婦のことについては何も知らない。
⑤SEATIC資料No.197	一九四五・七・二六	タイ	日本人捕虜二名の尋問に基づくバンポンの日本軍駐屯地の地図	地図中に慰安所（Comfort House）の記載がある。

III、米国戦争情報局（United States Office of War Information）関係資料

文書件名	日付	対象地	内容	記述の概要
①心理戦作戦班日本人捕虜尋問報告(Japanese Prisoner of War Interrogation Report) 四九号	一九四四・一〇・一	ビルマ ミッチーナー	二〇名の朝鮮人慰安婦及び慰安所経営者二名への尋問結果を基に作成した報告書	序文：慰安婦（comfort girls）とは日本軍に特有の語で、軍人のために軍に所属させられた売春婦のことをいう。ここでの記述はビルマの朝鮮人従軍慰安婦に関するものである。日本軍は一九四二年にこのような朝鮮人慰安婦を七〇三人ほどビルマに向けて出航させたともいわれている。 募集：一九四二年五月、日本人の業者が朝鮮半島に赴き、東南アジアにおける「軍慰安業務」のためとして女性を募集した。高収入、家族の借金返済のための好機、軽労働等の宣伝に応じて多くの女子が勤務に応募し、二～三〇〇円の前払報酬を受領した。彼女たちの大半は無知、無学の者であった。自ら署名した契約により、前借り金の額に応じ半年から一年間の仕事に従事させられた。このような方法で約八〇〇名の女子が募集された。彼女らは一九四二年八月二〇日ころラングーンに経

営者とともに上陸した。彼女らは八～二二名からのグループに分けられ、ビルマ各地域の日本陸軍駐屯地近くの町々に送られた。最終的には四つのグループがミッチーナー周辺に配された。

慰安婦の特性：慰安婦の平均年齢は二五歳ほどであり、無学で子供っぽく、気まぐれでわがままであった。彼女らは自分の職業は嫌いだと主張し、その職業や家族について語ることを好まなかった。アメリカ兵から親切な取り扱いを受けたため、彼女らは、アメリカ兵は日本兵よりも情があると感じた。彼女らは、中国兵、インド兵を恐れていた。

生活及び労働条件：ミッチーナーにおいては、通常二階建ての大きな建物に住んでおり、一人一部屋を与えられていた。そこで彼女らは生活し、眠り、仕事をしていた。食事は経営者が用意したものであった。食事や生活用品はそれほど切り詰められていたわけではなく、彼女らは金を多く持っていたので、欲しいものを買うことが出来た。兵士からの贈り物に加えて、衣服、靴、煙草、化粧品を買うことが出来た。

ビルマにいる間、彼女らは将兵とともにスポーツをして楽しんだりピクニックや演芸会、夕食会に参加した。彼女らは蓄音機を持っており、町に

買い物にでることを許されていた。

料金：彼女らが業務を行う条件は陸軍によって規制されていた。軍は、その場所に展開している様々な部隊のために、料金、優先順位、日割りを設定することが必要であると考えていた。(階級別に利用時間、料金を表示) 将校は二〇円で宿泊が許されていた。

日割り：陸軍は門限に非常に厳しかったので、兵士が女性に会えないまま帰らなければならない場合が多かった。この問題を解決するため、陸軍は曜日毎に慰安所を利用できる部隊を割り当てた。将校は毎晩慰安所を利用することができた。兵士たちは入口で料金を払い、左側に料金が記され右側に慰安所の名前が記された二インチ四方のカードを受け取る。慰安婦は客を断る権利を与えられていた。

収入及び生活条件：慰安所経営者は、契約時の負債額に応じて、慰安婦の売上げの五〇乃至六〇パーセントを受け取っていた。多くの経営者は、食糧その他の品物に高価格を課すことによって、慰安婦の生活を困窮させていた。一九四三年後半、陸軍は、負債の弁済を終えた慰安婦は帰国して良い旨の命令を出した。これにより帰国を許された

慰安婦が数人いた。

慰安婦の健康状態は良好であった。彼女らは避妊具が充分に与えられており、兵隊たちもしばしば軍支給の避妊具を自ら持参した。日本人の軍医が週に一度慰安所を訪れ、罹病した慰安婦は治療、隔離し、入院させることもあった。

日本兵士への対応：日本の将校との関係において、尋問調書の中で言及されているのは丸山大佐及び水上少将の二名の名前のみである。この二人は極めて対照的であった。前者は厳しく利己的で、部下に対して思いやりがなく、周囲に嫌悪感を感じさせる人物であった。後者は好人物で、親切、部下に対して最大限の配慮をしていた。

兵士たちの対応：大抵の日本人兵士は、慰安所において他人に見られるのを嫌っており、満員時に列を作って順番を待たなければならないことを恥ずかしがる傾向があった。他方、結婚を申し込むケースが多くあり、現実に結婚に至ったケースもあった。

最も質が悪いのは、酔っていて、翌日前線に向けて出発する兵士であった。彼らはいくら泥酔していても軍事事項や機密を口にすることはなかった。慰安婦たちが軍事に関することを話そうとし

ても、女性らしくない話題であるとして叱った。

軍事的状況への対応：慰安婦らは軍事的状況については殆んど知らない模様である。ただし、「ミッチーナーへの最初の攻撃に際し、二〇〇名の日本人兵士が戦死し、残りの二〇〇名ほどで町を守らなければならなくなった」等の証言がある。連合軍の爆撃のため、慰安婦らは捕らえられる直前の日々はほとんど壕の中で過ごした。一～二名の慰安婦はそこでも仕事を続けた。慰安所は爆撃に遭い、何人かの慰安婦は負傷、若しくは死亡した。

退却、捕虜：彼女らの退却と捕獲の経緯は詳細不明であるが、いくつかの報告によれば恐らく次のとおり。七月三一日夜半に、三つの慰安所の慰安婦、経営者家族、手伝い人計六三名のグループが小舟でイラワジ川を渡った。彼らはワインマウ近くに着岸したらしく、そこに八月四日まで留まった。そこから兵士たちのたどった小道を辿って行ったが、八月七日に敵軍との小競り合いがあり、グループは分裂した。慰安婦らは兵隊からは三時間遅れでついて来るように指示されたが、川の岸辺で兵士の姿もなく、川を渡る手だてもなくなり、近くの民家で八月一〇日まで過ごした。そこで英

国人に率いられたカチン族兵に捕らえられた。
宣伝：慰安婦らは、反日本軍を訴える宣伝についてはほとんど見聞したことがなかった。
要望：慰安婦らは、慰安婦が捕らえられた旨を記すパンフレットを使用すると他の慰安婦の生命に係わるのでやめてくれと要望している。
〔別添〕（本報告書内の情報を得るために尋問した二〇名の朝鮮人慰安婦、二名の日本人民間人の氏名、年齢、住所の一覧表）

Ⅳ、写真資料

文書件名	日付	対象地	内容	記述の概要
①	一九四四・八・九	中国	米軍による写真	中国のSung Shanで捕らえられた朝鮮人女性を中国人将校らが尋問しているところの写真
②	一九四四・八・三	ビルマ	同右	ミッチーナーで捕らえられた日本軍慰安婦キムを米軍兵士が尋問しているところの写真
③	一九四四・八・一四	ビルマ	同右	ミッチーナー付近で捕虜となった慰安婦たちの写真
④	一九四四・八・一四	ビルマ	同右	ミッチーナー付近で捕虜となった朝鮮人慰安婦たちの写真

④ミッチーナー付近で捕虜となった朝鮮人慰安婦（一九四四・八・一四）

Reproduced at the National Archives



SC-262580

N. RB, Picture Division

HOLDER CAPTION SHEET

Unit: 4 Date: 14 Aug 44 Time: Holder:
Cameraman: Shearer Clerk: Exposure Data:
Location & Subject: WHO-WHAT-WHEN-WHERE-WHY-HO

Capt. Won Loy Ohan, San Francisco California, Tech Sgt. Robert Honda, Hawaii, and Sgt. Hiraboya Shi, of Seattle, Wash. all of G-2 Myitkyina Task Force, are pictured with and interrogating these Koreans Comfort Girls who were captured near Myitkyina.

Taken For: Capt. Ohan G-2 (three prints)

Do Not Write Here

13568

③ミッチーナー付近で捕虜となった慰安婦たち（一九四四・八・一）

Reproduced at the National Archives



SC-262579

HOLDER CAPTION SHEET

Unit 4 Date 14 Aug 44 Time Holder

Cameraman Shearer Clerk Exposure Data

Location & Subject: WHO-WHAT-WHEN-WHERE-WHY-HOW

Capt. Chan, [illegible] San Francisco Cal, 1012 Jackson St., in charge of prisoner of war at Myitkyina Burma with the captured Comfort Girls of the Japanese garrison at Myitkyina.

Prisoner - Japan in CBI

Myitkyina Burma

Taken For: Capt Chan, g-2 (wants 1 print)

CBI-44-21636

Do Not Write Here

13568

②日本軍慰安婦キムと米軍兵士（一九四四・八・三）

Reproduced at the National Archives



SC 252[illegible] 62578

Sgt. [illegible], San Francisco, Calif., Japanese interpreter, questions Kim a Japanese "Comfort Girl" at the M. P. Stockade on the Air strip, while Edward J. St. John, Franklin, Mass. stands guard in the rear. Kim served as a nurses aid in Myitkyina. Burma, India. 3 Aug 1944

Signal Corps Photo #CBI-44-21519 (Shearer)
Released by Pub Info Div 25 Aug 1948
Orig. Reg. [illegible]

Prisoners - Jap - in CBI - 1944

RELEASED FOR PUBLICATION
PUBLIC INFORMATION DIVISION
WAR DEPARTMENT, WASHINGTON

13568

①朝鮮人女性を尋問する中国人将校（一九四四・八・九）



SC 247386

Capt. Shen Kai, General Staff, 5th Army Headquarters and Sgt. Arthur L. Bexler, Centerville So. Dakota, American Liaison Team w/ 8th Army, questions Korean women captured on Sung Shan w/ Japs. China 9/8/44

Signal Corps Photo #CBI-44-60157 (Tec 5 G.L. Kamrath) from 14th Sig. Photo C. released by BAC 7/15/46

orig. neg. Lot 12541

4．米陸軍写真資料

APPENDIX "A"

Following are the names of the twenty Korean "comfort girls" and the two Japanese civilians interrogated to obtain the information used in this report. The Korean names are phoneticized.

	NAME	AGE	ADDRESS
1.	Shin [redacted]	21	Keishonando, Shinshu
2.	Kok [redacted]	28	" Senzenpo, Yunni
3.	Pon [redacted]	26	" Shinshu
4.	Chinga [redacted]	21	Keishohokudo, Teikyu
5.	Chun [redacted]	27	Keishonando, Shinshu
6.	Kim [redacted]	25	Keishohokudo, Teikyu
7.	Kim [redacted]	19	" "
8.	Kim [redacted]	25	Keishonando, Hasan
9.	Kim [redacted]	21	" Kwaboku
10.	Kim [redacted]	22	" Teikyu
11.	Kim [redacted]	26	" Shinshu
12.	Pa [redacted]	27	" "
13.	Chun [redacted]	21	" Keisen Gun, Kayomon Mura
14.	Koko [redacted]	21	" Kenyo, Sekiboku Ho, Kyu Ruri
15.	Yon [redacted]	31	Heiannando, Heijo
16.	Opu [redacted]	20	" "
17.	Kin [redacted]	20	Keikido, Keijo
18.	Ha [redacted]	21	" "
19.	Oki [redacted]	20	Keishohokudo, Teikyu
20.	Kim [redacted]	21	Zenranando, Koshu

Japanese Civilians:

1.	Kitamura, [redacted]	38	Keikido, Keijo
2.	" [redacted]	41	" "

---

remembered the leaflet about Col. Kuruyama (apparently it was Myitkyina Troop Appeal), but she did not believe it. Others heard the soldiers discussing leaflets from time to time but no tangible remarks resulted from their eavesdropping. However it is interesting to note that one officer expressed the view that "Japan can't win this war".

REQUESTS

None of the girls appeared to have heard the loudspeaker used at Myitkyina, but they did overhear the soldiers mention a "radio broadcast".

They asked that leaflets telling of the capture of the "Comfort girls" should not be used for it would endanger the lives of other girls if the Army knew of their capture. They did think it would be a good idea to utilize the fact of their capture in any droppings planned for Korea.

their retreat and capture. There is however some information worth noting:

"In the initial attack on Myitkyina and the air strip about two hundred Japanese died in battle, leaving about two hundred to defend the town. Ammunition was very low.

"Col. Maruyama dispersed his men. During the following days the enemy were shooting haphazardly everywhere. It was a waste since they didn't seem to aim at any particular thing. The Japanese soldiers on the other hand had orders to fire one shot at a time and only when they were sure of a hit."

Before the enemy attacked on the west air strip, soldiers stationed around Myitkyina were dispatched elsewhere to stem the Allied attack in the North and West. About four hundred men were left behind, largely from the 114th Regiment. Evidently Col. Maruyama did not expect the town to be attacked. Later Maj. Gen. Mizukami of the 56th Division brought in reinforcements of more than two regiments but these were unable to hold the town.

It was the concensus among the girls that Allied bombings were intense and frightening and because of them they spent most of their last days in foxholes. One or two even carried on work there. The comfort houses were bombed and several of the girls were wounded and killed.

RETREAT AND CAPTURE:

The story of the retreat and final capture of the "comfort girls" is somewhat vague and confused in their own minds. From various reports it appears that the following occurred: on the night of July 31st a party of sixty three people including the "comfort girls" of three houses (Rakushinro was merged with Kinsui), families, and helpers, started across the Irrawaddy River in small boats. They eventually landed somewhere near Wainggaw. They stayed there until August 4th, but never entered Wainggaw. From there they followed in the path of a group of soldiers until August 7th when there was a skirmish with the enemy and the party split up. The girls were ordered to follow the soldiers after a three hour interval. They did this only to find themselves on the bank of a river with no sign of the soldiers or any means of crossing. They remained in a nearby house until August 10th when they were captured by Kachin soldiers led by an English officer. They were taken to Myitkyina and then to the Ledo stockade where the interrogations which form the basis of this report took place.

PROPAGANDA:

The girls knew practically nothing of any propaganda leaflets that had been used against the Japanese. They had seen a few leaflets in the hands of the soldiers but most of them were unable to understand them as they were in Japanese and the soldiers refused to discuss them with the girls. One girl

had been supplied by the army. They were well trained in looking after both themselves and customers in the matter of hygiene. A regular Japanese Army doctor visited the houses once a week and any girl found diseased was given treatment, secluded, and eventually sent to a hospital. This same procedure was carried on within the ranks of the Army itself, but it is interesting to note that a soldier did not lose pay during the period he was confined.

REACTIONS TO JAPANESE SOLDIERS:

In their relations with the Japanese officers and men only two names of any consequence came out of interrogations. They were those of Col. Maruyama, commander of the garrison at Kyitkyina, and Maj.Gen. Mizukami, who brought in reinforcements. The two were exact opposites. The former was hard, selfish and repulsive with no consideration for his men; the latter a good, kind man and a fine soldier, with the utmost consideration for those who worked under him. The Colonel was a constant habitue of the houses while the General was never known to have visited them. With the fall of Kyitkyina, Col. Maruyama supposedly deserted while Gen. Mizukami committed suicide because he could not evacuate the men.

SOLDIERS' REACTIONS:

The average Japanese soldier is embarrassed about being seen in a "comfort house" according to one of the girls who said, "When the place is packed he is apt to be ashamed if he has to wait in line for his turn". However there were numerous instances of proposals of marriage and in certain cases marriages actually took place.

All the girls agreed that the worst officers and men who came to see them were those who were drunk and leaving for the front the following day. But all likewise agreed that even though very drunk the Japanese soldier never discussed military matters or secrets with them. Though the girls might start the conversation about some military matter the officer or enlisted man would not talk, but would in fact "scold us for discussing such un-lady like subjects. Even Col. Maruyama when drunk would never discuss such matters."

The soldiers would often express how much they enjoyed receiving magazines, letters and newspapers from home. They also mentioned the receipt of "comfort bags" filled with canned goods, magazines, soap, handkerchiefs, toothbrush, miniature doll, lipstick, and wooden clogs. The lipstick and clogs were definitely feminine and the girls couldn't understand why the people at home were sending such articles. They speculated that the sender could only have had themselves or the "native girls" in mind.

REACTION TO THE MILITARY SITUATION

It appears that they knew very little about the military situation around Myitkyina even up to and including the time of

1. Soldiers	10 AM	to	5 PM	1.60 yen	20 to 30 minutes
2. NCOs	5 PM	to	9 PM	3.00 yen	30 to 40 minutes
3. Officers	9 PM	to	12 PM	5.00 yen	30 to 40 minutes

These were average prices in Central Burma. Officers were allowed to stay overnight for twenty yen. In Myitkyina Col. Maruyama slashed the prices to almost one-half of the average price.

SCHEDULES:

The soldiers often complained about congestion in the houses. On many occasions they were not served and had to leave as the army was very strict about overstaying leave. In order to overcome this problem the Army set aside certain days for certain units. Usually two men from the unit for the day were stationed at the house to identify soldiers. A roving MP was also on hand to keep order. Following is the schedule used by the "Kyooi" house for the various units of the 18th Division while at Maymyo:

Sunday ---------- 18th Div. Hdqs. Staff
Monday ---------- Cavalry
Tuesday ---------- Engineers
Wednesday ---------- Day off and weekly physical exam.
Thursday ---------- Medics
Friday ---------- Mountain artillery
Saturday ---------- Transport

Officers were allowed to come seven nights a week. The girls complained that even with the schedule congestion was so great that they could not care for all guests, thus causing ill feeling among many of the soldiers.

Soldiers would come to the house, pay the price and get tickets of cardboard about two inches square with the price on the left side and the name of the house on the other side. Each soldier's identity or rank was then established after which he "took his turn in line". The girls were allowed the prerogative of refusing a customer. This was often done if the person were too drunk.

PAY AND LIVING CONDITIONS:

The "house master" received fifty to sixty per cent of the girls' gross earnings depending on how much of a debt each girl had incurred when she signed her contract. This meant that in an average month a girl would gross about fifteen hundred yen. She turned over seven hundred and fifty to the "master". Many "masters" made life very difficult for the girls by charging them high prices for food and other articles.

In the latter part of 1943 the Army issued orders that certain girls who had paid their debt could return home. Some of the girls were thus allowed to return to Korea.

The interrogations further show that the health of these girls was good. They were well supplied with all types of contraceptives, and often soldiers would bring their own which

Approximately 800 of these girls were recruited in this manner and they landed with their Japanese "house master" at Rangoon around August 20th, 1942. They came in groups of from eight to twenty-two. From here were distributed to various parts of Burma, usually to fair sized towns near Japanese Army camps. Eventually four of these units reached the Myitkyina vicinity. They were: Kyoei, Kinsui, Bakushinro, and Momoya. The Kyoei house was called the "Maruyama Club", but was changed when the girls reached Myitkyina as Col. Maruyama, commander of the garrison at Myitkyina, objected to the similarity to his name.

PERSONALITY:

The interrogations show the average Korean "comfort girl" to be about twenty five years old, uneducated, childish, whimsical, and selfish. She is not pretty either by Japanese or Caucasian standards. She is inclined to be egotistical and likes to talk about herself. Her attitude in front of strangers is quiet and demure, but she "knows the wiles of a woman." She claims to dislike her "profession" and would rather not talk either about it or her family. Because of the kind treatment she received as a prisoner from American soldiers at Myitkyina and Ledo, she feels that they are more emotional than Japanese soldiers. She is afraid of Chinese and Indian troops.

LIVING AND WORKING CONDITIONS:

In Myitkyina the girls were usually quartered in a large two story house (usually a school building) with a separate room for each girl. There each girl lived, slept, and transacted business. In Myitkyina their food was prepared by and purchased from the "house master" as they received no regular ration from the Japanese Army. They lived in near-luxury in Burma in comparison to other places. This was especially true of their second year in Burma. They lived well because their food and material was not heavily rationed and they had plenty of money with which to purchase desired articles. They were able to buy cloth, shoes, cigarettes, and cosmetics to supplement the many gifts given to them by soldiers who had received "comfort bags" from home.

While in Burma they amused themselves by participating in sports events with both officers and men; and attended picnics, entertainments, and social dinners. They had a phonograph, and in the towns they were allowed to go shopping.

PRICE SYSTEM:

The conditions under which they transacted business were regulated by the Army, and in congested areas regulations were strictly enforced. The Army found it necessary in congested areas to install a system of prices, priorities, and schedules for the various units operating in a particular area. According to interrogations the average system was as follows:

UNITED STATES OFFICE OF WAR INFORMATION
Psychological Warfare Team
Attached to U.S. Army Forces India-Burma Theater.
APO 689

Japanese Prisoner of War Interrogation Report No. 49.	Place interrogated:	Ledo Stockade
	Date interrogated:	Aug. 20 - Sept.10, 1944
	Date of Report:	October 1, 1944
	By:	T/3 Alex Yorichi

Prisoners:	20 Korean Comfort Girls .
Date of Capture:	August 10, 1944
Date of Arrival at Stockade:	August 15, 1944

SECRET

PREFACE:

This report is based on the information obtained from the interrogation of twenty Korean "comfort girls" and two Japanese civilians captured around the tenth of August, 1944 in the mopping up operations after the fall of Kyitkyina in Burma.

The report shows how the Japanese recruited these Korean "comfort girls", the conditions under which they lived and worked, their relations with and reaction to the Japanese soldier, and their understanding of the military situation.

A "comfort girl" is nothing more than a prostitute or "professional camp follower" attached to the Japanese Army for the benefit of the soldiers. The word "comfort girl" is peculiar to the Japanese. Other reports show the "comfort girls" have been found wherever it was necessary for the Japanese Army to fight. This report however deals only with the Korean "comfort girls" recruited by the Japanese and attached to their Army in Burma. The Japanese are reported to have shipped some 703 of these girls to Burma in 1942.

RECRUITING:

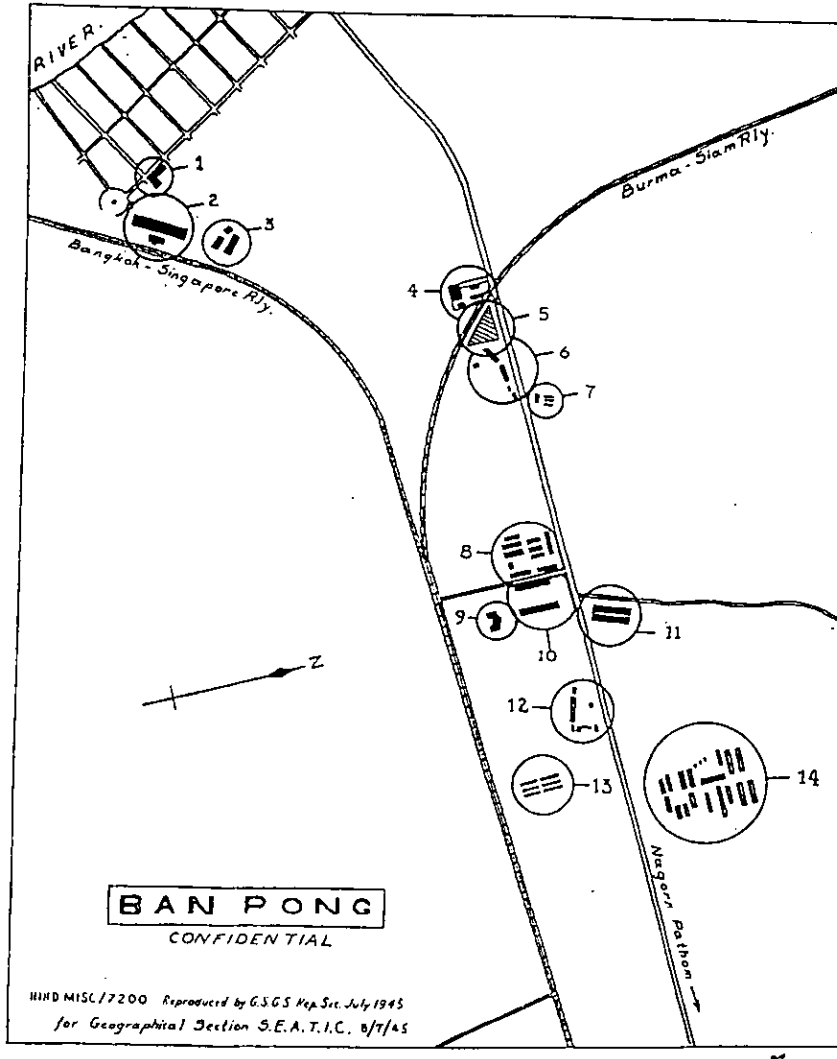
Early in May of 1942 Japanese agents arrived in Korea for the purpose of enlisting Korean girls for "comfort service" in newly conquered Japanese territories in Southeast Asia. The nature of this "service" was not specified but it was assumed to be work connected with visiting the wounded in hospitals, rolling bandages, and generally making the soldiers happy. The inducement used by these agents was plenty of money, an opportunity to pay off the family debts, easy work, and the prospect of a new life in a new land - Singapore. On the basis of these false representations many girls enlisted for overseas duty and were rewarded with an advance of a few hundred yen.

The majority of the girls were ignorant and uneducated, although a few had been connected with "oldest profession on earth" before. The contract they signed bound them to Army regulations and to work for the "house master" for a period of from six months to a year depending on the family debt for which they were advanced.

SECRET

3．米国戦争情報局(United States Office of War Information)
関 係 資 料

DECLASSIFIE ER EXECUTIVE ORDER 12356 Section 3.3 NND 826533
REPRODUCED AT THE NATIONAL ARCHIVE
By RB/gla NARA, Date 1-14-93



DECLASSIFIED PER EXECUTIVE ORDER 12356 Section 3 NND 826533
REPRODUCED AT THE NATIONAL ARCHIVE
By [illegible] NARA, Date 2-14-93

ITEM 1862. (Contd)

14. L of C Hospital of GI BUTAI (SIAM Area Army). Both sources confirm. Estimated to be able to accomodate 2000 patients and sources heard that many casualties from BURMA were brought here.

DECLASSIF: PER EXEC REPRODUCED AT THE NATIONAL ARCH 5.3 NND 826533
By [illegible] NARA, Date 1-14-93

CONFIDENTIAL

ITEM 1862

Interrogation.

BANPONG

Sources: A. PW M-1480, Sergeant of 2 Fd Hosp, 54 Div. Intelligent, cooperative, and thought to be reliable. He was in BANPONG Sep - Dec 44, attached to 2 Fd Hosp.

B. PW M-1453, private of 1 MG Coy, 55 Div. Moderately intelligent, cooperative, and thought to be reliable. He was in BANPONG L of C Barracks for a week in Jul 44.

Sources A and B pinpointed the following barracks, depots etc on air photos of the area. See accompanying sketch.

1. Gendarmerie Detachment HQ. Source A.

2. Supply Depot. Source A.

3. Supply Depot Barracks. Source A.

4. L of C Unit HQ and Barracks. Source A.

5. Allied PW Camp. Source A. (Comment: Source is not certain of the exact relative areas of 5 and 6).

   Source A stated that, during his stay in BANPONG Hospital, he saw many British and Australian PWs. The Hospital used about 20 Allied PWs every day; they included:

   1 Pharmacist
   4 Cooks
   15 General Helpers.

   The Allied PW Camp consisted of 3 barracks surrounded by a bamboo fence, about 7 feet high. Source stated that the PWs used in the hospital appeared to be fairly fit and cheerful. He had no knowledge of actual camp conditions.

6. Barracks. Source A.

7. Comfort House. Sources A and B.

8. Barracks, GI BUTAI. Sources A and B.

9. Quarantine. Source A.

10. Transit Camp. Source B.

11. Transit Camp where Source B stayed for a week. Two barracks, 150 men in each. Source A confirmed.

12. Barracks, GI BUTAI. Sources A and B.

13. Barracks. Source A.

(Contd.

DECLASSIFIED PER EXECUTIVE ORDER 12 REPRODUCED AT THE NATIONAL ARCHIVES ... NND 826533
By RB/gfa NARA, Date 1-14-93

CONFIDENTIAL

SOUTH - EAST ASIA TRANSLATION AND INTERROGATION CENTER

TOPOGRAPHICAL BULLETIN NO. 197

INDEX NO.	CONTENTS	ITEM	PAGE
4540	Railway Equipment and Operation		
	Plan of MAKASAN railway workshop at BANGKOK	1861	1
4730	Ports and Harbors		
	Map of Port BLAIR, ANDAMAN Islands, with details of facilities.	1863	4-6
6185	Military Posts and Stations		
	L of C Barracks at BANPONG, Supply Depots etc.	1862	2-3
6185 6160.06	Barracks and Military Hospital at MOULMEIN identified by PW.	1864	7
9926	Target Objectives.		
	Objectives at Port BLAIR, BANGKOK, BANPONG and MOULMEIN.	1861 1862 1863 1864	1-7

Note: Identifications given in brackets by Translater in this Bulletin, e.g. YUMI 6823 (TN: 214 Inf Regt) are taken from "Detailed Order of Battle of the Japanese Armed Forces in BURMA" prepared by GSI (a) ALFSEA. Where the identifications are marked with an asterisk, they are taken from documents or PW reports previously received by SEATIC or from 14 Army Intelligence Reports.

⑤SEATIC時報No.197

DECLASSIFIED ER EXEC REPRODUCED AT THE NATIONAL ARCHIVE
By RB/gfa NARA, Date 1-14-93 NND 826533

File

SEATIC

PUBLICATION No.197 1945 26 JULY

TOPOGRAPHICAL BULLETIN

M Kizer Maj A.C.E

G. F. BLUNDA
COLONEL, CAC, U.S. ARMY
SUPERINTENDENT

REPRODUCED AT THE NATIONAL ARCHIVES -14-93

CONFIDENTIAL

ITEM 1779 (Cont.)

g. RELATIONS WITH SUPERIORS.

PW got on very well with his superiors, and men under him. He says the men were treated very fairly and had no cause for complaint. The Gendarmes were to be feared and the less he had to do with them the better.

h. ALLIED WEAPONS.

PW was subjected only to Allied aircraft fire and bombing attacks and these he did not regard as very fearsome, especially when he lay in a trench.

i. MAIL.

PW never corresponded with his family, but he knows that letters took one month to reach JAPAN.

j. AMENITIES.

PW received only one comfort bag while he was in BURMA. At HEIKTILA there was a canteen where soap, tooth brushes, cigarettes, cakes etc. were available.

At HEIKTILA too, there were 5 houses of prostitution but he never visited them so does not know anything about the comfort girls.

k. PROPAGANDA.

The most effective propaganda according to PW is broadcast of sentimental Japanese songs, which rouses a nostalgic feeling.

/AFI

REPRODUCED AT THE NATIONAL AR[illegible]ES
[illegible] DATE [illegible]/4-93

CONFIDENTIAL

BULLETIN NO. 186 Page 25

ITEM 1779

Interrogation.

Source: Interrogation by RAF Int Wing, SEATIC, of PW Air/025, a Prob Offr (AA gunner) of 52 Airfield Bn.
Captured at KUNE Fd Hosp, 20 Mar 45.

Assessment: PW Air/025 is not very observant and is very vague as to dates and place names. Intelligence: Good. Reliability: Fair.

1. IDENTIFICATION AND EARLY HISTORY OF PW.

Rank - Probationary Officer

Unit - 52 Airfield Battalion.

Duty - AA gunner

Date and Place of birth - 1 Apr 21, at SUEHIROCHO, HAKODATE.

PW entered YACHIGASHIRA Elementary School in HAKODATE, in Apr 28, and in Apr 34, went to HAKODATE SHOGYO GAKKO (a middle school) where he stayed five years. From Apr 39, to Mar 42, he studied at the MEIJI University in TOKYO, his major subjects being world politics and economics.

Immediately after graduation, he joined the SAPPORO ZAIMUKYOKU, a bureau directly connected with the Finance Ministry. PW's job was to investigate and assess financial holdings and transactions of all companies in HAKODATE City. This bureau had no connection with the tax office. PW stayed here up to the time of his call up, 10 Apr 43.

2. CHRONOLOGY.

10 Apr 43 Called up and posted to N-79

1 Oct 43 Posted to 1 Air Training Unit

29 Apr 44 Embarked from MOJI

May 44 Arrived MANILA

[illegible] May 44 Arrived SINGAPORE

Jun 44 Left SINGAPORE by train for BANPONG

Jul 44 Left BANPONG by train for RANGOON

13 Aug 44 Arrived MEIKTILA, joined 52 Airfield Bn

Beg Feb 45 Went to MYITNGE

Beg Mar 45 Established AA site just South of KYAUKSE

(cont.)

CONFIDENTIAL

REPRODUCED AT THE NATIONAL AR[illegible] 14-93

HAKENTAI (detachment). They were distinct from Airfield Battalions.

i. GUNZOKU: There were no Jap civilians attached to PW's unit.

j. KEMPEI (Gendarmerie): There were no gendarmes attached to the unit, nor living on or near the airfields at HLEGU. There were, however, 2 gendarmes billeted in HLEGU village. These always wore plain clothes and could be seen sometimes cycling, motoring or walking round the airfields. He thought that their job was primarily to keep watch on the villagers. He added that gendarmes were greatly disliked by the troops. They were not necessary for purpose of arresting troops, unless a man absented himself from his unit.

k. JOHO (Intelligence): PW had no knowledge of the Intelligence branches.

l. YUSOBUTAI: He could say nothing of Air Transport.

m. He had never heard of Jap paratroops.

n. FIRE OUTBREAKS. There was no fire-engine on the airfields. Fires were put out by the troops as best they could.

o. His unit was not concerned with rescue of personnel from crashed aircraft, but there were 40 SEIFUKEI from 2 Coy available for repairs to damaged aircraft.

p. RADAR: There was never any RADAR installation or set at HLEGU to PW's knowledge.

q. "COMFORT GIRLS": There were none at HLEGU.

r. MARCHING ORDER: On the march, HQ went midway between 1 Coy (which led) and 2 Coy.

s. There were 50 machine gunners, including AA MG crews.

2. AIRFIELDS

a. MONSOON PERIOD

From May to October each year the airfields at HLEGU were not used - all aircraft were withdrawn for 6 months to MALAYA, THAILAND, etc. Troops were employed during that time in building shelters of which there were finally 30 on the Eastern airfield and 20 on the Western strip.

b. LANDING LIGHTS

Electric landing lights were used along runways. White lights indicated the entrance to runways; red lights marked the outside edges; and green lights marked the half-way point. Power was provided by a petrol-driven generator in a truck.

(cont.)

REPRODUCED AT THE NATIONAL ARCHIVES
NARAYANAGAR 14-93

CONFIDENTIAL

BULLETIN NO. 186 Page 14

ITEM 1775 (cont.)

5. Sup Pte PW 348/309.

a. During a Feb raid on MEIKTILA, there were 10 casualties.

b. On 18 Apr 45 a hospital in village huts was destroyed by bombing. Patients had dispersed; but there were some casualties (TOUNGOO).

c. PW saw one single-engined Allied aircraft brought down by AA fire at PYINMANA in mid 1944.

/MS

ITEM 1776

Interrogation

Source: Preliminary Interrogation of PW 4 Corps 575/536, private of 1 Coy (KEIBI), 82 Airfield Bn (SATO BUTAI, HORI 9868).

Assessment: PW was interrogated in PEGU gaol. He was unwounded, but the effects of a fall 3 weeks previously were still evident. His intelligence was good for a man of his rank, and his attitude serious but cooperative. The reliability of his information is considered fair where he expressed certainty; but there were many air subjects on which he was very hazy or of which he knew nothing.

1. FUNCTIONS OF BRANCHES

a. KEIBI (Guard): Defence of airfields, sentries, guards, ground fighting, AA, MGs, ground observers.

b. NISHI HIKOJO KINMUTAI (West Airfield Duty Unit): A detachment with same duties as the battalion as a whole.

c. SEIBI (Maintenance): Aircraft maintenance, MT, driving, repairs, development of air photos, refuelling and servicing aircraft, electricity, arming and loading aircraft ammunition.

d. ZAIRYOHAN (Material Section): (10 men): Spare parts, tools, ammunition. Care and supply.

e. SHIKIHAN (Command Section): Each company and HQ have their own SHIKIHAN. All clerical work is done by the SHIKIHAN as well as despatch of the ashes or hair of the dead to the YASUKUNI shrine in JAPAN.

f. KISHO (Meteorology): PW was sure that there was a meteorological contingent at the HLEGU airfields, but he could not give details.

g. TSUSHIN (Signals): Personnel at HQ numbered 10 men.

h. SETTEITAI (Construction Unit): Their task was to construct runways, revetments, hangars and even barracks with the help of large numbers of Burmese coolies. In addition they cooperated with SEIBIHEI in repairs of many kinds. SETTEITAI were generally

(cont.)

CONFIDENTIAL

④SEATIC時報No.186

REPRODUCED AT THE NATIONAL AR VES
-14-93

SEATIC

PUBLICATION No.186 1945 12 JULY

辭達而已矣

AIR BULLETIN

A
1000
0100
5741

G. F. BLUNDA
COLONEL, CAC, U.S. ARMY
SUPERINTENDENT

REPRODUCED AT THE NATIONAL ARCHIVES 14-93

CONFIDENTIAL

BULLETIN NO. 182 Page 20

ITEM 1738. (Contd)

do so willingly. Even now there is absolutely no security for the Chinese. When the doorbell rings after dark, they have to fear Japanese MPs or drunken soldiers. I have seen with my own eyes Japanese young officers and soldiers raiding Chinese homes where they thought they could get some young Chinese girls.

In KUALA LUMPUR, a Chinese friend of mine received a 24 hour notice from the Military to remove from his house, and after he moved the house was turned into a restaurant for officers. Many Chinese say that they could be content if their houses were used from some useful purpose but regret very much when their houses are turned into restaurants or comfort houses.

Once I came across a young Chinese dancer in SINGAPORE who could speak English fluently. She told me how she took up dancing after her formerly wealthy father had been taken away by the Japanese authorities as undesirable, and never came back. Her father's property was confiscated by the Japanese and her mother died of a nervous breakdown. There are many such tragic stories concerning the Japanese which made even me hate them.

Relations of the Indians in MALAYA with the Japanese

It seemed that the Indians had very little trouble with the Japanese in the beginning. With good propaganda the Japanese worked carefully a program for organising the Indian Independence League and the INA under the leadership of Chandra Bose. Indian PWs were released on parole and handed over to the INA. The Japanese propaganda worked out well and proved to be a success. The simple-minded Indians were flattered. They devoted much of their interests and energy to the IIL. Despite this, however, there were frequent disputes among the Indians and allegations regarding lack of support on the part of the Indians. It is interesting to quote Bose's address to the Indian mass meeting at SINGAPORE when he said that he regretted to find that there were still many Indians who believed that the British and Americans would come back and dominate the occupied territories.

When the League and INA were organised many Indian coolies joined the INA and the League with a certain amount of patriotic feeling, but mainly because of assurance of a sure living. This deprived the Japanese of Indian labour and was a blow to reconstruction work. The first real support and cooperation the Japanese got from the Indians was in the IMPHAL and KOHIMA operations. This great defeat together with knowledge of the fact that many of the INA went over to the British must have affected the morale of the Indians very much.

Relations of the Malays with the Japanese.

The Malayans are lazy and always on the lookout for easy work. Mostly they had favorable feelings toward the Japanese. Actually they had little power, though, and the Japanese could not expect much help from them.

(Contd.

REPRODUCED AT THE NATIONAL ARCHIVES 14-93

Source : Interrogation of PW by SEATIC under the direction of USOW: New Delhi.

CONFIDENTIAL

BULLETIN NO. 182 (Ref SEATIC Bulletin No. 147, Item 1546, for previous interrogation) Page 19

ITEM 1738 (Contd)

At the time, THAILAND had ample supplies of cheap leather goods. With the Japanese entry, in the course of a year stocks were almost exhausted and the prices were ridiculously high. The Thais stopped selling leather goods to the Japanese except in exchange for some necessities. As in BURMA, many among the middle and lower classes began to have a hard time, and as a result many of the Thai married women started being prostitutes. Whenever the Japanese speak about THAILAND, they never fail to mention Thai girls and the case of leather goods. There is a rumor to the effect that a Thai spy was arrested somewhere near the Isthmus of KRA spying on military installations, and he disclosed that THAILAND would declare war against JAPAN in 1945. The only support that the Japanese were getting from the Thais was through flattery or force.

Relations Between the People of MALAYA and the Japanese

The Japanese could have received strong financial and labour support from the Chinese residents of SINGAPORE if they had treated them carefully and won their favour. But the Japanese have made a mess of relations with the Malayan Chinese. The Japanese made the irrevocable mistake of treating the Chinese in MALAYA the same way they treated the people of CHINA. Most of the rich and prominent Chinese are Malay-born and have had good Western educations. Most of them are not as patriotic for CHINA as are the China-born, nor are they so strongly anti-Japanese. Soon after the occupation by the Japanese, all of the Chinese were concentrated (except for the women and children). I have heard that some of them were confined without food for two or three days. The concentration of Chinese was carried out to pick out the undesirable characters (communists and anti-Japanese), but the concentrations were so large that it was not always possible to do this properly. In some areas the officials were lenient and kind and released most of the Chinese, but some of the Japanese officials carried out their duties in disorderly and irresponsible ways. Some of the Chinese were classified as "undesirable" simply because they had bad features. It was said that some of the Japanese officials marked the concentrated Chinese either "O" or "X", the "X"s being considered undesirable. In this way hundreds were taken away as undesirable and have never returned. Rumour says that all of these "Undesirables" have been killed. I am certain that there were many innocent people among these Chinese.

The Japanese had wrong ideas about the Chinese in the beginning and they thought they could do as they pleased with the Chinese. They confiscated the properties of the Chinese, raped their girls, and frequently slapped or beat the Chinese for nothing. The Chinese had a very bad time, especially when they were away from their homes during concentration; this gave the Indian and Malayan looters a chance to devastate the homes of the Chinese. The nicest furniture and cars were confiscated without orders by some of the young Japanese officers and soldiers. By terrorising the Chinese, the Japanese deepened the animosity of the Chinese toward them and turned many of those who previously did not have anti-Japanese feelings into haters of the Japanese. The Japanese thought they had been successful in making the Chinese timid, not realising that they have merely increased the animosity which the Chinese feel toward them. Although the Chinese may cooperate with the Japanese out of fear or economic necessity they would never

(Contd.

E. RB/g REPRODUCED AT THE NATIONAL ARCHIVES 14-93

CONFIDENTIAL

S. E. A. T. I. C.

SOUTH - EAST ASIA TRANSLATION AND INTERROGATION CENTER

PSYCHOLOGICAL WARFARE BULLETIN NO. 182

INDEX NO.	CONTENTS	ITEM	PAGE
2810	Newspapers and Periodicals.		
	Newspapers and periodicals used for Japanese propaganda in SE ASIA.	1738	6,10, 11
2930	Propaganda of Foreign Organizations.		
	Japanese propaganda in East ASIA.	1738	8-14
6310	Morale - Military.		
	Detailed report on morale of PWs.	1739	22-35
	Interrogation of PW on morale.	1738	2-4,6
6311	Propaganda - Military.		
	Essay by PW on Allied propaganda.	1740	37-44
	Interrogation of PWs on propaganda.	1738	6-8
		1739	22-35
6330	Loyalty.		
	Detailed report on PW's morale and loyalty.	1739	22-35
6951	Atrocities.		
	Atrocities committed by Jap military in East ASIA.	1738	15-16
6960	Military Government of Occupied Territories.		
	Japanese military government of East ASIA.	1738	14-21

Note.

'Identifications given in brackets by Translator in this Bulletin, e.g. YUMI 6823 (TN: 214 Inf Regt) are taken from "Detailed Order of Battle of the Japanese Armed Forces in Burma" prepared by GSI (a) ALFSEA. Where the identifications are marked with an asterisk, they are taken from documents or PW reports previously received by SEATIC or from 14 Army Intelligence Reports.'

③SEATIC時報 No. 182

REPRODUCED AT THE NATIONAL ARCHIVES NARA DATE 1-14-93

FILE COPY

SEATIC

PUBLICATION No. 182 1945 6 JULY

辟達而已矣

PSYCHOLOGICAL WARFARE BULLETIN

30

M Rogers Maj A.I.C

G. F. Blunda

G. F. BLUNDA
COLONEL, CAC, U.S. ARMY
SUPERINTENDENT

35

REPRODUCED AT THE NATIONAL . YES

DECLASSIFIED PER EXECUTIVE ORDER 12356, Section 3.3, NN0826533

By RB SMITH NARA, Date 1/15/93

ITEM 1487 (cont.)

(c) Canteens: The only canteen PW knew of was in MAYMYO, and that sold only coffee. Cigarettes were not to be had at all (except at New Year, when he received 10).

16. ATTITUDE TO CAPTURE.

PW has ceased to have any feelings about capture. He was perfectly content and had no complaints. After the war he wanted to settle in India and work - at no matter what job. He would not return to Japan, and did not want his family to know he was a prisoner.

17. ATTITUDE OF JAPANESE IN BURMA.

The Burmans neither liked nor trusted the Japanese because of their depredations on the country. PW regarded the Japanese behaviour as very wrong, and said they had no right to do such things. This was also the official view. The punishment for rape was immediate death on the spot, and the looters had to refund the loot or its value.

18. ALLIED PW.

PW knows nothing of Allied PW.

19. LEAFLETS.

PW never saw or heard about Allied leaflets, except on one occasion at NAWNGHKIO, when the OC KEIBI CHUTAI told the men that if the Burmese brought in any leaflets, it was not forbidden for the soldiers to read them.

/MW

REPRODUCED AT THE NATIONAL A ES

DECLASSIFIED PER EXECUTIVE ORDER 12356, Section 3.3, NND826533

By RB/SMH4 NARA, Date 1/15/93

CONFIDENTIAL

ITEM 1487 (cont.)

11. ALLIED WEAPONS.

Most of the Japanese killed in BURMA were killed by the "CHEKKO" (i.e. "Czech" - Bren gun), and the weapon they were most afraid of was the rocket. PW has never seen or heard of flame-throwers being used in BURMA. As regards aircraft, PW personally dislikes bombing most of all, but it appears that the infantry's great fear is of low-level strafing.

12. RELATIONS WITH SUPERIORS.

PW displayed an unusual contempt for officers. He bitterly pointed out that the officer ought to be a father to his men, and the men like children to the officers, but whereas the men gave the officers their devotion and trust, the officers simply let the men down.

The NCO's on the other hand, were not so bad; it was they who were running the war.

13. DISCIPLINE.

Discipline in general was still good, but where an officer bore down hard on his men while at the same time having a good time for himself, the men lost their respect for him. Face-slapping was becoming less and less common. It had never been extensively practised by the NCO's, but mostly by the old hands. In Feb this year, the CO of PW's unit issued an order forbidding face-slapping completely.

14. MAIL.

When PW first arrived in BURMA he used to write home once a week, but as time went by and he received no replies he became discouraged and tailed off. The two letters he had had, from his brother, said they had had no mail at all from him. In about April or May last year, there was a period when no mail at all came for anyone. This was explained as being due to the closing of S.W.P.A. by the Allies.

15. AMENITIES.

(a) Comfort Bags: PW never had a comfort bag while in BURMA.

(b) Comfort Girls: There had been some comfort girls in MAYMYO, but PW had never been able to afford to visit them. The rates were Yen 3.50 and Yen 5.00, with half-rates for half the time. Out of PW's Yen 24- a month, he saved Yen 10-, and the rest went on cheroots, etc.

(cont.)

REPRODUCED AT THE NATIONAL ARCHIVES

DECLASSIFIED PER EXECUTIVE ORDER 12356, Section 3.3, NND826533

By RB/SM 44 NARA, Date 1/15/93

CONFIDENTIAL

ITEM 1486 (cont.)

mechanism must always be removed when the grenades are being transported.

B. When it is necessary to remove the safety pin in the course of inspection, first remove the screw at the bottom and see that the igniter mechanism is removed.

C. It is especially important to keep the igniter mechanism dry.

D. An excess of oil in the fuse housing (around the firing pin spring) will harm the functioning of the mechanism. Therefore, it is necessary to wipe away any excess.

Distribution: 4 FB, 8 FR, 50 FR, 64 FR, 81 FR, 1 FB, 7 FB, 24 FB, 25 FB, 15 ab, 17 ab, 19 ab, 23 ab, 34 ab, 52 ab, 75 ab, 81 ab, 82 ab, 84 ab, 90 ab, 92 ab, 94 ab, 5 ac, 9 ac, 12 ac, 17 ac, 18 ac, 38 ac, 85 ac, 1 FTR, 3 FTR, 2 FNR, 17 KS, 20 AA, 36 AA, 35 JS, 275 JS, 280 JS, 281 JS, 86 HJ, 7 HS, 8 HS, 111 HS, 112 HS, 67 RK, 68 RK, 80 RK, 62 KC, 13 FH, I/13 FH, 19 FS, I/19 FS, III/19 FS, 31 TM, 32 TM, 34 TM, 5 Air Liaison Coy, 5 FD, Control Section.

RA/DCE/MW

ITEM 1487

Captured at MEIKTILA on 2 Mar 45.

Interrogation.

INTERROGATION REPORT dated April 1945.

1. INTRODUCTION

PW, although cooperative, is not highly intelligent. His memory for dates is extremely poor, as is also his recollection of place names. Intelligence fair; reliability fair.

2. IDENTIFICATION AND EARLY HISTORY OF PW AIR/024

Rank and name: Sup Pte [redacted]
Unit: 84 Airfield Battalion
Trade: AA Gunner
Date and place of birth: 22 December 1923 at [redacted]

(cont.)

REPRODUCED AT THE NATIONAL ARCHIVES

DECLASSIFIED PER EXECUTIVE ORDER 12356, Section 3.3, NN0826533

By RB/SM/14 NARA, Date 1/15/93

AIR BULLETIN NO. 131
(Cont.)

INDEX NO.	CONTENTS.	PAGE	ITEM
9570	Armament and Equipment.		
9570.20	Specifications for AA guns.	14	1487
9570.49	Reference to an unidentified weapon, 'FUTON BAKURAI', 19 Feb 45.	4	1486
9700	Training - General.		
9700.28	Plan for training to devise means to counteract mechanized warfare and recent methods of attack by Allied aircraft.	1	1485
9700	Training schedule in 99 KOKU KYOIKUTAI.	14	1487
9720	Organizational and Unit Training		
	Plan for training to devise means to counteract mechanized warfare and recent methods of attack by Allied aircraft.	1	1485
	Training methods in 99 KOKU KYOIKUTAI.	14	1487
9800	Military Air Defence System		
	Plan for training to counteract recent methods of attack by Allied aircraft.	1	1485
9805	Air Defence Warning System		
	Air defence warning system in 84 Airfield Bn.	14	1487
9815	Anti-Aircraft Gun and Searchlight Defence System.		
	Sketch of AA sites at MAYMYO and NAWNGHKIO, and description of AA gun defence system at NAWNGHKIO.	14	1487
9909	Air Operation Orders, Instruction, Plans.		
	22 Feb 45. Appendix to 7 Air Sector Op Order A/645.	1	1485
	27 Sep 44. 9 Airfield Coy Op Order 172, LASHIO.	4	1486
	8 Jan 45. 7 Air Sector Op Order C/216, 'KARO'.	4	1486
9927	Decoys and Dummies.		
	22 Feb 45. Training instruction to use dummy targets near airfields as decoys for bombers.	1	1485

Note: Identifications given in brackets by Translator in this Bulletin, e.g. YUKI 6823 (214 Inf Regt-Tr) are taken from "Detailed Order of Battle of the Japanese Armed Forces in Burma" prepared by GSI (a) ALFSEA. Where the identifications are marked with an asterisk, they are taken from documents or PW reports previously received by SEATIC or from 14 Army Intelligence Reports.

REPRODUCED AT THE NATIONAL VES

DECLASSIFIED PER EXECUTIVE ORDER 12356, Section 3.3, NND826533

By RB/SM/44 NARA, Date 1/15/93

CONFIDENTIAL

S. E. A. T. I. C.

SOUTH - EAST ASIA TRANSLATION AND INTERROGATION CENTER

AIR BULLETIN NO. 131

INDEX NO.	CONTENTS	PAGE	ITEM
6675	Tactical Employment.	1	1485
6675.28	Anti-mechanized warfare tactics.		
6700	Training - General.	1	1485
6700.28	Training in anti-mechanized warfare.		
7905	Ship Movements.		
7905.39	Aug 43, HAKONE MARU, 12000 tons, movements JAPAN - SINGAPORE.	14	1487
7905.43	Aug 43, Convoy movements, JAPAN-SINGAPORE.	14	1487
9100	Organization.		
9130	Reference to various army air units.	4	1486
9150			
9156			
9156	Reference Airfield Bns in BURMA.	1	1485
9150	Reference to various army air units.	14	1487
9156	Organization of 84 Airfield Bn.		
9161			
9185	Airfields, Air Stations, etc.		
	22 Feb 45. Reference to MEIKTILA Air Base.	1	1485
9210	Commissioned Air Personnel.		
	Army air officers.	1	1485
	Officers of 84 Airfield Bn.	14	1487
9310	Morale and Welfare.		
	PW information on morale in army and army air units.	14	1487
9500	Supply and Evacuation System.		
9500.071	Sep 44. Supply and transfer of ammunition.	4	1486
9506	Aviation Plants.		
	Reference to SASEBO Naval Aircraft Factory.	14	1487
9535	Ammunition and Pyrotechnics.		
9535.071	Sep 44. Supply and transfer of ammunition.	4	1486
9535.071	Jun 44. Notification concerning the use of ammunition for improved 13 mm Pom-Pom.	4	1486

(cont.)

CONFIDENTIAL

②SEATIC時報No.131

DECLASSIFIED PER EXECUTIVE ORDER 12356, Section 3.3, NND826533
By RB/SM 44 NARA, Date 1/15/93

SEATIC

PUBLICATION No. 131 1945 28 APRIL

AIR BULLETIN

G2

A
1000
0100
S441

G. F. BLUNDA
COLONEL, CAC, U.S. ARMY
SUPERINTENDENT

[redacted]

74

REPRODUCED AT THE NATIONAL AR_ VES

ITEM 1367. (Contd)

they thought enviously of the enemy soldiers and their food and supplies.

PW had realized sometime before capture that the Japanese line of communication was deficient and, therefore, ammunition and weapons were scarce. Enemy bombing did not cause as many Japanese casualties as strafing, but it had a greater psychological effect.

(c) Amenities

Nearly all camps along the railway line had comfort stations ordinarily staffed by Koreans and Chinese. In Mandalay, it was also possible to buy beer, 'Sake' cigarettes, and other luxuries.

(d) Army Life

Soldiers from the large cities did not get along with soldiers from KYUSHU. (It should be noted that PWs from 18 Div came chiefly from KYUSHU and spoke disparagingly of the men from OSAKA and other cities, who fought in 53 Div). There were many 'ETAS' in the Army who are rather looked down upon by the ordinary Japanese. The 'ETA' appears to be chiefly a Japanese-Korean mixture. The 'OKINAWA' were also looked down upon but were rated more highly than were the 'ETAS'.

The chief complaints of the troops in PW's regiment were about lack of food and supplies, and they hated the monsoon, for it rained every day in the hills and the pup tents started to leak so that they had to put banana leaves over them to keep out the water. "You should have seen us then - we were wet and shivering. Under such conditions I thought we were in a losing battle" (MAKE YUKUSA).

PART III

The aim of this continuing survey is to gather and present in statistical form, information on morale, attitudes, states of mind and the conditions affecting these, from all Japanese PWs who pass through Delhi.

This report covers interrogations of the second fifty PWs made available to the full time interrogator supplied by SEATIC and supervised by OWI. It is impossible at this stage to judge whether these men are typical of the Japanese Army in Burma, hence the results must be treated with reserve.

The interrogator had a mimeographed questionnaire with space to check the various facts. He was instructed to engage the PWs in conversation, make the checks and comments as information came out naturally, or else wait until the interview to record the facts, in order to encourage free and frank testimony. Completed questionnaires are the subject of careful discussion and check between the interrogator and members of the OWI staff.

(Contd.

DECLASSIFIED PER EXECUTIVE ORDER 12356, Section 3.3; NND 826532

REPRODUCED AT THE NATIONAL . IVES

ITEM 1367. (Contd)

on guard duty in Manchuria.

(h) Attitude Toward Capture

Lifelong indoctrination prevented PW from seriously entertaining the thought of surrender. The belief that Japan never lost a war appears greatly to have contributed to the PW's high morale. By the time he was captured, however, the defeats suffered by his division, the constant sight of friends being blown to bits and his own weakened malarious condition, caused him to become confused. It did not cause him to wish to surrender, however. PW hopes to go back to Japan and see his wife and small child. His wife is far too obedient to think of ostracizing him, although many of his friends would have nothing to do with him, as a former PW. He was in North China during the NOMONHAN incident between Russia and Japan. His unit was mobilized but was not sent to the fighting before the armistice. He believes that several Japanese were captured and after the armistice they were returned to their respective units in Manchuria. Once they returned to Japan they were treated as heroes; there was no record that they had been prisoners and the Army itself helped hide this fact.

4. EXPERIENCES WHICH AFFECTED MORALE

(a) Health and Medical Services

Medical supplies had been exhausted some time before PW's capture. In one retreat farther North, thirty men were left behind with wounds, malaria, athlete's foot, etc. and asked to commit suicide. The wounded and sick were evacuated from SAHMAW. One man who returned to SAHMAW from the hospital at HOPIN, said that the hospital was so full that two men were assigned to each bed. Medical orderlies and doctors were very few, food was scarce and sanitary conditions extremely bad.

(b) Food Supplies and Equipment

Troops in North China were well supplied with sweets and cigarettes. Amenities were not readily available in Burma, however.

Ever since the first battalion went up to the hills South West of MOGAUNG and North West of SAHMAW, the food situation had been bad for lack of proper transport. Even matches were very short, although this was mitigated by the almost complete lack of cigarettes, cheroots, etc. Dogs were snatched from KACHIN villages and eaten. By the time they left the hills, they were so weak that they hardly had strength to bury their dead. When they retreated to SAHMAW, they continued a diet of dogs varied by the slaughter of five or six horses. PW said that as they grew hungrier and hungrier

(Contd.

DECLASSIFIED PER EXECUTIVE ORDER 12356, Section 3.3; NND 826533

REPRODUCED AT THE NATIONAL A _ VES

ITEM 1367. (Contd)

PART II

1. BACKGROUND

(a) Personal History

WD-342, a Japanese Sergeant, is 29 years old. His home is near KYOTO where he was employed as a silk technician. He is married and has one small daughter. He graduated from Middle School and had three years of training in a silk technical school. He was in 128 Regt, 53 Div, on the North Burma front; this division, the 18 Div, had suffered a series of crushing defeats. He was captured on 8 August 1944.

(b) Details of Capture

When his unit was ordered to withdraw from SAHMAW, South of MOGAUNG on the MANDALAY-MYITKYINA Railway, WD-342 was in a weakened condition from inadequate diet, malaria, and swollen feet. He, therefore, was able to walk only about 8 kilometers with his unit, and on August 8 was straggling behind the retreating Japanese troops when he fell over exhausted on the wayside, and went to sleep. He was captured while sleeping near NAMPADAUNG, South East of SAHMAW. He was unarmed except for his hand grenade which was "wet".

(c) Interrogator's Evaluation

PW is average in intelligence and very cooperative.

2. CONTACT WITH PROPAGANDA AND REACTIONS THERETO

(a) Japanese News and Propaganda

PW's company had free movies twice a month. These films related to battles elsewhere or were educational films such as "how to improve rice crops".

About 150 civilians were on the same boat with PW between Japan and SAIGON. These were all Japanese and were civilian personnel engaged in propaganda work. Their average age was "around 32 years" and the group included newspaper men, college graduates, teachers, etc. While on board ship they practised and spoke Malay, Annamite and Burmese. WD-342 thought that they received about 200 monthly plus board and room. About 50 of them remained in French Indo-China and the others he believes proceeded to SINGAPORE, SUMATRA, etc. While in SAIGON and vicinity (10 February to 29 March), his unit received a Japanese Army newspaper, 'Kachi Deki', about every three days. It was of regular size and the characters were in type, perhaps printed by a gelatin process in Indo-China or Siam. It included home news chiefly, as well as some war news.

(Contd.

DECLASSIFIED PER EXECUTIVE ORDER 12356, Section 3.3 NND 825533

REPRODUCED AT THE NATIONAL AR[illegible]VES

CONFIDENTIAL

S. E. A. T. I. C.

SOUTH - EAST ASIA TRANSLATION AND INTERROGATION CENTER

PSYCHOLOGICAL WARFARE BULLETIN NO. 116

The information contained in this Bulletin is obtained by interrogation of Japanese PW's, which is based on questionnaires prepared by Morale Analysis Section, ONI, Washington. The number denoting the informant is the PW reference number allotted at SEATIC. A record of the original material on which the Bulletin is based is kept for reference, and any inquiries should state the number and paragraph, and be addressed to the Superintendent, S.E.A.T.I.C., Rear HQ, S.E.A.C. Although every effort is made to ensure accuracy, the information in this Bulletin should be treated with reserve until confirmed from other sources.

INDEX NO.	CONTENTS	PAGE	ITEM
	PART I		
6311	Effect of Allied propaganda by radio, public address, leaflets, and 'Biruma Shimbun'.	1	1367
6310	Attitude towards capture and suicide and towards leaders and government of Japan. Prospects of Japan in this war.		
6310 6160.06	Conditions on Burma front, and at RANGOON Hospital.		
	PART II		
2910 2810 6311 6310 6095 6310	Japanese news and propaganda in Japan and in Burma. Allied leaflets. Morale and attitude to Japanese government, and to capture. Cooperation by French, Burmese, Kachins and Koreans. Conditions on Burma front.	10	
	PART III		
6950	Detailed home and military background of fifty PW's.	15	
6310	Circumstances of capture and attitude towards capture and suicide.		
6311	Contact with Allied propaganda by radio, public address and leaflets, prior to capture.		
5310	Attitude to Japanese forces, supplies and equipment, the government and other leaders, and cooperation by subject nations. Soldiers' topics of conversation and complaints.		

Note: Identifications given in brackets by Translator in this Bulletin, e.g. 33RI 6033 (213 Inf Regt - Tr), are taken from "Detailed Order of Battle of the Japanese Armed Forces in Burma" prepared by GSI(a) ALFSEA.

CONFIDENTIAL

DECLASSIFIED PER EXECUTIVE ORDER 12356, Section 3.3; NND 826533

①SEATIC時報 No. 116

REPRODUCED AT THE NATIONAL A... YES

SEATIC

PUBLICATION No. 116 — 31 MARCH 1945

PSYCHOLOGICAL WARFARE BULLETIN

Order of Battle SWPA

A 1000 0100 S411

G. F. BLUNDA
COLONEL, CAC, U. S. ARMY
SUPERINTENDENT

18

DECLASSIFIED PER EXECUTIVE ORDER 12356, Section 3.3, NND 925533

2．連合軍東南アジア翻訳・尋問センター(SEATIC)
関 係 文 書

Type	Medical Examination of Geisha and Hostesses		Name	Manager	Rating	Police Report
Special Club (for officers and high-ranking civilian officials)	Number Examined 32	Number Ill 4	Chirping Sparrow Palace	NAKAGAMI, Minoru	A	Equipment and cleaning of the kitchen is quite good. Measures against insects were taken before the inspection and seem to have been thorough.
					B	Care of chopping-boards is unsatisfactory. Wash-boards in the wash-rooms are dirty. Improvement is needed in the dining-hall. Care of the lavatories is unsatisfactory.
Special Club (for officers and high-ranking civilian officials)	16	1	Wide Pine	YOSHIDA, Haru	A	Equipment of kitchen quite good.
					B	There is much to be desired in the care and use of the chopping-boards. The dining-hall and bathrooms are clean.
					B	There is room for some improvement in the cleaning of the lavatories.
Special Club (for officers and high-ranking civilian officials)			Round Pearl	TERAO, Shigeru	C	There are numerous insects in the kitchen. Proper care is not taken of the chopping-boards. The lift to carry the food from the kitchen to the second and third floors and the beer and sake bar on the second floor are too close to the lavatories, with result that there are numerous insects against which no measures have been taken. People are seated too close in the dining-hall. The latter is not clean and insects are numerous.
					A	Lavatories and wash-rooms are clean and well-kept.
Restaurant (for privates and non-commissioned officers)			TOKYO Restaurant	TAKAOKA, Haruyoshi	B	The kitchen is clean, the care of the chopping-boards is unsatisfactory.
					C	The beer and Sake bar on the second floor is not clean; the floors are not properly swept and insects are numerous.
					A	The cleaning and equipment of the dining-hall is quite good.
					B	Cleaning of the lavatories is satisfactory.
Restaurant (for privates and non-commissioned officers)			ASIA Restaurant	CHIN, Sekisei	C	The kitchens are not orderly and little cleaning is done. No care or discrimination in the use of the chopping-boards is exercised.
					C	The maids' rooms are not clean, and require considerable attention.
					B	The cleaning and equipment of the lavatories and dining-hall is satisfactory.
Restaurant (for privates and non-commissioned officers)			MIYAKO Restaurant	AKAMA, Matsutaro	B	The kitchen is clean, but the care of the chopping-boards is unsatisfactory.
					B	Cleaning and equipment of the dining-hall are satisfactory.
					B	Cleaning of the lavatories is satisfactory.

APPENDIX B

Type	Medical Examination of Geisha and hostesses		Name	Manager	Rating	Police Report
	Number Examined	Number Ill			B	Cleaning of bedding is satisfactory.
					C	There are no ash trays supplied in the waiting-rooms and corridors, and ashes may be seen scattered around.
					B	Equipment and cleaning of lavatories and wash-rooms is satisfactory.
House of Relaxation	89	6	Daisy Garden	KAWA-YANAKI, Tsutau	B	Cleaning and order of rooms satisfactory.
					B	Cleaning of bedding satisfactory.
					C	Waiting-rooms and corridors not clean; no ashtrays supplied.
					C	Lavatories and wash-rooms quite dirty, and in need of immediate improvement. Hygienic rules not observed.
House of Relaxation	46	1	Coquette Club	SHUSAI, Akira	B	Cleaning and order of rooms satisfactory.
					C	Bedding dirty and of poor quality Considerable improvement needed.
					C	Waiting rooms and corridors too close to the bathrooms, ill-equiped and dirty. Suggest immediate measures of improvement. Employees do not observe rules of hygiene.
House of Relaxation	49	2	Drunkards' Flower Garden	SHUSAI, Akira	C	Cleaning and order of rooms unsatisfactory.
					B	Cleaning and bedding medium.
					B	Cleaning of waiting-rooms and corridors satisfactory.
					C	Cleaning and equipment and lavatories and wash-rooms satisfactory, but employees are in the habit of throwing cigarette butts and ashes out of the windows. This must be brought to their attention.
For Privates and non-commissioned officers	80		Crystal Water Club	MITSUYAMA, Narimichi	B	Cleaning and order of rooms satisfactory.
					B	Cleaning of bedding satisfactory.
					C	Waiting-rooms and corridors, especially near the stairs, not clean.
					A	Lavatories and wash-rooms well cleaned and equipped.
For privates and non-commissioned officers	61	9	Dawn Club	TOYOGAWA, Konen	B	Cleaning and order of rooms satisfactory.
					B	Sheets and pillow-cases are probably changed every third day, but should, actually be changed every other day.
					C	Cleaning of waiting-room and corridors unsatisfactory. Few ashtrays are provided.
					B	Lavatories and wash-rooms are clean, but no disinfectant is provided for the wash-water on the second floor. Receptacles are also in need of immediate repair.
Special Club (for officers and high-ranking civilian officials)	71	1	Sea-Flower Villa	NAKAGAMI, Minoru	C	Insufficient hygienic measures are taken in the kitchen, with result that insects are numerous. No discrimination is exercised in the care or use of the chopping-board.
					C	The dining-hall area is quite dirty. No attempts are made at cleaning it.
					B	Cleaning of waiting rooms, corriders and individual rooms is satisfactory, but the lavatories require more care.

Type	Medical Examination of Geisha and Hostesses		Name	Manager	Rating	Police Report
For privates and non-commissioned officers	Number Examined 59	Number Ill 3	No. 5 House of Relaxation	YANO, Matsuyo	C	Cleaning and order of rooms medium.
					C	Sheets and pillow-slips not clean.
					B	Cleaning and order of waiting-rooms and corridors satisfactory, but no facilities for smoking.
					B	Cleaning and equipment in lavatories and wash-rooms satisfactory.
For privates and non-commissioned officers	76	3	No. 6 House of Relaxation	SHU, Rokurin	B	Cleaning and order of rooms medium.
					C	Sheets and other bedding not clean.
					C	Cleaning of waiting-rooms and corridors very poor.
					B	Cleaning and equipment in lavatories and wash-rooms satisfactory.
For privates and non-commissioned officers	38	4	No. 7 House of Relaxation	NISHIOKA, Mitsutaro	B	Cleaning and order of rooms medium.
					A	Special attention is devoted to keeping clean bedding and special laundresses are hired for the purpose. The set-up is excellent. (TN. Rest of sentence illegible.
					B	Cleaning of waiting-rooms and corridors is satisfactory but there are no facilities for smoking.
					B	Cleaning and equipment of lavatories and wash-rooms satisfactory.
For privates and, non-commissioned officers	52	3	No. 8 House of Relaxation	UCHIMURA, Masao	B	Cleaning and order of rooms satisfactory.
					C	Sheets and pillow cases not clean.
					C	Cleaning of waiting rooms unsatisfactory, and no ashtrays provided. The kitchen is much too close to the bathroom and definite hygienic measures against insects are needed.
					C	Cleaning of lavatories and wash-rooms unsatisfactory.
For privates and non commissioned officers	49	2	Chrysanthemum House	TAKANO, Kikano	C	The manager is never in when the police arrive. There is no set plan of working hours for the employees. Their business policy is quite unsatisfactory.
					C	Lavatories and wash-rooms are very dirty, no effort being made to clean them.
					C	Rooms and corridors are dirty, and only the waiting rooms are cleaned. The bedding is dirty, and needs considerable attention.
For privates and non-commissioned officers	80	1	Fuji Flower Garden	WATANABE, Sataro UCHIMURA, Seiichi MIYAKE, Hiroshi	B	Cleaning generally satisfactory except for corridors and waiting-rooms.
					B	Cleaning generally satisfactory except for rooms. Cleaning of bedding is satisfactory.
					B	Generally satisfactory.
House of Relaxation	80	1	Shining Flower Garden	HANAI, Kikataro	B	Cleaning and order of rooms satisfactory.
					B	Cleaning of bedding satisfactory.
					B	Cleaning of waiting-rooms and corridors has obviously been done, but needs a little more effort.
					A	Equipment of lavatories and wash-rooms are especially clean and in excellent condition.
House of Relaxation	48	5	MIKUNI Club	URA, Gin	B	Individual rooms are generally good and orderly, but cleaning is not satisfactory in some. Closets and dressing-rooms require some attention.

Appendix B.—POLICE REPORT ON MANILA BROTHELS

Police report on medical inspection, dated 7 February 1944, issued by MANILA Sector Line of Communications.

"To all managers: It is desired that all managers note carefully the following police report on medical inspection for the month and take steps to make the necessary improvements.

"General observations:

"1. Restaurants and special clubs:

"The cleaning of kitchens is generally satisfactory, but better measures of prevention against insects are necessary.

"The care of chopping-boards is generally unsatisfactory and they are used indiscriminately.

"Cooking vessels require more thorough washing. Lavatories require more and better cleaning.

"2. Houses of relaxation

"Scant attention has been paid to hygienic rules and there are many cases of failure to take hygienic measures. This has been repeatedly called to the attention of many persons.

"Lavatories and wash-rooms are generally unclean, nor is there proper lighting in the latter.

"If the health of the employees is to be preserved, there will have to be improvements in the care of bathrooms, and the cleaning of dining-rooms. Many managers are interested in nothing beyond their own profit, and do their job with no other purpose. They exhibit no concern for the welfare of the geisha, maids or hostesses, nor bother themselves with their health or sustenance nor with such matters as bath facilities. Their selfish conduct requires restraint.

Type	Medical Examination of Geisha and Hostesses		Name	Manager	Rating	Police Report
For soldiers and crewmen of all Shipping Units	Number Examined 120	Number Ill 8	Dawn Club	NOMURA, Yasuzo	A	Cleaning and orderliness in rooms excellent.
					B	Spreads, pillow-slips and other bedding medium. However, quality is poor and improvement needed.
					B	Waiting-rooms and corridors are satisfactorily clean, but could stand just a little improvement.
					B	Cleaning of lavatories not thorough.
House of Relaxation	38	3	No. 2 House of Relaxation	URAGAWA, Taro	B	Cleaning and orderliness in rooms can barely be said to be good.
					B	Cleaning of bedding satisfactory.
					B	Cleaning and orderliness of waiting rooms and corridors not satisfactory.
					B	Cleaning of lavatories satisfactory. Not fully equipped.
House of Relaxation	34	4	No. 3 House of Relaxation	KURIHARA, Ine	A	Cleaning and order of rooms good.
					A	Cleaning of sheets and pillow-cases generally quite good.
					A	Cleaning of waiting-rooms and corridors excellent. The following new items were noted, and the cleaning should be an example for other places. Materials: kerosene—four go (One go equals 0.318 pint) and three wax-candles. Method: mix the kerosene and wax, boil together, and after cooling, apply to floors, with a cloth. Result: superb as a substitute for lux, shines the floors well, and even one application gives surprisingly good results.
					B	Lavatory cleaning and wash-room equipment good. Employee's bath facilities needs some attention.
House of Relaxation	65	8	No. 4 House of Relaxation	KUDAKATSU, Taro	B	Cleaning and order of rooms satisfactory.
					B	Cleaning of waiting-rooms and corridors satisfactory. No facilities for smoking.
					C	Cleaning and care of bedding unsatisfactory.
					B	Cleaning of lavatories satisfactory.

13. Form No. 13.

(Date) Chart of Month's Receipt and Sale of Food

(This chart refers to special club restaurants only)

Room number: Name: Seal:

INTAKE													SALES				
Items Received	Units	Price per Unit	From last Month		This month		Total		This month's Expenditure		Net Difference		Items Sold	Units	Price per Units	Present Month	
			Amount (Food)	Amount (Money)	Amount (Food)	Amount (Money)	Amount (Food)	Amount (Money)	Amount (Food)	Amount (Money)	Amount (Food)	Amount (Money)				Amount (Food)	Amount (Money)

14. Form No. 14.

Health Chart Number.....

Name: Year:

Name of House of Relaxation:

Date of Examination	Diagnosis					

Seal of army physician, attached to line of communications

Date:

MANILA Sector line of communications office

Notes: 1. Examination will be given weekly.
2. Diagnoses are concerned only with condition of menstruation.

APPENDIX A

11. Form No. 11.

(Date)	House of Relaxation—Daily Report			Room Number	(Seal)
	Patrons	Time	Number of Persons	Amount	Total
Business Report	Privates				
	Non-Commissioned Officers				
	Others (officers and army civilian employees)				
Total					
Quota	(Number)	Number Developed Disease		Surplus or Deficit of Personnel	
Working	(Number)				
Ill	(Number)				
On Vacation	(Number)				
Others	(Number)				
Notes					

12. Form No. 12.

(date) Monthly Business Report
(Part 1)
Room number
Name and seal of person in charge

Expenditures			Income			Notes
Designation		Amount	Designation of Business	Present Month's Business	Amount	Business expenditures are those directly necessary for the conduct of the business. Purchases of any property is not included therein.
Intake	Surplus from Previous Month			Total		
	Income This Month					
	Total		Difference from net balance			
Business expenses			Total			
Total			Net Loss			
Net Profit						
Grand Total			Name	Amount	Notes	

Designation	Name	Amount	Notes	Name	Amount	Notes
Items of Business Expenditures						
				Total		Grand Total

(Part 2)
Houses of Relaxation - Monthly Report
Month: (Statement of earnings)
Manager
House number - name - seal

Payment geisha	Total earnings	Geisha's share	Debt	Advance Payment	Residue from Advance Payments	Saving	Notes

8. Form No. 8.

Price List for Authorized Houses of Relaxation			
	Patrons	Time	Price
Houses of relaxation employing Filipino women	Privates	40 minutes	1.50
	Noncommissioned officers	40 minutes	2.50
	Others	1 hour	4.00
		Overnight	8.00
Houses of relaxation employing Japanese women	Privates	40 minutes	2.00
	Noncommissioned officers	40 minutes	3.00
	Others	1 hour	5.00
		Overnight	10.00

Notes : 1. Others in the Patrons column includes soldiers (and army civilian employees) other than noncommissioned officers.
2. Overnight engagements will begin from 2300 hours.
3. Prices are maximum prices. Managers may make reductions when the situation so warrants.

9. Form No. 9.

Daily Total Earnings Chart							
	Patrons	Time	Number of Persons	Fees	Total	Grand	Allotment of Money
Date	Privates						
	Noncommissioned officers						
	Officers						
	Army civilian employees						

10. Not so stated, but apparently Form No. 10.

Date	Designation / Items	Unit	Unit Price	Amount (Food)	Amount (Money)	Patrons: Privates (Civilian Employees)	Name
						Noncommissioned Officers (Civilian Employees)	Name
						Officer	Assigned Force / Rank / Name / Number of Persons
Restaurant						Name Civilian Official (High-ranking)	
Number of Days							
Room number							
Name						Name	

APPENDIX A

5. Form No. 5

Request for authorization of hostesses (geisha and waitresses)
Home residence :
Name :
Date :
Professional name :
Date of arrival in PHILIPPINES :
I hereby request authorization for the above geisha (waitress). Enclosed please find copies of contract and agreement.
Date :
Name and seal of applicant :
Name and seal of manager :
To : Officer in Charge, MANILA Sector Line of Communications Duties.

6. Form No. 6.

Request for permission for hostesses (geisha and waitresses) to leave the establishments.
Home residence :
Present residence :
Name :
Date of birth :
Professional name :
I hereby submit this application for permission to leave the establishment, with the following information :

(a) Reason :
(b) Intended destination :
(c) Amount of forced savings.
(d) Amounts of other money saved :

Date :
Name and seal of applicant :
Name and seal of manager of House of Relaxation :
To : Officer in Charge, MANILA Sector Line of Communications Duties :

7. Form No. 7.

Request for permission to replace hostesses (geisha and waitresses) and others :
I hereby submit this request for permission to replace the following geisha, waitresses and others.
1. Persons :

Name	Date Birth	Sex	Professional Name	Home Residence	Present Residence	Position

2. Reasons :
3. Replacements :
Name, present residence, home residence :
Date :
Name and seal of manager :
To : Officer in Charge, MANILA Sector Line of Communications Duties :

Appendix A.—FORMS REQUIRED BY MANILA BROTHELS.

1. Form No. 1

Application for permission to open business: army authorized restaurants or houses of relaxation.

Home address:

Present address:

Name:

Date of birth:

I hereby present application to open an authorized restaurant (house of relaxation). I enclose a statement of business plans, an affidavit and my personal history.

Date:

Applicant's name and seal:

To: Officer in Charge, MANILA Sector Line of Communications Duties.

2. Form No. 2.

Statement of business plans

a. Capital: yen.
b. Business partners: (yes or no)
c. Number of rooms.
d. Place of business.
e. Names of hostesses (geisha and waitresses) (Indicate whether Japanese, Formosan or Filipino).
f. Expected date of assembly of employees (geisha, maids, waitresses, other employees).

Date:

Name and seal:

To: Officer in Charge, MANILA Sector Line of Communications Duties.

3. Form No. 3

Affidavit

I hereby promise, that on receipt of permission to open an authorized restaurant (house of relaxation), I will abide by all the rules and regulations, allow or cause no disturbances and agree to close or suspend business on order at the convenience of the army.

Date:

Name and seal of manager:

To: Officer in Charge, MANILA Sector Line of Communications Duties.

4. Form No. 4

List of Employees

Name	Date of Birth	Sex	Professional Name	Home Address	Advance Payments	Position
YAMASHITA, Kazuyasu						Manager
YAMAMOTO, Haruko						Waitress
YAMASHITA, Tatsu						Principal Hostess
ITATSU, Sueichi						Office Employee
NAGAHIDE, Hide						Bell-boy

Date: Seals of above persons

To: Officer in Charge, MANILA Sector Line of Communications Duties

Section V. CONCLUSIONS

1. The Japanese Army and Navy establish canteens for those troops located in areas in which supplies are available.

2. It appears that the Japanese Army supplements the normal ration to troops with a gratuitous issue which usually consists of such articles as sweets, cigarettes, beer, and sake.

3. Comfort bags are a gratuitous issue to troops and are of two types, those issued by the Army and those from civilian charity organizations.

4. Although measures for physical training apparently play a big part in the life of the Japanese soldier, there is little provision made to carry out an athletic program in the South West PACIFIC area.

5. Movies and traveling shows are practically non-existent for Japanese soldiers in the forward areas of the South West PACIFIC Area.

6. The establishment of brothels under strict regulation is sanctioned by military authorities in any areas where there are large numbers of troops.

7. Inmates of these brothels are regularly inspected for venereal diseases.

8. There is no set policy for leave or rotation of Japanese troops in South West PACIFIC Area.

9. A few units publish field news sheets for their troops but on the whole only bulletins or verbal news is past on to the Japanese soldiers.

10. It appears that few radios are available to enlisted men in the South West PACIFIC Area. On the other hand, officers are permitted to possess radios or to have access to them.

11. There is little provision made for troops in forward areas either to receive or send mail.

mail censorship in each unit was thorough. Restricted matter was closely watched and stricken out. However, there are still some who write about being homesick and their dislike for war and others whose writings require attention. Such traces still remain. The general situation is shown in the following summary:

"Total number of military police censors: 8.

"Remarks: Mail matter for the six days from May 26 to 31.

"Volume of mail censored: 30,000 pieces of fourth class mail

"a. Mention of low morale, dislike for war and hope for going back: 16 cases.

"b. Mention of matters that require special precautions from counter-intelligence viewpoint: 4 cases.

"c. Mention of shortages in material: 2 cases

"d. Others (such as lack of censor's stamp): 73 cases. Total: 95 cases.

"Disposition of the above:

Burned:	1
Partly erased:	20
Returned:	5
Reported:	2."

(*SOPAC Translation, Serial No. 072, page 13*)

(2) Prisoner of War ARAKI, Toshimi (JA 145501), Leading Private Observation Section, Motor Torpedo Boat, 24 March 1943, stated:

"While at MISIMA, all mail was censored by the sergeant major. In RABAUL, letters could not be written home."

(*ATIS Interrogation Report, Serial No. 196, page 7*)

b. Receipt of Mail

(1) Prisoner of War YAMAGUCHI, Yoshita (JA (USA) 147480), Leading Seaman, member of 88 Guard Unit, captured MANUS ISLAND, 29 April 1944, stated:

"Since coming to South West PACIFIC Area, prisoner of war received several small packages of mail from his family."

(*ATIS Interrogation Report, Serial No. 559, page 6*)

(2) Prisoner of War NAKAMURA, Ryoki (JA (USA) 147449), Second Class Petty Officer, member of 2 Transport Unit, captured JACQUINOT BAY, 23 April 1944, stated:

"He had received three letters from wife and mother during his eight months stay at RABAUL."

(*ATIS Interrogation Report, Serial No. 501 Section 13*)

17. CIVILIANS

a. Prisoner of War TAIRA, Shigeyo (JA 145046), military coolie, member of YAMAMOTO Force, captured at SAMBO, 16 November 1942, stated:

"He had received no letters from JAPAN, and all writing materials had been taken from him before leaving RABAUL for NEW GUINEA."

(*ATIS Interrogation Report, Serial No. 38, page 5*)

b. Prisoner of War YAMAGUCHI, Masahiro (JA 145058), Civilian Medical Orderly, captured SOPUTA, 6 December 1942, stated:

"He had receive no mail since leaving JAPAN."

(*ATIS Interrogation Report, Serial No. 41, page 8*)

c. Prisoner of War ZAMA, Matsichi (JA (USA) 147656), civilian employee, I Shipping Repair Unit, captured TANAMERAH, 4 May 1944, stated:

"He had received no mail or had heard no war news in South West PACIFIC Area."

(*ATIS Interrogation Report, Serial No. 500, Section 13*)

leader, village manager or any other authorities (For instance: police station) and he himself must make the request to his commanding officer. The commanding officer is authorized to grant, upon investigation, a furlough of not more than 14 days plus traveling time.

"2. In cases of emergency, one can apply for a leave upon receiving a telegram from his parents or relative to the officer in charge or to him. In such cases, the officer in charge will make necessary arrangements in accordance with paragraph No. 1. Thereafter, it is necessary to take proper procedure at the earliest possible date.

(3) *Section 3. Instructions While Traveling or on Shore Leave.*—

"1. When petty officers or men are en route to their new post or are unable to report to their post by the appointed date on account of an unavoidable accident, they must immediately report such by telegram to the officer in charge and also must obtain the following verifications and present them upon arrival:

"a. Matters concerning train or ship—a written verification from the captain or station master.

"b. In cases of injury or illness—a diagnosis of a physician.

"c. Other matters—verifications from mayor, district or village head. This also applies to men on shore leave.

"2. In case one's return is late and the ship he is attached to has left, he will report to the following and await orders.

"a. At naval stations—officer of the watch at the naval barracks.

"b. Minor naval station—adjutant of the station.

"c. Other places—local official.

"d. Foreign countries—consulate.

"3. If one is unable to return from the leave within the specified time on account of injury or illness, he should immediately forward his notice together with the doctor's diagnosis to the officer in charge. If the certificate does not reach in time, he will first send a telegram notifying this fact, and will send the certificate later.

"After full recovery and upon leaving his home, he will bring with him a chart of progress with the diagnosis and certificate from the mayor, district or village leader, and present them upon his arrival.

"4. While on shore leave one should be careful about health and attitude."

(Fort Snelling MISLS Translation, Handbook for Naval Personnel, page 24—26)

"*f.* Extract from printed handbook in six volumes, entitled "Consolidated Army Regulations." Unclassified, compiled by the Secretariat of the Army Department, published by KOBAYASHI, Matashichi, of the firm of SANRYUDO at KOJIMACHIKU, TOKYO, issued 30 June 1943, concerning leave and furlough for Army personnel:

(1) *Five Types of Leave.*—

Special leave (leave on urgent private affair)
Annual leave
Special leave (from foreign post)
Rest leave (after arduous duty)
Prize leave

(a) *Special Leave (Leave on Urgent Private Affair).*—

"1. Officers who wish to make military or scientific research abroad may receive one year leave exclusive of travel time.

"2. Officers and enlisted men may receive leave of fourteen days including travel time.

"3. Noncommissioned officers quartered within barracks may receive fourteen days, including travel time when a member of his family becomes seriously ill or dies.

"Extension of the leave for (2) and (3) may be permitted if necessary.

(b) *Annual Leave.*—"Officers, noncommissioned officers and also privates quartered out of barracks are entitled to 20 days leave per year, which can be taken all at once or it can be divided into several different times.

(c) *Special Leave (from Foreign Post).*—"Officers and enlisted men serving in foreign posts and quartered out of barracks who served two continuous years are entitled to thirty days leave per year including travel time.

"Enlisted men serving in foreign posts and quartered within barracks who served three continuous years are entitled to thirty days leave per year including travel time.

(d) *Rest Leave.*—After special duties and maneuvers, one to three days leave is permitted.

"Five days leave is permitted to those who served continuously for one year in KOREA, FORMOSA, SAKHALIN, KWANTUNG Provinces, and foreign countries.

(e) *Prize Leave.*—"One day leave is granted to privates (quartered within barracks) who have performed outstanding work.

(2) "Junior flying cadet of Army air and flying schools are entitled to twenty days leave aside from the aforementioned leaves."

(ATIS Document No. 15741, Volume 2, Section 6)

(6) Extract from handwritten diary, dated 8 December 1941 to 6 January 1943, belonging to MIYOSHI, 7 Company, 124 Infantry Regiment:

"9 June 1942. We landed. The office of YURUKAWA Colonization Company is very large, and there are many warehouses. For the first time since leaving southern CHINA, we saw Japanese girls clad in kimono and holding a parasol. Can there be more pleasure and amusement for us than this? These girls, as Army prostitutes, had landed here one step ahead of us. We entered the town of DALIAO. The town was countrified. There were many Japanese who welcomed us. It was like a greeting in JAPAN when one returns to a country town. Each platoon quartered in a different house and I stayed on the second floor of OSAKA Bazaar. There were electric lights and running water. Next door was a bicycle shop. I spent the night in peace."
(*ATIS Bulletin No. 1483, page 20*)

10. LEAVE

a. Prisoner of War TOMITA, Tomoaki, First Class Private, member of 112 Infantry Regiment, captured at SIRZWEYE, 12 February 1944, stated:

"Absolutely no leave was granted while on active service and they were supposed to carry on until they dropped."
(*Source available on request*)

b. Prisoner of War TSURUTA, Masatoshi (JA (USA) 147102), Second Lieutenant (Medical officer), member of 141 Infantry Regiment, captured TALASEA Area, stated:

"He knew of no provisions for rotation replacement of troops in South West PACIFIC Area. Occasionally, if men could be spared, some troops might be sent back to JAPAN with ashes of fallen comrades. While in JAPAN, they might be given a short leave, according to sailing schedule, before their return. There was no hope of leave once troops proceeded overseas."
(*ATIS Interrogation Report, Serial No. 453, page 12*)

c. Prisoner of War SUZUKI, Yoshiichi (JA 145409), Superior Private, member of 102 Infantry Regiment, captured WAU, 16 February 1943, stated:

"A unit could pay a soldier before he went on leave. However, there was no leave from overseas and even in JAPAN leave was infrequent."
(*ATIS Interrogation Report, Serial No. 125, page 8*)

d. Prisoner of War UCHIBABA, Shigennbu (JA (USA) 145581), Superior Petty Officer, Pilot, member of 751 Naval Air Unit, captured at sea, HUON GULF, 22 September 1943, stated:

"At TINIAN, leave was granted once a week or every four days for periods of about four hours from 1500 hours to 1900 hours. Prisoner of war went to township and drank and enjoyed himself."

"At RABAUL squadron commander determined number of men going on leave and issued a corresponding number of leave passes. Names of men on leave were posted on a board.

"Each man carried his pass and presented it to guard at gate on leaving and picked it up on returning. This was the practice as far as prisoner of war knew. Prisoner of war never went on leave to RABAUL Township."
(*ATIS Interrogation Report, Serial No. 359, page 12*)

e. Extract from "Handbook for Naval Personnel" issued by Bureau of Naval Education, Ministry of Navy, October 1940, concerning shore leave and passes.

(1) *Section 1. Essential Regulation Concerning Shore Leave and Passes.*—

"1. Shore leave of petty officers and men are the following three:

"a. Shore leave for bathing.

"b. One watch shore leave.

"c. Special shore leave.

"2. Shore leaves for bathing are granted in turn, according to the following classification, from supper to breakfast the following morning.

"a. Those who are first class petty officers and have more than four stripes of good conduct insignia; two-thirds of the number of men.

"b. Petty officer not included above (men who have more than two stripes of good conduct insignia shall for this purpose correspond to petty officers); one half the number of men.

"c. Seamen first and second class (petty officers who do not have good conduct insignia correspond to seamen first and second class); One-fourth of the number of men.

"d. Apprentice seamen (except those who have served less than one year after the promotion): One sixth of the number of men.

"e. Instructor (limited to only those who are prescribed in the 'Rules for Education and Disposition of Trade Seamen'): Two-thirds of the number of men.

"f. Those who have done an extra (special) labor, regardless of the above rules.

"3. The one watch shore leave (pass) may be granted to half of the crew (two-thirds of those who come under the previous paragraphs (a) to (e) from noon to evening on Saturday and from after ceremonies or the time similar to this on Sundays, holidays, memorial days and other public holidays.

"However, shore leaves for bathing may be granted in succession to those who have a shore leave for bathing on that day.

"Those who come under the previous paragraph (a) to (e) and happen to be on shore leaves (pass) from Saturday noon to Monday morning successively, provided there is no ceremony or work.

"4. During holidays, the remaining crew may be granted shore leaves for bathing and one watch shore leave from January 1 to 3.

"However only less than one-half of the remaining crews of those who come under both paragraphs (a) to (e) will be granted shore leaves.

"5. Special shore leaves may be granted by permission of the commander in chief.

"6. While on leave, it is prohibited to leave a place from which you cannot return to your boat within one to two hours. (If the naval stations designate the areas, you must obey it). However, those who must travel on account of an unavoidable emergency, must first get the permission of officer in charge.

"7. Shore leaves are not ordinarily granted to patients who are on light duty or absent from duty.

(2) *Section 2. Procedure of Leave Request to Return Home.*—

"1. When a petty officer or a seaman must return home on account of serious illness, death or other unavoidable emergencies, his parents, or relatives must make an application (when seriously ill, inclose a diagnosis of the physician) and secure the approval of the mayor, block

river with the hope that they might get through.' They landed north of Waingmaw where they remained in the jungle until 4 August. The party then began to trek in the wake of the retreating troops. On 7 August, they became involved in a skirmish and in the confusion the party split up.

" The 20 Chinese girls remained behind in the jungle, and gave themselves up to Chinese troops. One party of about 20 Korean girls followed on in the wake of the Japanese troops, and were seen by another prisoner of war on 19 August, a small disconsolate group still following on. Prisoner of war's party took shelter in an abandoned native house where they remained for two days while prisoner of war tried to construct a raft; with them was a wounded Japanese soldier. On 10 August, the house was surrounded by a number of Kachins under the command of an English officer, and they were captured. Of the original party of 63 girls, four had died during the journey and two had been shot, mistaken for Japanese soldiers."

(SEATIC Interrogation Bulletin No. 2, dated 30 November 1944, pages 10-13)

(2) Extract from letter written by prisoner of war, a well-educated man of 23 years, nominally a sergeant wireless operator, who had spent the greater part of five years in service either in the cook-house or under training :

" Brothers-in-arms

" While the fighting was still going on at MYITKYINA, Colonel MARUYAMA was having a good time with the comfort girls in the shelter-trench almost every day. Later he arranged that the girls should cross the river ahead of the wounded soldiers. This is the truth."

(Source available on request)

(3) Prisoner of War MITSUI, Junchoku, Superior Private, member of the 112 Infantry Regiment, captured LETWEDET, 10 February 1944. Although he vehemently maintains that he had never entered an IANSHO (House of Relaxation) he seems well-informed about their organization, and gives the following information :

" Each division had five or six IANSHO (House of Relaxation) attached. Korean women as well as Japanese women were to be found in them. The charges for an hour's entertainment were; officers 5 yen, noncommissioned officers 4 yen, and privates 3 yen. The use of preventives was compulsory and the women were medically examined periodically."

(Source available on request)

(4) Prisoner of War TOMITA, Tomoaki, First Class Private, member of 112 Infantry Regiment, captured SINZWEYA, 12 February 1944, stated :

" On the subject of entertainment, there had been parties of entertainment (IMONDAN) but they did not proceed further forward than RANGOON. There were Korean and Japanese prostitutes in AKYAB, and some had been brought up to HPARABYIN and even ALECHANGYAW, but they had been strictly reserved for officers, a fact that had greatly angered the troops."

(Source available on request)

(5) Prisoner of War IMAMURA, Masayuki, Corporal, member of 55 Mountain Regiment, captured KWAON Ridge, 7 February 1944, stated :

" Usually visited the brothel on Sundays which was his day off. Officers could visit brothels any time in the week, but usually there were separate institutions for them, and in these he believed there occasionally were Japanese girls. The staff of the soldiers' brothel was normally of Korean women.

" No food or drink was served in the regulated brothels and each man received a preventive when he bought his ticket which cost 2 yen per hour. In addition, troop headquarters issued preventatives on application.

" The women were medically examined once weekly but men could also obtain ointment (similar to that in American E T tubes) on application to troop headquarters."

(Source available on request)

c. SUMATRA

Prisoner of War ISHIGURO, Kiyoichi (JA 145044), First Class Private, member of 228 Infantry Regiment, captured near PAPAKI Bridge, 11 November 1942, stated :

" There was an official ARMY BROTHEL IN BELAWAN in which two native women from NARUMONDA and six Chinese women served. Great precautions were taken against venereal disease."

(ATIS Interrogation Report, Serial No. 42, page 10)

d. South West PACIFIC Area

(1) Prisoner of War MIYAJI, Chikara (JA 145045), First Class Private, member of 144 Infantry Regiment, captured GIRUWA, 29 November 1942, stated :

" There were two brothels to his knowledge in RABAUL. They contained a total of about 100 Korean and Japanese girls."

(ATIS Interrogation Report, Serial No. 35, page 8)

(2) Prisoner of War KOJIMA, Masao (JA 100029), Sergeant, member of 50 Antiaircraft Regiment, captured TROBRIAND ISLANDS, 21 March 1943, stated :

" Although brothels were provided by the Army, there was only one woman to about 2000 troops; consequently, only officers were accommodated."

(ATIS Interrogation Report, Serial No. 175, page 10)

(3) Prisoner of War AOKI, Yoshio (JA 145427), Superior Private, member of 50 Independent Antiaircraft Battalion, captured off NEW GUINEA coast, 6 March 1943, stated :

" There were approximately 20 brothels in RABAUL, five in KOKOPO Area andt he remainder in town. Inmates were all Japanese women. The brothels were mainly patronized by the officers; men could rarely gain admittance. Prices were officers 5 yen and men 1 yen."

(ATIS Interrogation Report, Serial No. 99, page 15)

(4) Prisoner of War MAEKAWA, Yasuo, Petty Officer First Class, member of Tug NAGAURA, captured off KAVIENG, 22 February 1944, stated :

" Prostitutes in RABAUL had been sent away several months before he left because of the danger from bombing."

(SOPAC Interrogation Report, Serial No. 0895, page 10)

(5) Prisoner of War KASAHARA, Hiroshi (JA 145153), Sergeant, member of 41 Regiment, captured KUMUSI RIVER, 7 January 1943, stated :

" There were brothels in MANILA and DAVAO, containing Korean women. Although these establishments were authorized by the Army, prisoner of war thought that profits went to the proprietors."

(ATIS Interrogation Report, Serial No. 78, page 7)

MYITKYINA (about January 1943). There were already two brothels established in MYITKYINA, so altogether there were three brothels with 63 girls in all: prisoner of war's house, known as KYOEI, with 22 Korean girls.; the KINSUI house, with 20 Korean girls; and the MOMOYA house with 21 Chinese girls, who had been purchased from CANTON on the same conditions as the Koreans. There were Japanese girls in houses in the rear areas, as for example at MAYMYO where they formed two of the eight houses there, but none in the forward areas.

"Every 'comfort girl' was employed on the following contract conditions. She received fifty percent of her own gross takings and was provided with free passage, free food and free medical treatment. The passage and medical treatment were provided by the Army authorities, the food was purchased by the brothel owner with the assistance of the Army supply depots. The owners made other profits by selling clothing, necessities and luxuries to the girls at exorbitant charges. When a girl is able to repay the sum of money paid to her family, plus interest, she should be provided, with a free return passage to KOREA, and then considered free. But owing to war conditions, no one of prisoner of war's group had so far been allowed to leave; although in June 1943, 15 Army Headquarters had arranged to return home those girls who were free from debt, and one girl who fulfilled these conditions and wished to return was easily persuaded to remain.

"In prisoner of war's house the maximum gross takings of a girl were around 1500 yen per month, the minimum around 300 yen per month, or by rule of the house, the girl had to pay to the brothel owner a minimum of 150 yen per month.

"The scale of charges and time-table was fixed by instructions from the regiment, the time-table being so contrived that officers, noncommissioned officers and men would not meet each other at the same time. The schedule was strictly adhered to; and noncommissioned officers and men were supposed to visit the brothel only once weekly, officers as often as they wished. Payment was made on a ticket system, the girl retaining the ticket, which was of cardboard about two inches square, bearing the name of the house, the regimental seal, and the price of the ticket. In prisoner of war's house the schedule was originally laid down as follows:

Soldiers	1000-1500 hours	charge	1.50 yen
Noncommissioned officers	1500-1700 hours	charge	3 yen
Officers	2100-2359 hours	charge	5 yen
Officers	2359 morning	charge	20 yen

"But on orders of Colonel MARUYAMA, the charges were later reduced as follows, the time-table remaining as before.

Soldiers	1.50 yen
Noncommissioned officers	2 yen
Officers	5 yen
Officers midnight morning	10 yen

"The house was controlled by 114 Infantry Regiment, Captain NAGASUE of regimental headquarters being the liaison officer in charge. Usually two men of regimental headquarters were detailed to the house for the purpose of identification of those frequenting the brothel, although men of other regiments were permitted to visit the brothel if they happened to be in a party of 114 Infantry Regiment men. A military policeman was also on patrol duty at the house. The daily attendance at prisoner of war's house was 80 to 90 noncommissioned officers and men and 10 to 15 officers.

"In the brothels, liquors (local variety) were sold freely to the men, but the military police personnel took care that there was no excessive drunkenness or quarrels. If in spite of this control a man drank too much, the military policeman usually took him out of the house. Occasionally quarrels also broke out and were similarly suppressed.

"In MAYMYO similar regulations were in force, but owing to the large number of units stationed there, some of the houses had definite scheduled days for specific units. For example, a house of Japanese girls, the DAI ICHI FURUSA, had the following schedule:—

Sunday:—	18 Division Headquarters Staff
Monday:—	18 Division Cavalry Regiment
Tuesday:—	18 Engineer Regiment
Wednesday:—	Day-time medical inspection then free. Evenings, officers only
Thursday:—	18 Division Medical Unit
Friday:	18 Maintenance Artillery Regiment
Saturday:—	18 Division Transport Regiment

"Another brothel, the SUIKO EN, was reserved for officers only.

"There was a strict order for the use of contraceptives; so that according to prisoner of war, cases of venereal diseases were due only to the carelessness of the soldiers themselves. During the one and one-half years prisoner of war was running the house in MYITKYINA, there were only six cases of venereal disease, who were sent to the Medical Officer of 2 Field Hospital 18 Division for treatment. There were some cases of venereal disease among the soldiers of 114 Infantry Regiment, but prisoner of war never had any trouble with regimental headquarters on this score.

"During their visits to the brothels, troops rarely discussed military subjects, preferring to escape from their normal military surroundings. Prisoner of war said he never had a chance to overhear any interesting military secrets, and considered this was due to the presence of the military police, and that the men were afraid to talk freely, even if they had anything to say. The usual subjects of complaint among the men were criticisms of their officers, lack of supplies and homesickness.

"The girls had seen some Allied propaganda leaflets but had not read them, except that one girl remembered one about the hopeless situation in MYITKYINA which at the time she did not believe. They had not heard any Forward Broadcasts, but remembered the men openly discussing a 'radio broadcast'.

"On 31 July, about midnight a party of 63 girls from the three brothels in MYITKYINA, and the brothel owners, etc., began their evacuation from MYITKYINA. The girls wore dark green Army clothing on top of their civilian clothes. They crossed the IRRAWADDY in ten small boats. The majority of the remaining troops had already departed from MYITKYINA, but the sick and wounded were left behind. The girls remarked on this point 'It was no use to get them across, because once across these soldiers couldn't walk. It was better to float them down the

However, officers may make use of the brothel after 1930 daily.

"6. Division of time on the days assigned to the various units is as follows:

Enlisted men	— from 1200 to 1700
Noncommissioned officers	— from 1200 to 1900
Officers	— after 1930

"7. Those making use of the brothel must observe strictly the following provisions.

"a. Maintaining their generosity as military men and heeding the preservation of military secrets.

"b. They must not make demands of those working in the brothel other than as regulated, and they must not be drunk or disorderly.

"c. Eating and drinking at the brothel is prohibited.

"d. After a visit to the brothel, they will disinfect themselves, in accordance with regulations, by means of the prescribed antiseptic solution.

"8. Access to the brothel will be denied in the future to those violating any of the foregoing provisions."

(ATIS Document No. 16683, page 53)

(5) *RABAUL.* Extract from file of miscellaneous items containing instructions regards to Navy brothel at RABAUL, undated, owner 15 Antiaircraft Defense Unit. "Precautionary Items pertaining to the Navy brothel at RABAUL.

"1. The Navy brothels (special warehouses) are as follows: refer to a separate diagram.

"a. HIGASHI RASHUNSO (above Navy warrant officers), TAKEISHI-Unit (Navy petty officers), KITA RASHUNSO (employees and laborers).

"b. No. 1 TOKOWASO (senior officials).
No. 2 TOKOWASO (officials of HANNIN rank)
No. 3 TOKIWASO (workers and transport gang)

"2. Trading hours.

TAKEISHI Unit and the No. 2 TOKIWASO from 0300 to 1800. However, only officials of HANNIN rank can remain until 0600 the following morning.)

"3. Rates (See Figure 10).

Classification		One girl (for 30 minutes)		(One girl) (for an hour)		Over night from 2200 to 0600	
		Japanese	Korean	Japanese	Korean	Japanese	Korean
TAKEISHI Unit No. 2 TOKIWASO	Noncommissioned officers and officials	2.50	2.00	4.00	3.50	10.00	10.00
	Sailors	2.00	1.50	3.50	3.00		

Note: Overnight only for HANNIN officials.

Figure 10. Rates of Rabaul Brothel.

"4. Drinking of liquor within the special warehouse is forbidden.

"5. Those who seek pleasure will purchase tickets at the window and exchange them for 'B' tickets with the hostess.

"6. Hostesses will refuse pleasure to those who do not use prophylactic rubbers.

"7. Each man must carry his own prophylactic rubbers. (In case of shortages at the canteens, there are some at the brothel for sailors of the unit at ten sen per package.)

"8. The uniform of petty officers and sailors, when entering and leaving the special warehouses, will be dress uniform.

"9. Violations of any of the above regulations by the hostesses will result in the withdrawal of their right to practice."

(ATIS Current Translation No. 100, page 78).

b. BURMA

(1) A prisoner of war, a civilian brothel-owner, captured with his wife and twenty army prostitutes near WAINGMAW on 10 August 1944, stated:

"Prisoner of war, his wife and sister-in-law had made some money as restaurant keepers in KEIJO, KOREA, but their trade declining, they looked for an opportunity to make more money and applied to Army Headquarters in KEIJO for permission to take 'comfort girls' from KOREA to BURMA. According to prisoner of war, the suggestion originated from Army Headquarters and was passed to a number of similar Japanese 'business men' in KOREA.

"Prisoner of war purchased 22 Korean girls, paying their families from 300 to 1000 yen according to the personality, looks and age of the girl. These 22 girls were of ages from 19 to 31. They became the sole property of prisoner of war and the Army made no profits from them. Headquarters, Korean Army gave him a letter addressed to all military headquarters of the Japanese Army, requesting them to furnish any assistance he might require, transport, rations, medical attention, etc.

"Leaving his sister-in-law to carry on the restaurant, prisoner of war and his wife, with their 22 girls, embarked at FUSAN on 10 July 1942 in a group of 703 girls, all Korean, and some 90 Japanese men and women, all of them of the same base sort as himself. They sailed on a 4000 ton passenger ship in a convoy of seven ships. Free passage tickets were provided by Army headquarters, but prisoner of war paid for all meals during the voyage. They called at FORMOSA, where 22 other girls bound for SINGAPORE were taken on board, and at SINGAPORE they transferred to another ship, arriving at RANGOON on 20 August 1942.

"At RANGOON they were divided into groups of 20 to 30 girls in each and dispersed to various parts of BURMA, each group being attached to various regiments, units or formations, so that each had its own brothel (s).

"Prisoner of war's group was attached to 114 Infantry Regiment. They spent some months at GOUNGOO, MEIKTILA, and at MAYMYO, following their trade, and then arrived at

Name	BUKUTO KUN (?)	KYO TANSHU (Unclear)	RIKORAN	RIYOSHI YAMAGAWA
Date of Birth (Age)	Nov. 7, 1919	June 18, 1913	Sept 30, 1926 (19 years old)	Jan 8, 1905
Former Occupation	Prostitute	Cook	Female Cotton Mill Operator	Restaurant
Former Residence	KITA SHISEN St BUKO	CHUNGSHAN St HANKOW	NANKING St SHANGHAI	CHOSEI St (Phonetic) HANGSHOW
Permanent Residence	KEISHO NANDO KOREA	HOKUSEI-GUN (Phonetic) KEIKIDO KOREA	CHUSEI St (Phonetic) SOOCHOW (TN: SU-CHOW)	AKUMI-GUN YAMAGATA KEN
Occupation	Common Law Wife	Clerk	Licensed Prostitute	Operator
Stage Name			TATSUKO	

Figure 9—CHART NO. 5, LIST OF EMPLOYEES.

"8. The times and day when noncommissioned officers and enlisted men may go to brothels, as well as times when brothels will be open and prices to be charged is shown on a separate page.

"9. This plan will go into operation on 20 June 1942.

"10. These regulations are effective simultaneously with the beginning of the plan's operation.

"Brothels in areas outside TACLOBAN will conform to these regulations.

"Hours during which noncommissioned officers may go to brothels: 1300 to 2400; hours for enlisted men, 1300 to 1800.

Monday — Enlisted men
Tuesday — Noncommissioned officers
Wednesday — Enlisted men
Thursday — Noncommissioned officers
Friday — Enlisted men
Saturday — Noncommissioned officers
Sunday — Enlisted men and noncommissioned officers; until 1700 for enlisted men; 1700 to 2000 for noncommissioned officers.

"Charges:
For enlisted men — 1 yen, 50 sen.
For noncommissioned officers — 2 yen.
For officers — 3 yen.
(One hour shall be the standard time.)

"Notes:

"1. Noncommissioned officers and enlisted men going to brothels shall have leave passes (special).

"2. Use of brothels by Army civilian employees shall be during other hours, and fees shall be those for noncommissioned officers."
(*ATIS Document No. 214101, pages 98, 99*)

(4) *BURAUEN.* Portion of a bound handwritten and mimeographed file, the extract being entitled "Brothel Regulations", dated August 1944, issued by BURAUEN Sector Brothel, reproduced by 114 Airfield Battalion:

"1. This brothel is opening in BURAUEN Town, under the supervision of the TACLOBAN Sector Air Sector Commanding Officer.

"2. Use of the brothel is limited to military personnel or Army civilian employees of air and related forces who have both medical certificates issued by the various forces and contraceptives. However, requests for the use of the brothel by ground troops of this sector can be granted after consultation by the committee upon receipt of an authorization from the sector commanding officer.

"3. The following officers will be placed in charge of the brothel and 98 Airfield Battalion will be responsible for its operation:

Supervision — TACLOBAN Air Sector Commanding Officer
Committee Chairman — ARAKI, Takashi 98 Airfield Battalion Commanding Officer.
Committee Members — ISHIKAWA, Katsumi, Sector Paymaster. Captain YUKI, Yasuyuki, Sector Medical Officer. SAWAI, 98 Airfield Battalion Adjutant. Second Lieutenant SAKAI, Noboru, 98 Airfield Battalion. Second Lieutenant (Medical) SODA, Shoji, 94 Airfield Battalion. Second Lieutenant (Paymaster) KIKUCHI, Dan, 98 Airfield Battalion.

"4. Those making use of the brothel will use the brothel cards prepared beforehand by the committee and will pay the following fees:

"a Time cards (40 minutes)
Enlisted men — 1 yen 50 sen
Noncommissioned officers — 2 yen 50 sen
Army Civilian Employees — 4 yen
Officers — 5 yen

"b Overnight card (after 2300 constitutes a night's lodging).

"5. Days designated for the various units are as follows:

Monday — Navigation Air Force, 98 Airfield Battalion.
Tuesday — Air Signals Unit, 114 Airfield Battalion.
Wednesday — KAZE Force.
Thursday — Airfield Survey and Construction Unit Sector Headquarters.
Friday — 114 Airfield Battalion.
Saturday — 98 Airfield Battalion.
Sunday — KAZE Force.

EXAMINATION REGISTER		House Name				
Date of Examination	Month	Day	From To	Hour Hour	Minute Minute	
Person Examined						
Decision	Passed	Name	Diseased		Name	
Name of Diseased Person	Name of Disease	Remarks:				
YOSHIKO (Name used as example)	Stage Syphilis					
YASUKO (Name used as example)	Tracheal gonorrhea (気管淋)					
Other matter for reference						
Examining Medical Officer	Army Medical Officer .....Rank xxxxxxxxxx Seal					

Figure 6—CHART NO. 2. MEDICAL INSPECTION REPORT FORM.

Application for Army's Special Brothel Operator's License.
Permanent Residence
Present Residence
Name of house .....
Name.....
Date of birth

I hereby make an application, with the contract attached herewith, to procure a license to operate a brothel in your sector as follows:

1. Place of business.
2. Opening date of business.
3. List of prostitutes.
4. Capital.

Year Month Day
19—
Applicant Name Seal

To: South Sector Billet Commander.

Figure 7—CHART NO. 3. APPLICATION FORM.

CONTRACT

On this date, I shall agree, upon receiving a license to operate the Army's Special Brothel, to observe strictly the prescribed regulations and the instructions to refrain from causing any inconveniences, and to comply to an order for suspending or discontinuing this business when called upon to do so for the convenience of the Army.

Year Month Day
19—
Name Seal

To: South Sector Billet Commander.

Figure 8—CHART NO. 4. CONTRACT FORM.

share equally the proceeds of the work done by the prostitutes.

"9. The prostitutes' board, light, fuel and bedding will be paid by the operator; but their clothes, hairdressing, cosmetics and other miscellaneous expenses will be paid by the prostitutes themselves. However, expenses for medical treatment for diseases acquired in the course of the work will be shared equally by the prostitutes and the operator.

"10. In accordance with the form in the annexed chart, the operator will make out a work statement (two copies) as per Chart No. 1 (See Figure 5) for each individual, and submit it to the billet commander every Saturday.

"11. When conducting business, the operator will present the following papers:

"a. Request for permission, Form in Chart No. 3 (See Figure 7).

"b. Contract Form in Chart No. 4 (See Figure 8).

"c. List of names of employees, Form in Chart No. 5 (See Figure 9)."

(*SOPAC Translation, Serial No. 0129, Item No. 1033, pages 1-7*)

From Month Day
To Month Day

BROTHEL BUSINESS CONDITION REPORT

Name of Brothel Owner (Seal)
Prostitute's Name (Seal)

Classification		Private		Noncommissioned Officer		Civilian Employee		Officers		TOTAL	
Mo	Day	Person	Price	Person	Price	Person	Price	Person	Price	Person	Price

Amount Shared Operator YEN SEN Seal Prostitute YEN SEN Seal

Figure 5. Chart No. 1, Work Statement.

(3) *TACLOBAN.* Portion of a bound mimeograph file, the section being entitled "TACLOBAN Brothel Regulations," undated, issued by MATSUNAGA Force, owner and unit not stated:

"1. These regulations set down the provisions for the operation of brothels in TACLOBAN.

"2. Places called 'brothels' in these regulations are special brothels operated with Filipino women (licensed prostitutes).

"3. The commanding officer and the adjutant of the garrison unit will have control over the supervision and direction of the brothels, and they will have Japanese associations operate them.

"4. The force medical officer will be responsible for the supervision and direction in matters of hygiene. The women will be examined every fifth morning.

"5. Only military personnel and army civilian employees may make use of these brothels.

"6. Those who operate the brothels must observe strictly the following provisions:

"a. Cleanliness and neatness of bedding, as well as its disinfection by sunlight.

"b. Perfection of facilities for prophylaxis by washing.

"c. Prohibition of added operation of food and drink shops.

"d. Prevention of indulgence by those not using a condom.

"e. Prohibition of activity by diseased women.

"f. Prevention of activity other than as regulated.

"g. Reporting by those operating the brothels to the adjutant on daily business conditions.

"7. Those who intend to make use of the brothels must observe strictly the following provisions:

"a. Dress shall be the liberty uniform.

"b. Those who are under the influence of liquor and those who are disorderly are prohibited from entering the brothels.

"c. Carrying of food or drink is prohibited.

"d. There will not be any acts of violence or coercion either against the women in the brothels or against the operators of the brothels.

"e. Payment will be made in war notes in advance.

"f. They will make assurance doubly sure in the prevention of venereal disease by making certain that they wash, in addition to using a condom.

"6. Business hours are fixed as follows:
Privates - from 1000 to 1600
Noncommissioned officers—from 1610 to 1840

"However, for noncommissioned officers living outside of the camp, it will be opened until 2030.
"However, civilian employees will follow the above schedule depending upon their position.

"7. Daily schedule of use for each force is as follows:

Sunday:	Regimental Headquarters, forces under direct control of regiment
Monday:	1 Battalion, 4 Field Hospital
Tuesday:	2 Battalion and other forces
Wednesday:	Regimental Headquarters, forces under direct control of regiment, 3 Battalion
Thursday:	1 Battalion (however, during the morning, it will be after the medical examination)
Friday:	2 Battalion, 4 Field Hospital
Saturday:	3 Battalion

"However, on holidays, this schedule will not be completely followed.

"8. All noncommissioned officers and privates will not generally be permitted to stay overnight.

"9. The first Thursday of each month will officially be made the day of rest for the prostitutes.

"10. The senior medical officer of regimental headquarters will conduct a venereal examination of the prostitutes and a physical inspection according to paragraph 3, on Thursday morning of each week.

"The senior medical officer may, depending upon the situation, designate a battalion medical officer to conduct the medical examination.

"11. The examining officer will hold a venereal examination in accordance with the regulations governing the venereal examination of special brothels (6 Division Medical Officer Instructions B #105, and special regulations, from paragraphs 13 to 16, governing the control of the special brothel to visiting units). He will install medical facilities in accordance with paragraphs 13 and 18 of regulations governing the control of the brothel to visiting units, and will supervise and control the same.

"12. The inspecting officer will report the results of the venereal examination each time to the billet commander. Report form as per Chart No. 2 (see Figure 6).

"13. The prostitute will possess licenses made as follows:

BUSINESS LICENSE

——Brothel Entertainer's name

This is to certify that the above person is permitted to conduct business.

SOUTH SECTOR BILLET COMMANDER

"14. Unlicensed prostitutes will be strictly prohibited from plying their trade.

"15. Prophylaxis and condoms will always be used in the brothel. If anyone is discovered not using them, the patron, naturally, the operator and the prostitute concerned will be severely punished.

(b) *Regulations Governing the Operation of the Special South Sector Billet Brothel:-*

"1. The operator will strictly observe the regulations governing the control of the Special Brothel for visiting units, and the regulations governing the use of the Special South Sector Billet Brothel. Moreover, these regulations governing the operation will be strictly observed.

"2. If a person working in the brothel conducts herself improperly or acts in a manner contrary to regulations, she will be suspended or dismissed from her business.

"3. In accordance with the regulations governing the use of the brothel, the prostitutes will be examined for venereal diseases every Thursday morning, and also the operator and his family will be given a physical examination twice a month (first and third Thursdays).

"4. Prostitutes found unfit by the medical officer will post a placard written 'Unfit' at the entrance to their rooms; they will rest and recuperate, and will be prohibited from making contacts until permission is granted.

"5. The operator will provide the following articles:
Condoms, vaseline, bedding
— each sleeping room
Cuspidors
— each sleeping room and ante-chamber
Washing utensils and medicines
— latrine and designated places
Rate chart
— ante-chamber
Name cards of prostitutes
— ante-chamber

"6. The sale of food, refreshments and other articles by the prostitutes to patrons is strictly prohibited.

"7. The operator and prostitutes will strictly observe the following items:

"a. The disinfectant will be either a potassium permanganate solution having a strength of over 2000 or a 0.5 per cent cresol soap splution, which will be put in water cans or vessels and placed in latrines and designated places.

"b. The interior and exterior of the brothel especially will be kept clean and articles will be properly arranged.

"c. Prostitutes will wash their private parts each time.

"d. Anyone not using a condom will not be permitted contact.

"e. Patrons will not be admitted during menstrual periods.

"f. A bath will be taken every day without fail.

"g. Clean bedding will be used; moreover, sunlight will always be used to disinfect them; clean white cloth spreads and pillow covers will be used, and care will be taken in other sanitary measures.

"8. The prostitutes and the operator will

to get under way within one hour after the designated time, the manager, even though the time is already allotted, may cancel the agreement and allot the time to any new takers.

"11. The Officer in Charge of MANILA Sector Line of Communications Duties, will, as a general rule, not permit the employment of minors as geisha or waitresses. In certain circumstances however, minors may be employed as maids. The permission of the Officer in Charge of MANILA Sector Line of Communications Duties is required for any employment of minors as geisha, waitresses or maids.

"12. When managers request permission to employ minors, the matter will be handled in conjunction with the duty officers of the MANILA Sector line of communications.

"13. Hours of business will be up to 2400 hours (up to 2300 hours for restaurants).

"14. Price lists for special clubs are given in separate sheet one.

"15. All other regulations will be identical with those for authorized restaurants and houses of relaxation."

(*ATIS Document No. 17910, not previously translated*)

(b) Extract from bound mimeographed and handwritten file of drafts of orders and bulletins belonging to MANILA Army Air Depot, dated 14 August 1944, to 14 October 1944, classified, "Secret".

"The use of the Air House (KOKUSO) will be permitted, subject to the following rules:

"1. Patrons must procure health certificate and sanitary sack from the dispensary.

"2. Prices will be as follows:
(Time card, 40 minutes)
Enlisted men - 1.50 yen
Noncommissioned officers - 2.50 yen
Civilian employees - 4.00 yen

"3. Days and hours
a. Days
Wednesdays
Noncommissioned officers and above, attached to headquarters.
Half of 1, 2, 3 and 4 Administrative Duty Squads.
Sundays
Noncommissioned officers and above, attached to working units.
Kitchen personnel.
Half of 5, 6, 7 and 8 Administrative Duty Squads.

b. Hours
Enlisted Men
From 1200 hours
To 1700 hours
Noncommissioned officers
From 1200 hours
To 1900 hours

"4. The following rules will be strictly observed:

a. The dignity of the military forces must be upheld. The security of military secrets must be borne in mind.

b. There must be no acts of violence or drunkenness, nor any unreasonable demands made of the house employees.

c. There must be no eating or drinking within the house.

d. Necessary antiseptic measures with the prescribed solution must be taken.

"5. Anyone violating the above rules will thereafter be denied entrance to the house."

ATIS Bulletin No. 1863, Page 8)

2 *South Sector Area.* Regulations governing the use of the Special South Sector Brothel and regulations governing the operation thereof, issued by South Sector Guard Headquarters probably in SHANGHAI Area).

(a) *Regulations governing the use of the Special Brothel in the South Sector Billet.*

"1. These regulations provide for the use of the brothel opened in the South Sector Billet.

"2. Those, other than military personnel, civilian employees, and persons with special permission, those who commit violence through intoxication, those who annoy others and are dangerous, are strictly forbidden to use this brothel.

"3. It is forbidden to hold banquets in the brothel, or to carry liquor or food thereto.

"4. Inspection of the brothel is prohibited to anyone except officers authorized by the billet commander.

"5. Rates are fixed as per the following chart (Figure 4).

Classification	Time	Rate			Summary
		Japanese	Koreans	Chinese	
Officers and warrant officers	1 hour	3.00	3.00	2.50	1. Overnight stay will be from 2200 until 0600 of the following morning. 2. Persons staying longer than one hour will pay double for each hour.
	Overnight stays				
	From 2400	10.00	10.00	7.00	
	From 2200	15.00	15.00	10.00	
Noncommissioned officers	1 hour	2.50	2.50	2.00	
	30 minutes	1.50	1.50	1.00	
Privates	1 hour	2.00	2.00	1.50	
	30 minutes	1.50	1.50	1.00	

Figure 4. Established Rates of South Sector Billet Brothel

Note: 1. Civilian employees will pay the fixed rates in accordance with their position.

2. Customers are not to pay more than the above fees to the brothel operators or to prostitutes.

examinations may also be carried out. Simultaneously, a complete physical examination, especially for tuberculosis, contagious diseases (trachoma), contagious skin diseases and the like, may be given.

"27. Managers of houses of relaxation will provide preventives for venereal disease, and have the hostesses (geisha and waitresses) and the guests make use of them.

"28. Managers of houses of relaxation will be responsible for providing the following measures of venereal disease prevention:

"a. Disinfectant (2000 strength potassium permanganate solution or 0.500 cresol soap solution) will be put in containers and left in the lavatories and other specified places.

"b. The houses will be kept particularly clean within and without, and commodities will be provided.

"c. The hostesses will wash and disinfect the necessary portions of the houses weekly.

"d. Association with the hostesses will be forbidden to those who refuse to use condoms.

"e. Hostesses are forbidden to have intercourse during menstrual periods.

"f. Baths will be taken daily.

"g. Vaseline will be provided in the hostesses' rooms.

"h. Only clean bedding will be used, and it will be aired frequently. Extra bedding will be provided. White spreads and pillow covers will be used, and will be kept clean. Any other hygienic measure is also recommended.

"i. Particular attention will be paid to light and fresh air in the rooms.

Part Five—Discipline

"29. For the purpose of maintaining good order, the Officer in Charge of MANILA Sector Line of Communications Duties will have officers (army physicians) carry out inspections of the establishments from time to time. When necessary, the assistance of the military police will be enlisted.

"30. Hostesses (prostitutes and waitresses) may not leave the designated areas without permission from the line of communications officer. They are also forbidden to have intercourse beyond the premise of the houses of relaxation. They must have the permission of the Officer in Charge of MANILA Sector Line of Communications Duties to attend dinner-parties for soldiers or army civilian employees.

"31. Managers of houses of relaxation will not supply food or liquor to guests except for specially designated individuals.

"32. Persons about to use the facilities of the houses of relaxation will not be allowed to bring in any liquor.

"33. No selling of food or drink will be permitted within the houses of relaxation, except in specially designated cases.

"34. Entrance to or permission to use the facilities of the houses of relaxation may be refused the following persons:

"a. Intoxicated persons.

"b. Persons carrying liquor.

"c. Other persons who may exert bad influence.

"35. Persons frequenting the restaurants must observe the following regulations:

"a. Only two beers (four glasses) per person will be allowed.

"b. Effective measures will be used to preserve the peace, and no actions unbecoming a soldier will be countenanced.

"c. All furnishings will be handled with care.

"d. There will be no discussion of military matters.

"e. Bills will be paid with army tickets.

"36. Persons frequenting the houses of relaxation must observe the following regulations:

"a. Payment will be made in advance with army tickets.

"b. Boisterous or loud singing or any such other action unbecoming a soldier or an army civilian employee is forbidden.

"c. Condoms or other preventives must be used for intercourse. To prevent disease, further care must be taken to insure proper laundering.

"d. The hostesses will not be kissed.

"e. Military security measures must be observed.

"37. Infraction of these rules will entail withdrawal of permission to continue business.

Part Six—Regulations for Special Clubs

"1. These regulations refer to special clubs within the MANILA Sector.

"2. Special clubs will be taken to mean food-stores, restaurants and houses of relaxation established to serve officers and high-ranking civilian officials, under the supervision of the Officer in Charge of MANILA Sector Line of Communications Duties with the approval of army headquarters.

"3. Special clubs are divided into three categories:

"a. Those that provide both restaurant and room facilities.

"b. Those that provide restaurant and 'relaxation' facilities.

"c. Those that provide only restaurant facilities.

"4. Only officers and high-ranking civilian officials (and those regarded as high-ranking civilian officials; may use the facilities of these special clubs. Clubs in (a) category above are for the use of naval officers of field grade and up, and clubs of (c) category above are for the use of naval officers and high-ranking civilian officials of the navy.

"5. Special clubs will not serve persons other than those mentioned above.

"6. Person intending to use these special clubs must therefore be prepared to identify themselves as officers or high-ranking civilian officials or the equivalent of the latter.

"7. Managers will refuse the facilities of the clubs to those not prepared to so identify themselves.

"8. In order to preclude the use of the clubs by the local population, the Officer in Charge of MANILA Sector Line of Communications Duties may have his designated officers enlist the assistance of military police for purposes of identifying customers. Prospective customers will be prepared to identify themselves on demand.

"9. Person wishing to hold dinner-parties at the special clubs will announce in advance the names of the representatives of the forces to which they are assigned, and prepare a statement as to the date and time contemplated.

"10. In cases in which the dinner-party fails

of anyone for reasons of health, they will so inform the Officer in Charge of MANILA Sector Line of Communications Duties. The latter will facilitate the return home of such persons.

"11. Managers of houses of relaxation will make arrangements for the following:

"a. Bedding in all bedrooms.

"b. Cuspidors in all bedrooms and waiting-rooms.

"c. Sterilizers and medicines in lavatories and other designated places.

"d. Regulations and price charts in the waiting-rooms.

"e. Hostesses' (geisha and waitresses) name-certificates in waiting rooms and individual rooms. (Those of diseased hostesses will be marked in red.) Apart from the above, the establishment of entertainment and rest facilities for guests and the inauguration of other means of relaxation will be encouraged.

Part Three—Management

"12. Managers will refuse admission to all persons who are not soldiers or army civilian employees. Authorized restaurants and houses of relaxation will have separate facilities for officers and high ranking officers, privates, junior and other civilian officials and others. However, the facilities for noncommissioned officers, privates, junior and other civilian officials (except for special individuals) will be taken over by officers and high ranking civilian officials after 2100 hours.

"13. Managers will present guests of the houses of relaxation with a 'relaxation-ticket' in exchange for an army ticket, and will record all receipts of these 'relaxation-tickets' by the hostesses.

"14. Hours of operation for authorized restaurants and houses of relaxation are as follows:

"a. *Restaurants.*-

"Noncommissioned officers, privates, junior and other civilian officials—from 1000 hours to 2200 hours.

"Officers and high ranking civilian officials—from 1000 hours to (Not clear: either 2200 or 2400 hours).

"b. *Houses of relaxation.*- up to 2400 hours.

"15. Prices at authorized restaurants and houses of relaxation will be determined by the Officer in Charge of MANILA Sector Line of Communications Duties with the approval of the army. Prices are shown on Appendix A, Form No. 8. Managers and employees will demand no other prices than these.

(16) Half of the income of the hostesses will be allotted to the managers.

"17. Managers of houses of relaxation will be responsible for all income in accordance with the daily total earning, chart (Appendix A, Form No. 9), and will record the apportionment of all earnings.

Managers of authorized restaurants and houses of relaxation will make the following reports: authorized restaurants—daily report (Appendix A, Form No. 10); houses of relaxation—daily report (Appendix A, Form No. 11).

"18. On the last day of each month, managers will submit a report on business conditions to the Officer in charge of Manila Sector Line of Communications Duties. The form of this report is shown on on Appendix A, Forms No. 12 and 13.

"19. Expenses of food, light, firewood, charcoal and bedding for the hostesses (geisha and waitresses) are the responsibility of the managers. The hostesses will take care of their own expenses for clothing, hairdressing, cosmetics and the like. However, medical expenses for illnesses arising from overwork will be met seventy percent by the managers and thirty percent by the hostesses. The diagnosis of an army physician will be the basis for determining whether any particular illness is due to overwork.

"20. The names and assigned units of revellers guilty of misconduct will be reported by the managers to the MANILA Sector Line of Communications Office.

"21. As far as possible, managers will encourage the hostesses (geisha and waitresses) to save money. The amount should be limited to 30 yen per month. This amount should not be increased except for persons who can present special reason.

"a. The object of such special reasons must be presented beforehand to the Officer in Charge of MANILA Sector Line of Communications Duties for his approval.

"b. These reasons will be recorded under 'Notes' in the monthly report.

"c. A statement on income and other written evidence of the reasons for any such increases will be prepared by the managers and submitted to the MANILA Sector Line of Communications with the monthly report for safekeeping.

"d. The savings of those who do not draw their pay in advance will be recorded on the monthly report.

"e. Persons contracting considerable medical expense through hospitalization will report the type of their illness, the number of days under treatment and the expenses incident thereto, together with a statement of their income.

"f. The diagnosis of an army physician will be the basis for determining whether any particular illness is due to overwork.

"22. One holiday a month may be given to employees. This will be reported in all cases to the Officer in Charge of MANILA Sector Line of Communications Duties.

Part Four—Hygiene

"23. Hostesses will ordinarily be examined by an army physician once a week at a designated place. Hostesses who are nor geisha will be examined twice a month. Other employees will be given a physical examination once a month. Expenses incident to these examinations will be taken care of by the managers. It may also be necessary at times to examine such other employees as maids.

"24. The army physicians will make the necessary reports on health after each examination (Appendix A, Form No. 14), and affix their seals thereto.

"25. Persons failing the physical examinations or receiving unfavorable diagnosis will be forbidden to entertain guests while under treatment.

"26 Apart from the usual examinations and diagnoses for venereal disease (syphilis, gonorrhea, soft chancre, quartan syphilis), bacteria

KOROR where they had places of amusements, shops, cinemas, and brothels: He occasionally went to ARAKABESAN:"
(ATIS Interrogation Report, Serial No. 101, page 8

c. South West PACIFIC Area

"(1) Prisoner of War YOSHIDA, Kazuo, Lance Corporal, member of 6 Field Artillery Regiment, captured TOROKINA Area, 23 March 1944, stated:

"During the summer of 1943, several Japanese actresses arrived at RABAUL to entertain Japanese troops. Heard that same troupe came to entertain air corps personnel and some officers at ERVENTA. Names of actresses in troupe known to prisoner of war: TAKAMINE, Miyeko; YANAKI, Sakko. After staying two to three days at ERVENTA, they returned to JAPAN because of American bombing."
(SOPAC Interrogation Report, Serial No. 01459, page 36)

"(2) Prisoner of War KISHIMOTO, Hachiro, Superior Private, member of 23 Infantry Regiment, captured BOUGAINVILLE, 6 April 1944, stated:

"In CHINA, the so-called Entertainment War Relief Groups (probably similar to American United Service Organization organized by politicians, veterans of war, and other associations, were sent to various combat units. They usually brought Geisha girls with them and held stage shows. Famous actors, actresses, singers, and comedians visited soldiers to entertain but they had not come as far as BOUGAINVILLE."
(SOPAC Interrogation Report, Serial No. 01122 page 3)

9. BROTHELS

a. Regulations

1. *MANILA*

a. Bound printed booklet[1] entitled "Rules for Authorized Restaurants and Houses of Prostitution in MANILA", issued February 1943 by Lieutenant Colonel ONISHI, MANILA District Line of Communication Squad.

Part One—General Regulations

"1. In these regulations, authorized restaurants will be taken to mean those places designated by the Officer in Charge of MANILA Sector Line of Communications Duties, with the sanction of the army commanding general, as eating places for soldiers and army civilian employees. Houses of relaxation should be taken to mean those places designated by the Officer in Charge of MANILA Sector Line of Communications Duties, with the sanction of the army commanding general, which maintain hostesses (geisha or waitresses) for the entertainment of soldiers and army civilian employees.

"2. Managers may close down or suspend the operation of their establishments only with the permission of the officer in charge of MANILA Sector Line of Communications Duties.

"3. If and when the various managers meet with difficulties, the officer in charge of MANILA Sector Line of Communications Duties may either close the business or temporarily suspend it. In such cases, the managers will present a statement for recompense for any losses or for any other inconvenience.

"4. Authorized restaurants and houses of relaxation will be used only by soldiers and army civilian employees.

Part Two—Business Operation

"5. Persons planning to operate authorized restaurants or houses of relaxation must submit the following documents to the officer in charge of MANILA Sector Line of Communications Duties. Managers must be Japanese who have had some business experience.

"a. Application for permission to open business: three copies (Appendix A, Form No. 1).

"b. Statement of business plans: three copies (Appendix A, Form No. 2).

"c. Affidavit: three copies (Appendix A, Form No. 3).

"d. Personal history: three copies.

"6. Persons receiving permission to open business will thereupon determine the number of personnel needed, and will submit three copies of their business personnel list (Appendix A, Form No. 4), one copy of the personal histories of employees and three copies of requests for authorization of the hostesses (geisha and waitresses) (Appendix A, Form No. 5). When preparations are complete, the Officer in Charge of MANILA Sector Line of Communications Duties will be informed, and business may commence after the inspection of the establishment and the physical examination of the employees.

"7. Managers intending to change the personnel of their establishments must secure the permission of the Officer in Charge of MANILA Sector Line of Communications Duties. Hostesses (geisha and waitresses) wishing to leave the establishments must submit a request therefore (Appendix A, Form No. 6). When the hostesses (geisha and waitresses) and other employees are to be replaced, a request for permission to do so must be submitted (Appendix A, Form No. 7).

"8. Managers intending to increase the number of hostesses (geisha and waitresses), maids and others will so inform the Officer in Charge of MANILA Sector Line of Communications Duties. The date and time for the physical examinations by the medical athletics will be announced for each occasion. On completion of the physical examinations, the examination charts together with copies of personal histories or identification papers will be submitted to the Officer in Charge of MANILA Sector Line of Communications Duties. Permission is necessary before anyone joins the establishment.

"9. The location of and the buildings used as authorized restaurants and houses of relaxation must have the approval of the Officer in Charge of MANILA Sector Line of Communications Duties. In the future, managers who cannot maintain discipline may be removed. The Officer in Charge of MANILA Sector Line of Communications Duties will be informed of any repairs contemplated for army-controlled houses.

10 Hostesses (geisha, waitresses, maids) may, as a general rule, be re-hired at the expiration of their term of contract. (This does not apply to persons who have not been overseas at least a year). Those wishing to continue their employment will so notify the Officer in Charge of MANILA Sector Line of Communications Duties for his approval. When the medical authorities consider it suitable to discontinue the services

[1] The translation of a police report listing medical inspection of brothels consisting of a group of loose sheets which accompanied this document, although not actually part of the original, is relevant to the contents and has been reproduced as Appendix B.

7. MOVIES

(a) Prisoner of War YAMADA, Toshio, First Class Private, member of 124 Infantry Regiment, captured GUADALCANAL, 9 February 1943, stated:

"For morale purposes, the Japanese Army sends out motion picture caravans to Army stations. These have the necessary equipment to set up a projection unit at each camp. Traveling sound cars go about equipped with a phonograph, public address system, and the latest records."
(*SOPAC Interrogation Report, Serial No. 02330, page 64*)

(b) Prisoner of War KANAZAWA, Akira JA 1455351, Sergeant Major, member of 51 Field Engineer Regiment, captured TUTU, 8 April 1943, stated:

"51 Division carried a movie projector, and films were shown where electricity was available. During his stay in CANTON Area, his division saw movies, and stage shows were brought over."
(*ATIS Interrogation Report, Serial No. 289, page 33*)

(c) Prisoner of War MATSURA, Yakichi, Corporal, member of 143 Infantry Regiment, captured TATMAKHAL, 20 December 1943, stated:

"The only form of amusement for the soldiers in BURMA was supplied by Korean prostitutes. There are very few cinemas, no books, no talks or lectures. You came to BURMA to fight and to die, and but for an occasional visit to a brothel you are left to your own devices."
(*Source available on request*)

(d) Extract dated 26 December 1941, from handwritten routine orders belonging to 55 Transport Regiment:

"Theatricals to be held by SAKAMOTO Force (in GUAM)."
(*ATIS Bulletin No. 151, page 2*)

(e) Prisoner of War YOSHIDA, Kazuo, Lance Corporal, member of 6 Field Artillery Regiment, captured TOROKINA Area, 23 March 1944, stated:

"He had seen movies on one occasion on BOUGAINVILLE."
(*SOPAC Interrogation Report, Serial No. 01459, page 36*)

(f) Summary of mimeographed booklet entitled "General rules for inspection of movies", dated 12 April 1943, issued by Philippine Military Administration Inspectorate Department, kept by TACLOBAN Agency of same department:

"All movies to be shown in the PHILIPPINES are to be censored and approved by the Pacification Bureau of the Military Administration Inspectorate Department. The type, title, producer, length and summary of the picture are to be submitted to this bureau.

"Any pictures that endanger the respect or policies of the Imperial Army, threaten Japanese-Filipino or Japanese Axis cooperation, extol Communism, criminals or Americans are not to be shown or are to have the offensive portions cut.

"Regulations are given for submitting films for approval, and for the replies thereto. Diagrams of the application form and of the certificates of approval or disapproval of the films are given."
(*ATIS Bulletin No. 1757, page 7*)

(g) List of miscellaneous reels of captured Japanese films, all undated, captured LEYTE.

"Two reels of KODOMOGRAPH (newsreel for children) produced by ASAHI News.

"Three reels of Children's Newsreels.

"One reel entitled 'TOKYO OZUMO,' a filming of the SUMO wrestling contests.

"One reel entitled 'Young Students Walking Tour.'

"Six reels of film entitled 'The White Heron,' depicting a love drama of the late MEIJI Era.

"Two reels of films entitled 'Married Life' and 'Light and Shade' respectively, being modern type domestic dramas.

"A travelogue entitled 'HAKONE and FUJI', depicting a tour of the mountain districts.

"Four reels of film entitled 'Parent and Child Whale.'

"One reel of film entitled 'Life of a Snake.'

"One reel of unnamed war drama depicting advance of infantry in MALAYAN Campaign."
(*ATIS Bulletin No. 1669, Document No. 16806, page 6*)

(h) "Security. We don't take booking. A Prisoner of War recently captured in a PACIFIC Area told interrogators that he had been within the Allied perimeter several days previously. Questioned further, he said he had attended a cinema performance. The film, he contended, starred 'JINGA ROGARASU' He was able to give sufficient details of the trials and difficulties of the beautiful Ginger on the previous Tuesday evening, that left no room for doubt that he had, in fact, seen the film."
(*Australian Military Forces Weekly Intelligence Review, No. 109, page 14*)

8. GEISHA AND ENTERTAINMENT TROUPES

a. Homeland

1. Extracts from diary dated March to May, 1942, owner and unit unknown:

"29 March. The Young Girls' Club in UTAGUARA came to entertain us. They brought us rice, cake, oranges, SUSHI and Sake. We deeply appreciated their kindness.

"5 April. Approximately 100 people came from SHIKA CHO to entertain us. 16 April, 36 people came to entertain us."
(*ATIS Bulletin No. 245, page 2*)

2. Prisoner of War NAGAMA, Mitsuto, Second Class Petty Officer, captured NEW GEORGIA, 8 July 1943, stated:

"While at KISARAZU and various other airfields he saw a traveling unit, something similar to our United Service Organization shows. He stated the performers were all professionals and the girls were pretty. These units gave away cigarettes, writing paper and candy. He stated he has not seen Geisha girls travelling and entertaining soldiers. He also stated that these units did not go out of the country as he has never seen anything like these units in RABAUL or heard of them being in foreign countries."
(*SOPAC Interrogation Report, Serial No. 02004, page 8*)

b. PALAU

Prisoner of War OHARA, Shosoku (JA 145346), Civilian Labor Oversea, member of Provisional Road Construction Unit, captured GIRUWA, stated:

"As there were no amusement facilities in PELIELU, with exception of one or two beer halls, prisoner of war spent his holidays mostly at

Section II. AMUSEMENTS

5. GENERAL

It appears from information gathered that the Japanese do not make too great an effort to furnish athletic equipment to their troops. One prisoner of war stated that as far as he knew there was no organized athletics in the Japanese Army. Evidence appears to indicate that this is not entirely true because in rear areas the troops have athletic meetings. There is little evidence to support the theory that an athletic program is carried out in forward areas. In fact it appears that no athletic equipment is carried to these areas and that any participation in games must be done with make-shift equipment.

Evidence seems to indicate that the Army makes an attempt to provide occasional movies for the troops. They apparently do not furnish movies to any great degree and there is little information as to the type of movies shown the troops. One Japanese soldier was apparently rather eager to see a movie, because he infiltrated the Allied lines to see a picture in which Ginger Rogers was playing.

The Japanese apparently have organizations similar to American United Service Organization shows which are for the entertainment of their troops. It appears that these units do not travel to forward areas. They made several appearances in the South West PACIFIC Islands but soon returned to JAPAN due to Allied bombings.

The Japanese insure one form of amusement by locating their brothels in forward areas. One prisoner of war has stated that brothels are immediately established where there are any large number of troops. Majority of the women of the Japanese brothels are Japanese, Koreans, and Chinese. Although the Japanese apparently waste no time in establishing their brothels, it appears that the demand greatly exceeds the supply. This condition practically excludes the enlisted personnel, and only officers are able to take advantage of these places of business.

There appears to be quite a bit of difference of opinion among prisoners of war as to who owns and controls the brothels. The statement of a prisoner of war, who was a brothel owner in BURMA, and several lists of brothel regulations, which have been captured in South West PACIFIC Area, indicate that brothels are privately owned but under military supervision. Information available indicates that the venereal rate among Japanese troops in South West PACIFIC Area is exceedingly low.

Japanese troops are usually granted leave when in the homeland but evidence indicates that they have no policy of leave or rotation in the South West PACIFIC Area.

(a) Prisoner of War TSUNO, Keishin (JA 14-5033), Superior Private, member of 144 Infantry Regiment, captured OIVI, 9 November 1942, stated:

"Gambling is strictly prohibited in the Japanese Army, and when it was discovered that some of the Japanese soldiers were gambling cards were taken away from them."

(*ATIS Interrogation Report, Serial No. 34, page 5*

(b) Prisoner of War TOMITA, Tomaoki, First Class Private, member of the 112 Infantry Regiment, captured at SIRZWEYA, 12 February 1944, stated:

"As for the songs the troops sang, there were none that could be said to be in general use since most sang those which were popular in their own part of JAPAN."

(*Source available on request*)

6. ATHLETICS

(a) According to a petty officer second class, the 'SHUKAI SHO' (probably mess hall or day room) on KWAJALEIN had magazines, phonographs, ping-pong sets, record and radio sets. At the headquarters of 6 Base Force, sake and cigarettes were available. Volleyball was popular.

"A seaman first class complained about the lack of recreational facilities on KWAJALEIN in spite of the equipment listed above and the fact that he was able to see movies on Sundays. As a Catholic, he attended masses regularly on Sundays. According to this prisoner of war, the recreation room at SASEBO, where he took his basic training, was poor, while that of YOKOSUKA impressed him favorably because it offered a variety of food and drinks and had waitresses, baths, movies and stage shows."

(*A-160 30 August 1944, pages 6-7*)

(b) Extract from handwritten routine-order issued 7 June 1942, by 55 Transport Regiment:

"Baseball games by TAKAMORI Force."

(*ATIS Bulletin No. 151, page 2*)

(c) Prisoner of War TSURUTA, Masatoshi (JA-USA)147102), Second Lieutenant (Medical Officer), member of 141 Infantry Regiment, captured TALASEA Area, stated:

"At RAKUME athletic meetings, SUMO exhibitions and plays were sometimes arranged for entertainment of troops. Baseball was frequently played in PHILIPPINES but no sports equipment was brought to NEW BRITAIN. No recreational facilities in the field."

(*ATIS Interrogation Report, Serial No. 453, page 12*)

(d) Prisoner of War SASAYAMA, Jun (JA 14553), Sergeant, member of 50 Independent Antiaircraft Battalion, captured off TROBRIAND ISLANDS, 23 March 1943, stated:

"As far as he knew there were no organized athletics in the Japanese Army."

(*ATIS Interrogation Report, Serial No. 189, page 10*)

(e) Prisoner of War YAMADA, Toshio, First Class Private, member of the 124 Infantry Regiment, captured on GUADALCANAL, 9 February 1943, stated:

"There are organizations at home which buy and collect the latest popular records and send them to the camps. There are no such things as recreational halls in the Army. Each company has its own phonograph records, games,

CONTENTS

		Page
Section	I. CANTEEN STORES	1
	1. General	1
	2. Post Exchanges and Ship Stores	1
	a. Army	1
	b. Navy	2
	3. Gratuitous Issue	2
	a. Officers	2
	b. Enlisted Men	3
	4. Comfort Bags	3
	a. Army	3
	b. Formosans and Civilians	4
	II. AMUSEMENTS	5
	5. General	5
	6. Athletics	5
	7. Movies	8
	8. Geisha and Entertainment Troupes	8
	a. Homeland	8
	b. PALAU	8
	c. South West PACIFIC Area	9
	9. Brothels	9
	a. Regulations	9
	b. BURMA	17
	c. SUMATRA	19
	d. South West PACIFIC Area	19
	10. Leave	20
	III. NEWS	22
	11. General	22
	12. Newspapers	22
	a. Field News Sheets	22
	b. Bulletins	22
	c. Announced News	23
	d. No News	23
	13. Radios	23
	a. No Radios Issued	23
	b. Officers Only	23
	c. Personnel Having Radios	24
	IV. MAIL	25
	14. General	25
	15. Army	25
	a. Sending of Mail	25
	b. Receiving of Mail	25
	16. Navy	25
	a. Sending of Mail	25
	b. Receipt of Mail	26
	17. Civilians	26
	V. CONCLUSIONS	27
Appendix A.	Forms Required by MANILA Brothels	28
Appendix B.	Police Report on MANILA Brothels	33

ALLIED TRANSLATOR AND INTERPRETER SECTION

SUPREME COMMANDER FOR THE ALLIED POWERS

RESEARCH REPORT

SUBJECT: AMENITIES IN THE JAPANESE ARMED FORCES

I. G. No. 6310
B.I.D. No. 1228

DATE OF ISSUE 15 November 1945

No. 120

SUMMARY:

1. This report covers information available at ATIS up to 31 March 1945 on amenities furnished by the Japanese to their armed forces.

2. There has been no attempt to establish the existence of rules regarding the availability for purchase or gratuitous issue of canteen stores, since there is a great variation, depending upon the type of troops and the area, in the handling of amenities.

3. Information has also been given as to the availability to the troops of such amusements as shows, movies, geisha entertainment, and brothels.

4. References are quoted regarding the amount of war news passed on to troops by field newspapers, bulletins, and radios.

HNB/SRE/CHR/vb

Distribution H

SIDNEY F. MASHBIR
COLONEL, I.C
COORDINATOR

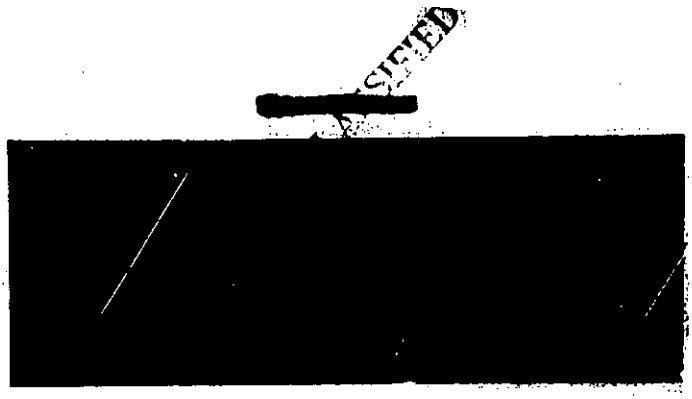
SOURCES: Captured Documents.
Statements of Prisoners of War.

(INFORMATION SHOULD BE ASSESSED ACCORDINGLY)

[redacted]

[redacted]

㉖調査報告書 (Research Report) No. 120 (1)



AMENITIES IN THE JAPANESE ARMED FORCES

Classification changed to UNCLASSIFIED
DDB-42
No. 1986
A. R. Wright 1ST. LT. INF.

JA
8030
0000
R
#120

[redacted]

Section V. CONCLUSIONS

1. The Japanese Army and Navy establish canteens for those troops located in areas in which supplies are available.

2. It appears that the Japanese Army supplements the normal ration to troops with a gratuitous issue which usually consists of such articles as sweets, cigarettes, beer and sake.

3. Comfort bags are a gratuitous issue to troops and are of two types, those issued by the Army and those from civilian charity organizations.

4. Although measures for physical training apparently play a big part in the life of the Japanese soldier, there is little provision made to carry out an athletic program in the South West Pacific Area.

5. Movies and traveling shows are practically non-existent for Japanese soldiers in the forward areas of the South West Pacific Area.

6. The establishment of brothels is sanctioned by military authorities in any areas where there are large numbers of troops.

7. Inmates of these brothels are regularly inspected for venereal diseases.

8. There is no policy for leave or rotation of Japanese troops in South West Pacific Area.

9. A few units publish field news sheets for their troops but on the whole only bulletins or verbal news is passed on to the Japanese soldiers.

10. It appears that few radios are available to enlisted men in the South West Pacific Area. On the other hand, officers are not only permitted to possess radios but have access to them.

11. There is little provision made for troops in forward areas either to receive or send mail.

d. Prisoner of War UCHIDABA, Shigenobu (JA(USA) 145581); Superior Petty Officer (Pilot), member of 751 Air Unit, captured at sea, HUON Gulf, 22 September 1943, stated:

"At TINIAN, leave was granted once a week or every four days for periods of about 4 hours from 1500 hours to 1900 hours. Prisoner of war went to township and drank and enjoyed himself."

"At RABAUL, squadron commander, determined number of men going on leave and issued a corresponding number of leave passes. Names of men on leave were posted on a board.

"Each man carried his pass and presented it to guard at gate on leaving and picked it up on returning. This was the practice as far as prisoner of war knew. Prisoner of war never went on leave to RABAUL Township."
(ATIS Interrogation Report, Serial No 359, page 12)

c. South West Pacific Area

(1) Prisoner of War MIYAJI, Chikara (JA 145045), First Class Private, member of 144 Infantry Regiment, captured GIRUWA, 29 November 1942, stated:
"There were two brothels to his knowledge in RABAUL. They contained a total of about 100 Korean and Japanese girls."
(ATIS Interrogation Report, Serial No 35, page 8)

(2) Prisoner of War KOJIMA, Masao (JA 100029), Sergeant, member of 50 Antiaircraft Regiment, captured T.OBRIANDS Island, 21 March 1943, stated:
"Although brothels were provided by the Army, there was only one woman to about 2000 troops, consequently only officers were accommodated."
(ATIS Interrogation Report, Serial No 175, page 10)

(3) Prisoner of War AOKI, Yoshio (JA 145427), Superior Private, member of 50 Independent Antiaircraft Battalion, captured off NEW GUINEA coast, 6 March 1943, stated:
"There were approximately 20 brothels in RABAUL, 5 in KOKOPO Area and the remainder in town. Inmates were all Japanese women. The brothels were mainly patronized by the officers; men could rarely gain admittance. Prices were officers 5 yen and men 1 yen."
(ATIS Interrogation Report, Serial no 99, page 15)

(4) Prisoner of War KASAHARA, Hiroshi (JA 145153), Sergeant, member of 41 Regiment, captured KUMUSI River, 7 January 1943, stated:
"There were brothels in MANILA and DAVAO, containing Korean women. Although these establishments were authorized by the Army, prisoner of war thought that profits went to the proprietors."
(ATIS Interrogation Report, Serial No 78, page 7)

(5) Extract from handwritten diary, dated 8 December 1941 - 6 January 1943, belonging to MIYOSHI, 7 Company, 124 Infantry Regiment:
"9 June 1942. We landed. The office of Yurukawa Colonization Company is very large, and there are many warehouses. For the first time since leaving southern CHINA, we saw Japanese girls clad in kimono and holding a parasol. Can there be more pleasure and amusement for us than this? These girls, as Army prostitutes, had landed here one step ahead of us. We entered the town of DALIAO. The town was countrified. There were many Japanese who welcomed us. It was like a greeting in JAPAN when one returns to a country town. Each platoon quartered in a different house and I stayed on the second floor of Osaka Bazaar. There were electric lights and running water. Next door was a bicycle shop. I spent the night in peace."
(ATIS Bulletin No 1483, page 20)

10. LEAVE

a. Prisoner of War TOMITA, Tomoaki, First Class Private, member of 112 Infantry Regiment, captured at SIRZWEYA, 12 February 1944, stated:
"Absolutely no leave was granted while on active service and they were supposed to carry on until they dropped."
(Source available on request)

b. Prisoner of War TSURUTA, Masatoshi (JA(USA) 147102), Second Lieutenant (Medical Officer), member of 141 Infantry Regiment, captured TALASEA Area, stated:
"He knew of no provisions for rotation replacement of troops in South West Pacific Area. Occasionally, if men could be spared, some troops might be sent back to JAPAN with ashes of fallen comrades. While in JAPAN, they might be given a short leave, according to sailing schedule, before their return. There was no hope of leave once troops proceeded overseas."
(ATIS Interrogation Report, Serial No 453, page 12)

c. Prisoner of War SUZUKI, Yoshiichi (JA 145409), Superior Private, member of 102 Infantry Regiment, captured WAU, 16 February 1943, stated:
"A unit could pay a soldier before he went on leave. However, there was no leave from overseas and even in JAPAN leave was infrequent."
(ATIS Interrogation Report, Serial no 125, page 8)

(2) Prisoner of War KISHIMOTO, Hachiro, Superior Private, member of 23 Infantry Regiment, captured BOUGAINVILLE, 6 April 1944, stated:
"In CHINA, the so-called Entertainment War Relief Groups (probably similar to American USO) organized by politicians, veterans of war, and other associations, were sent to various combat units. They usually brought GEISHA girls with them and held stage shows. Famous actors, actresses, singers, and comedians visited soldiers to entertain but they had not come as far as BOUGAINVILLE."
(SOPAC Interrogation Report, Serial No 01122, page 3)

9. BROTHELS

Prisoner of War KUMAGAE, Shigeshisa (JA 145077), First Class Private, member of 41 Infantry Regiment, captured GONA, 10 December 1942, stated:
"Whenever troops were stationed in a locality in numbers, brothels were immediately established by both the Army and Navy. Korean women and Chinese women were usually employed but occasionally suitable native women would be enrolled. Profits go to the services."
(ATIS Interrogation Report, Serial No 55, page 7)

a. BURMA

(1) Prisoner of War MITSUI, Junchoku, Superior Private, member of the 112 Infantry Regiment, captured LETWEDET, 10 February 1944. Although he vehemently maintains that he had never entered an IANSHO he seems well-informed about their organization, and gives the following information:
"Each division had five or six IANSHO attached. Korean women as well as Japanese women were to be found in them. The charges for an hour's entertainment were; officers 5 yen, noncommissioned officers 4 yen, and privates 3 yen. The use of preventatives was compulsory and the women were medically examined periodically."
(Source available on request)
(2) Prisoner of War TOMITA, Tomoaki, First Class Private, member of 112 Infantry Regiment, captured SINZWEYA, 12 February 1944, stated:
"On the subject of entertainment, there had been parties of entertainment (ENTERTAINMENT), but they did not proceed further forward than RANGOON. There were Korean and Japanese prostitutes in AKYAB, and some had been brought up to HPARABYIN and even ALETHANGYAW, but they had been strictly reserved for officers, a fact that had greatly angered the troops."
(Source available on request)
(3) Prisoner of War IMAMURA, Masayuki, Corporal, member of 55 Mountain Regiment, captured KNAON Ridge, 7 February 1944, stated:
"Usually visited the brothel on Sundays which was his day off. Officers could visit brothels any time in the week, but usually there were separate institutions for them, and in these he believed there occasionally were Japanese girls. The staff of the soldiers brothel was normally of Korean women.
"No food or drink was served in the regulated brothels and each man received a preventative when he bought his ticket which cost 2 yen per hour. In addition troop headquarters issued preventatives on application.
"The women were medically examined once weekly but men could also obtain ointment (similar to that in American K.T. tubes) on application to troop headquarters."
(Source available on request)

b. SUMATRA

Prisoner of War ISHIGURO, Kiyoichi (JA 145044), First Class Private, member of 228 Infantry Regiment, captured near PAPAKI Bridge, 11 November 1942, stated:
"There was an official Army brothel in BELAWAN in which two native women from NARUMONDA and six Chinese women served. Great precautions were taken against venereal disease."
(ATIS Interrogation Report, Serial No 42, page 10)

GEISHA AND ENTERTAINMENT TROUPES

"The only form of amusement, for the soldiers in BURMA was supplied by Korean prostitutes. There are very few cinemas, no books, no talks or lectures. You came to BURMA to fight and to die, and but for an occasional visit to a brothel you are left to your own devices."
(Source available on request)

d. Prisoner of War YOSHIDA, Kazuo, Lance Corporal, member of 6 Field Artillery Regiment, captured TOROKINA Area, 23 March 1944, stated:
"He had seen movies on one occasion on BOUGAINVILLE."
(SOPAC Interrogation Report, Serial No 01459, page 36)

e. "Security. We don't take booking. A prisoner of war recently captured in a Pacific Area told interrogators that he had been within the Allied perimeter several days previously. Questioned further, he said he had attended a cinema performance. The film, he contended, starred 'JINGA ROGARASU'. He was able to give sufficient details of the trials and difficulties of the beautiful Ginger on the previous Tuesday evening, that left no room for doubt that he had, in fact, seen the film."
(Australian Military Forces Summary, No 199, page 14)

8. GEISHA AND ENTERTAINMENT TROUPES

a. Homeland

(1) Extracts from diary dated March - May 1942, owner and unit unknown:
"29 March. The Young Girls' Club in UTAGAURA came to entertain us. They brought us rice, cake, oranges, SUSHI and sake. We deeply appreciated their kindness.
"5 April. Approximately 100 people came from SHIKA CHO to entertain us.
"16 April. 36 people came to entertain us."
(ATIS Bulletin No 245, page 1)

(2) Prisoner of War NAGAMA, Mitsuto, Second Class Petty Officer, captured NEW GEORGIA, 8 July 1943, stated:
"While at KISARAZU and various other airfields he saw a traveling unit, something similar to our USO shows. He stated the performers were all professionals and the girls were pretty. These units gave away cigarettes, writing paper and candy. He stated he has not seen GEISHA girls travelling and entertaining soldiers. He also stated that these units did not go out of the country as he has never seen anything like these units in RABAUL or heard of them being in foreign countries."
(SOPAC Interrogation Report, Serial No 02004, page 8)

b. PALAU

(1) Prisoner of War OHARA, Shosoku (JA 145346), Civilian Labor Overseer, member of Provisional Road Construction Unit, captured GIRUWA, stated:
"As there were no amusement facilities in PELILIU, with exception of one or two beer halls, prisoner of war spent his holidays mostly at KOROR where they had places of amusements, shops, cinemas, and brothels. He occasionally went to ARAKABESAN."
(ATIS Interrogation Report, Serial No 101, page 8)

c. South West Pacific Area

(1) Prisoner of War YOSHIDA, Kazuo, Lance Corporal, member of 6 Field Artillery Regiment, captured TOROKINA Area, 23 March 1944, stated:
"During the summer of 1943, several Japanese actresses arrived at RABAUL to entertain Japanese troops. Heard that same troupe came to entertain air corps personnel and some officers at ERVENTA. Names of actresses in troupe known to prisoner of war: TAKAMINE, Miyeko; YANAKI, Sakko. After staying 2-3 days at ERVENTA returned to JAPAN because of United States bombing."
(SOPAC Interrogation Report, Serial No 01459, page 36)

CONTENTS

			Page
Section	I.	CANTEEN STORES	
		1. General	1
		2. Post Exchanges and Ship Stores	1
		a. Army	1
		b. Navy	2
		3. Gratuitous Issue	2
		a. Officers	2
		b. Enlisted Men	3
		4. Comfort Bags	3
		a. Army	3
		b. Formosans and Civilians	4
	II.	AMUSEMENTS	
		5. General	5
		6. Athletics	5
		7. Movies	6
		8. Geisha and Entertainment Troupes	7
		a. Homeland	7
		b. PACIFIC	7
		c. South West Pacific Area	7
		9. Brothels	8
		a. BURMA	8
		b. SUMATRA	8
		c. South West Pacific Area	9
		10. Leave	9
	III.	NEWS	
		11. General	11
		12. Newspapers	11
		a. Field News Sheets	11
		b. Bulletins	12
		c. Announced News	12
		d. No News	12
		13. Radios	12
		a. No radios Issued	12
		b. Officers Only	13
		c. Personnel Having Radios	14
	IV.	MAIL	
		14. General	15
		15. Army	15
		16. Navy	16
		17. Civilians	17
	V.	CONCLUSIONS	18

CONFIDENTIAL

ALLIED TRANSLATOR AND INTERPRETER SECTION
SOUTH WEST PACIFIC AREA

RESEARCH REPORT

SUBJECT: AMENITIES IN THE JAPANESE ARMED FORCES I.O. No. 6310

DATE OF ISSUE 16 February, 1945 No. 120

SUMMARY:

1. This report covers information available at ATIS on amenities furnished by the Japanese to their armed forces.

2. There has been no attempt to establish the existence of rules regarding the availability for purchase or gratuitous issue of canteen stores, since there is a great variation, depending upon the type of troops and the area, in the handling of amenities.

3. Further information has been given as to the availability to the troops of such amusements as shows, movies, geisha entertainment and brothels.

4. References are quoted regarding the amount of war news passed on to troops by field newspapers, bulletins and radios.

SRE/CHR/IR/ER/14

DISTRIBUTION H

Harold Hauf, Col., S.C.
for SIDNEY F. MASHBIR,
COLONEL, S.C.,
CO-ORDINATOR

SOURCES: Captured Documents
Statements of Prisoners of War

(INFORMATION SHOULD BE ASSESSED ACCORDINGLY)

CONFIDENTIAL

GENERAL HEADQUARTERS
SOUTH WEST PACIFIC AREA

A.P.O. 500
16 February, 1945

Published for the information of all concerned.

By command of General MacARTHUR:

R. K. SUTHERLAND,
Lieutenant General, United States Army,
Chief of Staff.

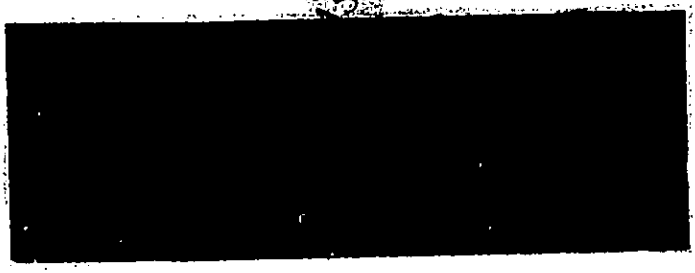
OFFICIAL:

C. A. WILLOUGHBY,
Brigadier General, G.S.C.,
Asst. Chief of Staff, G-2.

[redacted]

[redacted]

㉕調査報告書 (Research Report) No. 120 (2)



AMENITIES IN THE JAPANESE ARMED FORCES

Classification changed to:
UNCLASSIFIED
By authority: DOB #2
Date Nov 1946
Signature
A.R. Wright 1ST. LT. INF.

JA
8030
0000
R
#120



UNCLASSIFIED

[redacted]

ATIS 1102 (Continued) AK/HAi/RCS/RLM

Page 222 Precautionary items pertaining to the naval brothel at RABAUL.

I The naval brothels (special warehouses) are as follows: refer to separate diagram.
(a) HIGASHI RASHUNSŌ (above naval WOs) TAKEISHI - Unit (Naval POs). KITA RASHUNSŌ (employees and laborers).
(b) No 1 TOKOWASŌ (senior officials).
No 2 TOKIWASŌ (officials of "HANNIN" rank).
No 3 TOKIWASŌ (workers and transport gang).

II Trading hours.
TAKEISHI Unit and the No 2 TOKIWASŌ from 0800 to 1800.
(However, only officials of "HANNIN" rank can remain until 0600 the following morning.)

III Rates.

Classification		One girl (for 30 min)		One girl (for an hour)		Over night from 2200 to 0600		Note
		JAPANESE	KOREAN	JAPANESE	KOREAN	JAPANESE	KOREAN	
TAKEISHI Unit No 2 TOKIWASO	NCO & officials	2.50	2.00	4.00	3.50	10.00	10.00	Overnight only for HANNIN officials.
	sailors	2.00	1.50	3.50	3.00	\	\	

Page 223 IV Drinking of liquor within the special warehouse is forbidden.

V Those who seek pleasure will purchase tickets at the window and exchange them for "B" tickets with the hostess.

VI Hostesses will refuse pleasure to those who do not use prophylactic rubbers.

VII Each man must carry his own prophylactic rubbers. (In case of shortages at the canteens, there are some at the brothel for sailors of the unit at 10 sen per package).

VIII The uniform of POs and sailors, when entering and leaving the special warehouses, will be dress uniform.

IX Violations of any of the above regulations by the hostesses will result in the withdrawal of their right to practice.

End

I.C. No.		ATIS No.	Page
6905	Elements of 41 Div leave TAKOTAC 12 Feb '43. Arrived [illegible] 22 Feb '43	1101	50
6905	Disposition of 15 A/A Defence Unit	1102	76-77
6908	Routine Orders and Instructions Field Bivouac Regulations (Extract)	1096	36
6908	File 1 Feb '43 to 15 Apr '43 2 Coy Medical Bn 41 Div	1101	46-72
6908	41 Div Medical Bn Schedule for May	1101	72
6908 9913	15 A/A Naval Defence Unit Air Actions Two charts showing Allied air raids 12 May - 31 May	1102	73-75
6909	Operation Orders [illegible]ISU Det Op Order A 13 Nov TSURUBU	1092	1- 2
6909	80 Inf Regt (SATTELBERG) 9 Sep to 10 Oct	1055	13-17
6909	4 Coy 1 Bn, 240 Inf Regt, 41 Div	1099	37-42
6909	14 Fd Arty, 51 Div, Lt-Col WATANABE 26-30 Jul	1100	43-49
6913.15	Landings Marked difference between SERIOUS landing and former Allied landings	1093	3
6950	Prisoners of War Interrogation Report two Allied PsW published by 18th Army Staff Operations dated 15 Aug '43	1105	96-104
6950 6895.10	Information from Allied [illegible] Signal to Imperial General HQ etc.	1105	98
6960 7161	Military Government of Occupied Territory Efficient work of Navy Reconciliation Section	1096	21
7175	Vessels - Shipboard Organizations Preparations for embarkation and precautions on board ship	1101	50-51
7305	Regulations of Naval Brothel at RABAUL	1102	78
7350	Personalities and Personal Diaries Notebook of SHIOMI Morohito BC ISE	1104	93-95
7535.07	Ammunition and Pyrotechnics Types of charge and case of same	1104	85
	Colour markings of shells	1104	86
.072	Parts of a Torpedo	1104	86
.49	Type 88 Mine used by submarines	1104	86-87
7542	Communications from Ships Control sound signals (Morse type) on BB ISE	1104	69
	Flag ships established signals (Wireless)	1104	93-94

CONFIDENTIAL - BRITISH SECRET

ALLIED TRANSLATOR AND INTERPRETER SECTION
SOUTH WEST PACIFIC AREA

BIBLIOGRAPHIC SUBJECT INDEX
CURRENT TRANSLATIONS
NO.100

I.C. No.		ATIS No.	Page
3110	The Imperial Family Reading of the Imperial Rescript	1101	72
4610	Roads, Highways and tracks [illegible] Area Road Construction	1099	37-39
4940 6895	Radio Communications Allied Movements in AWAU Valley learned from Allied broadcasts	1093	5
6160.16	Services: Postal Mail restricted to T.C. Army P.O. [illegible]EWAK planned 2 Mar '43	1101	60-61
6170.23 6675.23	Combatant Arms: Engineers Organization of raiding and demolition unit	1094	8-12
6310	Morale and Welfare Officers reminded they are the channels of Imperial Authority	1101	67-68
6311	Propaganda within the Services 65 Bde Comdr Orders, endurance, self-control, co-operation	1097	29
6320	Military Discipline 41 Div-discipline lacks training insufficient	1101	52
6330	Decorations and Awards Order of Merit 6th Class Order of Sacred Treasure	1100	43
6350	Personalities and Personal Diaries Presumably member of 65 Bde 4 Aug-21 Oct (Presumably '43)	1097	25-29
6350	Diary 14 Fd Arty Regt NIKUHAMA 1 Apr-1 Dec '43	1098	30-36
6500	Supply 65 Bde HQ Liaison Posts responsible for storage and forwarding supplies	1092	2
6520	Rations and Forage Weakness from lack of rations in TSURUBU	1098	33
6520	Supplies of rice, wine, candy and tobacco received 26 Jun '43 at NDEN	1099	41
6530	Statement by Allied PW 700 tons gas bombs MORESBY Aug '43	1105	98

ITEM 1 14563 (Continued)
C

GHQ
AAF
ALF
H
Ref'd
PWB

had become co-operative. There was no problem of their escape; instead they received our gratitude for their industriousness. Yesterday they were enemies, but today they have our deepest affection. Their hope was that they would not be released from the service. I heard their charming expression, "We are not women, we are not wine. We hope to earn the recognition of JAPANESE rank". In the afternoon we boarded OBUN MARU (*1). Departed in the evening and then anchored off the shore of COTABATO where one part of 3 Bn embarked. In the darkness of the night the ship sailed westward leaving behind a column of black smoke. Ah, I wonder if I shall ever return to this land where I landed in face of the enemy one month ago.

8 Jun Around 0900 hrs we entered DAVAO Harbor. DAVAO, which is said to be the fourth largest city in the PHILIPPINES, had only one unexpectedly poor pier; and from the sea it could not be recognized as a city. In the evening the order to have the force bivouac in DALIAO was received. We sailed to DALIAO which is 20 km west of DAVAO, and anchored off the shore at a point where the red roofs could be seen among the coconut trees. Evening in this Southern country is like a picture.

9 Jun We landed. The office of FURUKAWA (*2) Colonization Co is very large, and there are many warehouses. For the first time since leaving SOUTH CHINA, we saw JAPANESE girls clad in kimono and holding a parasol. Can there be more pleasure and amusement for us than this? These girls as Army prostitutes had landed here one step ahead of us. We entered the town of DALIAO. The town was countrified but there were many JAPANESE who welcomed us. It was like a greeting in JAPAN when one returns to a country town. Each platoon quartered in a different house, and I stayed on the second floor of OSAKA Bazaar. There were electric lights and running water. Next door was the bicycle shop. I spent the night in peace.

10 Jun Today was Time Day but it was easily forgotten at the battle front. I spent the day fixing my quarters. I walked around the town, but the stores were closed. Only the barber shop was open. I got some PHILIPPINE beer and some greens from the proprietor of the bicycle shop.

(*1) etc: (1) 大文 (2) 古川

CONFIDENTIAL

PAS/WT/2

BRIEF OF
BULLETIN
No. 1483

(GAUDALCANAL - 24 Jan 43)

Pages

Item 1 Doc 14563 (H,GHQ,ALF,AAF) (REF'D PWB) 1-27

Diary 8 Dec 41 - 6 Jan 43 of MIYOSHI, officer of 7 Coy, 124 Inf Regt. (Entries detail engagements diarist participated in.) 8 Dec 41 - Convoy in CN HANH Bay - war declared. 16 Dec landed LUTON*. 23 Dec - 23 Mar 42 in BORNEO. 1 Apr at LINGAYEN. 25 Apr - 1 Jul in PHILIPPINES. 6 Jul - 9 Sep at PALAU. 13 Sep - 21 Sep at RABAUL. 2 Oct landed GUADALCANAL. 24 Dec 41 SARAWAK captured - 150 PsW taken and Prime Minister of SARAWAK became a PW. 23 Jan 42 - "Shortage of provisions - and those rogues in JAPAN complain of rationing." 27 Jan SANGGAU, 120 PsW captured. 2. Jan the 120 PsW were shot. 2 Feb work on MOMONG road to transport gasoline, bombs, to airfield.

12 Feb - The women arrived in KUSHING before first priority baggage. 1 Mar heard US coast attacked. 21 Mar - At DUTCH Christian Hospital were 20 nurses - "received calcium inoculation". 23 Mar at SARAWAK River mouth loaded captured BRITISH tanks. 24 Apr "Indignant at disloyalty of JAPANESE residents" (CEBU). 3 May heard of casualties inflicted by savage MOROS. 2 Jun - Regt CO reviewed battle as reported by surrendered AMERICAN officers. 6 Jun FARANG - Captured INDIAN Machine Cannon Unit from MALAY cooperated with JAPANESE. 9 Jun arrived DALLAO - army prostitutes already here. 19 Sep RABAUL - ALLIED air raid destroyed ammunition dump and Navy barracks. 1 Oct boarded DD NATSUGOMO. 3 Oct (GUADALCANAL) "Someday I will kill the enemy to the last man." 4 Oct - Supplies unloaded - men stole supplies. 9 Oct ACRA Det CO stated "Don't take any PsW - kill them all."

12 Oct - Navy bombers better than army bombers. 8 Nov - 2 Div position serious - Maj Gen NASO and three Regt CO's killed in action. 26 Dec - Many men die of starvation - Coy CO obtained some meat, I consider this inhuman but can't help eating it when I am starving. Addresses name six naval officers, one of DD NATSUGOMO and eight persons in JAPAN. (Extracts)

(MAFFIN Area - 29 Jul 44)

Item 2 Doc 14564 (X,ALF) 27-29

Loose handwritten sheets, plan of march for unspecified regiment, undated, unit owner not stated. Excess baggage to be taken to UGUISU Height before departure. Rations points will be TAKE or UGUISU - no issue at GAMUNIAU*, sick to be left near GAMUNIAU* - destination GANTON*. 1st Echelon (Regt HQ, Sig Coy and Engr Unit) to leave 25 th, arrive GANTON* 29th. 2 Echelon - Mtn Arty; 3 Echelon - 2 Bn. All individual equipment to be taken - gas masks may be burned as fuel but will be buried after use. (Extracts)

Item 3 Doc 14565 (X,ALF) 29-30

Handwritten roster of names with service numbers, call up dates of personnel of NIIZEKI Unit, held by QM, NIIZEKI Unit, entries dated to 14 Aug 44. Names 1st Lt NIIZEKI, Fiji, and four officers - present strength 57 men. Names two officers killed in action - total deaths to 3 Aug 44; killed in action - 104 officers and men; three died of wounds; 24 died from sickness. (Extracts)

-C-

CONFIDENTIAL

CONFIDENTIAL

ALLIED TRANSLATOR AND INTERPRETER SECTION
SOUTH WEST PACIFIC AREA

BIBLIOGRAPHIC SUBJECT INDEX
BULLETIN
No. 1563

6,000 Block applies to Army
7,000 Block applies to Navy
9,000 Block applies to Air

I.G. No.		Doc No.	Pages
2100	Characteristics of the Population Characteristics of men from KYOTO constrasted with KYUSHU.	14563	16
5970	War Morale of the Civil Population Complacency in JAPAN.	14563	3
6150 6150.25	Independent Commands Sep 41 - Aug 43. Organization chart of 221 Inf Regt. Code names.	14566	30-40
	12 Oct 43. Navy bombers better than Army - comparison of JAPANESE Forces.	14563	26
6310	Morale and Welfare 9 Jun 42. JAPANESE prostitutes sent to DAVAO.	14563	20
	Entertainments for the JAPANESE troops.	14563	17
6310 6950	3 - 9 Oct Morale high. Burning with revenge "Don't take PsW."	14563	24
6310 6520	"Rogues" in JAPAN complaining about rationing unnecessarily.	14563	3
6311	Propaganda Within the Services Anti-white feeling.	14563	5
6312	Psychology Reaction to Christianity.	14563	5
8350 4115 6950	Personalities, Personal Diaries 8 Dec 41 - 6 Jan 43. Diary TIYOSHI, LUTONG oil refinery found in ashes. 15 PW's captured in SARAWAK.	14563	1-2
6350 6915	9 Nov. Maj-Gen NASU and 3 Regt. CO's killed in action.	14563	25
6350 6161.25 6915	17 Aug 44. Roster of HIIZEKI Unit with losses, killed, wounded and disease.	14565	29-30
6520 9520 6520 6951 6310	Rations and Forage Supplies to air crews far better than for infantry. 14 - 27 Dec 42. Lack of rations - loss of belief in JAPANESE Army - hurt at cannibalism.	14564 14563	4 26-27
6570 6570.25 6535.25	Armament and equipment - Organizational Regimental issue of weapons and ammunition.	14564	27
6570.254	Accurate ALLIED mortar fire.	14563	25-26
6305.C64	Gas masks used as fuel and carbon for diarrhoea.	14564	23

-4-

CONFIDENTIAL

㉓時報 (Bulletin) No. 1483

ALLIED TRANSLATOR AND INTERPRETER SECTION
SOUTH WEST PACIFIC AREA

BULLETIN

Preliminary Examination of Documents
(Subject to correction, addition or deletion)

No. 1463 Date: 5 Oct 44

COPY NO. 249

Classification

A, B, C or D - In priority order for translation.

TLR - Translation if requested. Will not appear in Current Translations.

N - Documents considered to be of value for reconstruction or historical purposes only. Will be translated should no higher classification documents be awaiting processing or on cessation of hostilities, whichever is the earlier.

X - Documents translated in full or in part for urgency, or only such parts as have military value. Will not appear in Current Translations.

NOTES:

1. *The symbol ' indicates an exact ROMAJI transliteration of the original KANA.*

2. *The symbol + on the borders of sketches and maps signify color registration points only and do not appear on the original.*

3. *The symbol "" after a conventional sign or abbreviation indicates that this is an exact reproduction of that appearing in the original documents.*

SIDNEY F. MASHBIR,
Colonel, S.C.,
Co-ordinator.

CONFIDENTIAL

recovers, being treated by injections in arm daily. The punishment is very light for not reporting symptoms, and although the men do not lose their ratings or pay while hospitalized, their chances for promotion are impaired but not made impossible.

Intercourse with native women on the island is prohibited by military law.

White, William PC 1154 Acc No. 86/040 S 731 Folder No. 28

㉒捕虜尋問調書(Prisoner of War Interrogation Report)

PRISONER OF WAR INTERROGATION REPORT

NAME	RANK	SERIAL NUMBER
[redacted]	Hifohei (Pvt.2c)	Unknown
UNIT	**DUTY PERFORMED**	**DATE & PLACE OF CAPTURE**
YANO BUTAI of the 230th INF. REGT.	Ammunition carrier & runner for Co. CO.	18 Feb. '43; GUADALCANA

oOo

2. CHRONOLOGY:

Dec. 1942 Arrived at RABAUL; marched to TANOURA; and did odd duties for about a month. PW was assigned to the GISHI TAI, YANO BUTAI, SHOJI BUTAI (230th INF. REGT.).

Jan. (mid) 1943 The YANO BUTAI left for GUADALCANAL, and landed at CAPE ESPERANCE.

Feb. 19, 1943 Captured.

6. IDENTIFICATION OF PERSONALITIES:

Col. ITO CO of the 54th REGT. in JAPAN.

Major YANO CO of the YANO BUTAI, believed to be a replacement battalion.

2nd Lt. GISHI CO of the MMG Company.

Prob. Off. SAITO CO of the 1st Platoon.

PROSTITUTION There are three houses of prostitution in the town of RABAUL, with a total of about ten prostitutes. Since the area is under jurisdiction of the Japanese Army, these brothels must have the permission of the military to operate. The military rents the buildings to the brothel keepers. The prostitutes (Chinese, Koreans, and some Indonesians) ranged in ages from about 20 to about 25. PW does not believe that they were sent to RABAUL by the Government, but that they had already been established there before the occupation. The girls are inspected weekly by the Army Medical Corps. If they have contracted any diseases, they are not permitted to work until they are well again.

The price which the soldiers pay differs in the area, but the average is about ¥2.50, which was the price at RABAUL. PW states that prices were higher in JAPAN: about twice the amount. The price includes a stay of approximately one hour, tea and tea cakes, use of the wash-room and prophylaxis treatment. However, prophylaxis is also supplied free of charge by the Army. Contraceptives (SAKKU) are compulsory, but these are not furnished by the Army. Beer, liquor, and food are served at these houses at exorbitant prices.

Although men are given a physical examination from time to time, they are not examined for venereal disease. However, if a soldier contracts a disease he is hospitalized until he

20. SPECIAL INTELLIGENCE

TOKYO Instrument Factory Co Ltd (TOKYO KEIKI SEISAKUJO KK)
(See Appendix "C")

Location (See Appendix D") TOKYO-FU, KAMATA-KU near HANEDA airfield, on TOKYO side of TAMAGAWA or ROKUGO river.
Landmarks from Air TAMAGAWA river; HANEDA airfield; HANEDA and KAWASAKI racecourses; KEIHIN KAMATA rail junction, i.e. first rail junction on electric line from TOKYO to YOKOHAMA situated on KEIHIN National highway; MIYATA factory approx 1,200-1,300 meters on YOKOHAMA side with three or four high smoke stacks.
Prominent Structural features of Plant One high concrete smoke stack at highway end of factory; three long bldgs re-inforced with concrete and having saw-tooth type roofs; main bldgs were at right angles to KEIHIN National highway. Three other large bldgs, probably wooden, were at rear of main bldgs parallel with KEIHIN highway. Front portion of centre main bldg had three stories, but rear portion and all other bldgs had two.
Power Power house was located at highway end of factory on TOKYO side and mainly built underground. Power lines ran into factory from highway.
Production Manufactured airplane instruments including automatic pilots, starters and compasses.
Employees Approx 5,000 as at Mar '41. Thought number would have since increased considerably.
Trademark (K) Represented ROMAJI initial letters of Co's name, and was on all instruments. Starters fitted to 1 EF OSCAR and 1 EF TONY were also so marked.

Shortage of Equipment in NEW GUINEA Believed JAP position was mainly due to shortage of airplanes. Thought a large proportion were sent to protect the RUSSIAN border, and so additional airplanes were unavailable for S PA. Considered JAPAN would never equal AMERICA's airplane production, but could attain half AMERICAN output. This would be sufficient as JAP pilots and airplanes were twice as good as AMERICANS. Had frequently heard this expressed by JAP pilots.

Brothels in PI - MANILA . Some were under Army jurisdiction. Others run by civilians were out of bounds, and MPs who tried to keep soldiers away, frequented these places themselves.

Girls at civilian houses were usually half caste SPANISH-FILIPINOS and prices YEN 10-20. Those at Army controlled houses were YEN 2-3 with JAP and KOREAN girls. Despite the difference in prices civilian houses were more popular, as they were less crowded.

22. ALLIED PsW

MANILA Sep '43, saw approx 50 AMERICAN PsW in three-story building at wharf area. PsW were not working and appeared fit. Saw one guard at entrance to compound.

In SWPA
Mid
Mar '42 Arrived MANILA.
Stationed at 1 Air Route Dept Hq.

16 Sep '43 Left MANILA for AMBON in 2EB SALLY from NIELSON Airfield. Was attached to 1 Airfield Co of 1 Air Route Dept.

Oct '43 Flew to BABO with 1 Airfield Co Hq personnel. Two 2 EB SALLY and two 2 EB HELEN each made four trips with personnel.

10 Feb '44 Flew to WAKDE Is. Joined WAKDE Is Det of 1 Air Route Dept.

27 Jun '44 Left for SARMI in MLC with eight other personnel of the Det.

Late
Jun '44 Marched to TEBA with five men from u/i Naval Units.

Early
Jul '44 Arrived TEBA and went in MLC to MOEMI via NABIRE. Remained three days.

Jul '44 Left in fishing vessel for MANOKWARI. Hospitalized because of malaria.

11 Jul '44 Left for MOEMI in fishing vessel with 30 personnel of u/i Freight Depot.

12 Jul '44 Captured.

3. CAPTURE

Ill with malaria and unable to march with retreating units from MANOKWARI, PW was being taken to MOEMI by boat. En route the vessel was sunk by ALLIED PT boats. PW thought he was the only survivor.

4. UNIT OR FORCE

1 Air Route Dept (SHIN 9315) MANILA, Jun '44

History Formed at MITO, ISHIZUKA MURA, Feb '42. Was the first unit of its kind, and was considered an experiment.
Organization (See Appendix "A") (Note: PW knew there were other units called Airfield Cos (HIKOJO CHUTAI) but insisted that 1 Air Route Dept also had Airfield Cos, and that these had no relation to other units so designated.)
Dets Were formed from W/T, Meteorological and Airfield Co personnel. Each Airfield and W/T Co had sufficient numbers of mentioned personnel for two Dets. Met Co had enough personnel for nine Dets. Nine, including Airfield Co Hq which functioned as Dets, was the maximum number that could be formed.
Functions Responsible for servicing communications and attention to transient airplanes of Army Air Service. Dets were stationed along air routes and at selected forward bases. Duties included refuelling, general service check up, adjustments, supply of weather information, and general requirements of air crew. When replacement airplanes arrived, the Det notified units concerned, who sent their own pilots to take delivery.

CONFIDENTIAL

PW JA (USA) 148328

INTERROGATION REPORT NO 573

Rank:	Pfc (Maint)
Unit:	1 Air Route Dept
Where Captured:	At sea, near MOEMI
By Whom Captured:	US Navy
How Captured:	Rescued from sea
When Captured:	12 Jul '44
Height:	5' 3"
Weight:	125 lbs
Age:	24 yrs
Home Location:	TOKYO
Education:	6 yrs Primary 2 yrs Higher Primary 4 yrs Middle
Civil Occupation:	Machinist

1. PREAMBLE

PW appeared to be of average intelligence and normally observant. His service knowledge appeared to be average for his rank. He answered all questions and volunteered a substantial amount of information.

The information contained herein is considered to be reliable.

Interrogated at ATIS Adv Ech No 2 (AEI 2136)

2. CHRONOLOGY

Pre SWPA
Mid

May '40 — Conscription exam at TOKYO-SHI. Classed B1.

1 Mar '41 — Inducted at CHIBA-KEN into 4 Air Tng Unit. Had one month basic training and five months training as engine mechanic.

22 Feb '42 — Entrained for MITO, ISHIZUKA-MURA with six engine mechanics and six truck drivers, all for the newly formed 1 Air Route Dept.

Voyage Out

2 Mar '42 — Unit left UJINA in AP TEIKO MARU.

6 Mar '42 — Arrived TAKAO.

CONFIDENTIAL

ALLIED TRANSLATOR AND INTERPRETER SECTION
SOUTH WEST PACIFIC AREA

SERIAL NO 728

23 Jan 45

INTERROGATION REPORT NO 573

1. Attached is ~~a Report~~ on information gained from Japanese PW JA(USA) 148328, FUJITA, Mukami.

2. All information in this report has been extracted from this PW source only. Its value should be assessed and its distribution restricted accordingly.

SIDNEY F. MASHBIR,
Colonel, S.C.,
Co-ordinator.

Examiner - 55, 114

GRA/RES/VLC/EPC/AM/12/8

DISTRIBUTION D

CONFIDENTIAL

㉑尋問調書 (Interrogation Report) No. 573

utilized but if bombed, they were left in that condition for lack of repair materials. Owing to this shortage the were mainly billeted in tents.

Food Situation in RABAUL. Most foodstuffs were brought from JAPAN by frequently-arriving ships. These foodstuffs were rice, barley, canned vegetables, oranges, meat, fish (mainly mackerel, salmon or sardines), MISO (Bean paste), SHOYU (Soy Sauce), beer and SAKE (wine).

Attempts at large scale local growing were unsuccessful. The Food Supply Depot did the purchasing and distribution to the various BUTAI. In any case, the supply of local fruit was inadequate and only permitted the issue of a small quantity per week to each man. This deficiency was to some extent made up by a plentiful supply of Coconut "Meat". Strict orders were issued against stealing fruit from natives and individual purchases had to be done secretly.

In general, supplies were insufficient to allow a satisfactory food issue to all, although it appeared to be customary to give extra rations to the A/A BUTAI because they were engaged in active combat work.

Distribution Twice each month PW would take a truck and five men to Food Depot at RABAUL for a fortnight's supply. In general food supply organization was smooth-working, but the type and quantity of food depended on the arrival of ships from overseas. The Depot frequently would issue short supplies, stating that "There had been too many ships sunk". (see sec 19). During his two months' stay at RABAUL he had made about four trips to Depot for food and on two or three occasions he had been given the same excuse for shortage of supply. The in RABAUL had heard that the defeats in NEW GUINEA were due to food shortages.

Meat and Fish given only once or twice a week and then usually mixed with vegetables. Once or twice a month either frozen meat brought from JAPAN or fresh meat obtained near RABAUL was issued but this latter meat turned bad overnight and had to be consumed immediately. It was scarce, in any case.

Rice seemed to be a mixture of 50% JAPAN and 50% SAIGON and RANGOON varieties. RANGOON rice not very palatable and if eaten alone caused stomach troubles. For that reason it was mixed with other varieties. If barley was available it was added to mixture.

Sweets and Sugar were very scarce and cakes were not available. There was plenty of salt.

Beer Issued by Food depot at rate of 1 bottle per man per week.

SAKE One Jap SAKE bottle-full every two weeks.

Cigarettes Not plentiful. Half supply was issued and balance could be purchased. Usually a "pack" per day could be secured.

Canned Milk and Biscuits Occasionally supplies would arrive but the milk was not appetising and there was little of it.

Water Supply in RABAUL was poor. Each BUTAI dug its own well but water was not good, although purifying chemicals were not necessary. Rain water was collected in tanks for drinking purposes.

13. MORALE & PROPAGANDA

MORALE

Living Conditions in JAPAN PW last heard from his people when he was in MANCHURIA. He had also received a few comfort bags. He had received no letters while in RABAUL but assumed his people were all well. In RABAUL he had got special permission to post a card to his parents stating that all was well with him. He did not wish to write now as

he was a prisoner.

He thought there was a war boom in JAPAN, particularly benefiting those people dealing in war products, but taxation was very heavy and most profits were taken by Govt. Everything was rationed.

Political Conditions in JAPAN His father had voted for I.M.R. Party and he himself would have voted for that Party if he had not been too young. However there was now only one Party, a combination of all.

PW hated Communism. It was non-existent in JAPAN today. When it was popular there, he had been at Primary School and at the time of the 26 Feb '36 Incident, he had been entering business. PW said that in one respect the instigators of this Incident were right because the plutocrats such as MITSUBISHI and others were trying to get too much power and profit and this disturbance was a protest against their actions.

When the CHINA War broke out, PW was in business. He had thought that it would end quickly. PW knew of the CHINA-JAPAN War of 1894/5 and had read of the casualty and indemnity figures when studying history. He did not think that JAPAN had become weaker since then or CHINA stronger. The truth was that CHINA was too large to conquer. JAPAN did not stop at NORTH CHINA and establish a stable Govt there, thus avoiding fighting the whole of CHINA, because she was afraid that she would be within easy bombing range from places in the rest of CHINA.

TOJO had been forced to declare war when the NOMURA and KURUSU missions failed. These Japanese representatives had tried to get USA to sell materials but had been refused and TOJO thus had no choice, as JAPAN with her increasing population, could not have existed. Foreigners all seemed to have the idea that JAPAN was a warlike country but the opposite was true. She is poor and could not exist unless ENGLAND and USA traded with her. TOJO could not be blamed for this war as he was carrying out the National policy and in any case he had to obtain the Emperor's consent before declaring war.

Conditions in Fighting Services PW made a guess that during the past five years JAPAN has mobilized 5,000,000 men. When in MANCHURIA he had seen a Class album and noted that of 56 schoolmates about ten had been killed and about 25 or 26 wounded. He himself had been severely wounded in both legs and in the head and had suffered from Malaria and Dengue.

Standing orders were that troops should commit suicide rather than be captured, and PW considered this attitude of authority wrong.

Although brothels were provided by the Army, there was only one woman to about 2000 troops, consequently only officers were accommodated.

Attitude to Allied Nations There was no doubt that a feeling of friendship had existed between ENGLAND and JAPAN. Certain people in the latter country had started the Anti-English campaign for patriotic reasons. He did not know why the Chinese disliked the Japanese. They seemed to make fun of his countrymen.

He was absolutely certain that MEIJI's Rescript was being observed as regards treatment of captured enemy soldiers and of natives. He had seen 2 or 3 PsW in RABAUL employed in Engr work.

Attitude to Axis Nations PW had never heard of the GERMAN theory of racial superiority, but if it meant JAP inferiority it was quite wrong. It was definitely a mistake on the part of Hitler to put himself in the same category as the Emperor.

PROPAGANDA

Radio He had not heard the radio when in RABAUL, but had listened in when at TONAN (MANCHURIA). He had only heard TOKYO broadcasts. As

Official PW No. JA 100029

INTERROGATION REPORT NO. 104

PW's Name:	KOJIMA, Masao
Rank:	Sgt - Cook
Unit:	SC A/A Regt. OHARA BUTAI - TO 3616
Where Captured:	TUCKERLANDS
By Whom Captured:	Aust Patrol Boat
How Captured:	While making for RABAUL in lifeboat
When Captured:	21 Mar '43
Height:	5'5"
Weight:	130 lbs
Age:	23
Private Address:	NAGOYA-SHI, HIGASHI-KU, DEKIMACHI 3/126
Education:	Primary School 6 yrs, Middle School 5 yrs.
Civil Occupation:	Clerk

1. PREAMBLE

Bright and observant. PW stated he would give all information he could as he owed his recovery from severe wounds to Allied nursing. Information imparted was intelligently given and seemed to be true.

2. CHRONOLOGY

Personal History Graduated 3 Mar '35 from NAGOYA Middle School at age of 19. PW obtained employment with TAI HEI (Great PACIFIC) Fire Insurance Co, NAGOYA, a concern which did most of its underwriting with Royal Insurance Co, LONDON.

Pre SWPA

Aug '37 Conscripted. Medically examined, class A1.

10 Jan '38 Called up. Posted to KOSHANO, DAI ICHI KENTAI HOJŪ TAI (Replenishment TAI of 1 A/A Regt), at HAMAMATSU (see sec 4).

16 Jul '41 PW with approx 450 ORs KARIYA BUTAI sailed (see sec 11) from KOBE as replacements to OHARA BUTAI in MANCHURIA.

18 Jul '41 Arrived FUSAN and entrained for MUTANGKIANG.

1 Aug '41 Trained to TONAN.

Dec '42 Trained to FUSAN.

Voyage Out

Early
Dec '42 Sailed from FUSAN in MOKOYAMA MARU (see sec 11) for RABAUL.

End
Dec '42 Arrived RABAUL (see sec 11).

⑳尋問調書 (Interrogation Report) No. 104

CONFIDENTIAL - BRITISH SECRET

ALLIED TRANSLATOR AND INTERPRETER SECTION
SOUTH WEST PACIFIC AREA

SERIAL NO. 175

27 Jun '43

INTERROGATION REPORT NO. 104 KOJIMA, Masao

1. Attached is a Report on information gained from Japanese PW KOJIMA, Masao.

2. All information contained in this Report has been extracted from this PW source only. Its value should be assessed and its distribution restricted accordingly.

Examiner 5

BCJM/PWC/MK/NEH

SIDNEY F. MASHBIR,
Colonel, S.C.,
Co-ordinator.

DISTRIBUTION	NO. OF COPIES
AG GHQ SWPA	14
COMDR SEVENTH FLEET	16
DNI	5
ADV LHQ SWPA	34
AAF HQ SWPA	20
US MIL ATTACHE	1
OCE GHQ SWPA	1
CG USAFISPA	3
NEFIS	1
USAFFE	1
ADV ECH ATIS	1
ATIS SWPA	14

RECEIVED
JUN 27 1943
G. H. Q.
S. W. P. A.

government there as in MANCHURIA, because unlike the situation in the latter country, NORTH CHINA was surrounded by hostile armies. This war was not a blunder on the part of TOJO. If any blame could be laid, it should be attributed to the country as a whole. To a certain extent even if a country were being forced into war it could abstain from fighting, but JAPAN had been forced to fight without any alternative. Thus she cannot be considered as having made a mistake.

Conditions in Fighting Services P had no idea of how many men JAPAN had mobilized in the past five years. He had only one cousin on active service but he did not know what had happened to him. In general, the men of his family were not strong. He thought that many of his school-mates had gone to war but as he had had no communication with them he did not know if any had been killed or wounded. Neither he nor any of his companions had suffered from disease and he had never been wounded. P/ insisted that the Army did not run brothels but merely supervised those run by civilians under an arrangement whereby supervision began with the war and ended immediately after cessation of hostilities.

Attitude to Allied nations P claimed that he had not heard of the anti-English movement in JAPAN. If such existed, it was the work of individuals and certainly not of Govt. In any case he thought there was no anti-English organization as such. He did not think that the Chinese disliked the Japanese but their leaders incited them, taking advantage of the disordered condition of the country. P/ believed that the natives of occupied countries should be and were being treated as equals. In no case were natives enslaved or restricted in any way. They were free and independent. He had not read the Rescript of MEIJI regarding treatment of prisoners and natives, but thought it was being followed. He had never seen white men doing coolie work and in RABAUL he had seen no prisoners.

Attitude to Axis Nations JAPAN was getting no assistance from GERMANY. He had not studied the German people and had never heard of HITLER's theories. JAPAN and GERMANY were different countries and he did not feel qualified to express an opinion on a people he did not know.

Propaganda Radio P had never listened to the radio while in camp.

Leaflets Had never seen nor heard of Allied propaganda leaflets.

16. CHEMICAL WARFARE

Gas Attacks P stated that all men of the EISEI TAI were given respirators but as a rule they did not carry them as they were cumbersome. The only gas instruction given was in method of donning respirator.

There were no units that specialized in gas warfare although there might be 2 or 3 men who understood gases, attached to a unit. There were none such in his TAI. MOs had no special training in decontamination work but all of them would naturally know what to do in event of gas attack. Regular Army MOs might know more about gas warfare, but he had no interest in the subject whatsoever and being a Reserve MO only, he did not consider the subject worthy of study. In P/'s opinion gas warfare would not be resorted to in this war.

17. MEDICAL

51 Div Med Organization In each div there was:-

a) EISEI TAI attached to Div HQ.
b) MO, of Fd rank, attached to Div HQ.
c) MO with each regt.
d) Fd hosp.

Each of these sections were separately organized. P/ described their functions as follows:-

Official PW No. JA 145545

INTERROGATION REPORT NO. 9

PW's Name:	HISHIJO, Shiro alias TSUYAMAWA
Rank:	Medical Captain
Unit:	51 Ind Engr Regt (OTC 2006)
Where Captured:	SE of TAPI, PATNA.
By Whom Captured:	Natives and handed over to Aust tps
How Captured:	On landing from collapsible boat
When Captured:	13 Apr '43
Height:	5' 7"
Weight:	135 lbs
Age:	33
Private Address:	TOKYO FU, TOYO SHI, OJIMU, INAZUKE CHO 4/545
Education:	Primary, Higher Primary, Middle, Medical Preparatory and Medical schools
Civil Occupation:	Doctor

1. PERSONALITY

PW was highly intelligent and although a patriotic and loyal Japanese he was not the usual jingoistic type of Japanese Offr. He continually maintained that his sole interest was the practice of medicine and that he hated war. However, from the start he frankly stated that while he would be glad to answer questions truthfully, he would not reply if it meant revealing military information. This attitude was maintained throughout. In general PW was co-operative but never gave information of consequence if he could avoid it.

2. CHRONOLOGY

Personal History After Primary, PWs schooling was as follows:-

'30 One year Higher Primary School.

'31 ENJCHU Middle School in GIFU.

'34 Completed a Medical Preparatory Higher School.

'38 Completed Medical School and spent 4 months at its attached Hosp practising Medicine.

PW studied English at Middle School and was taught German and Latin at his Medical Preparatory School. He confessed that he had forgotten a great deal, not having used any language but Japanese during his five years in the Army.

He had attended Kitasato Medical School, TOKYO. This school had no actual connection with TOKYO Imperial University but was staffed by its tutors. There were about 120 to 130 students in each of the four classes.

After four months at the hospital attached to his Medical School he felt

⑲尋問調書 (Interrogation Report) No. 94

CONFIDENTIAL - BRITISH SECRET

ALLIED TRANSLATOR AND INTERPRETER SECTION
SOUTH WEST PACIFIC AREA

SERIAL NO. 163

15 Jun '43

INTERROGATION REPORT NO. 94 NISHIO, S.

1. Attached is a Report on information gained from Japanese PW NISHIO Shiro, alias TSUKADA A.

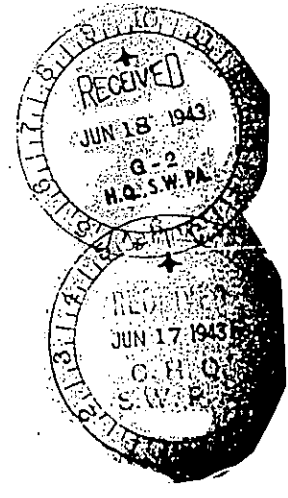
2. All information contained in this Report has been extracted from this P.W. source only. Its value should be assessed and its distribution restricted accordingly.

BCJN/FWG/DAH/NEH

No. 5

SIDNEY F. MASHBIR
Colonel, S.C.,
Co-ordinator.

DISTRIBUTION	NO. OF COPIES
AC GHQ SWPA	14
COMDR SEVENTH FLEET	16
DNI	5
ADV LHQ SWPA	34
AAF HQ SWPA	20
US MIL ATTACHE	1
OCE GHQ SWPA	1
CG USAFISPA	3
NEFIS	1
USAFFE	1
ADV ECI ATIS	1
ATIS SWPA	14



PW apparently had no views but was able to state that he had heard that there were Naval brothels in RABAUL staffed by Japanese girls from 20 to 25 years of age. These were professionals from JAPAN.

Attitude to Allied Nations He could not comment on the anti-English movement but thought that the British were still popular - the main resentment was with America. He thought that the antipathy between Chinese and Japs, was due to the fact that they were geographically so close that quarrels were bound to occur. He persisted in his statement that JAPAN was treating natives of occupied countries as equals and could not be shaken on the statement. PW also said that the Rescript of Meiji was being followed although he could not explain the killing of the American airmen in JAPAN after the raid. He had seen Australian PsW in RABAUL and saw that they were well fed and issued with tobacco. He stated that they were working on the wharves, unloading ships, and that they were being paid for the work.

Attitude to Axis Nations PW knew of Hitler but did not agree with the German claim to racial superiority. He said that, on the contrary JAPAN and ENGLAND held the superior races of the world. He had no views on the German worship of Hitler. PW said that he did not know of any assistance now being furnished by GERMANY to JAPAN but said that there had been some assistance before the war.

PROPAGANDA

Radio PW had listened to the radio only in KAICHUNJO. The only news he got in RABAUL was from old newspapers. He said that the troops were only told the good news on the radio. He thought there was a considerable difference between actual war and the radio version of it. He had never seen nor heard of any Allied propaganda leaflets.

16. CHEMICAL WARFARE

All troops carried a T95 respirator and one can of A.G. powder. The unit gas soldiers were equipped with a one piece rubber gas suit, rubber gloves and boots. Questioned as to whether the respirator was built into the gas clothing. He stated that it was separate and of the same T95 pattern.

All troops were issued with oiled paper (ABURA KAMI) Anti gas capes, which after use were not decontaminated but burned.

He said that these were not reinforced with any cloth and tore very easily.

17. TOPOGRAPHY

Air Watching Posts - NEW BRITAIN PW did not know that there was an aerodrome at GASMATA but said there was an Air Watching Post at a place called TSURUBU on the Western end of NEW BRITAIN. There were other watching posts on the coast.

Roads He said there was a road under construction from RABAUL to TSURUBU along the North Coast.

Quarters PW stated that the troops in the new houses opposite the jungle at LAKUNAI drome, previously described by PW as HANEBUSA BUTAI, contained Jap conscript labourers, and were a naval aerodrome construction unit.

LAE PW stated that there were 2,500 troops in the LAE Area.

JOSHIKO At JOSHIKO, KOKUMBO, 1 Coy guarded food dumps, 2 Coy an ammunition dump and 3 Coy KAIN Aerodrome. There were no planes stationed on the latter drome.

soy sauce, but no calorific or vitamin-rich foods were seen. On embarkation emergency rations for four days and two days rice stored in a section of bamboo, three sticks of sweetened bean paste and seven small tins of boiled meat and soy sauce were carried. No "tommy cookers" or soy or miso soup was carried on the person.

Three months rations were carried by the unit.

Water PW stated that the water supply in RABAUL was quite adequate for all needs. Delivery of the latter were made by trucks of the water purifying section. The officers had the same issue as the men. Wells had been dug about 30 metres from the coast line. However, this water could not be used without boiling.

13. MORALE & PROPAGANDA

MORALE

Economic Conditions in JAPAN PW had not heard from his people since he left for SWPA, but had sent several postcards from RABAUL. His people were all well when he left. PW said that he did not wish to write home and stated that he would never return to JAPAN voluntarily but was told that he would be shipped back just when we thought fit. He had received no comforts or war relief bags and stated that some discontent existed owing to lack of mail. PW thought that there possibly was a war boom in JAPAN but the cost of living had gone up and taxes were high. Most things were rationed by the ticket system.

Political Conditions in JAPAN PW's family had voted for the MINSEITO Party. The Emperor certainly did not like war, which was America's fault. JAPAN was not really at war with the English and far less with the Australians. TOJO was not, in his opinion, following his own ambitions. He personally did not like war but orders had to be obeyed. Even if JAPAN had kept out of the war there would have been no prosperity, as AMERICA would have seen to that. He thought Communism was bad however one looked at it. There could be no equality where there were different types of work to be done. When Communism was popular in JAPAN he was at school. At the time of the 26 Feb '36 incident he was in HAMAMATSU and thought that it was badly advised. When the MANCHUKUO incident began he was in HAMAMATSU and was still there at the beginning of the CHINA War. He had thought at first that the latter affair would soon be over. He knew also of the short length of the CHINA/JAPAN War of 1894/5 and of the resultant casualties, and that JAPAN had obtained FORMOSA and 220 million in indemnity. As regards the present CHINA War he had no views but thought that the length of hostilities was due to the possibility of CHINA having become stronger.

Asked why JAPAN had not stopped at North CHINA and established a stable Government, PW stated that CHINA was a big country and that it would have been better to have stopped at North CHINA. He thought that there were only few ships being used in the CHINA operations. However, there ought to be a shortage of them soon.

Conditions in Fighting Services PW thought that JAPAN had mobilized 5,000,000 men in the past 5 years. Of his family and relatives only he had seen active service. Two of his schoolmates had gone on active service and both had died on their return, one from Malaria and the other from consumption.

Both had served in the CHINA incident. He himself had never been wounded.

All letters to JAPAN were prohibited but there was no restriction on postcards. All outgoing postcards were censored by unit CO's the Adjutant attending to HQ mail. No mention of climate, location or any military matters could be made and soldiers were only permitted to say that they were all well etc.

29 Nov '42 50 Bn moved to FUSAN and boarded two transports of 5000 and 6000 tons respectively. 2 Coy and wagon lines boarded the larger ship. Two guns from each Coy were mounted on each ship as protection.

7 Dec '42 Sailed from FUSAN.

24 Dec '42 Arrived RABAUL (disembarked 24 Dec '42).

Feb '43 Sailed from RABAUL in OIGAWA MARU in convoy (see sec 19).

2 Mar '43 Convoy bombed by Allied A/C.

3 Mar '43 PW's ship hit and abandoned.

7 Mar '43 Landed in TROBRIANDS

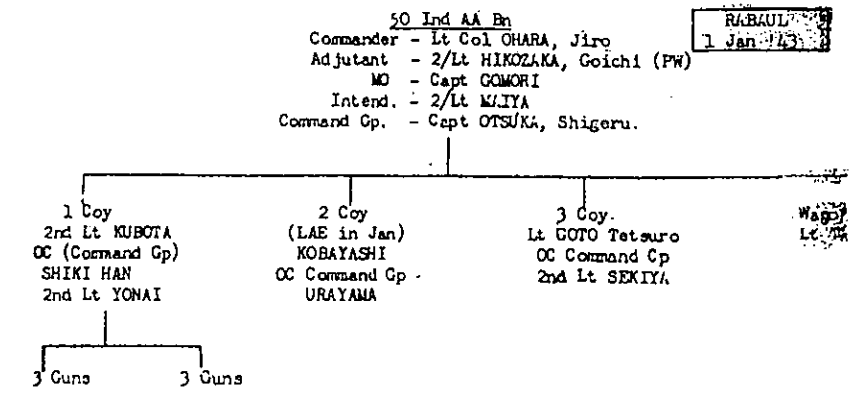
21 Mar '43 Captured.

3. CAPTURE.

PW was on board OIGAWA MARU, which, after the bombing caught fire but did not sink immediately. PW took to the water with a floating drum, and was later picked up by ship's boat, containing 15 other men After various strafings which killed two of the occupants, they arrived a small island in TROBRIANDS on approximately 7 Mar. After wandering from island to island they were captured by Aust troops on 21 Mar. These locals were manning a type of landing craft flying the Union Jack, which made PW think they were British soldiers. He said that he thought the Aust flag had some stars on it.

4. UNIT OR FORCE

Organisation. In July '41, the two Hy AA Gun Coys, 10 AA Regt plus 400 reinforcements from JAPAN formed 50 Ind AA Bn under command of Lt Col OKADO, who was replaced by Lt Col OHARA 22 Jan '42. Was formed in MANCHUKUO and was known as IWA 3616.



Unit Losses. KOBAYASHI was killed when NICHIRYU MARU was sunk en route LAE on 7 Jan '43.

Movements in NEW BRITAIN. RABAUL. On arrival at RABAUL 1 and 3 Coys, HQ and wagon lines moved to LAKUNAI 'drome. 2 Coy was installed near VULCAN Volcano and left for LAE with the OKABE IMB. on 5 Jan '43.

OFFICIAL PW's NO. JA 145520

INTERROGATION REPORT NO. 78

PW's Name:	HIKOZAKA, Goichi Alias KIKUKA, Kiyoshi W.O.
Rank:	2nd Lieut
Unit:	Adjt 50 A/A Bn
Where Captured:	TROBRIANDS
By whom Captured:	5 Aust Div
How Captured:	Without resisting
When Captured:	21 Mar '43
Height:	5' 4"
Weight:	117 lbs
Age:	36
Private Address:	SHIZUOKA-KEN, HAMAMATSU-SHI, TAKAMACHI Chome 5.
Education	Higher Primary
Civil Occupation:	Farmer

1. PREAMBLE

PW gave a wrong name at capture as he considered it a disgrace for a Jap Officer to be taken prisoner and he wished he had died with his men. Intelligent.

2. CHRONOLOGY

Personal History PW's family were farmers and his wife, two children, parents and 3 sisters were still alive. PW had never been employed in any civil job apart from farming at which he worked for 6 years. He left school at the age of 16. He was first conscripted in 1928 into 1 A/A Regt HAMAMATSU and remained with Forces till captured.

Pre SWPA

Jan '39 PW proceeded to MANCHUKUO with 150 men. Attached to 10 AA Regt at KOSHUREI (about 25 miles north of SHINKYO).

Oct '39 10 AA Regt moved to MUTANKIANG.

Mar '41 PW appointed to command 1 Pl, 1 Coy, 10 AA Regt.

Jul '41 Upon disbandment of 10 AA Regt (see sec. 4) PW posted to newly formed 50 Ind AA Bn as CC 1 Pl,3 Coy.

7 Aug '41 50 Ind AA Bn left JOSHIKO

30 Sep '41 1, 2 & 3 Coys and HQ moved to LAOHEISHAN

14 Nov '41 Bn left LAOHEISHAN and returned to JOSHIKO (CHENGTZUKUO)

Feb '42 PW became Adjt 50 Ind AA Bn.

Aug '42 PW's appointment as adjt officially confirmed.

⑱尋問調書 (Interrogation Report) No. 78

CONFIDENTIAL - BRITISH SECRET

ALLIED TRANSLATOR AND INTERPRETER SECTION
SOUTH WEST PACIFIC AREA

SERIAL No. 131

15 May, '43

INTERROGATION REPORT NO. 78, HIKOZAKA, G.

1. Attached is a Report on information gained from Japanese PW, HIKOZAKA, Goichi, alias KIMURA, Kiyoshi.

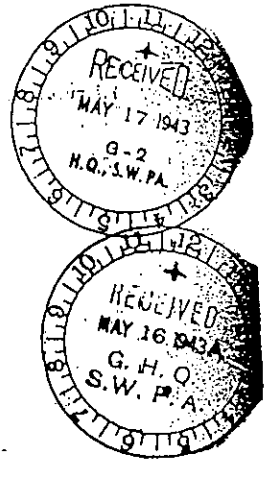
2. All information contained in this Report has been extracted from this PW source only. Its value should be assessed and its distribution restricted accordingly.

SIDNEY F. MASHBIR
Colonel, S.C.,
Co-ordinator.

BCJM/FWC/RW

No. 124

DISTRIBUTION	NO. OF COPIES
AG GHQ SWPA	13
COMDR SEVENTH FLEET	16
DNI	5
ADV LHQ SWPA	34
AAF HQ SWPA	20
US MIL ATTACHE	1
OCE GHQ SWPA	1
CG USAFISPA	3
NEFIS	1
USAFFE	1
ADV ECH ATIS	1
ATIS SWPA	14



12. ENEMY SUPPLIES

Jap A/C A/C seen by PW at PALAU were described by him as single engined "sea planes and land fighters". The former had either one or two floats. Land Fighters predominated.

HONGKONG There was a manufacturing area in KOWLOON which was restricted to Chinese working there. As far as PW knew, no munitions were being manufactured. He had heard that parachutes, web-belts, water bottles and respirators were produced in KOWLOON.

13. MORALE & PROPAGANDA

Conditions in Japan PW heard of a troupe of Jap entertainers and newspaper reporters who made a tour of the fronts assuring troops that all was well and food plentiful in Japan. He remarked that the Chinese inferred from this that conditions were not as described and that all was not well on the Home Front.

Attitude to Allied Nations In RABAUL, PW saw about 40 white men doing coolie work. 30 of them were working in an ice-plant and the rest were dock-labourers engaged in loading trucks at the time he saw them. His Section Leader told him that they were civilians brought for the purpose from HONGKONG.

Conditions in Services Chinese coolies were not allowed to visit the brothels in RABAUL. They were maintained by the Military and inmates were Koreans.

PROPAGANDA Broadcasts War news was posted daily on a Bulletin Board in PW's ship. He remembered particularly that Japan was credited with a great victory in Coral Sea. At PALAU a radio was brought on board to entertain troops with music and Jap plays.

Allied Leaflets PW had never seen any but at LAE, the Jap section boss had told the Chinese that if they picked up any they would catch a loathesome disease.

16. CHEMICAL WARFARE

Chinese were not issued respirators and were at no time instructed in anti-gas measures. Jap troops often discarded respirators when over-burdened.

17. TOPOGRAPHY

PALAU Sheltered by the breakwater, there were 60 to 70 ships anchored in the channel leading to the Harbour. All merchant vessels except the 2 DD of his convoy.

18. MEDICAL

Hospital Ships PW saw 6 or 7 at PALAU when he was there in Nov '42. He recognized the vessels as such by the crosses on them.

Sickness In NEW GUINEA, 40% of PW's Unit were ill from Malaria, fatigue, and lack of food. KANUOKA, the BUTAI Comdr, was originally quite fat but after a couple of weeks he became a thin man.

OFFICIAL PW NO. JA 445389

INTERROGATION REPORT NO. 67

PW's Name:	OONG, Wai
Rank:	GUNZOKU (civilian militarily employed) Chinese labourer
Unit:	KURUOKA 2803 BUTAI 2 Bn SEKI TAI
Where Captured:	WAU area
By Whom Captured:	Aust Troops
How Captured:	Deserted
When Captured:	6 Feb '43
Height:	5' 4"
Weight:	130 lbs
Age:	24
Private Address:	364 TAFUTO Rd., HONGKONG.
Education:	Primary School 5 years
Civil Occupations:	Chocolate factory owner, and dried fish merchant.

1. PREAMBLE

PW was of better than average intelligence and appeared anxious to give any information of value that he knew. However, due to his lack of knowledge of the Japanese language the information he was able to gather from the Japanese was limited. In addition, what he was able to see was limited by the restrictions on the movements of Chinese coolies.

2. CHRONOLOGY

Personal History Of Chinese Parentage, PW was born in HONGKONG and is a British subject. His business interests were in KOWLOON, where he lived.

Pre SWPA

17 Nov '42 With 9 of his employees, PW abducted in KOWLOON by Jap Gendarmes.

18 Nov '42 With 37 other Chinese, put aboard TAIAN MARU. Sailed for PALAU in convoy of 5 merchant ships and 2 DD (See sec.11)

Voyage Out

30 Nov '42 Arrived PALAU. Stayed 5 days. Sent ashore in parties in charge of Jap Officer (See sec. 10, 11 and 17)

In SWPA

10 Dec '42 Arrived RABAUL. During stay there employed in discharging ships and erecting huts for Chinese labourers.

⑰尋問調書 (Interrogation Report) No. 67

CONFIDENTIAL - BRITISH SECRET

ALLIED TRANSLATOR AND INTERPRETER SECTION
SOUTH WEST PACIFIC AREA

SERIAL NO.117
30 Apr '43

INTERROGATION REPORT NO. 67, OONG, W.

1. Attached is a Report on information gained from Japanese PW, OONG, Wai.

2. All information contained in this report has been extracted from this PW source only. Its value should be assessed and its distribution restricted accordingly.

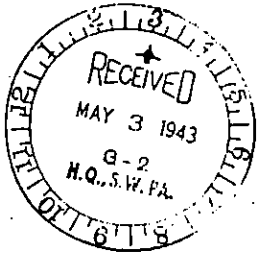
SIDNEY F. MASHBIR,
Colonel, S.C.,
Co-ordinator.

BCJM/JHC/MK

No. 5



DISTRIBUTION:	NO. OF COPIES
AG GHQ SWPA	13
COMDR SEVENTH FLEET	16
DNI	5
ADV LHQ SWPA	34
AAF HQ SWPA	20
US MIL ATTACHE	1
OCE GHQ SWPA	1
CG USAFISPA	3
NEFIS	1
USAFFE	1
ADV ECH ATIS	1
ATIS SWPA	14



PW agreed that JAPAN should have established stable Government in North China as she did in Manchukuo, instead of pressing on with the campaign.

PW himself had worried in the past about probable ship and plane shortages and he believed that this question was causing concern in JAPAN. The Navy spokesman HIRAIDE, made a broadcast speech on Navy Day (27 May '41) in which he assured his listeners that the Navy was ready to take on any opposition and had 500 planes safely stored away at strategic points. HIRAIDE received many letters criticising this talk as bombastic, and he subsequently taunted his critics in a broadcast after the successes at PEARL HARBOUR.

Conditions in Fighting Forces PW hazarded a guess that JAPAN could mobilize 3,500,000 men, but did not know the actual number mobilized during the past 5 years. About four of his relatives were absent on active service. A few of his school mates had been killed or wounded but he himself had never been touched although he had contracted malaria.

He had heard that there were brothels in RABAUL and believed they were run by civilians under the direction of RIEKIJO KINMU (Land Duty) Units. The women in them were "played out" Japanese.

PW had never heard men being warned against being taken prisoners. Questioned as to why more men did not surrender when lying helpless with fever and hunger PW replied that while individual men might have a desire to surrender, they were deterred by the presence of other soldiers. If they did surrender and were unaccounted for, they would be posted as missing. After a lapse of 3 years they were presumed dead and would be enshrined at YASUKUNI-JINJA. PW stated that it would be strange to return to JAPAN after the war, if it lasted more than three years, to find himself "dead". In view of enshrinement it might become necessary for PW to do away with himself and in this connection he asked concerning the numbers of Jap PsW captured. If a very large number of PsW were returned to JAPAN there would have to be some declaratory legislation that they were not expected to commit suicide.

PW stated there was considerable discussion in the vicinity of KURE regarding the Navy's announcement that 9 Naval ratings had been enshrined following the loss of 5 midget submarines at Pearl Harbour. People wondered only 9 were enshrined when it was known that each submarine carried a crew of 2 men. It was finally announced that one man was a prisoner of war.

Rumours There were stories in NEW GUINEA of officers abandoning their men in order to get back to RABAUL. Rumour had it that they shot men in order to get places on boats.

PW heard that JAPAN and the SOVIET were at war and, upon being assured that they were not, remarked that the Japanese general staff had probably started the rumour to excuse the lack of reinforcements and aerial cover in NEW GUINEA.

KEMPEI (Military Police). Men of this force were among the first to desert their posts, even going to the extent of trying to force themselves into hospitals on the pretext of being ill.

TAKASAGO BUTAI (Formosans). PW stated that CO of this Force had requested CO of TOKITA BUTAI to make some provision for the safety of his men on the ground that they were not combatant troops. He had been roughly refused and was extremely incensed over the matter.

Attitude to Allied Nations PW did not know why the anti-English movement was started. Whilst he was in OSAKA, he met many foreigners and enjoyed good relations with them.

OFFICIAL PW NO. JA 145371

INTERROGATION REPORT NO. 63

PW's Name:	NOMA, Tsunenori
Rank:	Corporal
Unit:	SEIBU 34 BUTAI
Where Captured:	GIRUWA
How Captured:	Surprised by patrol
By whom Captured:	Aust Troops
When Captured:	25 Jan '43
Height:	5' 5"
Weight:	115½ lbs
Age:	28
Private Address:	EHIME-KEN, ONSEN-GUN, JINWA-MURA, No. 495.
Education:	6 years Primary School; 1 year Higher Primary and 5 years MATSUYAMA Commercial School.
Civil Occupation:	Clerk - later a Civil Servant.

1. PREAMBLE

PW has not hesitated to answer questions and appears to have been truthful. Has little knowledge of military affairs and gave the impression of not being particularly interested therein. This man had Allied leaflets in his possession at time of capture. These appear to have created an impression on him but to what extent they induced him to surrender cannot be estimated.

2. CHRONOLOGY

Personal History PW was examined by the military in 1935 and placed on the reserve. Prior to his call up in 1942 he worked for KAMAHARA and Co., OSAKA, dealers in oil, and subsequently at the MATSUYAMA KENCHO (Prefectural Office), EHIME KEN.

Pre SWPA

1 Sep '42 Called up at KOCHI and assigned to SEIBU 34 BUTAI.

Voyage Out

13 Oct '42 1000 troops (formed into 3 Coys) of SEIBU 34 BUTAI proceeded to SAKAIDE (see Sec 11) as replacements for KUSUNOSE BUTAI (see Sec 4).

Oct '42 Boarded TEIRYU MARU and sailed via SHIMONOSEKI, TAKAO, MAKO Is. and MANILA to RABAUL. (See Sec 11).

In SWPA

18 Nov '42 Arrived RABAUL.

19 Nov '42 PW and about 850 men of the SEIBU 34 BUTAI boarded 3 destroyers and sailed for BUKA. (See Sec 11).

⑯ 尋問調書 (Interrogation Report) No. 63

CONFIDENTIAL - BRITISH SECRET

ALLIED TRANSLATOR AND INTERPRETER SECTION
SOUTH WEST PACIFIC AREA

SERIAL NO. 107

19 Apr '43.

INTERROGATION REPORT NO. 63, NOMA, T.

Including Information published in
Interrogation Spot Report SERIAL 89.

1. Attached is a Report on information gained from Japanese PW NOMA, Tsunenori.

2. All information contained in this report is extracted from this PW source only. Its value should be assessed and its distribution restricted accordingly.

for J.G.McDonnell, Maj
B.C.J. MEREDITH,
Major,
C.O. Army Unit.

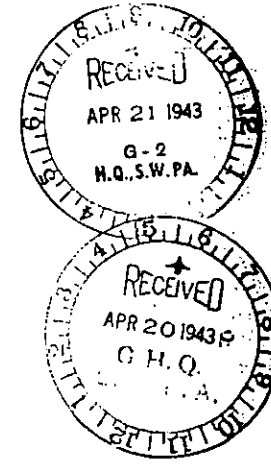
APPROVED:

SIDNEY F. MASHBIR,
Colonel, S.C.,
Co-ordinator.

FWC/JMC/RW

No. 3

DISTRIBUTION	NO. OF COPIES
CO-ORDINATOR ATIS SWPA	1
AC GHQ SWPA	13
COMGT SEVENTH FLEET	18
ADV LHQ SWPA	33
AAF HQ SWPA	20
US MIL ATTACHE	1
OCE GHQ SWPA	1
CG USAFISPA	3
NEFIS	1
ADV ECH ATIS	1
ATIS SWPA	13



12. ENEMY SUPPLIES

MANCHUKUO

Petrol — Petrol for trucks used by 23 Ind Engr Regt was obtained from various dumps. If there was a likelihood of being stationed away from a petrol dump each Coy would take along 10 drums (500 U.S. Gals).

RABAUL

Rations — Each man in PW's Regt was given 3 small bags of biscuits, 9 GO of rice, 1 bag of powdered MISO (bean paste) and salt and 2 tins of canned meat, but, as meals were cooked by each section daily these rations were not supposed to be touched.

13. MORALE AND PROPAGANDA

MORALE

Economic Conditions in Japan — PW last heard from his wife during Apr '42 when he was in MANILA. She advised him of the birth of a son. He had last written home when he was in MANCHUKUO (about Oct '42) although when he was in UJINA in Dec '42 he had sent home Y15 to his children. PW does not wish to write home now. He received one comfort bag when leaving UJINA. It contained NORI (dried seaweed) a minature game of Jap chess and bamboo puzzles. He said he would have appreciated the gift better if it had contained soap, toothpaste and such like articles.

PW did not think there was a war boom in JAPAN; in fact, he said that many businesses had been adversely affected. All food and clothing, besides many other articles were rationed. There was not enough for everyone but the Japanese people managed to "scrape along" somehow.

Political Conditions in JAPAN — PW had a Primary School education. His father died shortly after he was born and he did not know to what political party he belonged. PW thought the war was not a good thing but that there would always be wars. He could not say whether TOJO was carrying out the Emperor's wishes. The war against the United Nations was inevitable because JAPAN would have to defeat the nations helping CHINA, in order to induce her to surrender.

PW was in KYOTO 15 years ago when communism was popular in JAPAN and he was also there at the time of the 26 Feb '36 incident. He could express no opinion on communism and could not recollect much about the 26 Feb '36 incident.

PW was in KYOTO at the time of MANCHUKUO incident and when the CHINA war broke out. He had thought that the CHINA War would last no longer than 6 months to a year.

PW said that he was ashamed at his lack of knowledge of the CHINA-JAP war 1894/95. The present CHINA War was lasting such a long time because CHINA was receiving assistance from other countries.

Conditions in the Fighting Services — PW had no idea of the number of men mobilized by JAPAN in the past 5 years. Only one relative had seen active service and he had been invalided back to JAPAN and was now well. He could not say how his school mates had fared. He had never been wounded but had suffered from malaria as had most of his comrades.

Brothels in field operational areas were started and controlled by the Army. He could give no details of the women employed in brothels at RABAUL. He had heard of 2 cases of venereal disease in the Army but such cases were uncommon.

Attitude to Allied Nations — PW had forgotten the reason for the Anti-English movement. PW did not know of Chinese dislike of the Japanese. JAPAN should and fact was treating the natives of occupied

OFFICIAL PW NO. JA 145426

INTERROGATION REPORT NO. 60

PW's Name:	KITAMURA, Yoichi
Rank:	Superior Private
Unit:	AKITSUKI 2503 - 8 Shipping Engr Regt
	3 Coy
	1 Pl
	3 Sec
Where Captured:	Off TAOERLANG
By Whom Captured:	By USN Patrol Vessel
How Captured:	Rescued from sea.
When Captured:	8 Mar '43.
Height:	5' 4"
Weight:	115 lbs
Age:	37
Private Address:	C/o TERUDA MASAKI, MATSUHARA-DORI, SAIKON NISHI IRU,
	HINODE-CHO, KYOTO.
Education:	6 years SHOGAKKO (Primary School)
Civil Occupation:	Employed for 9 years by a colour type company,
	followed by 10 years as a taxi and truck driver.

1. PREAMBLE

PW regretted he lied in the forward area, by saying he was on board TEIYO MARU. He has since talked very frankly and though he did not seem to know very much, his disclosures were made in a convincing manner.

2. CHRONOLOGY

Personal History After graduating from Primary School in 1920, PW joined a colour type printing Coy and worked there till 1927 when he was called up for Military examination at KYOTO. He was classed as B1 and assigned to DAI ICHI HOJU (1st Replacement Reserve). In 1929, as there was no future in printing, he joined a relative who had a trucking business. He drove trucks for him till 1934, when he became a taxi driver. Later he reverted to truck driving.

Pre SHPA

Jul '41 PW called up and reported to 16 Engr Regt at KYOTO. Replacement Reserves including PW, posted to 23 Ind Engr Regt stationed at SUISHOKU, KOREA (See sec. 17)

Early Aug '41 Arrived SUISHOKU.

Oct '41 Left SUISHOKU for FUSAN. In barracks.

⑮尋問調書 (Interrogation Report) No. 60

CONFIDENTIAL - BRITISH SECRET

ALLIED TRANSLATOR AND INTERPRETER SECTION
SOUTH WEST PACIFIC AREA

SERIAL NO. 103

17 Apr '43

INTERROGATION REPORT NO. 60, KITAMURA, Y.

Including Information published in
Interrogation Spot Report SERIAL 65.

1. Attached is a Report on information gained from Japanese PW, KITAMURA, Yokichi.

2. All information contained in this report is extracted from this PW source only. Its value should be assessed and its distribution restricted accordingly.

B.C.J. MEREDITH,
Major,
C.O. Army Unit.

APPROVED:

SIDNEY F. MASHBIR,
Colonel, S.C.,
Co-ordinator.

FWC/JMC/RW

No. 21

DISTRIBUTION	NO. OF COPIES
CO-ORDINATOR ATIS SWPA	1
AG GHQ SWPA	13
COMDR SEVENTH FLEET	18
ADV LHQ SWPA	33
AAF HQ SWPA	20
US MIL ATTACHE	1
OCE GHQ SWPA	1
CG USAFISPA	3
NEFIS	1
ADV ECH ATIS	1
ATIS SWPA	13

Educated Japanese considered that the China War could last for any time up to 100 years and some were of the opinion that the war with the Allied Nations would last about that long. TOJO was said to have expressed the opinion that the war would not end in 2 or 3 years but it would be a long drawn out affair because of the tremendeous resources of USA.

Japan did not stop at North China because she had decided that it would be better to make a clean sweep now instead of having another war in 10 years time. China had become comparatively stronger than in the 1894-5 war but only obsolete equipment was being used against her, whereas the war against the Allied Nations was being waged with much more modern equipment.

Conditions in the Fighting Services Japan had sufficient equipment for 1650 "mobilization days" (PW could not explain the meaning of these words) and such a tremendous reserve of manpower that even if the war did last for 100 years, she could not be beaten. Losses of 50,000 to 60,000 killed were treated with indifference; if 200,000 were killed at one time, someone in Tokyo GHQ might then start thinking.

PW's brother in law who was his only relative on active service, had not returned to Japan when he last heard of him. About 40% of PW's fellow employees had enlisted.

PW had never been wounded and had never had a disease. There were approximately 20 brothels in RABAUL, 5 in KOKOPO area and the remainder were in the town. Inmates were all Japanese women. The brothels were mainly patronized by the officers; men could rarely gain admittance. Prices were officers ¥ 5 and men ¥ 1.

Attitude to Allied Nations PW did not believe that anti-British feeling existed in Japan. In fact, foreigners in Japan had the sympathy of the Japanese because they could not return to their own countries.

PW had always had a dislike for Chinese and Koreans. He considered that Koreans should not be placed with Japanese in the same compound as "they smell".

He did not believe that natives of occupied territories should be treated as equals of the Japanese. Owing to the Rescript of the Emperor MEIJI, natives, although not on the same footing as Japanese, were not made slaves and were well treated.

PW had never seen white PsW doing coolie work. At RABAUL there were 200 white PsW in a camp near the wharf. They had sufficient food. PW had spoken to one Allied PW there who stated that he had been captured in the Philippine Islands. The Allied PW refused a proffered cigarette stating that he had his own issue and by taking a cigarette from PW would have this issue curtailed.

Attitude to Axis Nations Japan is getting no assistance from Germany. Each country is fighting for its own ends and high officials of the Jap Army and Navy were well alive to the fact that Germany would never allow Japan to hold all the rubber and oil resources she had acquired. If both Japan and Germany were successful in the present war, such success would simply lead to a further war for division of the spoils.

Although Germany might think now that she was the superior nation, time would decide the issue. Japanese worship of the Emperor is quite different to the idolizing of Hitler by Germans. Hitler redeemed his country and Germans look up to him as their saviour.

Propaganda Radio PW had only listened to broadcasts in TOKYO and MANCHURIA. When there were successes, such as the Malayan campaign, losses incurred were unhesitatingly recorded. On the other hand, when there was a reverse, details of losses were announced with reserve. PW had noticed a considerable difference between war as described over the radio and as he actually experienced.

Official PW No. JA 145274

INTERROGATION REPORT NO. 57

PW's Name	AOKI, Yoshio (Alias TSURUMI, Tadashi)
Rank:	Sup Pte
Unit:	50 Ind A/A Bn 1 Coy. 1 Sec
Where Captured:	Island off NEW GUINEA coast
By whom Captured:	USN Patrol Boat
How Captured:	On attempting to land.
When Captured:	6 Mar '43.
Height:	5' 5"
Weight:	115½ lbs.
Age	22
Private Address:	IBARAKI KEN, YUKIGUN, ENUMA MURA, FURUHANGI 1385.
Education:	6 years Grammar, 2 years Higher Primary and 1 year at Middle School.
Civil Occupation:	Boot salesman.

1. PREAMBLE

It is felt that PW's statements are true. In two cases he lied but corrected them on his own volition at a later date. One was the giving of a false name and address, the reason for it was that he did not wish his capture to be known in JAPAN. The other was denying the service in MANCHURIA; this was possibly due to security reasons.

2. CHRONOLOGY

Personal History PW was born in 1921 in IBARAKI-KEN, where his people were farmers. He felt his parents did not worry much about him as he was the youngest in the family. Attended Primary School for 6 years and Higher Primary for 2 years. His attendance at Middle School terminated abruptly after 11 months when he was expelled for knifing one of the third year students. He went to TOKYO in 1938 at the age of 17 years and joined the leather goods manufacturing firm of MIKURA SHOKAI, at 73 HIGASHI KATA MACHI, HONGO KU, TOKYO SHI. He remained there until enlistment.

Pre SWPA

10 Jan '41	Conscripted in 7 AA Regt known as TOBU 78 at TACHIKAWA.
9 Apr '41	In company with about 250 men under a Capt and a Lieut, PW left UJINA.
18 Apr '41	Arrived DAIREN and left by train for JOSHIKO in MUTANCHIANG in MANCHURIA where troops were absorbed into 50 Ind AA Bn (See Sec 4).
Nov '42	Battalion left JOSHIKO.
Dec '42	Arrived FUSAN.
6 Dec '42	Battalion embarked. 1 and 3 batteries and about 1/3rd of S/L from SHINKYO (North of HARBIN) boarded a ship of about 5000 tons. 2 Battery and the Wagon lines, and about 1 Bn of Heavy Tanks, boarded another ship of about 6,000 tons.

⑭尋問調書 (Interrogation Report) No. 57

CONFIDENTIAL - BRITISH SECRET

ALLIED TRANSLATOR AND INTERPRETER SECTION
SOUTH WEST PACIFIC AREA

SERIAL NO.99

17 Apr '43.

INTERROGATION REPORT No.57, AOKI, Y.

Including Information published in Interrogation Spot Reports SERIALS 88, 90, 92.

1. Attached is a Report on information gained from Japanese PW, AOKI, Yoshio, alias TSURUMI, Tadashi.

2. All information contained in this Report has been extracted from this PW source only. Its value should be assessed and its distribution restricted accordingly.

for B.C.J. MEREDITH
Major,
C.O. Army Unit.

APPROVED:

SIDNEY F. MASHBIR
Colonel, S.O.S.
Co-ordinator.

FWC/JMC/FDW

No. 29

DISTRIBUTION:	NO. OF COPIES
CO-ORDINATOR ATIS SWPA	1
AG GHQ SWPA	13
COMDR SEVENTH FLEET	18
ADV LHQ SWPA	33
AAF HQ SWPA	20
US MIL ATTACHE	1
OCE GHQ SWPA	1
CG USAFISPA	3
NEFIS	1
ADV ECH ATIS	1
ATIS SWPA	13
COO USAFFE	1

spread. He said it was impossible at this stage to say whether JAPAN'S entry into the war had been a tactical blunder.

Conditions in the Fighting Services. ... possibly had stabilized ... 1,500,000 men in the past 5 years. ... About 17 or 18 of his relatives were or had been in the services, six or seven were ... back in JAPAN, several of his old school mates had been killed or wounded. ... himself never been wounded or suffered from ... disease.

The Army provides Brothels in which Chinese, Koreans, Formosans and Japanese, but no native women are to be found.

... Attitude to Allied Prisoners. ... JAPAN ... high ... not generally revolted ... Chinese ... Christian Conference. The Chinese ... circle the Japanese usually ... the presence in China of an ... undesirable type of Japanese. PW believes that ... of occupied ... territories should be ... of the people of Japanese and they are in ... that belief. ... the treatment of the Emperor which has been followed ... he is deeply ... to the man in the street.

Attitude to Axis Nations. JAPAN ... from GERMANY. ... PW has not agreed with HITLER'S idea of German ... superiority. Germans are entitled to their own opinion of ... but ... superiority ... Japanese nationality, did not apply to other nationalities.

Radio. ... PW ... not listen to any ... in camp. He last heard ... Japanese station at CHUNGKING. He realized that the news ... on the radio was largely propaganda.

Army Pamphlets. "News" was a pamphlet published irregularly by Army ... Authorities. PW had never seen an issue as distribution was limited to NCOs. He could, however, hear officers discussing some particular item from the pamphlet. One such item, of which he heard in KOKOPO, was that Allied leaflets had been dropped over Japanese lines.

... little war news was given out to troops by the Authorities. ... news that did circulate amongst the troops originated from the wounded.

... SHIPPING CASUALTIES

Sunk in ... (See ... 19) ... built in ... Accomodation for a limited number of passengers. PW estimated tonnage at 6000 ... considered she was not an old ship.

... (reckoned she could not make more than 10 kts and he ... the opinion that she was an old ship.

... PW considered she was a vessel as old as I.C ...

...

2 TRANSPORTS ... PW could not name.

1 "SAKURA MARU" (See ... 8)

...

Reported ... in Action. PW ... reported ... from LAE ... delivered against them. This ... was ... investigation was made by the Japs ... PW ... report was inaccurate ... the ... with the exception of ... casualties.

OFFICIAL PW NO. JAP 10,451

INTERROGATION REPORT NO. 53

PW's Name:	MATSUSHIMA, Michihei
Rank:	Warrant Officer (JUN-I)
Unit:	115 Inf Regt 3 DAITAI 12 SHUTAI
Where Captured:	BISMARCK Sea off WOODLENOUGH ISLAND
By Whom Captured:	U.S. Navy Patrol boat.
When Captured:	8 Mar '43
Height:	5'3"
Weight:	115 lbs
Age:	41 yrs
Private Address:	SHINKOYASU 66, KANAGAWA-KU, YOKOHAMA.
Education:	8 years KOTO SHOGAKKO
Civil Occupation:	Farmer before enlisting and factory hand between terms of military service.

1. PREAMBLE

This PW volunteered in the Japanese Army at the age of 17 and has had 20 years of service, rising to the rank of Warrant Officer. Possessing a good military bearing he answered all questions frankly and without hesitation. He has considerable military knowledge and is highly intelligent.

2. CHRONOLOGY

Personal History: Volunteered Dec 1919 at the age of 17 and attached to 15 Inf Regt, 14 Div, at TAKASAKI. In '27 went with his Regt to MANCHURIA, stationed in PORT ARTHUR and MUKDEN. PW returned to JAPAN in '29 and was transferred to 18 Regt in 3 Div at NAGOYA. Completed his time there in 1935.

Recalled in Aug '37 and sent to CHINA with 115 Regt being stationed in TIENTSIN, CHANGTE and KAIFENG. Discharged in July '39 and returned to JAPAN, joining NISSAN Automobile Co. (See Sec. 8)

Pre SWPA

30 Jul '41 Recalled again to 115 Regt 51 Div at TAKASAKI.

Aug '41 115 Regt sent to CANTON in 3 ships, names unknown and unescorted.

Nov '42 PW sailed for JAPAN with ashes of 38 men of 115 Regt and of 100 from other units which PW could not name. Ship proceeded direct to UJINA.

Voyage Out

Dec '42 PW sailed direct to RABAUL, name of vessel unrecalled. 182 Provisional Officers and WO's on board.

CONFIDENTIAL - BRITISH SECRET

ALLIED TRANSLATOR AND INTERPRETER SECTION
SOUTH WEST PACIFIC AREA

SERIAL NO. 94

13 Apr 43

INTERROGATION REPORT NO. 53 , MATSUSHIMA, H.

Including Information published in
Interrogation Spot Reports, SERIAL Nos.
64, 69, 71 & 74.

1. Attached is a Report on Information obtained from Japanese PW MATSUSHIMA, Hichihei.

2. All information contained in this report has been extracted from this PW source only. Its value should be assessed and its distribution restricted accordingly.

B.C.J. MEREDITH,
Major,
C.O. Army Unit.

APPROVED:

SIDNEY F. MASHBIR,
Colonel, S.C.
Co-ordinator.

FWC/JMC/Bf
No. 3

DISTRIBUTION	NO. OF COPIES
Co-ordinator ATIS SWPA	1
AG GHQ SWPA	13
Comdr Seventh Fleet	10
ADV GHQ SWPA	33
AAF HQ SWPA	20
US Mil Attache	1
OCE GHQ SWPA	1
CG USAFISPA	3
ADV NCH	1
ATIS SWPA	13

Conditions in Fighting Services. PW's cousin was in 70 Regt, and as far as PW knew was well. Some of PW's school mates have been killed in CHINA. PW had never been wounded, although he had suffered from Malaria and Beri-Beri in NEW GUINEA, as had many of his comrades.

Beer and tobacco had been available to troops in the Regimental Canteen at RABAUL. The tobacco had been brought by the Regiment from FRENCH INDO-CHINA where it was manufactured by the "Black Horse" and "KOTOBA" Coys.

Brothels were provided by the Army in FRENCH INDO-CHINA, (Japanese women); CHINA (Japanese and Chinese women) and RABAUL (nationality of inmates unknown).

Attitude to Allied nations The Anti-English movement was necessary because of the good opinion held in JAPAN of Englishmen. The Chinese had always disliked the Japanese, but PW was unable to give a reason. PW believed that JAPAN should not treat the natives of occupied territory as equals. He could not say whether the Rescript of Emperor MEIJI had been followed. He had never seen white men doing coolie work although he had seen photographs in magazines of white P's W, in the ZENTSUJI area, reading "after working".

Attitude to Axis Nations PW thought that JAPAN was getting no assistance from Germany. He did not accept the idea of German race superiority, but stated that various countries were entitled to their own opinions. Emperor worship of Hitler was a matter for the Germans.

PROPAGANDA

Radio & Newspapers PW listened to the Radio in FRENCH INDO-CHINA. Stations, other than Jap ones, could be heard but PW could not understand the language. PW realised that losses were minimised over the air and in the papers but the people, not having seen the actual events, had to believe what they were told. For instance, they would not be told of the BISMARCK SEA convoy from RABAUL to NEW GUINEA being turned back.

Leaflets PW had never seen a propaganda leaflet, although he had heard of members of the NANKAI SHITAI who had seen them.

14. ENEMY INTENTIONS

PW heard when in RABAUL (Dec '42) that more than 20 ships were on the way to RABAUL from PALAU, bringing the 17th Army which was to take over the NEW GUINEA area. The 18th Army was then to confine its operations to the SOLOMONS. HQ of the 17th Army had already arrived in RABAUL.

16. CHEMICAL WARFARE

Respirators PW received instruction in adjustment of respirators and gas chamber tests. When training, an inferior respirator was issued. These were replaced by new ones before troops left JAPAN for operations. Respirators had been left by his Unit in RABAUL.

PW was shown photographs of four types of respirator. He thought two were naval types and he identified the other two as T 89 and T 95.

T 89 had a long canister and was effective for 100 hours. (PW did not know particulars of gas concentration).

T 95 was lighter and easier to breathe through than T 89 and its canister was about one third shorter. T 95 outfit had been issued to some in PW's unit but not to PW. It was preferred to T 89 by troops required to work in them.

T 99 respirator was stated to be in existence although PW had not seen it.

Anti-Gas Clothing This was made of thick, stiff, rubberized material which made a noise when the wearer walked. The suit was

Official PW No. JA 114523

INTERROGATION REPORT NO. 52

PW's Name:	YAMADA, Chiyokasu
Rank:	Leading Private
Unit:	YAMAGATA 2nd Mixed Bde 170 Inf Regt 1 Bn 4c Coy
Where Captured:	GIRUWA
By Whom Captured:	American troops
How Captured:	Surprised by American tps in hospital at GIRUWA.
When Captured:	15 Jan '43
Height:	4'10"
Weight:	116 lbs
Age:	26
Private Address:	AMAGASAKI SHI, HYOGO KEN
Education:	10 years
Civil Occupation:	Fitter and Turner.

1. PREAMBLE

PW appeared, by his military bearing, to be a well trained soldier. Although no information was volunteered, questions truthfully answered apparently to the best of his knowledge. PW had no idea of times and dates, and considered to be an average observer.

2. CHRONOLOGY

Personal History. Born and educated at AMAGASAKI. 1934 entered employ of KANSAI SPINDLE SEISAKUSHO at OSAKA, machining shell blanks. Conscripted 5 years later at age of 21.

Pre SWPA

1 May '39	PW conscripted at SASAYAMA and joined 70 Regt.
17 Aug '39	PW posted to 170 Regt and left OSAKA for CANTON with replacements for that Regt in an unknown ship of 8000 tons which was escorted occasionally at night by a destroyer.
17 Aug '39	Arrived CANTON and did garrison duty for 3 months.
Nov '39	Marched to YING TUCK on CANTON-HANKOW railway, 250 miles north of CANTON (See Sec 4).
Jan '40	Returned to North Front Line of CANTON Defences (See Sec 4).
Jan '41	Left CANTON for HAIPHONG, French Ind-China where PW did guard duty and harbour patrols.
28 Sep '42	YAMAGATA Bde, in which was 170 Regt, left HAIPHONG by train for SAIGON (See Sec 5).

⑫尋問調書 (Interrogation Report) No. 52

CONFIDENTIAL - BRITISH SECRET

ALLIED TRANSLATOR AND INTERPRETER SECTION
SOUTH WEST PACIFIC AREA

SERIAL NO. 93
13 Apr '43

INTERROGATION REPORT NO. 52 YAMADA, C.

Including information published in
Interrogation Spot Report SERIAL 20 & 23

1. Attached is a Report on information gained from Japanese PW YAMADA, Chiyokazu.

2. All information contained in this report has been extracted from this PW source only. Its value should be assessed and its distribution restricted accordingly.

B.C.J. MEREDITH,
Major,
C.O. Army Unit.

APPROVED:

SIDNEY F. MASHBIR,
Colonel, S.C.,
Co-ordinator.

FEC/JMC/NR

No. 29

DISTRIBUTION

CO-ORDINATOR ATIS SWPA	1
AG GHQ SWPA	13
COMDR SEVENTH FLEET	10
ADV LHQ SWPA	33
AAF HQ SWPA	20
US MIL ATTACHE	1
OCE GHQ SWPA	1
CG USAFISPA	3
ADV ECH ATIS	1
ATIS SWPA	13
NEFIS	1

Conditions in Fighting Services None of PW's relatives had been conscripted but some friends from his village had gone to the front. Two or three of them had returned on sick leave, and when he left JAPAN, they were waiting to rejoin their units. They did not talk very much of their experiences and from what he had heard, the war was then going very well for JAPAN. None of his old school mates had been killed but two had been wounded in CHINA. PW himself had never been wounded but had suffered a slight attack of malaria at BASA, as well as stomach trouble from drinking bad water.

The brothels at RABAUL were under Military control and were staffed by JAPANESE women.

Conditions in JAPAN PW was at HIROSHIMA during the American air raid on JAPAN. He heard that a few bombs had been dropped on TOKYO, YOKOHAMA and NAGAZAKI but the damage was negligible. He had read no newspaper account of the bombing raid.

PW was not desirous of writing home as he was not proud of being a PW. However, he wished to return to JAPAN after the war was over, for there would be no stigma attached to him for being a PW, as he had no weapons and was not, therefore, in a position to defend himself.

Attitude to Allies PW had seen some American PsW in MANILA. They were not working but were kept behind barbed wire enclosures. They seemed happy and contented. They were living in houses and were the same clothes as when captured. They had their own kitchen and several, accompanied by a guard, were allowed out to buy food. He also heard that there were Australian PsW in RABAUL. Japanese troops often complained that the Australian PsW received much better treatment than the Japanese soldiers. He had never seen white PsW doing menial work.

Attitude to Axis nations Germany was helping JAPAN in many ways, he believed, though he had heard only of steel being sent from Germany to JAPAN. PW thought HITLER's ideas of race superiority were presumptious and he certainly could not agree with them. He took umbrage at the suggestion that the same reverence might be paid to HITLER as to the Emperor.

PROPAGANDA

Broadcasts PW listened occasionally to the radio, which gave news of the war and musical entertainment. Most of the war news consisted of Japanese victories, and PW stated that he had never heard on the radio of any reverses of Japanese forces, which PW stated was quite natural since there had been none. The Japanese version of the Coral Sea Battle was that, while both sides had suffered severe losses, it was a Japanese victory.

15. WASTAGE OR CASUALTIES

PW stated about 50% of forces in NEW GUINEA had suffered from Malaria, and about 20% from stomach trouble. About 5 sick and 20 wounded cases were dealt with daily by PW's Unit. Of the wounded men treated, over 50% suffered from gun shot wounds, mainly on the arms and legs. Before PW's capture about 100 serious cases were to be evacuated to RABAUL, but as no ships came for this purpose they were laid in trenches under a rough roof. PW stated that a number died from exposure and lack of attention.

16. CHEMICAL WARFARE

PW had received training at HIROSHIMA in the use of a gas mask. He had never used a mask and did not know how to distinguish between the various types of gases. The masks he has seen were old type. No decontamination materials, as far as he know, were carried by Jap troops. He did not know of any special decontamination Units. Troops were very careless with respirator equipment and PW's unit did not have any at BASA. PW had a slight knowledge of the treatment of gas casualties.

OFFICIAL PW NO. JA 115

INTERROGATION REPORT NO. 50

PW's Name:	KONDO, Yuzo
Rank:	Sergeant
Unit:	Medical Unit - PW one of party of 5, in the charge of GUN-I CHU-I (Medical Lieut) KATAYAMA.
Where Captured:	Near BASA
By Whom captured:	By 3 Australian troops.
How captured:	Taken in jungle while trying to reach GEELVINK.
When captured:	11 Dec '42
Height:	5' 2"
Weight:	124 lbs
Age:	25
Private address:	SAIJO MURA, KAMO GUN, HIROSHIMA KEN.
Education:	Primary School, 6 years; Higher Primary, 2 years.
Civil Occupation :	Farmer.

1. PREAMBLE

PW's knowledge of military units and organization very limited. He seemed intelligent, and willing to answer all questions concerning his unit which was small, and only connected with medical matters.

2. CHRONOLOGY

Pre SWPA

1937 PW called up and medically examined at HIROSHIMA. Classed as DAI ICHI OTSU (Class B.1) and placed on 1st Reserve.

10 Jan '39 Called up and after examination joined the EISEI-BU (Medical Corps) as a 2nd Class Private. Posted to HIROSHIMA Military Hospital until time of embarkation. (See sec.9)

Voyage Out

18 Jul '42 Embarked with his Unit at HIROSHIMA on a vessel, name unknown, for MANILA. Unescorted, the vessel was armed with one A/A gun aft. (See sec.5)

22 Jul '42 Arrived MANILA. Underwent training in Medical Duties: (See sec.9)

In SWPA

Early Sep '42 Left MANILA for RABAUL in KAIO MARU. Armed with A/A gun aft. No escort.

Mid Sep '42 Arrived RABAUL. Stationed at Military hospital.

16 Nov '42 Left RABAUL on a destroyer for BASA. (See sec.5). Convoy consisted of 3 destroyers, names unknown to PW.

17 Nov '42 Arrived BASA at night. Disembarked at once by LIC, holding

INQUIRIES INFORMATION ROO

⑪尋問調書 (Interrogation Report) No. 50

CONFIDENTIAL-BRITISH SECRET

ALLIED TRANSLATOR AND INTERPRETER SECTION
SOUTH WEST PACIFIC AREA

SERIAL NO. 87.

9 April 143.

INTERROGATION REPORT NO.50 KONDO, Y.

1. Attached is a Report on information gained from Japanese PW KONDO, Yuzo.

2. All information contained in this Report has been extracted from this PW source only. Its value should be assessed and its distribution restricted accordingly.

for B.C.J. MEREDITH
Major,
C.O. Army Unit.

APPROVED:

SIDNEY F. MASHBIR
Colonel I.S.O.
Co-ordinator.

LJN/JMC/BM

No. 23

DISTRIBUTION	NO. OF COPIES
CO-ORDINATOR ATIS SWPA	1
AG GHQ SWPA	13
COMDR SEVENTH FLEET	18
ADV LHQ SWPA	33
AAF HQ SWPA	20
US MIL ATTACHE	1
CCE GHQ SWPA	1
OC USAFISPA	3
ADV ECH ATIS	1
ATIS SWPA	16

ed Japan to stop at North China. She would have insisted on [illegible] evacuating the North as well as returning Manchukuo. If Japan had not complied, China would have attacked Japan by air from Northern bases. The reason for Japan's expansion to Manchukuo was to obtain raw materials denied her, such as iron and oil. Once embarked on this course of expansion she was further embroiled with China, bound with America and, having gone so far, Japan could not evade war with both the States and England.

Conditions in Fighting Services No opinion was held by PW of the number of troops mobilised by JAPAN. None of his relatives had seen active service and as far he knew no school mates had become casualties. PW had not been wounded and was particularly healthy prior to the New Guinea campaign when he contracted malaria. Brothels were provided in the Army and contained mostly Japanese and Korean women. PW knew only a number of men who had contracted VD but most of them recovered after treatment.

PW did not appear to think it unusual that the much-vaunted KONOE Div should have landed in MALAYA after his own [illegible]. He agreed that the KONOE Div might have been kept in the background during the early stages of that campaign to avoid any risk of its morale being lowered by reverses, and might have been kept away from NEW GUINEA for the same reason, but pointed out that this was merely conjecture. His impression was that the Div had done very well in MALAYA.

In his personal opinion the 5 Div possessed better fighting qualities than the KONOE Div, but he had no particular grounds for this opinion except that it was his own Div. The 5 Div had a series of successful campaigns, and until the NEW GUINEA disaster retreat had been unknown. He did not think that 41 Regt had been sent to NEW GUINEA because of any reputation earned elsewhere. On the whole he presumed it had merely suited the Higher Command's operational plans to send this Regt. He admitted that after service in CHINA MALAYA and the PHILIPPINES some of the men had expected 41 Regt to be sent home, and had not been too pleased about being sent on to the NEW GUINEA campaign.

Suicide As stated in "PREAMBLE", this PW threw times requested to either be killed or allowed to commit suicide. He stated that although he had been well treated he had lied in the first instance as to his identity and had been caught out. Many of his countrymen had been killed already and, as he could not return to JAPAN, he felt it his duty as an officer to die. He admitted that his death would benefit neither his country nor his comrades. ORs might be pardoned if taken prisoner and later returned JAPAN but such clemency would not be extended to an officer.

Red Cross PW had received no specific instructions from Army Authorities with regard to respect for the Red Cross, but stated that instructions were unnecessary. The Red Cross was internationally recognized as a symbol to be respected, and Jap troops would not fire upon or attack buildings or personnel bearing the symbol.

Attitude to Allied Nations PW thought that the Rescript of the Emperor MEIJI was being followed. He represented that it was the aim of the Jap Army to treat natives of occupied territories as equals. However, circumstances alter cases and in NEW GUINEA conditions were so bad for both natives and Jap troops that ideals "went by the board".

Immediately after the fall of SINGAPORE, he had seen many Aust PsW. They were not working at the time and he had never seen white men do coolie work. A number of PsW from MALAYA, he believed, had since been sent to JAPAN.

OFFICIAL PW No.JA143359

INTERROGATION REPORT NO.48

PW's Name:	NAKA, Masao, alias YAMASHITA, Hideo
Rank:	2nd. Lieutenant.
Unit:	YAZAWA (41) Inf Regt, MIYAMOTO (1) Bn, SEO (2) Coy, Leader of 1 Pl.
Where Captured:	Near GONA.
By whom Captured:	4 Aust Soldiers.
How Captured:	Ill with malaria; offered no resistance.
When Captured:	27 Jan '43
Height:	5 ' 0"
Weight:	115 lbs
Age:	24
Private address:	No.42, TENJIN-NO-CHO, TOBATA, FUKUOKA.
Education:	6 years Primary School 5 years Middle School.
Civil Occupation:	Employee of MITSUI BUSSAN KAISHA at WAKAMATSU,

1. PREAMBLE

PW when captured had given his name as YAMASHITA, Hideo. During his second interrogation he became confused, contradicted himself and eventually admitted his true identity. PW stated that he did not wish to elaborate on his deception, and as the, a Japanese Officer, had been caught lying, he formally requested a pistol to commit suicide. Twice at later interrogations (once in well-written English) he asked either to be killed or allowed to commit suicide.

Throughout his interrogation, PW was deliberate and guarded in his replies. In the early stages he declined to answer questions on organization and was never co-operative. Undoubtedly an experienced soldier, of average intelligence. Such statements as he made are considered truthful.

2. CHRONOLOGY

Personal History. Following graduation from WAKAMATSU Middle School (1936) PW entered employ of MITSUI BUSSAN KAISHA at their WAKAMATSU office. His duties concerned bunkering foreign and Japanese coal-burning vessels. His association with foreigners enabled him to develop his knowledge of English acquired at Middle School.

Pre SWPA.

Apr 40 Conscripted and posted to Depot Unit for 41 Inf Regt at FUKUYAMA, as 2nd Class Private. During training there PW, amongst other Middle School graduates, underwent an examination and was selected as candidate for commission.

⑩尋問調書 (Interrogation Report) No. 48

~~UNCLASSIFIED~~

ALLIED TRANSLATOR AND INTERPRETER SECTION
SOUTH WEST PACIFIC AREA

SERIAL NO. [illegible]
7 Apr. 143

INTERROGATION REPORT NO. 48 NAKA, M.

1. Attached is a Report on information gained from Jananese PW NAKA, Masao, alias YAMASHITA, Hideo.

2. All information contained in this Report has been extracted from this PW source only. Its value should be assessed and its distribution restricted accordingly.

for B.C.J. MEREDITH
Major,
C.O. Army Unit.

APPROVED

SIDNEY F. MASHBIR
Colonel, S.C.
Co-ordinator.

FWC/JMC/NR

No. 22

DISTRIBUTION:

CO-ORDINATOR ATIS SWPA	1
AG GHQ SWPA	13
COMDR SEVENTH FLEET	18
ADV LHQ SWPA	33
AAF HQ SWPA	20
US MIL ATTACHE	1
OCE GHQ SWPA	1
CG USAFISPA	3
ADV ECH ATIS	1
ATIS SWPA	13

Classification changed to
UNCLASSIFIED
By [illegible] DDB#7
Date APR 47
Signature Bert R. [illegible]
CAPT. CAV.

ATIS SERIAL [illegible] Page [illegible]

UNCLASSIFIED

11. DEFENCES

CONVOYS. DAIREN to HOKKAI. Nov '39. 41 Regt on 5 or 6 ships with an escort of 2 or 3 destroyers sailed from DAIREN via UJINA. Convoy remained at anchor at HAINAN for about a week during which time 40 to 50 vessels assembled. They then proceeded to HOKKAI.

KARATSU to CHINKAI. Apr '41. SAKURA MARU and 5 or 6 ships escorted by one or two destroyers. The journey occupied 2 or 3 days.

KONANCHIN to SINGORA. Oct '41. 41 Regt was conveyed by 5 to 6 ships, escorted by cruisers and destroyers, to HAINAN. There a convoy of 50 to 60 ships was formed and proceeded to SINGORA, landing on 8 Dec '41.

MOJI to RABAUL. PW sailed on 2 Nov '42 in TOZAN MARU. Four merchant ships and one destroyer in convoy which sailed via FORMOSA and MANILA and arrived at RABAUL 27 Nov 42.

RABAUL to MAMBARE. On 12 Dec '42 the destroyer KAZEKUMO and 4 other destroyers left RABAUL at night (See sea M

12. ENEMY SUPPLIES

Coconut Oil TOZAN MARU left MOJI empty for MANILA to load coconut oil.

Rations At MAMBARE each soldier landed with 10 days supply of rice, MISO (bean paste) SHOYU (Soy) and canned goods. At GONA the food shortage was serious; the daily rice issue being not more than 1 GO (.33 lbs). However, PW asserted they were not reduced to such dire straits as even to consider eating human flesh. He had, moreover, not heard any rumours to this effect.

13. MORALE AND PROPAGANDA

Conditions in JAPAN PW was in JAPAN in Oct '42 and since that date had not heard from nor written to his people. While in PHILIPPINE ISLANDS he received one comfort bag. According to PW there was no war boom in JAPAN. Everything was rationed and there were shortages.

Political Conditions in JAPAN PW was not interested in politics and could not say how his father voted. Although he thought that war was not a good thing, he did not feel competent to express an opinion as to alternative methods of settling international disputes. PW knew nothing of Communism or of the 26 Feb '36 incident. He had no ideas on the MANCHUKUO incident or the CHINA War.

Conditions in Fighting Services PW had no idea of the number of men mobilized in JAPAN in past 5 years. In his own village of 1500 people, 300 to 400 had gone. None of his relatives had seen active service and he could not say how old schoolmates in the services had fared. PW on one occasion, sustained a slight leg wound. Neither he nor his companions had ever suffered from disease. There were brothels in MANILA and DAVAO, containing KOREAN women. Although these establishments were authorized by the Army, PW thought that profits went to the proprietors.

Nov '39	41 Regt, about 3,000 strong, sailed from DAIREN to HAINAN via UJINA (See sec. 11)
15 Nov '39	Unopposed landing at HOIKAI (See sec. 4)
Feb '41	Arrived by train at HAIPHONG in French Indo-China. 41 Regt then proceeded (5 or 6 ships) to KONANCHIN, about 7 to 10 miles from SHANGHAI. No recollection if escorted. Trip took one week. Remained there for some months training and performing general duties.
Apr '41	Returned to JAPAN and took part in manoeuvres at KARATSU for about a week.
Apr '41	Proceeded to CHINKAI (See sec. 4 and 11)
Jul '41	Returned to KONANCHIN.
Oct '41	Proceeded to HAINAN (See sec. 4 and 11).
8 Dec '41	Landed at SINGORA, thence to SINGAPORE (See sec.
Mid Apr '42	41st Regt and 1 Bn of Mountain Artillery arrived at LINGAYEN where fighting had ceased; proceeded to PINAY, passing through ILIOLO. (See sec. 4)
20 Apr '42	Left LINGAYEN for CAGAYAN in MINDANAO.
3 May '42	Opposed landing at CAGAYAN (See sec.4)
Jun '42	PW sent by car to DAVAO to arrange billets for 41 Regt.
2 Aug '42	PW arrived MANILA in TAMEJIMA MARU (About 3,000 tons) via CAGAYAN and CEBU with ashes of dead for return to FORMOSA and JAPAN (See sec. 15).
Sep '42	Boarded LIMA MARU. Ship called at TAKAO and loaded coal.
6 Oct '42	Arrived MOJI.
9 Oct '42	Arrived UJINA.
Voyage Out	
2 Nov '42	PW left MOJI in TOKUN MARU (5000 tons), with 3 other transports and escorted by one destroyer, for MANILA via an unrecalled Formosan port.
10 Nov '42	Arrived MANILA, staying there for one week.
In SWPA	
10 Dec '42	Arrived RABAUL on unknown ship of 5000 tons.
12 Dec '42	PW boarded destroyer KAZEKUMO, with about 150 troops and, with other destroyers, similarly loaded, proceeded to MAKIARE.
14 Dec '42	Arrived MAKIARE (See sec.19)
25 Dec '42	Left MAKIARE.
27 Dec '42	Arrived GONA.

OFFICIAL PW NO. JA-145166

INTERROGATION REPORT NO.46

PW's Name: KASAHARA, Hiroshi

Rank: Sergeant

Unit: YAZAWA BUTAI (41 Regt)
1 Bn
3 Coy
1 Pl
2 Sec

Where Captured: KUMUSI River, NEW GUINEA

By whom Captured: Natives who turned him over to U.S. troops

How Captured: Surprised while foraging.

When Captured: 7 Jan '43

Height: 5' 5½"

Weight: 132 lbs

Age: 27

Private Address: HIROSHIMA, MIFUKU-GUN, KAWANABE-MURA.

Education: Higher Primary, 1 year

Civil Occupation: Blacksmith

1. PREAMBLE

PW was above average intelligence, and quite security conscious. This caused him to give misleading answers and appear disrespectful in early interrogations. He responded, however, to admonishment, became respectful in his attitude and is believed to have given truthful answers in the end.

2. CHRONOLOGY

Personal History PW was at Higher Primary School for a year and left in Jan '29 to work for his father who was a maker of anchor chains. He remained at this work till conscripted in Jan '39.

Pre SWPA

10 Jan '39 Conscripted and, with about 550 other conscripts, posted to Reserve BUTAI of 41 Regt at FUKUYAMA (See sec. 9)

29 Apr '39 PW, with other replacements, proceeded to join 41 Regt at HOEAI, North China, via TSINGTAU and TSINAN.

Sep '39 41 Regt boarded ship at TSINGTAU for DAIREN en route to MONGOLIA. At DAIREN instructions cancelled and 41 Regt remained there for two months.

⑨尋問調書 (Interrogation Report) No. 46

CONFIDENTIAL-BRITISH SECRET

ALLIED TRANSLATOR AND INTERPRETER SECTION
SOUTH WEST PACIFIC AREA

SERIAL NO. 76
1 April 43

INTERROGATION REPORT NO. 46 KASAHARA H.

1. Attached is a Report on information gained from Japanese PW KASAHARA, Hiroshi.

2. All information contained in this Report has been extracted from this PW source only. Its value should be assessed and its distribution restricted accordingly.

B.C.J. MEREDITH,
Major,
C.O. Army Unit.

APPROVED:

SIDNEY F. MASHBIR,
Colonel, S.C.,
Co-ordinator.

FWC/JMC/EHF
No. 3

DISTRIBUTION	NO. OF COPIES
CO-ORDINATOR ATIS SWPA	1
AC CHQ SWPA	18
ADV LHQ SWPA	33
AAF HQ SWPA	20
US MIL ATTACHE	1
OCE CHQ SWPA	1
COMSOPAC	3
CG USAFISPA	3
ATIS SWPA	14

RECEIVED APR 3 G.H.Q. S.W.P.A.

Water in NEW GUINEA was sometimes cloudy when taken from streams. It was then treated with "JOSUIGAI", a fluid disinfectant, but this gave the water a peculiar taste. More often than not water was drunk straight from streams.

13. MORALE & PROPAGANDA

MORALE

Economic Conditions in JAPAN PW had not received any comfort bags but he had heard from his people in September '42 when at DAVAO. They were well and he replied right away. At the moment he didn't want to write home but he was giving the matter considerable thought.

PW didn't know much about present conditions in JAPAN though he knew prices had been fixed for most things. He expressed the opinion that the limiting of prices didn't give much chance of a boom.

Political conditions in JAPAN After his ordinary schooling, PW took a course in agriculture. Living in the country, he was uninterested in politics and didn't bother to vote. What his father's views were he didn't know.

War was not believed in and the Japanese country folk were sick of it and wished for a speedy ending. He could not believe that the Emperor liked war and while Tojo had a lot to say regarding its declaration, PW didn't consider that he was entirely responsible.

Though he had not given it much thought, Communism might suit some countries but he was of the opinion that the cult could not work in Japan. He also thought that the 26Feb36 incident was not a good thing for the country.

At the time of the Manchukuo incident, he was at college and was working at HIROSHIMA when the China war broke out. As there was a large call-up of troops; it was not generally considered that the China war would be a short one. He couldn't decide if China had grown stronger since its commencement though he had heard that England and America were helping her.

Conditions in Fighting Services PW had no idea of the numbers JAPAN had called to the colours. Three relatives had served in CHINA and though they were released they may have been recalled since he left JAPAN. Many of his school mates had also been called up and he knew that some had been killed. He himself had never been wounded but he had suffered from malaria and acute nephritis. PW was not happy to hear he was to go to NEW GUINEA as rumours had reached him, and others in RABAUL, that they were to be sent back to JAPAN. Younger men had different views but he had plenty to do in JAPAN and was anxious to return.

Whenever troops were stationed in a locality in numbers, brothels were immediately established by both the Army & Navy. Korean and Chinese women were usually employed but occasionally suitable native women would be enrolled. Profits go to the Services.

Attitude to Allied Nations The dislike the Chinese had for the Japs was possibly due to differences in customs and language. He thought the rescript of Emperor Meiji had been followed and that natives in occupied territories were being treated as equals.

PW saw no Australian PsW but heard there were some in RABAUL. He understood they were not working.

Attitude to Axis nations He had heard of Hitler's book but could not subscribe to the idea of German race superiority. The Germans might worship Hitler but it could not be in the same way as the Emperor was worshipped. PW did not think that JAPAN was getting any assistance from Germany.

OFFICIAL PW No.JA 145077

INTERROGATION REPORT NO. 37

PW's Name:	KUMAGAE Shigeshisa
Rank:	1st Class Private
Unit:	YAZAWA BUTAI 1st Bn 2nd Co 3rd Platoon 3rd Section
Where Captured:	Near GONA
When Captured:	About Dec 10 1942.
Height	5' 4½"
Weight	140 lbs
Age	31
Private Address	HIROSE MURA FUKAYASU-GUN HIROSHIMA-ken
Education	6 years Primary School 2 years Middle School 2 years Agricultural School 1 year course in Agricultural affairs (NOJI KOSHUSHO)
Civil Occupation	Agricultural and Forestry Specialist (NORIN GITSI)

1. PREAMBLE

Intelligent and co-operative.

2. CHRONOLOGY

Pre SWPA

Jun 33 Conscription examination at FUKUYAMA. Assigned as Conscript Reserve, requiring attendance one day annually to receive instruction.

1 Aug 41 Called up at FUKUYAMA as 2nd Class Private in 41st Regt (see sec 3)

Voyage Out

17 Jan 42 Sailed from UJINA with about 300 men for the 41 Regt and over 700 for the 11, 21 and 42 Regts, all as replacements. These Regts were part of 5 Div (see sec 5 & 11)

21 Jan 42 Convoy arrived WOOSUNG. Stopped 2 days but no shore leave. Loaded a number of AA guns and some troops but not on PW's ship.

30 Jan 42 Arrived HAINAN Is. Anchored in bay at South end of island for about one week. No shore leave.

17 Feb 42 Arrived SINGORA and 41 Regt landed at the wharf at which

⑧尋問調書 (Interrogation Report) No. 37

CONFIDENTIAL-BRITISH SECRET

ALLIED TRANSLATOR AND INTERPRETER SECTION
SOUTH WEST PACIFIC AREA

SERIAL NO. 55

28 Feb '43

SJ

INTERROGATION REPORT NO.37 KUMAGAE, S.

1. Attached is a Report on information gained from Japanese PW KUMAGAE, Shigeshisa.

2. All information contained in this Report has been extracted from this PW source only. Its value should be assessed and its distribution restricted accordingly.

B.C.J. MEREDITH,
Major,
C.O. Army Unit.

APPROVED:

SIDNEY F. MASHBIR,
Colonel, S.C.,
Co-ordinator.

FWO/JMC/BM
No. 3

DISTRIBUTION	NO. OF COPIES
Co-ordinator	1
AG GHQ	21
ADV LHQ	31
AAF Hq	20
US Military Attache	1
ATIS	16

13. MORALE & PROPAGANDA

MORALE

Economic conditions in Japan PW last heard from his people in NAGOYA at RABAUL, in August '42 and he replied right away. He had not received any comfort bags, and has no wish to write home again.

PW had been away from Japan for so long that he had no idea of conditions there. He knew nothing about rationing or shortage of food supplies.

Political conditions in Japan After Primary school PW spent 2 years at a Commercial School and can read English a little. He had no political views of his own and had no idea what his father's were. In his opinion war was a bad thing and he didn't believe in it. What the Emperor thought about it he didn't know, and he had no notion whether Tojo was obeying Imperial edicts or, following his own ambitions. Newspapers expressed the view that Japan's present alliances were for the best, but he had no personal views on the matter.

He was at school at the time of the Manchuko incident, but at home when the war with China broke out. He read at the time a magazine article predicting that the China war would not be over quickly and he formed a similar view. Owing to the wide area of operations, and to China's greater population the war would take a long time to finish, and he thought China had grown stronger. He did not consider that Japan had become weaker. The general opinion was that the China war had lasted longer than anticipated but he could not judge whether or not Tojo had blundered. He could not concede that a shortage of ships and planes would cause Japan's defeat.

As a Jap he did not think well of Communism, and he was too young to give a thought to the 26 Feb '36 incident.

Conditions in Fighting Services PW had no idea of the number of troops mobilised by Japan. He had no relatives serving, and had heard that 2 or 3 of his old schoolmates had been killed. He himself had not been wounded, but had suffered from malaria and foot-trouble in New Guinea. In SHANGHAI, brothels with Korean girls were under Army control but he had not visited any. He had heard that one was to be established at MINDANAO.

Morale of Jap troops was high at time of landing, but underwent a change when ordered to retire to GONA before they had been in action PW stated the men openly grumbled at being ordered back in Sept when their inclinations were to go forward.

Attitude to Allied Nations PW had not seen any Whites working as coolies.

Chinese dislike of Japanese was due to the political disagreements between the higher circles in both countries. He thought Emperor Meiji's rescript had been followed and that natives in occupied territories were being treated as equals.

Attitude to Axis nations PW had heard very little of Hitler and had not heard of the German idea of racial superiority. He could not agree with Hitler's claim for ostoom.

PROPAGANDA

Broadcasts PW had never listened to radios in camps in SWPA, but had heard Tokio broadcasts in SHANGHAI. Some of his companions he believed had listened to "domahoso" (enemy demagogic propaganda). PW did not know if radio-broadcasters lied but where was very little difference between their description of war and what he had experienced in New Guinea.

End Aug '42 — Entire YAZAWA Butai embarked at original point of PW's landing in MINDANAO, for RABAUL, via DAVAO and PALAU. (See sec.11)

In SWPA

1 Sep '42 — Arrived RABAUL (See sec.17)

7 Sep '42 — 1 Bn of the YAZAWA Butai left RABAUL. (See sec.11)

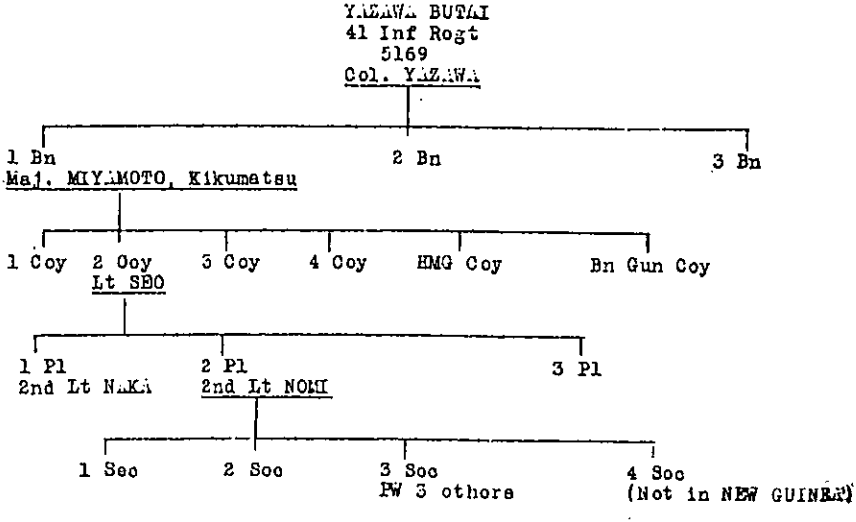
9 Sep '42 — Arrived BUNA at night, and landed in MLCs brought over on the ship. (See sec.4)

3. CAPTURE

Captured by 8 Aust troops on 5 Dec '42 while proceeding on foot, with 2 others from his own section towards GONA. PW, with his companions, had been struggling through the jungle for 10 days to rejoin his unit on the coast. They were all suffering from Malaria, and lack of food. Their condition was very weak and no resistance was offered to their captors.

4. UNIT OR FORCE

Organization at NEW GUINEA, Nov '42



Ammunition — PW landed in NEW GUINEA with 150 to 160 rounds SA. but no hand-grenades. Alleged he threw away half before reaching KOKODA but was re-issued with sufficient rounds to make up the deficiency when rejoining his unit.

Operations in NEW GUINEA — After landing at BUNA on 9 Sep '42, the unit took 6 days to reach KOKODA, via PAPAKI near where they crossed a river by a wire rope bridge. PW was left behind at KOKODA by his UNIT as he had contracted Malaria but with several other stragglers

OFFICIAL PW No.JA 145063

INTERROGATION REPORT NO. 36.

PW's Name: YAMASHITA, Nobuyuki

Rank: HEI CHO (Head, Private)

Unit: YAZAWA BUTAI 41 Inf Regt.
HIYAMOTO BUTAI 1 Bn
SEO TAI: 2 Coy 2 Platoon

Where Captured: Near GOM

When Captured: About 5 Dec '42

Height: 5' 3"

Weight: 100 lbs

Age: 26

Private Address: SUMIYOSHI CHO No. 1148
FUKUYAMA City, HIROSHIMA KEN.

Education: Primary School, 6 years.
Commercial school 2 years

Civil Occupations: Assistant to father's business. Manufacturing insect sprayers.

1. PREAMBLE

PW is of average intelligence and is security conscious.

2. CHRONOLOGY

Pre SWPA

8 Apr '38 - Called up for medical examination at FUKUYAMA.

8 Dec '39 - End Jan '40 - Conscripted at FUKUYAMA as 2nd Class Private into 41 Inf Regt. Given 50 days training (See sec.9)

Jan '40 - Sailed from UJINA to a port half-a-days march from SHANGHAI. (See sec.11) PW was assigned to 41 Inf Regt. (See secs. 5 and 9)

Apr '41 - 41 Inf was sent to CHEKIANG but a certain number of men from each company were left behind for guard duties - about 50 in all, PW being one of them.

Aug '41 - PW was not certain if all or part of the 41 Inf Regt returned from CHEKIANG.

Nov '41 - The returned troops sailed for some place, unknown to PW again leaving about 50 men behind for guard duties.

Voyage Out

May '42 - PW, with others of the guard, sailed from SHANGHAI to rejoin main body of YAZAWA Butai in MINDANAO (See sec.11)

CONFIDENTIAL-BRITISH SECRET

ALLIED TRANSLATOR AND INTERPRETER SECTION
SOUTH WEST PACIFIC AREA

SERIAL NO: 52

23 Feb '43

INTERROGATION REPORT NO. 34, YAMASHITA, N.

1. Attached is a Report on Information gained from Japanese PW YAMASHITA, Nobuyuki.

2. All information contained in this report has been extracted from this PW source only. Its value should be assessed and its distribution restricted accordingly.

B.C.V. MEREDITH,
Major,
C.O. Army Unit.

APPROVED:

SIDNEY F. MASHBIR,
Colonel, S.C.,
Co-ordinator.

FWO/JMC/BM
No. 3

DISTRIBUTION	NO. OF COPIES
Co-ordinator	1
AG GHQ	19
ADV LHQ	31
AAF Hq	20
US Military Attache	1
ATIS	16

Psychological. PW had received neither letters nor comfort bag from Japan since leaving and had no idea how his people were getting on. PW did not think that there was a war boom in Japan even though workers' wages were probably on a higher level than formerly. This larger income was counterbalanced by the fact that most things were rationed, amongst them being rice, sugar, sake, galvanized iron, nails, rubber goods, charcoal and all piece goods. No leather goods were available for civilians.

PW was at home both when the Manchukou incident began and the start of the CHINA War. He had thought the latter would have soon been over. He knew nothing of the details of the 1894 war with CHINA but thought that since the beginning of this war, JAPAN had probably become relatively weaker than CHINA. PW agreed that it would have been better to have stopped at NORTH CHINA. As far as he knew, JAPAN was getting no assistance from GERMANY.

Two of his relations had seen active service in CHINA. They were still away when PW left Japan and he had not heard of them since. None of his school mates had been killed or wounded. He had not been wounded during his fighting career though he contracted malaria in NEW GUINEA. As far as he knew none of his companions had suffered from any disease.

Brothels are provided in the army, and at DAVAO he had seen Korean, Formosan and native women in them.

PW had no idea why the Chinese and Japanese could not get along. He believed that all natives in occupied territories were being treated as equals. He was of the opinion that the Rescript of the Emperor MEIJI was being carried out.

PW saw a number of white Prisoners of War at TANDJEONG PRIOK but he had not seen them doing coolie work.

PW had never heard of Hitler and scouted the idea of his claim of being on the same plane as the Emperor. Furthermore, he could not admit of German superiority.

PW's father voted in the past for the MINSEITO party. At the time when there was talk of communism in Japan, some 15 years ago, PW was at his home in AKITA. He was not in accord with the movement. He was also in AKITA at the time of the 26 Feb '36 incident which he thought was a disgraceful affair. He had no ideas relative to the anti-English movement in Japan.

PW had never had a chance to listen in to a radio in camp as none were available. He did not own a set at home and had seldom listened to broadcasts.

PW did not believe in war and expressed the hope that this one would soon be over. He feels the Emperor did not like war and that TOJO, in conjunction with other high ranking officers, acted largely on his own initiative in instituting the present conflict. He felt that Japan would have been happier if she had kept out of the war, and PW thought that it was definitely a blunder on TOJO's part.

INTERROGATION REPORT NO. 31

PW's Name:	MUTO, Yokichi
No:	JA 145068
Secret No:	M 22
Rank:	1st Class Private
Unit:	NANKAI SHITAI, TOMITA BUTAI RIKUJO KIMMU Dai 120 CHUTAI (SHORE DUTY No. 120 Company)
Where Captured:	Vicinity BASA
When Captured:	About 2 or 3 Dec '42
Height:	5'2"
Weight:	117 lbs
Age:	37
Private Address:	HATAYA, HATAYA-MURA, SENBOKUGUN, AKITA-KEN
Education:	Primary School - 6 years
Civil Occupations:	Farmer, also worked in saw mill.

1. PREAMBLE

Subject not intelligent - complains his memory fails him and ascribes this to result of malaria. He is of typical coolie type and not gifted with much imagination.

This man was rejected in 1926 for physical reasons. Called up at the age of 35 and sent abroad after 4 months' training.

2. CHRONOLOGY

Pre SWPA

Jul '26 Conscription examination. Rejected account of eyesight and haemorrhoids.

18 Sep'41 Called up and sent to join 17 Regt. at AKITA. Found rolls full and billeted in private houses for one week and then assigned to HOKUBU 17 Regt. AKATSUKI 7290 (see Section 5). Later sent to UJINA, near HIROSHIMA, and joined SAHAKU BUTAI, MURAI TAI (see Sec 5 & 9).

Voyage Out

15 Jan'42 Left UJINA, name of ship forgotten, with about 450 men of the SAHAKU BUTAI.

⑥尋問調書 (Interrogation Report) No. 31

CONFIDENTIAL-BRITISH SECRET

ALLIED TRANSLATOR AND INTERPRETER SECTION
SOUTH WEST PACIFIC AREA.

SERIAL NO. 45

1 Feb'43

INTERROGATION REPORT NO. 31 MUTO. Y.

1. Attached is a Report on Information gained from Japanese PW MUTO, Yokichi.

2. All information contained in this report has been extracted from this PW source only. Its value should be assessed and its distribution restricted accordingly.

B. C. J. MEREDITH,
Major,
O.C. Army Section.

APPROVED:

SIDNEY F. MASHBIR,
Colonel, S.C.,
Co-ordinator.

FWC/JMC/MH

No. 3

Distribution:

	No. of copies
Co-ordinator	1
AG GHQ	19
ADV LHQ	31
AAF Hq	20
US Military Attache	1
ATIS	16

Jap troops were told that PsW were either ill-treated or shot, but this he now knew was not true for he had been very well treated.

PW had no idea how many soldiers there were in JAPAN, but thought that about 6 million were under arms.

Natives of occupied territories were treated kindly and well, but it was not so in CHINA, for the Japanese had it ingrained in them that the Chinese were an inferior race and they were so treated.

To a question as to whether or not the Emperor approved of the present war, PW replied that as he had approved to TOJO being Premier, he supposed that the Emperor supported TOJO's actions. PW was reluctant to answer questions regarding the Emperor.

PW stated that there was an official Army brothel in BELAWAN in which two native women from NARUMONDA and six Chinese women served. Great precautions were taken against VD.

.oOo END 80o.

3 Jul '42 PW left KOHO with 228 Regt. in ASAHI MARU (See Sec.4 & 5). Berthed at pier at SINGAPORE, where PW saw 1 cruiser and 5 cargo vessels, also the wreck of one sunken vessel. (See sec.11)

27 Jul '42 Arrived BELAWAN, SUMATRA, and remained there about 5 days. (See Sec.5)

1 Aug '42 The 2,000 men from 228 Regt. left BELAWAN in motor-trucks, each carrying about a dozen men, and arrived NARUMONDA same day. 700 men were billeted in 8 barracks there whilst the remaining 1,300 went on to SHIBONBORON. (See Sec.9)

13 Sep '42 Left NARUMONDA by truck for SILBODA where they underwent further training (See Sec.9).

20 Sep '42 Returned to BELAWAN by trucks.

24 Sep '42 PW's Bn. and one other Bn. from DOI Butai sailed from BELAWAN in SHINSEI MARU in convoy of 9 other large merchantmen and 3 smaller ones. PW did not know name of the lone destroyer escorting them.

In SWPA

After a sea voyage of 20 days, without calling at any port, the convoy arrived at an island where there was an active volcano. Remained aboard ship for 7 days awaiting orders.

23 Oct '42 Embarked on 8 MLCs and after 3 hours sea passage, arrived at another island which PW named NEW IRELAND.

27 Oct '42 PW's Coy proceeded by a small ship which PW thought was named the "MATSUNO MARU", to NEW GUINEA.

1 Nov '42 Landed in NEW GUINEA. PW does not know where.

11 Nov '42 Arrived PAPAKI encountering no large rivers; streams they had to cross were not more than waist deep.

3. CAPTURE

During the retreat PW had received orders to proceed to NANTAI HOMBU (Nankai Det. HQ) near the bridge at PAPAKI but from wounded Japs who were being carried down, he heard that the place had been captured. His company arrived near the bridge on Nov 11 and was more or less together for that day, its members going about in twos and threes. PW was posted as a lookout at the bridge, but during the night the position was surrounded by enemy forces. He had two gunshot wounds, one in the left shoulder, the other in the left side, and as he was without orders, he surrendered to Australian soldiers on Nov 12. After capture he noticed that there had been a line of escape down a road and imagined that his companions made their getaway in that direction. He had 30 rounds, from original 120 rounds, left in his bolt at the time of capture.

4. UNIT OR FORCE

Organisation See Appendix "G". 2,000 men of the 6 Inf. Regt. on leaving NAGOYA in Dec '41 became known as 228 Inf. Regt. and this designation was retained till BELAWAN. On arrival at BELAWAN, the 2,000 men of 228 Inf. Regt. were embodied into DOI Butai, whose strength at the

INTERROGATION REPORT NO.30

PW'S Name:	ISHIGURO, Kiyoichi
No:	JA 145044
Secret No:	M 18
Rank:	1st Class Private
Unit:	KOI Butai 1 Bn. No.1 Coy No.1 Buntai.
When Captured	11 Nov '42
Where Captured:	Near PAPAKI BRIDGE
Height:	5' 7"
Weight:	120 lbs
Age:	23
Private Address:	KAMIOBA No.9, KITAZATO MURA, NISHI KASUGAI-GUN, AICHI-KEN.
Education	Ordinary Elementary School 6 years Higher Primary School 2 years Young Mens' School 5 years. (No knowledge of any foreign language)
Civil Occupation:	Farmer and labourer, engaged chiefly in digging wells.

1. PREAMBLE

PW showed normal intelligence and gave lucid descriptions on matters concerning his own interests. However, he pretended to be very unobservant of anything in which he himself was not directly involved. PW has an impediment in his speech which makes him difficult to understand.

2. CHRONOLOGY

Pre SWPA

1 Dec '41 Inducted in 6 Regt., part of 3 Div. at NAGOYA.

Voyage Out

29 Dec '41 Sailed for KOHO (See Sec.17) from UJINA, near HIROSHIMA, in NOTO MARU, a vessel of fair size (See Sec.5). There were 6 or 7 cargo vessels, names and tonnages unknown, but PW saw no warships at UJINA and NOTO MARU was unescorted on voyage.

11 Jan '42 Arrived KOHO, on coast of China some distance South of CANTON. PW went a short distance by road and then by rail to SEKIRUI and from there it took half an hour by road to TONKAN.(See Sec.9).

⑤尋問調書 (Interrogation Report) No. 30

CONFIDENTIAL - BRITISH SECRET

ALLIED TRANSLATOR AND INTERPRETER SECTION
SOUTH WEST PACIFIC AREA

SERIAL NO.42

2 Feb '43

INTERROGATION REPORT NO.30 PW ISHIGURO, K.

1. Attached is a report on Information gained from Japanese PW ISHIGURO, Kiyoichi.

2. All information contained in this report has been extracted from this PW source only. Its value should be assessed and its distribution restricted accordingly.

B.C.J. MEREDITH,
Major,
O.C. Army Section

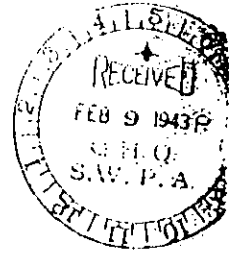
APPROVED:

SIDNEY F. MASHBIR,
Colonel, S.C.,
Co-ordinator.

FCW/JMC

No.23

DISTRIBUTION	NO. OF COPIES
Co-ordinator	1
AG GHQ	19
ADV LHQ	31
AAF Hq	20
US Military Attache	1
ATIS	16



20. SPECIAL INTELLIGENCE OR ANSWERS TO QUESTIONNAIRES

Last letter PW received from home was in May 1941 when he was in SHANGHAI. His people were all well and getting on all right at that time. PW last wrote home from RABAUL in August 1942 as there was a hospital ship in the harbour and she was going back to Japan with wounded and sick on board. Only letters can be sent to Japan, not parcels.

There may be a war boom on in Japan, but his father is a maker of mats (TATAMI) and made only a fair living as cost of raw materials, and selling prices were fixed by Government. At the time he left, materials for making mats were not rationed. Many things were rationed but the majority of the Jap people were not suffering from a lack of necessities as they were all living simply.

PW stated he would very much like to write a letter home but he was not sure of the consequences and wanted to think more about it.

PW had one cousin back from active service in China, but he was recalled. He was a superior private. Did not know where he was now. He had another cousin in the Navy, a 1st class seaman. Did not know where he was either. His elder brother was with the Army in Northern China but was now back home, having served his time. He was wounded in the leg but now recovered. None of his school mates had been killed. One got sick in China and returned to Japan. PW himself saw no action in China and was not wounded in NEW GUINEA.

PW did not know anything of the matter of troop mobilization in Japan.

PW had not suffered from diseases. Not many soldiers had diseases now-a-days as women in brothels are periodically examined. Brothels are controlled by the Military Authorities and were located in all the principal towns. PW had only been to the ones in Manila. There are 5 or 6 houses there, each with about 10 girls, Koreans, Filipinos and Chinese. PW had heard that there were brothels in DAVAO and RABAUL. Brothels were plainly marked in Japanese "IANJO" so were easy to locate.

PW had only seen Filipinos and natives do coolie work, not white men. Natives worked under military guards posted by the unit for which the natives were at the time working.

PW graduated from Higher Primary School only. He was in the 3rd year of the Primary School 15 years ago when he heard that some people in large cities like Osaka had been put into jail because of communistic activities. Beyond that he knew nothing of communism. He was in Osaka at the time of the Feb. 26 Incident and heard about it over the radio and read about it in the newspapers. He held no views. His father voted for SEIYUKAI. PW himself did not vote and had no interest in politics. He had nothing to say regarding Anti-British movements in Japan.

PW listened to broadcasts from Tokyo only when he was in China. He did not believe all that was written in newspapers but believed the radio broadcasts although he naturally assumed that bad news was held back. The only actual fighting he saw was in NEW GUINEA and being without a radio there, he was not in a position to state whether the war as described on the radio differed from his experiences.

PW said that he personally did not like war but wars under certain

INTERROGATION REPORT NO.28

PW's Name:	TERADA, Kazuyoshi
No.:	JA 145078
Secret No:	M 23
Rank:	1st Class Private
Unit:	YAZAWA BUTAI MIYAMOTO Bn. SEO Coy KODERA Pln. (No.2)
Where Captured:	GONA
When Captured:	7 Dec 1942
Height:	5' 5"
Weight:	120 lbs
Age:	25
Private Address:	488 SETODA-CHO TOYOTA-GUN HIROSHIMA-KEN
Education:	Primary School 6 years and Higher Primary School for 2 years.
Civil Occupation:	5 years in different iron foundries.

1. PREAMBLE

PW is not very intelligent and some of his statements were confusing at times, but believed truthful.

2. CHRONOLOGY

Pre SWPA

Apr '41	Called up to FUKUYAMA, joining 41 Regt as 2nd Class Private (See Sec.9)
26 Aug '41	Left UJINA in "AOBASAN MARU" for SHANGHAI, in company with another ship, unescorted. (see Sec.5)
29 Aug '41	Arrived SHANGHAI.
1 Sep '41	His Coy was sent to NINGPO, CHEKIANG Province, on board "NARUTO MARU" an ordinary passenger boat, where it was attached to MIYAMOTO Butai.
30 Sep '41	PW was sent to Field Hospital sick and then to a hospital in NINGPO Area.
20 Dec '41	Discharged from hospital.

④尋問調書 (Interrogation Report) No. 28

CONFIDENTIAL-BRITISH SECRET

ALLIED TRANSLATOR AND INTERPRETER SECTION
SOUTH WEST PACIFIC AREA

SERIAL NO. 40

30 Jan '43.

INTERROGATION REPORT NO.28 PW TERADA, K.

1. Attached is a Report on Information gained from Japanese PW TERADA, Kazuyoshi.

2. All information contained in this report has been extracted from this PW source only. Its value should be assessed and its distribution restricted accordingly.

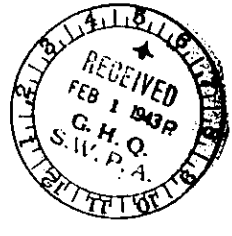
B.C.J. MEREDITH
Major
O.C. Army Section

APPROVED:

SIDNEY F. MASHBIR,
Colonel, B.C.,
Co-ordinator.

FWC/MC
No.22

DISTRIBUTION	NO. OF COPIES
Co-ordinator	1
AG GHQ	19
ADV LHQ	31
AAF Hq	20
US Military Attache	1
ATIS	16



His parents were not interested in political parties and he himself never voted. He had no views as to whether or not JAPAN would have been happier if she had kept out of the war. It was possible that JAPAN would have been better off if she had stopped at NORTH CHINA but he had given no thought to it. He had no views as to whether the war was a blunder or not and had no idea if Germany was lending any aid.

PW did not accept Hitler's idea about German superiority. He considered that Hitler must be brilliant to have raised himself from his low status, but could not subscribe to his claim of being entitled to worship.

PW was at his home in KOCHI both when the CHINA War broke out, and at the time of the MANCHUKUO Incident. He knew no details of the war of 1894/5 but he had not thought that the present conflict would end quickly. He said CHINA was now stronger than in 1894/5 but did not admit JAPAN was weaker.

He had no relatives on active service and he had no idea as to the number of men mobilized in JAPAN. As far as PW knew, none of his old school mates had become casualties.

He had given communism little thought but did not consider it a good thing. He was at his home in KOCHI at the time of the Feb 26 '36 incident and knew nothing of its origin but in any case did not consider it a good show.

PW knew nothing of an anti-English movement in JAPAN, and he had no idea why the Chinese dislike the Japs. In his opinion, next door neighbours should be friends.

Did not consider the Emperor liked war, but felt he had no option in the matter if his advisers thought otherwise. PW felt TOJO was acting under the Emperor's orders.

PW believed all natives in Jap occupied territories were receiving kind treatment. He thought that the Rescript of the Emperor MEIJI had been followed.

PW had suffered from dysentery and had been wounded in CHINA in 1937 and again in this campaign.

PW stated that there are brothels at RABAUL occupied by Japanese and Korean women.

PW was emphatic that no women were used as gunners, radio operators, pilots or in any other capacity in the Jap Army or Air Force. He added that they were not suitable as they were too small and in any case there were plenty of men to draw on for soldiers.

PW said he had no desire to write a letter home.

008 END 800.

INTERROGATION REPORT NO. 27

PW's Name:	ARITA, Kazo
No:	JA 145935
Secret No:	M 15
Rank:	Superior Private
Unit:	KUSUNOSE BUTAI KIHARA Bn. MORI Coy. 2 Platoon, 3 Section
Where Captured:	OIVI
When Captured:	about 15 Nov 1942
Height:	5' 4"
Weight:	125 lbs
Age:	32
Private Address:	No. 4122 YAMADA, YAMANA-MURA KOCHI-KEN.
Education:	Primary School 6 years
Civil Occupation:	Farmer, all his life.

1. PREAMBLE

PW. somewhat reticent and apparently not too intelligent; appeared to answer questions truthfully, but was dense on most subjects.

Stated he was resigned to being a PW and promised to give no trouble.

2. CHRONOLOGY

Pre SWPA

23 Jul '32	Conscription examination
20 Jan '33	Inducted as 2nd Class Private, 11 Coy, 3 Bn. 44 Regt. at KOCHI.
30 Nov '34	Discharged at expiration of term
18 Aug '37	Recalled and proceeded to neighbourhood of SHANGHAI on active service.
2 Nov '37	Wounded and hospitalized.
3 Jan '38	Returned to JAPAN to KOKURA Hospital



③尋問調書 (Interrogation Report) No. 27

CONFIDENTIAL-BRITISH SECRET

ALLIED TRANSLATOR AND INTERPRETER SECTION
SOUTH WEST PACIFIC AREA

SERIAL NO.39

28 Jan '43

INTERROGATION REPORT NO. 27 PW ARITA, K.

1. Attached is a Report on Information gained from Japanese PW ARITA, Kazo.

2. All information contained in this report has been extracted from this PW source only. Its value should be assessed and its distribution restricted accordingly.

B.C.J. MEREDITH,
Major,
O.C. Army Section.

APPROVED:

SIDNEY F. MASHBIR,
Colonel, S.C.,
Co-ordinator.

FWC/JMC
No. 3

DISTRIBUTION	NO. OF COPIES
Co-ordinator	1
AG GHQ	19
ADV LHQ	31
AAF Hq.	20
US Military Attache	1
ATIS	16

PW was worried about the treatment which would be accorded PoW in Japan should they be returned after the war. He did not think the Authorities would go so far as to kill them, but they might be deprived of certain rights. They would certainly be looked down on and might find it impossible to earn a living. He hoped that it might be possible for them to find employment in Australia.

He expressed the hope that after the war all Governments would co-operate, particularly as regards the treatment and repatriation of PsW. On being told that the overthrow of Japanese militarists was a sine qua non, PW said that he hoped a change of Government in Japan would solve the difficulty. PW asked if he would continue to be fed, and if he would be allowed to work and be paid while a PW. He would like to acquire a knowledge of elementary English.

21. GENERAL

Social Life

PW stated that there were two brothels to his knowledge in RABAUL. They contained a total of about 100 Korean and Japanese girls.

-- End --

3. CAPTURE

PW's Pl. was ordered to make its way to GIRUWA. but had only a general idea of the direction. The twenty odd men started out together, but in the course of days the number was progressively reduced by sickness, those who could not keep up being left behind. Others lost contact with the main body and were not seen again. PW was eventually left with one other who fled into the jungle one evening on hearing rifle fire close at hand. The next morning, PW was crawling through high grass when he was fired at by Australians. He flattened himself against the ground but was shot in the buttocks and lost consciousness. He regained consciousness to find himself on a stretcher, and was taken to PORT MORESBY.

4. UNIT OR FORCE

PW's statements as to the organization, strength, etc., of his unit confirmed those made by PW CHIYA, Haruyoshi, with the following amplifications:

Ammunition

PW did not know the meaning of coloured bands painted on shells. Black and yellow, on the same shell were used in NEW GUINEA.

Armament

1 and 2 Secs. had one 70 mm Bn. Gun each. Only 2/3 men at most in the Bn. Gun Pl. carried rifles. Some carried swords but in the event of attack at close quarters the Pl. depended on an inf. Pl. detailed for their defence.

Strength

Normal strength was about 20 men each to 1 and 2 Secs. and 30 men to 3 Sec. but owing to sickness the actual strength of 3 Sec. was reduced to 22 men.

Reinforcement

PW had heard on a number of occasions that reserves were coming but he had not seen any and presumed they had not materialised, which was one reason why many Jap troops had been taken PW.

Transportation

Horses were used on the trail from BUNA to KOKODA for transporting guns and supplies of Ammunition. Forward of KOKODA the trails were too bad and steep for horses, and labourers were employed. These were Formosans belonging to the GIYU Tai (Volunteer Unit). Native carriers were also used, and PW had seen some Koreans. The Formosan labourers were healthy and strong. Their usual load was about 80 lbs.

5. IDENTIFICATIONS

Military

44 Regt. is known as SEIBU 34, and is the RUSU BUTAI (Reserve Unit) for 144 Regt. PW was of the opinion that Reserve Units had been increased

INTERROGATION REPORT NO. 25

P W's Name	MIYAJI, Chikara
No.	JA 145045
Secret No.	M 12
Rank	1st class Private
Unit	KUSUNOSE BUTAI 1 (TSUKAMOTO) BN. 1 BN. BUN PL. (TSUKAMOTO)
Where Captured	During retreat to GIRUW.
When Captured	28 Nov '42
Height	5 ' 3 "
Weight	110 lbs
Age	32
Private Address	KAMONDA MURA TOSA GUN KOCHI KEN
Civil Occupation	Farmer

1. PREAMBLE

PW was willing to talk and answered all questions. Appeared truthful but might have been influenced by his knowledge of the fact that CHIYA, Haruyoshi of his own Pl. had been taken prisoner (ATIS SERIAL NO.31)

2. CHRONOLOGY

Pre SWPA

11 Mar '40	Called up to 44 Regt. as reservist.
25 Jul '40	Discharged and returned home
28 Apr '42	Recalled to 44 Regt.
Early May '42	Left SAKAIDE

Voyage Out and In SWPA

PW's statements as to his movements from Japan to BUNA agreed in general with the account of PW CHIYA, Haruyoshi. (ATIS SERIAL NO.31)

The following additions, however, were noted:

1. Left SAKAIDE in SADO MARU, unescorted.

2. AYATOSAN MARU sailed from RABAUL in company with one other transport and Naval escort. The transports carried 1 Bn. KUSUNOSE BUTAI, YOKOYAMA IND. ENGRS. and native carriers.

②尋問調書 (Interrogation Report) No. 25

CANCELLED

~~CONFIDENTIAL - SECRET SPECIAL~~

ALLIED TRANSLATOR AND INTERPRETER SECTION
SOUTH WEST PACIFIC AREA

SERIAL NO. 35

10 Jan '43.

INTERROGATION REPORT NO.25 MIYAJI, Chikara
which should be read in conjunction with ATIS SERIAL NO.36

1. Attached is a Report on Information gained from Japanese PW MIYAJI, Chikara.

2. All information contained in this report has been extracted from this PW source only. Its value should be assessed and its distribution restricted accordingly.

H.G.McDonald Capt

FWC/MM/JHC
No. 22

CANCELLED

CLASSIFICATION CHANGED TO:
By Authority of [illegible]
Date 13 May 49
Signature Major W.J. Graham, Cav.
MAJ. W.J. GRAHAM, CAV.

F.B.C.J. MEREDITH,
Major
U.S. Army Section

APPROVED:

SIDNEY F. MASHBIR,
Colonel, A.G.D.,
Co-ordinator.

DISTRIBUTION	NO. OF COPIES
ANF GHQ SWPA	4
AAF GHQ SWPA	20
COIC GHQ SWPA	2
G-2 GHQ SWPA	4
G-3 GHQ SWPA	2
G.S.I. (a) ADV LHQ	30
CENTRAL BUREAU	3
ATIS	16
SPARE	2

JA
8030
0000
IR
Nos. 1 - 25
Duplicate

INTERROGATION REPORT NO.24 (Continued)

PW saw both Japanese and Korean women in brothels at RABAUL. At that port, he also saw white men handling cargo.

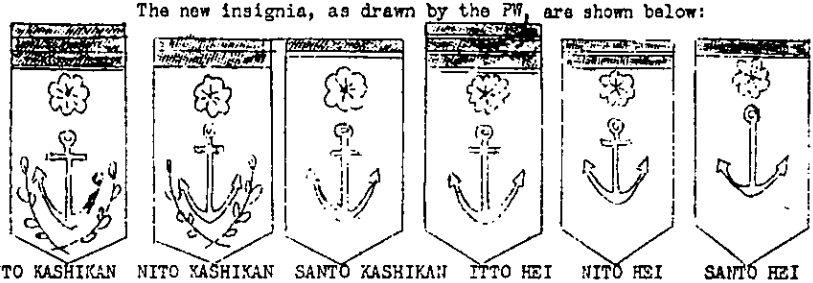
He had given no thought to writing a letter home.

21. GENERAL

a) Naval insignia

PW, giving as his source of information Jun '42 issue of the Japanese newspaper, OSAKA ASAHI, stated the arm insignia of Japanese Naval ratings have been modified, effective 1 Jul '42.

The new insignia, as drawn by the PW, are shown below:



ITTO KASHIKAN (Petty Officer 1st Class) | NITO KASHIKAN (Petty Officer 2nd Class) | SANTO KASHIKAN (Petty Officer 3rd Class) | ITTO HEI (Seaman 1st Class) | NITO HEI (Seaman *2nd Class)* | SANTO HEI (Seaman 3rd Class)*

*(NOTE. PW states that the word, SUI, formerly used to differentiate naval from land forces has been omitted.)

PW further states that the branch of service is denoted by the colour of the cherry blossom in the insignia. The colour code follows :-



Yellow-	SUIHEI	(水兵) (Seaman)
Green -	SEIBI HEI	(整備兵) (Ground Crew/Rigger)
	- KOKU HEI	(航空兵) (Air Corps)
Blue	- GUNGAKU HEI	(軍楽兵) (Musician)
Purple-	KIKAN HEI	(機関兵) (Stoker)
	- KOSAKU HEI	(工作兵) (Artificer)
White -	SHUKEI HEI	(主計兵) (Writer)
Red	- KANGO HEI	(看護兵) (Hospital Corps)

PW states that according to an article in an August (1942) issue of the newspaper, OSAKA ASAHI, Japanese Naval ratings were modified, effective November 1, 1942. This modification abolished the ratings of third and fourth class seaman. The changes, as listed by the PW are given below:

ITTO KASHIKAN	(一等下士官)	(Petty officer 1st Cl)	to JOTO HEISO	(上等兵曹) (Sup. P. O.)
NITO KASHIKAN	(二等下士官)	(Petty officer 2nd Cl)	to ITTO KASHIKAN	(一等下士官) (P.O. 1st Cl)
SANTO KASHIKAN	(三等下士官)	(Petty officer 3rd Cl)	to NITO KASHIKAN	(二等下士官) (P.O.)
ITTO HEI	(一等兵)	(Seaman 1st Class)	to HEICHO	(兵長) (Ldg Smn)
NITO HEI	(二等兵)	(Seaman 2nd Class)	to JOTOHEI	(上等兵) (Sup Smn)
SANTO HEI	(三等兵)	(Seaman 3rd Class)	to ITTO HEI	(一等兵) (Smn 1st Cl)
YONTO HEI	(四等兵)	(Seaman 4th Class)	to NITO HEI	(二等兵) (Smn 2nd Cl)

The PW further states that the change in ratings was in name only, no changes in pay being involved. Each of the new ratings carries the same pay as the corresponding old rating.

by each man and the total weight of equipment amounted to about 5 KWAMME (41½ lbs). In SIBERIA, however, the total weight was about double as furlined greatcoats alone weighed not less than 4 KWAMME (33 lbs.) M/G ammunition carriers, in addition to kit, slung a box of ammunition of 600 rounds.
PW had last received letters from Japan at KAVIENG in August. He had also received three comfort bags containing, amongst other things, a quantity of cigarettes. PW had replied at KAVIENG to letters but failed to post them. Seemingly all was well with his people but many things were rationed and from a farmer's point of view, there was little object in raising crops only to have Government take them over at their own fixed price.
PW generally listened to TOKIO radio and as a P.O., occasionally heard broadcasts from other places whilst on duty at barracks at KAVIENG. Not understanding any language but Japanese, he was not interested in foreign broadcasts though officers certainly listened. He realized that the Jap. broadcasts gave news in a favourable light and that the war described over the air was very different to war as he knew it. PW did not believe in war though he had not given any thought to whether or not Japan would have been better off had she kept out.
PW had not voted for any particular party but tried to elect the best suited man.
The thought existed at the outset, that CHINA would have to come to terms immediately the Japanese occupied NORTH-CHINA. It was a matter of grave concern to thinking people that the China war was so prolonged but PW did not feel competent to express an opinion as to whether or not it was a blunder. Most people had thought it would have been quickly over.
PW was very hazy as to the respective parts played by foreign nations in the earlier days of the China Incident, and as far as he was aware, Germany was not now giving any help to Japan. He definitely did not accept Hitler's precept that the German was a superior being to the Jap. PW had never given much thought to Hitler though he had heard that he was a soldier in the last war.

After 6 years in Primary, PW spent 2 years in an Intermediate school. In 1932 he was in the Navy and was at NAGOYA when the war with CHINA started. He knew very little of the facts of the first China war of 1895 and so could not make any comparison, but he was of the opinion that Japan is probably weaker and China stronger than she was at the commencement of the present struggle. He thinks Japan has mobilised well over 1,200,000 in the past 5 years but he had not real knowledge.

PW's relatives were all back at home and none of them had seen active service. None of his schoolmates had been wounded or killed.

PW had not studied the subject of Communism and knew but little about it. He thought that some of their arguments might be correct but he could not see how communism would work in actual practice. He joined the Navy in 1927 and was at home near NAGOYA at the time of the 26 Feb, '36 incident. It shocked him and he thought it was a disgraceful business.

PW had no idea why the Chinese disliked the Japs or why there was an anti-English movement in Japan.

PW is of the opinion that Baron HIRANUMA was as much to blame for hostilities as TOJO . He thinks TOJO has over reached himself and he feels the Emperor has no say in the matter.

As far as PW is aware, the Japs are treating natives of occupied territories as equals. He has not heard if the Rescript of the Emperor Meiji has been followed.

PW had not been wounded but he had suffered from malaria.

INTERROGATION REPORT NO.24 (Continued)

c) Radio and News

PW knew of no unit possessing its own receiving set and in any case there were no facilities for all ranks to listen to reception. Whilst on guard duty at the Officer's quarters, he had heard broadcasts from JAP[illegible] but these consisted chiefly of musical items. He had never heard news items broadcast. PW did not think any objections would be raised to troops listening to broadcasts if they possessed sets. (see sec. 20)

14. ENEMY INTENTIONS

Nil information

15. WASTAGE OR CASUALTIES

a) Naval Losses

On 4 May '42 PW witnessed an ALLIED air attack on GAVUTU which seriously damaged the minelayer OKINOSHIMA, sunk or damaged 2 destroyers of the "YAYOI" class and sunk 2 patrol vessels of the "CATCHER" type, all part of a task force which arrived at GAVUTU after PW's transport. One of the destroyers was hit by a bomb aft and beached in a sinking condition. The other destroyer was damaged and put to sea, with the minelayer which arrived safely at RABAUL. PW heard the minelayer had been sunk in a subsequent action. Later in the afternoon of 4 May '42, 12 enemy planes attacked. There were no direct hits on ships but PW's vessel suffered 10 casualties. An MLC along-side was destroyed and other MLCs took refuge on the beach. A near miss temporarily damaged his ship's rudder and she had to be navigated out of the harbour by manipulating twin screws. Sp. Lt. MARUYAMA was ashore at time of attack and was left behind as were 3 or 4 members of S.L.P. The ships side was perforated in many places by bomb fragments.

16. CHEMICAL WARFARE

Nil Information

17. TOPOGRAPHY

a) Dromes and Strips

Work on extending runways etc., at KAVIENG was about 80% completed at end Aug '42. No hangars were under construction. There was a rough road running in a northerly direction to the coast from the NAMATANAI road. The junction of the roads is near the north end of the drome. PW stated the road led to a beach on which there were a number of native huts and an observation post. The beach is steep, the surf is very heavy and the coral reef is so extensive that PW thinks it would be impossible to land anything on this stretch of coast.
PW was definite that there is an air field at TRUK.

18. MEDICAL

Nil Information.

19. ALLIED FORCES

a) Naval

PW witnessed unsuccessful torpedo attack by submarine on the 2 ships in their convoy as entering TRUK.

20. SPECIAL INTELLIGENCE

b) Psychological

PW stated that in SWPA a rifle and 180 rounds SAA was carried

CHINA Incident, but this only appli[illegible]pparently, to lower ratings. Such ratings might be promoted from 3rd to 1st. class. Knew nothing of the system of replacements.

10. COMMUNICATIONS

Nil information.

11. DEFENCES

Nil information.

12. ENEMY SUPPLIES

a) Rations and ration scales.

PW stated that very little stores and only 3 days rations had been brought from KAVIENG when they landed at HILNE BAY. PW remarked that most of the tinned food issued to troops on active service was whale meat and rabbit. There was little or no beef and even fish was limited to tinned herrings. During his 8 years pre-war Naval service bread was a ration issue. Biscuits are now issued instead.

b) Uniforms

In addition to usual winter and summer Uniforms, a 3rd category consisted of light green tunic, long trousers, shirts, socks and black boots. There was still another outfit, called "Special Tropical Outfit" consisting of light khaki tunic, shorts, shirt, socks and rubber-soled canvas shoes. Uniforms were manufactured in 5 sizes, footwear in 6.

c) Petrol Dumps

Stocks of gasoline, in drums, were dispersed over the area of KAVIENG drome. They were not camouflaged.

13. MORALE AND PROPAGANDA

a) PW did not know what to think as to the outcome of the war as up to RABAUL only victories had been announced. He realises now that the position was somewhat different to what they had been led to believe though even before the HILNE BAY landing he thought his C. O. was over optimistic when he told them that they would wipe out enemy resistance in NEW GUINEA and go on to the capture of AUSTRALIA.

b) Conditions in JAPAN

In Dec '41 a new tax was introduced on Gas and Electric stoves and on electric refrigerators. Bachelors and unmarried females of 25 years and over were also taxed.
In Feb '42, PW stated the civilian ration was:-
Rice - Adults 2 7/10 go (16.2ozs.) daily.
- Children and old people proportionately less.
- Labourers more
MISO - 300 Momme (2½lbs) monthly
SHOYU - no information
Sugar - 70 Momme (7/12 lb) monthly.
Farmers raising rice were permitted to keep sufficient to feed their families till the next harvest. The balance of the crop was taken over by Government at a fixed price.
Offers of Yen 5 per day for casual farm labour brought no response as better wages were obtainable in war factories. This difficulty and the fact that the surplus crop was taken over at a price fixed by Government irrespective of the cost to the grower, held out little inducement to farmers to produce from the soil.
Many farmers, in fact had abandoned their fields.
PW stated that all cloth in JAPAN was SUFU (artificial fibre) and did not last any length of time.

5. IDENTIFICATIONS

a) RABAUL is known as DAIHACHI KONKYOCHI (HACHIKON) - 8th Base -
b) PW stated that 7 twin engined bombers arrived at KAVIENG drome on about 23 Aug '42. He did not know the name of any air unit.

c) KURE SANTOKU and HAYASHI Butai (KURE 5) were together at MILNE BAY.

6. PERSONALITIES

a) Rear Admiral KANAZAWA is officer Commanding at RABAUL. It is rumoured that he was promoted to VICE-ADMIRAL in July, PW added.

7. SHIPS SERVED IN.

Battleship "ISE" for about 1 year in 1927 as 3rd Class seaman, duties being to pass on orders from Control Tower to Secondary Armament (DENSEIKAN)
Apr '28, destroyer SHIMONOMI for about 3 years, during which time he was promoted 1st class seaman. Served as DENREIKAN (Messenger) passing orders from range finders to gun crews. 1932, under a year in cruiser KAKO, visiting SAIPAN and PALAO. Duties were passing orders from Control Tower to deck hands by whistle.
May to Nov '32 in SHANGHAI with RIKUSENTAI. Visited CANTON, TSINGTAO, AMOY, and HARBIN.
KURE, 1 year at Barracks.
1934, Battleship FUSO for about 1 year.
Duties as on KAKO.
Civilian life till recalled 23 Dec '41 to KURE.

8. ENEMY EQUIPMENT

a) MLCs

AZUMASAN MARU carried three MLCs on deck; these were loaded and unloaded by ship's tackle. (Previously published in SERIAL NO.28 Interrogation Spot Report No.2).

Landings near RABI were made in "DAIHATSU" capable of carrying 130/150 men. They were Diesel engined and had a speed, empty, of about 11 knots. PW stated that there was a smaller MLC known as SHOHATSU but he could not give details as he had never seen one.

SHOKAITEI (old type destroyer) usually carry 1 MLC each on the deck which is believed to be fitted with rollers. The SHOKAITEI can be trimmed by the stern to permit the MLC to be launched or drawn aboard by winches (Previously published in SERIAL NO.28 Interrogation Spot Report No.2)

9. ENEMY METHODS

a) Numbering of vessels.

Ships are no longer known by name. Numbers have been allocated to them. The "AZUMASAN MARU" said to be No.148 and PW believes "GOYO MARU" was No.147. (Published in SERIAL NO.28 Interrogation Spot Report No.2)

b) Diaries

General instructions were given in JAPAN to troops that no reference was to be made to war activities in diaries. However PW said that instructions were honoured more in breach than observance.

c) PW stated that he had not heard of field promotion; in the event of officers being wiped out, NCO's would automatically take over command. Similarly, senior private would function should all NCO's be out of action. Promotion, naturally, was faster in war time but his experience of active service was limited and he knew little about the subject. He had heard, however, that promotion for special service had been instituted after the commencement of the

withering fire that all semblance of an attack was an impossibility. Trps were unable to bring their guns into action, many casualties were sustained, and it was all section leaders could do to keep their men from bolting into the jungle. To add to their troubles enemy aircraft swept low and subjected them to terrifying M/G fire. In a short while PW found himself practically alone as trps on both flanks had disappeared into the jungle. He then decided to retreat and got together with two others, one of whom was severely wounded. The party decided to go back to the landing place, feeling that provisions and supplies would be obtainable there. On their way they were discovered by hostile trps and scattered - the wounded man, 1st class Seaman HIGUCHI - continuing on the road towards the landing place and PW with 1st class stoker OKAMOTO, taking to the jungle. The 2 men remained together for some 20 or more days by the banks of a creek some distance from its mouth. They were suddenly disturbed, however, by a patrol of hostile trps, and leaving all their equipment, the 2 men scattered in different directions. PW, who had had a recurrence of malaria during the 20 days stay at the point mentioned above, determined to make an attempt to get back again to landing place in order to get provisions and, therefore, struck out in that direction through the jungle as he realised it would be hopeless to attempt it along the road he had travelled in the original advance. Subsisting on coconuts and papaya he eventually came in sight of the sea once again only to find he had travelled past his goal. He was still suffering from malaria and spent the next 30 odd days nursing himself, moving only at night to gather nuts and fruit. Eventually, was discovered by a native, who fed him and took him to some place where there were quite a number of others. All these people treated him kindly and again fed him.

3. CAPTURE

PW asked the natives who found him to lead him to the AUSTRALIAN lines. This was done and PW was handed over on the beach at GUPAIO on 26 Nov '42 to AUSTRALIAN troops.

4. UNIT OR FORCE

a) Organisation

See Appendix "A".

b) Strength and Armament

One Coy of S.L.P. equipped with 4 Hy. M/Gs "92" Type 7.7 mm, one to each of 4 sections consisting of 1 W.O. and 7 O.Rs. Two additional sections are employed as ammunition carriers. At landing all troops armed with rifle and 2 hand grenades.

c) Ammunition

Carried in boxes of 600 rounds in 20 strips each of 30 rounds. PW was definite that the strips did NOT contain 32 rounds.

d) Transportation

The two ammunition carrying sections each consist of 1 W.O. and 10 O.Rs. Native carriers also employed.

e) Unit Losses

Heavy losses sustained on approach to aerodrome at RABI but PW had no idea of numbers.

f) Reinforcements

KURE 3 S.N.L.P. landed to reinforce KURE 5 S.L.P.

had actually attacked America on 7 Dec.

23 Dec '41 — Was called up and rejoined at KURE where resumed similar duties as before in the Barracks.

b) Voyage Out

17 Feb '42 — Sailed with the YANO BUTAI, about 800 strong on AZUMASAN MARU from KURE. GOYO MARU also had trps from this unit on board. Both vessels were armed with guns of abt 13 cm and proceeded without escort.

24 Feb '42 — Arrived TRUK. Stayed there about 3 weeks, living on board, and engaging daily in landing exercises.

c) In SWPA

24 Mar '42 — Arrived RABAUL. Stopped there for about one month, time being occupied in landing exercises and general duties. Owing to the heat, trps were generally dismissed after a strenuous morning's work but were kept occupied with other duties for the rest of the day.

4 May '42 — Arrived GAVUTU. It had been reported that some 50 enemy trps were there with one or more flying boats but this was found to be incorrect on arrival.

The 2nd Coy of the KURE 3rd. (YOSHIMOTO TAI) was landed on this date at TULAGI from the GOYO MARU, which ship had been in company with the AZUMASAN MARU ever since leaving KURE. GOYO MARU sailed immediately after landing her troops at TULAGI. (See Section 15)

AZUMASAN MARU sailed from GAVUTU, towards evening, for PORT MORESBY and was joined en route by 10 or more transports together with an escort consisting of the TSUGARU, 2 destroyers, 1 armed merchantman and two ships of the "Catcher" type. After steaming for 4 or 5 days the entire convoy reversed its course owing to the outcome of the CORAL SEA Battle.

10 May '42 — Arrived at RABAUL. All troops on the AZUMASAN MARU were transferred to the GOYO MARU which ship sailed the same evening for KAVIENG. PW stated that Commdr YANO refused permission to make use of the ship's winches during the transfer of gear etc., thereby unnecessarily tiring out the men.

11 May '42 — Arrived KAVIENG and stayed there till end Aug. Time occupied in intensive training and practice. 4 A/A guns were landed besides searchlights, M/G's etc. PW was quartered in a warehouse type of building situated near the central of 3 piers or wharves.

30 Aug '42 — Left KAVIENG at night in the No.38 MINESWEEPER accompanied by Nos.36 and 39, and 3 destroyers one of which was the "MURAKUMO", other unknown. Total troops on board about 800 men, consisting of 500 YANO BUTAI (about 50 of this unit were left behind in KAVIENG) and 300 of YOKOSUKA S.N.L.P. - was not sure if No.5

Approx. 1 Sep '42 — Arrived at some point in MILNE BAY. The YOKOSUKA trps were landed first in ship's own motor boats. Trps from Minesweepers were landed in M.L.C., each accomodating 120/130 men. Landing was effected in a most casual way as no opposition was expected. PW heard his C.O. remark on the voyage from RABAUL that the advance troops HAYASHI BUTAI (KURE 5th S.L.P.) had driven the enemy off the beach heads back towards the aerodrome. However, enemy air recce forced the landing parties to seek refuge in the jungle where they were held up until evening of the 2nd Sep. A start was then made in the direction of the aerodrome at RABI and just before dawn contact was established with the KURE 5 S.L.P. The advance continued without opposition until the trps were close to the aerodrome when they were met with such a

INTERROGATION REPORT NO.24

PW's Name	:	HANAKI, Yoshida
No.	:	JA 145039
Secret No.	:	N 1016
Rank	:	3rd Class P.O.
Unit	:	KURE NO.3 S.N.L.P.
Where Captured	:	MILNE BAY
When Captured	:	26 Nov '42
Height		5 ' 2½ "
Weight	:	124 lbs.
Age	:	36
Private Address	:	91 MIYA MURA, HACHISUKA, HAMA GUN, NAGOYA SHIGAI.
Civil Occupation	:	Department Store Porter

1. PREAMBLE

PW is intelligent and has talked freely.

2. CHRONOLOGY

a) Pre SWPA

1 Jun '27	Entered Navy at KURE - stayed in barracks there for 2½ months on usual training. Was then posted to the battleship "ISE".
Abt Apr '28	Transferred to destroyer "SHINONOME" on which served for 3 years was then again transferred to the cruiser "KAKO" on which served for about 6 months.
Abt Nov '31	Taken from "KAKO" with appendicitis and stayed in hospital for 2 weeks. On discharge was sent to shore Barracks at KURE and remained there for about 4½ months on fatigue duties.
May '32.	Went to SHANGHAI with the FURUTA UNIT (DAITAI). This was a special Naval landing party under Commander FURUTA (KAIGUN CHUSA). In Shanghai was on guard duties at the TOYODA Spinning mills.
Nov '32	Returned to JAPAN and resumed former duties in Barracks at KURE.
Nov '33	Was posted to the Battleship "FUSO" on which remained for 1 year, during which time the "FUSO" never left harbour.
Dec '34	Was sent to MANCHUKUO with Naval Defence Unit (BOBITAI), forget gets the name of O.C. who had rank of Naval Captain (KAIGUN TAISA). The unit consisted of about 200 men, and travelled by rail to HARBIN via KOREA.
31 May '35	Returned to KURE Barracks and was discharged. Returned home and worked on the farm for 1 year.
Apr '36	Joined the MATSUZAKAYA DEPT STORE in NAGOYA as general porter, and in Oct '41 decided to leave and return home, but owing to labour shortage and man power control, was unable to do so until permission granted at end Nov '41.
8 Dec '41	Heard over the radio that America had declared war on JAPAN. Appeared surprised when informed by interrogators that JAPAN

①尋問調書 (Interrogation Report) No. 24

CONFIDENTIAL - BRITISH SECRET

ALLIED TRANSLATOR AND INTERPRETER SECTION
SOUTH WEST PACIFIC AREA

SERIAL NO.33
31 Dec '42.

INTERROGATION REPORT NO.24 - HANAKI, Yoshisada

Including information published in SERIAL NOs. 28 and 30, Interrogation Spot Reports Nos. 2 and 3.

1. Attached is a Report on Information gained from Japanese PW HANAKI, Yoshisada.

2. All information contained in this report has been extracted from this PW source only. Its value should be assessed and its distribution restricted accordingly.

L.F. HOPKINSON,
Lt.-Commander,
O.C. Naval Section.

APPROVED:

FWC/KHP/MC
NO.3.

SIDNEY F. MASHBIR,
Colonel, S.C.,
Co-ordinator.

DISTRIBUTION:

	NO. OF COPIES:
ANF GHQ SWPA	4
AAF GHQ SWPA	4
COIC GHQ SWPA	2
G-2 GHQ SWPA	4
G-3 GHQ SWPA	2
GSI (a) ADV. LHQ	30
CENTRAL BUREAU	3
ATIS	16
SPARE	2

RECEIVED JAN 10 1943 G.H.Q. S.W.P.A.

CONFIDENTIAL - BRITISH SECRET

1．連合軍翻訳通訳部局（ATIS）
関 係 文 書

Ⅲ．戦争情報局（United States Office of War Information）
関係資料
1．心理戦作戦班報告書（Japanese Prisoner of War Information Report）　49号……203

Ⅳ．写真資料……211

14．尋問調書　〃　No.57 ……75
15．尋問調書　〃　No.60 ……79
16．尋問調書　〃　No.63 ……83
17．尋問調書　〃　No.67 ……87
18．尋問調書　〃　No.78 ……91
19．尋問調書　〃　No.94 ……97
20．尋問調書　〃　No.104 ……101
21．尋問調書　〃　No.573 ……107
22．捕虜尋問調書
(Prisoner of War Interrogation Report) ……113
23．時報 (Bulletin)　No.1483 ……115
24．時事翻訳 (Current Translations)　No.100 ……121
25．調査報告書 (Research Report)　No.120(2)……125
26．調査報告書　〃　No.120(1)……137

II．連合軍東南アジア翻訳・尋問センター (SEATIC) 関係文書

1．SEATIC時報　No.116 ……169
2．SEATIC時報　No.131 ……175
3．SEATIC時報　No.182 ……183
4．SEATIC時報　No.186 ……189
5．SEATIC時報　No.197 ……195

米国国立公文書館・国立国会図書館所蔵資料

〔目　　次〕

Ⅰ．連合軍翻訳通訳部局（ATIS）関係文書

1．尋問調書（Interrogation Report）　No24 ……9

2．尋問調書　〃　No25 ……19

3．尋問調書　〃　No27 ……25

4．尋問調書　〃　No28 ……29

5．尋問調書　〃　No30 ……33

6．尋問調書　〃　No31 ……39

7．尋問調書　〃　No34 ……43

8．尋問調書　〃　No37 ……49

9．尋問調書　〃　No46 ……53

10．尋問調書　〃　No48 ……59

11．尋問調書　〃　No50 ……63

12．尋問調書　〃　No52 ……67

13．尋問調書　〃　No53 ……71

米国国立公文書館
国立国会図書館所蔵資料

[編集復刻] 軍女性のためのアジア平和国民基金編
政府調査「従軍慰安婦」関係資料集成⑤
米国国立公文書館所蔵資料／国立国会図書館所蔵資料
●各巻資料の概要紹介
一九九八年七月二十日　第一刷発行
揃定価　一〇〇、〇〇〇円(税別)

後藤乾一
編集代表　高崎宗司
和田春樹
装　幀　三谷靱彦
発行者　北村正光
発行所　株式会社龍渓書舎
東京都板橋区南町43―4―一〇三
郵便番号一七三―〇〇二七
電　話〇三―三五五四―八〇四五(代表)
FAX〇三―三五五四―八四四四
振　替〇〇一三〇―一―七六一三三
印刷　勝美印刷　製本　岸田製本

検印廃止

ISBN4-8447-3474-1

正誤表

頁	誤	正
213	（一九四四・八・九）	（一九四四・九・八）
217	（一九四四・八・一）	（一九四四・八・一四）

拠金者からのメッセージ

「従軍慰安婦」にされた方々へ、
この償いの気持ちをおとどけします。

*アジア女性基金（略称）には個人・市民グループなどみなさまから、寄付と一緒に、さまざまなメッセージが寄せられています。「郵便振替用紙」通信欄と手紙に書き込まれたことばは、一人ひとりの償いの気持ちを表わしています。

財団法人 女性のためのアジア平和国民基金
（アジア女性基金）
107-0052東京都港区赤坂2-17-42 赤坂アネックス
TEL.03-3583-9346 FAX.03-3583-9347
home page ; http://www.awf.or.jp
e-mail ; info@awf.or.jp

理解され円滑にすすむように

本来、日本政府が「償い」は行うべきだと思いますが、さまざまな政治的な制約のなかで呼びかけ人の方々や役員の方々が、苦汁のなか、事業を進めておられることに感じ入っております。韓国など各国政府の対応に困難もあるようですが、少しでも理解が進んで、事業が円滑に進展することを期待しております。もっと活動をＰＲしてください。(川崎市・男性)

Ｏ先生から資料を送っていただきました。些少ですがご活用ください。(岩手県一関市・男性)

少額で申し訳ありませんが、継続することを大事にしていきたいと思います。(八王子市・男性)

街頭募金行動でお預りした分です。少額ですが気持ちのこもったものです。お役に立ててください。「基金」の事業が多くの国民の理解を得られるよう、今後ともの取り組みを期待しております。(大阪・市民グループ)

寄付金を送ります。少しですがよろしくお願いします。(名古屋市・女性)

苦労なさったアジアの女性の方々が、一日も早くご幸福になられますように、心からお祈りしております。少しばかりですみません。(神奈川県大和市・女性)

ほんとうの被害者を特定して

インドネシアのジャワ島で従軍しました。マスコミが騒ぐほど強制買春や強姦が多かったとはないと断言できます。しかし、スマラン慰安所事件の示すように、絶無だったとは言えないと思います。ほんとうの被害者を特定し、援助されんことを願います。(東京調布市・男性)

4回分の出張の日当です。少しですけど送金します。(東京大田区・男性)

多分、公的補償と民間の基金は両輪で必要なものなのでしょう。(京都府・男性)

町役場窓口に設置しましたアジア女性基金の募金箱分です。元「従軍慰安婦」の方々はもとより、いまだ開発が進まない事業への支援ができれば幸いです。(埼玉県・町役場)

月2回の粗大ごみの日に、ごみの中から鍋、やかん等々アルミ製品を収集して、約一年分を売却しました。これに若干手持ち現金を補充して小為替でお届けしました。よろしくお取り計らいくださるようお願いいたします。募金者○○、○○(私の係娘です。二人ともども今春、大学、探題を卒業し社会に旅立ちをしました。その門出にあたって売却代を充当しました。)
父が他界いたしましたので、香典の一部を寄付させていただきます。(松江市・男性)

笑顔がもどるよう祈る

少額ですが、お役に立てば幸いです。償いにはほどとおいとしても、かの人たちの笑顔が戻ることを祈っています。(栃木県黒羽町・女性)

戦死した叔父の分の特別弔慰金というものを手にしました。いま私は、生まれた時代と国に恵まれて幸せに暮らしておりますので、少しでもアジアの女性のためにと思い、送金させていただきます。(長崎市・女性)

いろいろな意見があり悩んでしまいます。この行為は結局受け入れてもらえない行為なのでしょうか。かく民族が平等な社会の実現を願っています。善隣友好を信じていきたいです。(東京都八王子市・男性)

「従軍慰安婦」にされた方々への償いのために2(パンフレット)のうち拠金者からのメッセージは正直な庶民の気持ちだろうと思います。自民党代議士のいろいろな問題になる発言は、選挙での有利さを目当てでそのような人を選出する有権者の多くいることの方が問題で、自虐史観などという人は落選させればいいのですが、民主主義は多数決だから仕方ないのかもしれません。(豊橋市・男性)

少しですが基金に加えさせてください。真の仲良し社会が創られていくとよいですね。そう望んでいます。(熊本市・男性)

今朝の朝日新聞によると、似非愛国者たちの教科書攻撃が激しいようです。また、その反対側には、この基金を正しくないと批判する人たちもいます。(その中で)この基金にお金を送る人たちの気持ちは本物だと思います。困難なことがとても多いですが、がんばってください。(八王子市・男性)

少しですが、ボーナスをもらったので、送ります。(豊田市・男性)

領収書を送ってください。少額ですが少しでもお役に立てればと思います。(栃木県・女性)

妨害だけは止めてほしい

アジア女性基金ニュース9号拝見しました。日本でも各国でも種々の意見があるのは当然ですが、やっぱり被害者本人の気持ちが大事です。これを妨害するのだけは止めてほしいものです。この世を去る前に少しでも補償になればと願うものです。(東京豊島区・男性)

終戦まで外地におりましたので、当時の実情はわかっております。些少な基金としてください。犠牲になられた方々のお年を考えるとき、一日も早い国の償いが必要と思います。(佐賀県伊万里市・男性)

基金への協力をしているということでこの問題から目を離せない(考え続けていく)ということにも、大きな意味があると思います。(東大和市・女性)

歴史の真実をおおい隠そうとする勢力の台頭が著しいなかで、正しい歴史を次代に伝えたい。(四條畷市・男性)

ささやかですが、被害を受けた方に届けてください。(北九州市・女性4人)

必ず近い将来に日本政府の責任で補償してください。当然のことだと思います。(枚方市・女性)

戦争体験を聞いて育った者として

祖父の語った悲惨な戦争体験、疎開先でのこどもたちの暮らしなど、私も私の息子たち(中3と中1)も幾度となく母から聞かされて育ってきました。「決してこの過ちを繰り返してはならない」「人間の尊厳を踏みにじってはいけない」という母の気持ちを、息子たちも受け取っていることと思います。私たちの償いの気持ちです。ささやかですがお受け取りいただけたらと思います。(横浜市・女性)

原稿料が入りましたので、少しでも役立ちたいと思い、お送りします。(東京板橋区・男性)

街頭行動で、市民の方々から寄せられたものです。少ない金額ですが日本人としての謝罪の気持ちが込められています。被害の方々の心に、拠金者の気持ちが伝わることを願っています。最近募金額が増えませんね。気になっています。新しい教科書をつくる会などの動きに負けない私たちの側の大きな運動を展開しなければと思えてなりません。(大阪市・市民グループ)

アジア女性基金費用の一部に充当くださいますようお願い申し上げます。本事業へ尊いご労苦に感謝申し上げます。(仙台市・男性)

*注・募金はすべて「慰安婦」にされた方々への償い金に充てられます。基金事務経費等には使われません。

日本人の責任として

恥ずべき日本政府の態度、そして日本人の意識。「基金」受け取り拒否は被害の方々の当然の感情だろうと思います。私たちは国家補償を求めてたたかいつづけねばなりませんが、その一方で、一人の日本人として、償いの気持ちを表わし、それを受け取っていただけるよう努力を重ねたいと思います。100年かかっても200年かかっても、子や孫に伝えていかなければならない。日本人の責任です。送金がのびのびになって水害カンパと重なってしまい、少額となりました。「基金」関係の皆様のご苦労に敬意を表わします。(四條畷市・女性)

「従軍慰安婦」問題について種々いわれています。しかし強制的に合意なしに「慰安婦」にさせられた方々がおられることは事実と思います。4回目の募金です。僅少ですが、おわびの気持ちです。(福岡市・男性)

女だからと受けていた差別、人間として私は決して許すことができません。何十年何百年時が経とうと、時代を刻んでいかなければならないのが人間です。「慰安婦」の方々の気持ちを考えると、いてもたってもいられません。ほんの少しの募金ですが、それで少しでもよい方向に時代を変えていけるのであればと思います。絶対に起こしてはならない戦争。これから担っていくのは私たち若者なのです。何としてでも力を合わせて間違えた歴を壊さなければなりません。こういう問題は伝えなければならない義務があります。どうかこの組織を失わないでずっと続けてほしいと思います。(被害者の方々は)女性として、人間としての誇りをもって恥じずに生き抜いてほしいと思います。(中津市・女性)

いつも本当に、ご苦労様です。(静岡市・男性)

いろいろとご苦労があると思いますが、日本人の償い(それは男性が女性に対する人格無視の結果ですが)の気持ちを心に傷を負った皆様に伝えてください。(神戸市・女性)

同性として国を越えて…

この問題が新聞等で提起されてから、同性としてショックを受け、悩みました。しかし、こうしている間にも好めを受けた方々は高齢化していきます。戦後52年も経つというのに、日本はこれだけの経済発展を遂げたというのに、国や男性諸氏は口を噤んだまま。とても歯がゆい

思いで一杯です。これからの21世紀は同性として、国を越え、手を携えて歩んでゆきたい。眠っていたいままでの自分自身へ一石を投じる意味で、わずかな金額ですが、送金させていただきます。(鴻巣市・女性)

僅少ながら寄進します。よろしく。(福島市・男性)

僅かですが寄付いたします。(生駒市・男性)

もしも交通事故を起こして人に大けがをさせてしまった時、見舞いに行って相手に追い返されたからといって、はいそうですかではすまされない。何度も足を運んで、誠心誠意わびなければならない。日朝関係は兄弟姉妹の如し。老いた姉達と仲直りをせぬままに終わらせることは決してできない。私はそう思います。大変なことが多いでしょうが、ぜひ頑張ってください。(八王子市・男性)

年金をいただくことになり、その一部ですが醵金させていただきます。今後もできるだけ継続して送らせていただきます。65歳の引揚者。(東京渋谷区・女性)

役員のみなさまの頑張りをお願いします。(東京豊島区・女性)

韓国でもお渡し、よかった

韓国の一部の方にも初めてお渡しできてよかったですね。もちろんいろいろの意見があり、受け取れない方もおられますが、これも仕方のないことです。しかし日本の一部の識者の方が、国は関与していないとして運動しているのは、大変悲しむべきことです。軍が関与しなければ、民間の業者が第一線の戦地に移動できるわけがありません。全部が職業婦人であったとの証明もできないのですから。(東京豊島区・男性)

わずかですがお役に立ててください。(新潟市・男性)

子々孫々のためにも早い解決を願っています。(草加市・男性)

私は皆様と同世代に育ったものですが、戦争に勝つまではと、当時は食べること遊ぶこと着るものもがまんさせられ、ただ働かされました。「慰安婦」にさせられなかったことは皆様に比べ幸せだったと思いますとともに、日本人として大変申し訳なく思います。しかしいまの指導者の方々は世界の平和を望む方々です。どうかお許しください。言葉だけでは償いはできませんので、少額ですが送らせていただきます。このような気持ちを持っている方は日本にはたくさんおります。どうかお許しください。(東京大田区・女性)

満51歳になって、やっと、みんなが幸せにならなくてはいけないということを、多くの人によっておしえられました。寄付します、がんばってください。(調布市・男性)

これからも基金の活動をがんばってください。(東京杉並区・女性)

少しでもお役にたてたらと思い、送らせていただきます。(兵庫県揖保郡・女性)

同年齢の方々だからこそ

元「従軍慰安婦」の方々の年齢が、私と同年齢の方々と思うとき、一日も早く心から謝罪と償いの気持ちをお届けしてほしいと思います。(千葉県印旛郡・女性)

「従軍慰安婦」問題の解決は当初から被害を受けた当の本人に直接賠償しなければならないものであった。それを関係国との経済協力等政府間協定の締結で解決を図るなどやくざ的手法といわなければならない。人間としての根源的な権利を踏みにじる残酷でおぞましい問題をすっきり解決して真の友好と平和を望む国であることを、世界に示さなければならない。何よりも彼女たちの屈辱的思いを、一生を台なしにした悲しみを少しでも癒し心からの償いをしてあげてほしい。社会正義と主権在民の理念がいずれの国の民にもおよぶことを願う。ご苦労ですが成功を祈ります。(男性)

大切に使ってください。そして確実におとどけしてください。(北広島市・女性)

今日は私の誕生日です。少しですがお収めください。(秋田市・男性)

少額ではありますが、よろしくお願いいたします。日朝関係は必ずよくなると思います。(東京八王子市・男性)

「見解」(注・和田春樹教授の「教科書」問題について)を拝読しました。「日本国家と日本軍は道義的責任を免れません」とありましたが、私はちょっと違うと思います。責任は当時の日本人にあり、その償いは国家的に行うべきなのだと思います。(八王子市・男性)

私は19歳の通信高校生です。私たちは正義のために闘い続けなければいけません。愚かな自尊心が過去の記憶に勝ることがあってはならないからです。彼女たちの意志はわれわれが受け継ぐのです。(佐世保市・男性)

この度、本を送ってくださり読ませていただきました。新聞等で報道されている支給の中断を求めるなど問題が山積しているようですが、関係者の方々、頑張ってください。心より応援いたします。(宇都宮市・女性)

軍恩(連)末端会員も同一視され残念

私は軍恩会員の一人です。ところが時々機関紙の軍恩新聞紙上に、この女性たちへの国民基金について反発する論説がのることがあります。これらの方々は、多分その当時の参謀などの高官だと見受けられます。本件については、先にも官房長官が口をすべらし諸外国の一斉非難を浴びたことは周知の通りであります。ですから、軍恩幹部の方々は一文も金を出さないで、あごばかり達者な方々です。一般国民は、軍恩会員の思想は、そのような流れなのかと思われ、中正穏健な末端会員は同一視され、まことに残念でなりません。いっそのこと、寄付金を出さないなら発言もしないでもらいたい。たいへんこの運動を進めていくうえに障害をなすからです。人間は何様になろうと、もののあわれや自分の親戚がそんな状態になったらと仮定して「惻隠の心」が働かぬものなのか。大いに自重してもらいたいものです。(新潟県・男性)

少額ですが、お役立てください。(丸亀市・女性)

元「従軍慰安婦」の方々に対して日本人として一刻も早い償いをしなければならない、私自身のこの問題に対する気持ちの表明として協力したいと思いました。(新潟県見附市・女性)

現在の日本の豊かさは、このような悲しい出来事によって成り立っていると感じます。(習志野市・男性)

せめて、余生を楽しく過ごしてください。(滋賀県野洲郡・女性)

お年玉を子供からもらいましたので、些少ですがお送りします。(明石市・男性)

雑誌「世界」4月号の李順愛氏の意見に共感します。ねばり強い努力をつづけてください。(牧方市・男性)

受け取って下さって、よかった

この一時金をやっと受け取って下さる方があり、良かったと思います。しかし私自身は、やはり、政府の責任で行うべきものだと思います。月日が経つにつれて、「知りたくない事実」が明らかにされ、本当に心が痛みます。(磐田市・女性)

「二度と繰り返してはいけない…」という決意に対し、賛同します。(北海道渡部郡・女性)

同じ女性として、一日も早く苦しみから解放されることを祈っています。(女性)

万レージセールの売上金の一部です。お役に立てていただけるとうれしく思います。(東京葛飾区・女性)

集めた金額が少額でまことに恐縮ですが、その意のあるところをお納めくださるようお願いいたします。(埼玉県・○○町福祉センター)

少額で恐縮ですが、有効に使ってください。平和への一里塚と確信しています。(千葉市・男性)

反省の証しとして

日本民主国民の償い義務としてこのような募金公示の出るのを待っておりました。この問題を契機にわが国は人道的平和路線を貫き通し、過去の反省と謝罪の心の証しとしたいものです。ささやかですが拠出金の一端を担えれば幸甚に思っております。義損金でしかおわびできませんがお許しください。(鹿児島県姶良郡・女性)

制連行があったとは思いませんが、愚かな先輩に代わっていささかの慰めになればと思って寄付します。国家賠償には反対します。若い人たちの納めた税金は使うべきではありません。その点、日本を戦争に導いた「朝日新聞」などは社長以下率先して寄付すべきであると思いますが。(京都市・男性)

日夜、誠意をもって近隣諸国友好に尽力されている貴会に敬意を表します。学生ですので少額ですが、協力を申し上げます。(横浜市・男性)

強制連行された中国の人々への補償、韓国、台湾の徴兵され死亡した人々に対する補償も考えてください。女性だけでは狭すぎるように思います。(東京杉並区・男性)

似非愛国者の妄言に対して

似非愛国者の妄言の隆盛ぶりにはすごいものがあります。ぜひがんばってください。(東京八王子市・男性)

戦後補償を実施しなければ、アジア各国の信頼は得られない。政府は、中国やアジアの軍拡につながる、無駄の多い海外援助をやめ、戦後補償に切り替えるべきだ。正しい歴史のPRを求めたい。(和歌山県・男性)

6月28に拠金者との懇談会、8月11日の京都交際フォーラム、9月11日の東京報告集会、11月29日の大阪集会に参加させていただいて、本当に基金の方々の謙虚さ、日本人としての加害責任を今、どう償う行動ができるかと基金のもつ「潜在的可能性」（高崎宗司氏のことば）を、どこまで引き出し具体化させるかに奔走されている姿勢を聞かせていただき、大阪でネットワークの活動に力を与えていただき、感謝しています。ネットワークを通じての拠金でしたが、今回初めて個人の名で拠金、わずかですが送ります。（大阪市・女性）

過去の「罪」を若い者が背負っていく

韓国の有力紙が償基金について反論を行ったと知って…バイト代が入ったので少額で申し訳ありませんがお送りします。また一生懸命働いて、お金が入ったらお送りします。過去の日本人の「罪」を私たち若い日本人は背負っていくつもりです。決して忘れたりしません。私は将来社会科教員を目指す学生です。

今はちょっとしか出せないのですが、毎月少しずつ協力したいと思います。（兵庫県・女性）

時間は取り戻せませんが、日本のつぐないに対して、少しでも喜んでいただければ、よかったと思います。これからの国際関係は、国と国もありますが、個人対個人も多くなると思います。（東京北区・女性）

領収書の受取人の名前は叔母の名前でお願いします。故・○○○○、平成8年○月○日没。（大宮市・女性）

こどもたちの名で領収証を

1歳の長男の名前でわずかですが寄付します。これで家族全員の名前で少しずつ寄付しました。領収書の葉書はとっておいて、子どもたちが大きくなったら渡してやろうと思っています。父。（東京世田谷区・男性）

小学校2年生の女の子です。家計を工夫しつつ、時間をかけながら家族5人分の献金をしようと思っていますが、その3人目です。父。（東京世田谷区・男性）

「慰安婦」問題につき元「従軍慰安婦」やはなはだしきは国内支援団体までが拒否、なかには不買運動をちらつかせる等、遺憾です。最近インドネシアでも「慰安婦」が個人補償を求める動きがある模様。募金金額のさらなる上積みの一助に、些少ですが。（群馬県・男性）

償いにはいろいろな方法があると思います。その一つとして送金いたします。少額ではありますが、継続することによって償いの気持ちを表わしたいと思います。（八王子市・男性）

賛否両論に迷ったが

賛否両論に迷いましたが、元「従軍慰安婦」の方々の高齢化に対し現実的な償いをしなければならないことや、私自身のこの問題に対する気持ちの表明として協力させていただきます。（東大和市・女性）

いつもいろいろとお世話になっておりまして、感謝いたしております。ささやかなことで申し訳なく思っております。このようなことで償いにはならないと思っておりますが、具体的には何も出来ませず、ただこころ安らかにと祈っております。（西宮市・女性）
少額ですが払い込みさせていただきます。また剰余金が出ればお送りいたします。（札幌市・男性）

年金暮らしの中から
趣旨に賛同しても、年金暮しで思ふ様に寄付できませんが、活動が成功します様祈ってます。74歳、引揚者。（千葉県我孫子市・女性）

粗材ごみごみの中から売却できる品物を売却した代金です。校区探知に月二回粗材ごみを収集しております。当ブロックで瓶類の中から売却できるものを売って、ようやく目標金額ができましたのでお届けします。（姫路市・男性）

毎日新聞の対談記事を読んで。（東京練馬区・女性）

このお金を「従軍慰安婦」にされた方々への償いのために役立ててください。（静岡県沼津市・男性）

過去のあやまちについて日本国民は反省すべきと思う。（青森県・男性）

多くの戦争犠牲者として亡くなられた方々の供養を含めまして、協力をさせていただきます。（秩父市・女性）

わずかですが、心を届けたくて今回もお送りします。すべての方々が幸せで愛に満たされますように。（奈良県・女性）

謝罪するなら補償すべきです。補償しない国を情けなく思います。補償しない国に代わって拠金します。でないと私の気がすみません。わずかですが3回目の拠金です。どうかお受け取りください。（福岡市）

女性を辱めてはならない

この方法が最善であるのかどうかは、はっきりいってわからないが、毎回少額ずつ寄付させていただいている。どんな非常事態であろうと、どんな言い訳があろうと、女性が辱められることがあってはならないし、また、どんな女性もそれを望んではいないということを、全国の男性は理解してほしい。戦争を知らぬ世代の一女性として真にそう思う。(東京北区・女性)

ニュース7を拝見しました。募金額が目標に達しない由、わずかですが送金します。(山口県・男性)

募金について朝日新聞に投書しましたら掲載されましたので、その原稿料の一部を少しですが寄付いたします。さまざまな議論があると思いますが、なにもしないよりずっといいと思います。お金で解決できることではありませんが、ほんの少しでも心の傷がいえることを願わずにいられません。被害者の方々の高齢化が問題になってきます。政府は、この方々が亡くなられるまで、この問題を引き延ばすつもりなのでしょうか。残った人生を有意義に過ごしていただくためにも、一刻も早い解決を望みます。(前原市・女性)

ゼロか100かでなく

政府も個人補償以外で尽力していることを宣伝する必要があります。私は国家がもっと明確な態度をとること求めますが、0か100かでは何も進まないと思うので、微力ですがカンパさせていただきます。ねばり強くがんばって下さい。(吹田市・男性)

実はずっとこの問題についてどうしようかと迷っていましたが、先日の集会で、(基金関係者の)道義的な気持ちに触れ、感動を覚えましたので、少しですが送金します。(東京板橋区・女性)

70代、80代、90代の男性は恥を知ってください。若いときの下半身の汚辱を孫や子の世代に償わせるなんて。何といって利弾すればいいのでしょうか。獣以下の畜奴とは申しません。獣に対して失礼ですから。生き存えて軍恩を享受している者はせめて一年分を基金に提出してください。このお金は、戦死した父の特別弔慰金の一年分です。こうでもしなければ恥ずかしさのあまり人間をやめたくなってしまいます。(尾道市・女性)

ガレージセールの売上金の一部です。お役に立てていただけれと、うれしく思います。(東京鶴飾区・女性)

姉から「従軍慰安婦」のことを聞き、遅ればせながら些少ですが送ります。本来なら国家ですべき…。首相の心のこもった手紙を添えてかならずお一人お一人に手渡していただきたいものです。(伊丹市・女性)

国民からの補償として

新聞の報道をみていますと、いろいろ問題があり、折衝されている方のご苦労がわかるように思います。二回目の振込ですが、アジアのみなさんが日本に対する憎しみを拭い去っていただけることを期待しての募金です。国が税金を使って補償するのも、国民有志からの補償も違いがあるようにも思いませんが…。(茨木市・男性)

アジア諸国と日本との建設的な関係に必要不可欠な信頼育成のためにお使いください。(福岡市・男性)

これで二回目、あと少しで停年ですが、ボーナス受領ごとに送る予定です。市役所福祉課に問い合わせ郵便局との由、もっとPRしてほしい。新聞で読むのと肯聞いたことのある話とは少し違いがあります。ジャーナリストはオポチュニストですね。(豊田市・男性)

4歳の女の子です。大きくなったら、この基金の意味と、親がどういう思いでこの子の名前で寄付したのかを話して聞かせようと思っています。(東京世田谷区)

街頭の募金をして

毎月二回の街頭行動で得たカンパです。金額は多くありませんが、市民の気持ちの表われだと思います。受け取りを拒んでおられる元「慰安婦」の方々のお心にそう手だてが一日も早く講じられるようにと願わずにはおれません。基金スタッフの奮闘に期待します。(大阪市・市民グループ)

国民一人一人のおわびの気持ち、深い反省が、被害者の胸にとどきますように。(大阪市・女性)

大学生です。私は国家とは社会的弱者、苦しんでいる人を助け、具現し、幸せにすることを希求すべきものと思います。国家を構成している私自身もそうありたいと思います。アジア女性基金もそうした意味で各方面に影響を与えることになる、たいへん意義深いものだと思います。(横浜市・女性)

少額ですがこころばかりの気持ちを送らせていただきました。(鳥取市・男性)

東京神宮ロータリーの例会で先輩の話しを拝聴いたしました都立高校の卒業生です。振替用紙を友人に配りまし

たが、とりあえず私の分を振り込ませていただきます。（東京港区・女性）

映画祭で募金して

第一回長岡アジア映画祭にての入場者のみなさまからの募金です。（長岡市・市民グループ）

新聞報道を見てハラハラしております。（本洋市・女性）

少額ですが女性ですのでカンパします。男は何も申しませんでした。（東京中野区・女性）

国家責任の徹底究明と国家の謝罪を要求します。（名古屋市・男性）

当雪見会は旧本天雪見小学校の同窓会です。去る7月の総会で講演を承り、その後募金箱を回したところ、上記の募金を得ました。はなはだ些少ではありますが、お話に感銘を受けた満州育ちの私たちの気持ちを表わしたものです。ともに戦争の被害に苦しんだものたちの徴意をおくみ取りいただき、アジア女性基金の一端に加えてくだされば幸いこの上もありません。（横浜市・雪見会）

橋本首相のおわびの手紙の内容の不誠実さに、日本の一市民としてがっかりし、不快に思っています。日本の法的責任を認め、被害者に対して謝罪し補償がなされるべきです。私は一市民として過去と未来に責任をもちたいと、拠金します。しかしこうした私たちの行動は、政府の責任を免罪するものではありません。アジアや日本の女性たちが、この問題をめぐって対立していることに心を痛めています。（八王子市・女性）

貴基金による浄財はわが国民個々の誠意の証しとして、私も募金に応じます。（名古屋市・男性）

日本人として道義的責任

基金の本当の真意を被害者の方に（どう）伝えるかだと思います。国家としての責務と補償（意識）を高め、日本人としての道義的責任としてわずかながら送らせていただきます。（河内長野市・女性）

わずかですが昨年に続き拠金します。この基金は日本政府と国民が一体となって推進することこそ、元「慰安婦」の方々の理解が得られるのではないでしょうか。そのため政府が実質的に個人補償であることを宣言し、解決ずみという立場を変えてくれることを望みます。私は多くの善意が、政府のかたくなな姿勢のために被害者が受け取りを拒否し、行く場がなくなることをおそれます。（桑名市・男性）

一日も早くご本人の手元に届くようお願いします。首相のお手紙とともに、最低でも200万円の補償を！（大宮市・女性）

未解決なのが恥ずかしい

6月28日の懇談会に出席して、これまでのわだかまりが解けました。戦後50年も過ぎて未解決であることは、本当に恥ずかしいと思います。不十分ながら一日も早く被害者へのおわびの気持ちとしてお届けしたいと思います。公的年金生活者なので少額ですがお収めください。（横浜市・男性）

「従軍慰安婦」にさせられた人々の福祉のために役立ててください。（多摩市・男性）

天皇の軍隊といわれた軍隊がアジアの人々、ことに弱い立場の方々に残酷な行為を行っていたことを聞き、また新聞、読書で知りまったく絶句しております。日本の恥を早く謝罪すべきです。少額ではありますが再度拠金させていただきます。せめてもの気持ちです。（川西市・男性）

わずかな額ですが、自分にできること、気持ちを伝えたくて…。今回だけでなく、これからもできる限りさせていただきたいと思っています。同じ空の下からこころを込めて…。（川崎市・女性）

どちらが正しいと言えない

初めての寄金です。多くありませんが、よろしくお願いします。当基金に反対する趣旨の団体・運動もありますが「どちらかが正しい、正しくない」とも思えませんので長く続けたいと思います。（東京板橋区・男性）

日本政府による国家補償の道は、まだ開かれません。このままだと間に合わないのではないでしょうか。同年代の者として、やりきれない思いです。ほんのわずかですが、募金させていただきます。（伊万里市・女性）

私たちもアジアとの友好のため、交換学生等を通して、協力してまいりますので多少ですが役立ててください。構内では直接肌で感じられませんが、他の国々、とくに戦争と被害者としてとらえられている人々は、日本の役割に期待もし、見える形での謝罪を求めているようです。（茨城県・高校教職員一同）

わずかな寄付で恥ずかしく思っていますが、ニュースNO.6をお送りくださりありがとうございました。些少ですが回を重ねて寄付いたしたく思っております。(鶴岡市・女性)

「従軍慰安婦」にされた方々の理解が得られるような謝罪と償いを実現してください。(大宮市・女性)

本来なら日本政府が全額支払うべきなのです。いますぐ人身御供政治をやめよ！(岩手県・男性)

国会議員の発言には失望

「従軍慰安婦」にされた方々の悲惨な状況は、知れば知るほどやりきれない思いになります。私は「従軍慰安婦」にされた方々に対しては国家補償を行うべきだといまでも思っております。しかし、現にそれが即時解決できない以上、高見の見物で終わってはならないと思い、10ヵ月思い悩んだ末、あえて募金を行うことにいたしました。最近の国会議員の数々の発言には失望するばかりです。基金の運営に携わる方々には誤った意見をその場で正す気概をもっていただきたいと思っております。(埼玉県戸田市・女性)

学生時代に呼びかけ人の先生にお世話になりました。微力ながら先生を応援します。それにしても、この問題への日本人の鈍さは嘆かわしいものです。(長野県・男性)

私も老齢となりましたが太平洋戦争に参加しました。この件でも他のことでも同様ですが、反対して提言がないのでは一歩も前進しません。何もできませんが、わずかなことことでもしたいと思います。根本的解決は将来に期待しますが、それを待てない人はどうするのですか。(志木市・男性)

総理大臣の謝罪の手紙は当然

戦後50年が過ぎていきました。老境に達した犠牲者の踏みにじられたからだとこころに名誉と尊厳を回復することが基金の趣旨です。総理大臣の謝罪文は当然のことです。必ず実現してください。(東京品川区・女性)

お気の毒な女性たちが、少しでもお幸せになりますように。本来は国の仕事ですね。(札幌市)

「VOICE」の記事にて、日下公人氏の『「従軍慰安婦」問題の不思議』を読み、財団法人の基金は売国的なものと存じ反対します。このような無駄な印刷物は資源の浪費に過ぎません。反省すべきです。国民基金とありますが、私はそのような非国民ではない。(東京中央区・男性)

たった一度の人生を、不幸だったと思って終わらないために、国民基金に賛成します。(北海道旭川市・女性)

基金ニュースNO.5をいただきました。5月4・5日朝日の記事に心を痛めております。情報を届けてください。(愛媛県温泉郡・男性)

4月19日旭川市にて、お話を聞きました。なによりも、自分の身におきかえて考えてみればそれがどんなに恐ろしいことかわかると思います。机上の空論ではない実戦の場の兵士の気持ち、「従軍慰安婦」という自覚もないまま、だまされた方々の心情、人間として、女性として、生きている誇り、生きがいというものを汚され崩されてしまう行いだと思います。表わすのがお金なのは哀しいですが、何かの行動をしたいと思います。情けない、すまない行動のお詫びをしたいです。(北海道上川郡・女性)

政府の姿勢、後退しないように
昨年、村山元首相のごあいさつをみて、国民の一人として募金に応じたいと思いながら遅くなってしまいました。今年も8月15日を迎えますが、橋本首相になり、日本政府の姿勢が後退することのないよう、特に首相の謝罪文は不可欠です。基金を運営する皆様もご苦労様ですが「誠意」を表わす努力をよろしくお願いします。(千葉県市川市・女性)

まことに些少で恐縮ですが、前回の追加として、同額を支援させていただきます。なお5月8日付の地元紙で、この基金の呼びかけ人であられた三木さんが辞表を出されたとの記事を読み、かねて薄ながらそのご活躍にはご尊敬申し上げておりましたので、まことに残念でなりませんが、事情はさておき、心からの敬意とお願いを申し上げます。(横浜市・男性)

「『従軍慰安婦』にされた方々への償いのために」を婦人会の回覧で読み、初めて事実を知り、日本国民として大変申し訳なく心が痛みました。非常に少額で恥ずかしいのですが、気持ちだけをお送りいたします。国と私たち国民とが一緒になって一日も早く償いができますように心からお祈りいたします。(熊本県・地区婦人会有志)

時間との勝負の面も

本来なら日本国政府による公式の補償がなされるべきだと思いますし、今からでもそのように変更してほしいと思います。しかし、"時間との勝負"という面もあり、とりあえず被害者のためにここに寄付します。(武蔵野市・男性)

いろいろな意味でご趣旨に賛同させていただきます。こころばかりでございますが、お役にたてばと存じます。（横浜市・女性）

ふたたびこのようなことが起きないよう、日本人は「人間が生きる」ということを学ばねばいけないと思います。（北海道旭川市・女性）

先日女子大の同窓会に出席のおり、呼びかけ人の方からのお話で、私の気持ち、わずかですがお送り申し上げます。（名古屋市・女性）

良心が目覚めた思いです。貧者の一灯ですがお役にたてて下さい。韓国の人々は、この運動をどう評価しているのでしょう。マスコミ等で広く国民に知らせるべきだと思っています。（旭川市・男性）

（3月の）毎日新聞の記事を読みました。財界や政界の反対があるのは、まことに嘆しいことです。これが2回目ですが、今後も続けたいと思います。私も兄姉3人が大空襲で焼死しています。しかし、日本人として謝罪の気持ちが必要です。（東京豊島区・男性）

自主的に街頭募金、政府も応えて

寒い中、街頭で募金活動をしました。中、高生や若い人が関心を示してくれていることに感動し、支えられながら行動しています。そのことに応える政府の動きを期待するところです。（大阪市・市民グループ）

第1回街頭募金のカンパ分です。3月中にあと5回街頭募金をします。（大阪市・市民グループ）

遅くなりました。ご苦労をお察しいたします。ぜひとも初志を貫いてください。心から応援いたします。（東京渋谷区・男性）

3月○日に63歳の誕生日となりました。誕生日を記念し、世のために貢献したく、送金いたします。（水戸市・男性）

国際協力ウィークで募金活動した結果、集まった募金を送金します。（金沢市・…協会）

少しずつしかできませんが、長く続けていくつもりです。犠牲者への具体的な謝罪の意を一日も早く明らかにして、一人一人に届けてください。補償の前にまず謝罪を犠牲者の年配を考えると一日も早い政府の対応を望みます。（東京杉並区・女性）

軍人恩給の一部を

国家補償との関係で、どうもすっきりはしないけれども。募金活動のほかに、理事長以下政府に働きかけていただきたし。軍人恩給の一部なり。（新潟市・男性）

いままで私が関わってきた「…会」など多くの人がこのアジア女性基金に反対しているその意見を聞き、私も同じ疑問をもち、悩み、送金が遅れました。まだ完全に疑問がなくなったわけではありませんが、いろいろ話し合うなかで、「反対の声にも十分耳を傾け、犠牲者からの聞き取り、資料収集、謝罪などをしてほしい」旨意見を添えて送金することにしました。（千葉市・女性）

反対論もあり、何が何がベストなのかわからないが、いたずらに時が過ぎて問題を先送りにするべきではないと思う。私たち日本人は、戦後50年間いったい何をしてきたのだろうか（46歳）。

少額ですが。（大分市・女性）

わずかですが、役にたてて下さい。（東京世田谷区・女性）

政府も積極的に行動してください。（八王子市・女性）

関係がない、ではすまされない

23歳の学生です。戦争を全く知らない世代の一人です。しかしあの50年前の戦争について「知らない、関係ない」では済まされないと思っています。また、将来同じ過ちを繰り返さないという保証はないのです。われわれは過去を常に振り返り、反省してこそ、平和な未来を開けるのでしょう。50年もたってからの”おわび”はたしかに遅すぎます。カネがすべてではないでしょう。でも敢えて私は”募金”します。（東京世田谷区・男性）

3月14日付の毎日新聞の共同論文を読んで非常にもどかしく、やり場のない悲しさを感じました。その気持ちを少しでも表わせればと思い、少額ですが拠金させていただきます。目標とする20億円は企業がその気になれば簡単に集まる金額であると思います。これからもがんばって活動して下さるようお願いします。（神奈川県小田原市・男性）

旅行などで遅くなりましたことをおわび申し上げます。まことに微力でございますが、賛同させていただきます。（東京目黒区・女性）

償いではなく、連帯のために。(東京杉並区・女性)

お金でする問題ではないと思いますが、せめてものおわびの気持ちです。

停年退職、幸せな中で寄付

無事に健康で3月末に停年退職し、自分の幸せをしみじみ味わっているところです。第2次大戦の犠牲になられたアジアの女性に思いをはせ、わずかですが再度募金をいたします。(横須賀市・男性)

「従軍慰安婦」問題は、日本人の恥です。本来なら、国家による謝罪と補償が必要です。住専処理に大金を使うくらいなら、国家による謝罪と個人補償を絶対に行うべきです。それでアジアにおける信用が取り戻せるのなら、国家百年の計として行うべきだと思います。(横浜市・男性)

私たち日本の女たちの身代わりになった元「従軍慰安婦」の方々に、心からの償いの気持ちを届けてください。お金を送ったからといって許されるものではありませんが、せめてもの気持ちです。(東京大田区・女性)

「従軍慰安婦」問題はお金で解決する問題ではないけれど、3度の食事を2食にしてでもつめても、少額でも送りたいと思います。(国分寺市・女性)

この気持ち伝えたい

この基金で取り繕うことなく、彼女たちに国民全員が心からおわびして、国は、日本国としての責任を果たすべきと考えます。しかし一刻も早くこの気持ちを示したく、送金します。(宮崎市・女性)

元「従軍慰安婦」を支えるため、基金の考え方に賛成し募金いたします。少ないですが使ってください。(静岡市・夫妻)

基本的に基金には賛成しません。政府は特別税を作っても、被害者には国家による個人補償を行うべきだと思います。この基金を行うことによって、「従軍慰安婦」問題に幕を引いてしまうことを危惧します。しかし被害者は年老いて死んで行くのも事実です。日本政府が本物の謝罪を行うのを待ってはいられないという気持ちもわかります。私は、妥協点として基金を出して、反対する。(米沢市・女性)

今日の経済大国では、国家間の賠償でこの問題は終わったなどといっても通りません。補償は国家が個人(被害者)にするべきもの。その実行を強く望みます。(岐阜県小坂町・男性)

日本人が政治としてではなく、同じ人間として元「従軍慰安婦」の方々の心の痛みと苦しみに謝罪する心を持つことを切望しています。少額ですがお役に立てて下さいますようお願いいたします。(東京中野区・女性)

せめて幸福な老後を

お金で解決できることではないけれど、せめて幸福な老後になるよう物心両面でお役に立てるよう、使ってほしいと思います。女性として許せることではありません。(いわき市・女性)

些少ですが公的年金のみの生活者としてお送りします。私は戦前11年中国におりましたが、婦人の苦しい状態には接しませんでした。ただ最後に蘇州から帰国の際は、看護婦、「慰安婦」とも中国側から残せといわれ、全員断髪、化粧せず貨車に載せ、上海に集結しました。通訳交渉はすべて私一人が直接当たったわけです。軍隊は60師団指令部3000人ほどでした。(東京世田谷区・男性)

人間としておわび

人間としておわびしてもおわびしてもしきれる問題ではありませんが、この過ちを今後決して繰り返さないこと、その意思を生涯持ち続けることで、おわびしたいと思います。(仙台市・女性)

お詫びの気持ち。一日本国民男性・匿名。

戦後50年、日本の犯した罪はいつまで続くのでしょう?
75歳の私もむかし朝鮮にいました。謝罪の気持ちを寄せて…。(熊本市・女性)

同世代の女性として元慰安婦の方々をたいへんお気の毒に思います。わずかですが役立ててください。(富山県・女性)

あくまでも国による個人補償を求めます。国家補償なくして、性的奴隷とされた彼女たちの名誉と人間の尊厳は回復されません。今日的な「従軍慰安婦」問題である観光買春、アジアからの出稼ぎ女性労働者問題、在日米軍基地における女性への性暴力などの解決のために、国民基金のとりくみと並行した、女性の性が人権であることの啓発活動の強化を強く求めます。(奈良市・女性)

アジアに顔向けできるように

1、国家による個人補償を要求します。またすべての日

本の侵略戦争犠牲者への謝罪と国家補償を求めます。2、元「従軍慰安婦」の方たちの心に届く基金としてください。3、歴史の事実を次代に引き継ぐために「平和友好交流計画」および「アジア歴史資料センター」の設立を実現してください。4、政府予算をきちんとつけるよう求めてください。(大阪市・市民グループ)

ドイツ同様に国家が補償を行うべきと思います。(横浜市・男性)

国連人権委員会特別報告は、「従軍慰安婦」を「軍隊性的奴隷」と位置付け、国家の犯罪としている。当然国が個人個人に補償すべきである。国民の一人として「従軍慰安婦」にされた人たちに、過去に行った償いの気持ちを表わすために出します。今後、アジアの人たち、世界の人たちにも顔向けできるよう政府において個人補償をなされるよう希望します。(神奈川県中部・女性)

日本国民が男女を問わず、過去の「従軍慰安婦」問題を正しく認識できるよう、ふたたび日本が過去の誤りを犯すことがないよう、そこに力点をおいて、この基金の活動を期待します。(神戸市・女性)

償いの一歩を踏み出すために

わずかしか募金に応じられませんでしたのに、わざわざお礼の便りまで下さいましてありがとうございました。一度にたくさんはできませんので少しずつ募金させていただきます。届くことはわかりましたので返事は下さらなくて結構です。(倉敷市・女性)

少額ですが、二回目の寄付です。いろいろ問題があるのはわかりますが、今なにかやらないともう何もできないのではないかと思い、送りました。(郡山市・女性)

私たち日本人が、性的罪を悔い改めることができますように、そして性的な罪から清められますように祈りを込めて送金します。(大阪南河内郡・女性)

当時を知る一人として同情に堪えません。被害を受けた方は国ではなく個人です。復員兵から状況を聞かされたこともありましたが、女の「性」を男の士気高揚の物として扱われたことに怒りを感じておりましたが、兵は外国人、将校は日本人、日本の貧しい女性も犠牲になっていたはずです。

お金ですむ問題ではありませんが、傷つけられた方々への償いの小さな一歩を踏み出すために役立てていただければと思います。(東京中央区・市民グループ)

日本と日本人が問われる道義、道徳

この問題は、日本人の倫理観、道徳観、人格が問われる重大なことと思われます。ぜひ早急に成功させてください。(東京目黒区・女性)

国家による謝罪と補償をあくまでも求めたいと思います。元慰安婦の方々はそれを強く望んでおられます。しかし加害の側の国民の一人としての謝罪の気持ちを表わす方法の一つとして呼びかけにも応えたいと考えます。政府は医療費、生活の補償に尽くしてください。(大和高田市・女性)

年金生活者のため十分なことはできませんが、心だけのものです。(仙台市・男性)

少しばかりですが、お役に立てれば幸いです。関係者の皆様のご尽力、心から応援申し上げます。(前橋市・女性)

政府、それを支える日本人の恥

政府、それを支える日本人の恥知らずには、恐れ入るばかりです。近代日本というものをつくづく考えさせられます。まったくの貧者の一灯ですが、被害者女性のみ心を、ほんのひとときでも明るくするきっかけになればと思います。(松本市・男性)

おそくなりました。よろしく運動を進めてください。しかし国としての責任も、当然、あると思います。(小樽市・男性)

国家補償なくして道義的責任をとったことにはならない。道義なき国家に真の友人が得られるでしょうか。21世紀のわが国が心配です。(愛知県・男性)

お金だけの問題ではないが、趣旨に賛同し、微力ですが支援します。(島根県平田市・女性)

国家補償を求めて民間基金に協力しなければ、結果的に補償そのものを否定する人々に加担することになります。(金沢市・男性)

強制連行と同じ根

私は北海道委託、強制連行実態調査(2年間)の調査員をおおせつかっています。北海道は日本で九州とともに、たくさんの強制連行で朝鮮人が連れて来られたところです。「従軍慰安婦」問題もおなじ歴史的根かと思います。微力ながら送金させていただきます。(札幌市・男性)

これだけで終わらせず、国家補償も考えてください。積極的な事実調査と、それに基づく歴史教育を実施してください。(新潟市・女性)
真の平和を実現しましょう。すべての人の幸せのために。(沖縄県島尻郡・男性)

貧者の一灯です。後日再度送ります。集まりが悪いようですが、根気よく息長くPRして下さい。民族の恥ですから。私は67歳、年金生活の障害者(14歳から)です。(別府市・男性)

この試み、ぜひ成功を

この試みをぜひ成功させてください。国家間が決着ずみの問題をいまさら国家賠償請求には賛成いたしかねますし、その場合要求がとどまるところを知らず国家財政上、到底不可能と思います。(群馬県新町・男性)

わが国の帝国主義憲兵政治につよく義憤を感じます。敗戦までの「従軍慰安婦」へ償う問題に参加したく、貧者の一灯で恥ずかしい次第ですが、わずか送金させていただきます。(長野市・男性)

罪の償い、日本人として

戦中、私はまだ子供でしたが、後に「従軍慰安婦」の存在を知り、この犠牲になった女性たちの悔しさを察して、このような非道な策を実行した日本軍隊に対する怒りで身が震えました。この罪の償いは日本人一人一人が果たすべきものと考えます。その具体的な行動の一つとしてこの募金の意義を認めます。(広島市・男性)

Tフォーラムで勉強させていただいております。(東京中野区・女性)

日本軍慰安婦への補償は国がすべきだと思います。(中津川市・女性)

日本国民の多くが、この基金を拒否したという印象をつくらないように。(船橋市・男性)

90歳の母の分と合わせて…

今年90歳になる母が、ずっと以前から、政府を待たず国民がお金を出して基金をつくればいいという意見でした。母の分と合わせてわずかですが送金します。老齢のかたがたへの償いは、一日も早くと願います。(東京中野区・女性)

少しばかりですが、趣旨に賛同いたしましたので、寄付させていただきました。民間レベルだけの補償でなく政府レベルでの補償ができるよう希望しています。(前原市・女性)
ご苦労様です。受領証などくださらなくて結構です。(横浜市・男性)

道新(=北海道新聞)の広告を見て。(札幌市・女性)

一人ひとりの謝罪の場として

先日のニュースセンターや新聞等で基金が少ないことを知りました。「従軍慰安婦」の方が生きているうちに渡すことができるように希望します。ご苦労様です。(板橋区・女性)

国民一人一人の謝罪の場としてこの基金は重要な役割を担っていると思う。しかし、国として、謝罪と補償は、きっちりやるべきだと強く願っている。(八王子・女性)
元「従軍慰安婦」の方々のために、少しずつでも、自分のできることから始めたいと思います。がんばってください。(横浜市・男性)

主人も昨年亡くなりましたのであまり大したこともさせていただけず申し訳ありません。ほんのわずかですがお役にたてばと思います。(東京港区・女性)

相手国の立場、日本政府の理由もあるでしょうが、ODA(=政府開発援助)より優先して償うべきと考えます。少額、申し訳ありません。(千葉県市川市)

空き缶回収代から

この基金は村山首相だからできたことで、日本人として知らないではすまないことと思います。私のお金は、リサイクル運動ニュウム缶の回収による売上ですが、100キロ分の代金です。またお送り申し上げます。

この女性のためのアジア平和国民基金は、社会党の村山さんが首相なればこそできた制度だと思います。海外の「従軍慰安婦」には不評でも、「自由党(自民党)の意見を抑えて妥協成立させたご苦労を思えば、これに協力しなければならないと思います。またご送金申し上げますが、このお金は空ニュウム缶100キロのお金です。(愛知県豊橋市・男性)

少額ですが、償いの一助にしてください。

少額ですが、おわびの気持ちは一杯です。(横須賀市・女性)

いろいろな意見がありますが、ささやかな気持ちです。ご利用ください。

元慰安婦の方々の名誉回復に役立つような形で活用してほしいと思います（「お金で解決」というような印象を避ける）。と同時に、これで日本政府の責任がすんだというのでなく、事実解明等、種々な努力を継続することも忘えてください。

戦争を知らない若者から

この国の人間である以上、この国の過去の過ち、歴史からのがれることはできません。従軍慰安婦とされた皆様に日本人として、人間として心からお詫び申し上げます。アジア女性基金のご成功お祈りいたします。――あの戦争を知らない27歳の若者より

「民衆の側の戦争責任」自覚のもとに参加します。

少しばかりですが、お送りいたします。一日も早く笑い合える日が来ますように、お願いいたします。

戦争責任の処理だけでなく、現在もある無責任な日本人男性の犠牲となっている、父親のないアジアの国々の子供たちのためにも、救いの手をお願いします。

どんな形で償ったらいいか分からない。でも、何もしないことはもっといけないような気がして、（基金を）拝借します。いろいろ、ご苦労様です。（東京・文京区・女性）

ご健闘に感謝いたします。（横須賀市・女性）

これまで長く態度を決めかねておりました。「この内閣の決定を踏って、それで今後いつ？」そうですね。（京都府）

些少ですが寸志送らせていただきます。

アジアの国々との間に、よい関係を育てていくために、小さな小さな協力をさせていただきたいと思いました。（東京渋谷区・女性）

戦後50年、新しい出発点に

元「従軍慰安婦」の女性たち一人一人に届くことを願って送ります。国としての謝罪と個人補償をこの基金によってうやむやになることをおそれます。国としての謝罪と個人補償を一日も早く実現するよう費機関からの働きかけを求めます。（京都府・女性）

必ずしもこの方法に賛同するわけではありませんが、次善の策として協力したいと思います。友人の分もふくめて送金いたします。（名古屋市・女性）

「民間基金」が最善かはわからないが、他に方法を見い出せないので、カンパをいたします。有効に活用していただけることと、基金運営の情報公開を望みます。市民団体職員。（東京品川区・女性）

ご苦労様です。わずかですが、どうぞよろしくお願いいたします。（兵庫県豊岡市・男性）

過去を見過ごして新しさがあるとは考えられません。ほんとうにささやかですが、傷の癒しのために償いたいと考えます。（東京渋谷区・女性）

過去を無視しては恥ずかしい

今年は阪神大震災に始まりオウム事件、中仏の核実験実施等揺れ動いておりますが、自分は世の中と無縁のごとく毎日を平穏に淡々と過ごしています。しかし現在が過去からの積み重ねであることを思うと、無力な方々の貴い犠牲を無視することは人間として恥ずかしいと思います。何もできなくて申し訳ありませんが、気持ちだけ送らせていただきます。（埼玉県川越市・女性）

賛否両論ある中、実現困難な現状にあって「今、できること」をなさろうとした、9月号「世界」に載った氏のお考えに賛同するものです。これを機に少しでも「補償の実現」が前進することを願っています。

国の謝罪と補償が良いと思いますが、そこへの過程としての民間基金に賛意を表します。ささやかですが家族…（4人）の募金です。活用ください。私の父はいま77歳で、満州、沖縄で参戦しました。基金の成功をお祈りいたします。

いますぐ「完全」を求められない

基金について国家の全責任をもって補償するのが当然で、本来反対ですが、今の政治情勢の中で「完全」を願うのは無理と考え、わずかですが、カンパします。

些少の拠金を託します。「従軍慰安婦」はまさに侵略戦争を証明します。小生はクリスチャンです。

ささやかですが、有意義に使っていただけることを期待しています。

日本の侵略行為については、物質的にも精神的にも日本国即ち議会の名で償ってください。「そのための増税」を

提案でき議決できるような政府の出現を切望します。それは、この戦いで死亡した250万以上の人々の志を粗末にあつかいおとしめることではないはずです。

これ一回でなく、これから何回でも送りたいと思っています。戦中のことを知っている76歳ですので。

こういうアジア女性基金ができるのを待っていました。日本人としての胸のつかえが少し軽くなる思いです。うれしいことです。

近い将来、外交的にも中途半端な戦争責任の取り方を乗り越えることができるよう、こころより念じております。

少しだが役に立ちたい

深いおわびを、心におぼえています。少しですがお役に立ちたいと思います。新聞であまり口座番号が紹介されていないので、集まるのか心配です。広告拒否されているのですか？　私は、大学に広告を貼っておきます。

「従軍慰安婦」にさせられた方々への償いのために使ってください。

慰安婦であったために、不幸な人生を送られた方々に、ぜひ手厚いおわびと、これからの幸せをお祈り申し上げたいと思います。(いま子供が8か月のため十分なお手伝いはできませんが、1日2時間くらい家でできるボランティアがあったらお申し付けください。早目の償いをこころからお願いいたします。

お金で償えることではありませんが、日本人として、申し訳なく思う気持ちが伝われればと願っています。

あえて原則論をまげて

「従軍慰安婦」とされた方々へ私は深く頭を垂れお詫びを申し上げます。この方々への償いは「国」が「国」としてするべきであると強く思います。しかし、この方々の50年後のいまは、年老いておられ、残された時は少ないことを思います時、私は原則論を曲げます。日本国民の一人として償いのために用いていただきたく送金いたします。この方々の苦痛が少しでも和らいでいただくことができますようにと念じます。そして二度とこのような歴史をつくってはいけないと強くつよく思います。

私たちがきちんと反省、謝罪をし過去をきちんと清算し、その後に将来をあたらしく築くべきです。父が中国に従軍で行きましたので、心配です。国民として子供として「従軍慰安婦」の方々に少しでもお詫びができたらと思います。ほんの少しですが使ってください。

制度の改善を望みます。国として対応する方向で。ご趣旨に賛同しささやかな募金をさせていただきます。

政府による補償と、国会の決議による謝罪が絶対に必要だと思います。しかし犠牲者のハルモニたちが年老いておられるので。私自身、なにもしないままに、経済大国日本の余得だけを受け取っているわけにはまいりません。慰安婦制度の根底的な究明と、すべての資料を明らかにしてください。

募金をしようかどうしようか、非常に迷いました。国家による謝罪と補償がまずあり、その他にこのような民間基金があるのが筋だと思うからです。しかし、おっしゃるとおり、いま困っている元慰安婦の方々におわびの気持ちとともにいくばくかのお金を受け取っていただくことが急務です。この基金が、各国の「エライ人」のふところに入ることだけは避けるよう監視してください。

高齢な元「従軍慰安婦」、時を争う

現在の日本の政治情況では、国が正面切って補償することは不可能なことです。「従軍慰安婦」とされた方々はご高齢です。時を争います。あくまでもその方々の側に立った補償を日本国家の責任になりうる立場で、早期に実現できることを切に念願してやみません。

国際化を云々する前に、まず政府は、歴史的に侵略した地域の人々に対し、補償をするべきだと思います。補償を民間まかせにしているという姿勢が感じられますが、少ないながらお役立てくださいますよう、お願い申し上げます。

一般銀行、日赤地方支部でも扱えるようにしてほしい。

国家が犯した犯罪行為についての残存資料をきちっと調査してください。国際法に基づく賠償をすることを求めます。

戦争生き残りとして

彼女たち（一説では20万ともいわれる元従軍慰安婦の女性たち）も、私たち（先の大戦で大敗した日本の戦争生き残りの世代）も、ともに老いました。残りの時間はわずかとなりました。早急に私たちが彼女たちに謝罪の意を伝え、いまだ回復されない彼女たちの人権と名誉を救済するために手をさしのべなければなりません。何もしなければアジア諸国との友好の歴史に汚点をのこします。批判もある民間基金ですが、この思いで、寄付すること

にしました。

店舗を増改築したことを記念してイベントを開催しました。当日不用品バザー（提供者は職員および地元住民）と綿菓子、ポップコーン等を販売し、その収益金を寄付します。

これをスタートにして

最善の方法だとは思いませんが…。これを元慰安婦の人々への補償の解決とせず、スタートにして、種々の問題を解決し、国家補償の実施と事実の解明を強く求める次第です。

このままでは全国民的な運動にならず、元慰安婦の方々の不信をあおってしまいます。

少額ですが、少しでもお役に立てれば幸せです。こういう機会をつくっていただき感謝しております。

夫婦で賛同します。

一人ひとりに誠意を伝えて

本来、国家の補償金でしょう。次善の策としてここで大至急、決定されることを希望しています。
日本国民の一人として、日本の戦争政策（就中、「従軍慰安婦」制度）の犠牲となられた方々に、ここにあらためてお詫び申し上げます。この意を、貴基金が日本国の政府とともに犠牲となられた方々お一人お一人に誠意を込めてお伝えください。私は、日本国政府が日本の戦争政策のすべての犠牲者に物的な償いをすべしと考えております。

現在出版中の著書が出来上がり、その売上の中からも基金として応募したいと思っていますが、とりあえず小遣いのなかから少額ですが振り込ませていただきました。

高校山岳部創立40周年、ＯＢ山岳会創立33周年記念事業としてドキュメンタリー映画「渡り川」上映会を10月22日開催し、上映会剰余金を募金いたします。

読者の方から預託されました。小金井市、匿名です。よろしくお願いします。（社会福祉法人・朝日新聞東京厚生文化事業団）

元「従軍慰安婦」補償問当として。（東京・板橋区）

募金額の集計、使用先、その金額等、時期を決めて発表していただきたい。今回はパンフレット１部のみでした。他の部門の会合にも使用いたしたく３部お送りください。

政府の責任を明確にし、政府の責任で問題解決をすべきではないでしょうか。考え方については賛同します。償いは政府の責任で！　大きくいえば戦争責任はだれであったかと同じように責任を明確に！（福島市）

強く生きて生きましょう。

いま苦しむ女性についても

ひどい目にあっている女性は今もたくさんいます。がんばってください。

この基金で取り繕うことなく、彼女たちに国民全員が心からおわびして、国は、日本国としての責任を果たすべきと考えます。しかし一刻も早くこの気持ちを示したく、送金します。（宮崎市女性）
元「従軍慰安婦」を支えるため、基金の考え方に賛成し募金いたします。少ないですが使ってください。（静岡市・夫妻）

基本的に基金には賛成しません。政府は特別税を作っても、被害者には国家による個人補償を行うべきだと思います。この基金を行うことによって、「従軍慰安婦」問題に幕を引いてしまうことを危惧します。しかし被害者は年老いて死んで行くのも事実です。日本政府が本物の謝罪を行うのを待ってはいられないという気持ちもわかります。私は、妥協点として基金を出して、反対する。（米沢市・女性）

せめて幸福な老後を

今日の経済大国では、国家間の賠償でこの問題は終わったなどといっても通りません。補償は国家が個人（被害者）にするべきもの。その実行を強く望みます。（岐阜県小坂町・男性）

日本人が政治としてではなく、同じ人間として元「従軍慰安婦」の方々の心の痛みと苦しみに謝罪する心を持つことを切望しています。少額ですがお役に立てて下さいますようお願いいたします。（東京中野区・女性）

お金で解決できることではないけれど、せめて幸福な老後になるよう物心両面でお役に立てるよう、使ってほしいと思います。女性として着せることではありません。（いわき市・女性）

些少ですが公的年金のみの生活者としてお送りします。私は戦前11年、中国におりましたが、婦人の苦しい状態

には接しませんでした。ただ最後に蘇州から帰国の際は、看護婦、「慰安婦」とも中国側から残せといわれ、全員断髪、化粧せず貨車に載せ、上海に集結しました。通訳交渉はすべて私一人が直接当たったわけです。軍隊は60師団指令部3000人ほどでした。(東京世田谷区・男性)

＊アジア女性基金は、みなさまの拠金を元に、「従軍慰安婦」にされた方々に「償い金」をお渡ししています。

＊＊みなさまからのメッセージの抜粋を(代表として)翻訳して償い金とともに「慰安婦」犠牲者の方々にお渡ししています。

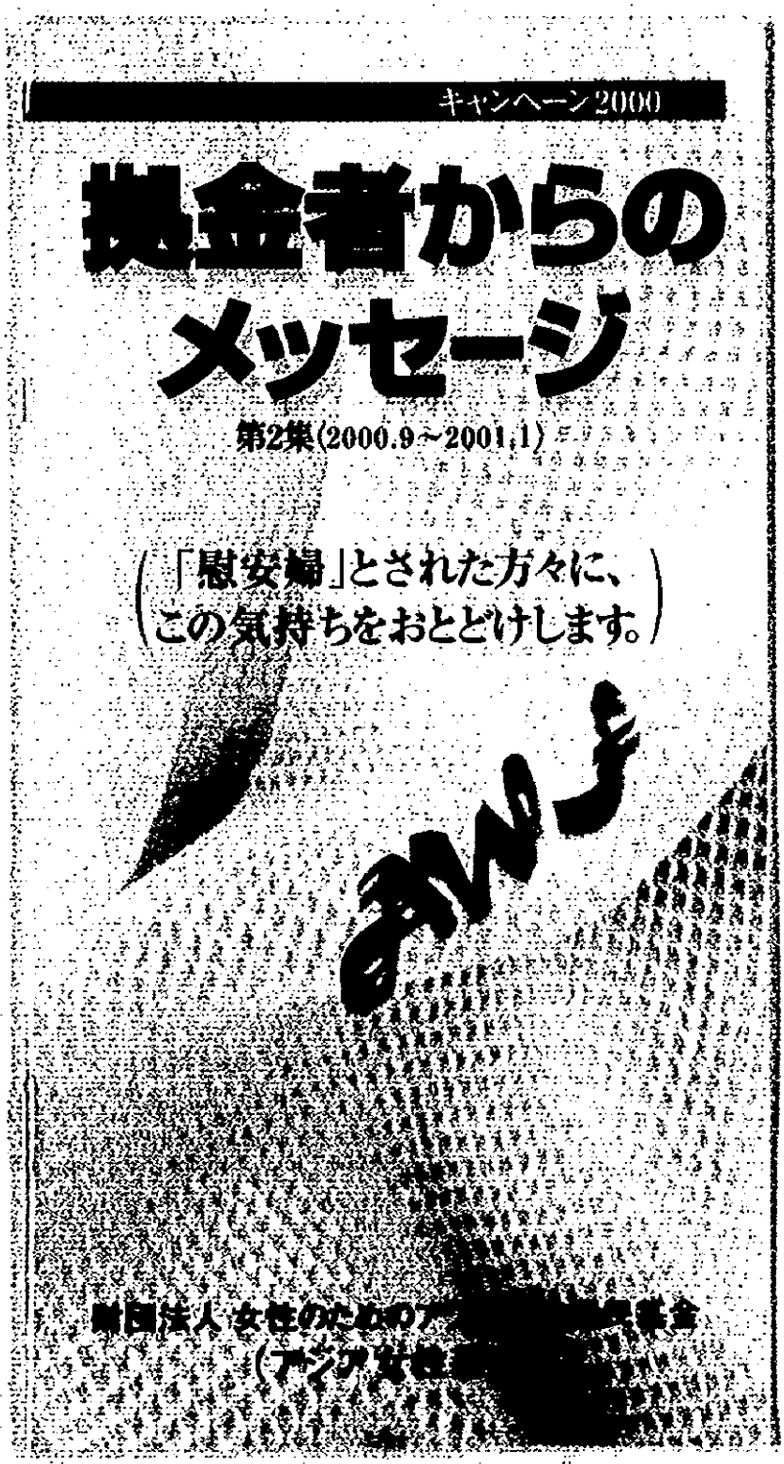
発行——1998年7月
発行所——財団法人女性のためのアジア平和国民基金
電話 03-3583-9346　ファクス 03-3583-9347
107-0052 東京都港区赤坂2 -17-42 赤坂アネックス
編集——アジア女性基金事務局

キャンペーン2000

拠金者からのメッセージ

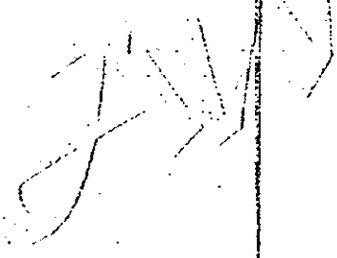
第2集(2000.9～2001.1)

「慰安婦」とされた方々に、
この気持ちをおとどけします。



特定非営利活動法人 女性のための[redacted]基金
(アジア女性[redacted])

このメッセージ集は、募金の際、郵便振替払込取扱票の通信欄に書き込まれた文を集めたものです。「拠金者からのメッセージ」の代表例は、償いの事業の一環として「慰安婦」とされた方々にお届けしています。



「基金」設立、ありがたい

▼「慰安婦」にされた方々には、日本人がしたことですので、日本人として償いがしたいと、かねてから思っていました。アジア女性基金ができたことで、その機会が与えられたことに感謝しています。(宇都宮市・男性33歳)

▼小生もこの募金に協力をためらっていた一人です。いまもなお国家補償であるべきものと本筋では考えており、21世紀に引き継がれた国家的責任と考えていることに変わりはありませんが、急を要することも考え、貧者の一灯をお送りすることにします。(東京府中市・男性)

▼50数年前にわが国が起した犯罪のせめてもの償いのつもりです。少額ですが。(熊本県玉名市・男性)

▼送金、遅くなりましたが、少しばかりですがよろしく。できるだけ送らせていただきます。長い間、こころ苦しく思っていました。(愛知県豊川市・女性)

▼心ばかりの寄付をいたします。いつもパンフレット等をいただき感謝しておりますが、これからはもっと少なくしてください。元「慰安婦」の方々が心安らかに過ごされますようお祈りいたします。(埼玉県志木市・女性)

▼DVを起すことより、そうならないような家庭や社会であってほしいものです。戦争被害にあった老婦人たちが心おだやかな余生を送られるよう祈っております。(千葉県習志野市・女性)

▼少しですが送金します。(熊本市社会教育課)

▼数々のご苦労に敬意を表します。「基金」については何度か通信で理解しましたから、受け取りはがきだけくださいませ。高齢ですからこれで終わらせていただきます。(広島市・女性)

▼「償い金」の一部として。(神奈川県海老名市・女性)

▼寄付します。(山形県酒田市・男性)

▼被害者の方々の苦しみや悲しみが少しでも軽減されますよう、お祈り申し上げます。(千葉県八街市・男性)

▼鈴木健二氏「青森塾」で「基金」の紹介をしたいと思っております。(青森県百石町・男性)

▼CATV「朝日ニュースター」で1月3日に放映された「女性たちと戦争そして暴力」を見ました。償いの一助に送金いた

します。また「基金」の小冊子など(活動内容がわかる)をご送付いただけたら幸いです。(浦和市・女性)
▼宮城県なぎなた連盟の寄金です。(仙台市・女性)
▼可能なかぎり、息長く協力したいと思います。(愛媛県丹原町・男性)
▼職域募金を送ります。(熊本市教育庁)
▼送金が遅くなりました。気持ちばかりです。(山口市・山口県児童相談所)
▼ささやかな一灯を献じます。私たちの気持ちが一人でも多くの方に伝わるよう祈りながら。(東京文京区・女性)
▼いつもご案内をいただきましてありがとうございます。些少ですがお収めいただければ幸いです。(東京三鷹市・女性)
▼少額ですがお役に立ててください。お一人おひとりの幸せが一日も早く訪れますことをお祈りいたしております。(島根県松江市・女性)
▼少しですが、運動が消えないことを祈って送ります。(大阪東大阪市・女性)
▼わずかながら協力させていただきたいと思います。よろしくお取り扱いのほど、お願いいたします。(神戸地方検察庁)
▼職域募金をいたしましたので取りまとめ、送らせていただきます。(神奈川県川崎市市民局…)
▼ささやかではありますが、お役に立てばと思います。(東京八王子市・女性)

国連での評価もわかって

▼11月に開催された「基金」の事業報告会の中で、横田先生の国連での基金に対する評価がわかりやすく、勉強になりました。残念なのは、なぜそのことが日本国内でもっと知られていないのかという点です。マスメディアの問題を感じました。ぜひこれから国民に真実を伝えていってください。(東京江戸川区・男性)
▼お世話になります。市役所総合案内に募金箱を設置し、集まったお金を送金いたします。(埼玉県秩父市役所…)
▼少額で申し訳ありません。(長崎大学工学部)
▼日本の国民の一人として、かつて日本の国民がなしたことへの償いをさせていただきます。(仙台市・男性)
▼1995年第一回の募金に応じていらい長いブランクがありましたがお送りいただく資料は拝見していました。2回目です。(横浜市・女性)
▼遅くなりまして申し訳ございません。(岩手大学…)
▼12月17日に「夏至まつり」を行いました。その時のバザーの収益金を送ります。(香川県引田町・…会)
▼暴力や戦争によって傷つけられた女性たちに対し少しでもなんらかの慰めになるように使っていただければ幸いです。女性たちの心の傷は消えることはないでしょうが。(東京杉並区・女性)
▼わずかですが役立ててください。償いの一端を受け持つことができて幸いです。(兵庫県尼崎市・女性)
▼今回改めてこのようなことを詳しく知りました。少しでも力になりたいと思い協力させていただきます。(鹿児島県串木野市・女性)
▼消費税の一部でできないのですか?(神奈川県南足柄市・男性)
▼私にとっては貴重な一万円です。でも、事業のほんの一部になってくれれば幸いです。(神奈川県川崎市・女性)
▼寄付金です。(札幌市・男性)
▼少しばかりのお金ですがお役立てください。日本人が犯した罪の深さに心が痛みます。もっと早く償うことができれば、そして国がお金を出してくれればと思います。(山形市・女性)
▼大変遅くなりましたが、送金させていただきます。よろしくお願いいたします。(宮崎県中央福祉相談センター…)
▼気持ちしか表せませんが。(宇都宮市・女性)
▼戦争の被害者である女性に、日本人として誠意を示す平和国民基金の趣旨に賛同して、わずかですがお役立てください。(広島県大柿町・民生委員協議会会長)
▼些少ですが、お役立てください。(秋田県協和町・女性)
▼市民ホール募金箱による募金。(秋田県大曲市)
▼被害にあわれた方々の、これからの人生が安らかなものとなりますようにと、こころから思います。(福岡県二丈町・女性)
▼僅少ですが、お役立てください。(福井市・夫妻)

せめてもの気持ち

▼せめてもの気持ちです。老後をお幸せにと祈っています。(東京練馬区・女性)
▼わずかで申し訳ありませんが、福祉関係と同じく会員一人100円のカンパです。(富山市…家畜保健衛生所親睦会)
▼この「基金」について賛否さまざまな議論がなされましたが、私は日本人として、同じ日本人が犯した過ちを償いたい気持ちでいっぱいです。金額が不足しそうとのことですので、再送金いたします。(大阪市城東区・女性)
▼教職員一同で募金を集めました。お受け取りください。(水戸市…高等学校)
▼わずかでございますが、ご協力いたします。(富山市…協議会)
▼戦時中はなにかと大変だったでしょう。これからもお元気で長生きしてください。(松山市・男性)
▼役場内での募金で集まった金額です。役立ててください。(広島県河内町役場)
▼先日の「つどい」(報告会)に初めて出席させていただき、今後も参加しなければと思いました。若い方々が参加なさっていたことにほっとした思いがしました。海外だけではなく、日本国内にも考えるべきことはたくさんあるのではないかと、ふと考えさせられました。64歳主婦。(東京豊島区・女性)
▼募金、職員一同。(東京千代田区…協会)
▼募金のことが多くの方々の目に触れますように。御苦労様です。(宮崎市・女性)
▼募金です。(山形県・検察庁)
▼ささやかですが、お役に立てばと存じます。(千葉県印西市・男性)

一国民として反省

▼償いの仕方については種々の議論がありますが、残された時間的な余裕を考えれば、この方法しかないと思われます。過去の行為に対して、一国民としての反省にたち「基金」に協力させていただきます。(香川県丸亀市・男性)
▼少ないですが寄付させていただきます。ご活動にこころから熱い支援をお送りします。(東京渋谷区・男性)
▼募金にて集まった金額を、少額ではありますが、送付いたします。(三重県津市…保健センター)
▼ほんの気持ちばかりですが、送ります。元気でがんばってください。(栃木県…健康福祉センター)
▼勤務に行かせていただいたこと。つい昨日のように思い出されます。これからも、苦しんだ方々のよなざしを胸に、大学での研究にまい進する所存です。
(愛知県三好町・男性)
▼私は村山さんのファンです。がんばってください。(東京北区・女性)
▼「基金」創設当時、村山内閣総理大臣の秘書官をしておりました。(東京文京区・男性)
▼女性であることが楽しみでないように!　女として、親として、人間として祈っています。(広島県福山市・女性)
▼55は確かにハッピーな数字(巨人・松井選手の背番号など)のようですので…(その金額)。(徳島市・男性)
▼少しでも心の安らぐものになってくれたらと思います。どうぞよろしくお願いいたします。(東京江東区・女性)
▼国家による補償がなされることがベター…と考えています。(鹿児島県佐織町・女性)

理事長の考えを知って

▼女性を踏みにじり、その上にあぐらをかくことは許されることではありません。5年前、新聞紙上で理事長の考えを知り、私も救われました。小額ですが役立ててください。(静岡県熱海市・女性)
▼募金しますのでよろしくお願いいたします。(東京中央区・財団法人)
▼自衛隊・・通信所の募金、45名。(鹿児島県…)
▼痛手から一日も早く、楽しの日々がありますように願っております。(岩手県大船渡市役所女性政策推進室)
▼アジアの被害を受けた方々の幸せをお祈りいたします。「基金」の活動の発展をお祈りいたします。(長野県丸子町・女性2人)

▼政府は戦争犠牲者に対し個人に対応し補償をすべきである。(山口県阿知須町・男性)
▼永遠に「不戦の国」でありたいと願いつつ、小さいけれど「償いの心」が伝わりますよう、よろしくお願いします。(奈良市・男性)
▼気持ちをお届けいたします。(東京武蔵野市・男性)
少額ですが募金させていただきます。(東京東大和市・男性)
▼2000円が…で、1000円が生母の分です。わずかですがお送りさせていただきます。(群馬県高崎市・女性)
▼日頃の基金関係者の活動に敬意を表します。困難な中にも道が開かれますように、ご努力が実を結びますように祈念いたします。(神奈川県鎌倉市・男性)
▼世界中の女性が幸せになりますように。(横浜市・女性)
▼年末に海外たすけあいの募金に出していました50円玉貯金を、アジアの女性のために協力したいと思います。同じ女性としてその悲しみに同情いたします。(静岡県浜松市・女性)

現状では「基金」の意義大きい

▼日本政府として正式に謝罪し、償うことを望みますが、現状では、この「基金」の役割が大きいと思います。頑張ってください。(山梨県北巨摩郡・女性)
▼11月3日の集会に参加できずに残念でした。その分を募金にかえました。今後も、懲まずたゆまず、反戦・平和の気持ちを持ち続けていきたいと思います。(千葉県船橋市・女性)
▼元総理大臣・村山富市様が理事長におなりくださいましたこと、ラジオで聞き、よろこんでおりました。まことにささやかでございますが、よろしくお願いい申し上げます。(奈良市・女性)
▼カンパ金です。よろしく！(滋賀県犬上郡多賀町・男性)
お役立てください。(埼玉県久喜市・男性)
▼小生、現役3年、召集2年と旧満州に駐屯し、ノモンハン事件で九死に一生を得ました。青春時代の思い出です。(松戸市・男性)
▼些少ですが、気持ちばかり送らせていただきます。(東京文京区・女性)
▼少ないですが、募金です。よろしく。(東京文京区・男性)
「基金」への寄付金として。(横浜市・男性)
▼元「従軍慰安婦」の方へ。「償い金」にお使い願います。(名古屋市・運輸省港湾建設局)
▼キャンペーン2000のカンパです。(練馬区・男性)
▼日頃、アジア地域からの女性の人権問題にご尽力いただき、ありがとうございます。次回送金のため振込用紙を郵送していただければ幸せです。可能なかぎり協力します。(静岡県掛川市・男性)
▼少しばかりですが、少しでもお役に立てれば幸いです。(金沢市・男性)
▼少しでもお役に立てば幸いです。(横浜市・女性)

私たちの気持ち伝わらないと悲しい

▼韓国ではこのアジア女性基金のことを、日本政府の責任逃れの隠れみのだとして、お金の受け取りを拒否していると聞きました。国家賠償は必要です。でも、税金から支出される国家賠償と、一人ひとりの気持ちのこもったカンパとどちらが尊いか、よく考えていただきたいと思います。私たちの気持ちが伝わらなくて、悲しくなります。(東京大田区・女性)
▼太平洋戦争が終了したとき小学校一年生だった私は、韓国はじめアジアの女性たちがこんなひどい従軍慰安婦を強制されていたことを知るようになり、一人残らずお詫びしたい気持ちです。(大阪岸和田市・女性)
▼日本の良心を灯す、理事長村山富市さんのよびかけにおこたえして、小額ですが参加します。キャンペーン2000の成功をお祈りします。(富山県中新川郡・男性)
▼アジア女性基金に。(島根県松江市・男性)
▼小額ですが、貴財団の活動のためにお使いください。(福岡市・男性)
▼少しばかりですがお役に立ててください。(神戸市・男性)
▼昨今、新聞雑誌などにとりあげられるのを見ませんが、非常に大切な事柄であると承知しています。被害者である方々が年ごとに老いていかれるので、同世代の一人として、少しでも

早く解決してくださることを切にお願い申し上げます。（愛知県豊橋市・男性）

▼戦後を早く終えて、真の平和をつくりあげましょう。（青森県全林野分会）

▼冊子を送っていただきありがとうございます。一人でも多くのかたが幸せになれますようにと思います。（大阪八尾市・女性）

▼少しばかりですが…。戦後はまだ続きますね。みなさんのご活躍をお祈りします。（長野県下伊那郡・女性）

▼傷つけられた人格がお金で癒されるとは思われませんが、同世代に生きた女性として、少しでもお役に立てば幸いです。（札幌市・女性）

▼小額ですみません。（長崎県諫早市・男性）

軍隊経験はないが…

▼私は軍隊経験はありませんが元「慰安婦」の方々の存在を知り、旧日本軍がアジアの多くの女性たちに対して行った蛮行に、怒りとともに日本人として恥ずかしく思い、同時に元「慰安婦」の方々にぜひお詫びと償いの気持ちを表したいと思っております。すべての元「慰安婦」の方々がこのアジア女性基金からの「償い金」をぜひ受け取ってくださるよう、心から願っております。年金生活者ですので気持ちだけの金額ですが、再び募金させていただきます。73歳。（神戸市・男性）

▼私も年金生活ですのでほんの少しですが送金させていただきます。（兵庫県養父郡・女性）

▼寄付。（群馬県高崎市・クリーニング店）

▼年金暮らしのため、気持ちだけしか送付できません。（東京荒川区・女性）

▼被害者の方のことを思うと、胸が痛みます。少しですが送らせていただきます。（愛知県豊田市・女性）

▼少しですがお役に立てれば幸いです。（北海道山越郡・女性）

▼小額で申し訳ありません。日本人として改めて国家を意識することも、ボーダレス時代にあってこそ意義のあるものと思っています。かかる国民基金を設立されたことに敬意を申し上げるとともに、一人でも多くの方が参画されんことを祈

っております。（東京文京区・男性）

▼職員のみなさんに趣旨を理解していただき回覧の上、わずかですが職員の気持ちをそえて送付します。本当にお世話様です。（福岡県…福祉事務所職員一同）

▼いつも資料をお届けくださり、ありがとうございます。私が寄付をしている他の団体では、一年のうち3回くらいに分けて振込用紙が届きます。忘れかけていると届くのでとても助かります。定期的に寄付することで財政的基盤がしっかりできてくると思います。寄付のシステムを継続できるようにしてみては。（神奈川県大和市・女性）

私の募金も役立てて

▼同じ女性として、「従軍慰安婦」として人生をめちゃくちゃにされてしまった方々の悔しさやつらさを、少しでもわかることができたならと思います。少なくて申し訳ありませんが、ぜひ私の募金も役立ててください。（長崎県天草郡・女性）

▼毎月一回拠金いたしたいと存じますので、毎月決まった日に振込用紙を送ってください。（千葉県柏市・男性）

▼わずかですが二回目、送ります。形式的な政府による賠償よりも、民間の心のこもったこういった善意によるお金のほうが、よほど尊いということを海外の関係者がご理解してくれることを願ってやみません。（横浜市・女性）

▼みなさんにカンパをお願いしました。（宮崎県・女性）

▼善者の一灯ですが少しでも役に立てば。（埼玉県浦和市・男性）

▼よろしくお役立てくださいませ。（兵庫県赤穂市・男性）

▼些少ですがお役に立ててください。（神奈川県海老名市・男性）

▼わずかですが募金します。（東京杉並区・男性）

▼今回の募金に協力します。（山口県熊毛郡・男性）

▼些少ながら。（福島市・男性）

▼名前がかわりました。（札幌市・女性）

▼些少で申し訳ありません。（和歌山市・男性）

▼些少ですがお役立てください。（和歌山県新宮市・男性）

▼領収書の送付をお願いいたします。（宮崎市・女性）

▼女性のための動きを感謝いたします。2年半前の朝、いつ

もは朝から何かにつけてうるさい主人が静かなので返事がないので何気なしに触ってみると冷たくなっていました。本当にショックでした。結婚して一か月過ぎたときから酒乱で、そのままの26年間でした。何人もの人によかったねといわれました。ずっと良合悪くても、しかたありませんでした。基金の郵便でPTSDのことを知りました。(東京練馬区・女性)

喜んでくださるなら

▼いろいろな意見があり、もう寄付はやめようかと思っていましたが、今回送っていただいた資料を読み、やはり一人でも喜んでくださる女性がいるのなら、日本国民の気持ちを受け取っていただくためにもこの事業は大切だと思いました。それから新理事長になられた村山富市さん、頑張ってください。そして、御苦労様です。(大阪寝屋川市・女性)

▼過去を消すことはできませんが、少しでも被害にあった方々の心の傷が癒されますようにと、祈っております。(東京渋谷区・女性)

▼今回も国家による正規の補償の実現を願いつつ、当面の手段として、ここに小額を寄付いたします。どうか彼女たちがみんな亡くなられてしまう前に、勇気をもって日本政府が国家賠償を決定するよう、基金として働きかけてください。期待しています。(東京調布市・男性)

▼理事の皆様、いつもご苦労のことと感謝申し上げます。各国の元「慰安婦」の皆様のご健康と余生のお幸せを祈り、また私どものお詫びの心を伝えていただきたくおねがい申し上げます。(東京目黒区・女性)

▼再度募金に応じましたが、下記について報告されたい。1 韓国への「償い金」支給状況と韓国政府の対応、2 フィリピンへの支給状況と大統領の不正発覚について、3 インドネシア関係とスハルト前大統領不正蓄財について、4 1997年発行の藤岡東大教授の自虐史観の病理の従軍慰安婦問題発言について。(長野県木曽郡・男性)

▼年金暮らしです。わずかですが、お送りします。(埼玉県草加市・男性)

最後まで償うべき

▼今世紀に過去の日本人が犯した罪過は、日本国と日本国民全体がそれを償う責務がある。国は国として、国民は身分相応の償いをせねば、世界の中へ対等に伍していけない。被害者がゼロになるまで償うべきである。一部の権力で犠牲者がでる世界は絶滅せねばならない。(千葉県佐倉市・男性)

▼追加の募金に応じます。(東京三鷹市・女性)

▼お役に立てばしあわせです。(新潟市・男性)

▼少しですが、送金いたしますので、よろしくお願いいたします。(東京八王子市・男性)

▼わずかですがお送りさせていただきます。(京都市・女性)

▼大変御苦労様です。わずかばかりですが、協力させていただきます。(東京千代田区・社会活動研究会代表)

▼アジア女性基金の募金箱に集まったものです。(埼玉県寄居町役場福祉課)

▼キャンペーン2000に協力いたします。償いの事業が無事に進むことを祈ります。(横浜市・女性)

▼大変お世話さまでございます。少しですがよろしくお願いいたします。(埼玉県所沢市・女性)

▼私は高齢の元「慰安婦」の方に、一日でも早く、少しでも何かの役に立ちたかっただけです。(鳥取県米子市・女性)

▼いいタイミングのテレビ放映ラストシーン(注・日本テレビ系「李香蘭そして山口淑子」)の感動の残像があるところでDM拝受。小額ですがお届けいたします。(大阪寝屋川市・女性)

▼神の御心のかなうように、「慰安婦」の方々に謝罪します。(岐阜県恵那市・男性)

▼基金の趣旨を少しでもアジアの人々に理解していただけますよう祈ります。(熊本市・男性)

▼わずかずつしかお送りすることができないので誠に心苦しいのですが、お受け取りください。また差し支えなければ振替用紙を複数枚いただければありがたいと思います。(東京世田谷区・女性)

▼いつも心にかけておりますが、私もいま80過ぎ、身体も元気でありませんので、今回をもって最後と致したく思います。

(千葉県船橋市・男性)
▼ささやかな金額ですが送金いたします。一人でも多くの方々がこの基金に協力されることを祈ります。苦痛と癒しがたい傷を負われたすべての方々が、これからの人生に安らかな心を取り戻せますようにお祈りいたします。(埼玉県北本市・女性)
▼アジア女性基金への寄付金として。(千葉県八千代市・男性)
▼ことし、(高校教員を)退職しました。(徳島県池田町・男性)
▼わずかですが、お受け取りください。(東京渋谷区・男性)

通院の身ですが

▼皆様のご努力に心から尊敬申し上げます。私は3年前から体調をくずし入院、そして現在は一日置きの通院をしております。ほんとに些少で申し訳ございません。皆様方のご健康を念じております。(佐賀県伊万里市・女性)
▼些少ですが。(横浜市・女性)
▼些少ですが役立ててください。(神戸市・男性)
▼甚だ僅少ですがお役に立ててください。(東京狛江市・男性)
▼とりあえず一歩ずつ。(長岡京市・女性)
▼少額ですが。(群馬県勢多郡・郵便局)
▼ご苦労さまです。(京都市・男性)
▼一層のご活躍をお祈りしています。(三重県伊勢市・男性)
募金に協力します。(岡山市・男性)
▼平素のご活動に感謝しております。ささやかでございますが協力させていただきます。(岡山県・女性)
▼私は重度64歳、身体障害者です。障害者年金…で心ばかりしかできませんが、少しでも役に立つのでしたらと思って募金させていただきます。(東京杉並区・女性)
▼少しでもお役に立てればと思い、小額ですが送金します。よろしくお願いいたします。(東京文京区・女性)
▼軍国主義者のためにだまされ犠牲となった人は、なんとお詫びしても…と思えど、私も年金生活ですので、これだけですが、私の気持ちです。(横浜市・男性)
▼いまは80歳になりましたが、良い家族があり、本当にしあわせです。若くに学徒(卒達)出陣、南方第一線に行きました

が、ありがたいことに「慰安婦」の方々との縁なくすみましたことは幸いなことでした。おしあわせを祈念してあます。(東京杉並区・男性)
▼先の大戦で辛めをうけた方々へこころより償いいたします。(東京東大和市・男性)
▼外務省霞関会のおすすめにより。(東京町田市・男性)
▼募金です。(横浜市・男性)
▼とぼしい暮らしの中から、少しばかり献金申し上げます。(群馬県沼田市・女性)
▼小額ですが寄付金です。国・地方議員、公務員、恩給受給者は募金に積極応募の責務があると思います。金融機関の窓口キャンペーン(実績報告をかねて)も計画されてはいかがですか。(熊本市・男性)

もっと国民的運動を

▼日本軍の行った非人道的な人権侵害に対する謝罪は、わずかな金額でなし得るものではない。もっと国民的な運動を展開し、輪を拡げるとともに、ドイツのように政府も積極的に補償すべきである。(群馬県高崎市・男性)
▼心ばかりですが、協力させていただきます。よろしくお願いいたします。(東京練馬区・女性)
▼些少ながら継続させていただきます。(神奈川県相模原市・男性)
▼年金生活者でゆとりがありませんので、ささやかな気持ちだけです。よろしくお願い申し上げます。(大阪市・女性)
▼私たちの父祖の時代に、権力の座にいられた方々の考えによりなされた行為が、直接には関係のない子孫に負担がかかっているのを悲しく思いますが、父祖の責任を子孫の責任として、最後まで償いとお詫びをしてゆきたいと思います。悲しい思い出をお持ちのご本人に、直接お渡ししていただきたい、また受け取っていただきたいと思わずにはいられません。よろしくお願い申し上げます。(東京国分寺市・女性)
▼今日的な問題が起こっている現在、「償い金」を拒否している方々(例えば韓国では政府が援助して「償い金」を受け取らないように勧めている)への支給は断念したらどうでしょう

か？　他へ振り向けるのが現実的だと思いますが。（千葉県船橋市・女性）

戦争体験者の祖父は亡くなったが

▼お小遣いの中から、小額ですが、募金します。戦争中のことについては、学校ではくわしく教わらなかったことがたくさんあるように思います。アジア女性基金ニュースを読んで、深く考えさせられました。戦争へは祖父二人が行ったのですが、詳しく話を聞けないうちに亡くなりました。残念です…。（横浜市・女性）

▼ご苦労さまです。広報リーフなどとてもよくできていると思います。（横浜市・女性）

▼少額ですみませんがお役立てください。（東京武蔵野市・女性）

▼少額ですがあしからず。（東京国分寺市・女性）

▼はやくみなさんにあげられますように。（岐阜県多治見市・女性）

▼いろいろ考えながらカンパしています。でも、政府も、もうちょっと真面目にやってくださるよう、しっかり働きかけてください。いまが一番大事なときやないですが。なにをやっとるのですか、怒ってます。（京都府長岡京市・男性）

▼お仕事、ご苦労さまです。（新潟市・男性）

▼基金に対し、賛者の一灯として、協力します。（静岡県沼津市・男性）

▼キャンペーン2000の募金として送金します。（山口県厚狭郡・男性）

▼少しでもお役に立てればと思い再度小額ですが送ります。募金活動の成功を願っております。（大阪市・男性）

▼償いの事業の携わる理事長、役員の方々の努力と誠意に感動します。非人間的な罪を犯したこの国を恥じるものの一人です。ひとしずくの償いをさせていただきます。「慰安婦」とされた方々の今後の平安を心より祈ります。（岡山県和気郡・女性）

▼わずかですが、お役に立てばうれしく思います。（山形県酒田市・女性）

▼少しで申し訳ありませんが、またお送りします。（神奈川県川崎市・女性）

▼基金の不足を残念に思います。税金でなく一人の忠志での拠金を些少ですが追加します。（山梨県西八代郡・男性）

新理事長のもと、がんばって

▼新理事長、新体制のもと、今後ともがんばってください。私はいま64歳ですが、「償し」を必要とする方たちは75歳以上の方たちと思われます。一日も早くことが進むよう願います。募金には小額ですが、その都度参加させてもらっています。（東京練馬区・女性）

▼敬愛する村山さんが新理事長になられた由、この募金が実りあるものになる期待を持っています。少額で恐縮です。（埼玉県所沢市・男性）

▼村山理事長のご就任、この基金にとって大変喜ばしいことと存じます。今後ともできるだけの協力をさせていただきます。俗人の私としては、振込手数料がかからないことは大変うれしく思います。（千葉県柏市・男性）

▼新聞にて村山富市氏の「慰安婦」問題の記事を読みまして賛同したのですが、現在恵まれている日本の状態で考えるに、戦時中苦しい体験をされた女性に対し、出来る限りの償いをすべきと考えます。（山口市・男性）

▼村山富市氏就任後、第一回寄付。（北海道勇払郡・男性）

村山様、理事長就任、ご苦労さまです。（東京練馬区・男性）

村山理事長、ご苦労さまです。少ない額で恐縮です。（山形県朝日町・男性）

▼尊いご事業、誠にご苦労さまでございます。戦争のどさくさをよいことに、占領軍としてのおごりと責任の天皇への転嫁で人を人とも思わぬ非道を重ねた同胞を許してやってほしいとの懺悔の気持ちをお伝えください。年金生活で思う気持ちの何十分の一ですが、今後も可能なかぎり続けますので払い込み用紙をお送りください。村山元首相の勇気をたたえ、ご健勝をお祈り申し上げます。それにしても傘に隠れて人間は罪を犯します。すべてを天皇の命令として言い逃れが可能であった天皇制は絶対にいつか区切りをつけてもらいたいも

のです。(東京東村山市・男性)
▼村山元首相にいつまでもお元気で頑張ってもらいたいです。(名古屋市・夫妻)
▼ご苦労さまです、村山さん！(広島県三次市・男性)
村山理事長以下職員のみなさん、がんばってください。(東京豊島区・男性)

村山理事長就任に感動

▼村山元総理が理事長に就任されましてご尽力くださることに感動し、些少ですが協力させていただくことに致しました。成果を挙げられますよう、こころから期待しております。(兵庫県尼崎市・女性)
▼村山新理事長のご苦労をお察しして。代筆。(熱海市・女性)
▼村山先生、理事長にご就任、まことにご苦労さまでございます。(東京練馬区・女性)
▼村山理事長さん、ご苦労さまです。ご労苦、お骨折りに感謝いたします。年金生活ですので少々でご免なさい。(福島市・夫妻)
▼村山富市理事長のお働きに感謝しています。ご健康をお祈りします。(長野県軽井沢町・男性)
村山富市氏の理事長就任を心から歓迎します。(東京豊島区・夫妻)
▼村山元首相が理事長に就任されたとのこと、大変でしょうが、がんばってください。わずかですが送金します。(大阪富田林市・男性)
▼村山理事長のご就任をお慶び申し上げます。キャンペーン2000のご成功を祈るとともに、ますます広報および募金活動を充実されることを祈ります。ドイツにできることは日本もできるはずだと思いますので、アジア女性基金のご活動に期待いたします。(横浜市・男性)
▼原理事長のご逝去をとても残念に思っておりましたが、今度は村山新理事長とお聞きして、喜んでおります。(東京世田谷区・女性)
▼ささやかですがご奉仕させていただきます。村山元首相に

は御苦労様ですが、ご尽力をよろしくお願い申し上げます。政府、国会の方も、一日も早いご支援の決定をみるように切望いたしております。(岩手県水沢市・女性)

民間レベルで正しい相互理解を

▼ややもすると戦争のことは忘れたいと思う。現実は負の遺産として歴史に刻まれるであろう。しかし歴史の流れも感じる。「平和、平和」と声高に叫ぶことで平和や認識の変化がもたらされるだろうか。平和とは相手があってこそだと思う。近隣諸国の被害に対し、民間レベルで少しでも償う心をもって接し、正しい相互理解を深めていく努力が平和の前提だろうと思う。(神奈川県鎌倉市・男性)
▼アジアの女性たちのために、ささやかですが送らせていただきます。(東京世田谷区・女性)
▼立派なお仕事を尊敬いたしております。携わられる皆様のご健勝をお祈りしております。(愛媛県新居浜市・女性)
▼このような形で傷ついた方々が多くいることを知り、一日も早く心身の痛みが去りますように願ってやみません。またこのような形で会を発足させてくださった方々や携わっている方々にもお礼をいいたいと思います。戦争について出来事を忘れずにいたい、そして矛盾であるかも知れませんが、昨日より今日と明日を大事にしていきたいと思います。(神奈川県川崎市・女性)
▼戦争の愚かさ。いつまでも平安があり隣国の兄弟姉妹といつも手をつなぐ平和があることを願うものです。皆々様にお詫しを願い、一日も早く心の傷が癒え、幸せな日日が与えられますことをお祈りしています。(名古屋市・女性)

アジア女性基金 償いの事業

「慰安婦」とされた方お一人おひとりに、つぎの通りお届けしています。

- ●みなさまからの拠金を元に「償い金」200万円
- ●政府から「総理のお詫びの手紙」
- ●政府資金による医療・福祉支援事業（財・サービス）
- ●理事長からの手紙
- ●拠金者からのメッセージ

募金にご協力をお願いします

郵便局から郵便振替でお送りいただく方法がもっとも便利です。

郵便振替口座：
女性のためのアジア平和国民基金
00180-3-71164
（「基金」の振替用紙をご利用ください）

＊アジア女性基金への寄付金は所得税法上の寄付金控除が認められる特定寄付金、または法人税法上の全額損金算入の扱いが認められる指定寄付金として大蔵大臣から指定されています。（指定期間は2000年4月12日から2001年4月11日）

拠金者からのメッセージ 第2集
発行日 2001年2月25日
発行者 財団法人 女性のためのアジア平和国民基金
（アジア女性基金）
〒107-0052 東京都港区赤坂2-17-42
赤坂アネックス
電話03-3583-9346 ファックス03-3583-9347
http://www.awf.or.jp info@awf.or.jp